

経営学入門

更新日：2023/02/27 12:44:57

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G1010A	科目コード	G1010
担当教員	尹 大栄						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マネジメント、組織、戦略、マーケティング、国際経営、会計、地場産業

授業の概要

本授業は、経営学の基礎を学ぶためのものである。経営学に初めて触れる受講生（主に一年生を対象）に対して、経営学の基礎的な視点や概念、理論などについて解説する。経営学分野の主な科目（経営組織論、経営戦略論、マーケティング論、国際経営論、会計学など）に触れ、経営学の全体像をつかむことができるようにする。その際に、現在国内外のビジネス界でホットなトピックとなっている経営現象（事例）を取り上げ、現実の経営問題への応用も視野に入れて講義する。

到達目標

1	企業の仕組みや経営に関わる諸問題を理解するために必要な基礎的な概念、理論の知識を身につけることを目標とする。
---	--

教授方法

複数の経営系教員（6人）によるオムニバス形式の講義である。各教員が自分の専門分野のトピックについて2回ずつ講義を行う（※代表者の尹は4回担当）。1年生の受講者にとっては、経営系教員を知る機会が提供されることにもなり、例えば2年次以降のゼミ選択の際に参考となるはずである。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	経営学の基礎的な知識を身に付ける。
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	理論と事例を合わせて講義する。

履修要件

必修科目なので、全員履修する必要がある。

授業計画

1	イントロダクション〔尹〕：「経営学とはどんな学問分野なのか」を簡単に紹介し、授業の進め方について説明します。
2	企業と経営〔尹〕：経営学の対象である企業（株式会社）は、人類最大の発明品と言えます。株式会社の制度なくして、近代資本主義の成立と発展は考えられません。株式会社という形態の企業組織が生まれてきた歴史的な背景と、企業を経営するとは何か、について講義します。
3	経営組織論（マクロ組織論）〔東〕：組織そのものや組織と環境との関係を考える経営組織論（マクロ組織論）の概要を講義します。特に、今後の学習に不可欠な「オープンシステムとしての組織」や「協働システムとしての組織」の概念を大まかに把握します。
4	経営組織論（ミクロ組織論）〔東〕：組織の中の個人や集団に焦点をあてる組織行動論（ミクロ組織論）の概要を講義します。特に、組織の中で個人が力を発揮するための方法やリーダーの役割を、事例やグループ活動を通じて簡単に検討します。
5	日常生活に見る経営戦略〔首藤〕：学生の皆さんが日頃購入したり、使ったりしている製品・サービスを題材を取り上げ、その背後にある企業の狙いを探ります。
6	経営戦略論とは何か〔首藤〕：多様な経営戦略論の全体像を概観し、整理の軸を探ります。
7	マーケティング論〔中村〕：最近「マーケティング」という言葉を日常生活の中でもよく耳にしますが、その内容をきちんと理解している人は少数でしょう。ここではマーケティングのフレームワークを通して全体像を大まかに捉えます。
8	消費者行動論〔中村〕：マーケティングの中でも、特に消費者の立場から現象を捉えるのが消費者行動論です。心理学的なアプローチをとることが多い分野ですが、心理学と経営学がどうつながるのか、具体例を通して紹介します。
9	複式簿記とは何だろう〔衣川〕：皆さんが会計だとイメージしていることと、実際の会計には大きな違いがあります。ここでは簿記とは何か、会計とはどう違うのか、簡単な例を示しながら、勉強していきます。
10	会計で何ができるか〔衣川〕：会計には記録、計算、報告といった主要な機能がありますが、近年、最後の財務報告の機能の拡張が目覚ましくあります。このような会計の機能を歴史的に振り返りながら、環境などの新しい問題に会計がどのように挑んでいるかを勉強します。
11	国際経営の基礎〔宮下〕：現代企業は市場や資源を求めて海外進出を行っています。しかし、海外でのビジネスには国内での経営とは異なる問題が含まれています。そうした問題とは何か、またそれらへの対処や解決を考えることで国際経営の基礎を学んでいきます。
12	企業の国際化〔宮下〕：企業が海外ビジネスを進めるにつれて、国際経営も商品を輸出するだけの段階から海外直接投資を行い、販売や生産の拠点を設ける段階へと変化していきます。企業の国際化について多国籍企業を事例として考えていきます。
13	地域産業の経営学〔尹〕：世界には、長い歴史の中で生き残ってきた地域産業（産地）が多く存在しています。古い歴史をもつ地域産業には、いままでの経営学の知見ではうまく説明できない様々な経営現象が見られ、地域産業の研究から新たな理論的な発見が大いに期待されています。地域産業の面白さについて、具体的な事例を紹介しながら講義します。
14	まとめ〔尹〕

授業外における学習

（各セッション担当教員から別途説明する。）

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中に受け付けます。
- ・相談は、授業後またはメールで受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を達成している。【D】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	100	(各セッション担当教員から別途説明する。)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は指定しません。			
	(各セッション担当教員より、適宜紹介する。)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

各セッションによって、レポート提出のやり方が異なります。各セッション担当教員の指示に従ってください。

その他・特記事項

この科目に関する一般的な質問などについては、尹まで問い合わせてください。

- ・尹の研究室：B304室

政策科学

更新日：2023/01/10 08:55:36

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	G1020A	科目コード	G1020
担当教員	田村 秀						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

データ・リテラシー、アンケート、ランキング、経済波及効果

授業の概要

本講義は、学部の1年次全員を対象に、政策の基本的な事項や政策を理解するために必須となるデータ・リテラシーを学ぶことを通じて、経済政策や公共政策を今後学習するための基本的なスキルを身につけることを目標とするものである。

具体的には国、自治体勤務の経験をもつ教員が、より具体的な政策内容も取り上げつつ、政策の立案、実施、評価の基本的な過程に関して、個別事例を通じて理解を促すとともに、政策を作成する上で欠かすことの出来ないアンケートや各種統計データに関する基礎的な見方を学び、政策に関する基本的な知識の習得を目指している。

【ねらい】

公共経営コースの導入科目として、政策に関する基本的な事項を学習し、基礎的なデータ・リテラシーを涵養することにより、公共経営分野における知識が体系的に理解でき、数量的スキルを修得できるようになる。

到達目標

1	政策に関する基本的な用語の内容が理解できる。
2	政策を理解するための基礎的なデータ・リテラシーを習得する。
3	公共経営の基本的な考え方が理解できる。

教授方法

講義形式で行い、学生に対して毎回問いかけるなど双方向形式で進める（ズームによるオンライン講義）。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、データ・リテラシーに関する基礎的な問いかけを行う。
2	政策とは何かということについて具体的な事例を通じて説明を行う。
3	第2回に続いて政策の事例を紹介するとともに、政策プロセス、すなわちPDCAサイクルについて具体的な事例を通じて説明を行う。
4	政策のニーズを把握する上で欠かすことの出来ないアンケートに関する基本的な統計理論を説明する。
5	問題点の多いアンケートを事例として取り上げ、政策形成に活かすためにどのように改善すべきかなどの考察を行う。
6	学生アンケートを実例にして、アンケートからどのような分析をすべきか、また、政策形成に関してどのような有益な情報が得られるかについて考察を行い、アンケートに関するまとめを行う。
7	データの見方その1
8	データの見方その2
9	データの見方その3
10	データの見方その4
11	ランキングの特性について具体的な事例を通じて説明を行う。
12	引き続きランキングの特性について説明を行う。
13	データの視覚化について、グラフの有効な活用方法などを考察する。
14	これまでの講義内容を振り返り、まとめの講義を行う。

授業外における学習

- ① 毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ② 課題の内容について復習を行う。
- ③ 授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。

質問や相談への対応

- ・ 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・ 毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。

・メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
課題	50	2回実施する(25%×2回)
授業レポート	50	講義内容についてどの程度理解しているかを基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書：田村秀『データ・リテラシーの鍛え方』（イースト新書、2019年）			
	参考書：田村秀『データの罫』（集英社新書、2006年）。このほか、資料をWEBサイトから事前にダウンロードして入手しておくこと。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ① 公共政策や経済に関するニュースを日頃から読むこと。
- ② ニュースで取り上げられる様々なデータの出典や根拠について関心を持つこと。

その他・特記事項

国、地方自治体で実際の公共政策の立案及び実施に携わっている。

マーケティング入門

更新日：2023/01/10 08:55:37

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G1030A	科目コード	G1030
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ

授業の概要

マーケティングの考え方やフレームワークは、一般的な企業はもとより、行政機関や教育機関、医療機関といった様々な組織で活かすことができる。さらに言えば、身近なグループや個人の行動にすら適用することが可能である。本授業は入門という位置づけであるため、特に基本的なフレームワーク（環境分析、STP、MM、CRM）に焦点を当て、それらを理解し活用できるようにすることを狙いとする。なお、出来る限りイメージしやすいように事例を多く示すこと、各論となるマーケティング関連科目への橋渡しとなるような俯瞰的な視点を提供することの2点を意識した授業を行う。

到達目標

1	・マーケティングに関わる基本的な知識（専門用語、トピック、現代の潮流など）を理解している。
2	・マーケティング戦略の基本的なフレームワークを理解し、さまざまなケースに適用することができる。
3	・マーケティングの概要を理解し、俯瞰的な視点から各論を位置づけることができる。

教授方法

PowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料は指定した共有フォルダにアップする。配布資料に定義や細かな表などは載せているので、授業中は全体の概要をおさえたうえで、何が重要なのかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、マーケティングの概要
2	環境分析
3	STP
4	ブランドの構築
5	MM①（製品）
6	MM①（製品）
7	MM②（価格）
8	MM②（価格）
9	MM③（流通チャネル）
10	MM③（流通チャネル）
11	MM④（コミュニケーション）
12	MM④（コミュニケーション）
13	CRM
14	まとめ

授業外における学習

授業で取り上げたトピックについて、日常生活の中で具体例を探すこと。

質問や相談への対応

チャットで随時受け付け、できるだけ授業の中で回答する。対面での質問や相談を希望する場合は事前にメールで予約すること。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
期末試験	50	授業で学んだ知識の理解度	

平常点	50	授業開始時に行う記述式の小テスト、質問、発言など授業への総合的な取り組み状況
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			
	授業の中で、適宜、紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で実例を探すこと。
- ・自分の言葉で説明できるようにすること。

その他・特記事項

特になし

アントレプレナーシップ論

更新日：2023/01/10 08:53:29

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	G1040A	科目コード	G1040
担当教員	大室 悦賀						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

哲学、サステイナブルアントレプレナー、企業家社会

授業の概要

本講義では、アントレプレナーシップについて、初学者に向けた入門として以下の内容を学習する。具体的にはアントレプレナーシップ（起業、創業）という現象がなぜ生じるのか、アントレプレナーシップを生じさせる構造はどうなっているのか、アントレプレナーシップと地域再生や地域活性化にはどのような関係があるのかを学習する。講義内容は、事例を扱いながら、アントレプレナーの役割とアントレプレナーにとって必要な要素を学習します。そして、地域との関係をどのように構築し、地域の活性化に貢献しうる手法を学びます。

また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。

到達目標

1	アントレプレナーとは会社を起業する人や企業・行政の組織の中で新しい組織やビジネスとネタと組織や人を結びつけて、新しいものを生み出す人のことです。こうした人々は経済発展の原動力になったことが高く評価されて、その機能について考察するのがアントレプレナーシップ論です。この講義では、理論を通して、企業家精神をも養うことをねらとします。
---	--

教授方法

基本的に理論や考え方の習得をベースとした講義形式で実施する。講義の中では、映像資料の鑑賞、ディスカッション、事例検討などでグループによる対話も多く取り入れ、参加者との議論をしながら、学ぶという形式になる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

1年次以降

授業計画

1	イントロダクション（授業概要、評価基準の説明、授業の進め方）・アントレプレナーが求められる背景
2	アントレプレナーシップ基礎理論（アントレプレナーとはどのような人なのか）
3	アントレプレナーを分析する様々な視点
4	アントレプレナーの社会的意義（市場の創造、企業や社会の変革、企業家社会の構築）
5	アントレプレナーに必要となる能力（哲学、ビジョン、事業機会の認知、資源動員および事業コンセプト）
6	アントレプレナーシップとイノベーション（イノベーション2.0の台頭と役割の変化）
7	変容する企業モデル（持続可能な企業モデルの台頭）と組織構造
8	地域社会とアントレプレナーシップの関係
9	組織内で求められるアントレプレナーシップⅠ（イントレプレナーと事業継承）
10	組織内で求められるアントレプレナーシップⅡ（パブリックアントレプレナー）
11	ニュータイプのアントレプレナーⅠ（社会的企業家と制度的企業家）
12	ニュータイプのアントレプレナーⅡ（サステイナブルアントレプレナー）
13	アントレプレナーシップとセルフマネジメント
14	まとめ

授業外における学習

事前学習：テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること

事後学習：テーマに沿って事例を調べる。課題となる映像視聴と論文を必ず読んでおくこと。

質問や相談への対応

授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、対面あるいはリモートで対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

ミニレポート	50	授業内でミニレポート5回実施。講義中の重要なキーワードを理解しているかを確認する。
レポート	40	期末レポート
その他	10	チャットでのコメント等に対して加点
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	指定無し			
	大室悦賀著『サステイナブル・カンパニー入門』学芸出版,2016年 山田幸三他編『Iからのアントレプレナーシップ』中央経済社,2017年 川名和美他著『社会人基礎力を養うアントレプレナーシップ』中央経済社,2016年 その他講義中に指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

貪欲に自身の変化を求めて欲しい。

その他・特記事項

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる内容とする。

ソーシャル・ビジネス論

更新日：2023/01/10 08:52:23

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	G1050A	科目コード	G1050
担当教員	大室 悦賀						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

市場の失敗、政府の失敗、ボランティアの失敗

授業の概要

近年、社会的課題の解決にビジネスの手法を活用する「ソーシャルビジネス」が台頭し、社会的にその期待が高まっている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの台頭した社会的背景、役割、特徴について学び、事例の検討をおこない、ソーシャルビジネスの本質について学習する。講義では、本質を理解するために、ディスカッションや映像鑑賞などを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につける。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。

到達目標

1	本講義では、社会的課題の解決が行政のみならずビジネスの手法でも実行可能であること、そして市民それぞれが意識をもって参加することが重要になっていることを理解し、自分で何ができるかを考えることができる知識と思考を獲得することを目標とする。
---	---

教授方法

基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。一方で、映像資料や事例検討などでグループによる対話も取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

2年以降

授業計画

1	イントロダクション&ワークショップ（授業概要、評価方法、授業の進め方）
2	ソーシャルビジネスが台頭する社会的背景Ⅰ（政府の失敗と市場の失敗）
3	ソーシャルビジネスが台頭する社会的背景Ⅱ（NPOの失敗とNPOの形態変化）
4	ソーシャル・ビジネスとは何か
5	ソーシャル・ビジネスの特徴とメカニズム
6	組織形態（株式会社、NPO、社団法人）と組織ポートフォリオ戦略
7	ソーシャル・イノベーションとソーシャル・イノベーション・クラスター
8	中間まとめ
9	社会指向型企業の台頭と特徴
10	サステイナブルカンパニーの台頭
11	企業と社会の関係の問い直し
12	サステイナブルカンパニーと地域の関係
13	ソーシャル・ビジネスのモデル化のポイント
14	まとめ

授業外における学習

事前学習：テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること

事後学習：テーマに沿って事例を調べる。毎回課題を出すので、それらを必ず視聴、読み込んでおくこと。

質問や相談への対応

授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、対面あるいはリモートで対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	20%	授業内でミニレポートを2回実施
授業テスト（中間）	40%	事前にテーマを設定し、授業内でレポートを作成してもらいます。
授業ないテスト（最終）	40%	事前にテーマを設定し、授業内でレポートを作成してもらいます。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	大室悦賀『サステイナブル・カンパニー入門』学芸出版, 2016年			
	谷本寛治他編著『ソーシャルイノベーションの創出と普及』NTT出版, 2013年 大室悦賀編著『ソーシャル・ビジネス』中央経済社, 2011年			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

私語等で受講生や担当者に迷惑がおよぶ行為には厳しく対応する。迷惑行為におよぶ者には警告なしに学生番号を確認のうえ退出退場を命じることがある。

その他・特記事項

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。
これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる内容とする。

海外経営経済演習Ⅱ（東）

更新日：2023/01/10 08:53:13

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140A	科目コード	G1140
担当教員	東 俊之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

事後学習、英語によるプレゼンテーション、他研修先との比較

授業の概要

自身が参加した海外実地研修における経営学、経済学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習Ⅰ」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けともする。

到達目標

1	海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。
---	---

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント

授業外における学習

プレゼンテーションの準備は必須です。また、事後学習として発表者は発表内容のリフレクションをすることが求められます。

質問や相談への対応

オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。

※なおオフィスアワーの日時は授業の初回で案内します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	0%	
小テスト	0%	
授業レポート	0%	
上記以外の授業評価	100%	プレゼンテーションと議論により判断
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

受講生間の積極的なディスカッションができるように、質問項目を考えながら他者の発表を聞くようにしてください。

その他・特記事項

欠席した場合は、なるべく早く授業担当者に連絡を取り、指示を仰いでください。

海外経営経済演習Ⅱ（大室）

更新日：2023/01/10 08:53:14

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140B	科目コード	G1140
担当教員	大室 悦賀						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

プレゼンテーション、ディスカッション

授業の概要

海外プログラムで学んだり感じたことを英語でプレゼンテーションし、で参加者で議論する

到達目標

1	英語でのプレゼンテーションとディスカッションを経験し、自信をつけること
---	-------------------------------------

教授方法

参加者のプレゼンテーション and ディスカッション

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外経営演習Ⅰ及び海外プログラムの履修者

授業計画

1	参加者のプレゼンテーション and ディスカッション
2	参加者のプレゼンテーション and ディスカッション
3	参加者のプレゼンテーション and ディスカッション
4	参加者のプレゼンテーション and ディスカッション
5	参加者のプレゼンテーション and ディスカッション
6	参加者のプレゼンテーション and ディスカッション
7	参加者のプレゼンテーション and ディスカッション

授業外における学習

事前：海外経営演習及び海外プログラムの復習

事後：自身の英語レベルの確認と学習

質問や相談への対応

メールでアポイントを入れること

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
授業参加度	100	プレゼンテーション and ディスカッションの程度	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	無			
	無			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業参加者への貢献

その他・特記事項

無

海外経営経済演習Ⅱ（衣川）

更新日：2023/01/10 08:53:15

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140C	科目コード	G1140
担当教員	衣川 修平						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

プレゼンテーション, 経済学, 経営学のパースペクティブ

授業の概要

主に海外実習で訪れた地域における経済、経営、社会、行政等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習Ⅰ」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けともします。

到達目標

1	海外短期実地研修で訪れた地域をリサーチ対象として、基盤的な知識の獲得、ディスカッション、プレゼンテーション、の各能力の向上を図ることを目標とします。
---	--

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外研修の単位を修得した者。

また海外研修に行けなかったまたは単位を修得できなかったが、特段の事情が認められる者。

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント
7	報告会

授業外における学習

プレゼンテーションのための、資料収集とパワポ作成を第1回から行うようにしてください。

質問や相談への対応

演習時にオフィスアワーを指定します。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者の意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか
報告	50	1. 報告資料は適切であったか 2. 報告方法が効果的であったか 3. 協業関係をうまく取り結ぶ事ができたか
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜紹介します。			

適宜紹介します。			
----------	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本演習の性質上、報告会は欠席しないようにお願いします。

その他・特記事項

Email: kinugawa.shuhei★u-nagao.ac.jp

海外経営経済演習Ⅱ（金）

更新日：2023/01/10 08:53:15

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140D	科目コード	G1140
担当教員	金 賢仙						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外経営経済

授業の概要

海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。

到達目標

1	海外経済実地研修において自身が赴いた国・地域の政治、経済、文化等について、説明できるようになる。
2	自身の問題意識を深め、検討すべきテーマの設定をできるようになる。
3	自身のテーマについてのプレゼンテーションができるようになる。
4	英語によるプレゼンテーション、意見交換ができるようになる。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外経営経済演習Ⅰ、海外経済実地研修を履修済みであること。

授業計画

1	ガイダンス
2	学生による発表と議論及び担当教員のコメント
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論。

授業外における学習

報告を担当している箇所以外についても、できるだけ各回のテーマに関する下調べを自分で行ってください。

質問や相談への対応

原則として、オフィス・アワーに対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
100		プレゼンテーションと議論により判断	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自身が興味関心を持ったことに関連する問題意識を深め、テーマ設定ができるようにしましょう。

その他・特記事項

特になし。

海外経営経済演習Ⅱ（首藤）

更新日：2023/03/15 17:46:43

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G1140E	科目コード	G1140
担当教員	首藤 聡一朗						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外留学プログラム、経験の共有、経験の振り返り

授業の概要

留学の学びをそれぞれプレゼンテーションしてもらった後、受講者全員で議論する。また、プログラム受講の際に生じた疑問について調査し、それについてもプレゼンテーションしてもらった後、議論する。

到達目標

1	外部化することで経験を明瞭にすることができる
2	他者の経験を理解することで自らの経験を深化させることができる
3	プログラム受講時に生じた疑問について調査することで、留学時の学びを発展させることができる

教授方法

プレゼンテーション、ディスカッション

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「海外実地研修」受講者

授業計画

1	ガイダンス
2	プログラム受講経験についてのプレゼンテーション・ディスカッション（1）
3	プログラム受講経験についてのプレゼンテーション・ディスカッション（2）
4	プログラム受講経験についてのプレゼンテーション・ディスカッション（3）
5	生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（1）
6	生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（2）
7	生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（3）

授業外における学習

プレゼンテーションの準備

質問や相談への対応

授業時に受け付ける。それ以外の時間に関してはメールでアポイントメントを取る

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	内容、わかりやすさ、形式等から総合的に判断
ディスカッション	50	発言の頻度、質等から総合的に判断
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	授業時に適宜紹介			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

真剣に取り組みましょう

その他・特記事項

特になし

海外経営経済演習Ⅱ（田村）

更新日：2023/01/10 08:53:17

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G1140F	科目コード	G1140
担当教員	田村 秀						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外、経済、経営、プレゼンテーション

授業の概要

自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習Ⅰ」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。

到達目標

1	海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。
---	---

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外短期実地研修に参加すること

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と議論及び担当教員のコメント
3	学生による発表と議論及び担当教員のコメント
4	学生による発表と議論及び担当教員のコメント
5	学生による発表と議論及び担当教員のコメント
6	学生による発表と議論及び担当教員のコメント
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論

授業外における学習

海外短期研修から帰国後、研修で学んだことをしっかりと整理すること

質問や相談への対応

随時受け付ける

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
その他	100	プレゼンテーションと議論により判断
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回受講し、議論に積極的に参加すること

その他・特記事項

特になし

海外経営経済演習Ⅱ（永田）

更新日：2023/01/10 08:53:18

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140G	科目コード	G1140
担当教員	永田 邦和						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外事情、日本との比較、英語プレゼン

授業の概要

自身が参加した海外研修における経済・経営・社会・行政・政治上のテーマについて（海外研修に参加しなかった学生は担当教員と相談して自身が定めた任意の研究対象について）、その概略、研修と研究から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を主として英語でプレゼンし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、専門教育の基礎とする。

到達目標

1	海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。
---	---

教授方法

演習形式。対面で行う予定。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外実地研修に参加すること。

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と討論および担当教員のコメント（1）
3	学生による発表と討論および担当教員のコメント（2）
4	学生による発表と討論および担当教員のコメント（3）
5	学生による発表と討論および担当教員のコメント（4）
6	学生による発表と討論および担当教員のコメント（5）
7	学生による発表と討論および担当教員のコメント（6）

授業外における学習

発表の準備に十分時間をかけること。

質問や相談への対応

なるべく授業中に質問をすること。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	0		
小テスト	0		
授業レポート	0		
上記以外の授業評価	100	発表と討論により評価	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

他の受講生の発表に対して積極的に質問やコメントをすること。

その他・特記事項

特になし。

海外経営経済演習Ⅱ（中村陽）

更新日：2023/01/10 08:53:19

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140H	科目コード	G1140
担当教員	中村 陽人						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外研修、英語によるプレゼンテーション

授業の概要

自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマについて、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けともする。

到達目標

1	海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。
---	---

教授方法

演習。必要に応じて講義を実施する場合もある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外経営経済演習Ⅰおよび海外実地研修を履修していること。

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論。

授業外における学習

各課題にむけた調査、資料作成。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。また、メールでの質問も随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業の中で適宜指示する。			
	授業の中で適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

課題にかかわらず、主体的に問題意識を持ち、調べ、考えてほしい。

その他・特記事項

特になし

海外経営経済演習Ⅱ（中村稔）

更新日：2023/01/10 08:53:19

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140I	科目コード	G1140
担当教員	中村 稔彦						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断、国内事前研修先との比較、英語でのプレゼンテーション

授業の概要

自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習Ⅰ」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。

到達目標

1	海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。
---	---

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。3回以上欠席した者は評価の対象外とする。

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント

授業外における学習

できる限り台本を見ないで、英語でプレゼンテーションができるように、事前準備をしっかりと行うこと。

質問や相談への対応

随時対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーションと議論	100	知識力、構成力、表現力、思考力、発言力を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

海外研修の成果を十分にアピールして欲しい。

その他・特記事項

特になし。

海外経営経済演習Ⅱ（築山）

更新日：2023/01/10 08:53:20

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G1140J	科目コード	G1140
担当教員	築山 秀夫						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外留学オンラインプログラムの振り返り、英語によるプレゼンテーション、ディスカッション

授業の概要

自身が参加した海外実地研修における経営学、経済学、社会学、行政学等に係るテーマについて、その概略、研修から得られた知見を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論する。教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。

到達目標

1	海外実地研修参加者が、その総括も兼ねて、オンライン訪問した国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、論理的な英語プレゼンテーション能力の向上を図ることを目標とする。
---	--

教授方法

演習形式で実施。学生個々によるプレゼンテーションと学生間のディスカッション・グループディスカッション、教員によるコメント

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外経営経済演習Ⅰおよび海外実地研修を履修していること

授業計画

1	オリエンテーション ・本演習の目的や進め方のオリエンテーション、英語プレゼンテーションの資料の作成、プレゼンテーションを巡る用語や表現、 script , introduction , objective , Main Body , Ending
2	教員によるプレゼンテーション（ポーランド、スペイン、ニュージーランド他）
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント

授業外における学習

各人が、訪問先における知見をプレゼンテーションするために、パワーポイント資料を事前に作成し、第3回目に全員提出する。

質問や相談への対応

オフィスアワーや授業の前後で質問をお聞きます。それ以外でも在室しているときは対応（なるべくアポイントメールをお送りください）。メールでの対応もします。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	60	内容、形式等から総合的に判断
ディスカッション	40	ディスカッションの参加度、内容
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			

	江藤友佳2021『ロジカルに伝わる 英語プレゼンテーション』クロスメディア・ランゲージ			
--	---	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加すること

その他・特記事項

特になし

海外経営経済演習Ⅱ（野口）

更新日：2023/01/10 08:53:21

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140K	科目コード	G1140
担当教員	野口 暢子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

諸外国の社会状況、諸外国の経済状況、諸外国の政策、他国と日本の比較考察

授業の概要

海外短期実地研修で選択した国の社会や経済の状況、政策について、英語で、パワーポイントを使って、受講生がプレゼンテーション（約30分）を行う。その後、クラスのメンバーからの質問に答えたり、訪問した国以外の地域や日本における状況との比較を行うことで、プレゼンテーションの内容について理解を深める。

到達目標

1	海外短期実地研修の内容や選んだ国について、受講生が興味を抱いたことを中心に情報収集や調査を行う。訪問した国や関心を持ったテーマについての理解を深めること、英語でのプレゼンテーション能力の向上を図ること、質問や議論をする力を高めることを目標とする。
---	---

教授方法

受講生ひとりにつき約30分、パワーポイントを使用した英語でのプレゼンテーションを行ったのち、質疑応答の時間を設け、発表したテーマに関して、発表者だけでなく、発表者以外の受講生たちの理解も深める。訪問した国以外の国、日本との比較考察も行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外短期実地研修に参加したこと

授業計画

1	海外短期実地研修に参加することで、どのようなことに興味を持つようになったか。
2	ニュージーランドについて
3	イギリスについて
4	アメリカについて
5	スウェーデンについて
6	フィリピンについて
7	振り返り

授業外における学習

海外短期実地研修で選択した国の社会・経済・政策などに関し、受講生が興味を持ったことについて英語で発表を行う準備をすること

質問や相談への対応

noguchi.nobuko@u-nagano.ac.jp宛にメールを送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表	50	着眼点、情報の正確さ、わかりやすさ
質疑応答	50	着眼点、積極性、的確さ
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	必要に応じて、紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

諸外国の社会・経済・政策について、積極的に情報収集する姿勢を持つこと

その他・特記事項

「変えよう、世界を！」 「変えよう、日本を！」。そのためのヒントを得る場になりますように。

海外経営経済演習Ⅱ（三浦）

更新日：2023/03/09 10:02:41

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G1140L	科目コード	G1140
担当教員	三浦 正士						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

国際比較、プレゼンテーション、英語

授業の概要

自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習Ⅰ」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。

到達目標

1	海外の事情に関する調査能力、日本と比較検討する思考力、分析力を身につける。
2	英語でのプレゼンテーション能力を身につける。
3	議論に必要なコミュニケーション能力を身につける。

教授方法

演習形式で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント

授業外における学習

- ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。
- ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、書籍やインターネット等を通じて事前に情報を収集する。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
上記以外の授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

	特になし。			
--	-------	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。

その他・特記事項

特になし。

海外経営経済演習Ⅱ（宮下）

更新日：2023/01/10 08:53:22

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140M	科目コード	G1140
担当教員	宮下 清						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外研修、海外体験、研修の体得、英語プレゼン

授業の概要

この科目は受講者がそれぞれ参加した海外研修での経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマにおいて、その概略、研修から得られた知見、自身の経営や政策における考えなどの発表と討議による学びの場となるものである。発表はプレゼンテーションを英語で行い、全員で議論し、教員のアドバイスを受け、さらに学びを深めていく。これにより、専門分野での学びの動機付けとする。

担当教員は国際企業での人事教育、海外商品企画、海外営業管理の実務経験を有し、ビジネスやマネジメントの事例を含めた学びを進め、それらの考察を通して実務にも生かせる能力の習得に役立てる。

海外実地研修に不参加の学生は「海外経営経済演習Ⅰ」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象について上記を行うものとする。）

到達目標

1	海外短期実地研修参加者はその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることで海外の経済社会事情について、具体的な議論ができるようになること、さらに専門的な学習の基礎を学び、英語プレゼン能力の向上を図れることを目標とする。
---	---

教授方法

演習による（毎回の予定に基づき、受講者の発表と討議を行う）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

原則として、ゼミナール（演習）Ⅰと海外実地研修の受講者

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント

授業外における学習

事前学習として、研修先でテーマとすることを学習する。発表のための準備を行う。事後学習として、他の発表や討議で学んだことを整理、習得し、次回以降に活かす。

質問や相談への対応

オフィスパワーや授業前後にて対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
その他	100	発表（プレゼンテーション）と議論（ディスカッション）による
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	指定はないが、海外研修時のテキストや資料を必要に応じて活用。			
	特に指定はない。海外研修時の資料を必要により活用。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

海外研修を充実させることはもとより、研修後も資料やノートを整理し授業に活用できるように。

その他・特記事項

各国での学び、体験を受講者が持ち寄ることで、さらに多様なグローバル知見の獲得が本演習の意義である。担当教員は国際企業での人事教育、海外商品企画、海外営業管理の実務経験を有する。

海外経営経済演習Ⅱ（宮崎）

更新日：2023/01/10 08:53:23

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140N	科目コード	G1140
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外経営 実地研修 プレゼンテーション

授業の概要

自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習Ⅰ」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。

到達目標

1	・自身のテーマに基づき、問題の所在、事前研修、海外経営経済演習Ⅰを振り返り、海外経営経済実地研修の目的が説明できる
2	・自身のテーマに基づき、海外経営経済実地研修での学びを説明できる
3	・全てを振り返り自身のテーマにおける新たな課題を見つけ、今後の取り組みを英語でプレゼンテーションできる

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

海外経営経済演習Ⅰおよび海外実地研修が修了していること

授業計画

1	オリエンテーション 海外経営経済演習Ⅱの計画について
2	学生による発表と討議
3	学生による発表と討議
4	学生による発表と討議
5	学生による発表と討議
6	学生による発表と討議
7	学生による発表と討議

授業外における学習

毎回のプレゼンテーションの準備が必要。これまでの学びを振り返り、資料と英語を用いて他者に伝わるよう事前・事後学習で精錬する

質問や相談への対応

オフィスアワーを提示するが、授業前後、昼休み、メール等で質問相談に対応

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
プレゼンおよび討議	100	プレゼンテーション（内容、資料、理解しやすさ） 討議（建設的な意見等）	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	とくになし			
	とくになし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

プレゼンテーションは、他者にわかるように工夫する。積極的な討論を希望

その他・特記事項

とくになし

海外経営経済演習Ⅱ（Ⅱ）

更新日：2023/02/27 12:55:01

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G1140O	科目コード	G1140
担当教員	伊 大栄						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

授業の概要

到達目標

教授方法

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

授業計画

授業外における学習

質問や相談への対応

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を達成している。【D】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

その他・特記事項

海外経営経済演習Ⅱ（穴山）

更新日：2023/01/10 08:53:36

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G1140P	科目コード	G1140
担当教員	穴山 悌三						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外事情、経営課題、経済問題

授業の概要

自身の海外研修における経済経営社会行政政治上のテーマについて、その概略、研修と研究から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を主として英語でプレゼンし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、専門教育の基礎とする。

到達目標

1	海外短期実地研修参加者等の総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。
---	--

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

学務の規定による

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と討議
3	学生による発表と討議
4	学生による発表と討議
5	学生による発表と討議
6	学生による発表と討議
7	学生による発表と討議

授業外における学習

海外経営経済演習Ⅰおよび海外実地研修準備等をもとに、各自が複数回のプレゼンテーション（パワーポイント資料と報告言語は英語による）を準備する必要があります。有益な討議のために、報告用パワーポイント資料は事前に配布・共有し、全参加者が質疑や討議の事前準備をしてください。

質問や相談への対応

質問、相談がある場合はゼミナールⅡの開催前後やメール等で随時対応します。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーションと討議の内容	100	プレゼンテーションと討議の内容により判断
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	適宜指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

海外実地研修等の成果を専門学習に活かすための演習です。積極的に議論に参加して下さい。

その他・特記事項

プレゼン・討議の方法等は第1回のガイダンスで説明するほか、各テーマについての事前準備等を適宜演習内で指示します。

海外経営経済演習Ⅱ（鶴田）

更新日：2023/01/10 08:55:03

開講年度	2022	学期	3期	シパコード	G1140Q	科目コード	G1140
担当教員	鶴田 靖人						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外研修、海外事情、日本との比較、英語によるプレゼンテーション

授業の概要

自身が参加した海外実地研修における経営学、経済学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習Ⅰ」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。

到達目標

1	海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。
---	---

教授方法

演習形式。対面で行う予定。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	本演習の目的、発表方法の説明
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント
7	報告会

授業外における学習

発表の準備のために十分な時間をかけてください。ディスカッションに積極的に参加できるように他者の発表について分からないことがあれば自分で調べておくようにしてください。

質問や相談への対応

質問や相談があれば、研究室に来てもらえれば対応します。所用がない限り、対応します。日時を指定したい場合はアポイントメールを送ってください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
調査・報告	50	調査内容（質および量が十分なレベルであるか？） 学術調査の引用のルール等を満たしているか？
参加態度	50	議論への参加・貢献 授業への参加姿勢（主体性、その他） 協調性その他
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

他の受講生の発表に対して積極的に質問やコメントをすることを望みます。

その他・特記事項

特になし

経営組織論

更新日：2023/01/10 08:53:46

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G2010A	科目コード	G2010
担当教員	東 俊之						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マクロ組織、協働システム、組織構造、コンティンジェンシー理論、組織文化

授業の概要

今日の社会は組織なしには動かない。そのため、組織について基本知識を持つことが不可欠である。つまり、組織全体をいかにマネジメントするかを考える必要があり、また組織のなかの人間行動に注目することが不可欠である。本科目では、経営組織論、特にマクロ組織論（組織理論）に注目し、今後の社会生活において必要不可欠な組織についての知識や技能を、講義や演習、事例分析を通して身につける。そしてこうした知識・技能を活用して、組織をマネジメントする基礎的な実践能力を涵養する。

本授業では、経営組織論に関する様々なテーマについて、講義形式の授業、事例分析やグループ活動などを通じて効果的に学習する。また本授業は、最初の数回で「組織論の全体」を把握し、その後「組織と環境との関係」、「組織の成長・発展の方法」を主題にしなが、経営組織論の各論を学習する。

【ねらい】

本科目は、組織を経営するための基礎的な実践能力を身につけることがねらいです。

到達目標

1	組織とは何か、またどのような組織観があるのかを説明できる
2	組織と環境との関係から、組織をいかに設計すればよいかを説明できる
3	組織の経営活動ならびに組織内の人間行動の側面から、組織文化を説明できる
4	企業組織の基本形態と特徴を、経営戦略との関係から説明できる
5	組織を変革する過程や条件を理解し、変革を実行できる
6	本科目で学習した内容を、実際の組織活動に応用できる

教授方法

毎回、経営組織論に関する様々なテーマについて、基本的にPowerPointを中心に、一部板書を併用しながら授業を行ないます。また、多くの授業回でショートケースを用いながら説明を行いますが、その際、皆さんの「所属する組織」を具体的にイメージしながら理論を考察する機会を持ちます。くわえて、事例分析やグループ活動なども適時実施します。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

先行して履修すべき科目等は、特にありません。

授業計画

1	【ガイダンス（イントロダクション）】：本科目の全体像を説明し、“組織とは何か”を考えます。特に、「組織」は皆さんにとって、あるいは社会にとって不可欠なものであることを把握し、本授業で学ぶことをどのように実践に生かせるかを理解します。
2	【経営組織論の射程】：経営組織論は大きくマクロ組織論（組織理論）とミクロ組織論（組織行動論）に分けられます。ここでは、この両者の内容について理解を深め、さらには組織と集団の違いを学習します。特に、マクロ組織論の射程を詳しく解説します。
3	【経営組織の基本概念】：組織論の基本的視点として、様々な組織観（組織の見方）を紹介します。また、組織をオープンシステムとしてとらえる重要性を学びます。
4	【古典的組織論】：M. ヴェーバーの官僚制組織とF. テイラーの科学的管理法、さらにM. ヴェーバーの官僚制組織論を題材として、古典的な組織論を学びます。また、当時の歴史背景から、そうした理論なぜ導き出されたのかを考えます。
5	【現代組織論の幕開け】：「近代組織論の父」と称される、C. バーナードの理論を学び、組織が「協働システム」として成り立っていることを理解します。くわえて、協働システムとしての組織が成立する条件についても詳細に考察します。
6	【組織における意思決定】：ノーベル経済学賞受賞者である、H. サイモンの組織に関する理論を学び、組織における意思決定がどうあるべきかを考えます。特に、限定合理性である人間の限界を克服するための道具（装置）として組織が存在していることを理解します。
7	【環境と組織のダイナミクス】：組織は外部環境から影響を受け、また外部環境に影響を与える存在です。こうした「オープンシステム」としての組織を検討します。さらに、組織内の個人の行動が経営活動にどう影響するのかを検討します。
8	【コンティンジェンシー理論】：環境変化に応じて組織の構造や管理方法を適切に変化すべきだという考えをコンティンジェンシー理論（条件適応理論）と言います。ここではコンティンジェンシー理論の代表的な研究を確認し、環境と組織との関係を考察します。
9	【環境の多様な側面】：環境と組織を場合、組織から環境への働きかけが必ずしも可能でない場合があります。こうした「非合理的組織論」の代表的な研究分野である制度派組織論と個体群生態学について学習し、その対策を検討します。※教科書から離れた内容も含まれます。
10	【組織の設計と組織構造】：経営組織の基本構造（機能別組織、事業部制組織、マトリクス組織など）について学習します。また、不確実性と情報処理負荷の削減という視点から、組織をどのように設計すべきかを考察します。

11	【組織文化論】：「組織に共通するものの見方、価値観」を組織文化と言います。組織構造だけでなく、この組織文化も組織の成果に影響を与えると考えられます。そこで、この組織文化が組織メンバーに与える影響を考え、また文化をどのように管理すべきかを学習します。
12	【組織変革と組織学習】：組織が持続・発展するためには、環境変化に合わせて組織を変革することが不可欠です。ここでは、組織変革そのものを学習するとともに、組織変革を引き起こすきっかけになる組織学習についても学びます。
13	【組織間関係論】：外部環境の変化に対して個別組織での対応が難しい場合には、組織間のレベルでの対応が不可欠です。ここでは、組織が持続・発展するための方法として、他組織と協働する必要があることを学び、そのポイントを探ります。
14	【経営組織論の展望】：まとめとして、これまで学んできたことを振り返り、様々な組織理論が生まれる背景を探ります。さらに、現在の経営組織論の到達点を鑑み、今後どのようなことが問題となってくるのか、皆さんと検討します。

授業外における学習

毎回授業の終わりに「課題」を提示します。これは提出を求めるものではなく、次回授業の予習になるものです。グループ討議を行う際には、事前に調査しておかないと、活発な議論ができません。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。

質問や相談への対応

オフィスパワーとして設定しますので、その時間に研究室に来ていただいても構いませんし、Zoomのミーティングを開設しますので、そちらに参加いただいても構いません。それ以外の時間でも可能な限り対応しますが、あらかじめアポイントメールをお送りください（時間の調整をします）。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。

※なお、オフィスパワーの時間については、授業の初回で案内します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	40%	期末試験（40点）。期末試験は、論述問題を出题します。これまで学んできたことを総合的に考える問題を出题します。なお論述問題ですので、自身の見解を論理的に述べられていることが求められます。
小テスト	30%	小テスト（5点×6回＝30点。2、4、6、8、10、12回に実施）。前回および当日の授業内容が理解できているかの確認のために実施します。穴埋問題を中心に出題（回によっては記述問題を出题）します。
授業レポート	30%	レポート課題（20点）と小レポート（5点×2回＝10点）。レポート課題は、組織の特徴を分析するレポートです。また小討議レポートについては、第1回授業時に指示します。
上記以外の授業評価	0%	授業への積極的な取り組みなどによって、ボーナスポイントを付与する場合があります。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		教科書：東・當間著『経営組織論の基礎－要点整理－』五紘舎、2021年（本体1,800円＋税）。※必ずしも教科書通りには進みません。また適時資料を配布します。			
		参考書：①馬場・蔡・福原ほか著『マネジメントの航海図』中央経済社、2015年（本体2,700円＋税）。②田尾雅夫編著『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房、2010年（本体2,800円＋税）。※その他、参考文献は授業時に指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

組織活動は日常のあらゆる場面に存在しています。そのため、常に“組織”を意識し、特に企業組織の活動について、新聞記事や雑誌記事、関連書籍を読み、理解することが大切です。また授業は、これまで皆さんが組織活動で経験したことを思い出しながら受講してください。

その他・特記事項

○対面による授業を予定していますが、体調不良等で出席が難しい場合は、必ず担当教員に連絡を取って指示を仰いでください。

○授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。ただし、授業時にもスライドを印刷したものを配付しますので必ずしも印刷する必要はありません。

ミクロ経済学

更新日：2023/01/10 08:52:25

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G2020A	科目コード	G2020
担当教員	飯村 卓也						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ミクロ経済学、需要と供給、競争と独占、価格メカニズム、効率的な資源配分

授業の概要

消費者は何をどれだけ消費（需要）するか、企業はいかに生産活動を行うのか、市場価格はどうか決まるのか、独占はなぜ問題なのか、市場機構の限界と政府の役割は何かなど、一般的な市場メカニズムの理論を体系的に講義するとともに、近年目覚しく発展してきたゲームの理論や情報の経済学の基本事項を学び、高年次における応用科目への橋渡しを行う。

到達目標

1	この講義では、ミクロ経済学で用いられる基礎的な概念を理解し、経済学的な思考法を身につけることを目標とします。
---	--

教授方法

オンラインで授業を行います。授業中に疑問が生じたらどんどん質問して下さい。質問と説明のキャッチボールで理解を深めていきましょう。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修するための条件は特に定めません。

授業計画

1	はじめに; 需要と供給 需要・供給曲線(pp.21-27), 価格変動と需要・供給曲線のシフト(pp.28-43)
2	需要曲線と消費者行動 需要曲線の構造(pp.45-61), 消費者行動と需要曲線(pp.62-67)
3	費用の構造と供給行動 供給曲線(pp.83-94), 短期費用曲線と長期費用曲線(pp.95-99), 利潤最大化行動と供給曲線(pp.100-110)
4	市場取引と資源配分(1) 市場と価格メカニズム(pp.111-121), 市場と価格メカニズムの応用例(pp.122-129)
5	市場取引と資源配分(2) 競争をもたらすもの(pp.130-137), 企業の参入・退出行動と資源配分(pp.138-147)
6	独占の理論 供給独占の理論(pp.267-278), 独占理論の展開(pp.279-285)
7	市場の失敗 外部効果(pp.347-363), 費用逓減産業(pp.364-370), 公共財(pp.371-376)
8	消費者行動の理論 無差別曲線と効用(pp.149-164), 予算制約と消費者行動(pp.165-174)
9	消費者行動理論の展開 所得変化と需要(pp.175-182), 価格変化と需要(pp.183-195)
10	生産と費用 生産関数としてとらえた企業(pp.205-213), 生産要素間の代替と費用(pp.214-220), 費用最小化行動と費用曲線(pp.221-228), 利潤最大化行動(pp.229-238)
11	一般均衡と資源配分 交換の利益(pp.241-248)
12	ゲームの理論とその応用 囚人のジレンマ(pp.293-303), 協調のメカニズム(pp.304-308), 企業の経営戦略(pp.319-326)
13	不完全情報の経済学 レモンの市場の経済学(pp.401-408), 情報の不完全性への対応(pp.409-417)
14	まとめと総復習

授業外における学習

(予習) 各回で扱う教科書の該当ページが示されています。授業に参加する前に該当ページを必ず読んでから授業に参加して下さい。

(復習) 配布資料で授業の内容を振り返り、一回一回のポイントを確実に理解するようにしてください。

質問や相談への対応

質問や相談がある場合はメールで連絡をください。メールやZoomなどで対応します。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	50	試験の得点
課題提出	40	計4回の課題提出の得点
授業への積極的な取り組み	10	取り組み度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ミクロ経済学 第3版 伊藤元重 日本評論社			
	特に指定しません。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

教科書は自習書にも使える読みやすい本です。予習の量も毎回30ページ以内なので、「予習－授業－復習」のサイクルを確立するようにしてください。

その他・特記事項

講義用資料は「お知らせ」で送ります。

ファイナンス入門

更新日：2023/01/10 08:52:26

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G2030A	科目コード	G2030
担当教員	永田 邦和						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

資金調達、資産価格、投資、ポートフォリオ

授業の概要

ファイナンスは、将来の利益が確実でない状況での資金の貸借を研究している。企業は、不確実性を伴う事業に必要な資金を調達し、その利益から資金を返済している。経営者や金融機関の担当者、投資家が企業活動を金銭的な観点から評価し、正しい意思決定をするためには、ファイナンスの知識が必要になる。本講義では、グローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎知識の修得を目指し、ファイナンスの基本的な考え方を学習する。具体的には、資金調達と資産価格、投資の意思決定、ポートフォリオ理論等を取り上げる。

到達目標

1	本講義では、ファイナンスの基本的な考え方を身に付けることを目標とする。また、資金調達や資産価格、投資の意思決定、ポートフォリオ理論等に関する基礎知識を身に付ける。ファイナンスの考え方や基礎知識は、今後のグローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎的・予備的知識のみならず、金融業界への就職や個人の資産形成、企業経営においても重要な知識である。
---	---

教授方法

講義形式。対面で行う予定であるが、受講者が多い場合、オンラインに変更する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

総合教育の「経済学入門」を受講していると、授業内容を理解しやすい。

授業計画

1	ガイダンス コーポレート・ファイナンスの世界 (1)
2	コーポレート・ファイナンスの世界 (2)
3	リスクとリターン：期待値と標準偏差
4	自己資本と負債
5	配当の基礎知識
6	資金の時間的価値：現在価値の計算方法
7	資産価格の決定理論 (1)：債券価格
8	資産価格の決定理論 (2)：株価の決定理論
9	投資決定の基礎理論 (1)：正味現在価値法
10	投資決定の基礎理論 (2)：内部収益率法
11	資本構成の基礎理論 (1)
12	資本構成の基礎理論 (2)
13	ポートフォリオ理論 (1)：共分散と相関係数
14	ポートフォリオ理論 (2)：分散投資とCAPM

授業外における学習

授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では、教科書を超えるレベルの内容も取り上げるので、授業後には、教科書やノート等で復習すること。

質問や相談への対応

リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。質問には次回の授業で回答する。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。オンライン形式の場合、授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記試験）	50～60	ファイナンスの基礎知識の理解度に応じて評価する。

小テスト（または、授業中や授業後の問題演習）	20～30	進捗状況に応じて2回～3回小テストを行い、理解度に応じて評価する。オンライン形式の場合、授業中や授業後の問題演習に変更する可能性もある。
授業レポート	0	
上記以外の授業評価	20	計算問題の宿題等を課す予定。宿題の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	内田交謹（2021）『すらすら読めて奥までわかるコーポレート・ファイナンス』（第3版），創成社。教科書に載っていない分野については，資料を配付する。			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ファイナンスを深く理解するには数学や統計学の知識が必要になる。「習うより慣れろ」の方針で、授業中に演習時間を設けたり、宿題を課す。何度も繰り返すと正解を導けるようになるので、諦めずに取り組むこと。

その他・特記事項

受講生の理解度や進捗状況に応じて授業計画と成績評価等を変更する。オンライン形式になったときには、教授法や成績評価等も変更する。

原価計算入門 I (旧：原価計算入門)

更新日：2023/01/10 08:52:27

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G2040A	科目コード	G2040
担当教員	衣川 修平						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マネジメントアカウンティング, コスト, 配賦

授業の概要

世の中にはものを販売する小売業もあれば、ものを製造する製造業があります。本講義では、主に製造業において原価を計算し、それを内部管理に使用する会計手法である工業簿記を学びます。

原価には製造原価、販売費、一般管理費などがあり、製造原価はさらに材料費、労務費、経費に分類される。これらの費用をどのように計算すれば、適切に企業の生産活動をコントロールできるのかを学ぶのが工業簿記です。

本講義では実際に電卓を叩いて、叩いて、叩きまくり、問題演習を豊富に解いていきます。勇者は剣で雄々しく戦うが、賢者はそろばんで戦う。

到達目標

1	主に製造業においてマネジメントに不可欠なツールとして工業簿記があります。本講義では工業簿記の基礎を学ぶことによって、会計数値の観点から、製造活動をコントロールし、マネジメントする方法の基礎を学びます。
---	--

教授方法

講義。随時、電卓を使った問題演習、ディスカッションなどを入れます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

初等簿記の知識があり、基礎的な仕訳ができること。アカウンティング入門の単位を取得していることが望ましい。

授業計画

1	イントロダクション&工業簿記とは何か：工業簿記と原価計算
2	工業簿記の基本①：原価とはなにか
3	工業簿記の基本②：原価計算の流れ
4	材料費①：材料費の購入と消費
5	材料費②：棚卸資産、予定消費
6	労務費
7	経費
8	製造間接費
9	部門計算①：集計
10	部門計算②：配賦
11	個別原価計算①：個別原価計算の基礎
12	総合原価計算
13	標準原価計算
14	直接原価計算&まとめ

授業外における学習

問題集を指示するので、それを解いてください。

質問や相談への対応

講義中にオフィスタ임을指示します。またメールでの質問を随時受け付けます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	80	定期試験では点数で評価したうえで、講義全体の理解度を勘案して修正する。

小テスト	20	講義内容を修得したかどうか、3回に一度ほど、小テストを行う。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	自作プリントを配布する予定です。			
	岡本 清 (編集), 廣本敏郎 (編集) 『検定簿記ワークブック12級工業簿記』 中央経済社			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

会計は努力が報われる科目です。また社会に出てから役に立つ科目です。電卓と一緒に叩いて頑張りましょう。

その他・特記事項

Email: kinugawa.shuhei★u-nagano.ac.jp

アカウントニング入門 旧：

更新日：2023/02/19 11:41:02

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	G2050A	科目コード	G2050
担当教員	衣川 修平						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

複式簿記 会計 ビジネスの言語 book-keeping

授業の概要

会計はビジネスの言語であり、複式簿記という世界共通の情報処理技術によって記録・計算されたうえで、利害関係者に報告されます。このような会計は、私的企業だけでなく、官庁やNPOといった非営利法人でも利用され、またGDP計算の基礎ともなります。

本講義ではその基本的な複式簿記の処理を徹底的に勉強します。

本講義では、電卓を叩いて、叩いて、叩きまくります。
勇者は雄々しく剣で戦うが、賢者は電卓で戦う。

到達目標

1	①複式簿記の基本構造を理解する。
2	②基本的な商業取引を複式簿記で記帳できるようになる。
3	③アカウントニング・マインドを養成する。

教授方法

オンラインないし対面による講義と演習をミックスした形式でおこなう。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	簿記と会計とは何か。そして何ができるのか。
2	簿記の5要素と貸借対照表--ストックとは
3	簿記の5要素と損益計算書一目に見えないフローの可視化
4	複式記入の基礎
5	商品売買の基礎
6	債権・債務の基礎
7	仕訳演習DAY
8	総勘定元帳-T字勘定への転記
9	合計試算表
10	残高試算表
11	6桁精算表
12	総合問題演習①
13	総合問題演習②
14	総合問題演習③

授業外における学習

宿題を多く出します。必ず自分で解いてください。まれに友達の答えを写して出す人がいますが、宿題を出さなくても評価上マイナスにはなりませんので、そういう人は提出しないでください。簿記は自分で解かない限り、マスターできません。

質問や相談への対応

メールで随時質問すること

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

テスト	80	
宿題と発言	20	提出回数と発言回数
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	渡部裕亘 他『検定簿記ワークブック3級』 中央経済社 (800円)			
	適宜指示			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

簿記は解かない限りマスターできません。狂ったように電卓をたたいて計算してください。その代わり、手を使って計算しまくれば、だれでもマスターできます。

その他・特記事項

本講義で日照3級の前半部分をカバーします。

地方財政論

更新日：2023/01/10 08:52:28

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G2060A	科目コード	G2060
担当教員	中村 稔彦						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

最適な資源配分、所得再分配、経済安定化、地方創生、地域再生、地域活性化

授業の概要

講義では単に知識を修得するにとどまらず、講義の中で学生自身が「望ましい地方政府と地方財政の姿」を考えられるようにしたい。いきなり地方財政について理解することは困難であるため、当初は基礎となる財政学の理論や制度、そして中央政府（国）の財政状況等も概観する。毎回、理論や制度の説明を行うだけでなく、実態や問題点、改革案を明示したり、学生に意見を求めることにも力点を置くようにする。実態や問題点をより明確にするために、多数の最新の財政統計資料（図表）も配付する。また理解力、思考力を高めるために、毎回授業の最後には、受講生に講義内容の要約や感想、課題の解答等をZOOMのチャットやコメントシートにまとめさせる時間を設ける。

地方公共財の供給や教育・医療・社会保障等の提供とこれらにかかる費用を賄うための税金の徴収等、地方公共団体（都道府県市区町村）等の経済活動は私たちの生活に密接に関わっているが、これら経済活動の方向性と程度は最終的には政治によって決定される。私たちの生活に大きな影響を与えるだけに、これらをどの方向に向けるべきか、また、どの程度実施すべきかについて、常に私たち住民は意見を持ち、そして、監視しなければならない。時には、アクション（投票）等を起こす必要もあるだろう。意見を持ち、監視するためには、当然知識が必要であり、ここに「地方財政論」を学ぶ必要性が出てくるのである。

到達目標

1	「地方財政論」の講義の到達目標は、受講生が地方財政の理論や制度、歴史、政策等を包括的に理解することだけでなく、それらをもとに現在直面しているわが国の地方財政上の様々な課題を自己評価する力を身につけることである。
---	---

教授方法

講義はテキストの他、配付する多数のレジュメ、最新の財政統計資料（図表）等を使用して行う。一方的な話す講義にはせず、講義の随所で受講生に質問して回答を求めるようにする。受講生は講義に集中し、かつ思考しなければならず、気を抜いている暇などないであろう。更に理解力、思考力、表現力を向上させるために、毎回講義の最後10分程度は、当日の講義の重要な部分のおさらいと与えた課題に対する回答等の記入（ZOOMのチャットやコメントシート）に充てるようにする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。ただし、5回以上欠席した者は評価の対象外とする。

授業計画

1	ガイダンス／財政学と地方財政論（『財政学』第1章の2、3及び『地方財政論』第1章の2、3、4）シラバスの記載事項についての確認した上で、財政とは地方財政とは何か、なぜ中央政府、地方政府は必要なのかを考える。
2	予算の意義と循環（『財政学』第4章の1、2、3、4及び『地方財政論』第2章の1）予算の意義や原則、循環等を中央政府と地方政府に分けて学んだ上で、予算制度の問題点を考える。
3	経費構造と地方財政計画の意義（『財政学』第2章の2及び『地方財政論』第2章の2、3、4、5）中央政府と地方政府の経費構造と地方財政計画の意義を学んだ上で、経費がなぜ膨張するのかを考える。
4	地方政府の現代的機能（『財政学』第2章の3、4及び『地方財政論』第3章の1、2、3、4）公共財の定義や供給状況を学んだ上で、フリーライダー、足による投票、所得再分配について考える。
5	教育と機会均等（『地方財政論』第4章の1、2、3、4）義務教育をめぐる国と地方の役割分担について学んだ上で、教育への政府の関与が正当化される理由等について考える。
6	医療・介護とリスク分散（『地方財政論』第5章の1、2、3、4）国民健康保険「国保」制度と介護保険制度について学んだ上で、医療サービスや介護サービスの問題点を考える。
7	福祉と所得再分配（『地方財政論』第6章の1、2、3、4）生活保護や児童扶養手当等の現金給付について学んだ上で、地方政府がなぜ現金給付に関与しているのか等について考える。
8	租税の理論（『財政学』第5章1、2、3、4）租税の根拠や構造について学んだ上で、望ましい税制について考える。
9	個人所得税（『財政学』第6章の1、2、3、4）所得税の理念や算定方法を学び、実際に所得税額を計算する。
10	地方税の体系（『地方財政論』第7章の1、2、3、4）地方税の体系や代表的な税目の課税要件等を学んだ上で、地方政府は支出増加を地方税の課税自主権の行使で調整すべきかについて考える。
11	特定補助金の理論と応用（『地方財政論』第9章の1、2、3、4）地方政府へ交付される使途が特定された補助金の理論等について学んだ上で、特定補助金の整理・縮小を図ろうとする改革論について考える。
12	地方財政調整制度（『地方財政論』第10章の1、2、3、4）地方政府へ交付される使途の特定のない一般補助金の理論等について学んだ上で、地方交付税制度をめぐる政策的な諸問題について考える。

13	財政赤字と公債論（『財政学』第11章1、2、3及び『地方財政論』第11章の1、2、3、4）財政赤字の状況を確認した上で、公債の発行の必要性と負担について考える。
14	地方財政と分権改革（第13章の1、2、3、4）地方分権改革の動きについて学んだ上で、残された改革課題と改革をとりまく外部環境や内在的要因について考える。

授業外における学習

授業前に各回の該当の章・節を読み、理解できない用語や内容について、自分なりに調べておくこと。

授業後は、講義で説明した重要な部分の見直しと講義の中で紹介した参考書や新聞、ホームページ等を調べる。これにより、幅広い経済・財政の一般常識を身につけることができるだろう。

質問や相談への対応

授業後の他、研究室やメール等でも対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
チャットやコメントシート	28	毎回の講義内容の感想や課題の解答等をZOOMのチャットやコメントシートに記入して送付(各回0~2点×14回)。理解度、問題意識、表現力等を評価する。
テスト	42	ミニテスト1回の点数と学期末テストの点数の合計
レポート	30	授業で興味を持った内容について、問題点を指摘し、その改善案を統計資料や実地調査（自治体担当部署への電話等含む）から見つけ出すことを課題にする。問題意識、情報の収集力・正確さ、表現力等を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		持田信樹『地方財政論』（東京大学出版会、2013年）3,080円（税込）。			
		持田信樹『財政学』（東京大学出版会、2009年）3,080円（税込）。中村稔彦『攻める自治体「東川町」地域活性化の実践モデル』（新評論、2022年）1,980円（税込）。総務省編『令和2年度版 地方財政白書』（日経印刷、2020年）5,315円（税込）。廣光俊昭著『図説 日本の財政令和2年度版』（財経詳報社、2021年）2,860円（税込）。植松利夫編著『図説 日本の税制、令和元年度版』（財経詳報社、2020年）2,310円（税込）。その他講義の際に随時紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

理想の地方政府、地方財政とはどのようなものか、講義を受けながら、常に考えてほしい。

その他にも、社会問題について関心を持つとともに、自分なりの答えを持つように心掛けてほしい。

その他・特記事項

本学の規定に基づき授業は1、2回目は、オンデマンド（YouTube）とZOOMのオンラインの併用で行う。3日目以降は原則対面とする。1、2回目の授業で使用するパワーポイントデータや資料等は、原則3日前までにポータルやメールでデータを送付するので、事前にプリントアウトするなどして、授業に望むこと。レポートの書き方等については、授業で詳細を説明する。

行政学

更新日：2023/03/07 12:26:16

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G2070A	科目コード	G2070
担当教員	三浦 正士						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

政府、官僚制、内閣と省庁、公務員制度、政策過程

授業の概要

この科目では、行政学の基本的な考え方を学び、行政が果たすべき役割と機能について考察する。具体的には、教科書や参考書を基に講義を行い、行政システム、官僚制、行政組織、公務員制度、政策過程に関する基礎的な理論を習得するとともに、具体的な事例を取り上げることで、理論を現実の問題に応用する力を養う。さらには、政治と行政（政官関係）、国と地方（中央地方関係）、行政と民間（官民関係）、行政と住民（行政統制）など、行政を取り巻く多様なアクターとの関係について考察し、行政を様々な角度から理解するための視点を養うことのできる講義とする。

到達目標

1	行政学に関する基本的な知識を習得し、行政の基本的な仕組みと今後の課題を説明することができる。
2	政府をめぐる近年の動向や行政と企業、NPO、住民といった多様なアクターの関わりを踏まえ、これからの行政のあり方について、主体的に調べる態度を持ち、自らの意見を示すことができる。

教授方法

講義形式で行う。レジュメとパワーポイント等を用いて、講義の要点を理解することのできる授業とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「地方自治論」を併せて受講することが望ましい。

授業計画

1	行政学の射程 講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、「行政」とは何かについて考察し、行政学を学ぶ意義を共有する。
2	行政機能の肥大化と福祉国家 欧米や日本における国家と政府の歴史をたどり、政府や行政の役割がどのように変化してきたかについて解説する。
3	行政改革と公民関係 日本における行政改革の展開と近年における行政改革の主要なテーマを取り上げ、その意味と今後の課題について検討する。
4	官僚制をめぐる諸論点 官僚制をめぐる多様な研究の概要を解説するとともに、官僚制批判の含意と今後の課題について検討する。
5	行政組織論と行政管理論① 経営学の知見も踏まえつつ、行政機構の内部の仕組みとそのメカニズムを解説し、組織や管理を考える視点を学ぶ。
6	行政組織論と行政管理論② 経営学の知見も踏まえつつ、行政機構の内部の仕組みとそのメカニズムを解説し、組織や管理を考える視点を学ぶ。
7	政府体系と中央地方関係 欧米や日本における多様な政府体系を解説するとともに、中央政府と地方政府（自治体）の関係に関する諸理論について検討する。
8	執政制度と政官関係 議院内閣制と大統領制の違いを解説するとともに、内閣と与党の関係、内閣と省庁の関係に注目して日本の政官関係の特徴を説明する。
9	内閣制度と省庁制 日本の中央政府の組織編成、中央省庁改革による変化について解説するとともに、日本の行政機構の特徴について検討する。
10	公務員制度と人事行政 行政組織を支える公務員制度の諸原理と人事行政の運用について、具体的な事例にも触れながら説明する。
11	行政官僚制の政策過程① 政府が政策を立案、決定、実施、評価する一連のプロセスを解説するとともに、政策過程における政治と行政の役割を検討する。
12	行政官僚制の政策過程② 政府が政策を立案、決定、実施、評価する一連のプロセスを解説するとともに、政策過程における政治と行政の役割を検討する。
13	法律の制定過程と予算の策定過程 政策過程における諸理論を踏まえて、日本における法律の制定・予算の策定過程の実際を検討する。
14	行政統制と行政責任 住民が行政を統制するための諸制度（情報公開、行政不服審査等）について解説するとともに、現代国家における行政責任とは何かを考察する。

授業外における学習

事前学習

日本の政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを通じて情報を収集し、関心を高める。

事後学習

教科書、参考書の関連する章を読み、講義内容について理解を深める。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中に受け付けるほか、リアクションペーパーで受け付ける。毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。
- ・上記のほか、質問や相談は随時メール等で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	学期末に提出を課す。講義内容を踏まえ、行政学に関する知識の理解度、論理性を評価する。
リアクションペーパー	40	各回の終了時に提出を課す。授業に対する積極性、問題を発見する力を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	はじめての行政学	有斐閣ストウディア	2016	

参考書・参考資料等

- ①牛山久仁彦、外山公美編著『国家と社会の政治・行政学』（芦書房、2013年）
- ②西尾勝『行政学〔新版〕』（有斐閣、2001年）

受講生に望むこと

授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問すること。

その他・特記事項

特になし。

社会調査論

更新日：2023/01/10 08:52:29

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G2080A	科目コード	G2080
担当教員	築山 秀夫						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会調査、量的調査と質的調査、サンプリング、ワーディング、フィールドワーク

授業の概要

この科目は、社会調査の意義、社会調査の歴史、社会調査における倫理、調査の種類と具体例、量的調査と質的調査の相違と特徴、調査目的に応じた調査方法の選択、調査の企画・設計、標本抽出と誤差、調査票の作成法（ワーディング）、質的調査法、フィールドワークの仕方など、データ収集から分析するまでの具体的な方法について学ぶ。

到達目標

1	社会調査についての基本的な理解の習得、社会調査報告書を読むリテラシーを身に付けることを目標とする。具体的には、①社会調査の歴史を理解する。
2	②社会調査と社会理論の関係を理解する。
3	③社会調査における倫理について理解する。
4	④調査目的に応じた調査方法の選択を理解する。
5	⑤社会調査の企画と設計ができる。
6	⑥標本抽出と抽出誤差について理解できる。
7	⑦調査票の作成ができる。
8	⑧カイ二乗検定他、二変数の相関をとらえることができる。
9	⑨質的調査の基本を理解する。
10	⑩信頼に足る調査を見分けることができる。

教授方法

基本的に、講義形式で実施する。毎回、グループに分かれて議論するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。社会調査を巡る現状について、解説する。社会調査を受講する学生諸君に対して、簡単な調査をする。
2	社会調査の意義と目的 社会調査の理論に対する意義、観察と理論の関係について解説する。
3	社会調査の歴史 大衆を捉える手段として始まった社会調査の歴史について、解説する。
4	社会調査の倫理 社会調査と権力、社会調査と人権について、日本社会学会倫理綱領に基づきながら、解説する。
5	社会調査の企画と設計 調査目的の明確化、社会調査全体の企画と設計について、解説する。第1～第4回までの内容について、理解度を確認するために、小テスト①を実施する。
6	社会調査の種類 調査目的に応じた社会調査の種類と方法について、量的調査、質的調査について解説する。標本抽出の理論と方法 量的調査におけるサンプリングの歴史、種類や意義について解説する。
7	調査票の作成 仮説から調査票を作成する方法について解説する。KJ法を用いて、仮説を立て、ワーディングを検討する。
8	調査票の作成 ワーディングの方法について解説する。ワーディングによって、いかに回答が左右されるのかについての実験を行う。
9	調査の作業 調査実施計画書、調査参加依頼書等の作成と調査のシュミレーションについて解説する。
10	単純集計と主な統計量 データの分布を示す主な統計量、平均値、標準偏差などについて解説する。第5～9回までの内容について、理解度を確認するために、小テスト②を実施する。
11	2変数間の関連 2つの項目の間の関連性をとらえるために、クロス集計とカイ二乗検定について解説する。
12	質的調査・参与観察法 参与観察法の事例として、マリノフスキー、ホワイトなどによる調査を解説する。
13	フィールドワーク、聞き取り調査 聞き取り調査の具体的な手法、ラポール関係の構築などについて解説する。
14	社会調査のリテラシーについて、受講者間で再度確認する。

授業外における学習

事前学習：毎回、次回のテーマに関する課題を解いてくること（100分程度）。
 事後学習：フォローアップ課題に回答し、授業内容を復習し、疑問点を整理すること（100分程度）。

質問や相談への対応

フォローアップ課題提出時に、質問を書いて頂き、次回に回答する。質問及び回答は、履修生全員で共有する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	選択・記述式とし、社会調査の基礎的知識の理解度に応じて評価する。期末試験が60点以上なければ、他の成績が良くても及第できない。
小テスト	20	小テストを2回実施し、その理解度に応じて評価する。
平常点	20	毎回の講義後のフォローアップ課題の回答により、理解度を測る。アクティブラーニングによるディスカッションの内容についても、フォローアップ課題により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		特になし。毎回、詳細なスライドをファイル及び紙で共有する。			
		大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二 2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉 2015『社会調査の考え方 上・下』東京大学出版会			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

事前学習、事後学習にしっかりと時間を取り、授業に望んでいただきたい。
 日常的に、多様なセクターが実施する社会調査に関心を示し、調査内容、調査目的、ワーディング、サンプリング、分析、結果の提示方法などに注意しながら、自分なりに読み解いて、調査のリテラシーを身につけてほしい。自ら考え、学び、積極的に授業に参加してほしい。

その他・特記事項

特になし

リーダーシップ論

更新日：2023/02/22 10:34:04

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	G2090A	科目コード	G2090
担当教員	宮下 清						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マネジャー、リーダー、リーダーシップ、フォロワーシップ

授業の概要

授業では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロアー、現在と今後のリーダーシップのあり方などのリーダーシップの論点を取り上げる。

対面でもオンラインでもライブ講義に加え、課題や事例のグループ討議、コメントや質疑とそのフィードバックを行うことで、主体的かつ双方向的な学びができるよう配慮して進める。担当教員は国際企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有しており、リーダーシップの発揮などの説明や事例で実務経験を活かしていきたい。

到達目標

1	リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」を意味する。マネジメント分野で関心が高く、重要な分野であるリーダーシップの働きや理論を学び、リーダー、マネジャー、フォロワーやメンバーの働きや関係を理解できる、リーダーシップ持論を自分の言葉で他者に話せるようになる、ことを目標とする。リーダーシップで組織の問題や課題への対応力も高め、実践的に社会生活に応用できる、活用できることも目指している。
---	---

教授方法

講義に演習的な授業形態を加え、課題・事例研究、グループ討議、発表・質疑等により双方向の授業とする。読書や講義で知識・概念を、共同学習やグループ討議から多様で実践的な理解が得られるようにしたい。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経営学入門、組織論、組織行動論を履修していることが望ましい。

授業計画

1	第1回：ガイダンス・リーダーシップとは：マネジメントとリーダーシップを学ぶ意義、ドラッカーの考え方
2	第2回：マネジメントは：マネジメントについての誤解、組織とは、組織の共通目的、貢献意欲、コミュニケーション
3	第3回：マネジャーの人間観：合理的経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデル、複雑人モデル
4	第4回：リーダーシップの基本：リーダーとは、リーダーシップの定義、サーバントリーダーシップ
5	第5回：リーダーシップの持論：演習：持論としてのリーダーシップを探る
6	第6回：リーダーシップ論の展開(1)：リーダーシップの資質、リーダーシップの行動特性、リーダーシップと状況
7	第7回：リーダーシップ論の展開(2)：カリスマ的リーダーシップ、変革型リーダーシップ
8	第8回：フォロワーからのリーダーシップ：リーダーとフォロワーの信頼関係、フォロワーのリーダーシップ、リーダーシップの幻想
9	第9回：フォロワーシップとは何か(1)：フォロワーのルーツ、フォロワーシップの定義、ボス・マネジメント
10	第10回：フォロワーシップとは何か(2)：模範的フォロワー、勇敢なフォロワー、頼れるフォロワー、フォロワーシップの定性的研究
11	第11回：リーダーシップを高める：演習：自分のリーダーシップをどう高めるか
12	第12回：マネジャーに求められるもの(1)：ゼネラル・マネジャーの行動、マネジャーの仕事
13	第13回：マネジャーに求められるもの(2)：マネジャーの実像、マネジャーの3つの課題
14	第14回：総合事例：リーダーシップの事例と総合課題（期末レポートの課題）

授業外における学習

テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し再度考察する「事後学習」を行うことで、学習を定着させることができる。

質問や相談への対応

授業中のチャットによる質問にはできるだけ授業中に答える。また授業後に個別に質問を受ける。またメールでも対応したい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	授業全体の理解度の評価
授業での課題	20	授業課題の提出やレポートの評価
上記以外の評価	20	授業への積極的な参加（質疑、討議、コメント等）による評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	小野善生『リーダーシップ徹底講座』中央経済社, 2018年。			
	『リーダーシップの名著を読む(日経文庫)』日経新聞, 2015. 『HBRリーダーシップの教科書』ダイヤモンド社, 2018. 金井 壽宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社, 2005.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

リーダーシップについて学び、考え、実践してみようというスタンスによって、理解につながる。

その他・特記事項

自分の体験や記事からリーダーシップに関する知見や情報が、多面的かつ興味深い理解につながる。担当教員は国際企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有している。

経営戦略論

更新日：2023/03/15 17:49:33

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G2100A	科目コード	G2100
担当教員	首藤 聡一郎						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

経営戦略論、事業戦略、企業戦略

授業の概要

企業の経営戦略について講義する。特に詳細に取り扱うのは、企業のポジショニングや関係性を重視する経営戦略論と、企業内部の経営資源の蓄積と活用や人々の学習を重視する経営戦略論である。加えて、ゲーム理論の要素を組み込んだものなども取り扱う。理論をふまえて現実について考えてもらことで、理論に対する理解を深めると同時に考える力を養ってもらう。

到達目標

1	現実の企業の経営戦略について考えられるようになる。
2	経営戦略論の基礎的な考え方を理解できるようになる。
3	理論を用いて現実の企業行動を分析できるようになる。

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス
2	経営戦略論の全体像
3	顧客ニーズ
4	コスト・リーダーシップ戦略
5	差別化 (1)
6	差別化 (2)
7	ビジネスシステム
8	経営資源の蓄積と活用
9	多角化
10	範囲の経済・PPM (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント)
11	業界構造分析
12	競争と協調 (1)
13	競争と協調 (2)
14	まとめ：特に、戦略と組織との関係について

授業外における学習

授業ごとに提示される課題への取り組み

質問や相談への対応

授業時に受け付ける。それ以外の時間に関してはメールでアポイントメントをとること。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末レポート	50	内容、形式等
課題	50	内容、形式等

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	授業時に適宜紹介。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業以外でも、学んだ理論を使って現実を捉える訓練をしてみてください。

その他・特記事項

特になし。

公共哲学

更新日：2023/01/10 08:52:33

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G2110A	科目コード	G2110
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

政治哲学、法哲学、社会思想、経済思想、社会福祉論、科学技術社会論、正義論

授業の概要

公共性についての現代の思想や論争を辿り、現代社会が抱える公共性の問題を考えるための手掛かりを学んでゆく。次に、経済、政治、社会保障、科学技術、災害など、具体的な領域において、公共哲学が考えるべき問題を検討する。

【ねらい】

古代から現代にいたる公共哲学の代表的な学説を学び、現代社会が抱える公共性の諸問題を、哲学的に考えることができるようになること

到達目標

1	公共哲学における著名な学説について基本的な説明ができる。
2	公共哲学における学説を、現代世界に適用し、吟味検討できる。
3	現代社会の公共性がいかにあるべきか、自ら吟味検討できる。
4	現代社会の公共性がいかにあるべきか、他者との対話を通じて吟味検討できる。

教授方法

対面授業を行う。適宜ディスカッションを行う。必要に応じてオンライン授業（同時双方向ないしオンデマンド）を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

哲学ないし倫理学をすでに履修していることを推奨する。

授業計画

1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、公共哲学とは何か
2	公共哲学としての功利主義
3	公共哲学としてのリベラリズム
4	小テスト、リベラリズム批判の公共哲学1—ノーゾックの権原理論
5	リベラリズム批判の公共哲学2—マッキンタイアの徳倫理学、レポートの書き方
6	小テスト、アーレントの公共哲学
7	ハーバーマスの公共哲学
8	小テスト、デモクラシーと公共性
9	経済学と公共性
10	小テスト、危機と公共哲学1—巨大災害
11	危機と公共哲学2—社会保障
12	レポート提出、国際社会における公共性
13	小テスト、レポート返却、レポート内容の発表
14	14回目の内容を入力要

授業外における学習

- ①教科書の指定された範囲を、事前に読んでおくこと。
- ②学習内容について小テストを行うので、復習をすること。
- ③授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。

質問や相談への対応

・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
平常点	15	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。
小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する。
授業レポート	45	授業の達成目標への到達度により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	山岡龍一・斎藤純一『公共哲学 改訂版』放送大学教育振興会 NHK出版、2017年ISBN N 9784595140877			
	授業中に適宜示す			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

普段から時事問題に関心を持ち、公共哲学と関連する問題にアンテナを張っておくこと。

その他・特記事項

特になし

地方自治論

更新日：2023/03/06 18:39:42

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G2120A	科目コード	G2120
担当教員	三浦 正士						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

住民自治、団体自治、地方分権、二元的代表制、参加・協働

授業の概要

この科目では、地方自治の基本的な仕組みを学び、今後の課題を考察する。序盤の授業（第1回～第6回）では、地方自治に関する歴史と理論、地方分権改革の動向等について検討を行う。中盤の授業（第7回～第10回）では、地域政治のシステムや住民自治のあり方について検討を行う。終盤の授業（第11回～第14回）では、自治体の政策過程を解説するとともに、まちづくり、地域福祉、防災・危機管理といった具体的な政策課題を取り上げ、行政と企業、NPO、地域住民の協働のあり方について自治体の実践を交えつつ実証的な検討を行う。以上により、地方自治の基本的な仕組みに関する知識の習得のみならず、地方自治の現実の姿を多面的な視点から理解することのできる講義とする。

到達目標

1	①地方分権改革がもたらされた背景と制度の変化について理解し、地方自治の基本的な仕組みと今後の課題を説明することができる。
2	②自らが地域における自治の主体であることを認識し、多様化・複雑化する地域の公共的課題について自発的に調べる態度を持ち、自らの意見を示すことができる。

教授方法

講義形式で行う。具体的には、穴埋め式のレジュメと具体的な事例を交えたパワーポイントを用いて、講義の要点を理解することのできる授業とする。また、リアクションペーパーを用いて、双方向的なコミュニケーションを図る。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「行政学」を事前に履修していることが望ましい。

授業計画

1	「自治」とは何か？ 講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、「自治」とはいかなる概念かを解説し、地方自治論を学ぶ意義を共有する。
2	戦前の地方自治 日本における戦前の地方自治の歴史をたどり、現在の地方自治制度の源流となった戦前の諸制度の問題点を考察する。
3	戦後の地方自治 日本における戦後の地方自治の歴史をたどり、自治体が直面してきた政策課題と地方自治制度の改革課題を考察する。
4	地方分権改革の意義と到達点 地方分権一括法とその後の地方分権改革の動向を解説し、分権時代における自治体の役割の重要性について理解を深める。
5	中央地方関係 都道府県と市町村、特別地方公共団体といった地方自治の基本的な制度設計を確認するとともに、中央地方関係をめぐる諸理論について解説する。
6	市町村合併 自治の区域の変更をもたらす合併の歴史的展開とその功罪を考察する。
7	広域行政 区域変更を伴わない自治体間の連携の手法である広域行政について解説するとともに、近年の動向について考察する。
8	大都市制度 東京都区制度や政令指定都市制度といった日本の大都市制度を解説するとともに、近年の改革構想について考察する。
9	二元的代表制と自治体議会の改革課題 自治体における首長と議会の関係を説明するとともに、近年の議会改革の動きを念頭に、自治体議会の改革課題を考察する。
10	議員のなり手不足と地域政治 人口減少に伴い深刻化する「議員のなり手不足問題」を取り上げつつ、今日の地域政治が抱えている課題とその対応策について考察する。
11	住民参加 地方自治における住民参加の重要性について解説するとともに、情報公開や住民投票といったトピックスについても触れる。
12	協働政策と自治体行政 協働が求められる背景や、自治体が協働政策をどのように展開していくべきかについて考察する。
13	地域コミュニティと自治体内分権 住民自治の基盤である地域コミュニティと自治体行政の関係について解説するとともに、自治体内分権の意義を展望する。
14	地方自治とまちづくり 自治体が直面する政策課題のひとつとして「まちづくり」を取り上げ、地方分権や住民参加・協働の現状について考察を深める。

授業外における学習

事前学習

自治体の政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを通じて情報を収集し、関心を高める。

事後学習

教科書、参考書の関連する章を読み、講義内容について理解を深める。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中に口頭で受け付けるほか、リアクションペーパーで受け付ける。毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。
- ・上記のほか、質問や相談は随時メール等で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	学期末に実施する。講義内容を踏まえ、地方自治に関する知識の理解度、論理性を評価する。
リアクションペーパー	40	各回の終了時に提出を課す。授業に対する積極性、問題を発見する力を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	自治・分権と地域行政	芦書房	2020	

参考書・参考資料等

- ①磯崎初仁、金井利之、伊藤正次『ホーンブック地方自治 [第3版]』(北樹出版、2014年)
- ②新藤宗幸・阿部斎『概説 日本の地方自治』(東京大学出版会、2006年)

受講生に望むこと

授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問すること。

その他・特記事項

特になし。

民法概論

更新日：2023/01/10 08:52:35

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバースト	G2130A	科目コード	G2130
担当教員	後藤 泰一						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

法律(民法)用語の一つ一つが重要であることを認識して頂きたい。

授業の概要

この授業では、先ず、民法を学ぶ前に"法学の基礎"を固め、次に所有権(物権)・契約・不法行為(財産法と称する分野)を一通り学び"民法の基礎"を固める。契約が有効に成立するには、一人前の取引能力を有すること、真意が相手に正しく伝わっていること、契約内容が適法性・社会的妥当性を有することが要求されるが、これを代理や時効とともに学ぶ。そして、その契約を通して不動産や動産の所有権を他人に移転しうが、その所有権の有する支配権という強力な権能から生ずる様々な問題のほか、交通事故・公害・欠陥商品など身近に起きる不法行為と損害賠償に関する問題も学ぶ。

到達目標

1	①民法の基礎的な概念及び用語を習得する。
2	②条文を正確に読み解く力を養う。
3	③身近に生ずる問題解決のための法的思考と法的素養を身につける。

教授方法

基本的には講義形式であるが、随時「質疑応答」もありうる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	民法を学ぶ前に(その1)：法と社会規範、道徳との関係、法はどこにあるか、法の目的
2	民法を学ぶ前に(その2)：法律関係、権利と義務、権利の分類、権利の実現ほか
3	民法とは何か、民法典について、財産法の3原則、条文(六法)の読み方
4	民法上の権利の主体、契約を有効に成立させるには？ 権利能力と意思能力
5	制限行為能力、未成年者・成年被後見人・被保佐人ほか、死亡と失踪宣告
6	法人のあらまし、代理制度・表見代理と無権代理
7	無効・取消し・解除、錯誤・虚偽表示・心裡留保
8	物権的請求権、占有権、所有権の取得時効(合わせて債権の消滅時効も)
9	不動産売買と登記(対抗問題と背信的悪意者排除論)、動産売買と即時取得
10	所有権の制限、利用による場合(地上権・賃借権)、担保による場合(抵当権・譲渡担保)
11	相隣関係、建物区分所有、共有(遺産の共有とは？)
12	不法行為と損害賠償、過失責任・無過失責任・中間責任、不法行為が成立するには？
13	人格権の侵害、交通事故、公害(四大公害訴訟)ほか
14	欠陥商品と消費者保護、共同不法行為、全体のまとめ

授業外における学習

- ①新聞やテレビ等で報道される"法的問題ないし民法上の問題"を自分で考えてみる。
- ②参考書として紹介する書物を利用・活用し、民法を幅広く学習するよう努める。

質問や相談への対応

質問・相談等は授業前の昼休み時間に受け付ける(2階の非常勤講師控室)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

定期試験	100	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし(授業では配布資料を使用する)。ただし、六法は必携とする(『ポケット六法』(有斐閣)をあげておく)。			
	授業中に随時紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業中の携帯電話・スマートフォン等は使用厳禁。法律の授業なので六法を忘れないように。

その他・特記事項

私たちは(嫌だと言っても)法の中で暮らしているという現実をいつも意識・自覚しておいて欲しい。

キュレーター概論

更新日：2023/01/10 08:52:35

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G2140A	科目コード	G2140
担当教員	秋葉 芳江						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

価値創出、イノベーション、クリエイティビティ、バックキャスト、視座・視点・視野・俯瞰、SDGs、ダイバーシティ、パラダイムシフト、DX、感性と理性、問いをたてる力

授業の概要

キュレーターは、無数の情報の海の中から自分の価値観や世界観に基づいて情報を拾い出し、新たな価値や意味を付与し多くの人々とそれらを共有する人材である。

本講義では、他者基準ではなく、自らの基準で、自らの力で価値を発見または創出する力を実践的に身につける。

各回の詳細は、授業計画を参照。

(隔週開講、2コマ連続。開講日に注意)

講義形式：対面講義を基本。状況によってオンラインにせざるを得ない場合は、同時双方向型（リアルタイムオンライン形式。通信環境の不測事態時は部分的オンデマンド代替）。

到達目標

1	・視点を定める、視野を広げる、異なる視座を持つ、俯瞰すること、クリエイティビティを理解し、感性を磨き、その他キュレーターの主要なふるまいを知り、実践できるようになる。最低限でも意識できるようになる。
2	・自身の価値観を問い直すことができるようになる。
3	・最終課題（最終の提出物）において、講義で理解し得たことを踏まえ、自分なりの新しい価値を創出し提案する。新しい価値を生み出す力は、21世紀を生き抜く力として必須である。
4	・DX時代を迎え新しい知的コミュニケーションスキルの習得、コラボレーションマインドセットの習得も目標とする。

教授方法

レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。また、毎回の履修生フィードバックを活用し、毎週講義冒頭で、前回講義からのステップアップレクチャー&ディスカッションを可能な限り行う。対面講義でもオンラインツール（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）を多用し集合知の学びを促進する。

討論(オンラインの場合はzoomブレイクアウト機能)を多用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。ただし、アントレプレナーシップ論（GM必修）履修済を前提としている。三年次のソーシャルビジネス・プランニングⅠ～Ⅳの履修希望者は本講義の履修を強く推奨する。

授業計画

1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。本講義で使用する言葉の説明。（9/28：3限）
2	“価値”を発見、創出するとは。なぜ価値が重要であるのか。新しい価値とは何なのか。ブルーオーシャン戦略も手がかりにする。（9/28：4限）
3	データに基づき理解する。各種ツールも活用し現代をデータに基づき理解する。（10/12：3限）
4	感性に基づき未来を発想する。未来から“バックキャスト”する思考方法を理解する。未来と自分自身を結節するとはどういうことか。未来構想力を強化する。（10/12：4限）
5	多様な事例から価値創出を理解する。ケーススタディと討論で実践的に理解する。（10/26：3限）
6	価値創出実践。講義中に紹介する方法によって自ら新しい価値創出に挑戦する。中間まとめ課題提示。（10/26：4限）
7	SDGs、ダイバーシティ、インクルージョンを知り、アイデアに活かす。各自の中間まとめ課題を利用した価値創出を行う。（11/9：3限）
8	“場と空間”が持つ力を理解する。様々なケースにおいて、もたらされる効用を理解する。効用ある空間の探索を実践する。（11/9：4限）
9	“問う力”を理解する。異なる視点、視野、視座による相対化を理解する。物事を“俯瞰”することをワークも通じて実践的に理解する。（11/30：3限）
10	“問いをたてる力”について理解する。あたり前を疑い現存する価値を“再定義”することを理解する。（11/30：4限）
11	“感性”、“直感”の有用性を理解する。感性や直感の磨き方、“平常心”の持ち方を実践的に理解する。自身にとっての多様性についても理解する。（12/14：3限）
12	パラダイムシフトと価値創出。最新の世界動向（例：DX、AI、IoT、Robotics、100年人生、等）を手掛かりに、価値の生み出し方を理解する。（12/14：4限）
13	自己更新と自己規範。現代に求められる人材像を具体的にイメージし、自己更新と自己規範をワークも通じて構築する。（1/11：3限）

14 まとめ＝社会環境が変わろうとも生き抜くために＝。 ＊最終課題提示（1/11：4限）

授業外における学習

事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索してくること。プレ宿題（事前学習成果）提出を課す場合がある。オンラインツールを用いた集合知による学びを実践する。講義時間外でもアクセス可能であり積極的に活用されたい。最終課題では、簡潔で論理的な文章での提出を求める。作文スキルに不安のある者は、中間まとめ課題の機会も活用し時間外学習にて研鑽して欲しい。CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する(平日夜間開催)。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。併せて、広く実社会での価値創出を知るために、ビジョナリーな企業の情報収集と探索を推奨する。

質問や相談への対応

メールは随時受け付ける。予約の上、オンラインまたは研究室にて対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
最終課題	30	講義内容を踏まえていること、提案する価値と講義内容とのつながりが明示されていること、および、自分なりの新しい価値提案を行っていること。(詳細、締切は第14講義時に提示)
中間まとめ課題	20	提出時点までの講義内容を踏まえていること。自分の考えが記載されていること。
平常の講義における各回成果物と参加	50	講義に対する積極的な参加姿勢。各回講義内容の理解度。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須推奨	指定なし			
	推奨書籍は以下。加えて講義の中で随時紹介する。 「サステナブル・カンパニー入門」大室悦賀著,学芸出版社,2016年 「ブルー・オーシャン戦略」W・チャン・キム,レネ・モボルニュ他著,ダイヤモンド社,2015年 「LIFE SHIFT」リンダ・グラットン他著,東洋経済新報社,2016年 「2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望」落合陽一著,SBクリエイティブ,2019年			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

講義には集中して臨んでもらいたい。講義では討論を多用する。積極的参加を臨む。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退出を指示することがある。講義中にオンラインで探索、フィードバック、ワークを求めるため、ノートPCを各自持参し参加することを強く推奨する(困難な学生は事前に教務に相談)。

その他・特記事項

民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。本学での、ソーシャル・イノベーション創出センター運営経験もふまえ、実践的な講義を行う。

長野県の経済と産業

更新日：2023/01/10 08:52:36

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G2150A	科目コード	G2150
担当教員	藤巻 雄司						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

長野県経済・産業の特徴
長野県の企業が抱える課題とその対応策

授業の概要

現在、急激な人口減少や高齢化が進む中で「地方消滅」がさげばれており、いかに持続可能な地域経済を考えていくかが課題となっている。本講義では、長野県の経済と産業に焦点を当て、地域経済の現状や課題がどのようになっているのか、個別の企業の実態にも焦点を当てつつ解説していく。そして、持続可能な地域経済のあり方、それを支える政策のあり方等について、自らが地域経済の支援者となった時に何が出来るのかを考える。さらに、経営コンサルタントとしての経験を活かし、個別の企業に対する基本的な経営支援の手法についても講義の中に織り交ぜて解説する。

到達目標

1	①地域経済に関する基本的な考え方を身につけている。
2	②長野県の経済の概況を理解できている。
3	③個別の産業・企業の概況について理解できている。
4	④個別の産業・企業に対する基本的な経営支援の手法について理解できている。

教授方法

講義や演習を織り交ぜた形式とし、できるだけディスカッションを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	講義の目的説明
2	地域経済をめぐる現状①
3	地域経済をめぐる現状②
4	地域経済の分析①
5	地域経済の分析②
6	地域経済の分析③
7	事例分析：長野県経済の概況①
8	事例分析：長野県経済の概況②
9	事例分析：長野県経済の概況③
10	事例分析：個別産業の概況①
11	事例分析：個別産業の概況②
12	事例分析：個別産業の概況③
13	市町村経済の概況
14	講義のまとめ

授業外における学習

地域経済を把握するためのデータを自分で収集する。
講義で学んだ内容を現地で確認するなどして理解を深める。

質問や相談への対応

講義中や講義の前後で受ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準

レポート	70	講義の内容から課題を抽出し対応策を考察できるか
上記以外	30	授業中のディスカッションの内容など
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	長野県の経済と産業に関連したテキストを指定する。			
	新聞記事、統計データなど			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

長野県の経済や産業の発展に興味を持ち、自分として何が出来るのか考えてほしい。

その他・特記事項

コンサルタントとして関わってきた経験から、現場の実態に則した講義が中心となる。

組織行動論

更新日：2023/01/10 08:52:37

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G2160A	科目コード	G2160
担当教員	東 俊之						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

モチベーション、組織コミットメント、キャリア、組織学習、組織変革

授業の概要

この科目では、組織の中で働く人間を理解し、人間の行動を理論的にとらえ、組織目的の達成に有効な知識や考え方を学ぶ。授業では、モチベーション、コミットメント、キャリア・マネジメント、チーム・マネジメント、リーダーシップ、組織学習、組織変革など組織と人間が関わる様々な論点を取り上げる。特にオンライン（対面はもちろん）ではライブ講義に加えて課題や事例についてのグループ討議を多く取り入れ、出来るだけ受講生が主体的かつ双方向的に学べるものとする。

到達目標

1	人は家族、学校、企業などの組織に所属し多くの人たちと関わり活動している。組織行動とは「組織における人間行動」のことであり、そうした人間行動を対象にしている。組織行動論の学びを通して、企業など組織の人間行動を理解することができるようになること、さらに、組織の問題や課題への対応力を高め、組織活動や協働などに活用できるようになることを、目標としている。
---	--

教授方法

★本授業は「ハイブリッド型」の授業で実施します。すなわち、教室での対面授業とZoomでのオンライン授業を同時に実施する方法で行います。○毎回、組織行動論に関する様々なテーマについて、基本的にPowerPointを中心に、一部板書（オンラインの場合は板書を画面共有する）を併用しながら授業を行ないます。また、多くの授業回でショートケースを用いながら説明を行いますが、その際、皆さんの「所属する組織」を具体的にイメージしながら理論を考察する機会を持ちます。くわえて、事例分析やグループ活動なども適時実施します。さらに数回小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に履修条件は設けませんが、「経営学入門」「経営組織論」を履修していることが望ましいです。

授業計画

1	【ガイダンス（イントロダクション）】：本科目の全体像を説明し、「組織行動論」の全体像を説明します。特に、「組織行動論」が皆さんにとって、生活にも強く関連する分野であることを考えます。
2	【組織と人間の関わり】：経営管理と組織、組織における人間観、個人と集団などを学びます。特に、簡単なアクティビティを行いながら、組織における人間観を学びます。
3	【モチベーション(1)】：モチベーションとは何かを学習し、特に何によって動機づけされるかを探る内容理論を検討します。欲求階層説、動機づけ理論、内発的動機づけ理論などを勉強します。
4	【モチベーション(2)】：モチベーションのもう一つの視点である過程理論を学習します。特に期待理論や職務特性理論の深く学び、さらに人事制度とモチベーションの関係を考察します。
5	【組織コミットメント】：組織と個人との関係を組織コミットメントという視点で考えます。そのうえで、日本企業の組織コミットメントの特徴やその功罪を深く検討します。
6	【キャリア・マネジメント】：個人でも自身のキャリアを開発することが求められるようになってきています。そこで、企業におけるキャリア・モデルやキャリア・マネジメントを学びます。
7	【組織市民行動】：組織の中で行動する際には、自身の役割以外の行動が求められることがあります。その役割外行動の一種である「組織市民行動」について、詳しく学習します。
8	【チーム・マネジメント】：多くの企業では、小規模なチーム単位で日々の活動を行うことが一般的です。そこで、チームとしてより良い成果をあげるためのマネジメント方法を検討します。
9	【リーダーシップ】：リーダーとリーダーシップ、リーダーシップ研究、フォロワーなどの用語を検討し、リーダーシップを自分事に考えられるように事例を通じて学習します。
10	【組織学習】：組織学習の考え方、アンラーニング、組織学習のサイクル、ダブルループ学習、拡張学習などをキーワードに、組織で個人が学習することに特に注目して検討します。
11	【組織変革】：組織変革論の中でも、特に組織変革への抵抗、組織変革エージェントとサポート、組織開発論など、組織変革と個人との関係を中心に学習します。
12	【組織的公正】：近年、組織行動論の中で重要なテーマになってきている「組織的公正」について検討します。特に具体的な企業の事例を検討しながら、組織的公正の現状と課題を考えます。
13	【組織社会化】：現在の組織から新しい組織への移行する際に、「組織社会化」することが必ず起こります。この組織社会化とは何かを考え、その必要性と問題点を考察します。

14	【まとめと総合学習】：これまで学んできたことを振り返るとともに、ダイバーシティ・マネジメントやプロフェッショナル・マネジメントなど最近注目されている概念を具体的な事例を皆さんと検討します。
----	--

授業外における学習

毎回授業の終わりに「課題」を提示します。これは提出を求めるものではなく、次回授業の予習になるものです。グループ討議を行う際には、事前に調査しておかないと、活発な議論ができません。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。

質問や相談への対応

オフィスアワーとして設定しますので、その時間に研究室に来ていただいても構いませんし、Zoomのミーティングを開設しますので、そちらに参加いただいても構いません。それ以外の時間でも可能な限り対応しますが、あらかじめアポイントメールをお送りください（時間の調整をします）。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。

※なお、オフィスアワーの曜日・時限については、授業の初回で案内します。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末試験	40%	期末試験は、論述問題を出題します。これまで学んできたことを総合的に考える問題を出題します。評価は、①授業内容の理解度と②自身の意見が論理的なことを採点します。
レポート	30%	レポート課題（20点）と小レポート（5点×2回＝10点）。詳細は第1回授業時に説明します。その際、別途採点基準を示します。
小テスト	20%	小テスト（5点×4回程度＝20点）。前回および当日の授業内容が理解できているかの確認のために実施します。穴埋問題を中心に出題します。実施日時については、第1回授業時に詳細を説明します。
上記以外の授業評価	10%	グループ討議の発言や授業内での活動、フィードバックシートの記述などを総合的に評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	開本浩矢編著『組織行動論（ベーシック+）』中央経済社, 2019年（本体2,400円＋税）			
	S.P. ロビンス著（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社, 2009年 鈴木竜太・服部泰宏『組織行動：組織の中の人間行動を探る』有斐閣, 2019年 服部泰宏『組織行動論の考え方・使い方』有斐閣, 2020年			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

組織における個人の行動は、特別なものではありません。日々の組織のなかで、自身の行動を振り返りながら、本授業を受講してください。また、なるべく企業の組織活動についてのニュースを意識的に収集するように努めてほしいです。

その他・特記事項

★「ハイブリッド型」で授業を実施します。オンラインでも対面でも、有利不利がないように努めます。

★授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。ただし、授業時にもスライドを印刷したものを配付しますので必ずしも印刷する必要はありません。

★欠席された際はなるべく早めに担当教員にアポイントをとり、指示を仰ぐようにしてください（次回授業についていけなくなる場合があります）。

グローバル・ビジネス

更新日：2023/01/10 08:52:38

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	G2170A	科目コード	G2170
担当教員	宮下 清						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

国際経営、多国籍企業、海外直接投資、地域統括組織、海外拠点、グローバル人材

授業の概要

この授業ではグローバルビジネスすなわち海外事業を行う企業の国際経営について、その意味や歴史、理論と組織、戦略とマネジメントなどを学んでいく。国際経営、グローバルビジネスやグローバルマネジメントは広くは同義であり、多国籍企業を中心とする国際企業の戦略、組織、海外子会社経営、海外マーケティング、海外生産、研究開発、海外人事などが含まれる。オンラインまた対面講義において講義と課題や事例のグループ討議（質疑、フィードバックを含む）を通して主体的かつ双方向的な学びを目指す。

担当教員は国際企業において海外子会社管理、販売管理、マーケティング、商品企画、人事教育の実務経験を有しており、説明や事例でそれらの実務経験を活用する。

到達目標

1	グローバルビジネス、国際経営の専門知識を修得し、グローバル人材としての力を高めること。現在はあらゆる分野でグローバルな知識や考え方が求められており、国際化・グローバル化への対応力を高め、社会生活に活用できることも目指す。
---	--

教授方法

講義に演習的な授業形態を加え、課題・事例研究、グループ討議、発表・質疑等により双方向の授業とする。テキストの学習と講義で知識・概念を、共同学習やグループ討議から多面的で実践的な学びを実現したい。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経営学入門を履修していること。

授業計画

1	グローバルビジネスとは：グローバルビジネスと国際経営、国際経営の難しさ、海外進出の理由
2	海外直接投資の理論：日本企業の海外直接投資、企業の優位性、内部化理論、OLIパラダイム
3	多国籍企業の歴史：多国籍企業の変遷、英米企業の隆盛、日本企業と日本的経営、新興国企業の台頭
4	多国籍企業の組織：組織デザイン、戦略と組織、製品事業部と地域事業部、グリッド組織・マトリックス組織
5	トランスナショナル経営：グローバル統合、ローカル適応、国際経営のタイプ、国際経営と組織
6	海外子会社の経営：海外子会社とは、海外子会社の設立、海外子会社の役割、海外子会社の成長
7	国際経営の総合事例(1)：国際経営・グローバルビジネスの事例から考える、話し合う、理解する
8	国際マーケティング：国際マーケティングと国内マーケティング、国際マーケティングのプロセス
9	海外生産拠点と展開：ものづくりとは、海外生産拠点の設立と育成、国際生産ネットワーク
10	研究開発の国際化：企業の研究開発と国際化、国際研究開発の必要性、海外研究開発拠点の設置と経営
11	国際人材マネジメント：企業の国際化とグローバル人材、国際人的資源管理、海外駐在員のマネジメント
12	国際パートナーシップ：国際パートナーシップ（国際的企業間連携）とは、国際パートナーシップ・モデルと形態
13	国際化への課題：未熟な国際化、オープンイノベーション、多国籍企業のCSR
14	国際経営の総合事例(2)：国際経営・グローバルビジネスの事例から考える、話し合う、理解する

授業外における学習

シラバスに基づき、テキストや配布資料を「事前学習」として理解しやすい。授業後に学習した内容を自分で再考する「事後学習」を行うと理解が深まる。これらの事前・事後学習は、課題レポートや期末試験の準備につながる。

質問や相談への対応

授業中のチャット等での質問にはできるだけ授業中に答える。また授業後にも質問を受け、随時メールでも対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	授業内容の理解度の全体的な評価
課題レポート	20	中間課題など提出レポートの評価
上記以外の授業評価	20	授業中の積極的な参加（提出、質疑、発表、討議）による評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中川功一ほか(2015)『はじめての国際経営』有斐閣.			
	吉原英樹(2013)「ケースに学ぶ国際経営」有斐閣.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分の体験やニュースからグローバルビジネス・国際経営の情報を常に取り入れ、考えてほしい

その他・特記事項

自分の体験やニュースからグローバルビジネス・国際経営の情報を常に取り入れ、考えることで、さらに興味深い学びとなる。
担当教員は国際企業で海外版社管理、マーケティング、商品企画、人事教育などの実務経験がある。

経営統計学入門（2021年度以前入学者対象）

更新日：2023/01/10 08:53:26

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	G2180A	科目コード	G2180
担当教員	鶴田 靖人						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

統計学、記述統計量、回帰分析、標本抽出、統計的推測

授業の概要

統計学とは、①データの扱い方、②データから正しい値を推測する方法を研究する学問である。

経営の世界では、品質管理やマーケティングなどの分野で統計スキルを用いている。その理由は、データという客観的な数値を活用することで、課題の把握、将来の予測、効果の検証などを正確に行えるからである。

また、「データは21世紀の石油である」という言葉もあるようにデータをうまく活用することで新たな価値を生むことができるとされている。

この授業ではデータから必要な情報を得るための様々な統計手法や統計的思考を学ぶ。

到達目標

1	ばらばらな数の集まりであるデータが持つ特徴を記述統計量と呼ばれる指標を用いて要約し、データの特徴を説明できる。
2	確率の考え方をを使って、データ全体（母集団）から一部（標本）をランダムに抽出する標本調査の仕組みを説明できる。
3	標本から母集団の性質を推測する統計的推論（推定、検定）を正しく使用し、自分が立てた仮説の妥当性を検証できる。
4	相関関係を理解し、回帰分析手法を身に付けることで、複数のデータの関係性を明らかにできる。

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式で行います。演習は計算問題を解きます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション、データの視覚化統計学とは、どのような学問であるかを学ぶ。授業の進め方について理解する。ヒストグラムを用いたデータの視覚化の方法を学ぶ。
2	データが持つ特定の性質を数量的に表現する方法を学ぶ（1）キーワード：代表値、平均
3	データが持つ特定の性質を数量的に表現する方法を学ぶ（2）キーワード：散らばりの尺度、分散、標準化、変動係数
4	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（1）相関関係、相関係数
5	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（2）キーワード：回帰関係、回帰分析、最小二乗法
6	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（3）キーワード：回帰分析、決定係数
7	統計的推論の基礎である確率の考え方や基本的な確率の概念を学ぶ（1）キーワード：確率変数、確率分布、期待値、二項分布
8	統計的推論の基礎である確率の考え方や基本的な確率の概念を学ぶ（2）キーワード：正規分布
9	標本（サンプル）から計算された値の確率的なふるまいを学ぶ（1）キーワード：母集団、標本、無作為抽出、大数の法則、中心極限定理
10	標本（サンプル）から計算された値の確率的なふるまいを学ぶ（2）キーワード：標本分布、t分布
11	母集団の特徴を表す値を推測する方法を学ぶ（1）キーワード：統計的推論、比率の区間推定、点推定
12	母集団の特徴を表す値を推測する方法を学ぶ（2）キーワード：平均の区間推定
13	標本を観察した結果とつきあわせて、仮説が正しいかどうかを調べる方法を学ぶ（1）キーワード：仮説検定、有意水準、比率の検定
14	標本を観察した結果とつきあわせて、仮説が正しいかどうかを調べる方法を学ぶ（2）キーワード：平均の検定

授業外における学習

毎回、指定された課題に取り組んでください。

教科書を参考に授業の復習をしてください。前回までの授業内容を理解している前提で授業を行います。

質問や相談への対応

質問は、基本的にメールで受け付けます。

アドレス：tsuruta.yasuhito@u-nagano.ac.jp

オフィスパワーを設定します（日時は授業で説明）。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	基礎知識の理解度に応じて評価する
課題	30	授業の理解度に応じて評価する
上記以外の授業評価	20	リアクションシート（正誤問題を含む）に応じて評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	宮川公男著『基本統計学 第4版』有斐閣、2015年.			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回、電卓（四則演算、%、平方根の計算ができるもの）を持参してください。
主体的に演習や課題に取り組むことを期待しています。

その他・特記事項

高度な数学の知識を理解している必要はありません。電卓を使用して四則演算や平方根の計算を行える能力が必要です。

Comprehensive English I (G4)

更新日：2023/01/10 08:55:04

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050D	科目コード	L1050
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。
4	・明瞭な発音で英文を音読できる。

教授方法

テキストを読み、構文や段落の構成を解説していきます。また、テキストの練習問題を通じて作文の基礎を学び、文法事項と音声に関する基礎をしっかりと振り返ることで英作文と音読の力を高め、1段落の英文を書き、発表のスピーチを行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	Core Reading, 文法と英語音声の基礎の確認 (1)
2	Lesson 1による総合演習, 文法と英語音声の基礎の確認 (2)
3	Lesson 2による総合演習, 文法と英語音声の基礎の確認 (3)
4	Lesson 3による総合演習, パラグラフライティング演習 (1)
5	Lesson 4による総合演習, 文法と英語音声の基礎の確認 (4)
6	Lesson 5による総合演習, パラグラフライティング演習 (2)
7	Lesson 6による総合演習, 文法と英語音声の基礎の確認 (5)
8	Lesson 7による総合演習, パラグラフライティング演習 (3)
9	Lesson 8による総合演習, 文法と英語音声の演習 (1)
10	Lesson 9による総合演習, 文法と英語音声の演習 (2)
11	Lesson 10による総合演習, 1分間スピーチ (1)
12	Lesson 11による総合演習, 1分間スピーチ (2)
13	Lesson 12による総合演習, 1分間スピーチ (3)
14	Lesson 15による総合演習, 1分間スピーチ (4)

授業外における学習

予習・復習、小テストの準備や課題を必ず行い、e-learningにもしっかりと取り組んでください。また、授業外のリスニングをたくさん行って下さい。

質問や相談への対応

質問や相談は授業の時でも受けますし、e-mailでも、アポイントを取ってもらってZoomで行うことも出来ます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

定期試験（筆記）	60	期末試験の点数
発表課題	20	1分間スピーチの原稿と発表の出来栄え(各10%)
録音課題	10	テキスト英文の録音課題
上記以外の授業評価	10	e-learning
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	It's My Life 『納得できる人生を目指して』 (朝日出版社)			
	『ロイヤル英文法』 改定新版 (旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

インターネットで英語の記事をたくさん読み、英語の動画をたくさん見てください。

その他・特記事項

特になし

Comprehensive English I (G5)

更新日：2023/03/09 13:41:48

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050E	科目コード	L1050
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 1 & Unit 2
3	Unit 3
4	Unit 4
5	Unit 5
6	Unit 6
7	Unit 7
8	Unit 8
9	Unit 9
10	Unit 10
11	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
12	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
13	英語スピーチ
14	確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

授業への取り組み	30	授業への参加度
確認テスト	30	確認テストの成績
英語スピーチ	30	英語スピーチの成績
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Reader's Ark Basic』金星堂			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』(旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Comprehensive English I (G6)

更新日：2023/01/10 08:55:06

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050F	科目コード	L1050
担当教員	高梨 良夫						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語 4 技能、レーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

Reading, Listening 中心のNHK Newline 5 と文法・作文中心のCollege Grammar Pathfinder の2種類のテキスト使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語の発音に慣れ、発音の基礎を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	Introduction amid Coronavirus (前半)	①NHK Newline 5: Unit 1: Challenging of Teaching English
2	①Unit 1: 後半	②College Grammar Pathfinder, Unit 1: 英語の基本語順
3	Quarter 3 Core Reading: Willingness to Communicate	②Unit 2: 自動詞と他動詞
4	①Unit 2: Students Keeping Memory of Shuri Castle Alive (前半) ②Unit 3: 二重目的語:	
5	①Unit 2: 後半	②Unit 4: 補語
6	①Unit 3: A Bitter Taste for Healty Fish (前半)	②Unit 5: 疑問文
7	①Unit 3: 後半 6: 否定	②Unit
8	Self-introduction	
9	①Unit 4: Robots Luring Diners Back (前半)	②Unit 7: 現在形・現在進行形
10	①Unit 4: 後半	②Unit 8: 過去形
11	①Unit 5: Toilet Designs Aim to Flush Away Issues (前半)	②Unit 9: 完了形
12	①Unit 5: 後半	②Unit 10: will, be going to
13	①Unit 6: Teleworking Encourages Tokyo Exodus it 11: 助動詞	②Un
14	①Unit 6: 後半 ②Unit 12: 名詞	

授業外における学習

必ず予習をして授業に出席し、授業後は復習をする。

質問や相談への対応

いつでも応じますので、遠慮せずに授業後又はメールで質問、相談して下さい。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	40	授業全般の理解度を確認する問題を出題します。
授業参加	50	授業への出席・態度・積極的参加を評価します。
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Tatsuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, NHK Newslines 5 (金星堂) Yoshihiko Honda, Takehisa Tsuchiya, College Grammar Pathfinder (金星堂)			
	English Program for Global Mobility (2022 Student Handbook) 岩村圭南 『英語の正しい発音の仕方』 (基礎編、応用編) (研究社)			
	その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業への参加、予習、復習が基本です。毎時間が試験と思って、積極的な英語学習への取り組みを期待します。

その他・特記事項

Comprehensive English I (G7)

更新日：2023/01/10 08:55:07

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050G	科目コード	L1050
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション
2	自己紹介
3	性格についての作文
4	パラグラフの書き方 単語学習1
5	持ち物について話す Reading1
6	住む町についての作文
7	道案内をする 単語学習2
8	Unit1～3復習
9	イベントの計画 Reading 2
10	人助けをしたことについての作文
11	問題解決について話す
12	Unit4～6復習
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。
授業レポート	30	授業で課された宿題の提出。

小テスト	10	授業での発表。
上記以外の授業評価	10	e-learning (10)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	EVOLVE3 ケンブリッジ大学 出版			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Academic English Communication I (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:08

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060A	科目コード	L1060
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write topic sentences, supporting sentences for an outline,
3	write a 2-paragraph paper,
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1 (The effects of advertising), What is discussion? assignment explained
2	Unit 1 (The effects of advertising) readings + discussion preparation, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1 (The effects of advertising) readings + discussion preparation, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1 (The effects of advertising) discussions + Writing unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3 (Our aging population) readings and discussion preparation + Writing Unit
7	Unit 3 (Our aging population) readings and discussion preparation + Writing Unit
8	Unit 3 (Our aging population) discussions
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4 (Robots in the Home) readings and discussion preparation + Writing Unit
13	Unit 4 (Robots in the Home) readings and discussion preparation
14	Unit 4 (Robots in the Home) discussions

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

discussion	40%	recorded group discussions
writing	40%	write a 2-paragraph paper, Core Reading assignments and other assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (G2)

更新日：2023/01/10 08:55:09

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060B	科目コード	L1060
担当教員	Cheryl Kirchoff						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a 2-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write topic sentences, supporting sentences for an outline,
3	write a 2-paragraph paper,
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

Speaking	35	recorded group discussions
Writing	45	write a 2-paragraph paper, Core Reading assignments and other assignments
Reading	10	Fluency reading
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (G3)

更新日：2023/01/10 08:55:10

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060C	科目コード	L1060
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write topic sentences, supporting sentences for an outline,
3	write a 2-paragraph paper,
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

speaking	35%	recorded group discussions
writing	45%	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (G4)

更新日：2023/01/10 08:55:10

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060D	科目コード	L1060
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write topic sentences, supporting sentences for an outline,
3	write a 2-paragraph paper,
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

speaking	35%	recorded group discussions
writing	45%	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (G5)

更新日：2023/01/10 08:55:12

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060E	科目コード	L1060
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write topic sentences, supporting sentences for an outline,
3	write a 2-paragraph paper,
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

speaking	35%	recorded group discussions
writing	45%	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (G6)

更新日：2023/01/10 08:55:13

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060F	科目コード	L1060
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write topic sentences, supporting sentences for an outline,
3	write a 2-paragraph paper,
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1 (The effects of advertising), What is discussion? assignment explained
2	Unit 1 (The effects of advertising) readings + discussion preparation, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1 (The effects of advertising) readings + discussion preparation, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1 (The effects of advertising) discussions + Writing unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3 (Our aging population) readings and discussion preparation + Writing Unit
7	Unit 3 (Our aging population) readings and discussion preparation + Writing Unit
8	Unit 3 (Our aging population) discussions
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4 (Robots in the Home) readings and discussion preparation + Writing Unit
13	Unit 4 (Robots in the Home) readings and discussion preparation
14	Unit 4 (Robots in the Home) discussions

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

discussion	40%	recorded group discussions
writing	40%	write a 2-paragraph paper, Core Reading assignments and other assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (G7)

更新日：2023/01/10 08:55:13

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060G	科目コード	L1060
担当教員	Keff Kenner						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a 2-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support, and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write topic sentences, supporting sentences for an outline,
3	write a 2-paragraph paper,
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

Speaking	35%	recorded group discussions
Writing	45%	write a 2-paragraph paper, Core Reading assignments and other assignments
Reading	10%	fluency reading
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Comprehensive English II (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:14

開講年度	2022	学期	4期	シラバ スコード	L1070A	科目コード	L1070
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで、自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについての英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。
4	・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの力を更にレベルアップしてもらう。

教授方法

授業は演習形式で、授業の前半は、テキストやプリントを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Textbook Unit 10 と 「英国女性の足跡」の記事の講読（内容確認）
2	Textbook Unit 11 と 「英国女性の足跡」の記事の内容についての英語によるディスカッション
3	Textbook Unit 12 と 「現代英国女性の開放度」の記事の講読（内容確認）
4	Textbook Unit 13 と 「現代英国女性の開放度」の記事の内容についての英語によるディスカッション
5	Textbook Unit 14 と 英国王室についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
6	英国王室の記事の内容についての英語によるディスカッションと英国の王室と日本の皇室を英語で比較する。
7	英国の主なフェスティバルの記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
8	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 1
9	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 2
10	英国のクリスマスの記事の講読（内容確認）
11	英国のクリスマスの記事の内容についての英語によるディスカッション
12	英国のEU離脱についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
13	英国のEU離脱についての記事の内容についての英語によるディスカッション
14	総括

授業外における学習

毎回、教員から授業中に与えられた課題にしっかり取り組むこと。

予習を十分してから授業に臨むこと。

授業後も復習を最低1時間はすること。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な目標を十分に達成している。【B】基本的な目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	35%	提出物によって評価する。
英語によるプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。
テスト	25%	筆記試験によって評価する。
上記以外の授業評価	10%	e-learning 10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・ Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2			
	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

受講生の積極的な授業参加を期待する。
 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
 予習、復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、忌引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。

Comprehensive English II (G2)

更新日：2023/01/10 08:55:15

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070B	科目コード	L1070
担当教員	高梨 良夫						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英文でまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

Reading, Listening 中心の Exploring Hidden Culture と Syntax, Writing 中心の Basic Skills in English の2種類のテキスト使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercices などに取り組んでもらう。また英語の発音に慣れ、発音の基礎を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	①, Exploring Hidden Culture, Part 2 Cultural Snapshots 7: Deveirsity (前半) ②Chapter 13: 副詞句 (3)、分詞構文、部分否定
2	① 後半 ②Chapter 14: 句と節、等位接続詞、等位節、相関接続詞
3	Quarter 4 Core Reading: Commuication with People of Other Cultures ②Chapter 15: 主節と従節、単文・重文・複文、名詞節 (1)
4	①8: Appearances (前半) ②Chapter 16: 名詞節 (2)、形式主語・形式目的語の it と that 節
5	① 後半 ②Chapter 17: 時制の一致、直接話法と間接話法
6	①Part 3 Changing Values 14: The New Family (前半) ②Chapter 18: 関係代名詞、関係副詞
7	① 後半 非制限用法、as、but、関係形容詞 ②Chapter 19: 前置詞+関係代名詞、関係詞の省略、制限用法と
8	①15: The New Student (前半) ②Chapter 20: 時、場所、理由・原因を表す節
9	① 後半 ②Chapter 21: 比較、比例、対照を表す節
10	①16: The New Worker (前半) ②Chapter 22: 様態、譲歩を表す節
11	① 後半 ②Chapter 23: 目的、結果を表す節
12	①総復習 ②条件・仮定を表す節
13	Essay Writing (1)
14	Essay Writing (2)

授業外における学習

毎回必ず予習をして授業に出席し、授業後は復習をする。

質問や相談への対応

いつでも応じますので、遠慮せずに授業後又はメールで質問、相談して下さい。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	40	授業内容全般の理解度を確認する問題を出題します。
授業参加	50	授業への出席・態度・積極的参加を評価します。
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Paul Stapleton, Exploring Hidden Cultures (金星堂) Kenichi Tamoto, Simon Sanada, Basic Skills in English (成美堂)			
	English Program for Global Mobility (2022 Student Handbook) 岩村圭南 『英語の正しい発音の仕方』 (基礎編、応用編) (研究社) その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業への参加、予習、復習が基本です。毎時間が試験とあって、積極的な英語学習への取り組みを期待します。

その他・特記事項

Comprehensive English II (G3)

更新日：2023/03/09 13:42:50

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070C	科目コード	L1070
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英文でまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 11
3	Unit 12
4	Unit 13
5	Unit 14
6	Unit 15
7	Unit 16
8	Unit 17
9	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
10	英語スピーチの計画と練習
11	英語スピーチ
12	英語スピーチ
13	英語スピーチ
14	確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	30	授業への参加度
確認テスト	30	確認テストの成績
英語スピーチ	30	英語スピーチの成績
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Reader's Ark Basic』金星堂			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』(旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Comprehensive English II (G4)

更新日：2023/01/10 08:55:17

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070D	科目コード	L1070
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英文でまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。
4	・テキストで学んだ時事英語の用語や概念が理解できる。
5	・明瞭かつ自然な発音で英文を音読できる。

教授方法

ニュースの英文を読み、時事的な用語を学ぶことで、国際問題を扱う高度な文章を読む力を身につけます。また、ニュースを音読したりスピーチを行うことで英文を生き生きと読む力を身につけます。さらには、パラグラフライティングの基礎を学び、自分の意見を3~4段落の英文で書く練習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	Core Reading, Listening の様々な方法について
2	Chapter 1 による総合による総合演習, スピーチについて
3	Chapter 2 による総合演習, Chapter 1 語い小テスト、パラグラフライティング演習（1）
4	Chapter 3 による総合演習, Chapter 2 語い小テスト、パラグラフライティング演習（2）
5	Chapter 4 による総合演習, Chapter 3 語い小テスト、パラグラフライティング演習（3）
6	Chapter 5 による総合演習, Chapter 4 語い小テスト、パラグラフライティング演習（4）
7	Chapter 6 による総合演習, Chapter 5 語い小テスト、パラグラフライティング演習（5）
8	Chapter 7 による総合演習, Chapter 6 語い小テスト
9	Chapter 8 による総合演習, Chapter 7 語い小テスト
10	Chapter 8 による総合演習, Chapter 7 語い小テスト
11	Chapter 10 による総合演習, Chapter 9 語い小テスト、スピーチ（1）
12	Chapter 11 による総合演習, Chapter 10 語い小テスト、スピーチ（2）
13	Chapter 12 による総合演習, Chapter 11 語い小テスト、スピーチ（3）
14	Chapter 13 による総合演習, Chapter 12 語い小テスト、スピーチ（4）

授業外における学習

予習・復習、小テストの準備や課題を必ず行い、e-learning にもしっかりと取り組んでください。また、授業外のリスニングをたくさん行って下さい。

質問や相談への対応

質問や相談は授業の時でも受けますし、e-mail でも、アポイントを取ってもらって Zoom で行うことも出来ます。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	30	期末試験の点数
発表課題	30	スピーチ原稿20%、発表の出来栄え10%
録音課題	10	テキスト音声の録音課題
上記以外の授業評価	30	語いの小テストの合計20%, e-learning 10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	English for Mass Communication, 2022Edition 『時事英語の総合演習—2022年度版—』 (朝日出版社)			
	『ロイヤル英文法』改定新版 (旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

インターネットで英語の記事をたくさん読み、英語の動画をたくさん見てください。

その他・特記事項

特になし

Comprehensive English II (G5)

更新日：2023/03/09 13:43:05

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070E	科目コード	L1070
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英文でまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 11
3	Unit 12
4	Unit 13
5	Unit 14
6	Unit 15
7	Unit 16
8	Unit 17
9	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
10	英語スピーチの計画と練習
11	英語スピーチ
12	英語スピーチ
13	英語スピーチ
14	確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	30	授業への参加度
確認テスト	30	確認テストの成績
英語スピーチ	30	英語スピーチの成績
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Reader's Ark Basic』金星堂			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』(旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Comprehensive English II (G6)

更新日：2023/01/10 08:55:18

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070F	科目コード	L1070
担当教員	高梨 良夫						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英文でまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

Reading, Listening 中心のNHK Newslines 5 と文法・作文中心のCollege Grammar Pathfinder の2種類のテキスト使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語の発音に慣れ、発音の基礎を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	①NHK Newslines 5 Unit 7: Learning to Love Rural Japan (前半) ②Pathfinder Unit 13: 形容詞と副詞 (1)	
2	①Unit 7: 後半 容詞と副詞 (2)	②Unit 14: 形
3	①Unit 8: Advocate for Abduction Issue Remembered (前半) ②Unit 15:	
4	①Unit 8: 後半	②Unit 16: 前置詞 (1)
5	①Unit 9: Clay Artist in Touch with Tradition (前半)	②Unit 17: 前置詞 (2)
6	①Unit 9: 後半	②Unit 18: 比較
7	①Unit 10: Space Development Board Game (前半)	②Unit 19: 受動態と能動態
8	①Unit 10: 後半	②Unit 20: 接続詞
9	①Unit 11: Tatami Takes on New Shapes and Sizes (前半)	②Unit 21: 関係代名詞
10	①Unit 11: 後半	②Unit 22: 関係副詞
11	①Unit 12: A Runway to a New Start (前半)	②Unit 23: 語法
12	①Unit 12: 後半	②Unit 24: 仮定法
13	①Unit 13: Teaching About Black Lives Matter (前半)	②Essay Writing (1)
14	①Unit 13: 後半	②Essay Writing (2)

授業外における学習

毎回必ず予習をして授業に出席し、授業後は復習をする。

質問や相談への対応

いつでも応じますので、遠慮せずに授業後又はメールで質問、相談して下さい。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
期末試験	40	授業内容全般の理解度を確認する問題を出題します	
授業参加	50	授業への出席・態度・積極的参加を評価します。	
e-learning	10	e-learningの成績	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Tatsuroh Yamazaki, Syella M. Yamazaki, NHK Newslines 5 (金星堂) Yoshihiko Honda, Takehis Tsuchiya, College Grammar Pathfinder (金星堂)			
	English Program for Global Mobility (2022 Student Handbook) 岩村圭南 『英語の正しい発音の仕方』 (基礎編、応用編) (研究社)			
	その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業への参加、予習、復習が基本です。毎時間が試験と思って、積極的な英語学習への取り組みを期待します。

その他・特記事項

Comprehensive English II (G7)

更新日：2023/01/10 08:55:19

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070G	科目コード	L1070
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション Comprehensive English I の振り返り
2	音楽、TV番組について話す
3	映画についての作文
4	パラグラフからプレゼンテーションへ
5	時間の使い方について考える 単語学習3
6	大学の授業について話す
7	ビジネス文書を書く 単語学習4
8	Unit7～9 復習
9	様々な職業について話す
10	金銭感覚について考える
11	尊敬する人物についての作文
12	人生経験について話す Unit10～12 復習
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業で前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	授業で学んだ事柄を試験で確認
授業レポート	30	授業で課された宿題の提出

小テスト	10	授業での発表
上記以外の授業評価	10	e-learning (10)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	EVOLVE3 ケンブリッジ大学 出版			
	随時授業時に配布する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Academic English Communication II (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:21

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080A	科目コード	L1080
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write a 3-paragraph report supporting their opinions,
3	cite sources in a report
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation, practice discussion with new phrases
2	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
3	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
4	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
5	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) discussions
6	Writing Unit
7	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
8	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
9	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
10	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
11	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) discussions
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

discussion	40%	multiple recorded discussions with demonstration of appropriate discussion phrases and skills
writing	40%	a 3-paragraph report about an advertisement which cites sources, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (G2)

更新日：2023/01/10 08:55:22

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080B	科目コード	L1080
担当教員	Cheryl Kirchhoff						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write a 3-paragraph report supporting their opinions,
3	cite sources in a report
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

Speaking	35	discussion skills
Writing	45	a 3-paragraph report about an advertisement which cites sources, Core Reading assignments
Reading	10	Fluency reading
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (G3)

更新日：2023/01/10 08:55:23

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080C	科目コード	L1080
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write a 3-paragraph report supporting their opinions,
3	cite sources in a report
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit an essay, Outline assignment
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit Thesis Statements
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

speaking	35%	discussion skills
writing	45%	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (G4)

更新日：2023/01/10 08:55:24

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080D	科目コード	L1080
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write a 3-paragraph report supporting their opinions,
3	cite sources in a report
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit an essay, Outline assignment
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit Thesis Statements
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

speaking	35%	discussion skills
writing	45%	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (G5)

更新日：2023/01/10 08:55:24

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080E	科目コード	L1080
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write a 3-paragraph report supporting their opinions,
3	cite sources in a report
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit an essay, Outline assignment
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit Thesis Statements
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

speaking	35%	discussion skills
writing	45%	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (G6)

更新日：2023/01/10 08:55:25

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080F	科目コード	L1080
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics,
2	write a 3-paragraph report supporting their opinions,
3	cite sources in a report
4	continue fluency reading, and
5	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation, practice discussion with new phrases
2	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
3	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
4	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
5	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) discussions
6	Writing Unit
7	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
8	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
9	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
10	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
11	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) discussions
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

discussion	40%	multiple recorded discussions with demonstration of appropriate discussion phrases and skills
writing	40%	a 3-paragraph report about an advertisement which cites sources, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (G7)

更新日：2023/01/10 08:55:26

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080G	科目コード	L1080
担当教員	Keff Kenner						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3
4	cite sources in a report 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Speaking	35%	discussion skills
Writing	45%	a 3-paragraph report about an advertisement which cites sources, Core Reading assignments
Reading	10%	fluency reading
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Comprehensive English III (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:45

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090A	科目コード	L1090
担当教員	前田 文						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。

教授方法

演習を中心とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンスおよび今後の課題の準備
2	課題1およびプレゼンテーション準備
3	課題2およびプレゼンテーション準備
4	課題3およびプレゼンテーション準備
5	課題4およびプレゼンテーション準備
6	課題5およびプレゼンテーション準備
7	授業内プレゼンテーション1
8	課題6およびプレゼンテーション準備
9	課題7およびプレゼンテーション準備
10	課題8およびプレゼンテーション準備
11	課題9およびプレゼンテーション準備
12	課題10およびプレゼンテーション準備
13	授業内プレゼンテーション2
14	まとめ課題

授業外における学習

毎回指定された課題・問題に取り組む。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

メールでの質問も受け付ける。

アドレス：maeda.aya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業内プレゼンテーション	60%	発表と原稿の成果を評価する。
提出物	40%	教科書に沿った練習や宿題の提出状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『CLIL 英語で考えるSDGs—持続可能な開発目標』 笹島茂他著 三修社 2021 ISBN: 978-4-384-33504-0 C1082			
	英和・和英辞典は毎授業準備しておくこと。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題やプレゼンテーションに臨むこと。

その他・特記事項

特になし

Comprehensive English III (G2)

更新日：2023/01/10 08:55:46

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090B	科目コード	L1090
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。
4	・扱った読み物の中からトピックを一つ選び、クリティカルに考えたり、関心を持ったことをより深く調べたりしてから、パワーポイントなどの視覚資料を作成して発表することができる。

教授方法

さまざまな分野のリーディングをグループで読み深めたり、ライティングのアウトラインを練ったり、一人一回のプレゼンテーションをおこなったりします。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や Presentation について	*Zoomを使ったオンライン授業
2	Unit 6 (Reading 1)	*Zoomを使ったオンライン授業
3	Unit 6 (Reading 2)	
4	Unit 6 (Writing)	
5	Unit 7 (Reading 1)	
6	Unit 7 (Reading 2)	
7	Unit 8 (Reading 1)	
8	Unit 8 (Reading 2)	
9	Unit 9 (Reading 2)	
10	Unit 9 (Writing)	
11	Presentation (Units 6-7)	
12	Presentation (Units 8-9)	
13	Unit 10 (Reading 1)	
14	Core Reading	

授業外における学習

事前学習：Preparing to Read (Building Vocabularyなど) を学習する。

音読→スラッシュを入れる→知らない語を調べる

事後学習：音読をしてからMyELTで復習する。

プレゼンテーションやライティング課題の準備をする。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火金のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
プレゼンテーション	20	視覚資料、構成、発表の姿勢などにより評価する。
ライティング	20	内容の構成、豊富な語彙や説得力などにより評価する。
MyELT学習	10	80%以上の正解で評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Pathways 2B: Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition, Cengage Learning			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

気を緩めずにコロナ対策に努めること。

Comprehensive English III (G3)

更新日：2023/01/10 08:55:47

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090C	科目コード	L1090
担当教員	前田 文						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。

教授方法

演習を中心とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンスおよび今後の課題の準備
2	課題1およびプレゼンテーション準備
3	課題2およびプレゼンテーション準備
4	課題3およびプレゼンテーション準備
5	課題4およびプレゼンテーション準備
6	課題5およびプレゼンテーション準備
7	授業内プレゼンテーション1
8	課題6およびプレゼンテーション準備
9	課題7およびプレゼンテーション準備
10	課題8およびプレゼンテーション準備
11	課題9およびプレゼンテーション準備
12	課題10およびプレゼンテーション準備
13	授業内プレゼンテーション2
14	まとめ課題

授業外における学習

毎回指定された課題・問題に取り組む。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

メールでの質問も受け付ける。

アドレス：maeda.aya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業内プレゼンテーション	60%	発表と原稿の成果を評価する。
提出物	40%	教科書に沿った練習や宿題の提出状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『CLIL 英語で考えるSDGs—持続可能な開発目標』 笹島茂他著 三修社 2021 ISBN: 978-4-384-33504-0 C1082			
	英和・和英辞典は毎授業準備しておくこと。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題やプレゼンテーションに臨むこと。

その他・特記事項

特になし

Comprehensive English III (G4)

更新日：2023/01/10 08:55:48

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090D	科目コード	L1090
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。
4	・自分の意見をプレゼンテーションで表現と練習することができる。

教授方法

テキストに基づいて読解・リスニング・文法・音読の演習を行い、NGSL2401-2801の語いを修得することで、総合的な英語能力を養う。また、300語の英語エッセイを書き、TEDのスピーチによるリスニングを行う他、プレゼンテーション動画も作成することで英語による発信力を高める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業に関する説明、Core Reading (1)、文法の復習(1)、語彙学習についての説明など
2	Unit 1、Core Reading (2)、NGSL小テスト(1)
3	Unit 2、Core Reading (3)、NGSL小テスト(2)
4	Unit 3、Core Reading (4)、NGSL小テスト(3)
5	Unit 4、エッセイライティングについて(1)、NGSL小テスト(4)、TEDリスニング(1)
6	Unit 5、エッセイライティングについて(2)、NGSL小テスト(5)
7	Unit 6、プレゼンテーションの技術、ディスカッションの表現と練習(1)、NGSL小テスト(6)
8	Unit 7、プレゼンテーションの技術、ディスカッションの表現と練習(2)、NGSL小テスト(7)
9	Unit 9、ディスカッションの表現と練習(3)、NGSL小テスト(8)
10	Unit 10、ディスカッションの表現と練習(4)、NGSL小テスト(9)、TEDリスニング(2)
11	Unit 11、ディスカッションの表現と練習(5)、NGSL小テスト(10)
12	Unit 12、ディスカッションの表現と練習(6)、NGSL小テスト(11)
13	Unit 13、ディスカッションの表現と練習(7)、NGSL小テスト(12)
14	Unit 14、NGSL小テスト(13)、TEDリスニング(3)

授業外における学習

指示された予習・復習を必ず行ってください。また、期限までにライティングやプレゼンテーションの課題を提出すること。

質問や相談への対応

質問や相談は授業の時でも受けますし、e-mailでも、アポイントを取ってもらってZoomで行うことも出来ます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

定期試験（面接）	20	プレゼン動画に基づく英語の口頭試問
授業レポート	20	300語エッセイの出来栄
プレゼンテーション動画	20	プレゼン動画の出来栄
上記以外の授業評価	40	NGSL小テスト20%、TEDリスニング10%、テキスト音読10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『CLIL 英語で考えるSDGs—持続可能な開発目標』（三修社）			
	必要に応じてプリントかファイルで配布します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業外でもたくさん英語に接して下さい。

その他・特記事項

特になし

Comprehensive English III (G5)

更新日：2023/01/10 08:55:49

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090E	科目コード	L1090
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。
4	・扱った読み物の中からトピックを一つ選び、クリティカルに考えたり、関心を持ったことをより深く調べたりしてから、パワーポイントなどの視覚資料を作成して発表することができる。

教授方法

さまざまな分野のリーディングをグループで読み深めたり、ライティングのアウトラインを練ったり、一人一回のプレゼンテーションをおこなったりします。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や Presentation について	*Zoomを使ったオンライン授業
2	Unit 1 (Reading 1)	*Zoomを使ったオンライン授業
3	Unit 2 (Reading 2)	
4	Unit 3 (Reading 1)	
5	Units 1-3 (Writing)	
6	Unit 4 (Reading 1)	
7	Unit 4 (Reading 2)	
8	Unit 5 (Reading 1)	
9	Unit 5 (Reading 2)	
10	Unit 5 (Writing)	
11	Presentation (Units 1-3)	
12	Presentation (Units 4-5)	
13	Reading	
14	Core Reading	

授業外における学習

事前学習：Preparing to Read (Building Vocabularyなど) を学習する。

音読→スラッシュを入れる→知らない語を調べる

事後学習：音読をしてからMyELTで復習する。

プレゼンテーションやライティング課題の準備をする。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火金のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
プレゼンテーション	20	視覚資料、構成、発表の姿勢などにより評価する。
ライティング	20	内容の構成、豊富な語彙や説得力などにより評価する。
MyELT学習	10	80%以上の正解で評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Pathways 2A: Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition, Cengage Learning			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

気を緩めずにコロナ対策に努めること。

Comprehensive English III (G6)

更新日：2023/01/10 08:55:50

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090F	科目コード	L1090
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。

教授方法

リーディングによるインプットを事前に行い、授業にてアウトプットの機会を充実させるフリップラーニング

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（シラバス、学習方法の確認）、Core ReadingとReaction paper
2	テキストU1(Cause & Effect), U2(Comparison & Contrast), U3(Giving an Opinion) ①
3	テキストU1(Cause & Effect), U2(Comparison & Contrast), U3(Giving an Opinion) ②
4	テキストU4(Classification), U5(Describing a Process), U6(Descriptive Writing) ①
5	テキストU4(Classification), U5(Describing a Process), U6(Descriptive Writing) ②
6	150-word Essay(1)とプレゼンテーション(1)、文法語彙テスト(1)
7	テキストU7(Persuasive Writing), U8(Writing to Evaluate), U9(Pros & Cons) ①
8	テキストU7(Persuasive Writing), U8(Writing to Evaluate), U9(Pros & Cons) ②
9	テキストU10(Writing to Advise), U11(Writing to Clarify), U12(Reflective Writing) ①
10	テキストU10(Writing to Advise), U11(Writing to Clarify), U12(Reflective Writing) ②
11	テキストU13(Problem Solving), U14(Writing to Entertain), U15(Writing to Inspire) ①
12	テキストU13(Problem Solving), U14(Writing to Entertain), U15(Writing to Inspire) ②
13	150-word Essay(2)とプレゼンテーション(2)、文法語彙テスト(2)
14	300-word Essay作成と発表

授業外における学習

本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料の要点を理解し、事後学習として授業で行ったパフォーマンス（スピーキング・ライティング等）をより洗練させようとしてOneNoteへの投稿などが求められる。また適宜、語彙学習および英語トレーニングが指示される。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

150-word エッセイ	30	2回のショートエッセイにおいて基本的なライティングスキル(構成・根拠・英語表現)を評価
300-wordエッセイ	25	効果的に主張を伝えられるライティング力(適切な段落展開と根拠資料の提示)を評価
プレゼンテーション	20	所定の条件下における情報発信力を評価
語彙文法テスト	25	語彙力・文法理解を評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing (Hickling, R., & Yashima, J., Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-369-4) [以上1冊]			
	<ul style="list-style-type: none"> 『国際学会Englishスピーキング・エクササイズ口演・発表・応答』(Langham, C.S. 医歯薬出版) ・1年次前期使用した英語音声のテキスト 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分で書いた英文を見直す機会を積極的に作ってください。

その他・特記事項

教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。試験等では対面参加が必要な場合がある。

Comprehensive English III (G7)

更新日：2023/01/10 08:55:51

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090G	科目コード	L1090
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。
4	・扱った読み物の中からトピックを一つ選び、クリティカルに考えたり、関心を持ったことをより深く調べたりしてから、パワーポイントなどの視覚資料を作成して発表することができる。

教授方法

さまざまな分野のリーディングをグループで読み深めたり、ライティングのアウトラインを練ったり、一人一回のプレゼンテーションをおこなったりします。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や Presentation について	*Zoomを使ったオンライン授業
2	Unit 1 (Reading 1)	*Zoomを使ったオンライン授業
3	Unit 2 (Reading 2)	
4	Unit 3 (Reading 1)	
5	Units 1-3 (Writing)	
6	Unit 4 (Reading 1)	
7	Unit 4 (Reading 2)	
8	Unit 5 (Reading 1)	
9	Unit 5 (Reading 2)	
10	Unit 5 (Writing)	
11	Presentation (Units 1-3)	
12	Presentation (Units 4-5)	
13	Reading	
14	Core Reading	

授業外における学習

事前学習：Preparing to Read (Building Vocabularyなど) を学習する。

音読→スラッシュを入れる→知らない語を調べる

事後学習：音読をしてからMyELTで復習する。

プレゼンテーションやライティング課題の準備をする。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火金のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
プレゼンテーション	20	視覚資料、構成、発表の姿勢などにより評価する。
ライティング	20	内容の構成、豊富な語彙や説得力などにより評価する。
MyELT学習	10	80%以上の正解で評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Pathways 2A: Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition, Cengage Learning			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

気を緩めずにコロナ対策に努めること。

Academic English Communication III (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:39

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100A	科目コード	L1100
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, presentation skills, NGSL

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the urban/rural divide in Japan and propose solutions for local redevelopment. Students study and discuss ideas in Core Reading V, "Making the Most of Your Study Abroad." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	outline a presentation,
2	use academic presentation language for individual and group presentations,
3	discuss urban and rural issues,
4	learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics
6	Core Reading II discussion, use NGSL
7	Introduce urban/rural unit, review citing sources for Presentation B Planning Sheet
8	Presentation B done in destination groups, Urban/rural unit
9	Urban/rural unit, Introduction to Presentation C, groups talk prepare for presentation, use NGSL
10	Urban /rural unit, groups prepare Presentation C
11	Urban/rural unit, Presentation Phrases practice
12	Urban/rural unit, Presentation C planning
13	Presentation C rehearsal, NGSL test
14	Presentation C

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

presentations	50%	3 presentations, outline assignments
discussion	20%	Urban and Rural Unit discussion and assignments
4 skills	20%	Core Reading and other assignments
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and participate in class discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication III (G2)

更新日：2023/03/15 05:19:03

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100B	科目コード	L1100
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, presentation skills, NGSL

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the urban/rural divide in Japan and propose solutions for local redevelopment. Students study and discuss ideas in Core Reading V, "Making the Most of Your Study Abroad." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	outline a presentation,
2	use academic presentation language for individual and group presentations,
3	discuss urban and rural issues,
4	learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practice vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity
4	Present Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading
5	Core Reading discussion 1, destination groups decide theme and individual topics
6	Core Reading discussion 2, use NGSL
7	Introduce urban/rural unit, review citing sources for Presentation B Planning Sheet
8	Presentation B done in destination groups, Urban/rural unit
9	Urban/rural unit, Introduction to Presentation C, groups prepare for presentation, use NGSL
10	Urban/rural unit, groups prepare Presentation C
11	Urban/rural unit, Presentation Phrases practice
12	Urban/rural unit, Presentation C planning
13	Presentation C rehearsal, NGSL test
14	Presentation C

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Presentations	50	3 presentations, outline assignments
Discussion	15	Urban and Rural Unit discussion and assignments
4 skills	25	Core Reading and other assignments
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
Required	In Focus, Student Book 1	Cambridge University Press		
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and participate in class discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication III (G3)

更新日：2023/01/10 08:55:41

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100C	科目コード	L1100
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, listening, NGSL, discussion, presentation skills

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group presentations) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the overseas program. Students study and discuss ideas in Core Reading V. Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	outline a presentation,
2	use academic presentation language for individual and group presentations,
3	discuss their overseas program,
4	learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students prepare for presentations related their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practice vocabulary. Students have listening comprehension exercises, do pair practices, and have group and class discussions in English. They are asked to give presentations in English, and the teacher gives feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	Introduction, course overview, class policies and procedures
2	Textbook Unit 1 and useful knowledge for English presentations
3	Textbook Unit 2 and group presentations about students' study abroad programmes
4	Textbook Unit 3 and group presentations about students' study abroad programmes
5	Textbook Unit 4 and discussions about a 'global' person
6	Textbook Unit 5 and discussions about global businessmen/businesswomen Case study 1: Anita Roddick
7	Textbook Unit 6 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student
8	Textbook Unit 7 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student
9	Textbook Unit 8 and discussions about global companies Case study 1: The Body Shop
10	Textbook Unit 9 and giving a presentation about a global company that interests a student most
11	Textbook Unit 10 and giving a presentation about a global company that interests a student most
12	Textbook Unit 11 and discussions about multiculturalism
13	Textbook Unit 12 and discussions about foreign workers
14	Textbook Unit 13 and Review

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

The teacher will be available for students before and after class for questions. Students can contact the teacher by email.

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Discussion	15%	Discussions and assignments
4 skills	25%	Listening tests, reading and other assignments
NGSL	10%	NGSL test
Presentations	50%	Presentations and other assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Takayuki Ishii & Joe Ciunci, AI-Powerful Steps for The TOEIC Listening and Reading Test (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN 978-4-7919-6029-3.			
	The teacher will distribute other handouts as well. She will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students are expected to prepare for every class and participate in class discussions. They need to use their English-English dictionary constantly. The working language of the class is English.

その他・特記事項

Any student, who fails to submit his/her assignments, cannot get a credit for this course.

Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.

Academic English Communication III (G4)

更新日：2023/01/10 08:55:42

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100D	科目コード	L1100
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, presentation skills, NGSL

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the urban/rural divide in Japan and propose solutions for local redevelopment. Students study and discuss ideas in Core Reading V, "Making the Most of Your Study Abroad." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	outline a presentation,
2	use academic presentation language for individual and group presentations,
3	discuss urban and rural issues,
4	learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students will prepare for presentations, practice conversation and discussion strategies. Students will also do writing activities and practice a range of relevant vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course content, greeting classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment.
2	Introduce Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, in destination groups think about topic for presentation B, Core Reading I
5	Core Reading I discussion, groups decide theme and individual topics
6	Core Reading II discussion, use NGSL
7	Introduce urban/rural unit, review citing sources for Presentation B Planning Sheet
8	Presentation B done in destination groups, Urban/rural unit
9	Urban/rural unit, Introduction to Presentation C, groups talk prepare for presentation, use NGSL
10	Urban/rural unit, groups prepare Presentation C
11	Urban/rural unit, Presentation Phrases practice
12	Urban/rural unit, Presentation C planning
13	Presentation C rehearsal, NGSL test
14	Presentation C

授業外における学習

There are assignments for every class. Students must do readings, study vocabulary and target language to use in class and group discussions and to complete other graded assignments.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
presentations	50%	3 presentations, outline assignments
discussion	15%	Urban and Rural Unit discussion and assignments
4 skills	25%	Core Reading and other assignments
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should do all preparation work for class and come ready to participate in class and group discussions. They should also be ready to support and encourage each other.

その他・特記事項

-

Academic English Communication III (G5)

更新日：2023/01/10 08:55:43

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100E	科目コード	L1100
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, listening, NGSL, discussion, presentation skills

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group presentations) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the overseas program. Students study and discuss ideas in Core Reading V. Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	outline a presentation,
2	use academic presentation language for individual and group presentations,
3	discuss their overseas program,
4	learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practice vocabulary. Students have listening comprehension exercises, do pair practices, and have group and class discussions in English. They are asked to give presentations in English, and the teacher gives feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Introduction, course overview, class policies and procedures
2	Handout Unit 1 and useful knowledge for English presentations
3	Handout Unit 2 and group presentations about students' study abroad program
4	Handout Unit 3 and group presentations about students' study abroad program
5	Handout Unit 4 and discussions about a 'global' person
6	Handout Unit 5 and discussions about global businessmen/businesswomen Case study 1: Anita Roddick
7	Handout Unit 6 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student
8	Handout Unit 7 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student
9	Handout Unit 8 and discussions about global companies Case study 1: The Body Shop
10	Handout Unit 9 and giving a presentation about a global company that interests a student most
11	Handout Unit 10 and giving a presentation about a global company that interests a student most
12	Discussions about multiculturalism
13	Discussions about foreign workers
14	Review

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

The teacher will be available for students before and after class for questions. Students can contact the teacher by email.

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Discussion	15%	Discussions and assignments
4 skills	25%	Reading, listening tests and other assignments
NGSL	10%	NGSL test
Presentations	50%	Presentations and other assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Handouts (プリント使用) この授業ではテキストは使いません。			
	The teacher will distribute other handouts as well. She will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students are expected to prepare for every class and participate in class discussions. They need to use their English-English dictionary constantly. The working language of the class is English.

その他・特記事項

Any student, who fails to submit his/her assignments, cannot get a credit for this course.

Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.

Academic English Communication III (G6)

更新日：2023/01/10 08:55:43

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100F	科目コード	L1100
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, presentation skills, NGSL

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the urban/rural divide in Japan and propose solutions for local redevelopment. Students study and discuss ideas in Core Reading V, "Making the Most of Your Study Abroad." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	outline a presentation,
2	use academic presentation language for individual and group presentations,
3	discuss urban and rural issues,
4	learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students will prepare for presentations, practice conversation and discussion strategies. Students will also do writing activities and practice a range of relevant vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	1 Introduction to course content, greeting classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment.
2	Introduce Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, in destination groups think about topic for presentation B, Core Reading I
5	Core Reading I discussion, groups decide theme and individual topics
6	Core Reading II discussion, use NGSL
7	Introduce urban/rural unit, review citing sources for Presentation B Planning Sheet
8	Presentation B done in destination groups, Urban/rural unit
9	Urban/rural unit, Introduction to Presentation C, groups talk prepare for presentation, use NGSL
10	Urban/rural unit, groups prepare Presentation C
11	Urban/rural unit, Presentation Phrases practice
12	Urban/rural unit, Presentation C planning
13	Presentation C rehearsal, NGSL test
14	Presentation C

授業外における学習

There are assignments for every class. Students must do readings, study vocabulary and target language to use in class and group discussions and to complete other graded assignments.

質問や相談への対応

students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
presentations	50%	3 presentations, outline assignments
4 skills	25%	Core Reading and other assignments
discussion	15%	Urban and Rural Unit discussion and assignments
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should do all preparation work for class and come ready to participate in class and group discussions. They should also be ready to support and encourage each other.

その他・特記事項

-

Academic English Communication III (G7)

更新日：2023/01/10 08:55:44

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100G	科目コード	L1100
担当教員	Keff Kenner						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, presentation skills, NGSL

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the urban/rural divide in Japan and propose solutions for local redevelopment. Students study and discuss ideas in Core Reading V, "Making the Most of Your Study Abroad." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	outline a presentation,
2	use academic presentation language for individual and group presentations,
3	discuss urban and rural issues,
4	learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities, and practice vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics
6	Core Reading II discussion, use NGSL
7	Introduce urban/rural unit, review citing sources for Presentation B Planning Sheet
8	Presentation B done in destination groups, Urban/rural unit
9	Urban/rural unit, Introduction to Presentation C, groups talk prepare for presentation, use NGSL
10	Urban /rural unit, groups prepare Presentation C
11	Urban/rural unit, Presentation Phrases practice
12	Urban/rural unit, Presentation C planning
13	Presentation C rehearsal, NGSL test
14	Presentation C

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

Presentations	50%	3 presentations, outline assignments
Discussion	15%	Urban and Rural Unit discussion and assignments
4 skills	25%	Core Reading and other assignments
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and participate in class discussions.

その他・特記事項

-

Career English I (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:52

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シラバスコード	L1110A	科目コード	L1110
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、TOEIC L&R、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において500点台から600点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
2	・ eLearning教材等を計画的に活用し、自律学習の姿勢を養う。

教授方法

eLearningの自主的な活用に加え、ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、受講生の積極的なアウトプットが求められる

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス(シラバス、TOEIC L&R, S&W等)、eLearning(ALC)など
2	「精選模試R2_TEST 1」 Part 5-6の問題演習
3	「精選模試R2_TEST 1」 Part 7の問題演習(1)
4	語彙テスト(1), eLearning(ALC)_Listening Partの問題検討
5	「精選模試R2_TEST 1」 Part 7の問題演習(2)
6	「精選模試R2_TEST 1」 Part 7の問題演習(3)
7	語彙テスト(2), TOEIC L&Rのミニテスト(1)と解説
8	「精選模試R2_TEST 2」 Part 5-6の問題演習
9	「精選模試R2_TEST 2」 Part 7の問題演習(1)
10	「精選模試R2_TEST 2」 Part 7の問題演習(2)
11	語彙テスト(3), eLearning(ALC)_Listening Partの問題検討
12	「精選模試R2_TEST 2」 Part 7の問題演習(3)
13	「精選模試R2_TEST 3」 Part 5-6の問題演習
14	語彙テスト(4), TOEIC L&Rのミニテスト(2)と解説

授業外における学習

毎回の授業内容について、テキストを中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。さらにeLearningは、授業内容と連動させたスケジュールで概ね取り組むこと。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
eLearning(ALC)	20	指定された条件下でのeLearningの取り組みを評価

eLearning ポイント 整理	10	振り返り学習の過程および成果を評価
ミニテスト	50	TOEIC L&Rへの対応力を評価
語彙テスト	20	語彙の習得度を評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC®テスト新形式精選 模試リーディング2 (中村紳 一郎 監修 、ジャパンタイムズ出版、IS BN 978-4-7890-1720-6) ・ TOEIC(R)L&R TEST英単語 スピードマスター (第3版) (Jリサーチ出版、ISBN 978- 4863923744) [以上2冊]			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC®テスト新形式精選 模試シリーズで指定テキスト 以外のもの。 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

2023年2月および将来におけるTOEIC L&RおよびS&Wの受験を見据え、自学習を充実させるために必要な学習サイクルを身につけてください。

その他・特記事項

教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。試験等では対面参加が必要な場合がある。

Career English I (G2)

更新日：2023/01/10 08:55:52

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シラバスコード	L1110B	科目コード	L1110
担当教員	前田 文						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において500点台から600点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
---	-----------------------------------

教授方法

主に問題演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンスおよび英語トレーニングの紹介
2	課題1
3	課題2
4	課題3
5	課題4
6	課題5
7	授業内小テストおよび総括
8	課題6
9	課題7
10	課題8
11	課題9
12	課題10
13	課題11
14	授業内小テストおよび総括

授業外における学習

日常的に英語トレーニングに取り組む。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

メールでの質問も受け付ける。

アドレス：maeda.aya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	50%	TOEICテストの類似問題を解き、理解度に応じて評価する。
提出物	30%	宿題や音読データを提出し、その成果や提出状況に応じて評価する。

上記以外の授業評価	20%	e-learningの成果を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC® L&R TEST All in One Advanced』早川幸治 著 桐原書店 2019 ISBN: 978-4-342-55022-5			
	e-learning			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日常的に英語トレーニングに取り組む習慣をつける。

その他・特記事項

特になし

Career English I (G4)

更新日：2023/01/10 08:55:53

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シバコード	L1110C	科目コード	L1110
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において500点台から600点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
2	・ 英字新聞を読んで、その内容と政治的・文化的背景を理解できる。
3	・ TED Talksを視聴して、発表者の主張を理解できる。

教授方法

授業の前半は TOEIC L&R対策（教科書）をおこないます。後半は新聞記事など（ハンドアウト）をグループで読んだり、TED Talksでリスニングをしたりします。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や TOEICについて
2	Units LR-1、ハンドアウト
3	Units LR-2、ハンドアウト
4	Units LR-3、ハンドアウト
5	Units LR-4、ハンドアウト
6	Units LR-5、ハンドアウト
7	Units LR-6、ハンドアウト
8	Units LR-7、ハンドアウト
9	Units LR-8、ハンドアウト
10	Units LR-9、ハンドアウト
11	Units LR-10、ハンドアウト
12	Units LR-11、ハンドアウト
13	Units LR-12、ハンドアウト
14	Units LR-13&14

授業外における学習

事前学習：「概要と基本戦略」や Strategiesを熟読する。

該当UnitのWarm Up (1) (2) を学習する。

リーディング（ハンドアウト）を音読→スラッシュを入れる

→語の意味を調べる。

事後学習：TOEICとリーディングの復習をする。

NetAcademyを学習する。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火曜日のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
TOEIC課題	30	目標スコア500～600に近づいたかどうかにより評価する。
e-learning	20	NetAcademy 500点突破コースの学習状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test, Level 600 (朝日出版社)			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

気を緩めずにコロナ対策に努めること。

Career English I (G3)

更新日：2023/02/21 21:31:45

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シバコード	L1110D	科目コード	L1110
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において500点台から600点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
2	・ 英字新聞を読んで、その内容と政治的・文化的背景を理解できる。
3	・ TED Talksを視聴して、発表者の主張を理解できる。

教授方法

授業の前半は TOEIC L&R対策（教科書）をおこないます。後半は新聞記事など（ハンドアウト）をグループで読んだり、TED Talksでリスニングをしたりします。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や TOEICについて
2	Units LR-1、ハンドアウト
3	Units LR-2、ハンドアウト
4	Units LR-3、ハンドアウト
5	Units LR-4、ハンドアウト
6	Units LR-5、ハンドアウト
7	Units LR-6、ハンドアウト
8	Units LR-7、ハンドアウト
9	Units LR-8、ハンドアウト
10	Units LR-9、ハンドアウト
11	Units LR-10、ハンドアウト
12	Units LR-11、ハンドアウト
13	Units LR-12、ハンドアウト
14	Units LR-13&14

授業外における学習

事前学習：「概要と基本戦略」や Strategiesを熟読する。

該当UnitのWarm Up (1) (2) を学習する。

リーディング（ハンドアウト）を音読→スラッシュを入れる

→語の意味を調べる。

事後学習：TOEICとリーディングの復習をする。

NetAcademyを学習する。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火曜日のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
TOEIC課題	30	目標スコア500～600に近づいたかどうかにより評価する。
e-learning	20	NetAcademy 500点突破コースの学習状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test, Level 600 (朝日出版社)			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

- ・Glexa：授業関連情報（課題を含む）を掲載します。
- ・ポータル：出欠状況を確認すること。

Career English I (G6)

更新日：2023/01/10 08:55:54

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シラバスコード	L1110E	科目コード	L1110
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において500点台から600点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
2	・ 英字新聞を読んで、その内容と政治的・文化的背景を理解できる。
3	・ TED Talksを視聴して、発表者の主張を理解できる。

教授方法

授業の前半は TOEIC L&R対策（教科書）をおこないます。後半は新聞記事など（ハンドアウト）をグループで読んだり、TED Talksでリスニングをしたりします。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や TOEICについて
2	Units LR-1、ハンドアウト
3	Units LR-2、ハンドアウト
4	Units LR-3、ハンドアウト
5	Units LR-4、ハンドアウト
6	Units LR-5、ハンドアウト
7	Units LR-6、ハンドアウト
8	Units LR-7、ハンドアウト
9	Units LR-8、ハンドアウト
10	Units LR-9、ハンドアウト
11	Units LR-10、ハンドアウト
12	Units LR-11、ハンドアウト
13	Units LR-12、ハンドアウト
14	Units LR-13&14

授業外における学習

事前学習：「概要と基本戦略」や Strategiesを熟読する。

該当UnitのWarm Up (1) (2) を学習する。

リーディング（ハンドアウト）を音読→スラッシュを入れる

→語の意味を調べる。

事後学習：TOEICとリーディングの復習をする。

NetAcademyを学習する。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火曜日のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
TOEIC課題	30	目標スコア500～600に近づいたかどうかにより評価する。
e-learning	20	NetAcademy 500点突破コースの学習状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test, Level 600 (朝日出版社)			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

気を緩めずにコロナ対策に努めること。

Career English I (G7)

更新日：2023/01/10 08:55:56

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シラバスコード	L1110F	科目コード	L1110
担当教員	前田 文						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において500点台から600点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
---	-----------------------------------

教授方法

主に問題演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンスおよび英語トレーニングの紹介
2	課題1
3	課題2
4	課題3
5	課題4
6	課題5
7	授業内小テストおよび総括
8	課題6
9	課題7
10	課題8
11	課題9
12	課題10
13	課題11
14	授業内小テストおよび総括

授業外における学習

日常的に英語トレーニングに取り組む。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

メールでの質問も受け付ける。

アドレス：maeda.aya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	50%	TOEICテストの類似問題を解き、理解度に応じて評価する。
提出物	30%	宿題や音読データを提出し、その成果や提出状況に応じて評価する。

上記以外の授業評価	20%	e-learningの成果を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC® L&R TEST All in One』早川幸治著 桐原書店 2019 ISBN: 978-4-342-55015-7			
	e-learning			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日常的に英語トレーニングに取り組む習慣をつける。

その他・特記事項

特になし

Career English I (G5)

更新日：2023/01/10 08:55:57

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シバスコッド	L1110G	科目コード	L1110
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において500点台から600点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
2	・ 授業で学んだ語彙が身についている。
3	・ 英語で自分の履歴書を書くことができる。
4	・ 基礎的なビジネスメールやカヴァーレターを英語で書くことができる。

教授方法

TOEICの練習問題、リスニング演習や音読、語彙の小テスト、e-learning なども活用して4技能を鍛えてゆく。海外企業のホームページなども活用し、実社会で用いられている英語も学んでいく。また、英文メール、英文履歴書、カヴァーレターを書き、国際的なビジネスシーンにアプローチするための方法を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	TOEIC L&R の構成と時間配分、(文法ポイント) 基本5文型と名詞・形容詞・副詞 (1)、『戦略的トレーニング』 Unit L-1 (Part 1: 人物が写っている写真)
2	Unit R-1 (Part 5: 品詞)、(文法ポイント) 基本5文型と名詞・形容詞・副詞 (2)、語彙の小テスト (1)
3	Unit L-2 (part 1: 人物が写っていない写真)、Unit R-2 (Part 5: 動詞の形(1))、(文法ポイント) 態と時制 (1)、語彙の小テスト (2)
4	Unit L-3 (Part 2: 疑問詞疑問文)、(文法ポイント) 態と時制 (2)・疑問文の種類について (1)、語彙の小テスト (3)
5	Unit R-3 (Part 5: 動詞の形(2))、(文法ポイント) 態と時制 (3)、語彙の小テスト (4)
6	Unit L-4 (Part 2: YES/NO 疑問文・その他の疑問文)、(文法ポイント) 疑問文の種類について (2)、語彙の小テスト (5)
7	Unit R-4 (Part 5: 前置詞・接続詞)、語彙の小テスト (6)
8	Unit L-5 (part 2: 平叙文・意外な応答)、Unit L-6 (Part 2: 機能別疑問文)、語彙の小テスト (7)
9	Unit R-5 (代名詞・関係代名詞)、英文メールと英文手紙の書き方 (1)、語彙の小テスト (8)
10	Part 3 の解説、Unit L-7 (Part 3: 次の行動)、英文メールと英文手紙の書き方 (2)、語彙の小テスト (9)
11	Unit L-8 (Part 3: 問題点・提案・申し出)、英文履歴書とカヴァーレターの書き方 (3)、語彙の小テスト (10)
12	Part 6 の解説、Unit R-6 (Part 6: 長文穴埋め問題)、英文履歴書とカヴァーレターの書き方 (4)、語彙の小テスト (11)
13	Part 7 の解説、Unit R-7 (Part 7: 広告・チャット)、語彙の小テスト (12)
14	Unit L-9 (Part 3: 目的・依頼・意図)、Unit R-8 (Part 7: Eメール・手紙)、語彙の小テスト (13)

授業外における学習

指示された予習・復習を必ず行い、e-learning にもしっかりと取り組んでください。また、期限までに英文メール等の課題を提出すること。

質問や相談への対応

質問や相談は授業の時でも受けますし、e-mail でも、アポイントを取ってもらって Zoom で行うことも出来ます。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	25	期末試験の点数で評価
授業レポート	25	英文履歴書5%、英文メール10%、カバーレター10%
小テスト	30	語彙の小テストの合計点で評価
上記以外の授業評価	20	e-learning にどれだけ取り組んだか
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル500』（朝日出版社）、『TOEIC L&R TEST英単語スピードマスター』（Jリサーチ出版）			
	公式 TOIEC Listening & Reading 問題集（1～7）（図書館にあります）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日頃から様々な形で出来るだけたくさん英語に接して下さい。

その他・特記事項

特になし

Academic English for Global Mobility I (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:57

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1120A	科目コード	L1120
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, elevator talk, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and analyzing advertising. Students create and describe a service, or community project in order to prepare for a student trade show. They will give an Elevator Pitch and make a group presentation. TOEIC Speaking and Writing skills will be explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	plan a service or product,
3	write and perform an Elevator Pitch,
4	prepare a group presentation about a product,
5	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the trade show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course, Trade Show, and textbook Unit 2
2	Crowdfunding assignment
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment
4	Textbook Unit 2, Product development assignment
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 4, begin product teams
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback
13	Product teams use feedback to finish presentation
14	Product team presentations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

Textbook assignments	40	Textbook assignments (listening, writing, grammar) and test
Trade show preparation	40	Trade Show preparation, describe a product, elevator pitch, group presentation
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments
-	-	-
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility I (G2)

更新日：2023/01/10 08:55:58

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1120B	科目コード	L1120
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, elevator pitch, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and analyzing advertising. Students create and describe a service, or a community project in order to prepare for a student trade show. They will give an elevator pitch and make a group presentation. TOEIC S peaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	plan a service or project to solve a problem,
3	write and preform an Elevator Pitch,
4	prepare a group presentation about a product,
5	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course, Trade Show and textbook Unit 2
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment
4	Textbook Unit 2, Product development assignment
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 4, begin product teams
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback
13	Product teams use feedback to finish presentation
14	Product team presentations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Students will turn assignments in on time, before class. Late assignments will be penalized.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to contact the instructor at any time using email. If you want to make an appointment to meet, ask during class or send an email. In addition, you

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
4 skills	40	Textbook assignments (listening, writing, grammar) and test
4 skills	40	Trade Show preparation, describe a product, Elevator Pitch, group presentation PPT
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility I (G3)

更新日：2023/01/10 08:55:59

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1120C	科目コード	L1120
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, elevator talk, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and analyzing advertising. Students create and describe a service, or a community project in order to prepare for a student trade show. They will give an elevator pitch and make a group presentation. TOEIC S peaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	plan a service or project to solve a problem,
3	write and preform an Elevator Pitch,
4	prepare a group presentation about a product,
5	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course content, Trade Show and textbook Unit 2
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment
4	Textbook Unit 2, Product development assignment
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 4, begin product teams
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback
13	Product teams use feedback to finish presentation
14	Product team presentations, textbook test

授業外における学習

There are assignments for every class. Students should complete all homework assignments, study the target vocabulary and phrases as well as prepare for class and group discussions and presentations.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
4 skills	40%	textbook assignments (listening, writing, grammar) and test
4 skills	40%	Trade Show preparation, describe a product, Elevator Pitch, group presentation
4 skills	20%	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should do all preparation work for class. They are expected to come to class ready to participate in all classroom activities. They should also be ready to support and encourage each other.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility I (G4)

更新日：2023/01/10 08:56:00

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1120D	科目コード	L1120
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, elevator pitch, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and analyzing advertising. Students create and describe a service, or a community project in order to prepare for a student trade show. They will give an elevator pitch and make a group presentation. TOEIC S speaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	plan a service or project to solve a problem,
3	write and preform an Elevator Pitch,
4	prepare a group presentation about a product,
5	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course, Trade Show and textbook Unit 2
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment
4	Textbook Unit 2, Product development assignment
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 4, begin product teams
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback
13	Product teams use feedback to finish presentation
14	Product team presentations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Students will turn assignments in on time, before class. Late assignments will be penalized.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to contact the instructor at any time using email. If you want to make an appointment to meet, ask during class or send an email. In addition, you

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
4 skills	40	Textbook assignments (listening, writing, grammar) and test
4 skills	40	Trade Show preparation, describe a product, Elevator Pitch, group presentation PPT
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility I (G5)

更新日：2023/01/10 08:56:01

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1120E	科目コード	L1120
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, elevator talk, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and analyzing advertising. Students create and describe a service, or a community project in order to prepare for a student trade show. They will give an elevator pitch and make a group presentation. TOEIC S peaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	plan a service or project to solve a problem,
3	write and preform an Elevator Pitch,
4	prepare a group presentation about a product,
5	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course content, Trade Show and textbook Unit 2
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment
4	Textbook Unit 2, Product development assignment
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 4, begin product teams
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback
13	Product teams use feedback to finish presentation
14	Product team presentations, textbook test

授業外における学習

There are assignments for every class. Students should complete all homework assignments, study the target vocabulary and phrases as well as prepare for class and group discussions and presentations.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
4 skills	40%	textbook assignments (listening, writing, grammar) and test
4 skills	40%	
4 skills	20%	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should do all preparation work for class. They are expected to come to class ready to participate in all classroom activities. They should also be ready to support and encourage each other.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility I (G6)

更新日：2023/01/10 08:56:03

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1120F	科目コード	L1120
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, elevator talk, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and analyzing advertising. Students create and describe a service, or community project in order to prepare for a student trade show. They will give an Elevator Pitch and make a group presentation. TOEIC Speaking and Writing skills will be explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	plan a service or product,
3	write and perform an Elevator Pitch,
4	prepare a group presentation about a product,
5	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the trade show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course, Trade Show, and textbook Unit 2
2	Crowdfunding assignment
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment
4	Textbook Unit 2, Product development assignment
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 4, begin product teams
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback
13	Product teams use feedback to finish presentation
14	Product team presentations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

Textbook assignments	40	Textbook assignments (listening, writing, grammar) and test
Trade show preparation	40	Trade Show preparation, describe a product, elevator pitch, group presentation
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments
-	-	-
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility I (G7)

更新日：2023/01/10 08:56:04

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1120G	科目コード	L1120
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, elevator talk, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and analyzing advertising. Students create and describe a service, or community project in order to prepare for a student trade show. They will give an Elevator Pitch and make a group presentation. TOEIC Speaking and Writing skills will be explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	plan a service or product, 3. write and perform an Elevator Pitch, 4. prepare a group presentation about a product, and 5. understand TOEIC S & W questions.
3	write and perform an Elevator Pitch,
4	prepare a group presentation about a product,
5	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the trade show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course, Trade Show, and textbook Unit 2
2	Crowdfunding assignment
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment
4	Textbook Unit 2, Product development assignment
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 4, begin product teams
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback
13	Product teams use feedback to finish presentation
14	Product team presentations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Textbook assignments	40	Textbook assignments (listening, writing, grammar) and test
Trade show preparation	40	Trade Show preparation, describe a product, elevator pitch, group presentation
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments
-	-	-
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

-

Career English II (G2)

更新日：2023/01/10 08:52:11

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1140A	科目コード	L1140
担当教員	前田 文						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において600点台から700点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
---	-----------------------------------

教授方法

主に問題演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンスおよび英語トレーニングの紹介
2	課題1
3	課題2
4	課題3
5	課題4
6	課題5
7	授業内小テストおよび総括
8	課題6
9	課題7
10	課題8
11	課題9
12	課題10
13	課題11
14	授業内小テストおよび総括

授業外における学習

日常的に英語トレーニングに取り組む。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

メールでの質問も受け付ける。

アドレス：maeda.aya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	50%	TOEICテストの類似問題を解き、理解度に応じて評価する。
提出物	12%	宿題や音読データを提出し、その成果や提出状況に応じて評価する。

上記以外の授業評価	38%	TOEIC L&R のスコア30%、 e-learning 8%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 8』 国際ビジネスコミュニケーション協会 2020 ISBN: 978-4-906033-63-8			
	e-learning			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日常的に英語トレーニングに取り組む習慣をつける。

その他・特記事項

特になし

Career English II (G4)

更新日：2023/01/10 08:52:12

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1140B	科目コード	L1140
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において600点台から700点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
2	・ 授業で扱ったCNN Newsに関連する英文記事を探してグループ内で紹介できる。

教授方法

リスニング（ディクテーション）→オーバーラッピング/シャドーイング→グループで内容確認 をする。次に、前回の授業で扱ったCNN Newsに関連する英文記事をグループ内で紹介する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や TOEIC S&Wテスト (Speaking) について
2	Unit 1
3	Unit 2, 記事紹介 (Unit 1)
4	Unit 3, 記事紹介 (Unit 2)
5	Unit 4, 記事紹介 (Unit 3)
6	Unit 5, 記事紹介 (Unit 4)
7	Unit 6, 記事紹介 (Unit 5)
8	Unit 7, 記事紹介 (Unit 6)
9	Unit 8, 記事紹介 (Unit 7)
10	Unit 9, 記事紹介 (Unit 8)
11	Unit 10, 記事紹介 (Unit 9)
12	Unit 11, 記事紹介 (Unit 10)
13	Unit 12, 記事紹介 (Unit 11)
14	TOEIC S&Wテストについて (Writing)

授業外における学習

事前学習：Words and Phrases to Study (DefinitionとExamples) を学習する。

音読→スラッシュを入れる→知らない語を調べる。

前回の CNN Newsに関連する英文記事を探す。

事後学習：復習をする。NetAcademyを学習する。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火金のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
音読課題	12	文のまとまりやイントネーション、スピートなどに留意して読むことができるかにより評価する。
その他	38	TOEIC L&R のスコア30%、 e-learning 8%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	English for the Global Age with CNN vol.23（朝日出版社）			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

気を緩めずにコロナ対策に努めること。

Career English II (G5)

更新日：2023/01/10 08:52:13

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1140C	科目コード	L1140
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において600点台から700点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
2	・ 授業で学んだ語彙が身についている。
3	・ 企業が英語で発信している情報を理解することができる。
4	・ 英語で面接を受けることができる。

教授方法

TOEICの練習問題、リスニング演習や音読、語彙の小テスト、e-learning なども活用して4技能を鍛えてゆく。英語による面接の対応も練習し、海外企業のホームページなども活用し、実社会で用いられている英語も学んでいく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	『戦略的トレーニング』続き Unit R-9 (Part 7: 告知・社内回覧)
2	Part 4 解説、Unit L-10 (Part 4: 録音メッセージ・アナウンス)、語彙の小テスト (1)
3	Unit L-11 (part 4: トーク・会議・ニュース)、Unit R-10 (Part 7: 記事)、語彙の小テスト (2)
4	Unit L-12 (Part 4:) グラフィック (図表) 問題、Unit L-13 (Review: Parts 1&2)、語彙の小テスト (3)
5	Unit R-11 (Part 7: ダブルパッセージ)、Unit L-14 (Review: Parts 3&4)、語彙の小テスト (4)
6	Unit R-12(Part 7: トリプルパッセージ)、語彙の小テスト (5)
7	Unit R-13 (Part 7: Review(Parts 5&6))、文法の復習、語彙の小テスト (6)
8	Unit R-14 (Part 7: Review(Part 7))、語彙の小テスト (7)
9	TOEIC総合演習 (1)、ネット記事による演習 (1)、語彙の小テスト (8)
10	TOEIC総合演習 (2)、ネット記事による演習 (2)、語彙の小テスト (9)
11	TOEIC総合演習 (3)、ネット記事による演習 (3)、語彙の小テスト (10)
12	TOEIC総合演習 (4)、英語面接練習 (1)、語彙の小テスト (11)
13	TOEIC総合演習 (5)、英語面接練習 (2)、語彙の小テスト (12)
14	TOEIC総合演習 (6)、英語面接練習 (3)、語彙の小テスト (13)

授業外における学習

指示された予習・復習と動画の視聴を必ず行い、e-earning に取り組んでください。また、期限までにビジネスライティングの課題を提出すること。

質問や相談への対応

質問や相談は授業の時でも受けますし、e-mail でも、アポイントを取ってもらって Zoom で行うことも出来ます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

定期試験（面接）	12	英語による模擬就職面接の出来栄で評価
小テスト	50	TEOIC総合演習10%、ネット記事による演習10%、語彙の小テストの合計点30%
上記以外の授業評価	38	TOEIC L&R のスコア30%、e-learning 8%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル500』（朝日出版社）、『TOEIC L&R TEST英単語スピードマスター』（Jリサーチ出版）			
	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集（1～7）（図書館にあります）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日頃から様々な形で出来るだけたくさん英語に接して下さい。

その他・特記事項

特になし

Career English II (G6)

更新日：2023/01/10 08:52:14

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1140D	科目コード	L1140
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において600点台から700点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
2	・ 授業で扱ったCNN Newsに関連する英文記事を探してグループ内で紹介できる。

教授方法

リスニング（ディクテーション）→オーバーラッピング/シャドーイング→グループで内容確認をする。次に、前回の授業で扱ったCNN Newsに関連する英文記事をグループ内で紹介する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や TOEIC S&Wテスト (Speaking) について
2	Unit 1
3	Unit 2, 記事紹介 (Unit 1)
4	Unit 3, 記事紹介 (Unit 2)
5	Unit 4, 記事紹介 (Unit 3)
6	Unit 5, 記事紹介 (Unit 4)
7	Unit 6, 記事紹介 (Unit 5)
8	Unit 7, 記事紹介 (Unit 6)
9	Unit 8, 記事紹介 (Unit 7)
10	Unit 9, 記事紹介 (Unit 8)
11	Unit 10, 記事紹介 (Unit 9)
12	Unit 11, 記事紹介 (Unit 10)
13	Unit 12, 記事紹介 (Unit 11)
14	TOEIC S&Wテストについて (Writing)

授業外における学習

事前学習：Words and Phrases to Study (DefinitionとExamples) を学習する。

音読→スラッシュを入れる→知らない語を調べる。

前回の CNN Newsに関連する英文記事を探す。

事後学習：復習をする。NetAcademyを学習する。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火金のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
音読課題	12	文のまとまりやイントネーション、スピートなどに留意して読むことができるかにより評価する。
その他	38	TOEIC L&R のスコア30%、 e-learning 8%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	English for the Global Age with CNN vol.23（朝日出版社）			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

気を緩めずにコロナ対策に努めること。

Career English II (G7)

更新日：2023/01/10 08:52:15

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1140E	科目コード	L1140
担当教員	前田 文						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において600点台から700点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
---	-----------------------------------

教授方法

主に問題演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンスおよび英語トレーニングの紹介
2	課題1
3	課題2
4	課題3
5	課題4
6	課題5
7	授業内小テストおよび総括
8	課題6
9	課題7
10	課題8
11	課題9
12	課題10
13	課題11
14	授業内小テストおよび総括

授業外における学習

日常的に英語トレーニングに取り組む。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

メールでの質問も受け付ける。

アドレス：maeda.aya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	50%	TOEICテストの類似問題を解き、理解度に応じて評価する。
提出物	12%	宿題や音読データを提出し、その成果や提出状況に応じて評価する。

上記以外の授業評価	38%	TOEIC L&R のスコア30%、 e-learning 8%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 8』 国際ビジネスコミュニケーション協会 2020 ISBN: 978-4-906033-63-8			
	e-learning			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日常的に英語トレーニングに取り組む習慣をつける。

その他・特記事項

特になし

Career English II (G3)

更新日：2023/01/10 08:52:16

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1140F	科目コード	L1140
担当教員	宮崎 ひろ美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において600点台から700点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
2	・ 授業で扱ったCNN Newsに関連する英文記事を探してグループ内で紹介できる。

教授方法

リスニング（ディクテーション）→オーバーラッピング/シャドーイング→グループで内容確認 をする。次に、前回の授業で扱ったCNN Newsに関連する英文記事をグループ内で紹介する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方や TOEIC S&Wテスト (Speaking) について
2	Unit 1
3	Unit 2, 記事紹介 (Unit 1)
4	Unit 3, 記事紹介 (Unit 2)
5	Unit 4, 記事紹介 (Unit 3)
6	Unit 5, 記事紹介 (Unit 4)
7	Unit 6, 記事紹介 (Unit 5)
8	Unit 7, 記事紹介 (Unit 6)
9	Unit 8, 記事紹介 (Unit 7)
10	Unit 9, 記事紹介 (Unit 8)
11	Unit 10, 記事紹介 (Unit 9)
12	Unit 11, 記事紹介 (Unit 10)
13	Unit 12, 記事紹介 (Unit 11)
14	TOEIC S&Wテストについて (Writing)

授業外における学習

事前学習：Words and Phrases to Study (DefinitionとExamples) を学習する。

音読→スラッシュを入れる→知らない語を調べる。

前回の CNN Newsに関連する英文記事を探す。

事後学習：復習をする。NetAcademyを学習する。

質問や相談への対応

非常勤講師控室（火金のみ）またはメールで対応します。

メールアドレス：miyazaki.hiromi@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践（発展）できるかに応じて評価する。
音読課題	12	文のまとまりやイントネーション、スピートなどに留意して読むことができるかにより評価する。
その他	38	TOEIC L&R のスコア30%、 e-learning 8%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	English for the Global Age with CNN vol.23（朝日出版社）			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・遅刻は15分までとします。（遅刻3回で欠席1）
- ・音楽、ネット動画、なんでも構わないので、授業以外の場でも（趣味の範疇で結構です）英語を読んだり聞いたり口ずさんだりしてください。

その他・特記事項

気を緩めずにコロナ対策に努めること。

Career English II (G1)

更新日：2023/01/10 08:56:06

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1140G	科目コード	L1140
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、TOEIC L&R、TOEIC Writing、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修およびビジネスシーンにおいて役立つ英語力を養うために、英語の4技能を総合的に強化し、TOEIC L&R の出題傾向に即した問題演習を行う。TOEIC L&R において600点台から700点台のスコアに相当する英語力を身につけるとともに、英語を用いた様々な活動を通じて、将来のキャリア形成における可能性を広げる。

到達目標

1	・TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
2	・eLearning教材等を計画的に活用し、自律学習の姿勢を養う。
3	・TOEIC Writingにおいて150点以上を取る実力が身についている。

教授方法

eLearningの自主的な活用に加え、ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、受講生の積極的なアウトプットが求められる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	「精選模試R2_TEST 3」 Part 7の問題演習(1), TOEIC Writing 写真描写(1)
2	「精選模試R2_TEST 3」 Part 7の問題演習(2), TOEIC Writing 写真描写(2)
3	「精選模試R2_TEST 3」 Part 7の問題演習(3), TOEIC Writing 写真描写(3)
4	「精選模試R2_TEST 4」 Part 5-6の問題演習, , TOEIC Writing 写真描写(4)
5	語彙テスト(1), TOEIC Reading、Writing のミニテスト(1)と解説
6	「精選模試R2_TEST 4」 Part 7の問題演習(1), TOEIC Writing Email(1)
7	「精選模試R2_TEST 4」 Part 7の問題演習(2), TOEIC Writing Email(2)
8	「精選模試R2_TEST 4」 Part 7の問題演習(3), TOEIC Writing Email(3)
9	語彙テスト(2), 「精選模試R2_TEST 5」 Part 5-6の問題演習, TOEIC Writing Email(4)
10	語彙テスト(3), TOEIC Reading、Writing のミニテスト(2)と解説
11	「精選模試R2_TEST 5」Part 7の問題演習(1), TOEIC Writing Essay(1)
12	「精選模試R2_TEST 5」Part 7の問題演習(2), TOEIC Writing Essay(2)
13	「精選模試R2_TEST 5」Part 7の問題演習(3), TOEIC Writing Essay(3)
14	語彙テスト(4), TOEIC L&R 解法ポイントの整理

授業外における学習

毎回の授業内容について、テキストを中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。さらにeLearningは、授業内容と連動させたスケジュールで概ね取り組むこと。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
eLearning(ALC)	8	指定された条件下でのeLearningの取り組みを評価	

eLearning ポイント 整理	7	振り返り学習の過程および成果を評価
ミニテスト(40)と定期テスト(30)	70	TOEIC L&Rへの対応力を評価 (定期テストはTOEIC-IP版)
語彙テスト	15	語彙の習得度を評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC®テスト新形式精選模試リーディング2 (中村紳一郎 監修、ジャパンタイムズ出版、ISBN 978-4-7890-1720-6) ・ TOEIC(R)L&R TEST英単語スピードマスター (第3版) (Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744) [以上2冊]			
	・ TOEIC®テスト新形式精選模試シリーズで指定テキスト以外のもの。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

2023年2月および将来におけるTOEIC L&RおよびS&Wの受験を見据え、自学習を充実させるために必要な学習サイクルを身につけてください。

その他・特記事項

教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。試験等では対面参加が必要な場合がある。

Academic English for Global Mobility II (G1)

更新日：2023/03/15 05:53:24

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1150A	科目コード	L1150
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, group presentation, TOEIC S&W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as discussing sales figures and talking about money, planning business trips, and describing trade shows and future plans. Students will write a script for a presentation, give a group presentation about a project, service, or product, and respond to listeners' questions at a student trade show. TOEIC Speaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	Talk about business situations
2	Write a script for a presentation about a project, service, or product
3	perform a group poster presentation including answering listeners' questions
4	understand how to answer TOEIC S & W questions

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a project presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases
2	Textbook Unit 7, Trade Show Q & A language
3	Textbook Unit 7, project teams prepare answers to questions about project
4	Textbook Unit 7, practice Q & A about project presentations
5	Textbook Unit 10, Trade Show simulation, feedback to another team, Trade Show language test
6	Textbook Unit 10, teams respond to feedback
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations
8	Textbook Unit 10, TOEIC S & W practice
9	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
11	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
12	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice
13	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice
14	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Assignments will be turned in on time, before class begins.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to make an appointment, ask during class, or send an email.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

4 skills	40	Textbook assignments and test
Speaking and presentation	40	Trade Show group presentation, preparation, and Trade Show language test
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing preparation
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
Required	Communication Spotlight: Business 2	ABAX ELT Publishers	2nd Printing 2022	Buy in Coop

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility II (G2)

更新日：2023/01/10 08:52:17

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1150B	科目コード	L1150
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, group presentation, TOEIC S&W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, discussing bank services, and dealing with complaints. Students will write a script for a presentation, give a group presentation about a service, or a community project, and respond to listeners' questions at a student trade show. TOEIC Speaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	write a script for a service or project presentation,
3	perform a group presentation including answering listeners' questions,
4	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
14	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Assignments will be turned in on time, before class begins.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Feel free to email the instructor at any time. If you want to make an appointment ask during class or send an email. In addition you may contact the instructor us

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

4 skills	40	Textbook assignments and test
Speaking and presentation	40	Trade Show group presentation and preparation
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility II (G3)

更新日：2023/01/10 08:52:18

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1150C	科目コード	L1150
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, discussing bank services, and dealing with complaints. Students will write a script for a presentation, give a group presentation about a service, or a community project, and respond to listeners' questions at a student trade show. TOEIC Speaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a service or project presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.
---	---

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
14	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice

授業外における学習

There are assignments for every class. Students should complete all homework assignments, study the target vocabulary and phrases as well as prepare for class and group discussions and presentations.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
4 skills	40%	textbook assignments and test
4 skills	20%	TOEIC Speaking & Writing preparations

speaking	40%	Trade Show group presentation
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should do all preparation work for class. They are expected to come to class ready to participate in all classroom activities. They should also be ready to support and encourage each other.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility II (G4)

更新日：2023/01/10 08:52:19

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1150D	科目コード	L1150
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, group presentation, TOEIC S&W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, discussing bank services, and dealing with complaints. Students will write a script for a presentation, give a group presentation about a service, or a community project, and respond to listeners' questions at a student trade show. TOEIC Speaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a service or project presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.
---	---

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice
14	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Assignments will be turned in on time, before class begins.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Feel free to email the instructor at any time. If you want to make an appointment ask during class or send an email. In addition you may contact the instructor us

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
4 skills	40	Textbook assignments and test
Speaking and presentation	40	Trade Show group presentation and preparation

4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility II (G5)

更新日：2023/03/08 19:58:33

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1150E	科目コード	L1150
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as discussing sales figures and talking about money, planning business trips, and describing trade shows and future plans. Students will write a script for a presentation, give a group presentation about a project, service, or product, and respond to listeners' questions at a student trade show. TOEIC Speaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations
2	write a script for a presentation about a project, service or product
3	perform a group poster presentation including answering listeners' questions
4	understand how to answer TOEIC S & W questions

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a project presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases
2	Textbook Unit 7, Trade Show Q & A language
3	Textbook Unit 7, project teams prepare answers to questions about project
4	Textbook Unit 7, practice Q & A about project presentations
5	Textbook Unit 10, Trade Show simulation, feedback to another team, Trade Show language test
6	Textbook Unit 10, teams respond to feedback
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations
8	Textbook Unit 10, TOEIC S & W practice
9	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
11	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
12	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice
13	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice
14	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
4 skills	40%	Textbook assignments and test	

4 skills	20%	TOEIC Speaking & Writing preparations
speaking	40%	Trade Show group Trade Show group presentation and Trade Show language test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	Students will write in their textbooks and use it in every lesson.			
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
Required	Communication Spotlight: Business 2	ABAX ELT Publishers; 2nd Printing	2022	buy in the Coop
	-			

参考書・参考資料等

-

受講生に望むこと

Students should do all preparation work for class. They are expected to come to class ready to participate in all classroom activities. They should also be ready to support and encourage each other.

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility II (G6)

更新日：2023/01/10 08:52:22

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1150F	科目コード	L1150
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, elevator talk, group presentation, TOEIC S & W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and analyzing advertising. Students create and describe a service, or community project in order to prepare for a student trade show. They will give an Elevator Pitch and make a group presentation. TOEIC Speaking and Writing skills will be explained and practiced.

到達目標

1	talk about business situations,
2	plan a service or product,
3	write and perform an Elevator Pitch,
4	prepare a group presentation about a product,
5	understand TOEIC S & W questions.

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the trade show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course, Trade Show, and textbook Unit 2
2	Crowdfunding assignment
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment
4	Textbook Unit 2, Product development assignment
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 4, begin product teams
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback
13	Product teams use feedback to finish presentation
14	Product team presentations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

Textbook assignments	40	Textbook assignments (listening, writing, grammar) and test
Trade show preparation	40	Trade Show preparation, describe a product, elevator pitch, group presentation
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments
-	-	-
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 2, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

-

Academic English for Global Mobility II (G7)

更新日：2023/03/15 05:54:39

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1150G	科目コード	L1150
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, group presentation, TOEIC S&W, business English

授業の概要

This course teaches English communication for business situations such as discussing sales figures and talking about money, planning business trips, and describing trade shows and future plans. Students will write a script for a presentation, give a group presentation about a project, service, or product, and respond to listeners' questions at a student trade show. TOEIC Speaking and Writing skills are explained and practiced.

到達目標

1	Talk about business situations
2	Write a script for a presentation about a project, service, or product
3	perform a group poster presentation including answering listeners' questions
4	understand how to answer TOEIC S & W questions

教授方法

Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a project presentation for the Trade Show.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases
2	Textbook Unit 7, Trade Show Q & A language
3	Textbook Unit 7, project teams prepare answers to questions about project
4	Textbook Unit 7, practice Q & A about project presentations
5	Textbook Unit 10, Trade Show simulation, feedback to another team, Trade Show language test
6	Textbook Unit 10, teams respond to feedback
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations
8	Textbook Unit 10, TOEIC S & W practice
9	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
10	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
11	Textbook Unit 5, TOEIC S & W practice
12	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice
13	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice
14	Textbook Unit 11, TOEIC S & W practice

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Assignments will be turned in on time, before class begins.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to make an appointment, ask during class, or send an email.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

4 skills	40	Textbook assignments and test
Speaking and presentation	40	Trade Show group presentation, preparation, and Trade Show language test
4 skills	20	TOEIC Speaking & Writing preparation
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
Required	Communication Spotlight: Business 2	ABAX ELT Publishers	2nd Printing 2022	Buy in Coop

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

フランス語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:32

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1170A	科目コード	L1170
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

フランス語、フランス文化

授業の概要

フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする。まず発音記号、綴りと発音を学び、フランス語特有の母音や綴りに慣れる。次に日常的な会話表現を学んでゆく。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で名詞・形容詞・所有形容詞・冠詞およびその性数、規則動詞と代表的な不規則動詞の変化を学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。

到達目標

1	フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする
---	--

教授方法

授業は演習形式。宿題を課し、授業中に答え合わせをする。

予習を前提に、授業では発音の練習、例文のロールプレイ、練習問題などを通じて、できるかぎり授業中にフランス語を運用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	発音記号、綴りと発音
2	挨拶、別れの挨拶
3	自己紹介、挨拶（夕方）
4	ある人についてたずねる（1）、名前の綴り
5	名前・職業・住所についてたずねる・言う
6	自分の仕事について話す
7	やりたい職業を言う
8	国籍をたずねる、何語を話すか言う（1）
9	ある人についてたずねる（2）、知らないという
10	何かを示す、何語を話すか言う（2）
11	好きなものを言う、好き嫌いの程度を言い表す（物について）
12	どちらが好きか言う何をするのが好きか言う
13	好き嫌いの程度を言い表す（行動について）
14	したいことについて話す好みを説明する

授業外における学習

適宜予習や復習を課す。

質問や相談への対応

他の受講生の参考になるので、質問がある場合はできるだけ授業中に質問すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	授業で学んだ表現を正しい発音および文法で運用できること
小テスト	30	単語の意味および綴りと発音の関係が理解できていること

平常点	30	宿題、授業態度、など
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	斉藤昌三, 『<<新版>> ル・フランス (Le Français Nouvelle édition)』 白水社, 1750円			
	なし。会話については授業中にプリントを配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フランス語やフランス語圏の文化・歴史に関心があること。

その他・特記事項

なし

フランス語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:33

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1180A	科目コード	L1180
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

フランス語、フランス文化

授業の概要

フランス語Ⅰで得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。具体的には、時間、曜日、予定、謝る、場所、趣味・余暇、頻度、習慣、家族、過去の出来事、どこに行ったのか、だれかを誘う、断る、交通手段を尋ねるなどの表現を学ぶ。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で、疑問詞、前置詞、複合過去、複合過去における性数一致について学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。

到達目標

1	フランス語Ⅰで得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。
---	---

教授方法

授業は演習形式。宿題を課し、授業中に答え合わせをする。

予習を前提に、授業では発音の練習、例文のロールプレイ、練習問題を通じて、できるかぎり授業中にフランス語を運用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

フランス語Ⅰをすでに履修していること。

授業計画

1	どちらが好きか理由を述べる、人を描写する
2	年齢を言う、科目・時間割について話す
3	持っているものについて話す、物を借りる
4	謝る、ある場所について説明する
5	ある場所についての情報を求める
6	何をするのか尋ねる、答える
7	何をするのか尋ねる、詳しくきく
8	趣味・余暇の過ごし方について話す、態度を示す
9	習慣について話す、家族について話す
10	過去の出来事について語る
11	どこに行くか尋ねる、答える
12	時間を尋ねる・答える
13	どこに行ったのか詳しく話す、できることとするべきことを言う
14	だれかを何かに誘う・誘われる、交通手段について尋ねる

授業外における学習

適宜予習や復習を課す。

質問や相談への対応

他の受講生の参考になるので、質問がある場合はできるだけ授業中に質問すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	授業で学んだ表現を正しい発音および文法で運用できること
小テスト	30	単語の意味および綴りと発音の関係が理解できていること
平常点	30	宿題、授業態度など

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	齊藤昌三『《新版》 ル・フランセ (Le Français Nouvelle édition)』白水社, 1750円			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フランス語やフランス語圏の文化・歴史に関心があること。

その他・特記事項

3～4年向けの「グローバル教養ゼミ」でフランス語を引き続き学習したい学生は、2年次にフランス語を履修することを勧める。

ドイツ語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:34

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1190A	科目コード	L1190
担当教員	浜 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ドイツ語、文法、会話、ドイツ語圏の文化

授業の概要

英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用すること（「読み、書き、聞き、話す」こと）ができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得します。ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指して、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。

また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、さらにドイツ語に対する理解を深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。

到達目標

1	・日常生活レベルの「語彙力」を身につけ、正しい「発音」ができるようになる。
2	・ドイツ語運用の基本となる「文法」を習得する。
3	・ドイツ語を使った簡単な自己紹介、買い物、道案内など、日常生活に必要な表現を「話し、聞き、書き、読んで理解する」ことができるようになる。（2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」を合わせて受講することで、ドイツ語技能検定試験4級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける。）
4	・ドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。

教授方法

教科書や補助プリントに沿って文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、パートナー会話練習などを通して運用練習を行います。随時課題を出し、教師が添削を行うことで学習をサポートしていきます。また映像視聴や単語テストにより語彙力を養い、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション／アルファベット・発音の基礎・あいさつ
2	発音（つづき）・数字Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）①
3	Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）②
4	Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）③
5	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）①
6	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）②
7	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）③Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）①
8	Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）②
9	Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）③
10	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）①
11	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）②
12	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）③Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）①
13	Lektion 5『チューリヒの町で』（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）②
14	Lektion 5『チューリヒの町で』（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）③

授業外における学習

- ①授業で学習した内容は、次回までにしっかり復習をしてください。
- ②教科書添付のCDやストリーミングを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返し行ってください。
- ③出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。
- ④理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことは、次回の授業の際に、あるいはメールですぐに質問してください。

質問や相談への対応

質問があればなるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問時間を取りたい方は相談に応じますので、遠慮なく申し出てください。また、メールでの質問はいつでも大歓迎です！（メールアドレス：mailuft@po30.lcv.ne.jp または hama.yasuko@u-nagano.ac.jp）

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価
課題提出	30%	出された宿題を期限までに提出し、丁寧に取り組んでいるかどうかで評価
小テスト	30%	単語テスト、各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価
学習に対する取り組み姿勢	10%	授業において積極的に発声や発話をしているかどうか、また授業や家庭学習において、明らかになった疑問に対し解決の努力をしているかどうか、問題があれば積極的に質問をしているかどうかなどで評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			
	清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社、2014年初版、1,300円＋税（ISBN：978-4-560-08656-8）※独和辞典については、授業初回で紹介いたします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・本授業の受講者は2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」を続けて受講することが望ましいです。（教科書後半部は「Ⅱ」で扱います。）
- ・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。
- ・授業には必ず辞書を持参してください。（独和辞典については初回の授業で紹介いたします。）

その他・特記事項

- ・「授業計画」に記載した進度は、受講生の理解度などにより多少変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ・この授業の内容は、2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」に続きます。（「ドイツ語Ⅱ」においても同じ教科書を継続して使用します。）

ドイツ語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:35

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1200A	科目コード	L1200
担当教員	浜 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ドイツ語、文法、会話、ドイツ語圏の文化

授業の概要

1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」に続き、英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用すること（「読み、書き、聞き、話す」こと）ができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得していきます。

ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指し、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。

また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、さらにドイツ語に対する理解を深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。

到達目標

1	・日常生活レベルの「語彙力」を身につけ、正しい「発音」ができるようになる。
2	・ドイツ語運用の基本となる「文法」を習得する。
3	・「ドイツ語Ⅰ」に続き、さらにいろいろなニュアンスを加えた表現や、過去の表現に至るまで、日常生活に必要な様々な表現を「話し、聞き、書き、読んで理解する」ことができるようになる。（1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」から続けて受講することで、ドイツ語技能検定試験4級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける。）
4	・ドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。

教授方法

教科書や補助プリントに沿って文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、パートナー会話練習などを通して運用練習を行います。随時課題を出し、教師が添削を行うことで学習をサポートしていきます。また映像視聴や単語テストにより語彙力を養い、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

必ず1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」を履修した後、本授業を履修してください。（本授業は「ドイツ語Ⅰ」からの続きの内容となります。）

授業計画

1	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）①
2	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）②
3	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）③
4	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）①
5	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）②
6	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）③Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）①
7	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）②
8	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）③
9	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）④Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）①
10	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）②
11	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）③
12	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）④Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）①
13	Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）②
14	Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）③

授業外における学習

- ①授業で学習した内容は、次回までにしっかり復習をしてください。
- ②教科書添付のCDやストリーミングを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返し行ってください。
- ③出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。
- ④理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことは、次回の授業の際に、あるいはメールですぐに質問してください。

質問や相談への対応

質問があればなるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問時間を取りたい方は相談に応じますので、遠慮なく申し出てください。また、メールでの質問はいつでも大歓迎です！（メールアドレス：mailuft@po30.lcv.ne.jp または hama.yasuko@u-nagano.ac.jp）

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価
課題提出	30%	出された宿題を期限までに提出し、丁寧に取り組んでいるかどうかで評価
小テスト	30%	単語テスト、各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価
学習に対する取り組み姿勢	10%	授業において積極的に発声や発話をしているかどうか、また授業や家庭学習において、明らかになった疑問に対し解決の努力をしているかどうか、問題があれば積極的に質問をしているかなどで評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			
		清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社、2014年初版、1,300円＋税（ISBN：978-4-560-08656-8）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・本授業を履修する際は、必ず1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」を受講した後にしてください。（教科書前半部は「Ⅰ」で扱います。）
- ・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。
- ・授業には必ず辞書を持参してください。（「ドイツ語Ⅰ」初回授業で紹介）

その他・特記事項

- ・「授業計画」に記載した進度は、受講生の理解度などにより多少変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ・教科書は、1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」で使用したものを継続して使用します。

中国語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:36

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1210A	科目コード	L1210
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キーワード

中国語の基礎文法、拼音字母、声調（四声）

授業の概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象に初期段階で必要な発音と基本文法事項・語彙を学習する。拼音字母の発音、声調、音節の発音に習熟することをはじめとして、聞く、話す、読む、書くの4つの能力にわたる中国語の基礎学力を身につける。基礎文法については、豊富な例文を取り上げ、繰り返し練習問題に取り組むことで要点の理解を進める。また、例文については音読し、暗唱できるようにする。最後には学習した文型を使いながら、自己紹介ができるようにする。

Chinese I

到達目標

1	到達目標拼音字母で表記された音声を正確に発音することができ、また、拼音字母によって表記された単語や短文を簡体字に直したり、日本語訳ができる。更に基礎的な文法を用いた簡単な会話や自己紹介ができるようにする。
---	--

教授方法

講義形式で発音や基礎文法を分かりやすく説明した後、繰り返し練習を行う。単語や例文については数名で組になって練習を行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、受講者は語学教材のCDなどを用いて、書き取りや中文和訳を行うとともに、短文を暗唱し、発表する。発音のチェック、文法の理解度を確認しながら、授業を進めることで基礎的な学力を身につける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	中国語とは。簡体字、拼音字母、文法の特徴。発音1：音節、声調、単母音、複母音
2	発音2：子音、鼻母音、er化
3	発音3：声調変化、声調の組み合わせ、日常の挨拶
4	発音4：中国語基本音節表、漢詩「登鶴雀樓」を読む
5	第1課 「你好!」簡単なあいさつ、名前の言い方、「是」構文
6	第1課 「你好!」"吗"を使う疑問文、出身地の言い方、副詞"都"
7	第2課 "这是谁的课本?"、指示代名詞、疑問詞"谁"
8	第2課 "这是谁的课本?"、助詞"的"、語気助詞"呢"、副詞"也"
9	第3課 "今天几号?"、数の言い方、数量名詞述語文、年齢の聞き方
10	第3課 "今天几号?"、年月日、曜日の言い方、聞き方
11	第4課 "我们去哪儿?"、動詞述語文、正反疑問文、場所の表現、語気助詞"吧"
12	第4課 "我们去哪儿?"、数の聞き方、お金の単位、動詞句を目的語に取れる動詞
13	第5課 "今天下午天气怎么样?"、形容詞述語文、程度副詞、時間の言い方
14	第5課 "今天下午天气怎么样?"、程度の聞き方、助詞"的"②、量詞

授業外における学習

事前に教科書を予習し、分からない単語は調べ、教科書の発音（ダウンロードする）で発音の予習を行っておく。事後には、学習した単語や構文を復習し、本文を暗唱すること。

質問や相談への対応

授業中や授業後に適宜質問・相談を受け付ける。遠慮なく質問してほしい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、語彙、基本文法事項や中文和訳などについて理解できているか問う問題とし、その点数で評価する。
口頭発表、レポート	20	最後の時間に自己紹介をひとりずつ発表するとともに、その内容を簡体字で記述したレポートを提出し、その出来栄で評価する。
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取り組みを全体的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』（中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ・曹泰和監修、郁文堂、2500円+税）			
	授業時に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

例文の発音や練習問題など、恥ずかしがらずに大きな声を出して発声するようにしてほしい。また、こまめに辞書を引くようにしてほしい。

その他・特記事項

辞書を紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。

中国語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:37

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1220A	科目コード	L1220
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

中国語の基礎的な文法、中文和訳、簡単な中国語の会話

授業の概要

この授業では、「中国語Ⅰ」で学んだ初期段階の発音と基本文法事項・語彙についての復習を交えつつ、一段階進めて多くの語彙や呼応関係、文法事項を学ぶ。特に日常生活や中国旅行など、実際の場面で役立つ例文を豊富に学習し、繰り返し練習問題に取り組むことで理解を進める。音読練習、暗唱を盛り込み、頭で理解するだけでなく、中国語の音を体で感じながら、発音と構文を一体として習得する。二人組みでの会話の発表などを通じて実践的な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。

Chinese II

到達目標

1	「中国語Ⅰ」で学んだ基礎知識を再度復習しながら、さらにさまざまな言い回しや一歩進んだ文法事項について学び、簡単な表現について和文中訳ができるようにする。会話文と文章とを交えて様々な中国語表現を学んで身につける。簡単な中国語でのコミュニケーションができるようになる。
---	--

教授方法

発音や基礎文法を丁寧に分かりやすく説明した後、繰り返し練習を行う。2人組みになって、発音や会話の練習などを行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、受講者は語学教材の録音などを用いて復唱したり、聞き取って書き取る練習を適宜取り入れることによって、中国語の音を感じて理解するように図りたい。受講者は中文和訳を行うとともに、短文を暗唱し、2人組みになって会話を発表する。発音のチェック、文法の理解度を確認しながら、授業を進めることで中国語による簡単なコミュニケーション能力を身につける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

原則として「中国語Ⅰ」を履修してから、履修すること。

授業計画

1	発音の復習、「中国語Ⅰ」の文法の復習
2	第7課「今天太热了！」：比較構文①、比較構文②、比較構文③
3	第7課「今天太热了！」：同程度を表す構文、仮定の言い方、並列の言い方
4	第8課「我已经到池袋了」：実現を表す助詞“了”、変化を表す“了”、いろいろな副詞
5	第8課「我已经到池袋了」：連動文、“先...然后...”
6	第9課「李丽在家吗？」：存在を表す動詞“在”、時間の言い方
7	第9課「李丽在家吗？」：二重目的語構文、介詞“给”
8	第10課「你去过中国吗？」：経験を表す“过”、“是...的”構文
9	第10課「你去过中国吗？」：疑問詞“怎么”、介詞“在”
10	第11課「明天就是文化节了」：語気助詞“呢”、様態補語
11	第11課「明天就是文化节了」：並列の言い方“一边...一边...”
12	第12課：「离机场还有多远？」：時間量の言い方、概数の言い方、禁止の言い方
13	第12課：「离机场还有多远？」：介詞“离”、介詞“从”、“到”
14	私のある一日について言ってみよう！

授業外における学習

予習時に、新出単語を辞書で調べ、本文を理解し、ダウンロード教材で発音練習を行ってほしい。また、授業後には授業で学んだ内容を復習し、できるだけ暗唱してほしい。

質問や相談への対応

授業中や授業後に適宜質問を受け付けたい。できるだけその場で答えるようにするが、場合によっては次回までに回答を準備することもある。遠慮なく質問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、語彙、基礎文法事項や中文和訳などについて理解できているかを問う問題とし、その点数で評価する。
口頭発表、レポート	20	最後の時間に「ある一日の過ごし方について口頭で一人ずつ発表するとともに、内容を簡体字と拼音で記述したレポートを提出する。
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取り組みを全般的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ、曹泰和監修、郁文堂、¥2500+税			
	参考書や辞書については授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

発音したり、他の学生の前に出て会話を発表したりするのを恥ずかしがらず、積極的に行ってほしい。

その他・特記事項

辞書を授業時に紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。

スペイン語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:37

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1230A	科目コード	L1230
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スペイン語。入門。会話。

授業の概要

スペイン語の入門クラス。スペイン語理解の基礎として、アルファベット、発音、アクセント、数詞、規則動詞、ser動詞、estar動詞、名詞の性と数、冠詞、形容詞、不規則動詞、疑問詞、数字、時刻、前置詞などを講義する。講義した文法事項を踏まえて「聴く」「話す」訓練を行う。

到達目標

1	初めてスペイン語を学ぶ学生を対象とする。初歩的な文法事項を理解し、簡単な自己紹介や旅先で買い物できる程度の会話力、看板やレストランのメニューを理解する程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A1程度の語学力を習得することを目標とする。
---	---

教授方法

文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	講義：Unitad 1 アルファベット、発音、アクセント
2	演習：国、挨拶、数字
3	講義：Unitad 2 人称代名詞、名詞の性と数、ser動詞
4	演習：国籍、職業、自己紹介
5	講義：Unitad 3 冠詞、所有詞、形容詞、estar動詞
6	演習：都市、大学
7	文法事項の復習、中間試験、映像鑑賞
8	講義：Unitad 4 動詞の現在形、疑問詞、時刻
9	演習：時刻と曜日、日常生活
10	講義：Unitad 5 指示詞、所有詞、不規則動詞
11	演習：家族の紹介
12	講義：Unitad 6 hayの用法、不定詞
13	演習：旅行の計画
14	全体のまとめ、期末試験、映像鑑賞

授業外における学習

事後学習：Glexaによる課題

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	
中間試験	30	
期末試験	60	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español①』（2018年、朝日出版社）。生協で購入。履修を迷っている学生は授業が始まってからでも大丈夫です。			
	宮本博司（編）『改訂版 スペイン語ミニ辞典』（2003年、白水社）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。

その他・特記事項

テキストは必ず入手してください。辞典は意欲的に学習したい人だけで大丈夫です。

スペイン語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:38

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1240A	科目コード	L1240
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スペイン語。初級。作文。

授業の概要

スペイン語の初級クラス。複雑な文を理解するために、前置詞を伴う人称代名詞、不規則動詞、直接目的人称代名詞、間接目的人称代名詞、大名動詞、接続詞、点過去、線過去などについて講義する。構文を理解することで会話での「聴く」「話す」能力ばかりでなく、メールや雑誌などを「読む」「書く」能力を高める。

到達目標

1	入門程度のスペイン語を習得済みの学生を対象とする。初級程度の文法事項を理解し、スペイン語話者と簡単なやりとりができる程度の会話力、辞書を使いながら易しいスペイン語の読み物を読み進める程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A2程度の文法事項と語彙を習得することを目標とする。
---	---

教授方法

文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「スペイン語Ⅰ」の単位を修得した者（滞在経験などから入門的な知識を持つ者）。

授業計画

1	講義：Unidad 7 gustar動詞
2	演習：好み、予定
3	講義：Unidad 8 不規則動詞、直接目的人称代名詞
4	演習：買い物
5	講義：Unidad 9 不規則動詞、間接目的人称代名詞
6	演習：
7	文法事項の復習、中間試験、映像鑑賞
8	講義：Unidad 10 代名動詞、天気
9	演習：祭りや行事
10	講義：Unidad 11 estar動詞の応用、接続詞
11	演習：体調と気分
12	講義：Unidad 12 点過去と線過去
13	演習：今年度のできごと
14	全体のまとめ、期末試験、映像鑑賞

授業外における学習

事後学習：Glexaによる課題

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	
中間試験	30	
期末試験	60	

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español①』(2018年、朝日出版社)。			
	宮本博司(編)『改訂版 スペイン語ミニ辞典』(2003年、白水社)。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。

その他・特記事項

「スペイン語Ⅰ」のテキストを続けて使用します。辞典は意欲的に学習したい人だけで大丈夫です。

日本語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:39

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1250A	科目コード	L1250
担当教員	二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

日本語の基本、日本語文法、日本語の語彙、漢字学習

授業の概要

留学生在が日本語で口頭発表したり1,200字程度のレポートを書いたりするために必要な知識として、日本語の文法および語彙の基本的な学習を行う。文法については、品詞の知識と文章上での単語の使い方を中心に学習を進め、正しい日本語の組み立て方を理解する。語彙については、普遍性の高い言葉を学ぶために新聞記事などを取り上げ、その読解および要約を通して知識を習得する。担当者による講義以外に、受講生にプレゼンテーションや課題作文を実施することによって、より実践的な日本語運用能力を身に付けることを目指す。それと併せて、BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上（480点以上でJLPTのN1におおむね相当する）獲得できるスキルも養成する。

【ねらい】

日本語の基本的な文法と語彙に関する知識を学ぶ。

到達目標

1	BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上獲得できる実用的な日本語運用能力を習得できる。
---	---

教授方法

授業はすべて日本語で行います。授業中は日本語で発言するようにしてください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

JLPTを受験したことがある、もしくは将来的に受験する予定であること。日本語Ⅰを履修後、続けて日本語Ⅱも履修すること。

授業計画

1	日本語の文の法則—文節と品詞について—
2	主語の使い分け—格助詞「が」と係助詞「は」の違い—
3	動作を表すニュアンス—自動詞と他動詞—
4	連用修飾の多様性—副詞の種類—
5	文脈のつながり—接続詞の種類—
6	距離感の表し方—指示代名詞の使い方—
7	受け身の表現—助動詞「れる」「られる」
8	使役の表現—助動詞「せる」「させる」
9	敬語の種類—尊敬語・謙譲語・丁寧語—
10	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く①
11	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く②
12	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く③
13	受講生によるプレゼンテーション—正しい日本語で自己表現をする—
14	受講生による日本語作文—1,200字程度の文章を書く—

授業外における学習

事前学習：教科書の予習および授業中に与えられた宿題は必ず準備してきてください。

事後学習：授業中に習った日本語の語彙・漢字や文法などの知識については、毎回必ず復習して覚えてください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はメールやポータルなどを利用してご連絡ください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
レポート	50	何度か日本語の課題作文（400字程度）を提出してもらい、その内容で評価します。
小テスト	30	日本語運用能力を試す小テストを受験し、獲得点数に応じて評価します。
発表（プレゼン）	20	テーマを設定して日本語で発表（プレゼン）してもらいます。適切な日本語を用いた表現ができているかどうかで評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	毎回、授業で提示します。			
	必要に応じて提示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業には、必ず国語辞典（電子辞書可）を用意してください。

その他・特記事項

授業には必ず参加してください。授業以外でも日本語の文章を積極的に読むように心がけてください。

日本語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:40

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1260A	科目コード	L1260
担当教員	谷口 真由実, 二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

留学生向け日本語、日本語の語彙・文法、意見を短文にまとめる

授業の概要

「日本語Ⅰ」を履修した外国人留学生を対象とした授業とする。日本語の語彙や文法についての基礎知識を確認しながら、幅広いテーマについて書かれた本文を読んで内容を把握し、ディスカッションを行なって理解を深める。次に本文について要旨や感想、意見を短文にまとめ、学生同士互いに批評し合っさらに手直しし提出する。これらの過程を通して「聞く・話す・読む・書く」の4つの能力にわたって総合的な力を身につける。最後に、本文のテーマに沿ったレポートを書き、明解な文章を作成する力を養う。

Japanese Language

到達目標

1	すでに学んできた日本語の語彙や文型、文法を基礎として日常的な場面で必要な日本語の理解に加えて、より広い場面で使われる日本語を理解することができる能力を身につける。幅広い話題について書かれた記事や簡単な評論を読んで内容を理解したり、自分の意見を述べたり、書いたりできることを目標とする。
---	--

教授方法

演習形式で行う。まず教科書の各課の本文を読み、内容を把握する。次に本文についてディスカッションを行うことで、理解を深める。その後、本文について各自の感想や意見を短文にまとめ、グループで互いに批評しあう（ピアレスポンス）。最後に他人の意見を踏まえ、文章を手直しして提出する。実践的な練習を通して、コミュニケーションを円滑に行う能力と文章を書く力を養う。言葉の背景である日本の文化や話題になっている時事についても、適宜授業の中に織り込む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「日本語Ⅰ」を履修していること。

授業計画

1	「新たな出会い」（印象的に自己紹介する）
2	「時間を生かす」（時間の使い方についての情報をやりとりする）
3	「緊急事態」（緊急事態が起こって経験したことについて話す）
4	「世代を超えた交流」（故郷や住んだことのある場所やそこでの生活を紹介する）
5	「言葉を楽しむ」（日本語表現と自国の表現を比べる）
6	「ライフスタイル」（様々な人のライフスタイルを知り、自分自身の考えや経験と比較する）
7	「トレンドに乗ってつながる」（社会の流行やトレンドの中から興味のあるものを取り上げる）
8	「情報社会に生きる」（情報やメディアについての自分の意見を述べる）
9	「学校生活」（学校事情についての各国の違いや自身の経験を述べる）
10	「働くということ」（自分の将来について考えるため仕事に対する考えを周囲と共有する）
11	「地球に生きる」（環境について問題になっていること、環境のためにできることを述べる）
12	「科学の力」（科学技術に関する課題に触れ、科学が社会に果たす役割を考える）
13	「豊かさ幸せ」（豊かさについての多様な価値観を知り、自分の考えを客観的に振り返る）
14	レポートを書く

授業外における学習

本文の予習、及び事後の課題作文を作成し、提出すること。

質問や相談への対応

授業時間や時間後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	学習した語彙、文法などが理解できているか、漢字の書き取りができるか、またテーマに沿った短文が書けるかを問う問題とし、基本的な知識の理解度によって評価する。
小テスト	20	本文の新出の語彙や漢字などについて正確に習得できたかを評価する。
レポート	20	また、本文などについて作文を課し、自分の意見を盛り込んだまとまりのある文章が作成できるかを評価する。
平常点	20	普段、意見を述べたり、ディスカッションやグループでの学習に積極的に参加しているか評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『できる日本語中級』（アルク、嶋田和子監修）3400円			
	授業時に適宜紹介する。し			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ディスカッションなどに積極的に参加してほしい。

その他・特記事項

国語辞典を持参し、適宜引いてみてほしい。授業時間中は、原則としてパソコンやスマホは使用しないこと。

English Lectures on Cultural Issues A

更新日：2023/01/10 08:50:57

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1270A	科目コード	L1270
担当教員	Trane DeVore						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

nature, climate crisis, ecology, natural science, nature and inequality, climate justice, culture and nature

授業の概要

Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important cultural issues. This course will give students the experience of academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of cultural issues that will help them to solve contemporary problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests such as the TOEIC.

到達目標

1	First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending online lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class, watching videos, and studying vocabulary
2	Second, students will develop note-taking skills in order to systematically organize the information they are listening to during the lectures
3	Third, students will demonstrate they have understood the material by analyzing it and developing opinions in small online discussion groups during lecture breaks

教授方法

In order to deepen their knowledge of both the English language and topics under discussion, students will be expected to do preparatory work outside of class, including studying lecture-specific vocabulary lists, reading outside materials, and watching videos. Students will be required to take notes in class and turn in their notes as part of the grade. At the end of each quarter students will demonstrate understanding of course materials in the form of a comprehensive essay-based examination. There will also be several small tests and reading checks to make sure that students understand the materials.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Class orientation, introduction to notetaking strategies; Lecture 1: What is nature?
2	Lecture 2: A history of the idea of nature; changing ideas of nature over time; comparative conceptualizations of nature
3	Lecture 3: Ecology and ecological activism; understandings of ecosystems; Earth Day; Swamp Thing
4	Lecture 4: Earth in crisis 1: Plastic, pollution, pesticides, and the insect apocalypse
5	Lecture 5: The art of nature: Landscape painting and glowing rabbits
6	Lecture 6: The uses and misuses of the idea of evolution; Stephen J. Gould's The Mismeasure of Man
7	Lecture 7: "Well, that's just not natural!" Social control, gender norms, and the idea of 'the natural.'
8	Lecture 8: Earth in crisis 2: The climate crisis, Extinction Rebellion, Greta Thunberg
9	Lecture 9: Rice farming, green deserts, agriculture and biodiversity; sample essay-based examination
10	Lecture 10: Forests and culture, Nausicaa and Mononoke Hime, trees in cultural representation
11	Lecture 11: Ideas about animals; the Great Chain of Being; Descartes; animal consciousness and animal rights
12	Lecture 12: Properties of nature: Who owns nature?
13	Lecture 13: Indigenous ideas of nature, indigenous activists and poetics
14	Lecture 14: Earth in crisis 3: Visualizing a different future; prescriptions for a burning planet

授業外における学習

Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will study vocabulary in order to prepare for lecture. There will be short quizzes and homework checks. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet online please ask the instructor during class sessions or send an email.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Final Exam	50%	Open note final essay exam
Vocabulary assignments	20%	Subject-specific vocabulary assignments related to lecture material (will include quizzes)
Student notes	20%	Student notebooks will be checked and graded
Other	10%	Other class assignments and activities
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Necessary materials will be made available (including online materials). There will be a series of class Sway pages for students to use.			
	Electronic dictionary with good English sample sentences.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should prepare for class by reading all necessary materials, studying required vocabulary, and finishing any other necessary lecture preparation. Students should actively take notes in class and join in discussion activities.

その他・特記事項

-

English Lectures on Social Issues A

更新日：2023/01/10 08:50:56

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1280A	科目コード	L1280
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

-

授業の概要

Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important social issues. This course will give students the experience of attending academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of social issues that will help them to solve contemporary problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests such as the TOEIC.

到達目標

1	First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class, watching videos, and studying vocabulary
2	Second, students will develop their note-taking skills by paraphrasing the information they receive during lecture
3	Third, students will practice communicating their ideas in discussion groups using their notes and other resources

教授方法

Lecture-specific vocabulary lists, news articles and other reading materials, video content, note-taking, comprehensive essay-based examination.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Global Insecurities: introduction to the course
2	Economic Insecurity: global
3	Economic Insecurity: local
4	Climate Change and Environmental Risks
5	Transnational Health Risks
6	Political Polarization
7	Different Form of Violence
8	War in Ukraine
9	Humanitarian Crises and Responses
10	Migration: who's moving and why
11	Migration: the Unites States and EU compared
12	An Uncertain Future: What's next?
13	Inspiring Changes
14	Final comprehensive essay-based examination

授業外における学習

Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will study vocabulary in order to prepare for lecture. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet please ask the instructor in class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students prepare for and understand university level lectures on social issues. Students can develop opinions about what they have learned in lecture and express those opinions clearly in end-of-term in-class essays. Students will expand their knowledge of academic English and subject specific vocabulary related to the lectures.	
評価項目	割合	評価基準
final exam	50%	open-note in-class essay
lecture notes	20%	students' notebooks will be checked and graded
assignments	20%	short presentations and activities based on course content
participation	10%	participation in class discussion and attendance
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	Electronic dictionary with good English sample sentences.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should prepare for class by reading all necessary materials, studying required vocabulary, and finishing any other necessary lecture preparation. Students should actively take notes in class and join in discussion activities.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication I (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:59

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1310A	科目コード	L1310
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency work

授業の概要

Building on the 2-year EPGM framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will develop the four skills for communicative purposes
2	Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List
3	Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	April 11: Introductions, Study Progress Guide (SPG), tour guiding preparation
2	April 18: Textbook check, SPG, TOEIC vocabulary Yes/No test information, tour guiding preparation
3	April 25: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 1
4	May 2: Reading 1 discussion, textbook, SPG
5	May 9: Textbook check, tour guiding preparation, TOEIC vocabulary study
6	May 16: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 2
7	May 23: Reading 2 discussion, textbook, SPG
8	June 13: SPG check, student-instructor conferences, tour guiding preparation
9	June 20: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 3
10	June 27: Reading 3 discussion, textbook, SPG
11	July 4: Textbook check, tour guiding preparation, TOEIC vocabulary study
12	Friday July 8: Nagano City tour for JALT PanSIG 2022 Conference
13	July 18: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 3
14	July 25: Reading 4 discussion, SPG, evaluations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
speaking	40%	Various speaking and discussion activities
4 skills	35%	textbook related activities and completion of the Study Progress Guide
vocabulary	15%	TEOIC Service List independent study
other	10%	other assignments
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 3, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

Contact Richard if you have any questions

Advanced English Communication II (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:01

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1320A	科目コード	L1320
担当教員	Cheryl Kirchoff						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Speaking fluency, goal setting, TOEIC Service List vocabulary

授業の概要

Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users
2	Second, students will use the TOEIC Service List
3	Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement

教授方法

"Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary."

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to Discussion Topic 1, the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets
2	Textbook Unit 5, discussion preparation, SPG
3	Textbook Unit 5, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Textbook Unit 7, information gathering and data collection, SPG
5	Textbook Unit 7, report on information and data, SPG
6	Textbook Unit 7 + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (work-life balance: personal life vs company life, comparing urban and regional Japan), SPG
8	Textbook Unit 8, information gathering & data collection, SPG
9	Textbook Unit 8, report on information and data, SPG
10	Textbook Unit 8, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (sustainable development goals), SPG
11	Textbook Unit 9, information gathering and data collection, SPG
12	Textbook Unit 9, report on information and data, SPG
13	Textbook Unit 9 + Discussion Test, SPG
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG

授業外における学習

Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.

質問や相談への対応

Students can email the instructor.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.		
評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	discussion tests	
4 Skills	35	textbook activities and completion of the Study Progress Guide	
Vocabulary	15	TEOIC Service List independent study	
other	10	other assignments	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication III (A1)

更新日：2023/03/15 05:23:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1330A	科目コード	L1330
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, communication, business English, TOEIC, discussion

授業の概要

Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users
2	Second, students will use the TOEIC Service List
3	Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

Students should have taken any Year 3 English class OR be an advanced user of English with high willingness to communicate. Please contact the instructor if you are unsure or have questions.

授業計画

1	Class orientation. Introduction to Discussion Topic 1, Business Advantage textbook, the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets
2	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
3	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Second textbook unit, information gathering and data collection, SPG
5	Second textbook unit, report on information and data, SPG
6	Second textbook unit + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3, SPG
8	Third textbook unit, information gathering & data collection, SPG
9	Third textbook unit, report on information and data, SPG
10	Third textbook unit, discussion, introduction of Discussion Topic 4, SPG
11	Fourth textbook unit, information gathering and data collection, SPG
12	Fourth textbook unit, report on information and data, SPG
13	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG

授業外における学習

Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to make an appointment, ask during class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.		
評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Discussion tests will be videoed and evaluated	
Vocabulary	15	TOEIC Service List Vocabulary Test	
Textbook	35	textbook activities and completion of the Study Progress Guide	
Other	10	Other activities	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
Required	Business Advantage - Intermediate. Koester, Pitt, Handford, Lisboa	Cambridge University Press	2012	
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication IV (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:02

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1340A	科目コード	L1340
担当教員	Cheryl Kirchhoff						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, communication, business English, TOEIC, discussion

授業の概要

Building on the 2-year EPGM Fluency framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will develop the four skills for communicative purposes
2	Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List
3	Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

Students should have taken any Year 3 English class OR be an advanced user of English with high willingness to communicate. Please contact instructor if you are unsure or have questions.

授業計画

1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1, Business Advantage textbook, introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets
2	First Textbook Unit, discussion preparation, SPG
3	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Second textbook unit, information gathering and data collection, SPG
5	Second textbook unit, report on information and data, SPG
6	Second textbook unit + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3, SPG
8	Third textbook unit, information gathering & data collection, SPG
9	Third textbook unit, report on information and data, SPG
10	Third textbook unit, discussion, introduction of Discussion Topic 4, SPG
11	Fourth textbook unit, information gathering and data collection, SPG
12	Fourth textbook unit, report on information and data, SPG
13	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG
14	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG

授業外における学習

Read, prepare, and do homework before classes. Engage in discussion.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to stop by the instructor's office, or if you want to make an appointment ask during class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	discussion tests
Vocabulary	15	TOEIC Service List vocabulary test
textbook	35	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide
other	10	other assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Advantage - Intermediate, Koester, Pitt, Handford, and Lisboa, Cambridge University Press, 2012			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

-

Advanced Academic English I (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:58

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1350A	科目コード	L1350
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

アカデミックリーディング、アカデミックライティング

授業の概要

英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1, 2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	ノーベル文学賞も受賞したバートランド・ラッセルの『幸福論』を原文で読み、① 高度な英文資料を読みこなす力を身につける。
2	② 内容のかたまりごとに、小見出しを付ける方法を身につける。
3	③ 英文で読んだ内容について意見を述べる力を養う。
4	④ 英文を日本語および英語で要約する力を身につける。
5	⑤ 英文エッセイで自分の意見を書く力を身につける。

教授方法

読解については、文の構造把握、和訳や要約、見出し付けなどの作業を通じて、構文を正しく読み取り、抽象的な内容を具体的に把握し、論の流れと筆者の主張を的確に読み取る力を養う。英文エッセイは、幸福・不幸・平等・不平等・希望・絶望など、やや抽象的なテーマを選んで個々人で書き進めてもらい、教員と、また受講者の仲間同士で質疑応答をしながら仕上げる。分量は英文で500語以上（A4で2枚くらい。もっと長くなって良い）。最後に、ラッセルの幸福論に対する論評を1000～2000語程度の日本語でまとめる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方についての説明、バートランド・ラッセルおよびテキストの紹介。 Academic English とはどのようなものかの解説と練習。文法の基礎の復習。
2	読解などの技術と実践（1）、 Academic Writing の課題と句読法
3	読解の技術と実践（2）、 Academic Writing 技術と演習（頭括型と尾括型）
4	読解の技術と実践（3）、 Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法）
5	読解の技術と実践（4）、 Academic Writing 技術と演習（接続詞と副詞の使い方）
6	読解の技術と実践（5）、 Academic Writing 技術と演習（冠詞の使い方）①
7	読解の技術と実践（6）、 Academic Writing の技術と演習（冠詞の使い方）②
8	読解の技術と実践（7）、 Academic Writing の技術と演習（分詞構文の使い方）①
9	読解の技術と実践（8）、 Academic Writing の技術と演習（分詞構文の使い方）②
10	読解の技術と実践（9）、 Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）①
11	読解の技術と実践（10）、 Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）②
12	読解の技術と実践（11）、 Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）③
13	読解の技術と実践（12）、 Academic Writing の技術と演習（その他の技術）①
14	読解の技術と実践（13）、 Academic Writing の技術と演習（その他の技術）②

授業外における学習

毎回2頁程度は読むので、次回読む部分について、指定された方法（指定された部分の翻訳、要約、見出し付けなど）での予復習を怠りなく行って欲しい。学期末には、14回で読んだ部分に関する日本語の論評（和文で1000～2000字程度）と英文エッセイを仕上げて提出すること。

質問や相談への対応

質問は授業中にどんどんして欲しい。メールでの質問や相談も可。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題1	20	テキストの部分翻訳
課題2	20	テキストの要約
課題3	30	日本語によるテキストの論評15%、小見出し15%
課題4	30	英文エッセイ
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Bertrand Russell, The Conquest of Happiness (Liveright Publishing)			
	必要に応じて、授業で、あるいは OneDrive で提供する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで、能動的に読んで欲しい。

その他・特記事項

特になし

Advanced Academic English II (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:04

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1360A	科目コード	L1360
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

批判的考察、TOEICライティング、メディア英語

授業の概要

英語 4 技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1, 2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	1. メディア英語において、段落の展開を踏まえ、主張の根拠を整理しながら読み解くことができる。
2	2. TOEIC Writingテストにおける170点相当の英語力を身につけ、限られた時間内に根拠を提示しながら一貫性のある主張を伝達できる。
3	3. 英文の推敲において、冗長な表現を避け、意図が明確に伝わるシンプルな英文を書くことができる。

教授方法

専門科目の学修に資する教材を扱う。リーディングからライティングへとつなげるかたちでスキルアップを図るために、指定されたテーマについて、(1) 教師が選定した英文資料の他、受講者が見つけた英文資料も読むことで、多角的な観点から理解する。(2) またインプットした内容を要約して引用し、説得的な英語表現を使って300語エッセイを作成する。(3) 翻訳サイトに依存せず、指定テキストにおける学びのコアとなるシンプルな英文を書く姿勢を身につける。授業では、ペアグループワークを通じてアウトプットの機会を確保する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年次以上に在籍していること

授業計画

1	ガイダンス：シラバス説明、英文ニュース記事の基本、シンプルな英文について
2	メディア英語におけるSVO・SV・SVC ① [指定テキスト第2-3章]
3	メディア英語におけるSVO・SV・SVC ② [指定テキスト第2-3章]
4	TOEIC Writing形式(Email, 300-word Essay)課題 (1)
5	メディア英語における時制・態・助動詞 ① [指定テキスト第4章]
6	メディア英語における時制・態・助動詞 ② [指定テキスト第4章]
7	TOEIC Writing形式(Email, 300-word Essay)課題(2)
8	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ① [指定テキスト第5章]
9	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ② [指定テキスト第5章]
10	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ③ [指定テキスト第5章]
11	TOEIC Writing演習(Email, 300-word Essay) (3)
12	確認テスト (1) (Email・サマリー作成、英文書き換え問題、ショートエッセイ) と解説
13	メディア英語におけるコロケーション・構文の要点整理
14	確認テスト(2) (Email・サマリー作成、英文書き換え問題、ショートエッセイ) と解説

授業外における学習

基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料を学習し、事後学習としてリーディング内容のライティング課題の振り返り学習をすること

質問や相談への対応

授業内で確認できなかったことは大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。適宜、個別面談を設定。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
ライティング課題	60	TOEIC Writingテストに対応できる英作文力の習熟度を測る
確認テスト	40	授業で学習した英語表現力の習得度を測る
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『シンプルな英語』（中山 裕木子, 講談社現代新書, 2021年, ISBN: 978-4065257333) [計1冊]			
	インターネットサイト等を紹介			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日常で英語を読み書きすることを習慣にしてください。

その他・特記事項

- ・コロナ感染防止対策として、ハイフレックス式授業を予定（但し、対面に課題や試験等を行う場合がある）。
- ・教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。

Advanced Academic EnglishIII (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:58

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1370A	科目コード	L1370
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

アカデミックリーディング、アカデミックライティング

授業の概要

英語 4 技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを高める。3年次までに培った学術英語の基礎を土台として、専門科目における学修のトレーニングとして、英語文献の批判的考察を行いながら、自分の主張を英文レポートの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	① 高度に社会的な英文資料を読みこなす英語力と教養を身につける。
2	② 内容のかたまりごとに、小見出しを付ける方法を学ぶ。
3	③ 英文で読んだ内容について、批判的に討論する力を身につける。
4	④ 日本語と英語で、読んだ英文の summary を書く力を養う。
5	⑤ 英文エッセイの形で自分の主張を展開する力を身につける。

教授方法

全員で討論しながら一冊のテキストを読み進める輪読形式。テキストは、「1%の富裕層ではなく、「99%の私たち」のために、性差別・人種主義・環境破壊のない社会を」と訴えるフェミニズムのベストセラーの原書。構文解説、見出しを付けて読む方法、ポイントを押さえた要約の練習などを行いつつ、背景となる社会問題についても学ぶ。英文エッセイは、エッセイの基本スタイル、論の展開方法などを学び、引用の仕方も学びながら現代社会の問題について個々人で書き進めてもらう。分量は、英文で1000字程度（A4で2〜3枚くらい。もっと長くなっても良い）。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方についての説明、テキストの紹介。序章の "A fork in the road" を読んでみる。
2	"Thesis 1" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（頭括型と尾括型）
3	"Thesis 2" "Thesis 3" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法と展開方法）①
4	"Thesis 4" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法と展開方法）②
5	"Thesis 5" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（接続詞と副詞の正しい使い方）
6	"Thesis 6" 読解と討論、Academic Writing 課題と注の付け方
7	"Thesis 7" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（句読法）
8	"Thesis 8" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（冠詞の使い方）
9	"Thesis 9" "Thesis 10" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（仮定表現の使い方）
10	"Thesis 11" "Beginning in the middle" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（分詞構文の効果的な使い方）
11	"Reconceptualization of capitalism and its crisis" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）①
12	"What is social reproduction?" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）②
13	"Crisis of social reproduction" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）③
14	"The politics of feminism for the 99 percent" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（その他の技術）

授業外における学習

毎回頁数読むので、次回読む部分について、指定された方法（指定された部分の翻訳、全体の要約、見出し付けなど）での予復習を怠りなく行って欲しい。英文エッセイ、テキストの論評も、指定された期日までに仕上げる。

質問や相談への対応

質問は授業中にどんどんして欲しい。メールでの質問や相談も可。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題1	15	テキストの部分翻訳
課題2	35	英文・和文によるテキスト要約20%、小見出し15%
課題3	15	日本語によるテキストの論評
課題4	35	英文エッセイ
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Feminism for the 99%: A Manifesto (Verso)			
	必要に応じて、授業で、あるいは OneDrive で提供する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで、能動的に読んで欲しい。

その他・特記事項

特になし

Advanced Academic EnglishⅣ (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:04

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1380A	科目コード	L1380
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

英国社会、英国文化、リーディング、ライティング

授業の概要

英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミック・リーディング及びアカデミック・ライティングのスキルを学ぶ。1・2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	高度な英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する力を身につける。この授業では英国の新聞、雑誌の記事、随筆など多種多様な教材を用いて、読解力、語彙力を身につけることを目的とする。できるだけ広い分野をカバーし、要約、要旨のつかみ方、速読の練習もあわせて行う。
2	またその資料が提起している問題を十分理解し、解決策などについてグループ単位で日本語・英語を使って話し合う。更にこの授業を通して、受講生が英国社会や文化が理解できるようにしたい。

教授方法

授業は演習形式で、担当教員が事前に配布した英字新聞の記事などのプリントを使って、まずテキストの内容確認をし、それから英語でディスカッションを行う。担当教員は受講生にまず英語の生教材を速読・熟読する技術を身につける練習をしてもらう。次に教材の要旨をつかみ、日本語・英語でまとめ、加えて教材に対する自分の意見を日本語・英語で的確に述べるコツを教授する。また教材が提起している問題の解決策について、日本語・英語を使ってクラス・ディスカッションもしてもらう。更に英語でレポートを書く際に必要となる英文構成力や表現力についての指導も行う。この授業は英語と日本語を用いて行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方・学習方法・評価方法を説明する。）
2	英字新聞の読み方や英国の新聞について説明する。
3	英国の教育制度・英国の大学に関する英文記事の講読
4	英国のパブリックスクールに関する英文記事の講読
5	英国の階級制度に関する英文記事の講読 1
6	英国の階級制度に関する英文記事の講読 2 と英文エッセイの書き方の説明
7	英国の食事に関する英文記事の講読
8	肥満問題に関する英文記事の講読
9	人種問題、移民問題に関する英文記事の講読
10	ベール着用禁止論争に関する英文記事の講読
11	強制婚に関する英文記事の講読
12	英国のクリスマスに関する英文記事の講読
13	経済・ビジネスに関する英文記事の講読
14	医療と年金問題に関する英文記事の講読

授業外における学習

毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。
予習を十分してから授業に臨むこと。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	40%	提出物によって評価する。
発表	40%	発表によって評価する。
授業貢献	20%	授業貢献度によって評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	プリント教材を配布する。テキストは使用しない。			
	『「イギリス社会」入門：日本人に伝えたい本当の英国』 コリン・ジョイス著 NHK出版 2016年 ISBN: 978-4-14-088354-9			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1. 受講生の積極的な授業参加を期待する。
2. 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
3. 遅刻はしないこと。
4. 予習・復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は評価を下げるので注意すること。しかし怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。遅刻は30分までは出席とみなす。

心理学

更新日：2023/01/10 08:51:41

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L2010A	科目コード	L2010
担当教員	藤田 勉						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

心理学, 行動, 学習, 研究法

授業の概要

心理学に対して興味や関心をもつ人は多いが、心理学という学問がどういった学問で、どのようなことを研究しているのか理解している人は少ない。心理学の対象・目的・仕事を明確にし、心理学の代表的な研究法を学ぶことで、心理学とはどのような学問であるのかを理解する。さらに、心理学の様々な分野（知覚心理学, 学習心理学, 性格心理学, 思考心理学, 臨床心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学等）における研究成果を知ることにより、その有用性を確認する。

到達目標

1	本講義を通じて、受講生は一般に誤解されやすい心理学を正しく理解するとともに、心理学的なものの見方や思考法を学ぶ。
---	--

教授方法

原則的には講義形式で進められるが、受講生が参加・体験できるような実験、調査、検査等を組み入れ、受講生に心理学を“実感”してもらえよう工夫していく。受講生は授業時間以外で講義内容に関して予習・復習を行うことが求められる。今年度は学期中数回の小テストを実施する予定である。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	キックオフ（授業の目的、授業の内容、授業の形式、使用テキスト、成績評価の方法、授業のスケジュールなど）
2	心理学とは何か（心理学の対象）
3	心理学とは何か（心理学の目的、心理学の仕事）
4	心理学の研究法（観察、実験）
5	心理学の研究法（調査、検査、事例研究法）
6	まとめ
7	感覚・知覚心理学①（知覚とは、錯視の例、幾何学的錯視他）
8	感覚・知覚心理学②（対比現象、反転図形、恒常性、視覚以外の錯覚他）
9	学習心理学①（学習とは、行動の種類、レスポナント条件づけの基本手続きと応用研究）
10	学習心理学②（オペラント条件づけの基本手続きと応用研究）
11	記憶について（記憶とは、記憶の検査法、記憶の種類、記憶の範囲、記憶の諸現象、記憶術）
12	発達心理学①（発達心理学とは、ヒトの発達段階、胎生期～乳児期の発達）
13	発達心理学②（乳児期～幼児期の発達）
14	性格心理学（性格とは、性格の分類、性格の形成、性格検査の実際）、授業全体のまとめ

授業外における学習

この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり、指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。

質問や相談への対応

質問・相談については、原則的には授業時間内で受けつけ、当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は、初回授業時間で伝えるメール・アドレスにて受けつける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を総合的に評価する。

小テスト（筆記）	50	筆記試験により単元ごとの授業内容の理解度を評価する。学期中数回の実施を予定。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『新版行動科学序説（新版5刷）』藤田勉・藤田直子 世音社 2019 ISBN：978-4-921012-12-0 ★PDFファイルを配信予定。			
	『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《見方の“クセ”と“思い込み”編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17309-7 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17206-9 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《Q & A編》』藤田勉 ほおずき書籍 2020 ISBN：978-4-434-27733-7			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本授業を受講することにより、「心理学」の有用性を知り、日常生活に役立ててもらいたい。

その他・特記事項

出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻、それ以降は欠席とする。

哲学

更新日：2023/01/10 08:51:41

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L2020A	科目コード	L2020
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

哲学、倫理、ヨーロッパ、論理的思考、対話

授業の概要

今年度は20世紀の哲学者H.アーレントやE.レヴィナスの思想を手がかりに、「全体性」について考える。全体性は、全体主義的な社会体制を批判する際にも使われるが、西洋哲学のある種の流れを批判する際にも使われる概念である。授業を通じて現在の世界を批判的に理解することを目指す。解説の過程で、著名な哲学者の学説や文章を適宜紹介する。授業の後半では、講義内容に関連したディスカッションを行う。毎回授業の最後に、学習内容およびディスカッションを振り返る。

【ねらい】

講師自身が現在取り組んでいる問題を受講者と一緒に考えることにより、哲学的に考える姿勢や、西洋哲学史の著名な学説を自分自身のものとする。辞典や入門書などを使い、著名な学説について調べ、自分の問題を考えるために手がかりとして活用することができる。

到達目標

1	①自明の事柄について哲学的な問いを立てることができる。
2	②立てられた問に含まれる言葉を定義できる。
3	③問に関連する哲学史上の著名な学説を参照することができる。
4	④論証に必要な具体例を挙げることができる。
5	⑤立論を論理的に構成できる。
6	⑥立論を説得的に構築できる。
7	⑦対話を通じて自らの考えを吟味検討できる。

教授方法

講義を主体とするが、適宜、演習やディスカッションを実施する。対面授業を基本とするが感染状況に応じて適宜オンライン（同時双方向）授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。

授業計画

1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、哲学について
2	全体性概念について（概要）
3	アーレントにおける全体主義批判（1）
4	アーレントにおける全体主義批判（2）
5	小テスト、レポートについて（書き方、問いの設定）
6	レヴィナスにおける近代哲学批判
7	フッサールとハイデガーにおけるモナド論
8	分有と融即（レヴィ＝ブリュールとルイ・ラヴェル）
9	世界観としての哲学とナチズムへの批判
10	マイモニデスから現代ユダヤ哲学へ
11	レヴィナスにおける全体性概念
12	レポートのピアレビュー
13	まとめの対話、レポートの提出
14	レポートの返却、レポート内容の発表

授業外における学習

授業で学んだ内容を基にレポートを作成するため、よく復習しておくこと。

質問や相談への対応

・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ワークシートへの書き込み、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。
レポート	50	授業の達成目標への到達度により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分が知っていることと知らないことを区別するよう努力し、自分の頭で粘り強く考え、ディスカッションでは質問を互いにし合うよう心掛けること。

その他・特記事項

特になし

倫理学

更新日：2023/01/10 08:51:42

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2030A	科目コード	L2030
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

倫理、功利主義、義務論、徳倫理、生命倫理、環境倫理、動物倫理、食倫理、ビジネス倫理、グローバルジャスティス

授業の概要

この授業では倫理学の対象、方法、その応用について講義形式で紹介する。学習内容に関連したディスカッションを適宜行う。小テストおよびレポートを課す。講義ではまず倫理学の対象と方法および簡単な歴史を説明する、ついで規範性の導出を主な関心とする3つのアプローチを立場ごとに解説する。最後に現代的諸問題を倫理学がどのように扱っているのかを個別の問題ごとに見てゆく。

【ねらい】

倫理学の各分野の基本的な学説を学び、人間や社会が抱える諸問題を倫理的に考察することができるようになること

到達目標

1	①規範倫理や応用倫理学の代表的な立場や扱われる問題について、基本的な説明ができる。
2	②倫理学上の学説を、現代の具体的問題に適用し吟味検討できる。
3	③いかなる理念や倫理観をもつべきか、みずから吟味できるようになる
4	④倫理的問題を、独断的な信念によらず他者との対話を通じて検討することができる

教授方法

講義ののち、ディスカッションを行う。対面とオンラインを併用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。

授業計画

1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、倫理学について
2	功利主義
3	義務論
4	徳倫理、小テスト（1）
5	社会倫理（社会契約説の古典と正義論）
6	ケアの倫理、生命倫理、レポートの書き方
7	生命倫理、エンハンスメント、小テスト（2）
8	環境倫理、映画と解説（1）
9	動物倫理、映画と解説（2）、小テスト（3）
10	食の倫理、映画と解説（3）
11	ビジネスエシックス、映画と解説（4）
12	グローバルジャスティス、映画と解説（5）
13	レポートピアレビュー、授業後レポート提出、小テスト（4）
14	レポートの返却、レポートの発表

授業外における学習

- ①資料をあらかじめ配布する場合は、事前に読んでおくこと。
- ②学習内容について小テストを行うので、復習をすること。
- ③授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。

質問や相談への対応

・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	20	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。
小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する
授業レポート	40	授業の達成目標への到達度により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

普段から時事問題に関心を持ち、倫理学と関連する問題にアンテナを張っておくこと。

その他・特記事項

特になし

教育学

更新日：2023/01/10 08:51:43

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2040A	科目コード	L2040
担当教員	荒井 聡史						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

グローバル化と教育改革、教育の国際比較、情報消費社会とこども、生涯発達から見たこども、教育目的論

授業の概要

子どもと教育に関する心理学的、社会学的、哲学的、教育学的な理論を学び、学際的視点から現代社会における教育の課題を検討する。特に1980年代以降の子ども論の理論動向を軸に、高度情報化社会の中の子どもの生活世界の変容や、近代学校制度から始まる学校中心主義の教育言説の構造的問題点についても触れながら、子ども・若者の教育の現代的課題を浮き彫りにし、人間にとっての教育の意味、社会における教育の意味を検討していく。

到達目標

1	子どもという存在を学際的な視座から見つめ直すために必要な諸理論を学びながら、子どもや若者を多様な視点から見るとともに、人間にとっての教育の意味と現代社会における子どもをめぐる課題を検討し、受講者が子どもの問題を自らの課題として受け止め、向き合う意欲と態度を身につけることを目標とする。
---	--

教授方法

- ・プレゼンテーションソフトを利用した講義を中心に、豊富な音楽資料、映像資料を提示し、分かり易く、しかし知的刺激に富んだ授業を心がける。
- ・ほぼ毎回グループ討議等のアクティビティ・パートとして、受講生が課題に対する自分の意見を発表したり、他者の意見を受け止めて考えたりする機会を設け、講義内容でも扱うアクティブラーニングに触れる。
- ・受講生には毎回リアクション・ペーパーに記入してもらい、受講生の主体的、能動的な授業参加を促すとともに、インタラクティブな授業展開を試みる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

総合教育科目人文系科目として履修可能。

授業計画

1	オリエンテーション・日本の教育の何が問題か
2	I 現在の教育をめぐる状況—①日本の学校教育改革の系譜
3	I 現在の教育をめぐる状況—②グローバル化と学力観
4	II 教育と文化・社会—①カリキュラム論的に見た学力観
5	II 教育と文化・社会—②学校制度の国際比較
6	III 教育のイメージ—①教育は学校だけの仕事？
7	III 教育のイメージ—②学ぶことと育つこと
8	III 教育のイメージ—③幼児の世界と遊び
9	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—①古典的心理学の発達観
10	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—②人間の発達の多層性
11	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—③生涯発達と生きる意味
12	V 教育は何のため？—①教育目的の様々な規定
13	V 教育は何のため？—②教育と人間の関係
14	V 教育は何のため？—③「大人になること」の意味

授業外における学習

- ①事前に次回の授業内容に関する資料を配布するので、事前に読んで疑問点等を整理した上で授業に望むこと。
- ②授業内容を主体的に受け止め、自己の課題を確認してレポートに反映すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メール・チャットでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	授業内容を主体的に受け止め、教育の課題を自らの課題として捉えて学習を発展できたかを評価する。		
評価項目	割合	評価基準	
授業レポートA	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業レポートB	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業レポートC	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業内小レポート	28	毎授業後提出するリアクションペーパーを通じて、授業に主体的に参加できたかを評価する	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に使用しない。授業内で配布するペーパー資料を中心に授業を進めるので、資料をきちんと整理して保管すること。			
	第1回授業時に参考文献リストを提示する。また、授業中適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業内容を主体的に受け止め、これからの自己の人生と社会のあり方を展望するための課題を発見する姿勢を望む。

その他・特記事項

- ・ 授業レポートについては第1回授業時に課題を提示するので、授業内容を通じて得た視点を反映させながら作成してもらう。
- ・ Microsoft Teamsを通じた連絡、資料の配布を行うので、常時確認できるようにしておくこと。

言語学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:44

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L2050A	科目コード	L2050
担当教員	金田一 真澄						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

言語、人間、コミュニケーション、思考力

授業の概要

言葉とは何かという素朴な疑問から入り、身のまわりの言葉の不思議な世界に迫ります。言葉について人はどのように考え、どのように使ってきたのか。言葉に対する人間の飽くなき探究心と好奇心の歴史をたどります。人間の認知や心理など、20世紀中葉までの言語学で敬遠されてきた側面に焦点を当て、人間にとって不可欠な存在となった言葉の仕組みの一端を明らかにしていきます。ときに、生物学、心理学、哲学、社会科学などの周辺の領域についても言及し、関連する日本語の表現や文法現象についても広く観察します。

言語へのアプローチの道は様々です。基本的にはサイエンスの立場からアプローチしますが、それは突きつめると「人間とは何か」を探し求める旅でもあります。

英語表記<linguistics>

到達目標

1	ふだん気づかなかった言葉の力、特に母語の様々な力の存在について自覚し、認識するようになり、言葉の力を使うようになり。また、言葉を通して、人間とは何かについてのイメージを掴むことができ、言葉の使い方やその背景に注意を払うようになり、母語を大切に扱うようになり。1) 母語の魅力を意識し、言葉の力を使えるようになります。
2	2) 母語を通して、人間とは何かということ深く考えるようになります。
3	3) 論理的で深い思考力、豊かな表現力、柔軟な発想力が身につきます。

教授方法

毎回予習を求めます。あらかじめ調べて理解しておくべき項目を指示しておきますので、必ず準備をして授業に出席して下さい。毎回授業の理解の助けとなるプリントを配付し、1時間余の授業を行い、その後は授業で扱ったテーマについて、様々な視点から意見交換のディスカッションを行います。意見を積極的に発表してもらい、こちらからもコメントを加えます。最後に、コメント用紙にその日の授業について感じたことを記入して提出してもらいます。毎回プリントを配付するのは授業内容を速やかに理解するためです。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

初めて言語学を学ぶ人であること。言葉に関心を持ち、自分の意見を積極的に述べる努力をする人を歓迎します。

授業計画

1	言葉と人間の世界 言葉は人間のすべての領域において対象となるもの
2	言葉の力 言葉は単に情報を伝達するための道具ではない
3	言語起源論 言葉はいつ何のために生まれたものなのか
4	言語決定論 言葉がなくて思考することは可能だろうか
5	言語生得説 幼児は言葉を親から学ぶのか、本性的に言語能力があるのか
6	言語認識論 人の外界認識に言葉はいかに関わるのか
7	カテゴリー論+レポートの書き方 分類と意味との深い関係について。レポートの書き方
8	意味論 意味はかつて哲学者の深淵な課題だった
9	語用論 発話の意味は状況や話者によって決まる
10	会話論 日常会話は複雑・繊細でAIにも理解できない
11	メタファ論 メタファの達人は偉大である：アリストテレス
12	レトリック論 言葉のコピーはレトリックからできている
13	言語学の流れ 言語学には流行がある
14	笑い論+まとめ 笑いは高度な知性を必要とする

授業外における学習

毎回課題を与えるので、次回の授業までに調べてくること。

質問や相談への対応

授業の後で、質問・相談に応じます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	70%	6000字のレポートを、「レポートの書き方」（第7回）に従って書く。言葉に関するテーマについて独自の考えに具体例や引用を含め、期限内に提出する。
授業中の発言	20%	評価基準:積極的に意見を述べるのが求められる。自らの経験や知識に則した考えを分かりやすく述べること。
コメント用紙	10%	授業を聞いて感じたこと、考えたことをまとめて書く。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。配付資料で行います。			
	講義の最後にテーマごとに示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業の最後の20~30分が、学生との意見交換の場となります。その日の講義内容に関連する課題をこちらが与え、それに対して積極的に意見を述べてもらうものです。大勢の前で自分の考えをきちんと分かりやすく述べることは、貴重なプレゼンテーションの場となり、将来グローバル社会で活躍するためにも、役立つはずです。一方で、他の学生の思いもかけない意見に耳を傾けることも、良い勉強になります。答えの出ない問いについて様々な視点から議論することも大切です。こうした意見交換の場に積極的に参加することを切に希望します。

その他・特記事項

レポートを出さないと、評価がつきません。

言語学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:45

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2060A	科目コード	L2060
担当教員	中島 基樹						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

言語学、文法、日本語、英語

授業の概要

主に日本語と英語を比較することを通して、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論など、言語学の各分野を概観し、人間言語の普遍性と多様性について考察する。

到達目標

1	・言語学の各分野の研究対象や主な研究事例について理解すること。
2	・日本語と英語の共通点と相違点（人間言語の普遍性と多様性）について理解すること。
3	・（言語）データを客観的・論理的に分析する力を養うこと。

教授方法

第1～8回は教員による講義と受講者（個人またはグループ）による演習、第9～13回は受講者によるグループ発表を中心とした授業を行います。第2～8回は毎回授業後に小テストを行い、その日の授業内容の理解度を確認します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし（「言語学Ⅰ」とは独立した内容のため、「言語学Ⅱ」からの受講が可能です。）

授業計画

1	オリエンテーション：言語学とは？
2	音韻論
3	形態論①複合
4	形態論②派生
5	統語論①句構造
6	統語論②移動と語順
7	意味論
8	語用論
9	グループ発表の説明・準備
10	受講者によるグループ発表①
11	受講者によるグループ発表②
12	受講者によるグループ発表③
13	受講者によるグループ発表④
14	まとめと補足

授業外における学習

- ・授業を通して興味を持ったトピックについて、文献等で詳しく調べてみる。
- ・日頃から身の回りの言語表現・言語事象に意識を向ける。

質問や相談への対応

授業の前後に声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	40	授業内の演習やグループワークに積極的に取り組んでいるか。教員の講義や他の受講者の発表に対し、適切な質問やコメントができているか。
小テスト	20	各回の授業内容を正しく理解できているか。
グループ発表	10	自身の関心のあるトピックについて調査を行い、その内容を他者にわかりやすく伝えることができているか。
期末レポート	30	授業内容をふまえて適切な研究テーマを設定し、調査・考察した内容を論理的にレポートにまとめることができているか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		なし			
		<ul style="list-style-type: none"> ・窪園晴夫(2019) 『よくわかる言語学』 ミネルヴァ書房 ・三原健一・高見健一(2013) 『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版 その他、授業時に随時紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

文献の内容や教員の解説、他者の意見をそのまま鵜呑みにするのではなく、自分の頭で批判的に考えることを心がけましょう。

その他・特記事項

言語運用能力（「英語力」や「日本語力」）の向上を目的とした授業ではありません。

文学Ⅰ（日本文学）

更新日：2023/01/10 08:51:46

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2070A	科目コード	L2070
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

古典文化、伝統文化、古典文学

授業の概要

わが国の伝統文化のひとつである古典文学は、それと気付かないだけで、実は、現代社会におけるさまざまな文化的営為に依然として影響を与え続けている。本授業では、わが国の代表的な古典作品を取り上げて文学史を概観しつつ、それらが関連する現代社会の文化事象について、具体的な事例を挙げて解説する。それによって、現代に生きる我々の精神文化が、古典文学という伝統文化と深く関わって形作られていることを学ぶ。

【ねらい】

日本の古典における代表的な作品について文学史的な知識を学びつつ、それらが現代社会の精神文化に与えている影響について理解する。

到達目標

1	社会的営為としての文学が果たす役割を理解し、社会における文化の在り方についての正しい見解を身に付けることができる。
---	---

教授方法

授業は対面とZoomミーティングの交互で行う。毎回の授業では、プリントやパワーポイントの他に、古典文学に関連する動画なども視聴覚教材として使用し、講義する。授業の終わりに講義内容に関する簡単なワークシートを作成してもらい、知識の定着をはかる。ワークシートの記入方法については、その都度、説明する。

なお、毎回の授業で紹介する古典作品については、現代語訳のプリントや動画など、高校時代に古典が苦手だった人にも取り組みやすい教材を用いながら内容を説明するので、古典がまったく読めなくても構わない。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「文学Ⅱ」「文学Ⅲ」の授業も履修することが望ましい。

授業計画

1	日本古典文学を学ぶ意味—現代社会の精神文化を形成したもの—
2	『古事記』『日本書紀』—神話と現代人の迷信—
3	『出雲国風土記』の物産記事—郷土誌のはじまり—
4	『万葉集』と万葉仮名—詩歌の遡源—
5	『竹取物語』のかぐや姫—正統派ヒロイン像の確立—
6	『伊勢物語』の在原業平—正統派英雄像の確立—
7	『源氏物語』の光源氏と紫上—恋愛小説の祖型—
8	『今昔物語』『宇治拾遺物語』—都市伝説のモチーフ—
9	『枕草子』『方丈記』『徒然草』—エッセイ・コラムの文芸性—
10	『平家物語』『太平記』—歴史小説への影響—
11	『醒睡笑』と咄本—話芸への影響—
12	『雨月物語』と上田秋成—怪談の娯楽性—
13	『椿説弓張月』と曲亭馬琴—連載小説の商業的価値—
14	日本文学のまとめ—古典から近現代文学まで—

授業外における学習

授業で紹介した作品や同時代の他の作品を自主的に読んでください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	80	授業中に取り上げた作品について、正しい知識が身についているかを評価基準とする。
課題作文	20	課題として提示し下日本文学作品について、文学史上適性な評価を以て解説しているかを評価基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	古典文学作品のコピーを必要に応じて配布します。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日本人の精神基盤を支える古典文化について理解を深めてください。

その他・特記事項

授業で扱うすべての古典文学作品については動画でその内容を紹介するほか、現代語訳のプリントを配布しますので、古文が読めなくても授業内容を十分理解できます。この授業を通して、日本の古典文化について身近に感じてくださると幸いです。

文学Ⅱ（中国文学）

更新日：2023/01/10 08:51:47

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2080A	科目コード	L2080
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

中国文学、古典文学、詩、小説、人生観、世界観

授業の概要

中国文学は三千年近い歴史を有し、日本文学や日本文化への影響も計り知れない。本授業は、中国文学を世界文学の一つである点と日本文学との深い関わりとの両方を軸として捉え直す。中国古典文学の多様なジャンルの作品を取り上げ、味わうと共にその特徴を考察する。また、作者の生涯や作品が誕生した社会的あるいは文学史的背景に着目し、文学に表された人間観、世界観について考える補助線とする。古典文学が人間存在の奥深さや世界観の多様さへと我々をいざない、現代の個人や社会の諸問題のありかを照らす灯となることを理解する。

Literature II (Chinese Literature)

到達目標

1	世界の文学の中から主に中国の文学—詩や物語、小説など—を取り上げて、作品中に描かれた様々な人間ドラマを読み取り、考察する。さまざまなジャンルの文学作品の特徴について知ることを目標とする。特に古典文学の中に脈々と息づく深い人間洞察や豊かな世界観を学び、現代を生きる上での糧となることを理解する。
---	--

教授方法

講義形式で作品を解説・読解しつつ、各時間に取り上げる作品の表現や内容について適宜問題を設定し、学生同士のディスカッションやグループ学習を行いながら進める。学生自身が作品と向き合い、読解を深め、問題についてさまざまな質問や意見を持つように促す。ディスカッションやグループ学習で出された意見を受講者全員にフィードバックし共有することで、解釈の揺れや広がり、問題への多様なアプローチの仕方、思考方法などを学ぶよすがとする。また、適宜参考文献を紹介し、さらに関心・興味を広げ、人生観や世界観を学ぶ一助とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	中国文学の特徴 漢語の表現特徴、韻文・散文のさまざまなジャンル、中国最古の詩集『詩経』
2	『文選』所収「古詩十九首」 後漢時代の民衆・役人の喜怒哀楽
3	六朝詩人陶淵明「飲酒二十首」 歌いこまれた人生への洞察、アウトサイダーとしての生涯
4	唐詩の世界① 「詩中に画有り、画中に詩有り」、王維の自然詩、近体詩の成立
5	唐詩の世界② 自由奔放な詩想をうたい上げた李白、比喩表現の豊かさ
6	唐詩の世界③ リアリズムの詩人杜甫、葛藤と社会との対峙の諸相
7	唐詩の世界④ 白居易「長恨歌」の物語性と表現工夫
8	李商隠「錦瑟」詩における修辞性と情感表出の間
9	宋詩 蘇軾詩を読む
10	歴史文学 『史記』①歴史家司馬遷、時代や社会と格闘した人間ドラマ
11	歴史文学 『史記』①時代や社会と格闘した人間ドラマ
12	六朝志怪小説『搜神記』 不思議な出来事の記録、人間の愚劣さと誠実さ
13	唐代伝奇小説 人間の一生の物語「枕中記」 幸福とは
14	中国文学のまとめ 古典から近現代文学まで

授業外における学習

授業で学ぶレジュメに事前に目を通しておくこと。授業後、興味をもった作品について、レポート作成に向けて参考資料を読み込んだり、作品への読解を深めておくこと。

質問や相談への対応

授業の中で適宜質問を受けたい。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
レポート課題	60	授業で取り上げた作品について、個々人でさらに調査・考察した結果をレポートにまとめる。参考文献を適宜参考に行っているか、考察に独自性は見えるか、文章が練られているかを評価する。
グループワーク、感想文	40	授業の中で、グループでディスカッションやグループ学習を実施する。積極的に参加しているか、ユニークな意見を出しているか、他の学生の意見を参考にし読解を深化させているかと平常点を含め評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に使用しない。レジュメプリント配布予定。			
	適宜授業の中で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グループ学習やディスカッションに積極的に取り組んでほしい。授業で紹介した作品だけでなく、関連作品も積極的に読むようにしてほしい。

その他・特記事項

原則として授業中はパソコンやスマホは使用禁止とする。

文学III（イギリス文学）

更新日：2023/03/13 17:06:36

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2090A	科目コード	L2090
担当教員	坂 淳一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

英文学、イギリス文学、英文化、イギリス文化、西欧文化

授業の概要

イギリス文学史の区分に従って講義と作品鑑賞を行い、イギリス文学の魅力を学ぶ。イギリス文学の詩と小説を交互に学び、時代背景や文化・思想・宗教などについても学ぶ。鑑賞した作品については授業内でディスカッションを行い、相互に理解を深める。また、作品分析のレポートを書き、文化研究の方法を学ぶ。(Literature III (British Literature))

到達目標

1	イギリス文学の歴史と特徴を知る。
2	文学鑑賞と文化研究の方法を身に付ける。
3	文学の背景にある文化・思想・宗教についての知識を身に付ける。

教授方法

時代背景を学び、作品を鑑賞し、解説をするという流れで進める。学生の皆さんには、その作品をどうとらえるかを考え、書き、それを相互に読み合うことで作品理解を深める。評価は毎回のリアクションペーパーの評価、作品レポート、文学史・文化史ならびに文学用語に関する期末試験の評価で決定する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方の説明、イギリス文学史の概説、古英語期の『ベオウルフ』、中英語期の『カンタベリー物語』について
2	『ハリー・ポッター』と聖書、アーサー王伝説
3	シェイクスピアのソネット、レポート提出と解説
4	『ガリバー旅行記』について
5	シェイクスピアの演劇とルネサンスについて
6	『ガリバー旅行記』レポート提出と解説、古典主義時代について
7	古典主義とロマン主義（1） アレグザンダー・ポープとワーズワースの詩の鑑賞（ヘロイック・カプレットとバラッド）
8	ジェイン・オースティン『エマ』について
9	古典主義とロマン主義（2） 歴史・庭園文化・ゴシック小説、ブレイクの詩
10	ロマン主義時代の文学：『エマ』レポート提出とジェイン・オースティンの解説
11	ディケンズ『クリスマス・キャロル』について
12	ヴィクトリア朝英国とその文化について
13	『クリスマス・キャロル』レポート提出とディケンズの解説
14	20世紀のイギリス文学：ジェイムズ・ジョイスとヴァージニア・ウルフ

授業外における学習

作品ならびに文学史や歴史関連の文献を読んだりして、知識を深めてください。

質問や相談への対応

質問については、出来るだけ授業中に聞くか、メールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

定期試験（筆記）	42%	期末試験の点数
レポート	30%	作品レポートの評価
リアクションペーパー	28%	毎回のリアクションペーパーの合計ポイント
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	教材・資料は授業で紹介しま す。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ただ講義を聞くだけでなく、自分の感じたことや気付いたことを積極的に発言してください。

その他・特記事項

体調が悪い時は、事前にメール連絡をくれれば HiFlex 対応をします。その場合は、次の Zoom ミーティングに入室して下さい。 ID: 820 1053 0790 パスコード: British

歴史（近現代）

更新日：2023/01/10 08:51:48

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L2100A	科目コード	L2100
担当教員	大串 潤児						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

現代史の方法 社会史 民衆史

授業の概要

長野県の20世紀を主な素材として、一般教養としての「歴史(近現代史)」の基礎知識と歴史学の方法を講義する。

到達目標

1	地域にある大学に学ぶ学生として以下の知識・力の育成を目指す。①高等学校までの近現代史の知識をふまえてさらに高度な専門的知識の習得。
2	②地域（長野県）の近現代史—20世紀史の基礎的な知識を学ぶ。
3	③歴史学の基本的な方法論や、時代・社会を分析する方法について学ぶ。

教授方法

基本的には配布したレジュメに即した講義を行う。主題によっては映像資料などを活用しつつ、学生との討論を実施する。
 (COVID-19感染症流行の状況によって講義形態を変更する場合がある)

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	ガイダンス 授業内容の概要
2	信州（長野県）とはどのような地域なのか？ (1) 前近代史の復習
3	信州（長野県）とはどのような地域なのか？ (2) 近現代史の舞台
4	近代の出発 (1) 幕末維新をどうみるか？
5	近代の出発 (2) 「王政復古」か、「ご一新」か？
6	学校からみる「近代」 (1) 教育とは何だろうか？
7	学校からみる「近代」 (2) 就学率は100%？
8	女性が働くということ (1) 近代の産業と労働
9	女性が働くということ (2) 農村のすがた
10	戦争と軍隊 (1) 「軍都」という空間
11	戦争と軍隊 (2) ある兵士の戦場経験：日中戦争
12	満州移民
13	松代大本営—アジア太平洋戦争の敗戦と東アジア
14	いのち、の近現代史 佐久病院の戦後史

授業外における学習

一連のテーマで講義する場合が多いので、レジュメ記載の参考文献には目を通すことが望ましい。

質問や相談への対応

質問があれば授業後の時間に可能な限り対応する。
 その他は以下のメールアドレスに相談のこと。

ogushi@shinshu-u.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
試験	100	講義の内容を理解しているか、どうかを問う。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	毎回の講義でレジユメを配布する。			
	毎回の講義レジユメで紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に授業に臨んでほしい。

その他・特記事項

高等学校（ないし中学校）の日本史（社会科）教科書が参考になる。

民俗文化論

更新日：2023/01/10 08:51:49

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2110A	科目コード	L2110
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

民俗宗教。民俗芸能。フォークロリズム。観光資源。デジタルコンテンツ。

授業の概要

民俗文化（Folk Culture）は都市文化（Urban Culture）との対比で語られてきた文化現象である。民俗学という分野で研究が行われてきたが、文化人類学、社会学、歴史学、文学との関連も深い。民俗宗教、祭り、伝承、民俗芸能などの事例を紹介しながら、日本の民俗文化について解説する。現代の事象として、デジタルコンテンツやテーマパークに民俗文化がどのように取り込まれているのかを知り、民俗文化の変容について考える。先駆者の仕事から専門的な切り口についても考察する。

到達目標

1	民俗文化の現代的な諸相について理解を深める。
2	参拝や祭り、盆や節句などの民俗宗教、神楽や歌舞伎などの民俗芸能の具体的な事例に触れ、民俗文化を変容させる要因について考える。
3	生活習慣としての民俗、忘れられた民俗、新たに創造される民俗に思いを巡らせ、日本人は何を受け継ぎ、何を失ったのかを想像する。
4	日本各地の民俗文化をマネジメントする基礎的な知識を習得することを目標とする。

教授方法

講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、民俗文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	民俗文化とは何か
2	民俗宗教
3	年中行事
4	神社と祭り
5	縁起の民俗文化
6	南方熊楠の民俗学
7	柳田国男と折口信夫
8	神楽と民間伝承
9	能と紅葉伝説
10	歌舞伎と紅葉伝説
11	フォークロリズム
12	デジタルコンテンツと民俗文化
13	テーマパークと民俗文化
14	全体のまとめと期末試験

授業外における学習

映像視聴、読書など、随時指示する。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	

期末試験	90	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	岡本太郎『神秘日本』（2015年、角川ソフィア文庫）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

オンライン授業ではビデオを「オン」にし、顔を見せて受講する。期末試験は教室にPCを持参してGlexaで実施する。

文化人類学

更新日：2023/01/10 08:51:50

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2120A	科目コード	L2120
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

構造主義。文化相対主義。創られた伝統。トリックスター。複数の経済。

授業の概要

文化人類学は「文化を通して人間集団を理解する」学問分野である。文化は集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受けて常に変化する。人間が創り出す世界観の構造、他者理解のメカニズム、世界各地の様々な文化現象について解説する。構造主義、文化相対主義、創られた伝統、トリックスター、複数の経済などの文化人類学の思考方法や概念を通して世界を見つめた後に「自分とは何か」「人間とは何か」といった普遍的な問いに立ち返る。

到達目標

1	世界各地の文化を学び、異文化理解に必要な知識を習得する。
2	文化人類学の基礎的な思考方法に親しむことで、異質な他者に対して、共感は難しくても理解する柔軟な思考を育む。
3	多様な人間の暮らし、習慣、感じ方、考え方などに触れ、あらためて自分とは何かを考える。
4	既存の価値観から距離を置き、新たな世界の見方を習得することを目標とする。

教授方法

講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、世界の文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	イントロダクション、世界観と他者
2	構造主義
3	生活と文化
4	文化相対主義
5	宗教と死生観
6	創られた伝統
7	国家と王権
8	トリックスター
9	サイバースペース
10	スペインの巡礼
11	経済人類学
12	クラとポトラッチ
13	老いと病い
14	全体のまとめ、期末試験

授業外における学習

映像視聴、読書など、随時指示する。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	

期末試験	90	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	山口昌男 『学問の春：知と遊びの10講義』（2009年、平凡社新書）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

オンライン授業ではビデオを「オン」にし、顔を見せて受講する。期末試験はPCを持参してGlexaで実施する。

音楽

更新日：2023/01/10 08:51:51

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2130A	科目コード	L2130
担当教員	大南 匠						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

西洋音楽史、“きく”とは何か、現代音楽、ミニットペーパー

授業の概要

バロックから現代までの西洋音楽史の流れに沿いながら、鑑賞を通じて楽曲の構造、思想に触れる。クラシック音楽をベースにはするが、ジャズ、民族音楽、ロック、歌謡曲、ノイズなど様々なジャンルを横断する。また、美術、建築、映画、文学、ダンスと音楽の関係性に考察する。

到達目標

1	音楽と社会の関係、音楽の多様性について理解する。
2	“きく”ことの意味について理解する。

教授方法

対面による授業。授業の前半は前回授業のミニットペーパーから質問、感想を基に授業を展開する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、バロックの音楽（バッハ、パッヘルベル、パーセル／平均律と純正律、対位法ーカノン技法、ピアノの発明）
2	古典派1（サリエリ、モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン／機能と声法、ソナタ形式）
3	古典派2（ハイドン、ベートーヴェン／市民音楽の夜明け、啓蒙思想との関わり）
4	ロマン派1（シューベルト、ベルリオーズ、メンデルスゾーン／型からの脱却）
5	ロマン派2（ショパン、シューマン、リスト、チャイコフスキー／楽器の発展、コンサートホールの建設と音楽学校の設立）
6	ロマン派3（ワーグナー、ブルックナー、マーラー、シュトラウス／半音階の使用）
7	国民楽派1（バラキレフ、ムソルグスキ、リムスキー＝コルサコフ／ロシア5人組）
8	国民楽派2（スメタナ、ドヴォルザーク、アルベニス、ファリャ、シベリウス／民族と音楽）
9	印象派（ドビュッシー、ラヴェル、イベール／曖昧な調性、全音階の使用）
10	近代の音楽1（ラフマニノフ、プロコフィエフ、スクリャーピン、バルトーク／和音の響き）
11	近代の音楽2（ストラヴィンスキー、シェーンベルク、アルバンベルク、ヴェーベルン、ヒンデミット／調性の崩壊、12音技法）
12	“きく”とは何か（ミニワークショップ＊状況により変更あり）
13	現代の音楽1（アイブス、メシアン、クセナキス、リゲティ、ブーレーズ／セリー音楽、政治と音楽）
14	現代の音楽2（テリーライリー、ライヒ、フィリップグラス、ベルト、グレッツキ、吉松隆、佐藤聡明／セリー音楽の限界、新口マン主義）

授業外における学習

ライブで作品を鑑賞するのは難しい状況ではあるが、ネット配信など、これまでは体験できなかった方法で様々なコンテンツに触れることができるため、音楽に関わらず、様々なアート作品に触れて欲しい。理解できる、理解できないに関係なく、まずは多くの作品を耳にすること、目にすること、触れることが重要。

質問や相談への対応

質問や意見を述べたミニットペーパーにできるだけ授業内で答えるように努めるが、授業内で扱って欲しくない内容などについては、メールなどで対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
提出物	50	ミニットペーパー（14回分）の内容を評価する。
レポート	50	学期末に実施するレポート内容を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜、提示する。			
	適宜、提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

講義の3分の1はミニットペーパーを基に構成するため、考察したことを自由に記載して欲しい。

その他・特記事項

とくになし

国際関係論

更新日：2023/01/10 08:51:52

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3010A	科目コード	L3010
担当教員	駒村 哲						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

国民国家、民族、冷戦

授業の概要

国際関係の歴史的形成と展開に関する基本的知識を得るとともに、現代国際社会が直面する諸問題を解決する手法を学ぶ。

到達目標

1	学際的かつ総合的学問である国際関係論について理解できるようになる。
2	現代国際関係の諸問題を解決する手がかりを自ら見つけることができるようになる。

教授方法

講義（プリント配布）とともにビデオをみる

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

歴史学及び政治学関係の科目を履修することが望ましい

授業計画

1	国際関係論とは何か
2	国民国家とは何か
3	国際社会とは何か
4	第1次世界大戦
5	1920年代のヨーロッパ
6	1920年代のアジア
7	1930年代のヨーロッパ
8	1930年代のアジア
9	第2次世界大戦ーヨーロッパ戦争
10	第2次世界大戦ーアジア・太平洋戦争
11	冷戦とは何かーアメリカにおける研究
12	冷戦とは何かーロシアにおける研究
13	国際関係論における理論研究
14	21世紀の国際関係論

授業外における学習

事前にテキストを読み、問題関心を高め、事後はテキストを読み返す。

質問や相談への対応

講義の前後で対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末試験	25%	論理的説明がなされている
期末試験	25%	歴史的事実を正確に理解している
期末試験	25%	オリジナルな見解が説得力を有している
期末試験	25%	講義内容を踏まえて論述している
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『国際紛争』（ジョセフ・ナイ）有斐閣			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的かつ積極的に取り組む。

その他・特記事項

特になし。

社会学

更新日：2023/01/10 08:51:53

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L3020A	科目コード	L3020
担当教員	築山 秀夫						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会学的想像力、近代社会、国民国家、構造／主体、グローバリゼーション、ジェンダー

授業の概要

この科目は、総合教育科目のうち「社会と産業」の科目に位置づけられている。社会学の立場から、現代社会の構造と特徴について講義する。現代社会を、社会学的パースペクティブを用いて分析し、考察できる能力を培う。

まず、社会学の方法と視座、キー概念、社会学が誕生した歴史的背景について学ぶ。次に、近代社会、グローバリゼーション、後期近代の特質について学ぶ。そして、社会的に重要視され、受講生が関心を持つ問題（ウクライナ戦争、パンデミックなど）を幾つか取り上げて、そのメカニズムや構造的背景について考察する。履修者間の議論（グループワークと発表）を通じて理解を深める。

【ねらい】

身近で個人的な問題に見えるような現象を、より広い社会的文脈のなかで捉え直し、理解することのできる能力を身に付けることをねらいとする。さらには、他者によって構築された自己自身を捉え、デフォルト的なものの見方をアンインストールし、社会をこれまでと違う視点で眺めることで、そこに潜む構造を捉える批判的な思考法と、それをより良い社会の構築に結びつける構想力を身に付けより良い社会の構築に必要な条件を探求することをねらいとし、以下を到達目標とする。

到達目標

1	①社会学の方法や視座、社会学的想像力とは何かを理解する。
2	②社会学の歴史について理解する。
3	③社会学の領域や多様性について理解する。
4	④社会学が対象としている近代社会の特徴を理解する。
5	⑤自分で社会的問題を捉え、それについて、社会的な分析をすることができる。

教授方法

基本は、講義形式で行うが、学生による能動的な学修も組み込む。受講者をグループに分け、毎回必ず、グループ内でディスカッションをした後に、意見の発表をしてもらう。コロナ禍への対応のために、当初一週間は、オンライン講義とする。小テストの実施については、実施する前の講義でアナウンスをする。学生諸君の興味関心に対応するために、講義で取り扱うテーマを変更することがある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

この科目は、社会科学の考え方の基礎的な習得をねらっているので、なるべく一年次に受講して頂きたい。本授業を履修する前に受講する必要のある科目はない。初回で、この講義の進め方について説明するので、初回から出席することが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション:授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。・受講生の関心を知るために、Formsによる簡単な調査を実施する。・社会学の問い、自分が作ったわけではない世界で行為すること、社会学者の関心・野心・願い・役割について学ぶ。
2	社会学のキー概念、社会学の方法と視座:社会学の方法と社会学の魅力、社会学的想像力について解説する。第一回で調査した結果を共有する。
3	社会科学および社会学の誕生と歴史的背景、科学史における位置づけについて解説する。
4	社会学の領域と多様性:社会学の領域、社会学の多様性（連字符社会学）について解説する。
5	近代社会の特質:国民国家、資本主義、階級社会など近代社会の特質について解説する。第1～4回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト①を実施する。
6	グローバリゼーション:デヴィッド・グレーバー『負債論』を読み、グローバリゼーションについて、議論する。グローバリゼーションにおける功罪に関するレポート1を提出する。
7	グローバリゼーション2:アメリカにおける格差問題を考察する。
8	後期近代:リスク社会、排除型社会について解説し、現代社会について議論する。第5～7回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト②を実施する。
9	労働とギグ・エコノミー: Amazonやウーバーにおけるテラーの亡霊について考察する。
10	ブルシット・ジョブとエッセンシャルワーカー:なぜ、社会のためになる仕事程給与が低いのかを考察する。
11	現代日本の家族と少子化:家族の構造や機能、家族の現状を諸データより分析し、解説する。日本の少子化に関する原因に関するレポート2を提出する。

12	現代日本の家族と少子化2:日本の少子化のメカニズムについて考察する。
13	日本における社会的格差、福祉制度の課題について解説する。日本国家のあり方に関するレポート3を提出する。
14	まとめ：これまでの授業で学んだことを振り返り、社会的に捉えることは何かを確認する。

授業外における学習

毎回、シラバスに書かれているテーマについて、自分自身で、事前に調べておくこと。毎回、フォローアップ課題に回答し、授業内容を復習し、疑問点を整理すること。課題レポートを提出する。

質問や相談への対応

質問は、授業後及びオフィスアワー時に受け付ける。また、毎回、講義の後に、フォローアップ課題と共に、質問を受けるので、次回、回答し、履修者と共有する。但し、自分でできる限り調べる努力をすること。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	選択・記述とし、社会学の基礎的知識を理解し、社会的視点で社会事象の説明ができるかを問う。試験が60点以上なければ、他の成績が良くても及第（可以上）できないこととする。
小テスト	20	第5回と第8回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
授業レポート	30	それぞれレポートを（10点満点）提出していただき、評価する。全てのレポートを提出していることが及第（可以上）の条件となる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は特になし。毎回、講義のスライドの紙・ファイルを共有する。			
	ケン・プラマー（2016→2021赤川学監訳）『21世紀を生きるための社会学の教科書』ちくま学芸文庫（Ken Plummer, 2016, SOCIOLOGY: The Basics, Routledge）講義時に、その都度、配布したり、紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①授業はパワーポイントによる講義を中心に行うが、ノートを取って学習することを勧める。
- ②グループワークやディスカッションに積極的に取り組むこと。
- ③日常的に新聞等のマス・メディアが発信する情報を摂取し、現代社会に関する多様な情報を獲得すること。

その他・特記事項

自ら考え、学び、知的好奇心を持ち続けることを期待する。意見を主張するときには、必ずエビデンスを示すことを心掛けてほしい。

憲法

更新日：2023/01/10 08:51:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3030A	科目コード	L3030
担当教員	関 良徳						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

人権 自由 平等 社会 国家

授業の概要

授業の前半では、日本国憲法の基本原理や様々な種類の人権について概説し、それらの特性や問題点について検討します。後半では、人権保障のために設けられている統治機構の各機能について概説します。

到達目標

1	この授業の目標は、私たちの身の周りで生じている様々な憲法上の問題を手掛かりに、日本国憲法の基本原理（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）について理解することです。具体的には、各条文の解釈を通じてその意味を理解すると同時に、判例を適宜参照することで実際の事件と憲法とのかかわりについて考察できるようになることです。
---	---

教授方法

講義形式とディスカッション形式を組み合わせで行います。必要に応じてオンラインでの授業を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

この授業を履修するためには、毎回の予習と復習が必要です。

授業計画

1	憲法と立憲主義：憲法についての基礎的な概念やその中核を構成する立憲主義の考え方を説明する。
2	日本国憲法の成立：大日本帝国憲法から現憲法成立までの歴史的過程及びその正統性を概説する。
3	国民主権と天皇制：憲法前文、国民主権及び天皇制について説明する。
4	平和主義の原理：第9条の解釈及び自衛隊問題について説明し、改憲論について討論する。
5	基本的人権の原理：人権の諸形式及び人権の主体等について説明するとともに、人権の限界について考える。
6	包括的基本権と法の下での平等：第13条及び第14条について説明し、関連する判例を検討する。
7	自由権Ⅰ－内心の自由：思想良心、信教、学問の各自由について説明し、関連する判例を検討する。
8	自由権Ⅱ－表現の自由：表現の自由や知る権利について、判例検討を通じてその限界を考える。
9	自由権Ⅲ－人身の自由：刑事司法制度と人身の自由について説明を行う。
10	自由権Ⅳ－経済的自由：職業選択の自由や財産権について説明を行う。
11	参政権と社会権：参政権、生存権、教育を受ける権利、労働基本権について概説する。
12	統治機構Ⅰ－国会：国会の権能や法律の制定過程について説明する。
13	統治機構Ⅱ－内閣：内閣の権能や議院内閣制（大統領制との比較を含む）などについて概説する。
14	統治機構Ⅲ－裁判所・地方自治：裁判所の役割や司法権の独立、地方自治の制度について説明する。

授業外における学習

毎回の授業時に短いレポート課題を出します。この課題は授業の事後学習であると同時に、次回の授業の事前学習となる内容になっています。次回授業の際に提出する必要があります。

質問や相談への対応

- ・授業時間内に質問・相談等を受け付けます。
- ・メールでの質問や相談も受け付けています。

成績評価

共通の評価基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「達成目標の水準にある」、応用問題が解ければ「それよりもやや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価されます。	
評価項目	割合	評価基準
1	60	期末試験
2	40	予習・復習課題

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しません。毎回レジユメを配布します。			
	『論点 日本国憲法（第2版）』東京法令出版。その他は授業時間内に適宜紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

憲法が身近な問題と関わっていることを十分に理解していただきたいと思います。

その他・特記事項

授業内で行うディスカッションに積極的に参加して下さい。

社会保障入門

更新日：2023/03/15 13:14:29

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3060A	科目コード	L3060
担当教員	清水 浩和						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会保障の知識の実践的活用、福祉と社会保障との関係、社会保障の財政分析（国際比較と歴史的把握）

授業の概要

入門編である本講義では、まずは身の回りの年金、医療、雇用、介護などの具体的なテーマを取り扱う。わが国と諸外国の社会保障の諸問題に関するデータや実例を紹介することから出発し、「なぜそうなのか」「そもそもどうだったのか」といった根源的な問題の検討を行う。こうした検討を行うことで、社会保障の理念・制度・実態を具体的に学ぶとともに、これらを体系的に理解する方法を示す。全体として、社会保障を学ぶ面白さや楽しさを伝えることに最も重点を置くこととする。

到達目標

1	本講義では、身の回りの社会保障の問題について「なぜそうなのか」「そもそもどうだったのか」といった疑問を持つことから出発する。自分の身の回りの医療や年金などの問題に対して疑問を持ち、その歴史的経緯や原因を考察することで、受講後も生活に役立つ社会保障の基礎知識の修得をはかるとともに、それらの知識を基に自ら考え表現する能力を養う。
---	---

教授方法

毎回のスライド（簡略版を講義の翌週に配布予定）に沿って講義を進めるが、ノートを自分で取ることが必須である。ただスライドを眺めるだけでは、知識は決して身につかないことを知ってほしい。また、質問やコメント（チャットやコメントシート等）を募り、参加型の講義を行いたい。受講生諸君の積極的な参加を歓迎する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	聞き取りから学ぶ力、必要な社会保障の知識の習得、歴史的な思考方法
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	質疑応答の重視、コメントペーパーの提出（任意）、見やすいスライド、アニメーションの活用など

履修要件

特になし。

授業計画

1	なぜ社会保障を学ぶのかーコロナ渦の中で考えるー：巨大な「パズル」を解く国際比較と歴史的視点 これまでコロナ禍にいか国や地方や医療機関は対応してきたかという観点から、社会保障の最前線（最先端）のテーマを扱う。
2	なぜ社会保障を国家が行うのか：市場経済と国家の役割の変容① そもそもなぜ国家が社会保障を行うようになったか、その根源的なテーマを歴史的に考察する。
3	なぜ社会保障を国家が行うのか：市場経済と国家の役割の変容② そもそもなぜ国家が社会保障を行うようになったか、その根源的なテーマを歴史的に考察する。前回の続編。
4	社会保障は財政危機を招くのか、消費税は社会保障に使われているのか：社会保障の給付と負担を財政で読み解く そもそも社会保障は財政危機を本当に招くのか、消費税は本当に社会保障に使われているのかと言ったテーマを考える。
5	コロナ禍に医療はどのように対応したのか：医療保障（医療保険等）の理念と実態① これまでコロナ禍に医療はどのように対応してきたのか、その詳細をより具体的に論じる。
6	日本の医療は優れているのか：医療保障（医療保険等）の理念と実態② 国際的に見て日本の医療は優れていると言われていたが、それは本当なのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
7	老後の介護はもう安心なのか：介護保障（介護保険等）の理念と実態① 我が国の介護保険への評価は様々である。その詳細を具体的に論じる。
8	老後の費用はどのくらいかかるのか：介護保障（介護保険等）の理念と実態② 我が国の介護保険への評価は様々である。その詳細を具体的に論じる。 前回の続編。
9	貧困はどこで生じているのか：雇用保障（失業保険等）の理念と実態① わが国では貧困はどこで生じているのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
10	より良い仕事に就くにはどうすれば良いのか：雇用保障（失業保険等）の理念と実態② わが国では貧困はどこで生じているのだろうか。その詳細を具体的に論じる。前回の続編。
11	生活保護を受ける人は本当に怠け者か：公的扶助（生活保護等）の理念と実態 わが国で生活保護を受ける人々は本当に怠け者なのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
12	なぜうちの親の年金はこうも少ないのか：所得保障（年金保険等）の理念と実態 わが国で少額または低額の公的年金しか受けとれない人々は本当に怠け者だったのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
13	なぜ保育所に子どもを入られないのか：児童保障（子ども・子育て支援制度等）の理念と実態 わが国では保育所に子どもを入られない人々が多いが、なにが原因なのか。その詳細を具体的に論じる。

14	(総括) 社会保障を体系的に考える：ライフサイクルに応じた社会保障の考え方が国でも諸外国と同様、人の一生を通じた体系的な社会保障の考え方が求められている。それはどのようなものか。その詳細を具体的に論じる。
----	--

授業外における学習

授業後に配布するスライド（簡略版）や自分のノートを繰り返し復習すること。
 ただスライドを眺めるだけではなく、あわせて自分で書いたノートを繰り返し見直してほしい。また、スライドではアニメーションも多用しているため、実際に自分の手で動かしてみしてほしい。その上で、毎回の講義への自分なりの感想や考えを実際にコメントシートで書いて（アウトプットして）みてほしい。これらができれば、大きな学習効果が得られるだけでなく、大学を卒業して生活をするなかで役立つ知識が身についていくであろう。

質問や相談への対応

授業中もチャットで適宜受け付ける。これらの質問への回答は講義中にできるだけしていく予定である。また、電子メールでの質問やコメントペーパーも受け付ける。

（メールアドレス）18000764@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	80	記述内容の面白さ、論理展開の的確さ、授業内容の理解度、キーワードの記述の正確さ等を主な評価基準とする。剽窃は厳禁。
授業参加	20	意欲的な講義への参加、講義への質問、コメントペーパー等の内容を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	原則として各回の講義で紹介する。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

原則として各回の講義で紹介する。以下は参考書。
 高端正幸、伊集守直（編）『福祉財政（福祉+α）』2018年、ミネルヴァ書房

受講生に望むこと

講義中はスライドにはない話も多くするため、講義ノートをしっかりととってほしい。
 自分でノートを取り、重要なポイントと疑問点をスライドで復習をすると大きな学習効果が得られる。スライド（簡略版）は授業の翌週に配布する予定。

その他・特記事項

受講生諸君の知的好奇心にできるだけ応えられる講義を行いたい。
 講義への学生諸君の積極的な参加を期待する。

法学

更新日：2023/01/10 08:51:30

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L3070A	科目コード	L3070
担当教員	遠藤 元一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

ルール、インセンティブ、契約、エンフォースメント、予防、解決

授業の概要

この授業は、法には、その法が実現しようとしている目的（目標）があり、その目的を実現するために一定の仕掛けを用意していること、法が適用されない領域もあることなどについての基本を学習する。この法の基本的な構造・ルールを理解することで、これまで考えたことのない問題や新たに生起・創造される様々な領域の問題に対して、法の基本的な構造・ルールを応用して問題を解決に導く基礎力を養う。なお受講生の理解度などを確認しながら、適宜内容を修正することもある。

英語表記「Introduction to Law」

到達目標

1	①法の基本的な構造を理解する。
2	②法の基本的な考え方にに基づき結論を導く論理的な思考を体得する。
3	③これまで考えたことのない問題にも②を応用して結論を導く基礎力を養う。

教授方法

講義形式。質疑応答や、適宜、何人かのグループに分かれてディスカッションしてもらい発表してもらうことも行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

無し

授業計画

1	法の全体像－選挙に行く意味は？、ネットでの表現はどこまで許されるか？など、法律に関わる問題を考えてみる
2	法はなぜ必要か－法があると社会はどう変わるか、法ルールが社会にもたらす効果
3	法の働きその1－取引等と法のルールその1
4	法の働きその2－取引等と法ルールその2
5	様々なルールその1－法が用意している様々なルール
6	様々なルールその2－法が用意している様々なルール
7	法を使うその1－具体的な法の解釈の試み 憲法、刑法、行政法規
8	法を使うその2－具体的な法の解釈の試み 民法、会社法
9	法をあてはめるその1 ケーススタディ 具体的な事例で法の適用をしてみる まず事実を確定する
10	法をあてはめるその2 ケーススタディ 具体的な事例で法の適用をしてみる 確定した事実法に法を適用してみる
11	法ルールを「予防」に使うその1 伝統的な企業法務の役割としての紛争予防と紛争解決
12	法ルールを「予防」に使うその2 新たな企業法務の役割－内部統制体制等
13	法ルールを作る 法ルールを作るときの考え方 何を目標とする、遵守するための手法、複数の目的を設定するとき
14	まとめ

授業外における学習

・毎回指定された教科書の範囲を読んで自分なりに考えておく。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中、授業の前後に受付ける。
- ・前回の授業の質問で共有する意味があるものについては次回の授業のはじめにコメントする。
- ・メールでの質問も受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70	課題に対する取組みの視点や理解度、意欲に応じて評価する。
上記以外の授業評価	30	授業中の質疑応答等に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	森田 果『法学を学ぶのはなぜ?』（有斐閣、2020）			
	①江藤祥平ほか『大学生生活と法』（有斐閣、2022） ②内海博俊ほか『法学入門』（有斐閣、2021）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

できれば新聞一紙でいいから毎日、隅々まで目を通すようにしてほしい

その他・特記事項

無し

経済学入門A（ミクロ）（旧：経済学入門I）

更新日：2023/01/10 08:51:31

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L3080A	科目コード	L3080
担当教員	中条 潮						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

経済学 海外プログラム

授業の概要

この入門講座では、経済学の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性を、グローバルマネジメント学部の海外実地研修（海外プログラム）の研修国とビジネスビジット先を例に、わかりやすく説明します。

到達目標

1	1) 専門科目としての「ミクロ経済学」で体系的にミクロ経済学を学ぶ準備段階として、日本と世界の基礎的な経済事象を理解することによって、政策のありかたや経営問題を考える際の基本となる「経済学的な物の見方」を身に付けること。
2	2) 海外実地研修（海外プログラム）の研修国の特徴とビジネスビジットのねらいを理解すること。

教授方法

7回の短い授業であり、かつ、履修者が多い授業ですので、時間のかかる質疑応答を実施する余地がなく、基本的には講義スタイルとします。

この授業は、オンラインでのライブを基本とします。Covid-19の状況次第では、対面で実施する場合がありますが、対面授業の場合も、オンライン授業と同様の形態で教室で授業をしますので、必ずPCとヘッドセットを持参して授業にのぞんでください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

全学部全学年の学生が履修可能です。ただし、説明事例はグローバルマネジメント学部の海外研修先を使用します。

授業計画

1	I. 経済学の重要性と「大学では何を学ぶべきか」～海外プログラムのねらい～
2	II. ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 1.経済学の目標は社会全体の幸福の最大化 2.経済学の「効率」の概念
3	II. ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 3. 市場メカニズムの役割と限界
4	III. 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 1. 海外プログラムの business visit sites と学んでもらいたい経済の基礎 2. 第二次大戦後の日本経済の流れ 3. 「国による保護+大企業支配体制」から「大企業vs新規参入企業」の競争時代へ
5	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 4. 自由貿易 v s 閉鎖国家 5. 途上国援助と低所得者対策の基本課題III
6	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 6. 「外部不経済の内部化」と「企業の社会的責任」はどう違う？～CSR、SDGへの疑問～ 7. 観光立国と地域おこしの幻想
7	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 8. 経済改革、自由、高福祉～北欧モデルとニュージーランドの改革から学ぶ～

授業外における学習

事前：学生ポータルにupされた授業のレジュメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。

事後：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば自分で調べること。

質問や相談への対応

質問は、なるべく、授業中をお願いします。

上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとっていただければ可能な限り対応します。

成績評価

共通の評価基準	(全学共通) 【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。 ただし、これではまったく具体性がないので、基準になりませんから、当科目における具体的な合格基準は下記を読んでください。もう少し詳しい条件は授業で話します。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験の予定ですがcovid19の影響でレポートになる可能性もあります。	100	授業で教えた基礎用語、経済事象、余剰分析について、筆記試験なら50%、レポートの場合は80%理解しているとみなせば、かつ、私の指示を満たしていれば合格とします。
授業中の質疑・回答	不定	授業を活性化させる質問や回答の場合は、その程度に応じて加点することがあり得ます。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は使用しません。ポータルに授業資料をupします。			
	大学生になったら自分で探すこと。ただし、参考書が必要なほどの高度の内容は講義しません。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学生として当然必要な学習態度以外、特に求めません。

その他・特記事項

グローバルマネジメント学部の5期生以降は、この科目は必修となります。他学科生、GM4期生までは選択自由です。

経済学入門B（マクロ）（旧：経済学入門II）

更新日：2023/01/10 08:51:05

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L3090A	科目コード	L3090
担当教員	中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

経済学の十大原則、長期の実物経済、国民所得、物価、生産と成長

授業の概要

経済学入門B（マクロ）は経済学の入門科目であり、主にマクロ経済学の初歩的な考え方を修得し、それを用いて国内外の事象を理解することを目的とする。マクロ経済学は、GDP、物価、雇用といった一国の経済全体（マクロ経済）の動き（「景気」）を決めるメカニズムを分析する学問分野である。世界の大学で標準的に用いられている教科書を用いて、7週かけて丁寧に解説と演習を行い、理論の基本的理解と実体経済への応用力を養う。

到達目標

1	①経済学的に考える習慣を身につける。
2	②日々のマクロ経済に関わるニュースを批判的に理解できるようになる。

教授方法

主に講義形式で行う。講義においてはオンラインで学生が積極的に参加する機会を適宜設ける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	イントロダクション、マクロ経済学とは、経済学の十大原理【青教科書：第1章】【緑教科書：第1章】
2	経済学の十大原則復習、経済学者らしく考える【青教科書：第1,2章】【緑教科書：第1,2章】
3	国民所得の測定【青教科書：第8章】【緑教科書：第5章】
4	生計費の測定、生産と成長【青教科書：第9,10章】【緑教科書：第6,7章】
5	貯蓄、投資と金融システム【青教科書：第11章】【緑教科書：第8章】
6	総需要と総供給【青教科書：第12章】【緑教科書：第15章】
7	開放マクロ経済学—基本的概念【青教科書：第13章】【緑教科書：第13章】

授業外における学習

内外の経済的・政治的・社会的背景とその変遷について、あらゆる分野にわたっての一定の理解が求められる。講義外でも積極的に多方面の読書や情報理解を怠らないこと。

また、日本経済新聞、The Economistなど、時事的な記事に常時目を通しておくこと。

質問や相談への対応

常時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	80	期末試験を実施する
授業中の議論への参加度	20	宿題を含む
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	<p>N・グレゴリー・マンキュー [2019]『マンキュー入門経済学(第3版)』, 東洋経済新報社 (白地に青字) ※なお、2年次以降に「マクロ経済学」履修予定の場合は、 N.グレゴリー・マンキュー[2019]『マンキュー経済学IIマクロ編(第4版)』, 東洋経済新報社 (白地に緑字) の1冊で経済学入門B (マクロ) と併用可能</p>			
	<p>【初級】一橋大学経済学部編『教養としての経済学』有斐閣、2013年 猪木武徳『経済社会の学び方』中公新書、2021年 【中級】大瀧雅之『平成不況の本質—雇用と金融から考える』岩波新書、2011年 大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018年 【応用】内閣府『経済財政白書』日経印刷、(毎年発刊) The International Monetary Fund (IMF): World Economic Outlook 他、適宜紹介する。</p>			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

教科書を繰り返し読むことを勧める。

出席しただけでは「授業への貢献度」のポイントとはならない。討論への参加、発言等、授業に対して何らかの貢献があると認められてはじめて有効となる。あまり周囲の目を気にせず、しかし同時に周囲の多様な意見を理解しながら、積極的に議論に参加してほしい。

その他・特記事項

担当教員は国内外で金融・経済調査・国際会議の実務経験を有する。

数学的発想

更新日：2023/01/10 08:51:56

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L4010A	科目コード	L4010
担当教員	福田 一貴						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

高校数学の応用、宝くじ、保険・投資、経路探索、暗号理論、人工知能

授業の概要

この授業では、高校の数学I・A程度の知識を前提として、確率・統計、グラフ理論、整数の性質などのテーマについての初歩的な講義を行う。これらの数学の身近な応用例として、例えば、確率・統計では宝くじや保険・投資、グラフ理論ではカーナビの経路探索、整数の性質では公開鍵暗号方式などの仕組みを理解する。各テーマごとの講義の後に、応用例に関するグループワークなどを通じた体験的な活動を行い、数学的な発想法を経験的に学んで行く。授業の終盤では、近年注目を浴びている人工知能(AI)について、グループで調べ学習を行い、シンギュラリティが訪れるかどうかについて、数学的発想に基づいた議論を行う。

【科目のねらい】

我々の身の回りでは、至る所で様々な数学が応用されている。しかし、自分が知っている数学を応用して、何かの役に立ったという経験は少ないのではないだろうか。本授業では、幾つかの数学の具体的な応用例を紹介するが、難しい計算をしたり、複雑な公式を覚えるのが目的ではない。実際に数学を応用する体験を通して、数学的な発想力や思考力を養い、実際の社会生活に役立てる力を身につけることを目標とする。

到達目標

1	① 具体例を通して数学が応用される仕組みを理解する。
2	② 具体的な問題解決に対して数学を応用することができる。
3	③ 数学を応用した結果に基づいて議論したり判断することができる。

教授方法

この授業では、毎回最初にそれぞれのテーマに関する基本的な内容について講義を行い、その後グループ学習を行う。従って、授業の一部は講義形式であるが、基本的にはアクティブ・ラーニング形式の授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に指定しない。この科目では高校までに学んだ数学とは少し雰囲気違った数学の講義を行う。従って、これまで数学が得意だった人はもちろん、そうでない人の受講も大歓迎である。

授業計画

1	オリエンテーション (1) この授業の概要と進め方について理解する。 (2) グループ決めと自己紹介を行う。その後、身近な数学の応用例について考える。
2	確率・統計（基礎編） (1) 確率・統計の基礎を理解する。 (2) グループで確率・統計の簡単な問題に取り組み、その応用例を探す。
3	確率・統計（応用編） (1) 宝くじの仕組みを理解する。 (2) グループで宝くじに関する簡単な計算を行う。
4	確率・統計（実践編1） (1) グループで保険の損得勘定を行う。 (2) (1) に基づいて、グループで簡単な保険商品を作成する。
5	確率・統計（実践編2） (1) グループで投資信託のリターンとリスクを調べる。 (2) (1) に基づいて、様々な条件に合う投資信託を探す。
6	グラフ理論（基礎編） (1) グラフ理論の基礎を理解する。 (2) グループでグラフを用いた簡単な問題に取り組む。
7	グラフ理論（応用編）経路探索問題について考える。最短経路の問題は高校でも学習するが、ここでは最短とは限らない経路の問題を考え、組み合わせの数え方について再考する。
8	グラフ理論（実践編） (1) ダイクストラ法を理解する。 (2) グループでダイクストラ法の問題に取り組む。
9	整数の性質（基礎編1） (1) 高校で学習した整数の性質を復習する。特に、ユークリッドの互除法について学ぶ。 (2) グループで大きな整数の素因数分解に取り組む。
10	整数の性質（基礎編2） (1) 高校で学習した整数の性質を復習する。特に、合同式について学ぶ。 (2) グループで大きな合同式の計算に取り組む。
11	整数の性質（応用編） (1) 暗号理論における鍵輸送問題について理解する。 (2) グループで鍵輸送問題の解決策について考える。
12	整数の性質（実践編） (1) 公開鍵暗号の仕組みについて理解する。 (2) グループで公開暗号で使われる暗号の鍵を作成する。
13	人工知能1（グループ学習）グループで人工知能(AI)について調べ学習を行い、その現状とそこで使われている数学について考える。
14	人工知能2（グループ学習）グループで人工知能(AI)について調べた内容と数学的発想に基づいて、シンギュラリティが訪れるかどうかについて議論する。

授業外における学習

毎回の授業で出題する課題に取り組み、講義内容の復習や次回の授業のための予習を行うこと。特に復習が大切である。数学は教員に説明されて理解できたと感じた話であっても、それらを自分の言葉で復元できるようになるにはかなりギャップがあるため、人に説明できるくらいになるまで、じっくり考えることが大切である。

質問や相談への対応

授業内容に関する質問や学習に関する相談等には基本的にいつでも対応する。また、メールによる問い合わせにも随時応じる他、事前にメールで予約のもと、オンライン会議システム等を用いた遠隔での解説にも対応可能である。なお、担当教員のメールアドレスは、初回の授業で連絡する予定である。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
最終レポート課題	40	設定された課題について数学的発想に基づいて議論できているかどうかを判定する。
中間レポート課題	30	設定された課題について数学的発想に基づいて議論できているかどうかを判定する。
授業評価	30	グループ学習の内容の理解度を毎回の授業で測る。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に指定しない。			
	浅野晃：社会人1年生のための統計学教科書ウィリアム・J・クック：驚きの数学 巡回セールスマン問題サイモン・シン：暗号解読（上巻・下巻）新井紀子：AI vs. 教科書が読めない子どもたち			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グループ学習には積極的に参加し発言すること。
また、わからないことは必ず質問すること。

その他・特記事項

この授業で仮定する高校数学の知識は、数学I・Aの確率と整数の性質のみである。数学の勉強をするというより、数学の気持ちができる授業を目指す。

生命科学

更新日：2023/01/10 08:51:56

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L4020A	科目コード	L4020
担当教員	杉山 英子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

生物、細胞、ウイルス、生命観、代謝、遺伝子、自己複製

授業の概要

変化が激しくストレスに晒されやすい現代にあって、私たちを取り巻く自然への深い関心と理解を培い、生涯に亘って精神と身体を健康に維持できるように、生物の生命現象を分子の動きを追いながら学び、疾患や失調という形で表出されてくる個体や集団レベルでの課題を理解できるようにする。具体的には、生体構成物質の構造や性質ならびに細胞や器官の働き、ヒトの健康と密接に関わる栄養、ホメオスタシス、生殖、発生等における基本的な物質の流れについて学ぶ。さらに、遺伝子操作技術の発展が人間社会に及ぼす影響などを学ぶ。

到達目標

1	「生命のしくみ」を一通り理解し、現代社会に急速に拡散・浸透しつつある生命科学の知識や技術をいかに利用し育てていくかを判断することができる力を養う。
---	---

教授方法

講義。スライドを使用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

高校の「生物基礎」「化学基礎」の履修者であること

授業計画

1	オリエンテーション（「生物学」から「生命科学」へ 生物学の歴史）
2	生命とは何か、生物とはどのようなものか（「生命」の基本概念）
3	生命の最小単位：Cell（細胞の構造と細胞内小器官の役割）
4	からだをつくる分子（糖質・タンパク質・脂質・無機塩・核酸）
5	細胞と遺伝子（1）（細胞増殖とDNA複製）
6	細胞と遺伝子（2）（遺伝子発現）
7	動物の発生と細胞分化
8	生命活動とエネルギー（エネルギーの通貨ATPとミトコンドリア）
9	ホメオスタシスと栄養（1）（飢餓応答と摂食の重要性）
10	ホメオスタシスと栄養（2）（生体リズムと食事）
11	ホメオスタシスと栄養（3）（摂食とホルモン）
12	免疫（自然免疫、獲得免疫、病原体、移植免疫、アレルギー）
13	遺伝子操作技術と人間社会（遺伝子工学、遺伝子検査・遺伝子診断、エピジェネティクス）
14	まとめ

授業外における学習

振り返り動画（全部の回分はありません）を観ておいてください。

質問や相談への対応

メールでも受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題図書を読んで作成するレポート	60%	課題図書の内容への理解度、考察力、表現力
小テスト	30%	理解度、科学的思考力

上記以外の授業評価	10%	主体的態度、授業への貢献度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『ヒトを理解するための生物学』改訂版（裳華房）八杉貞雄著			
	『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著（講談社）他、授業の中で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

生活の中に疑問を持ってください。

その他・特記事項

生体物質に関する内容は、どうしても化学的要素が入りますので、高校で使用した教科書も参照しながら聞いてください。

プログラミング基礎

更新日：2023/01/10 08:51:57

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L4030A	科目コード	L4030
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

プログラミング的思考, Webに関する基礎 (HTML, CSS, JavaScript), Webサイト作成

授業の概要

アルゴリズムの記述, 変数や制御構造, プログラミングの基礎を学ぶことにより, コンピュータの原理解を深めるとともに, 論理的な思考, 問題解決能力を養う。次に, 情報の発信や表現に関わるより発展的な内容を学習する。また, WWWの仕組みを理解し, HTMLを使った演習, Webサイト作成ツールを利用したサイトの作成を通して情報発信力, 情報表現力を身につける。

到達目標

1	アルゴリズム・プログラミングの基礎を学ぶことにより, 論理的な思考および問題解決能力を養う。また, WWWの仕組みを理解し, インターネット上での情報発信, 情報表現力を身につける。
---	---

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。受講者がPCを操作しながら授業を進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	【ガイダンス】プログラミングへのいざない
2	プログラミングのいろは / プログラミング的思考とは
3	プログラミング的思考とアルゴリズム
4	アルゴリズム
5	プログラム言語とプログラミング
6	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング① プログラミングの基本構造の理解
7	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング② 変数と配列の理解
8	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング③ プログラムの作成
9	WWWの基礎知識① HTML
10	WWWの基礎知識② HTML+CSS
11	JavaScriptでプログラミング① 逐次処理
12	JavaScriptでプログラミング② 選択処理と繰り返し処理
13	Webサイト作成①
14	Webサイト作成②

授業外における学習

授業で指定された課題に取り組むこと。

授業時間内に完成しなかった課題については, 授業外の時間を利用して完成させ, 提出期限を守って提出すること。

質問や相談への対応

- ・質問は, 授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

課題 レポート	70	課題を正確に理解し、提出期限を守って提出できている。 課題の理解度および完成度。
その他の授業評価	30	授業に意欲的に取り組んでいる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①授業に欠席しないこと。
- ②主体的に課題に取り組むこと。

★生活のいろいろな場面で、プログラミング的思考を発揮してみましょう！

その他・特記事項

PC教室キャパシティの都合上、定員を30名とし、定員を超えた場合は抽選となります。履修を迷っている人は、事前に相談（授業概要や内容を確認）の上、履修登録をお願いします。

IT活用論

更新日：2023/03/14 01:09:22

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L4040A	科目コード	L4040
担当教員	石田 幸央						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

IT、テクノロジー、デジタル、スマホ、パソコン、タブレット、インターネット、AI、シェアリングエコノミー、SNS、SDGs、対話

授業の概要

ITとはどんなものか、どのように活用されているか、国内及び世界の事例を交えて学びます。

ITを活用しながらの授業が一般化する中で、ますます重要性を増してきたスマホやパソコン、タブレットの利用方法をまず伝えます。

インターネットが課題解決した世界の事例、コロナウィルスによって変わった世界、ビッグデータ解析の重要性、AI等の正しい知識を学びます。

SNS、ショッピング、会員制無制限利用サービス（サブスク）、SDGsなどの事業・サービスとITとの関わりやスマホ決済やシェアリングエコノミー、IoTの実例を学びます。

情報発信のためのホームページや画像、映像などの要素制作を実践し、活用できるようにします。

すべての講義において学生と講師、また学生がグループになってインタラクティブに対話し、対象のサービスを実際に使いながら進め、試しに作ってみるなど、実践的な講義を目指します。

世の中全体をシステムとして捉え、どのような構造になっているかを学びながら、そこにある問題を定義し、課題を解決するための思考であるシステム&デザイン思考を学びます。

対面授業が可能な間はグループワークを行います。

また、状況が好転した場合はフィールドワークも行います。

いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話していただきます。

自分の頭で考えて判断、行動し、ITを活用できる学生の育成を狙います。

なお、基本的にインターネットで入手できる以上のことは学ばないため、すでにITを駆使して情報源として有意義に活用できている学生は対象外となります。また、本授業ではITの世界を幅広く学ぶため、その分専門性の高さや学術的・技術的な深さを求める学生には物足りない内容になるので対象外とします。

講師経歴の概略：インターネット黎明期よりIT企業に22年間勤務し、起業。経営者として独立。エンジニアとしてシステムの開発、事業の企画・開発、事業責任者などを歴任。システム設計、UI、事業計画、組織運営・開発、地域貢献など幅広い業務と職務の経験を持つ。

到達目標

1	ITやテクノロジーへの苦手意識の克服
2	さまざまな活動の中で自らITを駆使してホームページやSNSなどのWebマーケティング担当、デジタル化の担当となる意欲的な社会人になる準備ができること
3	自分の頭で考えて判断、行動し、自らの意見を持ってそれを発することができる人材の育成、そしてITを活用できる学生の育成を狙います。

教授方法

プレゼンテーション資料を使った授業と演習・実習

次の授業に対して予習し、その内容をスモールグループで共有し、自らの言葉で教え、仲間から学び、知識を広げる。また、授業終了後に授業を通じて学んだこと、考えたことをレポートすることを求めます。

対面授業が可能な間はグループワークを行います。

また、状況が好転した場合はフィールドワークも行います。

いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話していただきます。

以下授業計画の「授業内容」に記載のSPはショートプレゼン、Rはレポートのある日です

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

PC、タブレット、スマホ等の情報端末持参 WiFiでのインターネット接続必須

授業計画

1	ガイダンス 講義の概要、ITって難しい？怖い？便利？ ITの理解とインターネットサービス、ビジネスモデル スマホからPCまでIT機器の選び方
2	インターネットが課題を解決した事例紹介、サービス設計 世界と日本のIT事情 (GAFA, BAT) SPIR
3	コロナウィルスが変えた世界 情報発信 リモート 世界での課題解決の事例 国内で明らかになった課題とその解決 SPIR
4	データの理解と分析 ビッグデータでわかること、AIってなんだ？ 予測の精度 機械学習、ディープラーニング、統計、グラフ分析、データグラフィック SP
5	SNSの過去現在未来 検索の変化 Youtuberと SNSとの付き合い方、メリットとデメリット、リスク、タブー SP
6	商品の売買からサービスへの変化 所有しない生活 サブスク ストアの開店、商品の魅せ方 SNSの活用、写真や動画の撮り方 SPIR

7	働き方の変化 コロナ前からの動きと「はたらくこと」の意義と目的 創業と起業に向けて データクレンジングなどこれまでになかった多様な労働のカタチ SPIR
8	世界、地球、環境のこと 深く関わるITとSDGs 環境ベンチャーとソーシャルインパクト投資 SPIR
9	システムとデザイン、問題と課題 これから考えるべき世の中の問題 問題定義と課題解決に向けた思考方法 グループで行うワークショップ 思考のフレームワーク体験 WS&R
10	情報発信のためのクリエイティブ制作 ホームページWebページの作り方 ツールの使い方や画像・映像・音楽の制作と編集方法
11	お金の未来 スマホ契約の個人情報提供から始まるカードと経済圏 デジタルマネー、スマホ決済の広がり、Fintechの今とこれから SPIR
12	シェアリングエコノミー 「空き」の活用 小さな余りから大きな資源へ 群衆の叡智 SPIR
13	実用化が進むロボット ドローンの一般化、センサー、AIの活用、工業・農業・漁業・サービス業での実例 IoTの今とこれから SP
14	まとめ これからのIT人材 圧倒的に足りないIT実務人材 ITを恐れない人材になるには？

授業外における学習

次回授業の予習、調べ物、ショートプレゼンの準備
 授業後に自らの考えと意見を記述したレポートの提出
 グループワークでの課題提出など

質問や相談への対応

オンラインでは随時可能
 メールでの質問、相談なども遠慮なくしてください。
 対面授業では、授業後に質疑の時間を設けます。
 レポート提出に対して希望者にはコメントを返信します。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
1	40	オープニングピッチ（ショートプレゼン）参加 4点 x 10
2	35	レポート提出 x 7回 期限内で5点
3	15	最終レポート期限内提出
4	10	積極点 発言、発表等で加点 WS成果発表とレポート5点
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	インターネット上のあらゆる情報			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に授業での取り組みに参加し、積極的に発言、コミュニケーションすることを望みます。
 自ら学ぶ姿勢が学習の効果を高めます。

その他・特記事項

楽しみながら対話し、学びましょう！

化学

更新日：2023/01/10 08:51:05

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L4050A	科目コード	L4050
担当教員	小木曾 加奈						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	一	単位	1	

キーワード

化学、濃度、計算、命名、構造

授業の概要

食品中の主な栄養成分は炭素原子を分子骨格とする有機物（有機化合物）である。本講義を通じ、有機化合物とはどういうものかを学ぶ。特に化学に必要なモルや濃度の計算、化学結合（共有結合、イオン結合、水素結合など）、命名法、異性体（不斉炭素原子）や表示法（D, L表示法、R, S表示法、E, Z表示法）について詳しく学ぶ。この講義では炭素原子を分子骨格とする化合物（有機化合物）の化学について基礎的な部分を学習する。この科目を学ぶことで、有機化学の基礎が身に付き、栄養士資格取得のための専門教育科目（栄養学、生化学、食品学、調理学など）を十分に理解できるようになる。

到達目標

1	化学系実験などで頻出する濃度・密度計算を積極的に取り入れて、理解を深めることができる。また炭素化合物の種類や構造式が自ら書け、また判別できると共に特徴的な官能基、分子を説明することができることを目標とする。①濃度計算や比重の計算ができる。
2	②化学構造をから名前を書くことができる。名前から化学構造を推察できる。
3	③化合物の化学特性を理解でき、異性体などを判別することができる。

教授方法

講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

高校で化学、もしくは化学基礎を選択していた者

授業計画

1	原子と周期表、同位体
2	分子量、モル、比重
3	イオン、化合物の表し方
4	命名法
5	異性体
6	化学結合
7	酸、塩基

授業外における学習

化学構造が前提の講義となるため、化学が苦手な方は事前、事後に学習を望む。

- ①指定された課題・問題に取り組む。
- ②苦手な分野の克服に向けて努力する。

質問や相談への対応

質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。

毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。
小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「マンガでわかる有機化学」 齋藤勝裕著 ソフトバンクク リエイティブ社適宜印刷物を 配布			
	高校化学や高校化学基礎の教 科書あるいは参考書			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

化学を苦手とする学生も多いので、毎回の授業後の復習は積極的に取り組み、テストに備えること。

その他・特記事項

特になし

デザイン思考

更新日：2023/01/10 08:51:59

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5020A	科目コード	L5020
担当教員	三上 龍之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

イノベーション、人間中心、創造性、共創、協働

授業の概要

「デザイン」が色やカタチなどのいわゆるデザイナーの活動だけではなく、様々な分野や職種で応用・実践できる方法論であることを理解する。今の姿を探る、課題を見つける、解決策を考える、試して洗練するというプロセスの中で、発散と収束を繰り返して課題を発見し解決するための、様々なツールを実際に体験し、関連知識やノウハウとともに学ぶ。総合演習では、グループで設定したテーマで、これまで学習したプロセスを通して実施することで、デザイン思考による課題の発見と解決を実践する。

英語表記「Design Thinking」

到達目標

1	◇「デザイン思考」のマインド・プロセス・ツールについて学び実践することで、これからのイノベーション人材に必要な基礎的スキルを身につける。
2	◇体験を振り返り言葉にして内省することで、体験学習のサイクルを回す習慣をつける。
3	◇人間中心のアプローチで課題を発見し解決する「デザイン思考」に関して、体験を通じた学びを自分ごととして理解し今後の研鑽の指針を立てられる。
4	◇共創協働のマインドセット・リテラシーを理解し実践できるようになる。

教授方法

基礎的知識の講義ののち、実際の手法を、個人またはグループワークにより体験する。総合演習ではグループごとにテーマを決め、一連のプロセスを通して実施し、プレゼンテーション（課題発表）を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に無し

授業計画

1	ガイダンス～デザイン思考の背景
2	デザイン思考の概要
3	プロセス1「今の姿を探る」
4	演習1「今の姿を探る」手法の実践
5	プロセス2「課題を見つける」
6	演習2「課題を見つける」手法の実践
7	プロセス3「解決策を考える」
8	演習3「解決策を考える」手法の実践
9	プロセス4「試して洗練する」
10	演習4「試して洗練する」手法の実践
11	総合演習：「今の姿を探る」
12	総合演習：「課題を見つける」
13	総合演習：「解決策を考える」
14	総合演習：「試して洗練する」

授業外における学習

- ・日ごろから「デザイン」について自分ごととして意識する
- ・各回の学習内容を振り返り、授業レポートを作成する
- ・各回のワークをグループで繰り返し、ワークの内容を確実に把握する
- ・総合演習課題のグループでの授業外活動、および各ステップでの繰り返しによるブラッシュアップを実施する
- ・最終回終了後、総合レポートを作成する

質問や相談への対応

- ・授業の前後・授業中に質問に応じる
 - ・各回の授業レポートで相談・質問を受け付け、個別または次回授業の中で対応する
- メールアドレス：mikami1.cvd@toshiba.co.jp

成績評価

共通の評価基準			
評価項目		割合	評価基準
定期試験		30	総合演習での取り組み成果のプレゼンテーションにより、基礎的スキルの習得度合いを評価する
授業	レポート	30	毎回のレポートで、各回に学んだ内容の理解度と、体験学習のサイクルの定着度合いを評価する
最終レポート		30	最終レポートにより、体験を通じた学びを自分ごととして理解し今後の研鑽の指針を立てられたかを総合的に評価する
上記以外の	授業評価	10	授業中の共同作業への取り組み姿勢から、共創協働のマインドセット・リテラシーの理解と実践の度合いを評価する
合計		100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に無し			
	必要に応じ授業の中で紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・授業は受け身でなく能動的に組み込み、グループワークでは積極的、献身的に行動する
- ・グループでの共同作業による授業であるため、毎回出席できることを前提とする。出欠による加点/減点はしないが、欠席の場合は必ずグループメンバーにコンタクトしキャッチアップする

その他・特記事項

受講人数の上限：36名

上限を上回った場合の選抜方法：受講希望者は履修登録と同時に、受講動機と出席見込（他科目、実習等との重複の有無）を申告すること。方法については別途通知する。

象山学

更新日：2023/03/15 17:50:18

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L5050A	科目コード	L5050
担当教員	首藤 聡一郎, 真野 毅						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

企業と社会、行政、社会的企業

授業の概要

この科目は、総合教養科目に位置づけられており、グローバルマネジメント学部では必修科目、健康発達学部では選択科目とされている。イノベーターを学外から引き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう講義である。イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、講師をファシリテーターとし、学生自らが自分の問題として考えていく。これまで、整理された知識を受動的に身につける機会が多かった学生に対し、複雑な現実と格闘する先達の姿を見せ、能動的に現実と向き合っていくきっかけを与え、社会に貢献していく方法を身につけてもらう。

英語表記「Introduction of business and society」

到達目標

1	現実のビジネスや行政の現場について理解し、その現実をリアルに感じ取れるようになる。
2	学生が現実の課題やチャレンジについて自分の問題としてしっかり考えられるようになる。

教授方法

講演、グループワークおよびレクチャー

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	ガイダンス、次回講演に向けた準備
2	講演および質疑応答（1）
3	ワークショップ（1）
4	講演および質疑応答（2）
5	ワークショップ（2）
6	講演および質疑応答（3）
7	ワークショップ（3）
8	講演および質疑応答（4）
9	ワークショップ（4）
10	講演および質疑応答（5）
11	ワークショップ（5）
12	講演および質疑応答（6）
13	ワークショップ（6）
14	最終ワークショップ、まとめ

授業外における学習

事前学習：ご講演者に関する調査、事後学習：小レポート作成。

質問や相談への対応

基本的にはメールで対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

小レポート	35	内容、形式等
グループワークレポート・リフレクションシート	30	内容・形式等
期末レポート	35	内容、形式等
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。			
	授業時に適宜紹介。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

この授業は皆さんにとって多くのことをもらすと思います。真剣に取り組みましょう。また、学外のイノベーターのご協力あつての授業です。貴重な時間を割いて来てくださる講師の方に感謝の気持ちをもって講演に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし。

信州学

更新日：2023/01/10 08:52:01

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5060A	科目コード	L5060
担当教員	田澤 直人						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

信州、歴史、地理、民俗、産業、観光、プレゼンテーション、グループによる調べ学習、協力

授業の概要

「信州学」の授業は、信州（長野県）といった地域を素材として、信州の歴史・民俗・地理・産業・観光等、信州に関わることについて、授業担当者と受講学生が、ともに調べ、考えていく授業である。そもそも、「信州学」という学問分野があるわけではない。担当者は、大学時代に日本民俗学を専攻した故に、そうした観点から「信州学」を論ずることもある。しかし、基本的には、学生諸君が、自らの関心のある分野について、興味関心を共にする者同士でグループを作り、調べ、考え、分析したことを、最終的に授業の中で発表してもらおう。例年、授業外での野外活動を行う学生が多い。

到達目標

1	①信州について、自らが興味関心のあることについて、他者と協力しながら、各種文献を用い、調べることができたか。
2	②信州について、グループ内で協力して調べたことを、発表を通して、他者にわかるように発表することができたか。
3	③信州について、他者の発表した事柄について、自分なりに客観的な評価ができたか。
4	④信州について、自らが調べたことを、最終的にレポートとして提出できたか。

教授方法

第1回の授業はオリエンテーション実施。昨年度の授業の様子を説明。第2回の授業では、授業内でレポート提出。第3回の授業で、自己紹介後、グループ分けを行い、班長を決める。これ以降、信州に関する事柄について調べ学習を開始する。第4回の授業から調べ学習を行うが、担当者は各グループの進捗状況をその都度ヒアリングを行い把握する。班長は、毎時間、授業終了後その日のうちに、授業内での学習状況を担当者に報告してもらいます。授業の中間で、途中経過の中間発表会を実施。その後さらに調べ学習を継続。最終的に調べた内容をパワーポイントを使い発表する。聞き手は、発表内容を評価する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修者を100人までとします。グループは、3人から4人を想定している。よって全体のグループ数は30グループ程度となる。

最終発表は、1月の授業3回で各回10グループ持ち時間10分間で実施予定である。

履修者が100人を超えると、昨年度までの例では、対面授業とリモート授業を併用しなくなるとなる。よって、担当者による学生との間の十分なヒアリングを行わず、担当者と学生の間で十分なコミュニケーションをとることができなかった。また、発表グループ数が多くなり、最終プレゼンテーションの時間が授業外まで延びてしまい、学生に多大な迷惑をかけることになったため。

授業計画

1	リモート授業：オリエンテーション:授業の進め方について説明。また、最終的なプレゼンテーションの内容を、昨年度発表例を参考に説明する。
2	対面授業：県歌「信濃の国」を題材に、授業を行う。時間内に示した課題に対して、授業後レポート提出を課す。また、自分がどういったことを調べたいか、授業後アンケートを実施
3	対面授業：学生の自己紹介、その際に、自分がどういった分野に興味関心があるかを発表する。事前にアンケートに回答してもらいます。グループ決めと班長を決めます。
4	対面授業：中間発表会に向けて、準備開始。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
5	対面授業：中間発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
6	対面授業：中間発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
7	対面授業：中間発表会実施。これまでの進捗状況と今後の予定を発表する。
8	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
9	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
10	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
11	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。最終発表の順番を示します。また、最終発表原稿の提出期限と最終レポートの内容及び提出期限を提示します。
12	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。
13	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。
14	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。

授業外における学習

グループによる県立図書館等での文献調査、調査に関わるフィールドワークが必要になります。

質問や相談への対応

担当者の個人メールアドレスに相談ください。

tazawa.naoto@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート提出	30	プレゼンテーションの内容を踏まえて、自分が調べたことを具体的にレポートできているか評価する。第2回の授業のレポート提出も評価する。
プレゼン評価	10	プレゼン評価の提出状況を評価します。
発表評価	60	授業担当者及び授業受講者による発表内容の5段階評価とコメント入力を実施する。その結果を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特にありません。			
	特にありません。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業には積極的に取り組んでください。ポータル上の掲示板に、「お知らせ」を示します。必ず、閲覧してください。また、昨年度は、リモート授業併用ということもあり、授業欠席者が一昨年に比べて多くいましたが、そうしたことなくように受講してください。さらに、ポータル上に示す課題（最終発表会の評価など）は必ず提出してください。

その他・特記事項

特にありません。

情報リテラシー (G7)

更新日：2023/03/16 12:43:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5070A	科目コード	L5070
担当教員	浦上 法之						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

情報活用能力, Officeソフト, ICT

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。各自の演習が主となる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動 大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について、Office365のサービスについて
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作 Windows操作、ファイル管理など
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション アニメーション効果、画面切り替え、プレゼンテーションの実行
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践・相互評価
11	Word編(1) 基本操作、文書作成① Wordの基本操作、書式設定、インデント・ルーラー
12	Word編(2) 文書作成② ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換
13	Word編(3) 画像や図形の編集、表の作成①
14	Word編(4) 表の作成②とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能 スタイル、目次、脚注と図表番号
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②

18	Excel編(1) 基本操作 Excelの基本操作，データ入力と表示形式，オートフィル
19	Excel編(2) 表の作成と印刷，基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用① 関数のネスト
22	Excel編(5) 関数の応用② sumif, countif, vlookup関数等の利用
23	Excel編(6) グラフの基礎 グラフ作成の基本事項
24	Excel編(7) グラフの応用 様々なグラフの作成
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① データの並び替えと抽出
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い②，総合練習問題① ピボットテーブルとクロス集計
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ①授業時間内に完成しなかった課題については，授業外の時間を利用して完成させ，提出期限を守って提出すること。
 ②授業で指定されたレポートを作成し，提出すること。
 ③様々な科目や課題において，積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kawahara.takuya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
課題・レポート	70	課された課題・レポートを正確に解くことができ，提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	大学生の知の情報スキル	共立出版	2017	ISBN: 978-4-320-12425-7, ¥2,900-

参考書・参考資料等

Glexa で適宜指示

受講生に望むこと

ICTの利用は手段であって目的ではありません。課題を提出することが本科目の目的ではないので，全ての課題に主体的に取り組むこと。また，演習科目であることから授業へは『出席』が原則です。

その他・特記事項

各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが，個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し，大学生活および社会でICTを効果的に活用できるよう，スキルアップを目指してほしい。

情報リテラシー (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:27

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5070B	科目コード	L5070
担当教員	宮尾 秀俊						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ICT,情報演習, Officeソフト

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる
3	③様々な問題解決にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動（大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について） Office365のサービス
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理など)
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践
11	Word編(1) 基本操作、文書作成 (書式設定、 インデント・ルーラー)
12	Word編(2) 文書作成 (ヘッダーとフッター、 段組、 文字列の検索・置換)
13	Word編(3) 画像や図形の編集
14	Word編(4) 表とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②
18	Excel編(1) 基本操作（データ入力と表示形式、オートフィル）
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、 基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用①

22	Excel編(5) 関数の応用②
23	Excel編(6) グラフの基礎
24	Excel編(7) グラフの応用
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① (データの並び替えと抽出)
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い② (クロス集計), 総合練習問題①
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ① 授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。
- ② 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。
- ③ 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・ 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・ メールでの質問も受け付ける。
アドレス： miyao@cs.shinshu-u.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
授業課題	35	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	35	授業に意欲的に取り組んでいる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『大学生の知の情報スキル』 森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978- 4-320-12425-7			
	授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ① 授業に欠席しないこと。
- ② 主体的に課題に取り組むこと。
- ③ 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。

その他・特記事項

- ・ 各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。
- ・ 各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!

情報リテラシー (G2)

更新日：2023/01/10 08:55:28

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5070C	科目コード	L5070
担当教員	萱津 理佳						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ICT,情報演習, Officeソフト

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる
3	③様々な問題解決にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動（大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について） Office365のサービス
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理など)
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践
11	Word編(1) 基本操作、文書作成 (書式設定、 インデント・ルーラー)
12	Word編(2) 文書作成 (ヘッダーとフッター、 段組、 文字列の検索・置換)
13	Word編(3) 画像や図形の編集
14	Word編(4) 表とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②
18	Excel編(1) 基本操作（データ入力と表示形式、オートフィル）
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、 基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用①

22	Excel編(5) 関数の応用②
23	Excel編(6) グラフの基礎
24	Excel編(7) グラフの応用
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① (データの並び替えと抽出)
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い② (クロス集計), 総合練習問題①
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ① 授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。
- ② 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。
- ③ 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・ 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・ メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
授業課題	35	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	35	授業に意欲的に取り組んでいる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『大学生の知の情報スキル』 森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978- 4-320-12425-7			
	授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ① 授業に欠席しないこと。
- ② 主体的に課題に取り組むこと。
- ③ 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。

その他・特記事項

- ・ 各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。
- ・ 各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!

情報リテラシー (G3)

更新日：2023/01/10 08:55:29

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5070D	科目コード	L5070
担当教員	宮尾 秀俊						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ICT,情報演習, Officeソフト

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる
3	③様々な問題解決にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動（大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について） Office365のサービス
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理など)
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践
11	Word編(1) 基本操作、文書作成 (書式設定、 インデント・ルーラー)
12	Word編(2) 文書作成 (ヘッダーとフッター、 段組、 文字列の検索・置換)
13	Word編(3) 画像や図形の編集
14	Word編(4) 表とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②
18	Excel編(1) 基本操作（データ入力と表示形式、オートフィル）
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、 基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用①

22	Excel編(5) 関数の応用②
23	Excel編(6) グラフの基礎
24	Excel編(7) グラフの応用
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① (データの並び替えと抽出)
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い② (クロス集計), 総合練習問題①
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ① 授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。
- ② 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。
- ③ 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・ 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・ メールでの質問も受け付ける。
アドレス： miyao@cs.shinshu-u.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
授業課題	35	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	35	授業に意欲的に取り組んでいる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『大学生の知の情報スキル』 森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978- 4-320-12425-7			
	授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ① 授業に欠席しないこと。
- ② 主体的に課題に取り組むこと。
- ③ 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。

その他・特記事項

- ・ 各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。
- ・ 各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!

情報リテラシー (G4)

更新日：2023/01/10 08:55:30

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5070E	科目コード	L5070
担当教員	萱津 理佳						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ICT,情報演習, Officeソフト

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる
3	③様々な問題解決にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動（大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について） Office365のサービス
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理など)
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践
11	Word編(1) 基本操作、文書作成 (書式設定、 インデント・ルーラー)
12	Word編(2) 文書作成 (ヘッダーとフッター、 段組、 文字列の検索・置換)
13	Word編(3) 画像や図形の編集
14	Word編(4) 表とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②
18	Excel編(1) 基本操作（データ入力と表示形式、オートフィル）
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、 基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用①

22	Excel編(5) 関数の応用②
23	Excel編(6) グラフの基礎
24	Excel編(7) グラフの応用
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① (データの並び替えと抽出)
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い② (クロス集計), 総合練習問題①
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ① 授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。
- ② 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。
- ③ 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・ 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・ メールでの質問も受け付ける。
アドレス: kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
授業課題	35	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	35	授業に意欲的に取り組んでいる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『大学生の知の情報スキル』 森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978- 4-320-12425-7			
	授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ① 授業に欠席しないこと。
- ② 主体的に課題に取り組むこと。
- ③ 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。

その他・特記事項

- ・ 各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。
- ・ 各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!

情報リテラシー (G5)

更新日：2023/01/10 08:55:31

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5070F	科目コード	L5070
担当教員	萱津 理佳						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ICT,情報演習, Officeソフト

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる
3	③様々な問題解決にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動（大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について） Office365のサービス
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理など)
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践
11	Word編(1) 基本操作、文書作成 (書式設定、 インデント・ルーラー)
12	Word編(2) 文書作成 (ヘッダーとフッター、 段組、 文字列の検索・置換)
13	Word編(3) 画像や図形の編集
14	Word編(4) 表とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②
18	Excel編(1) 基本操作（データ入力と表示形式、オートフィル）
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、 基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用①

22	Excel編(5) 関数の応用②
23	Excel編(6) グラフの基礎
24	Excel編(7) グラフの応用
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① (データの並び替えと抽出)
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い② (クロス集計), 総合練習問題①
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ① 授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。
- ② 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。
- ③ 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・ 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・ メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
授業課題	35	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	35	授業に意欲的に取り組んでいる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『大学生の知の情報スキル』 森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978- 4-320-12425-7			
	授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ① 授業に欠席しないこと。
- ② 主体的に課題に取り組むこと。
- ③ 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。

その他・特記事項

- ・ 各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。
- ・ 各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!

情報リテラシー (G6)

更新日：2023/03/13 14:11:37

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5070G	科目コード	L5070
担当教員	川原 琢也						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

情報活用能力, Officeソフト, ICT

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。各自の演習が主となる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動 大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について、Office365のサービスについて
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作 Windows操作、ファイル管理など
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション アニメーション効果、画面切り替え、プレゼンテーションの実行
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践・相互評価
11	Word編(1) 基本操作、文書作成① Wordの基本操作、書式設定、インデント・ルーラー
12	Word編(2) 文書作成② ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換
13	Word編(3) 画像や図形の編集、表の作成①
14	Word編(4) 表の作成②とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能 スタイル、目次、脚注と図表番号
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②

18	Excel編(1) 基本操作 Excelの基本操作，データ入力と表示形式，オートフィル
19	Excel編(2) 表の作成と印刷，基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用① 関数のネスト
22	Excel編(5) 関数の応用② sumif, countif, vlookup関数等の利用
23	Excel編(6) グラフの基礎 グラフ作成の基本事項
24	Excel編(7) グラフの応用 様々なグラフの作成
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① データの並び替えと抽出
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い②，総合練習問題① ピボットテーブルとクロス集計
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ①授業時間内に完成しなかった課題については，授業外の時間を利用して完成させ，提出期限を守って提出すること。
 ②授業で指定されたレポートを作成し，提出すること。
 ③様々な科目や課題において，積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kawahara.takuya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
課題・レポート	70	課された課題・レポートを正確に解くことができ，提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	大学生の知の情報スキル	共立出版	2017	ISBN: 978-4-320-12425-7, ¥2,900-

参考書・参考資料等

Glexa で適宜指示

受講生に望むこと

ICTの利用は手段であって目的ではありません。課題を提出することが本科目の目的ではないので，全ての課題に主体的に取り組むこと。また，演習科目であることから授業へは『出席』が原則です。

その他・特記事項

各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが，個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し，大学生活および社会でICTを効果的に活用できるよう，スキルアップを目指してほしい。

情報リテラシー (F)

更新日：2023/03/16 12:42:07

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5070H	科目コード	L5070
担当教員	浦上 法之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

情報活用能力, Officeソフト, ICT

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。各自の演習が主となる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動 大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について、Office365のサービスについて
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作 Windows操作、ファイル管理など
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション アニメーション効果、画面切り替え、プレゼンテーションの実行
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践・相互評価
11	Word編(1) 基本操作、文書作成① Wordの基本操作、書式設定、インデント・ルーラー
12	Word編(2) 文書作成② ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換
13	Word編(3) 画像や図形の編集、表の作成①
14	Word編(4) 表の作成②とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能 スタイル、目次、脚注と図表番号
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②

18	Excel編(1) 基本操作 Excelの基本操作, データ入力と表示形式, オートフィル
19	Excel編(2) 表の作成と印刷, 基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用① 関数のネスト
22	Excel編(5) 関数の応用② sumif, countif, vlookup関数等の利用
23	Excel編(6) グラフの基礎 グラフ作成の基本事項
24	Excel編(7) グラフの応用 様々なグラフの作成
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① データの並び替えと抽出
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い②, 総合練習問題① ピボットテーブルとクロス集計
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ①授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。
 ②授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。
 ③様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kawahara.takuya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
課題・レポート	70	課された課題・レポートを正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	大学生の知の情報スキル	共立出版	2017	ISBN: 978-4-320-12425-7, ¥2,900-

参考書・参考資料等

Glexa で適宜指示

受講生に望むこと

ICTの利用は手段であって目的ではありません。課題を提出することが本科目の目的ではないので、全ての課題に主体的に取り組むこと。また、演習科目であることから授業へは『出席』が原則です。

その他・特記事項

各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生活および社会でICTを効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。

健康と運動科学Ⅰ (G)

更新日：2023/01/10 08:55:33

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5080A	科目コード	L5080
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

身体運動、健康、スポーツ

授業の概要

本講義では、健康とそれに関連する科学的根拠を学ぶ。基本的な身体動作から少し複雑な身体動作まで様々経験し、「身体を動かす」ことの複雑さに関する知識を深めるとともに、生涯にわたって健康でいるための実践方法を習得する。

到達目標

1	・身体運動のメカニズムや健康でいるための実践方法について、自身の経験知に基づいて多角的な考察ができるようになる。
2	・運動を手段として用い、積極的なコミュニケーションが取れる。
3	・運動実践の意義について持論を明確に持つ。

教授方法

科学的根拠の説明等に関しては、座学での講義を行う。さらに、グループワークを行い、受講生各自が主体的に種々の事項について考え、ディスカッションによって積極的な議論が行われるような授業展開とする。運動の実践では、複数人で実践する内容を主とすることで、コミュニケーションを取りながら経験知を重ねていく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス
2	健康関連体力の基礎知識
3	身体運動の複雑さを自覚する：感覚を測る
4	身体運動の複雑さを自覚する：姿勢制御
5	身体運動の複雑さを自覚する：コーディネーションエクササイズ1
6	身体運動の複雑さを自覚する：コーディネーションエクササイズ2
7	身体運動の複雑さを自覚する：コーディネーションエクササイズ3
8	ストレッチング
9	筋力トレーニングの理論と実践：基礎的トレーニング
10	筋力トレーニングの理論と実践：バランスボールエクササイズ1
11	筋力トレーニングの理論と実践：バランスボールエクササイズ2
12	筋力トレーニングの理論と実践：ながらトレーニング
13	ウォーキングとジョギングの理論と実践
14	まとめ

授業外における学習

運動の習慣化に資する方法としてウォーキング等の実践を課す。成果を記録に残すことで、事後学習の資料とする。

質問や相談への対応

授業時に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	60	積極性の有無、参加姿勢に応じて評価する。

グループワーク	20	ワークシートの記載内容、ディスカッションの様子に応じて評価する。
上記以外の授業評価	20	課される授業時間外の運動実践の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

出席状況を点呼で確認する。欠席の場合は取り組みを評価できないため、積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし

健康と運動科学Ⅱ (G)

更新日：2023/01/10 08:55:34

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5090A	科目コード	L5090
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

健康、スポーツ、身体運動

授業の概要

本講義では、身体運動の仕組みを理解するとともに、健康の維持や増進に寄与する実践方法について学ぶ。また、種々のスポーツ種目を経験することで、健康と運動との関係性やその社会的意義について考察する。

到達目標

1	・身体運動の仕組みをより深く理解できる
2	・運動実施者によってネガティブな印象が持たれるスポーツの異なる側面を他者に説明できる。
3	・運動の習慣化。

教授方法

適宜、座学やグループワークを行い、受講生各自が主体的に種々の事項について考え、ディスカッションによって積極的な議論が行われるような授業展開とする。運動の実践では、複数人で実践する内容を主とすることで、コミュニケーションを取りながら経験知を重ねていく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス
2	身体運動の仕組みを理解する：コーディネーションエクササイズ1
3	身体運動の仕組みを理解する：コーディネーションエクササイズ2
4	ニュースポーツ1：ペタンク
5	ニュースポーツ2：ブラインドサッカー
6	ニュースポーツ3：フラバールバレーボール1
7	ニュースポーツ4：フラバールバレーボール2
8	卓球のルール理解とゲーム1
9	卓球のルール理解とゲーム2
10	バドミントンのルール理解とゲーム1
11	バドミントンのルール理解とゲーム2
12	バスケットボールのルール理解とゲーム1
13	バスケットボールのルール理解とゲーム2
14	まとめ

授業外における学習

運動の習慣化に資する方法としてウォーキング等の実践を課す。成果を記録に残すことで、事後学習の資料とする。

質問や相談への対応

授業時に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	60	積極性の有無、参加姿勢に応じて評価する。
グループワーク	20	ワークシートの記載内容、ディスカッションの様子に応じて評価する。

上記以外の授業評価	20	課される授業時間外の運動実践の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

出席状況を点呼で確認する。欠席の場合は取り組みを評価できないため、積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし

シーズンスポーツ（冬期）

更新日：2023/01/10 08:52:04

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5100A	科目コード	L5100
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スキー、生涯スポーツ、野外教育

授業の概要

本学の使命の中で述べられている「長野県の豊かな自然や長い歴史・伝統を理解し大切にすること」に資することを目的に、県内スキー場においてスキー実習を行う。初心者および初級者を対象にし、生涯スポーツであるスキーの魅力に触れるとともに、滑走技術向上のみならず、自然環境下での危機管理についても学ぶ。また、合宿形式での実習であるため、他者とのコミュニケーションや個々のスケジュールや体調管理に関しても実践形式で学ぶ。

到達目標

1	・ある程度のコースを自由かつ安全に滑走できるようになる。
2	・スキー場や宿泊施設でのマナーを理解する。
3	・長野県の自然の魅力と関連産業の可能性を他者へ共有できるようになる。

教授方法

ガイダンスおよびスキー滑走技術の基礎知識に関する事前学習を学内で行う。実習では、班編成を行い、個々の滑走技術向上および到達目標達成に向けたグループワークを行う。事後学習としてレポートを課す。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

受講資格：スキー未経験、初心者、プルークボーゲンからパラレルターン（スキー板を並行に揃えて滑る技術）習得を目指す者。※
※最重要：全日本スキー連盟認定スキー検定2級以上保持者は受講できない。あるいは、パラレルターンを習得している者も受講不可とする。
【定員】20名前後（抽選により決定する）
【実習日時】2泊3日、2月下旬から3月上旬を予定（1学期中に周知する）
【実習場所】菅平高原スキー場（長野県上田市）
【宿泊場所】ホテルニューダボス
〒386-2204 長野県上田市菅平高原1223-3790 TEL.

授業計画

授業外における学習

学内での講義の内容を復習することで事前学習とする。実習後のレポートを事後学習とする。

質問や相談への対応

対応方法については、後日周知する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組みおよび技術向上度	60	積極性の有無、参加姿勢、実習初日から最終日までの滑走技術向上度合いに応じて評価する。	
理解度	20	講義やグループワークの課題提出内容に応じて評価する。	
授業外における学習	20	事後学習としてのレポートを評価する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			

	日本スキー教程 全日本スキー連盟、2018年			
--	------------------------	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学外での実習であるが故に、県立大生としての自覚を持ち、積極的な参加を望む。

その他・特記事項

実施日および宿泊施設については、変更となる場合がある。
受講希望者が8名以下の場合、実施しないことがある。

グローバル教養ゼミ（坂）

更新日：2023/01/10 08:50:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110A	科目コード	L5110
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ジェイン・オースティン、サマセット・モーム、イギリス小説、イギリス文化、欧米文化

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的にとらえるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	英国小説をみんなで読むことによって、様々な「読み」の可能性を探る。また、作品の背景となっている英国やヨーロッパの文化、社会、歴史、思想などについても学んでいく。
---	--

教授方法

全員で同じ本を読みながら、討論を通して理解を深めていく輪読形式。「読書会」という感じで、意見を話し合いながら前期・後期で2冊の本を読む。また、定期的に欧米の文化・歴史に関する発表を行ってもらう。テキストは基本的に翻訳を用いるが、時には原書も参照しつつ、文学作品の鑑賞方法を学ぶ。最後には、前期に読んだ作品、もしくは後期に読んだ作品について、日本語で各自の作品論を書く（4000字以上）。その他、欧米の音楽や絵画などを鑑賞する時間も設け、欧米文化入門のような科目ともなる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	『分別と多感』と、作者のジェイン・オースティンの紹介。英国史と英文学史解説。ゼミの進め方の解説。
2	『分別と多感』 輪読（1） 1～8章
3	『分別と多感』 輪読（2） 9～15章
4	『分別と多感』 輪読（3） 16～21章
5	『分別と多感』 輪読（4） 22～27章
6	『分別と多感』 輪読（5） 28～31章
7	『分別と多感』 輪読（6） 32～36章
8	『分別と多感』 輪読（7） 37～40章
9	『分別と多感』 輪読（8） 41～44章
10	『分別と多感』 輪読（9） 45～50章
11	『人間の絆』と、作者ウィリアム・サマセット・モームの紹介。時代解説。
12	『人間の絆』 輪読（1） 1～12章
13	『人間の絆』 輪読（2） 13～21章
14	『人間の絆』 輪読（3） 22～30章
15	『人間の絆』 輪読（4） 31～37章
16	『人間の絆』 輪読（5） 38～43章
17	『人間の絆』 輪読（6） 44～48章
18	『人間の絆』 輪読（7） 49～56章
19	『人間の絆』 輪読（8） 57～64章
20	『人間の絆』 輪読（9） 65～71章
21	『人間の絆』 輪読（10） 72～78章
22	『人間の絆』 輪読（11） 79～86章
23	『人間の絆』 輪読（12） 87～93章
24	『人間の絆』 輪読（13） 94～100章

25	『人間の絆』輪読（14）101章～108章
26	『人間の絆』輪読（15）109～115章
27	『人間の絆』輪読（16）116～122章
28	総合討論

授業外における学習

毎回その日に輪読する範囲をきちんと読んでくる。また、発表を行う時はしっかり準備をし、最終レポートもきちんと仕上げること。

質問や相談への対応

授業時に質問するか、メールで質問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	年度末の作品レポートの出来栄で評価する
授業での積極性	50	授業内の発表や討論でのパフォーマンスによって評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ジェイン・オースティン『分別と多感』中野康司訳（ちくま文庫）、ウィリアム・サマセット・モーム『人間の絆』（上）（下）中野好夫訳（新潮文庫）			
	プリントで配布するか、メールまたはOneDriveで配信します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで学んでください。

その他・特記事項

特になし

グローバル教養ゼミ（中島）

更新日：2023/01/10 08:50:55

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110B	科目コード	L5110
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

言語学

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	任意の言語事象に関する研究を行い、その成果をレポートにまとめること。その過程において、論理的・批判的な思考力を身につけること。
---	---

教授方法

それぞれの受講者が興味・関心をもった言語事象について、調べたことや考えたことを授業内で共有し、受講者間の質疑応答や意見交換を通して研究を進めていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし（事前登録をした人以外で受講を希望する場合は、開講時までに担当教員に連絡してください。）

授業計画

1	オリエンテーション
2	発表&ディスカッション
3	発表&ディスカッション
4	発表&ディスカッション
5	発表&ディスカッション
6	発表&ディスカッション
7	発表&ディスカッション
8	発表&ディスカッション
9	発表&ディスカッション
10	発表&ディスカッション
11	発表&ディスカッション
12	発表&ディスカッション
13	発表&ディスカッション
14	発表&ディスカッション
15	中間発表(1)
16	発表&ディスカッション
17	発表&ディスカッション
18	発表&ディスカッション
19	発表&ディスカッション
20	発表&ディスカッション
21	発表&ディスカッション
22	中間発表(2)
23	発表&ディスカッション
24	発表&ディスカッション
25	発表&ディスカッション
26	発表&ディスカッション

27	発表&ディスカッション
28	最終発表

授業外における学習

興味をもった言語事象について、発表やレポート作成に向けて、データ収集や文献調査を行うこと。

質問や相談への対応

授業後に声をかけるか、研究室(C104)に来てください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	70	授業時の発表や発言の質・量により評価。
最終レポート	30	年度末レポートの内容により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。			
	必要に応じて紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分の研究テーマだけでなく、他の受講者の研究内容にも関心をもち、積極的に質問・コメントすること。

その他・特記事項

授業の開講時限やスケジュールは、受講者と相談して調整します。

グローバル教養ゼミ（加藤貴之）

更新日：2023/01/10 08:51:32

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110C	科目コード	L5110
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

議論学、批判的建設的思考、コミュニケーション

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	・指定テキストにおける議論学の基本的概念を理解する
2	・社会上および空想上の議論において要点を整理できる
3	・議論学的分析を効果的に発表できる

教授方法

指定テキストの講読をつうじて、議論学の基本的概念を理解したうえで、実社会や物語における議論の分析に応用する。教師のみならず、受講生もファシリテータを務め、授業を進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年以上在籍で事前に授業担当者に相談すること

授業計画

1	ガイダンス（年間スケジュール、進め方など）
2	議論の検討1-1
3	議論の検討1-2
4	テキスト1章
5	テキスト2章
6	議論の検討2-1
7	議論の検討2-2
8	テキスト3章
9	テキスト4章
10	議論の検討3-1
11	議論の検討3-2
12	テキスト5章
13	テキスト6章
14	リサーチテーマの検討(1)
15	テキスト7章
16	テキスト8章
17	議論の検討4-1
18	議論の検討4-2
19	テキスト9章
20	テキスト10章
21	リサーチテーマの検討(2)
22	学生発表1
23	学生発表2
24	学生発表3

25	学生発表4
26	議論学の確認問題
27	学生発表5
28	学生発表6

授業外における学習

毎回の授業内容について、テキストやその他教材を中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	30	授業における進行・運営上の貢献を評価
議論学の確認問題	30	議論学の基本的概念の理解度を評価
最終プレゼンテーション	40	議論学的分析のアウトプットを評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・議論学への招待（エイムレン他、大修館書店、ISBN: 978-4469213720）[以上1冊]			
	適宜紹介			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日頃から、議論学的観点を応用する機会を作ってみてください。

その他・特記事項

対面授業においてもノートPCを持参すること。授業回によっては、リモートではなく対面参加が必要となる場合がある。

グローバル教養ゼミ（谷口）

更新日：2023/01/10 08:52:05

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110D	科目コード	L5110
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

中国文学、中国文化、古典文学、中国の歴史

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

Global Humanities Seminar

到達目標

1	中国古典文学を中心に中国文学や中国文化関連文献を講読し理解を深め、背景にある歴史、思想についても考える。あまり学ぶ機会のない中国近現代文学についても、日本語訳を利用しながら講読するほか、関連する映画なども参考にして理解を深めたい。中国文学の作者の多くが社会の荒波の中で必死で社会と切り結び、抗い、その苦難と葛藤を文学に結晶させている。それらを読解すると同時に併せて現代に繋がる問題意識を醸成したい。後期には、中国文学・文化に関して各自関心のある課題について調査・研究を行い、幅広い視野と深い教養を身に着ける。
---	--

教授方法

週に1回。クォーターごとに7回、通年で28回の授業を演習形式で実施する。作品ごと、段落ごとに担当者を決めて、語彙・文法、あるいは作者・制作背景、作品解説など調べた結果を発表し、さらにディスカッションする形で展開することで、中国文学を多方面から主体的に学ぶ。また、学外の関連施設などを訪れて調査を行い、知識を深める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	中国詩概観 『詩経』から南北朝まで
2	中国詩概観 隋・唐詩から文学革命まで
3	中国詩の形式 韻律と句法
4	中国詩の形式 古体詩と近体詩
5	中国詩の技巧 対句法
6	中国詩の技巧 双声・疊韻
7	中国詩の技巧 省略法・倒置法
8	中国詩の技巧 典故・詩語
9	中国詩のテーマ 政治と士官
10	中国詩のテーマ 隠棲と自然
11	中国詩のテーマ 行旅と別離
12	中国詩のテーマ 書画と音楽と詩
13	詩人の生活
14	自身のテーマを考える
15	テーマに沿ったテキスト探し、情報検索
16	テーマに沿ったテキスト探し、情報検索
17	テーマに沿った資料を読む、先行文献をさがす
18	テーマに沿った資料を読む、先行文献を探して読む
19	テーマについての資料講読、考察
20	テーマについての資料講読、考察
21	テーマについての資料講読、考察
22	テーマについての資料講読、考察
23	レポートの構成を考える

24	レポートの構成を考える
25	レポート作成
26	レポート作成
27	レポート完成とプレゼン作成
28	プレゼンテーション発表

授業外における学習

毎回の授業前に、教科書の授業で取り上げる箇所を予習しておいてください。また、授業後、分かりにくかった点など自ら調べたり、あるいは質問して理解を深めてください。

質問や相談への対応

質問、相談など授業中でもそのほかの空き時間などにしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	40	毎回の授業に参加し、作品を理解しようとしているか。
レポート	30	自身で考えたテーマ、問いについて調査、考察し、分かりやすく文章にまとめられたか。
プレゼン発表	30	自身で設けたテーマ、問いを分かりやすく発表できたか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『詳講 漢詩入門』（佐藤保著、ちくま学芸文庫、2018年）1400+税			
	『中国名文選』（興膳宏著、岩波新書、740+税）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に関連図書など読んでみてください。

その他・特記事項

漢和辞典を持参のこと。

グローバル教養ゼミ（織田）

更新日：2023/01/10 08:52:06

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110E	科目コード	L5110
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

野生の思考。フィールドワーク。ラジオドラマ。都市伝説。暗黙知。

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	文献読解、フィールドワーク、ラジオドラマ制作を通して文化人類学的思考に習熟する。文献読解では事前に調べ学習を行い、他者を他者のまま理解するように努める。フィールドワークでは未知の世界観から受けた刺激を調査報告にまとめて発表する。ラジオドラマ制作では秘めた自分を人前にさらし、シナリオ、録音、編集の過程で映像人類学的な技法を学ぶ。
---	--

教授方法

テキストの輪読。ディスカッション。フィールドワーク実習。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

事前に「受講申請」「個別面談」を行った学生。

授業計画

1	イントロダクション
2	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
3	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
4	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
5	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
6	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
7	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
8	フィールドワーク実習・報告
9	ラジオドラマ制作
10	ラジオドラマ制作
11	ラジオドラマ制作
12	ラジオドラマ制作
13	ラジオドラマ制作
14	ラジオドラマ発表
15	リアル脱出ゲーム制作
16	リアル脱出ゲーム制作
17	リアル脱出ゲーム制作
18	リアル脱出ゲーム発表
19	文献読解『VR原論』
20	文献読解『VR原論』
21	文献読解『VR原論』
22	文献読解『暗黙知の次元』
23	文献読解『暗黙知の次元』
24	文献読解『暗黙知の次元』
25	文献読解『暗黙知の次元』
26	文献読解『暗黙知の次元』

27	文献読解『暗黙知の次元』
28	全体のまとめ

授業外における学習

文献の調べ学習。フィールドワーク実習。ラジオドラマ制作。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
文献読解	40	調べ学習。発表。発言。
報告	30	フィールドワーク実習の報告。
作品	30	オリジナルのオーディオコンテンツ。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中沢新一『レヴィ=ストロース 野生の思考』NHKテキスト。マイケル・ポランニー『暗黙知の次元』ちくま学芸文庫。			
	随時指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

真っ直ぐな眼差しで世界と向き合えるように自分を磨いてください。

その他・特記事項

特になし。

グローバル教養ゼミ（萱津）

更新日：2023/01/10 08:52:07

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110F	科目コード	L5110
担当教員	萱津 理佳						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ICT, 情報, ネットワーク

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	・情報システムやネットワークの仕組み、および、情報社会の動きについて理解を深める。そして、情報に関する興味関心を高めるとともに、各自が追究していきたい具体的なテーマを探求し設定する。設定したテーマについて、文献調査やフィールドワーク・分析を行い、報告書にまとめる。これらの過程を通して、問題についての理解を深めるとともに、問題を提起する能力、それについての現状把握や解答する能力、そして、それらをまとめ表現する能力を身につけることを目標とする。
2	・他のゼミ生の活動を理解し議論しあうことで、情報分野に関する興味関心を高めるとともに、コミュニケーション力を身につける。

教授方法

原則として、演習方式。適宜、グループワークを取り入れる。
報告書等の提出には、GlexaおよびMS Teams 等を利用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス, アイスブレイク, 各自の活動報告①
2	アイスブレイク, 各自の活動報告②
3	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
4	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
5	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
6	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
7	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
8	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画
9	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画
10	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
11	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
12	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
13	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
14	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
15	各自のテーマに関する中間発表①
16	各自のテーマに関する中間発表②
17	各自のテーマに関する調査・研究
18	各自のテーマに関する調査・研究
19	各自のテーマに関する調査・研究
20	各自のテーマに関する調査・研究
21	各自のテーマに関する調査・研究
22	各自のテーマに関する調査・研究
23	ゼミ論集（報告書）の作成①

24	ゼミ論集（報告書）の作成②
25	ゼミ論集（報告書）の作成③
26	ゼミ論集（報告書）の作成④
27	発表会①
28	発表会②， 振り返り，まとめ

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと
- ・各自の課題の進捗状況等の報告用資料を作成し，ゼミで発表のこと
- ・学外での調査やイベントに参加など

質問や相談への対応

- ・質問や相談は，授業中および授業の前後に受け付けます。
- ・授業時間外はメールでの対応，または（アポイントメントをとって）直接来室して下さい。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業・課題	100	授業や課題への取り組み状況，および達成度を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	適宜資料を配布，または，指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ★各自が自分の課題やテーマの解決に向けて，主体的に学び，活動しましょう。
- ★グループワークや，ゼミの活動・議論に積極的に参加しましょう。
- ★授業時間外でのICTを活用したコミュニケーションも積極的にとりましょう。

その他・特記事項

- ・「情報」分野に関するニュースや社会問題にアンテナを張りましょう。
- ・実際に『やってみる』活動を重視したいと思います。また，やりっぱなしではなく，やったことに対する振り返り，文書化も大切です！

グローバル教養ゼミ（二本松）

更新日：2023/01/10 08:52:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110G	科目コード	L5110
担当教員	二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

『平家物語』、木曾義仲、巴御前

授業の概要

長野県ゆかりの文学作品を地域文化として理解し、それを町おこしや観光資源として利用することによって、地元を活性化させるための文化事業を企画・立案する。その過程を通して、地域資源としての日本文学の価値について学ぶ。

【ねらい】

長野県ゆかりの文学作品を取り上げ、地域文化としての日本文学の役割について理解する。

到達目標

1	日本文学が地元の地域資源となる可能性について学び、それを活用してゆく手法を身に付ける。
---	---

教授方法

今年度は、長野県出身の歴史上の人物である木曾義仲と巴御前について取り上げる。まずは、1・2学期において義仲と巴御前が登場する文学作品や伝説に関する基礎知識を学ぶ。次に、3・4学期において県内における義仲・巴御前ゆかりの地域を調査し、地域文化としての文学・伝説について理解を深める。さらにそのような知見を踏まえて、①地元ケーブルテレビ等と連携したミニ番組の企画、②自治体と連携した市民向けのワークショップや講演会・イベントの企画・運営、③多言語パンフレットの企画・制作、④その他各種地元メディアに発信する、といった義仲と巴を顕彰する活動を地元で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

コロナ禍の状況によりますが、大学の許可が得られたらフィールドワークを実施します。何卒、積極的に参加してください。

授業計画

1	授業のガイダンス（1年間のスケジュール、学習目標の確認など）
2	日本文学と地域文化について【講義】
3	長野県内の文化事業について—自治体の活動を中心に—【講義】
4	長野県内の文化産業について—地元メディアを中心に—【講義】
5	木曾義仲と巴御前について学ぶ—歴史上の人物としての義仲・巴について【講義】—
6	木曾義仲と巴御前について学ぶ—『平家物語』の義仲・巴について【講義】—
7	木曾義仲と巴御前について学ぶ—県内における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】—
8	木曾義仲と巴御前について学ぶ—県外における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】—
9	木曾義仲と巴御前について調べる—各種コンテンツにおける義仲・巴について【演習】—
10	企画書を書く①—木曾義仲と巴御前を地元で紹介するアイデアを考える【演習】—
11	企画書を書く②—木曾義仲と巴御前を他県で紹介するアイデアを考える【演習】—
12	木曾義仲と巴御前のPR動画を作成する①【演習】
13	木曾義仲と巴御前のPR動画を作成する②【演習】
14	夏休みに向けた指導—東御市・木曾町と義仲・巴について—
15	夏休みの成果報告、木曾義仲と巴御前について学ぶ—義仲挙兵の地としての東御市について【講義】—
16	フィールドワークの準備—東御市の白鳥河原（義仲挙兵の地）とその周辺について調べる【グループワーク】—
17	フィールドワークの実施—東御市の白鳥河原の实地踏査—
18	フィールドワークの成果発表—《義仲挙兵の地》としての東御市の白鳥河原をPRする動画・多言語パンフレットを作成する【グループワーク】—
19	木曾義仲と巴御前について学ぶ—義仲・巴の出身地としての木曾町について【講義】—
20	木曾義仲と巴御前について学ぶ—木曾町における義仲・巴関連の遺跡及び施設について【講義】—
21	木曾義仲と巴御前について学ぶ—木曾町の義仲・巴関連のイベントについて【講義】—
22	フィールドワークの準備—木曾町における義仲・巴関連の情報について調べる【グループワーク】—
23	フィールドワークの実施—木曾町の实地踏査—

24	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する①】【グループワーク】－
25	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する②】【グループワーク】－
26	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【動画・多言語パンフレットを作成する】【グループワーク】－
27	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【自治体と連携した市民向け講演会・フォーラムの開催・運営】【グループワーク】－
28	1年間の活動報告書を制作する【グループワーク】

授業外における学習

事前学習：課題の提出については、各自締め切りまでに準備しておいてください。

事後学習：課題の返却後は、指摘されたことを確認しておいてください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はメールやポータルなどを利用してご連絡ください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
発表	70	授業のテーマに即した内容、形式、発表の仕方などを総合的に評価する。
レポート	30	授業のテーマに即した内容、形式、執筆の方法などを総合的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業中に提示します。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フィールドワーク（実現できた場合）とグループワークを重視した学習を進めてゆく予定です。どちらも積極的に取り組んでください。

その他・特記事項

3学期以降に、上記以外の地元メディアから取材があれば、積極的に対応してください。どうぞよろしくお願いいたします。

グローバル教養ゼミ（馬場）

更新日：2023/01/10 08:52:09

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110H	科目コード	L5110
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

哲学、フランス語、歩くこと

授業の概要

『歩くこと、一つの哲学』のフランス語原典講読をしながらフランス語ⅠおよびⅡで学習していない文法事項を学習する。原典に現れる哲学的問題やグローバルな諸問題について講義したり、議論したりする。

到達目標

1	フランス語ⅠおよびⅡで学習していない基本的文法事項を理解し、辞書があれば自分でフランス語の文章が読めるようになること。日常的な事象について、経験に即して哲学的に考える姿勢を身につける。辞典や書籍によってテキストに現れる問題や概念について基礎的な調査をする能力を身につける。
---	--

教授方法

『歩くこと、一つの哲学』のフランス語原典を講読する。フランス語原文は初回授業で配布する。対面授業を基本とし、感染状況などの必要に応じてオンラインに切り替える。適宜文法解説、背景の解説などを行う。温暖な季節には屋外を歩きながら哲学対話を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

フランス語ⅠとⅡ両方を既習（他大からの編入者の場合、フランス語の中級程度の文法を既習）していること。哲学、倫理学、公共哲学のいずれかを履修していること（これらのうちのどれも履修していない学生は哲学・倫理学のうちどちらかを同年度に履修すること）。

授業計画

1	授業の進め方について
2	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
3	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
4	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
5	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
6	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
7	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
8	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
9	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
10	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
11	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
12	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
13	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
14	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
15	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
16	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
17	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
18	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
19	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
20	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
21	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
22	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
23	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
24	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
25	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション

26	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
27	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション、レポートの提出
28	授業の振り返り

授業外における学習

与えられた文章をあらかじめ読み、外国語の場合は解らない単語を調べたり、分からない文法事項をはっきりさせておくこと。

質問や相談への対応

可能な限り授業中にすること

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	予習、授業態度等を総合的に評価する
ミニレポート	50	授業中に適宜指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

とにかく休まず出席すること。語学の場合はしっかり予習をすること。積極的にディスカッションに参加すること。

その他・特記事項

必ず初回出席すること。初回をやむを得ない理由で休む場合はメールで必ず連絡すること。

金融リテラシー

更新日：2023/01/10 08:52:01

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5120A	科目コード	L5120
担当教員	山城 吉道						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

金融、ライフプラン、リスク、お金のトラブル

授業の概要

今日では、金融との関わりなしに社会生活を営むことは不可能である。

金融商品・サービスが多様化・高度化する中、金融取引において、自己責任がより一層求められる時代となっている。加えて、我が国では少子高齢化が進み、公的社会保障を巡る財政事情も厳しさを増している。

こうした環境の下、自分にとって望ましいライフプランや目標を実現するためには、お金に関する正確な知識と情報収集力、的確な選択・判断力を身に付け、トラブルを回避し、効果的な金融取引を行いながら生活していくことが重要な鍵となる。

本科目は、金融・行政の各分野から専門家を招き、お金に関する身近な内容から、金融・経済に関する基礎知識、各種金融商品の特性、トラブルの回避・対処法といったトピックを総合的に理解することで、大学生活はもとより社会に出てからも役立つ金融リテラシーの習得を目指す。

英語表記「Financial literacy」

到達目標

1	・金融・経済に関する基礎知識を身に付けるとともに、各種金融商品の特性およびトラブルの回避・対処方法等のトピックにつき総合的に理解する。
2	・大学生、社会人として必要な金融に関する情報収集力、選択・判断力を身に付ける。

教授方法

金融・行政の専門家によるオムニバス形式の講座（長野県金融広報委員会<事務局：日本銀行長野事務所>の寄付講座）。

講義を主体に一部演習を織り交ぜた形式で実施する。随時、学生との対話も行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	【導入、人生と金融リテラシー】 講義概要、社会情勢の変化と金融リテラシー、人生設計と資金計画の重要性など 講師：担当教員
2	【お金と経済】 金融と経済の関係、経済変動が及ぼす生活への影響、上手にお金の取引を行うための知恵など 講師：担当教員
3	【ライフプランを描く①】 ライフプランの重要性、人生の三大費用、社会保障制度など 講師：長野県金融広報委員会
4	【ライフプランを描く②】 第3回講義を踏まえたキャッシュフローの分析演習など（持ち帰り課題として後日提出） 講師：長野県金融広報委員会
5	【経済・財政・金融システム①】 人々の生活と国家財政の関わり、国家財政の現状と課題など 講師：財務省関東財務局長野財務事務所
6	【経済・財政・金融システム②】 日本銀行の業務と金融政策、最近の金融経済情勢など 講師：日本銀行松本支店
7	【トラブルに強くなる】 学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法、金融商品詐欺と予防策など 講師：長野県金融広報委員会
8	【お金をふやす①】 資産形成や投資の意義、リスクとリターンの関係、リスク管理の手法、長期投資の重要性など 講師：日本証券業協会
9	【お金をふやす②】 投資信託の仕組みと特徴、分散投資の意義など 講師：投資信託協会
10	【お金を借りる】 銀行の役割、クレジットカード・消費者ローン・住宅ローンの仕組みと利用上の留意点など 講師：全国銀行協会
11	【リスクや将来に備える①】 生活の中のリスクと保険の役割、損害保険の仕組みと活用法など 講師：日本損害保険協会
12	【リスクや将来に備える②】 人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の仕組み、ライフステージに即した活用法など 講師：生命保険文化センター

13	【地域経済と金融】 地域経済における地方銀行の役割、地方創生に向けた地方銀行の役割など 講師：八十二銀行
14	【全体総括、ライフプランを描く③】 第4回演習課題に関する議論・解説、重要事項の復習、全講義の中で生じた疑問への回答など 講師：長野県金融広報委員会、担当教員

授業外における学習

- ・学習範囲が広いので、毎回、講義内容の復習を行い、知識の定着に取り組む。
- ・第4回講義において、ライフプラン・キャッシュフロー分析演習に関する持ち帰り課題を課す（提出締切：第8回講義終了時）。
- ・第6回講義終了時に、2000字程度のレポート課題を課す（提出締切：第10回講義終了時）。

質問や相談への対応

- ・質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。
- ・随時、講義のアンケートを実施する。
- ・メールでの質問も受け付ける。
メールアドレス：info@nagano-money.com

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	基礎知識を問う択一式試験を課す。講義内容の理解度に応じて評価する。
レポート課題	30	講義内容の理解度と活用状況、文章構成・表現の適切性、レポート要件の充足性などの観点から評価する。
ライフプランニング演習におけるキャッシュフロー見直し課題	10	講義内容の理解度と活用状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書・テキストは特になし。毎回、講義資料を配付する。			
	必要に応じ、適宜参考資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・講義内容を理解できるよう主体的に講義に参加すること。
- ・外部講師によるオムニバス形式の講座のため、各講義において疑問点を解消するよう努めること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅠ（1組）

更新日：2023/01/10 08:51:06

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130A	科目コード	L5130
担当教員	東 俊之						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（2組）

更新日：2023/01/10 08:51:07

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130B	科目コード	L5130
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（3組）

更新日：2023/01/10 08:51:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130C	科目コード	L5130
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（4組）

更新日：2023/01/10 08:51:09

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130D	科目コード	L5130
担当教員	金 賢仙						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（5組）

更新日：2023/03/15 13:18:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130E	科目コード	L5130
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価

レポート	25	授業内で指示する
プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（6組）

更新日：2023/01/10 08:51:10

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130F	科目コード	L5130
担当教員	田村 秀						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（7組）

更新日：2023/01/10 08:51:11

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130G	科目コード	L5130
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（8組）

更新日：2023/03/08 15:08:30

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130H	科目コード	L5130
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（9組）

更新日：2023/01/10 08:51:13

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	L5130I	科目コード	L5130
担当教員	野口 暢子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（10組）

更新日：2023/01/10 08:51:13

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130J	科目コード	L5130
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（11組）

更新日：2023/01/10 08:51:14

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130K	科目コード	L5130
担当教員	加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（12組）

更新日：2023/01/10 08:51:15

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130L	科目コード	L5130
担当教員	宮城 正作						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（13組）

更新日：2023/01/10 08:51:16

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバスコッド	L5130M	科目コード	L5130
担当教員	山本 直樹						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（14組）

更新日：2023/01/10 08:51:17

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130N	科目コード	L5130
担当教員	神戸 和佳子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅡ（1組）

更新日：2023/01/10 08:51:18

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140A	科目コード	L5140
担当教員	金田一 真澄						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（2組）

更新日：2023/01/10 08:51:18

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140B	科目コード	L5140
担当教員	東 俊之						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり ※本クラスでは、グループ分けを第1回で実施します。また、本授業で作成する「リサーチ・ペーパー」の説明を行います（提出は第11回）。
2	テーマについてのインプット①：テーマの説明 ※本クラスでは「長野県の伝統産業」を考えます。
3	テーマについてのインプット②：個人による情報収集 ※個人でテーマに関する情報のインプットを行う。
4	テーマについてのインプット③：グループでの情報共有 ※個人で収集した情報を、グループで共有する。
5	テーマについてのグループ活動①：グループ活動の基本 ※グループ活動の要点を学ぶ、ブレインストーミングやKJ法を体験する、など
6	テーマについてのグループ活動②：発表論題の検討と決定 ※テーマについての更に情報を収集し、グループで発表する論題を決定する、など
7	テーマについてのグループ活動③：問題解決手法の検討 ※グループで設定した研究目標を達成するため手段を検討する／検討した手段を評価する、など
8	テーマについてのグループ活動④：プレゼンテーション ※クラス内で発表を行い、他者から講評を得る（採点の対象とする）
9	テーマについてのレポート作成①：レポートの書き方 ※作成するリサーチペーパーの作成の手順を説明する／アカデミックな文章の作成方法をおさらいする、など（実際の提出は第12回を予定）
10	テーマについてのレポート作成②：レポートの構成検討 ※あたえられたテーマについての個人レポートの構成を考える、など
11	テーマについてのレポート作成③：レポートの執筆 ※あたえられたテーマについての個人レポートを実際に作成する、など
12	テーマについてのプレゼン①：リサーチ・ペーパーについての個人プレゼン ※作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする
13	テーマについてのプレゼン②：リサーチ・ペーパーについての個人プレゼン ※作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（3組）

更新日：2023/01/10 08:51:19

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140C	科目コード	L5140
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介
2	レポートの書き方
3	レポートを修正する
4	レポートを発表する
5	グループ活動：リアル脱出ゲーム
6	グループ活動：ゲームを作る
7	グループ活動：ゲームを発表する
8	グループ活動：ラジオドラマを作る
9	グループ活動：ラジオドラマを作る
10	グループ活動：ラジオドラマを作る
11	グループ活動：ラジオドラマを発表する
12	プレゼンテーション：自分動画を作る
13	プレゼンテーション：自分動画を発表する
14	プレゼンテーション：自分動画を発表する

授業外における学習

各教員の指示に従うこと。

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（4組）

更新日：2023/01/10 08:51:20

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140D	科目コード	L5140
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについての中間報告
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと
- ・学外での調査やイベントに参加など（任意）

質問や相談への対応

- ・質問や相談は、授業中および授業の前後に受け付けます。
- ・授業時間外はメールでの対応、または（アポイントメントをとって）直接来室して下さい。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す

プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	適宜資料を配布，または，参考書等を指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ★各自が自分の課題やテーマの解決に向けて，主体的に学び，活動すること
- ★グループワークや，ゼミの活動・議論に積極的に参加すること

その他・特記事項

アカデミックスキルズを身につけるとともに，主体性やコミュニケーション力，考えぬく力を一緒に鍛えていきましょう！

発信力ゼミⅡ（5組）

更新日：2023/03/14 11:10:39

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140E	科目コード	L5140
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり 興味をもっている絵本や詩についての紹介 自己紹介に加えて、興味をもっている絵本や詩についての紹介や後半やってみみたいことの紹介。
2	テーマについてのインプット 詩や絵本について 詩とはなにか。東西のさまざまな詩について
3	テーマについてのインプット 詩や絵本について 絵本とはなにか。各国のさまざまな絵本の紹介。
4	テーマについてのインプット 詩や絵本について 昨年度のテーマや問いの紹介。気に入った詩や絵本の紹介ポップづくり
5	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマを考える 各自、取り組みたいテーマや問いを考えて意見交換。グループをつくる。
6	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて考える グループで取り組みたいテーマや問いについて考える
7	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
8	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
9	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
10	テーマについてのプレゼンテーション準備 グループで調査した結果に基づき、考察を行い、プレゼンの準備を行う
11	テーマについてのプレゼンテーション（中間発表） グループごとにプレゼン発表（中間発表）を行う 互いに意見交換
12	テーマについてのプレゼン（中間発表）をもとにさらに修正を加える 中間発表で出された意見などを参考に、さらにブラッシュアップする
13	テーマについてのプレゼン発表 各班発表を行って、録画する。発表原稿をもとにレポート作成
14	振り返り テーマや問いの立て方はよかったか、プレゼン発表が思ったようにできたか、レポートをうまくまとめられそうか振り返る。

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと。授業中や授業の前後など適宜質問してください。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す	
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。積極的にグループ活動に参加してほしい。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（6組）

更新日：2023/01/10 08:51:22

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140F	科目コード	L5140
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

授業中に指示する。

質問や相談への対応

メールやLINEでの質問・相談は随時受け付けている。対面を希望する場合は、事前に予約すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（7組）

更新日：2023/01/10 08:51:23

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバコード	L5140G	科目コード	L5140
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり...授業担当者がこのクラスのテーマである“長野県内の城下町”についてレクチャーする。受講生は、各自の関心に基づきながら地元の歴史文化を地域資源として活用する意義についてグループワークを通して考える。
2	テーマについてのインプット...各都道府県内の城下町を地域資源として活用する事例について調べる。
3	テーマについてのインプット...長野県内の城下町について調べる。
4	テーマについてのインプット...長野県内でお城を地域資源として活用している事例について調べる。
5	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町についてグループディスカッションする。
6	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町の歴史文化的価値についてグループディスカッションする。
7	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町について、お城を地域資源とするアイデアをグループディスカッションする。
8	テーマについてのグループ活動.....研究対象とする長野県内の城下町について、お城を地域資源として地域活性化とするアイデアをグループディスカッションする。
9	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《ラジオ番組の台本づくりをイメージ》。
10	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《テレビ番組の台本づくりをイメージ》。
11	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《SNSのコンテンツづくりをイメージ》。
12	テーマについてのプレゼン...第9回・第10回・第11回のレポートをもとにSNSで発信する。
13	テーマについてのプレゼン...第9回・第10回・第11回のレポートをもとに地元メディアで発信する。
14	振り返り...これまでの学習してきたことについてよかった点や反省点などを話し合う。

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す

プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（8組）

更新日：2023/01/10 08:51:23

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140H	科目コード	L5140
担当教員	野口 暢子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力、食品ロス問題、フードバンク&フードドライブ

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。8組は、フードドライブ&フードバンクを行う。その準備作業に関わることで、イベント告知や開催に関する情報発信力の向上を目指す。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。クラスのメンバーで協力して、イベントを準備・開催できる力を身に着ける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練（学術レポートの執筆）。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。プレゼンテーション（食品ロスに関する内容の個人発表）。フードバンク&フードドライブ活動など

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介
2	食品ロス問題について、クラスメイトとのディスカッション
3	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第1回（発表時間：1人5分）
4	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第2回（発表時間：1人5分）
5	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第3回（発表時間・1人5分）
6	食品ロス問題に関するグループディスカッション
7	レポートを作成するために（書籍の探し方、レポートの書き方に関する講義）
8	ブックレポートの作成（要約：A4・3頁）
9	ブックレポートの作成（要約：A4・3頁）
10	フードバンク&フードドライブの準備
11	食品ロスについてのレポート作成
12	食品ロスについてのレポート作成
13	フードバンク&フードドライブの実施
14	振り返り

授業外における学習

プレゼンテーションの準備、レポートの執筆

質問や相談への対応

noguchi.nobuko@u-nagano.ac.jpにメールを送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価

レポート	25	レポートループリックを示します。
プレゼン	25	発表評価ループリックを示します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グローバルな視点を持って、食品ロス問題を考察し、ローカルな場所での活動に積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（9組）

更新日：2023/01/10 08:51:24

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140I	科目コード	L5140
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（10組）

更新日：2023/01/10 08:51:25

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140J	科目コード	L5140
担当教員	加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり、課題の確認
2	興味あるテーマの共有
3	グループ分けとグループテーマの仮決定
4	グループごとのテーマ設定と調査・分析計画
5	テーマについてのグループ活動①
6	テーマについてのグループ活動②
7	ショートプレゼン（中間発表）
8	テーマについてのグループ活動（調査用紙の作成）③
9	テーマについてのレポート作成
10	調査結果の分析①
11	調査結果の分析②
12	プレゼン準備①
13	プレゼン準備②
14	プレゼンと振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（11組）

更新日：2023/01/10 08:51:26

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140K	科目コード	L5140
担当教員	宮城 正作						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（12組）

更新日：2023/01/10 08:51:27

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140L	科目コード	L5140
担当教員	山本 直樹						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり（演劇的発信を通して）
2	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
3	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
4	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
5	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
6	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
7	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
8	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
9	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
10	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
11	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
12	テーマについてのプレゼン（演劇的発信を通して）
13	テーマについてのプレゼン（演劇的発信を通して）
14	振り返り（演劇的発信を通して）

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（13組）

更新日：2023/01/10 08:51:28

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140M	科目コード	L5140
担当教員	神戸 和佳子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

現代世界の文化

更新日：2023/01/10 08:51:28

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5150A	科目コード	L5150
担当教員	織田 竜也, 馬場 智一, Trane DeVore, 谷口 真由実, 銭廣 健人, 中澤 弥子, 中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

異文化。民俗。政治。音楽。食。

授業の概要

現代世界の文化的諸相について複数の観点から学ぶ。地域固有のローカルな生活習慣や国境を越えて広がるグローバルな現象について、現地での経験によって得られる情報について理解を深める。

到達目標

1	現代世界の文化に関する知識を習得する。地理や歴史といった切り口とは違った世界理解の方法に親しむ。映像資料や音声資料を能動的に視聴し、文字情報としてノートに整理する。多様な文化の特徴を理解した上で、グローバルな視点から現代世界の動向を理解する。
---	---

教授方法

複数の教員による講義。視聴覚資料から得られる情報をノートに整理し、現代世界の多様な状況について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

2022年度入学の1年生だけが履修できる。

授業計画

1	イントロダクション、スペインの祝祭（織田竜也）
2	フランスの芸能と政治（馬場智一）
3	米国のカウンターカルチャーと音楽（デヴォア・トレーン）
4	映像作品にみる中国社会の変容（谷口真由実）
5	アラブ世界の民主化（銭廣健人）
6	世界の中の食の禁忌（中澤弥子）
7	ポーランドの音楽（中川亮平）

授業外における学習

随時指示する。

質問や相談への対応

担当教員に面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30		
期末試験	70		
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	随時指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

期末試験はPCを持参してGlexaで実施する。

キャンパスライフのためのヘルス・リテラシー

更新日：2023/02/01 17:22:23

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L5160A	科目コード	L5160
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

大学生生活 ヘルスリテラシー 健康管理

授業の概要

大学生生活は、これまでの生活習慣に変化が生じやすく、自分自身で健康管理を実践する必要性が生じる時期である。新たな人間関係や生活習慣は、その後の大学生生活や学業にも影響を与える。とくに健康は、個人や社会生活にまたがる大きな課題である。本科目では、大学生生活やその後の社会生活を健康的に暮らすための基本的な健康に関する知識を学び、自らがこころとからだの情報を得て理解し、使える力をつける動機づけとなることを目的とする。

到達目標

1	大学生生活における健康課題を説明できる
2	自分の生活習慣を知り健康管理を試行できる
3	健康的な生活を送るため良い保健行動を選択できる

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション 自分の健康は自分で守ろう 身近な感染症 授業全体のオリエンテーション 自身の健康管理の必要性と期間中実施する健康管理ツールの確認を行う。大学生の身近な健康の1つである感染症の基本的知識を得る
2	アルコール たばこ と健康 今後アルコールやたばこの出合いに備え、アルコールやたばこが健康に影響する基本的知識と、自分の体質を確認する。
3	食生活と健康 大学生生活での食生活の課題や栄養と健康の基本的知識を知り、自身の食生活の課題を考えてみる
4	生活リズムの重要性（睡眠、ネット依存） 生活リズムの乱れの原因やその影響を知り、快眠生活を維持するための方法を確認する
5	メンタルヘルス 新しい生活や新しい人間関係から生じるメンタル不調と対処方法を学ぶ。自分自身の考え方の傾向を学ぶ
6	対人関係とコミュニケーション 対人関係で悩みやすいコミュニケーションの取り方について実際に演習を交えて体験していく
7	性と健康 恋愛と性、それに伴う健康について、からだや妊娠のメカニズムとデートDVを含め、男女の付き合い方について考える機会とする

授業外における学習

自分の健康管理ファイルをつくって健康チェックをしてみよう

質問や相談への対応

授業時またはメール等で質問・相談可能

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業提出物	80	8つの提出物を授業内で指示する。提出の有無、締め切りを守ったか、内容等で判断する

健康管理ファイル作成	20	自身の健康管理ファイル（ノート）を作成し授業時にチェックする
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし 資料を配布			
	適宜紹介する予定からだBOO K JFPA北村邦夫			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

よりよい大学生活を送るために自分の健康や友人の健康にも留意しよう

その他・特記事項

とくになし

地方行財政基礎演習

更新日：2023/01/10 08:52:39

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G2190A	科目コード	G2190
担当教員	野口 暢子						
備考	演習/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

地方自治体、公共政策、自治体職員による講演、政策立案、公務労働

授業の概要

長野県及び長野市の政策や取り組みについて、その内容に詳しい担当職員に授業内に講演していただく（約50分）。講演後は、受講生が講演者に直接質問する機会やグループディスカッションの時間を設け、さらに理解を深める（約30分）。そのうえで、講演の内容や感想をまとめる（約20分）。最終回には、関心のある政策についてのレポートをまとめ、提出できるよう、自治体行財政に関する講義を進めていく。

到達目標

1	当該施策を担当している自治体職員から地域における政策や取り組みについての講演を聞いたり、受講生自らが自治体が行っている仕事について調べたりすることを通じて、地域の課題に関する興味・関心の幅をひろげ、将来、地域の課題解決のための政策立案を行う素養を涵養することを目標とする。
---	--

教授方法

自治体における政策について、外部講師（自治体職員など）による講演とその内容に関する質疑応答を行う回と担当教員による当該政策等についての補足説明とその内容を受けたグループディスカッションを行う回を交互に設ける。毎回の授業に関するコメントシートで受講生の理解度を確認しながら進める。最終回に、レポート提出を求める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	はじめに（授業の進め方・内容）
2	長野県の総合計画（講演）
3	長野県の総合計画（講義とグループディスカッション）
4	長野市財政のあらまし（講演）
5	長野市財政（講義とグループディスカッション）
6	長野県のまちづくり政策（講演）
7	長野県のまちづくり政策（講義とグループディスカッション）
8	長野県の環境政策（講演）
9	長野県の環境政策（講義とグループディスカッション）
10	長野市における男女共同参画政策（講演）
11	長野市の男女共同参画政策（講義とグループディスカッション）
12	長野市の学校給食（講演）
13	長野市の学校給食（講義とグループディスカッション）
14	【まとめ】自治体の魅力を高めるために、住民としてできること

授業外における学習

毎回、講演の内容に関する予備知識を身に付け、質問の準備をすること。講演の後は、その当日配布された資料等をもとにして、自ら情報収集を行い、さらに政策に関する理解を深めること。自治体の政策に関する期末レポートを書くこと。

質問や相談への対応

授業の最後に配布するコメントシートに質問を書いてください。次の回の授業で回答を配布します。個人的な質問や相談がある場合には、野口の学内メールアドレス宛にその内容を書いたメールを送ってください。直接話したいときには、面談が可能な日時の候補3つと質問や相談したい内容の概要を書いたメールを送ってください。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

コメントシート	36	質問・感想等を記入するコメントシートをもとに、理解度、課題発見力を評価する(第2回～第13回×3点)。
質問する力	14	積極的に質問できたかどうかを評価する。講師や担当教員への質問・グループディスカッションにおける質問を評価の対象とする。
期末レポート	50	正確な情報をもとにしているか、レポートの書き方のルールにしたがって書いているか、論理的であるか、明快であるか、政策に関する疑問点や改善点を発見できているかを評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	必要な資料は授業前や授業内に配布します。その他、受講生の関心に応じて、参考書・参考資料などを紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

地域住民としての力を養うことのできる講義です。公務員になることを志望している学生だけでなく、さまざまな学生が受講してくださることを望んでいます。この講義を、日頃から、自治体や地域における問題に関心を持ち、行政や政治・経済に関する情報を得るきっかけにいたしましょう。

その他・特記事項

長野県・長野市の方にお話をさせていただきますが、教員の講義では、諸外国や全国の自治体における取り組みを紹介し、グループディスカッションで比較検討します。

行政法

更新日：2023/01/10 08:52:39

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	G2200A	科目コード	G2200
担当教員	田村 達久						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

法律による行政の原理、公権力の行使、事実行為、行政の行為形式、行政裁量、抗告訴訟、国家賠償

授業の概要

行政法の基本原理及び行政作用の各種の行為形式（行為類型、活動形式）に関する行政法理論の体系である行政法総論並びに行政作用によって生じうる国民の権利利益の救済のあり方に関する行政救済法の制度と理論についての全体にわたるその基礎的な知識の教授を行います。

到達目標

1	伝統的な行政過程（行政組織法・行政作用法領域）の基本構造（法律・行政立法—行政行為—行政強制）を理解し、その中で用いられる行政行為等の各種の行為形式に関する法制度・理論・判例の基礎知識及びそれに続く行政争訟過程（行政救済法領域）に属する主として行政事件訴訟制度と国家賠償制度に関する理論・判例の基礎知識を習得する。このことにより、行政法理論・判例の全体にわたる正確な理解ができるようになるとともに、その理解に基づく関係行政法現象・問題を独力で検討し、解決することのできる能力の習得を目指す。
---	---

教授方法

基本的に、下記の「教科書・テキスト」欄に記載の教科書を用いて、それに沿って講述する形式で進めます。ただし、当該教科書に収録されている判例の事実と判旨を読んでもらったり、その判例の要点となる点を教員が質問し、それに応答してもらったり、関係する法律の条文を読んでもらったり、配布するレジュメに記載されている問題の回答を求めたりなどすることを通じて、教員との双方向又は学生間での多方向のやりとりなども取り入れながら進めます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にありません。

授業計画

1	オリエンテーション：学習項目の鳥瞰と学習の進め方、並びに、行政過程及び行政争訟過程の基本構造を学ぶ。
2	法律による行政の原理（行政における法治主義）及び行政における法律関係に関する法制度・理論・判例を学ぶ。
3	行政立法論：法制度・理論・判例を学ぶ。
4	行政行為論：法制度・理論・判例を学ぶ。
5	行政裁量論：法制度・理論・判例を学ぶ。
6	行政指導論：法制度・理論・判例を学ぶ。
7	行政強制論及び行政制裁論：法制度・理論・判例を学ぶ。
8	行政救済法総説及び行政不服審査制度：法制度・理論・判例を学ぶ。
9	行政事件訴訟制度総説及び抗告訴訟制度・仮の救済制度の全体を学ぶ。
10	抗告訴訟の中心的制度である取消訴訟制度及びその仮の救済制度であるこ執行停止制度の理論・判例を学ぶ。
11	国家補償制度総説並びに損失補償制度及び公の营造物の設置・管理の瑕疵に係る国家賠償制度の理論・判例を学ぶ。
12	公権力の行使に係る国家賠償制度の理論・判例を学ぶ。
13	学習内容の総復習及び質疑応答
14	定期試験（試験時間60分）の実施と、試験後の試験問題に関する解説及び質疑応答

授業外における学習

配付する授業レジュメ及び授業使用テキストを通読してその内容や疑問点などを確認しておくことが事前の学習内容となる。また、事後の学習においては、当該授業レジュメに記載されている、又は、授業中提示された事例問題を改めて独力で解いてみることも、それを文章化するなどして、授業において講述された行政法理論及び判例に関する知識が正確かつ確実に習得されているかを確認し、かつ、事例問題の解答を文章化することを通じて、リーガル・ライティング力の向上を図るようにする。1回当たりの事前・事後の各学習に要する時間は、標準的には、

質問や相談への対応

定期試験日を除いて3日間の短期集中の授業となるため、特に定期試験（上記「授業計画」欄に記載のとおり、最終日の14回目の授業時間中に実施）に直結する質問・相談などはその授業期間中にお願します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	100	行政法に関する制度、理論、判例に関する基本的な知識の習得度及びそれを用いた応用力の程度に基づき評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	芝池義一ほか編『判例行政法入門（第6版）』（有斐閣、2017年）ISBN 9784641227347			
	①いわゆる六法（法令集のこと。例えば有斐閣判例六法令和4年版などの判例付きの最新のものが望ましい。授業中実際に行政手続法、行政事件訴訟法、国家賠償法などの特に重要な法律の条文を見たり、読んでもらったりします。）、②黒川哲志ほか編『確認行政法用語230（第2版）』（成文堂、2016年）ISBN 9784792305918（授業中適宜参照します。）、③宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ（第7版）』・『同Ⅱ（第7版）』（有斐閣、2017年）ISBN 9784641115354・9784641115361。このほか、			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

定期試験日を除いて3日間の短期集中の授業となりますので、体調管理には特に注意を払って受講してください。

その他・特記事項

特にありません。

コミュニティ・デザイン（概論）

更新日：2023/01/10 08:52:41

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	G2210A	科目コード	G2210
担当教員	築山 秀夫						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

コミュニティ・デザイン、地縁型コミュニティ・テーマ型コミュニティ、コミュニティ・オーガナイズング

授業の概要

基本的に講義形式で行い、学生による能動的学修も組み込む。コミュニティデザインを学ぶために、コミュニティの基礎的知識を理解することを目標とする。講義内容の柱は次の3つである。第一は、コミュニティに関する社会学者による理論的展開について、第二は、コミュニティを地縁型とテーマ型に分け、それぞれの構造と現状、課題について、第三は、コミュニティのデザインとしての公共政策、住民による市民活動・まちづくりについてである。これらを通じて、受講者とコミュニティとのあり方について考察を深める。

地域の課題を観察、分析し、地域再生を目指すコミュニティデザインに関する、基礎知識としてコミュニティ概念及び、その現状を理解し、コミュニティ政策やコミュニティデザインそれ自体が持つ課題を学び、現代の具体的な問題に応用することのできる能力を身に付けることをねらいとし、以下を到達目標とする。

到達目標

1	①社会学者によるコミュニティの定義について理解する。
2	②コミュニティの変容と現状について理解する。
3	③地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティの内実と課題について理解する。
4	④スケールごとのコミュニティ・デザインのあり方について理解する。
5	⑤コミュニティデザインの現状と課題について理解する。

教授方法

授業は講義を中心に行うが、毎回、グループに分かれて議論し、発表するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。コロナ禍への対応のために、一部をオンライン講義に変更することもある。小テスト及び期末試験は対面とする。よって、授業計画の多少の変更がある可能性がある。小テストの実施については、実施する前の講義でアナウンスをする。学生諸君の興味関心に対応するために、講義で取り扱うテーマを変更することがある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。コミュニティ及びコミュニティ・デザインをめぐる現状について解説し、コミュニティをデザインする目的は何かを考察する。
2	日本におけるコミュニティの現状について、解説する。コミュニティ・デザインの定義及びコミュニティ・デザインの歴史、アソシエーションではなく、コミュニティをデザインすることについて、解説する。
3	コミュニティの定義 社会学者によるコミュニティ概念の定義について解説するコミュニティの変容 コミュニティ解放仮説、社会関係資本、コミュニティの排他性・寛容性について解説する。ネット・コミュニティ、関心のコミュニティについても考察する。コミュニティの類型 社会学者によるコミュニティの諸研究について解説する。
4	地縁型コミュニティの構造と機能 地縁型コミュニティとしての町内会など所謂地域住民組織について解説する。コミュニティの核としての、寺、神社、学校、旧村について考察する。地縁型コミュニティの理解を深めるために、実家が位置する町内会等地域住民組織に関するレポート1を提出する。
5	地縁型コミュニティの現在 空洞化するコミュニティ、なぜ、コミュニティに無関心なのかについて、考察する。第1～4回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト1を実施する。
6	デザインする主体は誰か：サブシディアリティの原理、市民、コミュニティ・デザインの特徴について解説する。テーマ型コミュニティの構造と機能 市民活動及びNPM、新しい公共などについて解説する。
7	テーマ型コミュニティの現状と課題：市民活動、NPO・NGO、日本のNPOの現状等について解説する。テーマ型コミュニティの理解を深めるために、実家がある市町村に存在するNPOに関して、レポート2を提出する。
8	テーマ型コミュニティの事業デザイン、ファンドレイジング、ロジック・モデルについて解説する。地域課題を解決するNPOの事業をデザインする。
9	デザインすること、社会計画、まちづくりについて解説する。コミュニティのデザイン1 ナショナルなデザインとしての国土計画、コミュニティ政策、新しい公共について解説する。第5～9回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト2を実施する。
10	コミュニティのデザイン1 ナショナルなデザインとしての国土計画、コミュニティ政策、新しい公共について解説する。第5～9回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト2を実施する。
11	コミュニティのデザイン2 ローカルなデザインとしての都市計画、都市マスタープラン、コミュニティ政策について解説する。

12	コミュニティのデザイン3 コミュニティ・オーガナイズングについて解説する。
13	コミュニティのデザイン4 社会変革のためのコミュニティ・オーガナイズングについて解説する。
14	まとめ コミュニティデザインを越えて 受講者同士のディスカッション

授業外における学習

授業中に、配布された資料に関しては、しっかりと読み込んでおくこと。講義中に取ったノートを読み返し、復習をしておくこと。また、毎回、講義の後に、フォローアップ課題に回答すること。

質問や相談への対応

質問は授業後、オフィスアワー時に受け入れる。また、毎回、講義の後に、フォローアップ課題を提出して頂くので、そちらに質問を書いて頂ければ、次回の講義時に解答することとする。但し、自分でもできる限り調べる努力をすること。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	選択・記述とし、コミュニティ及びコミュニティ・デザインに関する理解について問う。定期試験が60点以上なければ、及第しないこととする。
小テスト	20	第5回と第10回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
レポート	20	第4回と7回にレポートを提出して頂く。全てのレポートを提出していることが及第の条件となる。
日常点	10	毎回のフォローアップ課題の内容、日常的な、ディスカッション等への参加状況などで評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。必要な文献資料については、その都度、コピーしたものを配布する。			
	船津衛・浅川達人2014『現代コミュニティとは何か』恒星社厚生閣、小泉秀樹2016『コミュニティデザイン学』東京大学出版会マシュー・ボルトン2018-2020『社会はこうやって変える！コミュニティ・オーガナイズング入門』法律文化社（Matthew Bolton, 2018, HOW TO RESIST : Turn Protest to Power)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

受講生は、予習・復習、グループワークやディスカッションに積極的に取り組んでほしい。

その他・特記事項

自らの出身地域を再生させるにはいかなるコミュニティデザインが必要かを考えてほしい。

地域マーケティング

更新日：2023/01/10 08:54:12

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G2220A	科目コード	G2220
担当教員	森山 祐樹						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

地域、マーケティング、ブランディング、差別化

授業の概要

地域マーケティングとは、まちづくりや地域の問題解決、地域活性化のためにマーケティングの理論や技法を活用することです。そのため、まちづくりや地域で行われる活動において、市場やターゲット設定、マーケティング・ミックスなどマーケティングの基本的な概念が実際にどのように用いられているのかを、県内外の身近な事例を参考に議論していきます。事例に対する議論において、マーケティングの成功や失敗の原因を分析し、自治体の政策や地域づくりにマーケティングの手法がどう貢献できるのかを自ら考えて頂けると幸いです。

英語表記「Regional Marketing」

到達目標

1	①マーケティングの基本的な手法（マーケティングミックス、STP等）を理解する
2	②地域マーケティングの事例から、活用されているマーケティング手法を分析できる

教授方法

講義とディスカッションを織り交ぜた形式で実施します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「マーケティング入門」を修得していること

授業計画

1	イントロダクション：授業の位置づけ、授業の進め方について理解し、この授業で何を学べ、何に役立てるかを知る
2	マーケティングとは何かを理解する
3	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、マーケティングミックスについて理解する
4	地域マーケティングの概要とその主要市場を理解する
5	ブランドの概念を理解した上で、地域ブランドとその活用事例を学ぶ
6	地域資源の認知・活用と地域ブランドの構成要素を理解する
7	県内の地域マーケティング事例研究①（スノーリゾート編（予定））
8	県内の地域マーケティング事例分析①（スノーリゾート編（予定））
9	県内外の地域マーケティング事例研究②（観光リゾート編（予定））
10	県内外の地域マーケティング事例分析②（観光リゾート編（予定））
11	長野県内にはどのような地域資源があり、どのような地域マーケティングの可能性が存在するかを考える
12	地域マーケティング事例発表準備
13	地域マーケティング事例発表①（グループごとに発表）
14	地域マーケティング事例発表②（グループごとに発表）

授業外における学習

一部の事例研究において、マーケティング要素の抽出や分析を行う予定

質問や相談への対応

・質問は授業中や授業の前後に受け付けます（メールでの質問も可）アドレス：ymori29@gmail.com

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業 発表	レポート	100	・授業の出席 ・授業内の課題（レポート、発表）※地域マーケティング事例を分析し、提出または発表
合計		100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	『地域マーケティングの核心』佐々木茂ほか 同友館 2014 『わかりやすいマーケティング戦略』沼上幹 有斐閣 2010 『ケースに学ぶ マーケティング』青木幸弘 有斐閣ブックス 2015 『ブランド論』デービットワーカー ダイアモンド社 2014			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

事例から論理を読み取る力と、「なぜ」を繰り返すことで本質に迫る経験を積んで頂けると幸いです。

その他・特記事項

講師プロフィール：日本航空（JAL）にて、マーケティング・ブランディング、経営戦略、調達戦略策定業務等に従事。その後、有限責任監査法人トーマツにて、地域企業の経営コンサルティングを行うとともに、県の事業として信州スタートアップステーションの主任コーディネーターとして、県内のベンチャー企業、創業者支援に携わる。

ソーシャル・イノベーション論

更新日：2023/01/10 08:53:29

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G2230A	科目コード	G2230
担当教員	大室 悦賀						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ユーザーリードリノベーション、オープンイノベーション、知識創造

授業の概要

近年、社会的課題の解決にビジネスの手法を活用する「ソーシャルビジネス」が台頭し、社会的にその期待が高まっている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの中心となる概念であるソーシャル・イノベーションについて学習する。その過程では、ソーシャルイノベーションと密接に関わるイノベーション理論をオーバービューしていく。講義では、本質を理解するために、ディスカッション、映像鑑賞などを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につける。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。

到達目標

1	本講義では、ソーシャル・イノベーションを最終的に理解するとともに、その過程でイノベーションの理論がどのように変遷してきているの、か理解することを目的とする。加えて、イノベーションのベースとなる知識創造についても理解する。
---	--

教授方法

基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。一方で、映像資料や事例検討などでグループによる対話を取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年以降

授業計画

1	イントロダクション（授業概要、評価方法、授業の進め方）・イノベーションが求められる理由
2	イノベーションとは何か（シュムペーターとドラッカー）
3	イノベーション理論Ⅰ（歴史・イノベーションが企業にもたらすもの）
4	イノベーション理論Ⅱ（イノベーションタイプ・パターン・プロセス）
5	イノベーション理論Ⅲ（資源動員と知識創造）
6	イノベーション理論Ⅳ（認知バイアス・直感と論理・感情・新製品開発のマネジメント組織マネジメント）
7	イノベーション理論Ⅴ（イノベーションと企業戦略）
8	中間まとめ
9	リードユーザーイノベーションの再考
10	オープンイノベーションの2.0の台頭
11	ソーシャルイノベーションⅠ（ソーシャルイノベーションとは何か）
12	ソーシャルイノベーションⅡ（ソーシャルイノベーションと知識創造）
13	ソーシャルイノベーションⅢ（ソーシャルイノベーションのビジネス化）
14	まとめ

授業外における学習

事前学習：テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること

事後学習：テーマに沿って事例を調べる。課題となった映像資料を視聴し、課題とする論文を読み込んでくること。

質問や相談への対応

授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、対面かリモートで対応する

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	20%	授業内でミニレポートを2回実施
小レポート	80%	授業内で小レポートを2回実施
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	無			
	谷本寛治他編著『ソーシャルイノベーションの創出と普及』NTT出版, 2013年 大室悦賀編著『ソーシャル・ビジネス』中央経済社, 2011年 クレイトン・クリステンセン著『イノベーションのジレンマ—技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』翔泳社, 2001年 ドラッカー著『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社, 2001年			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

多くの人と議論すること

その他・特記事項

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。私語（いかなる理由の発話であれ）や遅刻など、他の受講者にとって迷惑になると私が判断する行為に対しては厳しい姿勢で臨み、成績評価に厳格に反映させます。

これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる

地域イノベーション論

更新日：2023/02/27 12:54:39

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G2240A	科目コード	G2240
担当教員	尹 大栄						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

地域（地場）産業、イノベーション、人材育成、取引利益

授業の概要

本講義では、長い歴史の中で生き残ってきた国内外の代表的な地域・地場産業を取り上げ、その持続性を支えてきた要因について議論する。主な持続性要因としては、「イノベーション」「人材育成の仕組み」「取引制度」がある。これらの持続性要因がどのようなロジックで展開されて来たのか、日・欧・アジア各地の地域産業における具体的な事例を取り上げて議論する。

到達目標

1	地域産業が抱えている様々な課題を創造的に解決する方法について学習し、地域産業の持続性要因は何かについて理解する。
---	--

教授方法

指定テキスト及び参考書を用いた講義形式を基本とするが、地域イノベーションの主体である企業、非営利組織（NPO）、社会的企業のイノベーション活動に関する豊富なエピソード、写真映像などを積極的に活用する授業展開を計画している。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

地域（地場）産業の関心のある人

授業計画

1	イントロダクション；地域産業と経営学
2	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（1）
3	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（2）
4	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（3）
5	静岡県の酒造産業の再活性化（1）
6	静岡県の酒造産業の再活性化（2）
7	プラモデル産業
8	協調メカニズムとしての取引制度（1）
9	協調メカニズムとしての取引制度（2）
10	地域産業における人材育成の仕組み（1）
11	地域産業における人材育成の仕組み（2）
12	地域産業とファミリービジネス（1）
13	地域産業とファミリービジネス（2）
14	まとめ

授業外における学習

事前課題についてしっかり調べてくる。

質問や相談への対応

研究室（B304室）訪問やメールで対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を達成している。【D】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
期末試験	80%		
レポート	20%		
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	尹大栄（2014）『地域産業の 永続性』中央経済社			
	授業の中で適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

地域産業を深く学ぶ機会にしてほしい。

その他・特記事項

授業はテキストに沿って展開するので、テキストを購入すること。

簿記入門Ⅰ（旧：アカウンティング入門）

更新日：2023/01/10 08:55:02

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	G2250A	科目コード	G2250
担当教員	衣川 修平						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

複式簿記 会計 ビジネスの言語 book-keeping

授業の概要

会計はビジネスの言語であり、複式簿記という世界共通の情報処理技術によって記録・計算されたうえで、利害関係者に報告されます。このような会計は、私的企業だけでなく、官庁やNPOといった非営利法人でも利用され、またGDP計算の基礎ともなります。

本講義ではその基本的な複式簿記の処理を徹底的に勉強します。

本講義では、電卓を叩いて、叩いて、叩きまくります。
勇者は雄々しく剣で戦うが、賢者は電卓で戦う。

到達目標

1	①複式簿記の基本構造を理解する。
2	②基本的な商業取引を複式簿記で記帳できるようになる。
3	③アカウンティング・マインドを要請する。

教授方法

オンラインないし対面による講義と演習をミックスした形式でおこなう。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	簿記と会計とは何か。そして何ができるのか。
2	簿記の5要素と貸借対照表--ストックとは
3	簿記の5要素と損益計算書一目に見えないフローの可視化
4	複式記入の基礎
5	商品売買の基礎
6	債権・債務の基礎
7	仕訳演習DAY
8	総勘定元帳-T字勘定への転記
9	合計試算表
10	残高試算表
11	6桁精算表
12	総合問題演習①
13	総合問題演習②
14	総合問題演習③

授業外における学習

宿題を多く出します。必ず自分で解いてください。まれに友達のを写して出す人がいますが、宿題を出さなくても評価上マイナスにはなりませんので、そういう人は提出しないでください。簿記は自分で解かない限り、マスターできません。

質問や相談への対応

メールで随時質問すること

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

テスト	80	
宿題と発言	20	提出回数と発言回数
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	渡部裕亘 他『検定簿記ワークブック3級』 中央経済社 (800円)			
	適宜指示			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

簿記は解かない限りマスターできません。狂ったように電卓をたたいて計算してください。その代わり、手を使って計算しまくれば、だれでもマスターできます。

その他・特記事項

本講義で日照3級の前半部分をカバーします。

経営統計学入門（2022年度以降入学生対象）

更新日：2023/01/10 08:55:02

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	G2330A	科目コード	G2330
担当教員	鶴田 靖人						
備考	講義/選択必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

統計学、記述統計量、回帰分析、標本抽出、統計的推測

授業の概要

統計学とは、①データの扱い方、②データから正しい値を推測する方法を研究する学問である。経営の世界では、品質管理やマーケティングなどの分野で統計スキルを用いている。その理由は、データという客観的な数値を活用することで、課題の把握、将来の予測、効果の検証などを正確に行えるからである。また、「データは21世紀の石油である」という言葉もあるようにデータをうまく活用することで新たな価値を生むことができるとされている。この授業ではデータから必要な情報を得るための様々な統計手法や統計的思考を学ぶ。

到達目標

1	①ばらばらな数の集まりであるデータが持つ特徴を記述統計量と呼ばれる指標を用いて要約し、データの特徴を説明できる。
2	②確率の考え方をを使って、データ全体（母集団）から一部（標本）をランダムに抽出する標本調査の仕組みを説明できる。
3	③標本から母集団の性質を推測する統計的推論（推定、検定）を正しく使用し、自分が立てた仮説の妥当性を検証できる。
4	④相関関係を理解し、回帰分析手法を身に着けることで、複数のデータの関係性を明らかにできる。

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式で行います。演習は計算問題を解きます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション、データの視覚化統計学とは、どのような学問であるかを学ぶ。授業の進め方について理解する。ヒストグラムを用いたデータの視覚化の方法を学ぶ。
2	データが持つ特定の性質を数量的に表現する方法を学ぶ（1）キーワード：代表値、平均
3	データが持つ特定の性質を数量的に表現する方法を学ぶ（2）キーワード：散らばりの尺度、分散、標準化、変動係数
4	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（1）相関関係、相関係数
5	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（2）キーワード：回帰関係、回帰分析、最小二乗法
6	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（3）キーワード：回帰分析、決定係数
7	統計的推論の基礎である確率の考え方や基本的な確率の概念を学ぶ（1）キーワード：確率変数、確率分布、期待値、二項分布
8	統計的推論の基礎である確率の考え方や基本的な確率の概念を学ぶ（2）キーワード：正規分布
9	標本（サンプル）から計算された値の確率的なふるまいを学ぶ（1）キーワード：母集団、標本、無作為抽出、大数の法則、中心極限定理
10	標本（サンプル）から計算された値の確率的なふるまいを学ぶ（2）キーワード：標本分布、t分布
11	母集団の特徴を表す値を推測する方法を学ぶ（1）キーワード：統計的推論、比率の区間推定、点推定
12	母集団の特徴を表す値を推測する方法を学ぶ（2）キーワード：平均の区間推定
13	標本を観察した結果とつぎあわせて、仮説が正しいかどうかを調べる方法を学ぶ（1）キーワード：仮説検定、有意水準、比率の検定
14	標本を観察した結果とつぎあわせて、仮説が正しいかどうかを調べる方法を学ぶ（2）キーワード：平均の検定

授業外における学習

毎回、指定された課題に取り組んでください。教科書を参考に授業の復習をしてください。前回までの授業内容を理解している前提で授業を行います。

質問や相談への対応

質問は、基本的にメールで受け付けます。

アドレス：tsuruta.yasuhito@u-nagano.ac.jp

オフィスアワーを設定します（日時は授業で説明）。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	基礎知識の理解度に応じて評価する
課題	30	授業の理解度に応じて評価する
上記以外の授業評価	20	リアクションシート（正誤問題を含む）に応じて評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	宮川公男著『基本統計学 第4版』有斐閣、2015年.			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回、電卓（四則演算、%、平方根の計算ができるもの）を持参してください。
主体的に演習や課題に取り組むことを期待しています。

その他・特記事項

高度な数学の知識を理解している必要はありません。電卓を使用して四則演算や平方根の計算を行える能力は必要です。

経営史

更新日：2023/01/10 08:52:43

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	G3010A	科目コード	G3010
担当教員	橋本 規之						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

イノベーション, 市場, 組織, ネットワーク, 経営戦略, 管理組織, 大企業体制, 日本的経営, 企業統治, 経営資源, ビジネス・システム, ビジネス・モデル, プラットフォーム, アーキテクチャ, 価値づくり

授業の概要

- ・18世紀の産業革命の時代から、21世紀の現在までを対象にして、ヨーロッパ、アメリカ、日本、アジア地域におけるビジネスとマネジメントの歴史を概観します
- ・各時期の政治・経済・社会・文化を踏まえて、市場環境への創造的な適応であるイノベーションの視点から、経営史を織っていきます
- ・前半の第1回～第7回は、ヨーロッパとアメリカの経営史を扱います
- ・後半の第8回～第14回は、日本とアジアの経営史を取り上げます
- ・科目の英語表記は「Business History」です。

到達目標

1	・ビジネスとマネジメントの歴史をグローバルなスケールで学ぶことを通じて、時間軸（垂直方向）と空間軸（水平方向）を自在にスライドできる認識とセンスを養います
2	・イノベーションの歴史から思考の糧を得ることにより、広い視野と多角的な視点で物事に創造的にアプローチできる力を身に付けることを目指します

教授方法

- ・講義形式です。毎回の講義で配布するパワーポイントの教材に基づいて進めていきます
- ・講義中、適宜ディスカッションも行います

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

- ・特にありません

授業計画

1	全体のイントロダクションの後、2回に分けて、18世紀後半から19世紀前半までのイギリスを中心に、産業革命（工業化）の時代を扱います。
2	同上
3	2回に分けて、18世紀末から20世紀初頭までのアメリカを中心に、大企業の誕生の時代を扱います。
4	同上
5	20世紀前半の欧米のビジネスの歴史を扱います。
6	20世紀後半の欧米のビジネスの歴史を扱います。
7	1990年代以降のデジタル革命とIT革命を通じた、欧米のビジネス活動の足跡を扱います。
8	これ以降は、日本とアジアの経営史です。初回は、日本の江戸時代の商家経営や明治期の産業革命（工業化）を扱います。
9	第一次世界大戦から第二次世界大戦前の期間を扱います。1920年代は大衆消費社会が芽生え、財閥が活躍した時代です。
10	第二次世界大戦後の復興期の企業活動を扱います。
11	1960年代を中心に高度成長の時代を扱います。大衆消費社会が到来し、旺盛な企業者活動が展開されます。
12	1970年代から80年代の安定成長期の企業活動を扱います。日本的経営が最も国際競争力を発揮した時代です。
13	1990年代から現在までのグローバル市場での日本企業の活動を扱います。
14	最後はアジア経営史です。成長著しい東アジア地域を中心に、アジア企業のビジネスの諸展開を概観します。

授業外における学習

- ・事前の学習では、参考文献の該当箇所を読んでおくと、理解が深まります
- ・事後の学習も同様ですが、講義資料をよく復習することが肝心です
- ・各スライドの脚注や末尾の参考文献リストを復習や発展的な学習として利用してください

質問や相談への対応

- ・授業後の教室や電子メールで基本的に対応します
- ・メールの連絡先は下記の通りです
hashimoto.noriyuki@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
中間レポート	50	前半の講義を踏まえた課題レポート（50点満点）の達成度により評価します。
期末レポート	50	後半の講義を踏まえた課題レポート（50点満点）の達成度により評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・特に指定しません・初回の講義で代表的なテキストを紹介します			
	・各回の講義で紹介します・毎回のパワーポイントの教材の最後にある参考文献リストでは、次の3種類の記号で文献のタイプを表しています ◎：入門書・初級教科書，○：中級教科書 ☆：有益な参考書			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・講義の内容を理解するためには、毎回出席することが不可欠です
- ・知的好奇心を十分に発揮してください

その他・特記事項

- ・講義はZoomで行います
- ・使用言語は日本語です
- ・教材は当日午前中までに配信します。ダウンロードや印刷をしておいてください

企業家論（トップ・マネジメント論）

更新日：2023/03/02 11:50:34

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3020A	科目コード	G3020
担当教員	岩崎 卓也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

渋沢栄一、岩崎彌太郎、豊田喜一郎、安藤百福、小林一三、松永安左工門、鳥井信治郎、本田宗一郎、広岡浅子

授業の概要

ビジネスの世界では、ビジネススクールで教える知識だけでなく、最近では、とみに道徳や倫理、歴史などの知識が重要視され始めています。私の経験からも、こうしたリベラルアーツの視点からビジネスの現実を読み解くことが、社外の人たち、とりわけ企業における上位層の人たちとの対話やコミュニケーションにおいて効果的です。それは、年齢を超えて人間関係や信頼を築いていくうえでも役に立ちます。本科目のもう一つの名前は「ドラマや映画になった企業家たち」です。すなわち、ドラマや映画の主人公になった名経営者を取り上げ、その人物像、経営者としての実績、あるいはその経営哲学についてひもときながら、ビジネスの実学の扉を開けていきます。

徒手空拳でも、まず「感じたこと」を大切にしながら、聞きかじったレベルでも多少の誤解があっても、自分の考えるところを「文字」に落としてほしい。そこで、3年生から就職活動が本格的に始まることを踏まえて、授業で紹介する名経営者の実績や考え方を下敷きにした「仮の志望動機」を書いていただきます。このトレーニングは、現実の採用面接で大きな効果をもたらします。ついては、what ifの質問「もしも渋沢栄一、小林一三が現代に生きていたら何をするか」について、2000～3000wの文章を書いていただきます。その際、取り上げた企業家に共感した部分と、その理由となる「個人的なエピソード」（ここがミソ！）を記述してください。添削してフィードバックしますが、最終的には、自分自身の見つけ直し、それを言語化することがゴールです

到達目標

1	自分自身の見つけ直し、それを言語化すること
---	-----------------------

教授方法

オンライン

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にありません。

授業計画

1	オリエンテーション
2	渋沢栄一①（東京ガス、みずほFHD） NHK大河ドラマ『晴天を衝く』
3	渋沢栄一② NHK大河ドラマ『晴天を衝く』 『論語と算盤』に関する講義
4	岩崎彌太郎（三菱商事） 東映映画『商魂一代 天下の暴れん坊』
5	豊田喜一郎（トヨタ自動車） TBSスペシャルドラマ『LEADERS リーダーズ』
6	安藤百福（日清食品） NHK連続ドラマ小説『まんぷく』
7	前半振り返りテストと作文課題（後日提出）
8	小林一三（阪神阪急） NHK放送90年ドラマ『経世済民の男 小林一三～夢とそろばん～』
9	松永安左工門（東京電力） NHK放送90年ドラマ『経世済民の男 松永安左工門～夢とそろばん～』
10	鳥井信治郎（サントリー） 日経ドラマスペシャル『琥珀の夢』
11	本田宗一郎（本田技研工業） NHK総合テレビ「土曜ドラマ」『やらまいか！』
12	広岡あさ（大同生命） NHK連続ドラマ小説『あさが来た』
13	後半振り返りテスト

授業外における学習

前の週に当該授業のパワーポイントと授業終了後に最終版を送付するので、これで予復習していただきたい。

質問や相談への対応

私の個人アドレスを公開しますので、こちらに送ってください。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

前半振返テスト	30	正解率
後半振返テスト	30	正解率
作文1回目	20	要件のクリアと文章のクォリティ
作文2回目	20	要件のクリアと文章のクォリティ、最終講義の出欠
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に不要です。お送りするパワーポイントで十分です。			
	各授業のパワーポイントの最後に推薦図書を紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

振り返りテストは超簡単なので、全員満点を目指してほしいです。

その他・特記事項

特にありません。

健康マネジメント論

更新日：2023/01/10 08:53:41

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G3030A	科目コード	G3030
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ヘルスプロモーション ヘルスシステム 健康経営

授業の概要

健康な社会づくりとは何か、地域のあるべき姿を描き、何をすべきかを考える力を養う。健康的な地域社会の実現のために、地域全体のアセスメントから健康ニーズや取り組むべき課題を明確にし、計画・実施・評価を展開する方法を学ぶ。これらに基づいて地域住民及び保健・医療・福祉・企業等を含む地域にある様々な社会資源と連携して、いかに健康的な地域社会づくりをマネジメントするかを理解するために必要な知識（健康や連携の意義、健康づくりを支える地域システム、事業化・施策化など）を学び、地域特性に合った社会づくりの必要性を理解する。

到達目標

1	・社会の動向と健康課題の現状を理解し、QOLやヘルスプロモーションの理念に基づいた地域や組織の将来展望について考える。
2	・ライフステージごとの健康システムの現状を理解し、新たなヘルスシステムを考える。
3	・個人の健康維持増進と健康的な地域づくりや会社経営のあり方について理解を深める

教授方法

講義、ワーク 学生発表

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

とくになし

授業計画

1	オリエンテーション 健康とは 予防とは 健康の世界戦略について
2	社会の動向と健康課題の変遷
3	ライフサイクルと健康をまもる仕組み
4	親とこどもの健康をまもる仕組み
5	労働者の健康をまもる仕組み（法的根拠）
6	労働者の健康をまもる仕組み（健康課題と保健計画）
7	健康経営とは（特定健診、メンタルヘルス）
8	健康経営とは（タバコ、アルコール、がん）
9	健康経営実践者にきく①
10	健康経営実践者にきく②
11	地域ヘルスケアシステムとは
12	ヘルスシステムの充実にむけて
13	現状のヘルスシステムと補いたいリソースを考える
14	学生が考えた新たなヘルスシステムの提案

授業外における学習

発表のために資料づくりを事前事後の学習で補うこと

質問や相談への対応

授業時またはメール等で質問・相談可能

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

ワーク等提出物	50	授業内の個人ワーク等の提出物（提出の有無、内容）
学生発表	30	グループ発表（自己評価：20%、教員評価：10% 資料・発表、内容）
レポート	20	最終レポート（ヘルスシステムへの新提案）
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	産業保健ハンドブック 労働調査会を購入することを推奨するが 東京都が労働衛生のハンドブックを公開している。 https://www.tokyos.johas.go.jp/handbook.html			
	産業保健ハンドブック 労働調査会 国民衛生の動向ほか適宜紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ワークや自己学習は積極的に実施すること

その他・特記事項

とくになし

中小企業論

更新日：2023/03/08 10:37:02

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3040A	科目コード	G3040
担当教員	兼村 智也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

中小企業、ファミリービジネス、地域経済、事業創造、国際化、グローバル化

授業の概要

日本の企業のほとんどを占める中小企業について、3学期では主として、その歴史や理論、「中小」規模であるがゆえの経営上の特徴、優位性と劣位性、発展性や限界性などについて学習する。4学期では主として新たな成長機会として可能性が広がる国際化への取り組み、そのなかでの中小企業の経営戦略、また台頭する新たなビジネスモデルについて学習する。

到達目標

1	同じ経営でも大企業とは異なる「経営」が中小企業にみられること、その「経営」は大変ユニークであることについての認識や理解を深める。そこから中小企業の重要性や発展性を感じ取り、また身近な存在であり、地域経済の担い手である中小企業への興味・関心を高め、同時にそれを評価・分析する目を養う。
---	---

教授方法

配布資料を参照しながら講義形式で行なう。そのなかで2～7回、9～14回の授業開始時に前回授業の復習テスト（3問×2点）をクリックャーを使って実施する。なお復習テストへの回答をもって、その回の「出席」とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

感染状況等によってはオンライン授業への切り替えもありえるため、それに必要な設備一式を確保できること。

授業計画

1	中小企業とは何か：中小企業の定義、国民・地域経済における位置づけ、中小企業の多様性とその類型、大企業と区別して取り上げられ、議論される理由・意義などについて学習する。
2	中小企業の役割と存立分野：中小企業が経済社会のなかで果たす役割は非常に多く、その存立分野も幅広い。いずれも大企業は対応しない・できない役割・分野であり、中小企業の優位性が活きる役割・分野でもある。それは何か、その特徴や要因、理論について学習する。
3	中小企業と地域経済：中小企業は地域経済とのつながりが大変強い。それがどのような分野にみられ、背景・要因は何か。さらに地域経済の発展を説明する産業集積や産業クラスターの意味とメカニズム、また近年みられる「地方創生」への取り組み、そのなかでの中小企業が果たす役割について学習する。
4	中小企業問題と政策：「二重構造」など過去に指摘された問題、その後、中小企業が恒常的に抱えてきた競争・取引関係、金融面における問題、そして昨今、指摘・注目される生産性や事業承継などの問題とその政策（の変遷）について学習する。
5	中小企業経営の特徴：所有と経営の一致、経営者の影響力、簡素な組織と迅速な意思決定、事業的企業と生業的企業、経営資源の不足、競争の厳しさなど中小企業にみられる経営上の特徴、その優位性・劣位性を大企業との違いを意識しながら学習する。
6	ファミリービジネス（FB）とは何か：中小企業の多くを占め、その高い業績に近年、世界的にも注目が集まるFB（企業）を取り上げ、FBを見る際のフレームワーク、その特徴や高業績を支える要因について学習する。
7	中小企業の経営戦略：中小企業がもつ固有の問題性を克服しつつ、その優位性を活かした中小企業にふさわしい経営戦略にどのようなものがみられるのか、その競争優位とは何かについて学習する。
8	中小企業のマーケティング戦略：顧客数の多くない中小企業におけるマーケティングが如何に行われるか、そのプロセスや主に中小製造業者が扱う生産財にかかるマーケティング、BtoB取引の考え方・特徴について学習する。
9	中小企業の事業創造：新事業の創造と既存事業の変革の2つを含む概念である事業創造について、その必要性、特徴と可能になる事業領域、そのプロセス、課題と克服方法について学習する。
10	中小企業と人材：複数の経営資源のなかで中小企業にとって如何に「ヒト」が重要か、また働く者にとっての中小企業の魅力と現実、若者を惹きつける中小企業にみられる特徴、そして近年拡大する外国人労働者がもたらす効果や問題について学習する。
11	中小企業の国際化：中小企業の国際化の歴史と現状、そのプロセスやメリット、さらに海外進出する中小企業の現地経営の実態と問題点、国内事業との関連性などについて学習する。
12	グローバル・ニッチトップ（GNT）企業の特徴：GNTとは何か、競争戦略のなかでのGNTの位置づけ、独自の技術や製品の開発をコアにして、国際市場における「強み」を作ってきたGNT企業の特徴、成長プロセス、経営戦略などについて学習する。
13	ボーン・グローバル（BG）企業の特徴：近年、成長の過程としてグローバル化を図るのではなく設立当初からグローバルな視野で創業するBG企業が登場している。こうした企業が登場した背景や特徴や創業に至るプロセス、その条件などについて学習する。
14	地域中小企業の事例分析：これまで学習してきた事業創造、マーケティング、国際化などの視点からユニーク経営をみせる地域中小企業を取り上げ、その成長要因、ビジネスモデルについて分析・学習する。

授業外における学習

授業資料は前日には配布するので事前に目を通しておくこと。次回に復習テストのある場合は授業の復習を行い、その準備をしておくこと。

質問や相談への対応

学務システムを使用して随時受付する。

成績評価

共通の評価基準	復習テスト12回（計72点）とレポート2回（計28点）の合計得点（100点満点）で評価する。評価基準はS：100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点。	
評価項目	割合	評価基準
復習テスト	72%	6点満点の復習テストを12回（2～7回、9～14回）
レポート	28%	14点満点のレポートを2回（7・14回終了時）
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし（授業資料は事前に配布する）。			
	「よくわかる中小企業」 関智宏 編著（ミネルヴァ書房）ISBN：9784623088225／「中小企業経営入門」 井上善海 編著（中央経済社）ISBN：9784502117619／「中小企業のマネジメント」 安達明久等 著（中央経済社）ISBN:9784502268311／「グローバル市場を志向する国際中小企業」 中道 真 著（晃洋書房）ISBN:9784771030176			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

身近な存在である中小企業を具体的な事例、今日的话题を交えながら、わかりやすく講義したく思います。是非興味を持って授業に臨んでください。

その他・特記事項

特になし。

組織間関係論

更新日：2023/01/10 08:53:45

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	G3050A	科目コード	G3050
担当教員	東 俊之						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

資源依存理論、ネットワーク論、コラボレーション論、マルチセクター協働、地域協働、事例分析

授業の概要

組織間関係とは、一定の環境下において、ある組織と別の一つあるいはそれ以上の組織との間で生じる関係のことである。その対象は、営利企業だけではなく、NPOや行政組織なども含まれる。そのため、企業間の協調関係、企業と非営利組織との関係、企業と行政との関係、あるいは複数の異なるセクター間協働などが、この範疇に入る。また環境変化が激しい現在では、単一組織だけで十分な成果をあげることが難しくなっており、そのために他組織と何らかの関係構築することが求められている。

本科目ではこうした組織間関係を、先行研究（理論）と事例（実践）の両側面から検討し、組織間関係が生じるメカニズムは何か、関係を継続・発展するためにどのようなマネジメントが必要か、さらには組織間関係によってどのような付加価値が創造されるのか、などを考える。これら考察により、組織を経営するための実践的なマネジメント能力を涵養する。

現在では、他組織と何らかの関係を持ち、協働することによる価値創造が求められている。そのため、組織間関係論の知識を持つことが不可欠になっている。そこで本科目で組織間関係論の先行研究（理論）を学習し、かつ組織間関係の具体的な事例を検討することで、組織間関係に関する知識・技能を身につける。

到達目標

1	①組織間関係の形成過程や成功要因を説明できる、能力を修得する。
2	②実際の組織間関係を深く分析できる、能力を修得する。
3	さらに②自組織と他組織との関係を円滑に構築できる、能力を修得する。

教授方法

本科目は、Zoomを用いた双方向型のオンライン方式で実施します。また本授業は、大きく分けて2つのパートから成り立っています。前半（2～7回）は「理論編」で、組織間関係論の理論を学びます。簡単な事例を用いますが、基本的にはPowerPointと板書の両方を使用した講義形式です。しかし漫然と受講するのではなく、自身の所属する組織に置き換え、考えながら講義を聴く姿勢が求められます。

また後半（9～13回）は「事例編」で、事例を検討することでより具体的に組織間関係の必要性やマネジメント方法などを演習形式で学習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目標とした授業の工夫	

履修要件

特に履修条件は設けませんが、「経営組織論」「経営戦略論」を履修していることが望ましいです。

授業計画

1	【ガイダンス（イントロダクション）】：本科目の全体像を説明し、試験やレポート課題提出などのスケジュールを案内します。さらに“組織間関係とは何か”を考え、単一組織では達成できないことが成果を生み出す可能性を理解します。 ※「レポート課題」を説明・解説します。
2	【組織間関係論の展開と領域】：組織間関係論がどのように発展してきたのか、またどのような研究領域が含まれているのか、その概要を学習します。また、組織間関係論の基本的な用語や考え方を理解し、なぜ「組織間関係」を把握することが必要かを理解します。
3	【組織間関係論の基本理論（1）】：組織と組織の関係を分析するための基本的な理論を枠組みとして、「取引コスト理論」「資源依存理論」などの考え方を学習します。こうした理論を踏まえつつ、皆さんが所属する組織が、他組織と「なぜ関係を結んでいるのか」を考えます。
4	【組織間関係論の基本理論（2）】：組織間関係の理論として議論されている、「ネットワーク論」や「コラボレーション（協働）論」などを学習します。特に、組織と組織が協働することで、それぞれの組織が持つ能力の総和以上の価値が創造される可能性を検討します。
5	【組織間関係論の対象】：企業だけが組織間関係論の対象となるのではなく、 NPO や行政組織、学校組織などが含まれることを理解します。そのうえで、「同一セクターのダイアド関係」から、「クロスセクターのマルチ（複数間）関係」への展開していることを事例から学習します。
6	【組織間関係の形成プロセスと媒介者】：新たな組織間関係を築くためのポイントを考え、どのように組織間関係形成のプロセスをマネジメントし、またどのように調整することが必要かを考えます。さらに、組織間関係構築に必要な「人」の役割についても考えます。
7	【組織間学習と組織間文化】：組織間関係を継続・発展するために不可欠な「組織間学習」の理論を学び、皆さんの関係する組織でどのような学習が行われているのか理解します。そして、組織間で文化を共有することの利点を問題点を理解します。
8	企業間関係の総合演習（中間振り返り）と中間テスト：ここまでの内容を振り返り、組織間関係論の理論を全体像をつかみます。特に自分の所属する組織で、学んできたことがどのように生かせるのかを確認します。最後に理論の理解度を把握すべく、テストを行います。
9	【事例学習（1）組織間関係としての企業と企業】：企業間の関係が組織間関係の代表的な事例です。例えば、「 SCM 」や「製販同盟」など様々な事例があげられます。異なる業態の企業の協働事例を取り上げ、企業間の協働がうまく進むために必要なことを考えます。
10	【事例学習（2）企業とNPOの組織間関係】：企業と企業の関係だけでなく、近年では企業と NPO の関係についても注目されています。ここでは、特に社会問題解決のための企業と NPO の協働について事例を用いながら検討します。

11	【事例学習 (3) マルチセクターによる協働】：企業やNPO、行政組織など様々な主体（マルチセクター）による組織間協働が、近年増加しています。ここでは、企業、NPO、行政の協働による地域ブランド構築の事例を取り上げ、その成功要因を検討します。
12	【事例学習 (4) 組織間協働による地域活性化】：「地域」には様々な主体が存在しており、その主体の協働が地域活性化のためには不可欠です。地域主体が協働するために、何が必要で、どのように協働をマネジメントすべきか、事例分析を通じて学習します。
13	【事例学習 (5) コレクティブインパクト】：特定の社会課題を、行政や企業、NPOや市民などの組織の垣根を越えて協力し、解決に向けて取り組むことを指すコレクティブインパクトについて学習し、その事例分析を行います。
14	【組織間関係論の到達点と方向性】：これまで学習してきたことのまとめとして、組織間関係論の現在の到達点を確認し、まだ十分に議論されていない領域や今後の課題などを考察します。また、皆さん自身が本科目で学んだことをどのように活用すべきかを考えます。

授業外における学習

毎回授業の終わりに「課題」を提示します。これは提出を求めるものではなく、次回授業の予習になるものです。グループ討議を行う際には、事前に調査しておかないと、活発な議論ができません。さらに第3回～第7回にかけて、毎回小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。なお、授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。

質問や相談への対応

オフィスアワーを設定しますので、その時間に研究室に質問に来るか、またはZoomでも相談を受け付けます。また、可能な限りオフィスアワー以外の時間でも対応します。ただし、対応できない場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。

※なお、オフィスアワーの設定時間は、授業の初回で案内します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	55%	期末試験（40点）＆中間試験（15点）。期末テキスト、論述問題を中心に出题。中間テストは、空欄補充問題を中心に出题。
小テスト	15%	第3回、第4回、第5回、第6回、第7回の最初に、前回授業内容と、予習課題内容の理解度の確認のために小テストを実施（各3点×5回＝15点）。基本用語の適語選択問題により、理解度を確認します。
授業レポート	30%	レポート課題（20点）と事例分析レポート（10点）。レポート課題は、組織間関係論の成功要因を各自で分析します。また事例分析レポートは、ケースについて個人で検討した内容を論述します。
上記以外の授業評価	0	授業中の積極的な発言や、事例分析についてのプレゼンテーションなどを行った場合は、ボーナスポイントを付与する場合があります。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		・今年度は教科書は指定しません。適時資料を配付します。			
		・佐々木利廣・加藤高明・東 俊之・澤田好宏『組織間コラボレーション』ナカニシヤ出版、2009年（本体2,400円＋税）。・佐々木利廣・大阪NPOセンター編『地域協働のマネジメント』中央経済社、2018年（本体2,700円＋税）。・佐々木・横山・後藤編著『日本のコレクティブインパクト』中央経済社、2022年（本体3,000円＋税）（その他、参考文献は授業時に指示します。また資料を配付する場合があります）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

「経営組織論」、「経営戦略論」を履修していることが望ましいですが、特に未履修者でも理解できるように授業します。また、常に企業活動や組織活動に関するニュースを確認したり、所属する組織における問題点の把握に努めたりする積極的な姿勢が不可欠です。

その他・特記事項

当日使用する資料は、学生ポータルを使って事前に配信します。また欠席された際は、なるべく早めに担当教員の指示を仰いでください。
その他、不明な点は遠慮なく尋ねてください。

BoPビジネス概論

更新日：2023/01/10 08:54:17

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3060A	科目コード	G3060
担当教員	山下 彩香						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

Base of the Pyramid, Sustainable Development Goals, Social Entrepreneur, Glocal, 起業

授業の概要

この授業は、BoPビジネス及びSDGsビジネスについて、歴史的な背景や時代とともに変化してきた潮流などの基礎的知識や事例について学びます。学びを通じて、自分自身のあり方や今後のビジネスのあり方について検討する力も身に付けてほしいと考えています。講師からの基礎知識や事例についての講義に加えて、テーマに沿って、リサーチや発表を行ってもらい演習（ワーク）も実施する予定です。

<授業の狙い>

授業を通して、BoPビジネスとは何か、それを実践している企業はどんな企業なのかを理解してもらうことを第一段階の狙いとしています。その上で、自分自身がテーマとしたいBoP/SDGsに関わる事業とは何かについても考えを深め、実践への一歩とする機会にしたいと思います。

到達目標

1	-BoPビジネスとは何かを理解できていること（その背景となる世界の潮流などについても理解していること）
2	-BoP/SDGsビジネスに取り組んでいる事例について、自分自身で少なくとも一社については語れるようになること
3	-自分自身がテーマとしたいBoP/SDGsに関わるテーマを見つけること（そしてそのテーマで一步踏み出すために何が必要なのか理解していること）

教授方法

講義、演習（ワーク）、ディスカッションを織り交ぜた形式。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション（講義の目的/自己紹介/課題の説明など） BoP/SDGs ビジネスの基礎講義
2	BoP ビジネスの対象国を知ること
3	BoP ビジネスの事例紹介とディスカッション①
4	グループワークのイントロダクション思考にあたってのツールや方法を学ぶ①（ソーシャル・ビジネス・モデル・キャンパスなど）
5	BoP ビジネスの事例紹介とディスカッション②
6	グループワーク①の発表
7	SDGs と SDGs ビジネスについて学ぶ
8	SDGs ビジネスの事例紹介とディスカッション①
9	思考にあたってのツールや方法を学ぶ②
10	SDGs ビジネスの事例紹介とディスカッション②
11	SDGs ビジネスの事例紹介とディスカッション③
12	SDGs ビジネスの事例紹介とディスカッション④
13	グループワーク②の発表
14	グループワーク②の発表の振り返り総括

授業外における学習

毎回の授業の課題への取り組み。またグループワークの発表の準備。

質問や相談への対応

質問は授業中や授業の前後に受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
出席	10	授業に出席しているか
課題	30	授業ごとの課題の提出状況と質
授業へ参加度	30	ディスカッションへの参加の程度
グループワーク	30	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業、課題、グループワークへ積極的に取り組んでください。

その他・特記事項

なし

人材マネジメント論

更新日：2023/02/22 10:55:57

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3070A	科目コード	G3070
担当教員	宮下 清						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

人的資源（HR）、人材育成、雇用管理、評価、報酬

授業の概要

人材マネジメントは最重要な経営資源とされる人的資源（Human Resource）を対象とし、組織目的を達成するための人材に関わる活動や施策から成り立つ。本授業では人的資源管理の基礎となる知識と重要な概念について理論と実践面から理解を深める。具体的には人材に関わる環境、戦略、組織、育成、雇用、異動等について学んでいく。

担当教員は国際企業で人事教育、商品企画、営業管理に従事し、モチベーション、リーダーシップ、組織開発、ナレッジマネジメント、教育訓練や国際人事など人材マネジメントの知識・成果を業務に活かした経験を有する。

到達目標

1	人材マネジメント(HRM)の基礎的な概念や用語について、自分の言葉である程度は説明できる
2	人材マネジメント(HRM)と経営環境や戦略・組織との関連について、簡単に説明できる
3	就職活動など調べたい企業・組織の人事施策や人材育成について、自分の考えを述べるができる

教授方法

シラバスに沿ってテキスト等で事前学習を行うことが望まれる。そして授業では重要点やその意味、関連・背景などを確認できる。グループ討議やコメントなど双方向に主体的に学び、事後学習でふりかえり、修得することができる

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「経営学入門」を履修していること。経営組織論、組織行動論を履修していることが望ましい。

授業計画

1	ガイダンス 人材マネジメントの学び方、経営・戦略・人事、環境と経営、外部環境と内部環境
2	人材マネジメント(HRM)と人事管理 人事労務管理と人材マネジメント、人事管理の意義と発展
3	人材とモチベーション 労働意欲と人間観、欲求階層説、動機づけの人事施策、職務充実
4	人材とリーダーシップ リーダーシップの研究、リーダーの役割、マネジメントとリーダーシップ
5	組織文化と組織開発 人材マネジメントと組織文化、組織開発、組織の活性化
6	知識創造と人材 ナレッジマネジメント、知識価値と知識資産、知の創造を行う人材
7	組織文化と組織開発 組織文化、組織開発、組織の活性化
8	知識創造と人材 ナレッジマネジメント、知の創造を行う人材
9	人材育成と教育訓練(1) 教育・研修・能力開発、企業内教育と体系
10	人材育成と教育訓練(2) 人材育成の課題、人材育成のプログラム
11	雇用管理(1) 採用、配置、異動、人材ポートフォリオ、昇進昇格
12	雇用管理(2) ジョブローテーション、職能資格制度、専門職、目標管理
13	国際人材マネジメント 国際人事モデル、多国籍企業と国際戦略、グローバル人材

14	人材マネジメントの総合事例 事例企業における人材マネジメント、活用と育成
----	---

授業外における学習

テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し再度考察することで「事後学習」により、学習をより定着させることができる。

質問や相談への対応

頂いた質問にはできるだけ授業中にお答えしたい。また授業後に個別に質問を受ける。またメールでも対応したい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	授業全体の理解度の評価 【オンライン授業により期末試験から変更】	
授業の課題	20	授業課題の提出やレポートの評価	
上記以外の評価	30	授業への積極的な参加（質疑、討議、コメント等）による評価	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
推奨	テキスト経営・人事入門	創成社	2013	宮下清

参考書・参考資料等

『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣, 上林憲雄ほか, 2018年。
『新しい人事労務管理』有斐閣, 佐藤博樹ほか, 2019年。

受講生に望むこと

日頃から、企業の人事や教育制度など実践的な記事を経済新聞や経済誌から読んでみてください。

その他・特記事項

自らの見聞、文献やニュースから得た情報を人材マネジメントと関連させて考えてみてください。そうすることで学びはより一層興味深いものとなる。担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験がある。

経営情報論

更新日：2023/03/15 17:47:20

開講年度	2022	学期	4期	シバースト	G3080A	科目コード	G3080
担当教員	首藤 聡一郎						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

経営情報、Information Technology、意思決定、情報処理、コミュニケーション

授業の概要

経営情報の基礎的な諸理論と実際について学ぶ。経営において情報は極めて重要である。情報技術が進展している昨今、その重要性はさらに増している。情報技術も使いながら、経営においてどのように情報を活用していくかを考える際には、情報技術に関する知識は必要ではあるがそれだけでは十分ではない。情報技術は日進月歩であり、知識を学ぶだけでは新しくでてきたものに上手く対応できないからである。それまでなかったような情報技術を経営に活かしていくためには、これまでの情報に関する様々な経営学諸理論の蓄積、すなわち原理原則を学ぶ必要がある。原理原則をしっかり理解できていれば、新しい情報技術でもその活用方法を自分で考えることができる。そのため、この授業では、様々な観点から経営と情報との関係について触れていく。

到達目標

1	経営情報の基礎的な諸理論を理解できるようになる
2	経営情報、特にIT (Information Technology) の利活用の実際について知ることができる

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年生以上

授業計画

1	ガイダンス
2	人の情報処理特性
3	コンピュータの基礎原理
4	業務の自動化・AI (Artificial Intelligence) の活用
5	コミュニケーションの基礎理論
6	通信の基礎理論
7	CMC (Computer Mediated Communication)
8	組織と情報 (1)
9	組織と情報 (2)
10	組織におけるIT活用の基礎理論と実際 (1)
11	組織におけるIT活用の基礎理論と実際 (2)
12	ビジネスとIT (1)
13	ビジネスとIT (1)
14	まとめ

授業外における学習

適時指示します

質問や相談への対応

授業後に対応します。アポイントメントをとってくればそれ以外の時間にも対応します

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末レポート	50	獲得点数

授業時の課題	50	内容等
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ありません			
	適宜指示します			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業への積極的な関与をお願いいたします

その他・特記事項

ITについて取り扱いますが、それ以外の内容もあります。その点についてご理解いただいたうえで受講の決断をしていただければ幸いです

企業倫理

更新日：2023/01/10 08:54:59

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	G3090A	科目コード	G3090
担当教員	岡部 幸徳						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

企業倫理、経営倫理、CSR、SDGs、専門職倫理、ケースメソッド

授業の概要

授業のねらい：企業による経営・経済活動が国際化の進む21世紀の社会および環境に与える影響について考察し、社会との相互作用についての理解を深める。また、ビジネスが社会を支える中心的役割を担う現代において倫理的・社会的責任を企業がどのように全うすべきかを検討する。具体的には、実際に起こった企業が関与した事故や不祥事などの事例を通して、将来自分が実務で直面するかもしれない「ジレンマ問題」や「線引き問題」を検討し、それらを解決するための「問題解決能力の向上」を図る。

到達目標

1	・「企業倫理」が単に規範の遵守ではないことが説明出来る。
2	・価値のバランスを取りながら、「自らがなすべきことの意味決定と行動をデザインできる」

教授方法

授業の1. 概要説明 2. なぜ、企業、組織の倫理が問われているのか 3. 我々が重視すべき価値とは何か：企業と倫理綱領 4. 責任あるビジネスマンとしていかに行動すべきか：倫理的問題解決の方法（ジレンマと線引き） 5. 企業倫理とプロフェッショナルとしての倫理 6. 事例の検討（ケーススタディ）：現実の事例を題材 7. 事例の検討（ケースメソッド）：仮想事例などを通して討議 8. 国際社会における我々の役割と倫理 9. 各専門領域における倫理的問題や事例の検討を進める。

その為に

- ・新聞などで報道される企業不祥事などを経営倫理とプロフェッショナルの倫理の観点から分析する姿勢を持つ
- ・不明な用語などは、辞書・事典・インターネット等を使って調べておく
- ・第三者的・評論家的に講義に参加するのではなく、「当事者」としての自覚を持ちながら、講義で提示される問題を自分ならどうするかという観点で考えること これらを心がけて学習を進める能力を伸ばしたいと考えて受講して下さい前提として、

これらの内容を理解する為に

「ケースメソッド教授法」と言われるディスカッション教育手法を用いて学習を進めていきます。

勿論「講義」「視聴覚教材」なども適宜行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「建設的かつ多様な視点からの意見交換」を行おうと心がけて下さるかた、他の受講生を自分自身と同じく尊重してグループディスカッションに参加できる、そして「統一の意思決定と統一の行動設計」を作る努力をして下さる方であれば、どなたでも大歓迎です。

授業計画

1	第1回 オリエンテーション ※導入講義：シラバス（学習支援計画書）を説明する（科目の目的・目標、内容、課題、評価方法など）。
2	第2回 「直面する可能性のあるジレンマ問題」に関する具体例（グループ討論）・グループ討議 資料の精読、自分の意思決定、行動の設計 他・予習：次週のグループ発表についての準備、次回への予習：課題1（事例分析）に関する解説（60分）
3	第3回 「直面する可能性のあるジレンマ問題」に関する具体例（グループ発表）・グループ討議と討議結果に対するコメント・討議結果の発表、グループ討議の事例分析課題についての考察の深化・予習：資料の精読、分析ツール「セブン・ステップ・ガイド」の概説の精読
4	第4回 ※現実起きた事例をベースに倫理的考察や意思決定（方法：PCを用いた講師による講義等）・予習：資料の精読に必要な概念や用語などの解説を理解する・関連する視聴覚教材の視聴
5	第5回 我々はいかに行動すべきか・倫理的問題解決の方法Ⅰ・エシックステストおよびセブン・ステップ・ガイドに関する詳細解説 後、セブン・ステップ・ガイドを用いた演習
6	第6回 ※第6～7回では、ケースメソッド事例に関するグループ討議を通して考察を行う（グループ討議）
7	第7回・グループ討議結果の発表と解説
8	第8回 マネジャーとしていかに行動すべきか「優れた意思決定がもたらすもの」・関連する視聴覚教材を視聴する 予習：課題4（倫理綱領、企業倫理プログラムの検討）
9	第9回・なぜ、経営倫理が求められているのか（個別事例研究とケース化の手順）・復習：第6～8回で学んだことについての考察の深化課題（最終）の提示：個別に企業事例を選定し調査分析の上学期末にケース教材化提出
10	第10回 Reflections 1・特別講義 もしくは 関連映像の視聴
11	第11～12回では、ケースメソッド事例に関するグループ討議を通して考察を行う。グループ討議（個人での検討内容を討議で活用する）。
12	第12回 グループ討議結果の発表と解説

13	達成度確認テスト
14	最終レポートの提出とそれに関する確認の面談

授業外における学習

予習：ほぼ毎回、関連資料の調査、シナリオに関する意思決定と行動設計を記述する課題を課す。掲載資料を事前に学習し、グループディスカッションで発言する準備も必要となる。

復習：意見交換した内容を振り返り、次回提出の課題などにその内容を織り込み、活用できるようにすること。

授業外学修に必要な予習時間約15時間

開講期間内において、復習として約60時間の授業外学修が必要になる。

質問や相談への対応

月曜日3, 4限目の授業の前後にお受けいたします。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
達成度確認テスト	20	7週目3限目に行う確認テストです	
最終レポート	20	7週目4限目に提出となる最終レポートと面談です	
クイズ、小テスト	20	各回に課される「予復習課題」等です	
授業貢献度	20	グループでの討論、活動への貢献、授業態度等です	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	岡部幸徳『よくわかる経営倫理・CSRのケースメソッド－エシックストレーニングのすすめ』白桃書房、2014年			
	高浦康有 他編著『理論とケースで学ぶ 企業倫理入門』白桃書房、2022年金沢工業大学編『本質から考え行動する科学技術者倫理』白桃書房、2017年			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

この授業では、「ケースメソッド教授法」というディスカッションを用いた教育手法を多く行いますので、このテキストを手元に置くように努力して下さいととても助かります。

その他・特記事項

上記の参考書は、本来教科書としても十分使用しうるものです。企業倫理はとても範囲が広く、皆さん受講生の興味のあるテーマも多様になります。その為に授業ではディスカッション等を通して先ず考え、その後参考書で気になることを自律的に深化させることをお勧めします。

グローバル・ビジネス演習

更新日：2023/01/10 08:53:26

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3100A	科目コード	G3100
担当教員	森本 博行						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

国際マーケティング、輸出マーケティング、国際ナショナル・マーケティング、リージョナル・マーケティング、グローバル・マーケティング、ターゲットセグメンテーション、

授業の概要

グローバル・ビジネス演習では、主に国際マーケティングの企業事例を通して、必要な専門知識と課題について検討することを目的としています。担当教員は、国際マーケティング戦略企業であるマッキンゼーエリクソン博報堂に在籍し、主にコココーラを担当し、またソニーに転職後は経営戦略や広告戦略を担当し、さらに米国、英国の海外子会社に在籍した実務経験があります。ソニー退職時には、イノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。

到達目標

1	企業事例から、国際マーケティングの必要な専門知識と課題認識を目標としています。
---	---

教授方法

WEBオンラインによる講義形式

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「マーケティング入門」、「マーケティング」を履修していること。

授業計画

1	国際マーケティングとは何か（4つの距離と制度の空隙）
2	多文化社会とマーケティング（味の素、マクドナルド ケンタッキーフライドチキン）
3	国際マーケティング・リサーチ（花王）
4	セグメンテーションとポジショニング（ハウス食品）
5	マーケティング戦略（市場参入政策、スズキ自動車、日立建機、マクドナルド、日本電産）
6	マーケティング戦略（製品政策、ユニリーバ、資生堂）
7	マーケティング戦略（適応化の製品開発1、インドのスズキ自動車マルチ・スズキ）
8	マーケティング戦略（適応化の製品開発2、インドネシアのエプソン）
9	マーケティング戦略（適応化の製品開発3、東南アジアのホンダ二輪車）
10	マーケティング戦略（標準化・統合化の製品開発、サムスン電子、ZARA）
11	マーケティング戦略（ブランドと広告メディア政策、ユニリーバ、LVMH）
12	マーケティング戦略（流通政策、花王タイ、資生堂中国、ダイキン中国）
13	サービス・マーケティング（欧米小売業のアジア市場戦略戦略、カルフルー、TESCO、ウォルマート）
14	SDGsと国際マーケティング（ネスレ ダノン 味の素）

授業外における学習

パワーポイント資料を事前・事後に学習して下さい。

質問や相談への対応

メールやZoomで質問して下さい。

成績評価

共通の評価基準	国際マーケティングの専門知識と戦略課題の認識		
評価項目	割合	評価基準	
専門知識	40	知識の認識度	
戦略課題	60	企業事例からの課題の認識度	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『国際マーケティング』（小田部正明ほか、中央経済社）			
	『コークの味は国ごとに違うべきか』（パンカジ・ゲマワット、文芸春秋）、『グローバル・マーケティング零』（大石芳裕、白桃書房）、『実践的グローバル・マーケティング』（大石芳裕、ミネルヴァ書房）、『マーケティング・マネジメント（第12版）』（P.コトラー&ケラー、ピアソン）、『新興国マーケット進出戦略』（タルン・カナほか、日本経済新聞出版社）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

多文化社会を対象とするマーケティングの面白さを知って下さい。

その他・特記事項

将来的なグローバルの活躍をめざして下さい。

コーポレート・ガバナンス

更新日：2023/02/27 13:42:21

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	G3110A	科目コード	G3110
担当教員	伊 大栄						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

株式会社制度、法人、ガバナンス、所有と経営

授業の概要

「企業を誰が、誰のために、どのように統治すべきか」というコーポレート・ガバナンス（企業統治）については、時代や国によってその捉え方が大きく異なる。本講義では、コーポレート・ガバナンスの基本的な仕組みとその機能について学習したうえで、株式会社制度の歴史を振り返りながら、企業統治のあり方がどのように変遷してきたのか。そして、国・地域によって企業統治の実態がどのように違っているのかについて、各国の具体的な事例を取り上げて議論する。

到達目標

1	コーポレート・ガバナンス（企業統治）の基本概念と理論、実態について学習し、将来、企業マネジメントに応用できる能力を身につけることを目標とする。
---	---

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	組織経営におけるガバナンス（統治）の目的とその意義を理解する。
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	理論レクチャーと合わせて該当する事例を取り上げて討議する。

履修要件

とくになし

授業計画

1	イントロダクション：企業経営においてコーポレート・ガバナンスがなぜ重要なのか
2	株式会社の誕生：東インド会社の出現
3	株式会社制度の特徴（1）：有限責任制、会社機関
4	株式会社制度の特徴（2）：所有と経営の分離
5	「法人」と株式会社
6	各国のコーポレート・ガバナンス（1）：米・独企業
7	各国のコーポレート・ガバナンス（2）：日本企業
8	各国のコーポレート・ガバナンス（3）：アジア（韓国、中国）企業
9	コーポレート・ガバナンスの実際（1）：株主代表訴訟
10	コーポレート・ガバナンスの実際（2）：トップ・マネジメント
11	ファミリービジネスとコーポレート・ガバナンス
12	日本企業のコーポレート・ガバナンス改革（1）
13	日本企業のコーポレート・ガバナンス改革（2）
14	まとめ

授業外における学習

事前課題についてしっかり調べてくる。

質問や相談への対応

研究室（B304室）訪問やメールで対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を達成している。【D】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	80%	
レポート	20%	

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針	とくに指定しない。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

- ・吉村典久（2007）『日本の企業統治』NTT出版
- ・加護野忠男ほか（2010）『コーポレート・ガバナンスの経営学』
- ・岩井克人（2003）『会社はこれからとうなるのか』平凡社。
- ・岩井克人「2006」『二十一世紀の資本主義論』ちくま学芸文庫。
- ・永積昭（2000）『オランダ東インド会社』講談社学術文庫。 etc

受講生に望むこと

幅広い観点（歴史、宗教、芸術など）からガバナンスの問題を議論するので、講義で紹介する参考文献などを積極的にレビューすること。

その他・特記事項

とくになし

セルフ・マネジメントと社会イノベーション

更新日：2023/01/10 08:53:12

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3120A	科目コード	G3120
担当教員	稲塚 聡一郎						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

セルフマネジメント、ソーシャルイノベーション、リーダーシップ、マネジメント

授業の概要

この科目は、「具体的な結果」をベースにしている。「望む結果を得るために、どのように自分をマネジメントすれば良いのか?」「パフォーマンスを発揮できる状態をどのように作り、リーダーシップを発揮するのか?」などの要素を、自分の内面や軸（思考レベルではなく、感情や身体感覚レベル）に向き合いながら、実践を通して習得していく。「自分の外にある人や環境を変える」アプローチではなく、「自分自身の内面や思考のクセ、感情・行動・結果の構造」を理解すること、意識的にそれらをシフトすることで、今までとは違う選択肢を生み出し、新たな行動・結果を生み出していく。そして、自分自身をマネジメントすることがどのように社会イノベーションとつながるのか、実践を通して習得する。

ねらい：「望む結果を得るために、どのように自分をマネジメントすれば良いのか?」「パフォーマンスを発揮できる状態をどのように作り、リーダーシップを発揮するのか?」「自分自身をマネジメントすることがどのように社会イノベーションとつながるのか」を理解し日々の中で実践できるようになる。

到達目標

1	・自分の感情・思い込み・思考・行動・コミュニケーションのパターンに気づくことができる
2	・モノゴトに対して、今までとは違った見方をすることができる（視野が広がる・視座が高くなる）
3	・相手が考え、感じていることに気づくことができる（非言語メッセージや言葉に出ない文脈に気づくことができる）
4	・相手と深い関係性を築き、信頼関係を作ることができる
5	・集中力・注意力が増し、新たな情報をよりオープンに認識できる
6	・ストレスを軽減し、知的集中力を高めて課題と向き合える
7	・自分と他者のつながりを知り、そのつながりがどう社会に影響を与えているのかに気づくことができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。ディスカッションやダイアログを通してを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション（授業の位置づけ、授業の進め方、グループ内で自己紹介）
2	セルフマネジメントとは何か、社会とどのようにつながっているのか
3	自分の今の状態を知る（身体・感情・思考）
4	セルフマネジメントの全体像
5	ストレスとは何か？ストレスがどのように周囲に影響を与えるのか
6	自分のストレスの状態を知り、ストレス状態からの脱却法を考える
7	マネジメントの最小単位： Unit of Analysis
8	人の意識と無意識：意識や注意を高めるためのポイント
9	自分の状態を理解する：自分のパターンを知る
10	自分の状態を理解する：自分のパターンを変えるための方法を考える
11	マインドセット： Growth Mindset/Fixed Mindset
12	新たな結果を生み出すための方法：選択肢を広げ結果を変えるために
13	セルフマネジメントを日常に組み込むための方法を考える
14	まとめ

授業外における学習

- ①毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ②実践期間中の「うまくできたこと」「難しかったことやチャレンジ」「実践から学んだインサイト」をレポート1枚にして授業に持ち寄る
- ③授業で学んだ内容をもとに、最終講義終了後にレポートを作成して提出する

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メールでの質問も受け付ける（si@transform-your-world.com）。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業への参加貢献	30	基礎知識の理解度に応じて評価する。
各回のレポート	40	各回、実践結果のレポートを準備する。理解度に応じて評価する。
最終レポート	30	授業終了後のレポート
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ドラッカー・スクールのセルフマネジメント教室—— Transform Your Results ISBN-10 : 483342360X ISBN-13 : 978-4-833423601 出版社：プレジデント社			
	授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ① 毎回、実践期間で学んだレポートを作成し授業に臨むこと
- ② 主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。

その他・特記事項

特になし

ソーシャルビジネス・プランニングⅠ

更新日：2023/01/10 08:54:07

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	G3130A	科目コード	G3130
担当教員	秋葉 芳江						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

アイデア創出、構想力、ビジネスモデル、SWOT、マネタイズ、SDGs

授業の概要

I、IIはプランニング基礎編。レクチャーに加えて個人ワークとグループワークを組み合わせ、主体性、創造力および構想力を養う。
Iではプランニングの前提として持つべき“望ましい姿勢”を醸成する。事例からイメージを膨らませ、価値基準が貨幣価値だけではないことを理解し、マルチステークホルダーとの四方よしの関わり方を理解する。ビジネスを自分起点で構想する、ということを理解し、講義最後には、ビジネスアイデア素案（実現可能性は問わない）を1本作成しプレゼンテーションする。

毎週2コマ連続での開講。開講日に注意。

I～IV通して、マイアイデアを元にスパイラルアップしながら、起業に必要な主要要素を履修し、IVの最終ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。

担当教員は、民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師で起業家輩出、および、本学のソーシャル・イノベーション創出センター運営に携わってきている。これら経験をふまえ、実践的な講義を行う。

講義形式：対面講義が基本。状況によりオンラインとなる場合は、同時双方向型（リアルタイムオンライン形式）。

到達目標

1	・プランニングの基本的なスキームを理解する
2	・社会課題を生まないビジネスの実際を理解する
3	・ビジネスアイデアの源泉を理解する
4	・ビジネスモデルの基本について理解する
5	・自らの発想によるビジネスアイデアを1つ作成する
6	・DX時代の知的コミュニケーションスキルの習得
7	・コラボレーションマインドセットの習得

教授方法

レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークとディスカッションを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。対面講義でもオンラインツール（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）を多用し集合知の学びを推進する。講義は双方向型かつ反転型で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

二年次のキュレーター概論履修済を強く推奨する。未履修者はより一層の熱意をもって履修すること。
企（起）業家コースはもちろん、起業・新規事業志向の学生は履修を強く推奨する。具体的な起業希望者はソーシャルビジネス・プランニングⅠ～Ⅳ通して履修することを強く推奨する（Ⅰ～Ⅳ通して、起業に必要な主要な要素を学ぶことができ、Ⅳではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している）。これまでに、履修生から複数の起業者あり。

履修希望者は、Ⅰ～Ⅳのシラバス内容をよく確認すること。

◆◆◆2022年はⅡが集中講義で

授業計画

1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。オンラインを含むコミュニケーションについて（4/14）【オンライン】
2	ソーシャルビジネスのプランニングの基本的スキーム（4/14）【オンライン】
3	社会課題を生まないビジネスとは（4/21）
4	既存ソーシャルビジネス事例から考察し、一般ビジネスの社会化を考える（4/21）
5	ビジネスアイデアの源泉（4/28）
6	ビジネスアイデアの源泉（4/28）
7	SDGsをビジネスアイデアに取り込む（5/12）
8	ミニアイデアソン（5/12）
9	ビジネスモデルとは（5/19）

10	仮想のビジネスモデルを考える 1 (5/19)
11	仮想のビジネスモデルを考える 2 (レビュー) (5/26)
12	マネタイズを考える (5/26)
13	アイデアプレゼンテーション (5/30)
14	アイデアプレゼンテーション (続き)、まとめ (5/30)

授業外における学習

毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。

したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索してくること。指定するオンラインドキュメント類等による学習。講義内容に応じて、プレ宿題（事前学習成果）の提出あり。

CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する(平日夜間開催)。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。

併せて、持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外

質問や相談への対応

メールは随時受け付ける。予約の上、オンラインまたは研究室にて対応。

特に起業志向の学生は上記随時相談を大いに歓迎する。気軽に相談されたい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
各回の成果物	50	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度。積極性。コミュニケーションスキル。コラボレーションマインドセット。	
最終アイデア表明	50	講義内容を踏まえていること、および、提案アイデアの源泉が明確なこと。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	「ビジネスモデル・ジェネレーション」アレックス・オスターワルダー他著,翔泳社,2012年 上記のほか授業中に適宜参考書を紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。
- ・テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(ノートPC、タブレット)は必須（困難な学生は事前に教務に相談）。
- ・履修登録期間中でも重要な内容が続くので、履修希望者は初回講義の冒頭から出席することを強く推奨する。
- ・新しい学びスタイルを共に創り出していく意欲ある学生の履修を望む。

その他・特記事項

実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。ICT分野有資格。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。

ソーシャルビジネス・プランニングⅡ

更新日：2023/01/10 08:54:08

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	G3140A	科目コード	G3140
担当教員	秋葉 芳江						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ビジネスモデル、経営理念、片付けるべき用事、サプライチェーン、サーキュラーエコノミー、アイデアブレスト、プログラミング、プレゼンテーションスキル

授業の概要

◆◆◆要・注意 2022年はⅡは集中講義です◆◆◆

Ⅱでは、オリジナルアイデアを、持続性、社会性の観点から構想する。

創業者が事業化に進む時の“スイッチ”はどこで押されるのか、事業原動力、継続モチベーションは何か、事例から理解することで、ソーシャルビジネスが創業者の体験や価値観と深くつながっていること、事業における理念（哲学）の重要性を理解する。また、アイデアにテクノロジーを活用する具体、および、サプライチェーンを手掛かりに持続する発想を理解する。受講を通じて、自分自身とビジネスアイデアを繋げること、未来構想力がカギになることを理解する。最終的に、持続可能性を意識したオリジナルのビジネスアイデア案にまとめそのピッチを行う（Ⅰ履修者はⅠの成果物を下敷きにブラッシュアップする）。毎講義の冒頭で、前回講義に関する質問等へのフィードバックを行う。

2022年は集中講義。開講日、時間割に注意。

担当教員は、民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師で起業家輩出、および、本学のソーシャル・イノベーション創出センター運営に携わってきている。これら経験をふまえ、実践的な講義を行う。

講義形式：対面講義。

到達目標

1	・アイデアへのテクノロジー活用を理解する
2	・サプライチェーンを意識してビジネスを理解する
3	・収益化の基本について理解する
4	・未完成ながら持続可能ビジネスアイデアを構想し、ピッチができるようになる
5	・社会環境の変化に適応してビジネスをシフトさせることを理解する
6	・DX時代の知的コミュニケーションスキルの習得
7	・コラボレーションマインドセットの習得

教授方法

レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークとディスカッションを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツール（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）を多用し集合知の学びを推進する。講義は双方向型かつ反転型で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

二年次のキュレーター概論履修済および、三年次1学期のソーシャルビジネス・プランニングⅠ履修を強く推奨する。未履修者はより一層の熱意をもって履修すること。

企（起）業家コースはもちろん、起業・新規事業志向の学生は履修を強く推奨する。具体的な起業希望者はソーシャルビジネス・プランニングⅠ～Ⅳ通して履修することを強く推奨する（Ⅰ～Ⅳ通して、起業に必要な主要な要素を学ぶことができ、Ⅳではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している）。これまでに、履修生から複数の学生起業者あり。

履修希望者は、Ⅰ～Ⅳのシ

授業計画

1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。ソーシャルビジネスのプランニングの基本的スキーム復習。 (7/30 1限)
2	起業家から学ぶ（事業動機、モチベーション、経営理念、コンセプト）。オンラインゲスト予定 (7/30 2限)
3	生きた経営理念にするには（第2講を踏まえ） (8/1 1限)
4	仲間を集めるには。アイデアブレスト実践。 (8/1 2限)
5	テクノロジー活用実習（簡易プログラミング） (8/1 3限)
6	テクノロジー活用実習（続き）。テクノロジーの最新動向を知る (8/1 4限) 講義内で課題提出（Tech課題）
7	サプライチェーン、トレーサビリティを事例から理解する (8/2 1限)
8	サプライチェーンから“四方よし”を考える (8/2 2限)
9	利益を生む仕組みをデザインする (8/2 3限)

10	ビジネスをどこにシフトすれば幸福総和は増えるのか (8/2 4限)
11	プレゼンテーションスキルアップ (8/4 1限)
12	ビジネスアイデア再考 “愛”はあるか? (アイデアレビュー)、ピッチ準備 (8/4 2限)
13	アイデアピッチ実施 (8/8 1限)
14	まとめ (8/8 2限)

授業外における学習

講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。

集中講義であるが、翌日や翌々日の事前学習として講義中に指示する内容について予め思考、探索、準備してくる。指定するオンラインドキュメント類等による学習。プレ宿題（事前学習成果）の提出あり。従って、集中講義期間中は講義時間外に十分時間を確保しておくこと。

CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する(平日夜間開催)。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。

持続可

質問や相談への対応

集中講義期間以外でもメールは随時受け付ける。予約の上でのオンラインまたは対面（研究室）での対応。

特に起業志向の学生は随時相談を大いに歓迎する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
毎時間の参加と成果	40	事前学習（プレ宿題）を含めて積極的に講義内容に取り組んでいること。理解度。コミュニケーションスキル。コラボレーションマインドセット。	
最終のアイデアピッチ&提案ドキュメント	50	講義内容を踏まえていること、および、提案アイデアが新たな課題を生まないこと。	
講義内課題（Tech課題）	10	課題の指示を踏まえ、トライアンドエラーが実践できていること。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	授業中に適宜参考書を紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。
- ・テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(ノートPC、タブレット)は必須（困難な学生は事前に教務に相談）。
- ・今年度は特別に集中講義であるが、他年度と変わらず、高い意欲で、新しい学びスタイルを共に創り出していく意欲ある学生の履修を望む。

その他・特記事項

実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。

ソーシャルビジネス・プランニングⅢ

更新日：2023/01/10 08:54:09

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3150A	科目コード	G3150
担当教員	秋葉 芳江						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

Vision、Mission、Value、顧客視点、バリュージャーニー、ビジネスモデルパターン、限界費用ゼロ、バックオフィス、知的財産、ゼブラ企業

授業の概要

Ⅲ、Ⅳはプランニング実践編である。Ⅰ、Ⅱを履修済であることが望ましい。実務的な指導を含めて実現可能性を高める本格的プランニングに取り組む。レクチャーとワークから実践を意識したプランニング力を身につける。
Ⅲではプランニングに必要な要素、事業化する際の実践的ポイントを理解する。プラン素案をさらに“よいビジネス”にするにはどうすべきか検討し、グループ討議で視点の多様性の価値を理解する。激変する社会環境に適合しうるビジネスのつくりかたを学ぶ。
Ⅰ、Ⅱと異なり、Ⅲでは実現可能性を含めて検討する。課題提出も増す。
毎週2コマ連続での開講。開講日に注意。

Ⅰ～Ⅳ通して、マイアイデアを元にスパイラルアップしながら、起業に必要な主要要素を履修し、Ⅳの最終ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。

担当教員は、民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師で起業家輩出、および、本学のソーシャル・イノベーション創出センター運営に携わってきている。これら経験をふまえ、実践的な講義を行う。

講義形式：対面講義が基本。状況によりオンラインとなる場合は、同時双方向型（リアルタイムオンライン形式）。

到達目標

1	・ビジネスモデル要素を深く理解する
2	・最新の社会動向を踏まえ、ビジネスを取り巻く実務要素を知る
3	・バックオフィスを理解してビジネス全体像をイメージできるようになる
4	・様々なテクノロジーの動向を理解しビジネスでの活用を理解する
5	・DX時代の知的コミュニケーションスキルの習得
6	・コラボレーションマインドセットの習得

教授方法

レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークとディスカッションを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてレビューを繰り返す。オンラインツール（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）を多用し集合知の学びを推進する。講義は双方向型かつ反転型で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

二年次のキュレーター概論履修済、ソーシャルビジネス・プランニングⅡ履修済を強く推奨する。

起業志向の学生は、履修を強く推奨する。具体的な起業希望者はソーシャルビジネス・プランニングⅠ～Ⅳ通して履修することを強く推奨する（Ⅰ～Ⅳ通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、Ⅳではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。）。これまでに、履修生から複数の学生起業者あり。

履修希望者は、Ⅰ～Ⅳのシラバス内容をよく確認すること。

ソーシャルビジネス・プランニングⅣを履修せずⅢのみの履修も可能。

なお、起

授業計画

1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。ソーシャルビジネス・プランニングⅠ～Ⅱ 確認。 (9/22)
2	起業家から学ぶ（事業立ち上げの実際、新規顧客開拓、プライシング等）（ゲスト予定） (9/22)
3	マイビジネスのvalueと顧客との関係を考える (9/29)
4	パターンを手掛かりにマイビジネスモデル検討 (9/29)
5	グローバル視点で持続可能なビジネスを捉える (10/6)
6	海外事例や最新事例からヒントを探る（サーキュラーエコノミー等） (10/6)
7	テクノロジー活用実習 (10/13)
8	テクノロジー活用実習 (10/13)
9	限界費用ゼロ社会でのビジネスを考える (10/20)

10	起業や事業創出で意識すべき法律、知財、組織 (10/20)
11	ビジネスを支える”バックオフィス”を知る (ゲスト予定) (10/27)
12	マイビジネスレビュー (10/27)
13	起業における動向と関連情報(税、ポートフォリオ、ゼブラ企業、等。その他、履修生ビジネスプランに応じて) (11/10)
14	まとめディスカッション=そのアイデアは未来をどう変えるのか= (11/10)

授業外における学習

ほぼ毎回プレ宿題(事前学習成果)の提出あり。

毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。

したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索してくること。指定するオンラインドキュメント類等による学習。CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する(平日夜間開催)。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。

持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を積極的に

質問や相談への対応

メールは随時受け付ける。予約の上、オンラインまたは研究室にて対応。

特に起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。具体的な事業プランや希望がある学生は、履修前の夏季休暇中からでも個別相談に応じる。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
毎回のプレ宿題・成果物と講義参加	50	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度。積極性。	
提案ドキュメント	50	講義内容、まとめディスカッションを踏まえていること、および、アイデアの世界観が示されていること。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		特になし			
		「2030年の世界地図帳」落合陽一著,SBクリエイティブ,2019年 「ビジネスモデル・ジェネレーション」アレックス・オスターワルダー他著,翔泳社,2012年 その他、授業中に適宜参考書を紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。
- ・テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(ノートPC、タブレット)は必須。困難な学生は事前に教務に相談。
- ・履修登録期間中でも重要な内容が続くので、履修希望者は初回講義の冒頭から出席することを強く推奨する。
- ・新しい学びスタイルを共に創り出していく意欲ある学生の履修を望む。

その他・特記事項

実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。

ソーシャルビジネス・プランニングⅣ

更新日：2023/01/10 08:54:10

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	G3160A	科目コード	G3160
担当教員	秋葉 芳江						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

持続可能ビジネスプラン、事業計画書、価値循環、資金調達、創業実務、プレゼンテーション

授業の概要

Ⅳでは、Ⅰ～Ⅲの集大成としてマイプランを仕上げる。ライフプランも並行させ、なりたい自身の姿を投影したビジネスプランニングの実務を含む指導を行う。プランは仮想でも可。各自プランの相互ブラッシュアップを重ね、最終成果として、持続可能かつ具体的なプランに集大成させ、シードマネー獲得挑戦を想定したプレゼンテーションを実施する。途中、プロトタイプ実施を推奨。

受講を通じて、生き方と働き方を乖離させないことを具体的に理解し、一歩踏み出す自信、挑戦する楽しみも知る。講義終了後に具体的な事業化を希望する学生には、引き続きCSIで創業実務を含めて支援することが可能。長野県立大学発ベンチャー支援制度活用も支援可。激変する社会環境に適合しうるビジネスのつくりかたを学ぶ。

学生起業希望者も履修生に想定するので、Ⅳは事前・事後課題も多く、Ⅲまで以上に一層実践的で負荷ある講義である。

毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意。

担当教員は、民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師で起業家輩出、および、本学のソーシャル・イノベーション創出センター運営に携わってきている。これら経験をふまえ、実践的な講義を行う。

講義形式：対面講義が基本。状況によりオンラインとなる場合は、同時双方向型（リアルタイムオンライン形式）。

到達目標

1	・持続可能なビジネスを、未来構想型で自ら構築できる
2	・生き方と働き方（仕事）を乖離させないプランニングができる
3	・アントレプレナーシップを身につける
4	・DX時代の、知的コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルの習得
5	・コラボレーションマインドセットの習得

教授方法

レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークとディスカッションを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用し集合知の学びを推進する。講義は双方向型かつ反転型で行う。対面でも複数の各種オンラインツール使用を前提とする。（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

二年次のキュレーター概論履修済、ソーシャルビジネス・プランニングⅢ履修済を強く推奨する。

起業志向の学生は、履修を強く推奨する。具体的な起業希望者はソーシャルビジネス・プランニングⅠ～Ⅳ通して履修することを強く推奨する（Ⅰ～Ⅳ通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、Ⅳではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している）。これまでに、履修生から複数の学生起業者あり。

履修希望者は、Ⅰ～Ⅳのシラバス内容をよく確認すること。

なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生

授業計画

1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。マイアイデアレビュー	(11/24)
2	プレゼンテーションの理論を学ぶ（シードマネー獲得を意識して）	(11/24)
3	プレゼンテーション実践トレーニング	(12/1)
4	”事業計画書”の機能	(12/1)
5	徹底討論 「ビジネスを通じた地域・社会への貢献とは何か」	(12/8)
6	マイビジネスの価値循環を考える。無形資産とは。	(12/8)
7	資金調達。ビジネスにおける人財とチーム	(12/15)
8	提供価値を可視化する（プロトタイプ）。履修生に応じたトピック	(12/15)
9	創業実務（人格選択、創業、登記、企業内ベンチャー等）	(12/22)
10	事業計画書の作成ポイント	(12/22)

11	プロトタイプテストレビュー。事業計画レビュー（マンツーマン指導含む）	(1/12)
12	事業計画レビュー（マンツーマン指導含む）	(1/12)
13	ファイナルプレゼンテーション（外部ゲスト評価者予定）	(1/19)
14	全員ディスカッション、まとめ「work as life で生きていく」	(1/19)

授業外における学習

ほぼ毎回、プレ宿題（事前学習成果）の提出と事後課題あり。IIIまで以上に多くの課題がある。
毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。
各自のプランブラッシュアップのために、講義時間外に、オンライン個別相談を設ける。有効に活用すること。
持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を、積極的に活用することを推奨する。

質問や相談への対応

メールは随時受け付ける。予約の上、オンラインまたは研究室にて対応。
特に起業志向の学生は上記による随時の個別相談を大いに歓迎する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレ宿題・成果物と講義参加	40	適切に講義内容に取り組んでいること。課題提出状況。理解度。積極性。
ファイナルビジネスプラン	60	講義内容を踏まえていること、持続可能なビジネスであること、プラン内容が自分自身と乖離していないこと、アントレプレナーシップがあること、プレゼンテーション力。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	授業中に適宜参考書を紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。
- ・テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(ノートPC、タブレット)は必須。困難な学生は事前に教務に相談。
- ・履修登録期間中でも重要な内容が続くので、履修希望者は初回講義の冒頭から出席することを強く推奨する。
- ・新しい学びスタイルを共に創り出していく意欲ある学生の履修を望む。

その他・特記事項

実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。

コミュニティ・デザイン（各論Ⅰ）

更新日：2023/01/10 08:54:14

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	G3170A	科目コード	G3170
担当教員	由井 真波						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

コミュニティデザイン、共創、フィールドワーク、ビジュアルライズ

授業の概要

ソーシャルな課題を、人々の繋がり・関係性に着目し、自分ごとに引きつけ、解決へとアプローチする「コミュニティデザイン」的な思考力を身に付ける。講義と、グループワークによる体験学習を行う。

授業で紹介する事例や活用する手法・ツールは、地域の現場で多様な主体者とともにデザインプロジェクトを推進してきた、講師による実例を素材とする。

①：地縁型やテーマ型などコミュニティの多様なフィールドと、コミュニティデザインの実践例を知る ②：①の事例をもとにコミュニティデザインの構造を知り、実際の現場で用いられる手法（フィールドワーク、ワークショップなど）を知る ③身近なコミュニティでの体験をもとに考察する ④：②の手法の一部を実践する

到達目標

1	①実社会の多様なコミュニティを構成する人々に注目し、背景にある思いや相互の働きかけを見つけ出し、視覚的に記述することができる。
2	②人々の活動を活性化し、コミュニティの「場」のあり方について自身なりの具体的な見解を示せる。
3	③コミュニティデザインの基礎スキルである、他者との創造的な対話に係る基本的な技術を身につける。

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。随時グループワークを行う。また、学外へのフィールドワークを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	集中1日め：授業の位置付け、進め方について理解する。コミュニティデザインの概要について知る。
2	集中1日め：実例をもとにコミュニティデザインのプロセスについて理解する。
3	集中1日め：ワークシートを用い、現実のコミュニティにおける人々の関係性に注目する。
4	集中1日め：グループワーク（ワークシートの作成とシェア）
5	集中2日め：グループワーク（寮・ほか身近なコミュニティ体験から）※適宜講義を交える。
6	集中2日め：グループワーク（寮・ほか身近なコミュニティ体験から）※適宜講義を交える。
7	集中2日め：グループワーク（三輪でのコミュニティ体験から）※適宜講義を交える。
8	集中3日め：フィールドワーク（まち歩き）
9	集中3日め：フィールドワーク（まち歩き）
10	集中3日め：フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。
11	集中3日め：フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。
12	集中4日め：発表の準備を行う。
13	集中4日め：発表と意見交換（身近なコミュニティよりゲストが参加）
14	集中4日め：まとめ・振り返りと最終レポート作成

授業外における学習

- ①自身がこれまで関わってきた、異なる「コミュニティ」を意識し、その特徴や違いをイメージしておく（血縁や地縁によるコミュニティ、寮生活のコミュニティ、ほかアルバイト先など自身が経験したコミュニティなど）
- ②履修生には、簡単な事前課題（画像データ集めなど）と準備物を別途連絡する。
- ③1,2,3日めとも、課題を課すため課外時間の確保を願う。

質問や相談への対応

- ・質問は、原則として授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・フォームを優先的に活用する。
- ・初回授業以降、予備的に、メールでの質問も受け付ける。（アドレスは初回授業時に紹介）

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70	①授業内で使用するワークシートやコメントシートの提出状況や成果に応じて評価する。(40%) ②最終レポートにて、コミュニティデザイン的な思考の咀嚼度によって評価する。(30%)
上記以外の授業評価	30	授業内のグループワークほか共創への参加と貢献に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	講座内で適宜資料配付、参考書の紹介を行う。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①毎回、(オンライン授業時も対面授業時も)ノートPCなどオンラインワークショップが可能なツールおよび環境を各自用意のこと。
- ②その他、ワークに必要なツールやアプリは事前課題案内時に紹介、各自用意のこと。(ふせんやマーカー、ワークシートの出力など。アプリはoffice365に加えGoogledocument、MIROを想定。)

その他・特記事項

- ①受講は20名程度まで。希望者多数の場合は抽選を行う。
- ②フィールドワークの受け入れ先との調整により、授業の進行は変更することがあり、授業内で案内する。
- ③授業進行補助(TA)を受講生内外より募る。
- ④全14回を土・日を含む4日に分けて実施する。

コミュニティ・デザイン（各論Ⅱ）

更新日：2023/01/10 08:54:16

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3180A	科目コード	G3180
担当教員	瀧内 貴						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

コミュニティデザイン、共創、フィールドワーク、ビジュアルライズ

授業の概要

地域における身近なコミュニティをフィールドとして、「コミュニティデザイン」的な実践力を身につけることを目標とする。フィールドワークを中心に、グループワークによる体験学習を行う。

- 1) フィールドワークやヒアリングを元に、身近なコミュニティにおける社会的な地域課題を発見する。
- 2) 地域課題解決の仮説から、課題解決の手法をグループワーク（ワークショップ）を通じて提案する。
- 3) 提案の一部をデザインの手法を用いて実験的に実践する（プロトタイピング）

到達目標

1	1) 身近なコミュニティが抱える地域課題を観察、類似事例を調査し、的確な提案に向けた「仮説」を建てることができる。
2	2) 「自分ごと」として具体的な提案を行うことができる。
3	3) コミュニティデザインの基本である「他者」と共創し、提案における基本的な技術を身につける。

教授方法

演習に一部講義を交えた形式。随時グループワークを行う。また、学外へのフィールドワークを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の位置付け、進め方について理解する。コミュニティデザインの概要について知る。
2	ワークシートを用い、現実のコミュニティにおける人々の関係性に注目する。Iグループワーク(ワークシートの作成とシェア)
3	フィールドワーク(まち歩き)
4	グループワーク(後町、三輪でのコミュニティ体験課題整理とテーマ検討)
5	フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。
6	フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。
7	フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。
8	フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。
9	フィールドワーク(まち歩き)
10	フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。
11	グループワーク（提案作成、プロトタイピング）
12	グループワーク（提案作成、プロトタイピング）
13	発表と意見交換(身近なコミュニティよりゲストが参加)
14	まとめ・振り返りと最終レポート作成

授業外における学習

- 1) 日頃から、身近（暮らしや大学、地元など）なコミュニティと、そこで起こる事象について、意識する。特に人々の想いや動き、その相関関係に着目する。
- 2) 全国のコミュニティでの活動について注目し、その仕組みを考察する。
- 3) 履修生には、簡単な事前課題と準備物を別途連絡する。

質問や相談への対応

- ・質問は、原則として授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・フォームを優先的に活用する。
- ・初回授業以降、予備的に、メールでの質問も受け付ける。(アドレスは初回授業時に紹介)

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70%	1授業内で使用するワークシートやコメントシートの提出状況や成果に応じて評価する。(40%) 最終レポートにて、コミュニティデザイン的な思考の咀嚼度によって評価する。(30%)
上記以外の授業評価	30%	授業内のグループワークほか共創への参加と貢献に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	講座内で適宜資料配付、参考書の紹介を行う。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1毎回、(オンライン授業時も対面授業時も)ノートPCなどオンラインワークショップが可能なツールおよび環境を各自用意のこと。2その他、ワークに必要なツールやアプリは事前課題案内時に紹介、各自用意のこと。(ふせんやマーカー、ワークシートの出力など。アプリは office365に加えGoogledocument、MIROを想定。)

その他・特記事項

- 1受講は20名程度まで。希望者多数の場合は抽選を行う。
- 2フィールドワークの受け入れ先との調整により、授業の進行は変更することがあり、授業内で案内する。

マーケティングリサーチ

更新日：2023/01/10 08:52:44

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3190A	科目コード	G3190
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ

授業の概要

近年の企業経営では、大企業はもとより中小企業であっても、実証的なデータを取得・分析し、その結果に基づく意思決定を行なおうとする動きが加速しており、調査・分析にかかわる知識やスキルがビジネスパーソンに強く求められるようになってきている。本授業では実証的な手法の中でも特に定量的な調査手法に重点を置き、その知識とスキルの習得を目指す。講義中心であるが実際の調査票を比較したり、標本サイズを算出してサンプリングを実施したりするなど、適宜、実習的な要素を取り入れる。なお、ここで得られる知識やスキルは主張（提案）の強力な根拠となるものであり、実証研究にもそのまま活かすことができる。

到達目標

1	・各種調査手法の特徴を理解し、目的に合った調査手法を正しく選択することができる。
2	・各種調査手法を実際に用いて、必要なデータを入手することができる。

教授方法

PowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料は指定した共有フォルダにアップする。配布資料に定義や細かな表などは載せているので、授業中は全体の概要をおさえたうえで、何が重要なかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「マーケティング入門」「経営統計学入門」を履修済みであること。

授業計画

1	オリエンテーション、調査・分析のための基礎知識
2	調査手法とデータの分類
3	質問法①（測定と尺度）
4	質問法②（構成概念と妥当性）
5	質問法③（調査票の作成①）
6	質問法④（調査票の作成②）
7	質問法⑤（標本抽出①）
8	質問法⑥（標本抽出②）
9	質問法⑦（標本サイズの決定）
10	質問法⑧（データ収集）
11	実験法
12	投影法
13	面接法
14	観察法

授業外における学習

授業後には配布資料を用いて授業内容を復習する。

質問や相談への対応

チャットで随時受け付け、できるだけ授業の中で回答する。対面での質問や相談を希望する場合は事前にメールで予約すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	授業で学んだ知識の理解度
平常点	50	小テスト、質問、発言など授業への総合的な取り組み状況

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			
	授業の中で、適宜、紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で実例を探すこと。
- ・自分の言葉で説明できるようにすること。

その他・特記事項

特になし

マーケティング論

更新日：2023/01/10 08:52:45

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバースト ^o	G3200A	科目コード	G3200
担当教員	森 哲男						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マーケティングの実際、マーケティング課題解決プロセス、グローバル・マーケティング

授業の概要

マーケティングは、企業の基幹となる企業行動です。本講義では、日々の日常で経験する製品やサービスの目的や狙いについて改めて考えることを通して、企業の提供するマーケティングサービスや活動について学んでいきます。また、毎回の授業においてグローバル企業も含めた多くの事例を用い、企業のマーケティング部や広告代理店が、どのように市場・顧客を分析し、課題を把握し、どのようにソリューションとしてのマーケティング戦略を立案していくのか等、マーケティングの実践面における立体的な理解を獲得できるような内容としています。理論や概念と現実の企業活動の両方を結び付けて理解することで実際のビジネスシーンでも応用できるようになることを目指します。

到達目標

1	① 様々な事業分野における企業の実際のマーケティング課題を理解する
2	② それらの課題をフレームワークを用いて解決するプロセスを理解する。
3	③ さらにマーケティングをグローバル展開するに必要な要素を理解する

教授方法

当講義は全てオンライン（Zoom）で行います。

また、事前に資料を教務ポータルフォルダにアップします。

授業は講義中心ではあるが、知名度のある企業の事例を多く紹介するとともに、図、写真、チャートを用いることで、理解しやすい授業とします。

毎回、授業後にミニッツ・ペーパー（授業内容についての質問、自分はこう理解した、自身の関連する経験等）を教務ポータル上に提出すること。このミニッツ・ペーパー提出をもって出席扱いとします。 ミニッツ・ペーパーのフォーマットは、教務ポータルのフォルダより各自、ダウンロードしてください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス、マーケティングの誕生と発展、事業の定義とマーケティング近視眼、事業の再定義、経営環境の把握（PEST分析、3C分析、SWOT分析）
2	セグメンテーションとターゲティング、ポジショニング、バリュー・プロポジション、マーケティング・ミックス（事例：レッドブル、クライスラー、ブジョー、プレミアムアイスクリーム、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）
3	消費者行動、購買意思決定、市場地位別戦略・製品ライフサイクル、採用者カテゴリーとマーケティング戦略（事例：アメリカン・ホーム・ダイレクト）
4	新製品開発とイノベーション、インターネットの発達による製品開発の変化、製品開発における日本市場の重要性、リードユーザー、オープン・イノベーション（事例：無印良品、P&G、アットコスメ、ネスレ、コカコーラ、アイリスオオヤマ、グリコ、ワークマン）
5	差別化とブランディング（事例：ナイキ、スターバックス、マルボロ、コカコーラ、日産スカイライン、コーチ他）
6	プロモーション・ミックス： 広告、販売促進、PR、人的販売、クリエイティブ表現、USP（事例：コカ・コーラ、JT、HP）
7	関係性マーケティング、顧客管理のマネジメント、顧客の識別と選択、維持（事例：アマゾン）（中間課題）
8	グローバル・マーケティング（1）（標準化と現地適応化、事例：プレスティージュブランド、アップル、ハーレー、コカ・コーラ、フォード、マクドナルド、スターバックス、グリコ）
9	グローバル・マーケティング（2）（事例：セコム、TOTO、ダイキン、味の素、ハウス食品、キッコーマン、ファミリーマート、キャノン、ホンダ、資生堂、他）
10	サービス・マーケティング、サービス・ドミナント・ロジックと価値共創マーケティング（事例：コマツ、ナイキ、サウス・ウエスト航空、ノードストローム、リッツカールトン、ザッポス、星野リゾート）
11	価値共創マーケティングと地方創生（事例：地方鉄道と地方創生、南魚沼地方の旅館業と地域創生）
12	デジタル・マーケティング（能動化する消費者、CGM、事例：コカコーラ、カゴメ、ウェザーニューズ、グーグル、その他）
13	現在の課題とマーケティング（技術の発達による生活様式の変化と新しいメディアの発達）
14	まとめと実際のマーケティング・プロジェクトの紹介（事例：ジョージア復活プロジェクト、爽健美茶 導入プロジェクト、HP e-serviceキャンペーン）（期末課題）

授業外における学習

予習、復習は、その都度、レジュメを配布するので目を通して確認するとともに、必要にあわせて関連する事例の新聞記事等を読んでおくことが望ましい。

質問や相談への対応

毎回、授業後に提出してもらいミニッツ・ペーパーで質問などを受け付け、次回の授業の冒頭にコメントします。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
中間課題	45	理解度に応じて評価する。	
期末課題	45	理解度に応じて評価する。	
ミニッツ・ペーパー	10	理解度に応じて評価する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は指定しません。毎回レジュメを用意します。			
	『ゼミナールマーケティング入門』石井淳蔵ほか、日本経済新聞出版社(2013) ISBN 4-532-13439-6 『マーケティング入門』小川孔輔、日本経済新聞出版社(2009) ISBN 4-532-13369-6			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に授業に臨み、ミニッツ・ペーパー上に質問、自分の関連する経験や知識等を報告するようにすること。各自が積極的に取り組むことにより、他の学生の疑問点や自分と異なる理解の仕方、優れた理解の仕方等がお互いの良い参考となる。

その他・特記事項

担当教員は、数社の外資系コンサルティングファームおよび外資系広告代理店をはじめ、30年あまりにわたり50社以上のグローバル企業の経営戦略およびマーケティング戦略立案に従事してきました。

消費者行動論

更新日：2023/01/10 08:53:55

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	G3210A	科目コード	G3210
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ

授業の概要

本授業は心理学や社会学、経済学など複数の学問領域の知見を適宜利用しながら、購買意思決定を行う消費者について深く理解することを目的とする。

到達目標

1	・消費者の購買意思決定に影響を及ぼす内的要因と外的要因について理解し、情報処理や意思決定のメカニズムを説明することができる。
2	・抽象的な効果や理論を実際の具体的な事例で置き換えることができる。

教授方法

授業はPowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料に定義や細かな表などはすべて載せているので、授業中は全体の概要をおさえたうえで、何が重要なのかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に条件はないが、マーケティングの諸科目と関連性が深いので、特に「マーケティング入門」、「マーケティングリサーチ」を履修しておくことが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション、消費者行動論とは
2	消費者行動研究の変遷
3	知覚
4	認知
5	関与・動機づけ・学習
6	態度
7	評価
8	個人・他者・集団
9	社会・文化・コミュニケーション
10	消費者タイプの分類①
11	合理的な意思決定
12	意思決定の方略
13	消費者タイプの分類②
14	まとめ

授業外における学習

授業後には配布資料を用いて授業内容を復習する。

質問や相談への対応

チャットで随時受け付け、できるだけ授業の中で回答する。対面での質問や相談を希望する場合は事前にメールで予約すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	授業で学んだ知識の理解度
平常点	50	小テスト、質問、発言など授業への総合的な取り組み状況
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			
	授業の中で、適宜、紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で実例を探すこと。
- ・自分の言葉で説明できるようにすること。

その他・特記事項

特になし

簿記システム論

更新日：2023/01/10 08:52:46

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	G3220A	科目コード	G3220
担当教員	衣川 修平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

複式簿記 会計 ビジネスの言語 book-keeping

授業の概要

会計はビジネスの言語であり、複式簿記という世界共通の情報処理技術によって記録・計算されうえで、利害関係者に報告されます。このような会計は、私的企業だけでなく、官庁やNPOといった非営利法人でも利用され、またGDP計算の基礎ともなります。

本講義ではその基本的な複式簿記の処理を徹底的に勉強します。

本講義では、電卓を叩いて、叩いて、叩きまくりまします。
勇者は雄々しく剣で戦うが、賢者は電卓で戦う。

到達目標

1	①複式簿記の基本構造を理解する。
2	②基本的な商業取引を複式簿記で記帳できるようになる。
3	③アカウンティング・マインドを要請する。

教授方法

オンラインないし対面による講義と演習をミックスした形式でおこなう。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

アカウンティング入門の内容をマスターしていること。本講義はアカウンティング入門Ⅱ（簿記入門Ⅱ）の内容で、続き科目だと思ってください。

授業計画

1	簿記の復習－財務諸表、簿記の5要素、仕訳とは－
2	現金
3	商品の3分法①－売上、仕入、繰越商品
4	商品の3分法②－売上、仕入、繰越商品
5	商品の3分法③－売上、仕入、繰越商品
6	様々な債権・債務
7	受取手形と支払手形
8	貸し倒れ
9	有形固定資産と減価償却の意味
10	資本取引の意味
11	税金等
12	決算整理仕訳と8桁精算表①
13	決算整理仕訳と8桁精算表②
14	総合問題演習

授業外における学習

宿題を多く出します。必ず自分で解いてください。まれに友達のを写して出す人がいますが、宿題を出さなくても評価上マイナスにはなりませんので、そういう人は提出しないでください。簿記は自分で解かない限り、マスターできません。

質問や相談への対応

メールで随時質問すること

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

テスト	80	
宿題と発言	20	提出回数と発言回数
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	渡部裕亘 他『検定簿記ワークブック3級』 中央経済社 (800円) 中村文彦『簿記の思考と技法 (第2版)』 森山書店。			
	適宜指示			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

簿記は解かない限りマスターできません。狂ったように電卓をたたいて計算してください。その代わりに、手を使って計算しまくれば、だれでもマスターできます。

その他・特記事項

アカウントニング入門と本講義で日照3級はすべてカバーします。また授業の進捗度は皆さんの理解度によって、適宜変更します。

管理会計Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:52:47

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	G3230A	科目コード	G3230
担当教員	衣川 修平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マネジメントアカウンティング, コスト, 配賦

授業の概要

主に製造業において、製品を作る場合、製品の種類も多種多様であり、製造工程も複雑であり、またヒトやモノも複数の製品や複数の工程、部門に複雑に関与しています。中、上級の工業簿記では、このような複雑性に対応した、工業簿記システムを構築することで、会計数値の側面から、コントロールとマネジメントを試みます。本講義では、これらの中、上級の工業簿記の計算システムを、問題演習によって実際に電卓をたたいて計算しながら、身につけていくものとします。

原価計算入門に引き続き、本講義でも、電卓を叩いて、叩いて、叩きまくります。

勇者は雄々しく剣で戦うが、賢者は電卓で戦う。

到達目標

1	本講義では、企業会計で学んだ初等工業簿記の知識を前提として、中・上級の工業簿記を学ぶ。中・上級の工業簿記を学ぶことによって、主に製造業における生産活動のコントロールと、その組織をマネジメントするための実践的な能力を身につけるものとします。
---	---

教授方法

講義。随時、電卓を使った問題演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

原価計算入門を履修していること、ないし原価計算の基礎を習得している者。

授業計画

1	工業簿記の現代的意義とその歴史的展開
2	単純個別計算
3	部門別個別計算
4	単純総合計算
5	工程別総合計算
6	組別総合原価計算
7	個別原価計算
8	標準原価計算
9	工程別標準原価計算
10	標準原価差異
11	CVP分析
12	直接原価計算
13	品質原価計算
14	セグメント別損益計算

授業外における学習

問題集を指定するので、それを解いてください。

質問や相談への対応

講義中にオフィスアワーを指定します。メールでの質問も随時受け付けます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
正規試験（筆記）	80	定期試験では点数で評価したうえで、講義全体の理解度を勘案して評価する。
小テスト	20	講義内容を修得したかどうか、3回に一度ほど、小テストを行う。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	随時指定します。			
	岡本清著『原価計算』国元書房 廣本敏郎・挽文子著『原価計算論』中央経済社 岡本清・廣本敏郎(編集)『検定簿記ワークブック/1級工業簿記・原価計算(上・下)』中央経済社			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

会計科目は問題を解かない限り身に付きません。一緒に電卓をたたきまくりましょう。

その他・特記事項

Email: kinugawa.shuheit★u-nagano.ac.jp

管理会計Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:53:49

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3240A	科目コード	G3240
担当教員	宗像 智仁						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マネジメント・コントロール、コスト・マネジメント、予算管理、BSC

授業の概要

企業内部で扱う会計のことを管理会計といい、これは企業が経済活動を行う上で欠かせないものである。この授業では、管理会計の体系である業績評価会計と意思決定会計にもとづいて、管理会計に関する基礎的な理論や概念、手法を網羅的に学んでいくとともに、それが実際にどのような場面で使用され、どのようなことに役立っているのかについての理解を深めていく。

到達目標

1	①管理会計についての基礎的な考えを理解できるようになる。
2	②授業で学習した具体的な管理会計手法や概念について自分自身の言葉で説明できるようになる。

教授方法

講義形式（オンライン）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

管理会計Ⅰ、特に原価計算入門の履修が望ましい

授業計画

1	管理会計の基礎
2	短期利益計画の策定
3	企業予算の編成
4	標準原価管理
5	業績評価マネジメント
6	事業部制会計
7	意思決定とコスト情報
8	投資意思決定のためのキャッシュ・フロー管理会計
9	品質管理のための会計システム
10	原価企画
11	環境管理会計
12	ABC/ABM
13	BSC
14	授業内定期試験

授業外における学習

- ①毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ②苦手な分野の克服に向けて努力をする。
- ③関連科目で学んだを復習したうえで、授業に参加する。

質問や相談への対応

基本的には講義終了後に質問・相談等を受け付ける。

なお、メールにて問い合わせいただければ、時間等を調整のうえ柔軟に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	基礎知識の理解度に応じて評価する。

小テスト	20	小テストを行い、理解度に応じて評価する。
上記以外の授業評価	20	授業中の練習問題の成果や宿題の提出状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	本授業では配付するレジюмеとスライドを使用する。			
	毎回の講義の終了時に内容に応じた参考書、参考資料について案内する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業はすべてオンラインでの実施となります。各個人、オンラインでの受講の利点を最大限活かしつつ、課題提出など最低限やることはやるようにしてください。

その他・特記事項

特になし

財務会計入門

更新日：2023/01/10 08:52:48

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G3250A	科目コード	G3250
担当教員	衣川 修平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

複式簿記 会計 個別分野

授業の概要

会計はビジネスの言語であり、複式簿記という世界共通の情報処理技術によって記録・計算されうえで、利害関係者に報告されます。このような会計は、私的企業だけでなく、官庁やNPOといった非営利法人でも利用され、またGDP計算の基礎ともなります。

本講義では中級・上級簿記の処理を徹底的に勉強します。

本講義では、電卓を叩いて、叩いて、叩きまくりです。
勇者は雄々しく剣で戦うが、賢者は電卓で戦う。

到達目標

1	①中上級簿記を理解する。
2	②簿記によって作成した会計数値の意味を理解する。
3	③アカウンティング・マインドを養成する。

教授方法

オンラインないし対面による講義と演習をミックスした形式でおこなう。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

アカウンティング入門と簿記システム論（日商3級程度の簿記）の内容をマスターしていること。

授業計画

1	再論：簿記と会計とは何か。そして仕訳の基礎の復習
2	有形固定資産の処理①ー減価償却と減損ー
3	有形固定資産の処理②ー減価償却と減損ー
4	有形固定資産の処理③ー減価償却と減損ー
5	リース会計①ー借りたのか買ったのかー
6	リース会計②ー借りたのか買ったのかー
7	退職給付会計①
8	退職給付会計②
9	金融商品会計①
10	金融商品会計②
11	金融商品会計③
12	連結会計①
13	連結会計②
14	会計基準の国際的統一とこれからの会計人

授業外における学習

宿題を多く出します。必ず自分で解いてください。まれに友達のを写して出す人がいますが、宿題を出さなくても評価上マイナスにはなりませんので、そういう人は提出しないでください。簿記は自分で解かない限り、マスターできません。

質問や相談への対応

メールで随時質問すること

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

テスト	80	
宿題と発言	20	提出回数と発言回数
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	穴埋めプリントを配布する			
	適宜指示			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

簿記は解かない限りマスターできません。狂ったように電卓をたたいて計算してください。その代わり、手を使って計算しまくれば、だれでもマスターできます。

その他・特記事項

本講義は日照1級の個別分野、2級の範囲の連結などを取り扱います。

経営分析

更新日：2023/01/10 08:53:49

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3270A	科目コード	G3270
担当教員	金藤 正直						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）、実数分析と比率分析、環境経営分析

授業の概要

経営分析は、企業が作成し、公表する財務諸表からの情報やその他経営関連の情報を用いて指標化し、当該企業の経営状態を明らかにしていくための手法である。本講義では、財務諸表の特徴と仕組みを解説した後、経営分析の必要性や、実践的に利用されている経営分析の各種手法（第1回から第10回）について学習する。その後、これまでの講義内容をもとに、現在も企業で実施されている環境経営のための会計（環境会計）とその情報を活用した分析方法（第11回から第13回）についても学習する。

到達目標

1	本講義では、受講生が、企業が実際に作成し、公表している財務諸表における各種情報とともに、環境経営またはサステナビリティ経営に役立つ会計情報を、「読んで理解できる」や「分析できる」ことだけでなく、分析結果を用いて経営状態を「評価できる」ことも目指す。
---	--

教授方法

オンラインによる講義方式で実施するが、適宜参加型（双方向型）形式も取り入れて進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経営学や簿記・会計の基礎を修得または理解していることが望ましい。

授業計画

1	イントロダクション 経営分析の目的
2	財務諸表の仕組み①-貸借対照表の特徴と仕組み-
3	財務諸表の仕組み②-損益計算書の特徴と仕組み-
4	財務諸表の仕組み③-キャッシュ・フロー計算書の特徴と仕組み-
5	経営分析の方法①-企業における経営分析の必要性と各種方法-
6	経営分析の方法②-実数分析の方法-
7	経営分析の方法③-比率分析（安全性分析）の方法-
8	経営分析の方法④-比率分析（収益性分析）の方法-
9	経営分析の方法⑤-実数分析の方法を用いたケーススタディ-
10	経営分析の方法⑥-比率分析の方法を用いたケーススタディ-
11	環境経営分析の方法①-環境経営と環境会計-
12	環境経営分析の方法②-環境会計情報の分析方法-
13	環境経営分析の方法③-ケーススタディ-
14	講義のまとめ-第13回までの学習内容の整理-

授業外における学習

本講義は、今後の活動（ゼミ活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎・基本も身に付けてもらうために、配布資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけでなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。

質問や相談への対応

受講生からの意見や要望などについては、電子メールで随時対応します。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

小テスト	50	Googleフォームなどを活用した理解度テストの実施や事例分析・検討ペーパーの提出
授業レポート	50	小テストの内容をもとにしたレポート課題の提出
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	印刷物を配布します。			
	講義中に紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本講義は、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきますので、積極的に意見や質問をしてください。

その他・特記事項

特になし。

金融論

更新日：2023/01/10 08:52:49

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	G3280A	科目コード	G3280
担当教員	永田 邦和						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

貨幣, 金利, 金融政策, 金融システム

授業の概要

金融論は、経済における資金の循環を、制度や歴史、政策の観点から研究している。情報通信技術の発展により、瞬時に大規模な資金が国境を越えて取引されるようになり、ある国の金融危機が世界中に波及するようになった。金融業界の現状のみならず、日本や企業を取り巻く経済状況を理解するためにも、金融論の知識が必要になる。

本講義では、グローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎知識や予備知識の修得を目指し、貨幣や金利、金融機関、金融市場、金融政策等の金融論の基礎知識を学習する。

到達目標

1	本講義では、貨幣や金利、金融機関、金融市場、金融政策等に関する知識を身に付け、金融関係のニュースや出来事の背景を考察し、日本や世界の金融の現状のみならず、日本経済や企業を取り巻く経済状況を理解できるようにする。これらの知識は、今後のグローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎的・予備的知識である。
---	---

教授方法

講義形式。対面で行う予定であるが、受講者が多い場合、オンラインに変更する。授業では、キーワードを空欄にした資料を配付するので、説明を聞いてキーワードを記入すること。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

総合教育の経済学入門、専門教育のファイナンス入門、ミクロ経済学、マクロ経済学を受講していると、授業内容を理解しやすい。

授業計画

1	ガイダンス・金融論で何を学ぶか
2	貨幣（1）：貨幣の機能と定義
3	貨幣（2）：新しい決済手段
4	金利（1）：金利の概念と決定要因
5	金利（2）：利子率と債券、金利の期間構造
6	金利（3）：金利の期間構造、金融市場
7	金融政策のためのマクロ経済学（1）：基本モデル
8	金融政策のためのマクロ経済学（2）：金融政策の効果
9	金融政策の課題と日本銀行（1）：金融政策の目的と中央銀行の独立性
10	金融政策の課題と日本銀行（2）：日本の金融政策
11	金融政策の基本手段と新しい展開（1）：マクロ金融政策の政策手段
12	金融政策の基本手段と新しい展開（2）：非伝統的金融政策
13	金融システムと金融仲介機関の役割（1）：金融システムと金融仲介機関の機能
14	金融システムと金融仲介機関の役割（2）：金融システムと金融仲介機関の現状

授業外における学習

授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では教科書のレベルを超える内容も取り上げるので、授業後には、教科書とノート等でしっかりと復習すること。

質問や相談への対応

リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。質問には次回の授業で回答する。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。オンライン形式の場合、授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

定期試験（筆記試験）	50～70	金融論の基礎理論の理解度に応じて評価する
小テスト（または、授業中や授業後の問題演習）	20～50	進捗状況に応じて2回～3回小テストを行い、理解度に応じて評価する。オンライン形式の場合、授業中や授業後の問題演習に変更する可能性もある。
授業レポート	0	
上記以外の授業評価	0～20	宿題を課すこともある。その場合、宿題の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	家森信善（2022）『金融論』（第3版），中央経済社。教科書に載っていない内容については，資料を配付する。			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

教科書のレベルを越える内容も扱うので，参考書・参考資料等を読んだり，図書館で関連文献を探したりすること。

その他・特記事項

受講生の理解度や進捗状況に応じて授業計画と成績評価等を変更する。オンライン形式になった場合，教授法や成績評価等を変更する。

コーポレート・ファイナンスⅠ

更新日：2023/01/10 08:54:13

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G3290A	科目コード	G3290
担当教員	小西 大						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

コーポレートファイナンス、アセットプライシング、証券投資

授業の概要

この講義ではコーポレート・ファイナンス（企業財務、企業金融ともいいます。）を理解するために必要な基本概念やアセット・プライシング（資産価格の決定に関する考え方）について学習します。

到達目標

1	アセット・プライシングの基礎をしっかりと学習することで、日本経済新聞のマーケット総合面掲載記事の内容や証券投資の基礎を理解できるようになることが目標です。また、3学期に開講されるコーポレートファイナンスⅡを理解する上で必要な基本知識を習得することも目的です。
---	---

教授方法

事前に配付する講義資料に基づきパワーポイントを用いて講義します。リモート（録画講義の配信）と対面の両方の講義になります。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	ガイダンス： 授業の概要、目標、成績評価方法、その他注意事項について説明する。
2	会社の目的： 会社の目的に関するファイナンスの考え方と現実の企業の目的について説明する。
3	情報の経済学と金融（1）： モラルハザード・逆選択について説明する。モラルハザード・逆選択の解決方法を、マイクロファイナンス（貧困からの脱却を助ける金融サービス）を例に説明する。
4	情報の経済学と金融（2）： モラルハザード・逆選択について説明する。モラルハザード・逆選択の解決方法を、マイクロファイナンス（貧困からの脱却を助ける金融サービス）を例に説明する。
5	現在価値（1）： 現在価値の概念を説明した上で、応用例として株価や債券価格（理論価格）の求め方について説明する。
6	現在価値（2）： 現在価値の概念を説明した上で、応用例として株価や債券価格（理論価格）の求め方について説明する。
7	市場の効率性（1）： 市場の情報効率性に関する3つの概念について説明する。市場が効率的ではないことを示唆する現象を紹介する。
8	市場の効率性（2）： 市場の情報効率性に関する3つの概念について説明する。市場が効率的ではないことを示唆する現象を紹介する。
9	中間試験 ※試験の模範解答および解説は映像配信で行います。
10	証券投資： 株式、債券（社債や国債）、投資信託などの投資対象について説明する。
11	ポートフォリオ理論の基礎（1）： 分散投資のメリットを平均・分散アプローチに基づき説明する。
12	ポートフォリオ理論の基礎（2）： 分散投資のメリットを平均・分散アプローチに基づき説明する
13	ポートフォリオ理論の基礎（3）： 分散投資のメリットを平均・分散アプローチに基づき説明する
14	資本資産評価モデル： リスク証券の価格がどのように決まるか説明する。

授業外における学習

復習は必須です。復習で不明な点があったら、講義映像の該当部分を再度視聴するかメールで質問して下さい。また、対面講義の終了後にも質問の時間を設けます。

質問や相談への対応

リモート講義に関する質問はメールで受け付けます。対面講義に関する質問は講義終了後に受け付けます。3限講義終了後には質問の時間を設けます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40	試験の得点
期末試験	40	試験の得点
講義への参加状況	20	毎回の講義に対する感想に基づき参加状況を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は指定しません。講義資料を用います。			
	参考図書は第1回講義で紹介します。また、講義中にその都度紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

コーポレートファイナンス、アセットプライシングは現実と深く関連する学問分野です。新聞の経済面や金融面を読み、現実に行き起きている様々な現象に関心を持つように心がけて下さい。

その他・特記事項

期末試験は試験期間に実施する予定です。

なお、コロナ感染症の状況次第では、対面による試験の代わりにレポートで評価する可能性もあります。

コーポレート・ファイナンスⅡ（応用）

更新日：2023/01/10 08:54:14

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3300A	科目コード	G3300
担当教員	小西 大						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

財務戦略、資金調達、利益還元、コーポレートガバナンス

授業の概要

企業価値を高めるための財務戦略について講義します。資金調達（株式や社債の発行、銀行借入など）、利益還元（配当など）、設備投資の意思決定などを中心に説明します。また、財務戦略の有効性を高めるためのコーポレートガバナンス（企業統治）のあり方についても説明します。

到達目標

1	企業の財務戦略に関する基本的内容を理解し、日本経済新聞の投資情報面や『東洋経済』、『エコノミスト』などの経済誌掲載記事を理解し批判的に読めるようになることが到達目標です。
---	---

教授方法

事前に配付する講義資料に基づきパワーポイントを用いて講義します。講義は全てリモートです。講義日に講義映像を配信します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。コーポレートファイナンスⅠを履修済みであることが望まれます。

授業計画

1	ガイダンス： 授業の概要、目標、成績評価方法、その他注意事項について説明する。
2	設備投資の意思決定： 投資実行の可否を判断するための意思決定基準について説明する。
3	資本コスト（1）： 株主資本コスト、負債資本コスト、加重平均資本コストなどの概念について説明する。
4	資本コスト（2）： 株主資本コスト、負債資本コスト、加重平均資本コストなどの概念について説明する。
5	資金調達： 株式や社債の発行、銀行借入などの様々な資金調達方法について説明する。
6	資本構成（1）： 最適な資本構成（負債による調達割合）に関する考え方について説明する。
7	資本構成（2）： 最適な資本構成（負債による調達割合）に関する考え方について説明する。
8	資本構成（3）： 最適な資本構成（負債による調達割合）に関する考え方について説明する。
9	株式公開： 株式市場に公開する理由や株式公開の手続き、公開価格の決定方法について説明する。
10	利益還元政策： 配当や自社株買いを通じた株主に対する利益還元方法について説明する。
11	コーポレートガバナンス（1）： 報酬制度や取締役会を通じたコーポレートガバナンスについて説明する。
12	コーポレートガバナンス（2）： 報酬制度や取締役会を通じたコーポレートガバナンスについて説明する。
13	リスクマネジメント： マーケットリスクを中心に説明する。
14	まとめ： 講義全体をまとめる。

授業外における学習

復習は必須です。評価対象とはしない課題を出すことがあります。しっかり取り組んでください。

質問や相談への対応

質問は基本的にメールで受け付けます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
第1回レポート	40%	評価基準の詳細は講義中に説明する。
第2回レポート	40%	評価基準の詳細は講義中に説明する。
出席	20%	講義の感想の提出をもって「出席」と判断する。提出方法・提出期限等の詳細は第1回講義で説明する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は指定しません。講義資料を用います。			
	参考図書は第1回講義で紹介します。また、講義中にその都度紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

コーポレートファイナンスは現実と深く関連する学問です。新聞の経済面や金融面を読み、現実に行き起きている様々な現象に関心を持つように心がけて下さい。

その他・特記事項

リモート講義特有のわかりにくさもあると思います。分からないときはメールで問い合わせてください。

第1回講義のガイダンスは必ず視聴して下さい。

大学が定める出席回数を下回る場合は、レポートの評価によらず不合格になります。

金融システム論

更新日：2023/01/10 08:53:38

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	G3310A	科目コード	G3310
担当教員	永田 邦和						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

情報の非対称性, 金融仲介機関, 金融市場

授業の概要

金融システムは金融機関と金融市場から構成され、金融取引を円滑にし、最適な資金（資源）配分を実現する機能を果たしている。近年の金融自由化や情報通信技術の発展により、金融システムはより効率的になったが、金融危機が生じやすくなった。金融危機により、金融システムが機能しなくなると、企業部門への資金の移転が滞り、経済が不況に陥る。金融システムの効率性と安定性を確保することは非常に難しい問題になった。

本講義では、金融システムに関する理論研究や実証研究を取り上げ、金融システムの機能を制度や歴史、政策の観点から学習する。

到達目標

1	本講義では、銀行や金融市場の概要と機能、金融危機、金融規制に関する知識を身に付け、金融システムに関するニュースや出来事の背景を考察し、日本や世界の金融の現状を理解できるようにする。
---	--

教授方法

講義形式。対面で行う予定であるが、受講者が多い場合、オンラインに変更する。授業では、キーワードを空欄にした資料を配付するので、説明を聞いてキーワードを記入すること。授業中に、課題を解く演習時間を設ける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ファイナンス入門と金融論、コーポレートファイナンスⅠ・Ⅱ、ミクロ経済学、マクロ経済学を履修していると、講義内容を深く理解できる。

授業計画

1	ガイダンス
2	金融取引と金融システムの機能（1）
3	金融取引と金融システムの機能（2）
4	金融取引における情報の非対称性（1）：逆選択
5	金融取引における情報の非対称性（2）：モラルハザード
6	銀行の情報生産機能（1）
7	銀行の情報生産機能（2）
8	銀行の流動性供給機能（1）
9	銀行の流動性供給機能（2）
10	ゲーム理論
11	銀行取付
12	決済システム
13	銀行中心システムと市場中心システムの比較
14	バブルと金融危機、金融規制

授業外における学習

授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では、教科書を超えるレベルの内容も取り上げるので、授業後には、教科書やノート等で復習すること。

質問や相談への対応

リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。質問には次回の授業で回答する。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。オンライン形式の場合、授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記試験）	50～70	金融システム論に関する基礎理論の理解度に応じて評価する。
小テスト	0～30	進捗状況に応じて2回～3回小テストを行い、理解度に応じて評価する。

授業レポート	0	
上記以外の授業評価	0~50	宿題。宿題の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	資料を配付する。			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

教科書のレベルを越える内容も扱うので、参考書・参考資料等を読んだり、図書館で関連文献を探したりして、しっかりと自習すること。

その他・特記事項

受講生の理解度や進捗状況に応じて授業計画や成績評価等を変更する。また、オンライン形式になったときには、教授方法や成績評価等を変更する。

国際交通観光ビジネス入門

更新日：2023/01/10 08:52:49

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G3320A	科目コード	G3320
担当教員	森本 全						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

—

授業の概要

日本の民間航空の概要を理解する

到達目標

1	①民間航空の基礎知識の習得②航空会社の経営状況の分析
---	----------------------------

教授方法

講義と小テストを取り混ぜる

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	ガイダンス 観光とその歴史
2	航空の歴史と日本のエアライン
3	エアラインの仕事と組織
4	エアラインの規模と経営
5	1日目のまとめと小テスト
6	空港について学ぶ
7	LCCが変える空の旅
8	マイレージとアライアンス
9	ビジットジャパン
10	2日目のまとめと小テスト
11	サービスとおもてなし
12	CSR・ESG・SDG'S-1
13	CSR・ESG・SDG'S-2
14	まとめ

授業外における学習

ANA・JALの統合報告書を各HPで一読しておく

質問や相談への対応

質問は随時受け付ける

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト1	10	第1回小テスト評点
小テスト2	20	第2回小テスト評点
定期試験	40	定期試験評点
レポート	30	レポート評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

活気のある双方向授業にしたいと思います

その他・特記事項

なし

産業組織論

更新日：2023/01/10 08:52:50

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3330A	科目コード	G3330
担当教員	穴山 悌三						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ミクロ経済学、ゲーム理論、産業分析

授業の概要

産業組織論は、ミクロ経済学やゲーム理論などを分析用具として、理論と実証の両面から産業・企業の構造や行動を明らかにして、経済厚生や政策を論じる実践的な学問です。本授業では、伝統的な産業組織論から現代に至るまでの基礎的な理論とそれらの理論の応用とを、豊富な具体的事例を交えて学びます。主なテーマは、独占や寡占における企業行動や企業間関係、企業の戦略的行動と市場支配力、電力や電気通信等のネットワーク産業の特質と競争政策などです。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施します。担当教員は、企業等における産業組織の分析に係る実務経験を有しており、事例を交えた考察を通じて実務に応用可能な基礎的能力を習得させます。

英語表記「Industrial Organization」

到達目標

1	授業では、産業組織論の基本的な理論と実証の考え方を学び、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析の枠組みについて理解を深めます。本科目を履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を分析する力が身に付きます。また主に経済厚生観点から政策を評価し、関連するテーマについて自分の意見を言えるようになります。
---	--

教授方法

主にパワーポイントを用いた授業を行います。第1回はすべてオンデマンド形式です。学務ポータル「おしらせ」欄の指示に従ってください。何らかの事情で学務ポータルが見られない方は、第1回授業開始前に穴山へメール連絡ください。第2回授業以降は原則として対面授業で実施予定ですが、その後のCOVID-19の状況等により変更の可能性がありますので、学務ポータルのおしらせを見逃さないように注意してください。第1回授業で授業のガイダンスを実施します。第9回授業では各自のレポート（4000～6000字程度、テーマや書き方等は第2回授業で指示します）を元にプレゼンテーションと討議を実施します。適宜Forms等へのオンライン入力回答を求めます。各自の回答内容は授業でフィードバックするなど、積極的に双方向のコミュニケーションを図ります。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ミクロ経済学を履修していることが望ましく、また、簡単な微分等の計算やゲーム理論に関する基礎知識があれば授業理解に有用です。ただし講義中に適宜解説を加えるため、自習をきちんと行えばこれらは必須ではありません。

授業計画

1	9/26	（すべてオンデマンド形式で実施）イントロダクション；産業組織論の基本構造（目的、対象、方法、系譜、意義と課題）
2	9/28	理論の基礎（1）－ミクロ経済学の基礎知識（需要と供給、市場均衡、消費者余剰と生産者余剰）
3	10/3	理論の基礎（2）－ゲーム理論の基礎知識（非協力ゲーム、ナッシュ均衡）
4	10/5	独占企業の行動（利潤最大化、完全競争市場との比較）、理論の基礎のまとめ
5	10/10	伝統的な基礎概念（1）－市場構造（市場集中、参入障壁、コンテスト市場）
6	10/12	伝統的な基礎概念（2）－産業の利潤と効率性（構造－行動－成果分析、価格費用マージン、X非効率、動態的効率性）
7	10/17	寡占企業の行動（クールノー・モデル、ベルトラン・モデル、シュタッケルベルク・モデル、参入阻止）
8	10/19	企業間関係（プライス・リーダーシップ、カルテル、暗黙の協調、合併・買収・事業提携、垂直的統合と垂直的制限）
9	10/26	ケース・スタディとプレゼンテーション（各自がテーマを選んで報告・討議）
10	10/31	製品差別化（製品差別化の種類、差別化製品市場での独占的競争、「ロケーション」・モデル）
11	11/2	情報と広告（情報の非対称性、探索費用、経験財、広告の種類、広告と経済厚生）
12	11/7	価格・マーケティング戦略（価格差別、非線型料金、抱き合わせ、アップグレード、ディーラーシップ）
13	11/9	研究開発と知的財産（イノベーション・研究開発のインセンティブと経済厚生、ネットワーク外部性、規格・標準化競争）
14	11/14	ネットワークと競争（ネットワーク産業の特質、スイッチング・コスト、プラットフォーム、ネットワーク産業の競争政策）

授業外における学習

事前学習については、リーディング・アサインメントで少なくとも1週間前の講義時に必読文献と参考文献とを指定するので該当部分を読んでください（準備学習の目安は各120分程度）。事後学習については、オンラインで出されるクイズや課題に取り組んでください。理解を深めるために各人が積極的に取り組むことを期待しています。

質問や相談への対応

授業中はもちろん、メール等での質問等を歓迎します。また感想・質問等については全てに目を通した上でオンライン形式等で適宜フィードバックを行いますので積極的に活用してください（詳細は第1回授業で説明します）。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	30	オンライン入力回答等の平常点を評価します。評価基準は、標準的な理解・記述は100点満点中70～79点、応用力が認められれば同80点以上、授業が概ね理解できていれば同60～69点です。
授業レポート	20	第9回授業で発表するレポートを評価します（配点20点）。評価基準は、独自性のあるものが20点満点、一通り調べてあるものが10点です。報告・討議における優秀な発表や意見があれば適宜加点します。
期末試験	50	論述式の期末試験で評価します。評価基準は、標準的な理解・記述は100点満点中70～79点、応用力が認められれば同80点以上、授業が概ね理解できていれば同60～69点です。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		本授業は特定の教科書は用いません。			
		参考書として次を指定するので各人のレベルと必要に応じて自習に用いてください。一部の内容は講義で説明します。 ◆井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治 [2010]、『入門・産業組織』、有斐閣。(ISBNコード:978-4-6411-6341-6) ◆小田切宏之 [2019]、『産業組織論 理論・戦略・政策を学ぶ』、有斐閣。(ISBNコード:978-4-6411-6553-3) ◆石橋孝次 [2021]、『産業組織 理論と実証の接合』、慶応義塾大学出版会。(ISBNコード:978-4-7664-2763-9) ◆岡田			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

デジタル化が進む中、GAFAなどのプラットフォーマーの興隆やビジネスモデルの変化等によって、これまでの産業の境界が曖昧化しています。混沌とした時代であればあるほど、授業で学ぶ基本を応用し、問題解決を考え抜くことが新たな価値の創出につながります。好奇心を持って、積極的にチャレンジしてください。

その他・特記事項

各回のテーマや内容等は授業の進捗等に応じて一部変更することがあります。また今後の社会情勢等によっては本シラバスの内容に変更が生じる可能性がありますので、大学からの連絡等に注意してください。

産業組織論の扱うテーマは他の学問領域とも広範に関わっています。理論的分析の基礎となるミクロ経済学、ゲーム理論、数理統計学はもとより、ビジネス・エコノミクス、規制の経済学、公共経済学Ⅰ、経営学のマネジメントやマーケティングの戦略論などとも関連を持ちます。これらの科目と併せて学ぶことで、より一層豊かな知識や応用力を得ること

公共経済学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:53:27

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	G3340A	科目コード	G3340
担当教員	穴山 悌三						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ミクロ経済学、ゲーム理論、政策科学、公共選択、マクロ経済学、日本経済論、財政学

授業の概要

公共経済学は、ミクロ経済学やゲーム理論などを分析用具として、理論と実証の両面から政府の役割や公的関与の手段等を明らかにして、経済厚生や政策のあり方を論じる実践的な学問です。本授業では、公共経済学の分野で一般的に用いられる基礎的な理論とそれらの理論の応用とを、豊富な具体的事例を交えて学びます。主なテーマは、厚生経済学のアプローチ、市場の失敗、課税等の公的関与、そして地域の課題などを含む現代の諸課題に関するケース・スタディなどです。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施します。担当教員は、公益事業における実務経験を有しており、事例を交えた考察を通じて実務に応用可能な基礎的能力を習得させます。

英語表記「Public Economics」

到達目標

1	授業では、公共経済学の基本的な理論と実証の考え方を学び、様々な政策の諸課題とそれに対するアプローチについて理解を深めます。本科目を履修することにより、社会的に重要な公的諸課題について主として経済学的な観点から分析する基礎力が身に付きます。また主に経済厚生観点から政策を評価し、関連するテーマについて自分の意見を言えるようになります。
---	--

教授方法

主にパワーポイントを用いた授業を行います。第1回はすべてオンデマンド形式です。学務ポータル「おしらせ」欄の指示に従ってください。何らかの事情で学務ポータルが見られない方は、第1回授業開始前に穴山へメール連絡ください。第2回授業以降は原則として対面授業を予定していますが、社会情勢等に鑑みてオンライン実施と併用するなど、変更する可能性があります。学務ポータルのおしらせを見逃さないように注意してください。第1回授業で授業のガイダンスを実施します。第10回授業では各自のレポート（4000～6000字程度、テーマや書き方等は授業開始後に指示します）を元にプレゼンテーションと討議を実施します。適宜Forms等へのオンライン入力をお願いします。各自の回答内容は授業でフィードバックするなど、積極的に双方向のコミュニケーションを図ります。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ミクロ経済学を履修済であること、ないし履修済と同等の知識を有していること。

授業計画

1	6/8 イントロダクション（本授業の狙いと概要）
2	6/13 厚生経済学のアプローチ（1）—効率性（効率的な消費と生産、パレート最適、エッジワース・ボックス）
3	6/15 厚生経済学のアプローチ（2）—一般均衡（バーゲニング、均衡の性質、応用例）
4	6/20 市場の失敗（1）公共財（公共財とは、最適条件、メカニズム・デザイン）
5	6/22 市場の失敗（2）外部性（外部性とは、内部化、コースの定理）
6	6/27 市場の失敗（3）不確実性・情報の非対称性（リスク、モラルハザード、社会保険）
7	6/29 公的関与（1）課税・補助金（課税・補助金の経済効果、税の帰着と負担）
8	7/4 公的関与（2）社会保障・再分配政策（不確実性と期待効用、再分配と効率性）
9	7/6 公的関与（3）経済・財政政策（公共投資、技術開発政策、成長戦略）
10	7/11 ケース・スタディとプレゼンテーション（各自がテーマを選んで報告・討議）
11	7/13 政策評価の視点（政策決定プロセス、評価手法、EBPM）
12	7/18 ケース・スタディ（1）地域の諸課題（地方財政、地方創生）
13	7/20 ケース・スタディ（2）官民連携（PPP、PFI）
14	7/25 ケース・スタディ（3）公益事業の諸課題（公共料金、DXと公益事業）

授業外における学習

事前学習については、必要に応じてリーディング・アサインメントで少なくとも1週間前の授業時に必読文献と参考文献とを指定するので該当部分を読んでください（準備学習の目安は各120分程度）。事後学習については、オンラインで出されるクイズや課題に取り組んでください。理解を深めるために各人が積極的に取り組むことを期待しています。

質問や相談への対応

授業中はもちろん、メール等での質問等を歓迎します。また感想・質問等をオンライン入力に記入してもらいます。全てに目を通した上で適宜フィードバック等を行いますので積極的に活用してください（詳細は第1回授業で説明します）。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	20	授業中の発言、オンライン出題への回答等を評価します。評価基準は、標準的な理解・記述は100点満点中70～79点、応用力が認められれば同80点以上、授業が概ね理解できていれば同60～69点です。
授業レポート	30	第10回授業で発表するレポートを評価します。評価基準は、独自性のあるものが20点満点、一通り調べてあるものが10点です。授業中の発表に対しては別途外枠で加点します。
期末試験	50	論述式の期末試験で評価します。評価基準は、授業の例題レベルの問題が解ければ100点満点中70～79点、応用問題が解ければ同80点以上、授業内容が概ね理解できていれば同60～69点とします。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	本授業は特定の教科書は用いません。			
	<p>公共経済学のテキストとしてたとえば以下があります。各自関心等に応じて自習に用いてください。一部の内容は授業で説明します。その他の参考文献等は授業中に提示します。</p> <p>◆伊藤隆敏 [2017], 『公共政策入門 ミクロ経済学的アプローチ』, 日本評論社. (ISBN: 978-4-535-55875-5)</p> <p>◆小塩隆士 [2016], 『サビエンティア 公共経済学』, 東洋経済新報社. (ISBN: 978-4-492-31473-9)</p> <p>◆佐藤主光 [2017], 『公共経済学15講』, 新世社. (ISBN: 978-4-</p>			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

公共経済学が扱うテーマには社会的に耳目を集める諸課題が多く含まれています。授業中に指名して意見を求めますので、日ごろから問題意識を持って自分の意見を言えるようにしておきましょう。

その他・特記事項

各回のテーマや内容等は授業の進捗等に応じて一部変更することがあります。また今後の社会情勢等によっては本シラバスの内容に変更が生じる可能性がありますので、大学からの連絡等に注意してください。

公共経済学の扱うテーマは他の学問領域とも広範に関わっています。理論的分析の基礎となるミクロ経済学、ゲーム理論、数理統計学はもとより、規制の経済学、ビジネス・エコノミクス、地方財政論、社会保障論、医療経済学、環境経済学などとも関連を持ちます。これらの科目と併せて学ぶことで、より一層豊かな知識や応用力を得ることが期待できます。

公共経済学Ⅱ（航空政策）

更新日：2023/01/10 08:53:28

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G3350A	科目コード	G3350
担当教員	中条 潮						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

経済学 市場の失敗 航空輸送 空港

授業の概要

「公共経済学Ⅰ」における「市場の失敗・欠落」要因の理論的検討は、どの財についても適用できるものであり、すべての政策立案はそれに沿ってなされることが求められます。

本講義では、その具体的例として航空市場をとりあげ、「公共経済学Ⅰ」における理論的検討を航空市場に適用した場合の具体的な政策のありかたを示すことによって、他の政策においても同様のステップで議論の展開が可能となることを示します。

したがって、本講義の目的は、航空政策そのものを論じることにはありません。公共政策の事例として航空市場を取り上げるのだという点を理解してください。

また、本講義では、講義内容を理解するうえで必要な場合には、航空会社の経営の問題についても言及しますが、本来の目的は、社会全体の利益の視点から政策論を展開することにあるという点も理解してください。

到達目標

1	「公共性（市場の失敗）」ゆえに政策介入がなされ易い一例として航空市場をとりあげ、市場メカニズムの機能と市場の失敗の理解およびそれを適用しての基礎的な政策評価能力の具体的醸成を図ることを目的とします。教科書の範囲内の理解が得られれば合格とします。
---	--

教授方法

2コマ続きの2×7日の講義となりますので、注意してください。

昨年まで私の担当であった「公共経済学Ⅰ」よりはリラックスして聞ける内容で話しますが、しよせん、講義は講義。退屈さは覚悟してください。余裕があれば授業中に発言や質問を促すこともあるかもしれません。

この授業の実施方法は、オンラインのライブでの講義を主体とします。ただし、Covid-19の状況次第で、対面の授業をする可能性もあります。対面授業の場合も、オンライン授業と同様の形態で教室で授業をしますので、PCとヘッドセットを持参して授業に臨んで

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

『経済学入門Ⅰ』、『ミクロ経済学』、『公共経済学Ⅰ』の内容を理解しているとの前提で授業を行います。

授業計画

1	開題 本講義の目的～航空分野における社会全体の利益の最大化～ 航空概観
2	I. 航空サービスの需要特性概観
3	II. 航空サービスにおける市場の失敗（1）
4	II. 航空サービスにおける市場の失敗（2）
5	III. 航空自由化政策の流れ 1. 規制緩和政策の経緯
6	III. 航空自由化政策の流れ 2. オープンスカイの進展
7	IV. 航空輸送事業の経営課題と政策課題 1. LCCの攻勢
8	IV. 航空輸送事業の経営課題と政策課題 2. 日本におけるLCCの発展可能性
9	IV. 航空輸送事業の経営課題と政策課題 3. 既存大手航空会社の反撃～LCの経営戦略～
10	IV. 航空輸送事業の経営課題と政策課題 4. 幻想から覚めたか日本航空
11	V. 空港経営と空港政策の課題 1. 空港整備運営に関する誤解
12	V. 空港経営と空港政策の課題 2. 空港民営化の課題
13	補論：航空輸送の発展史からみる航空政策の現代的課題 1
14	補論：航空輸送の発展史からみる航空政策の現代的課題 2

授業外における学習

事前学習：教科書およびポータルにupされた授業のレジュメ（教科書+α）を読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。
 事後学習：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば、自分で調べること。

質問や相談への対応

質問は、なるべく、授業中をお願いします。
 なお、上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとっていただければ可能な限り対応します。

成績評価

共通の評価基準	(全学共通) 【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。 ただし、これを読んでもなんの手がかりにもならないと思いますので、授業で具体的な基準を話します。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（4学期末に1回だけ実施）の予定ですが、Covid19次第で複数回のレポートに変更の可能性もあり得ます）	100	授業内容を50%理解していれば合格点を与えます。応用能力は求めません。 なお、Covid-19の影響により対面のテストが不可能な場合は別の手段（レポート等）による可能性もあります。
小テスト	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらかじめ指示します。
レポート	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらかじめ指示します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中条潮著『航空幻想（第2版）』（中央経済社）。 必要に応じて資料をポータルにupします。			
	毎年版『数字でみる航空』航空振興財団。 基本的に、教科書とポータルにupする資料の範囲で講義します。 昨年私の担当した「公共経済学1」を履修していない人は、中条ほか編著『経済学で読み説く交通・公共政策』（中央経済社）を参考にするとよいでしょう。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学生としての基本的な礼儀以外は求めません。

その他・特記事項

「航空・公共経済プログラム」参加者はこの授業を履修する必要があります。

マクロ経済学

更新日：2023/01/10 08:52:52

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	G3360A	科目コード	G3360
担当教員	中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

長期の実物経済、貨幣、物価、開放経済

授業の概要

マクロ経済学（Macroeconomics）の基本を講義する。マクロ経済学は、GDP、物価、雇用といった一国の経済全体（マクロ経済）の動き（「景気」）を決めるメカニズムを分析する学問分野である。

海外の大学で標準的な教科書である「マンキュー経済学IIマクロ編」を用いて、14回かけて丁寧に解説と演習を行い、理論の理解と実体経済への応用力を養う。担当教員の国内外における金融・経済調査・国際会議の実務経験を活かし、企業・家計・政府の行動原理についての理解を促す。

到達目標

1	①日々のマクロ経済に関わるニュースを批判的に理解できるようになる。
2	②公務員試験を受験するものの経済学分野の理解を促進する。

教授方法

理論の解説は講義形式で行い、課題演習は受講生同志の対話形式で進行する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経済学の基礎を理解していること。

授業計画

1	イントロダクション、マクロ経済学とは、経済学の十大原理
2	マクロ経済学のデータ：国民所得の測定【第5章】
3	マクロ経済学のデータ：生計費の測定【第6章】
4	長期の実物経済：生産と成長【第7章】
5	長期の実物経済：貯蓄、投資と金融システム【第8章】
6	長期の実物経済：ファイナンスの基本的な分析手法【第9章】
7	長期の実物経済：失業【第10章】
8	長期における貨幣と価格【第11章】；中間試験
9	貨幣システム、貨幣量の成長とインフレーション【第12章】
10	開放経済のマクロ経済学：開放マクロ経済学：基本的概念【第13章】
11	開放経済のマクロ経済学：開放経済のマクロ経済理論【第14章】
12	開放経済のマクロ経済学：開放経済のマクロ経済理論【第14章】
13	短期の経済変動：総需要と総供給【第15章】
14	総括

授業外における学習

内外の経済的・政治的・社会的背景とその変遷について、あらゆる分野にわたっての一定の理解が求められる。講義外でも積極的に多方面の読書や情報理解を怠らないこと。

また、日本経済新聞、The Economistなど、時事的な記事に常時。目を通しておくこと。

質問や相談への対応

常時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	75	中間試験30%、期末試験45%

授業中の議論への参加度	25	宿題、事例研究における双方向授業を含む
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	N.グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学IIマクロ編(第4版)』東洋経済新報社、2019年。(過去の版でも問題ありません) 他に事例研究を授業内で配布する。			
	大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018年 内閣府『経済財政白書』日経印刷、2020年 The International Monetary Fund (IMF): World Economic Outlook 他、適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

出席しただけでは「授業への貢献度」のポイントとはならない。討論への参加、発言等、授業に対して何らかの貢献があると認められてはじめて有効となる。あまり周囲の目を気にせず、しかし同時に周囲の多様な意見を理解しながら、積極的に議論に参加してほしい。

その他・特記事項

担当教員は国内外で金融・経済調査・国際会議の実務経験を有する。

医療経済学

更新日：2023/01/10 08:54:17

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3370A	科目コード	G3370
担当教員	南部 鶴彦						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

国民医療費 患者負担 健康保険 社会保障制度 市場メカニズム

授業の概要

医療（介護を含む）の問題を経済学の視点から理解するには医療にどれだけ資源を投入するかという問題と所得分配の視点からどのように公正さを維持するかという問題を考えなくてはなりません。授業では経済学の需給の考え方と現実の社会保障制度について高齢化・少子化を取り上げながら解説します。

到達目標

1	まず医療サービスが通常の市場メカニズムでは供給することがなぜ難しいかをミクロ経済学的に理解することが目標になります。さらに複雑な医療保障制度の仕組みを現実のデータを見ながら分析できる能力を養うことを目標にします。
---	--

教授方法

板書を中心にして講義する。活発な質問を期待する

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし 但しきちんとノートをとらないとついて行けなくなる

授業計画

1	経済学の基本的考え方 経済問題にどのようなアプローチをするかについて復習を兼ねて解説する
2	医療と介護について日本が直面している問題は何かについて根本から考える
3	ミクロ経済学の需要と供給についてどこが常識的・直感的な考え方と違うか市場メカニズムと呼ばれるものは何かをとりあげる
4	医療需要（1）医療サービスの需要とは何かそれは通常の市場需要とはどこが違うかを考える
5	医療需要（2）医療の特殊性と医療保険制度－保健の果たす役割についてここで考える
6	医療の供給システム（1）医療は主として医師と看護師によって供給される。そのメカニズムについて解説する。
7	医療の供給システム（2）病院・診療所というものはどのような経営基盤をもつかそして今直面する問題を考える
8	医療の受給：（1）と（2）の分析を通じて医療の需給を調節するメカニズムが機能するかの問題点について制度面を解説する。
9	海外の医療制度を紹介して日本の国民皆保険制度の特徴を取り上げる
10	薬剤の役割について薬の持つ意味と基準薬価制度を解説する
11	薬剤は医薬品メーカーが市場で供給しているが制度的にどんな問題があるか考える
12	患者負担の在り方：医療費は患者の自己負担を前提としているがどのような負担が望ましいかを分析する
13	世界から見た日本の医療制度の特徴
14	総括：経済学を通じて医療を見るときのようなことが言えるのかまた将来をどう考えるのかについて総括する

授業外における学習

授業中に参考文献など紹介する

質問や相談への対応

授業中に質問を歓迎する

成績評価

共通の評価基準	学期末に記述式のテストを行う		
評価項目	割合	評価基準	
学期末のテスト	100	記述式のテストの内容を総合的に判断する	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	未定			
	未定			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

講義はグラフなどを多用するのでよくノートをとること

その他・特記事項

特になし

グローバル経済論

更新日：2023/01/10 08:54:19

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	G3380A	科目コード	G3380
担当教員	中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

International trade; capital flows; foreign exchange; monetary system; poverty and disparity

授業の概要

This course will be conducted fully in English. "Global Economy" is a course that pursues to develop students' broad knowledge in economic and business issues in the world. Students will understand the basic principles of pertinent issues, such as international trade, foreign direct investment, corporate governance, public finances, currency exchange, monetary policy, and haves and have-nots, through readings, lectures, and case studies. Students without basic background of economics are strongly encouraged to self-study in order to catch up with other students.

到達目標

1	To understand and to be able to articulate pertinent economic and business issues of the world.
2	To be able to discuss issues objectively in English.

教授方法

Theories and facts will be lectured by the instructor. Panel discussions will be moderated and spoken by students.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

Everyone's answer to "assignment questions" should be ready before joining the session.

授業計画

1	Course introduction; Sharing definition
2	Social order versus individual liberty; on GDP
3	Does free trade benefit all?: Arguments
4	Why do countries protect?
5	Do money, merchandises, services, and people move freely?
6	Why do companies invest across borders?
7	How does money flow around the world?
8	Panel Discussion I: Trade, Investment and Fairness
9	Why do haves and have-nots always exist?
10	Is the equal world better than the diverse world?
11	Panel Discussion II: Inequality, Economic Development and Fairness
12	What are the purposes of business?
13	Japan's automakers face endaka
14	Panel Discussion III: Business, Government and Fairness

授業外における学習

- Readings should be done before each class.
- There are valuable books and research papers around the world. It is always beneficial to read those materials before and after each class on the topic focused in each class.
- Please check the latest news in reliable sources, i.e. Financial Times, New York Times, Wall Street Journal, The Economist.
- Volunteers for the panel sessions are wanted.
- Everyone's answer to "assignment questions" should be ready before joining the session.

質問や相談への対応

Instructor can be contacted by email, talk online, or by visiting his office at B212.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Assignments	50	Mid-term and final essay assignments
Class participation	50	includes panel discussions, asking questions and making comments
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		Readings will be assigned during the semester through the course portal.			
		Krugman, Obstfeld & Melitz (2018) "International Economics: Theory and Policy (11th Ed)", Pearson. Todaro & Smith (2020) "Economic Development (13th Ed)" Pearson. Maddison (2007) "Contours of the World Economy 1-2030 AD: Essays in Macro-Economic History			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Just coming to the class does not count for your "class participation" grade. Students are strongly encouraged to participate in discussions.

その他・特記事項

環境経済学

更新日：2023/01/10 08:55:01

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3390A	科目コード	G3390
担当教員	坂田 裕輔						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

環境問題、経済学、持続可能な開発目標、SDGs

授業の概要

環境問題・持続可能な開発目標（SDGs）は現代社会を理解するうえで重要な概念である。本講義は、これらの概念を経済学の視点から解説する。講義では関連する概念の解説をおこなったうえで、その経済理論的な解説を加える。また、具体的な分析手法を紹介することを心がけ、学生個人が発展的な学習・研究を行えるように意識する。

到達目標

1	・次の事項について、解答できるようになる①環境をなぜ守るのか説明できるようになる
2	・次の事項について、解答できるようになる②個々の環境問題の発生原因と対策を市場メカニズムを用いて説明できるようになる
3	・次の事項について、解答できるようになる③アンケート調査の結果の分析手法を知り、解説を理解できるようになる
4	・次の事項について、調査し意見を表明できるようになる④環境問題を市場メカニズムの観点から分析し、解決方法の提案ができるようになる

教授方法

講義は主に録画配信とZoomによって行う。数回の対面講義を予定している。講義中、意見表明や討議の時間等を設けることがある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

コンピュータを使って課題に取り組める環境があること、ミクロ経済学の内容を理解していること

授業計画

1	講義の概要と世界の環境問題の現状
2	国際情勢：気候変動問題
3	市場メカニズム：なぜ環境問題が起こるのか
4	市場の失敗：外部性によって起こるごみ問題
5	市場の失敗：公共財を使いすぎると問題が起きるのはなぜ？
6	市場の限界：情報非対称性をフェアトレードで乗り越える
7	幸福論：人はどこまで便利になればいいのか
8	環境倫理：なぜ環境を守るのか
9	成長論：経済成長とはなにか、どのように評価するのか
10	持続可能な開発目標（SDGs）：SDGsの概要、なぜ重要なのか、データの収集方法
11	資源問題：資源の状況、枯渇性資源の最適利用
12	資源問題：再生可能資源の最適利用
13	生態系サービス：森林資源の保全
14	分析手法：消費者の環境保全意識の評価

授業外における学習

講義内容はシラバスに沿って実施するため、内容に関連した予習を行うこと。必要に応じて購読すべき文献を指示する。講義中に振り返りテストを行うので、理解が不十分と感じた者は講義ビデオを閲覧して復習すること。また、理解を深めるためのフィールドワーク課題を提示するので各自実施すること。

質問や相談への対応

講義時間中に質問時間を設ける。
個別の質問は、ysakata@fuk.kindai.ac.jp にメールを送ること。
質問内容に応じて、個別の返答または講義中のアナウンスとして回答する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0%	実施しない
小テスト	60%	各回のはじめめに前回の講義に関する小テストを実施する。その点数の合計を全体の評価の60%に換算する。
授業レポート	20%	レポート評価のためのルーブリックを作成・配布するので、それに従って評価する。
上記以外の授業評価	20%	講義内容に即したフィールドワークを各自実施し、レポートを作成する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	坂田裕輔『ごみの環境経済学 改訂版』2009年、晃洋書房その他、授業中に適宜参考書を紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

環境問題は、現在、周辺で起こっていることである。常に社会に目を向けて、講義と関連したトピックを探してもらいたい。

その他・特記事項

特になし。

ビジネス・エコノミクス

更新日：2023/01/10 08:54:57

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	G3400A	科目コード	G3400
担当教員	橋本 悟						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

産業組織、企業組織、企業戦略、インセンティブメカニズム、不確実性

授業の概要

ビジネス・エコノミクスとは、応用ミクロ経済学のひとつであり、マーケティング、産業間・企業間の関係、企業戦略など幅広い分野を含む。本講義では、ミクロ経済学をベースとした基礎編と、より実務的・政策的な視点からの応用編に分けて学習する。理解を助けるために、授業ではなるべく多くの具体例を出す予定である。

到達目標

1	1. 企業の立場から利潤拡大などの企業戦略を考えることができる。
2	2. 政府が行う産業政策や競争政策の意味が理解できる。

教授方法

授業は原則として講義形式で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にないが、ミクロ経済学の知識があることが望ましい。ただし、授業では適宜復習をする予定である。

授業計画

1	イントロダクション（市場の種類、マーケットメカニズム）
2	消費者理論の復習1（効用の最大化、需要曲線の導出、財の性質）
3	消費者理論の復習2（弾力性、代替効果と所得効果）
4	商品差別化とマーケティング活動
5	生産者理論の復習1（利潤最大化と費用曲線）
6	生産と費用の関係（費用の概念、規模の経済、ネットワーク効果）
7	供給サイドの意思決定（垂直・水平合併、サプライチェーンマネジメント）
8	企業の境界（取引費用経済学、所有権理論、バゲニングパワー）
9	不完全競争市場（独占・寡占・独占的競争）と企業戦略
10	イノベーションの重要性（イノベーションと経済成長の関係）
11	スタンダードとネットワーク効果
12	競争政策1（市場の失敗と競争促進政策）
13	競争政策2（独占禁止法関連、公益事業の規制緩和）
14	総復習

授業外における学習

（予習）

1. 新聞やニュースを読んだり見たりして、経済活動に詳しくなること。
2. ミクロ経済学の基本的なテキストを読み直しておくこと。

（復習）

3. レジュメを読み直し、重要な語句を覚える。重要な理論はその導出過程も確認する。
4. レジュメの演習問題を解く。

質問や相談への対応

質問等は、授業の後に受け付ける。また、簡単な質問であればメールでも受け付ける。メールアドレス等は第1回目の授業のレジュメに載せる。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標の達成度に応じて評価
小テスト	30%	レジュメの演習問題などの理解度で評価
上記以外の授業評価		授業への熱心度、貢献度も裁量点として考慮する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テキストは使用しない。毎回レジュメを配り、それを用いて授業をする。			
	長岡貞男・平尾由紀子（1998）『産業組織の経済学』日本評論社 井手・鳥居・竹中（2010）『入門・産業組織』有斐閣 ネリス・パーカー（2009）『ビジネス・エコノミクス原理（第2版）』（訳岩本・小野）ピアソンエドケーション 小田切宏之（2017）『競争戦略論（第2版）』日本評論社			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ミクロ経済学の知識があることが望ましいので、可能ならば復習をしておいてほしい。かなり難しい部分もあるが、くじけずに頑張ってください。

その他・特記事項

授業の進め方や試験に対する詳しい情報は、第1回目の授業でアナウンスする。

規制の経済学

更新日：2023/01/10 08:53:34

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G3410A	科目コード	G3410
担当教員	穴山 悌三						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

経済的規制、社会的規制、公益事業、規制改革、ミクロ経済学

授業の概要

規制の経済学は、市場の失敗に対処するための法制度と経済システムの関わりを分析し、個々の産業の特質をふまえて社会的に望ましい制度設計について考察する学問です。本授業では、経済的規制と社会的規制とを対象に、分析の基礎となる経済理論と現実社会の事例とを学びます。主なテーマは、自然独占などの市場の失敗、料金規制、インセンティブ規制、参入規制、規制改革と競争促進の理論と実際などで、事例検討として電力や電気通信等を取り上げます。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施します。担当教員は、企業等における規制や制度の分析に係る実務経験を有しており、本科目では事例を交えながら考察して実務に応用可能な基礎的能力を習得させます。

英語表記「Economics of Regulation」

到達目標

1	本科目では、公的規制に関する経済理論の学習や事例検討を通じて、現実の産業・市場における規制システムについて理解を深め、規制分野の政策分析・問題解決に必要な能力を育てます。本科目を履修することにより、公益事業などにおける経済的規制、健康・安全・環境に関する社会的規制について、規制の意義・手法・理論的背景を理解し、規制に関する問題や社会的に望ましい規制の在り方等について考え、実際の制度や政策に関して自分の意見を言えるようになります。
---	--

教授方法

本年度は第1回および第2回はオンライン授業で、第3回以降は原則として対面形式で、パワーポイント資料を用いた講義を実施します。第1回にガイダンスを実施し、第9回には各自に課したレポートを元にプレゼンテーションと討議を実施します（レポートは4000～6000字程度、テーマや書き方等は第2回で指示します）。なお、一方通行の講義にならないように受講生のオンライン入力回答結果を授業でフィードバックするなど双方向性に留意します。授業では積極的に対話を行い、特に事例検討では能動的な授業参加を期待します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ミクロ経済学を履修していることが望ましい。なお、簡単な微分等の計算に関する基礎知識があれば授業理解に有用です。ただし授業中に解説を加えるため、きちんと自習を行えばこれらは必須ではありません。

授業計画

1	4/11 公的規制とは何か（公的規制の目的・対象・手段、主体とプロセス、経済的規制と社会的規制、「公益事業」）
2	4/13 公的規制の経済理論的根拠（「市場の失敗」、自然独占、外部経済、公共財、情報偏在、リスク、「政府の失敗」）
3	4/18 料金規制（1）—料金水準論（料金設定方式と経済厚生、伝統的なROR規制の意義と問題）
4	4/20 料金規制（2）—料金体系論（料金体系の種類と考え方、ラムゼー価格、価格差別、非線型料金）
5	4/25 インセンティブ規制（インセンティブ規制の種類、価格上限規制、ヤードスティック規制、契約理論の考え方）
6	4/27 参入・退出規制（数量規制、免許入札制、「産業政策」と規制）、独占禁止の法と経済
7	5/2 規制改革と競争促進（1）—規制改革の考え方と歴史的推移（技術進歩、コンテストブル市場、規制改革の経緯）
8	5/8 規制改革と競争促進（2）—対等競争条件の整備（ボトルネック規制、内部相互補助、排他的行為、非対称規制）
9	5/11 ケース・スタディとプレゼンテーション（各自がテーマを選んで報告・討議）
10	5/16 事例検討（1）—電力・エネルギー産業
11	5/18 事例検討（2）—放送・電気通信産業
12	5/23 事例検討（3）—運輸・交通産業
13	5/25 社会的規制の理論と事例検討（1）—健康と安全
14	5/27 社会的規制の理論と事例検討（2）—環境

授業外における学習

事前学習については、リーディング・アサインメントで少なくとも1週間前の授業時に必読文献と参考文献とを指定するので該当部分を読んでください（準備学習の目安は各120分程度）。事後学習については、オンライン入力形式で演習問題やクイズを出しますので必ず回答してください。

質問や相談への対応

メールなどによる質問等を歓迎します。またアンケートなども用意するので、積極的に活用してください（詳細は第1回授業で説明します）。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	40	論述形式の期末試験を行います。評価基準は、理論的思考・分析ができれば100点満点中70～79点、理論的根拠のある応用思考・分析ができれば80点以上、授業内容が概ね理解できれば同60～69点です。
授業レポート	30	授業中の指示に従ってレポートを書きます。評価基準は、自身の考察を加えていて独自性があるものが30点満点、資料等で一通り調べたものは10～15点目途です。優秀な報告・討議には適宜加点します。
授業中の平常点	30	オンライン型の授業中に課す小テスト形式の課題などを通じた、参加態度、理解度、授業への貢献について評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		本授業は作成資料を中心として行うため特に教科書は使いませんが、準教科書として次を指定します。 ◆公益事業学会編 [2020]、『公益事業の変容』、関西学院大学出版会。(ISBNコード:978-4-8628-3308-2)			
		参考書として次を指定するので各人のレベルと必要に応じて自習に用いてください。一部の内容は授業中に説明します。 ◆穴山悌三著 [2005]、『電力産業の経済学』、NTT出版。(電子書籍版、ISBN:978-4-7571-2143-0) ◆Decker, C. [2015], Modern Economic Regulation -An Introduction to Theory and Practice-, Cambridge University Press. (ISBN:978-1-1076-9906			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

規制について考えることは日常あまりありませんが、実は経済・社会にとっても重要な役割を果たしています。本授業では事例検討を取り入れるため、主体的で積極的な授業参加を求めます。好奇心を持ってチャレンジしてください。

その他・特記事項

この講義の扱うテーマは、理論的分析の基礎となるミクロ経済学、公共経済学Ⅰ、ビジネス・エコノミクス、産業組織論などと関連を持っています。これらの科目と併せて学ぶことで、より一層豊かな知識や応用力を得ることが期待できます。

担当教員は、企業等における規制や制度の分析に係る実務経験を有しており、事例紹介等を積極的に行います。

数理統計学

更新日：2023/01/10 08:54:03

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	G3420A	科目コード	G3420
担当教員	鶴田 靖人						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

確率、統計分析、仮説検定、重回帰分析

授業の概要

統計的思考力とは、データ（という客観的事実）を分析しマネジメントの役に立つ情報を得る力であり、この授業では統計的思考力を身につけることを目指す。授業の前半ではランダムな現象を読みとけるように確率論を学ぶ。また、確率論は統計手法の性質を説明するために欠かせないものでもある。授業の後半では現象の特徴の把握・仮説の妥当性の検証・現象のモデル化のための統計分析手法を学習する。データ分析では統計分析ソフトである「R」を用いて行う。Rの操作方法を学ぶことで実際のデータを分析する力を身につけることができる。

到達目標

1	①確率論の基礎を学ぶことでランダムな現象を理解する力を身につける。
2	②仮説検定や回帰分析などの統計分析手法を習得し、統計的思考力を養う。

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式で行います。演習は7回までは計算問題を解きます。8回以降の演習では統計ソフトRを用いて分析します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修条件はないが、経営統計学入門などの授業を履修し、統計学の基礎知識を修得した上で受講するのが望ましい。

授業計画

1	確率とは何か 確率の定義、順列、組み合わせ
2	確率の性質（1） 標本空間、加法定理、乗法定理
3	確率の性質（2） ベイズの定理
4	確率変数と確率分布（1） 確率変数、確率分布、期待値
5	確率変数と確率分布（2） 分散、共分散、相関係数
6	離散確率分布 二項分布、ポワソン分布
7	連続確率分布 正規分布、t分布、カイ2乗分布
8	標本抽出（PC演習） 記述統計量、箱ひげ図、標本抽出
9	仮説検定（PC演習） 平均値の検定、平均値の差の検定
10	単回帰分析（1）（PC演習） 最小2条法、決定係数
11	単回帰分析（2）（PC演習） パラメータの検定、パラメータの区間推定
12	重回帰分析（1）（PC演習） 自由度調整済み決定係数、パラメータの推定、多重共線性
13	重回帰分析（2）（PC演習） 偏相関係数、ダミー変数
14	まとめ（PC演習）

授業外における学習

指定された課題に取り組んでください。
授業の理解を深めるために予習・復習に取り組むことが望ましいです。

質問や相談への対応

質問はメールで行ってください。
tsuruta.yasuhito@u-nagano.ac.jp
オフィスアワーを設けます（日時は授業で説明）

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
課題	30	基礎知識の理解度に応じて評価する
期末試験	50	基礎知識の理解度および学んだ知識の応用力に応じて評価する
平常点	20	授業に関するコメントなどを基に授業の理解度に応じて評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	宮川公男著「基本統計学 第4版」有斐閣			
	授業中に適宜紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1回目から7回目までは電卓を使用します。
8回目から14回目まではPCを使用します。

その他・特記事項

経営統計学入門などの授業を履修し、統計学の基礎知識を修得した上で受講するのが望ましいです。
平均、分散、中位数（中央値）、相関係数などの記述統計量を理解している必要があります。

企業と法

更新日：2023/01/10 08:52:53

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G3430A	科目コード	G3430
担当教員	金 賢仙						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

企業と法、法学入門、会社法、金融商品取引法、知的財産法、経済法、独占禁止法、労働法、民法、消費者契約法

授業の概要

本講義では、企業を取り巻く法制度に関する入門・基礎的内容を概括して学習する。

まず、法学入門の内容を学習したのちに、法領域ごとの基礎的内容を学習する。

具体的には、総論、企業の組織に関する法領域、情報開示に関する法領域、資金調達に関する法領域、企業の取引に関する法領域、企業と労働者に関する法領域、企業と市場に関する法領域、企業の知的財産権に関する法領域、企業と訴訟に関する法領域について、初歩的な理解をするための学習をする。

到達目標

1	企業を取り巻く法制度の入門・基礎的内容について理解をし、説明できるようになることを教育目標とする。
---	---

教授方法

オンデマンド型をメインとし、同時型でそのフォローを行う。

受講を検討、希望する学生は、Glexaにログインして「企業と法」クラスのコンテンツを参照。（1、2回目は全員アクセスOK。）

<https://glexa.u-nagano.ac.jp>（ログインのIDとパスワードは、大学MSN365システムと同じです。）

☆オンデマンド型：Glexaにアップロードされた教材（講義の動画、資料等）を受講者各自が参照して学習する。

各回の視聴期間は、原則1週間とする。この期間内に、視聴して学習すること。

☆同時型：講義内容の理解の確認や質疑応答を行う。

原則として、Zoom等を使う予定。別途オフィスアワーやメールでの対応も可能。

※説明をした上で、変更をする可能性がありますので、留意すること。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。（ただし、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的となり得る。）

授業計画

1	ガイダンス
2	法学入門① 総論
3	法学入門② 企業と法の関わり
4	企業と法① 大規模公開会社と法
5	企業と法② 企業情報の開示と法
6	企業と法③ 企業の資金調達と法
7	企業と法④ 企業による取引と法
8	企業と法⑤ 中間テスト
9	企業と法⑥ 企業と労働者と法
10	企業と法⑦ 企業と知的財産と法①
11	企業と法⑧ 企業と知的財産と法②
12	企業と法⑨ 企業と市場と法
13	企業と法⑩ 振り返り
14	期末テスト

授業外における学習

特になし。

質問や相談への対応

原則として、オフィス・アワーに対応する。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
各テストの累計	100	講義の内容（企業を取り巻く法制度の入門・基礎的内容）を正確に理解し、把握しているか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<教科書> 特に指定しない。教員の作成するレジュメ及び資料を配布する。 <参考書> 高橋和之ほか『法律学小辞典（第5版）』（有斐閣、2016） （※このほかに最新の六法を携帯することが望ましい。（有斐閣ポケット六法等））			
	特になし。必要時には、講義中に案内する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しみながら、学びましょう。法学は、現実の社会事象や事例と直結している学問領域です。要点さえつかめば、とても面白いです。

その他・特記事項

説明した上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。受講希望者は、Glexaにログインして「企業と法」クラスのコンテンツを参照ください。 <http://glexa.u-nagano.ac.jp>

契約法

更新日：2023/01/10 08:54:11

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G3440A	科目コード	G3440
担当教員	栗田 晶						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

契約、債務不履行、売買、賃貸、請負

授業の概要

契約とは権利変動の発生原因となる当事者間の合意をいう。講義では、各種契約類型に共通する問題として、契約が成立するための要件、債務不履行の際の債権者の救済手段等について検討する。続いて、財産権移転型契約、使用供与型契約、役務提供契約を中心に、各種契約類型に固有の諸問題についての検討を行う。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則（第3編第1章）の一部（債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償）と契約（第3編第2章）に相当する。歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。

到達目標

1	この授業は、受講生が、契約法上の諸制度に関して、制度趣旨や学説判例についての正確な理解をもとに説明することができるようになることを目的とする。また、比較的簡単な事案について契約法に関する規範にそくして解決を導くことができるようになることを目的とする。
---	---

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	契約の意義
2	契約の成立 契約の成立と方式、申込の誘引、契約の解釈
3	契約の効果 契約に基づく債権債務関係の発生、債権の意義と種類、債権の権能について
4	契約不履行の場合の救済手段（1） 履行請求権、履行不能、同時履行の抗弁について
5	契約不履行の場合の救済手段（2） 損害賠償請求権①（損害賠償の要件について）
6	契約不履行の場合の救済手段（3） 損害賠償請求権②（損害賠償の範囲について）
7	契約不履行の場合の救済手段（4） 解除の要件について
8	債務不履行の場合の救済手段（5） 解除の効果、危険負担について
9	財産権移転型契約（1） 売買①
10	財産権移転型契約（2） 売買②、贈与、交換
11	使用供与型契約（1） 賃貸借①
12	財産権移転型契約（2） 賃貸借②、使用貸借
13	役務提供契約 雇用契約、請負契約、委任契約
14	まとめ

授業外における学習

予習復習のためのケースを配布する。1回あたりに配布するケースの分量は、おおよそ1時間で検討可能な程度である。講義内でもケースについて触れるため、各自、予め検討しておくこと。

質問や相談への対応

講義終了後に質問に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	50	基本的な事柄について、最低限度の理解を示していれば60%、概ね理解できていれば70%、十分に理解していれば80%、十分に理解したうえで、深い考察がなされていれば90%とする。
授業への取り組み	10	予め配布したケースを中心に授業の中で受講者に質問を提示する。受講生の授業参加への積極性や回答内容に応じて評価する。
期末試験	40	基本的な事柄について、最低限度の理解を示していれば60%、概ね理解できていれば70%、十分に理解していれば80%、十分に理解したうえで、深い考察がなされていれば90%とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし(授業ではレジュメを使用する)。			
	2017年に民法改正があったため、改正民法に対応したものが否かに注意すること。改正に対応しているものとして、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅳ債権総論』（新世社、第2版、2017年）、『コア・テキスト民法Ⅴ契約』（新世社、第2版、2018年）。その他については、授業において指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

事前に配布するケースについて検討しておくこと。

その他・特記事項

講義は条文を手元に受講すること。条文から条文に飛ぶため、コンパクト六法など紙媒体のものを手元に置くことが望ましい。期末試験では、書き込みのない判例のついていない六法のみ持ち込み可となる可能性があるため、書き込みをせずに使用すること（線ぐらいは引いてもよい）。

労働法

更新日：2023/01/10 08:54:11

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	G3450A	科目コード	G3450
担当教員	弘中 章						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

労働契約、採用内定、解雇、懲戒、労働条件、賃金、労働時間、雇用平等、ハラスメント防止、過労死・過労自殺、労働組合、労働審判

授業の概要

労働法とは、働く現場で発生する諸問題を扱う法分野です。本講義では、労働法の基本原則や関係法令の内容を解説します。できるだけ事例に即した説明を心がけ、受講生が労働法を具体的に理解できる形で進めます。本講義を通じて、自ら雇用され、あるいは誰かを雇用する際に、労働法を遵守する（させる）姿勢と、それに必要な知識を身につけることが目標です。

なお、労働法といっても、「労働法」という名前の法律があるわけではなく、多種多様な法令によって構成されていますが、本講義では、このうち、労働契約法、労働基準法を重点的に勉強します。

到達目標

1	労働法の基本原則・関係法令の内容を理解し、シンプルな事例について、労働法令違反の有無を判断できるようになること。
---	--

教授方法

教員作成のレジュメに基づいて講義します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修にあたっては、民法における「契約」の考え方が身につけていることが望ましいです。

授業計画

1	イントロダクション。労働法とは何か、労働法を学ぶ意義、労働法の全体像について解説します【教科書第1章】。
2	雇用を取り巻くルールの種類・特徴、労働法の登場人物（当事者）を扱います。この中で、強行法規・就業規則とは何か、「労働者」や「使用者」の概念について勉強します【教科書第2章、第3章】。
3	「入社から退職まで」（その1）。労働契約の始まりの段階である「採用」に関連する問題を勉強します【教科書第4章】。
4	「入社から退職まで」（その2）。労働契約の終了の段階である「退職」「解雇」に関連する問題を勉強します【教科書第7章】。
5	「入社から退職まで」（その3）。労働契約が継続している間の段階で生じる人事の問題を取り扱います。具体的には、出世（昇進・昇格）、転勤（配転）、出向、休職、懲戒の問題を取り上げます【教科書第5章、第6章のうち（6.1）】。
6	労働条件（1）。賃金に関わる問題を勉強します【教科書第8章】。
7	労働条件（2）。労働時間を規制するルール（原則と例外）を勉強します【教科書第9章】。
8	労働条件（3）。休暇・休業の問題を勉強します【教科書第10章】。 具体的には、年休、産休・育児・介護休業を取り上げます。
9	労働条件（4）。「労働者の安全・健康」というテーマを取り扱います。 この中で、労災補償の仕組みや、過労死・過労自殺の問題を勉強します【教科書第13章】。
10	「労働条件の変更」を取り上げます【教科書第11章】。 労働条件の変更とは、例えば、当初の契約で決まっていた賃金額が減らされるといった場面を指しますが、この場面で何が問題になるのか勉強します。
11	「非正規雇用」の問題を取り上げます【教科書第12章】。 契約社員、パート、アルバイト、派遣社員というように、いわゆる「正社員」ではないタイプの労働者についてどのような問題が生じるのか勉強します。
12	人権保障・雇用平等・ハラスメントの問題を取り上げます【教科書第14章、第6章のうち（6.2）】。 雇用の場面でも、人権保障や、平等、個人の尊厳の確保が求められることを勉強します。
13	労働組合・労働協約・不当労働行為【教科書第15、第16章】。 労働者が集まって結成する労働組合をめぐって、どのような問題があるのかを勉強します。
14	労働紛争解決のための諸手続と、全体のまとめ【教科書第17章】。 労働紛争にはどのような種類のものがあるか、各種紛争が起こった場合にはどのような解決制度・手続が用意されているかを見ていきます。 その上で講義全体の振り返りを行い、「まとめ」とします。

授業外における学習

- ①事前学習：教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- ②事後学習：講義で使ったレジュメ・スライドを読み返すこと。

質問や相談への対応

授業終了後に声をかけていただくか、講師にメールを下さい。
メールアドレスは、hironaka-61@islo.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている（90点以上）。【A】基本的な到達目標を十分に達成している（80点以上）。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している（70点以上）。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している（60点以上）。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である（59点以下）。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	70	記述・論述問題を出題します。
平常点	30	毎回の講義後にポータルを通じてクイズを出題し、その解答結果をもとに平常点をつけます。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	原昌登「コンパクト労働法【第2版】」（新世社・2020年）			
	六法は入手のこと（どの出版社のものでもよいです。なお、期末試験では六法のみ持込み可の予定）。 参考書・その他の参考文献は講義の中で適宜ご案内します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①労働法は身近な法分野であり、皆さんそれぞれに関わります。まずは、自分の問題としてとらえて下さい。
- ②法律がでてきたら、「六法」を引いて条文にあたる癖をつけて下さい。

その他・特記事項

現役の弁護士による講義です。

法政策学

更新日：2023/01/10 08:54:05

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	G3460A	科目コード	G3460
担当教員	田村 達久						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

地方自治の本旨、公の施設、自治事務・法定受託事務、法律と条例、政府間関係、国等の関与法制

授業の概要

法政策論ないし政策法務論を念頭に置きつつ、その基礎・基盤にある形式的意味での地方自治法に定められている諸制度、そして、それらに関する法理論や判例の基礎知識を教授します。あわせて、習得した知識を活用して事例問題を解いてみたり、地域課題を解決するための法制度を含む政策を全員で考えたりします。

到達目標

1	①地方自治に係わる基本法制度にかかる知識・裁判例等を習得すること、
2	そして、②それを活用して、現に生じている様々な地方自治にかかる法現象を批判的に考察し、自ら問題を解決することができる力を養い、高めること、
3	そして、さらに、③それらの力を活用して、様々な地域課題を解決するための法制度を含む基本的な政策を考え、創造するための基礎力（基礎的な法務能力）を習得すること。

教授方法

基本的に、下記の「教科書・テキスト」欄に記載の①の教科書に沿って講述する形式で進めますが、適宜、②の学習用判例集に収録されている関係する判例を確認します。したがって、関係判例の事実と判旨を読んでもらったり、その要点となる点を教員が質問し、それに応答してもらったり、関係する法律の条文を読んでもらったり、配布するレジュメに記載されている問題の回答を求めたり、さらには、授業の後半では、グループによる検討と報告を行ってもらったりなどすることを通じて、教員との双方向又は学生間での多方向のやりとりなども取り入れながら進めます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

2年次に配当されている行政法の授業を履修していることが望まれます。

授業計画

1	オリエンテーション：学習項目の鳥瞰と学習の進め方、及び、地方自治の憲法保障の意味・内容を学ぶ。
2	住民自治権総説：住民の権利義務及び公の施設に関する法制度・理論・判例を学ぶ。
3	地方公共団体の事務論（1）：事務区分及び国との関係を中心に制度・理論・判例を学ぶ。
4	地方公共団体の事務論（2）：都道府県と市町村との関係を中心に制度・理論・判例を学ぶ。
5	自治立法論：自治立法の種類及び法律と条例との関係に関する制度・理論・判例を学ぶ。
6	国等の関与に関する制度・理論・判例を学ぶ。
7	住民監査請求に関する制度・理論・判例を学ぶ。
8	住民訴訟に関する制度・理論・判例を学ぶ。
9	地域課題解決のための政策及び法制度を考えるグループ検討（1回目）
10	地域課題解決のための政策及び法制度を考えるグループ検討（1回目）に基づくグループ報告とそれに基づくグループ間での質疑応答等
11	地方自治法の制度・理論・判例の知識を用いた事例問題のグループ検討（2回目）
12	地方自治法の制度・理論・判例の知識を用いた事例問題のグループ検討（2回目）に基づくグループ報告とそれに基づくグループ間での質疑応答等
13	グループ報告に関する総括的講評及び質疑応答並びに地方自治法に関する学習内容の総復習及び質疑応答
14	定期試験（試験時間60分）の実施と、試験後の試験問題に関する解説及び質疑応答

授業外における学習

配付する授業レジュメ及び授業使用テキストを通読してその内容や疑問点などを確認しておくことが事前の学習内容となる。また、事後の学習においては、当該授業レジュメに記載されている、又は、授業中提示された事例問題を改めて独力で解いてみることも、それを文章化するなどして、授業において講述された地方自治法理論及び判例に関する知識が正確かつ確実に習得されているかを確認し、かつ、事例問題の解答を文章化することを通じて、リーガル・ライティング力の向上を図るようとする。1回当たりの事前・事後の各学習に要する時間は、標準的に

質問や相談への対応

定期試験日を除いて3日間の短期集中の授業となるため、特に定期試験（上記「授業計画」欄に記載のとおり、最終日の14回目の授業時間中に実施）に直結する質問・相談などはその授業期間中をお願いします。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	地方自治法に関する制度、理論、判例に関する基本的な知識の習得度及びそれを用いた応用力の程度に基づき評価します。	
上記以外の授業評価	20	事例問題等に関するグループ検討における議論及びグループ報告へ各関与の積極性及び寄与度の程度に基づき評価します。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	①田村達久『法務に強くなる！レベルアップ地方自治法解説』（第一法規、2019年）ISBN 9784474063150、②磯部力ほか編『地方自治判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2013年）ISBN 9784641115156			
	①いわゆる六法（法令集のこと。例えば有斐閣判例六法令和4年版などの判例付きの最新のもの望ましい。授業中実際に地方自治法の条文を見たり、読んでもらったりします。）、②法政策論あるいは政策法務論における基礎知識を習得するための参考文献として、自治体法務検定委員会編『自治体法務検定公式テキスト政策法務編 2022年度検定対応』（第一法規、2022年）ISBN 9784474078253が有益です。このほか、必要に応じて、授業中に適宜参考書を紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

後半の授業回数において実施するグループでの事例検討等において、行政法の知識を持っていることが必要にもなってくるため、2年次に配当されている行政法の授業を履修していることが望まれます。また、定期試験日を除いて3日間の短期集中の授業となりますので、体調管理には特に注意を払って受講してください。

その他・特記事項

特にありません。

商法

更新日：2023/01/10 08:53:51

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3470A	科目コード	G3470
担当教員	金 賢仙						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

会社法、会社の種類、有限責任、資金調達、設立、株式会社、株式、ガバナンス、計算、解散と清算

授業の概要

本講義では、今日の代表的な企業組織形態である株式会社の法制度について学習する。
 学習にあたっては、法制度の趣旨（なぜ、その法制度が存在するのか）を理解することに重きを置きながら、内容（どのような法制度が存在するのか）について理解を深める。
 具体的には、会社法の役割、株式、会社のガバナンス、取締役等会社役員の実務、会社法上の訴訟制度、会社の組織変更といった内容を取り扱う。このほかに、いわゆる大規模公開会社に関するルールについての理解を促すために、資本市場と会社との関係という視点からも学習をする。

到達目標

1	株式会社に関する法制度を理解し、身近な生活及び時事問題の中の会社法制と関連する出来事に関心及び問題意識を持ち、分析をする能力を身につけることを教育目標とする。
---	---

教授方法

オンデマンド型と対面型とを組み合わせ実施する。
 受講を検討、希望する学生は、Glexaにログインして「商法（会社法）」クラスのコンテンツを参照。
 (1、2回目は全員アクセスOK)。
<https://glexa.u-nagano.ac.jp>（ログインのIDとパスワードは、大学MSN365システムと同じです。）
 ☆オンデマンド型：Glexaにアップロードされた教材（講義の動画、資料等）を受講者各自が参照して学習する。
 各回の視聴期間は、原則1週間とする。この期間内に、視聴して学習すること。
 ☆対面型：講義内容の理解の確認や質疑応答を行う。教室での対面等を使う予定。
 ※説明をした上で、変更をする可能性があるため、留意すること。
 大学の方針その他の状況によって、対面型の部分がZOOM使用等となる可能性もある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。（ただし、『企業と法』等の他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的になり得る。）

授業計画

1	ガイダンス（対面）
2	会社とは
3	株式
4	株式会社の設立
5	ミニテスト①
6	ガバナンス1（総論、株主総会）
7	ガバナンス2（株主総会、取締役・取締役会）
8	ガバナンス3（監査役・監査役会、会計監査人）
9	ガバナンス4（3委員会型、監査等委員会型）、計算（資本金、剰余金の配当、計算書類）
10	ミニテスト②
11	配当、資金調達
12	会社の解散と清算
13	振り返り
14	期末テスト

授業外における学習

特になし。

質問や相談への対応

原則として、オフィス・アワーに対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
各テストの累計	100	講義の内容（株式会社の法制度）を正確に理解し、把握しているか。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<教科書> 特に指定しない。教員の作成するレジュメ及び資料を配布する。 <参考書> 江頭憲治郎『株式会社法（第8版）』（有斐閣、2021） 伊藤靖史ほか『リーガルクエスト会社法（第5版）』（有斐閣、2021）等 （※必要に応じて、講義中に別途紹介する。）			
	必要に応じて、講義中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

会社法は、現実の企業社会（特に、会社という形態を用いるビジネス全般）の動きと直結した学問領域です。普段から、経済関連の報道等に目を向けながら学習すると、理解を深めやすくなります。自身の関心（たとえば就職活動等）と絡めて情報収集しながら、楽しく学びましょう。

その他・特記事項

講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。

知的財産法

更新日：2023/01/10 08:54:58

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3480A	科目コード	G3480
担当教員	倉崎 哲矢						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

特許 著作権 商標 意匠 不正競争防止法

授業の概要

本講義では、知的財産法の中から、主として特許法及び著作権法を取り上げ、これら法律の基本的知識を学ぶと共に、実務上の問題点を検討する。また、知的財産法の理解に関し、物権、債権など民法上の財産権との比較の視点も重要と考えるので、必要に応じ、これらについても検討する。

到達目標

1	法文及び判例の規範を正確に理解し、具体的事案に対し正確に適用し、適切に処理できる（現場で実践できる）レベルに達することを目標とする。
---	--

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	序説として、知的財産法全体を概観する。
2	【特許法①】 発明該当性について検討する。
3	【特許法②】 特許要件について検討する。
4	【特許法③】 発明者・冒認出願・職務発明について検討する。
5	【特許法④】 出願、審査・審判と、権利の活用について検討する。
6	【特許法⑤】 特許攻防について検討する。
7	【著作権法①】 著作物性について検討する。
8	【著作権法②】 著作者・職務著作について検討する。
9	【著作権法③】 著作権の内容について検討する。
10	【著作権法④】 著作権制限について検討する。
11	【著作権法⑤】 著作者人格権について検討する。
12	【意匠法】 意匠制度について概観する。
13	【商標法】 商標制度について概観する。
14	【不正競争防止法】 不正競争防止法について概観する。

授業外における学習

- ①次回講義予定の範囲について、テキストと六法で予習をする。
- ②特許法及び著作権法について、それぞれの範囲終了頃を目安としてレポートの課題を示します（特許法及び著作権法について各1回レポート）。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	法的処理能力の習熟度に応じて評価する。
授業レポート	50	基礎知識・法的処理能力の習熟度に応じて評価する（レポートは全部で2回行い、1回につき25%を配分）。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『知的財産法入門』茶園成樹 編 有斐閣(講義開始時点の最新 版をご準備下さい。)			
	特にありません。必要があれば資料を配付します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回、六法を持参する（判例付でないコンパクトなもので構いません。ポケット六法等）。

その他・特記事項

約16年間弁護士業務に従事しており、その間知的財産法に関しては、信州大学法科大学院で教壇に立った他、独立行政法人工業所有権情報・研修館が運営する知的財産総合支援窓口の相談担当弁護士として、知的財産に関する様々な相談に対応しています。

比較法制度論

更新日：2023/02/19 10:48:18

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	G3490A	科目コード	G3490
担当教員	米田 保晴						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

法の継受、各国憲法、議員内閣制、大統領制、各国近現代史

授業の概要

各国の法制度は、その国の歴史や社会的環境を反映しており、共通の課題に対して異なる対応をしている場合が多いといえます。他方、一定の課題については、類似の対応をする場合もあります。

本講義では、日本、アメリカ、欧州(特にドイツ)について、最初に各国の近現代史を法制度に着目して学習し、次に、憲法を中心に法律制定の背景や内容を学び、相互に比較することにより、各国の法制度（特に日本の法制度）の理解を深めます。

Comparative Study of Legal Systems

到達目標

1	日本および外国（特にアメリカ、ドイツ）の法制度を深く理解することができるようになる。
2	事実に基づき、歴史を踏まえ、グローバルな視野でものごとを考えることができるようになる。

教授方法

本講義においては、講師が講義を行う他、適宜当てて受講生に発言を求めます。自分の意見をはっきりと述べることも、この授業で学習してください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にありません。（ただし、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的になりえます。）

授業計画

1	授業の概要・明治以降の日本の歴史—法制度に着目して（1） 授業の全体像や受講方法について説明した後、明治時代以降の日本の歴史について法制度に着目して学習します。
2	明治以降の日本の歴史—法制度に着目して（2） 第1回に引き続き、明治時代以降の日本の歴史について法制度に着目して学習します。
3	明治以降の日本の歴史—法制度に着目して（3） 第1回・第2回に引き続き、明治時代以降の日本の歴史について法制度に着目して学習します。
4	日本国憲法（1） 日本国憲法（1946年11月3日公布、1947年5月3日施行）の内容について、外国の制度と比較しながら、学習します。
5	日本国憲法（2） 第4回に引き続き、日本国憲法（1946年11月3日公布、1947年5月3日施行）の内容について、外国の制度と比較しながら学習します。
6	日本国憲法（3） 第4回・第5回に引き続き、日本国憲法（1946年11月3日公布、1947年5月3日施行）の内容について、外国の制度と比較しながら学習します。
7	大日本帝国憲法（1） 大日本帝国憲法（明治憲法、1889年発布）の内容について学習し、日本国憲法と比較します。
8	大日本帝国憲法（2） 第7回に引き続き、大日本帝国憲法（明治憲法、1889年発布）の内容について学習し、日本国憲法と比較します。
9	アメリカ合衆国憲法 アメリカ合衆国憲法（1787年署名、1788年発効）の内容について学習し、日本の憲法と比較します。
10	アメリカの歴史—法制度に着目して アメリカの建国（1776年独立宣言）以降のアメリカの歴史について、法制度に着目して学習します。
11	ドイツの歴史—法制度に着目して プロイセン王国成立（1701年）以降のドイツの歴史について、法制度に着目して学習します。
12	ドイツ憲法 ドイツ連邦共和国基本法（1949年公布）を中心にドイツの憲法の内容について学習し、日本の憲法と比較します。
13	日本の会社法 日本の会社法の内容について、機関設計に着目して学習します。
14	アメリカ・ドイツ等の会社法 アメリカ・ドイツ等の会社法の内容について、機関設計に着目して学習し、日本の会社法と比較します。

授業外における学習

受講生は、各授業の前に教科書、レジュメ、配布資料の当該授業の部分を読み、疑問点があれば、「？」マークを付して授業に臨んでください。また、授業の後に学んだことを復習し、疑問点があれば講師に質問（次回の授業の後またはメール）し、疑問点を残さないように努めてください。

質問や相談への対応

疑問点は、授業の後に直接講師に質問するか、講師にメール（メールアドレス：yonedayasuharu@gmail.com）で質問してください。メールの場合は、必ず学籍番号と受講者名を明記してください。メールに返信するか、授業の中で話すという形でお答えします。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
最終レポート	40	授業で学習した内容の理解度に応じて評価します。	
小レポート（3回）	30	3回提出してもらった小レポートの解答内容に応じて評価します。	
上記以外の授業評価	30	授業への参加態度や授業中の発言内容に応じて評価します。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	初宿正典・辻村みよ子編『新解説 世界憲法集 第5版』	三省堂	2020	価格2700円＋税。講義開始前に新版が出版された場合は、当該新版を用います。

参考書・参考資料等

教科書以外に授業に必要な資料および授業のレジュメは、適宜講師が配布します。参考書については、適宜授業で紹介します。

受講生に望むこと

授業には必ず予習をして臨んでください。また、授業には教科書、レジュメ、配布資料を必ず持参してください。

その他・特記事項

授業では自分の意見をはっきり述べるように努めてください。

金融商品取引法

更新日：2023/01/10 08:53:52

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	G3500A	科目コード	G3500
担当教員	金 賢仙						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

金融商品取引法、金融資本市場、資本市場、取引所、有価証券、ディスクロージャー、TOB、5%ルール、インサイダー取引、相場操縦、公認会計士監査

授業の概要

本講義では、金融商品取引法の内容を中心とした金融・資本市場に関する法制度について学ぶ。

学習にあたっては、法制度の趣旨（なぜ、その法制度が存在するのか）を理解することに重きを置きながら、内容（どのような法制度が存在するのか）について理解を深める。

具体的には、総論、企業の情報開示制度（発行開示・流通開示、会計・監査・内部統制、TOB制度、5%ルール制度）、不正取引の禁止（インサイダー取引等）、市場の担い手に対する規制といった内容を取り扱う。

このほかに、必要に応じて、自主規制機関（金融商品取引所、証券業協会その他）によるルールについても学び、資本市場法制全体の理解に繋げる。

到達目標

1	資本市場と関連法制の仕組みについて理解をし、身近な生活及び時事問題の中の資本市場法制と関連する出来事に関心及び問題意識を持ち、分析をする能力を身につけることが本講義の教育目標である。
---	---

教授方法

オンデマンド型と対面型とを組み合わせ実施する。

受講を検討、希望する学生は、Glexaにログインして「金融商品取引法」クラスのコンテンツを参照。

(1、2回目は全員アクセスOK)。

<https://glexa.u-nagano.ac.jp>（ログインのIDとパスワードは、大学MSN365システムと同じです。）

☆オンデマンド型：Glexaにアップロードされた教材（講義の動画、資料等）を受講者各自が参照して学習する。

各回の視聴期間は、原則1週間とする。この期間内に、視聴して学習すること。

☆対面型：講義内容の理解の確認や質疑応答を行う。教室での対面等を使う予定。

※説明をした上で、変更をする可能性があるため、留意すること。（状況によっては対面型の部分がZOOM使用となる可能性もある。）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。ただし、商法（会社法）を履修することが望ましい。（また、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的になり得る。）

授業計画

1	ガイダンス 金商法とは（教室にて対面で行います）
2	有価証券の概念
3	発行市場の規制1（総論）
4	発行市場の規制2（開示規制と行為規制）
5	流通市場の規制（総論）
6	ミニテストと復習
7	会計・監査・内部統制
8	公開買付け（TOB）
9	大量保有報告書（5%ルール）
10	ミニテストと復習
11	不正取引の規制
12	金融商品仲介業者の規制
13	ふり返りと復習
14	期末テスト

授業外における学習

特になし。

質問や相談への対応

原則として、オフィス・アワーに対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目		割合	評価基準
各テストの累計		100	講義の内容（金融・資本市場の法制度）を正確に理解し、把握しているか。
合計		100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<教科書> 松岡啓祐『最新金融商品取引法講義（第6版）』（中央経済社、2021）			
	<参考書> 黒沼悦郎『金融商品取引法入門（第8版）』（日経文庫、2021） 近藤光男、志谷匡史ほか『基礎から学べる金融商品取引法（第5版）』（弘文堂、2022） （※必要に応じて、講義中に別途紹介する。）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

金融商品取引法は、現実の企業社会（特に、上場企業と資本市場）の動きと直結した学問領域です。普段から、経済関連の報道等に目を向けながら学習すると、理解を深めやすくなります。自身の関心（たとえば就職活動等）と絡めて情報収集しながら、楽しく学びましょう。

その他・特記事項

- 1 講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。
- 2 インターン・シップ参加のため、講義を欠席する場合には、大学の方針にしたがって対応するので、適宜、申し出ること。

政治学

更新日：2023/03/11 15:04:33

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	G3510A	科目コード	G3510
担当教員	駒村 哲						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

民主主義、権威主義、独裁主義

授業の概要

政治的現実をダイナミックにかつ実証的に分析することを課題とする政治学とはいかなる学問分野であるか、説明する。

到達目標

1	政治学とは何か、体系的に理解する力をつける。日本だけでなく、世界の政治について理解できるようになる。
---	--

教授方法

講義とともにビデオをみる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

歴史学及び国際関係論の科目を履修するのが望ましい。

授業計画

1	政策の対立軸、政治と経済
2	自由と自由主義、福祉国家
3	国家と権力、市民社会と国民国家
4	国内社会と国際関係、国際関係における安全保障
5	国際関係における富の配分、議会
6	執政部、官僚制
7	中央地方関係、国際制度
8	政策過程、対外政策の形成
9	制度と政策、デモクラシー
10	投票行動、政治の心理
11	世論とメディア、選挙と政治参加
12	利益団体と政治、政党
13	21世紀の日本の政治
14	21世紀の世界の政治

授業外における学習

事前にテキストを読み、問題関心を高め、事後はテキストを読み返す。

質問や相談への対応

講義の前後で対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末試験	25%	論理的説明がなされている
期末試験	25%	歴史的事実を正確に理解している
期末試験	25%	オリジナルな見解が説得力を有している
期末試験	25%	講義内容を踏まえて論述している
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『政治学』	有斐閣	2011	

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的かつ積極的に取り組む。

その他・特記事項

特になし。

公共政策学

更新日：2023/01/10 08:53:30

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	G3520A	科目コード	G3520
担当教員	田村 秀						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

公共政策、地方創生、地域開発、まちづくり

授業の概要

本講義は、国、地方自治体などが行う公共政策に関して、その基礎となる理論及び国、地方の具体的な政策事例を紹介することを通じて、公共経営コースの学生に、政策とはどのようなものであって、どのように立案すべきかについて考えさせることを目標としており、次に開講する公共政策演習のための事前学習の性格も有するものである。具体的には国、自治体勤務の経験を踏まえ、観光政策、まちづくり、交通政策、ふるさと創生から地方創生に至る地域活性化のための政策などを取り上げ、学生の基礎的な政策形成能力の涵養を目指している。

【ねらい】

公共政策の理論と現実の姿を理解することを通じて課題発見力や問題解決力を涵養し、基礎的な政策形成能力を修得できるようになる。

英語表記「Public Policy」

到達目標

1	①公共政策の手法について説明できる。
2	②公共政策の事例について、系統立てて説明できる。
3	③公共政策の立案プロセスについて説明できる。

教授方法

オンラインをメインにと対面を併用する講義形式とし、毎回学生に複数回質問するなど双方向方式で実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

原則として、公共経営コースに所属していること。

授業計画

1	講義内容の説明を行い、政策科学の振り返りを行うとともに、様々な政策手法について説明する。
2	第2回から第13回まで、各回おおむね2つの政策事例を取り上げ、公共政策の実態について考察する。第2回では戦後の地域開発の歴史と新幹線整備について考察する。
3	高速度路整備と企業誘致・工業団地整備について考察する。
4	地方創生とその具体的な取組みとしてみなかみ町の事例について考察する。
5	オリンピックとスポーツ政策全般について考察する。
6	ゆとり教育と高校の魅力化など教育政策について考察する。
7	観光政策について、国や地方自治体の取り組みを中心に考察する。
8	観光政策について、PRや失敗事例などを中心に考察する。
9	さまざまな地域における観光政策とアクセス向上のための取り組みを考察する。
10	まちづくりに関する取り組みを考察する（その1）。
11	まちづくりに関する取り組みを考察する（その2）。
12	まちづくりに関する取り組みを考察する（その3）。
13	まちづくりに関する取り組みを考察する（その4）。
14	講義のまとめを行うとともに、公共政策のあるべき姿について考察する。

授業外における学習

- ①政策科学の授業の内容を復習する。
- ②授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。

・メールでの質問も受け付ける。

なお、対面とオンラインの併用のため、進行状況によっては、講義内容を変更することが考えられるのであらかじめ承知されたい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート①	50	前半の講義に関して、課題を出す。現実の政策に対して客観的な評価ができて いるかを基準とする。
授業レポート②	50	後半の講義に関して、課題を出す。講義内容を踏まえて書かれているかを基準 とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	田村秀『自治体崩壊』（イースト新書、2014年）。このほか、資料をWEBサイトから、事前にダウンロードして入手しておくこと。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①公共政策や経済に関するニュースを日頃から読むこと。
- ②行政学、地方自治論、地方行財政演習を受講していることが望ましい。

その他・特記事項

担当教員は、国、地方自治体で実際の公共政策の立案及び実施に携わっている。

公共政策演習

更新日：2023/01/10 08:53:32

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	G3530A	科目コード	G3530
担当教員	中村 稔彦						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

地方創生、地域再生、地域活性化、政策の比較と評価、政策の企画立案、実現可能性

授業の概要

自治体は少子化や高齢化、人口減少（過疎化）、既存産業の後継者、新たな産業の育成、環境、財政に目を向ければ医療や介護等の社会保障費の増大、税収の減少など様々な課題を抱えている。これまで「地方財政論」や「地方行財政基礎演習」の授業を通じて、財政に関する基礎知識だけでなく、自治体の行う政策が、地域の発展に大きな影響を与えることを学んできた。こららを踏まえ、この授業では、興味のある特定の自治体の課題を抽出し、当該課題についての解決策をグループワークで見出すこと、考え出すことに重きを置く。子育て支援、健康寿命延伸、移住・定住、工業施設・商業施設・病院・大学などの誘致、起業支援、産業振興、環境保全、都市計画、町おこしなど様々な政策が考えられる。企画立案することの難しさだけでなく、その楽しさも味わって欲しい。これらは、公務員の論文試験や面接試験の対策になるだけでなく、卒業論文の構想の立案・アウトライン作成にも大いに役立つであろう。

到達目標

1	少人数のグループで、資料やデータから興味ある自治体や地域が抱える課題を抽出し、当該課題が解決策を成果が明確になった他の自治体や地域の成功事例等を参考にして考え、それを新たな政策として立案することを目指す。また、政策実現のためには、説得力のあるプレゼンが不可欠であるため、プレゼンについても、ただ発表するだけでなく、資料やデータの使用法や構成、話し方等についても、徹底してこだわる実践レベル到達を目指す。
---	---

教授方法

1回から4回までは授業形式で更なる知識の習得を目指す。5回目以降はグループワーク形式で、グループの成果が上がるように各自シェアード・リーダーシップを意識しながら、自ら抽出した課題に対する解決策を見出し、考え出し、そしてまとめることを目指す。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

地方財政論や地方行財政基礎演習を受講している方が望ましい。5回以上欠席した者は評価の対象外とする。

授業計画

1	ガイダンス（授業の進め方）・国及び自治体の地域創生、地域再生・活性化に向けたさまざまな政策の紹介等
2	RESASや決算状況調等の自治体のデータの使い方、美しい図や表の作り方、プレゼン方法について
3	攻める自治体『東川町』について学ぶ（1）テキストにはない新たなデータ等も提示・解説
4	攻める自治体『東川町』について学ぶ（2）テキストにはない新たなデータ等も提示・解説、グループ分け
5	グループワーク（1）セレクトした自治体や地域の課題を資料・データより抽出する
6	グループワーク（1）他の自治体や地域の成功事例等を参考にしてセレクトした自治体や地域の課題の解決策を考える
7	グループワーク（1）課題解決のための新たな政策の企画立案を行い、それを実現するためのプレゼン方法を考える
8	プレゼンテーション（1）政策の実現を可能にするプレゼンテーション①
9	プレゼンテーション（1）政策の実現を可能にするプレゼンテーション②
10	グループワーク（2）セレクトした自治体や地域の課題を資料・データより抽出する
11	グループワーク（2）他の自治体や地域の成功事例等を参考にしてセレクトした自治体の課題の解決策を考える
12	グループワーク（2）課題解決のための新たな政策の企画立案を行い、それを実現するためのプレゼン方法を考える
13	プレゼンテーション（2）政策の実現を可能にするプレゼンテーション①
14	プレゼンテーション（2）政策の実現を可能にするプレゼンテーション①

授業外における学習

授業前に興味ある自治体等の社会経済状況や財政指標、様々なランキング等を自分なりに調べておくこと。

授業後は、講義で説明した内容やグループワークの中で調べたこと、他グループのプレゼンの内容などを整理しておくこと。

授業外でこれらを確実にやっていれば、公務員の論文試験や面接試験の直前になって慌てることはないだろう。また、卒業後の進路先で、実際に企画立案する際の大きなヒントや参考になるだろう。

質問や相談への対応

授業後の他、研究室やメール等でも対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
チャット ・コメントシート	20	各会10点×2回＝20点。講演内容の要約や感想等を記入する。理解度、課題発見力を評価する。
プレゼンテーション	80	各回40点×2回＝80点。情報収集力、課題発見力、課題解決力、データ分析力、アウトライン、説得力、発表力等を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中村稔彦『攻める自治体「東川町」地域活性化の実践モデル』（新評論、2022年）1,980円（税込）。			
	総務省編『令和3年度版 地方財政白書』（日経印刷、2021年）3,492円（税込）、内閣府編『高齢者白書（令和3年度）』（日経印刷、2021年）2,420円（税込）、内閣府編『少子化社会対策白書（令和3年度）』（日経印刷、2021年）2,420円（税込）、都道府県決算状況調、市町村決算状況調、都道府県決算カード、市町村決算カード等。 その他講義の際に随時紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

理想の自治体、地域とはどのようなものか、どうあるべきかを常に考えてほしい。その他にも、新たな企画立案した政策は、どのようにすれば実現するのか、自分が自治体職員、NPO法人等の職員であれば、どのように行動すべきなのか、合わせて思考、イメージしてほしい。

その他・特記事項

本学の規定に基づき授業は1、2回目は、オンデマンド（YouTube）とZOOMのオンラインの併用で行う。3日目以降は原則対面とする。1、2回目の授業で使用するパワーポイントデータや資料等は、原則3日前までにポータルやメールでデータを送付するので、事前にプリントアウトするなどして、授業に望むこと。グループワークやプレゼンの課題や方法等については、授業内で詳細を説明する。

市民参加論

更新日：2023/01/10 08:53:59

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	G3540A	科目コード	G3540
担当教員	野口 暢子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

市民参加、政治過程、代議制民主主義、直接民主主義、デモ、ディスカッション、パブリックコメント

授業の概要

民主的な政治体制においては、その政治過程における様々な場面において「市民参加」の機会がある。この授業は、「市民参加」という概念を幅広くとらえ、「市民参加」の歴史・理論・制度・実践の方法を講義するとともに、実際に「市民参加」を行うことを通じて、その実効性を体験できるような内容とする。また、日本国内や諸外国における「市民参加」の事例を紹介しながら、「市民参加」の意義と限界を意識できるよう、そして、受講生のディスカッションの中から受講生同士が学びあえるよう、授業内容を工夫する。最終回は、第2回～第13回の授業内容を受け、考えたこと、疑問に思ったことをふりかえり、レポートをまとめることを内容とする。

到達目標

1	「市民参加」の意義が理解できることを目指す。
---	------------------------

教授方法

担当教員による講義、「市民参加」の事例紹介、ディスカッション、パブリックコメントなどの「市民参加」の実践

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（授業の進め方）
2	代議制民主主義を支える「市民参加」
3	選挙を通じて市民の民意を反映することは、可能か？
4	全体主義と「市民参加」
5	ソーシャル・キャピタルと「市民参加」の関係
6	若者の「市民参加」
7	選挙制度
8	少数意見を尊重する方法
9	陳情・請願の方法
10	パブリックコメントの意義
11	国民投票・住民投票
12	デモ
13	政治に無関心な人々は増えているのか？
14	まとめ

授業外における学習

第2回～第13回の授業内容について、毎回、教科書の該当するページを読むことと関連する記事を読むことを事前・事後学習にします。

質問や相談への対応

簡単な質問や相談は、野口の学内メールアドレス宛にメールを送ってください。直接、話をしたい場合には、その概要と面談を希望する日時（面談を希望する候補日時を3つ書いてください）を書いたメールを野口の学内メールアドレス宛に送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	80	理解力、思考力、問題を発見する力
議論	20	自らの考えや疑問点を述べることができたか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる 政治過程論』ミネルヴァ書房、2018年			
	授業内に紹介いたします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ふだんから政治・行政や社会における問題に関心を持ち、わからないことを調べる姿勢を大切にしてください。日本だけでなく、外国で起きていることに関する情報にも触れるようにしてください。

その他・特記事項

特になし

公共経営論

更新日：2023/01/10 08:53:32

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	G3550A	科目コード	G3550
担当教員	田村 秀						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

公共経営、都市、持続可能性、ガバナンス

授業の概要

本講義は、公共経営コースを総括するものである。具体的には、教科書『地方都市の持続可能性』に基づいて、国、自治体勤務の経験を踏まえ、地方都市における公共経営の変遷を歴史的に概観し、現状と課題を論じるとともに、市町村合併や道州論など自治体の適正規模に関する議論も踏まえ、ガバナンスの時代における公共経営のあり方について学生が考察を深めることを目標としている。

【ねらい】

公共経営が多様なアクターで営まれるという多面性を理解することを通じて、公共経営分野の知識が体系的に理解できるようになる。

英語表記「Public Management」

到達目標

1	①公共経営が持つ多面性を説明できる。
2	②特に地方都市における公共経営の課題を説明できる。

教授方法

対面式とオンライン（ズーム）の併用による講義形式とし、毎回学生に質問するなど双方向方式で進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

原則として、公共経営コースに所属していて、公共政策論及び公共政策演習の単位を取得していること。

授業計画

1	講義内容の説明を行うとともに、公共経営の概念について論じる。
2	第1章「データでみる東京のひとり勝ち」について論じる。
3	第2章「だれが都市を殺すのか」について論じる（その1）。
4	第2章について論じる（その2）。
5	第3章「国策と地方都市」について論じる（その1）。
6	第3章について論じる（その2）。
7	第4章「都市間競争の時代へ」について論じる（その1）。
8	第4章について論じる（その2）。
9	第5章「人口減少時代に生き残る都市の条件」について論じる。
10	長野県内の市町村における公共経営の現状と課題について論じる。
11	長野県外の市町村における公共経営の現状と課題について論じる。
12	公共経営における自治体職員の果たすべき役割について考察する。
13	公共経営における首長や地方議員の果たすべき役割について考察する。
14	全体の振り返りを行い、公共経営の多面性を改めて論じる。

授業外における学習

- ①公共政策学、公共政策演習の授業の内容を復習する。
- ②授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

- ・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。
- ・メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	100	公共経営の多面性が理解できているかを基準とする。2回実施する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	田村秀『地方都市の持続可能性』（ちくま新書、2018年）			
	資料をWEBサイトから事前にダウンロードして入手しておくこと。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①地方自治に関するニュースを日頃から読むこと。
- ②行政に関心を持つこと。

その他・特記事項

担当教員は、国、地方自治体で公共経営の実務に携わっている。

地域社会学

更新日：2023/01/10 08:53:36

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	G3560A	科目コード	G3560
担当教員	築山 秀夫						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

地域社会学、都市・農村、まちづくり・むらおこし、地域再生

授業の概要

地域社会を社会的視点でとらえることのできる能力を習得することを目標とする。地域社会学の方法論について解説し、都市・農村それぞれの地域社会の構造や変動、市町村合併による地域社会の変容などについて、地域における生活・人間関係・集団などの諸次元について、多角的に解説する。さらに、少子化・過疎化による人口減少、地域計画とまちづくり、コミュニティの変容など、現代の地域社会に起きている多様な問題群について、社会的にアプローチし、履修者間で、議論しながら、その諸問題の解決策を検討する

現代の地域社会に関する社会的知識を身につけるとともに、地域の課題を観察、分析し、自分なりの解決策を構築できるようになることをねらいとし、以下を到達目標とする。

到達目標

1	①地域社会の構造（都市や農村の成り立ちや仕組み）や変動に関して、理解することができる。
2	②地域社会における現代的課題の構造を理解することができる。

教授方法

授業は講義を中心に行うが、毎回、グループに分かれて議論し、発表するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。社会学を履修していることが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をするポストコロナ時代の地域社会について考察する。
2	地域社会の現在 地域社会の定義、主要統計からみた日本の地域社会の変動について解説する地域とは何か、地域における重要な課題とは何かについて考察する。
3	地域社会学前史 農村社会学・都市社会学から地域社会学に至る背景について解説するグローバル化とローカル化のパラドクスについて考察する
4	地域社会学の方法論 地域社会学の主な理論と方法について解説する
5	第1～4回までの内容について理解度を確認するための小テスト①を実施する。地域社会の変動1 都市の構造及び都市化と地域社会の変容について解説する
6	地域社会の変動2 農村の構造及び過疎化と地域社会の変容について解説する
7	地域社会の変動3 市町村合併と地域社会の変容について解説する市町村合併が地域社会に与えた影響について考察する
8	第5～7回までの内容について理解度を確認するための小テスト②を実施する。地域社会の現代的課題1 人口減少に向き合う地域社会について解説する
9	テーマに関するレポートを提出する。人口減少に抗うための処方箋について、考察する
10	地域社会の現代的課題2 国土のグランドデザイン・地域計画と地域社会について解説する
11	地域社会の現代的課題3 まちづくり・むらおこしと地域再生に向き合う地域社会について解説する
12	テーマに関するレポートを提出する。まちづくり・むらおこしと地域再生をいかに実施するのかについて、考察する。
13	地域社会と大学 大学や学生が地域づくりに関わる意義と方法について解説する
14	まとめ 地域社会をとらえるリテラシーについて 受講者同士のディスカッション

授業外における学習

授業時に配布した資料及びノートをよく読み、復習すること。毎回のテーマに関する予習をすること。毎回、フォローアップ課題に回答すること。

質問や相談への対応

授業後やオフィスアワー時に直接受け付ける。また、毎回、フォローアップ課題を提出していただくので、そちらに書いて頂き、次回の講義時に解答する。但し、自分でできる限り調べる努力をすること。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	地域社会を社会的に分析することができ、講義内容を踏まえて、論理的に自己の考えを説明できればAとする。試験が60点以上なければ、他の成績が良くても及第（可上）できないこととする。
小テスト	20	第5回と第8回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
授業レポート	20	第9回と第12回に、それぞれテーマに沿ったレポートを提出して頂き、評価する。全てのレポートが提出されていることが及第の条件となる。
授業参加度	10	グループディスカッションでの参加度、リアクションペーパーの内容等で評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テキストは使用せず、毎回資料を印刷して配布する。			
	地域社会学会編2011『キーワード地域社会学 新版』ハーベスト社、岩崎信彦・似田貝香門・古城利明・矢澤澄子監修2006『地域社会学講座』（全3巻）東信堂			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業中は講義ノートを取ることを。

その他・特記事項

地域社会に関する関心を持ち、新聞等で、地域社会に関する動向を理解しておくこと。

インターンシップ

更新日：2023/01/10 08:54:18

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シバコード	G3570A	科目コード	G3570
担当教員	穴山 悌三						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

就業実習、社会人基礎力、問題解決

授業の概要

インターンシップは単なる「職場体験」ではなく、大学における各自の学びを基礎として、実社会においてそれらをどのように活かしていくべきかを探り、また大学で習得すべき学問のあり方についても考える機会となります。この授業は、実習先職場における実践的教育を核として、学習すべき事項や方法を学ぶ事前研修、学んだことを振り返り今後の学習に活かす事後研修とレポート提出を行います。本授業の対象とする実習先は原則として各自の選択により決定し、5～14日間にわたる現場実践プログラムを通じて様々な業務を体験します。

到達目標

1	実際の企業や団体での現場・就業体験を通じて、これまでに教科等で学んだ知識・技能の活用可能性を探り、また今後の学習指針の確立等に役立てます。併せて、実務実践過程において主体的な問題発見力・問題解決力等を向上させ、社会人基礎力の習得も目指します。更に、将来の進路・方向性について主体的に考え、進路決定のヒントとなる職業観や価値観を育成します。
---	---

教授方法

事前・事後研修は講義と課題への取り組みを織り交ぜた形式で行います。主たる授業は実習になります。COVID-19の影響をふまえ、オンライン形式となる場合があります。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

受入れ先のプログラムの全日程に参加すること。

授業計画

1	オリエンテーション：授業の位置付け、事前準備の進め方
2	実習先の事前調査：報告と質疑応答
3	ビジネスマナー、目標設定、実習にあたっての心構え
4	事前準備の深掘り
5	実習（実習日程・日数は実習先により異なる）
6	実習成果の振り返り
7	成果報告会等での報告・質疑対応等、成果のまとめ

授業外における学習

- ①実習先についてのリサーチなどの課題に取り組む。
- ②実習時の記録をハンドブックに記入し提出する。
- ③終了後、レポートを提出する。
- ④成果を発表する。

質問や相談への対応

質問は授業中や授業の前後に受け付けるほか、メールでの質問も可能です。アドレス：career-soudan@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
事前・事後研修の平常点	10	事前・事後研修での積極的な発言や課題への取り組みなどの平常点を評価します。
実習先での成果	50	実習先ご担当者様のご意見を参考に担当教員が実習先での学習成果について評価します。
レポート	20	実習後に提出するレポートの内容を評価します。

事後研修での振り返り・発表	20	実習成果の振り返りの内容を評価します。また成果報告会等での優秀な発表には加点します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しません。			
	キャリアセンター作成のハンドブックを使用します。その他は授業中に適宜指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①授業では、主体的に課題などに取り組んでください。
- ②実習先では、ルールを順守し、前向きに取り組んでください。
- ③自分があまり知らなかった業界・企業等の実習先では、かえって知見が大きく広がる場合があります。積極的にチャレンジしてみてください。

その他・特記事項

この授業は2学期と3学期とにまたがる変則的な実施となります。各授業の実施日時などは別途案内しますので大学からの案内等に注意してください。

本年度は遠隔型の授業形式も用いる可能性があります。詳しくはガイダンス等でお知らせします。

実習内容は、実習先により異なります。実習先については、原則としてキャリアセンター指定のリストより選択することになりますが、調整の結果、各自の希望に添えない場合もあります。

実習期間は、概ね5日～10日を目標として、実習先プログラムにより異なります。なお本年度の特殊事情により別途同

ゼミナールⅠ（東）

更新日：2023/01/10 08:52:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3580A	科目コード	G3580
担当教員	東 俊之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

アクティブラーニング、テキスト輪読、ビジネス小説、協働力、合同ゼミ

授業の概要

ゼミナールⅠは、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度を身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考の向上を図ることを目的とする。そのため、1年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。授業では、教員が学生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げる課題発見能力を養成し、2年次に行う「海外実地研修」を踏まえた知見の定着を図る。

「ゼミナールⅠ（東）」では、大きく2つの内容に分かれる。前期（1学期）は、経営組織論についての基礎的なテキストを皆さんと輪読する。各回、グループまたは個人で担当章の内容の要約をプレゼンを行う。後期（3・4学期）は「ビジネス小説」を題材に、経営組織論の基本を学ぶ。前期で勉強した知識を活用し、経営活動を組織論の視点から分析する。こうしたプロセスによって、論理的思考力やプレゼンテーション能力も涵養する。

到達目標

1	「ゼミナールⅠ（東）」では、①グループ活動やアクティブラーニングによって経営学や経営組織論の基本的知見を説明できる、
2	②経営組織論の知見を生かしてグローバル社会の諸課題を検討することができる、
3	③諸課題を検討する過程を通じて主体的に行動できる、ことを主目的としている。
4	そして、④問題を発見し、問題解決へとアプローチする、いわゆる「学問する力」を実践することができる、
5	⑤グループ活動を通じて協働力とリーダーシップ、創造的思考を身につけ実践の場で活用できる、ことも本ゼミでは到達目標の一つである。

教授方法

演習。場合によっては、講義の形式の時もある。また、学外での調査も予定している。さらに、他大学ゼミとの合同ゼミも実施する予定である。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に履修条件はありません。ただし、1年次4学期に開講される「経営組織論」を履修していることが望ましいです。

授業計画

1	【オリエンテーションとゼミ活動準備】ゼミ活動の概要とメンバーの自己紹介、今後のスケジュール調整などを行います。また課外で個人面談を実施します。
2	【ゼミ活動準備】ゼミ活動の準備として、「動物園と水族館の違い」についてメンバーでディスカッションを行います。またプレゼンテーションの方法についても検討します。
3	【経営組織論テキストの輪読（1）】：指定図書①の該当箇所を講読します。
4	【経営組織論テキストの輪読（2）】：指定図書①の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
5	【経営組織論テキストの輪読（3）】：指定図書①の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
6	【経営組織論テキストの輪読（4）】：指定図書①の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
7	【自己点検授業と総合演習】：1学期の授業内容を振り返り、これまで学んできたことを再度確認します。また、2学期・夏期休業中の課題や予定なども案内します。
8	【3学期ガイダンス】：3・4学期の授業内容の説明、スケジュール調整、また『ビジネス小説』を使用した授業の意義と方法をレクチャーします。
9	【ビジネス小説の輪読準備】：指定図書②（ビジネス小説）について、グループ活動を行います。
10	【ビジネス小説の輪読（1）】：指定図書②（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。※毎回、該当章の内容と関連する経営組織論のキーワードを提示します。キーワードを用いて、ビジネス小説を読み解いてください。
11	【ビジネス小説の輪読（2）】：指定図書②（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。※合同ゼミ活動の場合あり。
12	【ビジネス小説の輪読（3）】：指定図書②（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。※合同ゼミ活動の場合あり。
13	【ビジネス小説の輪読（4）】：指定図書②（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。※合同ゼミ活動の場合あり。
14	【ビジネス小説の輪読（5）】：指定図書②（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。※合同ゼミ活動の場合あり。
15	【4学期ガイダンス】3学期までの振り返りと4学期の授業の説明、課題の指示などを行います。また「研究計画書」の書き方についての指導を行います。
16	【ビジネス小説の輪読（6）】：指定図書②（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。

17	【ビジネス小説の輪読（7）】：指定図書②（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
18	【ビジネス小説の輪読（8）】：指定図書②（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
19	【ビジネス小説の振り返り】：指定図書②（ビジネス小説）を振り返り、関連する実例を用いてグループでディスカッションします。
20	【総合演習①】：これまで学んできたことを応用し、指定図書③の事例を取り上げてグループでディスカッションします。
21	自己点検授業と総合演習：1年間の振り返りと次年度へ向けてのプランを検討します。また、課外で個人面談を行います。

授業外における学習

グループ討議やプレゼン準備などグループでの活動が必要です。授業時間外で集まって作業することが多々あります。グループ内で時間を調整し、多くの討議時間や作業時間を確保してください。プレゼンにあたっていない回でも、該当箇所をきちんと読んでプレゼン担当者への確かなコメントができるように準備してもらいます。そのため、わからない用語などは事前に自分で調べておくようにしましょう。

質問や相談への対応

オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。

※オフィスアワーの予定は、授業の初回で案内します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0%	
小テスト	0%	
授業レポート	40%	前期レポート：10%、後期レポート：20%、その他小レポート（数回）：10%※詳細は、第1回授業時に説明
上記以外の授業評価	60%	授業内でのプレゼンテーション：30%、授業やグループ活動への参加度、また予習状況等の平常点：30%（総合的に評価する）※詳細は、第1回授業時に説明
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	(1学期) ①中野勉編著『グラフィック経営組織論』新世社、2021年／(3・4学期) ②荻原哲雄『社員参謀!』日本経済新聞社、2016年、③ジョン・P・コッター著『カモメになったペンギン』ダイヤモンド社、2007年			
	参考書・参考資料は、現時点では特に指定しません。随時、ゼミ内で紹介します。また、英語文献も参照してもらつつもりです。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ゼミ活動には、なるべく積極的に参加してほしいです。
- ・グループ活動も多く、課外の時間に集まって作業してもらおうこともありますので、アルバイトやサークル活動を優先しないでください。
- ・ゼミに入るまで（1年次）の学力や経営学に関する知識は特に問いません。ただし、ゼミ内で勉強してもらおうことも多いので、向学心を持ち続けてほしいです。

その他・特記事項

他大学のゼミと「合同ゼミ」を実施する予定です。その際は、Zoomをつないで遠隔で行います。学外に出かけての調査も予定しています（詳細は未定）。積極的に参加ください。

ゼミナールⅠ（大室）

更新日：2023/01/10 08:52:55

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコド*	G3580B	科目コード	G3580
担当教員	大室 悦賀						
備考							
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	—	

キーワード

授業の概要

到達目標

教授方法

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目標とした授業の工夫	

履修要件

授業計画

授業外における学習

質問や相談への対応

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

その他・特記事項

ゼミナールⅠ（衣川）

更新日：2023/01/10 08:52:56

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3580C	科目コード	G3580
担当教員	衣川 修平						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

アカウンティング・マインド, 財務分析, 会計学

授業の概要

主に会計学を学ぶゼミです。

本年度は中でも企業分析を中心に勉強していきたいと予定しています。

皆さんのニーズがあれば、随時、日商簿記検定の対策や、ライト・フィールドワークも行いたいと思います。

到達目標

1	減損会計, 退職給付引当金, リース会計といった財務会計の個別分野と言われる論点を一つ一つ勉強していくことで, アカウンティング・マインド養成していきます。
2	また、プレゼン能力やディスカッション能力の向上も図っていきます。
3	また財務諸表作成・分析能力についても、時間の余裕に応じて、養成していきます。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

第2学年以降

授業計画

1	授業内容:イントロダクション：軽く自己紹介、役職決定。時間があれば軽くゲームを行います
2	テキスト輪読A①：伊藤邦雄『新・企業価値評価』を予定しています。皆さん2年生でまだ未修の内容もありますので、随時、補講的なレクチャーも入れていきたいと思います。
3	テキスト輪読A②：発表&ディスカッションしていきます。
4	テキスト輪読A③：発表&ディスカッションしていきます。
5	テキスト輪読A④：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。
6	テキスト輪読A⑤：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。
7	テキスト輪読A⑥：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。（1セメ終了、海外研修へ）
8	海外研修報告3・4セメの打ち合わせ
9	テキスト輪読B①：発表&ディスカッションしていきます。
10	テキスト輪読B②：発表&ディスカッションしていきます。
11	テキスト輪読B③：発表&ディスカッションしていきます。
12	テキスト輪読B④：発表&ディスカッションしていきます。
13	テキスト輪読B⑤：発表&ディスカッションしていきます。
14	テキスト輪読B⑥：発表&ディスカッションしていきます。
15	講演：有識者の講演を考えていますが、原価計算か管理会計Ⅰで講演をするかもしれません。その時はゼミ生は積極的に手伝ってください。
16	テキスト輪読C①：発表&ディスカッションしていきます。
17	テキスト輪読C②：発表&ディスカッションしていきます。
18	テキスト輪読C③：発表&ディスカッションしていきます。
19	テキスト輪読C④：発表&ディスカッションしていきます。
20	テキスト輪読C⑤：発表&ディスカッションしていきます。
21	テキスト輪読C⑥：発表&ディスカッションしていきます。

授業外における学習

課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援は行います。

質問や相談への対応

ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか2. 他者の意見を理解したか3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか	
報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか2. 他者の意見を理解したか3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	伊藤邦雄(2014)『新・企業価値評価』日本経済新聞社、を予定しています。			
	随時指定します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。

おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、まったりとした人はまったりと、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！

またなるべく学びの場が楽しくなるように、様々なイベント企画を考えていきましょう。

また演習という性格上、報告時の無断欠席は厳禁です。また5回以上の欠席については、やむを得ない場合を除き、認められません

その他・特記事項

Email: kinugawa.shuhei★u-nagano.ac.jp

ゼミナールⅠ（金）

更新日：2023/01/10 08:52:57

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト	G3580D	科目コード	G3580
担当教員	金 賢仙						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

会社法、金融商品取引法、ビジネス法

授業の概要

このゼミでは、ビジネスに関する法領域を学ぶために必要となる基礎的な学習をする。領域は、主に、商法（会社法）、金融商品取引法を対象とするほか、法学と他領域（例えば、会計学、経済学）との交錯領域も射程に置く。

前半では、基礎概念を学習し、後半では事例研究を行う。

到達目標

1	株式会社、金融・資本市場の基本的な仕組みを理解し、説明できるようになる。
2	株式会社、金融・資本市場に関する時事問題を理解し、説明できるようになる。
3	株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）できるようになるための基礎的知識を習得する。

教授方法

原則として、演習方式とする。適宜、グループ・ワークを取り入れる。

大学がオンライン講義の実施の方針を採る学期については、それによる。別途、案内をするので、確認すること。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。

授業計画

1	ガイダンス
2	アイスブレイク・ゲーム①「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」（日本証券業協会 教材）
3	アイスブレイク・ゲーム②「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」（日本証券業協会 教材）
4	アイスブレイク・ゲーム③「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」（日本証券業協会 教材）
5	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
6	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
7	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
8	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
9	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
10	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
11	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
12	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
13	株式学習ゲーム、会社法、金融商品取引法に関する事例の研究
14	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究
15	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究
16	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究
17	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究
18	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究
19	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究
20	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究

授業外における学習

担当するプレゼン等の準備その他。

質問や相談への対応

原則として、オフィス・アワーに対等する。オフィス・アワーの委細については、ガイダンスその他において案内する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーションの内容と出来ばえ	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。
コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。講義中にコピー等を配布する。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣、第8版、2021） ・伊藤靖史ほか「リーガルクエスト会社法」（有斐閣、第5版、2021） ・河本一郎ほか「新・金融商品取引法読本」（有斐閣、2014） ・松岡啓佑「最新金融商品取引法講義」（中央経済社、第6版、2021） ・会社法判例百選 第4版（別冊ジュリスト 254） ・金融商品取引法判例百選（別冊ジュリスト 214）※つづく※ 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しみながら、学習しましょう。
オンライン講義の実施に関して、別途連絡をしますので、メール等の確認をまめに行ってください。

その他・特記事項

講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。

※参考書つづき※

- ・吉見宏「会計不正事例と監査（日本監査研究学会リサーチシリーズXVI）」（同文館出版、2018）
- ・長島・大野・常松法律事務所その他「会計不祥事対応の実務」（商事法務、2010）
- ・門脇徹雄ほか「ケースブック 上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計失敗事例から学ぶ」（中央経済社、2008） その他、講義中に説明する。

ゼミナールⅠ（首藤）

更新日：2023/03/15 17:38:02

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト*	G3580E	科目コード	G3580
担当教員	首藤 聡一郎						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

グループワーク、ビジネスプラン、社会人基礎力

授業の概要

株式会社マイナビ主催の「課題解決プロジェクト」にチャレンジする。その後、ビジネスプランを作成する。

到達目標

1	経営にかかわる基礎的な知識の習得
2	汎用的能力の育成

教授方法

グループワーク

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

受講希望を申請し、認められている学生

授業計画

1	ガイダンス
2	マイナビ「課題解決プロジェクト」(1)
3	マイナビ「課題解決プロジェクト」(2)
4	マイナビ「課題解決プロジェクト」(3)
5	マイナビ「課題解決プロジェクト」(4)
6	マイナビ「課題解決プロジェクト」(5)
7	マイナビ「課題解決プロジェクト」(6)
8	ビジネスプランコンテストのテーマ分析・スケジュール立案
9	情報の収集と分析(1)
10	情報の収集と分析(2)
11	ビジネスプランの検討(1)
12	ビジネスプランの検討(2)
13	中間発表
14	フィードバックを受けてのブラッシュアップ
15	プレゼンテーションとスライドの流れの検討(1)
16	プレゼンテーションとスライドの流れの検討(2)
17	プレゼンテーションとスライドの流れの検討(3)
18	中間発表
19	フィードバックを受けてのブラッシュアップ
20	ビジネスプランのプレゼンテーション
21	まとめ

授業外における学習

期限内にプロジェクトを完遂するため、授業外でも作業やミーティングを行う必要がでてきます

質問や相談への対応

授業時に対応しますし、メールでの質問・相談も受け付けます

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
ゼミへの貢献	100	発言、提案、資料収集、スライド作成、他のメンバーへの支援、リーダーシップなどを総合的に評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜紹介します			
	適宜紹介します			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しく、真剣に取り組みましょう

その他・特記事項

プロジェクトを通じて様々なことを学びましょう！

ゼミナールⅠ（田村）

更新日：2023/01/10 08:53:00

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバ [※] スコト [※]	G3580F	科目コード	G3580
担当教員	田村 秀						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

地方自治、地域活性化、フィールドワーク、公共政策

授業の概要

単に講義だけでなく、グループディスカッション、地方自治体見学や公共政策の現場でのフィールドワーク（コロナ禍がある程度収まれば）、個人研究の発表などを通じて議論する機会を数多く設け、地方自治や公共政策に関する基本的なスキルを身につけ、公共経営コースで必要な能力を養います。アクティブラーニングを通じて、コミュニケーション能力も高めます。

研究したいテーマや実際にフィールドワークしたい場所を学生に主体的に選んでもらいます。様々な意見に耳を傾け、自分の考えを論理的に表現することができるスキルをゼミを通じて身につけてもらいます。

到達目標

1	・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。
2	・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。
3	・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。
4	・地域の課題の具体的な内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。
5	・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。
6	・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語ることができる。
7	・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。

教授方法

講義も行いつつ、基本は学生と教員、学生同士の議論、プレゼンとし、フィールドワーク状況が許せば行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

政策科学の単位を取得していること。

授業計画

1	ゼミのオリエンテーション、自己紹介など
2	個人研究1
3	個人研究2
4	地方自治講義
5	海外の地方自治講義
6	個人研究発表1
7	個人研究発表2
8	フィールドワークの準備
9	フィールドワーク1
10	フィールドワーク2
11	フィールドワーク3
12	フィールドワーク発表1
13	フィールドワーク発表2
14	グループワークに向けて
15	グループワーク1
16	グループワーク2
17	グループワーク3
18	グループワークの成果報告①

19	グループワークの成果報告②
20	次年度に向けての準備
21	ゼミの総括講義

授業外における学習

地域の様々なことに常に関心を持ってもらいたいと思います。具体的には新聞やインターネットで自分の関心のある地域の出来事、特に自治体の取組みなどについて調べておいてください。自分の出身地や長野県だけでなく、直接関係のない地域の出来事にもアンテナを張ってもらいたいものです。本に関しては、担当教員の著書について、少なくとも1冊以上は目を通しておいてください。

このほか、長野市内を自分の足で回り、自分の目で見える機会を数多く作っておいてください。このゼミのモットーの一つに現場主義があります。地域を実際に自分で

質問や相談への対応

随時受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	50	ゼミでの議論の内容を踏まえて、自分の考えをしっかりとまとめている点を重視します。	
上記以外の授業評価	50	ゼミの出席、議論への参加などを総合的に加味します。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	ゼミの最初に示します。			
	ゼミの最初に示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

地域のことを常に意識してください。

その他・特記事項

授業計画については仮置きで、コロナ感染状況に応じて弾力的に実施します。

ゼミナールⅠ（築山）

更新日：2023/01/10 08:53:01

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3580G	科目コード	G3580
担当教員	築山 秀夫						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

社会学的思考、ゼミ活動リテラシー、サブゼミナール、ポストコロナ時代のまちづくり

授業の概要

3年・4年のゼミに向けて、ゼミ活動のリテラシーを学ぶ。社会学のテキストを受講生が分担して報告し、皆で討論を行うことで、社会学の方法論及び、社会学的思考とは何かについて理解を深める。後半では、まちづくりに関する文献を読み、まちづくりに関する基礎知識をつけ、「ポストコロナ時代のまちづくり」について、議論し、学ぶ。サブゼミとして、フィールドワークを体験する（コロナ禍によってできない場合もある）。門前まちづくりサロンにおいて、市民活動のアクターたちの意見を聞き、議論をする経験を積む。一年間の学びの成果として、グループに分かれて、門前まちづくりサロンにおいて、発表を行う。

到達目標

1	大学の研究室におけるゼミ活動を行うための知識や方法を身につけることが目標である。具体的には、①ゼミ活動、共同活動のルールを理解する。
2	②文献を読み、要点をつかみ、聞き手にとって、分かりやすいプレゼンができるようになる。
3	③ディスカッションを行う心理的障壁を無くし、活発な討議ができるようになる。
4	④フィールドワークに出かける心理的障壁をなくし、現場の大切さを理解する。
5	⑤社会のなかで起きている諸問題について、自ら問いを立て、分析するという研究スタイルを理解する。

教授方法

1. 本ゼミでは、①社会問題研究と②社会学入門テキスト輪読と③グループによる課題研究の3本立て構成：①社会問題の関心を喚起するために、NIE(Newspaper in Education)を用い、自らの意見を述べ、皆で議論をする。②社会学的パースペクティブや分析手法を学ぶために、社会学の入門書の輪読を行う。そして、ゼミ生が、グループに分かれ、関心のある問いを設定し、分析をし、プレゼンテーションを行う。これは、ゼミナールⅡ・Ⅲ・卒業研究で、卒業論文を執筆するための作法を学ぶためのものである。

②では、報告者（

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

1. 総合教育科目「社会学」を履修していることが望ましい。未履修の場合は、2年次に履修すること。
2. 担当教員による科目「コミュニティ・デザイン概論」「社会調査論」「地域社会学」を必ず履修すること。全て2年次に開講されているので、同時並行的に学ぶことになる。

授業計画

1	ガイダンス：ゼミナールⅠの進め方等について 自己紹介事前学習：自分が興味・関心のある社会問題を一人1つ、問いの形式（論点：issueを疑問形で）にして考え、関心理由とその問いを巡る社会的状況について100文字程度でまとめる。事後学習：自分の興味・関心に対する他のメンバーからの質疑応答を経て、理解したことをまとめる。
2	テキスト：船橋晴俊2012『現代社会学ライブラリー2 社会学をいかに学ぶか』（弘文堂）の輪読、毎回テキストを読み進め、担当部分のレジュメを作製・報告し、質疑応答と議論を行い、教員が解説。第1章 学問的ヒットを打つために（勉強と研究とはどのように異なるのか）事前学習：第1章を読み、分からない点をとらえる。読書ノートを作ってくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
3	第2章 社会学の牽引力と社会学的想像力（社会学的想像力によって、何が可能となるのか）事前学習：第2章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
4	第11章 卒業論文と大学院進学（卒業論文に至る積み上げの道）事前学習：第11章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
5	第3章 環境社会学（受益圏と受苦圏）事前学習：第3章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
6	第4章 組織社会学（組織に見いだされる「経営システムと支配システムの両義性」）事前学習：第4章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
7	第5章 社会計画論（社会制御の重層性－社会制御システムと枠組み条件）事前学習：第5章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
8	第7章 中範囲の社会学理論（社会学における実証と理論）事前学習：第7章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
9	第8章 ヴェーバーの方法論と合理性への視点（科学的認識、価値、観点の関係）事前学習：第8章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。

10	第10章 どのように社会調査をおこなったらよいか事前学習：第10章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
11	テキスト：石原武政・西村幸夫編2010『まちづくりを学ぶ 地域再生の見取り図』（有斐閣）の輪読、毎回、テキストを読み進め、担当部分のレジュメを作成して報告し、質疑応答と議論を行い、教員が解説する。序章 いまなぜ、まちづくりか事前学習：序章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
12	第1章 まちづくりとは何か事前学習：第1章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
13	第2章 まちづくりの枠組み事前学習：第2章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
14	第3章 まちづくりの変遷事前学習：第3章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
15	第4章 住民主体のまちづくりを進める仕組み事前学習：第4章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
16	第5章 パートナーシップによるガバナンスの形成事前学習：第5章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
17	第6章 まちを活性化させる地域産業事前学習：第6章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
18	第7章 まちに賑わいをもたらす地域商業事前学習：第7章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
19	第8章 まちを支えるインプットとアウトカム事前学習：第8章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
20	終章 まちづくりの今後に向けて事前学習：終章を読み、分からない点をとらえてくる。事後学習：ゼミを振り返り、分からなかった点を復習する。
21	一年間の振り返り、次年度に向けて

授業外における学習

社会学入門書、まちづくり関連の入門書の輪読をするので、その回で進む部分に関して、テキストを読み、整理しておく必要がある。報告担当者は、しっかりとレジュメを作成し、報告する。非担当者も、当該箇所を読み、分からない部分を明らかにし、的確な質問ができるようにしておく。文献を読む際には、「知らないこと」「分からないこと」は、放置せずに調べて、考えておくことが求められる。「分からないこと」については、ゼミ時間中に、ゼミメンバーとともに議論し、追及すること。また、授業内容を振り返り、整理し、理解を深めてお

質問や相談への対応

ゼミ時間内であればいつでも、時間外であれば、メールにて対応（24時間以内に回答）します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	グループで問いを立て、その問いの所在を明らかにし、エビデンスに基づき、その解答が出来ておれば、優とする。
平常点	50	口頭報告の水準、ディスカッションへの貢献、ゼミ活動全般への取り組み姿勢など
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	船橋晴俊2012『現代社会学ライブラリー2 社会学をいかに学ぶか』弘文堂石原武政・西村幸夫編2010『まちづくりを学ぶ 地域再生の見取り図』有斐閣			
	船橋晴俊2010『組織の存立構造論と両義性論 社会学理論の重層的探求』東信堂岸正彦・石岡丈昇・丸山里美2016『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』有斐閣他			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業時間外の勉強時間が毎日1時間以上、週末数時間以上は必要です。皆さん、勉強しましょう！

その他・特記事項

ゼミの仲間たちと協力しながら、ゼミを作っていくこととなりますので、積極的な取り組みを期待しております。事前・事後学習やフィールドワークなどに多くの時間を費やすこととなりますので、時間管理をしっかりと実践することが必要です。

ゼミナールⅠ（永田）

更新日：2023/01/10 08:53:02

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3580H	科目コード	G3580
担当教員	永田 邦和						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

ファイナンス, 金融論, 経済学

授業の概要

ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けるために、教科書を輪読し、その内容について議論する。また、グループに分かれて関心のある経済・社会問題を研究し、研究成果を大学生を対象にした懸賞論文（日銀グランプリ, 中小企業懸賞論文, 日経ストックリーグ等）に応募する。

到達目標

1	ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けることを目標とする。さらに、現実の経済・社会問題を分析することで、基礎知識の使い方を学ぶ。研究成果を懸賞論文に応募することで、論理的思考力と表現力を養い、発信力ゼミで身に付けたアカデミックスキルズを使いこなせるようにする。
---	---

教授方法

演習形式。対面で行う（特別な事情がある場合のみ、オンライン参加を認める）。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

1年次に経済学入門を履修していると、授業内容を理解しやすい。また、2年次以降に、ファイナンス入門, 金融論, コーポレートファイナンスⅠ・Ⅱ, 金融システム論, ミクロ経済学, マクロ経済学, 経営統計学入門, 数理統計学を履修すると、授業内容を深く理解できるようになる。

授業計画

1	ガイダンス・懸賞論文の説明
2	テキストの報告と討論
3	テキストの報告と討論
4	テキストの報告と討論
5	懸賞論文の中間報告と討論
6	懸賞論文の中間報告と討論
7	懸賞論文の中間報告と討論
8	テキストの報告と討論
9	テキストの報告と討論
10	テキストの報告と討論
11	懸賞論文の中間報告と討論
12	懸賞論文の中間報告と討論
13	テキストの報告と討論
14	テキストの報告と討論
15	テキストの報告と討論
16	懸賞論文の中間報告と討論
17	懸賞論文の中間報告と討論
18	懸賞論文の中間報告と討論
19	懸賞論文の報告
20	テキストの報告と討論
21	テキストの報告と討論

授業外における学習

テキストの予習・復習は必須。予習が不十分だと、授業内容も理解できず、授業中の議論にも参加できない。また、懸賞論文の執筆作業（資料収集と整理, 研究発表の準備, 論文の執筆等）にも時間をかけること。

質問や相談への対応

授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	
小テスト	0	
授業レポート	20	ファイナンスや金融の基礎知識を用いて経済問題を分析しているかどうかを確認する。
上記以外の授業評価	80	日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加，宿題等）と懸賞論文の成果。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	清水克俊（2018）『金融経済学入門』，東京大学出版会			
	適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

懸賞論文での好成績を目指す。

その他・特記事項

特になし。

ゼミナールⅠ（中村陽）

更新日：2023/01/10 08:53:03

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3580I	科目コード	G3580
担当教員	中村 陽人						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ

授業の概要

3, 4年次のゼミは研究活動をメインとしながら、合同会社sigmovの経営、民間企業や自治体との共同プロジェクト、全国レベルの各種コンテストなどに取り組む。2年次のゼミはそれらの活動のために必要な専門的知識と技術を身につける期間となる。

1セメは毎回異なるテーマを設定し、事前準備を基にディベートを行い、3セメは統計学のテキストを使って問題演習を行い、4セメは最新の論文（日本語）を使って論文の読み方、研究の進め方を学ぶ。

到達目標

1	・特定のテーマについて、①論点を整理して課題を設定し、
2	②必要な情報を集めて適切に整理し、
3	③主張の客観的な根拠をそろえ、
4	④効果的に相手に伝える、という一連のスキルを身につけている。
5	・統計学の基礎的な力（統計検定2級程度）を身につけている。実データを統計ソフトを用いて適切に分析し、正しく解釈することができる。
6	・日本語の学術論文を読み、正しく理解できる。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

マーケティング入門を履修していること。

授業計画

1	オリエンテーション
2	情報収集、レジュメ作成（テーマ①）
3	ディベート（テーマ①）
4	情報収集、レジュメ作成（テーマ②）
5	ディベート（テーマ②）
6	情報収集、レジュメ作成（テーマ③）
7	ディベート（テーマ③）
8	統計学の問題演習
9	統計学の問題演習
10	統計学の問題演習
11	統計学の問題演習
12	統計学の問題演習
13	統計学の問題演習
14	統計学の問題演習
15	学術論文（日本語）の精読
16	学術論文（日本語）の精読
17	学術論文（日本語）の精読
18	学術論文（日本語）の精読
19	学術論文（日本語）の精読
20	学術論文（日本語）の精読
21	学術論文（日本語）の精読

授業外における学習

膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の学習や活動がメインとなる。長期休業中も膨大な量の課題がある。

質問や相談への対応

共有している教員スケジュールを確認し、事前に予約する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	授業や課題への取り組み状況を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業の中で適宜指示する。			
	授業の中で適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ゼミの理念を理解し、共感していること。
- ・ゼミ活動に全力でコミットすること。

その他・特記事項

- ・他のゼミとの掛け持ちはできない。
- ・3年次からの入ゼミはできない。
- ・4年次には卒業論文を書かなければならない。

ゼミナールⅠ（中村稔）

更新日：2023/01/10 08:53:04

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコド*	G3580J	科目コード	G3580
担当教員	中村 稔彦						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

少子高齢化対策・地方創生・地域再生・地域活性化・文化で町おこし・持続可能性・環境問題・ダイバーシティ

授業の概要

ゼミナールⅠでは、単に知識を獲得するにとどまらず、ゼミ生自身が望ましい「自治体や社会の姿」を常に考えられるようにしたい。そのために、発表や議論、集団討論、ディベートをする場面を多く設けるようにする。また、レポートだけでなく、春休みにゼミ合宿などもある。その他にも、各個人の意識や知識、思考力を高めるために、グローバル企業の部長や本部長、マネージャー、オーストラリアのクイーンズランド州政府の上席商務官などのワークショップやセッション、セミナー、サブゼミなどを多数実施する。

到達目標

1	本ゼミの到達目標は、専門的な知識や思考能力を高めることはもちろん、それ以外にも公務員や民間企業の面接試験や集団討論、ディベートを突破するスキル、社会に出てから即戦力として活躍するための調査力、分析力、行動力、コミュニケーション力、それに優秀なリーダーになるために必要な問題点を発見する「問題意識力」とそれを解決しようとする「問題解決力」を身に着けることである。
---	--

教授方法

講義形式は一部にして、発表や議論、集団討論、ディベートをする場面をできるだけ多く設けるようにする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

5回欠席した者は単位を付与しない。2年の1学期に地方財政論を必ず履修すること。

授業計画

1	シラバスの記載事項についての確認した上で、自治体の役割や今後の社会の在り方を考え議論する。
2	集団討論（1）
3	集団討論（2）
4	集団討論（3）
5	集団討論（4）
6	集団討論（5）
7	集団討論（6）
8	集団討論（7）
9	集団討論（8）
10	集団討論（9）
11	集団討論（10）
12	集団討論（11）
13	レポートの課題提示 さまざまな資料の使い方について学ぶ。
14	集団討論（12）
15	春休みのゼミ合宿について 行先、行程等の決定
16	ディベート（1）
17	ディベート（2）
18	ディベート（3）
19	ディベート（4）
20	卒業論文発表会の聴講
21	ディベート（5）

授業外における学習

予習は、各回の該当の章・節を読み、理解できない用語や内容について、自分なりに調べてみることである。

また、集団討論やディベートのテーマは、前の週（回）に与えるので、その課題についての現状や課題、改善案等をそれぞれ調べ、その上で自分なりの意見を

持って臨むことが重要である。

復習は、ゼミ内で説明した重要な項目の背景や内容、考え方等の整理とゼミ内で紹介した参考書や新聞、ホームページ等を調べることである。これにより、幅広い経済社会・財政の一般常識を身につけることができるだろう。

質問や相談への対応

随時対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	19	毎回のゼミへの取り組み・熱意、課題への取り組み、発表等の点から総合的に評価する。 (2点×19回 ※初回と発表会を除く)
集団討論	36	内容、表現力、質疑への応答等の点から総合的に評価する(3点×12回)。
ディベート	15	内容、表現力、質疑への応答等の点から総合的に評価する(3点×5回)
レポート	30	評価基準:問題意識、形式面、表現面、執筆の論理等の点から総合的に評価する(30点×1回)。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中村稔彦 [2022] 『攻める自治体「東川町」地域活性化の実践モデル』新評論(税込1,980円)。 玉村雅敏他 [2016] 『東川スタイル—人口8000人のまちが共創する未来の価値基準—』産学社(税込1,980円)。 写真文化首都 [2016] 「写真の町」東川町編『東川町ものがたり』新評論(税込1,980円)。			
	持田信樹 [2009] 『財政学』東京大学出版会(税込3,080円)。 内閣府 [2021] 『少子化社会対策白書(令和3年版)』日経印刷(税込2,420円)。 内閣府 [2021] 『高齢社会白書(令和3年度版)』日経印刷(税込2,420円)。 総務省 [2020] 『令和2年度版 地方財政白書』日経印刷(税込5,315円)。 総務省『各年度 都道府県決算状況調』。 総務省『各年度 市町村決算状況調』。 総務省『各年度 都道府県財政指数表』。 総務省『各年度 類似団体別市町村財政指数表』。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミをより充実したものにするためには、主体的にゼミに参加することである。使用するテキストや参考書をよく読んだり、テーマの現状について深く調べたり、問題点や改善案を真剣に考えたりすることはもちろん、議論に活発に参加したり、レポートを納得いくまでしっかりとまとめたりすることによって、専門分野での思考力を高めることができるので、常にそのような意識で取り組んでほしい。

また、就職活動にも対応できるように、集団討論やディベートのテーマは、現在話題となっている経済社会の問題から与えるようにする。普段から経済社会に関

その他・特記事項

特になし。

ゼミナールⅠ（中川）

更新日：2023/01/10 08:53:05

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3580K	科目コード	G3580
担当教員	中川 亮平						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

企業行動の外部性、組織と労働、社会と労働、世界経済の動向、経済史

授業の概要

企業行動の外部性、組織と労働、社会と労働、世界経済の動向、経済史など幅広く扱う。学生による研究発表と文献講読を二本柱とし、アドホックに他大学との合同ゼミや学外活動などを実施する。学生たちによる運営を基本とするため、ゼミ生の皆さんの能動的な学びと参加を必要とする。履修条件はないが、多読と多事争論を必須とする。英語の文献を読んだり、英語によるコミュニケーションが発生することもある。

到達目標

1	①基礎となる文献講読とそのプレゼンテーションに慣れること。
2	②学生各自が研究テーマを決め、自身で問いを立てて検証すること。
3	③能動的・計画的に学業やプロジェクト運営を行えること。
4	④卒業論文・卒業研究への導入としての思考力を養うこと。

教授方法

演習形式。ゼミ生主導で輪読、研究発表、プロジェクト等を実施・運営する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

能動的に参加すること

授業計画

1	イントロダクション
2	企業とは何か：輪読、発表の準備（A班）
3	企業とは何か：輪読、発表の準備（B班）
4	企業とは何か：輪読、発表の準備（C班）
5	企業統治：輪読、研究発表（A班）
6	企業統治：輪読、研究発表（B班）
7	企業統治：輪読、研究発表（C班）；1学期総括
8	経済と歴史：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（A班）
9	経済と歴史：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（B班）
10	経済と歴史：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（C班）
11	日本経済と世界：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（A班）
12	日本経済と世界：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（B班）
13	日本経済と世界：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（C班）
14	経済発展と貧困・格差：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（A班）
15	経済発展と貧困・格差：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（B班）
16	経済発展と貧困・格差：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（C班）
17	プロジェクト（合同ゼミ、外部者との協働、他）
18	「働く」ということ：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（A班）
19	「働く」ということ：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（B班）
20	「働く」ということ：輪読、研究発表、プロジェクトの準備（C班）
21	プロジェクト（合同ゼミ、外部者との協働、他）

授業外における学習

内外の経済的・政治的・社会的背景とその変遷について、あらゆる分野にわたっての一定の理解が求められる。講義外でも積極的に多方面の読書や情報理解を怠らないこと。

また、日本経済新聞、The Economistなど、時事的な記事に常時。目を通しておくこと。

質問や相談への対応

常時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	70	輪読、研究発表、プロジェクトの準備・運営、議論・発言、ゼミの運営など
研究報告書	30	1・4学期末
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜指定する。			
	吉村・田中・伊藤・稲葉（2017）『企業統治』中央経済社； 小野塚知二（2018）『経済史 いまを知り、未来を生きるために』有斐閣； ケインズ（1936）『雇用・利子・および貨幣の一般理論』（諸版あり） 他、適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

能動的な学びの場であり、ミスを恐れず、寧ろ「指摘してもらえれば儲けもの」という意気込みで参加すること。出席しただけでは「授業への貢献度」のポイントとはならない。討論への参加、発言等、授業に対して何らかの貢献があると認められてはじめて有効となる。あまり周囲の目を気にせず、しかし同時に周囲の多様な意見を理解しながら、積極的に議論に参加してほしい。

その他・特記事項

担当教員は国内外で金融・経済調査・国際会議の実務経験を有する。

ゼミナールⅠ（野口）

更新日：2023/01/10 08:53:05

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3580L	科目コード	G3580
担当教員	野口 暢子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

公共政策、諸外国の制度、政策提言、比較政治、自治体

授業の概要

①三重県南伊勢町で行われる日本公共政策学会・公共政策フォーラム（学生政策コンペ）で実効性のある提言を行えるよう、準備し、発表する。②諸外国の公共政策について、受講生がひとり1ヶ国を担当して調査し、その内容を比較検討する。

到達目標

1	前半は、政策コンペで意義のある発表ができるように準備する中で、情報を収集をする力・決められた時間内にわかりやすく発表をする力・社会における課題を解決できる政策立案ができる力を身に付けることを目指します。後半は、公共政策の各国比較研究を通じて、知識の幅をひろげ、比較考察を通じて、思考を深めることを目指します。
---	--

教授方法

前半は、日本公共政策学会・公共政策フォーラム（学生政策コンペ）に出場し、発表する「政策提言」をまとめる。後半は、受講生ひとりひとりがひとつの国を担当し、同じテーマについて公共政策の比較検討を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ゼミナールⅠ（野口）の履修を認められていること

授業計画

1	ガイダンス（ゼミナールの進め方など）
2	どのような政策提言を行いたいのか（全員が1つずつアイデアを考えてくる）。
3	第2回の発表を受けて、発表するテーマを考える。
4	第3回で出されたテーマのいくつかについて、発表を行う。
5	第4回で発表が行われたテーマのいくつかについて、発表を行う。
6	発表内容の決定
7	政策コンペでテーマとする内容について発表を行う。
8	政策コンペでテーマとする内容について発表を行う。
9	発表に関する調査に行く。
10	第9回の調査のまとめ
11	発表に関する調査に行く。
12	第11回の調査のまとめ
13	模擬発表会（第1回）
14	模擬発表会（第2回）
15	模擬発表会（最終回）
16	受講生それぞれがどの国を担当するかを決める。
17	諸外国の議会制度・選挙制度・政党
18	諸外国の大統領・首相・内閣
19	諸外国の地方自治制度
20	諸外国の福祉政策
21	諸外国の教育制度・教育政策

授業外における学習

毎回の発表に関する準備

質問や相談への対応

簡単な質問や相談は学内メールアドレス宛に送ってください。会って話をしたい場合は、その旨をメールに書き、野口の学内メールアドレス宛に送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表の内容	70	正確な情報をもとに、わかりやすく発表できたか。
質問する力	20	他の受講生の発表について、適切な質問ができたか。
政策コンペにおける役割	10	政策コンペに関して分担した役割をしっかりと果たすことができたか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	授業内に紹介いたします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日頃から、社会に存在する問題に関心を持ち、書籍・新聞・論文などを読んだり、映像をみたり、語り合ったりすることを心がけてください。

その他・特記事項

ゼミナールを休む際には、必ず、ゼミナールが始まる時間までに野口の学内メールアドレス宛に連絡をください。

ゼミナールⅠ（三浦）

更新日：2023/03/07 18:59:03

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト*	G3580M	科目コード	G3580
担当教員	三浦 正士						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

授業の概要

この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいた学習を行うため、学期ごとに異なる課題を設定することで、地方自治を理論と実践の双方から学ぶことをめざす。

到達目標

1	①地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。
2	②論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。
3	③議論に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。

教授方法

演習形式で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「行政学」「地方自治論」を履修することが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション ゼミナールの進め方について説明するほか、簡単なグループワークを行い、ゼミ生の個性を知り合う。
2	地方自治のしくみについて学ぶ (1) 地方自治を考える視点、地方自治の歴史 教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、地方自治の歴史に対する理解を深める。
3	地方自治のしくみについて学ぶ (2) 地方自治の基盤（住民参加、協働） 教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、住民参加・協働に対する理解を深める。
4	地方自治のしくみについて学ぶ (3) 地方自治を支える機構（首長、議会、行政組織） 教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、地方自治の機構に対する理解を深める。
5	地方自治のしくみについて学ぶ (4) 地方自治の課題（公民関係、自治体職員のあり方） 教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、公民関係や公務員に対する理解を深める。
6	地方自治のしくみについて学ぶ (5) 欧米諸国の自治 教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、欧米諸国の自治に対する理解を深める。
7	地方自治のしくみについて学ぶ (6) 人口減少社会への対応 教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、人口減少社会に対する考察を深める。
8	自治体の多様性と直面する政策課題について考える (1) ゼミで決定した政策課題についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。
9	自治体の多様性と直面する政策課題について考える (2) ゼミで決定した政策課題についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。
10	自治体の多様性と直面する政策課題について考える (3) ゼミで決定した政策課題についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。
11	自治体の多様性と直面する政策課題について考える (4) ゼミで決定した政策課題についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。
12	自治体の多様性と直面する政策課題について考える (5) ゼミで決定した政策課題についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。
13	自治体の多様性と直面する政策課題について考える (6) ゼミで決定した政策課題についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。
14	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（まとめ） これまでの報告内容を踏まえ、自治体の直面する政策課題とその解決方策について講義を行い、議論を深める。
15	自治体の現場と政策の実践について学ぶ (1) ゼミ生の問題関心を踏まえてひとつのテーマを取り上げ、自治体へのヒアリング調査やプレゼンテーションを行い、議論を深める。
16	自治体の現場と政策の実践について学ぶ (2) ゼミ生の問題関心を踏まえてひとつのテーマを取り上げ、自治体へのヒアリング調査やプレゼンテーションを行い、議論を深める。

17	自治体の現場と政策の実践について学ぶ (3) ゼミ生の問題関心を踏まえてひとつのテーマを取り上げ、自治体へのヒアリング調査やプレゼンテーションを行い、議論を深める。
18	自治体の現場と政策の実践について学ぶ (4) ゼミ生の問題関心を踏まえてひとつのテーマを取り上げ、自治体へのヒアリング調査やプレゼンテーションを行い、議論を深める。
19	自治体の現場と政策の実践について学ぶ (5) ゼミ生の問題関心を踏まえてひとつのテーマを取り上げ、自治体へのヒアリング調査やプレゼンテーションを行い、議論を深める。
20	自治体の現場と政策の実践について学ぶ (6) ゼミ生の問題関心を踏まえてひとつのテーマを取り上げ、自治体へのヒアリング調査やプレゼンテーションを行い、議論を深める。
21	まとめ これまでの内容について振り返るとともに、住民として地方自治にどのように関わるか、地域課題に対してどのように対応していくべきか等について、自分の意見を持つことができたか確認を行う。

授業外における学習

事前学習

- ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。
- ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、教科書を精読するとともに、自治体の政策課題に関する情報を収集する。

事後学習

- ・ゼミナールでの学習内容について、教科書や参考書を読み、理解を深める。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業での報告	70	ゼミナールにおいて課した報告の内容について、地域課題の発見力、地域課題の解決に向けた企画立案力を評価する。
議論への参加度	30	ゼミナールにおける議論への参加度や貢献度から、コミュニケーションの積極性、主体性、能動的な学習の姿勢を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	初回授業時に提示する。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

授業中に適宜参考書を紹介する。

受講生に望むこと

ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。

その他・特記事項

特になし。

ゼミナールⅠ（宮崎）

更新日：2023/01/10 08:53:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3580N	科目コード	G3580
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

健康 地域アセスメント 地域への愛着 ACEプロジェクト

授業の概要

ゼミナールⅠの目的は、地域社会の様々な課題に関する調査・検討を行いそのプロセスを通じて主体的に行動する態度を身につけ、協働とリーダーシップ、創造的思考の向上を図ることである。一年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力と社会の諸課題への関心を一層高める。

「健康生活」「健康な地域づくり」「健康経営」「ヘルスビジネス」等の言葉に代表するように、人々の生活だけでなく公共経営、会社経営、企画授業に「健康」の視点があると人々は生き生きとした幸せに近づける。保健を通じて「誰一人取り残さない」SDGsの実現を分野を超えて考えてみたい。ゼミⅠでは、そのための基盤づくり戸して「地域をみる」ことを通じ、人々の日常に触れたいと考えている。

追究していきたい具体的なテーマは、学生自身が自ら探求し設定していく。その過程で、「地域をみる」方法を学び、発信力ゼミで培ったスキルを実際に用いて科学的探求方法の基礎を学ぶ。

到達目標

1	①自身の興味関心を広げ深める
2	②地域をみる方法を理解する（人々を知る、ソーシャル・リソースを知るなど）
3	③科学的探求方法の基礎を理解し、追求したい課題を発見する

教授方法

ゼミナール（討議、発表、報告、演習、地区視診等）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

とくになし

授業計画

1	オリエンテーション ゼミナール計画立案
2	情報収集の方法と情報のありか 文献クリティーク例
3	写真を活用したフィールド調査
4	調査の試行と報告1
5	調査の試行と報告2
6	学生の関心事（文献レビュー）& 共通学習テーマ
7	フィールド調査（第1次資料）報告会
8	ACEプロジェクトの概要とその課題
9	既存資料の収集と第1次資料の収集計画
10	既存資料の収集と第1次資料の収集計画
11	課題整理と不足の情報
12	第1次資料の収集
13	学生の関心事（第1次資料の調査結果）
14	学生の関心事（第1次資料の調査結果）
15	フィールド調査計画 情報収集（第1次資料について）
16	第1次資料の収集
17	学生の関心事（文献検討）
18	第1次資料の収集
19	学生の関心事（文献検討）
20	ACEプロジェクトへの新たな提案発表 プレゼンテーション 討論会
21	ACEプロジェクトへの新たな提案発表 プレゼンテーション 討論会

授業外における学習

各自のプレゼンテーションが主な授業内容となる。このため事前準備を十分に実施し授業に臨むようにしてほしい。
普段より関心事について、図書館にて文献検索、ニュース・雑誌等で情報収集したり、地域の文化等に広く触れるなどを積極的に行ってほしい。

質問や相談への対応

授業、メール等を活用

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	50	文献検討、地域への愛着ワーク等の課題・成果物等の提出・内容
ゼミ内容	50	ACEプロジェクトへの提案を中心としたプレゼンテーションの資料・内容・発言他
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	特になし（ゼミ計画後テキストを使用する可能性あり）			
	参考書・参考資料は、必要時紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミナールの運営は学生が主体的に準備・進行する

その他・特記事項

ゼミ1では視野を広げることを心がけたい

ゼミナールⅠ（宮下）

更新日：2023/01/10 08:53:09

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3580O	科目コード	G3580
担当教員	宮下 清						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

経営学、ビジネス、マネジメント、企業、地域事業

授業の概要

本授業では、基本書（テキスト）に基づき、経営学・ビジネス・マネジメントを理論的に、また地域・国内・海外の事業や企業の事例を通して、それらを実践的に学んでいく。

経営学・ビジネス・マネジメントを学ぶ上では理論的枠組みや体系的な知識が必要であり、またそれらの学びでは、地域、国内、海外の事業や企業における実際を通して理解することが重要である。

到達目標

1	本授業の第一の目標は、地域事業や経営に関するテキストや文献から、経営学、企業、ビジネス、マネジメントについて理論的に学び理解をすることであり、経営学の基本的な概念を説明できるようになることである。
2	第二の目標は、地域、国内、海外事業の事例や現場の見聞から、経営学、企業、ビジネス、マネジメントを実践的に学び理解することであり、企業などの施策や戦略を経営学に基づき、説明できるようになることである。
3	第三の目標は、経営学やマネジメントの分野で地域（ローカル）と国際（グローバル）の双方の視点が得られるようになることである。これは例えば企業など組織の戦略や施策について、また商品やサービスからどのような地域やグローバルを対象とするかを考えられるようになることである。

教授方法

教材や課題の予習と講義、また受講生の発表と討議による演習方法による学習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経営学入門を履修していることが望ましい

授業計画

1	ゼミの概要「経営学とゼミでの学習」の説明、担当教員、ゼミメンバーの紹介
2	I. 経営学の理解を図る 1. 経営学の学習、2. 課題による学習、の進め方について
3	経営学理解のための学習① 企業とは何か
4	地域事業・活動からの課題を探る
5	経営学理解のための学習② 起業プロセスと起業家
6	経営学理解のための学習③ 株式会社とコーポレートガバナンス
7	課題に関連した経営学の取り組み
8	II. 地域からはじまる経営学の学習 1. 経営学の理解を図る、2. 課題による学習
9	地域と国内と海外の課題と経営学の関わりを探る
10	経営学理解のための学習④ 経営管理を学ぶ
11	地域事業・活動からの課題を調べる①
12	経営学理解のための学習⑤ 経営戦略を学ぶ
13	地域事業・活動からの課題を調べる②
14	地域と国内と海外の課題と関連する経営学
15	III. 地域から発展する経営学の学習 1. 経営学の理解を図る、2. 課題による学習
16	地域～海外の課題から自分の課題を決定する
17	経営学理解のための学習⑥ 経営組織を学ぶ
18	自分の課題を調べる①
19	経営学理解のための学習⑦ 国際経営を学ぶ
20	自分の課題を調べる②
21	自分の課題をまとめる、発表する

授業外における学習

経営学を意欲的に学び、活かすことを目指すため、事業外の学習が求められる。具体的には、必要な文献を収集し、それらを精読すること、関連する現場を訪問し、事例をできるだけ現実的に体験することに取り組む。そして、それらを理解する、自分で考える、まとめるといった一連の学習サイクルを回すことが、事前学習と事後学習となる。

質問や相談への対応

オフィスアワー、授業前後、またメールでのアポイントにより対応する

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	50	数回提出する課題レポートの評価
その他	50	ゼミでの発表、討議、質疑
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『新時代の経営マネジメント』創成社, 中山、丹野、宮下共著, 2018年。			
	『日本で一番大切にしたい会社』あさ出版, 坂本著, 2008年。 『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣, 上林他著, 2018年。他			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミでは、常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学びかつ活用できるようになることを目指してください。また前提となるゼミの雰囲気は大切であり、それを理解共鳴し、お互いを信頼し尊重し協力し合えるゼミとしていきたい。

その他・特記事項

スケジュールや内容は枠組みであり、実際の取り組みは、必要に応じて修正改善していく。

ゼミナールⅠ（尹）

更新日：2023/02/27 12:52:52

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバ [®] スコト [®]	G3580P	科目コード	G3580
担当教員	尹 大栄						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

マネジメント、地域産業、国際経営

授業の概要

本ゼミのテーマは、2つある。

（前半）長い歴史の中でしぶとく生き残ってきた世界の代表的な地域・地場産業について学ぶ。「企業寿命30年」説から考えると、数百年もの長い時間を存続し、いまなおそれぞれの地域経済を支えている地域産業は経営学的にとっても面白い！長野県の地域産業の活性化についても議論する。

（後半）日本企業の海外売上高比率は6割を超え、今後も拡大傾向が続くと予想される。国内市場よりも海外市場、とりわけアジア市場でいかに競争優位性を確保できるかが極めて重要な経営課題となっている。「異文化マネジメント」や「経営の現地化」の面で課題を抱えながらも、大変元氣なアジアの日系企業の事例について学ぶ。機会があれば皆さんとアジアの日系企業に現地調査に出かけたい！

到達目標

1	（前半）地域・地場産業の持続性要因について理解する。地域産業の持続性は各地域が生み出してきた様々な制度的仕組みや慣行に負うところが大きい。それらの制度的仕組みや慣行というのは、それぞれの地域産業に関わる人々の知恵や工夫が長い時間をかけて集約され、煮詰められ、発酵して生み出された産物であることを理解する。
2	（後半）日本企業のアジア進出の歴史を踏まえたうえで、海外（アジア）ビジネス特有の課題（ex.,異文化マネジメント）について理解する。また、現地の地元企業や韓・中・欧米系企業と比べて日系企業はどのような強みと弱みを持っているのかを理解する。

教授方法

指導教員が解説を行う（＝講義形式）こともあるが、基本的には受講生によるプレゼンとそれについての質疑応答（＝討論形式）で進めていく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ゼミでの議論に積極的に参加し、ゼミ活動に貢献すること。

授業計画

1	イントロダクション：ゼミの進め方について
2	テキスト『地域産業の持続性』の輪読（第1章）
3	テキスト『地域産業の持続性』の輪読（第2章）
4	テキスト『地域産業の持続性』の輪読（第3章）
5	テキスト『地域産業の持続性』の輪読（第4章）
6	テキスト『地域産業の持続性』の輪読（第5章）
7	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。
8	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。
9	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。
10	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。
11	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。
12	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
13	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
14	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
15	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
16	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
17	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
18	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
19	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
20	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。
21	まとめ

授業外における学習

個別の研究テーマに応じて、フィールドワーク（産地や企業訪問など）を行う。

質問や相談への対応

研究室（B304室）訪問や、メールでの質問・相談に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を達成している。【D】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
プレゼン	70%		
レポート	30%		
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・尹大栄（2014）『地域産業の持続性』中央経済社。			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・自分の研究課題に関する文献レビューをしっかりと行うこと
- ・ゼミの議論に積極的に参加（発言）すること

その他・特記事項

とくになし

ゼミナールⅠ（穴山）

更新日：2023/01/10 08:53:35

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3580Q	科目コード	G3580
担当教員	穴山 悌三						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

産業組織、ミクロ経済学、産業分析

授業の概要

このゼミでは、基礎的な経済学理論を学びつつ、さまざまな産業（自動車などの製造業種はもちろん、小売・サービス業、エネルギー・通信・運輸等のネットワーク産業など）を取り上げ、各企業のシェアなどの市場構造や、企業の戦略的行動（たとえば価格付けや広告など）を分析します。一般の授業のような一方の説明にとどまらず、参加者が自ら行動して学ぶ機会を多くつくります。

到達目標

1	本ゼミでは、経済学や経営などの基本的な理論と実証の考え方を学び、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析の枠組みについて理解を深めます。本ゼミを履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を分析する力が身に付きます。また一連の討議・報告等を通じて、関連するテーマについて主体的に自分の意見を言えるようになります。
---	---

教授方法

基本的には参加者が準備したレジュメ等を用いて演習を行います。第1回演習でガイダンスを実施します。第2回以降は上級生と協働しつつ、ミクロ経済学や経営の基礎、産業組織分析のいろいろなアプローチについて学びます。3学期以降は、それぞれが興味を持った産業を選び、チーム編成して初歩的な産業組織分析にチャレンジします。前半は指定されたチームで順に準備・報告を行うことが中心となり、後半は産業・テーマ別のチームによる共同研究に関する討議・報告などが中心となります。全体を通じ、ミニゲームなどのアクションラーニング要素も取り入れ、常に積極的な対話を行います。またCOVID-19の影響をふまつつ、事情が許す限りにおいて、ヒアリング等の学外活動も計画します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

本ゼミへの参加を希望し、担当教員が参加を認めた者。

授業計画

1	4/11 ゼミの進め方等のガイダンス、ミクロ経済学知識の確認
2	自己紹介、上級生の成果報告・討議
3	上級生の成果報告・討議、チーム対抗企画
4	レジュメの報告・討議：価格戦略
5	レジュメの報告・討議：製品差別化
6	レジュメの報告・討議：品質と広告
7	レジュメの報告・討議：競争優位戦略
8	レジュメの報告・討議：技術戦略
9	レジュメの報告・討議：市場集中、参入障壁
10	レジュメの報告・討議：カルテル
11	レジュメの報告・討議：企業結合
12	レジュメの報告・討議：垂直的取引制限
13	レジュメの報告・討議：マルチサイド市場とプラットフォーム
14	前半のまとめ
15	各人の関心事項・研究計画発表
16	別途案内します
17	別途案内します
18	別途案内します
19	別途案内します
20	別途案内します
21	別途案内します

授業外における学習

チーム単位での討議や、授業中に報告するレポート作成などが当番制で必要になります。また自分の当番以外の回のゼミでは、あらかじめ他のチームのレポートに目を通しておき、ゼミの場で積極的に発言するための用意をしておくことが求められます。学外でのヒアリングなどを実施する際は、授業外での活動となります（任意参加）。

質問や相談への対応

質問や相談を歓迎します。メールでの質問や相談はもちろんのこと、ゼミ終了後の時間も活用ください。ゼミ開催後以外で直接話したいことなどがあれば、メールで日時約束の上、研究室を訪問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レジュメ	50	ゼミに提出するレジュメを評価します。評価基準は、豊富な文献や先行研究、事例などを意欲的に調べるなど、十分な準備と学習成果がよく反映され、自分なりの付加価値を付ける姿勢がみられたものを高く評価します。
平常点	50	ゼミにおける各種報告・発言での貢献などの平常点を評価します。価値ある発言を積極的に行うものを高く評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	以下を用いるので各自購入してください。 ◆小田切宏之[2019]『産業組織論—理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣。			
	ゼミの中で適宜指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミでの学習は大学における学びの中心ともなる貴重な機会です。主体的・積極的に参加して、大いに成長してください。

その他・特記事項

参加人数の関係で上級生との協働が中心になります。詳しくは第1回ガイダンスで説明します。原則として対面授業で行いますが、開始後第1週はオンライン授業となりますのでメール等での案内に注意してください。2学期にサブゼミ開催の希望があれば、内容や進め方などを相談して決めます。参加者の希望をふまえ、学外活動を実施したいと考えていますが、諸情勢の動向等も勘案し、実施有無や内容等はゼミ開始後に相談して決定します。また相談の上、他の企画等も随時検討します。

ゼミナールⅠ（鶴田）

更新日：2023/01/10 08:54:37

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3580R	科目コード	G3580
担当教員	鶴田 靖人						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

データサイエンス、統計学、プログラミング、Python

授業の概要

このゼミで扱う分野は、統計学、機械学習、最適化といった領域である（これらを含めてデータサイエンスという言い方もする）。データ分析に適したプログラミング言語であるpythonを学び、その後、pythonを用いたデータの処理・分析を行う方法を習得する。具体的には、①データの整形（データをきれいな形に直して分析可能な状態にすること）②分析③分析結果の解釈を学んでいく。実際にプログラムを書いてデータ分析を行うことで、統計学的な素養を身につけることを目指す。

到達目標

1	Pythonの基本的な構文を理解し、簡単なプログラムを書けるようになる。
2	Pythonを用いたデータの整形・集計方法を習得する。
3	データ分析の方法を身に付け、実際のデータに応用して問題を解く力を身につける。

教授方法

演習形式で実施します。1回から8回までは教員の指示に従ってプログラミングの演習を行います。9回以降は、輪講形式で進めていき、担当者が担当する内容を発表します。適宜グループワークを実施していきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修条件は設けません。ただし、2年次に「経営統計学入門」を履修するのが望ましいです。

授業計画

1	プログラミングの基礎 (1) Pythonの説明
2	プログラミングの基礎 (2) 値と変数
3	プログラミングの基礎 (3) Pythonの標準ライブラリとオブジェクトのメソッド
4	プログラミングの基礎 (4) 条件分岐と繰り返し
5	プログラミングの応用 (1) ファイルの読み込みと書き出し、グラフの描画方法
6	プログラミングの応用 (2) データの配列(リスト、タプル、NumPy)
7	プログラミングの応用 (3) Pythonでデータ分析を実践する
8	プログラミングの応用 (4) ユーザー定義の関数
9	レポートのピアレビュー
10	データサイエンス (1) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
11	データサイエンス (2) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
12	データサイエンス (3) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
13	データサイエンス (4) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
14	データサイエンス (5) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
15	データサイエンス (6) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
16	データサイエンス (7) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
17	データサイエンス (8) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
18	データサイエンス (9) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
19	データサイエンス (10) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
20	データサイエンス (11) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ
21	データサイエンス (12) 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ

授業外における学習

指定した教科書を参考に授業の予習・復習をしてください。前回までの授業内容を理解している前提で授業を行います。

質問や相談への対応

質問は、基本的にメールで受け付けます。

アドレス：tsuruta.yasuhito@u-nagano.ac.jp

オフィスパワーを設定します（日時は授業で説明）。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
課題	30	授業の理解度に応じて評価する
発表	30	輪講で担当する章の報告内容・レジュメなどによって評価する
平常点	20	グループワークでの貢献、授業中に積極的に発言するなどの参加態度によって評価する
レポート	20	データサイエンスに関するレポートによって評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	大重美幸著『詳細！Python 3 入門ノート』ソーテック社、2017年。			
	授業で適宜指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に関連する内容を自分で調べ学習する積極的な学習姿勢を歓迎します。データサイエンスに関連する分野の学習に関して相談があればいつでも対応します。

その他・特記事項

プログラミングを実施するためPCが必携になります。

ゼミナールⅡ（田村）

更新日：2023/01/10 08:53:33

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト	G3590A	科目コード	G3590
担当教員	田村 秀						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

地方自治、地域活性化、地方創生、グループディスカッション、フィールドワーク

授業の概要

単に講義だけでなく、グループディスカッション、地方自治体見学や公共政策の現場でのフィールドワーク、個人研究の発表などを通じて議論する機会を数多く設け、地方自治や公共政策に関する基本的なスキルを身につけ、公共経営コースに必要な能力を養います。アクティブラーニングを通じて、コミュニケーション能力も高めます。

研究したいテーマや実際にフィールドワークしたい場所を学生に主体的に選んでもらいます。様々な意見に耳を傾け、自分の考えを論理的に表現することができるスキルをゼミを通じて身につけてもらいます。

3年と4年が合同で実施するので、1, 2学期は主に3年が、3, 4学期は主に4年が発表を行います。

到達目標

1	・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。
2	・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。
3	・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。
4	・地域の課題の具体的な内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。
5	・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。
6	・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語ることができる。
7	・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。

教授方法

講義も行いつつ、基本は学生と教員、学生同士の議論、プレゼンとし、フィールドワークも随時行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

政策科学の単位を取得していること。

授業計画

1	ゼミの進め方について説明
2	グループディスカッションの準備
3	発表1
4	発表2
5	発表3
6	発表4
7	発表5
8	発表6
9	発表7
10	グループワーク1
11	グループワーク2
12	グループディスカッション1
13	グループディスカッション2
14	2学期のまとめ
15	フィールドワーク準備
16	フィールドワーク1
17	フィールドワーク2

18	フィールドワーク3
19	フィールドワーク発表1
20	フィールドワーク発表2
21	3学期のまとめ
22	講義
23	ミニゼミ論の作成
24	ミニゼミ論の作成
25	ミニゼミ論の作成
26	ミニゼミ論の発表
27	ミニゼミ論の発表
28	ゼミのまとめ

授業外における学習

地域の様々なことに常に興味を持ってもらいたいと思います。具体的には新聞やインターネットで自分の関心のある地域の出来事、特に自治体の取組みなどについて調べておいてください。自分の出身地や長野県だけでなく、直接関係のない地域の出来事にもアンテナを張ってもらいたいものです。本に関しては、担当教員の著書について、少なくとも1冊以上は目を通しておいてください。

このほか、長野市内を自分の足で回り、自分の目で見る機会を数多く作っておいてください。このゼミのモットーの一つに現場主義があります。地域を実際に自分で

質問や相談への対応

随時受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	50	ゼミでの議論の内容を踏まえて、自分の考えをしっかりとまとめている点を重視します。	
上記以外の授業評価	50	ゼミの出席、議論への参加などを総合的に加味します。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	ゼミの最初に示します。			
	ゼミの最初に示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

地域のことを常に意識してください。

その他・特記事項

授業計画は仮置きであり、コロナ感染状況を勘案の上、柔軟に実施します。

ゼミナールⅡ（築山）

更新日：2023/01/10 08:53:37

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3590B	科目コード	G3590
担当教員	築山 秀夫						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

フィールドワーク、共同調査、住民主体による地域ビジョン、持続可能性

授業の概要

本ゼミでは、構造的な矛盾に晒された地域社会をいかに再生し、持続可能性を担保するのかについて、地域社会学の手法を用いて、フィールドワークを通して学ぶ。

3年次には、ゼミ生全員で共同研究・共同調査を実施し、4年次では、ゼミ生が個々に問いを立て、「持続可能な地域社会をいかにつくるか」を研究する。教員およびゼミの仲間と共同の問題を設定し、共同で、フィールドワークを行うことで、資料の収集、先行研究のサーベイ、質的調査の方法などを共に学び、共同論文をそれぞれの執筆箇所を明らかにしながら完成させる。完成させた論文は、学外で発表し、外部雑誌に投稿する。

到達目標

1	一つ、ある研究テーマや社会課題に対して、それに対する処方箋を得るために、必要な資料の収集、先行研究のサーベイができ、論理的な分析ができるようになること。
2	一つ、問題をある課題として、設定することができ、その問題の構造をとらえるために、新しい概念を構想することができるようになること。
3	一つ、自分が分析したプロセスやそれによって得られた処方箋について、他者に分かりやすく提示することができるようになること。
4	一つ、他者と連帯し、他者に対して自分を開き、お互いをサポートしながら切磋琢磨し、一つの課題に対して、処方箋をみちびくことができるようになること。
5	そして、混沌とした社会を生きるための創造的な能力を培うことを目標とする。

教授方法

ゼミナールⅡは、五つの階梯に分かれる。五つの階梯に分かれるが、それぞれが一部重なりながら進められる。これらを実践を伴いながら、教授し、ゼミの皆が共に学び合う。

第一の階梯は、調査対象を巡る資料収集と分析を行う。利用するのは、キーワードによる各種新聞検索、論文検索である。調査実施前に、調査対象の情報をできるだけ多く収集し、関心のある文献をリストアップし、自分たちだけの文献リストを作成する。現実に調査に入ると、圧倒的な情報量でこちらに迫ってくる。それを見失うことなくとらえるには、先行研究の補助線が大きな助け

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

4年次の「卒業研究」と「ゼミナールⅢ」を履修することになります。

授業計画

1	ゼミナールの目的や意義について理解し、ゼミナールの年間スケジュールを確認する。＜事前学習＞シラバスを読んで、ゼミナールの大体の流れを理解しておき、分からない部分についてまとめておく。＜事後学習＞自分自身の目標を設定する。ゼミを振り返り、重要だと思う点について、まとめておく。
2	本年度は、長野市戸隠地区におけるまちづくり（戸隠みらいプロジェクト）に関わりながら、グループに分かれ、夫々の問いを立て回答を出す。地域の構想をいかに語るかを議論する。＜事前学習＞地域構想とはどのようなものか、全国ではどのような地域でどのようなことが行われているのか、ウェブサイトなどから調べておく。＜事後学習＞地域構想について、より理解を深めるために、ゼミを振り返り、自分の考えをまとめておく。
3	戸隠未来プロジェクトについて、概要を知る。＜事前学習＞事前配布資料を読んでおく。＜事後学習＞ゼミで議論した内容について、自分の考えについて、まとめておく。
4	戸隠未来プロジェクトを問題の場として、そこから、ゼミナールのメンバーの問題関心（問題そのもの）をお互いに報告し合う。＜事前学習＞戸隠未来プロジェクトを問題の場として、「持続可能な地域社会をいかにつくるのか」をテーマに、グループの関心をプレゼンしていただくので、パワーポイント10枚程度にまとめておく。＜事後学習＞自分自身のゼミの年間スケジュールについて、考える。
5	グループごとに、自分たちの問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞先行研究を調べて、問題関心を深める。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
6	グループごとに、自分たちの問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞先行研究を調べて、問題関心を深める。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
7	グループごとに、自分たちの問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞先行研究を調べて、問題関心を深める。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
8	グループごとにそれぞれの問いを、体系化するための議論をする。＜事前学習＞自分たちの問題関心が、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るという問題のどこに位置づくのかについて考え、まとめておく。＜事後学習＞自分たちの問題関心と他のグループの問題関心との関係をまとめておく。

9	それぞれのグループの問題関心をいかに調査するのか（調査の設計）について、議論する。＜事前学習＞問題関心をいかに調査したらよいかについて、考えをまとめておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
10	ゼミメンバーそれぞれの問題関心をいかに調査するのかについて、議論する。＜事前学習＞自分の問題関心をいかに調査したらよいかについて、さらに自分の考えをまとめておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
11	戸隠みらいプロジェクトを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、問いを考え、まとめる。＜事後学習＞ゼミでの議論を踏まえて、よりよいワーディングを考える。
12	戸隠みらいプロジェクトを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、さらに問いを考え、まとめる。＜事後学習＞ゼミでの議論を踏まえて、よりよいワーディングを考える。
13	戸隠みらいプロジェクトを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、さらに問いを考え、まとめる。＜事後学習＞ゼミでの議論を踏まえて、よりよいワーディングを考える。
14	戸隠みらいプロジェクトを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を完成し、印刷し、閉じる。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、完成した調査票を更に確認する。＜事後学習＞ゼミでの議論を踏まえて、よりよいワーディングを考える。
15	夏季休暇中に、実施した調査結果を集計する。Excelへの入力作業を実施し、SPSSで集計する。＜事前学習＞夏季休暇中の調査結果、特に自由回答の担当部分を活性化してくる。＜事後学習＞単純集計により、分かることをまとめておく。
16	調査結果をクロス集計など、問いを解くための分析を行い、議論する。＜事前学習＞個々の問いに関する調査結果についてまとめておく。＜事後学習＞個々の問いに関する調査結果の分析をさらに進めておく。
17	調査結果で得られたことを、論文として活性化するための事前作業を行う。皆でパワーポイントで発表しあい、質疑応答を行う。＜事前学習＞調査結果で得られたことをパワーポイントにまとめて、報告してもらうので、作成しておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、パワーポイントの修正を行う。
18	前回、議論した内容をふまえて、さらにパワーポイントで説明を行い、議論をする。その際に、問題をより分かりやすく把握できるような概念を構想する。その構想について、皆で考える。＜事前学習＞前回のパワーポイントを修正したものを用意しておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、パワーポイントの修正を行う。
19	前回、議論した内容をふまえて、さらにパワーポイントで説明を行い、議論をする。その際に、問題をより分かりやすく把握できるような概念を構想する。その構想について、皆で考える。＜事前学習＞前回のパワーポイントを修正したものを用意しておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、パワーポイントの修正を行う。
20	パワーポイントで説明した内容をそれぞれ活性化し、提出し、読み合う。参考文献や、註などの付け方や、論理的な展開などについても、皆で読みながら、質疑応答する。＜事前学習＞パワーポイントで説明した内容を論文として、それぞれ活性化してくる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、論文を修正する。
21	パワーポイントで説明した内容をそれぞれ活性化し、提出し、読み合う。参考文献や、註などの付け方や、論理的な展開などについても、皆で読みながら、質疑応答する。＜事前学習＞パワーポイントで説明した内容を論文として、それぞれ活性化してくる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、論文を修正する。
22	前回提出した論文をさらにブラッシュアップするために、皆で読み合い、議論する。＜事前学習＞論文をさらにブラッシュアップしたものを作成してくる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、論文を修正する。
23	論文で書いた内容から、何らかの政策提言ができるか、議論する。＜事前学習＞執筆した論文から、政策提言ができるか、まとめる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、政策提言についてまとめる。
24	前回の議論を継続して、何らかの政策提言ができるか、議論する。＜事前学習＞前回の議論を参考に、さらに政策提言について、まとめる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、政策提言についてまとめる。
25	学園祭での報告会のための資料作成をする。＜事前学習＞学園祭で報告会をするための資料をパワーポイントで作成してくる。＜事後学習＞作成した資料を確認する。
26	調査のインフォーマント向けの報告会資料を作成する。＜事前学習＞調査のインフォーマント向けの報告会資料をパワーポイントで作成してくる。＜事後学習＞作成した資料を確認する。
27	外部雑誌への投稿のための共同論文を完成させる。＜事前学習＞外部雑誌への投稿論文（個々の部分）を完成させて来る。＜事後学習＞合体した論文を校正する。
28	一年間のゼミを皆で振り返り、議論し、来年度のゼミの課題を話し合う。＜事前学習＞個々のゼミ生が、一年間のゼミを振り返り、得られたこと、課題として残ったことをまとめておく。＜事後学習＞話し合った内容を来年度のゼミに活かせるように、まとめておく。

授業外における学習

それぞれの回で課されている事前、事後学習は必ず行うこと。ゼミはゼミ以外の時間に行った学習の成果の発表の場所である。

質問や相談への対応

ゼミ時間時にはいつでも受けます。また、メールによる質問、相談はいつでも受けます。24時間以内に返信いたします。直接面談による質問、相談については、メールにてアポを取って頂ければ対応いたします。どうぞん下さい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
事前学習	30%	求められていることが達成できているかについて評価する。
授業貢献度	30%	議論に積極的に参加、発言できているかを評価する。
論文、プレゼンテーション	40%	論文及びプレゼンテーションの水準、自ら問いを立て、分析をし、解答を得られたか、他者に分かりやすく説明できたかを評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特にありません。			
	特にありません。その都度、必要な文献について、ご紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1. 事前学習、事後学習を必ず行ってください。
2. ゼミの時間は、恥ずかしがらずに、自分の意見をどんどん述べてください。ゼミでのグラウンド・ルールは次の通りです。
 - ①Yes,and (どんな意見も受け入れる)
 - ②Be Present(“今ここ”に集中する)
 - ③Listen (よく聴く、傾聴する)
 - ④Co-Create (共に創る)
 - ⑤Have Fun! (楽しむ)
 - ⑥No“む” (無理、難しいと言わない→言ってしまった時は、3秒以内に、「楽しい!」と言うこと)
 - ⑦ Make Mistakes!! (失敗を恐れない。どん

その他・特記事項

ゼミ生同士で、切磋琢磨してほしい。

ゼミナールⅡ（永田）

更新日：2023/01/10 08:53:39

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト*	G3590C	科目コード	G3590
担当教員	永田 邦和						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

ファイナンス, 金融論, 経済学

授業の概要

ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けるために、教科書を輪読し、その内容について議論する。また、グループに分かれて関心のある経済・社会問題を研究し、研究成果を大学生を対象にした懸賞論文（日銀グランプリ, 中小企業懸賞論文, 日経ストックリーグ等）に応募する。

到達目標

1	ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けることを目標とする。さらに、現実の経済・社会問題を分析することで、基礎知識の使い方を学ぶ。研究成果を懸賞論文に応募することで、論理的思考力と表現力を養い、発信力ゼミで身に付けたアカデミックスキルズも使いこなせるようにする。
---	---

教授方法

演習形式。対面で行うが（特別な事情がある場合のみ、オンライン参加を認める）。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ファイナンス入門と金融論, コーポレートファイナンスⅠ・Ⅱ, 金融システム論, ミクロ経済学, マクロ経済学, 経営統計学入門, 数理統計学を履修すると、授業内容を深く理解できる。これらの科目の積極的な受講を勧める。

授業計画

1	ガイダンス
2	テキストの報告と討論
3	テキストの報告と討論
4	テキストの報告と討論
5	懸賞論文の中間報告と討論
6	懸賞論文の中間報告と討論
7	懸賞論文の中間報告と討論
8	テキストの報告と討論
9	テキストの報告と討論
10	テキストの報告と討論
11	懸賞論文の中間報告と討論
12	懸賞論文の中間報告と討論
13	懸賞論文の中間報告と討論
14	懸賞論文の中間報告と討論
15	テキストの報告と討論
16	テキストの報告と討論
17	テキストの報告と討論
18	テキストの報告と討論
19	懸賞論文の中間報告と討論
20	懸賞論文の中間報告と討論
21	懸賞論文中間報告と討論
22	テキストの懸報告と討論
23	テキストの報告と討論
24	懸賞論文の中間報告と討論
25	懸賞論文の中間報告と討論
26	懸賞論文の報告
27	卒業論文のテーマについての報告

28 卒業論文のテーマについての報告

授業外における学習

テキストの予習・復習は必須。予習が不十分だと、授業内容も理解できず、授業中の議論にも参加できない。また、懸賞論文の執筆作業（資料収集と整理、研究発表の準備、論文の執筆等）にも時間をかけること。

質問や相談への対応

授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	
小テスト	0	
授業レポート	20	ファイナンスや金融の基礎知識を用いて経済問題を分析しているかどうかを確認する。
上記以外の授業評価	80	日々の取組（報告や質疑応答、議論への参加、宿題等）と懸賞論文の成果。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	内田浩史（2016）『金融』，有斐閣。ゼミナールⅠの教科書を引き続き使用する。			
	適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

懸賞論文での好成績を目指す。

その他・特記事項

特になし。

ゼミナールⅡ（宮崎）

更新日：2023/01/10 08:53:41

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3590D	科目コード	G3590
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

健康政策 ヘルシステム ヘルビジネス

授業の概要

「健康生活」「健康な地域づくり」「健康経営」「ヘルビジネス」等の言葉に代表するように、人々の生活だけでなく、公共経営、会社経営、企画事業に“健康”の視点があると人々は生き生きとした幸せに近づく。保健を通じて「誰一人取り残さない」SDGsの実現を、分野を超えて考える。

ゼミⅡでは、学生の関心事に沿って各自のテーマにおけるヘルシステムの現状を調べ課題を抽出、どうあるべきかを議論する。同時に年間を通じて研究方法を学ぶ。

到達目標

1	・研究方法のメソッドを理解する
2	・自身の関心事とテーマ設定ができ、その現状と課題を特定する
3	・関心事を追究する研究計画書が作成できる

教授方法

ゼミナール（討議、発表、報告、演習、地区視診等）一部講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年1学期開講の「健康マネジメント論」の受講を推奨する

授業計画

1	オリエンテーション	ゼミ計画	研究計画
2	研究とは		
3	研究疑問のつくりかた		
4	研究倫理について		
5	各自の関心事とテーマ設定	文献レビュー	
6	各自の関心事とテーマ設定	情報収集の方法	
7	各自テーマの現状把握	方法と計画	
8	各自テーマの現状把握	計画と実施	
9	各自テーマの現状把握	実施（2次資料）	
10	各自テーマの現状把握	実施（2次資料）	
11	各自テーマの現状把握	実施報告と不足情報の発見	
12	各自テーマの現状把握	不足情報の把握	
13	各自テーマの現状把握	実施（1次情報）	
14	各自テーマの現状把握	実施（1次情報）	
15	データの取り扱いと分析方法		
16	各自テーマの現状分析	実施	
17	各自テーマの現状分析	実施	
18	各自テーマの現状分析	実施報告	
19	各自テーマの現状分析	実施報告	
20	各自テーマの現状分析	見えてきた課題	
21	各自テーマの現状分析	見えてきた課題	
22	研究課題の絞りかた 優先度 重要度		
23	研究計画書の書き方		
24	研究目的の設定と仮説		
25	研究目的と方法論の選び方		

26	研究計画書作成
27	研究計画発表と修正
28	研究計画発表と実施に向けたスケジュール

授業外における学習

積極的に文献検索、文献レビューを行うことを推奨する
状況が許された場合にはゼミ生全員や各自、小グループで学外活動やフィールド見学を計画する

質問や相談への対応

授業時間内やメール等を活用する

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
研究計画書	60	研究計画書（発表を含む）の提出や内容を評価する
提出物	40	ゼミ資料、レポート等の提出や内容を評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	課題研究メソッド 啓林館			
	参考書・参考資料は、必要時紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミIIの最後には、研究計画書の完成、発表ができ、春休みには実施開始できることを目指す

その他・特記事項

特になし

ゼミナールⅡ（宮下）

更新日：2023/01/10 08:53:43

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード*	G3590E	科目コード	G3590
担当教員	宮下 清						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

マネジメント、経営学理論、事例探求、海外参考情報、相互学習

授業の概要

本ゼミナールでは、世界標準とされるマネジメント・テキストに基づき輪読学習を行うと共に、地域・国内・海外の事業や企業の事例を通して、経営学・ビジネス・マネジメントを理論的かつ実践的に学ぶ。

経営学・マネジメント・ビジネスを学ぶには、理論的枠組み、体系的な知識、事業や企業における実践を理解することが重要となる。本ゼミナールではマネジメント・テキストでの学習と共に、企業や地域事業などの情報収集や現地調査などをプロジェクトとして行い、実際の課題を通してマネジメントの理解、習得を図る。そしてそれらの知識理解と活用につながる能力獲得を目指す。

到達目標

1	・経営学の理論・歴史を学び、実践への適用・活用を試み、また理論に戻り考えるというプロセスに沿って学ぶ。経営学は広く地域・国内・海外の事業・企業そして商品・サービス、戦略・組織、人材・育成を対象とする。
2	・地域、国内、海外の経営・マネジメントについて文献から学ぶと共に、情報収集や訪問など現地現物からも学ぶ。地域事業・企業、国際経営、経営戦略、組織行動、人材マネジメント、教育訓練が本ゼミのキーワード。
3	・学習の場となるゼミでは、お互いを尊重し高め合える人間関係の構築が前提。ゼミ学習・活動を通してコミュニケーションやリーダーシップなどの力を高め、良好な社会性、協力関係を構築できる人間力を高める。
4	目標＝基礎理論の習得とプロジェクトへの取り組みができる。

教授方法

- ・マネジメント授業 ゼミの時間で課題図書輪読。各担当レジメ提出し発表をおよび討議。
- ・プロジェクト授業 ゼミ生が主体的に進めるプロジェクト研究。学内外の調査研究活動、サブ学習、学外訪問、交流などイベント活動を随時行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経営学入門を履修していることが望ましい

授業計画

1	ゼミⅡの概要「ゼミでの学習」、Ⅰ．マネジメントの理解を図る
2	1．マネジメントの学習、 2．プロジェクトによる学習
3	マネジメントの学習①
4	マネジメントの学習②
5	プロジェクト活動①
6	プロジェクト活動②
7	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認
8	Ⅱ．集中授業 取り組みの概要、スケジュール確認
9	マネジメントの学習③
10	マネジメントの学習④
11	マネジメントの学習⑤
12	プロジェクト活動③
13	プロジェクト活動④
14	プロジェクト活動⑤
15	Ⅲ．プロジェクトによる学習
16	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認
17	プロジェクト活動⑥
18	プロジェクト活動⑦
19	マネジメントの学習⑥

20	マネジメントの学習⑥
21	プロジェクト活動⑧
22	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認
23	マネジメントの学習⑦
24	マネジメントの学習⑧
25	プロジェクト活動⑨
26	マネジメントの学習⑨
27	マネジメントの学習⑩
28	プロジェクト活動⑩

授業外における学習

通常のゼミ発表のためには、テキストなどの文献を読む、理解する、考える、まとめるといった学習のため、事前学習、事後学習が求められる。またプロジェクトでは現場訪問やその準備や事後の整理などメンバーと協力し、積極的な活動が求められる。

授業外のゼミ活動として、ビジネスコンペ、合同ゼミ・他大学交流、サブゼミ、企業等の訪問、ゼミ合宿などが考えられるが、実際の参加はゼミで検討して決定する。

質問や相談への対応

授業前後およびメールでのアポにより対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
輪読の担当レジュメと発表	30	担当部分の適切なレジュメ等資料の提示および説明	
小レポート	20	プロジェクト等の報告レポート	
発表と討議	20	プロジェクト等での発表と討議	
その他	30	ゼミ活動、グループ活動への参加や取り組み	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	S.P.ロビンズ他著、高木晴夫監訳（2014）『マネジメント入門—グローバル経営のための理論と実践』ダイヤモンド社。			
	Stephen P. Robbins et al. Fundamentals of Management: Management Myths Debunked!, Global Edition, Pearson Education Limited., 2016. 中山、丹野、宮下『新時代の経営マネジメント』創成社、2018。 上林他著『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、2018。ほか			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミでは、常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学ぶ、またプロジェクトでは主体的にかつ協力して取り組む。

その他・特記事項

スケジュールやおよその枠組みであり、必要に応じて修正・改善して進める。

担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有する。

ゼミナールⅡ（尹）

更新日：2023/02/27 12:53:24

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト*	G3590F	科目コード	G3590
担当教員	尹 大栄						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

ディスカッション、研究方法論、創造的な研究、論文作成

授業の概要

地域産業、国際経営に関連する文献を幅広くレビューし、興味あるトピックを取り挙げて研究する。

到達目標

1	各自の研究テーマ（卒論テーマ）を見つける。
---	-----------------------

教授方法

各自の研究テーマについて発表し、ディスカッションを中心に進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ユンゼミの「ゼミナールⅠ」の履修

授業計画

1	研究成果のプレゼンとディスカッション
2	研究成果のプレゼンとディスカッション
3	研究成果のプレゼンとディスカッション
4	研究成果のプレゼンとディスカッション
5	研究成果のプレゼンとディスカッション
6	研究成果のプレゼンとディスカッション
7	研究成果のプレゼンとディスカッション
8	研究成果のプレゼンとディスカッション
9	研究成果のプレゼンとディスカッション
10	研究成果のプレゼンとディスカッション
11	研究成果のプレゼンとディスカッション
12	研究成果のプレゼンとディスカッション
13	研究成果のプレゼンとディスカッション
14	研究成果のプレゼンとディスカッション

授業外における学習

- ・事前学習：文献レビューをしっかりと行うこと
- ・事後学習：ゼミでのディスカッションで得られた新たな視点や、他者からのコメントを文章化しておくこと

質問や相談への対応

研究室（B304室）訪問や、メールでの質問・相談に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を達成している。【D】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
研究発表	70%		
レポート	30%		
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	とくに指定しない。			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

文献レビューの作業を怠らないこと

その他・特記事項

脳に汗をかく！

ゼミナールⅡ（東）

更新日：2023/01/10 08:53:47

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3590G	科目コード	G3590
担当教員	東 俊之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

PBL、文献輪読、論文講読、研究計画書、学外調査

授業の概要

ゼミナールⅡは、専門分野における特定のテーマに関する知識と調査研究に取り組むことによって、課題の設定、資料調査、分析そして研究成果の発表に至るまでの一連のプロセスを学修することを目的とする。受講生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択し、考察を深める。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけさせることを目指す。

「ゼミナールⅡ（東）」は、①「PBL型ゼミナール」と②「学術研究型ゼミナール」の2つの柱に分かれる。まず①「PBL型ゼミナール」では、与えられたテーマからグループで問題を発見し、解決策を提案する。また②「学術研究型ゼミナール」では、研究活動の準備段階として調査分析方法の理解と組織論の文献講読を行う。

到達目標

1	「ゼミナールⅡ（東）」では、「組織論の視点をを用いた調査・研究」の基礎固めを行う。具体的には、①組織論の文献を講読し、概要を要約し説明できる、
2	②組織論の視点を理解し、それに基づいた基礎的な分析ができる、
3	③与えられたテーマに対して、組織論の視点から問題を発見できる、
4	④他者と協力し、課題の解決策を提案できる、
5	⑤自身の問題意識から研究テーマを設定し、計画を立て文章で報告することができる、という5点を到達目標とする。

教授方法

演習。場合によっては、講義の形式の時もあります。また、学外での調査も必須です。なお、各学期の概要は以下のとおりです。

- ・3年次1学期：PBLの進め方と経営組織論の調査方法を理解する & 組織論の重要書籍を輪読する
- ・3年次2学期：PBLテーマの開示と予備調査を行う & 組織論の最近のトピックを学習する（論文講読）
- ・3年次3学期：PBLのグループ活動を進める（本格調査） & 「研究計画書」の作成準備を行う
- ・3年次4学期：PBLの課題解決策の検討とプレゼンテーションを行う & 「研究計画書」を提出する

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「ゼミナールⅡ」で東ゼミの所属している者

授業計画

1	【オリエンテーション】：ゼミナールⅡのスケジュールの説明、自己紹介、グループ分け等を行います。また課外で個人面談を行います。
2	【文献の読み方とPBLの進め方】：PBLの進め方と、組織論の文献の読み方を説明します。またその準備段階として、経営組織論の学説史（理論的展開）を講義します。
3	【古典的名著の輪読①】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。また、PBLについての理解を深めるために、簡単なアクティブラーニングを行います。
4	【古典的名著の輪読②】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。また、経営組織論の調査のプロセスについても理解を深めます。
5	【古典的名著の輪読③】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。また、経営組織論研究のための情報収集方法を理解します。
6	【古典的名著の輪読④】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。また、実例を用いて、経営組織論の調査方法を実践します。
7	【古典的名著の輪読⑤と1学期の自己点検授業】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。また、あらためて経営組織論の視座を学習します。さらに、1学期のまとめを行います。
8	【プロジェクト・テーマの開示とグループ分け】：企業や行政などから提供されてプロジェクト・テーマを開示します（PBL型ゼミのテーマ）。また自身の興味関心のあるテーマを選択し、グループを作ります。※先方から示されたスケジュールに従うので、テーマ開示ならびにグループ分けが変更になる場合があります。
9	【プロジェクト活動① & 組織論の論文講読①】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。
10	【プロジェクト活動② & 組織論の論文講読②】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。

11	【プロジェクト活動③ & 組織論の論文講読③】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。
12	【プロジェクト活動④ & 組織論の論文講読④】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。
13	【プロジェクト活動⑤】：プロジェクト・テーマに関して、グループで解決すべき課題を検討します（課外）。また、必要に応じて、情報収集を行います。
14	【プロジェクト活動⑥】：プロジェクト・テーマに関して、グループで取り組む課題を決定します（課外）。また、必要に応じて、情報収集を行います。さらに、夏期休暇中のゼミ活動を指導します。
15	【後学期ガイダンス】：後学期（3・4学期）のスケジュールの説明、夏季休暇中のプロジェクト活動の進捗状況の確認などを行います。
16	【プロジェクト活動⑦ & 「研究計画書」の作成準備①】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、4学期に提出する「研究計画書」を作成する方法（プロセス）を説明します。
17	【プロジェクト活動⑧ & 「研究計画書」の作成準備②】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、「研究計画書」を作成するために（＝研究を進める上で）不可欠な「問題意識と研究意義」を発見するために、ゼミ内で発表・議論します。
18	【プロジェクト活動⑨ & 「研究計画書」の作成準備③】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識・研究意義を研究テーマに昇華させるために、ゼミ内で発表・議論します。
19	【プロジェクト活動⑩ & 「研究計画書」の作成準備④】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、各自の研究テーマから、結論を導くための研究手法を検討します（ゼミ内で発表・議論）。
20	【プロジェクト活動⑪ & 「研究計画書」の作成①】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究手法に関連する「先行研究」を精読し、分析していきます（授業内・課外）。
21	【プロジェクト活動⑫ & 「研究計画書」の作成②】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究手法に関連する「先行研究」を精読し、分析していきます（授業内・課外）。
22	【プロジェクト活動⑬ & 「研究計画書」の作成③】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策の検討に入ります。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究手法に関連する「先行研究」を精読し、分析していきます（授業内・課外）。
23	【プロジェクト活動⑭ & 「研究計画書」の作成④】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策を深く検討します。また、「研究計画書」（＝自身の研究したい内容）をゼミ内で発表し、他者からコメントを受け、修正していきます。
24	【プロジェクト活動⑮ & 「研究計画書」の作成⑤】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、提案した課題解決策を評価します。場合によっては、受け入れ先に意見を求めます。また、「研究計画書」（＝自身の研究したい内容）をゼミ内で発表し、他者からコメントを受け、修正していきます。
25	【プロジェクト活動⑯ & 「研究計画書」の作成④】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策を決定する段階に入ります。また、「研究計画書」を実際に執筆します。
26	【プロジェクト活動⑰】：取り組んできた課題についての解決策を決定し、プレゼンテーションを行うための準備をします。
27	【プロジェクト活動⑱】：PBLの課題解決策について、クラス内（または、受け入れ先）でプレゼンテーションを行います。また、「研究計画書」を提出します。
28	【自己点検授業】：1年間の振り返りと次年度へ向けてのプランを検討します。また、課外で個人面談を行います。

授業外における学習

ゼミの授業時間（教室に集まっている時間）だけでは、当然のことながら不十分です。課外でのグループ活動や個人研究が求められます。特に「PBL型ゼミ」では、皆さん自身が足を運んで調査対象から情報を得ることが必要になりますので、課外でも十分なゼミ活動の時間を確保するように努めて下さい。

また、「学術研究型ゼミ」でも、徹底した予習（さらに復習）が不可欠です。文献講読では、少々高いレベルの学術論文を読んでもらいますし、自身の研究を発表する際にも、十分な先行研究調査を求めます。

質問や相談への対応

オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。

※なおオフィスアワーの時間帯は、授業の初回で案内します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	実施しない
小テスト	0	実施しない
レポート	40	数回のレポートにより評価する。具体的には、「研究計画書」（4学期。20%）、グループ活動報告書（数回。10%）、文献輪読・講読レポート（数回。10%）。
その他：授業態度点	60	ゼミ活動への参加度（出席・発言等）、グループ活動での貢献度、ゼミ内でのプレゼンテーション（発表内容・レジュメ等）、などを総合的に評価する※詳細は、第1回授業時に明らかにする
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	J. D. トンプソン著（大月・廣田訳）『行為する組織』（同文館出版, 2012）を予定していますが、第1回授業時に決定します。			
	○古典的名著（文献）の講読準備として下記の書籍を通読してください。岸田民樹・田中政光『経営学説史』有斐閣アルマ, 2009.○また、組織論（広く経営学）の研究方法を理解するために、以下の書籍を用います。田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房, 2006. 須田敏子『マネジメント研究への招待』中央経済社, 2021. 上記以外の参考文献・参考資料も、ゼミ内で適宜紹介します。それ以上に、皆さん自身で探し出すことが求められます。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミ全体の目標は、「『学問』するゼミ文化を構築する」ことです。その目標を実現するために、3年ゼミでは「実際の組織活動の調査分析方法を理解する」ことに主眼を置いています。そのことを意識して、ゼミ活動に取り組んでください。

ゼミ活動には、なるべく積極的に参加してほしいです。課外の時間に集まってグループ活動をおこなうこともあります。アルバイトやサークル活動を優先しないでください。

その他・特記事項

【重要】「授業計画」はゼミ生の興味関心や、到達レベルに応じて変更する場合があります。ご了承ください。また、学外に出かけての調査も予定しています。積極的に参加ください。

ゼミナールⅡ（衣川）

更新日：2023/01/10 08:53:50

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト*	G3590H	科目コード	G3590
担当教員	衣川 修平						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

アカウントティング・マインド, 会計学, 財務分析

授業の概要

主に会計学を学ぶゼミです。
 本年度は中でも企業分析を中心に勉強していきたいと予定しています。
 皆さんのニーズがあれば、ライトなフィールドワークも行いたいと思います。

到達目標

1	減損会計, 退職給付引当金, リース会計といった財務会計の個別分野と言われる論点を一つ一つ勉強していくことで, アカウントティング・マインド養成していきます。
2	また, プレゼン能力やディスカッション能力の向上も図っていきます。
3	また財務諸表作成・分析能力についても, 時間の余裕に応じて, 養成していきます。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

第2学年以降

授業計画

1	授業内容:イントロダクション：軽く自己紹介、役職決定。時間があれば軽くゲームを行います
2	テキスト輪読A①：伊藤邦雄『新・企業価値評価』を予定しています。皆さん2年生でまだ未修の内容もありますので、随時、補講的なレクチャーも入れていきたいと思います。
3	テキスト輪読A②：発表&ディスカッションしていきます。
4	テキスト輪読A③：発表&ディスカッションしていきます。
5	テキスト輪読A④：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。
6	テキスト輪読A⑤：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。
7	テキスト輪読A⑥：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。（1セメ終了、海外研修へ）
8	海外研修報告3・4セメの打ち合わせ
9	テキスト輪読B①：発表&ディスカッションしていきます。
10	テキスト輪読B②：発表&ディスカッションしていきます。
11	テキスト輪読B③：発表&ディスカッションしていきます。
12	テキスト輪読B④：発表&ディスカッションしていきます。
13	テキスト輪読B⑤：発表&ディスカッションしていきます。
14	テキスト輪読B⑥：発表&ディスカッションしていきます。
15	講演：有識者の講演を考えていますが、原価計算か管理会計Ⅰで講演をするかもしれません。その時はゼミ生は積極的に手伝ってください。
16	テキスト輪読C①：発表&ディスカッションしていきます。
17	テキスト輪読C②：発表&ディスカッションしていきます。
18	テキスト輪読C③：発表&ディスカッションしていきます。
19	テキスト輪読C④：発表&ディスカッションしていきます。
20	テキスト輪読C⑤：発表&ディスカッションしていきます。
21	テキスト輪読C⑥：発表&ディスカッションしていきます。
22	テキスト輪読D①：発表&ディスカッションしていきます。
23	テキスト輪読D②：発表&ディスカッションしていきます。
24	テキスト輪読D③：発表&ディスカッションしていきます。

25	テキスト輪読D④：発表&ディスカッションしていきます。
26	テキスト輪読D⑤：発表&ディスカッションしていきます。
27	テキスト輪読D⑥：発表&ディスカッションしていきます。
28	テキスト輪読D⑦：発表&ディスカッションしていきます。

授業外における学習

課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援は行います。

質問や相談への対応

ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか2. 他者を尊重し、その意見を理解したか3. 自己の意見を説得的に述べることができたか	
報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか2. 他者を尊重し、意見を理解したか3. 自己の意見を説得的に述べることができたか	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	伊藤邦雄（2014）『新・企業価値評価』日本経済新聞社と、その前準備のための基礎的なテキストを読むことを予定しています。			
	随時指定します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。

とくにコミュニケーションが全く取れない人や、ゼミに参加しようとしていない人は、他者に対して敬意が見られない人は、ゼミ自体を崩壊させますので、注意してください。

しかし難しいことを要求しているわけではありません。

おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！

またなるべく学びの場か

その他・特記事項

Email: kinugawa.shuhei★u-nagano.ac.jp

ゼミナールⅡ（金）

更新日：2023/01/10 08:53:53

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	G3590I	科目コード	G3590
担当教員	金 賢仙						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

会社法、金融商品取引法、ビジネス法

授業の概要

このゼミでは、ビジネスに関する法領域での法的な論点、個別事例等の中から自身でテーマを選び、①なぜそのテーマを検討する必要があるのか、具体的な問題点は何か（問題意識）を整理した上で、②現状はどうなっているか、それはなぜか、③法制度等に改善が必要な点はあるか、あるとすれば何か、どのように改善すればよいか、といった流れで考察を行い、論文にまとめる。

到達目標

1	金融・資本市場及び会社法の専門的なテーマについて、理解し、説明できるようになる。
2	株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）を行うことができるようになる。

教授方法

原則として、演習方式とする。

大学がオンライン講義の実施の方針を採る学期については、それによる。別途、案内をするので、確認すること。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。

授業計画

1	ガイダンス
2	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
3	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
4	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
5	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
6	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
7	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
8	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
9	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
10	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
11	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
12	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
13	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
14	ふりかえり
15	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
16	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
17	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
18	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
19	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
20	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
21	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
22	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
23	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
24	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
25	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究

26	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
27	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
28	ふちかえりとまとめ

授業外における学習

担当する発表等の準備その他。

質問や相談への対応

原則として、オフィス・アワーに対等する。オフィス・アワーの委細については、ガイダンスその他において案内する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表の内容と出来ばえ	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。
コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。講義中にコピー等を配布する。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣、第8版、2021） ・伊藤靖史「会社法」（有斐閣、第5版、2021） ・河本一郎ほか「新・金融商品取引法読本」（有斐閣、2014） ・松岡啓佑「最新金融商品取引法講義」（中央経済社、第6版、2021） ・会社法判例百選 第4版（別冊ジュリスト 254） ・金融商品取引法判例百選（別冊ジュリスト 214）※つづく※ 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しみながら、学習しましょう。

オンライン講義の実施に関して、別途連絡をするので、メール等の確認をまめに行ってください。

その他・特記事項

講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。

※参考書つづき※

- ・吉見宏「会計不正事例と監査（日本監査研究学会リサーチシリーズXVI）」（同文館出版、2018）
- ・長島・大野・常松法律事務所その他「会計不祥事対応の実務」（商事法務、2010）
- ・門脇徹雄ほか「ケースブック 上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計失敗事例から学ぶ」（中央経済社、2008） その他、講義中に説明する。

ゼミナールⅡ（首藤）

更新日：2023/03/15 17:39:11

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト	G3590J	科目コード	G3590
担当教員	首藤 聡一郎						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

経営戦略論、経営分析、経営企画

授業の概要

経営戦略論のロジックを通じて現実を分析していく。

到達目標

1	経営戦略のロジックを習得する
2	経営戦略論のロジックを用いて現実をよりよく理解できるようになる
3	自らの思考に経営戦略論のロジックを組み込むことができるようになる
4	学術的論文について理解を深めることができるようになる

教授方法

グループ、あるいは個人で課題に取り組み、プレゼンテーションする。その後、議論する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

事前に履修を希望し、認められた学生

授業計画

1	ガイダンス
2	卒業論文について (1)
3	卒業論文について (2)
4	経営戦略論のロジック (1)
5	経営戦略論のロジック (2)
6	経営戦略論のロジック (3)
7	卒業論文について (3)
8	卒業論文について (4)
9	経営戦略論のロジック (4)
10	経営戦略論のロジック (5)
11	経営戦略論のロジック (6)
12	経営戦略論のロジック (7)
13	卒業論文について (5)
14	卒業論文について (6)
15	卒業論文について (7)
16	卒業論文について (8)
17	経営分析 (1)
18	経営分析 (2)
19	経営分析 (3)
20	経営分析 (4)
21	卒業論文について (9)
22	卒業論文について (10)
23	調査手法 (1)
24	調査手法 (2)
25	調査手法 (3)
26	調査手法 (4)

27	卒業論文について (11)
28	卒業論文について (12)

授業外における学習

プレゼンテーションの準備

質問や相談への対応

アポイントメントをとってくれば日程を調整して対応いたします

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	100	内容、表現
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ありません			
	適宜紹介します			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

一緒に頑張りましょう

その他・特記事項

要望などありましたら遠慮なくお伝えいただければ幸いです。よろしく申し上げます

ゼミナールⅡ（中村陽）

更新日：2023/01/10 08:53:56

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバ [®] スコト [®]	G3590K	科目コード	G3590
担当教員	中村 陽人						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ

授業の概要

2年次に学んだマーケティングや統計学の専門的知識とデータ分析の技術を基に、3、4年次のゼミは研究活動をメインとしながら、合同会社sigmovの経営、民間企業や自治体との共同プロジェクト、全国レベルの各種コンテストなどに取り組む。

到達目標

1	・特定のテーマについて、①論点を整理して課題を設定し、
2	②必要な情報を集めて適切に整理し、
3	③主張の客観的な根拠をそろえ、
4	④効果的に相手に伝える、という一連のスキルを身につけている。
5	・統計学の基礎的な力（統計検定2級程度）を身につけている。
6	実データを統計ソフトを用いて適切に分析し、正しく解釈することができる。
7	・英語のトップジャーナルに掲載された学術論文を読み、正しく理解できる。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

マーケティングと統計学の関連科目を履修していること、あるいは同時に履修すること。

授業計画

1	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
2	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
3	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
4	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
5	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
6	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
7	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
8	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
9	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
10	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
11	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
12	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
13	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。

14	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
15	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
16	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
17	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
18	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
19	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
20	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
21	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
22	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
23	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
24	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
25	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
26	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
27	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
28	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。

授業外における学習

膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の学習や活動がメインとなる。長期休業中も膨大な量の課題がある。

質問や相談への対応

共有している教員スケジュールを確認し、事前に予約する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	授業や課題への取り組み状況を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業の中で適宜指示する。			
	授業の中で適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ゼミの理念を理解し、共感していること。
- ・ゼミ活動に全力でコミットすること。

その他・特記事項

- ・他のゼミとの掛け持ちはできない。
- ・3年次からの入ゼミはできない。
- ・4年次には卒業論文を書かなければならない。

ゼミナールⅡ（鶴田）

更新日：2023/01/10 08:53:58

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコド	G3590L	科目コード	G3590
担当教員	鶴田 靖人						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

統計学、計量経済学、データ分析、プログラミング、Python

授業の概要

統計学とその関連領域である計量経済学や機械学習を学ぶことで「計量分析（データ分析）を用いた研究を行うスキル」の習得を目指す。また、Pythonと呼ばれるプログラミング言語をデータ分析やデータの整形で用いる。Pythonは統計分析や機械学習の手法を用いるのに適した言語であり、多くのデータサイエンティストがこの言語を用いている。3年次は統計学と計量経済学の輪講を主に行う。

到達目標

1	①Pythonを用いてデータを整形し分析できる
2	②統計理論を理解し、統計分析手法をデータの特性に応じて適切に使い分けられることができる
3	③統計的な思考を身に付けてデータを分析し結果を考察することで、意味のある情報を入手できる

教授方法

輪講を中心とした演習形式で実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修条件は設けない。

授業計画

1	統計解析の基礎を学ぶ（1）
2	統計解析の基礎を学ぶ（2）
3	統計解析の基礎を学ぶ（3）
4	統計解析の基礎を学ぶ（4）
5	統計解析の基礎を学ぶ（5）
6	統計解析の基礎を学ぶ（6）
7	統計解析の基礎を学ぶ（7）
8	統計解析の基礎を学ぶ（8）
9	統計解析の基礎を学ぶ（9）
10	統計解析の基礎を学ぶ（10）
11	統計解析の基礎を学ぶ（11）
12	統計解析の基礎を学ぶ（12）
13	統計解析の基礎を学ぶ（13）
14	統計解析の基礎を学ぶ（14）
15	計量経済分析手法を学ぶ（1）
16	計量経済分析手法を学ぶ（2）
17	計量経済分析手法を学ぶ（3）
18	計量経済分析手法を学ぶ（4）
19	計量経済分析手法を学ぶ（5）
20	計量経済分析手法を学ぶ（6）
21	計量経済分析手法を学ぶ（7）
22	計量経済分析手法を学ぶ（8）
23	計量経済分析手法を学ぶ（9）
24	計量経済分析手法を学ぶ（10）
25	計量経済分析手法を学ぶ（11）
26	計量経済分析手法を学ぶ（12）

27	計量経済分析手法を学ぶ (13)
28	計量経済分析手法を学ぶ (14)

授業外における学習

発表者以外の人もテキストを予習する必要があります。

質問や相談への対応

質問や相談があるときは、メールで相談希望日時を連絡してください。日程調整をした上で相談に対応します。

tsuruta.yasuhito@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表	50	発表内容から知識の理解度に応じて評価する
課題	20	レポート等について知識の理解度に応じて評価する
上記以外の評価	30	ディスカッションへの参加度や発言等による貢献に応じて評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	谷合廣紀著『Pythonで理解する統計解析の基礎』技術評論社			
	原泰史著『Pythonによる経済・経営分析のためのデータサイエンス』東京図書			
	必要があれば適宜説明します			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

発表者は丁寧に発表資料を作成する必要があります。発表者以外の人もテキストの予習や授業中のディスカッションに積極的に参加することを求めます。

その他・特記事項

なし

ゼミナールⅡ（中村稔）

更新日：2023/01/10 08:53:58

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3590M	科目コード	G3590
担当教員	中村 稔彦						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

少子高齢化、地方創生、地域再生、地域活性化、社会保障制度、持続可能性

授業の概要

ゼミナールⅡでは、少子高齢化の下での社会保障や税収獲得のあり方、地域再生・活性化に向けた自治体の政策や財政運営等について、ホームページ閲覧や資料を読むなどして調べ、議論や集団討論を行うとともに論文の書き方、文献の見つけ方等について基礎から学習する。

また、夏休みは全国の特徴のある自治体をいくつかピックアップし、当該自治体に全員で赴き、実地調査を行い(ゼミ合宿)、実地調査で得られた資料や情報をもとに、自治体ごとにグループを作って共同論文を作成し、発表する。実地調査で学んだことが、長野県や長野県内市町村、ゼミ生の生れ育った自治体等に反映できないか等についても議論する。

その他にも、各個人の意識や知識、思考力を高めるために、グローバル企業の部長や本部長、マネージャー、オーストラリアのクイーンズランド州立政府の上席商務官等とのワークショップやセッション、セミナー、サブゼミなどを多数実施する。

到達目標

1	本ゼミの到達目標は、専門的な知識や思考能力を高めることはもちろん、それ以外にも公務員や民間企業の面接試験や集団討論を突破するスキルや社会に出てから即戦力として活躍するための調査力、分析力、行動力、コミュニケーション力、それに優秀なリーダーになるために必要な問題点を発見する「問題意識力」とそれを解決しようとする「問題解決力」を身に付けることである。
---	--

教授方法

講義形式は一部にして、与えられたテーマに対する発表や議論、集団討論、共同論文の添削、発表等をする場面をできるだけ多く設けるようにする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

5回欠席した者（公欠を除く）は単位を付与しない（就職活動については要相談）。

授業計画

1	市町村の地域発展政策の事例紹介 集団討論（1）
2	集団討論（2）
3	市町村の地域発展政策の比較・企業と業界研究（1）
4	集団討論（3）
5	市町村の地域発展政策の比較・企業と業界研究（2）
6	集団討論（4）
7	夏休みのゼミ合宿と共同論文の執筆について 合宿先の決定等
8	市町村の地域発展政策の比較・企業と業界研究（3）
9	集団討論（5）
10	市町村の地域発展政策の比較・企業と業界研究（4）
11	学術論文の執筆の仕方について
12	共同論文への取り組み（1）テーマと目次をつくり、各節の担当を決定
13	集団討論（6）
14	市町村の地域発展政策の比較・企業と業界研究（5）
15	共同論文への取り組み（2）各担当の執筆進捗状況の確認と添削
16	集団討論（7）
17	共同論文への取り組み（3）各担当の執筆進捗状況の確認と添削
18	集団討論（8）
19	共同論文への取り組み（4）各担当の執筆進捗状況の確認と添削
20	集団討論（9）
21	共同論文発表への準備（1）
22	共同論文発表への準備（2）

23	共同論文の発表（質疑応答含む）
24	集団討論（10）
25	社会保障に関する文献を読み議論する。
26	集団討論（11）
27	地域再生・活性化に向けた地域政策に関する文献を読み議論する。
28	集団討論（12）

授業外における学習

各回の該当する内容、指示された内容について、事前に用語や理論、背景などを自分なりに調べ、理解しておくこと。

調べた内容について、賛否両論がある場合は、それらを比較して自分なりの結論を導き出すようにすること。

ゼミ内で説明した重要な項目の現状、背景、考え方等を整理するとともに、ゼミ内で紹介した論文や参考書、新聞、ホームページ等は事後に必ず調べることに。これにより、幅広い経済社会・財政の一般常識を身につけることができるだろう。

質問や相談への対応

随時対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
集団討論	30	積極性、内容、表現力、対応力等の点から総合的に評価する（3点×10回）。
政策比較発表	40	内容、分析力、表現力等の点から総合的に評価する（4点×10回）。
共同論文	30	問題意識、形式面、表現面、分析面、執筆の論理等の点から総合的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中村稔彦 [2022] 『攻める自治体「東川町」地域活性化の実践モデル』新評論。 持田信樹 [2019] 『日本の財政と社会保障 給付と負担の将来ビジョン』東洋経済新報社。 生活経済研究所編 [2011年] 『税制改革に向けて一公平で税収調達力の高い税制をめざしてー』生活研ブックス。 神野直彦等 [2012] 『よくわかる社会保障と税制改革ー福祉の実現に向けた税制の課題と方向』イマジン出版。 佐々木茂他 [2009] 『地域政策を考える 2030年へのシナリオ』勁草書房。 戸田山和久 [2012] 『新版論文の教室 レポートか』			
	内閣府『少子化社会対策白書 各年度』。 内閣府『高齢社会白書 各年度』。 総務省『各年度 地方財政統計年報』。 総務省『各年度 都道府県決算状況調』。 総務省『各年度 市町村決算状況調』。 総務省『各年度 都道府県財政指数表』。 総務省『各年度 類似団体別市町村財政指数表』。 その他、公共政策に関する学術論文など。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミをより充実したものにするためには、主体的にゼミに参加することである。使用するテキストをよく読んだり、テーマについて深く調べたり、問題点や改善案を真剣に考えたりすることはもちろん、議論に活発に参加したり、論文を納得いくまでしっかりとまとめたりすることによって、専門分野での思考力を高めることができるので、常にそのような意識で取り組んでほしい。

また、普段から経済社会に関するニュースへの関心度を高め、当該ニュースの背景や問題点、改善案等も調べたり、考えたりするようにしてほしい。

その他・特記事項

特になし。

ゼミナールⅡ（野口）

更新日：2023/01/10 08:54:01

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3590N	科目コード	G3590
担当教員	野口 暢子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

公共政策、諸外国の制度、政策提言、比較政治、自治体

授業の概要

①三重県南伊勢町で行われる日本公共政策学会・公共政策フォーラム（学生政策コンペ）で実効性のある提言を行えるよう、準備し、発表する。②諸外国の公共政策について、受講生がひとり1ヶ国を担当して調査し、その内容を比較検討する。

到達目標

1	前半は、政策コンペで意義のある発表ができるように準備する中で、情報を収集をする力・決められた時間内にわかりやすく発表をする力・社会における課題を解決できる政策を立案できる力を身に付けることを目指します。
2	後半は、制度や公共政策の各国比較研究を通じて、知識の幅をひろげ、比較考察を通じて、思考を深めることを目指します。

教授方法

前半は、日本公共政策学会・公共政策フォーラム（学生政策コンペ）に出場し、発表する「政策提言」をまとめる。後半は、受講生ひとりひとりがひとつの国を担当し、同じテーマについて公共政策の比較検討を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ゼミナールⅡ（野口）の履修を認められていること

授業計画

1	ガイダンス（ゼミナールの進め方など）
2	どのような政策提言を行いたいのか（全員が1つずつアイデアを考えてくる）。
3	第2回の発表を受けて、発表するテーマを考える。
4	第3回で出されたテーマのいくつかについて、発表を行う。
5	第4回で発表が行われたテーマのいくつかについて、発表を行う。
6	発表内容の決定
7	政策コンペでテーマとする内容について発表を行う。
8	政策コンペでテーマとする内容について発表を行う。
9	発表に関する調査に行く。
10	第9回の調査のまとめ
11	発表に関する調査に行く。
12	第11回の調査のまとめ
13	模擬発表会（第1回）
14	模擬発表会（第2回）
15	模擬発表会（最終回）
16	受講生それぞれがどの国を担当するかを決める。
17	諸外国の議会制度・選挙制度・政党
18	諸外国の大統領・首相・内閣
19	諸外国の地方自治制度
20	諸外国の福祉政策
21	諸外国の教育制度・教育政策
22	諸外国の産業政策
23	諸外国の環境政策
24	諸外国の防衛政策
25	諸外国の雇用政策
26	諸外国の外国人住民に関する政策

27	諸外国の男女平等政策
28	今年度後半のゼミナール・まとめ

授業外における学習

毎回の発表に関する準備

質問や相談への対応

簡単な質問や相談は学内メールアドレス宛に送ってください。会って話をしたい場合は、その旨をメールに書き、野口の学内メールアドレス宛に送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表の内容	70	正確な情報をもとに、わかりやすく発表できたか。
質問する力	20	他の受講生の発表について、適切な質問ができたか。
政策コンペにおける役割	10	政策コンペに関して分担した役割をしっかりと果たすことができたか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	授業内に紹介いたします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日頃から、社会に存在する問題に関心を持ち、書籍・新聞・論文などを読んだり、映像をみたり、語り合ったりすることを心がけてください。

その他・特記事項

ゼミナールを休む際には、必ず、ゼミナールが始まる時間までに野口の学内メールアドレス宛に連絡をください。

ゼミナールⅡ（三浦）

更新日：2023/03/07 19:08:43

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G35900	科目コード	G3590
担当教員	三浦 正士						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

授業の概要

この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいた学習を行うため、学期ごとに異なる課題を設定することで、地方自治を理論と実践の双方から学ぶことをめざす。

到達目標

1	①地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。
2	②論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。
3	③議論に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。

教授方法

演習形式で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション ゼミナールの進め方について説明するほか、ゼミナールⅠでの学びの振り返りを行う。
2	地方自治のしくみについて学ぶ (1) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
3	地方自治のしくみについて学ぶ (2) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
4	地方自治のしくみについて学ぶ (3) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
5	地方自治のしくみについて学ぶ (4) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
6	地方自治のしくみについて学ぶ (5) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
7	地方自治のしくみについて学ぶ (6) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
8	自治の現場と政策の実践について考える (1) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
9	自治の現場と政策の実践について考える (2) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
10	自治の現場と政策の実践について考える (3) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
11	自治の現場と政策の実践について考える (4) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
12	自治の現場と政策の実践について考える (5) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
13	自治の現場と政策の実践について考える (6) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
14	自治の現場と政策の実践について考える (7) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
15	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ (1) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。

16	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ (2) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
17	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ (3) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
18	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ (4) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
19	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ (5) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
20	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ (6) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
21	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ (7) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
22	研究テーマを考える (1) 卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。
23	研究テーマを考える (2) 卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。
24	研究テーマを考える (3) 卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。
25	研究テーマを考える (4) 卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。
26	研究テーマを考える (5) 卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。
27	研究テーマを考える (6) 卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。
28	研究テーマを考える (7) 卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。

授業外における学習

事前学習

- ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。
- ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、教科書を精読するとともに、自治体の政策課題に関する情報を収集する。

事後学習

- ・ゼミナールでの学習内容について、教科書や参考書を読み、理解を深める。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業での報告	70	ゼミナールにおいて課した報告の内容について、地域課題の発見力、地域課題の解決に向けた企画立案力を評価する。
議論への参加度	30	ゼミナールにおける議論への参加度や貢献度から、コミュニケーションの積極性、主体性、能動的な学習の姿勢を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	初回授業時に提示する。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

授業中に適宜参考書を紹介する。

受講生に望むこと

ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。

その他・特記事項

特になし。

ゼミナールⅡ（穴山）

更新日：2023/01/10 08:54:36

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3590P	科目コード	G3590
担当教員	穴山 悌三						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

産業組織、ミクロ経済学、産業分析

授業の概要

このゼミでは、ゼミナールⅠで学んだ内容について理解を更に深めると共に、より発展的な分析に挑戦します。ゼミナールⅠと同様、一般の授業のような一方の説明にとどまらず、参加者が自ら行動して学ぶ機会を多くつくります。

到達目標

1	本ゼミでは、経済学や経営などの理論と実証の考え方をふまえ、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析を試みます。本ゼミを履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を分析する力が身に付きます。また一連の討議・報告等を通じて、関連するテーマについて主体的に自分の意見を言えるようになります。
---	--

教授方法

基本的には参加者が準備したレジュメ等を用いて演習を行います。第1回および第2回は前年度の成果報告と討議を行います。第4回以降は下級生と協働しつつ、ミクロ経済学や経営の基礎、産業組織分析のいろいろなアプローチについて学びます。3学期以降は、それぞれが興味を持った産業を選び、チーム編成して初歩的な産業組織分析にチャレンジします。前半は指定されたチームで順に準備・報告を行うことが中心となり、後半は産業・テーマ別のチームによる共同研究に関する討議・報告などが中心となります。全体を通じ、ミニゲームなどのアクションラーニング要素も取り入れ、常に積極的な対話を行います。またCOVID-19の影響をふまえて、事情が許す限りにおいて、ヒアリング等の学外活動も計画します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

本ゼミへの参加を希望し、担当教員が参加を認めた者。

授業計画

1	4/13 ゼミの進め方等のガイダンス、前年度の成果報告・討議
2	4/20 前年度の成果報告・討議
3	4/27 チーム対抗企画
4	5/11 レジュメの報告・討議：Ch.5 価格戦略
5	5/18 レジュメの報告・討議：Ch.6 製品差別化
6	5/25 レジュメの報告・討議：Ch.7 品質と広告
7	5/27 レジュメの報告・討議：Ch.8 競争優位戦略
8	6/8 レジュメの報告・討議：Ch.9 技術戦略
9	6/15 レジュメの報告・討議：Ch.10 市場集中、参入障壁
10	6/22 レジュメの報告・討議：Ch.11 カルテル
11	6/29 レジュメの報告・討議：Ch.12 企業結合
12	7/6 レジュメの報告・討議：Ch.13 垂直的取引制限
13	7/13 レジュメの報告・討議：マルチサイド市場とプラットフォーム
14	7/20 前半のまとめ
15	各人の関心事項・研究計画発表
16	別途案内します
17	別途案内します
18	別途案内します
19	別途案内します
20	別途案内します
21	別途案内します
22	別途案内します
23	別途案内します
24	別途案内します

25	別途案内します
26	別途案内します
27	別途案内します
28	別途案内します

授業外における学習

チーム単位での討議や、授業中に報告するレポート作成などが当番制で必要になります。また自分の当番以外の回のゼミでは、あらかじめ他のチームのレポートに目を通しておき、ゼミの場で積極的に発言するための用意しておくことが求められます。学外でのヒアリングなどを実施する際は、授業外での活動となります（任意参加）。

質問や相談への対応

質問や相談を歓迎します。メールでの質問や相談はもちろんのこと、ゼミ終了後の時間も活用ください。ゼミ開催後以外で直接話したいことなどがあれば、メールで日時約束の上、研究室を訪問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レジュメ	50	ゼミに提出するレジュメを評価します。評価基準は、豊富な文献や先行研究、事例などを意欲的に調べるなど、十分な準備と学習成果がよく反映され、自分なりの付加価値を付ける姿勢がみられたものを高く評価します。
平常点	50	ゼミにおける各種報告・発言での貢献などの平常点を評価します。価値ある発言を積極的に行うものを高く評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ゼミナールⅠに続いて以下を用います。 ◆小田切宏之[2019]『産業組織論－理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣。			
	ゼミの中で適宜指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミでの学習は大学における学びの中心ともなる貴重な機会です。主体的・積極的に参加して、大いに成長してください。

その他・特記事項

下級生との協働に際してはよく面倒をみてあげてください。詳しくは第1回ガイダンスで説明します。原則として対面授業で行いますが、開始後第1週はオンライン授業となりますのでメール等での案内に注意してください。参加者の希望をふまえ、学外活動を実施したいと考えていますが、諸情勢の動向等も勘案し、実施有無や内容等はゼミ開始後に相談して決定します。また相談の上、他の企画等も随時検討します。

ゼミナールⅢ（森本）

更新日：2023/01/10 08:54:20

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコド*	G3600A	科目コード	G3600
担当教員	森本 博行						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

卒業研究 グローバル化 ウイズコロナ時代 人生100年時代

授業の概要

ゼミナールⅢでは、卒業研究をするにあたって、受講生がみずからの問題意識にもとづいて研究課題を設定し、文献調査による先行研究の検討し、参考になる学術論文や事例研究を輪読することを目的とする。

担当教員は、広告会社のマッキンゼーエリクソン博報堂に在籍し、またソニーでは経営戦略や広告戦略、海外子会社等の実務経験があり、ソニー退職時にはイノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。

到達目標

1	社会および事業課題発見能力、探索研究能力、情報収集能力の醸成。
---	---------------------------------

教授方法

輪読と議論と解説（WEBオンライン）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ゼミナールⅡを受講していること

授業計画

1	ゼミナールⅢの進め方についてのオリエンテーション
2	文献研究『with/afterコロナの働き方の展望』 参考文献『コロナ禍で徒然に考えたこと（野中郁次郎）』
3	文献研究『クリエイティブ・レストラン・ホールディングスの成功要因』『一橋MBA戦略ケースブック（事業創造編）』（東洋経済）より
4	文献研究『セブン銀行の協調戦略』『一橋MBA戦略ケースブック（事業創造編）』（東洋経済）より
5	文献研究『訪問介護事業における競争優位』『一橋MBA戦略ケースブック（事業創造編）』（東洋経済）より
6	文献研究『リユース市場におけるメルカリの戦略分析』『一橋MBA戦略ケースブック（事業創造編）』（東洋経済）より
7	文献研究『コモディティ化による価値獲得の失敗—デジタル家電の事例—延岡健太郎、伊藤宗彦、森田弘一（榊原清則、香山晋『イノベーションの競争優位—コモディティ化するデジタル機器』NTT出版、）』より
8	文献研究『日系企業の新興国市場における事業革新—エプソン「インクタンク」の導入過程』赤門マネジメント・レビュー
9	文献研究『職場の男女格差はどのように生まれるのか』
10	文献研究『女性の昇進を阻む不都合な真実』
11	文献研究『永続的に成長するレジリエント・カンパニーの条件』
12	文献研究『縮小市場における成長セグメントの取り込み—大和ハウスの賃貸住宅事業の二重のマーケティング戦略』
13	文献研究『台湾EMS/ODM企業の発展と日本企業』
14	文献研究『陶磁器産地の分業構造と競争の不文律—有田焼と京焼の産業比較を中心として』（山田幸三、伊藤博之、組織科学Vol.42 No.2, pp89-99）
15	文献研究 受講生の研究課題に合わせて文献調査
16	文献研究 受講生の研究課題に合わせて文献調査
17	文献研究 受講生の研究課題に合わせて文献調査
18	文献研究 受講生の研究課題に合わせて文献調査
19	文献研究 受講生の研究課題に合わせて文献調査
20	文献研究 受講生の研究課題に合わせて文献調査

21	文献研究 受講生の研究課題に合わせて文献調査
22	受講生の研究報告
23	受講生の研究報告
24	受講生の研究報告
25	受講生の研究報告
26	受講生の研究報告
27	受講生の研究報告
28	ゼミナールの総括

授業外における学習

事前・事後学習において文献調査を行うこと。

質問や相談への対応

メール、Zoomでの質問、相談を受けます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
研究報告	50	探索研究度、情報収集度
議論検討	50	議論参加度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『一橋MBA戦略ケースブック (事業創造編)』(東洋経 済)			
	『リサーチ・マインド 経営学 研究方法』(有斐閣アルマ) 『赤門マネジメント・レビュ ー』			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

問題意識に基づいて関連図書の文献調査を行うこと

その他・特記事項

Zoom ミッションID:918 960 3116

PW: なし

ゼミナールⅢ（田村）

更新日：2023/01/10 08:54:21

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト*	G3600B	科目コード	G3600
担当教員	田村 秀						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

地方自治、地域活性化、地方創生、グループディスカッション、フィールドワーク

授業の概要

単に講義だけでなく、グループディスカッション、地方自治体見学や公共政策の現場でのフィールドワーク、個人研究の発表などを通じて議論する機会を数多く設け、地方自治や公共政策に関する基本的なスキルを身につけ、公共経営コースに必要な能力を養います。アクティブラーニングを通じて、コミュニケーション能力も高めます。

研究したいテーマや実際にフィールドワークしたい場所を学生に主体的に選んでもらいます。様々な意見に耳を傾け、自分の考えを論理的に表現することができるスキルをゼミを通じて身につけてもらいます。

3年と4年が合同で実施するので、1, 2学期は主に3年が、3, 4学期は主に4年が発表を行います。

到達目標

1	・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。
2	・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。
3	・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。
4	・地域の課題の具体的な内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。
5	・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。
6	・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語ることができる。
7	・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。

教授方法

講義も行いつつ、基本は学生と教員、学生同士の議論、プレゼンとし、フィールドワークも随時行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

政策科学の単位を取得していること。

授業計画

1	ゼミの進め方について説明
2	グループディスカッションの準備
3	発表1
4	発表2
5	発表3
6	発表4
7	発表5
8	発表6
9	発表7
10	グループワーク1
11	グループワーク2
12	グループディスカッション1
13	グループディスカッション2
14	2学期のまとめ
15	フィールドワーク準備
16	フィールドワーク1
17	フィールドワーク2

18	フィールドワーク3
19	フィールドワーク発表1
20	フィールドワーク発表2
21	3学期のまとめ
22	講義
23	ミニゼミ論の作成
24	ミニゼミ論の作成
25	ミニゼミ論の作成
26	ミニゼミ論の発表
27	ミニゼミ論の発表
28	ゼミのまとめ

授業外における学習

地域の様々なことに常に興味を持ってもらいたいと思います。具体的には新聞やインターネットで自分の関心のある地域の出来事、特に自治体の取組みなどについて調べておいてください。自分の出身地や長野県だけでなく、直接関係のない地域の出来事にもアンテナを張ってもらいたいものです。本に関しては、担当教員の著書について、少なくとも1冊以上は目を通しておいてください。

このほか、長野市内を自分の足で回り、自分の目で見る機会を数多く作っておいてください。このゼミのモットーの一つに現場主義があります。地域を実際に自分で

質問や相談への対応

随時受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	50	ゼミでの議論の内容を踏まえて、自分の考えをしっかりとまとめている点を重視します。	
上記以外の授業評価	50	ゼミの出席、議論への参加などを総合的に加味します。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ゼミの最初に示します。			
	ゼミの最初に示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

地域のことを常に意識してください。

その他・特記事項

授業計画は仮置きであり、コロナ感染状況を勘案の上、柔軟に実施します。

ゼミナールⅢ（穴山）

更新日：2023/01/10 08:54:22

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースコード	G3600C	科目コード	G3600
担当教員	穴山 悌三						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

産業組織、ミクロ経済学、産業分析

授業の概要

このゼミでは、ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだ内容について下級生の指導等を通じて自らも更に理解を深めると共に、より発展的な分析に挑戦します。ゼミナールⅠ・Ⅱと同様、一般の授業のような一方の説明にとどまらず、参加者が自ら行動して学ぶ機会を多くつくります。

到達目標

1	本ゼミでは、経済学や経営などの理論と実証の考え方をふまえ、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析を試みます。
2	本ゼミを履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を分析・応用する力が身に付きます。
3	また一連の討議・報告等を通じて、リーダーシップを発揮できるようになります。

教授方法

基本的には参加者が準備したレジュメ等を用いて演習を行います。第1回および第2回は前年度の成果報告と討議を行います。第4回以降は下級生と協働しつつ、ミクロ経済学や経営の基礎、産業組織分析のいろいろなアプローチについて学びます。3学期以降は、それぞれが興味を持った産業を選び、チーム編成して初歩的な産業組織分析にチャレンジします。ゼミナールⅢではこれらに対して指導的役割を発揮しつつ、一層の付加価値付けを目指します。全体を通じ、ミニゲームなどのアクションラーニング要素も取り入れ、常に積極的な対話を行います。またCOVID-19の影響をふまえつつ、事情が許す限りにおいて、ヒアリング等の学外活動も計画します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

本ゼミへの参加を希望し、担当教員が参加を認めた者。

授業計画

1	4/13 ゼミの進め方等のガイダンス、前年度の成果報告・討議
2	4/20 前年度の成果報告・討議
3	4/27 チーム対抗企画
4	5/11 レジュメの報告・討議：Ch.5 価格戦略
5	5/18 レジュメの報告・討議：Ch.6 製品差別化
6	5/25 レジュメの報告・討議：Ch.7 品質と広告
7	5/27 レジュメの報告・討議：Ch.8 競争優位戦略
8	6/8 レジュメの報告・討議：Ch.9 技術戦略
9	6/15 レジュメの報告・討議：Ch.10 市場集中、参入障壁
10	6/22 レジュメの報告・討議：Ch.11 カルテル
11	6/29 レジュメの報告・討議：Ch.12 企業結合
12	7/6 レジュメの報告・討議：Ch.13 垂直的取引制限
13	7/13 レジュメの報告・討議：マルチサイド市場とプラットフォーム
14	7/20 前半のまとめ
15	各人の関心事項・研究計画発表
16	別途案内します
17	別途案内します
18	別途案内します
19	別途案内します
20	別途案内します
21	別途案内します
22	別途案内します
23	別途案内します
24	別途案内します

25	別途案内します
26	別途案内します
27	別途案内します
28	別途案内します

授業外における学習

下級生のレジュメ作成を適宜サポートすると共に、あらかじめレジュメに目を通しておき、ゼミの場で積極的に発言するための用意をしておくことが求められます。学外でのヒアリングなどを実施する際は、授業外での活動となります（任意参加）。

質問や相談への対応

質問や相談を歓迎します。メールでの質問や相談はもちろんのこと、ゼミ終了後の時間も活用ください。ゼミ開催後以外で直接話したいことなどがあれば、メールで日時約束の上、研究室を訪問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	100	ゼミにおける下級生への有益なコメント、各種報告・発言での貢献などの平常点を評価します。価値ある発言を積極的に行うものを高く評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	以下を用いますので持っていない方は購入ください。◆小田切宏之[2019]『産業組織論—理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣。			
	ゼミの中で適宜指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミでの学習は大学における学びの中心ともなる貴重な機会です。主体的・積極的に参加して、大いに成長してください。

その他・特記事項

下級生との協働に際してはよく面倒をみてあげてください。詳しくは第1回ガイダンスで説明します。原則として対面授業で行いますが、開始後第1週はオンライン授業となりますのでメール等での案内に注意してください。参加者の希望をふまえ、学外活動を実施したいと考えていますが、諸情勢の動向等も勘案し、実施有無や内容等はゼミ開始後に相談して決定します。また相談の上、他の企画等も随時検討します。

ゼミナールⅢ（築山）

更新日：2023/01/10 08:54:23

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3600D	科目コード	G3600
担当教員	築山 秀夫						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

フィールドワーク、共同調査、戸隠みらいプロジェクト、持続可能性

授業の概要

本ゼミでは、構造的な矛盾に晒された地域社会をいかに再生し、持続可能性を担保するのかについて、地域社会学の手法を用いて、フィールドワークを通して学ぶ。

3年次には、ゼミ生全員で共同研究・共同調査を実施し、4年次では、ゼミ生が個々に問いを立て、「持続可能な地域社会をいかにつくるか」を研究する。ゼミナールⅡと共同で学ぶ。

本年度は、「戸隠みらいプロジェクト」に関わりながら、持続可能な地域社会についての処方箋を学ぶ。

教員およびゼミの仲間と共同の問題を設定し、共同で、フィールドワークを行うことで、資料の収集、先行研究のサーベイ、質的調査の方法などを共に学び、共同論文をそれぞれの執筆箇所を明らかにしながら完成させる。完成させた論文は、学外で発表し、外部雑誌に投稿する。

到達目標

1	一つ、ある研究テーマや社会課題に対して、それに対する処方箋を得るために、必要な資料の収集、先行研究のサーベイができ、論理的な分析ができるようになること。
2	一つ、問題をある課題として、設定することができ、その問題の構造をとらえるために、新しい概念を構想することができるようになること。
3	一つ、自分が分析したプロセスやそれによって得られた処方箋について、他者に分かりやすく提示することができるようになること。
4	一つ、他者と連帯し、他者に対して自分を開き、お互いをサポートしながら切磋琢磨し、一つの課題に対して、処方箋をみちびくことができるようになること。
5	そして、混沌とした社会を生きるための創造的な能力を培うことを目標とする。

教授方法

ゼミナールⅡは、五つの階梯に分かれる。五つの階梯に分かれるが、それぞれが一部重なりながら進められる。これらを実践を伴いながら、教授し、ゼミの皆が共に学び合う。

第一の階梯は、調査対象を巡る資料収集と分析を行う。利用するのは、キーワードによる各種新聞検索、論文検索である。調査実施前に、調査対象の情報をできるだけ多く収集し、関心のある文献をリストアップし、自分たちだけの文献リストを作成する。現実には調査に入ると、圧倒的な情報量でこちらに迫ってくる。それを見失うことなくとらえるには、先行研究の補助線が大きな助け

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

4年次の「卒業研究」を履修することになります。

授業計画

1	ゼミナールの目的や意義について理解し、ゼミナールの年間スケジュールを確認する。＜事前学習＞シラバスを読んで、ゼミナールの大体の流れを理解しておき、分からない部分についてまとめておく。＜事後学習＞自分自身の目標を設定する。ゼミを振り返り、重要だと思う点について、まとめておく。
2	本年度は、長野市戸隠地区におけるまちづくり（戸隠みらいプロジェクト）に関わりながら、グループに分かれ、夫々の問いを立て回答を出す。地域の構想をいかに語るかを議論する。＜事前学習＞地域構想とはどのようなものか、全国ではどのような地域でどのようなことが行われているのか、ウェブサイトなどから調べておく。＜事後学習＞地域構想について、より理解を深めるために、ゼミを振り返り、自分の考えをまとめておく。
3	戸隠未来プロジェクトについて、概要を知る。＜事前学習＞事前配布資料を読んでおく。＜事後学習＞ゼミで議論した内容について、自分の考えについて、まとめておく。
4	戸隠未来プロジェクトを問題の場として、そこから、ゼミナールのメンバーの問題関心（問題そのもの）をお互いに報告し合う。＜事前学習＞戸隠未来プロジェクトを問題の場として、「持続可能な地域社会をいかにつくるのか」をテーマに、グループの関心をプレゼンしていただくので、パワーポイント10枚程度にまとめておく。＜事後学習＞自分自身のゼミの年間スケジュールについて、考える。
5	グループごとに、自分たちの問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞先行研究を調べて、問題関心を深める。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
6	グループごとに、自分たちの問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞先行研究を調べて、問題関心を深める。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
7	グループごとに、自分たちの問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞先行研究を調べて、問題関心を深める。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。

8	グループごとにそれぞれの問いを、体系化するための議論をする。＜事前学習＞自分たちの問題関心が、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るといふ問いのどこに位置づけるのかについて考え、まとめておく。＜事後学習＞自分たちの問題関心と他のグループの問題関心との関係をまとめておく。
9	それぞれのグループの問題関心をいかに調査するのか（調査の設計）について、議論する。＜事前学習＞問題関心をいかに調査したらよいのかについて、考えをまとめておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
10	ゼミメンバーそれぞれの問題関心をいかに調査するのかについて、議論する。＜事前学習＞自分の問題関心をいかに調査したらよいのかについて、さらに自分の考えをまとめておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの問いについてまとめ、自分自身の気づきについてまとめておく。
11	戸隠みらいプロジェクトを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、問いを考え、まとめてくる。＜事後学習＞ゼミでの議論を踏まえて、よりよいワーディングを考える。
12	戸隠みらいプロジェクトを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、さらに問いを考え、まとめてくる。＜事後学習＞ゼミでの議論を踏まえて、よりよいワーディングを考える。
13	戸隠みらいプロジェクトを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、さらに問いを考え、まとめてくる。＜事後学習＞ゼミでの議論を踏まえて、よりよいワーディングを考える。
14	戸隠みらいプロジェクトを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を完成し、印刷し、閉じる。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、完成した調査票を更に確認する。＜事後学習＞ゼミでの議論を踏まえて、よりよいワーディングを考える。
15	夏季休暇中に、実施した調査結果を集計する。Excelへの入力作業を実施し、SPSSで集計する。＜事前学習＞夏季休暇中の調査結果、特に自由回答の担当部分を活性化してくる。＜事後学習＞単純集計により、分かることをまとめておく。
16	調査結果をクロス集計など、問いを解くための分析を行い、議論する。＜事前学習＞個々の問いに関する調査結果についてまとめておく。＜事後学習＞個々の問いに関する調査結果の分析をさらに進めておく
17	調査結果で得られたことを、論文として活性化するための事前作業を行う。皆でパワーポイントで発表しあい、質疑応答を行う。＜事前学習＞調査結果で得られたことをパワーポイントにまとめて、報告してもらうので、作成しておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、パワーポイントの修正を行う。
18	前回、議論した内容をふまえて、さらにパワーポイントで説明を行い、議論をする。その際に、問題をより分かりやすく把握できるような概念を構想する。その構想について、皆で考える。＜事前学習＞前回のパワーポイントを修正したものを用意しておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、パワーポイントの修正を行う。
19	前回、議論した内容をふまえて、さらにパワーポイントで説明を行い、議論をする。その際に、問題をより分かりやすく把握できるような概念を構想する。その構想について、皆で考える。＜事前学習＞前回のパワーポイントを修正したものを用意しておく。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、パワーポイントの修正を行う。
20	パワーポイントで説明した内容をそれぞれ活性化し、提出し、読み合う。参考文献や、註などの付け方や、論理的な展開などについても、皆で読みながら、質疑応答する。＜事前学習＞パワーポイントで説明した内容を論文として、それぞれ活性化してくる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、論文を修正する。
21	パワーポイントで説明した内容をそれぞれ活性化し、提出し、読み合う。参考文献や、註などの付け方や、論理的な展開などについても、皆で読みながら、質疑応答する。＜事前学習＞パワーポイントで説明した内容を論文として、それぞれ活性化してくる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、論文を修正する。
22	前回提出した論文をさらにブラッシュアップするために、皆で読み合い、議論する。＜事前学習＞論文をさらにブラッシュアップしたものを作成してくる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、論文を修正する。
23	論文で書いた内容から、何らかの政策提言ができるか、議論する。＜事前学習＞執筆した論文から、政策提言ができるか、まとめてくる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、政策提言についてまとめる。
24	前回の議論を継続して、何らかの政策提言ができるか、議論する。＜事前学習＞前回の議論を参考に、さらに政策提言について、まとめてくる。＜事後学習＞ゼミメンバーや教員からの意見を参考に、政策提言についてまとめる。
25	学園祭での報告会のための資料作成をする。＜事前学習＞学園祭で報告会をするための資料をパワーポイントで作成してくる。＜事後学習＞作成した資料を確認する。
26	調査のインフォーマント向けの報告会資料を作成する。＜事前学習＞調査のインフォーマント向けの報告会資料をパワーポイントで作成してくる。＜事後学習＞作成した資料を確認する。
27	外部雑誌への投稿のための共同論文を完成させる。＜事前学習＞外部雑誌への投稿論文（個々の部分）を完成させて来る。＜事後学習＞合体した論文を校正する。
28	一年間のゼミを皆で振り返り、議論し、来年度のゼミの課題を話し合う。＜事前学習＞個々のゼミ生が、一年間のゼミを振り返り、得られたこと、課題として残ったことをまとめておく。＜事後学習＞話し合った内容を来年度のゼミに活かせるように、まとめておく。

授業外における学習

それぞれの回で課されている事前、事後学習は必ず行うこと。ゼミはゼミ以外の時間に行った学習の成果の発表の場所である。

質問や相談への対応

ゼミ時間時にはいつでも受けます。また、メールによる質問、相談をいつでも受けます。24時間以内に返信いたします。直接面談による質問、相談については、メールにてアポを取って頂ければ対応いたします。どうぞん下さい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
事前学習	30%	求められていることが達成できているかについて評価する。
授業貢献度	30%	議論に積極的に参加、発言できているかを評価する。
論文、プレゼンテーション	40%	論文及びプレゼンテーションの水準、自ら問いを立て、分析をし、解答を得られたか、他者に分かりやすく説明できたかを評価する。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特にありません。			
	特にありません。その都度、必要な文献について、ご紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1. 事前学習、事後学習を必ず行ってください。
2. ゼミの時間は、恥ずかしがらずに、自分の意見をどんどん述べてください。ゼミでのグランド・ルールは次の通りです。
 - ①Yes,and (どんな意見も受け入れる)
 - ②Be Present(“今ここ”に集中する)
 - ③Listen (よく聴く、傾聴する)
 - ④Co-Create (共に創る)
 - ⑤Have Fun! (楽しむ)
 - ⑥No“む” (無理、難しいと言わない→言ってしまった時は、3秒以内に、「楽しい!」と言うこと)
 - ⑦ Make Mistakes!! (失敗を恐れない。どん

その他・特記事項

ゼミは大学生活において最も重要な場である。ゼミ生同士で切磋琢磨してほしい。

ゼミナールⅢ（永田）

更新日：2023/01/10 08:54:24

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3600E	科目コード	G3600
担当教員	永田 邦和						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

ファイナンス, 金融論, 経済学

授業の概要

ゼミナールⅠとⅡで身に付けたファイナンスや金融論, 経済学の知識を使い, 各自の興味のあるテーマについて報告する。また, グループに分かれて関心のある経済・社会問題を研究し, 研究成果を大学生を対象にした懸賞論文(日銀グランプリ, 中小企業懸賞論文, 日経ストックリーグ等)に応募する。

到達目標

1	ファイナンスや金融論, 経済学の知識を使いこなし, 現実の経済・社会問題を分析できるようにする。また, グループでの研究成果を懸賞論文に応募することで, 論理的思考力や表現力を身に付ける。
---	--

教授方法

演習形式。対面で行う(特別な事情がある場合のみ, オンライン参加を認める)。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ファイナンス入門と金融論, コーポレートファイナンスⅠ・Ⅱ, 金融システム論, ミクロ経済学, マクロ経済学, 経営統計学入門, 数理統計学を履修していると, 授業内容を深く理解できる。これらの科目の積極的な受講を勧める。

授業計画

1	ガイダンス
2	受講生の報告と討論
3	受講生の報告と討論
4	受講生の報告と討論
5	受講生の報告と討論
6	受講生の報告と討論
7	受講生の報告と討論
8	受講生の報告と討論
9	受講生の報告と討論
10	受講生の報告と討論
11	受講生の報告と討論
12	受講生の報告と討論
13	受講生の報告と討論
14	受講生の報告と討論
15	受講生の報告と討論
16	受講生の報告と討論
17	受講生の報告と討論
18	受講生の報告と討論
19	受講生の報告と討論
20	受講生の報告と討論
21	受講生の報告と討論
22	受講生の報告と討論
23	受講生の報告と討論
24	受講生の報告と討論
25	受講生の報告と討論
26	受講生の報告と討論
27	受講生の報告と討論

28 受講生の報告と討論

授業外における学習

各自の研究や懸賞論文の執筆作業（資料収集と整理，研究発表の準備，論文の執筆等）にも時間をかけること。

質問や相談への対応

授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば，研究室に来ること。所用がない限り，いつでも対応する。日時を指定したい場合，メール等で事前に連絡すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	
小テスト	0	
授業レポート	20	ファイナンスや金融，経済学を用いた研究成果を評価する。
上記以外の授業評価	80	日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加，宿題等）と懸賞論文の成果。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜指示する。			
	適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

懸賞論文での好成績を目指す。

その他・特記事項

特になし。

ゼミナールⅢ（宮崎）

更新日：2023/01/10 08:54:25

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト*	G3600F	科目コード	G3600
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

健康政策 ヘルシステム ヘルビジネス

授業の概要

「健康生活」「健康な地域づくり」「健康経営」「ヘルビジネス」等の言葉に代表するように、人々の生活だけでなく、公共経営、会社経営、企画事業に“健康”の視点があると人々は生き生きとした幸せに近づく。保健を通じて「誰一人取り残さない」SDGsの実現を、分野を超えて考える。

ゼミⅢでは、学生の関心を持ったヘルシステムの課題に対し、新たな提案をするための視点と、アイデアを創出するために、議論を中心に展開していく。

到達目標

1	・関心あるヘルシステムの現状と課題を把握できる
2	・課題に対し多角的視点から議論できる
3	・新たなヘルシステム（政策や事業）が提案できる
4	・後輩の学習支援を経験しメンターとしての心構えを学ぶ

教授方法

ゼミナール（討議、発表、報告、演習、地区視診等）一部講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ゼミナールⅡを修了していること 卒業研究を履修していること

授業計画

1	オリエンテーション ゼミ計画の確認
2	研究の基礎を確認する
3	研究方法を確認する
4	関心のあるヘルシステムの現状と課題①
5	関心のあるヘルシステムの現状と課題②
6	コミュニティのヘルシステムのあるべき姿①
7	コミュニティのヘルシステムのあるべき姿②
8	議論の視野を広げる①
9	議論の視野を広げる②
10	議論の視野を広げる③
11	事例と対応①
12	事例と対応②
13	事例と対応③
14	コーチングについて考える
15	学生の関心事と議論
16	学生の関心事と議論
17	学生の関心事と議論
18	学生の関心事と議論
19	学生の関心事と議論
20	学生の関心事と議論
21	学生の関心事と議論
22	新システムの実現可能性を考える①
23	新システムの実現可能性を考える②
24	新システム・新事業の提案と議論①

25	新システム・新事業の提案と議論②
26	学修を深める助言の実際
27	学修を深める助言の実際
28	学修を深める助言の実際

授業外における学習

関心事のヘルスシステムの現状を把握するための情報収集、課題抽出など事前に準備し、ゼミで議論後に加筆修正すること

質問や相談への対応

時間内、時間外、メール等で質問・相談に対応

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	50%	レポート、資料等の各種提出物（文献検討を含む）
議論・助言	50%	授業内における発言、議論への参加（30%）後輩支援（20%）
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	学生自身の関心事に合わせ提示する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に関心事に向き合ってください

その他・特記事項

特になし

ゼミナールⅢ（宮下）

更新日：2023/01/10 08:54:26

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト*	G3600G	科目コード	G3600
担当教員	宮下 清						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

マネジメント、経営学理論、事例探求、海外参考情報、相互学習

授業の概要

本ゼミナールでは、世界標準とされるマネジメント・テキストに基づき輪読学習を行うと共に、地域・国内・海外の事業や企業の事例を通して、経営学・ビジネス・マネジメントを理論的かつ実践的に学ぶ。

経営学・マネジメント・ビジネスを学ぶには、理論的枠組み、体系的な知識、事業や企業における実践を理解することが重要となる。本ゼミナールではマネジメント・テキストでの学習と共に、企業や地域事業などの情報収集や現地調査などをプロジェクトとして行い、実際の課題を通してマネジメントの理解、習得を図る。そしてそれらの知識理解と活用につながる能力獲得を目指す。

到達目標

1	・経営学の理論・歴史を学び、実践への適用・活用を試み、また理論に戻り考えるというプロセスに沿って学ぶ。経営学は広く地域・国内・海外の事業・企業そして商品・サービス、戦略・組織、人材・育成を対象とする。
2	・地域、国内、海外の経営・マネジメントについて文献から学ぶと共に、情報収集や訪問など現地現物からも学ぶ。地域事業・企業、国際経営、経営戦略、組織行動、人材マネジメント、教育訓練が本ゼミのキーワード。
3	・学習の場となるゼミでは、お互いを尊重し高め合える人間関係の構築が前提。ゼミ学習・活動を通してコミュニケーションやリーダーシップなどの力を高め、良好な社会性、協力関係を構築できる人間力を高める。
4	目標＝基礎理論の習得とプロジェクトへの取り組みができる。

教授方法

- ・マネジメント授業 ゼミの時間で課題図書の本読。各担当レジメ提出し発表をおよび討議。
- ・プロジェクト授業 ゼミ生が主体的に進めるプロジェクト研究。学内外の調査研究活動、サブ学習、学外訪問、交流などイベント活動を随時行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経営学入門を履修していることが望ましい

授業計画

1	ゼミⅡの概要「ゼミでの学習」、Ⅰ．マネジメントの理解を図る
2	1．マネジメントの学習、 2．プロジェクトによる学習
3	マネジメントの学習①
4	マネジメントの学習②
5	プロジェクト活動①
6	プロジェクト活動②
7	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認
8	Ⅱ．集中授業 取り組みの概要、スケジュール確認
9	マネジメントの学習③
10	マネジメントの学習④
11	マネジメントの学習⑤
12	プロジェクト活動③
13	プロジェクト活動④
14	プロジェクト活動⑤
15	Ⅲ．プロジェクトによる学習
16	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認
17	プロジェクト活動⑥
18	プロジェクト活動⑦
19	マネジメントの学習⑥

20	マネジメントの学習⑥
21	プロジェクト活動⑧
22	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認
23	マネジメントの学習⑦
24	マネジメントの学習⑧
25	プロジェクト活動⑨
26	マネジメントの学習⑨
27	マネジメントの学習⑩
28	プロジェクト活動⑩

授業外における学習

通常のゼミ発表のためには、テキストなどの文献を読む、理解する、考える、まとめるといった学習のため、事前学習、事後学習が求められる。またプロジェクトでは現場訪問やその準備や事後の整理などメンバーと協力し、積極的な活動が求められる。

授業外のゼミ活動として、ビジネスコンペ、合同ゼミ・他大学交流、サブゼミ、企業等の訪問、ゼミ合宿などが考えられるが、実際の参加はゼミで検討して決定する。

質問や相談への対応

授業前後およびメールでのアポにより対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
輪読の担当レジュメと発表	30	担当部分の適切なレジュメ等資料の提示および説明	
小レポート	20	プロジェクト等の報告レポート	
発表と討議	20	プロジェクト等での発表と討議	
その他	30	ゼミ活動、グループ活動への参加や取り組み	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	S.P.ロビンズ他著、高木晴夫監訳（2014）『マネジメント入門—グローバル経営のための理論と実践』ダイヤモンド社。			
	Stephen P. Robbins et al. Fundamentals of Management: Management Myths Debunked!, Global Edition, Pearson Education Limited., 2016. 中山、丹野、宮下『新時代の経営マネジメント』創成社、2018。 上林他著『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、2018。ほか			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミでは、常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学ぶ、またプロジェクトでは主体的にかつ協力して取り組む。

その他・特記事項

スケジュールやおよその枠組みであり、必要に応じて修正・改善して進める。
担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有する。

ゼミナールⅢ（Ⅲ）

更新日：2023/02/27 12:53:43

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト*	G3600H	科目コード	G3600
担当教員	伊 大栄						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

ディスカッション、研究方法論、創造的な研究、論文作成

授業の概要

関心を持ったテーマに沿って研究を進める。

到達目標

1	個人 (or 共同)発表、レポート作成を通じ、論理的・創造的思考能力やプレゼンテーション能力を向上させる。
---	---

教授方法

研究成果を発表し、ディスカッションを中心に進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ユンゼミの「ゼミナールⅡ」を履修していること

授業計画

1	研究成果のプレゼンとディスカッション
2	研究成果のプレゼンとディスカッション
3	研究成果のプレゼンとディスカッション
4	研究成果のプレゼンとディスカッション
5	研究成果のプレゼンとディスカッション
6	研究成果のプレゼンとディスカッション
7	研究成果のプレゼンとディスカッション
8	研究成果のプレゼンとディスカッション
9	研究成果のプレゼンとディスカッション
10	研究成果のプレゼンとディスカッション
11	研究成果のプレゼンとディスカッション
12	研究成果のプレゼンとディスカッション
13	研究成果のプレゼンとディスカッション
14	研究成果のプレゼンとディスカッション
15	研究成果のプレゼンとディスカッション
16	研究成果のプレゼンとディスカッション
17	研究成果のプレゼンとディスカッション
18	研究成果のプレゼンとディスカッション
19	研究成果のプレゼンとディスカッション
20	研究成果のプレゼンとディスカッション
21	研究成果のプレゼンとディスカッション
22	研究成果のプレゼンとディスカッション
23	研究成果のプレゼンとディスカッション
24	研究成果のプレゼンとディスカッション
25	研究成果のプレゼンとディスカッション
26	研究成果のプレゼンとディスカッション
27	研究成果のプレゼンとディスカッション
28	研究成果のプレゼンとディスカッション

授業外における学習

- ・事前学習：関連文献や先行研究のレビューをしっかりと行う。
- ・事後学修：研究発表を行いながら、その成果を文章（論文）にまとめていく。

質問や相談への対応

研究室（B304室）訪問やメールで対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を達成している。【D】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
研究発表	100%		
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	とくに指定しない。			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

研究テーマに関連する文献レビューを丹念に行うこと

その他・特記事項

フィールド（企業や産地）に出かけ、自分の足で集めたオリジナルデータに基づいた研究（論文）を期待したい！

ゼミナールⅢ（東）

更新日：2023/01/10 08:54:28

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3600I	科目コード	G3600
担当教員	東 俊之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

グループ活動、研究発表、3・4年合同ゼミ、組織論の視点、組織論研究

授業の概要

ゼミナールⅢは、ゼミナールⅡに引き続き、専門テーマに基づく課題研究に取り組む。各自のテーマに関連する文献調査や考察を通して、各自の課題研究を深めていく。各自の課題の研究・考察にあたっては、授業での報告や討論を通して、検討に必要な具体的な課題を明確にし、調査、分析発表といった一連のプロセスを行う能力と道筋を立てて考える力を向上させる。学士課程における学修の締めくくりとして、教員の指導のもとで研究成果を完成させる。

「ゼミナールⅢ（東）」では、3年ゼミ（ゼミナールⅡ）のグループ活動をサポートする活動と、自身の研究課題を調査し発表する活動の2つに分かれる。3年次ゼミ受講生と合同で行われる特徴を生かし、学年を超えた学習プロセスが創造できるように演習を行う。

到達目標

1	「ゼミナールⅢ（東）」は、「組織論の視点を用いた調査・研究」を実際に進めていく。とくに、これまでに修得した、課題の設定、資料調査、分析そして研究成果の発表に至るまでの一連のプロセスを、さらに発展させて研究能力向上を行うとともに、「ゼミナールⅡ（東）」の受講生に指導することで確実に身につけていく。また「ゼミナールⅡ（東）」の受講生とともにグループ活動を行い、他者と協働する素地を涵養することを目的としている。
2	具体的には、①組織論の文献を精読し、先行研究の系譜をまとめることができる、
3	②組織論の視点を理解し、それに基づいて実際の事例を詳細に分析ができる、
4	③自身で研究テーマを発見し、組織論の視点から解決策を提案できる、
5	④学年を超えた他者と協力し、また下級生に助言しながら課題の解決策を提案できる、
6	⑤他者の研究概要を聴講し、適切なアドバイスを送ることができる、という点を到達目標とする。

教授方法

基本的に演習。場合によっては、講義の形式の時もあります。また、学外での調査も必須です。なお、各学期の概要は以下のとおりです。

- ・4年次前期（1・2学期）：各自研究計画と研究進捗状況を発表する（3年次ゼミ受講生からも助言を得る） & 重要書籍を輪読（3年次ゼミ受講生に対してコメントする）
- ・4年次後期（3・4学期）：各自研究の研究調査ゼミ内で発表する（3年次ゼミ受講生からも助言を得る） & グループ活動（3年次ゼミ受講生のPBL活動のサポートする）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「ゼミナールⅢ」で東ゼミの所属している者

授業計画

1	【オリエンテーション】：ゼミナールⅢのスケジュールの説明、自己紹介、グループ分け等を行います。また課外で個人面談を行います。
2	【文献の読み方とPBLの進め方】：教員が行うPBLの進め方と、組織論の文献の読み方を説明をサポートし、3年生ゼミ生に対して、「ゼミナールⅡ」で実際に行ったPBL活動を説明します。
3	【古典的名著の輪読①】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。
4	【古典的名著の輪読②】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。
5	【古典的名著の輪読③】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。
6	【古典的名著の輪読④】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。
7	【古典的名著の輪読⑤と1学期の自己点検授業】：経営組織論の重要書籍を講読します（講読する書籍は第1回授業時に決定します）。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。また後半は1学期の振り返りを行います。
8	【プロジェクト・テーマの開示とグループ分け】：主として3年次ゼミ受講生が行うグループ活動をサポートするメンバーを指定します（グループメンバーとして参加してもよい）。さらに、次週から始まる3年次ゼミ受講生による論文講読の参考にするために、4年次ゼミ受講生の先行研究に要約をプレゼンします。

9	【プロジェクト活動① & 組織論の論文講読①】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が、組織論の論文を精読し要約した内容をプレゼンテーションするので、そのコメントターを務めます。
10	【プロジェクト活動② & 組織論の論文講読②】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が、組織論の論文を精読し要約した内容をプレゼンテーションするので、そのコメントターを務めます。
11	【プロジェクト活動③ & 組織論の論文講読③】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が、組織論の論文を精読し要約した内容をプレゼンテーションするので、そのコメントターを務めます。
12	【プロジェクト活動④ & 組織論の論文講読④】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が、組織論の論文を精読し要約した内容をプレゼンテーションするので、そのコメントターを務めます。
13	【プロジェクト活動⑤】：プロジェクト・テーマに関して、グループで解決すべき課題を検討します（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、4年次ゼミ受講生は、3年次ゼミ受講生に向けて自身の研究内容を紹介します。
14	【プロジェクト活動⑥】：プロジェクト・テーマに関して、グループで解決すべき課題を検討します（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、4年次ゼミ受講生は、3年次ゼミ受講生に向けて自身の研究内容を紹介します。
15	【後学期ガイダンス】：後学期（3・4学期）のスケジュールの説明、夏季休暇中の研究活動の進捗状況の確認などをゼミ内で報告します。
16	【プロジェクト活動⑦ & 「研究計画書」の作成サポート①】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が提出する「研究計画書」の参考となるように、各自の研究の骨子をプレゼンします。
17	【プロジェクト活動⑧ & 「研究計画書」の作成サポート②】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が提出する「研究計画書」の参考となるように、各自の問題意識と研究意義をゼミ内で発表します。
18	【プロジェクト活動⑨ & 「研究計画書」の作成サポート③】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が発表する問題意識や研究意義に対してコメントを行います。
19	【プロジェクト活動⑩ & 「研究計画書」の作成サポート④】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、各自が行っている研究手法について、自身の状況をゼミ内で発表します。
20	【プロジェクト活動⑪ & 研究発表①】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、各自の卒業研究の概要をゼミ内で発表し、3年次ゼミ受講生からコメントを得ます。
21	【プロジェクト活動⑫ & 研究発表②】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、各自の卒業研究の概要をゼミ内で発表し、3年次ゼミ受講生からコメントを得ます。
22	【プロジェクト活動⑬ & 研究発表③】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、各自の卒業研究の概要をゼミ内で発表し、3年次ゼミ受講生からコメントを得ます。
23	【プロジェクト活動⑭ & 「研究計画書」の作成サポート⑤】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生がプレゼンする「研究計画書」の内容について、コメントを行います。
24	【プロジェクト活動⑮ & 「研究計画書」の作成サポート⑥】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生がプレゼンする「研究計画書」の内容について、コメントを行います。
25	【プロジェクト活動⑯ & 「研究計画書」の作成サポート⑦】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が執筆している「研究計画書」に対して助言を行います。
26	【プロジェクト活動⑰】：取り組んできた課題についての解決策を決定し、プレゼンテーションを行うための準備をします（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。
27	【プロジェクト活動⑱】：PBLの課題解決策について、クラス内（または、受け入れ先）でプレゼンテーションを行います。4年次ゼミ受講生は、主としてグループ活動に対するコメントを行います。
28	【自己点検授業】：1年間の振り返り、ならびに大学生活4年間を振り返り、自身のキャリアを検討します。また、課外で個人面談を行います。

授業外における学習

ゼミの授業時間（教室に集まっている時間）だけでは、当然のことながら不十分です。課外でのグループ活動や個人研究が求められます。特に3年次ゼミ生のサポートをすることがありますので、学外でも協力し合える体制を整えてください。

また自身の研究を発表する回もありますので、授業外できちんと準備してもらうことが必要です。

質問や相談への対応

オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。また必要でしたらZoomによる面談等で質問・相談を受け付けます。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。※オフィスアワーの時間帯は、初回授業時に案内します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	実施しない
発表	30	ゼミ内でのプレゼンテーションを評価する（発表内容・レジュメ等）。
レポート	40	数回のレポートにより評価する。具体的には、「グループ活動サポート報告書」（数回。20%）、文献輪読・講読レポート（数回。20%）。
その他：授業態度点	30	ゼミ活動への参加度（出席・発言等）、グループ活動での貢献度、などを総合的に評価する※詳細は、第1回授業時に明らかにする
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	J. D. トンプソン著（大月・廣田訳）『行為する組織』同文館出版, 2012を予定しているが、第1回授業時に決定する			
	組織論の研究方法を理解するために、以下の書籍を参考資料として用います。・田尾・若林編『組織調査ガイドブック』有斐閣, 2001。・須田敏子『マネジメント研究への招待』中央経済社, 2021。またその他の参考文献・参考資料は、ゼミ内で適宜紹介します。※それ以上に、皆さん自身で探し出すことが求められます。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミ全体の目標は、「『学問』するゼミ文化を構築する」ことです。その目標を実現するために、3年ゼミでは「実際の組織活動の調査分析方法を理解する」ことに主眼を置いています。そのことを意識して、ゼミ活動に取り組んでください。

ゼミ活動には、なるべく積極的に参加してほしいです。就職活動等でゼミ活動に参加できない場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

その他・特記事項

【重要】「授業計画」はゼミ生の興味関心や、到達レベルに応じて変更する場合があります。ご了承ください。また、学外に出かけての調査も予定しています。積極的に参加ください。

ゼミナールⅢ（衣川）

更新日：2023/01/10 08:54:29

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3600J	科目コード	G3600
担当教員	衣川 修平						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

アカウンティング・マインド, 会計学, 財務分析

授業の概要

主に会計学を学ぶゼミです。
本年度は中でも企業分析を中心に勉強していきたいと予定しています。
皆さんのニーズがあれば、ライトなフィールドワークも行いたいと思います。

到達目標

1	減損会計, 退職給付引当金, リース会計といった財務会計の個別分野と言われる論点を一つ一つ勉強していくことで, アカウンティング・マインド養成していきます。
2	また, プレゼン能力やディスカッション能力の向上も図っていきます。
3	また財務諸表作成・分析能力についても, 時間の余裕に応じて, 養成していきます。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

第2学年以降

授業計画

1	授業内容:イントロダクション：軽く自己紹介、役職決定。時間があれば軽くゲームを行います
2	テキスト輪読A①：伊藤邦雄『新・企業価値評価』を予定しています。皆さん2年生でまだ未修の内容もありますので、随時、補講的なレクチャーも入れていきたいと思います。
3	テキスト輪読A②：発表&ディスカッションしていきます。
4	テキスト輪読A③：発表&ディスカッションしていきます。
5	テキスト輪読A④：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。
6	テキスト輪読A⑤：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。
7	テキスト輪読A⑥：発表&ディスカッションしていきます。ないし海外研修前の準備をしたいと思います。（1セメ終了、海外研修へ）
8	海外研修報告3・4セメの打ち合わせ
9	テキスト輪読B①：発表&ディスカッションしていきます。
10	テキスト輪読B②：発表&ディスカッションしていきます。
11	テキスト輪読B③：発表&ディスカッションしていきます。
12	テキスト輪読B④：発表&ディスカッションしていきます。
13	テキスト輪読B⑤：発表&ディスカッションしていきます。
14	テキスト輪読B⑥：発表&ディスカッションしていきます。
15	講演：有識者の講演を考えていますが、原価計算か管理会計Ⅰで講演をするかもしれません。その時はゼミ生は積極的に手伝ってください。
16	テキスト輪読C①：発表&ディスカッションしていきます。
17	テキスト輪読C②：発表&ディスカッションしていきます。
18	テキスト輪読C③：発表&ディスカッションしていきます。
19	テキスト輪読C④：発表&ディスカッションしていきます。
20	テキスト輪読C⑤：発表&ディスカッションしていきます。
21	テキスト輪読C⑥：発表&ディスカッションしていきます。
22	テキスト輪読D①：発表&ディスカッションしていきます。
23	テキスト輪読D②：発表&ディスカッションしていきます。
24	テキスト輪読D③：発表&ディスカッションしていきます。

25	テキスト輪読D④：発表&ディスカッションしていきます。
26	テキスト輪読D⑤：発表&ディスカッションしていきます。
27	テキスト輪読D⑥：発表&ディスカッションしていきます。
28	テキスト輪読D⑦：発表&ディスカッションしていきます。

授業外における学習

課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援は行います。

質問や相談への対応

ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか2. 他者を尊重し、その意見を理解したか3. 自己の意見を説得的に述べることができたか	
報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか2. 他者を尊重し、意見を理解したか3. 自己の意見を説得的に述べることができたか	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	伊藤邦雄（2014）『新・企業価値評価』日本経済新聞社と、その前準備のための基礎的なテキストを読むことを予定しています。			
	随時指定します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。

とくにコミュニケーションが全く取れない人や、ゼミに参加しようとしていない人は、他者に対して敬意が見られない人は、ゼミ自体を崩壊させますので、注意してください。

しかし難しいことを要求しているわけではありません。

おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！

またなるべく学びの場か

その他・特記事項

Email: kinugawa.shuhei★u-nagano.ac.jp

ゼミナールⅢ（金）

更新日：2023/01/10 08:54:29

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3600K	科目コード	G3600
担当教員	金 賢仙						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

会社法、金融商品取引法、ビジネス法

授業の概要

このゼミでは、ビジネスに関する法領域での法的な論点、個別事例等の中から自身でテーマを選び、①なぜそのテーマを検討する必要があるのか、具体的な問題点は何か（問題意識）を整理した上で、②現状はどうなっているか、それはなぜか、③法制度等に改善が必要な点はあるか、あるとすれば何か、どのように改善すればよいか、といった流れで考察を行い、論文にまとめる。

到達目標

1	ビジネスに関する法領域の専門的なテーマについて、理解し、説明できるようになる。
2	株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）を行うことができるようになる。

教授方法

原則として、演習方式とする。

大学がオンライン講義の実施の方針を採る学期については、それによる。別途、案内をするので、確認すること。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。

授業計画

1	ガイダンス
2	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
3	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
4	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
5	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
6	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
7	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
8	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
9	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
10	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
11	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
12	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
13	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究
14	ふりかえり
15	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
16	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
17	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
18	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
19	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
20	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
21	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
22	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
23	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
24	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
25	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究

26	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
27	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究
28	ふちかえりとまとめ

授業外における学習

担当する発表等の準備その他。

質問や相談への対応

原則として、オフィス・アワーに対等する。オフィス・アワーの委細については、ガイダンスその他において案内する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表の内容と出来ばえ	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。
コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。講義中にコピー等を配布する。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣、第8版、2021） ・伊藤靖史ほか「リーガルクエスト会社法」（有斐閣、第5版、2021） ・河本一郎ほか「新・金融商品取引法読本」（有斐閣、2014） ・松岡啓佑「最新金融商品取引法講義」（中央経済社、第6版、2021） ・会社法判例百選 第4版（別冊ジュリスト 254） ・金融商品取引法判例百選（別冊ジュリスト 214）※つづく※ 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しみながら、学習しましょう。
オンライン講義の実施に関して、別途連絡をしますので、メール等の確認をまめに行ってください。

その他・特記事項

講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。

※参考書つづき※

- ・吉見宏「会計不正事例と監査（日本監査研究学会リサーチシリーズXVI）」（同文館出版、2018）
- ・長島・大野・常松法律事務所その他「会計不祥事対応の実務」（商事法務、2010）
- ・門脇徹雄ほか「ケースブック 上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計失敗事例から学ぶ」（中央経済社、2008） その他、講義中に説明する。

ゼミナールⅢ（首藤）

更新日：2023/03/15 17:40:20

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト	G3600L	科目コード	G3600
担当教員	首藤 聡一朗						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

経営戦略論、経営分析、経営企画

授業の概要

経営戦略論のロジックを通じて現実を分析していく。

到達目標

1	経営戦略のロジックを習得する
2	経営戦略論のロジックを用いて現実をよりよく理解できるようになる
3	自らの思考に経営戦略論のロジックを組み込むことができるようになる
4	学術的論文を執筆できるようになる

教授方法

グループ、あるいは個人で課題に取り組み、プレゼンテーションする。その後、議論する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

事前に履修を希望し、認められた学生

授業計画

1	ガイダンス
2	卒業論文について (1)
3	卒業論文について (2)
4	経営戦略論のロジック (1)
5	経営戦略論のロジック (2)
6	経営戦略論のロジック (3)
7	卒業論文について (3)
8	卒業論文について (4)
9	経営戦略論のロジック (4)
10	経営戦略論のロジック (5)
11	経営戦略論のロジック (6)
12	経営戦略論のロジック (7)
13	卒業論文について (5)
14	卒業論文について (6)
15	卒業論文について (7)
16	卒業論文について (8)
17	経営分析 (1)
18	経営分析 (2)
19	経営分析 (3)
20	経営分析 (4)
21	卒業論文について (9)
22	卒業論文について (10)
23	調査手法 (1)
24	調査手法 (2)
25	調査手法 (3)
26	調査手法 (4)

27	卒業論文について (11)
28	卒業論文について (12)

授業外における学習

プレゼンテーションの準備

質問や相談への対応

アポイントメントをとってくれば日程を調整して対応いたします

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	100	内容、表現
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ありません			
	適宜紹介します			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

一緒に頑張りましょう

その他・特記事項

要望などありましたら遠慮なくお伝えいただければ幸いです。よろしく申し上げます

ゼミナールⅢ（中村陽）

更新日：2023/01/10 08:54:32

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3600M	科目コード	G3600
担当教員	中村 陽人						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ

授業の概要

2年次に学んだマーケティングや統計学の専門的知識とデータ分析の技術を基に、3、4年次のゼミは研究活動をメインとしながら、合同会社sigmovの経営、民間企業や自治体との共同プロジェクト、全国レベルの各種コンテストなどに取り組む。

到達目標

1	・特定のテーマについて、①論点を整理して課題を設定し、②必要な情報を集めて適切に整理し、③主張の客観的な根拠をそろえ、④効果的に相手に伝える、という一連のスキルを身につけている。
2	・統計学の基礎的な力（統計検定2級程度）を身につけている。実データを統計ソフトを用いて適切に分析し、正しく解釈することができる。
3	・英語のトップジャーナルに掲載された学術論文を読み、正しく理解できる。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

マーケティングと統計学の関連科目を履修していること、あるいは同時に履修すること。

授業計画

1	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
2	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
3	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
4	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
5	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
6	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
7	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
8	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
9	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
10	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
11	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
12	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
13	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
14	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
15	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。

16	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
17	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
18	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
19	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
20	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
21	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
22	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
23	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
24	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
25	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
26	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
27	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。
28	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。

授業外における学習

膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の学習や活動がメインとなる。長期休業中も膨大な量の課題がある。

質問や相談への対応

共有している教員スケジュールを確認し、事前に予約する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	授業や課題への取り組み状況を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業の中で適宜指示する。			
	授業の中で適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ゼミの理念を理解し、共感していること。
- ・ゼミ活動に全力でコミットすること。

その他・特記事項

- ・他のゼミとの掛け持ちはできない。
- ・3年次からの入ゼミはできない。
- ・4年次には卒業論文を書かなければならない。

ゼミナールⅢ（中村稔）

更新日：2023/01/10 08:54:34

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G36000	科目コード	G3600
担当教員	中村 稔彦						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

少子高齢化、地方創生、地域再生、地域活性化、社会保障制度、持続可能性

授業の概要

興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等について、それぞれで調査し、発表し合うとともに、今後の我が国と各自治体の発展について、議論や集団討論を行う。また、各個人でテーマを決定し、卒業論文の作成を行い、冬のゼミ合宿で発表を行う。その他にも、各個人の意識や知識、思考力を高めるために、グローバル企業の部長や本部長、マネージャー、オーストラリアのクイーンズランド州立政府の上席商務官等とのワークショップやセッション、セミナー、サブゼミなどを多数実施する。

到達目標

1	本ゼミの到達目標は、専門的な知識や思考能力を高めることはもちろん、それ以外にも公務員や民間企業の面接試験や集団討論を突破するスキルや社会に出てから即戦力として活躍するための調査力、分析力、行動力、コミュニケーション力、それに優秀なリーダーになるために必要な問題点を発見する「問題意識力」とそれを解決しようとする「問題解決力」を身に付けることである。
---	--

教授方法

講義形式は一部にして、与えられたテーマに対する発表や議論、集団討論等をする場面をできるだけ多く設けるようにする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

5回欠席した者（公欠を除く）は単位を付与しない（就職活動については要相談）。

授業計画

1	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（1）
2	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（2）
3	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（3）
4	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についてのプレゼン①
5	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（4）
6	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（5）
7	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（6）
8	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についてのプレゼン②
9	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（7）
10	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（8）
11	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（9）
12	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についてのプレゼン③
13	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（10）
14	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（11）
15	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についての調査（12）
16	興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等についてのプレゼン④
17	集団討論（1）
18	集団討論（2）
19	集団討論（3）
20	集団討論（4）
21	集団討論（5）
22	集団討論（6）
23	集団討論（7）
24	集団討論（8）
25	集団討論（9）
26	集団討論（10）

27	集団討論 (11)
28	集団討論 (12)

授業外における学習

各回の該当する内容、指示された内容について、事前に用語や理論、背景などを自分なりに調べ、理解しておくこと。
 調べた内容について、賛否両論がある場合は、それらを比較して自分なりの結論を導き出すようにすること。
 ゼミ内で説明した重要な項目の現状、背景、考え方等を整理するとともに、ゼミ内で紹介した論文や参考書、新聞、ホームページ等は事後に必ず調べること。
 これにより、幅広い経済社会・財政の一般常識を身につけることができるだろう。

質問や相談への対応

随時対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
集団討論	60	積極性、内容、表現力、対応力等の点から総合的に評価する（5点×12回）。	
調査発表	40	問題意識、分析力、表現力、質疑への応答等の点から総合的に評価する（10点×4回）。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		中村稔彦 [2022] 『攻める自治体「東川町」地域活性化の実践モデル』新評論。 持田信樹 [2019] 『日本の財政と社会保障 給付と負担の将来ビジョン』東洋経済新報社。 生活経済研究所編 [2011年] 『税制改革に向けて一公平で税収調達力の高い税制をめざして』生活研ブックス。 神野直彦等 [2012] 『よくわかる社会保障と税制改革-福祉の実現に向けた税制の課題と方向』イマジン出版。 佐々木茂他 [2009] 『地域政策を考える 2030年へのシナリオ』勁草書房。 戸田山和久 [2012] 『新版 論文の教室 レポートか』			
		内閣府『少子化社会対策白書 各年度』。 内閣府『高齢社会白書 各年度』。 総務省『各年度 地方財政統計年報』。 総務省『各年度 都道府県決算状況調』。 総務省『各年度 市町村決算状況調』。 総務省『各年度 都道府県財政指数表』。 総務省『各年度 類似団体別市町村財政指数表』。 その他、公共政策に関する学術論文など。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミをより充実したものにするためには、主体的にゼミに参加することである。使用するテキストをよく読んだり、テーマについて深く調べたり、問題点や改善案を真剣に考えたりすることはもちろん、議論に活発に参加したり、論文を納得いくまでしっかりとまとめたりすることによって、専門分野での思考力を高めることができるので、常にそのような意識で取り組んでほしい。
 また、普段から経済社会に関するニュースへの関心度を高め、当該ニュースの背景や問題点、改善案等も調べたり、考えたりするようにしてほしい。

その他・特記事項

特になし。

ゼミナールⅢ（野口）

更新日：2023/01/10 08:54:35

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト	G3600P	科目コード	G3600
担当教員	野口 暢子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

諸外国の公共政策、比較政治経済制度

授業の概要

各自、ひとつの国を選定し、歴史・文化・政治制度・経済政策・公共政策などの比較研究を行う。

到達目標

1	諸外国の歴史・文化・政治制度・経済政策・公共政策などを調べることを通じて、各自がその国に関する専門的知識の幅をひろげること。ゼミ生各自が調べた国々の比較考察を通じて、思考を深めることを目指します。
---	--

教授方法

ひとり1カ国を担当する。前半は、同じテーマについてそれぞれが10分程度の発表を行い、比較検討を行う。後半は、とくに興味を持った事柄について、さらに深く調べ、各回2名ずつがその内容についての発表を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ゼミナールⅢ（野口）の履修を認められていること

授業計画

1	ガイダンス（ゼミナールの進め方など）
2	どの国を担当するか（全員が事前に考えてくる）。
3	概要
4	歴史・文化
5	政治制度
6	経済政策
7	最近、話題になっている時事問題
8	教育政策
9	福祉政策
10	地方自治制度
11	興味を持ったテーマについての発表（2名）
12	興味を持ったテーマについての発表（2名）
13	興味を持ったテーマについての発表（2名）
14	興味を持ったテーマについての発表（2名）
15	興味を持ったテーマについての発表（2名）
16	興味を持ったテーマについての発表（2名）
17	興味を持ったテーマについての発表（2名）
18	興味を持ったテーマについての発表（2名）
19	興味を持ったテーマについての発表（2名）
20	興味を持ったテーマについての発表（2名）
21	興味を持ったテーマについての発表（2名）
22	興味を持ったテーマについての発表（2名）
23	興味を持ったテーマについての発表（2名）
24	興味を持ったテーマについての発表（2名）
25	興味を持ったテーマについての発表（2名）
26	興味を持ったテーマについての発表（2名）
27	興味を持ったテーマについての発表（2名）
28	今年度のゼミナール・まとめ

授業外における学習

毎回の発表に関する準備

質問や相談への対応

簡単な質問や相談は学内メールアドレス宛に送ってください。会って話をしたい場合は、その旨をメールに書き、野口の学内メールアドレス宛に送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表の内容	70	正確な情報をもとに、わかりやすく発表できたか。
質問する力	30	他の受講生の発表について、適切な質問ができたか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	授業内に紹介いたします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日頃から、社会に存在する問題に関心を持ち、書籍・論文・新聞などを読んだり、映像をみたり、語り合ったりすることを心がけてください。

その他・特記事項

ゼミナールを休む際には、必ず、ゼミナールが始まる時間までに野口の学内メールアドレス宛に連絡をください。

ゼミナールⅢ（三浦）

更新日：2023/03/07 19:12:56

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト	G3600Q	科目コード	G3600
担当教員	三浦 正士						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

授業の概要

この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいた学習を行うため、学期ごとに異なる課題を設定することで、地方自治を理論と実践の双方から学ぶことをめざす。

到達目標

1	①地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。
2	②論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。
3	③議論に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。

教授方法

演習形式で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション ゼミナールの進め方について説明するほか、ゼミナールⅠでの学びの振り返りを行う。
2	地方自治のしくみについて学ぶ (1) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
3	地方自治のしくみについて学ぶ (2) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
4	地方自治のしくみについて学ぶ (3) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
5	地方自治のしくみについて学ぶ (4) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
6	地方自治のしくみについて学ぶ (5) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
7	地方自治のしくみについて学ぶ (6) 教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。
8	自治の現場と政策の実践について考える (1) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
9	自治の現場と政策の実践について考える (2) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
10	自治の現場と政策の実践について考える (3) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
11	自治の現場と政策の実践について考える (4) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
12	自治の現場と政策の実践について考える (5) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
13	自治の現場と政策の実践について考える (6) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
14	自治の現場と政策の実践について考える (7) ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマを設定し、議論や調査を行う。
15	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ (1) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。

16	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ(2) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
17	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ(3) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
18	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ(4) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
19	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ(5) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
20	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ(6) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
21	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ(7) ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書や論文を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。
22	総括(1) ゼミナールⅡ・Ⅲで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。
23	総括(2) ゼミナールⅡ・Ⅲで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。
24	総括(3) ゼミナールⅡ・Ⅲで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。
25	総括(4) ゼミナールⅡ・Ⅲで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。
26	総括(5) ゼミナールⅡ・Ⅲで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。
27	総括(6) ゼミナールⅡ・Ⅲで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。
28	総括(7) ゼミナールⅡ・Ⅲで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。

授業外における学習

事前学習

- ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。
- ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、教科書を精読するとともに、自治体の政策課題に関する情報を収集する。

事後学習

- ・ゼミナールでの学習内容について、教科書や参考書を読み、理解を深める。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業での報告	70	ゼミナールにおいて課した報告の内容について、地域課題の発見力、地域課題の解決に向けた企画立案力を評価する。
議論への参加度	30	ゼミナールにおける議論への参加度や貢献度から、コミュニケーションの積極性、主体性、能動的な学習の姿勢を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	初回授業時に提示する。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

授業中に適宜参考書を紹介する。

受講生に望むこと

ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。

その他・特記事項

特になし。

卒業研究（田村）

更新日：2023/01/10 08:54:40

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバ [※] スコト [※]	G3610B	科目コード	G3610
担当教員	田村 秀						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

地方自治、地域活性化、地方創生、グループディスカッション、卒業論文

授業の概要

卒業論文作成のための準備、中間報告、最終報告を通じて、公共経営コースの締めくくりとします。

到達目標

1	・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。
2	・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。
3	・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。
4	・地域の課題の具体的内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。
5	・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。
6	・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語ることができる。
7	・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。

教授方法

卒業論文の作成を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

政策科学の単位を取得していること。

授業計画

1	卒論の書き方その1
2	卒論の書き方その2
3	卒論の書き方その3
4	卒論の書き方その4
5	卒論の書き方その5
6	卒論の書き方その6
7	卒論の書き方その7
8	卒論の書き方その8
9	卒論の書き方その9
10	卒論の書き方その10
11	中間報告その1
12	中間報告その2
13	中間報告その3
14	中間報告その4
15	中間報告その5
16	中間報告その6
17	中間報告の振り返り
18	論文指導その1
19	論文指導その2
20	論文指導その3

21	論文指導その4
22	論文指導その5
23	論文指導その6
24	最終報告その1
25	最終報告その2
26	最終報告その3
27	最終報告その4
28	ゼミのまとめ

授業外における学習

卒業論文を書くために参考となる文献をしっかりと読んでおくこと。

質問や相談への対応

随時受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
中間報告	50	卒論として一定程度の水準に達しているか。
最終報告	50	卒論として十分な水準に達しているか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ゼミの最初に示します。			
	ゼミの最初に示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

地域のことを常に意識してください。

その他・特記事項

授業計画は仮置きであり、柔軟に実施します。

卒業研究（穴山）

更新日：2023/01/10 08:54:41

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3610C	科目コード	G3610
担当教員	穴山 悌三						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

卒業研究論文

授業の概要

卒業論文に関する一連の指導を行います。研究計画の立案・報告、先行研究・参考文献等の基礎調査、研究方法の選択と分析、調査・分析結果の解釈、応用面の発展・討議等について、それぞれ各自で数度にわたる報告を行い、ワークショップ形式での討議と教員による指導とを実施します。

到達目標

1	この授業を通じて、自分なりの付加価値を付けた卒業論文が作成できるようになります。なお当ゼミナールでは卒業論文の提出を必須と考えています。
---	--

教授方法

卒業研究の取組み段階に応じて個別に討議・指導を実施します。詳細は授業中に解説します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

当ゼミナールⅡ・Ⅲの履修者であること。

授業計画

1	4/12（オンライン実施）研究計画の発表・討議（1）
2	4/19（以降対面実施予定）研究計画の発表・討議（2）
3	4/26 研究計画の発表・討議（3）
4	第4回以降の内容等は授業開始後の進捗等をふまえて別途指示します。

授業外における学習

卒業研究論文の執筆に係る調査・分析等が必要です。

質問や相談への対応

通常のゼミナールと同様です。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業研究論文	80	卒業研究論文を評価します。評価項目は、先行研究等のレビュー等の適切性、手法選択・分析的確性、オリジナリティ・独創性、論理的展開力、自身の付加価値・貢献度等です。
平常点	20	授業・ワークショップ等での積極的・有益な発言などを評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	用いません。			
	各自のテーマ等に応じて授業中に適宜指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

卒業研究論文は自らが大学で学んだことの集大成です。試行錯誤をおそれずに、自身の付加価値付けに挑戦しましょう。

その他・特記事項

フィールドワーク等の学外活動を行う場合がありますので、メール等による連絡を見落とさないよう注意してください。

卒業研究（築山）

更新日：2023/01/10 08:54:42

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト*	G3610D	科目コード	G3610
担当教員	築山 秀夫						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

卒業論文、卒論報告、口頭試問、フィールドワーク、フィードバック

授業の概要

大学生生活の集大成としての卒業論文の執筆法を学び、卒業論文を完成させ、卒論報告会で発表を行う。卒業論文執筆のプロセスで、問いを立てる力、その問いを考察する力と論理的に表現する文章表現力を養う。卒業後自ら学び、自らの考えを論じることのできる力を培う。

到達目標

1	調査に立脚した卒業論文を完成させ、執筆内容についての口頭試問に回答することができる。およその目安は原稿用紙 100 枚以上である。
---	--

教授方法

各自の進捗状況に応じて、研究室あるいはオンラインで実施する。教室あるいはオンラインでの3・4年生合同の中間報告会と最終報告会を実施し、卒論を完成させて提出する。卒論完成後、研究室主催の卒論発表会を開催し、PPTを使っての発表と質疑応答を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ゼミナールⅡ・Ⅲ（築山）を履修していること

授業計画

1	卒論のテーマの確定①
2	卒論テーマの確定②
3	先行研究のサーベイ①
4	先行研究のサーベイ② 参考文献リストの作成
5	先行研究のサーベイ③ キーとなる文献の確定と読書ノートの作成
6	卒論テーマの確定③
7	卒論テーマの分節化①
8	卒論テーマの分節化②
9	卒論テーマの問題群の体系化①
10	卒論テーマの問題群の体系化② アウトラインの決定
11	卒論の中間報告会の準備
12	卒論の中間報告
13	フィールドワーク①調査対象の決定
14	フィールドワーク②調査対象の情報収集
15	フィールドワーク③調査対象の情報収集
16	フィールドワーク④実査
17	フィールドワーク⑤実査
18	フィールドワークのまとめ① 分析①
19	フィールドワークのまとめ② 分析②
20	分析に基づく考察①
21	分析に基づく考察②
22	第一段階の完成
23	卒論最終報告会
24	最終の完成①
25	最終の完成②
26	引用文献、注の確認 引用文献が網羅されているのかを確認
27	卒業論文の完成 卒論全体の見直し・修正 今後の課題
28	卒業論文報告会における報告

授業外における学習

事前・事後学習に、それぞれ5時間ずつ以上を書けることが必要である。

質問や相談への対応

授業時間は直接、授業外ではメール等で質問に答える。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業論文	80	論文の質を評価する
日常点	20	日常的な実践、報告会等を評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし。個々の学生のテーマに合わせて、参考書や参考資料等を示す。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生生活の集大成として、最大限の努力をしてほしい。

その他・特記事項

卒業論文は、途中で断念せずに、必ず提出しなければいけない。

卒業研究（永田）

更新日：2023/01/10 08:54:43

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3610E	科目コード	G3610
担当教員	永田 邦和						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

ファイナンス, 金融論, 経済学

授業の概要

ゼミナールⅠ～Ⅲや講義で身に付けたファイナンスや金融論, 経済学の知識を使い, 各自の興味のあるテーマについて報告し, 研究成果を卒業研究にまとめる。

到達目標

1	ファイナンスや金融論, 経済学の知識を使いこなし, 現実の経済・社会問題を分析できるようにする。また, 口頭発表や論文の執筆を通じて, 論理的思考力や表現力を身に付ける。
---	---

教授方法

演習形式。対面で行う（特別な事情がある場合のみ, オンライン参加を認める）。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ファイナンス入門と金融論, コーポレートファイナンスⅠ・Ⅱ, 金融システム論, ミクロ経済学, マクロ経済学, 経営統計学入門, 数理統計学を履修していると, 専門的でアカデミックな研究をすることができる。

授業計画

1	ガイダンス
2	受講生の報告と討論
3	受講生の報告と討論
4	受講生の報告と討論
5	受講生の報告と討論
6	受講生の報告と討論
7	受講生の報告と討論
8	受講生の報告と討論
9	受講生の報告と討論
10	受講生の報告と討論
11	受講生の報告と討論
12	受講生の報告と討論
13	受講生の報告と討論
14	受講生の報告と討論
15	受講生の報告と討論
16	受講生の報告と討論
17	受講生の報告と討論
18	受講生の報告と討論
19	受講生の報告と討論
20	受講生の報告と討論
21	受講生の報告と討論
22	受講生の報告と討論
23	受講生の報告と討論
24	受講生の報告と討論
25	受講生の報告と討論
26	受講生の報告と討論
27	受講生の報告と討論

28 受講生の報告と討論

授業外における学習

各自の研究の執筆作業（資料収集と整理，研究発表の準備，論文の執筆等）に時間をかけること。

質問や相談への対応

授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば，研究室に来ること。所用がない限り，いつでも対応する。日時を指定したい場合，メール等で事前に連絡すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	
小テスト	0	
授業レポート	0	
上記以外の授業評価	100	卒業研究の成果と日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加等）。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜指示する。			
	適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学4年間の集大成になるように取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

卒業研究（宮崎）

更新日：2023/01/10 08:54:44

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3610F	科目コード	G3610
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

ヘルスシステム 研究

授業の概要

学生の関心事について、先行研究の精読、社会の現状把握、課題を発見し、研究疑問を立てる。各自が設定するテーマの研究目的に沿って、研究方法の選定を行い、データ収集、データ分析を行い、結果、考察、新たな提案を考えるという一連の研究プロセスを経験する。その過程で、様々な研究方法を学び、学生同士の議論を深め、事象への理解を深めていくとともに、課題発見力、分析力、考察力を身につける。

到達目標

1	・学生自身の関心事の現状を把握できる
2	・関心事の現状を研究疑問に沿って分析できる
3	・追究できた事実と課題に対し新たな提案ができる
4	・論文としてまとめることができる

教授方法

ゼミナール形式 個別面談 合同ゼミ等 複数の方法を用いる

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ゼミナールⅡ・Ⅲを履修していること

授業計画

1	研究計画の見直し
2	研究計画の見直し
3	研究計画の確認
4	データ収集
5	データ収集
6	データ収集
7	データ収集
8	データ分析
9	データ分析
10	データ分析
11	データ分析
12	データ分析
13	データ分析
14	データ分析
15	中間発表
16	中間発表
17	論文作成
18	論文作成
19	論文作成
20	論文作成
21	発表準備
22	研究討論
23	研究討論
24	発表準備
25	卒業研究発表会

26	卒業研究発表会
27	卒業研究まとめ
28	卒業研究まとめ

授業外における学習

文献検討、論文作成、発表資料準備等

質問や相談への対応

個別相談や面談により対応

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業研究	100%	卒業研究評価表を用いて、研究のプロセス、論文作成から発表までを、自己評価50% 教員評価50%で評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	ゼミナールIIで使用した教科書を参照 その他の参考書・資料は学生の関心事に合わせて提示する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学生が関心を持っている事項を深めてほしい

その他・特記事項

特になし

卒業研究（宮下）

更新日：2023/01/10 08:54:45

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト*	G3610G	科目コード	G3610
担当教員	宮下 清						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

研究テーマ、理論と実践、研究方法論、データ収集と分析、文章の執筆

授業の概要

卒業研究では、各自が経営学や関連する領域から取り組みたいテーマを設定し、学習・研究を進めていき、定期的な発表、討議と質疑によるプロセス、また教員による指導により、卒業論文の執筆につなげていく。これまで学んできた経営学（マネジメント）を中心に、関心のある領域についての文献研究や事例研究を行うことになる。

ゼミのキーコンセプトとなる「地域事業」「企業」「国際経営」「経営戦略」「組織行動」「人材マネジメント」「教育訓練」等の領域から卒業研究（卒業論文）のテーマを選んでいただきたい。

まずはテーマの検討と決定、文献調査と発表、事例の探求や現場の訪問、調査による情報収集を経て、自らの問い（命題：RQリサーチクエスション）に答えること、エビデンス（証拠）をもってその正しさを証明することが、卒業論文で論じることとなる。

到達目標

1	・経営学の理論を学び、それらの実践への適用・活用を試み、また理論に戻り考えるというプロセスを実行すること、
2	・学習の場となるゼミで、お互いを尊重し高め合える人間関係を構築し、相互に学習できる環境を作ること、さらにゼミⅡ、ゼミⅠ生とも連携・協力して、コミュニケーションやリーダーシップの力を高め、良好な社会性、協力関係を構築すること、
3	・事例研究・学術的分析を実施し、卒業研究を行い、卒業論文を執筆すること、以上を目標とする。

教授方法

- ・全体授業： 教員による資料提示と説明、各グループでの討議と発表。
- ・プロジェクト授業：ゼミ生が卒業研究の進捗などの中間発表を行い、質疑から課題を探り、理解を深める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経営学入門をはじめとするマネジメント科目を履修していること。さらに関連科目となる担当教員の専門科目（組織行動論、リーダーシップ論、人材マネジメント論）を履修していることが望ましい。

授業計画

1	卒業研究の概要、1. 研究と論文について (1)	
2	2-3. テーマの決定(1)(2)	4月下旬：テーマの決定
3	2-3. テーマの決定(1)(2)	4月下旬：テーマの決定
4	4-5. 関連情報の収集(1)(2)	
5	4-5. 関連情報の収集(1)(2)	
6	6-7. 関連情報の収集(3)(4)	5月下旬：参考文献の発表
7	6-7. 関連情報の収集(3)(4)	5月下旬：参考文献の発表
8	ガイダンス：Ⅱ-1. 研究枠組みと文献収集	
9	2-3. 研究枠組み検討、文献情報	6月下旬：研究枠組みの決定
10	2-3. 研究枠組み検討、文献情報	6月下旬：研究枠組みの決定
11	4-5. 文献・現場の情報(1)(2)	
12	4-5. 文献・現場の情報(1)(2)	
13	6-7. 現地調査の準備	7月下旬：調査など夏季予定
14	6-7. 現地調査の準備	7月下旬：調査など夏季予定
15	ガイダンス：Ⅲ-1. 論文の執筆について	
16	2-3. 調査結果の整理(1)(2)	10月中旬：中間発表
17	2-3. 調査結果の整理(1)(2)	10月中旬：中間発表
18	4-5. 論文枠組みの構築(1)(2)	
19	4-5. 論文枠組みの構築(1)(2)	
20	6-7. 論文の執筆(3)(4)	
21	6-7. 論文の執筆(3)(4)	

22	ガイダンス：IV-1. 論文の完成と推敲	
23	2-3. 論文の執筆(1)(2)	11月中旬：第一稿と論文要旨の提出
24	2-3. 論文の執筆(1)(2)	11月中旬：第一稿と論文要旨の提出
25	4-5. 論文の推敲(1)(2)	12月中旬：第二稿（修正版）の提出
26	4-5. 論文の推敲(1)(2)	12月中旬：第二稿（修正版）の提出
27	6-7. 論文の完成(3)(4)	1月中旬：最終稿の提出と論文要旨の提出
28	6-7. 論文の完成(3)(4)	1月中旬：最終稿の提出と論文要旨の提出

授業外における学習

卒業研究のためには、テーマに関連した文献を収集することが必須である。それらを読む、理解する、考える、まとめるといったプロセスも重要となる。またテーマに沿った事例の探索や現場の訪問など計画的かつ積極的な活動が求められる。

授業外でも、随時、卒業研究や論文の相談を受け付ける。またグループでの相互学習も有効である。

質問や相談への対応

授業前後およびメールでのアポにより、必要な対応（オンライン面談を含む）を行う。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業論文	50	卒業論文の要件に基づく評価
途中での取組評価	30	毎月レポート提出や中間発表などプロセスの実施状況
事前原稿	20	原稿（一稿、二稿、要旨など）の期日提出と内容
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		藤本隆宏、新宅純二郎他著 (2005) 『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣。			
		田村正紀 『リサーチ・デザイン: 経営知識創造の基本技術』(2006)白桃書房。 ダン レメニイ Dan Remenyi (原著) 『社会科学系大学院生のための研究の進め方』(2002) 同文館出版。 伊丹敬之 『創造的論文の書き方』(2001) 有斐閣。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学ぶ、またプロジェクトでは主体的にかつ協力して取り組む。これらを常に考え、世の中の事象に疑問を持つことで、取り組みたいテーマが見つかる。

その他・特記事項

本科目の履修には卒業論文の執筆・提出が求められる。スケジュールや内容は進み具合などから、必要に応じて改善のため変更することがある。担当教員は国際企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有する。

卒業研究（尹）

更新日：2023/02/27 12:54:16

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト*	G3610H	科目コード	G3610
担当教員	尹 大栄						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

ディスカッション、研究方法論、創造的な研究、卒論作成

授業の概要

卒論作成に必要な知識（研究方法やデータ分析手法、文献レビューの方法など）を身に付ける。

到達目標

1	卒業論文を完成する。
---	------------

教授方法

研究成果の発表とディスカッションを中心とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

ユンゼミ「ゼミナールⅡ・Ⅲ」を履修していること

授業計画

1	卒論作成に取り組む。
2	卒論作成に取り組む。
3	卒論作成に取り組む。
4	卒論作成に取り組む。
5	卒論作成に取り組む。
6	卒論作成に取り組む。
7	卒論作成に取り組む。
8	卒論作成に取り組む。
9	卒論作成に取り組む。
10	卒論作成に取り組む。
11	卒論作成に取り組む。
12	卒論作成に取り組む。
13	卒論作成に取り組む。
14	研究成果の中間発表を行う。
15	卒論作成に取り組む。
16	卒論作成に取り組む。
17	卒論作成に取り組む。
18	卒論作成に取り組む。
19	卒論作成に取り組む。
20	卒論作成に取り組む。
21	卒論作成に取り組む。
22	卒論作成に取り組む。
23	卒論作成に取り組む。
24	卒論作成に取り組む。
25	卒論作成に取り組む。
26	卒論作成に取り組む。
27	卒論作成に取り組む。
28	卒論成果の発表（論文提出）

授業外における学習

- ・事前学習：関連文献のレビューをしっかりと行うこと
- ・事後学修：ゼミでのディスカッションで得られた新たな視点や、他者からのコメントを文章化しておくこと

質問や相談への対応

研究室（B304室）訪問やメールなどで常時対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を達成している。【D】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒論	100%	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	とくに指定しない。			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

卒論研究・卒論作成に主体的に取り組むこと

その他・特記事項

将来、自分の子供に読ませたくなるような卒業論文の作成を！

卒業研究（東）

更新日：2023/01/10 08:54:46

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	G3610I	科目コード	G3610
担当教員	東 俊之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

卒業研究、研究論文、文献研究、実証研究、研究報告（プレゼンテーション）

授業の概要

研究方法についての知識とスキルを修得する。各自が設定するテーマ・課題について、専門分野を担当する各教員の指導・助言の下に、先行研究の精読、課題設定、適切な研究手法の選定を行い、卒業論文の基礎固めを行う。また、設定したテーマ・課題について卒業論文にまとめることで、課題発見力、企画力、実践力、分析力、考察力を身につける。

到達目標

1	「卒業研究（東）」では、卒業論文（2万字以上）の執筆を目指す。卒業論文の執筆および完成に至るプロセスの中で、①論理的に文章を作成することができる、
2	②自らの興味関心や社会的要請から、研究テーマを設定できる、
3	③文献研究や実証研究を通じて、自身のオリジナルな考えを理論を構築することができる、
4	④関連する先行研究をまとめることで、既存研究の限界を示すことができる、
5	⑤研究活動を通じて、問題解決策を提案することができる、という5点を涵養することを到達目標とする。

教授方法

演習（講義ならびに講演の場合あり。また外部での調査等も必要である）。また授業外で、個別に担当教員との研究相談・研究指導が必要になる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「ゼミナールⅢ（東）」を履修している者。

授業計画

1	【オリエンテーションと研究活動準備】卒業論文の概要・フォーマット、今後のスケジュール調整などを行います。また課外で個人面談を実施します。
2	【研究方法について①】経営学の論文をまとめるための研究方法を指導します。また、研究スケジュールについて検討します。
3	【研究方法について②】研究論文の書き方、とくに研究論文をまとめるうえで注意すべき引用方法、参考文献の使用方法などを学びます。
4	【研究指導①】3年次に提出した研究計画書をもとに、今後の研究方法・研究受けジュール等を個別に指導します。
5	【研究指導②】3年次に提出した研究計画書をもとに、今後の研究方法・研究受けジュール等を個別に指導します。
6	【研究活動①】研究を進めるために必要な文献を複数収集を行います。またその文献を精読し、卒業論文に必要な「先行研究」をまとめます。
7	【研究活動②】研究を進めるために必要な文献を複数収集を行います。またその文献を精読し、卒業論文に必要な「先行研究」をまとめます。
8	【研究活動③ & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。
9	【研究活動④ & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。
10	【研究活動⑤ & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。
11	【研究活動⑥ & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。
12	【研究活動⑦ & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。
13	【研究活動⑧ & 夏季休暇中の研究活動】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。また、長期休暇（夏季休暇）に行うべき研究活動についても指導します。
14	【1・2学期の自己点検授業】1・2学期の研究活動の進捗状況を振り返り、夏季休暇中、3・4学期の研究計画をもう一度練り直します。また学外で個人面談を実施します。
15	【中間発表①】1・2学期および夏季休暇までの研究状況をゼミ内で報告し、教員ならびに他のゼミメンバーとのディスカッションによって今後の方向性を定めます。※場合によっては、ゼミ担当教員およびゼミメンバー以外からコメントを得る場合があります。
16	【中間発表②】1・2学期および夏季休暇までの研究状況をゼミ内で報告し、教員ならびに他のゼミメンバーとのディスカッションによって今後の方向性を定めます。※場合によっては、ゼミ担当教員およびゼミメンバー以外からコメントを得る場合があります。

17	【中間発表後の振り返り】中間発表で得られたコメントにより、これまでの研究活動をどのように修正・変更し、深化させるかを各自検討します。
18	【研究活動⑨ & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。
19	【研究活動⑩ & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。
20	【卒業論文 第1稿（草稿）の執筆①】卒業論文の第1稿（草稿）を実際に執筆します。必要に応じて適宜担当教員からの指導を受けます。なお、第1稿（草稿）の提出は11月末です。
21	【卒業論文 第1稿（草稿）の執筆②】卒業論文の第1稿（草稿）を実際に執筆します。必要に応じて適宜担当教員からの指導を受けます。なお、第1稿（草稿）の提出は11月末です。
22	【卒業論文 第1稿の提出およびフィードバックの確認】卒業論文の第1稿（草稿）を提出し、教員からのコメントを踏まえて、修正ならびに使い調査等を考えます。
23	【卒業論文 第2稿（完成稿）の執筆および追加調査①】卒業論文の第2稿（完成稿）を執筆します。また必要に応じて追加の調査を行います。なお、第2稿の提出は12月末です。
24	【卒業論文 第2稿（完成稿）の執筆および追加調査②】卒業論文の第2稿（完成稿）を執筆します。また必要に応じて追加の調査を行います。なお、第2稿の提出は12月末です。
25	【卒業論文 第2稿（完成稿）の執筆および追加調査③】卒業論文の第2稿（完成稿）を執筆します。また必要に応じて追加の調査を行います。なお、第2稿の提出は12月末です。
26	【卒業論文 第2稿のフィードバックの確認】卒業論文の第2稿（完成稿）に対する教員の査読コメントを確認し、必要な箇所を修正します。また必要に応じて追加の調査を行います。
27	【クラス内発表 & 最終稿執筆】卒業研究（卒業論文）の内容をクラス内で発表し、他者からのコメントを踏まえて、卒業論文の最終稿を執筆します。なお、最終稿の提出期限は1月末です。
28	【卒業研究発表会準備 & 最終稿提出準備】クラス外で実施される卒業研究発表会（ゼミ複数のゼミによる合同発表会の場合あり）の準備を行います。また卒業論文の最終稿を執筆します。※合同発表会後に、卒業論文の「最終稿の訂正稿」を提出してもらいます。提出期限は2月末ごろです。

授業外における学習

自身の定めた研究テーマを完成させるために、学外での調査、授業時間外での文献収集、論文執筆等が求められます。また授業時間外に、個別に研究指導をする時間を設定しますので、予めご承知おきください。

質問や相談への対応

オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。また必要でしたらZoomによる面談等で質問・相談を受け付けます。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。※オフィスアワーの時間帯は、初回授業時に案内します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	実施しない
小テスト	0	実施しない
レポート（卒業論文）	60%	卒業論文を採点。具体的な評価項目・割合（卒業論文＝100点の内訳）は、①研究の独創性：20点、②先行研究のまとめ：25点、③書式の正確さ：10点、④問題意識の明確さ：20点、⑤理論的な記述：20点。
その他：授業態度点	40%	「卒業研究」への貢献度（他者に対する助言等）、ゼミ内でのプレゼンテーション（発表内容・レジュメ等）、などを総合的に評価する※詳細は、第1回授業時に明らかにする
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に指定しません（自身の研究テーマに関連する書籍・論文を精読することを求める）			
	特に指定しません（自身の研究テーマに関連する書籍・論文を複数収集し、熟読することを求めます）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

「卒業研究」は大学生活の集大成となるものです。自らが満足できる内容になるように努めてください。また、個人での研究活動が多くなりますが、ゼミ全体が良い卒業研究が仕上げられるような「場」になるように、頑張ってください。

その他・特記事項

【重要】「授業計画」はゼミ生の興味関心や、到達レベルに応じて変更する場合があります。ご了承ください。また、学外に出かけての調査も予定しています。積極的に参加ください。

卒業研究（衣川）

更新日：2023/01/10 08:54:49

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3610J	科目コード	G3610
担当教員	衣川 修平						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

アカウントティング・マインド, 会計学, 財務分析

授業の概要

卒業論文を作成するための演習です。論文というと皆さん、かなりなじみがないと思います。それは作文とはかなり異なるものです。それはプログラミングに似ているという人もいます。プログラミングは一つバグがあれば、全て台無しになります。論文もかなり厳密なルールのもとに、一つのことを論証していきます。本演習ではその方法を学びながら、一つのテーマを掘り下げていきます。

到達目標

1	テーマは会計学を主として、事情に応じて様々な分野を認めていきたいと思います。一定のアカデミックな方法論やアプローチに基づき、先行研究を参照しながら、一つのテーマについて考究することを目標とします。
---	--

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

第4学年以降

授業計画

1	テーマの相談・決定
2	章立て
3	文献読み込み&発表
4	文献読み込み&発表
5	文献読み込み&発表
6	文献読み込み&発表
7	リサーチメソッドの紹介&輪読1
8	リサーチメソッドの紹介&輪読2
9	リサーチメソッドの紹介&輪読3
10	リサーチメソッドの紹介&輪読4
11	リサーチメソッドの紹介&輪読5
12	中間発表1
13	中間発表2
14	中間発表3
15	中間発表4
16	中間発表5
17	文献輪読&発表1
18	文献輪読&発表2
19	文献輪読&発表3
20	文献輪読&発表4
21	文献輪読&発表5
22	プレ発表1
23	プレ発表2
24	プレ発表3
25	プレ発表4
26	プレ発表5
27	体裁, フォーマットの確認

授業外における学習

課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援は行います。

質問や相談への対応

ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、その意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べることができたか
報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べることができたか
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	随時指定します			
	石井一成 『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』 ナツメ社			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。

とくにコミュニケーションが全く取れない人や、ゼミに参加しようとしていない人は、他者に対して敬意が見られない人は、ゼミ自体を崩壊させますので、注意してください。

しかし難しいことを要求しているわけではありません。

おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！

またなるべく学びの場か

その他・特記事項

Email: kinugawa.shuhei★u-nagano.ac.jp

卒業研究（金）

更新日：2023/01/10 08:54:50

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト*	G3610K	科目コード	G3610
担当教員	金 賢仙						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

会社法、金融商品取引法、ビジネス法

授業の概要

このゼミでは、ビジネスに関する法領域での法的な論点、個別事例等の中から自身でテーマを選び、①なぜそのテーマを検討する必要があるのか、具体的な問題点は何か（問題意識）を整理した上で、②現状はどうなっているか、それはなぜか、③法制度等に改善が必要な点はあるか、あるとすれば何か、どのように改善すればよいか、といった流れで考察を行い、卒業研究を行う。

到達目標

1	金融・資本市場及び会社法の専門的なテーマについて、理解し、説明できるようになる。
2	株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）を行うことができるようになる。

教授方法

原則として、演習方式とする。

大学が遠隔での実施の方針を採る学期については、それによる。別途、案内をするので、確認すること。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。

授業計画

1	ガイダンス
2	卒業研究の実施と指導
3	卒業研究の実施と指導
4	卒業研究の実施と指導
5	卒業研究の実施と指導
6	卒業研究の実施と指導
7	卒業研究の実施と指導
8	卒業研究の実施と指導
9	卒業研究の実施と指導
10	卒業研究の実施と指導
11	卒業研究の実施と指導
12	卒業研究の実施と指導
13	卒業研究の実施と指導
14	ふりかえり
15	卒業研究の実施と指導
16	卒業研究の実施と指導
17	卒業研究の実施と指導
18	卒業研究の実施と指導
19	卒業研究の実施と指導
20	卒業研究の実施と指導
21	卒業研究の実施と指導
22	卒業研究の実施と指導
23	卒業研究の実施と指導
24	卒業研究の実施と指導
25	卒業研究の実施と指導

26	卒業研究の実施と指導
27	卒業研究の実施と指導
28	ふりかえりとまとめ

授業外における学習

卒業研究の実施。

質問や相談への対応

原則として、オフィス・アワーに対等する。オフィス・アワーの委細については、ガイダンスその他において案内する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表の内容と出来ばえ	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。
コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	別途、指示する。			
	別途、指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

真剣に取り組ましましょう。

その他・特記事項

<卒業研究のスケジュールイメージ>

第1、第2学期（+夏季休暇）

→ 各自が研究を実施し、プレゼンと指導。論文執筆を進める。

第3学期（+冬期休暇）

→ 最終稿に向けた準備を段階的に行う。

第4学期

→ 最終稿を仕上げる。

委細については、ガイダンス等にて説明します。

卒業研究（首藤）

更新日：2023/03/15 17:41:09

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	G3610L	科目コード	G3610
担当教員	首藤 聡一郎						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

経営戦略論、卒業論文作成、アカデミック・ライティング

授業の概要

卒業論文作成

到達目標

1	卒業論文作成に有用な知識を身につけことができる
2	卒業論文を作成することができる

教授方法

卒業論文に関して発表してもらい、適宜議論していく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

事前に履修を希望し、認められた学生

授業計画

1	ガイダンス
2	卒業論文中間発表（1）
3	卒業論文中間発表（2）
4	卒業論文中間発表（3）
5	卒業論文中間発表（4）
6	先行研究の整理について（1）
7	先行研究の整理について（2）
8	データ分析について（1）
9	データ分析について（2）
10	データ分析について（3）
11	卒業論文中間発表（5）
12	卒業論文中間発表（6）
13	卒業論文中間発表（7）
14	卒業論文中間発表（8）
15	卒業論文中間発表（9）
16	卒業論文中間発表（10）
17	卒業論文中間発表（11）
18	卒業論文中間発表（12）
19	アカデミック・ライティング（1）
20	アカデミック・ライティング（2）
21	アカデミック・ライティング（3）
22	卒業論文中間発表（13）
23	卒業論文中間発表（14）
24	卒業論文中間発表（15）
25	卒業論文中間発表（16）
26	卒業論文最終発表
27	卒業論文についてのフィードバック
28	まとめ

授業外における学習

卒業論文作成のため、授業外でも学習が求められることもあります

質問や相談への対応

アポイントメントをとってくれば日程を調整して対応いたします

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	内容
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	ありません			
	適宜紹介します			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

卒業論文作成という目標をしっかりと見据えて一緒に頑張りましょう

その他・特記事項

要望などありましたら遠慮なくお伝えいただければ幸いです。よろしく申し上げます

卒業研究（中村陽）

更新日：2023/01/10 08:54:51

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3610M	科目コード	G3610
担当教員	中村 陽人						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ

授業の概要

先行研究のレビューに基づいて設定された仮説について、定量的なアプローチで検証し論文にまとめる。授業の中で最低でも2週間に1度は進捗状況を発表し、内容を精練させていく。

本ゼミでは卒業研究をゼミ活動の集大成に位置付けている。したがって、少なくとも大学の専門教育を受けてきたことが明確にわかるような水準の成果が求められる。

到達目標

1	・研究課題についてトップジャーナルを中心に先行研究のレビューができています。
2	・先行研究を踏まえ適切な仮説設定ができています。
3	・厳密な仮説検証に耐えうるようなデータを準備できている（一次データでも二次データでも可）。
4	・適切で正確なデータ分析が行われている。
5	・データ分析の結果が正しく解釈され、そこから研究課題に関する深い考察がなされている。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

マーケティングと統計学の関連科目を履修していること、あるいは同時に履修すること。

授業計画

1	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
2	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
3	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
4	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
5	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
6	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
7	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
8	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
9	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
10	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
11	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
12	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
13	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
14	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
15	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
16	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
17	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
18	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
19	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
20	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
21	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
22	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
23	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。

24	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
25	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
26	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
27	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。
28	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。

授業外における学習

膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の取り組みがメインとなる。

質問や相談への対応

共有している教員スケジュールを確認し、事前に予約する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	①新規性、②有用性、③信頼性、④一貫性、⑤完成度の5項目で評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業の中で適宜指示する。			
	授業の中で適宜指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ゼミの理念を理解し、共感していること。
- ・ゼミ活動に全力でコミットすること。

その他・特記事項

- ・卒業論文を書かなければ単位は与えられない。最低限求められている水準に届かない場合も単位は与えられない。

卒業研究（中村稔）

更新日：2023/01/10 08:54:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト	G3610O	科目コード	G3610
担当教員	中村 稔彦						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

少子高齢化、地方創生、地域再生、地域活性化、社会保障制度、持続可能性

授業の概要

卒業研究は、公務員志望者は、これまでの学習の中で興味を持った財政や自治体の政策に関するものを、民間企業志望者は、志望する業界や企業に関するものをテーマとする。どちらにしても、テーマの範囲はとても幅広い。また分析手法についても、理論分析や実証分析の他、制度の歴史分析等もある。そのため、卒業研究のテーマや分析手法の決定には、多くの試行錯誤が予想される。できるだけ多くの文献にあたり、問題提起を明確にするように努める必要がある。分析や執筆の段階では、2週間に1回程度のペースで進捗状況を報告してもらう。

到達目標

1	1つのテーマを決めて、関連文献の学習や資料収集を行い、論点を整理して、ある程度の分量（30,000字以上）の文章に体系的にまとめる。
---	--

教授方法

テーマと分析手法、内容の構成が適当であるかどうかは適宜アドバイスする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

5回欠席した者（公欠を除く）は単位を付与しない（就職活動については要相談）。

授業計画

1	卒業論文の作成（1）
2	卒業論文の報告・添削（1）
3	卒業論文の作成（2）
4	卒業論文の報告・添削（2）
5	卒業論文の作成（3）
6	卒業論文の報告・添削（3）
7	卒業論文の作成（4）
8	卒業論文の報告・添削（4）
9	卒業論文の作成（5）
10	卒業論文の報告・添削（5）
11	卒業論文の作成（6）
12	卒業論文の報告・添削（6）
13	卒業論文の作成（7）
14	卒業論文の報告・添削（7）
15	卒業論文の作成（8）
16	卒業論文の報告・添削（8）
17	卒業論文の作成（9）
18	卒業論文の報告・添削（9）
19	卒業論文の作成（10）
20	卒業論文の報告・添削（10）
21	卒業論文の作成（11）
22	卒業論文の報告・添削（11）
23	卒業論文の作成（12）
24	卒業論文の報告・添削（12）
25	卒業論文の作成（13）
26	卒業論文の報告・添削（13）
27	卒業論文の発表の準備

28 卒業論文の発表

授業外における学習

多くの関連文献の学習や資料収集を行うことで、知識や考え方だけでなく、文章力も身につく。

質問や相談への対応

随時対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業論文の内容	70	問題意識、形式面、表現面、分析面、構成面、論理等の点から総合的に評価する。
卒業論文の発表	30	問題意識、分析力、表現力、質疑への応答等の点から総合的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テーマにより適宜アドバイスする。			
	テーマにより適宜アドバイスする。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ホームページではなく、できるだけ本や論文を参考文献にして欲しい。外書にも必ず目を通すこと。

その他・特記事項

特になし。

卒業研究（野口）

更新日：2023/01/10 08:54:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	G3610P	科目コード	G3610
担当教員	野口 暢子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

諸外国の公共政策、比較政治、比較文化政策

授業の概要

各自、ひとつの国におけるひとつのテーマを選定し、卒業論文を完成できるよう、指導を行う。執筆の際には、日本や取り上げた国以外の国や地域との比較も意識するようにする。

到達目標

1	A4・40枚のきちんとした学術論文を卒業論文として仕上げること
---	---------------------------------

教授方法

卒業論文の執筆方法について、教授したのち、各回、2名が各自15分程度の発表を行い、その内容に関する質疑応答を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

卒業研究（野口）の履修を認められていること

授業計画

1	ガイダンス（卒業研究のテーマについて）
2	論文の作法（参考文献の探し方・脚注のつけ方など）
3	テーマの選定、目次の作成、参考文献一覧の作成
4	発表と質疑応答
5	発表と質疑応答
6	発表と質疑応答
7	発表と質疑応答
8	発表と質疑応答
9	発表と質疑応答
10	発表と質疑応答
11	発表と質疑応答
12	発表と質疑応答
13	発表と質疑応答
14	発表と質疑応答
15	発表と質疑応答
16	発表と質疑応答
17	発表と質疑応答
18	発表と質疑応答
19	発表と質疑応答
20	発表と質疑応答
21	個別指導
22	個別指導
23	個別指導
24	個別指導
25	個別指導
26	個別指導
27	個別指導
28	卒業論文発表会

授業外における学習

卒業論文のテーマに関する調査・卒業論文の執筆

質問や相談への対応

簡単な質問や相談は学内メールアドレス宛に送ってください。会って話をしたい場合は、その旨をメールに書き、野口の学内メールアドレス宛に送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
卒業論文	80	正確に、わかりやすく執筆できたか。
質問	20	他の受講生の発表について、適切な質問ができたか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	受講生のテーマに関する文献を随時、紹介いたします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

卒業論文が「大学時代にもっとも力を入れたこと」になるよう、力を尽くしてください。

その他・特記事項

卒業研究を休む際には、必ず、授業が始まる時間までに野口の学内メールアドレス宛に連絡をください。

卒業研究（三浦）

更新日：2023/03/07 19:22:22

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースト*	G3610Q	科目コード	G3610
担当教員	三浦 正士						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	8	

キーワード

授業の概要

この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいてテーマを設定し、卒業論文の執筆と内容に関する議論を行うことで、地方自治をより深く学ぶことをめざす。

到達目標

1	地域社会の課題についての自分の意見を卒業論文にまとめる。
---	------------------------------

教授方法

演習形式で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション ゼミナールの進め方について説明するほか、ゼミナールⅠでの学びの振り返りを行う。
2	卒業論文のテーマ設定 (1) ゼミ生の関心に基づき、卒業論文のテーマ、アプローチ方法などを設定する。
3	卒業論文のテーマ設定 (2) ゼミ生の関心に基づき、卒業論文のテーマ、アプローチ方法などを設定する。
4	卒業論文のテーマ設定 (3) ゼミ生の関心に基づき、卒業論文のテーマ、アプローチ方法などを設定する。
5	卒業論文のテーマ設定 (4) ゼミ生の関心に基づき、卒業論文のテーマ、アプローチ方法などを設定する。
6	先行研究の分析 (1) 卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。
7	先行研究の分析 (2) 卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。
8	先行研究の分析 (3) 卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。
9	先行研究の分析 (4) 卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。
10	卒業論文の骨子の作成 (1) 研究テーマの社会的・学術的意義を考察し、先行研究をふまえて論文の骨子を作成する。
11	卒業論文の骨子の作成 (2) 研究テーマの社会的・学術的意義を考察し、先行研究をふまえて論文の骨子を作成する。
12	卒業論文の骨子の作成 (3) 研究テーマの社会的・学術的意義を考察し、先行研究をふまえて論文の骨子を作成する。
13	卒業論文の骨子の作成 (4) 研究テーマの社会的・学術的意義を考察し、先行研究をふまえて論文の骨子を作成する。
14	事例研究 (1) 卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、住民の取組み状況などを調査し、それに関する議論を行う。
15	事例研究 (2) 卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、住民の取組み状況などを調査し、それに関する議論を行う。
16	事例研究 (3) 卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、住民の取組み状況などを調査し、それに関する議論を行う。
17	事例研究 (4) 卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、住民の取組み状況などを調査し、それに関する議論を行う。

18	卒業論文の取りまとめ (1) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
19	卒業論文の取りまとめ (2) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
20	卒業論文の取りまとめ (3) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
21	卒業論文の取りまとめ (4) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
22	卒業論文の取りまとめ (5) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
23	卒業論文の取りまとめ (6) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
24	卒業論文の取りまとめ (7) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
25	卒業論文の取りまとめ (8) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
26	卒業論文の取りまとめ (9) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
27	卒業論文の取りまとめ (10) これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。
28	成果発表 卒業論文発表会を開催し、卒業論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

授業外における学習

事前学習

・適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して卒業論文の経過報告に備える。

事後学習

・卒業論文のテーマについて、自発的に学習・研究を進め、理解を深める。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	完成した卒業論文から、①地域社会の課題について自分の意見を持つことができたか、読解力と思考力、文章力を身につけたかを評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	授業中に適宜参考書を紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English I (G1)

更新日：2023/01/10 08:52:10

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010A	科目コード	L1010
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

毎回各教材の指定範囲の予習を前提として、授業時には教員によるフィードバックや、グループワークによる確認・演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション
2	文法：文の構造と品詞、音声：母音(1-5)
3	文法：動詞と文型、音声：母音(6-10)、Core Reading：第1段落
4	文法：時制、音声：母音(11-14)
5	文法：助動詞、音声：母音(15-19)、Core Reading：第2段落
6	文法：受動態、音声：母音(20-23)
7	文法：Unit 13 動詞相当語句、音声：中間テスト
8	文法：Unit 14 知覚動詞・使役動詞・動詞相当語句、音声：子音(24-26)、Core Reading：第3,4段落
9	文法：中間テスト、音声：子音(27-30)
10	文法：Unit 1 名詞句(1)、音声：子音(31-34)
11	文法：Unit 2 名詞句(2)、音声：子音(35-39)、Core Reading：第5,6段落
12	文法：Unit 3 名詞節(1)、音声：子音(40-44)
13	文法：Unit 4 名詞節(2)、音声：子音(45-48)、Core Reading：第7段落
14	まとめ・期末テスト

授業外における学習

毎回の授業の予習・復習と語彙学習課題。

質問や相談への対応

授業後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	予習・課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。

中間・期末テスト	50	文法、音声、語彙の学習内容の定着度により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Understanding and Using English Syntax (わかって使える英語構文)』朝日出版社 ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方 (基礎編)』研究社 			
	『総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (New Edition)』桐原書店			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし

Foundations of English I (G2)

更新日：2023/01/10 08:53:24

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010B	科目コード	L1010
担当教員	中澤 はるみ						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

英文法、語彙、発音

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論なども含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション
2	現在形と過去形
3	現在完了形と過去形、Reading1
4	未来形
5	発音 母音1 単語学習1
6	法助動詞
7	発音 母音2 単語学習2
8	ifとwish
9	Reading2 発音 子音P1
10	受動態
11	間接話法 発音 子音P2
12	疑問文と繰り返しを避ける助動詞
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	60	授業で学んだ事柄を試験で確認。

課題	30	授業で課された宿題の提出。
平常点	10	授業での発表、討論など。
その他		
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方（基礎編）』研究社			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English I (G3)

更新日：2023/01/10 08:54:47

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010C	科目コード	L1010
担当教員	高梨 良夫						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。
4	・その他、「授業の概要」と各先生のご指導内容に合わせて、適宜到達目標を追加してください（「到達目標」の達成度が成績評価に反映されるよう、「成績評価方法」の項目・基準との整合性にご留意ください）。

教授方法

読解中心のAcquiring English as an International Language と文法・作文中心の College Grammar Pathfinder の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1		①Chapter 1
2	①Chapter 2	②Unit 1: 英語の基本語順
3	①Chapter 3: Japanese Perspectives	②Unit 2: 自動詞と他動詞
4	①Chapter 4: People's Needs	②Unit 3: 二重目的語
5	Quarter 1 Core Reading: The Purpose of a University Education	②Unit 4: 補語
6	①Chapter 5: Creative Jobs (1)	②Unit 5: 疑問文
7	①Chapter 6: Creative Jobs (2)	②Unit 6: 否定
8	Self-introduction	
9	①Chapter 7: Gaps between Reality and Ideals	②Unit 7: 現在形・現在進行形
10	①Chapter 8: Various Reactions to Money	②Unit 8: 過去形
11	①Chapter 9: Getting our of an Uneventful Life	②Unit 9: 完了形
12	①Chaper 10	②Unit 10: will, be going to
13	①Chapter 11: Distincrive Responses	②Unit 11: 助動詞
14	①Chapter 11: British and American Humor	②Unit 12: 名詞

授業外における学習

毎回必ず予習をして授業に参加し、授業後には復習をして欲しい

質問や相談への対応

いつでも応じますので、遠慮せずに授業後又はメールで質問、相談して下さい。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40%	授業内容を理解度を確認する問題を出題します。	
授業参加	50%	授業への出席・態度・積極的参加を評価します。	
その他	10%	e-learning の成績（基本的には自習）	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Junko Kobayashi, Brian Bond, Acquiring English as an International Language (三修社)			
	Yoshihiko Honda, Takehisa Tsuchiya, College Grammar Pathfinder (金星堂)			
	English Program for Global Mobility (2022 Student Handbook) 岩村圭南 『英語の正しい発音の仕方』（基礎編、応用編）（研究社） その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業への参加、予習、復習が基本です。毎時間が試験と思って、積極的な英語学習への取り組みを期待します。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English I (G4)

更新日：2023/03/15 09:43:24

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010D	科目コード	L1010
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 1 & 2 (解説&小問)
3	Unit 1 & 2 (練習問題)
4	Unit 3 (解説&小問)
5	Unit 3 (練習問題)
6	Unit 4 (解説&小問)
7	Unit 4 (練習問題)
8	Unit 5 (解説&小問)
9	Unit 5 (練習問題)
10	Unit 6 (解説&小問)
11	Unit 6 (練習問題)
12	Unit 7 (解説&小問)
13	Unit 7 (練習問題)
14	文法&発音確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	40	授業への参加度
課題の提出	20	課題の提出状況
文法確認テスト	30	文法確認テストの成績
発音テスト	10	発音確認テストの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Vitamin G』 CENGAGE Learning			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』 (旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Foundations of English I (G5)

更新日：2023/01/10 08:55:21

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010E	科目コード	L1010
担当教員	高梨 良夫						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。
4	・その他、「授業の概要」と各先生のご指導内容に合わせて、適宜到達目標を追加してください（「到達目標」の達成度が成績評価に反映されるよう、「成績評価方法」の項目・基準との整合性にご留意ください）。

教授方法

読解中心のAcquiring English as an International Language と文法・作文中心の College Grammar Pathfinder の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	①Reading text: Chapter 1	
2	①Chapter 2	②Unit 1: 英語の基本語順
3	①Chapter 3: Japanese Perspectives 詞	②Unit 2: 自動詞と他動
4	①Chapter 4: People's Needs	②Unit 3: 二重目的語
5	Quarter 1 Core Reading: The Purpose of a University Education	②Unit 4: 補語
6	①Chapter 5: Creative Jobs (1)	②Unit 5: 疑問文
7	①Chapter 6: Creative Jobs (2)	②Unit 6: 否定
8	Self-introduction	
9	①Chapter 7: Gaps between Reality and Ideals	②Unit 7: 現在形・現在進行形
10	①Chapter 8: Various Reactions to Money	②Unit 8: 過去形
11	①Chapter 9: Getting our of an Uneventful Life	②Unit 9: 完了形
12	①Chaper 10	②Unit 10: will, be going to
13	①Chapter 11: Distincrive Responses	②Unit 11: 助動詞
14	①Chapter 11: British and American Humor	②Unit 12: 名詞

授業外における学習

毎回必ず予習をして授業に参加し、授業後には復習をして欲しい

質問や相談への対応

いつでも応じますので、遠慮せずに授業後又はメールで質問、相談して下さい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	40%	授業内容の理解度を確認する問題を出題します。	
授業参加	50%	授業への出席・態度・積極的参加を評価します。	
その他	10%	e-learningの成績（基本的には自習）	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須推奨	Junko Kobayashi, Brian Bond, Acquiring English as an International Language (三修社) Yoshihiko Honda, Takehisa Tsuchiya, College Grammar Pathfinder (金星堂)			
	English Program for Global Mobility (2022 Student Handbook) 岩村圭南 『英語の正しい発音の仕方』（基礎編、応用編）（研究社）その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業への参加、予習、復習が基本です。毎時間が試験と思って、積極的な英語学習への取り組みを期待します。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English I (G6)

更新日：2023/01/10 08:55:30

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010F	科目コード	L1010
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

毎回各教材の指定範囲の予習を前提として、授業時には教員によるフィードバックや、グループワークによる確認・演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション
2	文法：文の構造と品詞、音声：母音(1-5)
3	文法：動詞と文型、音声：母音(6-10)、Core Reading：第1段落
4	文法：時制、音声：母音(11-14)
5	文法：助動詞、音声：母音(15-19)、Core Reading：第2段落
6	文法：受動態、音声：母音(20-23)
7	文法：Unit 13 動詞相当語句、音声：中間テスト
8	文法：Unit 14 知覚動詞・使役動詞・動詞相当語句、音声：子音(24-26)、Core Reading：第3,4段落
9	文法：中間テスト、音声：子音(27-30)
10	文法：Unit 1 名詞句(1)、音声：子音(31-34)
11	文法：Unit 2 名詞句(2)、音声：子音(35-39)、Core Reading：第5,6段落
12	文法：Unit 3 名詞節(1)、音声：子音(40-44)
13	文法：Unit 4 名詞節(2)、音声：子音(45-48)、Core Reading：第7段落
14	まとめ・期末テスト

授業外における学習

毎回の授業の予習・復習と語彙学習課題。

質問や相談への対応

授業後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	予習・課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。

中間・期末テスト	50	文法、音声、語彙の学習内容の定着度により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Understanding and Using English Syntax (わかって使える英語構文)』朝日出版社 ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方 (基礎編)』研究社 			
	『総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (New Edition)』桐原書店			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし

Foundations of English I (G7)

更新日：2023/01/10 08:55:38

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010G	科目コード	L1010
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

前のテキスト学習によるインプットおよび授業内アウトプット活動によるフリップラーニング、アクティブラーニングを実践する

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（シラバス説明、OneNoteの使い方、セルフチェックテスト、コアリーディング(CR)）
2	文法：時制の使い分け（1）、音声：[p, t, k]、語彙：語義とコロケーション（1）、CR para. 1-3
3	文法：時制の使い分け（2）、音声：3つの[A]、語彙：語義とコロケーション（2）、CR para. 1-3
4	文法：受動態の効果的な使用法、音声：/f/ /s/、語彙：語義とコロケーション（3）、CR para. 1-3
5	確認テスト（1）と解説
6	文法：助動詞（1）、音声：/f/ /h/、語彙：語義とコロケーション（4）、CR para. 4-5
7	文法：助動詞（2）、音声：/f/ /v/、語彙：語義とコロケーション（5）、CR para. 4-5
8	文法：助動詞（3）、音声：[th]、語彙：語義とコロケーション（6）、CR para. 4-5
9	確認テスト（2）と解説
10	文法：名詞の種類（1）、音声：[i] [r]、語彙：語義とコロケーション（7）、CR para. 6-7
11	文法：冠詞、音声：eat[緊張型]とit[弛緩型]、語彙：語義とコロケーション（8）、CR para. 6-7
12	文法：形容詞、音声：/ɔ:/ /oʊ/、語彙：語義とコロケーション（9）、CR para. 6-7
13	確認テスト（3）と解説
14	英作文と発音記号の演習課題

授業外における学習

基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された教科書の問題を解き、事後学習として反復練習および応用練習が求められる。適宜、学習成果をOneNote/Glexaに管理することが求められる。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

確認テスト	75	学習した文法・音声・語彙の習熟度を評価
英作文と発音記号の演習課題	10	英作文力および発音記号の知識を評価
解説動画作成	15	学修項目に関する理解をアウトプットにおいて評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・『ロイヤル英文法改訂新版』（綿貫他、旺文社、ISBN: 978-4010312780） ・『英語舌のつくり方』（野中泉、研究社、ISBN: 978-4327440848） [以上2冊]			
	BBC English Learning (https://www.bbc.co.uk/learningenglish/)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

反復練習にしっかり取り組んでください。

その他・特記事項

教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。

Basic English Communication I (G3)

更新日：2023/01/10 08:52:11

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020A	科目コード	L1020
担当教員	Cheryl Kirchoff						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, classmates and textbook
2	Unit 1.1, How to study NGSL
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3, Writing Unit
5	Unit 2.1, Writing Unit
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1 Book Talk
12	Unit 4.2, Book Talk
13	Unit 4.3
14	Conversation recording

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	assignments and recorded conversations
Writing	40	English emails and other assignments

Reading	10	Book Talk reports
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Complete assignments before the beginning of class and have willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication I (G4)

更新日：2023/01/10 08:52:20

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020B	科目コード	L1020
担当教員	Cheryl Kirchhoff						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, classmates and textbook
2	Unit 1.1, How to study NGSL
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3, Writing Unit
5	Unit 2.1, Writing Unit
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1 Book Talk
12	Unit 4.2, Book Talk
13	Unit 4.3
14	Conversation recording

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	assignments and recorded conversations
Writing	40	English emails and other assignments

Reading	10	Fluency reading and Book Talk reports
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Complete assignments before the beginning of class and be willing to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication I (G5)

更新日：2023/01/10 08:52:24

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020C	科目コード	L1020
担当教員	Cheryl Kirchhoff						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, classmates and textbook
2	Unit 1.1, How to study NGSL
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3, Writing Unit
5	Unit 2.1, Writing Unit
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1 Book Talk
12	Unit 4.2, Book Talk
13	Unit 4.3
14	Conversation recording

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	assignments and recorded conversations
Writing	40	English emails and other assignments

Reading	10	Fluency reading and Book Talk reports
Vocabulary	10	NGSL Test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Do assignments before the beginning of class and have willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication I (G6)

更新日：2023/01/10 08:52:32

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020D	科目コード	L1020
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, classmates and textbook
2	Unit 1.1, How to study NGSL
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3, Writing Unit
5	Unit 2.1, Writing Unit
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1 Book Talk
12	Unit 4.2, Book Talk
13	Unit 4.3
14	Conversation recording

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
speaking	40%	assignments and recorded conversations
writing	40%	English emails and other assignments

reading	10%	fluency reading and talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication I (G7)

更新日：2023/01/10 08:52:41

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020E	科目コード	L1020
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, classmates and textbook
2	Unit 1.1, How to study NGSL
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3, Writing Unit
5	Unit 2.1, Writing Unit
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1 Book Talk
12	Unit 4.2, Book Talk
13	Unit 4.3
14	Conversation recording

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
speaking	40%	assignments and recorded conversations
writing	40%	English emails and other assignments

reading	10%	fluency reading and talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication I (G1)

更新日：2023/01/10 08:55:46

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020F	科目コード	L1020
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words.
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study NGSL vocabulary. Conversation models from the textbook will be practiced online by students in pairs and in larger groups. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Introduction to Conversations in Class (Alma Publishing) and class goals; self-introductions
2	Unit 1.1: Conversation about hometown; how to write an email; written introductions; how to study NGSL
3	Unit 1.2: Majors, school years, and clubs; book club; Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3: Part-time jobs; writing (ideal future job); Writing Unit
5	Unit 2.1: Group conversation about ideal jobs in the future; conversations about daily routines; Writing Unit
6	Unit 2.2: Conversations about hardest/easiest days of the week; introduce Core Reading
7	Unit 2.3: Conversations about how students spend their time; introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1: Students talk about their hometowns and hometown attractions; book club; Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2: Students talk about hometown likes and dislikes; Core Reading, book talk
10	Unit 3.3: Students discuss where they would like to live in the future; Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1: Students talk about travel experiences; book talk and discussion activities
12	Unit 4.2: Discussion of ideas about future travel plans; book talk and discussion activities
13	Unit 4.3: Students plan trip in small groups or pairs - travel assignment;
14	Conversation based on travel assignments; final class conversation recording

授業外における学習

There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation practice outside of class. There will be reading assignments, outside assignments, and email assignments. Fluency reading and vocabulary study are d

質問や相談への対応

If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email. Students can message

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Speaking	40%	Assignments and recorded conversations
Writing	40%	English emails and other assignments
Reading	10%	Fluency reading and talking about books
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			
	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class. Students should communicate willingly with classmates.

その他・特記事項

特になし。

Basic English Communication I (G2)

更新日：2023/01/10 08:55:55

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020G	科目コード	L1020
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, classmates and textbook
2	Unit 1.1, How to study NGSL
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3, Writing Unit
5	Unit 2.1, Writing Unit
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1 Book Talk
12	Unit 4.2, Book Talk
13	Unit 4.3
14	Conversation recording

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
speaking	40%	assignments and recorded conversations
writing	40%	English emails and other assignments

reading	10%	fluency reading and talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Foundations of English II (G1)

更新日：2023/01/10 08:52:51

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030A	科目コード	L1030
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

毎回各教材の指定範囲の予習を前提として、授業時には教員によるフィードバックや、グループワークによる確認・演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション、1学期の振り返り
2	文法：形容詞句・節、音声：文のストレス
3	文法：Unit 5 形容詞句、音声：単語のアクセント、Core Reading：第1段落
4	文法：Unit 6 形容詞節(1)、音声：音変化(1)
5	文法：Unit 7 形容詞節(2)、音声：音変化(2)、Core Reading：第2段落
6	文法：中間テスト、音声：中間テスト
7	音声：リズム(1)-(3)、Core Reading：第3,4段落
8	文法：副詞句・節、音声：リズム(4)-(8)
9	文法：Unit 8 副詞句(1)、音声：リズム(9)-(11)、Core Reading：第5段落
10	文法：Unit 9 副詞句(2)、音声：イントネーション(1)-(3)
11	文法：Unit 10 副詞節(1)、音声：イントネーション(4)-(6)、Core Reading：第6段落
12	文法：Unit 11 副詞節(2)、音声：イントネーション(7)-(9)
13	文法：Unit 12 副詞節(3)、音声：総合復習、Core Reading：第7段落
14	まとめ・期末テスト

授業外における学習

毎回の授業の予習・復習と語彙学習課題。

質問や相談への対応

授業後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	予習・課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。

中間・期末テスト	50	文法、音声、語彙の学習内容の定着度により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Understanding and Using English Syntax (わかって使える英語構文)』朝日出版社 ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方 (リズム・イントネーション編)』研究社 			
	『総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (New Edition)』桐原書店			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし

Foundations of English II (G2)

更新日：2023/01/10 08:52:59

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030B	科目コード	L1030
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確かなものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声の特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出すること
2	ができる。
3	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解すること
4	ができる。
5	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論なども含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション Foundations of English I の振り返り
2	動名詞と不定詞
3	Reading3 単語学習3
4	冠詞と名詞
5	Reading4 発音 強弱リズム
6	代名詞と限定詞
7	発音 イントネーション 単語学習4
8	関係詞節 発音 基本のチェック
9	形容詞と副詞
10	接続詞と前置詞
11	前置詞
12	句動詞
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後、及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

試験	60	授業で学んだ事柄を試験で確認。
課題	30	授業で課された宿題の提出。
平常点	10	授業での発表、討論など。
その他		
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』研究社			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English II (G3)

更新日：2023/01/10 08:53:07

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030C	科目コード	L1030
担当教員	高梨 良夫						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確かなものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。
4	・その他、「授業の概要」と各先生のご指導内容に合わせて、適宜到達目標を追加してください（「到達目標」の達成度が成績評価に反映されるよう、「成績評価方法」の項目・基準との整合性にご留意ください）。

教授方法

Reading, Listening 中心の Coping with Globalization と Syntax, Writing 中心の College Grammar Pathfinder の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	①Coping with Globalization: Chapter 1: What Non-Japanese People Expect from Japan ②College Grammar Pathfinder, Unit 13: 形容詞と副詞
2	①Chapter 2: What Inbound Tourists Expect from Japanese People ④: 形容詞と副詞 ②Unit 1
3	①Chapter 3 Quarter 2 Core Reading
4	①Chapter 4: Utilizing Silence and Space in Japanese Culture ②Unit 15: 動名詞と不定詞
5	①Chapter 5 ② Unit 16
6	①Chapter 6: Clear Messages in a Lawsuit Society 置詞 (2) ②Unit 17: 前
7	①Chapter 10: Filing Occupations and Rising Occupations ②Unit 19: 受動態と能動態
8	①Chapter 10: Filing Occupations and Rising Occupations ②Unit 19: 受動態と能動態
9	①Chapter 11: Fair Survey ②Unit 20: 接続詞
10	①Chapter 12: Diversifying Risks ②Unit 21: 関係代名詞
11	①Chapter 13: Fusion of Different Cultures in Education ②Unit 22: 関係副詞
12	①Chapter 14: Focusing on One's Country's Merits ②Unit 23: 話法
13	①Chapter 15: Western Interpretations of Creativity ②Unit 24: 仮定法
14	総復習

授業外における学習

毎回必ず予習をして授業に出席し、授業後には復習をして欲しい。

質問や相談への対応

いつでも応じますので、遠慮せずに授業後又はメールで質問、相談して下さい。

成績評価

共通の評価基準	S) 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40%	授業内容全般の理解度を確認する問題を出題します。	
授業参加	50%	授業への出席・態度・積極的参加を評価します。	
e-learning	10%	e-learningの成績（基本的には自習）	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Junko Kobayasi, Brian Bond, Coping with Globalization (三 修社) Yoshihi ko Honda, Takehisa Tsuchiya, College Grammar Pathfinder (金星堂)			
	English Program for Global M obility (2022 Student Handbo ok) 岩村圭南 『英語 の正しい発音の仕方』 (基礎 編、応用編) (研究社) その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業への参加、予習、復習が基本です。毎時間が試験と思って、積極的な英語学習への取り組みを期待します。

その他・特記事項

特になし

Foundations of English II (G4)

更新日：2023/03/15 09:43:44

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030D	科目コード	L1030
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 8 (説明&小問)
3	Unit 8 (練習問題)
4	Unit 9 (説明&小問)
5	Unit 9 (練習問題)
6	Unit 10 (説明&小問)
7	Unit 10 (練習問題)
8	Unit 11 (説明&小問)
9	Unit 11 (練習問題)
10	Unit 12 (説明&小問)
11	Unit 12 (練習問題)
12	Unit 13&14 (説明&小問)
13	Unit 13&14 (練習問題)
14	文法&発音確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

授業への取り組み	40	授業への参加度
課題の提出	20	課題の提出状況
文法確認テスト	30	文法確認テストの成績
発音確認テスト	10	発音確認テストの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Vitamin G』 CENGAGE Learning			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』 (旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Foundations of English II (G5)

更新日：2023/01/10 08:53:17

開講年度	2022	学期	2期	シラバ スコード	L1030E	科目コード	L1030
担当教員	高梨 良夫						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。
4	・その他、「授業の概要」と各先生のご指導内容に合わせて、適宜到達目標を追加してください（「到達目標」の達成度が成績評価に反映されるよう、「成績評価方法」の項目・基準との整合性にご留意ください）。

教授方法

Reading, Listening 中心の Coping with Globalization と Syntax, Writing 中心の College Grammar Pathfinder の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	①Coping with Globalization: Chapter 1: What Non-Japanese People Expect from Japan ②College Grammar Pathfinder, Unit 13: 形容詞と副詞
2	①Chapter 2: What Inbound Tourists Expect from Japanese People ④: 形容詞と副詞 ②Unit 1
3	①Chapter 3 Quarter 2 Core Reading
4	①Chapter 4: Utilizing Silence and Space in Japanese Culture ②Unit 15: 動名詞と不定詞
5	①Chapter 5 ②Unit16
6	①Chapter 6: Clear Messages in a Lawsuit Society 置詞 (2) ②Unit 17: 前
7	①Chapter 7: Information Wars ②Unit 18: 比較
8	①Chapter 10: Filing Occupations and Rising Occupations ②Unit 19: 受動態と能動態
9	①Chapter 11: Fair Survey ②Unit 20: 接続詞
10	①Chapter 12: Diversifying Risks ②Unit 21: 関係代名詞
11	①Chapter 13: Fusion of Different Cultures in Education ②Unit 22: 関係副詞
12	①Chapter 14: Focusing on One's Country's Merits ②Unit 23: 話法
13	①Chapter 15: Western Interpretations of Creativity ②Unit 24: 仮定法
14	総復習

授業外における学習

毎回必ず予習をして授業に出席し、授業後には復習をして欲しい。

質問や相談への対応

いつでも応じますので、遠慮せずに授業後又はメールで質問、相談して下さい。

成績評価

共通の評価基準	S] 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40%	授業内容全般の理解度を確認する問題を出題します。	
授業参加	50%	授業への出席・態度・積極的参加を評価します。	
e-learning	10%	e-learning の成績（基本的には自習）	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Junko Kobayasi, Brian Bond, Coping with Globalization (三 修社) Yos hihiko Honda, Takehisa Tsuch iya, College Grammar Pathfin der (金星堂)			
	English Program for Global M obility (2022 Student Handbo ok) 岩村圭南 『英語 の正しい発音の仕方』 (基礎 編、応用編) (研究社) その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業への参加、予習、復習が基本です。毎時間が試験と思って、積極的な英語学習への取り組みを期待します。

その他・特記事項

特になし特になし

Foundations of English II (G6)

更新日：2023/01/10 08:53:25

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030F	科目コード	L1030
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取るこの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

毎回各教材の指定範囲の予習を前提として、授業時には教員によるフィードバックや、グループワークによる確認・演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション、1学期の振り返り
2	文法：形容詞句・節、音声：文のストレス
3	文法：Unit 5 形容詞句、音声：単語のアクセント、Core Reading：第1段落
4	文法：Unit 6 形容詞節(1)、音声：音変化(1)
5	文法：Unit 7 形容詞節(2)、音声：音変化(2)、Core Reading：第2段落
6	文法：中間テスト、音声：中間テスト
7	音声：リズム(1)-(3)、Core Reading：第3,4段落
8	文法：副詞句・節、音声：リズム(4)-(8)
9	文法：Unit 8 副詞句(1)、音声：リズム(9)-(11)、Core Reading：第5段落
10	文法：Unit 9 副詞句(2)、音声：イントネーション(1)-(3)
11	文法：Unit 10 副詞節(1)、音声：イントネーション(4)-(6)、Core Reading：第6段落
12	文法：Unit 11 副詞節(2)、音声：イントネーション(7)-(9)
13	文法：Unit 12 副詞節(3)、音声：総合復習、Core Reading：第7段落
14	まとめ・期末テスト

授業外における学習

毎回の授業の予習・復習と語彙学習課題。

質問や相談への対応

授業後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	予習・課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。

中間・期末テスト	50	文法、音声、語彙の学習内容の定着度により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・文法：『Understanding and Using English Syntax (わかって使える英語構文)』朝日出版社 ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方 (リズム・イントネーション編)』研究社			
	『総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (New Edition)』桐原書店			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし

Foundations of English II (G7)

更新日：2023/01/10 08:53:31

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030G	科目コード	L1030
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取るこの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

事前のテキスト学習によるインプットおよび授業内アウトプット活動によるフリッパーニング、アクティブラーニングを実践する

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（シラバス説明、OneNoteの使い方、セルフチェックテスト、コアリーディング(CR)）
2	文法：文型と動詞の種類、音声：リエゾン（1）、語彙：使い分けとコロケーション（1）、CR para. 1-3
3	文法：副詞、音声：リエゾン（2）、語彙：使い分けとコロケーション（2）、CR para. 1-3
4	文法：句と節、音声：リエゾン（3）、語彙：使い分けとコロケーション（3）、CR para. 1-3
5	確認テスト（1）と解説
6	文法：前置詞と接続詞（1）、音声：フラップ/t/、語彙：使い分けとコロケーション（4）、CR para. 4-5
7	文法：前置詞と接続詞（2）、音声：リダクション（1）、語彙：使い分けとコロケーション（5）、CR para. 4-5
8	文法：前置詞と接続詞（3）、音声：リダクション（2）語彙：使い分けとコロケーション（6）、CR para. 4-5
9	確認テスト（2）と解説
10	文法：関係代名詞（1）、音声：イントネーション（1）、語彙：使い分けとコロケーション（7）、CR para. 6-7
11	文法：関係代名詞（2）、音声：イントネーション（2）、語彙：使い分けとコロケーション（8）、CR para. 6-7
12	文法：仮定法、音声：イントネーション（3）、語彙：使い分けとコロケーション（9）、CR para. 6-7
13	確認テスト（3）と解説
14	ショートプレゼン

授業外における学習

基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された教科書の問題を解き、事後学習として反復練習および応用練習が求められる。適宜、学習成果をOneNote/Glaxaに管理することが求められる。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
確認テスト	75	学習した文法・音声・語彙の習熟度を評価

英作文と発音記号の演習課題	10	英作文力および発音記号の知識を評価
解説動画作成	15	学修項目に関する理解をアウトプットにおいて評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・『ロイヤル英文法改訂新版』（綿貫他、旺文社、ISBN: 978-4010312780） ・『英語舌のつくり方』（野中泉、研究社、ISBN: 978-4327440848） [以上2冊]			
	BBC English Learning (https://www.bbc.co.uk/learningenglish/)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

反復練習にしっかり取り組んでください。

その他・特記事項

教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。

Basic English Communication II (G1)

更新日：2023/01/10 08:53:40

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040A	科目コード	L1040
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	make conversation about their lifestyle and opinions,
2	write a paragraph about their own experience,
3	type an English paper,
4	read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practice vocabulary. Conversation models from the textbook will be practiced in class by students in pairs and in larger groups. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. There may also be writing activities related to discussion activities.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to Quarter 2; Unit 5.1; Introduce Xreading assignments; introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2: Conversation about free time; mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3: Group conversations related to likes and dislikes; writing activity
4	Unit 6.1: Conversations about music; introduce Core Reading
5	Unit 6.2: Conversations about movies, TV, games, manga or other media; students write short Amazon review and share
6	Unit 6.3: Book club; Core Reading activity (the habits of successful people)
7	Conversation tests and student discussion; Writing Unit
8	Unit 7.1: Conversation about favorite and least favorite foods; group research project about food history and culture
9	Unit 7.2: 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3: Conversations about food culture
11	Unit 8.1: Students talk about their near-future plans
12	Unit 8.2: Conversations about life issues
13	Unit 8.3: Conversations about life issues
14	Final conversation recordings; conversation activities; class wrap-up

授業外における学習

There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation exercises outside of class. Students must complete homework and writing assignments on time or there will be penalties. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email. Students can also co

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	Conversations and presentations will be recorded and graded
Writing	40	1-paragraph paper and 2-paragraph typed paper, plus other assignments
Reading	10	Students will read graded readers for fluency and take tests
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			
	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class. Students should be willing to talk with classmates.

その他・特記事項

—

Basic English Communication II (G2)

更新日：2023/01/10 08:53:48

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040B	科目コード	L1040
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	make conversation about their lifestyle and opinions,
2	write a paragraph about their own experience,
3	type an English paper,
4	read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media
6	Unit 6.3, Core Reading assignment
7	Conversation tests, writing unit
8	Unit 7.1, conversations about food
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3 conversations on food culture
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans
12	Unit 8.2 conversations about life issues
13	Unit 8.3 conversations about life issues
14	conversation recordings

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

speaking	40%	recorded conversations
writing	40%	1-paragraph paper, 2-paragraph paper
reading	10%	fluency reading talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication II (G3)

更新日：2023/01/10 08:53:57

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040C	科目コード	L1040
担当教員	Cheryl Kirchoff						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

"This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently."

到達目標

1	make conversation about their lifestyle and opinions,
2	write a paragraph about their own experience,
3	type an English paper,
4	read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media
6	Unit 6.3, Core Reading assignment
7	Conversation tests, writing unit
8	Unit 7.1, conversations about food
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3 conversations on food culture
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans
12	Unit 8.2 conversations about life issues
13	Unit 8.3 conversations about life issues
14	conversation recordings

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	recorded conversations
Writing	40	1-paragraph paper and other assignments
Reading	10	Fluency reading
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Complete assignments before the beginning of class and have willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication II (G4)

更新日：2023/01/10 08:54:06

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040D	科目コード	L1040
担当教員	Cheryl Kirchhoff						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

"This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently."

到達目標

1	make conversation about their lifestyle and opinions,
2	write a paragraph about their own experience,
3	type an English paper,
4	read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media
6	Unit 6.3, Core Reading assignment
7	Conversation tests, writing unit
8	Unit 7.1, conversations about food
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3 conversations on food culture
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans
12	Unit 8.2 conversations about life issues
13	Unit 8.3 conversations about life issues
14	conversation recordings

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	recorded conversations
Writing	40	1-paragraph paper and other assignments
Reading	10	Fluency reading
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Complete assignments before the beginning of class and have willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication II (G5)

更新日：2023/01/10 08:54:15

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040E	科目コード	L1040
担当教員	Cheryl Kirchoff						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

"This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently."

到達目標

1	make conversation about their lifestyle and opinions,
2	write a paragraph about their own experience,
3	type an English paper,
4	read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media
6	Unit 6.3, Core Reading assignment
7	Conversation tests, writing unit
8	Unit 7.1, conversations about food
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3 conversations on food culture
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans
12	Unit 8.2 conversations about life issues
13	Unit 8.3 conversations about life issues
14	conversation recordings

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	recorded conversations
Writing	40	1-paragraph paper and other assignments
Vocabulary	10	Fluency reading
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Complete assignments before the beginning of class and have willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication II (G6)

更新日：2023/01/10 08:54:22

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040F	科目コード	L1040
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	make conversation about their lifestyle and opinions,
2	write a paragraph about their own experience,
3	type an English paper,
4	read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media
6	Unit 6.3, Core Reading assignment
7	Conversation tests, writing unit
8	Unit 7.1, conversations about food
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3 conversations on food culture
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans
12	Unit 8.2 conversations about life issues
13	Unit 8.3 conversations about life issues
14	conversation recordings

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

speaking	40%	recorded conversations
writing	40%	1-paragraph paper, 2-paragraph paper
reading	10%	fluency reading talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication II (G7)

更新日：2023/01/10 08:54:32

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040G	科目コード	L1040
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	make conversation about their lifestyle and opinions,
2	write a paragraph about their own experience,
3	type an English paper,
4	read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media
6	Unit 6.3, Core Reading assignment
7	Conversation tests, writing unit
8	Unit 7.1, conversations about food
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3 conversations on food culture
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans
12	Unit 8.2 conversations about life issues
13	Unit 8.3 conversations about life issues
14	conversation recordings

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

speaking	40%	recorded conversations
writing	40%	1-paragraph paper, 2-paragraph paper
reading	10%	fluency reading talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Comprehensive English I (G1)

更新日：2023/01/10 08:54:39

開講年度	2022	学期	3期	シラバースコード	L1050A	科目コード	L1050
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。
2	・目の前にある事物や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。
4	・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの基礎力を身に付けるための訓練を行い、英語のプレゼンテーションの簡単なやり方も学習してもらう。

教授方法

授業は演習形式で、授業の前半は、テキストを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くこつも伝授する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、学習方法、評価方法を説明する。）
2	Textbook Unit 1 と イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。
3	Textbook Unit 2 と 英国紹介についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
4	Textbook Unit 3 と 英語のプレゼンテーションのやり方を説明する。
5	Textbook Unit 4 と 日本紹介についてのプレゼンテーション
6	Textbook Unit 5 と 英国の大学についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
7	Textbook Unit 6 と 日本の大学についてのプレゼンテーション
8	Textbook Unit 7 と 英国の教育制度についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
9	Textbook Unit 8 と 日本の教育制度についてのプレゼンテーション
10	Textbook Unit 9 と 英国の食事についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
11	英国の肥満問題についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
12	日本の食事についてのプレゼンテーション
13	ロンドンについての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
14	総括

授業外における学習

毎回、教員から授業中に与えられた課題にしっかり取り組むこと。

予習を十分してから授業に臨むこと。
授業後も復習を最低1時間はすること。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な目標を十分に達成している。【B】基本的な目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	35%	提出物によって評価する。
英語のプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。
テスト	25%	筆記試験によって評価する。
上記以外の授業評価	10%	e-learning 10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・ Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2			
	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

受講生の積極的な授業参加を期待する。
 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
 遅刻はしないこと。
 予習、復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。遅刻は30分までは出席とみなす。

Comprehensive English I (G2)

更新日：2023/01/10 08:54:48

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050B	科目コード	L1050
担当教員	高梨 良夫						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語 4 技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

Reading, Listening 中心の① Exploring Hidden Culture と Syntax, Writing 中心の② Basic Skills in English の2種類のテキスト使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語の発音に慣れ、発音の基礎を学ぶ。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	① Cultural Patterns (前半)	
2	①1: 後半	② Ch. 1
3	Quarter 3 Core Reading	②Ch. 2
4	①2: The Physical Environment (前半)	②Ch. 3
5	①2: 後半 ②Ch. 4	
6	①3: Religion (前半)	②Ch. 5
7	①3: 後半	②Ch. 6
8	Self-introduction	
9	①4: Politics (前半) ②Ch.7	
10	①4: 後半 ②Ch.8	
11	①5: Authority (前半)	②Ch.9
12	①5: 後半	②Ch.10
13	①6: Time (前半)	②Ch.11
14	①6: 後半	②Ch.12

授業外における学習

毎回必ず予習をして授業に出席し、授業後には復習をする。

質問や相談への対応

いつでも応じますので、遠慮せずに授業後又はメールで質問・相談して下さい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	40	授業内容全般の理解度を確認する問題を出題します
授業参加	50	授業への出席・態度・積極的参加を評価します
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Paul Stapleton, Exploring Hidden Cultures (金星堂) Kenichi Tamoto, Simon Sanada, Basic Skills in English (成美堂)			
	English Program for Global Mobility (2022 Student Handbook) 岩村圭南 『英語の正しい発音の仕方』 (基礎編、応用編) (研究社) その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業への参加、予習、復習が基本です。毎時間が試験と思って、積極的な英語学習への取り組みを期待します。

その他・特記事項

特になし

Comprehensive English I (G3)

更新日：2023/03/09 13:41:22

開講年度	2022	学期	3期	シラブスコード	L1050C	科目コード	L1050
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 1 & Unit 2
3	Unit 3
4	Unit 4
5	Unit 5
6	Unit 6
7	Unit 7
8	Unit 8
9	Unit 9
10	Unit 10
11	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
12	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
13	英語スピーチ
14	確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

授業への取り組み	30	授業への参加度
確認テスト	30	確認テストの成績
英語スピーチ	30	英語スピーチの成績
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Reader's Ark Basic』金星堂			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』(旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

海外プログラム（アメリカ）

更新日：2023/01/10 08:56:48

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	F1010A	科目コード	F1010
担当教員	中澤 弥子, 草間 かおる, 今村 晴彦						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

アメリカ合衆国 管理栄養士 英語プレゼンテーション能力

授業の概要

管理栄養士として先駆的な活動を推進している海外（アメリカ合衆国）に滞在し、その養成制度と活躍の現状を理解する。また、海外の食習慣や生活習慣を体験するとともに、日本食の海外での普及の現状を知り、視野を広げる。その事前指導として、研修国の概要を学び、管理栄養士制度、日本文化、日本食などについての英語プレゼンテーションの準備を行う。英語クラス、現地学生との交流等を通してコミュニケーション能力を向上させる。事後指導では、滞在先で学んだ学習内容の省察と個人課題について整理と検討を行い、報告会での発表や意見交換を通して、専門領域への理解を深め、さらなる関心を高める。

担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

英語表記「Overseas program」

到達目標

1	①海外の栄養士・管理栄養士の活動の現状を説明できる。
2	②海外と日本の食習慣や生活習慣の違いを説明できる。
3	③英語プレゼンテーション能力を向上する。

教授方法

事前事後指導（第1回～第5回、第13回、第14回）は演習形式で随時ディスカッションを行う。現地研修（第6回～第12回）では、ミズーリ大学コロンビア校での講義や大学施設の見学、実習や管理栄養士が活躍する現場でのフィールドワークを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	海外プログラムの概要と意義
2	英語プレゼンテーション準備1：管理栄養士制度の紹介
3	英語プレゼンテーション準備2：日本文化の紹介
4	英語プレゼンテーション準備3：日本食の紹介
5	個人課題の計画・文化交流活動の準備
6	ミズーリ大学コロンビア校のオリエンテーション・施設見学
7	ミズーリ大学コロンビア校の英語学習
8	現地講義（管理栄養士制度と活動の現状）
9	現地講義（食文化、健康・栄養問題、スポーツ栄養学など）
10	フィールドワーク（アメリカ合衆国の食体験）
11	フィールドワーク（小学校、高齢者施設等見学）
12	ミズーリ大学コロンビア校の学生との文化交流活動
13	現地での体験の振り返りと個人課題の整理と検討、グループでの検討会・意見交換会
14	体験報告会

授業外における学習

事前指導、現地研修、事後指導で課された課題に取り組む。

質問や相談への対応

質問等は授業中や授業の前後に受け付け、回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。

中澤 弥子 nakazawa.hiroko@u-nagano.ac.jp

草間 かおる kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	50	事前指導、現地研修、事後指導で課された提出物の提出状況及び内容に応じて評価する。
英語の評定	30	ミズーリ大学コロンビア校による評価を参考にして評価する。
授業への積極的な参加度	20	事前指導、現地研修、事後指導への参加度に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	随時知らせる。			
	随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・授業では積極的に課題やディスカッションに取り組むこと。
- ・説明会やメール等による連絡内容をきちんと確認すること。
- ・課題の提出締め切りを厳守すること。

その他・特記事項

全学のオリエンテーションや説明会には必ず参加すること。
担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。

海外プログラム（ニュージーランド）

更新日：2023/01/10 08:57:11

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F1010B	科目コード	F1010
担当教員	中澤 弥子, 草間 かおる, 今村 晴彦						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ニュージーランド 管理栄養士 英語プレゼンテーション能力

授業の概要

管理栄養士として先駆的な活動を推進している海外（ニュージーランド）に滞在し、その養成制度と活躍の現状を理解する。また、海外の食習慣や生活習慣を体験するとともに、日本食の海外での普及の現状を知り、視野を広げる。その事前指導として、研修国の概要を学び、管理栄養士制度、日本文化、日本食などについての英語プレゼンテーションの準備を行う。英語クラス、現地学生との交流等を通してコミュニケーション能力を向上させる。事後指導では、滞在先で学んだ学習内容の省察と個人課題について整理と検討を行い、報告会での発表や意見交換を通して、専門領域への理解を深め、さらなる関心を高める。担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

英語表記「Overseas Program」

到達目標

1	①海外の栄養士・管理栄養士の活動の現状を説明できる。
2	②海外と日本の食習慣や生活習慣の違いを説明できる。
3	③英語プレゼンテーション能力を向上する。

教授方法

事前事後指導（第1回～第5回、第13回、第14回）は演習形式で随時ディスカッションを行う。現地研修（第6回～第12回）では、Ara クライストチャーチ工科大学の英語学習とHealth Careの教員によるセミナーや大学施設の見学、実習や管理栄養士が活躍する現場でのフィールドワークを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	海外プログラムの概要と意義
2	英語プレゼンテーション準備1：管理栄養士制度の紹介
3	英語プレゼンテーション準備2：日本文化の紹介
4	英語プレゼンテーション準備3：日本食の紹介
5	個人課題の計画・文化交流活動の準備
6	Ara クライストチャーチ工科大学のオリエンテーション・施設見学
7	Ara クライストチャーチ工科大学の英語学習
8	現地講義（管理栄養士制度と活動の現状）
9	現地講義（基礎栄養学、マオリ食文化、健康・栄養問題など）
10	フィールドワーク（ニュージーランドの食体験）
11	フィールドワーク（高齢者施設等見学）
12	Ara クライストチャーチ工科大学の学生との文化交流活動
13	現地での体験の振り返りと個人課題の整理と検討、グループでの検討会・意見交換会
14	体験報告会

授業外における学習

事前指導、現地研修、事後指導で課された課題に取り組む。

質問や相談への対応

質問等は授業中や授業の前後に受け付け、回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。

中澤 弥子 nakazawa.hiroko@u-nagano.ac.jp

草間 かおる kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	50	事前指導、現地研修、事後指導で課された提出物の提出状況及び内容に応じて評価する。
英語の評定	30	Ara クライストチャーチ工科大学による評価を参考にして評価する。
授業への積極的な参加度	20	事前指導、現地研修、事後指導への参加度に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	随時知らせる。			
	随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・授業では積極的に課題やディスカッションに取り組むこと。
- ・説明会やメール等による連絡内容をきちんと確認すること。
- ・課題の提出締め切りを厳守すること。

その他・特記事項

全学のオリエンテーションや説明会には必ず参加すること。
担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。

食文化論

更新日：2023/01/10 08:56:48

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	F1030A	科目コード	F1030
担当教員	中澤 弥子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

和食 歴史 異文化 多文化共生

授業の概要

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録される等、日本の伝統的な食文化への関心が高まっている。食文化論では、日本の食文化とはなにか、外国からきた食材や料理を巧みに日本化して取り入れていった歴史、米と魚を軸に、多様な発酵技術を生かした独自性、郷土料理の広がり等、日本の食文化について学ぶ。食品の種類別にその歴史を通史的に学び、世界や地域の食文化や家庭内・家庭外の食文化について、その特徴とともに、食と健康との関係について学ぶ。自らの食生活や食文化について理解する。

英語表記「Introduction to Food Culture」

到達目標

1	①日本の食文化の特徴とはなにか、世界や地域の食文化についても事例を通して理解を深め、多様な食文化の背後にあるものの見方・考え方を修得する。
2	②食と健康との関係についての理解を深め、異文化を柔軟に受けとめる姿勢を養い、多文化共生時代に必要な基礎知識を修得する。

教授方法

講義において、教科書のみならず、参考書、新聞、映像資料等食文化に関係する様々な情報を補足資料として用い、パワーポイントによる視覚資料を活用し、食文化についての理解を深める。講義の前半で学生各自の育ってきた食生活・食文化についてまとめるレポート課題を課しておき、第7回の報告会で発表し意見交換を行い、食文化についての理解や関心を深める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、食文化の定義、食文化研究、「和食」日本人の伝統的な食文化、日本料理の形成と発展、異文化接触と受容
2	世界の食文化形成、食に関する思想、主食の文化
3	主食と副食の文化
4	副食の文化、台所・食器・食卓の文化
5	調味料・油脂・香辛料・菓子・茶・酒の文化
6	和食と健康、日常の食生活、非常の食生活、外食文化の成立と変化
7	行事と地域の食文化、食生活・食文化についての報告会とまとめ

授業外における学習

事前学習としては、毎回指定する課題（教科書等の関係する資料を確認する）に取り組む。

事後学習としては、授業で学んだ内容について教科書や資料を使用して整理し、理解を深める。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の後に受け付ける。
- ・毎回の小テストに感想・意見・質問等も記して提出してもらう。
- ・メールでの質問についても受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	60	講義で学んだ日本や世界の食文化の特徴に関する基本的知識の理解度に応じて評価する。

提出物	40	毎回の授業の中で学んだ食文化に関する基本的知識について課された提出物の提出状況及び内容に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	『日本の食文化 新版 「和食」の継承と食育』江原絢子・石川尚子編著 アイ・ケイ コーポレーション 2016 ISBN：978-4-87492-343-6			
	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、適宜、資料等を配布・紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日本や世界や地域の食文化について、各自がこれまでに見知ってきた知識や事例と比較し、多様な食文化の背後にあるものの見方・考え方について理解を深め主体的に学んでほしい。

その他・特記事項

特になし

経営学入門

更新日：2023/01/10 08:56:49

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	F1040A	科目コード	F1040
担当教員	森本 博行						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

経営管理

授業の概要

経営学入門では、現代社会に必要な経営についての知識を学習することを目的としています。担当教員は、国際マーケティング戦略企業であるマッキンゼーエリクソン博報堂にコカコーラなどの国際的企業を担当し、またソニーでは経営戦略や広告戦略を担当し、さらに米国、英国の海外子会社に在籍した実務経験があり、ソニー退職時にはイノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。

到達目標

1	経営管理の基礎知識を修得する
---	----------------

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	経営学とは何か
2	不確実性と経営管理
3	意思決定論
4	経営組織論（マクロ組織論）
5	組織行動論（ミクロ組織論）
6	財務管理論（会計学）
7	競争戦略論
8	ゲーム論
9	経営戦略論
10	創発戦略論
11	技術戦略論（イノベーション）
12	国際経営論
13	異文化マネジメント論
14	日本企業の経営課題

授業外における学習

事前に講義に使用するパワーポイントを見ておいて下さい。

質問や相談への対応

メールで質問や相談にお応えします。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	100	経営知識の認識度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	経営学入門			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

経営学に興味を抱いて下さい

その他・特記事項

オンラインで行います、

アカウントティング入門

更新日：2023/01/10 08:56:50

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	F1050A	科目コード	F1050
担当教員	中村 文彦						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

特定給食施設の運営（経営） 経営管理 フード・ビジネス 原価 損益分岐点

授業の概要

変容し続ける現代の社会生活では、食の視点から人の健康を管理することがますます重要になっています。本授業では、受講生の皆さんが、将来携わる様々な領域において、運営計画から評価までの一連のプロセスをマネジメントするのに役立つ「会計」というスキルを学びます。

到達目標

1	給食等の運営を行うに際して必要となる一連の基礎的な会計知識を身につけることを目標とします。
2	具体的には、原価管理、損益分岐点分析、利益管理と予算管理、その他の管理手法、簿記と財務諸表、経営分析、それぞれの論点について基本的な事項を学びます。これらを学ぶことによって、様々な領域における運営計画から評価までの一連のプロセスを財務的な視点から効果的にマネジメントし得るようになります。

教授方法

オンラインによる集中講義で行います。一方的に講ずるのではなく、適宜、ケーススタディーやスモールタスク等を織り交ぜながら授業を進める予定です。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に指定しない。

授業計画

1	学習事項：食と健康に関わる事業における会計の重要性：ケーススタディー
2	学習事項：食の提供施設の運営業務：マネジメントの基本：ケーススタディー
3	学習事項：採算を維持するための原価管理：原価の種類を知ろう：ケーススタディー
4	学習事項：食堂経営の事業計画（1）：学生ベンチャー食堂の経営をシミュレートしてみよう、ケーススタディー
5	学習事項：食堂経営の事業計画（2）：市場調査、販売計画、仕入計画：ケーススタディー
6	学習事項：復習と問題演習
7	学習事項：財務諸表の仕組み：損益計算書と貸借対照表について

授業外における学習

日々のニュース、新聞等の経済領域に関心を持つようして下さい。

質問や相談への対応

ポータルサイトでお知らせします。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
出席等	50	出席および受講態度	
スモールタスク	50	学習事項の理解度等	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に指定しない			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しみながらしっかり学んで将来役立ててください。

その他・特記事項

予習は不要ですが、学習したことは、その日のうちにすぐ復習し、次回までに身に付けるよう心がけてください。

リーダーシップ論

更新日：2023/01/10 08:57:13

開講年度	2022	学期	4期	シバスコド	F1060A	科目コード	F1060
担当教員	宮下 清						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	4年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

マネジャー、リーダー、リーダーシップ、フォロワーシップ

授業の概要

授業では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロアー、現在と今後のリーダーシップのあり方などのリーダーシップの論点を取り上げる。

対面でもオンラインでもライブ講義に加え、課題や事例のグループ討議、コメントや質疑とそのフィードバックを行うことで、主体的かつ双方向的な学びができるよう配慮して進める。担当教員は国際企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有しており、リーダーシップの発揮などの説明や事例で実務経験を活かしていきたい。

到達目標

1	リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」を意味する。マネジメント分野で関心が高く、重要な分野であるリーダーシップの働きや理論を学び、リーダー、マネジャー、フォロワーやメンバーの働きや関係を理解できる、リーダーシップ持論を自分の言葉で他者に話せるようになる、ことを目標とする。リーダーシップで組織の問題や課題への対応力も高め、実践的に社会生活に応用できる、活用できることも目指している。
---	---

教授方法

講義に演習的な授業形態を加え、課題・事例研究、グループ討議、発表・質疑等により双方向の授業とする。読書や講義で知識・概念を、共同学習やグループ討議から多様で実践的な理解が得られるようにしたい。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

経営学入門、組織論、組織行動論を履修していることが望ましい。

授業計画

1	第1回：ガイダンス・リーダーシップとは：マネジメントとリーダーシップを学ぶ意義、ドラッカーの考え方
2	第2回：マネジメントは：マネジメントについての誤解、組織とは、組織の共通目的、貢献意欲、コミュニケーション
3	第3回：マネジャーの人間観：合理的経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデル、複雑人モデル
4	第4回：リーダーシップの基本：リーダーとは、リーダーシップの定義、サーバントリーダーシップ
5	第5回：リーダーシップの持論：演習：持論としてのリーダーシップを探る
6	第6回：リーダーシップ論の展開(1)：リーダーシップの資質、リーダーシップの行動特性、リーダーシップと状況
7	第7回：リーダーシップ論の展開(2)：カリスマ的リーダーシップ、変革型リーダーシップ
8	第8回：フォロワーからのリーダーシップ：リーダーとフォロワーの信頼関係、フォロワーのリーダーシップ、リーダーシップの幻想
9	第9回：フォロワーシップとは何か(1)：フォロワーのルーツ、フォロワーシップの定義、ボス・マネジメント
10	第10回：フォロワーシップとは何か(2)：模範的フォロワー、勇敢なフォロワー、頼れるフォロワー、フォロワーシップの定性的研究
11	第11回：リーダーシップを高める：演習：自分のリーダーシップをどう高めるか
12	第12回：マネジャーに求められるもの(1)：ゼネラル・マネジャーの行動、マネジャーの仕事
13	第13回：マネジャーに求められるもの(2)：マネジャーの実像、マネジャーの3つの課題
14	第14回：総合事例：リーダーシップの事例と総合課題（期末レポートの課題）

授業外における学習

テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し再度考察する「事後学習」を行うことで、学習を定着させることができる。

質問や相談への対応

授業中のチャットによる質問にはできるだけ授業中に答える。また授業後に個別に質問を受ける。またメールでも対応したい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	授業全体の理解度の評価
授業での課題	20	授業課題の提出やレポートの評価
上記以外の評価	20	授業への積極的な参加（質疑、討議、コメント等）による評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	小野善生『リーダーシップ徹底講座』中央経済社, 2018年。			
	『リーダーシップの名著を読む(日経文庫)』日経新聞, 2015. 『HBRリーダーシップの教科書』ダイヤモンド社, 2018. 金井 壽宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社, 2005.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

リーダーシップについて学び、考え、実践してみようというスタンスによって、理解につながる。

その他・特記事項

自分の体験や記事からリーダーシップに関する知見や情報が、多面的かつ興味深い理解につながる。担当教員は国際企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有している。

公衆衛生学

更新日：2023/01/10 08:57:31

開講年度	2022	学期	1期	シバースコード	F1070A	科目コード	F1070
担当教員	今村 晴彦						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

公衆衛生, 疾病対策, 環境, 生活習慣, 疫学

授業の概要

社会のなかで、人々の疾病をいかに予防し健康の増進を図っていくか、という公衆衛生的な知識と考え方を身につけることを目的とする。目的達成のため、1) 健康、疾病、障害などの基本的な概念と公衆衛生の関わり、2) 人を取り巻く社会状況、環境がどのように健康に影響するか、3) 環境や社会にあるリスクと健康との因果関係を明らかにする疫学的方法、4) 疾病の予防と健康を増進するための具体的、実践的な方法について学修する。

到達目標

1	健康と、環境や経済をはじめとするさまざまな社会要因との関連について説明できる。
2	健康や疾病に関する保健統計等の資料を用いて、日本や世界の健康状態について理解し、説明できる。
3	健康・栄養に係わる社会制度等を理解し、地域での公衆衛生活動を説明できる。

教授方法

各回、講義テキスト、事前配布または当日配布プリントを元にパワーポイントスライドを併用して講義を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	公衆衛生学とは
2	健康の社会的決定要因、健康格差
3	環境と健康影響
4	疫学（1）疫学概念、疫学指標
5	疫学（2）疫学の研究方法 観察研究
6	疫学（3）疫学の研究方法 介入研究
7	疫学（4）因果関係・バイアス・交絡
8	疫学（5）スクリーニング
9	保健統計
10	主要疾患の疫学
11	保健・医療・福祉・介護の制度
12	地域保健
13	国際保健
14	エビデンスに基づく公衆衛生活動

授業外における学習

- ① 毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ② 復習を重ねて苦手な分野がないように努力する。そのために、問題集（指定図書（練習問題等）を活用する。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

定期試験	70	試験（筆記及び選択肢）の採点による。
授業レポート	20	公衆衛生学の理解を深めるため、不定期でレポートを課して評価を行う。
小テスト	10	不定期に実施する小テスト（回数未定）の点数。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康』辻一郎・ 吉池信男（編）（南江堂） その他、必要に応じて資料を 配付する。			
	国民衛生の動向（厚生労働統 計協会）最新版			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

公衆衛生に関わる話題は日常的にニュース等で取り上げられている。公衆衛生が身近なテーマであることを理解し、常に興味のアンテナを張って、教科書、参考書以外のメディア媒体等からも学習する姿勢を望む。

その他・特記事項

特になし。

公衆衛生学実習

更新日：2023/01/10 08:57:32

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	F1080A	科目コード	F1080
担当教員	今村 晴彦						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

公衆衛生, 疾病対策, 環境, 生活習慣, 疫学

授業の概要

公衆衛生学で学修した、地域保健、環境保健、産業保健等の領域から、テーマを選択し調査実習を行う。その際、長野県における健康・栄養学や関連する保健の位置づけを考えたテーマを設定する。調査実習では、1) 公的統計データを用いて、公衆衛生的視点で課題を発見すること、2) 疫学的な調査を行い原因と結果の因果関係を明らかにすること、3) 文献・資料検索も含めた実態把握調査を行い、公衆衛生的な観点で今後の対策を考えること、とする。

到達目標

1	公的統計データおよび文献・資料から、地域の課題を発見できる。
2	地域の課題解決のための公衆衛生活動を計画し、説明できる。
3	公衆衛生の実践と普及について、事例をもとに議論、発表できる。

教授方法

演習、実習：文献検索、文献のまとめと考察、調査（疫学的手法を用いて）とまとめ

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	長野県の公衆衛生
2	公的統計データを用いた課題発見（1）データへのアクセス
3	公的統計データを用いた課題発見（2）データの取得
4	公的統計データを用いた課題発見（3）データの理解
5	公的統計データを用いた課題発見（4）データの活用1
6	公的統計データを用いた課題発見（5）データの活用2
7	公衆衛生活動の計画（1）アセスメント
8	公衆衛生活動の計画（2）実施
9	公衆衛生活動の計画（3）評価とアクション
10	公衆衛生活動の計画（4）発表と議論
11	公衆衛生の実践と普及の理論（1）
12	公衆衛生の実践と普及の理論（2）
13	公衆衛生の実践と普及の理論（3）発表と議論
14	総括

授業外における学習

- ① 毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ② 復習を重ねて苦手な分野がないように努力する。そのために、問題集（指定図書の実習問題等）を活用する。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業レポート	80	授業内のグループワークの成果、および最終レポートを評価する。
小テスト	20	不定期に実施する小テスト（回数未定）の点数。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康』辻一郎・ 吉池信男（編）（南江堂） その他、必要に応じて資料を 配付する。			
	国民衛生の動向（厚生労働統 計協会）最新版			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

公衆衛生に関わる話題は日常的にニュース等で取り上げられている。公衆衛生が身近なテーマであることを理解し、常に興味のアンテナを張って、教科書、参考書以外のメディア媒体等からも学習する姿勢を望む。

その他・特記事項

Excelなどの統計処理ができるソフトを活用しながらすすめる。各自、ノートPCを持参すること。

食事調査法

更新日：2023/01/10 08:57:11

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	F1090A	科目コード	F1090
担当教員	草間 かおる						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

食事調査 食事調査法、栄養評価

授業の概要

対象者（個人および集団）の栄養評価を行う際の基本的な情報となる、食事摂取量の測定としての食事調査法を学ぶ。食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法等についての意義、目的、特徴(長所・短所)について、さらに各種食事調査法の妥当性や精度について学修する。講義と演習を通して、食事調査法の基礎技術や留意点を理解し、対象者を取り巻く社会・環境や目的に合わせた食事調査を選択することができるようになる。同時に、食事を通して人間や生活について理解を深めることを目的とする。

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

到達目標

1	①食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法等についての意義、目的、特徴が説明できる。
2	②対象者の状況や目的に合わせた食事調査を選択することができる。

教授方法

講義および小グループによる演習、食事調査を実際に行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション, 食事調査の意義・目的
2	食事調査法(1) 食物摂取頻度調査法
3	食事調査法(2) 24時間思い出し法
4	食事調査法(3) 食事記録法
5	食事調査データの収集・処理
6	食事調査結果による評価
7	食事調査法のまとめ

授業外における学習

指定された事前課題（食事調査）に取り組む。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標が達成できたか
課題	20	丁寧に取り組んでいるか、分かりやすいか、論理的か
上記以外の授業評価	20	授業への積極的な参加状況、課題の提出状況
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	食事調査マニュアル、日本栄養改善学会監修、南江堂			
	授業において随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。

その他・特記事項

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。

栄養疫学

更新日：2023/01/10 08:57:33

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	F1100A	科目コード	F1100
担当教員	高橋 東生						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養疫学, 生活習慣, EBN

授業の概要

栄養疫学の講義では、科学的根拠に基づいた栄養学（EBN）とは何かを理解し、「社会・環境と健康」ならびに「公衆栄養学」分野で学んだ疫学研究を実施する際に考慮すべき問題点を理解し、その具体的な克服方法について学修する。

到達目標

1	具体的な内容は、
2	1) 栄養疫学研究の概要を理解し、栄養疫学方法論の基礎を理解する。
3	2) 栄養疫学研究に必要な基礎ならびに応用統計を駆使することができる。
4	3) 実際に行われている栄養疫学研究の論文を読んで内容が理解できるようになる。

教授方法

講義および小グループによる演習を予定していたが、Web上での講義を中心に行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修制限はないが、今まで学んだ「社会・環境と健康」分野および「公衆栄養学」分野の復習をしておくこと。

授業計画

1	ガイダンス・疫学の概要①
2	栄養疫学の概要② EBNの概念①
3	栄養疫学の概要③ EBNの概念②
4	栄養疫学の概要④ 健康情報の信頼性①
5	栄養疫学の概要⑤ 健康情報の信頼性②
6	栄養疫学の指標
7	栄養疫学の方法
8	食事摂取基準と栄養疫学①
9	食事摂取基準と栄養疫学②
10	演習：食事摂取基準2020年版のエビデンスレベル
11	栄養疫学と食事アセスメント①
12	栄養疫学と食事アセスメント②
13	演習：栄養疫学に関する論文抄読①
14	演習：栄養疫学に関する論文抄読②

授業外における学習

初回の予習については、今まで学習してきた「公衆栄養学」分野および「社会・環境と健康」分野の教科書をよく読んでおくこと。毎回の進捗状況に合わせて指示します。また毎回事後の復習を課します。

質問や相談への対応

Web上での質問を受け付けます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
学期末テスト	90	授業内容（重要・重点項目）の理解
授業内小テスト	10	必要に応じて、講義の予習・復習を行っているかを確認します。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて、指示します。			
	必要に応じて、指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

巷の健康・栄養関連情報に興味を持ってください。

その他・特記事項

管理栄養士としての情報リテラシーを身につけてください。

社会福祉学

更新日：2023/01/10 08:56:51

開講年度	2022	学期	2期	シバ`スコト`	F1110A	科目コード	F1110
担当教員	尾島 豊						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

社会保障、社会福祉、児童家庭福祉、障害者福祉、介護保険、生活保護

授業の概要

社会保障の体系を理解した上で社会福祉サービスの概要を学ぶ。1)戦後の社会福祉の沿革、2)児童家庭福祉の概要、3)障害者福祉の概要、4)高齢者福祉—介護保険を中心に、5)貧困と生活保護の概要を順次学んでいく。

到達目標

1	栄養士・管理栄養士として働く上で必要な社会福祉の知識と理論を学ぶこと
---	------------------------------------

教授方法

講義形式

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

総合教育科目の「社会保障入門」を履修することが望ましい。

授業計画

1	講義の概要、社会福祉の概念
2	社会保障の体系
3	戦後社会福祉の歴史
4	児童家庭福祉の概要
5	障害者福祉の概要
6	高齢者福祉—介護保険制度の概要
7	貧困と生活保護制度

授業外における学習

復習を中心に、必要事項の理解、自らの関心分野の発見

質問や相談への対応

個別にいつでも可

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業態度	20	出席状況、授業中の態度
レポート	80	課題レポートの提出、内容、独創性
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「社会福祉概論」(第5版) 小田憲三・杉本敏夫監修 勁草書房			
	「社会保障入門2022」			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと
自らの関心分野の発見
その他・特記事項
時になし

臨床医学概論

更新日：2023/02/03 11:10:59

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	F1120A	科目コード	F1120
担当教員	石井 陽子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

疾病の概要、現代医療の課題

授業の概要

「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の導入として、疾病の概要を学修し、段階的に理解を深めていく。健康の維持・増進、疾病の予防・治療の中で食事・栄養が果たす役割の概要を理解する。管理栄養士が適切な栄養管理を行い、チーム医療の一員として積極的に医療現場で活躍できるように臨床医学の基礎を修得する。医療人に必要な生命・医療倫理の基礎を学修する。

到達目標

1	代表的な疾病の概要を説明できる。
2	代表的な疾病における食事・栄養が果たす役割を説明できる。

教授方法

講義・討論・演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

健康発達学部・食健康学科の学生であること。

授業計画

1	序論：医療における管理栄養士の役割
2	生活習慣病、非感染性疾患（NCDs: Non-communicable diseases）
3	糖尿病
4	脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症
5	症例問題：検査値の読み方と演習
6	糖尿病の合併症、治療法
7	生活習慣病の療養指導、多職種連携
8	食物アレルギーの基礎知識
9	がんの概論 1
10	がんの概論 2
11	感染症の基礎知識
12	生命・医療倫理
13	生活習慣病の予防・治療における食事・栄養が果たす役割
14	まとめ・復習

授業外における学習

教科書、配布プリントを用いて自主学習すること。

質問や相談への対応

質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	60	学修のねらい・到達目標の達成度、構成・論理性を評価する
平常点	40	リアクション・ペーパーの提出
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「臨床医学・疾病の成り立ち 改訂第3版」 田中明・藤岡由夫 編	羊土社	2021年11月30日	
	授業中に適宜、参考資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題や討論に取り組むこと。提出物の期限を守ること。

その他・特記事項

教科書「臨床医学・疾病の成り立ち」は、2年次の病理学でも用いる。

人体機能（生理）学

更新日：2023/02/03 11:21:46

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	F1130A	科目コード	F1130
担当教員	石井 陽子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

人体の機能、恒常性の維持機構

授業の概要

生命現象において調和のとれた個体を作り上げている細胞、組織、器官などの各要素の機能と、それらの相互の関係について学修する。人体における恒常性の維持機構を、神経性調節、内分泌性調節、免疫による生体防御機構などの観点から学ぶ。疾病の病理・病態を学ぶための基本となる人体の機能を学習し、恒常性の破綻が疾病へ発展することや、恒常性維持に対する食事・栄養の役割を理解する。

到達目標

1	人体の細胞、組織、器官などの各要素の機能を説明できる。
2	人体の恒常性の維持機構を説明できる。

教授方法

講義・演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

健康発達学部・食健康学科の学生であること。

授業計画

1	細胞、遺伝子
2	消化器系の機能
3	血液の機能
4	免疫系の機能
5	循環器系の機能
6	呼吸器系の機能
7	腎・尿路系の機能
8	内分泌系の機能
9	生殖器系の機能
10	神経系の機能
11	骨格系の機能
12	筋肉と運動機能
13	皮膚組織・感覚系の機能
14	まとめ、復習

授業外における学習

教科書、配布プリントを用いて自主学習し、確認課題にて到達点を確認すること。

質問や相談への対応

質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
試験	60	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する
平常点	40	リアクションペーパーの提出する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「解剖生理学 人体の構造と機能（第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著	羊土社	2020年02月28日	
	授業中に適宜、参考資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に学習に取り組むこと。

その他・特記事項

教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」は人体構造（解剖）学でも使用する。

生理学実習

更新日：2023/02/03 11:37:11

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	F1140A	科目コード	F1140
担当教員	石井 陽子						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

生理機能、臨床検査

授業の概要

人体機能（生理）学で学修した知識を実習を通して確認し、理解を深める。人体の基本的な生理機能に関する臨床検査、栄養状態の評価方法などを体験し、その意義を理解する。

到達目標

1	人体の基本的な生理機能を評価する検査方法を説明できる。
---	-----------------------------

教授方法

実習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

健康発達学部・食健康学科の学生であること

授業計画

1	オリエンテーション：記録・解析方法、レポートの書き方
2	各種の測定：心拍数、経皮的動脈血酸素飽和度、血圧、聴診（心音・呼吸音・腹部音）、反射（対光反射・膝蓋腱反射）
3	栄養状態の評価方法とその意義：身体計測・体組成測定・骨密度測定
4	簡易血糖測定：簡易血糖測定器の使用法、注意点
5	簡易血糖測定：食物摂取前後の変化1
6	簡易血糖測定：食物摂取前後の変化2
7	簡易血糖測定：食物摂取と運動負荷前後の変化
8	測定結果のまとめ
9	心電図検査、AED（自動体外式除細動器）トレーニング
10	視野計測、皮膚知覚機能検査
11	唾液の機能、オーラルフレイル評価方法
12	呼吸機能検査
13	嚥下機能評価方法
14	各種計測記録のまとめ・発表

授業外における学習

教科書等を用いて自主学習し、実習にて確認すること。

質問や相談への対応

質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
実習記録	60	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。
課題	40	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「解剖生理学 人体の構造と機能（第3版）」志村二三夫・岡 純・山田和彦著	羊土社	2020年02月28日	
	「臨床医学 疾病の成り立ち（第2版）」 田中明・宮坂京子・藤岡由夫著	羊土社	2021年11月30日	
	授業中に適宜、参考資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題に取り組むこと。

その他・特記事項

教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」と「臨床医学 疾病の成り立ち」は、1年次に人体構造学（解剖学）、人体機能学（生理学）、臨床医学概論にて使用した。

人体構造（解剖）学

更新日：2023/02/03 11:17:00

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	F1150A	科目コード	F1150
担当教員	石井 陽子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

人体の構造、解剖学

授業の概要

人体の形態・構造を、細胞、組織、器官のレベルで学び、またそれらの相互の関係について理解する。肉眼による観察を主とする肉眼解剖学と、顕微鏡を用いて組織や細胞を観察する組織学との両方のレベルで学び、巧妙かつ精緻につくられた身体のしくみを学ぶ。人体の生理機能や疾病の病態生理を学ぶための基本となる人体の構造を理解する。

到達目標

1	人体の形態・構造を細胞、組織、器官のレベルで説明できる。
---	------------------------------

教授方法

講義・演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

健康発達学部・食健康学科の学生であること。

授業計画

1	オリエンテーション：細胞・組織・器官の概要
2	消化管
3	肝臓・膵臓・胆嚢
4	血液・造血器
5	免疫系
6	循環器：心臓・血管
7	呼吸器：気管支・肺
8	腎・尿路系
9	内分泌系
10	生殖器系
11	神経系
12	感覚器系
13	骨格系・運動系
14	まとめ、復習

授業外における学習

教科書等を用いて自主学習し、確認課題にて到達点を確認すること。

質問や相談への対応

質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
試験	60	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する。
平常点	40	リアクションペーパーの提出
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「解剖生理学 人体の構造と機能（第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著	羊土社	2020年02月28日	
	授業中に適宜、参考資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に学習に取り組むこと。

その他・特記事項

教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」は人体機能（生理）学でも使用する。

解剖学実習

更新日：2023/01/10 08:57:33

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シラバスコード	F1160A	科目コード	F1160
担当教員	石井 陽子						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

人体の構造、解剖学

授業の概要

人体構造（解剖）学で学んだ知識を、実習を通して確認し、理解を深める。マクロ解剖学実習として、人体解剖モデルを用いて各臓器・器官の形態、体内での位置を確認する。ミクロ解剖学実習として、主要臓器（肝臓、腎臓、心臓、消化器、内分泌腺など）の組織像を顕微鏡にて観察する。正常組織像と病理組織像とを比較することにより、臨床医学概論で学んだ疾患について正常から逸脱した病的構造変化をとらえ、病態理解につなげる。

到達目標

1	人体の基本的な構造を、実習を通して理解する。
---	------------------------

教授方法

実習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

健康発達学部・食健康学科の学生であること。

授業計画

1	オリエンテーション：課題の取り組み方、人体解剖モデルによる臓器・器官の観察
2	人体解剖モデルによる臓器・器官の観察
3	人体骨格模型の作成（1）
4	人体骨格模型の作成（2）
5	人体骨格模型の作成（3）
6	人体模型対比による主な臨床検査画像の学習
7	マクロ解剖学まとめ：復習・確認
8	顕微鏡の使い方・観察方法
9	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（1）
10	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（2）
11	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（3）
12	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（4）
13	顕微鏡による病理組織・細胞の観察
14	ミクロ解剖学まとめ：復習・確認

授業外における学習

教科書等を用いて自主学習し、実習課題にて確認すること。

質問や相談への対応

質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
実習記録ノート	40	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。
到達目標確認のための課題	40	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。
その他	20	授業態度、グループ実習における貢献度等について評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「解剖生理学 人体の構造と機能（第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著 羊土社「解剖生理学ノート 人体の構造と機能（第3版）」羊土社			
	授業中に適宜、参考資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題に取り組むこと。

その他・特記事項

教科書 「臨床医学 人体の構造と機能」は、人体構造学（解剖学）、人体機能学（生理学）でも使用する。

病理学

更新日：2023/01/10 08:56:52

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	F1170A	科目コード	F1170
担当教員	石井 陽子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

疾病学、病態生理学

授業の概要

疾病の原因、発症機序、病態生理を学修し、疾病の症候に関連づけて理解する。細胞レベルから組織レベルにおける構造変化および機能破綻が器官から個体に及び、疾病として顕在化するしくみを学修する。人体構造（解剖）学と人体機能（生理）学で学修した知識をもとに疾病の病態生理を理解し、医学概論で学修した臨床医学の基礎的知識を補完する。病状に応じて適切な栄養教育・栄養指導を行うために、主要な疾患の治療指針に対する基礎的知識および、主な医薬品と栄養・食事との相互作用について学修する。

到達目標

1	疾病の原因、発症機序、病態生理を理解する。
---	-----------------------

教授方法

講義・演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

健康発達学部・食健康学科の学生であること。

授業計画

1	病理学的概念：死・適応・炎症・損傷・修復
2	栄養・代謝性疾患
3	内分泌系疾患
4	消化管疾患
5	肝・胆・膵疾患
6	循環器系疾患
7	腎・尿路系疾患
8	神経・精神系疾患
9	呼吸器系疾患
10	血液・造血器系疾患
11	免疫・アレルギー性疾患
12	運動器系疾患、皮膚疾患
13	生殖器系疾患、乳腺疾患
14	検査・薬・感染症

授業外における学習

教科書等を用いて自主学習し、演習・小テストにて到達点を確認すること。

質問や相談への対応

質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
試験	60	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。	
課題	40	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「臨床医学 疾病の成り立ち (改訂第2版)」 田中明・ 宮坂京子・藤岡由夫著 羊土 社			
	授業中に適宜、参考資料を配 布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に学習に取り組むこと。

その他・特記事項

教科書「臨床医学 疾病の成り立ち」は、1年次に臨床医学概論にて使用した。

生化学 I

更新日：2023/01/10 08:56:54

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	F1180A	科目コード	F1180
担当教員	杉山 英子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

細胞、糖質、脂質、タンパク質、脂質、核酸、ホメオスタシス

授業の概要

生物を構成する糖質、脂質、タンパク質、核酸など代表的な生体成分の化学的特徴や構造、及び分析法の概略を学修する。そして、それら生体分子の細胞や組織・器官における“ふるまい”や様々な調節機能を理解する。具体的には、発生、分化、細胞内・細胞間情報伝達、免疫などのヒトの健康と密接に関わる生命現象を分子レベルで学修する。また、生体内化学反応に欠かせない機能タンパク質としての酵素の一般的性質についての理解を深める。

到達目標

1	生体の細胞、組織、器官を構成する物質の構造と機能を理解し、栄養素を含めた生体物質と個体の恒常性維持（ホメオスタシス）との関わりを的確に説明できる。
---	---

教授方法

講義。スライドを使用する。授業の冒頭に、前回の復習と当日の予習となる内容のクイズを実施。授業終了後にはワークシートを完成させる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

1年次に学習した関連科目を復習しておいてください。

授業計画

1	オリエンテーション（生命の成り立ち、細胞構造と細胞内小器官の機能、細胞を構成する主な生体物質、細胞分画）
2	糖質の構造と機能（糖質の定義、糖質の分類とそれぞれの機能）
3	脂質の構造と機能（脂質の定義、脂質の分類とそれぞれの機能）
4	アミノ酸・タンパク質の構造と機能（アミノ酸・タンパク質の定義、アミノ酸・タンパク質の分類とそれぞれの機能）
5	核酸の構造と機能（核酸、DNA、RNA分子の特徴と機能）
6	生体成分の分析法と分析機器（糖、脂質、タンパク質、核酸、ビタミン、ミネラルの分離分析法、汎用される分析機器）
7	酵素の構造と機能及びその調節
8	生体の恒常性維持（ホメオスタシス）の重要性と細胞内・細胞間情報伝達
9	恒常性維持（ホメオスタシス）とホルモン
10	恒常性維持（ホメオスタシス）と消化・吸収
11	血液と尿、酸・塩基平衡、水
12	恒常性維持（ホメオスタシス）と免疫系（1）
13	恒常性維持（ホメオスタシス）と免疫系（2）
14	まとめ

授業外における学習

講義前に教科書や講義資料に目を通しておくこと。講義後には、ワークシートを完成させておくこと。

質問や相談への対応

化学が苦手な人が多いと思いますが、「ベンゼン環って何？」のような疑問でも今のうちに解決しておきましょう。気軽に質問してください。メールでも受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	理解力、思考力、表現力
小テスト	20%	理解したことをまとめて表現する力

上記以外の	授業評価	20%	主体的態度
合計		100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	石堂一巳・福渡 努編 健康・栄養科学シリーズ『生化学 人体の構造と機能呼び疾病の成り立ち』 (南江堂)			
	授業の中で紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

わからないところをそのままにせず、質問してください。復習をしっかりとってください。

その他・特記事項

特になし。

生化学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:56:54

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	F1190A	科目コード	F1190
担当教員	杉山 英子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

物質代謝、同化、異化、エネルギー、ATP、補酵素、生理活性物質

授業の概要

栄養の基盤である生体物質の代謝とその調節のしくみ、物質代謝における酵素反応の重要性を理解する。すなわち、酵素反応速度論や酵素活性調節機構、生体エネルギー学、糖代謝（解糖、TCA回路、電子伝達系と酸化的リン酸化、糖新生、グリコーゲン合成・分解等）、脂質代謝（脂肪酸の合成・分解、ケトン体産生、トリアシルグリセロールの合成・分解、コレステロール代謝等）、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸代謝、薬物代謝ならびに代謝制御機構や生体調節機構について分子レベルで学修し、病態理解の礎とする。

到達目標

1	栄養の基盤である三大栄養素（糖質、脂質、タンパク質）や関連生体物質の代謝とその調節機構及び、物質代謝における酵素反応の重要性を理解し、代謝経路相互の連関の概要を説明できる。
---	--

教授方法

講義。スライドを使用する。授業の冒頭に、前回の復習と当日の予習となる内容のクイズを実施。授業終了後には、ワークシートの完成や課題を完了させる。オンライン授業の時には、Zoomの他に、Teamsを用いる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「生化学」を修得していることが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション（物質代謝とは）
2	酵素反応と補酵素
3	糖質の代謝Ⅰ（解糖、発酵）
4	糖質の代謝Ⅱ（TCA回路）
5	糖質の代謝Ⅲ（電子伝達系と酸化的リン酸化、酸化ストレス）
6	糖質の代謝Ⅳ（ペントースリン酸経路、ウロン酸経路等）
7	糖質の代謝Ⅳ（糖新生、グリコーゲン合成・分解、血糖値調節）
8	脂質の代謝Ⅰ（脂肪酸のβ酸化とケトン体産生）
9	脂質の代謝Ⅱ（脂肪酸の合成、伸長、不飽和化、トリアシルグリセロールの合成・分解）
10	脂質の代謝Ⅲ（コレステロールの代謝、脂質の輸送機構、複合脂質の合成経路、脂質異常症）
11	エネルギー(ATP)産生と調節機構 生理活性物質の合成（エイコサノイドの代謝とその機能）
12	タンパク質・アミノ酸代謝
13	ヌクレオチドの代謝、糖質、脂質、アミノ酸代謝の相互連関
14	まとめ

授業外における学習

予習、復習に努めること。わからないところをそのままにせず、質問してください。

質問や相談への対応

化学が苦手な人にとっては、代謝では化学的要素が多いので辛いと思いますが、遠慮なく質問して、大事なところがわからないままにしないでください。質問はメールやTeamsでも受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	理解力、思考力、表現力

小テスト	20%	理解したことをまとめて表現する力
上記以外の 授業評価	20%	理解力、思考力、表現力、主体的態度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	石堂一巳・福渡 努編 健康・栄養科学シリーズ『生化学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち』（南江堂）			
	授業で紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

代謝は生化学の中でも難しい内容かもしれませんが、わかるようになると、疾病の成り立ちを理解できるようになります。根気よく付き合ってください。

その他・特記事項

遅刻厳禁

生化学実験

更新日：2023/01/10 08:56:55

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバスコト	F1200A	科目コード	F1200
担当教員	杉山 英子						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

糖、脂質、タンパク質、抽出、定量、分析法、ラット肝臓、電気泳動、酵素反応

授業の概要

生化学の講義で学習した知識の理解を深めるため、基本的な生体成分分子（糖質、脂質、タンパク質、核酸、ミネラル）の化学的性質及び扱い方（抽出、分離、精製）について、実験を通して修得する。また、物質代謝において重要な役割を果たす酵素の生化学的特徴や性質に関する実験を行い、生体内における酵素の代謝調節について学修するため、代表的な栄養素の消化過程を試験管内で再現する。これらの実験を通じて、栄養という生命現象についての理解を深める。

到達目標

1	生化学の講義で学んだ生体成分分子の化学的性質や機能的特徴を実験を通じて深く理解するとともに、それらを扱う基本的な技術を修得する。科学的思考に基づくミニ科学論文としての実験レポートを書くことができるようになる。
---	--

教授方法

実験（4人1班）。 テーマによっては、授業時間外に作業する必要がある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「生化学Ⅰ」を修得していること。

授業計画

1	オリエンテーション（生化学実験のねらい、授業の進め方、実験レポートの書き方説明など）
2	清涼飲料中の糖の定量（還元法）①加水分解 血糖の定量（酵素法）
3	清涼飲料中の糖の定量（還元法）②定量
4	ラット肝臓からのトリグリセリドの抽出・定量（1）
5	ラット肝臓からのトリグリセリドの抽出・定量（2）
6	肝臓タンパク質の抽出と定量① ローリー法
7	肝臓タンパク質の抽出と定量② 紫外部吸収法
8	肝臓タンパク質の分離精製法（電気泳動法）①
9	肝臓タンパク質の分離精製法（電気泳動法）②
10	トリプシンによるタンパク質の消化試験 異なるpH環境、温度におけるトリプシンの反応性
11	トリプシン活性に及ぼす基質濃度、時間の影響
12	唾液アミラーゼの活性測定
13	核酸の抽出・同定（ゲノムDNAの抽出・同定）
14	まとめ

授業外における学習

事前：次回の実験の教科書やプリントの該当箇所を読み、概要を把握しておくこと。実験の手順をあらかじめノートに記載しておくことと良い。

質問や相談への対応

随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70%	科学的思考、論理構成、文章表現、データ処理・提示など
上記以外の 授業評価	30%	主体的態度、実験ノート

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	田代操編著『生化学実験』 (化学同人)を使用する他、 適宜印刷物を配布する。			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①失敗を恐れずに、積極的に手を出すこと
- ②化学系の実験には、事故の危険がつきまとうので、白衣、かかとのある靴を着用し、実験中は適度な緊張感を保つこと
- ③実験中に観察したことをノートに記録すること

その他・特記事項

レポートの締め切りを守ること。

運動生理学

更新日：2023/01/10 08:57:34

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバスコト	F1210A	科目コード	F1210
担当教員	吉武 康栄						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

骨格筋、エネルギー消費、身体活動

授業の概要

身体活動、運動に伴い変化する人の身体特性（形態、生理、機能、精神）や生理学的応答について学修し、健康と運動について理解する。
英語表記「Exercise Physiology」

到達目標

1	運動器系（骨格系、筋系）の構造と機能を説明できる。
2	運動によって生じる身体の生理学的適応について説明できる。
3	運動による健康効果を説明できる。

教授方法

主に、pptファイルの映写を行いながら、教科書を活用して、講義形式で授業をすすめる。
その前の回の授業で提示する「事前学習のポイント」の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答等、積極的に行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

1年次の基礎栄養学、人体機能（解剖）学、人体機能（生理）学を復習し、確実に理解しておくこと。

授業計画

1	オリエンテーション 健康と運動
2	運動と骨格筋（1）
3	運動と骨格筋（2）
4	運動と神経・ホルモン
5	運動と循環・呼吸（1）
6	運動と循環・呼吸（2）
7	運動とエネルギー（1）
8	運動とエネルギー（2）
9	運動と身体組成
10	運動と筋肉づくり
11	運動と骨づくり
12	運動と体温調節・水分補給
13	身体活動と健康
14	総括

授業外における学習

事前学習では、授業の最後に、次の回での学習に必要な「事前学習のポイント」を提示するので、必要な学習をしておく。
事後学習では、毎回の授業開始時に提示する「学習のポイント」の習得に努める。詳細は第1回授業で説明する。

質問や相談への対応

質問・相談は、授業終了後に対応します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業レポート	60	学習のねらい・目標（学習のポイント）が達成できているかについて評価する。詳細は授業時に説明する。教科書ならびに講義ノートを参考に復習しておく。
上記以外の授業評価	40	授業への主体的な参加度などで評価する。第1回のオリエンテーションで説明する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『運動生理学』麻見直美, 川中健太郎/編 羊土社 ISBN: 978-4-7581-1356-4			
	必要に応じて資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1年次の基礎栄養学、人体機能（解剖）学、人体機能（生理）学を復習し、確実に理解しておくこと。

その他・特記事項

本科目は、応用栄養学IIIと関連する科目である。
本科目の理解は、運動生理学実習の基礎となる。

運動生理学実習

更新日：2023/01/10 08:57:35

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	F1220A	科目コード	F1220
担当教員	吉武 康栄, 小林 裕央, 佐藤 耕平						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

生理学的応答、身体活動、運動処方

授業の概要

運動によって生じる身体の生理学的適応や運動機能について、自らの測定を通して評価し、考究する。また、健康づくりや体力の維持増進を目的とした日常の身体活動、トレーニング、運動処方について、実習を通して、学習する。それらの成果をまとめて、身体活動・運動の効果について情報発信し、議論する技術を習得する。

英語表記「Practice in Exercise Physiology」

到達目標

1	運動によって生じる身体の生理学的適応について、運動生理学の知識と自らの測定を通して、説明できる。
2	トレーニング効果、運動処方について説明できる。

教授方法

グループ単位での実習である。講義にもとづき、学生が主体となって測定を行い、考察し、客観的に評価し、まとめる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

運動生理学を履修していること。

授業計画

1	オリエンテーション：身体活動・運動を科学する
2	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解 (1)
3	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解 (2)
4	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解 (3)
5	身体の評価と身体活動量
6	身体活動量の評価 (1)
7	身体活動量の評価 (2)
8	身体活動量の評価 (3)
9	中間のまとめ
10	運動処方とトレーニング (1)
11	運動処方とトレーニング (2)
12	運動処方とトレーニング (3)
13	実習成果のまとめ
14	実習成果のまとめ発表と質疑応答、総括

授業外における学習

事前学習、事後学習の詳細は第1回授業で説明する。

質問や相談への対応

質問・相談は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	40	実習の学習のねらいの達成度について実習成果のまとめ発表で評価する
上記以外の授業評価	60	実習課題への取り組み状況について評価する

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『運動生理学』麻見直美, 川中健太郎/編 羊土社 ISBN : 978-4-7581-1356-4			
	必要に応じて資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

その他・特記事項

実習の詳細（実習にあたっての準備も含む）については、第1回の授業で説明する。
本科目は、運動生理学を基盤とし、応用栄養学実習と関連する科目である。

食品学 I

更新日：2023/01/10 08:57:42

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	F1230A	科目コード	F1230
担当教員	小木曾 加奈						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

五大栄養素、化学構造、機能、食品の嗜好性、食品の安全性、加工調理

授業の概要

食品成分、特に五大栄養素である炭水化物、タンパク質（アミノ酸、ペプチド、酵素）、油脂、水溶性及び脂溶性ビタミン、ミネラルに対し、その構造を含めた化学的特徴、機能、性質を重点的に学修するとともに、それらの基本的な分析方法について学修する。また、食品の嗜好性成分について学修し、食品中の水の役割や食品中成分の成分変化から食品の保存方法についても学修する。

食の基本は、安全で嗜好性に富み、かつ、栄養学的にバランスの取れた食事ができることである。ここでは、食品成分の化学的性質や加工・調理に伴う物理的、化学的、生物学的変化を学習することで、食物の本質を正しく理解することを目標とする。

到達目標

1	①食品の代表的な化合物の化学特性を理解でき、構造を書くことができる。
2	②食品の安全性、嗜好性について説明できる。
3	③加工・調理における変化を化学的に説明できる。

教授方法

講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション（基礎的な化学、食品とは何か？食品の種類と分類）
2	食品成分表と食品の分析法
3	食品中の水の役割と食品衛生
4	糖類の構造と化学的性質（単糖類、少糖類）
5	糖類の構造と化学的性質（多糖類、誘導糖類等）
6	アミノ酸の構造と化学的性質（アミノ酸とペプチド）
7	タンパク質・酵素、役割とその構造
8	脂肪酸・各種脂質の構造と化学的性質
9	油脂の乳化、酸化、加工油脂食品
10	ビタミンの構造と化学的性質
11	ミネラルの化学的性質
12	食品の嗜好性成分（味、香り、色）
13	食品の成分変化（酵素的褐変、非酵素的褐変）と保存方法
14	まとめ

授業外における学習

化学構造が前提の講義となるため、化学が苦手な方は事前、事後に学習を望む。

- ①指定された課題・問題に取り組む。
- ②苦手な分野の克服に向けて努力する。

質問や相談への対応

質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。

毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。
小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	栄養管理と生命科学シリーズ 食品学総論 江頭祐嘉合編 著 理工図書社適宜印刷物を 配布。			
	高校の化学・生物の教科書あ るいは参考書			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

高校の化学・生物の教科書あるいは参考書を用意し、復習しておくことが望ましい。

その他・特記事項

特になし

食品学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:56:39

開講年度	2022	学期	2期	シバ [®] スコト [®]	F1240A	科目コード	F1240
担当教員	小木曾 加奈						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

食品の成分的特徴、利用特性、加工、機能性、表示・規格基準

授業の概要

本講義では食品学Ⅰを踏まえた上での応用的学問として、各種食品の成分特徴と種類、加工方法や貯蔵方法等について学修する。主食である穀物（米、小麦、トウモロコシ）から始まり、植物性食品（豆、芋、野菜、果実、海藻類）、動物性食品（卵、畜肉、鶏肉、乳、水産品）、嗜好飲料や嗜好食品、アルコール飲料、油脂、調味料、発酵食品、新しい加工食品までを網羅的にその特性と利用方法について学修する。またこれらの食品の機能性のほか、表示や規格基準についても学修する。

食品学Ⅰで学んだ食品成分の化学的性質に対し、本講義では具体的な食品の種類や化学的特徴について学修する。また、食品の物性、加工方法や機能性食品についても触れ、食品の本質を正しく理解することを目標とする。

到達目標

1	①具体的な食品の種類や化学的特徴を説明できる。
2	②食品中に有する成分を踏まえながら、それぞれに合わせた加工方法や機能性を説明できる。

教授方法

講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

食品学Ⅰを習得していること。

授業計画

1	オリエンテーション：日本の食生活（歴史的な背景）と食糧自給率、地産地消
2	植物性食品の成分特性と利用方向（穀物・芋類）
3	植物性食品の成分特性と利用方向（豆類・種実類）
4	植物性食品の成分特性と利用方向（野菜類・果実類）
5	植物性食品の成分特性と利用方向（海藻類、きのこ類）
6	動物性食品の成分特性と利用方向（卵・肉類）
7	動物性食品の成分特性と利用方向（乳類・水産品）
8	嗜好食品と嗜好飲料、調味料、油脂、香辛料等の成分特性と利用方向
9	微生物利用食品の成分特性と利用方向
10	食品の物性
11	食品の加工方法と新しい加工食品
12	食品の機能性（一次機能・二次機能）
13	食品の機能性（三次機能）
14	食品の表示と規格基準、まとめ

授業外における学習

- ①指定された課題・問題に取り組む。
- ②苦手な分野の克服に向けて努力する。

質問や相談への対応

質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。
毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。
小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	栄養管理と生命科学シリーズ 食品学総論 江頭祐嘉合編 著 理工図書社適宜印刷物を 配布。			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

食品学Ⅰの内容が頻出するので復習をしながら食品学Ⅱに励むこと。

その他・特記事項

特になし

食品学実験

更新日：2023/01/10 08:56:40

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シラバスコード	F1250A	科目コード	F1250
担当教員	小木曾 加奈						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

食品成分、試薬調製、定性実験、定量実験、物性実験、分析法

授業の概要

本実験では、食品成分の化学的・物理的性質を理解するために、それぞれ具体的な食品を用いて定量及び定性実験、ならびに物性に関する実験を行う。まず試薬調製法、試薬濃度の表し方について学修し、その知識や技術を身につけた上で、食品成分の分析を行い、食品成分表と比較検討する等、考察を深める。食品学実験は、食品成分についての化学実験である。食品学Ⅰ・Ⅱの講義をふまえて、食品成分の化学的・物理的性質を実験を通して理解し、自ら説明することができるようになることを目標とする。

到達目標

1	①器具類や、試薬の性質を踏まえながら取り扱うことができる。
2	②文献を引用しながら科学系のレポートの作成ができる。
3	③レポートを通じて各食品成分の特徴を化学的に説明できる。

教授方法

講義（説明）、実験はグループ（2人または4人）で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：実験上の留意事項（実験に際しての諸注意）
2	実験の基本操作について（実験器具の使用上の注意、試薬の調製法）
3	糖質の定性（フェーリング反応ほか）
4	デンプンの定量（ヨウ素比色法）
5	タンパク質の定性（ビウレット反応ほか）
6	タンパク質の定量（Bradford法）
7	脂質の定性（アクロレイン反応ほか）
8	脂肪酸の分析（GC分析または薄層クロマトグラフィ）
9	油脂の酸化（過酸化価、TBA値の測定）
10	油脂の酸化と分子量（酸価、ケン化価の測定）
11	食品の物性（ウペローデ型毛細管粘度計による粘度測定）
12	有機酸の定量（牛乳と食酢の酸度）
13	沈殿滴定（醤油の食塩濃度の定量）
14	香気成分の分析（GC-MS分析）

授業外における学習

化学の基礎が必要となるため、事前に基礎知識（濃度、構造）を予習すること。
事後は図書館などで文献を引用しながらレポートを作成すること。

質問や相談への対応

質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。
毎回返信のレポートに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

実験レポート	80	書いたレポートをA+～Cまで評価し、点数化を行う。
上記以外の授業評価	20	積極的に実験に取り組んだかなどの貢献度などを点数化する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「要説 栄養・食品学実験－50」大西正三編 医歯薬出版 適宜印刷物を配布。			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

一番は事故がないようにすること。
危険な試薬などを扱うため、慎重に手際よく進めること。

その他・特記事項

特になし

食品開発・品質管理論

更新日：2023/01/10 08:56:56

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シラバスコード	F1280A	科目コード	F1280
担当教員	小木曾 加奈						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

食品産業、工業化、知的所有権、QC7つ道具、新QC7つ道具

授業の概要

実際の企業ではどのような組織活動が行われているかを筆頭に食品開発の研究から工場での品質管理、価格の算出、製品販売までの立ち上げ、営業と販売促進方法など今までの加工食品から今後の目的まで概説する。後半では特に作成された製品をどのようにして安心安全に品質良く届けられるかについて品質管理の手法について解説する。データの取り方や統計に至るまでどのように品質を管理しているか、また管理方法についても学修する。食の外部的化とともに食品産業は日本人の食生活に重要な位置を占めている。食品学Ⅱ、食品衛生学を踏まえた上でのさらなる応用的学問として説明し、食品産業と、生活者である消費者との両方の立場から食品開発に関連する知識を深め、品質管理に関わる諸課題を学び理解することを本講義の目標とする。

到達目標

1	①日本の食品産業について概要を述べることができる。
2	②食品開発について説明できる。
3	③品質管理について説明できる。

教授方法

講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：分野で活躍している方のお話、企業とその組織活動
2	「食品開発」の研究から製造販売までの過程
3	先人の知恵を利用した食品
4	食品開発の目的
5	マーケティングとは？
6	食品開発の実践方法1：工業化と事例
7	食品開発の実践方法2：商品化のための基本価格の算出と製品販売まで
8	知的所有権
9	食品の安全性と工場での品質管理（HACCP、ISO、TQM）、管理と改善、工程と検査、標準化：データの取り方の基礎
10	QC7つ道具1（グラフ、パレート図等）
11	QC7つ道具2（管理図、チェックシート等）
12	新QC7つ道具1（親和図法、連関図法等）
13	新QC7つ道具2（マトリックス図法、PDPC法等）
14	より良い製品づくりのための心構えと行動（工場見学等含む。）、まとめ

授業外における学習

- ①指定された課題・問題に取り組む。
- ②苦手な分野の克服に向けて努力する。

質問や相談への対応

質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。
毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。
小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	大学生・新入社員・主婦のための食品開発ガイドブック (片岡榮子、片岡二郎) 地人 書館適宜印刷物を配布。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分が社会人になったときのことを考えて積極的に講義に取り組んで欲しい。現在販売されているものを良く見てみよう。

その他・特記事項

特になし。

調理学

更新日：2023/01/10 08:56:41

開講年度	2022	学期	1期	シバ [®] スコト [®]	F1300A	科目コード	F1300
担当教員	中澤 弥子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

調理操作 調味 調理理論 調理性

授業の概要

理論体系に裏付けされた講義を通して、食品の衛生・安全面、栄養面、嗜好面の各特性を高める食品の調理理論及び調理操作の方法を理解する。おいしい料理を作ることに役立つ食品の調味や、非加熱調理と加熱調理の原理、代表的な調理器具・設備の使用法、調理操作過程における食品の物理化学的变化、調理による食品の栄養特性の変化、食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食に関する知識や技術を修得する。また、食品のレオロジーやおいしさの評価について学修する。

英語表記「Culinary Arts」

到達目標

1	①食品の調味や、非加熱調理と加熱調理の原理、代表的な調理器具・設備の使用法、調理操作過程における食品の物理化学的变化、調理による食品の栄養特性の変化に関する基本的知識や技術について理解する。
2	②食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食に関する基本的知識や技術について修得する。
3	③健康や食文化に関する幅広い知識を修得する。

教授方法

講義において、パワーポイントや映像資料等による視覚資料を活用して、日常生活において見知っている調理の現象と、トピックとして学んでいる食品の調理に関する知識や基本技術を結びつけ、食品の調味や調理性、調理操作中の成分の変化、代表的な調理器具の使用法等、調理についての理解を深める。毎回の授業で小テストを実施し、感想・意見・疑問等も記して提出してもらい、関心や理解度を確認しながら授業を進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション、食事の意義、調理の意義と目的、食品成分表について学ぶ。
2	食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食について学ぶ。
3	食べ物の嗜好性と官能評価について学ぶ。
4	調理操作の分類、非加熱調理操作と調理器具について学ぶ。
5	加熱調理操作と調理用熱源、調理器具、調理設備について学ぶ。
6	調理操作と調味、食具・食器の種類と特徴について学ぶ。
7	炭水化物の種類と調理性、米類の調理性について学ぶ。
8	小麦類の調理性について学ぶ。
9	イモ類、豆類、砂糖類の調理性について学ぶ。
10	たんぱく質の種類と調理性、食肉類、魚介類の調理性について学ぶ。
11	卵類、牛乳・乳製品、大豆類の調理性について学ぶ。
12	ビタミン、無機質の種類と調理性、野菜・果実類の調理性について学ぶ。
13	きのこ・藻類、種実類、成分抽出素材、デンプンの調理性について学ぶ。
14	油脂類、ゲル化食品、新食品類、調味料、嗜好飲料、嗜好食品の調理について学ぶ。まとめ。

授業外における学習

事前学習としては、毎回指定する課題（授業に関係する食品の調理性や調理操作の特徴を教科書で確認する）に取り組む。

事後学習としては、毎回指定する課題に取り組む。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の後に受け付ける。
- ・毎回の小テストに感想・意見・質問等も記して提出してもらう。
- ・メールでの質問については随時受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	食品の調理理論や調理操作等に関する基礎的知識や技術についての理解度および知識や技術を正しく使い、理論的に考え、表現することができるかに応じて評価する。
小テスト・提出物	40	毎回の授業の中で確認、整理した食品の調理理論や調理操作等の基礎的知識や重要事項についての理解度に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	①『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN：978-4-8446-0894-3 ②『八訂 食品成分表 2022』女子栄養大学出版部 2022 ISBN：978-4-7895-1022-6 ③『日本の食文化 新版「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション 2016 ISBN：978-4-87492-343-6			
	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、適宜、資料等を配布・紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

「調理学」で学ぶ知識と調理の基本技術と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、さらに「調理学実習Ⅰ」で取り扱う食品の調理性および調理操作等と結びつけながら理解を深めるとともに知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。

その他・特記事項

教科書『八訂 食品成分表 2022』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。

調理科学実験

更新日：2023/01/10 08:56:42

開講年度	2022	学期	4期	シバスコッド	F1310A	科目コード	F1310
担当教員	中澤 弥子						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

調理性 機器測定 官能評価

授業の概要

調理学の理論の根拠について実験を通して科学的に理解する。調理の過程で生じる食品の様々な科学的変化について観察し、物理化学的性質の測定や組織学的方法および統計学的手法を用いて、食品組織や成分の変化について学修する。調理科学に関する基礎実験、基礎調理操作に関する実験および食品の調理性に関する実験を通して、科学的に調理理論について理解する。食品素材や加工品の品質評価や嗜好性の評価について、機器測定と官能評価による総合的な分析方法を修得する。

英語表記「Laboratory Work Experience for Culinary Arts」

到達目標

1	①調理科学に関する基礎実験、基礎調理操作に関する実験および食品の調理性に関する実験方法を理解する。
2	②食品素材や加工品の品質評価や嗜好性の評価について、機器測定と官能評価による総合的な分析方法を修得する。

教授方法

オンラインによる説明および実演の後、教科書と実験プリントに沿って実験を行う。第9回には中間報告会、第14回に最終報告会とまとめを行う。記録用プリントの提出や、報告会での発表や質疑応答を通して、実験の目的や方法、結果、考察についての理解を深める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「調理学」および「調理学実習Ⅰ」の履修を終えていること。

授業計画

1	オリエンテーション。調理科学に関する基礎実験の説明、水の品質評価を通して、調理科学の基礎的事項について学ぶ。
2	味覚に関する実験、五味、だしと汁物の官能評価を通して、味覚と官能評価の手法について学ぶ。
3	米の調理性に関する実験を通して、米の調理性について学ぶ。
4	米粉の調理性に関する実験を通して、米粉の調理性について学ぶ。
5	小麦粉の調理性に関する実験を通して、小麦粉の調理性について学ぶ。
6	卵の調理性に関する実験を通して、卵の調理性について学ぶ。
7	豆の調理性に関する実験を通して、豆の調理性について学ぶ。
8	野菜の調理性に関する実験を通して、野菜の調理性について学ぶ。
9	中間報告会。第1回～第6回の実験についてグループ発表とまとめを行う。
10	砂糖の調理性に関する実験を通して、砂糖の調理性について学ぶ。
11	牛乳の調理性に関する実験を通して、牛乳の調理性について学ぶ。
12	ゲル化剤・とろみ調整食品の調理性に関する実験を通して、ゲル化剤・とろみ調整食品の調理性について学ぶ。
13	米の調理に関するビデオ視聴と最終報告会の準備。
14	最終報告会。第7回～第13回の実験について発表とまとめを行う。

授業外における学習

事前学習としては、実験記録用プリントに実験に必要な備品や機器名を記載し、およその実験手順を理解しておく。

事後学習としては、実験記録用プリントに実験結果や考察をまとめる。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問についても受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	60	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。
プレゼンテーション	40	中間・最終報告会でのプレゼンテーションの内容（課題を理解し、適切に説明しているか）に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		①『調理科学実験 第2版』長尾慶子・香西みどり著 建帛社 2019 ISBN:978-4-7679-0623-2 ②『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN：978-4-8446-0894-3 ③『八訂 食品成分表 2022』女子栄養大学出版部 2022 ISBN：978-4-7895-1022-6			
		授業の中で随時紹介する。必要に応じて、印刷資料等を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

「調理科学実験」で学ぶ食品の調理性等と各自が日常生活において見知っている調理の現象と「調理学」、「調理学実習Ⅰ」および「調理学実習Ⅱ」で学んだ食品の調理性や調理操作等とを結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。

その他・特記事項

特になし。

調理学実習Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:56:42

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバスコド*	F1320A	科目コード	F1320
担当教員	中澤 弥子						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

調理操作 調味 調理性 基本調理

授業の概要

調理の基礎的な知識と技術を系統的に修得する。日常用いられる非加熱調理操作、加熱調理操作に関する基礎的事項を理解し、さらに、調味、食器の取り扱い、盛りつけ等の基本調理を系統的に学修する。日本料理様式、西洋料理様式および中国料理様式の系統の実習によって、必要な調理の知識や基本技術について実践を通して修得する。また、安全面・衛生面に関する正しい知識、さらに環境を配慮したエコクッキングの実践力を修得する。

英語表記「Practice in Culinary Arts Ⅰ」

到達目標

1	①日本料理様式、西洋料理様式および中国料理様式の系統の実習によって、必要な調理の知識や基本技術を修得する。
2	②基本調理における安全面・衛生面に関する正しい知識を修得し、さらに環境を配慮したエコクッキングの実践力を養う。

教授方法

オンラインによる説明および実演の後、実習プリントに沿って調理実習、片付けを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション、実習班の確認、調理器具・食器の種類と取り扱い、盛り付けと配膳、計量、日本料理様式実習1（煮干しだしの取り方、炊飯とおにぎり、味噌汁、厚焼き卵、青菜のお浸し、日本茶）の要点について学ぶ。
2	各調理台の調理器具の確認、計量実習により調理の要点を学ぶ。
3	日本料理様式実習1（煮干しだしの取り方、炊飯とおにぎり、味噌汁、厚焼き卵、青菜のお浸し、日本茶）の要点について学ぶ。
4	日本料理様式実習2（えんどう豆ご飯、かきたまご汁、いり鶏、きゅうりとわかめの酢の物）の調理について学ぶ。
5	日本料理様式実習3（親子どんぶり、鰯のつみれ入りすまし汁、菊花かぶ、水ようかん、鰯の付け焼き）の調理について学ぶ。
6	日本料理様式実習4（赤飯、吉野鶏のすまし汁、煮魚、あさりとわけぎの辛子酢味噌和え）の調理について学ぶ。
7	西洋料理様式実習1（クリームスープ、魚のムニエル、ワインゼリー、サラダ）の調理について学ぶ。
8	西洋料理様式実習2（コンソメスープ、ハンバーグステーキ、ブランマンジェ、サラダ）の調理について学ぶ。
9	西洋料理様式実習3（オードブル、バターライスと魚介のクリームソース、魚のプレゼのラビゴットソース添え、紅茶）の調理について学ぶ。
10	中華料理様式実習1（冷拌什錦、醬蒸魚、青梗菜豆腐湯、折口羹、中国茶）の調理について学ぶ。
11	中華料理様式実習2（古肉酢、玉米湯、鶏蛋糕）の調理について学ぶ。
12	中華料理様式実習3（魚丸子湯、蕃茄溜魚片、花形蒸しパン）の調理について学ぶ。
13	実技試験（野菜の煮物、中華風和え物）の説明と練習、実習のまとめ1
14	実技試験（野菜の煮物、中華風和え物）、実習のまとめ2

授業外における学習

事前学習としては、実習記録用プリントに使用材料名と量を記載する。

事後学習としては、調理過程や調理のポイント等を実習記録用プリントにまとめ、実施献立について食品成分表を用いて栄養計算を行う。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業後に受け付ける。
- ・メールでの質問については随時受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
実技試験	60	日常用いられる調理操作、調味、食器の取り扱い、盛りつけなどの基本調理の知識と技術および安全面・衛生面に関する正しい知識や環境を配慮したエコクッキングの実践力の修得度に応じて評価する。
提出物	40	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	①『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN：978-4-8446-0894-3 ②『八訂 食品成分表2022』女子栄養大学出版部 2022 ISBN：978-4-7895-1022-6			
	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、資料等を配布・紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

「調理学実習1」で身に付ける調理の知識と基本技術と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、さらに「調理学」で学んだ食品の調理性等の知識とを結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。

その他・特記事項

教科書『八訂 食品成分表2022』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。

調理学実習Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:56:43

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバスコト*	F1330A	科目コード	F1330
担当教員	中澤 弥子						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

供給食 行事食 郷土食 応用調理

授業の概要

調理学や調理学実習Ⅰで学修した調理に関する基礎知識や基礎的な調理技術を基に、食の嗜好性や地域性など多角的な視点から食事をとらえ、それらを取り扱うための総合的でより高度な応用技術や知識について学修し、創造力を養成する。日本や諸外国の供給食、行事食、郷土食等の調理実習や食事マナーの学修を通して、世界の食事文化や食事形式について文化的理解を深め、調理操作と調味、献立構成など、種々の知識を実践に活用する総合的な応用力を修得する。英語表記「Practice in Culinary Arts II」

到達目標

1	①食の嗜好性や地域性など多角的な視点から食事をとらえ、調理に関する総合的でより高度な応用技術と知識および創造力を修得する。
2	②日本および世界の食事文化や食事形式について文化的理解を深め、調理操作と調味、献立構成などの種々の知識を実践に活用する総合的な応用力を修得する。

教授方法

オンラインによる説明および実演の後、実習プリントに沿って調理実習、片付けを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「調理学実習Ⅰ」の履修を終えていること。

授業計画

1	日本の行事食実習1 ①麺類、②饅頭の調理について学ぶ。
2	長野市内ホテルで西洋料理のフルコースによりテーブルマナーについて学ぶ。
3	日本の行事食実習2 ①おはぎ、②土瓶蒸し、③白和えの調理について学ぶ。
4	日本の供給食実習1 ①ちらし寿司、②バラの花巻き寿司、③いなり寿司、④吸い物の調理について学ぶ。
5	西洋の朝食実習 ①オムレツ、②オートミールのポリッジ、③マフィンの調理および西洋の朝食の食文化について学ぶ。
6	西洋の供給食実習1 ①ミネストローネ、②マカロニグラタン、③ワルドルフ風サラダの調理について学ぶ。
7	西洋の供給食実習2 ①ビーフシチュー、②ジュリエンヌサラダ、③シュークリームの調理について学ぶ。
8	日本の供給食実習2 ①沢煮椀、②魚の照焼き、③炊き合わせ、④塩いかの黄味酢和え、⑤淡雪かんの調理について学ぶ。
9	日本の供給食実習3 ①天ぷら、②茶碗蒸し、③かぼちゃのそぼろあんかけ、④さつまいもご飯の調理について学ぶ。
10	韓国と東南アジア料理の調理実習 ①ピピムパブ ②ゴイ・クオン、③トム・ヤン・クンの調理について学ぶ。
11	西洋の行事食実習 ①ブッシュドノエル、②クラレットパンチの調理およびクリスマスの食文化について学ぶ。
12	日本の行事食実習3（正月料理） ①松笠肉団子、②ごまめ、③五色なます、④梅花かん、⑤雑煮、⑥黒豆、⑦昆布巻きの調理について学ぶ。
13	長野県の郷土料理の調理実習 ①五平餅、②凍み豆腐料理、③いもなます、④大根びき、⑤ひんのべの調理と包丁の手入れについて学ぶ。
14	実技試験とまとめ。

授業外における学習

事前学習としては、実習記録用プリントに使用材料名と量を記載する。

事後学習としては、調理過程や調理のポイント等を実習記録用プリントにまとめ、実施献立について食品成分表を用いて栄養計算を行う。行事食に関するレポートに取り組む。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問についても受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	40	調理操作と調味に関するより高度な応用技術の修得度、知識を実践に活用する力および創造力の修得度に応じて評価する。
提出物	60	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		①『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN：978-4-8446-0894-3 ②『八訂 食品成分表2022』女子栄養大学出版部 2022 ISBN：978-4-7895-1022-6			
		授業の中で随時紹介する。必要に応じて、印刷資料等を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

「調理学実習Ⅱ」で身に付ける総合的でより高度な調理の応用技術や知識と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、「調理学」や「調理学実習Ⅰ」で学んだ調理の知識や基礎技術等および「調理学実験」で学ぶ食品の調理性などを結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。

その他・特記事項

教科書『八訂 食品成分表2022』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。

国際食文化論実習

更新日：2023/01/10 08:57:13

開講年度	2022	学期	3期	シバスコト	F1340A	科目コード	F1340
担当教員	中澤 弥子						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

風土、歴史、食文化

授業の概要

世界中の人々が風土や歴史の中で、どのような食べ物をどのように食べてきたか（産物の入手・準備、調理法・調理技術、調理道具、食器、食具、供食：食卓構成・演出、食事習慣など）を、地域ごとに文献資料や統計資料、DVDを通して学び、世界の食文化に関する基礎知識を身につける。代表的な外国料理の調理実習や報告会での発表および意見交換を通して、時代とともに多面的に展開してきた世界の食文化についての理解を深め、多文化共生時代に必要な基礎知識を身につける。

【ねらい】

世界の人々が風土や歴史の中で、どのような食べ物をどのように食べてきたか（産物の入手・準備、調理法・調理技術、調理道具、食器、食具、供食、食卓構成、食事習慣など）を、地域ごとに文献資料や統計資料、映像資料を通して学修する。代表的な外国料理の調理実習をグループで行い、世界各国の料理によるビュッフェパーティーの計画・実施を通して、諸外国の多彩な食文化の特徴について理解を深める。報告会での発表や意見交換を通して、世界の多様な食文化について幅広い視点から理解し、多文化共生時代に必要な基礎知識を修得する。

英語表記「Seminar and Practice in World Food Culture and Cuisine」

到達目標

1	①世界の多様な食文化について幅広い視点から理解する。
2	②多文化共生時代に必要な食文化に関する基礎知識を修得する。

教授方法

調理実習は3～5名のグループで行う。第11回～13回ではビュッフェパーティーの計画・実施をクラス全体で協力して行う。第14回には報告会とまとめを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「調理学実習Ⅰ」、「調理学実習Ⅱ」および「食文化論」の履修を終えていること。

授業計画

1	オリエンテーション、世界と日本の食文化について学ぶ。
2	西ヨーロッパ、南ヨーロッパの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。
3	西ヨーロッパ、南ヨーロッパの代表的な料理の実習。
4	北ヨーロッパ、東ヨーロッパの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。
5	北ヨーロッパ、東ヨーロッパの代表的な料理の実習。
6	アメリカ、オセアニアの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。
7	アメリカ、オセアニアの代表的な料理の実習。
8	東アジア、東南アジア、南アジアの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。
9	東アジア、東南アジア、南アジアの代表的な料理の実習。
10	中央アジア・西アジア・アフリカの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。
11	ビュッフェ形式の食事の計画、グループ毎に取り組む外国料理の準備。
12	ビュッフェ形式の食事会の準備、グループ毎に外国料理を試作・試食。
13	ビュッフェ形式の食事会の実施、グループ毎に外国料理を調理・配膳・立食（または持ち帰り容器に詰める）・片付け。
14	世界の食文化についての報告会とまとめ。

授業外における学習

事前学習としては、毎回指定する課題（配布プリントや教科書等の関係する資料を確認する）に取り組む。

事後学習としては、授業で学んだ内容について教科書や配布プリントを使用して整理し、理解を深める。実習内容について調理過程や調理のポイントなどを実習記録用プリントにまとめる。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問についても受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
平常点（取り組み度）	40	実習への主体的な参加度合いに応じて評価する。	
提出物	40	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。	
プレゼンテーション	20	報告会などでのプレゼンテーションの内容（課題を理解し、適切に説明しているか）に応じて評価する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『日本の食文化 新版 「和食」の継承と食育』江原絢子・石川尚子編著 アイ・ケイ コーポレーション 2016 ISBN：978-4-87492-343-6			
	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、適宜、印刷資料等を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

多様な食文化の特徴とその背後にあるものの見方・考え方について、各自がこれまでに見知ってきた知識や事例と比較し理解を深め、主体的に学んでほしい。

その他・特記事項

特になし。

食ビジネス概論

更新日：2023/01/10 08:57:36

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	F1350A	科目コード	F1350
担当教員	片桐 新之介						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

フードマーケティング、流通、6次産業化、地方創生

授業の概要

本授業はグループワークなども取り入れつつ、食品の消費者や流通に係る様々なビジネスのケーススタディを行う。一般的な食品流通の概要、マーケティングの基礎知識、農林水産業の基礎知識、環境と食の問題を学習するとともに、様々な業態（飲食店、中食産業、百貨店、スーパーマーケット、ECサイト）などの業界の構造や特徴、課題を考えながら、フードビジネスや食品産業全体の将来における課題点を考え、解決の道筋を自ら探索する能力を得ることを目的とする。授業の中で何回か振り返りを兼ねた小テストを実施し、理解を促進させる。

到達目標

1	フードビジネスに対する基本的な知識を全体的に深く理解し、かつケーススタディとしていくつかの会社の戦略などを取り上げ、専門家並みの視点で読み解くことができる。
2	フードビジネスの各現場の状況を理解し、その課題と解決への道筋を発見できる力を身に付けることができる。自ら様々な情報を取捨選択して調べることを実施して、積極性と情報判断力を高めることができる。

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	フードマーケティングの基礎 マーケティングの4P、3C、身近なフードマーケティング戦略を学ぶ
2	食ビジネスにおける様々事例 成功と失敗 レストランの成功と失敗、6次産業化の意味と失敗事例について学ぶ
3	現代の流通について 市場流通と、ECサイトでの販売など消費者と生産者のつながりビジネスについて学ぶ
4	農業、水産業、畜産業の歴史と課題 第1次産業の課題を理解する。国際貿易についても意義を理解する。
5	小売業、飲食業、食品加工業の特徴 スーパーマーケットの流通の仕組み、飲食業の特徴などを学ぶ。
6	食料と環境問題 SDGsの基本的概念や、フードロス、フードマイレージなどの語句を理解する。
7	新しい流通、新しい食産業の姿 最先端の流通システムや新しいビジネスについて学び、食の未来を検討する。

授業外における学習

- ① 毎回指定された課題・問題、講師よりの口頭諮問に取り組む。
- ② 食に関する基礎知識の習得に向けて努力する。具体的には、新聞やネットニュースにおける食分野のニュースに気を配るほか、身近な食品販売の売り場を改めて意識をもって観察する。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	授業内容を正しく理解したうえで食ビジネスを把握しているかどうか
授業レポート	40	毎回の授業のキーワードを正しく理解しているかどうか
参加態度	20	授業内で積極的な質問や発言があったかどうか
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	講師が作成した資料を使う			
	四訂 食品の消費と流通 著者：日本フードスペシャリスト協会 発行年月日2021年2月1日			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。
- ②毎回のテーマが終わった後、そのテーマに関わる食の現場に足を運ぶこと（例・スーパーの野菜売り場や総菜売り場など）

その他・特記事項

オンライン授業が主体となる

管理栄養士活動論演習

更新日：2023/01/10 08:57:46

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	F1360A	科目コード	F1360
担当教員	草間 かおる, 稲山 貴代, 中澤 弥子, 上延 麻耶, 新保 みさ, 清水 昭雄, 奥村 圭子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

管理栄養士の職務と役割、管理栄養士の使命、理想の管理栄養士像

授業の概要

保健・医療・介護・福祉ならびに教育分野など、さまざまな職域で専門職として活躍する、次代を担う管理栄養士を養成するための導入科目である。社会のニーズに応えるための管理栄養士の役割と使命、関連法規、職業倫理、歴史的背景、他職種との連携など、多岐にわたる内容について理解を深めるとともに、管理栄養士の職務に対する学びの意欲を醸成する。

さらに、各職域で活躍する管理栄養士の生の声を聞いて、これからの時代に活躍する、新しい管理栄養士の可能性を模索し、理想の管理栄養士像を構築する。

到達目標

1	①管理栄養士の職務と役割、使命を理解する。
2	②自分なりの理想の管理栄養士像を構築することができる。

教授方法

講義、プレゼンテーション、ディスカッション（事前学習に基づいたゲストスピーカーとのディスカッションと振り返り）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	プレゼンテーション「理想の管理栄養士像」について
2	オリエンテーション「専門職として求められる基本的な資質・能力」【草間、稲山】 「食品成分表の理解と栄養計算」&ワーク①【中澤、上延】
3	行政（長野県、市町村）で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）【草間】 &ワーク②
4	地域（訪問栄養指導）で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）【奥村】 &ワーク③
5	医療機関（県内病院）で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）【清水】 &ワーク④
6	学校（栄養教諭、給食センター）で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）【新保】 &ワーク⑤
7	「専門職として求められる基本的な資質・能力」まとめ【稲山】 &ワーク⑥
8	課題⑦⑧
9	課題⑨⑩
10	課題⑪⑫
11	課題⑬⑭
12	課題⑮⑯
13	課題⑰⑱
14	課題⑲⑳

授業外における学習

- ・事前：それぞれのゲストスピーカーの活躍する分野について調べる。
- ・事後：レポートをまとめる（締切厳守）。

質問や相談への対応

- ・授業中や授業の前後に随時受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
メールアドレス kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	80	レポートの内容、文体及び構成（論理性、解り易さ、自己表現など）
授業態度	20	主体的態度（他者の意見の聴き方、積極的な発言、課題の発見と取り組み方など）
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・「管理栄養士論 専門職として求められる10の基本的な資質・能力」医歯薬出版 ・「八訂 食品成分表2022」女子栄養大学出版部 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、資料等を配布する。 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ゲストスピーカーの話や、クラスメートの意見・考えをもとに、自らの生き方や管理栄養士としてのキャリア形成について思考を深めましょう。
- ・必ず1度は、ゲストスピーカーに質問すること。

その他・特記事項

- ・授業の順番は、ゲストスピーカーの都合により前後することがある。

公衆衛生学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:57:46

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	F1380A	科目コード	F1380
担当教員	今村 晴彦						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

公衆衛生, 疾病対策, 環境, 生活習慣, 疫学

授業の概要

社会のなかで、人々の疾病をいかに予防し健康の増進を図っていくか、という公衆衛生的な知識と考え方を身につけることを目的とする。目的達成のため、1) 健康、疾病、障害などの基本的な概念と公衆衛生の関わり、2) 人を取り巻く社会状況、環境がどのように健康に影響するか、3) 環境や社会にあるリスクと健康との因果関係を明らかにする疫学的方法、4) 疾病の予防と健康を増進するための具体的、実践的な方法について学修する。

到達目標

1	健康と、環境や経済をはじめとするさまざまな社会要因との関連について説明できる。
2	疫学の基本を理解し、根拠に基づき、地域の健康状態について説明できる。
3	保健統計資料を用いて、地域の健康状態について分析できる。
4	エビデンスに基づく地域での公衆衛生活動を説明できる。

教授方法

各回、講義テキスト、事前配布または当日配布プリントを元にパワーポイントスライドを併用して講義を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	公衆衛生学とは
2	健康の社会的決定要因、健康格差
3	環境と健康影響（1）生態系と環境保健
4	環境と健康影響（2）公害、環境汚染
5	疫学（1）疫学の概念、疫学指標
6	疫学（2）疫学の研究方法 観察研究
7	疫学（3）疫学の研究方法 介入研究
8	疫学（4）因果関係・バイアス・交絡
9	疫学（5）スクリーニング
10	保健統計（1）人口静態統計、人口動態統計
11	保健統計（2）その他の主要な保健統計
12	主要疾患の疫学（1）慢性疾患、悪性新生物、生活習慣病
13	主要疾患の疫学（2）感染症、精神疾患
14	エビデンスに基づく公衆衛生活動

授業外における学習

- ① 毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ② 復習を重ねて苦手な分野がないように努力する。そのために、問題集（指定図書の実習問題等）を活用する。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	試験（筆記及び選択肢）の採点による。
授業レポート	20	公衆衛生学の理解を深めるため、不定期でレポートを課して評価を行う。
小テスト	10	不定期に実施する小テスト（回数未定）の点数。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康』辻一郎・ 吉池信男（編）（南江堂） その他、必要に応じて資料を 配付する。			
	国民衛生の動向（厚生労働統 計協会）最新版			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

公衆衛生に関わる話題は日常的にニュース等で取り上げられている。公衆衛生が身近なテーマであることを理解し、常に興味のアナテナを張って、教科書、参考書以外のメディア媒体等からも学習する姿勢を望む。

その他・特記事項

特になし

基礎栄養学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:56:44

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	F2010A	科目コード	F2010
担当教員	白神 俊幸						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

遺伝子と栄養、食物摂取調節、消化・吸収、糖質、食物繊維・難消化性糖類

授業の概要

栄養の概論に始まり、遺伝子と栄養、食物の摂取（中枢制御、日内リズム）、消化・吸収と栄養素の体内動態（消化器系の構造・機能、栄養素の消化・吸収過程と調節、栄養素の体内動態、生物学的利用度）、炭水化物の栄養（糖質の体内代謝、臓器間輸送、血糖調節、エネルギー源としての作用、他の栄養素との関係、食物繊維・難消化性糖類）について理解する。

英語表記 「Basic Nutrition I」

到達目標

1	摂取された食物（食品）は消化を受けて吸収され、その後体内で代謝されて成長や生命・健康の維持に用いられている。本講義では、栄養の大きな全体像を掴んだうえで、まずエネルギー産生（三大）栄養素のうち炭水化物に関するこれら一連の過程について理解することを目標とする。
2	栄養の概念に始まり、遺伝子と栄養、食物摂取の調節、栄養素の消化・吸収のメカニズム、糖質の体内代謝、食物繊維・難消化性糖類に関して説明できる。

教授方法

講義（毎回ランダムに質疑応答を実施）

小テストの実施後に、質疑応答による復習を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション、栄養学のはじめ
2	栄養学はサイエンス！
3	栄養の概念・定義、栄養素と健康・疾患
4	分子栄養学（遺伝子と栄養）
5	食欲・空腹・満腹、食事のリズムとタイミング
6	消化器系の構造と機能
7	消化・吸収過程と調節
8	栄養素別の消化・吸収（たんぱく質、炭水化物）
9	栄養素別の消化・吸収（脂質、脂溶性ビタミン）
10	栄養素別の吸収（水溶性ビタミン、ミネラル）
11	栄養素の体内動態と生物学的利用度
12	炭水化物の栄養（糖質の体内代謝、臓器間輸送、血糖調節）
13	炭水化物の栄養（糖質のエネルギー源としての作用、他の栄養素との関係）
14	炭水化物の栄養（食物繊維・難消化性糖類）、まとめ

授業外における学習

講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。

質問や相談への対応

オフィスパワーは、別途指示する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。
小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	木戸康博・桑波田雅士・原田永勝 編 『栄養科学シリーズ NEXT 基礎栄養学 第4版』 講談社			
	適宜プリントを配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学の内容と関連付けて考えること。

その他・特記事項

小テストは、必ずすべて受けておくこと。

基礎栄養学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:56:45

開講年度	2022	学期	4期	シバスコト	F2020A	科目コード	F2020
担当教員	白神 俊幸						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラル、水・電解質、エネルギー代謝

授業の概要

基礎栄養学の後編としての位置づけである。たんぱく質の栄養（たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送、たんぱく質の量と質の評価、他の栄養素との関係）、脂質の栄養（脂質の体内代謝、臓器間輸送、貯蔵エネルギーとしての作用、コレステロール代謝、脂質の量と質の評価、他の栄養素との関係）、ビタミンの栄養（ビタミンの構造・機能、栄養学的機能、生物学的利用度、他の栄養素との関係）、ミネラル（無機質）の栄養（ミネラルの分類と栄養学的機能、生体機能の調節作用、生物学的利用度、他の栄養素との関係）、水・電解質の栄養学的意義（水分・電解質の出納、電解質代謝と栄養）、エネルギー代謝（概念、エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝、エネルギー代謝の測定法）について理解する。

英語表記 「Basic Nutrition II」

到達目標

1	本講義では、基礎栄養学Ⅰに続き、エネルギー産生栄養素のたんぱく質と脂質の代謝のほか、各種ビタミンやミネラルの代謝および成長や生命・健康の維持との関わり、水分・電解質、エネルギー代謝について理解することを目標とする。
2	たんぱく質と脂質の代謝、各種ビタミンやミネラルの代謝・生理作用、水分・電解質調節、エネルギー代謝に関して説明できる。

教授方法

講義（毎回ランダムに質疑応答を実施）

小テストの実施後に、質疑応答による復習を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

基礎栄養学Ⅰを修得済みであること。

授業計画

1	基礎栄養学Ⅰの振り返り、たんぱく質の栄養（たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送）
2	たんぱく質の栄養（たんぱく質の質・量の評価、他の栄養素との関係）
3	脂質の栄養（脂質の体内代謝、臓器間輸送）
4	脂質の栄養（貯蔵エネルギー源としての作用、コレステロール代謝の調節）
5	脂質の栄養（脂質の質・量の評価、他の栄養素との関係）
6	ビタミンの構造と機能（脂溶性ビタミン）
7	ビタミンの構造と機能（水溶性ビタミン）
8	ビタミンの栄養学的機能
9	ビタミンの生物学的利用度、他の栄養素との関係
10	ミネラルの分類と栄養学的機能、硬組織とミネラル、生体機能の調節作用
11	酵素反応の賦活作用、鉄代謝、ミネラルの生物学的利用度、他の栄養素との関係
12	水分・電解質の出納と代謝
13	エネルギー代謝の概念、エネルギー消費量
14	臓器別エネルギー代謝、エネルギー代謝の測定法、まとめ

授業外における学習

講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。

質問や相談への対応

オフィスアワーは、別途指示する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。
小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	木戸康博・桑波田雅士・原田永勝 編 『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学 第4版』講談社（基礎栄養学Ⅰで購入済）			
	適宜プリントを配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、人体機能（生理）学の内容と関連付けて考えること。

その他・特記事項

小テストは、必ずすべて受けておくこと。

基礎栄養学実験

更新日：2023/01/10 08:56:57

開講年度	2022	学期	1期	シバ [®] スコト [®]	F2030A	科目コード	F2030
担当教員	白神 俊幸						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

遺伝子多型、栄養素代謝の差異、塩分摂取量、尿中塩分量、味覚

授業の概要

大きく3つのテーマに関して実施する。具体的には、①遺伝子多型と体内栄養素代謝能の差異（アルコール代謝関連遺伝子を例に）、②食事内容（食塩およびカリウムの含有量）の違いによる尿中ナトリウム排泄への影響（尿中塩分濃度測定による一日塩分摂取量の把握）、③食品の味覚へ与える影響について実験を通して経験し、個人差や日常の食生活と栄養との関わりを学修する。

英語表記 「Experiments in Basic Nutrition」

到達目標

1	本実験では、遺伝子多型と体内代謝能の差異、尿中塩分量と一日塩分摂取量の関係、味覚の感受メカニズムと変化について理解することを目標とする。
2	遺伝子多型と体内代謝の関係、食事内容と尿中排泄物質の関係、味覚の感受メカニズムと変化について説明できる。

教授方法

実験

毎回実験前に説明を十分行い、意義と実施内容について理解度を確認する。

実験中も適宜質疑応答により、疑問点等を解消する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション、実験の安全について
2	「A. 栄養学における個人差」 アルコール代謝関連遺伝子の遺伝子多型と体内代謝能の差異（概略）
3	ピペット操作の確認・練習 実験内容把握、実験手法とステップの確認
4	PCR法の原理と理解、DNA抽出、試料調整、PCR反応
5	PCR増幅産物の確認（アガロースゲルの作製、電気泳動）
6	PCR増幅産物の確認（染色、画像撮影）
7	試料調整とDNA断片の制限酵素消化反応
8	「B. 尿中塩分濃度測定による一日の食塩摂取量の評価」 被験食の献立作成
9	制限酵素消化産物の確認（アガロースゲル作製、電気泳動）
10	制限酵素消化産物の確認（染色、画像撮影） アルコールパッチテスト
11	遺伝子多型解析、評価とまとめ 尿中塩分濃度測定による一日塩分摂取量の評価に関する内容把握、ステップの確認
12	尿中塩分濃度測定と一日塩分摂取量の算出、食事内容との比較検討と評価、食塩味覚閾値の測定、まとめ
13	「C. 味覚実験」
14	総まとめ、おもしろ栄養エビデンス

授業外における学習

実験内容の理解を深めるために、毎回事前学習として実験書を読んで下調べをしておき、事後学習として各回の実施内容を整理し、実験レポート作成のための文献調査・情報収集などを行う。

質問や相談への対応

オフィスアワーは、別途指示する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	40	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。
実験レポート	40	実施した実験に関するレポートの内容を評価する。
平常点	20	取り組み度を平常点として評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	実験書を配布する。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

興味をもって実験すること。
 何が明らかになるのか予測しながら実験を行うこと。
 出てきた結果から何が考えられるか、自分なりの考察をすること。

その他・特記事項

実験に関する手引きと実験書を熟読すること。

食事摂取基準

更新日：2023/01/10 08:56:58

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	F2040A	科目コード	F2040
担当教員	稲山 貴代						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

推定平均必要量, 推奨量, 目安量, 耐容上限量, 目標量, 科学的根拠, PDCAサイクル

授業の概要

管理栄養士が個人および集団に対して栄養アセスメントや適切な栄養計画, 食事計画を立てる際の科学的根拠となる食事摂取基準について学ぶ。その策定の背景や基礎的理論を学ぶとともに, 各指標の科学的根拠を理解し, 対象者に応じた栄養管理プロセスの活用方法を学修する。

到達目標

1	食事摂取基準の策定について基礎的理論・総論を説明できる。
2	科学的根拠に基づき, 食事摂取基準(各論)を正しく理解し, 説明できる。
3	食事摂取基準の活用について理解し, 栄養マネジメントで活用できる。

教授方法

教科書にそって, pptファイルの映写やホワイトボードを用い, 講義形式で授業をすすめる。
事前学習・事後学習の課題の理解の確認を兼ね, 講義の中でも質疑応答を積極的に行う。
食事摂取基準の活用のためのワークシートを使った学習やグループディスカッションを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

1年次の基礎栄養学を理解しておくこと。

授業計画

1	食事摂取基準の策定の総論 (1) オリエンテーション
2	食事摂取基準の策定の基礎的理論・総論 (2) 策定方針
3	食事摂取基準の策定の基礎的理論・総論 (3) 策定の基本的事項
4	食事摂取基準の策定の総論 (4) 策定の留意事項。中間評価 (1)
5	食事摂取基準の科学的根拠・各論: エネルギー (1) 基本的事項と体重管理
6	エネルギー (2) 発症予防の根拠と目標とするBMI
7	エネルギー必要量 (1) 基本的な考え方と必要量の推定
8	エネルギー必要量 (2) 推定エネルギー必要量の算定と身体活動レベル
9	たんぱく質
10	脂質
11	炭水化物とエネルギー産生栄養素バランス。中間評価 (2)
12	脂溶性ビタミン・水溶性ビタミン
13	多量ミネラル・微量ミネラル
14	食事摂取基準の活用。総括

授業外における学習

事前学習では, その前の回の授業の最後に, 「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので, 学習しておくこと。
事後学習では, その回の授業の最後に, その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので, 学習しておくこと。
詳細は授業時に説明する。

質問や相談への対応

授業中・終了後に対応します。後日, 対応を要する場合は, 事前にメールでアポイントメントをとってください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し, 極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

平常点	20	授業内で課すワークの取り組み状況などで評価する。
中間評価（試験）	50	1回目は食事摂取基準の策定について基礎的理論・総論を説明できるか、2回目は科学的根拠に基づき、各論のエネルギーならびにたんぱく質・脂質・炭水化物について、正しく理解し、説明できるかを評価基準とする。
期末評価（試験）	30	提示された事例をもとに、到達目標に明示している食事摂取基準の活用について理解できているかを評価基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『日本人の食事摂取基準 [2020年版]』伊藤・佐々木監修（第一出版），2020年。			
	基礎栄養学の指定教科書。授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1年次の基礎栄養学を理解しておくこと。

その他・特記事項

本科目は、栄養管理の実践のための基礎科学を学ぶものである。

本科目は、応用栄養学、給食経営管理論、公衆栄養学での食事摂取基準の活用で展開される。

応用栄養学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:56:59

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	F2050A	科目コード	F2050
担当教員	稲山 貴代						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養マネジメント, 栄養ケア, PDCAサイクル, ライフステージ, 加齢

授業の概要

栄養管理の意義や、栄養管理プロセス（PDCAマネジメントサイクル）を学修し、食事摂取基準の活用、ライフステージ別の栄養管理につなげて考えることを理解する。青年期、妊娠・授乳期、新生児期・乳児期をとりあげ、加齢（成長・発達）に伴い変化する人の身体特性（形態、生理、機能、精神）、ライフステージの変化に伴う環境やライフスタイルの変化について学修し、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養管理プロセスについて理解する。

到達目標

1	栄養マネジメントと栄養ケアのプロセス（PDCAサイクル）について、正しく理解し、説明できる。
2	ライフステージに応じた身体的・生理的特徴、ライフスタイルと食生活、健康課題（病態）・栄養課題について説明できる。
3	ライフステージに応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し、健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し、評価できる。

教授方法

教科書にそって、pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。オンライン授業の場合はZoom機能を用い、同様に授業をすすめる。事前学習・事後学習の課題の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答を積極的に行う。各ライフステージの栄養ケアでは、ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「食事摂取基準」の単位を取得しておくこと。

授業計画

1	栄養マネジメント (1) 概要, 栄養スクリーニング
2	栄養マネジメント (2) 栄養アセスメント
3	栄養マネジメント (3) 栄養ケアの課題抽出と目標設定
4	栄養マネジメント (4) 栄養ケアの計画と実施
5	栄養マネジメント (5) 栄養ケアの実施と評価
6	食事摂取基準の活用。中間評価 (1)
7	加齢、成長・発達、老化
8	成人期（青年期）の栄養管理
9	妊娠期の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題
10	妊娠期の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア
11	授乳期の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題
12	授乳期の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア。中間評価 (2)
13	新生児期・乳児期の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題
14	新生児期・乳児期の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア

授業外における学習

事前学習では、その前の回の授業の最後に、「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので、学習をしておくこと。
事後学習では、その回の授業の最後に、その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので、学習をしておくこと。

質問や相談への対応

授業中・終了後に対応します。後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとってください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

平常点	20	授業内で課すワークの取り組み状況などで評価する。
中間評価（試験）	50	1回目は栄養マネジメントについて正しく理解し、説明できるか、2回目は妊娠期・授乳期の栄養管理について、主に身体的・生理的特徴、健康・栄養課題、栄養アセスメントについて、説明できるかを評価基準とする。
期末評価（レポート）	30	ケーススタディのレポートから、到達目標に明示している身体的・生理的特徴、ライフスタイルと食生活、健康課題・栄養課題、栄養アセスメント、栄養ケアまで、つなげて理解し、説明できるかを評価基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『ライフステージ栄養学』 稲山貴代・小林三智子編著，建帛社，2021年。 『日本人の食事摂取基準 [2020年版]』 伊藤・佐々木監修（第一出版），2020年。			
	基礎栄養学の指定教科書。 授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1年次の基礎栄養学，2年次の食事摂取基準を理解しておくこと。

その他・特記事項

本科目は応用栄養学実習に展開される。

本科目の理解は，特に，栄養教育，公衆栄養学，ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。

応用栄養学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:57:00

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F2060A	科目コード	F2060
担当教員	稲山 貴代, 奥村 圭子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養マネジメント, 栄養ケア, ライフステージ, 成長, 老化

授業の概要

幼児期, 学童期, 思春期, 成人期, 更年期, 高齢期をとりあげ, 加齢(成長・発達, 老化)に伴い変化する人の身体特性(形態, 生理, 機能, 精神), ライフステージの変化に伴う環境やライフスタイルの変化について学修し, 栄養アセスメントから, 健康・栄養・生活・食生活の課題, 栄養管理プロセスについて理解する。そのうえで, 望ましい栄養状態・食生活の実現, 生活の質(QOL)の向上を目指した栄養管理について総合的に考える。

到達目標

1	ライフステージに応じた身体的・生理的特徴, ライフスタイルと食生活, 健康課題(病態)・栄養課題について説明できる。
2	ライフステージに応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し, 健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し, 評価できる。

教授方法

教科書にそって, pptファイルの映写やホワイトボードを用い, 講義形式で授業をすすめる。

事前学習・事後学習の課題の理解の確認を兼ね, 講義の中でも質疑応答を積極的に行う。

各ライフステージの栄養ケアでは, ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「応用栄養学Ⅰ」の単位を取得しておくこと。

授業計画

1	応用栄養学Ⅰ 振り返り [稲山]
2	幼児期の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題 [稲山]
3	幼児期の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア [稲山]
4	学童期の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題 [稲山]
5	学童期の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア [稲山]
6	思春期の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題 [稲山]
7	思春期の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア。中間評価 (1) [稲山]
8	成人期(中年期)の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題 [奥村]
9	成人期(中年期)の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア [奥村]
10	更年期の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題 [奥村]
11	更年期の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア。中間評価 (2) [奥村]
12	高齢期の栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題 [奥村]
13	高齢期の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア [奥村]
14	総括 [奥村]

授業外における学習

事前学習では, その前の回の授業の最後に, 「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので, 学習しておくこと。

事後学習では, その回の授業の最後に, その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので, 学習しておくこと。

質問や相談への対応

授業中・終了後に対応します。後日, 対応を要する場合は, 事前にメールでアポイントメントをとってください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し, 極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

平常点	20	授業内で課すワークの取り組み状況などで評価する。 詳細は、授業時に説明する。
中間評価（試験）	50	1回目は幼児期・学童期・思春期の栄養管理，2回目は成人期・更年期の栄養管理について，それぞれ主に身体的・生理的特徴，健康・栄養課題，栄養アセスメントについて，説明できるかを評価基準とする。
期末評価（レポート）	30	ケーススタディのレポートから，到達目標に明示している身体的・生理的特徴，ライフスタイルと食生活，健康課題・栄養課題，栄養アセスメント，栄養ケアまで，つなげて理解し，説明できるかを評価基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		『ライフステージ栄養学』 稲山貴代・小林三智子編著，建帛社，2021年。 『日本人の食事摂取基準 [2020年版]』 伊藤・佐々木監修（第一出版），2020年。			
		基礎栄養学の指定教科書。 授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1年次の基礎栄養学，2年次の食事摂取基準，応用栄養学Ⅰを理解しておくこと。

その他・特記事項

本科目は応用栄養学実習に展開される。

本科目の理解は，特に，栄養教育，公衆栄養学，ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。

現代世界の文化

更新日：2023/01/10 08:51:28

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5150A	科目コード	L5150
担当教員	織田 竜也, 馬場 智一, Trane DeVore, 谷口 真由実, 銭廣 健人, 中澤 弥子, 中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

異文化。民俗。政治。音楽。食。

授業の概要

現代世界の文化的諸相について複数の観点から学ぶ。地域固有のローカルな生活習慣や国境を越えて広がるグローバルな現象について、現地での経験によって得られる情報について理解を深める。

到達目標

1	現代世界の文化に関する知識を習得する。地理や歴史といった切り口とは違った世界理解の方法に親しむ。映像資料や音声資料を能動的に視聴し、文字情報としてノートに整理する。多様な文化の特徴を理解した上で、グローバルな視点から現代世界の動向を理解する。
---	---

教授方法

複数の教員による講義。視聴覚資料から得られる情報をノートに整理し、現代世界の多様な状況について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

2022年度入学の1年生だけが履修できる。

授業計画

1	イントロダクション、スペインの祝祭（織田竜也）
2	フランスの芸能と政治（馬場智一）
3	米国のカウンターカルチャーと音楽（デヴォア・トレーン）
4	映像作品にみる中国社会の変容（谷口真由実）
5	アラブ世界の民主化（銭廣健人）
6	世界の中の食の禁忌（中澤弥子）
7	ポーランドの音楽（中川亮平）

授業外における学習

随時指示する。

質問や相談への対応

担当教員に面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30		
期末試験	70		
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	随時指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

期末試験はPCを持参してGlexaで実施する。

キャンパスライフのためのヘルス・リテラシー

更新日：2023/02/01 17:22:23

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L5160A	科目コード	L5160
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

大学生生活 ヘルスリテラシー 健康管理

授業の概要

大学生生活は、これまでの生活習慣に変化が生じやすく、自分自身で健康管理を実践する必要性が生じる時期である。新たな人間関係や生活習慣は、その後の大学生生活や学業にも影響を与える。とくに健康は、個人や社会生活にまたがる大きな課題である。本科目では、大学生生活やその後の社会生活を健康的に暮らすための基本的な健康に関する知識を学び、自らがこころとからだの情報を得て理解し、使える力をつける動機づけとなることを目的とする。

到達目標

1	大学生生活における健康課題を説明できる
2	自分の生活習慣を知り健康管理を試行できる
3	健康的な生活を送るため良い保健行動を選択できる

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション 自分の健康は自分で守ろう 身近な感染症 授業全体のオリエンテーション 自身の健康管理の必要性と期間中実施する健康管理ツールの確認を行う。大学生の身近な健康の1つである感染症の基本的知識を得る
2	アルコール たばこ と健康 今後アルコールやたばこの出合いに備え、アルコールやたばこが健康に影響する基本的知識と、自分の体質を確認する。
3	食生活と健康 大学生生活での食生活の課題や栄養と健康の基本的知識を知り、自身の食生活の課題を考えてみる
4	生活リズムの重要性（睡眠、ネット依存） 生活リズムの乱れの原因やその影響を知り、快眠生活を維持するための方法を確認する
5	メンタルヘルス 新しい生活や新しい人間関係から生じるメンタル不調と対処方法を学ぶ。自分自身の考え方の傾向を学ぶ
6	対人関係とコミュニケーション 対人関係で悩みやすいコミュニケーションの取り方について実際に演習を交えて体験していく
7	性と健康 恋愛と性、それに伴う健康について、からだや妊娠のメカニズムとデートDVを含め、男女の付き合い方について考える機会とする

授業外における学習

自分の健康管理ファイルをつくって健康チェックをしてみよう

質問や相談への対応

授業時またはメール等で質問・相談可能

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業提出物	80	8つの提出物を授業内で指示する。提出の有無、締め切りを守ったか、内容等で判断する

健康管理ファイル作成	20	自身の健康管理ファイル（ノート）を作成し授業時にチェックする
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	特になし 資料を配布			
	適宜紹介する予定からだBOO K JFPA北村邦夫			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

よりよい大学生活を送るために自分の健康や友人の健康にも留意しよう

その他・特記事項

とくになし

応用栄養学Ⅲ

更新日：2023/01/10 08:57:14

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	F2070A	科目コード	F2070
担当教員	稲山 貴代, 奥村 圭子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養マネジメント, 栄養ケア, 身体活動, 特殊環境, 障がい, 災害栄養

授業の概要

精神的ストレス, 低温・高温環境などの特殊環境や運動などによって生じる人の身体特性（形態, 生理, 機能, 精神）の反応や適応について学修し, 栄養アセスメントから, 健康・栄養・生活・食生活の課題, 栄養管理プロセスについて理解する。さらには, 災害時, 傷病, 障がいに関連する栄養管理プロセスについて学ぶ。

到達目標

1	ストレス下, 特殊環境下, 身体活動に応じた身体的・生理的特徴の変化, ライフスタイルと食生活, 健康課題（病態）・栄養課題について説明できる。
2	ストレス下, 特殊環境下, 身体活動に応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し, 健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し, 評価できる。
3	災害時, 特別な配慮が必要な人に応じた身体的・生理的特徴の変化, 健康課題（病態）・栄養課題, 栄養アセスメントと栄養ケアについて説明できる。

教授方法

教科書にそって, pptファイルの映写やホワイトボードを用い, 講義形式で授業をすすめる。

事前学習・事後学習の課題の理解の確認を兼ね, 講義の中でも質疑応答を積極的に行う。

各ライフステージの栄養ケアでは, ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

2年次の応用栄養学Ⅰ・Ⅱの単位を取得しておくこと。

授業計画

1	応用栄養学Ⅱ 振り返り。身体活動と栄養管理 (1) 身体活動時における栄養管理とは [稲山]
2	身体活動と栄養管理 (1) 身体活動時における身体的・生理的变化と健康 [稲山]
3	身体活動と栄養管理 (2) 身体活動時における栄養アセスメントと栄養ケア [稲山]
4	中間評価 (1)。ストレス条件下における栄養管理, 生体リズムと健康 [稲山]
5	特殊環境条件下における栄養管理 (1) 高温環境下における身体的・生理的变化と健康障害, 栄養ケア [稲山]
6	特殊環境条件下における栄養管理 (2) 低温環境下における身体的・生理的变化と健康障害, 栄養ケア [稲山]
7	特殊環境条件下における栄養管理 (3) 高圧・低圧, 宇宙環境下における身体的・生理的变化と健康障害, 栄養ケア。中間評価 (2) [稲山]
8	災害時の栄養管理 (1) 災害時における身体的・生理的变化, 健康・栄養課題 [奥村]
9	災害時の栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア [奥村]
10	災害時の栄養管理 (3) 栄養支援の実際 [奥村]
11	特別な配慮が必要な人への栄養管理 (1) 身体的・生理的特徴, ライフスタイル, 健康・栄養課題 [奥村]
12	特別な配慮が必要な人への栄養管理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア [奥村]
13	特別な配慮が必要な人への栄養管理 (3) 栄養支援の実際 [奥村]
14	総括 [奥村]

授業外における学習

事前学習では, その前の回の授業の最後に, 「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので, 学習しておくこと。

事後学習では, その回の授業の最後に, その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので, 学習しておくこと。

質問や相談への対応

授業中・終了後に対応します。別日の対応を希望する場合は, 事前にメールでアポイントメントをとってください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	20	授業内で課すワークの取り組み状況などで評価する。
中間評価（試験）	50	1回目は身体活動と栄養管理，2回目はストレス下，特殊環境下の栄養管理について，それぞれ主に身体的・生理的特徴，健康・栄養課題，栄養アセスメントについて，説明できるかを評価基準とする。
期末評価（レポート）	30	ケーススタディのレポートから，到達目標に明示している身体的・生理的特徴，ライフスタイルと食生活，健康課題・栄養課題，栄養アセスメント，栄養ケアまで，つなげて理解し，説明できるかを評価基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『ライフステージ栄養学』 稲山貴代・小林三智子編著，建帛社，2020年。			
	基礎栄養学ならびに運動生理学の指定教科書。 『日本人の食事摂取基準 [2020年版]』 伊藤・佐々木監修（第一出版），2020年。 授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1年次の基礎栄養学，2年次の食事摂取基準，応用栄養学Ⅰ・Ⅱを理解しておくこと。

その他・特記事項

本科目は，ライフステージ別の栄養管理の実践のための基礎となるものである。

本科目の理解は，特に，栄養教育，公衆栄養学，ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。また，運動生理学と関連する。

応用栄養学実習

更新日：2023/01/10 08:57:15

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シバコード	F2080A	科目コード	F2080
担当教員	稲山 貴代						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

食事計画, 栄養計画, 栄養ケア, PDCAサイクル, ライフステージ, ライフスタイル

授業の概要

乳児期, 幼児期, 学童期, 思春期, 青年期, 妊娠期, 授乳期, 成人期, 高齢期等, ライフステージ別に提示された事例について, 栄養アセスメント項目の選定と方法, 栄養・食生活課題の抽出と選定, 栄養介入のための計画・立案を演習で学修する。計画に基づき, 具体的な栄養計画・食事計画をたて, 調理・供食し, 評価する実習を行い, プロセスを学修する。さらに, 栄養管理計画を修正し, 多職種を理解を促し連携を推進する文書作成, プレゼンテーションスキルを習得する。

到達目標

1	ライフステージ別に提示された事例について, 栄養マネジメントのプロセスにそって, 栄養アセスメントから改善目標を選定し, 栄養ケアプランをたてることができる。
2	栄養介入の実践について, 食事計画や調理, 多領域との連携も含め, 説明できる。
3	栄養ケアプランを評価し, 次のプランの改善について説明できる。

教授方法

グループに分かれ, 提示された課題について, PDCAサイクルにそって, 実習を行う。

Plan: その課題に必要なアセスメントを考え, 評価項目を設定し, 栄養ケアプランを作成する。

Do: 献立と作業指示書を作成し, 調理, 供食を行う。または, 模擬実践をする。

Check・Action: 評価を行い, その結果から栄養ケアプランを修正し, グループ発表する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位が取得できていること。

授業計画

1	ライフステージ別の栄養管理について
2	妊娠・授乳期, 新生児・乳児期の栄養マネジメント (1) 摂食機能の発達に応じた栄養管理
3	妊娠・授乳期, 新生児・乳児期の栄養マネジメント(2)調乳と栄養管理
4	妊娠・授乳期, 新生児・乳児期の栄養マネジメント(3)離乳食の栄養管理
5	幼児期・学童期・思春期の栄養マネジメント (1) 栄養計画
6	幼児期・学童期・思春期の栄養マネジメント (2) 食事計画
7	幼児期・学童期・思春期の栄養マネジメント (3) 栄養計画・食事計画の実践(調理)と評価
8	中間の振り返り、成人期の栄養マネジメント
9	高齢期の栄養マネジメント (1) 栄養計画
10	高齢期の栄養マネジメント (2) 食事計画
11	高齢期の栄養マネジメント (3) 栄養計画・食事計画の実践(調理)と評価
12	災害時の栄養マネジメント (1) 食事計画・栄養計画
13	災害時の栄養マネジメント (2) 食事計画の実践(調理)と評価
14	総括

授業外における学習

事前学習では, その前の回の授業の最後に, 「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので, 学習をしておくこと。

事後学習では, その回の授業の最後に, その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので, 学習をしておくこと。

質問や相談への対応

授業中・終了後に対応します。後日, 対応を要する場合は, 事前にメールでアポイントメントをとってください。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
平常点	75	提示された課題について、PDCAサイクルに沿った実習ができているか、食事計画や調理、多領域との連携も含め説明できるかを、ワークの取り組み状況や事後学習のレポートで評価する。
期末評価（試験）	25	ケーススタディから、到達目標に明示している栄養マネジメントのプロセスにそった栄養アセスメント、改善目標の選定、栄養ケアプランとその評価およびアクションについて説明できるかを評価基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『四訂 応用栄養学実習』（第2版）五関正江・小林三智子編著，建帛社，2022年。 『ライフステージ栄養学』稲山貴代・小林三智子編著，建帛社，2021年（応用栄養学の指定教科書）。			
	『日本人の食事摂取基準 [2020年版]』伊藤・佐々木監修（第一出版），2020年。授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

食事摂取基準，食事計画論，給食経営管理論，応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを理解しておくこと。
課題に取り組む時間が多くなるので，体調管理，スケジュール管理をしっかりと行うこと。

その他・特記事項

本科目は，ライフステージ別の栄養管理の実践のための科目である。

栄養教育論Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:57:01

開講年度	2022	学期	4期	シバスコド	F2090A	科目コード	F2090
担当教員	新保 みさ						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養教育、行動科学、PDCA

授業の概要

管理栄養士は、食や健康に関する専門的な知識やスキルを身に付けるだけでなく、分かりやすく情報を伝えたり、分かっているけどできない人のモチベーションを高めたり、栄養教育を行う必要がある。栄養教育論Ⅰでは、栄養教育を実施するための基礎的知識として、栄養教育の定義や目的、行動科学の理論やモデルを学修する。さらに、栄養教育をマネジメントするために、栄養教育のアセスメント・計画・実施・評価について学修する。

到達目標

1	① 栄養教育とはなにかを理解する。
2	② 行動科学の理論やモデルの基礎的知識を習得する。
3	③ 栄養教育のアセスメント、計画、実施、評価を理解する。

教授方法

講義。グループディスカッション、グループワークを含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション、栄養教育の概念（定義、目的、対象と機会）
2	栄養教育と行動科学（1）行動変容、刺激－反応理論
3	栄養教育と行動科学（2）社会的認知理論、計画的行動理論
4	栄養教育と行動科学（3）ソーシャルサポート、ヘルスピリーフモデル
5	栄養教育と行動科学（4）トランスセオレティカルモデル、行動変容技法など
6	栄養教育と行動科学（5）認知行動療法、動機づけ面接法
7	栄養教育と行動科学（6）コミュニケーション理論、イノベーション普及理論など
8	栄養教育と行動科学（7）グループダイナミクス、エンパワメントなど
9	栄養教育に関する生活指導・食環境整備 グループワーク
10	栄養教育に関する生活指導・食環境整備 発表
11	栄養教育マネジメント（1）PDCAとアセスメント・目標設定
12	栄養教育マネジメント（2）栄養教育の評価
13	栄養教育マネジメント（3）栄養教育の実施（学習形態）
14	栄養教育論Ⅰのまとめ

授業外における学習

- ・指定された課題に取り組むこと。
- ・小テストや定期試験に向けて復習すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

アドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。

課題	20	授業中に課題を行い、授業内容を理解しているかを評価する。
小テスト	20	小テストを行い、授業内容を理解しているかを評価する。
授業態度	10	主体的態度を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「栄養教育論」永井成美、赤松利恵編、(中山書店)、配付資料			
	適宜、指示・配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ディスカッションへ主体的に参加すること。
- ・積極的に質問や意見などを発言すること。

その他・特記事項

栄養教育論Ⅱ、栄養カウンセリング演習、栄養教育論実習においてもテキストを継続して使用する。

栄養教育論Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:57:16

開講年度	2022	学期	1期	シバ [®] スコト [®]	F2100A	科目コード	F2100
担当教員	新保 みさ						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養教育、ライフステージ

授業の概要

生涯を通じた健康づくりには、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育が必要である。対象者に応じた栄養教育を実施するために、各ライフステージ・ライフスタイルの特徴を把握し、実践と結びつけながら栄養教育を行う際のポイントを学修する。さらに、栄養教育のマネジメントサイクルについて学修し、栄養教育論Ⅰで履修した行動科学の理論やモデルを個人や集団の対象者に応じた栄養教育に活用する方法について理解する。

到達目標

1	①各ライフステージ・ライフスタイルの特徴を理解する。
2	②対象者に応じた栄養教育の内容や方法を選択できる。
3	③対象者に応じた栄養教育に行動科学の理論やモデルを活用できる。

教授方法

講義。グループディスカッションを含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

栄養教育論Ⅰの単位を取得していることが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション、栄養教育のマネジメントサイクル、目標と評価
2	学校における食育の評価
3	栄養教育の学習形態、教材の活用
4	栄養教育における教材の作成
5	栄養教育実施のための書き方、話し方、プレゼンテーション技術
6	ライフステージごとの栄養教育の検討 グループワーク
7	ライフステージごとの栄養教育の検討 発表
8	高齢者における栄養教育の実践例
9	乳幼児期における栄養教育の実践例
10	学童期における栄養教育の実践例
11	障がい者に対する栄養教育の実践例
12	成人期における栄養教育の実践例
13	ライフステージ別の栄養教育の実践 グループワーク
14	ライフステージ別の栄養教育の実践 発表・まとめ

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと。
- ・テキストや配付資料をもとに予習すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

アドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	80	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。

授業態度	20	主体的態度を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論第4版」笠原賀子、齋藤トシ子編（講談社）			
	適宜、指示・配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ディスカッションへ主体的に参加すること。
- ・積極的に質問や意見などを発言すること。

その他・特記事項

栄養教育論実習においてもテキストを継続して使用する。

栄養教育論実習

更新日：2023/01/10 08:57:16

開講年度	2022	学期	3期	シバ [®] スコド [®]	F2110A	科目コード	F2110
担当教員	新保 みさ						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

栄養教育、模擬授業

授業の概要

栄養教育論Ⅰ、Ⅱ、栄養カウンセリング演習で得た知識やスキルをもとに、対象者や場面に適した栄養教育のアセスメント、計画、実施、評価を通して、栄養教育の実践力を養う。また、栄養アセスメントの結果のまとめ方に関する演習や栄養教育プログラムごとの教材作成を通して、栄養教育を実施するための総合的なスキルを習得する。

到達目標

1	①栄養教育における栄養アセスメントを実践できる。
2	②栄養教育プログラムの計画、実施、評価を実践できる。
3	③栄養教育を行うための総合的なスキルを習得する。

教授方法

グループワーク、模擬授業

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

栄養教育論Ⅰ、栄養教育論Ⅱ、栄養カウンセリング演習の単位を取得していることが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション、栄養教育における栄養アセスメント（調査の計画・実施）
2	質問紙調査のまとめ方
3	調理デモンストレーションの実践
4	大学生を対象とした栄養教育プログラム プログラムの計画
5	大学生を対象とした栄養教育プログラム 教材作成
6	大学生を対象とした栄養教育プログラム 模擬授業及び調理デモの準備
7	大学生を対象とした栄養教育プログラム 模擬授業
8	大学生を対象とした栄養教育プログラム 調理デモ①
9	大学生を対象とした栄養教育プログラム 調理デモ②
10	各ライフステージの栄養教育プログラム プログラムの計画
11	各ライフステージの栄養教育プログラム 教材作成
12	各ライフステージの栄養教育プログラム 模擬授業の準備
13	各ライフステージの栄養教育プログラム 模擬授業①
14	各ライフステージの栄養教育プログラム 模擬授業②、まとめ

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと。
- ・模擬授業の準備をすること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

アドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	80	グループワークや模擬授業の内容とその成果（学んだことなど）を評価する。

授業態度	20	主体的態度、グループにおける貢献度を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論第4版」笠原賀子、齋藤トシ子編（講談社）			
	適宜、指示・配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・グループワークへ主体的に取り組むこと。
- ・積極的に質問や意見などを発言すること。

その他・特記事項

なし

栄養カウンセリング演習

更新日：2023/01/10 08:57:18

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	F2120A	科目コード	F2120
担当教員	新保 みさ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養教育、カウンセリング

授業の概要

栄養教育では、個人の行動変容を促すために、栄養カウンセリングを行う。栄養カウンセリング演習では栄養カウンセリングに関して基本的知識を学修し、栄養カウンセリングの基本的技法の演習を行う。ロールプレイング等を通してグループカウンセリングや臨床の場における栄養カウンセリングを演習し、様々な場面での個人や集団に対する栄養カウンセリングに必要なスキルを養う。さらに、ライフステージ別の栄養カウンセリングの演習を行い、栄養教育の実践へ繋げる。

到達目標

1	①栄養カウンセリングの基本的知識を学修する。
2	②栄養カウンセリングの基本的技法を習得する。
3	③様々な場面における個人や集団に対する栄養カウンセリングに必要なスキルを身に付ける。

教授方法

演習、講義。グループディスカッション、グループワークを含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

栄養教育論Ⅰ、栄養教育論Ⅱの単位を取得していることが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション、栄養カウンセリングの概要
2	栄養カウンセリングの基本的技法
3	栄養カウンセリングの実践①アセスメント
4	栄養カウンセリングの実践②食事調査結果の作成
5	栄養カウンセリングの実践③目標設定
6	電話・メールによる支援
7	グループカウンセリングを用いた栄養カウンセリング 事例1の検討とロールプレイング
8	グループカウンセリングを用いた栄養カウンセリング 事例2の検討とロールプレイング
9	臨床の場における栄養カウンセリング 面接計画の作成
10	臨床の場における栄養カウンセリング 演習①
11	臨床の場における栄養カウンセリング 演習②・振り返り
12	ライフステージ別の栄養カウンセリングの特徴
13	ライフステージ別の栄養カウンセリング 演習①
14	ライフステージ別の栄養カウンセリング 演習②・まとめ

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと。
- ・テキストや配付資料をもとに予習すること。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中や授業前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

メールアドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
レポート	80	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。	

授業態度	20	主体的態度を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	栄養科学NEXTシリーズ「栄養教育論」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社）			
	適宜、指示・配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・ディスカッションへ主体的に取り組むこと。
- ・積極的に質問や意見などを発言すること。

その他・特記事項

栄養教育論実習においてもテキストを継続して使用する。

臨床栄養管理学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:57:02

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F2130A	科目コード	F2130
担当教員	清水 昭雄						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

傷病者・要介護者、栄養・食事管理、栄養管理プロセス

授業の概要

臨床栄養学がなぜ大切なのか、どのような知識が必要なのか、臨床の現場で何が必要とされているのかなど、臨床栄養学を学ぶにあたっての心構えを学修する。主に総論として、臨床栄養の概念（意義と目的、医療・介護制度、医療・福祉・介護と臨床栄養）、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養管理、代謝性疾患の栄養・食事管理、栄養管理プロセス（栄養ケアプロセス）[栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入（栄養ケアプラン、栄養・食事療法と栄養補給法、栄養教育、栄養カウンセリング）、モニタリングと（再）評価]について理解する。

担当教員は、病院における臨床栄養管理の実務経験を有しており、事例を挙げながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

英語表記 「Clinical Nutrition I」

到達目標

1	本講義では、臨床栄養学への導入に始まり、総論として、臨床栄養学の概念、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養管理、代謝性疾患の栄養・食事管理、栄養管理プロセスについて理解することを目標とする。
2	臨床栄養学の基本、傷病者等の栄養管理、代謝性疾患の栄養・食事管理、栄養管理プロセスについて説明できる。

教授方法

講義（毎回ランダムに質疑応答を実施）

小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション（臨床栄養とは？～意義と目的～）
2	医療・福祉・介護における臨床栄養と管理栄養士の役割
3	医療制度・介護制度、診療報酬体系
4	栄養スクリーニング、栄養アセスメント
5	臨床検査値と栄養マーカーの読み方・考え方
6	臨床兆候と栄養障害
7	栄養補給法の選択、経口栄養法
8	経腸栄養法、経静脈栄養法、モニタリング
9	傷病者・要介護者の栄養管理
10	代謝性疾患（糖尿病）と食事
11	代謝性疾患（脂質異常症、動脈硬化性疾患）と食事
12	クリニカルパスと栄養管理プロセスの記録
13	NSTと栄養サポート
14	まとめ

授業外における学習

講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。

質問や相談への対応

授業中、授業後、メール等で適宜対応する

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。
小テスト	30	複数回実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズNEXT 新・臨床栄養学 第2版』 講談社			
	適宜指示、または配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。

その他・特記事項

"小テストは、必ずすべて受けておくこと。

担当教員は、病院における臨床栄養管理の実務経験を有している。"

臨床栄養管理学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:57:19

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	F2140A	科目コード	F2140
担当教員	白神 俊幸						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

各種疾患、病態、栄養アセスメント、栄養・食事療法

授業の概要

疾患・病態別栄養管理の前編として、消化器疾患（口腔、食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の各疾患）、内分泌疾患（甲状腺・副甲状腺・副腎・下垂体の機能亢進症・低下症）、血液疾患（貧血など）、骨・筋疾患（骨粗しょう症、骨軟化症・くる病など）、免疫・アレルギー疾患（免疫異常、食物アレルギーなど）について理解する。特に、成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法をそれぞれ関連付けて理解する。

英語表記 「Clinical Nutrition II」

到達目標

1	本講義では、各論の病態別栄養管理の前編として、消化器疾患、内分泌疾患、血液疾患、骨・筋疾患、免疫・アレルギー疾患について、それぞれ成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法を関連付けて理解することを目標とする。
2	各種疾患における成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法についてポイントを説明できる。

教授方法

講義（毎回ランダムに質疑応答を実施）

小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨床栄養管理学Ⅰを修得済みであること。

授業計画

1	消化管疾患 口内炎、舌炎、食道疾患
2	胃炎、胃十二指腸潰瘍
3	胃がん（胃摘出）、蛋白漏出喪失性胃腸症
4	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
5	過敏性腸症候群、便秘・下痢
6	肝、胆、膵疾患 肝炎、肝硬変
7	脂肪肝、NASH
8	胆石、胆のう炎
9	膵炎
10	内分泌疾患 甲状腺、副甲状腺
11	副腎、下垂体
12	血液疾患（貧血など）
13	骨・筋疾患（骨粗しょう症、骨軟化症・くる病など）
14	免疫・アレルギー疾患（免疫異常、食物アレルギーなど）

授業外における学習

講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。

質問や相談への対応

オフィスアワーは、別途指示する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。
小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズNEXT 新・臨床栄養学』 講談社（臨床栄養管理学Iで購入済）			
	適宜指示、または配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。

その他・特記事項

小テストは、必ずすべて受けておくこと。

臨床栄養管理学Ⅲ

更新日：2023/01/10 08:57:19

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	F2150A	科目コード	F2150
担当教員	白神 俊幸						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

各種疾患、病態、栄養アセスメント、栄養・食事療法

授業の概要

疾患・病態別栄養管理の後編として、腎・尿路系疾患（血圧調節と高血圧、腎炎症候群、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、腎盂腎炎、腎不全、糖尿病性腎症、人工透析）、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、喘息、肺炎）、精神・神経疾患（神経性やせ症・過食症、認知症など）、脳血管疾患・心疾患（脳卒中、心不全）、高尿酸血症（痛風）、がん、クリティカルケア、周術期、栄養障害について理解する。特に、成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法をそれぞれ関連付けて理解する。

英語表記 「Clinical Nutrition III」

到達目標

1	本講義では、各論の病態別栄養管理の後編として、腎・尿路系疾患、呼吸器疾患、精神・神経疾患、脳血管疾患・心疾患、高尿酸血症（痛風）、がん、クリティカルケア、周術期、栄養障害について、それぞれ成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法を関連付けて理解することを目標とする。
2	各種疾患における成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法についてポイントを説明できる。

教授方法

講義（毎回ランダムに質疑応答を実施）

小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨床栄養管理学Ⅱを修得済みであること。

授業計画

1	臨床栄養管理学Ⅱの振り返り
2	腎・尿路系疾患 血圧調節と高血圧、腎炎症候群
3	ネフローゼ症候群
4	慢性腎臓病、腎盂腎炎
5	腎不全、糖尿病性腎症、人工透析
6	呼吸器疾患
7	精神・神経疾患
8	脳血管疾患、心疾患
9	高尿酸血症（痛風）、がん
10	クリティカルケア（重症病態時の栄養管理）（多臓器不全）
11	クリティカルケア（熱傷）
12	周術期
13	栄養障害
14	そのほか、復習、まとめ

授業外における学習

講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。

質問や相談への対応

オフィスアワーは、別途指示する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。
小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズNEXT 新・臨床栄養学』 講談社（臨床栄養管理学Iで購入済）			
	適宜指示、または配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。

その他・特記事項

小テストは、必ずすべて受けておくこと。

臨床栄養管理学実習Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:57:21

開講年度	2022	学期	1期	シバースコード	F2160A	科目コード	F2160
担当教員	清水 昭雄						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

栄養ケアプロセス 一般治療食 特別治療食 展開食 アカデミックライティング

授業の概要

臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱを基礎として、傷病者・要支援者に対する栄養管理を行うための栄養ケアプロセスに基づき、栄養介入に必要な栄養スクリーニングおよびアセスメント、栄養補給法、特に経口栄養法について理解する。モデル献立および作成した献立について調理実習に実施する。実習を通じて医療施設や介護施設における栄養評価および介入、栄養プランニングの知識および技術を習得する。

到達目標

1	臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱを基礎として、傷病者・要支援者に対する栄養管理を行うための栄養介入に必要な身体計測、栄養補給法、特に経口栄養法について理解する。
---	--

教授方法

個人及びグループによる実習（調理実習含む）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨床栄養管理学Ⅰ

授業計画

1	オリエンテーション：実習の進め方、栄養ケアプロセス、身体計測の意義、栄養補給法（経口栄養法）の選択、一般治療食・特別治療食の分類、常食献立からの展開食について理解する。
2	栄養ケアプロセスについて：栄養管理の標準化について理解する
3	栄養スクリーニングと栄養アセスメントについて：様々な栄養スクリーニングと栄養アセスメント方法について理解し、栄養状態の評価について理解する。
4	栄養評価/身体計測（2名/組）/ビデオ視聴 身体計測：器具・機器を用いた身体計測を行い、測定部位、測定方法について理解する。 測定した値および算出した結果を基に、栄養評価を行う。
5	栄養評価/身体計測（2名/組）測定方法の確認 身体計測：器具・機器を用いた身体計測を行い、測定部位、測定方法について理解する。 測定した値および算出した結果を基に、栄養評価を行う。 臨床検査値：血液生化学検査項目について、栄養状態と栄養管理の関連を評価・考察する。
6	モデル献立の調理実習:摂食嚥下障害患者に対応するための嚥下調整食(嚥下食)のモデル献立を調理実習し、摂食嚥下障害について理解する。
7	嚥下調整食の献立作成:普通食から、摂食嚥下障害患者に対応するための形態調整食(嚥下食)への献立を展開させ、献立を作成する。
8	高齢者に対する、フレイルやサルコペニアの治療（エネルギー、たんぱく質）のための献立作成をする。
9	嚥下調整食(学生作成献立)の調理実習:各班で、7回目に作成した嚥下調整食の献立を調理実習する。
10	高齢者に対する、フレイルやサルコペニアの治療（学生作成献立）の調理実習：第8回で作成した献立を調理実習する。
11	モデル献立の調理実習：小児疾患 食物アレルギー（鶏卵・牛乳・小麦）食を調理実習し、食物アレルギー（鶏卵・牛乳・小麦）について理解する。
12	食物アレルギー食の献立作成：食物アレルギー食の献立を作成する。
13	モデル献立の調理実習:特別治療食の脂質調整食を調理実習する。
14	食物アレルギー食（学生作成献立）の調理実習：第12回で作成した食物アレルギー食の献立を調理実習する。

授業外における学習

各実習内容に沿った臨床栄養管理学Ⅰの理解、特に栄養療法について理解しておく。

質問や相談への対応

授業時間内および時間外（メール）での対応可能

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習への取り組み	50	実習班内での取り組み（積極性、協調性）、理解力
課題への取り組み	30	課題への理解、提出内容、提出時間、提出方法
主体的態度	20	実習に主体的に取り組んでいるか否か
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養管理学実習 傷病者の栄養管理プロセス演習 第6巻/医歯薬出版 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編・著/日本糖尿病協会・文光堂 ・腎臓病食品交換表 治療食の基準 第9版/医歯薬出版 ・理科系の作文技術 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・給食経営管理論実習/建帛社 ・給食経営管理論Ⅰ、Ⅱで使用するの教科書 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

栄養評価に必要な身体計測、各実習内容に沿った疾患の病態や病院食、食事療法を理解しておくこと

その他・特記事項

特になし

臨床栄養管理学実習Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:57:22

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	F2170A	科目コード	F2170
担当教員	清水 昭雄						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

栄養ケアプロセス 一般治療食 特別治療食 展開食 アカデミックライティング

授業の概要

臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱを基礎として、傷病者・要支援者に対する栄養管理を行うための栄養ケアプロセスに基づき、栄養介入に必要な栄養スクリーニングおよびアセスメント、栄養補給法、特に経口栄養法について理解する。モデル献立および作成した献立について調理実習に実施する。実習を通じて医療施設や介護施設における栄養評価および介入、栄養プランニングの知識および技術を習得する。

到達目標

1	臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱを基礎として、傷病者・要支援者に対する栄養管理を行うための栄養介入に必要な身体計測、栄養補給法、特に経口栄養法について理解する。
---	--

教授方法

個人及びグループによる実習（調理実習含む）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨床栄養管理学Ⅰ

授業計画

1	エネルギー調整食の献立作成:普通食の献立から特別治療食のエネルギー調整食(1,600kcal)へ展開させ、献立を作成する。
2	モデル献立の調理実習:特別治療食のたんぱく質・塩分調整食を調理実習する。
3	エネルギー調整食(学生作成献立)の調理実習:各班で、8回目に作成した特別治療食のエネルギー調整食の献立を調理実習する。
4	特別治療食のたんぱく質・食塩調整食の献立作成:常食の献立から特別治療食たんぱく質・食塩調整へ展開させ、献立を作成する。
5	モデル献立の調理実習:透析食のモデル献立を調理実習し、腎代替療法で注意が必要なリン・カリウム・食塩の調整について理解する。
6	特別治療食のたんぱく質・食塩調整食(学生作成献立)の調理実習:4回目に作成した特別治療食のたんぱく質・塩分調整食を調理実習する。
7	透析食の献立作成:特別治療食リン・カリウム・食塩量を考慮した透析食の献立を作成する。
8	経腸および頸静脈栄養療法について:経腸栄養製品を試飲することにより、経腸栄養療法について理解する。
9	透析食(学生作成献立)の調理実習:第7回で作成した透析食の献立を調理実習する。
10	糖尿病患者に対する集団栄養指導の指導案と指導媒体を作成する。
11	第10回で作成した媒体を用いて糖尿病患者に対する集団栄養指導を実施する。
12	腎臓病患者に対する集団栄養指導の指導案と指導媒体を作成する。
13	第12回で作成した媒体を用いて腎臓病患者に対する集団栄養指導を実施する。
14	臨床栄養管理実習Ⅱのまとめを行う。

授業外における学習

各実習内容に沿った臨床栄養管理学Ⅰの理解、特に栄養療法について理解しておく。

質問や相談への対応

授業時間内および時間外（メール）での対応可能

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習への取り組み	50	実習班内での取り組み（積極性、協調性）、理解力
課題への取り組み	30	課題への理解、提出内容、提出時間、提出方法
主体的態度	20	実習に主体的に取り組んでいるか否か

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養管理学実習 傷病者の栄養管理プロセス演習 第6巻/医歯薬出版 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編・著/日本糖尿病協会・文光堂 ・腎臓病食品交換表 治療食の基準 第9版/医歯薬出版 ・理科系の作文技術 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・給食経営管理論実習/建帛社 ・給食経営管理論Ⅰ、Ⅱで使用するの教科書 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

栄養評価に必要な身体計測、各実習内容に沿った疾患の病態や病院食、食事療法を理解しておくこと

その他・特記事項

特になし

臨床栄養管理学演習

更新日：2023/01/10 08:57:22

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	F2180A	科目コード	F2180
担当教員	清水 昭雄, 奥村 圭子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養ケア・マネジメント 栄養ケアプロセス 栄養評価 栄養診断 栄養介入 栄養モニタリング・評価 アウトカム管理システム

授業の概要

臨床栄養管理学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび臨床栄養管理実習Ⅰ、Ⅱで習得した知識を踏まえ、医療施設で実施されている栄養管理を行うために必要な「栄養ケア・マネジメント」「栄養ケアプロセス」の実際について理解する。各疾患の症例を題材として栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入（計画と実施）、栄養モニタリング・評価、アウトカム管理システム、栄養食事指導の知識や技術を習得する。

到達目標

1	臨床栄養管理学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび臨床栄養管理実習Ⅰ、Ⅱで習得した知識を踏まえ、医療施設で実施されている栄養管理を行うために必要な「栄養ケア・マネジメント」「栄養ケアプロセス」の実際について理解する。
---	--

教授方法

個人およびグループによる実習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱ

授業計画

1	オリエンテーション 授業の進め方 栄養ケア・マネジメント 栄養ケアプロセスの概要 栄養評価/食事調査（個人対応） 24時間思い出し法・食事摂取状況調査票・・・栄養摂取量の算出
2	高齢者の栄養ケアマネジメント/高齢者疑似体験 まなび体（高齢者用）を用いた疑似体験を行い、高齢者への対応について考察する。
3	栄養管理記録の作成 問題志向型システム（POS）の活用 栄養診断・PES報告の作成
4	栄養評価/食事調査のロールプレイ（2名/組） 聴き取りによる（24時間思い出し法・食事摂取状況調査票）食事調査・・・栄養摂取量の算出
5	食事調査・栄養管理記録の作成 24時間思い出し法・食事摂取状況調査法 栄養モニタリングの実施 問題志向型システム（POS）の活用、叙事的記録（SOAP）の書き方
6	症例検討（メタボリックシンドロームの栄養管理） 問題志向型システム（POS）の活用 叙事的記録（SOAP）の書き方1
7	症例検討（糖尿病の栄養管理） 問題志向型システム（POS）の活用 叙事的記録（SOAP）の書き方2
8	症例検討（腎臓病の栄養管理） 問題志向型システム（POS）の活用 叙事的記録（SOAP）の書き方3
9	症例検討（腎代替療法の栄養管理） 問題志向型システム（POS）の活用 叙事的記録（SOAP）の書き方4
10	症例検討（COPDの栄養管理） 問題志向型システム（POS）の活用 叙事的記録（SOAP）の書き方6
11	症例検討（低栄養・サルコペニア・褥瘡の栄養管理） 問題志向型システム（POS）の活用 叙事的記録（SOAP）の書き方7

12	外来栄養食事指導1/ロールプレイ 2名/組 演習症例の栄養診断・PES報告の作成
13	外来栄養食事指導2/ロールプレイ 2名/組 演習症例の栄養診断・PES報告の作成
14	演習のまとめ

授業外における学習

臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱを理解しておく。

質問や相談への対応

授業時間内および時間外

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
演習への取り組み	50	演習班内での取り組み（積極性、協調性）
課題への取り組み	30	課題に対する理解、提出内容、提出方法、提出期日、提出方法
主体的態度	20	演習に主体的に取り組んでいるか否か
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養管理学実習 傷病者の栄養管理プロセス演習 第6巻/医歯薬出版 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編・著/日本糖尿病協会・文光堂 ・腎臓病食品交換表 治療食の基準 第9版/医歯薬出版 ・理科系の作文技術 			
	各種疾患のガイドライン（最新版） 臨床栄養管理学の教科書			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

演習内容に沿った臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱの栄養療法を理解しておく。

その他・特記事項

カウンセリング演習で学んだことを活かして行う

公衆栄養学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:57:02

開講年度	2022	学期	3期	シバースコード	F2190A	科目コード	F2190
担当教員	草間 かおる						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

公衆栄養、健康・栄養問題、栄養政策

授業の概要

国・地域レベルでの健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した栄養政策について理解する。地域や集団の健康・栄養問題の現状と課題の理解として、国民健康・栄養調査結果、食育に関する意識調査などから国民の健康状態、食生活、食環境について学修する。さらに健康・栄養問題解決の方向に向けた健康・栄養政策として、管理栄養士・栄養士制度、行政栄養士の役割、健康増進、食育および関連法規を理解する。

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

到達目標

1	①公衆栄養学の意義と目的について説明できる。
2	②日本や諸外国の健康・栄養問題について説明できる。
3	③日本や諸外国の健康・栄養政策について説明できる。

教授方法

講義および小グループによる演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション公衆栄養学の概念
2	健康・栄養問題の現状と課題 (1) 国民健康・栄養調査結果
3	健康・栄養問題の現状と課題 (2) 健康状態の変化
4	健康・栄養問題の現状と課題 (3) 食事・食生活の変化
5	健康・栄養問題の現状と課題 (4) 食環境の変化
6	健康・栄養問題の現状と課題 (5) 世界が直面する健康・栄養問題
7	健康づくり施策と公衆栄養活動 (1) 公衆栄養活動の歴史、管理栄養士・栄養士制度
8	健康づくり施策と公衆栄養活動 (2) 地域保健法と地域における栄養・食生活の改善の基本指針
9	健康づくり施策と公衆栄養活動 (3) 食生活指針と食事バランスガイド
10	健康づくり施策と公衆栄養活動 (4) 食育基本法と食育推進基本計画
11	健康づくり施策と公衆栄養活動 (5) 健康増進法と健康増進計画
12	健康づくり施策と公衆栄養活動 (6) 生活習慣病対策と特定健康診査・特定保健指導
13	健康づくり施策と公衆栄養活動 (7) 母子保健法と母子保健事業
14	健康づくり施策と公衆栄養活動 (8) 世界の健康・栄養政策

授業外における学習

指定された事前課題に取り組む。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

定期試験	50	到達目標が達成できたか
小テスト・課題	30	知識の理解度
上記以外の授業評価	20	授業への積極的な参加状況、課題の提出状況
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	社団法人全国栄養士養成施設協会・公益財団法人日本栄養士会監修、井上浩一、草間かおる、村山伸子著：サクセス管理栄養士講座公衆栄養学. 第一出版株式会社			
	授業内で随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。

その他・特記事項

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。

公衆栄養学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:57:03

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F2200A	科目コード	F2200
担当教員	草間 かおる						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラム、食環境整備

授業の概要

地域社会の健康・栄養問題の解決に向けて、関係者や関係機関の横断的な連携・協働を促し、地域の状況に即した計画の立案、実践、評価、フィードバックを行うために必要な一連のマネジメントについて学修する。具体的には、地域診断、プログラムの課題抽出、目標設定、計画策定、事業計画作成、プログラムの実施、評価を学修する。また地域における健康・栄養活動の実践と展開として、母子保健、危機管理と食支援、食環境整備、介護予防支援についても学修する。

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

到達目標

1	①公衆栄養マネジメントについて説明できる。
2	②公衆栄養プログラム計画で目標設定ができる。
3	③地域の健康・栄養活動の実践と展開について説明できる。

教授方法

講義および小グループによる演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

公衆栄養学Ⅰを履修した者

授業計画

1	オリエンテーション地域における健康・栄養・食生活改善活動事例から学ぶ
2	公衆栄養マネジメントとは
3	公衆栄養マネジメント（1） アセスメント・地域診断
4	公衆栄養マネジメント（2） プログラムの課題抽出
5	公衆栄養マネジメント（3） プログラムの目標設定
6	公衆栄養マネジメント（4） プログラムの計画策定
7	公衆栄養マネジメント（5） プログラムの事業計画作成
8	公衆栄養マネジメント（6） プログラムの実施
9	公衆栄養マネジメント（7） プログラムの評価
10	食事摂取基準の地域集団への活用（1）
11	食事摂取基準の地域集団への活用（2）
12	地域における健康・栄養活動の実践と展開（1） 報告会からの学び
13	地域における健康・栄養活動の実践と展開（2） 食環境整備
14	地域における健康・栄養活動の実践と展開（3） 危機管理と食支援など

授業外における学習

指定された事前課題に取り組む。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標が達成できたかどうか
課題	20	丁寧に取り組んでいるか、わかりやすいか、論理的か
上記以外の授業評価	20	授業への積極的な参加状況、課題の提出状況
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	公衆栄養学Ⅰに同じ。			
	授業において随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。

その他・特記事項

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。

公衆栄養学実習

更新日：2023/01/10 08:57:23

開講年度	2022	学期	1期	シバ [®] コード [*]	F2210A	科目コード	F2210
担当教員	草間 かおる						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

食事調査、地域診断、事業計画

授業の概要

公衆栄養学Ⅰおよび公衆栄養学Ⅱ等において学んだことを基盤として、実践への展開（臨地実習）のための具体的な技能や姿勢を身に付ける。食事調査に関わる技能の修得と地域集団の評価を目的とした解析（食事摂取基準の活用を含む）、地域における健康・栄養に関する計画の立案などを中心に、グループ演習、発表（口頭、レポート）等を通して学修する。

到達目標

1	①国民健康・栄養調査方式の食事調査（調査員として）を理解し、実際に行動することができる。
2	②集団の食事摂取量データを適切に処理・解析することができる。
3	③地域における健康・栄養活動計画が立てられる。

教授方法

パソコン演習、グループ演習、口頭発表

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

食事調査法、公衆栄養学ⅠおよびⅡを履修した者

授業計画

1	オリエンテーション 地域集団の栄養評価の解析（1） 食品成分表の活用
2	地域集団の栄養評価の解析（2） 食事調査のコード化練習
3	地域集団の栄養評価の解析（3） 食事調査の確認面接、コード化および栄養計算
4	地域集団の栄養評価の解析（4） データ処理と分析
5	地域集団の栄養評価の解析（5） 食事調査データのエラーチェック
6	地域集団の栄養評価の解析（6） 食事摂取基準による栄養素等摂取量の評価
7	地域集団の栄養評価の解析（7） 集団の摂取量データを用いた分析
8	地域における健康・栄養計画の立案（1） 保健統計情報の収集
9	地域における健康・栄養計画の立案（2） 管内地域社会の理解
10	地域における健康・栄養計画の立案（3） 質問票調査の企画・設計
11	地域における健康・栄養計画の立案（4） 地域課題の検討
12	地域における健康・栄養計画の立案（5） 事業計画作成
13	地域における健康・栄養計画の立案（6） 事業計画の共有・発表
14	まとめ

授業外における学習

指定された事前課題（食事調査等）に取り組む。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
課題	30	丁寧に取り組んでいるか、わかりやすいか、論理的か	
口頭試問	50	公衆栄養学分野の知識の理解度	
上記以外の授業評価	20	授業への積極的な参加状況、課題の提出状況	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	鈴木三枝、中谷弥栄子編、公衆栄養学実習、第一出版			
	授業において随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。

その他・特記事項

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している

給食経営管理論Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:56:47

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F2220A	科目コード	F2220
担当教員	上延 麻耶						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

特定給食施設、マネジメント

授業の概要

給食施設における特定多数の人々の栄養管理を効率的かつ効果的に継続して実施していくためのシステムとマネジメントについて学習する。特定多数の人々の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために、給食運営や関連の資源を判断し、栄養面、安全面、経営管理全般の給食マネジメントを行う能力を養う。

到達目標

1	特定給食施設の栄養・食事管理と経営管理について説明できる。
2	給食運営や給食の提供に関わる資源を総合的に判断・評価し、安全面、栄養面、経済面など給食経営を適切にマネジメントするための知識を養う。

教授方法

講義形式で実施する。適宜、グループワークを実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	給食経営管理の概要
2	給食・特定給食施設の概念
3	給食の意義と目的
4	特定給食施設の種類、目的と役割
5	特定給食施設の種類、目的と役割
6	給食施設の特徴と管理栄養士・栄養士の役割（医療施設、高齢者施設）
7	給食施設の特徴と管理栄養士・栄養士の役割（児童福祉施設）
8	給食施設の特徴と管理栄養士・栄養士の役割（学校）
9	給食施設の特徴と管理栄養士・栄養士の役割（事業所）
10	給食における経営管理の概要、給食における資源の管理と活用
11	給食経営管理におけるマーケティングの役割、給食経営と組織
12	給食の運営管理、栄養管理
13	給食の運営管理、栄養管理
14	給食経営管理論Ⅰのまとめ

授業外における学習

指定された課題に取り組む。

質問や相談への対応

授業のはじめと終わり等に質問時間を設ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	70	基礎知識の理解度に応じて評価する。
課題	20	内容から授業の理解度に応じて評価する。
小テスト	10	基礎知識の理解度に応じて評価する。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Nブックス新版 給食経営管理論 第5版 岩井達ほか編 著 建帛社 日本人の食事摂取基準（2020年）の運用・実践 第一出版			
	給食経営管理用語辞典 日本給食経営管理学会編 第一出版 適宜、資料の配布や参考書を紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

給食経営管理は、管理栄養士にとって中枢となる業務です。本授業は、給食経営管理の実践につながる内容です。主体的に取り組んでほしいと思います。

その他・特記事項

特になし

食事設計論

更新日：2023/01/10 08:57:04

開講年度	2022	学期	1期	シバ スコード	F2240A	科目コード	F2240
担当教員	上延 麻耶						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養計画、食事計画、給食、献立

授業の概要

年齢、性別、身体および栄養状態の異なる個人や集団を対象に、目的に応じて適切な栄養・食事計画を立案できる力を培う。管理栄養士の関わる給食経営管理業務における栄養・食事計画の位置づけ、食事摂取基準を活用したPDCAサイクルに基づく栄養・食事計画を理解する。食事摂取基準に基づく給与栄養目標量の設定、食品構成表、献立と作業指示書の作成、食事の提供サービス、食事環境の整備、評価の具体的方法について実践的に学ぶ。

【ねらい】

栄養・食事計画の目的、食事摂取基準を活用したPDCAサイクルに基づく給与栄養目標量の設定、食品構成表・献立表の作成など、管理栄養士に必要な専門知識と技術を修得する。個人および集団に応じた適切な栄養・食事計画ができる力を養う。計画に基づき実施、評価・検討するために必要な基本的事項を理解し、実践につなげる力を養う。

到達目標

1	①給与栄養目標量、喫食者の嗜好、衛生面、経営面をふまえ、給食の条件に応じた食品構成と献立および作業指示書を作成できる。
2	②対象者の栄養評価に基づいた食事管理の目標について説明できる。
3	③食事摂取基準を活用して、個人および特定多数人に対する給与栄養目標量を決定する方法を説明できる。
4	④食環境整備における給食の意義とその機能を説明し、具体的な方法を説明できる。
5	⑤ライフステージ別（特定給食施設別）の食事計画や具体的な調理特性を概説できる。

教授方法

教科書および配布資料を用いて講義形式で行う。授業内容に応じて、個人またはグループで栄養・食事計画に取り組む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	食事設計の目的
2	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画①
3	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画②
4	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画③
5	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画①
6	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画②
7	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画③
8	食事設計における食品構成の役割と作成方法
9	献立作成の実際①
10	献立作成の実際②
11	献立作成の実際③
12	献立作成の実際④、食事設計の評価
13	対象者のライフステージ、特定給食施設の種類に応じた食事設計①
14	対象者のライフステージ、特定給食施設の種類に応じた食事設計②

授業外における学習

指定された課題に取り組む。

質問や相談への対応

授業のはじめに、前時の講義内容に関する質疑応答をおこなう。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	基礎知識の理解度に応じて評価する。
提出課題	40	内容から授業の理解度を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	給食経営管理論実習, 石田裕実他, 建帛社, 2018新版 給食経営管理論, 岩井達他, 建帛社, 2020			
	日本人の食事摂取基準(2020年版)の実践・運用, 食事摂取基準の実践・運用を考える会, 第一出版, 2020日本人の食事摂取基準(2020年版), 伊藤 貞嘉、佐々木 敏監修, 第一出版, 2020給食経営管理用語辞典, 日本給食経営管理学会監修, 第一出版, 2020調理のためのベーシックデータ第5版, 松本 伸子, 女子栄養大学出版部, 2018その他、授業中に適宜、参考書を紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

分からない点や疑問点は授業毎に解決する。

その他・特記事項

特異になし

給食経営管理実習Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:57:05

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	F2250A	科目コード	F2250
担当教員	上延 麻耶						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

給食経営管理、大量調理、衛生管理

授業の概要

PDCAサイクルに基づく給食の全体業務を理解し、給食経営を総合的にマネジメントできる基本的知識と技術を獲得する。給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、その他各分野で学習した理論を応用し、給食の計画・実施・評価に至る一切の業務を学生が主体的に実践する。グループは調理、配膳、食堂、洗浄班に分かれ、給食のテーマに基づき班ごとに給食を計画し、調理班の給食計画に基づき、給食を生産、喫食、評価する。

【ねらい】

給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、その他各分野で学習した理論を応用し、給食の計画・実施・評価に至る一連の業務を学生が主体的に実践することにより、PDCAサイクルに基づく給食経営の全体業務を理解する。また、給食施設のレイアウト、大量調理機器の特徴や扱い方、大量調理や衛生管理の手法を理解し、安全・衛生的に給食を実施できる技術を体得する。

到達目標

1	①「給食の運営」の評価のために必要なデータ収集と帳票の作成ができる。
2	②献立と食数に応じた食材料の発注・購入・検収・保管ができる。
3	③給与栄養目標量、喫食者の嗜好等をふまえ、給食の条件（設備、食材料費、調理従事者の技術と人数）に応じた食品構成の立案、期間献立の作成ができる。
4	④摂取量を把握し、食事計画の改善案を作成できる。
5	⑤衛生管理の方法を理解し、実施とその記録（帳票管理）が作成できる。
6	⑥設備条件および献立に応じた重要管理点（critical control point; CCP）の設定と管理ができる。
7	⑦定められた作業区域・時間・作業人員内で献立内容と食数（100食以上）に応じた調理作業を計画できる。
8	⑧生産および提供サービスにおける品質管理ができる。
9	⑨給食施設の種類の給食経営管理の特徴を理解し、運営計画を立てることができる。
10	⑩給食施設の種類の栄養管理の特徴を理解し、食事提供ができる。

教授方法

実習形式で実施する。グループに分かれ、給食の対象者・テーマに応じた給食計画を立案し、学内給食施設において生産、喫食、評価を行う。食事設計論で実施した内容を踏まえて進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、栄養・献立計画
2	栄養・献立計画
3	栄養・献立計画、作業計画1
4	栄養・献立計画、作業計画2
5	計画に基づく給食の実施1
6	計画に基づく給食の実施、評価、検討1
7	計画に基づく給食の実施2
8	計画に基づく給食の実施、評価、検討2
9	計画に基づく給食の実施3
10	計画に基づく給食の実施、評価、検討3
11	計画に基づく給食の実施4
12	計画に基づく給食の実施、評価、検討4
13	実習全体の評価、検討
14	まとめ

授業外における学習

情報収集、帳票類の記録、資料作成

質問や相談への対応

実習のおわりに、前時および当日の実習内容に関する質問や意見を受けつける。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	60	実習記録（帳票類）40%、課題20%
上記以外の授業評価	40	実習への参加態度30%、報告会での発表・討論10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	給食経営管理論実習, 石田裕実他, 建帛社, 2018			
	Nブックス給食経営管理論 第5版, 君羅満 他, 建帛社, 2015改訂新版大量調理 第5版, 殿塚婦美子 他, 学建書院, 2020給食経営管理用語辞典 第2版, 日本給食経営管理学会編, 第一出版, 2015イラストでみるはじめての大量調理, 殿塚婦美子 他, 学建書院, 2014調理のためのベーシックデータ第5版, 松本 伸子, 女子栄養大学出版部, 2018			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、食事設計論の内容を復習しておく。
 復習しておく。
 主体的に取り組む。

大量調理施設衛生管理マニュアルを

その他・特記事項

特になし

給食経営管理実習Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:57:06

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	F2260A	科目コード	F2260
担当教員	上延 麻耶						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

給食経営管理、大量調理、衛生管理

授業の概要

給食経営管理に関わる一連の業務を学生が主体的に実践することにより、PDCAサイクルに基づく給食経営の総合的マネジメント能力と技術を体得する。給食経営管理論実習Ⅰで獲得した基本的知識と技術を応用し、想定給食施設に応じた給食を計画し、学内の教職員や学生を対象に提供サービス業務を行う。対象団体の特性を理解した給食の提供について、高度な実践力と、臨機応変に対応できる応用力を涵養する。喫食者に対して給食を媒体とした栄養教育を行う。給食利用者からの評価をもとに、喫食者の満足のいく給食のあり方、給食サービスの方法について考察する。

到達目標

1	①定められた作業区域・時間・作業人員内で献立内容と食数に応じた調理作業を計画し実施できる。
2	②モデル施設の対象集団および経営資源に合わせた給食の計画、生産・提供、評価（判定）のサイクルを一巡することができる。
3	③顧客管理（サービスと情報提供）ができる。
4	④給食施設の想定条件に応じて、給食の目的、目標を理解するためにマーケティングの手法を用いた分析、給食運営に関わる費用分析ができる。
5	⑤基本食から目的に応じた献立展開ができ、複数の食種の生産管理と品質管理の計画ができる。

教授方法

実習形式で実施する。グループごとに給食施設を想定し、対象団体の特性に応じた栄養食事計画の立案、生産、提供サービスを実践する。第1回はオンライン授業。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

給食経営管理実習Ⅰを履修済であること。

授業計画

1	オリエンテーション 栄養・献立計画
2	栄養・献立計画
3	栄養・献立計画
4	計画に基づく給食の実施 1
5	計画に基づく給食の実施 2
6	計画に基づく給食の実施 3
7	計画に基づく給食の実施 4
8	評価・検討・報告会
9	栄養・献立計画
10	計画に基づく給食の実施 5
11	計画に基づく給食の実施 6
12	計画に基づく給食の実施 7
13	計画に基づく給食の実施 8
14	評価・検討・報告会

授業外における学習

帳票類の記録、資料作成

質問や相談への対応

実習のおわりに、前時および当日の実習内容に関する質問や意見を受けつける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習態度	60%	実習態度、取り組み状況を評価する。
授業レポート	40%	帳票類、課題の内容と提出状況を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	給食経営管理論実習, 石田裕実他, 建帛社, 2018			
	Nブックス給食経営管理論 第5版, 君羅満 他, 建帛社, 2015 改訂新版大量調理 第5版, 殿塚婦美子 他, 学建書院, 2020 給食経営管理用語辞典 第2版, 日本給食経営管理学会編, 第一出版, 2015 イラストでみるはじめての大量調理, 殿塚婦美子 他, 学建書院, 2014 調理のためのベーシックデータ第5版, 松本 伸子, 女子栄養大学出版部, 2018			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に取り組む。

その他・特記事項

特になし

総合演習

更新日：2023/01/10 08:57:41

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	F2270A	科目コード	F2270
担当教員	草間 かおる, 石井 陽子, 稲山 貴代, 杉山 英子, 小木曾 加奈, 白神 俊幸, 今村 晴彦, 上延 麻耶, 新保 みさ, 清水 昭雄, 中澤 弥子, 奥村 圭子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

基本的知識の整理と統合、学修の総まとめ、実践的応用力

授業の概要

管理栄養士として必要な基本的知識の整理、統合を目指し、4年間の学修の総まとめを行う。そのため、設定したテーマに沿って各分野から分析・考察を行うことにより、対象者に応じた栄養評価・管理を行うための知識・技術を習得する。さらに、新しい法制度やガイドライン等、最新の知識を学修することにより、実践的な応用力を高める。また、新しい法制度やガイドラインについても重点的に取り上げ、最新の知識を補足して理解を深める。

英語表記「Comprehensive Seminar」

到達目標

1	①食健康学科の各分野で学んできた内容を縦横にわたって復習することにより、獲得してきた知識を深化・定着させ、管理栄養士になるための力を身につける。
2	②社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、および給食経営管理論の各分野の内容を、管理栄養士になるために必要な水準で理解する。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション（担当：複数教員）
2	生化学のまとめと最新動向（担当：杉山）
3	基礎栄養学のまとめと最新動向（担当：白神）
4	解剖学・生理学・臨床医学、病理学のまとめと最新動向（担当：石井）
5	臨床栄養学のまとめと最新動向（担当：清水）
6	前半のまとめ、小テスト（担当：複数教員）
7	食品学・食品衛生学のまとめと最新動向（担当：小木曾）
8	調理学のまとめと最新動向（担当：中澤）
9	応用栄養学（食事摂取基準を含む）のまとめと最新動向（担当：稲山）
10	公衆衛生学のまとめと最新動向（担当：今村）
11	公衆栄養学のまとめと最新動向（担当：草間）
12	栄養教育論のまとめと最新動向（担当：新保:）
13	給食経営管理論のまとめと最新動向（担当：上延）
14	後半のまとめ、小テスト（担当：複数教員）

授業外における学習

各担当者から提示された課題に各自取り組む。

質問や相談への対応

オムニバス形式であるため、質問や相談等は担当者ごとに原則として授業中や授業の前後に受け付ける。やむを得ない場合は、担当者へのメールで受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	管理栄養士として必要な各分野の基本的知識、重要事項、最新の知識について理解しているか、また、各分野の知識を統合し、実践的な応用力を修得しているか。
小テスト	60	毎回の授業の中で確認、整理した各分野の基本的知識や重要事項について正しく理解しているか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に問題意識をもって授業に取り組むこと。

その他・特記事項

オムニバス方式・共同（一部）

臨地実習事前事後指導

更新日：2023/01/10 08:57:07

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	F2280A	科目コード	F2280
担当教員	上延 麻耶, 清水 昭雄, 草間 かおる, 奥村 圭子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

給食経営管理論、臨床栄養学、公衆栄養学、食育、臨地実習

授業の概要

給食経営管理論、臨床栄養学、公衆栄養学及び食育の各分野における臨地実習を行うにあたり、実習前は、実習の心構えを理解し、社会人として適切な身だしなみや礼儀等を身に付け、各実習の目的・目標を達成するために必要な事前学習や課題検討を行う。また、実習後には目的・目標が達成されたかどうかの確認を行い、実習報告会の開催により、管理栄養士の役割と現場に必要な知識・技術に関する総合的な理解を深める。

到達目標

1	実践活動の場を通して、給食経営に関連する様々な資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等全般のマネジメントを行う能力（給食経営管理論）、疾病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を行うための能力（臨床栄養学）、地域や職場等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力（公衆栄養学）を養う臨地実習に対して、積極的に取り組むことができるように、実習前の準備と課題検討、実習後のまとめを行う。
---	---

教授方法

講義、演習、オムニバス方式・共同（一部）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

各実習において異なるため、食健康学科臨地実習履修要領（学生便覧）を参照する。

授業計画

1	ガイダンス
2	臨地実習Ⅰ（学校給食センター）・臨地実習Ⅵ（給食施設）における事前指導①
3	臨地実習Ⅰ（学校給食センター）・臨地実習Ⅵ（給食施設）における事前指導②
4	臨地実習Ⅱ（病院）・臨地実習Ⅳ（福祉施設）における事前指導①
5	臨地実習Ⅱ（病院）・臨地実習Ⅳ（福祉施設）における事前指導②
6	臨地実習Ⅲ（保健所）・臨地実習Ⅶ（保健所）・臨地実習Ⅴ（保育所・特別支援学校）における事前指導①
7	臨地実習Ⅲ（保健所）・臨地実習Ⅶ（保健所）・臨地実習Ⅴ（保育所・特別支援学校）における事前指導②
8	臨地実習Ⅰ（学校給食センター）・臨地実習Ⅵ（給食施設）における事後指導
9	臨地実習Ⅰ（学校給食センター）・臨地実習Ⅵ（給食施設）の報告会
10	臨地実習Ⅱ（病院）・臨地実習Ⅳ（福祉施設）における事後指導
11	臨地実習Ⅱ（病院）・臨地実習Ⅳ（福祉施設）の報告会
12	臨地実習Ⅲ（保健所）・臨地実習Ⅶ（保健所）・臨地実習Ⅴ（保育所・特別支援学校）における事後指導
13	臨地実習Ⅲ（保健所）・臨地実習Ⅶ（保健所）・臨地実習Ⅴ（保育所・特別支援学校）の報告会
14	次年度生への伝達講習

授業外における学習

各実習で随時知らせる。

質問や相談への対応

各実習担当者へ授業中および授業前後にメール等で知らせる。

成績評価

共通の評価基準	S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	60	事前および事後の課題提出物を合わせて評価する。また、その他の評価と合計し、60点以上を合格とする。

上記以外の授業評価	40	授業への取り組み度（20%）、発表・討論（20%）
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	田中貞一郎ほか, 管理栄養士・栄養士になるための国語表現, 萌文書林, 東京, 2018			
	各実習で随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

常に真摯な態度で、積極的に臨むこと。

その他・特記事項

各実習で随時知らせる。

臨地実習Ⅰ（学校給食センター）

更新日：2023/01/10 08:57:07

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F2290A	科目コード	F2290
担当教員	上延 麻耶						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

給食の運営、大量調理、学校給食、給食経営管理

授業の概要

学校給食センターにおいて、栄養食事管理、食材管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、原価管理、事務管理等の給食経営管理に関わる実務の実際を体験し学修する。また、組織管理等マネジメントの基本的な考え方や方法、給食従事者の役割やコミュニケーションの取り方などを学修するとともに、給食の関連資源を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。

【ねらい】

給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。

到達目標

1	①管理栄養士の使命や役割、協働する関連職種との関わりを説明できる。
2	②協働する関連職種を例挙し、それぞれの役割を説明できる。
3	③社会人として適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀について、実践できる。
4	④HACCP システム等に基づく大量調理の理論と実際に食事が提供されるまでの一連のプロセスを理解できる。
5	⑤業務日誌、報告書作成等の基本事項を理解し、作成できる。
6	⑥学校における食育の一環としての給食の意義、目的等を説明できる。
7	⑦子どもの発育段階に応じた栄養介入のための献立作成ができる。

教授方法

学校給食センターにおいて、グループごとに実習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ、食事設計論、食事摂取基準の単位を修得していること（一部見込み含む）。

授業計画

1	オリエンテーション
2	実習施設の概要
3	実習課題の計画
4	実習施設での課題への取り組み1
5	実習施設での課題への取り組み2
6	実習施設での課題への取り組み3
7	実習施設での課題への取り組み4
8	実習施設での課題への取り組み5
9	実習施設での課題への取り組み6
10	実習施設での課題への取り組み7
11	実習施設での課題への取り組み8
12	まとめ・自己評価
13	実習報告会1
14	実習報告会2

授業外における学習

指定された課題に取り組む。

質問や相談への対応

実習事前事後指導の時間に質問や意見を受けつける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	30%	実習先および実習課題に関する事前学習（15%）、実習の事後学習（15%）
上記以外の授業評価	70%	実習先からの評価（30%）、巡回指導教員からの評価（20%）、報告会での発表・討論（20%）
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	管理栄養士・栄養士になるための国語表現, 田上 貞一郎, 萌文書林 (2017)			
	適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし

臨地実習Ⅱ（病院）

更新日：2023/01/10 08:57:24

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F2300A	科目コード	F2300
担当教員	清水 昭雄						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

医療施設，栄養ケアプロセス，栄養食事指導，チーム医療，多職種連携

授業の概要

医療施設において管理栄養士等の指導・監督のもと，医療における栄養・食事管理や栄養食事指導について理解し，症例検討を通して栄養ケアプロセスに関わる知識・技術を体験することにより，医療現場の管理栄養士の専門性を学ぶ。また，チーム医療としてのNSTや褥瘡回診，カンファレンス等に参加し，多職種とのコミュニケーションや多職種連携による栄養ケアについて理解する。

英語表記「Field Practice II (Clinical Nutrition)」

到達目標

1	①臨床現場における管理栄養士の業務を観察・体験することにより，医療における栄養ケアプロセスを理解し，チーム医療の一員としての管理栄養士の考え方や対象者に適した栄養管理の方法を習得する。
2	②栄養管理と給食管理の相互関係，各種疾患の食事療法，栄養補給法，栄養・食品と薬剤の相互作用，栄養食事指導等それぞれを総合的に捉えることができる。

教授方法

演習（臨地実習事前事後指導）

医療施設における管理栄養士等による講義・実習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨地実習Ⅰを修得済みであること。

授業計画

1	医療施設の概要と特徴，現場における基本的な心構え，実習内容の説明，施設見学等
2	栄養部門業務の概要，医療施設における管理栄養士その他医療スタッフの役割，多職種連携
3	栄養・食事管理の実際
4	栄養管理報告書の実際，栄養記録の実際
5	嗜好調査・摂食量調査の実際
6	嗜好調査・摂食量調査の実際
7	集団栄養食事指導の計画，栄養教育媒体作成
8	集団栄養食事指導の実施・評価
9	チーム医療，クリニカルパスの実際
10	ベッドサイド訪問
11	NST 回診，褥瘡回診への参加
12	カンファレンスへの参加
13	症例検討，栄養ケアプロセス
14	報告・反省会，まとめ

授業外における学習

実習前・中・後の取組み度を平常点として評価する。

質問や相談への対応

臨地実習ノートに記載の大学担当者の連絡先経由で適宜対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習施設の評価	70	実習施設の管理栄養士による評価とする。
臨地実習ノート	20	気づきやまとめ方を中心に評価する。
取組み度	10	実習前・中・後の取組み度を平常点として評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	臨床栄養管理学，給食経営管理論，栄養教育論の教科書			
	臨地実習事前指導時の配布資料および実習施設からの配布資料			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

目的意識をもって臨むこと。

その他・特記事項

実習期間が長いので、体調管理に十分留意すること。

臨地実習Ⅲ（保健所）

更新日：2023/01/10 08:57:24

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シバスコト*	F2310A	科目コード	F2310
担当教員	草間 かおる						
備考	実験・実習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

地域診断、社会資源、行政管理栄養士

授業の概要

保健所または保健センターなどにおいて、地域におけるQOLの向上や健康状態の改善を考えた公衆栄養活動や栄養改善事業を理解し、管理栄養士の役割および業務について実習する。また、栄養・食生活情報を収集・分析し、総合的な評価・判定について学ぶ。

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

到達目標

1	①地域等の健康・栄養問題およびそれらを取り巻く要因を説明できる。
2	②地域診断（地域等の健康・栄養問題の把握）の方法を説明できる。
3	③地域の栄養プログラム等について、関連する健康・栄養問題や法的根拠を説明できる。
4	④地域の栄養プログラム等の計画・実施・評価がどのように行われているか説明できる。
5	⑤地域の健康・栄養に関連する組織と社会資源が説明できる。
6	⑥行政管理栄養士の業務と役割を説明できる。
7	⑦連携・協働するために、他職種の役割と専門性を説明できる。

教授方法

各実習施設において講義、見学、演習等を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習、食事調査法、社会福祉学、公衆衛生学、公衆衛生学実習を履修した者

授業計画

1	組織体制・管内の現況
2	公衆衛生行政の概要（保健所、保健センターの役割）
3	管理栄養士の業務の概要、関連法規
4	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（1） 地域における実態把握、分析、課題の明確化
5	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（2） 課題の解決に向けた計画の立案・施策化
6	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（3） 政策を評価するための目標設定・評価の実施
7	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（1） 専門的な栄養指導、食生活支援
8	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（2） 食生活改善推進員等に係るボランティア組織の育成や活動の支援
9	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（3） 関係機関および団体との連例
10	食を通じた社会環境の整備（1） 特定給食施設における栄養管理状況の把握および評価に基づく指導・支援
11	食を通じた社会環境の整備（2） 飲食店におけるヘルシーメニューの提供等の促進（食環境整備）
12	食を通じた社会環境の整備（3） 地域栄養ケア等の拠点の整備
13	食を通じた社会環境の整備（4） 保健、医療、福祉および介護用域における管理栄養士・栄養士の育成
14	実習指導者を招いての実習報告会

授業外における学習

実習先からの事前課題への取り組みなど

質問や相談への対応

質問は授業中および授業前後に受け付ける。質問の回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。

kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習ノート	60	丁寧に取り組んでいるか、わかりやすいか、論理的か
上記以外の授業評価	40	実習指導者による評価、実習報告会での発表
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	随時知らせる。			
	随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

現場で学ぶことができる大変貴重な機会なので、常に真摯な態度で、積極的に臨むこと。

その他・特記事項

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。

臨地実習Ⅳ（福祉施設）

更新日：2023/01/10 08:57:25

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F2320A	科目コード	F2320
担当教員	奥村 圭子						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

福祉施設 栄養ケアマネジメント

授業の概要

福祉施設において管理栄養士の指導・監督のもと、現場における栄養ケアマネジメントを理解し、実際の症例検討をとおして、栄養ケアに関わる知識・技術を体験することにより、福祉施設の管理栄養士の専門性を学ぶ。

また、NST、カンファレンス等に参加し、多職種とのコミュニケーションや他職種連携による栄養ケアについて理解する。

到達目標

1	福祉施設における管理栄養士の業務を観察・体験することにより、福祉施設の栄養ケア・マネジメントシステムを理解し、管理栄養士の役割および対象者に適した栄養管理の意義や方法を学ぶ。現場の業務を一つのシステムとして理解し、栄養管理と給食管理の相互関係、栄養管理方法、栄養・食事提供方法、栄養食事指導等の方法を学習し、それぞれの業務が果たす役割と機能を理解する。
---	--

教授方法

福祉施設における管理栄養士等の講義・実践 他職種連携

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論

授業計画

1	福祉施設の概要、現場における基本的な態度・心構え、実習内容の説明等
2	福祉施設における管理栄養士その他スタッフの役割について説明
3	他職種連携、チーム医療について説明
4	給食管理の実際
5	給食管理の実際
6	給食管理の実際
7	給食管理の実際
8	給食管理の実際
9	給食管理の実際
10	栄養管理の実際
11	栄養管理の実際
12	栄養管理の実際
13	栄養管理の実際
14	栄養管理の実際

授業外における学習

臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論、事前・事後指導

質問や相談への対応

臨地実習ノートに記載の大学担当者の連絡先で対応

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習の出席状況	80	福祉施設の管理栄養士による評価
臨地実習ノート	10	自己評価も含め総合的に評価する

実習への取り組み	10	福祉施設の管理栄養士の評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論関連の教科書 臨地実習ノート			
	施設側からの資料			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

福祉施設における栄養管理と給食管理の相互関係の実際を観察・体験し、その連携方法等について理解すること。管理栄養士の役割について学ぶ。

その他・特記事項

対象者が高齢者となるので、自身の体調管理に十分注意すること。

臨地実習 V (保育所・特別支援学校)

更新日：2023/01/10 08:57:27

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	F2330A	科目コード	F2330
担当教員	奥村 圭子						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

臨地実習、食育、保育園、特別支援学校

授業の概要

保育所または特別支援学校において、保育や教育・食育活動の参観、給食の調理・配膳、喫食状況の参観などの実習を通して、子どもの発達段階や障がいに応じた食育を行うための能力を養う。

到達目標

1	①子どもの心身の発達と生活に基づいた食の提供と食育について理解する。
2	②食育における管理栄養士・栄養士の役割を理解する。
3	③家庭、地域、他職種等と連携しながら食育を推進する能力を高める。

教授方法

実習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨地実習ⅠとⅢの単位を修得していること。

授業計画

1	オリエンテーション
2	施設の概要（教育方針や特色）
3	管理栄養士・栄養士の業務の概要
4	保育や教育活動の参観
5	発達段階や障がいに応じた給食の実態①
6	発達段階や障がいに応じた給食の実態②
7	発達段階や障がいに応じた給食の実態③
8	発達段階や障がいに応じた給食の実態④
9	給食の喫食状況の参観
10	食育活動の参観
11	食育活動の検討・教材作成①
12	食育活動の検討・教材作成②
13	食育活動の実施
14	実習の振り返り

授業外における学習

- ・課題に取り組む。
- ・臨地実習ノートを記入する。

質問や相談への対応

質問や相談は随時受け付ける。

新保みさ(居室：H408、メールアドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習ノート	50	臨地実習ノートや課題への取り組みを評価する。

実習施設の評価	50	実習施設からの評価を点数化する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	臨地実習ノート、臨地実習の手引書を配布する。			
	適宜、指示・配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的な姿勢で実習に取り組むこと。

その他・特記事項

実習内容や課題は実習受け入れ施設によって異なる。

臨地実習VI（給食施設）

更新日：2023/01/10 08:57:28

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	F2340A	科目コード	F2340
担当教員	上延 麻耶						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

給食経営管理、事業所給食、給食サービス

授業の概要

給食施設において、栄養食事管理、食材管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、原価管理、事務管理等の給食経営管理に関わる実務の実際を体験し学修する。組織管理等マネジメントの基本的な考え方、給食施設における管理栄養士の役割や業務について理解を深め、給食の関連資源を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントできる能力を養う。

給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。

到達目標

1	・給食施設における管理栄養士の使命や役割、業務を説明できる。
2	・協働する関連職種との関わりとそれぞれの役割を説明できる。
3	・業務日誌、報告書作成等の基本事項を理解し、作成できる。

教授方法

給食施設において、グループごとに実習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

臨地実習Ⅰ～Ⅲの単位を取得していること。

授業計画

1	オリエンテーション
2	実習施設の概要
3	実習課題の計画
4	実習施設での課題への取り組み1
5	実習施設での課題への取り組み2
6	実習施設での課題への取り組み3
7	実習施設での課題への取り組み4
8	実習施設での課題への取り組み5
9	実習施設での課題への取り組み6
10	実習施設での課題への取り組み7
11	実習施設での課題への取り組み8
12	まとめ・自己評価
13	実習報告会1
14	実習報告会2

授業外における学習

指定された課題に取り組む。

質問や相談への対応

実習事前事後指導の時間に質問や意見を受けつける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業レポート	30%	実習先および実習課題に関する事前学習（15%）、実習の事後学習（15%）
上記以外の授業評価	70%	実習先からの評価（30%）、巡回指導教員からの評価（20%）、報告会での発表・討論（20%）
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	管理栄養士・栄養士になるための国語表現, 田上 貞一郎, 萌文書林 (2017)			
	適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし

臨地実習Ⅶ（保健所）

更新日：2023/01/10 08:57:29

開講年度	2022	学期	2期, 3期, 4期	シラバスコード	F2350A	科目コード	F2350
担当教員	草間 かおる						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2・3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

地域診断、社会資源、行政管理栄養士

授業の概要

保健所または保健センターなどにおいて、地域におけるQOLの向上や健康状態の改善を考えた公衆栄養活動や栄養改善事業を理解し、管理栄養士の役割および業務について実習する。また、栄養・食生活情報を収集・分析し、総合的な評価・判定について学ぶ。

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

到達目標

1	①地域等の健康・栄養問題およびそれらを取り巻く要因を説明できる。
2	②地域診断（地域等の健康・栄養問題の把握）の方法を説明できる。
3	③地域の栄養プログラム等について、関連する健康・栄養問題や法的根拠を説明できる。
4	④地域の栄養プログラム等の計画・実施・評価がどのように行われているか説明できる。
5	⑤地域の健康・栄養に関連する組織と社会資源が説明できる。
6	⑥行政管理栄養士の業務と役割を説明できる。
7	⑦連携・協働するために、他職種の役割と専門性を説明できる。

教授方法

各実習施設において講義、見学、演習等を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習、食事調査法、社会福祉学、公衆衛生学、公衆衛生学実習を履修した者

授業計画

1	組織体制・管内の現況
2	公衆衛生行政の概要（保健所、保健センターの役割）
3	管理栄養士の業務の概要、関連法規
4	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（1） 地域における実態把握、分析、課題の明確化
5	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（2） 課題の解決に向けた計画の立案・施策化
6	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（3） 政策を評価するための目標設定・評価の実施
7	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（1） 専門的な栄養指導、食生活支援
8	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（2） 食生活改善推進員等に係るボランティア組織の育成や活動の支援
9	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（3） 関係機関および団体との連携
10	食を通じた社会環境の整備（1） 特定給食施設における栄養管理状況の把握および評価に基づく指導・支援
11	食を通じた社会環境の整備（2） 飲食店におけるヘルシーメニューの提供等の促進（食環境整備）
12	食を通じた社会環境の整備（3） 地域栄養ケア等の拠点の整備
13	食を通じた社会環境の整備（4） 保健、医療、福祉および介護用域における管理栄養士・栄養士の育成
14	実習指導者を招いての実習報告会

授業外における学習

実習先からの事前課題への取り組みなど

質問や相談への対応

質問は授業中および授業前後に受け付ける。質問の回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。

kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習ノート	60	丁寧に取り組んでいるか、わかりやすいか、論理的か
	40	実習指導者による評価、実習報告会での発表
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	随時知らせる。			
	随時知らせる。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

現場で学ぶことができる大変貴重な機会なので、常に真摯な態度で、積極的に臨むこと。

その他・特記事項

担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。

ゼミナール

更新日：2023/01/10 08:57:37

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	F2360A	科目コード	F2360	
担当教員	草間 かつる, 石井 陽子, 稲山 貴代, 杉山 英子, 加藤 孝士, 小木曾 加奈, 白神 俊幸, 今村 晴彦, 上延 麻耶, 新保 みさ, 清水 昭雄, 中澤 弥子							
備考	演習/必修//							
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科						
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1		

キーワード

スタディスキル 論理的思考 コミュニケーション能力

授業の概要

3年次3学期からの卒業研究の準備のため、担当教員の指導のもと、少人数のゼミ形式により、学生同士・教員の交流を深めるとともに、さまざまなスタディスキルを修得する。具体的には、ゼミごとに、一定のテーマに沿って、ディスカッションやプレゼンテーションを行い、論理的思考を涵養し、コミュニケーション能力を高める。また、状況によって卒業研究に向けた事前の予備研究や予備調査を実施する。

英語表記「Seminar」

到達目標

1	①研究テーマに沿って調査研究、実験研究、文献研究等を行うための基本を修得する。
2	②基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成できる。
3	③聞き手にわかりやすい図表や発表スライドを作成できるとともに、わかりやすく説明できる。
4	④論理的思考に基づき、意見や質問を積極的に述べる力を養う。

教授方法

演習形式。一部時間割上での実施ができない場合は、担当教員とゼミ生との間で日程を柔軟に調整して実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	3年次3学期からの卒業研究に向けて、準備のための基本的な学修を行う。オリエンテーションとして、自分の研究に対する考えをアピールするとともに、相手のことを知る。また、ゼミナールの意義・位置づけ、進め方、何を学ぶか、卒業研究の入り口までの流れを知る。
2	研究題材の選び方、学術論文等の検索の仕方、実験・調査の方法、まとめ方、上手なスライド作成・プレゼンテーションの仕方について学ぶ。
3	論文抄読とディスカッション（基礎編）
4	論文抄読とディスカッション（応用編）
5	担当教員が指示するテーマについて論文等を検索し、情報収集を行う。
6	テーマに関して収集した情報について、まとめる。
7	プレゼンテーションの準備
8	まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする。
9	①個人で興味のあるテーマについて論文等を検索し、情報収集を行う。あるいは、①予備実験・調査の立案・計画
10	②テーマに関して収集した情報について、まとめる。あるいは、②予備実験・調査の実施準備
11	③プレゼンテーションの準備、あるいは、③予備実験・調査の実施
12	④まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする（前半）。あるいは、④予備実験・調査の実施
13	⑤まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする（後半）。あるいは、⑤予備実験・調査の結果の解析とまとめ、プレゼンテーションの準備
14	⑥総まとめ、あるいは、⑥プレゼンテーションとディスカッション、総まとめ

授業外における学習

担当教員から適宜提示された事前・事後の課題に、個人またはグループで取り組む。

質問や相談への対応

質問や相談は、原則として授業中（前後を含む）に受け付ける。担当教員が必要に応じた対応を指示する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題	60	担当教員からの提示課題や個人の課題に対する取り組みとその内容、また提出状況等を総合的に判断する。
上記以外の授業評価	40	平常点（取り組み度）、実施内容やディスカッションへの主体的な参加度合いをみる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。			
	担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加すること。また、一部実施日程が変則的になる場合があることを理解しておくこと。

その他・特記事項

正当な理由を除き、学生の個人的な理由により極端に参加度が低いとみなされる場合、評価対象外になり、単位が不認定になる場合がある。

卒業研究

更新日：2023/01/10 08:57:37

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバスコト	F2370A	科目コード	F2370
担当教員	草間 かつお, 石井 陽子, 稲山 貴代, 杉山 英子, 加藤 孝士, 小木曾 加奈, 白神 俊幸, 今村 晴彦, 上延 麻耶, 新保 みさ, 清水 昭雄, 中澤 弥子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	3	

キーワード

考察力 総合力 まとめる能力 プレゼンテーション能力

授業の概要

担当教員の指導と助言のもとに、3年次3学期から1年半をかけて卒業研究を行う。選択した興味ある研究テーマにそって、卒論研究のための導入・準備、情報収集、論文抄読会、実験・調査の構想・計画・実施、考察、ディスカッション、まとめ、卒業論文の作成、卒業論文発表会の準備、発表会における成果発表（プレゼンテーション）と質疑応答審査を行う。

英語表記「Graduation research」

到達目標

1	①論理的、科学的に考察する力を修得する。
2	②科学的エビデンスに基づき健康問題を解決する総合力を修得する。
3	③卒業研究を通じて、解析してまとめる能力と結果を発信する能力を養う。

教授方法

担当教員の指導と助言のもと、学生が個人またはグループで研究テーマに基づき、実験、調査、文献研究を行う。適宜、担当教員の助言により、内容の追加・変更などの軌道修正を行ったり、さらに派生・発展させる。実験・調査の実施に関しては、担当教員とゼミ生との間で日程を柔軟に調整して実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：卒業研究の意義・位置づけ、進め方、何を学ぶか、卒業研究の流れについて理解する。
2	担当教員の指導や助言を通して、3年次3学期から1年半をかけて以下の①～④の内容について学ぶとともに、研究活動の一連の基本スキルを身につける。 ①研究テーマの設定（個人またはグループ）に始まり、研究テーマに必要な学術文献情報の収集、文献抄読、実験・アンケート調査・フィールドワーク・文献調査、解析、まとめ、論文の書き方を学ぶ。
3	担当教員の指導や助言を通して、3年次3学期から1年半をかけて以下の①～④の内容について学ぶとともに、研究活動の一連の基本スキルを身につける。 ①研究テーマの設定（個人またはグループ）に始まり、研究テーマに必要な学術文献情報の収集、文献抄読、実験・アンケート調査・フィールドワーク・文献調査、解析、まとめ、論文の書き方を学ぶ。
4	担当教員の指導や助言を通して、3年次3学期から1年半をかけて以下の①～④の内容について学ぶとともに、研究活動の一連の基本スキルを身につける。 ①研究テーマの設定（個人またはグループ）に始まり、研究テーマに必要な学術文献情報の収集、文献抄読、実験・アンケート調査・フィールドワーク・文献調査、解析、まとめ、論文の書き方を学ぶ。
5	担当教員の指導や助言を通して、3年次3学期から1年半をかけて以下の①～④の内容について学ぶとともに、研究活動の一連の基本スキルを身につける。 ①研究テーマの設定（個人またはグループ）に始まり、研究テーマに必要な学術文献情報の収集、文献抄読、実験・アンケート調査・フィールドワーク・文献調査、解析、まとめ、論文の書き方を学ぶ。
6	担当教員の指導や助言を通して、3年次3学期から1年半をかけて以下の①～④の内容について学ぶとともに、研究活動の一連の基本スキルを身につける。 ①研究テーマの設定（個人またはグループ）に始まり、研究テーマに必要な学術文献情報の収集、文献抄読、実験・アンケート調査・フィールドワーク・文献調査、解析、まとめ、論文の書き方を学ぶ。
7	担当教員の指導や助言を通して、3年次3学期から1年半をかけて以下の①～④の内容について学ぶとともに、研究活動の一連の基本スキルを身につける。 ①研究テーマの設定（個人またはグループ）に始まり、研究テーマに必要な学術文献情報の収集、文献抄読、実験・アンケート調査・フィールドワーク・文献調査、解析、まとめ、論文の書き方を学ぶ。
8	担当教員の指導や助言を通して、3年次3学期から1年半をかけて以下の①～④の内容について学ぶとともに、研究活動の一連の基本スキルを身につける。 ①研究テーマの設定（個人またはグループ）に始まり、研究テーマに必要な学術文献情報の収集、文献抄読、実験・アンケート調査・フィールドワーク・文献調査、解析、まとめ、論文の書き方を学ぶ。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業論文	50	卒業論文提出、発表会、論文審査の結果を総合的に評価する。
上記以外の授業評価	50	平常点（取り組み度）、卒業研究テーマに対する全般的な取り組み姿勢やディスカッションへの主体的な参加度合いを評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	各担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。			
	各担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。また、実際に実験や調査を行う際は、その特性上実施日程が変則的・不定期になると考えておくこと。

その他・特記事項

正当な理由を除き、学生の個人的な理由により極端に参加度が低いとみなされる場合、評価対象外になり、単位が不認定になる場合がある。

学校栄養教育論

更新日：2023/01/10 08:57:29

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	F3010A	科目コード	F3010
担当教員	柳沢 幸子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

栄養教諭 学校給食 食に関する指導

授業の概要

栄養教諭制度創設の経緯を知り、食に関する指導（教科等における指導、給食時間における指導、個別的な相談指導）に取り組むために必要な知識を身に付け、栄養教諭に期待される使命と役割、食に関する指導内容及び指導方法を理解する。

【ねらい】

栄養教諭が行う食に関する指導の具体的な指導内容や指導方法について理解し、実践力を身につける。

到達目標

1	①食に関する指導の全体計画の必要性を理化学し、児童生徒の実態を把握した全体計画が作成できる。
2	②給食時間における食に関する指導の実践方法を理解する。
3	③個別的な栄養相談に重要性を理解し、取り組み方を理解する。
4	④食に関する指導の全体計画にそった実践と成果、評価方法を身につける。

教授方法

基本は対面での授業

講義、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

栄養教諭論ⅠⅡの単位を修得していること

授業計画

1	オリエンテーション 栄養教諭制度の創設の経緯と栄養教諭の職務内容について理解する。（教科書第1章 栄養教諭の制度と役割） レポートー 学校給食の思い出
2	学校組織の中での栄養教諭の具体的な働き方がわかる。（教科書第2章 学校組織と栄養教諭）
3	学校給食の食事内容の推移や学校給食の歴史を理解する。（教科書第3章 学校給食と日本人の食生活）プレゼンテーションー学校給食の思い出
4	学校給食における地場産物の活用ー地域の食文化に化について理解する。（教科書第3章 学校給食と日本人の食生活）レポートー 学校給食に生かすという観点から 自分の出身地の地場産物や郷土食について調べてまとめる
5	子どもの発達と食生活についての現状や課題を把握して学校の食育に生かす重要性と活用法を理解する。（教科書第4章）
6	学校給食の給食管理について理解する。（学校給食の摂取基準の算出方法、衛生管理等）レポートー 学校給食の献立を1週間分作成する。
7	生きた教材としての学校給食の具体的な活用方法がわかる
8	学習指導要領の趣旨や内容を理解し、教育課程に位置づけ組織的・計画的な食育の取り組みを行うことの大切さを理解する（教科書第5章）
9	食に関する指導の指導の全体計画の必要性や考え方、計画に盛り込む内容や手順について理解する。（教科書第6章）ポーター食に関する指導の全体計画の作成
10	食に関する指導の展開（指導計画の作成、実践方法、成果及び評価）について理解する。（教科書第7章）ゲストスピーカーとのディスカッション（特別支援学校栄養教諭）
11	給食時間における食に関する指導の特徴や進め方、指導の留意点について理解する。（教科書第8章）レポートー 自分で作成した献立で給食時間の指導案作成
12	食育の教材として生かすための配慮 自分の作成した献立で給食時間の指導実践についてグループワーク。
13	個別的な相談指導野の義と方法がわかる。（偏食、肥満、痩身、食物アレルギー、スポーツ栄養等（教科書第10章）
14	家庭・地域社会との連携の意義と栄養教諭の役割り・連携方法について理解する。（教科書第11章）2学期のまとめ

授業外における学習

- 事前学習
シラバスにそって教科書等を熟読し疑問点や不明な事項を把握して授業に臨む。
- 事後学習
授業内容を復習して、知識や実践力を培う。

質問や相談への対応

- ・授業の前後等や授業中に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
柳沢メールアドレス gdsxf666@ybb.ne.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
筆記試験	60%	授業内容について理解し、学習のねらいを達成できているかについて評価する。
レポート	30%	課題の意図を理解して、自分の言葉で的確にまとめているかについて評価する。
授業態度	10%	主体的に授業に取り組んでいるかについて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「四訂栄養教諭—理論と実際—」金田雅代編著（建帛社）「食に関する指導の手引き—第二次改訂版—」（文部科学省）			
	食に関する指導に係る学習指導要領（文部科学省）食に関する指導に関わる教科書（文部科学省）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・予習・復習をして、疑問点や不明点は明確にしておく。
- ・積極的に授業に取り組んでほしい。

その他・特記事項

- ①栄養教諭としての経験を、学校組織、食に関する指導への取り組み、指導案作成、授業への取り組みに生かす。
- ②レポートの提出締め切りは厳守すること。

学校栄養教育実践論

更新日：2023/01/10 08:57:30

開講年度	2022	学期	3期	シバ [®] スコト [®]	F3020A	科目コード	F3020
担当教員	柳沢 幸子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

教科における食の指導 教科外の食の指導 指導案作成 模擬授業

授業の概要

食に関する指導の具体的な指導内容について実践演習し、その手法を習得する。栄養教諭に課せられている3つの職務のうち、児童生徒への教科、特別活動等における教育指導については、指導案（年間計画、関連教科、特別活動等）を作成し（plan）、模擬授業を行い（do）、相互評価を行う（check,act）。

また、連携指導（校内と家庭・地域等）についての食に関する指導のスキルを学習する。

【ねらい】

栄養教諭が行う食に関する指導の内容及び方法について理解し、実践力を培う。

到達目標

1	①食に関する指導の具体的な内容について理解する。
2	②食に関する指導に必要な様々な手法について理解する。
3	③食に関する指導を実施することができる。

教授方法

講義と演習を取り混ぜた方式。グループワーク等を随時取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

2学期「学校栄養教育論」を必ず履修すること。

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方について理解する。前期の振り返りを行う（学校教育の仕組みと学校教育計画）
2	教科における食に関する指導（教科書第9章—小中学校 家庭科 保健 生活 総合等）について理解する。
3	教科等における食に関する指導（教科書第9章—小中学校 特別活動 社会 理科等）
4	教科等における学習指導案の作成方法 授業演習の教科分担任決定（学習活動の項参照）
5	1単位時間の授業の進め方と留意事項について理解する。 演習一覧表配布し、演習準備を行う。
6	ブレインストーミング「栄養教諭が取り組む学校・家庭・地域の連携指導の進め方」
7	実践演習（模擬授業と相互評価）小学校45分 中学校50分
8	実践演習（模擬授業と相互評価） 小学校45分 中学校50分
9	実践演習（模擬授業と相互評価） 小学校45分 中学校50分
10	実践演習（模擬授業と相互評価） 小学校45分 中学校50分
11	実践演習（模擬授業と相互評価） 小学校45分 中学校50分
12	実践演習（模擬授業と相互評価） 小学校45分 中学校50分
13	実践演習（模擬授業と相互評価） 小学校45分 中学校50分
14	グループワーク「栄養教諭を目指して「～校栄養教育の学習を終了して思うこと～」とまとめ

授業外における学習

事前学習 レポートの作成等期日を守って仕上げ、授業に臨む。

事後学習 授業内容を復習し、理解を深める。レポートは期日を守って提出する。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中や授業の前後に受け付け、毎回授業のはじめに質問 についてコメントする。
- ・メールでの質問も受け付ける
柳沢メールアドレス：gdsxf666@ybb.ne.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	90%	授業内容を理解し、学習の狙いが達成できているかについて評価する。
授業態度	10%	自主的に授業に取り組んでいるかについて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		・四訂栄養教諭論—理論と実際—：金田雅編著 ・食に関する指導の手引き—第二次改訂版— 文部科学省・小学校学習指導要領解説（家庭科・体育科・特別活動・社会・生活）・中学校学習指導要領解説（技術家庭科（家庭分野）・保健体育科（保健分野）・特別活動）・小・中学校児童生徒用教科書（家庭科—開隆堂 体育・保健体育—東京書籍 社会—東京書籍 生活—東京書籍）			
		・楽しい食育 広がる食育（小学生用食育指導教材） 文部科学省・食の探求と社会への広がり（中学生用食育指導教材） 文部科学省・その他授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・主体的に課題やグループワークに取り組むこと。
- ・わからないことは質問等で明確にしておくこと。

その他・特記事項

- ・レポートの提出は期日を守ること。

学校栄養教育実習

更新日：2023/01/10 08:57:43

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	F3030A	科目コード	F3030
担当教員	新保 みさ						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

栄養教諭、教育実習

授業の概要

学校栄養教育実習では、実際の教育現場である小・中学校において、教育実習生として児童・生徒と接する。実習中は、各学校の教員による講話や学級担任の指導を受け、授業参観、児童・生徒の観察を行う。その内容は学校栄養教育実習記録に記載し、教育の実践を学び、実習校や児童・生徒への理解を深める。また、給食指導の参観や食に関する指導案の作成を行い、研究授業を実施する。研究授業は学級担任や栄養教諭の指導を経て実施し、授業分析を行う。

到達目標

1	・小・中学校での教育実習を通して、学校教育について学び、児童・生徒への理解を深めること。
2	・栄養教諭としての実践的な能力を身に付けること。

教授方法

小・中学校での教育実習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

栄養教諭養成課程における教育実習履修条件に該当する科目を全て修得していること。

授業計画

1	オリエンテーション
2	教育実習 [講話 (副校長) : 学校の概要、教育目標や校務分掌など]
3	教育実習 [講話 (各学級担任) : 学級経営、学習指導 (指導計画や授業の進め方) など]
4	教育実習 [講話 (養護教諭) : 児童・生徒の生活と健康に関すること]
5	教育実習 [講話 (栄養教諭) : 給食および食に関する指導に関すること]
6	教育実習 [授業参観、児童・生徒の観察、学級活動への参加①]
7	教育実習 [授業参観、児童・生徒の観察、学級活動への参加②]
8	教育実習 [授業参観、児童・生徒の観察、学級活動への参加③]
9	教育実習 [給食指導の検討]
10	教育実習 [給食指導の実施]
11	教育実習 [研究授業の指導案・教材作成①]
12	教育実習 [研究授業の指導案・教材作成②]
13	教育実習 [研究授業の実施・分析]
14	まとめ [実習の振り返り・課題の抽出]

授業外における学習

- ・研究授業等の準備をする。
- ・学校栄養教育実習記録を記入する。

質問や相談への対応

- ・質問や相談は随時メールで受け付ける。

メールアドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習記録	50	実習のねらいを達成できているかを評価する。

実習校の評価	50	実習校からの評価を点数化する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート（芦川修貳（監修）、学建書院） 栄養教諭論 理論と実際（金田昌代（編著）、建帛社） 食に関する指導の手引			
	適宜、指示・配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的な姿勢で実習に取り組むこと。

その他・特記事項

実習内容は実習校によって異なる。

学校栄養教育実習事前事後指導

更新日：2023/01/10 08:57:43

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバースコード	F3040A	科目コード	F3040
担当教員	新保 みさ						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

栄養教諭、指導案、教育実習

授業の概要

学校栄養教育実習事前事後指導は、栄養教諭免許取得に必須の科目である。学校栄養教育実習では、実際の学校教育現場で、栄養教諭としての実務を学び、食に関する指導案を作成し、研究授業を行う。学校栄養教育実習事前事後指導では、実習の前に、実習の目的や意義を学び、実習に臨む心構えを養い、給食指導や研究授業の準備を行う。実習後は、報告会を行い、相互の体験を共有して、成果や課題の分析を行う。これらの授業を通して、学校における食に関する指導への理解を深め、栄養教諭として必要な資質を身に付ける。

到達目標

1	①学校栄養教育実習の目的や意義を理解し、実習に臨む心構えを養うこと。
2	②学校栄養教育実習で行う給食指導や研究授業に向けた準備を整えること。
3	③実習の成果や課題を分析し、栄養教諭として必要な資質を身に付けること。

教授方法

演習、グループディスカッション

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

栄養教諭養成課程における教育実習履修条件に該当する科目を全て修得していること。

授業計画

1	オリエンテーション、事前指導 [学校栄養教育実習の目的・研究授業の実際]
2	事前指導 [学校栄養教育実習の手引き・実習記録の書き方]
3	事前指導 [研究授業へ向けた準備 (発達段階の理解と教材の検討)]
4	事前指導 [実習受け入れ校との打ち合わせ 実習校・児童生徒理解]
5	事前指導 [実習受け入れ校との打ち合わせ 給食・食に関する指導の実際]
6	事前指導 [給食指導の発表①]
7	事前指導 [給食指導の発表②]
8	事前指導 [研究授業の模擬授業①]
9	事前指導 [研究授業の模擬授業②]
10	事前指導 [研究授業の模擬授業③・学校栄養教育実習に向けて]
11	事後指導 [学校栄養教育実習の振り返り]
12	事後指導 [学校栄養教育実習の報告会準備]
13	事後指導 [学校栄養教育実習の報告会①]
14	事後指導 [学校栄養教育実習の報告会②・まとめ]

授業外における学習

- ・給食指導や研究授業の準備を行うこと。
- ・学校栄養教育実習記録に記入すること。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中や授業前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

メールアドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
指導案や発表内容	80	学習のねらいを達成できているかを評価する。
授業態度	20	主体的態度を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート（芦川修貳（監修）、学建書院） 栄養教諭論 理論と実際（金田昌代（編著）、建帛社） 食に関する指導の手引			
	適宜、指示・配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・主体的にディスカッションに参加すること。
- ・積極的に質問や意見などを発言すること。

その他・特記事項

教職実践演習においてもテキストを継続して使用する。

教育原論

更新日：2023/01/10 08:57:08

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	F3060A	科目コード	F3060
担当教員	木山 徹哉						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

教育の歴史、教育理念、教育制度、教育の機能、学校教育

授業の概要

教育の営みの歴史、理念、制度、内容や方法等について、基礎的・基本的な内容を学ぶ。具体的には、①学校の成り立ち、②教育に関する思想、③基本的法律と制度、④学校教育の内容・方法（学習指導要領や教科書等）、⑤教育の今日的課題、⑥家庭や地域社会の教育機能、などについて学び、今後の教育の果たすべき、あるいは果たすことのできる機能について考える。

到達目標

1	本授業の具体的な教育目標は、①今日に至る教育の営みの歴史（特に近代教育以降）に関する基礎的・基本的知識を習得すること、②教育の機会均等や義務教育、あるいは学習指導要領など、教育の理念や制度に関する基礎的・基本的知識を習得すること、③教育機関が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる機能について自分の意見を述べること、以上の3点である。
---	---

教授方法

教育に関する基本的情報については講義方式によって提供するが、集中講義の利点を活かして、基本的知識を習得にとどまらず、それら知識を基盤にした「討議」や「意見交換」などを多く用いて双方向の授業を展開する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

栄養教諭免許状取得希望者

授業計画

1	オリエンテーション 授業の概要、目標、評価の説明
2	子どもは何のために学ぶか（1）「なぜ学ばなければならない」「学校教育はなぜ必要か」などの「学び」や「教育」の必要性や機能について考える。
3	子どもは何のために学ぶか（2）学校はいつ、どのように生じたか、その後どのように歴史的展開を経たか、またその経緯の中で子どもはどのような対象として位置付けられてきたかを考える。
4	子どもをみつめる（1）社会構造の変化の中で、社会で、家庭で、また大人—子ども関係の中で子どもはどのように処遇されてきたかを考える。
5	子どもをみつめる（2）子どもはどのように成長発達すると捉えられてきたか（発達論的子ども論）を考える。
6	学びを支援するしくみ（1）憲法、教育基本法、学校教育法などの基本的法規は、子どもの学びをどのように支えてきたかを考える。
7	学びを支援するしくみ（2）義務教育制度を含む学校体系、教育行政のしくみ、教員の配置、教育内容の標準化など、子どもの学びの公平性や平等性をどのように支えてきたかを考える。
8	学びを支援する人々（1）「教職論」（1年次）での学習内容を確認しつつ、近年の教師の役割や今後の課題を考える。また、学校教育を支える教師以外の人々の役割機能について考える。
9	子どもは何を学ぶか（1）学習指導要領、教科書検定、教科書作成などの具体的内容を理解する。
10	子どもは何を学ぶか（2）”主体的な学習”、”生きる力”、”アクティブラーニング”などが主張される背景や意味について考える。
11	子どもは何を学ぶか（3）今後、子どもにどのような力を保障すべきかを考える。
12	学びの関係性（教室の中の”関係”）—”学級集団”の中の子どもの関係について考える。
13	「教育原論」を総括する（1）日本の学校教育が抱える課題を整理し、それら課題への対応について意見交換する。
14	「教育原論」を総括する（2）授業全体を振り返り、前回授業における各意見を整理、記録する。

授業外における学習

集中講義のため授業中に多くを処理するが、Teams等で個々に質疑応答をし、授業内容の習得を保障する

質問や相談への対応

Teams等を活用して適宜対応する

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

レポート	70%	基礎的な情報の理解に基づいて、授業における討議内容を踏まえながら客観的に意見を述べるができる。
討議参加	30%	授業の各テーマの意見交換において、客観的な情報に基づいて積極的に意見を述べるができる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	木山徹哉・太田光洋編著『教育原論－保育・教育を学ぶ6つの視点』ミネルヴァ書房2017			
	授業中に適宜示す			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

「討議」「意見交換」に積極的に参加すること

その他・特記事項

特になし

発達と教育の心理学

更新日：2023/01/10 08:57:09

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	F3070A	科目コード	F3070
担当教員	加藤 孝士						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

発達、教育、ライフステージ、学習

授業の概要

本講義では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を概説し、それに応じた学習のプロセスと学校教育及び子育て、家庭教育の基礎となる理論について学ぶ。また、障害等のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習のプロセスに言及する。それにより、個に応じた教育の在り方を学び、教育活動における基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。

到達目標

1	1.生涯にわたる子どもの発達と学習の特徴を理解する。
2	2.各発達段階でどのような関わり（教育）がよりよい成長・発達を導くのかを理解する。
3	3.講義の内容を基に、自らの興味あるテーマを探求するための基礎的知識を身に付ける。

教授方法

講義、及びグループワーク

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	発達と教育の心理学とは？（心理学における発達心理学・教育心理学の位置づけとその関係）
2	発達過程の理解（発達の原理と基礎的事項）
3	学習についての理解（人間の学びに関する基礎理論、教育心理学の基礎的事項）
4	学習についての理解（人間の学びに関する基礎理論、教育心理学の基礎的事項）
5	教育の在り方、教師の役割（よりよい発達を支える教師の在り方）
6	胎児期・新生児期・乳児期の発達・学習の特徴とその支援
7	幼児期の発達の特徴
8	幼児期の学びと支援
9	児童期の発達の特徴
10	児童期の学びと教育
11	障がいのある子どもの発達・学習の特徴
12	障がいのある子どもの支援と教育
13	社会変化に応じた幼稚園、小学校における教育の在り方
14	発達・教育の知識は、栄養教諭にどのように役立つのか？（まとめとして、授業で得られた知識をどのように生かしているのかをディスカッションし、理念を共有する。）

授業外における学習

適宜、課題を出します。

質問や相談への対応

授業後に質問を受けつけます。また、研究室（H404）にも相談に来てください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	論述及び選択型テスト
小テスト	20	確認テスト

レポート	20	課題レポート
授業参加	10	授業態度、ディスカッションの参加度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	『やさしく学ぶ発達心理学-出逢いと別れの心理学』 浜崎隆司・田村隆宏 編 (ナカニシヤ出版) 子ども家庭支援の心理学 — 保護者とともに子どもを支えるための心理学— 学文社			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

疑問を持ちながら、受講してください。

その他・特記事項

特になし

教育制度論

更新日：2023/01/10 08:57:38

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	F3080A	科目コード	F3080
担当教員	荒井 英治郎						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

教育制度

授業の概要

現代日本の教育制度改革の特徴は、戦後形成された教育制度のみならず、その制度を支える制度原理それ自体の再編を企図するものであるが、いかなる政策理念に基づいて、いかなる政策対象に、いかなる政策手法を講じていくか、多様な選択肢を検討していくことが求められている。そこで、本授業では、個々の法制度・法文の理解に留まることなく、現代日本の教育課題に即した制度的・経営的事項の構造的課題の分析を行い、今後の制度構想や教育政策のあり方を考察していく能力を習得していく。

到達目標

1	本授業では、教育に関する制度的・経営的事項に着目しながら、教育制度改革の諸動向と論争点・課題を理解し、教育改革の理論（理念）と実際（現実）を読み解く資質を修得することを目的とする。具体的には、教育実践に関する教育法規の知識として、日本の教育制度の法的構造、現行制度の概要、法制度の運用上の留意点を確認しながら、教育制度と教育実践との関係を具体的に理解するものとする。
---	---

教授方法

授業のスタイルとしては「講義方式」を採用するが、グループワークも併用し、主体的に学習できるような授業を展開するものとする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、社会環境の変化と教育・子育てと福祉（人口減少社会の到来、学校・家庭・地域の役割分担、子どもが抱える課題の複雑化・困難化など）
2	現代日本の教育課題と教育政策過程（学力・学習意欲・自己肯定感、教育政策の決定過程、教育政策の諸動向など）
3	公教育の原理・理念と構造（産業革命と近代国民国家の誕生、近代公教育の原則：義務性、無償性、中立性、就学義務と就学援助など）
4	公教育制度と教育基本法の改正（教育基本法改正、教育関係法規の改正動向など）
5	中央教育行政制度の改革（政治主導型教育改革、文部科学省・中央教育審議会、義務教育の構造改革、義務教育費国庫負担制度、県費負担教職員制度、教育振興基本計画、中央・地方関係の変化など）
6	地方教育行政制度の改革（教育委員会制度の改革動向、総合教育会議と教育大綱、設置者管理・負担主義、学校管理規則、指導主事制度と学校支援など）
7	学校経営・学級経営と学校評価制度（学校組織マネジメント、学級編制と教職員定数、校務分掌と主任制度、「新しい職」、職員会議の法的位置付け、自己評価・学校関係者評価・第三者評価など）
8	教職員制度の改革（教職の特殊性、教員の資質・能力の向上、免許更新制度、養成・採用・研修の制度、教職員の研修体系、教職大学院制度など）
9	学校関係者の働き方改革（教員の多忙化と業務改善、服務義務・処分、人事評価制度、メンタルヘルス、「チーム学校」論、学校事務職員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・部活動指導員など）
10	学校・家庭・地域の連携協力（開かれた学校づくり、家庭教育支援チーム、学校評議員、学校運営協議会、放課後子供教室、学校支援ボランティア、学校支援地域本部、地域学校協働本部、地域未来塾など）
11	教育内容・教科書をめぐる制度改革（教育課程と学習指導要領の改訂、教科書と補助教材、教科書検定・採択制度など）
12	学校健康教育の現状と課題（学校安全：災害安全・交通安全・生活安全、学校保健計画、健康診断、感染症予防、学校安全計画と学校事故、災害共済給付、学校給食とアレルギー対応など）
13	子どもをめぐる法的対応（いじめ対策、不登校支援、児童虐待防止、少年法制、懲戒と体罰、出席停止、指導要録など）
14	多様な学びとセーフティ・ネット（フリー・スクール、夜間学級、性の多様性・外国人児童生徒への対応、子どもの貧困対策など）

授業外における学習

- ・指定テキストの該当ページの熟読（ガイダンス時及び毎授業時に該当ページを指示）
- ・グループ内でのディスカッションのための論点整理メモの作成
- ・グループ間でのディスカッションのためのプレゼンテーション準備
- ・グループ間でのディスカッションを踏まえた上での考察レポートの作成

質問や相談への対応

簡単な質問については講義中に随時受け付け、講義中・講義後・次回授業時に説明を行う。その他、初回授業時に伝えるメールアドレスにて随時質問を受け付けるものとする。

成績評価

共通の評価基準	授業中の発言や態度、毎授業提出することを求める「リアクションペーパー」等の平常点（5割）、学期末レポート（5割）などから総合的に評価する。詳しくは、初回授業時に説明する。	
評価項目	割合	評価基準
授業中の発言や態度、毎授業提出することを求める「リアクションペーパー」等	50	
レポート	50	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	①伊藤良高・大津尚志・永野典詞・荒井英治郎編『改訂教育と法のフロンティア』晃洋書房，2020年，1400円 ②教育フロンティア研究会編『ポケット教育小六法』晃洋書房，2023年，1900円			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①授業は、教員による講義を基本とするが、履修者は、積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することを望む。
- ②初回授業では、授業計画・概要、授業方法と評価に関する説明を行うため、履修予定者は、必ず出席すること。
- ③毎授業前にレジュメ等をアップロードする。履修者は必要に応じて各自ダウンロード・プリントアウトして授業に参加すること。
- ④なお、必要に応じて、ビデオ・DVDなどの視聴覚教材を活用する。

その他・特記事項

特になし

教育方法論

更新日：2023/01/10 08:57:39

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	F3120A	科目コード	F3120
担当教員	小山 茂喜						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

教育方法 教育技術 カリキュラム

授業の概要

学習指導要領の変遷を整理した後、伝統的な学習理論の特徴と歴史の変遷を学ぶことを通して、学力観や授業観等の変遷について学ぶとともに、どのように子どもたちが学ぶことが、もっとも教育効果を上げることができるかについて、すぐれた実践者の授業から教育内容と教育方法を学ぶ。また、ICTの活用を含めた模擬授業演習を通して、わかる授業の授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得する。さらに、教師の意思決定の視点から学習と評価との関係を追及し、「わかる授業」を構想する視座や基礎を習得する。

到達目標

1	授業を展開するには、どのような内容を、どのように子どもたちが学ぶことが、もっとも教育効果を上げることができるかについて理解する。
2	伝統的な学習理論の特徴と教育観の歴史の変遷を学ぶことを通して、学力観や授業観等の多様性を知ったり、授業実践記録等を分析することで、教育活動における経験法則を学んだりすることを通して、教育内容と子供の実態に対応した教材を開発したり教育方法を選択したりして、授業が設計できるようになる。

教授方法

講義(対話を含む)や演習(グループワークを含む)を織り交ぜた形式

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

教職課程履修者は必修

授業計画

1	教育方法をめぐる諸問題について学ぶ(「学力とは何か」)
2	伝統的な学習理論について学ぶ
3	我が国における学習理論の展開について学ぶ
4	教材研究と教材開発について、授業実践例から基本的要素を学ぶ(デジタル教材等の活用も含む)
5	子ども理解と授業設計について、授業実践例から学ぶ
6	授業参観と授業分析の基本を学ぶ(ICTを活用した授業分析を含む)
7	教材開発の手法について、情報機器を活用し具体的な作業を通して学ぶ(ICT活用を含む)

授業外における学習

webポータルに扱う内容を示すので、事前に確認する。
教材開発等、事後学習を充実させて、子供が興味関心を示す内容を探求する。

質問や相談への対応

授業の前後で質問等受け付ける。
メールでの質問も受け付ける。
shigeki@shinshu-u.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	授業内で扱った内容について概要を理解し、自分の考えで内容を評価しているか。 話し合い等に積極的に参加することができたか。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	授業内で扱った内容について概要を理解し、自分の考えで内容を評価し、他者にわかるようにまとめることができているかで評価する。
学習指導案作成	50	最も学習効果が上がるであろうと考える学習理論・方法論に基づき学習指導計画が作成できたかで評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	授業の中で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

教育は経験法則に依る部分が大きいため、より多くの実践を学ぶこと、人間関係を深めるよう主体的に活動するように心がける事。
pcを毎時間持参すること。

その他・特記事項

特になし

生徒指導論

更新日：2023/01/10 08:57:45

開講年度	2022	学期	1期	シバースコード	F3130A	科目コード	F3130
担当教員	藤江 玲子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	4年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

生徒指導、児童生徒理解、チーム支援、協働、実践

授業の概要

生徒指導の意義と役割、児童生徒の指導に資する理論、子どもが抱える可能性のある諸課題など、児童生徒の理解と指導に関する基本的な知識を習得するとともに、学校で出会う可能性のあるさまざまな事例や、先進的な実践をもとに、具体的な指導方法を学ぶ。また、児童生徒と信頼関係を構築し、学校によるチームとしての指導・支援に寄与できる力を養うために、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッションなど、他者と対話し、つながり、協働しながら児童生徒指導のあり方を考える活動を行う。

到達目標

1	生徒指導の基本となる考え方・理論・方法を理解するとともに、児童生徒の理解を基盤とした指導・支援を行うことのできる能力を養う。
---	--

教授方法

授業は、講義と演習を組み合わせで行う。講義では、児童生徒指導の基本となる考え方や理論とともに、さまざまな事例や、先進的な実践を紹介する。演習では、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション等の活動を通じて、児童生徒指導のあり方を考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

教育職員免許状取得のための必修科目である。

授業計画

1	生徒指導の意義・役割・位置づけ
2	生徒指導の基本となる子ども観・教育観
3	子どもの発達と生徒指導
4	児童生徒との関係づくり(1)—自己理解とストレス・マネジメント—
5	児童生徒との関係づくり(2)—さまざまなコミュニケーション・スキル—
6	成長を促す指導・予防的な指導・課題解決的な指導
7	児童生徒の理解と対応(1)—発達に関わる課題の理解と対応—
8	児童生徒の理解と対応(2)—反社会的行動の理解と対応—
9	児童生徒の理解と対応(3)—いじめの理解と対応—
10	児童生徒の理解と対応(4)—不登校の理解と対応—
11	児童生徒の理解と対応(5)—インターネット依存の理解と予防—
12	いのちの教育と自殺防止
13	家庭・地域・関係機関との連携(1)—家庭・関係機関との連携—
14	家庭・地域・関係機関との連携(2)—地域の資源を活用した生徒指導—

授業外における学習

授業の内容の定着と発展的な学習のために、毎回、指示する課題に取り組む。

質問や相談への対応

質問や相談は、授業中、授業の前後の時間、授業レポート、オンラインのツールを通じて受け付け、状況に則した方法で回答やフィードバックを行う。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	毎時の授業で学んだこと、考察したことが、適切にまとめられているか。
まとめのレポート	50	生徒指導の基本的な考え方・理論・方法について説明できるか。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	文部科学省『生徒指導提要』 (教育図書)			
	授業中に適宜資料を配布する。その他、授業中に適宜参考書を紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

発展的な学習として関連する文献を積極的に読み、児童・生徒の理解とチーム支援に役立ててほしい。

その他・特記事項

【実務経験のある教員】学校における教職経験、教育委員会・研修センターにおける実務経験、スクールカウンセラーとしての経験に、専門領域（教育学、生涯発達科学、臨床心理学）の観点を加えて授業を行う。

教育相談論

更新日：2023/01/10 08:57:40

開講年度	2022	学期	3期	シバースコード	F3140A	科目コード	F3140
担当教員	中山 智哉						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

カウンセリング 事例検討

授業の概要

本講義では臨床心理学諸理論を基盤としつつ、学校現場における児童・思春期・青年期前期の子どもたちの発達とそれに伴う心理的諸問題を取り扱う。子どもたちのアセスメント、心理的諸問題の発生機序、問題に対応するためのカウンセリングスキル、チームでの対応方法などを講義と演習を通して学習し、実例を通して対応を学んでいく。なお、小グループでのチーム会議やディスカッションも取り入れ、個人だけの学習では得られない協調的問題解決スキル、コミュニケーションスキルも身につける。

到達目標

1	学校現場における教育相談業務を独力で行えるようになるための基礎理論習得が目標である。具体的には、さまざまな心理学諸理論を基盤とした児童生徒の理解と困難状況のアセスメント、保護者との円滑な面談、指導場面での円滑なコミュニケーションと適切な対応、以上を身につけることが目標である。
---	--

教授方法

講義および事例検討などの演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション、教育相談の意義、現在の教育現場の課題、相手を理解するとは
2	学童期から青年期までの発達の特徴
3	学童期以降に生じやすい心の病気
4	教育相談の特徴、チーム学校としての取り組み、アセスメントと相談実践
5	教育相談に関連するカウンセリング理論を学ぶ
6	傾聴のための技法、言い換え、繰り返し、要約、解釈など
7	ロールプレイを通してカウンセリングを学ぶ
8	学童期・青年期の親子関係の変化と連携
9	発達障害（自閉症スペクトラム、ADHD、LD）の理解と支援の在り方（児童・保護者）
10	不登校の要因と予防・支援の在り方（児童・保護者）
11	非行における支援の在り方（児童・保護者）
12	いじめにおける教師・クラスの役割
13	虐待における学校の役割、被虐待児の支援、保護者とのかわり
14	授業のまとめ・振り返り、及び栄養教諭としての役割とは？

授業外における学習

- ① 毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ② 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	点数で評価する
授業レポート	30	演習に関するレポート内容から評価する

出席	10	出席状況を考慮し評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しない			
	授業の中で紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本講義の理解を深めるには、講義で習得した相談支援技術を日常生活の中でも実践することが大切である。

その他・特記事項

なし

教職実践演習

更新日：2023/01/10 08:57:44

開講年度	2022	学期	3期	シバースコード	F3150A	科目コード	F3150
担当教員	加藤 孝士, 新保 みさ						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	4年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

栄養教諭、教育実習、履修カルテ

授業の概要

本授業、これまでの教職科目や学校栄養教育実習の学びを振り返りながら、栄養教諭の職務と役割について理解を深め、実践力を高めることを目的とする。具体的には、履修カルテにより学修を振り返るとともに、課題の発見と解決のための方策をたてる。また、教育実習での授業内容を共有することや教育の課題に関するディスカッションやロールプレイ、現場教員からの指導などを通して、学びを深める。

到達目標

1	①教員としての資質と指導力を身につける。
2	②食に関する指導における実践的能力を高める。
3	③児童・生徒理解を深める。
4	④教員として、学び続けるための基礎的な能力を身に付ける

教授方法

講義および演習、ゲストスピーカーによる講演（2名の教員のオムニバス）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

栄養教諭免許状取得見込みのもの

授業計画

1	オリエンテーションとこれまでの教職科目の振り返り（履修カルテ含）（担当：加藤・新保）
2	教育実習の授業実践の共有と振り返り①（模擬授業と相互評価）（担当：加藤・新保）
3	教育実習の授業実践の共有と振り返り②（模擬授業と相互評価）（担当：加藤・新保）
4	教育現場における、児童・生徒の問題への対応と取り組み①（グループディスカッション）（担当：加藤）
5	教育現場における、児童・生徒の問題への対応と取り組み②（グループディスカッション）（担当：加藤）
6	児童生徒とのかかわり方①（ロールプレイ）（担当：加藤・新保）
7	児童生徒とのかかわり方②（ロールプレイ）（担当：加藤・新保）
8	栄養教諭による食に関する指導の実践例（ゲストスピーカーによる講義とグループディスカッション）（担当：新保）
9	教育の資質能力の変容と現在の課題：指導要領の捉えなおし（担当：加藤）
10	教職員との協力体制と各学校の事情に合わせた教育の意義（ディスカッション）（担当：加藤）
11	評価をふまえた授業実践の共有①（模擬授業と相互評価）（担当：新保）
12	評価をふまえた授業実践の共有②（模擬授業と相互評価）（担当：新保）
13	栄養教諭による授業実践の評価と課題の抽出（ゲストスピーカーによる講義とグループディスカッション）（担当：新保）
14	まとめ：自身の振り返りと今後の課題の共有（担当：加藤・新保）

授業外における学習

- ①これまでの教職に関わる授業、実習について、振り返りを積極的に行うこと。
- ②授業における演習に積極的に取り組む。
- ③テキストや配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

質問等がある場合は、授業内もしくはメールで受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準

主体的態度	30	授業内のディスカッション、ロールプレイ等を通じ、2名の授業担当で評価する。
発表	30	模擬授業、発表を評価する。
レポート	40	提出物を評価に用いる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』 監修：芦川修貳、学建書院、2021			
	『学習指導要領解説（家庭科・保健科・道徳・特別活動・生活科・総合的な学習の時間・理科・社会科等）』（文部科学省） 『食に関する指導の手引－第2次改訂版－』（文部科学省）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自らの知識、考え、想いを積極的に交流することを望む。

その他・特記事項

特になし

特別支援教育論

更新日：2023/01/10 08:57:48

開講年度	2022	学期	1期	シバスコッド	F3160A	科目コード	F3160
担当教員	前田 泰弘						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	4年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

特別支援教育・障害・発達が気になる子・発達臨床

授業の概要

保育所・幼稚園や学校に在籍する障害のある子や、集団生活に困難を示すいわゆる発達が気になる子について、その行動・発達の理解と豊かな生活を送るための栄養教諭としての配慮と役割について解説を行う。講義では、子どもの定型発達と学習のプロセスを概観した上で、心身に障害のある児の特徴と育ちについて解説する。これを基に、障害の形態に応じた支援の実際を事例を通して理解する。

到達目標

1	一般的な子どもの発達プロセスとその評価法を理解した上で、特別な支援が必要な子どもの発達の諸相を知る。これをもとに、子どもたちがより豊かな生活を送るための配慮の視点や、指導計画を考えられるようになることをねらいとする。
---	--

教授方法

知識・援助技術の教授と共に、実際の指導ケースを想定したワークなどの演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「発達と教育の心理学」を既習のこと。

授業計画

1	特別支援教育とは
2	発達の理解と評価の方法
3	気になる発達（障害）の考え方と評価
4	障害の理解と栄養教育（1）-障害の形態と栄養教育の意義-
5	障害の理解と栄養教育（2）-知的障害・身体障害・重複障害-
6	障害の理解と栄養教育（3）-発達障害-
7	多職種連携と保護者支援、まとめ

授業外における学習

幼児・児童の定型発達について理解していることを前提に講義を進める。内容を復習（確認）しておいて欲しい。

質問や相談への対応

授業の前後を中心に、適宜受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題	20	講義時に提示する課題に取り組むことで、習得状況を評価する。
試験	80	期末に行う。授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『実践にいかす障害児保育・特別支援教育』前田泰弘編著、明文書林、2019			

適宜紹介する。			
---------	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

子どもや保護者・家族を取り巻く現状や問題等について、日々関心をもって生活して欲しい。

その他・特記事項

担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。必要に応じてMicrosoft Teams（オンデマンド教材）を使用する。

教職論

更新日：2023/01/10 08:57:47

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	F3190A	科目コード	F3190
担当教員	荒井 聡史						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

専門職としての教職、専門性と研修、チーム学校、地域との連携

授業の概要

教職の意義、役割と倫理、専門性と職務内容、保育者の研修・専門性向上、地域との連携の重要性と必要性等、教員としてのあり方について学ぶ。

到達目標

1	教職の意義、役割と倫理、具体的な職務内容、現代的な課題などについて理解を深め、教員としてのあり方について主体的に考え、判断し、行動できるようにする。
---	--

教授方法

講義、個人発表、グループ研究およびプレゼンテーションを通じて行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

食健康学科専門科目、栄養教諭1種免許ための科目として履修可。

授業計画

1	教職の意義と重要性	教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法から教職の重要性を考える
2	教員の役割（1）	教職観の変遷
3	教員の役割（2）	今日の教員に求められる資質能力とその形成過程（研修制度に関する内容を含む）
4	教員の仕事（1）	生徒指導と校務分掌
5	教員の仕事（2）	教員の身分、服務上の義務
6	教職の今日的課題（1）	学校内外の連携の必要性（チーム学校に関する内容を含む）
7	教職の今日的課題（2）	こどもの生活をめぐる諸問題と教員の対応

授業外における学習

①事前に配布される資料をもとにした予習。②授業後のリアクションペーパー作成による振り返り。③授業内で提示される課題への取り組み。

質問や相談への対応

授業内外で応じる。メール、チャットでの質問・相談も可。

成績評価

共通の評価基準	①授業内容を理解しているか、②授業内容について主体的に考えているか、を評価する。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート	14	授業内容について主体的に考えているか
期末テスト	86	授業内容を理解しているか
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	木山徹哉／太田光洋 編著『教職論』ミネルヴァ書房、2017年。			
	授業内で随時紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

一定の社会的地位を保障する栄養教諭免許取得に必修の授業であることを意識し、真剣で主体的な取り組みを望む。

その他・特記事項

Microsoft Teamsを通じて資料の配布・課題の提示を行う。

健康発達概論

更新日：2023/01/10 08:56:07

開講年度	2022	学期	1期	シバースコード	H1010A	科目コード	H1010
担当教員	中澤 弥子, 太田 光洋, 中山 智哉, 春高 裕美, 杉山 英子, 加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

健康 発達 食 ライフステージ

授業の概要

人間の発達について社会・文化的な文脈の中で身体的、精神的な健康を基盤として生涯にわたって発達するという観点から、各ライフステージに注目して、基礎的な知識を学ぶ。具体的には、社会文化的アプローチから各発達段階における発達の主導的活動、人間関係を中心とする社会的環境の機能と役割について学ぶとともに、発達の基礎をつくる幼児期の教育と環境のあり方、健康発達の基盤となる食と栄養、健康を増進する支援、メンタルヘルスのあり方についてディベートを通じて自身の経験を振り返りながら学びを深める。また、エコロジカルな観点から健康で豊かな発達を保证する地域コミュニティのあり方について考える。

担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。

英語表記「Introduction to Health and Human Development」

到達目標

1	①健康発達についての基本的知識を習得する。
2	②事例にもとづくグループディスカッション等を通し、各発達段階における健康発達を支える要件について理解する。

教授方法

講義を中心とするが、テーマに応じて、身近な事例をもとにしたグループによるディスカッションを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	健康発達とは何か (太田)
2	発達と環境 (太田)
3	近年の健康課題①-感染症- (春高)
4	近年の健康課題②-周産期をめぐる諸問題- (春高)
5	乳児期の発達、環境支援のあり方、メンタルヘルス (中山)
6	幼児期の発達、環境と保育、支援のあり方、メンタルヘルス (中山)
7	学童期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)
8	思春期・青年期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)
9	成人期・高齢期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)
10	特別な支援を必要とする人の環境と支援 (加藤)
11	児童・思春期、青年期に多い栄養問題 (杉山)
12	成人期・老年期に多い栄養問題 (杉山)
13	長野県の食と健康 (中澤)
14	長野県のこどもの食と健康、まとめ (中澤)

授業外における学習

- ・各担当者から提示された課題に各自取り組む。
- ・前の授業内容を理解した上で、授業に臨むこと。

質問や相談への対応

オムニバス形式であるため、担当者ごとに質問等は授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	80	授業担当者ごとに評価する。レポート課題等の詳細については授業時に担当者が説明する。
授業態度	20	授業での主体的参加度によって評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	教科書は指定しない。担当者ごとに必要に応じて資料を配付する。			
	担当者ごとに、授業内で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題やディスカッションに取り組むこと

その他・特記事項

オムニバス形式で、授業内容により講義担当者は変わる。担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めるなどの実務経験を有している。

長野県健康社会史

更新日：2023/01/10 08:56:33

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	H1030A	科目コード	H1030
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

長野県 健康長寿 組織づくり

授業の概要

日本の公衆衛生の歴史や健康の考え方の変遷等を基盤として、長野県で展開されてきた健康長寿に向けた活動を学ぶ。健康の定義、公衆衛生の概念、保健医療福祉や組織活動の変遷と、その健康生活を支援する様々な職種の役割を、先人の活躍と共に理解する。授業を通し、長寿県とされる長野県の強み、弱み、これからの課題を知り、自らの専門性と結びつけ発展へつなげる礎を築く。

到達目標

1	・基本となる健康の捉え方・考え方（健康の定義、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション）、公衆衛生の変遷を学ぶ。
2	・長野県の健康長寿に向けた活動の変遷とその特徴が理解できる。
3	・健康や病気が生活に及ぼす影響、健康を支えるための住民組織や活動の変遷を学び、未来に向けた自身の役割について考えることができる。

教授方法

講義、グループワーク・学生発表

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

とくになし

授業計画

1	オリエンテーション 公衆衛生の歴史と健康の考え方
2	公衆衛生の歴史と健康の考え方
3	グループワーク① 病気と差別・偏見の歴史
4	発表① 病気や健康が人々の生活に及ぼす影響 差別・偏見含む
5	長野県の健康の歴史（保健活動）
6	長野県の健康の歴史（保健指導員活動）
7	グループワーク② こどもの健康関係 保健行動関係
8	長野県の健康の歴史（長野県と地域医療）
9	発表② こどもの健康の歴史（政策の変遷、生活リズムの変化など）
10	発表② こどもに関する組織活動の歴史（ボランティア：愛育班 母子保健推進員など）
11	発表② 保健行動（組織活動）の変遷（ボランティア：食生活推進協議会、保健指導員会など）
12	発表② 保健行動（生活習慣）の変遷（減塩活動、運動習慣、睡眠等）
13	グループワーク③ 発表③ 未来に向けた自分たちの役割とは
14	まとめ 自分自身の健康を考えよう

授業外における学習

課題について、調べるための時間や発表準備の時間が必要となる。（適宜授業時間内でも確保する予定）

質問や相談への対応

授業終了時に質問や相談の対応をする。MLを利用する予定。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

最終レポート	30	内容（課題に沿っているか 意見と事実を分けているかなど） 参考文献 期日厳守等は減点対象
グループ発表	70	発表①：20% 発表②：30% 発表③：20% 資料内容 発表内容
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じ資料を提示します			
	必要に応じ紹介します			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

先人の課題解決の方法を学ぶつもりで調べてみてください

その他・特記事項

感染状況に合わせて、長野県立歴史館見学あるいは健康まつりへの参加を検討する。この場合は、一部のグループワークと発表時間を、見学時間と報告に変更する予定

Foundations of English I (H1)

更新日：2023/03/15 09:43:35

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010H	科目コード	L1010
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 1 & 2 (解説&小問)
3	Unit 1 & 2 (練習問題)
4	Unit 3 (解説&小問)
5	Unit 3 (練習問題)
6	Unit 4 (解説&小問)
7	Unit 4 (練習問題)
8	Unit 5 (解説&小問)
9	Unit 5 (練習問題)
10	Unit 6 (解説&小問)
11	Unit 6 (練習問題)
12	Unit 7 (解説&小問)
13	Unit 7 (練習問題)
14	文法&発音確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	40	授業への参加度
課題の提出	20	課題の提出状況
文法確認テスト	30	文法確認テストの成績
発音テスト	10	発音確認テストの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Vitamin G』 CENGAGE Learning			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』 (旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Foundations of English I (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:33

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010I	科目コード	L1010
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

英文法、語彙、発音

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論なども含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション
2	現在形と過去形
3	現在完了形と過去形、 Reading1
4	未来形
5	発音 母音1 単語学習1
6	法助動詞
7	発音 母音2 単語学習2
8	ifとwish
9	Reading2 発音 子音P1
10	受動態
11	間接話法 発音 子音P2
12	疑問文と繰り返しを避ける助動詞
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	60	授業で学んだ事柄を試験で確認。
課題	30	授業で課された宿題の提出。

平常点	10	授業での発表、討論など。
その他		
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方（基礎編）』研究社			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English I (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:34

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010J	科目コード	L1010
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

毎回各教材の指定範囲の予習を前提として、授業時には教員によるフィードバックや、グループワークによる確認・演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション
2	文法：文の構造と品詞、音声：母音(1-5)
3	文法：動詞と文型、音声：母音(6-10)、Core Reading：第1段落
4	文法：時制、音声：母音(11-14)
5	文法：助動詞、音声：母音(15-19)、Core Reading：第2段落
6	文法：受動態、音声：母音(20-23)
7	文法：Unit 13 動詞相当語句、音声：中間テスト
8	文法：Unit 14 知覚動詞・使役動詞・動詞相当語句、音声：子音(24-26)、Core Reading：第3,4段落
9	文法：中間テスト、音声：子音(27-30)
10	文法：Unit 1 名詞句(1)、音声：子音(31-34)
11	文法：Unit 2 名詞句(2)、音声：子音(35-39)、Core Reading：第5,6段落
12	文法：Unit 3 名詞節(1)、音声：子音(40-44)
13	文法：Unit 4 名詞節(2)、音声：子音(45-48)、Core Reading：第7段落
14	まとめ・期末テスト

授業外における学習

毎回の授業の予習・復習と語彙学習課題。

質問や相談への対応

授業後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	予習・課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。

中間・期末テスト	50	文法、音声、語彙の学習内容の定着度により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Understanding and Using English Syntax (わかって使える英語構文)』朝日出版社 ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方 (基礎編)』研究社 			
	『総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (New Edition)』桐原書店			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし

Basic English Communication I (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:35

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020H	科目コード	L1020
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, listening, email writing, NGSL, conversation

授業の概要

This course teaches English conversation and listening skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading 1. Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics
2	2. write English emails, copy and attach files
3	3. practice reading for fluency
4	4. learn a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary. Students will have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. They will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Introduction, course overview, class policies and procedures
2	Unit 1 It's nice to meet you. Let's get to know each other.
3	Unit 2 Introducing yourself.
4	Unit 3 Exchanging personal information and finding out about your classmates
5	Unit 4 Describing personal appearances and personalities
6	Unit 5 People - Talking about your family and friends Book Talk 1
7	Mini-presentation about your family
8	Free time - Talking about your hobbies and interests
9	Unit 6 Daily activities. Describing your daily routine and schedules
10	Unit 7 Talking about cities and recommending places Book Talk 2
11	Mini-presentation about your hometown
12	Unit 8 Food and drink - Describing eating habits
13	Food around the world - Describing traditional meals
14	Book talk 3 and review

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

The teacher will be available for students before and after class for questions. Students can contact the teacher by email.

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Speaking & Listening	40%	Speaking and listening assignments and tests
Reading	10%	Fluency reading and talking about books
Writing	40%	English emails and other assignments
NGSL test	10%	80% pass or fail
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			
	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students need to use their English-English dictionary. The working language of the class will be English.

その他・特記事項

Welcome to the University of Nagano.

Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.

Basic English Communication I (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:36

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020I	科目コード	L1020
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, classmates and textbook
2	Unit 1.1, How to study NGSL
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3, Writing Unit
5	Unit 2.1, Writing Unit
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1 Book Talk
12	Unit 4.2, Book Talk
13	Unit 4.3
14	Conversation recording

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
speaking	40%	assignments and recorded conversations
writing	40%	English emails and other assignments

reading	10%	fluency reading and talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication I (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:36

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020J	科目コード	L1020
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics
2	2. write English emails, copy and attach files
3	3. practice reading for fluency
4	4. learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study NGSL vocabulary. Conversation models from the textbook will be practiced online by students in pairs and in larger groups. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Introduction to Conversations in Class (Alma Publishing) and class goals; self-introductions
2	Unit 1.1: Conversation about hometown; how to write an email; written introductions; how to study NGSL
3	Unit 1.2: Majors, school years, and clubs; book club; Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3: Part-time jobs; writing (ideal future job); Writing Unit
5	Unit 2.1: Group conversation about ideal jobs in the future; conversations about daily routines; Writing Unit
6	Unit 2.2: Conversations about hardest/easiest days of the week; introduce Core Reading
7	Unit 2.3: Conversations about how students spend their time; introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1: Students talk about their hometowns and hometown attractions; book club; Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2: Students talk about hometown likes and dislikes; Core Reading, book talk
10	Unit 3.3: Students discuss where they would like to live in the future; Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1: Students talk about travel experiences; book talk and discussion activities
12	Unit 4.2: Discussion of ideas about future travel plans; book talk and discussion activities
13	Unit 4.3: Students plan trip in small groups or pairs - travel assignment;
14	Conversation based on travel assignments; final class conversation recording

授業外における学習

There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation practice outside of class. There will be reading assignments, outside assignments, and email assignments. Fluency reading and vocabulary study are d

質問や相談への対応

If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email. Students can message

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40%	Assignments and recorded conversations
Writing	40%	English emails and other assignments
Reading	10%	Fluency reading and talking about books
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			
	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class. Students should communicate willingly with classmates.

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English II (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:08

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030H	科目コード	L1030
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論なども含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション Foundations of English I の振り返り
2	動名詞と不定詞
3	Reading3 単語学習3
4	冠詞と名詞
5	Reading4 発音 強弱リズム
6	代名詞と限定詞
7	発音 イントネーション 単語学習4
8	関係詞節 発音 基本のチェック
9	形容詞と副詞
10	接続詞と前置詞
11	前置詞
12	句動詞
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後、及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	60	授業で学んだ事柄を試験で確認。
課題	30	授業で課された宿題の提出。

平常点	10	授業での発表、討論など。
その他		
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』研究社			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English II (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:09

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	L1030I	科目コード	L1030
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取るこの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

毎回各教材の指定範囲の予習を前提として、授業時には教員によるフィードバックや、グループワークによる確認・演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション、1学期の振り返り
2	文法：形容詞句・節、音声：文のストレス
3	文法：Unit 5 形容詞句、音声：単語のアクセント、Core Reading：第1段落
4	文法：Unit 6 形容詞節(1)、音声：音変化(1)
5	文法：Unit 7 形容詞節(2)、音声：音変化(2)、Core Reading：第2段落
6	文法：中間テスト、音声：中間テスト
7	音声：リズム(1)-(3)、Core Reading：第3,4段落
8	文法：副詞句・節、音声：リズム(4)-(8)
9	文法：Unit 8 副詞句(1)、音声：リズム(9)-(11)、Core Reading：第5段落
10	文法：Unit 9 副詞句(2)、音声：イントネーション(1)-(3)
11	文法：Unit 10 副詞節(1)、音声：イントネーション(4)-(6)、Core Reading：第6段落
12	文法：Unit 11 副詞節(2)、音声：イントネーション(7)-(9)
13	文法：Unit 12 副詞節(3)、音声：総合復習、Core Reading：第7段落
14	まとめ・期末テスト

授業外における学習

毎回の授業の予習・復習と語彙学習課題。

質問や相談への対応

授業後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	予習・課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。

中間・期末テスト	50	文法、音声、語彙の学習内容の定着度により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Understanding and Using English Syntax (わかって使える英語構文)』朝日出版社 ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方 (リズム・イントネーション編)』研究社 			
	『総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (New Edition)』桐原書店			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし

Foundations of English II (H1)

更新日：2023/03/15 09:43:53

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030J	科目コード	L1030
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取るこの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 8 (説明&小問)
3	Unit 8 (練習問題)
4	Unit 9 (説明&小問)
5	Unit 9 (練習問題)
6	Unit 10 (説明&小問)
7	Unit 10 (練習問題)
8	Unit 11 (説明&小問)
9	Unit 11 (練習問題)
10	Unit 12 (説明&小問)
11	Unit 12 (練習問題)
12	Unit 13&14 (説明&小問)
13	Unit 13&14 (練習問題)
14	文法&発音確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	40	授業への参加度
課題の提出	20	課題の提出状況
文法確認テスト	30	文法確認テストの成績
発音確認テスト	10	発音確認テストの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Vitamin G』 CENGAGE Learning			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』 (旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Basic English Communication II (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:10

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040H	科目コード	L1040
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, listening, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation and listening skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II. Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions,
2	2. write a paragraph about their own experience,
3	3. type an English paper,
4	4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	5. study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practice vocabulary. Students have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. Students are asked to give presentations in English, and the teacher gives feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	Introduction
2	Unit 9 Travel and tourism - Describing past trips and discussing famous places
3	Mini-presentation about your most memorable trip
4	Unit 10 Talking about your own country and culture Book Talk 1
5	Mini-presentation about important festivals in your country
6	Unit 11 Famous people - Talking about celebrities and their achievements
7	Unit 12 How do I get there? Asking for and giving directions.
8	Unit 13 Health - Discussing healthy lifestyles Book Talk 2
9	Good advice - Discussing problems and giving advice Paragraph writing
10	Unit 14 Occupations - Talking about types of jobs, job skills and qualifications
11	Discussing your ambitions and future plans
12	Mini-presentation about your future
13	Mini-presentation about your summer holiday
14	Review and Book Talk 3

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

The teacher will be available for students before and after class for questions. Students can contact the teacher by email.

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking & Listening	40%	Presentations and listening tests.
Reading	10%	Fluency reading and talking about books.
Writing	40%	Paragraph writing assignments
NGSL	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			
	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students need to use their English-English dictionary. The working language of the class will be English.

その他・特記事項

Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.

Basic English Communication II (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:11

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040I	科目コード	L1040
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1 make conversation about their lifestyle and opinions,
2	2 write a paragraph about their own experience,
3	3 type an English paper,
4	4 read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	5 study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media
6	Unit 6.3, Core Reading assignment
7	Conversation tests, writing unit
8	Unit 7.1, conversations about food
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3 conversations on food culture
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans
12	Unit 8.2 conversations about life issues
13	Unit 8.3 conversations about life issues
14	conversation recordings

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

speaking	40%	recorded conversations
writing	40%	1-paragraph paper, 2-paragraph paper
reading	10%	fluency reading talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication II (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:11

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040J	科目コード	L1040
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1make conversation about their lifestyle and opinions,
2	2 write a paragraph about their own experience,
3	3 type an English paper,
4	4 read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	5 study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practice vocabulary. Conversation models from the textbook will be practiced in class by students in pairs and in larger groups. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. There may also be writing activities related to discussion activities.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to Quarter 2; Unit 5.1; Introduce Xreading assignments; introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2: Conversation about free time; mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3: Group conversations related to likes and dislikes; writing activity
4	Unit 6.1: Conversations about music; introduce Core Reading
5	Unit 6.2: Conversations about movies, TV, games, manga or other media; students write short Amazon review and share
6	Unit 6.3: Book club; Core Reading activity (the habits of successful people)
7	Conversation tests and student discussion; Writing Unit
8	Unit 7.1: Conversation about favorite and least favorite foods; group research project about food history and culture
9	Unit 7.2: 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3: Conversations about food culture
11	Unit 8.1: Students talk about their near-future plans
12	Unit 8.2: Conversations about life issues
13	Unit 8.3: Conversations about life issues
14	Final conversation recordings; conversation activities; class wrap-up

授業外における学習

There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation exercises outside of class. Students must complete homework and writing assignments on time or there will be penalties. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email. Students can also co

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	Conversations and presentations will be recorded and graded
Writing	40	1-paragraph paper and 2-paragraph typed paper, plus other assignments
Reading	10	Students will read graded readers for fluency and take tests
Vocabulary	10	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			
	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class. Students should be willing to talk with classmates.

その他・特記事項

—

Comprehensive English I (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:12

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050H	科目コード	L1050
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション
2	自己紹介
3	性格についての作文
4	パラグラフの書き方 単語学習1
5	持ち物について話す Reading1
6	住む町についての作文
7	道案内をする 単語学習2
8	Unit1～3復習
9	イベントの計画 Reading 2
10	人助けをしたことについての作文
11	問題解決について話す
12	Unit4～6復習
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。
授業レポート	30	授業で課された宿題の提出。

小テスト	10	授業での発表。
上記以外の授業評価	10	e-learning (10)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	EVOLVE3 ケンブリッジ大学 出版			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Comprehensive English I (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:13

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050I	科目コード	L1050
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。
2	・目の前にある事物や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。
4	・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの基礎力を身に付けるための訓練を行い、英語のプレゼンテーションの簡単なやり方も学習してもらう。

教授方法

授業は演習形式で、授業の前半は、テキストを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、学習方法、評価方法を説明する。）
2	Textbook Unit 1 と イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。
3	Textbook Unit 2 と 英国紹介についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
4	Textbook Unit 3 と 英語のプレゼンテーションのやり方を説明する。
5	Textbook Unit 4 と 日本紹介についてのプレゼンテーション
6	Textbook Unit 5 と 英国の大学についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
7	Textbook Unit 6 と 日本の大学についてのプレゼンテーション
8	Textbook Unit 7 と 英国の教育制度についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
9	Textbook Unit 8 と 日本の教育制度についてのプレゼンテーション
10	Textbook Unit 9 と 英国の食事についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
11	英国の肥満問題についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
12	日本の食事についてのプレゼンテーション
13	ロンドンについての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
14	総括

授業外における学習

毎回、教員から授業中に出示された課題にしっかり取り組むこと。

予習を十分してから授業に臨むこと。

授業後も復習を最低1時間はすること。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な目標を十分に達成している。【B】 基本的な目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	35%	提出物によって評価する。
英語のプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。
テスト	25%	筆記試験によって評価する。
上記以外の授業評価	10%	e-learning 10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・ Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2			
	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

受講生の積極的な授業参加を期待する。
 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
 遅刻はしないこと。
 予習、復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。遅刻は30分までは出席とみなす。

Comprehensive English I (H3)

更新日：2023/03/09 13:43:45

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050J	科目コード	L1050
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 1 & Unit 2
3	Unit 3
4	Unit 4
5	Unit 5
6	Unit 6
7	Unit 7
8	Unit 8
9	Unit 9
10	Unit 10
11	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
12	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
13	英語スピーチ
14	確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

授業への取り組み	30	授業への参加度
確認テスト	30	確認テストの成績
英語スピーチ	30	英語スピーチの成績
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Reader's Ark Basic』金星堂			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』(旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Academic English Communication I (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:14

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060H	科目コード	L1060
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write topic sentences, supporting sentences for an outline, 3
4	write a 2-paragraph paper, 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
speaking	35%	recorded group discussions
writing	45%	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:15

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060I	科目コード	L1060
担当教員	Keff Kenner						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a 2-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support, and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write topic sentences, supporting sentences for an outline, 3
4	write a 2-paragraph paper, 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Speaking	35%	recorded group discussions
Writing	45%	write a 2-paragraph paper, Core Reading assignments and other assignments
Reading	10%	fluency reading
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:16

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060J	科目コード	L1060
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write topic sentences, supporting sentences for an outline, 3
4	write a 2-paragraph paper, 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1 (The effects of advertising), What is discussion? assignment explained
2	Unit 1 (The effects of advertising) readings + discussion preparation, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1 (The effects of advertising) readings + discussion preparation, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1 (The effects of advertising) discussions + Writing unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3 (Our aging population) readings and discussion preparation + Writing Unit
7	Unit 3 (Our aging population) readings and discussion preparation + Writing Unit
8	Unit 3 (Our aging population) discussions
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4 (Robots in the Home) readings and discussion preparation + Writing Unit
13	Unit 4 (Robots in the Home) readings and discussion preparation
14	Unit 4 (Robots in the Home) discussions

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
discussion	40%	recorded group discussions
writing	40%	write a 2-paragraph paper, Core Reading assignments and other assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Comprehensive English II (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:17

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070H	科目コード	L1070
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション Comprehensive English I の振り返り
2	音楽、TV番組について話す
3	映画についての作文
4	パラグラフからプレゼンテーションへ
5	時間の使い方について考える 単語学習3
6	大学の授業について話す
7	ビジネス文書を書く 単語学習4
8	Unit7～9 復習
9	様々な職業について話す
10	金銭感覚について考える
11	尊敬する人物についての作文
12	人生経験について話す Unit10～12 復習
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業で前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	授業で学んだ事柄を試験で確認
授業レポート	30	授業で課された宿題の提出

小テスト	10	授業での発表
上記以外の授業評価	10	e-learning (10)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	EVOLVE3 ケンブリッジ大学 出版			
	随時授業時に配布する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Comprehensive English II (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:18

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	L1070I	科目コード	L1070
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで、自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについての英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。
4	・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの力を更にレベルアップしてもらう。

教授方法

授業は演習形式で、授業の前半は、テキストやプリントを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Textbook Unit 10 と 「英国女性の足跡」の記事の講読（内容確認）
2	Textbook Unit 11 と 「英国女性の足跡」の記事の内容についての英語によるディスカッション
3	Textbook Unit 12 と 「現代英国女性の開放度」の記事の講読（内容確認）
4	Textbook Unit 13 と 「現代英国女性の開放度」の記事の内容についての英語によるディスカッション
5	Textbook Unit 14 と 英国王室についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
6	英国王室の記事の内容についての英語によるディスカッションと英国の王室と日本の皇室を英語で比較する。
7	英国の主なフェスティバルについての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
8	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 1
9	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 2
10	英国のクリスマスの記事の講読（内容確認）
11	英国のクリスマスの記事の内容についての英語によるディスカッション
12	国際結婚についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
13	理想の結婚についてのプレゼンテーション
14	総括

授業外における学習

毎回、教員から授業中に与えられた課題にしっかり取り組むこと。

予習を十分してから授業に臨むこと。

授業後も復習を最低1時間はすること。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な目標を十分に達成している。【B】基本的な目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	35%	提出物によって評価する。
英語によるプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。
テスト	25%	筆記試験によって評価する。
上記以外の授業評価	10%	e-learning 10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2			
	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

受講生の積極的な授業参加を期待する。
 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
 予習、復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、忌引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。

Comprehensive English II (H3)

更新日：2023/03/09 13:42:14

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070J	科目コード	L1070
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英文でまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 11
3	Unit 12
4	Unit 13
5	Unit 14
6	Unit 15
7	Unit 16
8	Unit 17
9	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
10	英語スピーチの計画と練習
11	英語スピーチ
12	英語スピーチ
13	英語スピーチ
14	確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

授業への取り組み	30	授業への参加度
確認テスト	30	確認テストの成績
英語スピーチ	30	英語スピーチの成績
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Reader's Ark Basic』金星堂			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』(旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Academic English Communication II (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:20

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080H	科目コード	L1080
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3
4	cite sources in a report 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit an essay, Outline assignment
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit Thesis Statements
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
speaking	35%	discussion skills
writing	45%	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (H2)

更新日：2023/03/08 16:14:43

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080I	科目コード	L1080
担当教員	Keff Kenner						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussions in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3
4	cite sources in a report 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn a level-appropriate group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities, and practice vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	-
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	-

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
Speaking	35%	Speaking Tests (recorded discussions)
Writing	45%	a 3-paragraph report about an advertisement which cites sources, Core Reading assignments
Reading	10%	fluency reading and quizzes
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	-			
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1	Cambridge University Press	2014	
	-			

参考書・参考資料等

-

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:21

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080J	科目コード	L1080
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3
4	cite sources in a report 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation, practice discussion with new phrases
2	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
3	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
4	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
5	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) discussions
6	Writing Unit
7	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
8	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
9	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
10	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
11	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) discussions
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
discussion	40%	multiple recorded discussions with demonstration of appropriate discussion phrases and skills
writing	40%	a 3-paragraph report about an advertisement which cites sources, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Comprehensive English III (F)

更新日：2023/01/10 08:56:26

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	L1090I	科目コード	L1090
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。

教授方法

リーディングによるインプットを事前に行い、授業にてアウトプットの機会を充実させるフリップラーニング

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス (スケジュール・評価方法・学習の進め方) , Unit 1 What is Chemistry
2	Unit 2. Matter
3	Unit 3. Gases
4	Unit 4. Solutions
5	Unit 5. Changes of State
6	確認テスト (1) と解説
7	ライティングテストとプレゼン (1)
8	Unit 6. Chemical Reactions
9	Unit 7. Chemical Reactions and Energy
10	Unit 8. Atoms and Elements
11	Unit 9. Ions
12	Unit 10. Organic Chemistry
13	確認テスト (2) と解説
14	ライティングテストとプレゼン (2)

授業外における学習

本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料の要点を理解し、事後学習として授業で行ったパフォーマンス (スピーキング・ライティング等) をより洗練させたくえでOneNoteへの投稿などが求められる。また適宜、語彙学習および英語トレーニングが指示される。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

確認テスト	70	語彙の習得・文法の理解・読解力を測定
ライティングテスト	20	英語表現の応用力を測定
プレゼンテーション	10	所定の条件下における情報発信力を測る
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Basic English for Chemistry (Imura, M., Cengage Learning, ISBN: 978-4863122253) [以上1冊]			
	<ul style="list-style-type: none"> ・『国際学会Englishスピーキング・エクササイズ口演・発表・応答』(Langham, C.S. 医歯薬出版) ・1年次前期使用した英語音声のテキスト 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分で書いた英文を見直す機会を積極的に作ってください。

その他・特記事項

教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。試験等では対面参加が必要な場合がある。

Academic English Communication III (F)

更新日：2023/01/10 08:56:22

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100H	科目コード	L1100
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, presentation skills, NGSL

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the urban/rural divide in Japan and propose solutions for local redevelopment. Students study and discuss ideas in Core Reading V, "Making the Most of Your Study Abroad." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss urban and rural issues, and 4. learn a group of NGSL words.
---	---

教授方法

Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics
6	Core Reading II discussion, use NGSL
7	Introduce urban/rural unit, review citing sources for Presentation B Planning Sheet
8	Presentation B done in destination groups, Urban/rural unit
9	Urban/rural unit, Introduction to Presentation C, groups talk prepare for presentation, use NGSL
10	Urban /rural unit, groups prepare Presentation C
11	Urban/rural unit, Presentation Phrases practice
12	Urban/rural unit, Presentation C planning
13	Presentation C rehearsal, NGSL test
14	Presentation C

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
presentations	50%	3 presentations, outline assignments
discussion	20%	Urban and Rural Unit discussion and assignments

4 skills	20%	Core Reading and other assignments
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and participate in class discussions.

その他・特記事項

-

Career English for Global Mobility I (F)

更新日：2023/01/10 08:56:27

開講年度	2022	学期	2期, 3期	シラバスコード	L1130A	科目コード	L1130
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年2・3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC(L&R)、栄養英語

授業の概要

専門科目の学修に資するために、栄養学に関連する基本的な英語文献について、エビデンスベースで理解するための読解力や要旨を簡潔に伝えるための作文力を身につけることを目的とする。また、TOEIC(L&R)において500点台から600点台のスコアを取得し得る英語力を目標として、必要なツールや教材を活用する自律学習の姿勢を身につける。

到達目標

1	・TOEIC(L&R)において500点以上を取る実力が身についている。
2	・栄養学に関する英文の内容を正しく理解する力が身についている。

教授方法

TOEICについてはe-learning教材による自学自習を中心とし、授業では栄養英語のテキストを中心に扱います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション（授業計画、成績評価、TOEIC(L&R)などについて）
2	What do we mean by nutrition?、TOEIC小テスト(500点突破コース Part 1)
3	What are carbohydrates?、TOEIC小テスト(500点突破コース Part 2)
4	What is protein?、TOEIC小テスト(500点突破コース Part 5,6)
5	What is fat?、TOEIC小テスト(500点突破コース Part 3)
6	What is fibre?、TOEIC小テスト(500点突破コース Part 4)
7	栄養英語中間テスト、TOEIC小テスト(500点突破コース Part 7)
8	What are vitamins?
9	What are minerals?、TOEIC小テスト(600点突破コース Part 1)
10	Is hydration part of nutrition?、TOEIC小テスト(600点突破コース Part 2)
11	What is digestion?、TOEIC小テスト(600点突破コース Part 5,6)
12	How does the body absorb nutrients during digestion?、TOEIC小テスト(600点突破コース Part 3,4)
13	What is metabolism?、TOEIC小テスト(600点突破コース Part 7)
14	まとめ・期末テスト（栄養英語・TOEIC）

授業外における学習

- ・栄養英語テキストの予習・復習
- ・e-learning（『TOEIC L&Rテスト 500点突破コース』、『同 600点突破コース』アルク）

質問や相談への対応

授業の前後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	25	予習・課題提出状況や、授業時のグループワークへの取り組みなどにより評価する。

TOEIC小テスト	15	e-learning教材の内容の定着度により評価する。
中間・期末テスト	40	栄養英語のテキストの理解度と、TOEIC(L&R)形式の問題の得点力により評価する。
e-learning	20	e-learning教材への取り組み状況により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Lambert, R(2021) The Science of Nutrition: Debunk the diet myths and learn how to eat well for health and happiness			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

2, 3学期は英語の授業が週1回だけになります。英語力の維持・向上のため、授業時間外にもできるだけ多く英語に触れるようにしましょう。

その他・特記事項

特になし

Career English for Global Mobility II (F)

更新日：2023/01/10 08:56:28

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1160A	科目コード	L1160
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC(L&R)、栄養英語

授業の概要

専門科目の学修に資するために、栄養学に関連する基本的な英語文献について、エビデンスベースで理解するための読解力や要旨を簡潔に伝えるための作文力を身につけることを目的とする。また、TOEIC(L&R)において600点台から700点台のスコアを取得し得る英語力を目標として、必要なツールや教材を活用する自律学習の姿勢を身につける。

到達目標

1	・TOEIC(L&R)において600点以上を取る実力が身についている。
2	・栄養学に関する英文の内容を理解し、要点を整理して他者に伝える力が身についている。

教授方法

栄養英語のテキストから受講者が関心のあるトピックを選び、グループで要点を発表してもらいます。TOEICについては、e-learning教材による自学自習に加えて、授業時にも各Partの問題演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション（授業計画、成績評価、栄養英語グループ発表などについて）
2	TOEIC問題演習、栄養英語グループ発表の準備
3	TOEIC問題演習、栄養英語グループ発表の準備
4	栄養英語グループ発表①、TOEIC問題演習
5	栄養英語グループ発表②、TOEIC問題演習
6	栄養英語グループ発表③、TOEIC問題演習
7	栄養英語グループ発表④、TOEIC問題演習
8	栄養英語グループ発表⑤、TOEIC問題演習
9	栄養英語グループ発表⑥、TOEIC問題演習
10	栄養英語グループ発表⑦、TOEIC問題演習
11	栄養英語グループ発表⑧、TOEIC問題演習
12	まとめ・期末テスト（栄養英語）
13	TOEIC問題演習
14	まとめ・期末テスト（TOEIC）

授業外における学習

- ・栄養英語テキストのグループ発表準備
- ・e-learning（『TOEIC L&Rテスト 600点突破コース』アルク）

質問や相談への対応

授業時に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	28	授業時のグループ発表などへの取り組みにより評価する。

e-learning	12	e-learning教材への取り組み状況により評価する。
期末テスト	40	栄養英語のテキストの理解度と、TOEIC(L&R)形式の問題の得点力により評価する。
TOEIC(L&R) IPテスト	20	学期末に実施されるTOEIC(L&R) IPテストの得点により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Lambert, R(2021) The Science of Nutrition: Debunk the diet myths and learn how to eat well for health and happiness			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

年度末のTOEIC-IPテストで2年間の英語学習の成果を発揮できるよう、e-learningや授業時の演習に丁寧に取り組みましょう。

その他・特記事項

特になし

フランス語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:32

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1170A	科目コード	L1170
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

フランス語、フランス文化

授業の概要

フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする。まず発音記号、綴りと発音を学び、フランス語特有の母音や綴りに慣れる。次に日常的な会話表現を学んでゆく。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で名詞・形容詞・所有形容詞・冠詞およびその性数、規則動詞と代表的な不規則動詞の変化を学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。

到達目標

1	フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする
---	--

教授方法

授業は演習形式。宿題を課し、授業中に答え合わせをする。

予習を前提に、授業では発音の練習、例文のロールプレイ、練習問題などを通じて、できるかぎり授業中にフランス語を運用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	発音記号、綴りと発音
2	挨拶、別れの挨拶
3	自己紹介、挨拶（夕方）
4	ある人についてたずねる（1）、名前の綴り
5	名前・職業・住所についてたずねる・言う
6	自分の仕事について話す
7	やりたい職業を言う
8	国籍をたずねる、何語を話すか言う（1）
9	ある人についてたずねる（2）、知らないという
10	何かを示す、何語を話すか言う（2）
11	好きなものを言う、好き嫌いの程度を言い表す（物について）
12	どちらが好きか言う何をするのが好きか言う
13	好き嫌いの程度を言い表す（行動について）
14	したいことについて話す好みを説明する

授業外における学習

適宜予習や復習を課す。

質問や相談への対応

他の受講生の参考になるので、質問がある場合はできるだけ授業中に質問すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	授業で学んだ表現を正しい発音および文法で運用できること
小テスト	30	単語の意味および綴りと発音の関係が理解できていること

平常点	30	宿題、授業態度、など
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	斉藤昌三, 『<<新版>> ル・フランス (Le Français Nouvelle édition)』 白水社, 1750円			
	なし。会話については授業中にプリントを配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フランス語やフランス語圏の文化・歴史に関心があること。

その他・特記事項

なし

フランス語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:33

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1180A	科目コード	L1180
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

フランス語、フランス文化

授業の概要

フランス語Ⅰで得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。具体的には、時間、曜日、予定、謝る、場所、趣味・余暇、頻度、習慣、家族、過去の出来事、どこに行ったのか、だれかを誘う、断る、交通手段を尋ねるなどの表現を学ぶ。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で、疑問詞、前置詞、複合過去、複合過去における性数一致について学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。

到達目標

1	フランス語Ⅰで得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。
---	---

教授方法

授業は演習形式。宿題を課し、授業中に答え合わせをする。

予習を前提に、授業では発音の練習、例文のロールプレイ、練習問題を通じて、できるかぎり授業中にフランス語を運用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

フランス語Ⅰをすでに履修していること。

授業計画

1	どちらが好きか理由を述べる、人を描写する
2	年齢を言う、科目・時間割について話す
3	持っているものについて話す、物を借りる
4	謝る、ある場所について説明する
5	ある場所についての情報を求める
6	何をするのか尋ねる、答える
7	何をするのか尋ねる、詳しくきく
8	趣味・余暇の過ごし方について話す、態度を示す
9	習慣について話す、家族について話す
10	過去の出来事について語る
11	どこに行くか尋ねる、答える
12	時間を尋ねる・答える
13	どこに行ったのか詳しく話す、できることとするべきことを言う
14	だれかを何かに誘う・誘われる、交通手段について尋ねる

授業外における学習

適宜予習や復習を課す。

質問や相談への対応

他の受講生の参考になるので、質問がある場合はできるだけ授業中に質問すること。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	授業で学んだ表現を正しい発音および文法で運用できること	
小テスト	30	単語の意味および綴りと発音の関係が理解できていること	
平常点	30	宿題、授業態度など	

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	齊藤昌三『《新版》 ル・フランス (Le Français Nouvelle édition)』白水社, 1750円			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フランス語やフランス語圏の文化・歴史に関心があること。

その他・特記事項

3～4年向けの「グローバル教養ゼミ」でフランス語を引き続き学習したい学生は、2年次にフランス語を履修することを勧める。

ドイツ語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:34

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1190A	科目コード	L1190
担当教員	浜 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ドイツ語、文法、会話、ドイツ語圏の文化

授業の概要

英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用すること（「読み、書き、聞き、話す」こと）ができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得します。ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指して、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。

また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、さらにドイツ語に対する理解を深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。

到達目標

1	・日常生活レベルの「語彙力」を身につけ、正しい「発音」ができるようになる。
2	・ドイツ語運用の基本となる「文法」を習得する。
3	・ドイツ語を使った簡単な自己紹介、買い物、道案内など、日常生活に必要な表現を「話し、聞き、書き、読んで理解する」ことができるようになる。（2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」を合わせて受講することで、ドイツ語技能検定試験4級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける。）
4	・ドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。

教授方法

教科書や補助プリントに沿って文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、パートナー会話練習などを通して運用練習を行います。随時課題を出し、教師が添削を行うことで学習をサポートしていきます。また映像視聴や単語テストにより語彙力を養い、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション／アルファベット・発音の基礎・あいさつ
2	発音（つづき）・数字Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）①
3	Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）②
4	Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）③
5	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）①
6	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）②
7	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）③Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）①
8	Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）②
9	Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）③
10	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）①
11	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）②
12	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）③Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）①
13	Lektion 5『チューリヒの町で』（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）②
14	Lektion 5『チューリヒの町で』（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）③

授業外における学習

- ①授業で学習した内容は、次回までにしっかり復習をしてください。
- ②教科書添付のCDやストリーミングを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返し行ってください。
- ③出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。
- ④理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことは、次回の授業の際に、あるいはメールですぐに質問してください。

質問や相談への対応

質問があればなるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問時間を取りたい方は相談に応じますので、遠慮なく申し出てください。また、メールでの質問はいつでも大歓迎です！（メールアドレス：mailuft@po30.lcv.ne.jp または hama.yasuko@u-nagano.ac.jp）

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価
課題提出	30%	出された宿題を期限までに提出し、丁寧に取り組んでいるかどうかで評価
小テスト	30%	単語テスト、各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価
学習に対する取り組み姿勢	10%	授業において積極的に発声や発話をしているかどうか、また授業や家庭学習において、明らかになった疑問に対し解決の努力をしているかどうか、問題があれば積極的に質問をしているかどうかなどで評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			
		清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社、2014年初版、1,300円＋税（ISBN：978-4-560-08656-8）※独和辞典については、授業初回で紹介いたします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・本授業の受講者は2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」を続けて受講することが望ましいです。（教科書後半部は「Ⅱ」で扱います。）
- ・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。
- ・授業には必ず辞書を持参してください。（独和辞典については初回の授業で紹介いたします。）

その他・特記事項

- ・「授業計画」に記載した進度は、受講生の理解度などにより多少変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ・この授業の内容は、2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」に続きます。（「ドイツ語Ⅱ」においても同じ教科書を継続して使用します。）

ドイツ語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:35

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1200A	科目コード	L1200
担当教員	浜 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ドイツ語、文法、会話、ドイツ語圏の文化

授業の概要

1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」に続き、英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用すること（「読み、書き、聞き、話す」こと）ができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得していきます。

ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指し、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。

また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、さらにドイツ語に対する理解を深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。

到達目標

1	・日常生活レベルの「語彙力」を身につけ、正しい「発音」ができるようになる。
2	・ドイツ語運用の基本となる「文法」を習得する。
3	・「ドイツ語Ⅰ」に続き、さらにいろいろなニュアンスを加えた表現や、過去の表現に至るまで、日常生活に必要な様々な表現を「話し、聞き、書き、読んで理解する」ことができるようになる。（1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」から続けて受講することで、ドイツ語技能検定試験4級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける。）
4	・ドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。

教授方法

教科書や補助プリントに沿って文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、パートナー会話練習などを通して運用練習を行います。随時課題を出し、教師が添削を行うことで学習をサポートしていきます。また映像視聴や単語テストにより語彙力を養い、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

必ず1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」を履修した後、本授業を履修してください。（本授業は「ドイツ語Ⅰ」からの続きの内容となります。）

授業計画

1	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）①
2	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）②
3	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）③
4	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）①
5	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）②
6	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）③Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）①
7	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）②
8	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）③
9	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）④Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）①
10	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）②
11	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）③
12	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）④Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）①
13	Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）②
14	Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）③

授業外における学習

- ①授業で学習した内容は、次回までにしっかり復習をしてください。
- ②教科書添付のCDやストリーミングを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返し行ってください。
- ③出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。
- ④理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことは、次回の授業の際に、あるいはメールですぐに質問してください。

質問や相談への対応

質問があればなるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問時間を取りたい方は相談に応じますので、遠慮なく申し出てください。また、メールでの質問はいつでも大歓迎です！（メールアドレス：mailuft@po30.lcv.ne.jp または hama.yasuko@u-nagano.ac.jp）

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価
課題提出	30%	出された宿題を期限までに提出し、丁寧に取り組んでいるかどうかで評価
小テスト	30%	単語テスト、各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価
学習に対する取り組み姿勢	10%	授業において積極的に発声や発話をしているかどうか、また授業や家庭学習において、明らかになった疑問に対し解決の努力をしているかどうか、問題があれば積極的に質問をしているかなどで評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			
	清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社、2014年初版、1,300円＋税（ISBN：978-4-560-08656-8）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・本授業を履修する際は、必ず1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」を受講した後にしてください。（教科書前半部は「Ⅰ」で扱います。）
- ・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。
- ・授業には必ず辞書を持参してください。（「ドイツ語Ⅰ」初回授業で紹介）

その他・特記事項

- ・「授業計画」に記載した進度は、受講生の理解度などにより多少変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ・教科書は、1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」で使用したものを継続して使用します。

中国語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:36

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1210A	科目コード	L1210
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キーワード

中国語の基礎文法、拼音字母、声調（四声）

授業の概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象に初期段階で必要な発音と基本文法事項・語彙を学習する。拼音字母の発音、声調、音節の発音に習熟することをはじめとして、聞く、話す、読む、書くの4つの能力にわたる中国語の基礎学力を身につける。基礎文法については、豊富な例文を取り上げ、繰り返し練習問題に取り組むことで要点の理解を進める。また、例文については音読み、暗唱できるようにする。最後には学習した文型を使いながら、自己紹介ができるようにする。

Chinese I

到達目標

1	到達目標拼音字母で表記された音声を正確に発音することができ、また、拼音字母によって表記された単語や短文を簡体字に直したり、日本語訳ができる。更に基礎的な文法を用いた簡単な会話や自己紹介ができるようにする。
---	--

教授方法

講義形式で発音や基礎文法を分かりやすく説明した後、繰り返し練習を行う。単語や例文については数名で組になって練習を行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、受講者は語学教材のCDなどを用いて、書き取りや中文和訳を行うとともに、短文を暗唱し、発表する。発音のチェック、文法の理解度を確認しながら、授業を進めることで基礎的な学力を身につける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	中国語とは。簡体字、拼音字母、文法の特徴。発音1：音節、声調、単母音、複母音
2	発音2：子音、鼻母音、er化
3	発音3：声調変化、声調の組み合わせ、日常の挨拶
4	発音4：中国語基本音節表、漢詩「登鶴雀樓」を読む
5	第1課 「你好!」簡単なあいさつ、名前の言い方、「是」構文
6	第1課 「你好!」"吗"を使う疑問文、出身地の言い方、副詞"都"
7	第2課 "这是谁的课本?"、指示代名詞、疑問詞"谁"
8	第2課 "这是谁的课本?"、助詞"的"、語気助詞"呢"、副詞"也"
9	第3課 "今天几号?"、数の言い方、数量名詞述語文、年齢の聞き方
10	第3課 "今天几号?"、年月日、曜日の言い方、聞き方
11	第4課 "我们去哪儿?"、動詞述語文、正反疑問文、場所の表現、語気助詞"吧"
12	第4課 "我们去哪儿?"、数の聞き方、お金の単位、動詞句を目的語に取れる動詞
13	第5課 "今天下午天气怎么样?"、形容詞述語文、程度副詞、時間の言い方
14	第5課 "今天下午天气怎么样?"、程度の聞き方、助詞"的"②、量詞

授業外における学習

事前に教科書を予習し、分からない単語は調べ、教科書の発音（ダウンロードする）で発音の予習を行っておく。事後には、学習した単語や構文を復習し、本文を暗唱すること。

質問や相談への対応

授業中や授業後に適宜質問・相談を受け付ける。遠慮なく質問してほしい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、語彙、基本文法事項や中文和訳などについて理解できているか問う問題とし、その点数で評価する。
口頭発表、レポート	20	最後の時間に自己紹介をひとりずつ発表するとともに、その内容を簡体字で記述したレポートを提出し、その出来栄で評価する。
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取り組みを全体的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』（中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ・曹泰和監修、郁文堂、2500円+税）			
	授業時に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

例文の発音や練習問題など、恥ずかしがらずに大きな声を出して発声するようにしてほしい。また、こまめに辞書を引くようにしてほしい。

その他・特記事項

辞書を紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。

中国語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:37

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1220A	科目コード	L1220
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

中国語の基礎的な文法、中文和訳、簡単な中国語の会話

授業の概要

この授業では、「中国語Ⅰ」で学んだ初期段階の発音と基本文法事項・語彙についての復習を交えつつ、一段階進めて多くの語彙や呼応関係、文法事項を学ぶ。特に日常生活や中国旅行など、実際の場面で役立つ例文を豊富に学習し、繰り返し練習問題に取り組むことで理解を進める。音読練習、暗唱を盛り込み、頭で理解するだけでなく、中国語の音を体で感じながら、発音と構文を一体として習得する。二人組みでの会話の発表などを通じて実践的な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。

Chinese II

到達目標

1	「中国語Ⅰ」で学んだ基礎知識を再度復習しながら、さらにさまざまな言い回しや一歩進んだ文法事項について学び、簡単な表現について和文中訳ができるようにする。会話文と文章とを交えて様々な中国語表現を学んで身につける。簡単な中国語でのコミュニケーションができるようになる。
---	--

教授方法

発音や基礎文法を丁寧に分かりやすく説明した後、繰り返し練習を行う。2人組みになって、発音や会話の練習などを行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、受講者は語学教材の録音などを用いて復唱したり、聞き取って書き取る練習を適宜取り入れることによって、中国語の音を感じて理解するように図りたい。受講者は中文和訳を行うとともに、短文を暗唱し、2人組みになって会話を発表する。発音のチェック、文法の理解度を確認しながら、授業を進めることで中国語による簡単なコミュニケーション能力を身につける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

原則として「中国語Ⅰ」を履修してから、履修すること。

授業計画

1	発音の復習、「中国語Ⅰ」の文法の復習
2	第7課「今天太热了！」：比較構文①、比較構文②、比較構文③
3	第7課「今天太热了！」：同程度を表す構文、仮定の言い方、並列の言い方
4	第8課「我已经到池袋了」：実現を表す助詞“了”、変化を表す“了”、いろいろな副詞
5	第8課「我已经到池袋了」：連動文、“先...然后...”
6	第9課「李丽在家吗？」：存在を表す動詞“在”、時間の言い方
7	第9課「李丽在家吗？」：二重目的語構文、介詞“给”
8	第10課「你去过中国吗？」：経験を表す“过”、“是...的”構文
9	第10課「你去过中国吗？」：疑問詞“怎么”、介詞“在”
10	第11課「明天就是文化节了」：語気助詞“呢”、様態補語
11	第11課「明天就是文化节了」：並列の言い方“一边...一边...”
12	第12課：「离机场还有多远？」：時間量の言い方、概数の言い方、禁止の言い方
13	第12課：「离机场还有多远？」：介詞“离”、介詞“从”、“到”
14	私のある一日について言ってみよう！

授業外における学習

予習時に、新出単語を辞書で調べ、本文を理解し、ダウンロード教材で発音練習を行ってほしい。また、授業後には授業で学んだ内容を復習し、できるだけ暗唱してほしい。

質問や相談への対応

授業中や授業後に適宜質問を受け付けたい。できるだけその場で答えるようにするが、場合によっては次回までに回答を準備することもある。遠慮なく質問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、語彙、基礎文法事項や中文和訳などについて理解できているかを問う問題とし、その点数で評価する。
口頭発表、レポート	20	最後の時間に「ある一日の過ごし方について口頭で一人ずつ発表するとともに、内容を簡体字と拼音で記述したレポートを提出する。
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取り組みを全般的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ、曹泰和監修、郁文堂、¥2500+税			
	参考書や辞書については授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

発音したり、他の学生の前に出て会話を発表したりするのを恥ずかしがらず、積極的に行ってほしい。

その他・特記事項

辞書を授業時に紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。

スペイン語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:37

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1230A	科目コード	L1230
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スペイン語。入門。会話。

授業の概要

スペイン語の入門クラス。スペイン語理解の基礎として、アルファベット、発音、アクセント、数詞、規則動詞、ser動詞、estar動詞、名詞の性と数、冠詞、形容詞、不規則動詞、疑問詞、数字、時刻、前置詞などを講義する。講義した文法事項を踏まえて「聴く」「話す」訓練を行う。

到達目標

1	初めてスペイン語を学ぶ学生を対象とする。初歩的な文法事項を理解し、簡単な自己紹介や旅先で買い物できる程度の会話力、看板やレストランのメニューを理解する程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A1程度の語学力を習得することを目標とする。
---	---

教授方法

文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	講義：Unitad 1 アルファベット、発音、アクセント
2	演習：国、挨拶、数字
3	講義：Unitad 2 人称代名詞、名詞の性と数、ser動詞
4	演習：国籍、職業、自己紹介
5	講義：Unitad 3 冠詞、所有詞、形容詞、estar動詞
6	演習：都市、大学
7	文法事項の復習、中間試験、映像鑑賞
8	講義：Unitad 4 動詞の現在形、疑問詞、時刻
9	演習：時刻と曜日、日常生活
10	講義：Unitad 5 指示詞、所有詞、不規則動詞
11	演習：家族の紹介
12	講義：Unitad 6 hayの用法、不定詞
13	演習：旅行の計画
14	全体のまとめ、期末試験、映像鑑賞

授業外における学習

事後学習：Glexaによる課題

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	
中間試験	30	
期末試験	60	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español①』（2018年、朝日出版社）。生協で購入。履修を迷っている学生は授業が始まってからでも大丈夫です。			
	宮本博司（編）『改訂版 スペイン語ミニ辞典』（2003年、白水社）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。

その他・特記事項

テキストは必ず入手してください。辞典は意欲的に学習したい人だけで大丈夫です。

スペイン語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:38

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1240A	科目コード	L1240
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スペイン語。初級。作文。

授業の概要

スペイン語の初級クラス。複雑な文を理解するために、前置詞を伴う人称代名詞、不規則動詞、直接目的人称代名詞、間接目的人称代名詞、大名動詞、接続詞、点過去、線過去などについて講義する。構文を理解することで会話での「聴く」「話す」能力ばかりでなく、メールや雑誌などを「読む」「書く」能力を高める。

到達目標

1	入門程度のスペイン語を習得済みの学生を対象とする。初級程度の文法事項を理解し、スペイン語話者と簡単なやりとりができる程度の会話力、辞書を使いながら易しいスペイン語の読み物を読み進める程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A2程度の文法事項と語彙を習得することを目標とする。
---	---

教授方法

文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「スペイン語Ⅰ」の単位を修得した者（滞在経験などから入門的な知識を持つ者）。

授業計画

1	講義：Unidad 7 gustar動詞
2	演習：好み、予定
3	講義：Unidad 8 不規則動詞、直接目的人称代名詞
4	演習：買い物
5	講義：Unidad 9 不規則動詞、間接目的人称代名詞
6	演習：
7	文法事項の復習、中間試験、映像鑑賞
8	講義：Unidad 10 代名動詞、天気
9	演習：祭りや行事
10	講義：Unidad 11 estar動詞の応用、接続詞
11	演習：体調と気分
12	講義：Unidad 12 点過去と線過去
13	演習：今年度のできごと
14	全体のまとめ、期末試験、映像鑑賞

授業外における学習

事後学習：Glexaによる課題

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	
中間試験	30	
期末試験	60	

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español①』(2018年、朝日出版社)。			
	宮本博司(編)『改訂版 スペイン語ミニ辞典』(2003年、白水社)。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。

その他・特記事項

「スペイン語Ⅰ」のテキストを続けて使用します。辞典は意欲的に学習したい人だけで大丈夫です。

日本語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:39

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1250A	科目コード	L1250
担当教員	二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

日本語の基本、日本語文法、日本語の語彙、漢字学習

授業の概要

留学生在が日本語で口頭発表したり1,200字程度のレポートを書いたりするために必要な知識として、日本語の文法および語彙の基本的な学習を行う。文法については、品詞の知識と文章上での単語の使い方を中心に学習を進め、正しい日本語の組み立て方を理解する。語彙については、普遍性の高い言葉を学ぶために新聞記事などを取り上げ、その読解および要約を通して知識を習得する。担当者による講義以外に、受講生にプレゼンテーションや課題作文を実施することによって、より実践的な日本語運用能力を身に付けることを目指す。それと併せて、BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上（480点以上でJLPTのN1におおむね相当する）獲得できるスキルも養成する。

【ねらい】

日本語の基本的な文法と語彙に関する知識を学ぶ。

到達目標

1	BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上獲得できる実用的な日本語運用能力を習得できる。
---	---

教授方法

授業はすべて日本語で行います。授業中は日本語で発言するようにしてください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

JLPTを受験したことがある、もしくは将来的に受験する予定であること。日本語Ⅰを履修後、続けて日本語Ⅱも履修すること。

授業計画

1	日本語の文の法則—文節と品詞について—
2	主語の使い分け—格助詞「が」と係助詞「は」の違い—
3	動作を表すニュアンス—自動詞と他動詞—
4	連用修飾の多様性—副詞の種類—
5	文脈のつながり—接続詞の種類—
6	距離感の表し方—指示代名詞の使い方—
7	受け身の表現—助動詞「れる」「られる」
8	使役の表現—助動詞「せる」「させる」
9	敬語の種類—尊敬語・謙譲語・丁寧語—
10	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く①
11	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く②
12	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く③
13	受講生によるプレゼンテーション—正しい日本語で自己表現をする—
14	受講生による日本語作文—1,200字程度の文章を書く—

授業外における学習

事前学習：教科書の予習および授業中に与えられた宿題は必ず準備してきてください。

事後学習：授業中に習った日本語の語彙・漢字や文法などの知識については、毎回必ず復習して覚えてください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はメールやポータルなどを利用してご連絡ください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
レポート	50	何度か日本語の課題作文（400字程度）を提出してもらい、その内容で評価します。
小テスト	30	日本語運用能力を試す小テストを受験し、獲得点数に応じて評価します。
発表（プレゼン）	20	テーマを設定して日本語で発表（プレゼン）してもらいます。適切な日本語を用いた表現ができているかどうかで評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	毎回、授業で提示します。			
	必要に応じて提示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業には、必ず国語辞典（電子辞書可）を用意してください。

その他・特記事項

授業には必ず参加してください。授業以外でも日本語の文章を積極的に読むように心がけてください。

日本語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:40

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1260A	科目コード	L1260
担当教員	谷口 真由実, 二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

留学生向け日本語、日本語の語彙・文法、意見を短文にまとめる

授業の概要

「日本語Ⅰ」を履修した外国人留学生を対象とした授業とする。日本語の語彙や文法についての基礎知識を確認しながら、幅広いテーマについて書かれた本文を読んで内容を把握し、ディスカッションを行なって理解を深める。次に本文について要旨や感想、意見を短文にまとめ、学生同士互いに批評し合っさらに手直しし提出する。これらの過程を通して「聞く・話す・読む・書く」の4つの能力にわたって総合的な力を身につける。最後に、本文のテーマに沿ったレポートを書き、明解な文章を作成する力を養う。

Japanese Language

到達目標

1	すでに学んできた日本語の語彙や文型、文法を基礎として日常的な場面で必要な日本語の理解に加えて、より広い場面で使われる日本語を理解することができる能力を身につける。幅広い話題について書かれた記事や簡単な評論を読んで内容を理解したり、自分の意見を述べたり、書いたりできることを目標とする。
---	--

教授方法

演習形式で行う。まず教科書の各課の本文を読み、内容を把握する。次に本文についてディスカッションを行うことで、理解を深める。その後、本文について各自の感想や意見を短文にまとめ、グループで互いに批評しあう（ピアレスポンス）。最後に他人の意見を踏まえ、文章を手直しして提出する。実践的な練習を通して、コミュニケーションを円滑に行う能力と文章を書く力を養う。言葉の背景である日本の文化や話題になっている時事についても、適宜授業の中に織り込む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「日本語Ⅰ」を履修していること。

授業計画

1	「新たな出会い」（印象的に自己紹介する）
2	「時間を生かす」（時間の使い方についての情報をやりとりする）
3	「緊急事態」（緊急事態が起こって経験したことについて話す）
4	「世代を超えた交流」（故郷や住んだことのある場所やそこでの生活を紹介する）
5	「言葉を楽しむ」（日本語表現と自国の表現を比べる）
6	「ライフスタイル」（様々な人のライフスタイルを知り、自分自身の考えや経験と比較する）
7	「トレンドに乗ってつながる」（社会の流行やトレンドの中から興味のあるものを取り上げる）
8	「情報社会に生きる」（情報やメディアについての自分の意見を述べる）
9	「学校生活」（学校事情についての各国の違いや自身の経験を述べる）
10	「働くということ」（自分の将来について考えるため仕事に対する考えを周囲と共有する）
11	「地球に生きる」（環境について問題になっていること、環境のためにできることを述べる）
12	「科学の力」（科学技術に関する課題に触れ、科学が社会に果たす役割を考える）
13	「豊かさ幸せ」（豊かさについての多様な価値観を知り、自分の考えを客観的に振り返る）
14	レポートを書く

授業外における学習

本文の予習、及び事後の課題作文を作成し、提出すること。

質問や相談への対応

授業時間や時間後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	学習した語彙、文法などが理解できているか、漢字の書き取りができるか、またテーマに沿った短文が書けるかを問う問題とし、基本的な知識の理解度によって評価する。
小テスト	20	本文の新出の語彙や漢字などについて正確に習得できたかを評価する。
レポート	20	また、本文などについて作文を課し、自分の意見を盛り込んだまとまりのある文章が作成できるかを評価する。
平常点	20	普段、意見を述べたり、ディスカッションやグループでの学習に積極的に参加しているか評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『できる日本語中級』（アルク、嶋田和子監修）3400円			
	授業時に適宜紹介する。し			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ディスカッションなどに積極的に参加してほしい。

その他・特記事項

国語辞典を持参し、適宜引いてみてほしい。授業時間中は、原則としてパソコンやスマホは使用しないこと。

English Lectures on Cultural Issues A

更新日：2023/01/10 08:50:57

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1270A	科目コード	L1270
担当教員	Trane DeVore						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

nature, climate crisis, ecology, natural science, nature and inequality, climate justice, culture and nature

授業の概要

Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important cultural issues. This course will give students the experience of academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of cultural issues that will help them to solve contemporary problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests such as the TOEIC.

到達目標

1	First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending online lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class, watching videos, and studying vocabulary
2	Second, students will develop note-taking skills in order to systematically organize the information they are listening to during the lectures
3	Third, students will demonstrate they have understood the material by analyzing it and developing opinions in small online discussion groups during lecture breaks

教授方法

In order to deepen their knowledge of both the English language and topics under discussion, students will be expected to do preparatory work outside of class, including studying lecture-specific vocabulary lists, reading outside materials, and watching videos. Students will be required to take notes in class and turn in their notes as part of the grade. At the end of each quarter students will demonstrate understanding of course materials in the form of a comprehensive essay-based examination. There will also be several small tests and reading checks to make sure that students understand the materials.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Class orientation, introduction to notetaking strategies; Lecture 1: What is nature?
2	Lecture 2: A history of the idea of nature; changing ideas of nature over time; comparative conceptualizations of nature
3	Lecture 3: Ecology and ecological activism; understandings of ecosystems; Earth Day; Swamp Thing
4	Lecture 4: Earth in crisis 1: Plastic, pollution, pesticides, and the insect apocalypse
5	Lecture 5: The art of nature: Landscape painting and glowing rabbits
6	Lecture 6: The uses and misuses of the idea of evolution; Stephen J. Gould's The Mismeasure of Man
7	Lecture 7: "Well, that's just not natural!" Social control, gender norms, and the idea of 'the natural.'
8	Lecture 8: Earth in crisis 2: The climate crisis, Extinction Rebellion, Greta Thunberg
9	Lecture 9: Rice farming, green deserts, agriculture and biodiversity; sample essay-based examination
10	Lecture 10: Forests and culture, Nausicaa and Mononoke Hime, trees in cultural representation
11	Lecture 11: Ideas about animals; the Great Chain of Being; Descartes; animal consciousness and animal rights
12	Lecture 12: Properties of nature: Who owns nature?
13	Lecture 13: Indigenous ideas of nature, indigenous activists and poetics
14	Lecture 14: Earth in crisis 3: Visualizing a different future; prescriptions for a burning planet

授業外における学習

Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will study vocabulary in order to prepare for lecture. There will be short quizzes and homework checks. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet online please ask the instructor during class sessions or send an email.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Final Exam	50%	Open note final essay exam
Vocabulary assignments	20%	Subject-specific vocabulary assignments related to lecture material (will include quizzes)
Student notes	20%	Student notebooks will be checked and graded
Other	10%	Other class assignments and activities
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Necessary materials will be made available (including online materials). There will be a series of class Sway pages for students to use.			
	Electronic dictionary with good English sample sentences.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should prepare for class by reading all necessary materials, studying required vocabulary, and finishing any other necessary lecture preparation. Students should actively take notes in class and join in discussion activities.

その他・特記事項

-

English Lectures on Social Issues A

更新日：2023/01/10 08:50:56

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1280A	科目コード	L1280
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

-

授業の概要

Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important social issues. This course will give students the experience of attending academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of social issues that will help them to solve contemporary problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests such as the TOEIC.

到達目標

1	First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class, watching videos, and studying vocabulary
2	Second, students will develop their note-taking skills by paraphrasing the information they receive during lecture
3	Third, students will practice communicating their ideas in discussion groups using their notes and other resources

教授方法

Lecture-specific vocabulary lists, news articles and other reading materials, video content, note-taking, comprehensive essay-based examination.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Global Insecurities: introduction to the course
2	Economic Insecurity: global
3	Economic Insecurity: local
4	Climate Change and Environmental Risks
5	Transnational Health Risks
6	Political Polarization
7	Different Form of Violence
8	War in Ukraine
9	Humanitarian Crises and Responses
10	Migration: who's moving and why
11	Migration: the Unites States and EU compared
12	An Uncertain Future: What's next?
13	Inspiring Changes
14	Final comprehensive essay-based examination

授業外における学習

Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will study vocabulary in order to prepare for lecture. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet please ask the instructor in class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students prepare for and understand university level lectures on social issues. Students can develop opinions about what they have earned in lecture and express those opinions clearly in end-of-term in-class essays. Students will expand their knowledge of academic English and subject specific vocabulary related to the lectures.	
評価項目	割合	評価基準
final exam	50%	open-note in-class essay
lecture notes	20%	students' notebooks will be checked and graded
assignments	20%	short presentations and activities based on course content
participation	10%	participation in class discussion and attendance
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	Electronic dictionary with good English sample sentences.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should prepare for class by reading all necessary materials, studying required vocabulary, and finishing any other necessary lecture preparation. Students should actively take notes in class and join in discussion activities.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication I (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:59

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1310A	科目コード	L1310
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency work

授業の概要

Building on the 2-year EPGM framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will develop the four skills for communicative purposes
2	Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List
3	Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	April 11: Introductions, Study Progress Guide (SPG), tour guiding preparation
2	April 18: Textbook check, SPG, TOEIC vocabulary Yes/No test information, tour guiding preparation
3	April 25: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 1
4	May 2: Reading 1 discussion, textbook, SPG
5	May 9: Textbook check, tour guiding preparation, TOEIC vocabulary study
6	May 16: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 2
7	May 23: Reading 2 discussion, textbook, SPG
8	June 13: SPG check, student-instructor conferences, tour guiding preparation
9	June 20: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 3
10	June 27: Reading 3 discussion, textbook, SPG
11	July 4: Textbook check, tour guiding preparation, TOEIC vocabulary study
12	Friday July 8: Nagano City tour for JALT PanSIG 2022 Conference
13	July 18: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 3
14	July 25: Reading 4 discussion, SPG, evaluations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
speaking	40%	Various speaking and discussion activities
4 skills	35%	textbook related activities and completion of the Study Progress Guide
vocabulary	15%	TEOIC Service List independent study
other	10%	other assignments
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 3, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

Contact Richard if you have any questions

Advanced English Communication II (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:01

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1320A	科目コード	L1320
担当教員	Cheryl Kirchoff						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Speaking fluency, goal setting, TOEIC Service List vocabulary

授業の概要

Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users
2	Second, students will use the TOEIC Service List
3	Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement

教授方法

"Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to Discussion Topic 1, the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets
2	Textbook Unit 5, discussion preparation, SPG
3	Textbook Unit 5, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Textbook Unit 7, information gathering and data collection, SPG
5	Textbook Unit 7, report on information and data, SPG
6	Textbook Unit 7 + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (work-life balance: personal life vs company life, comparing urban and regional Japan), SPG
8	Textbook Unit 8, information gathering & data collection, SPG
9	Textbook Unit 8, report on information and data, SPG
10	Textbook Unit 8, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (sustainable development goals), SPG
11	Textbook Unit 9, information gathering and data collection, SPG
12	Textbook Unit 9, report on information and data, SPG
13	Textbook Unit 9 + Discussion Test, SPG
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG

授業外における学習

Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.

質問や相談への対応

Students can email the instructor.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.		
評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	discussion tests	
4 Skills	35	textbook activities and completion of the Study Progress Guide	
Vocabulary	15	TEOIC Service List independent study	
other	10	other assignments	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication III (A1)

更新日：2023/03/15 05:23:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1330A	科目コード	L1330
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, communication, business English, TOEIC, discussion

授業の概要

Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users
2	Second, students will use the TOEIC Service List
3	Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

Students should have taken any Year 3 English class OR be an advanced user of English with high willingness to communicate. Please contact the instructor if you are unsure or have questions.

授業計画

1	Class orientation. Introduction to Discussion Topic 1, Business Advantage textbook, the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets
2	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
3	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Second textbook unit, information gathering and data collection, SPG
5	Second textbook unit, report on information and data, SPG
6	Second textbook unit + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3, SPG
8	Third textbook unit, information gathering & data collection, SPG
9	Third textbook unit, report on information and data, SPG
10	Third textbook unit, discussion, introduction of Discussion Topic 4, SPG
11	Fourth textbook unit, information gathering and data collection, SPG
12	Fourth textbook unit, report on information and data, SPG
13	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG

授業外における学習

Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to make an appointment, ask during class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.		
評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Discussion tests will be videoed and evaluated	
Vocabulary	15	TOEIC Service List Vocabulary Test	
Textbook	35	textbook activities and completion of the Study Progress Guide	
Other	10	Other activities	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
Required	Business Advantage - Intermediate. Koester, Pitt, Handford, Lisboa	Cambridge University Press	2012	
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication IV (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:02

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1340A	科目コード	L1340
担当教員	Cheryl Kirchhoff						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, communication, business English, TOEIC, discussion

授業の概要

Building on the 2-year EPGM Fluency framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will develop the four skills for communicative purposes
2	Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List
3	Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

Students should have taken any Year 3 English class OR be an advanced user of English with high willingness to communicate. Please contact instructor if you are unsure or have questions.

授業計画

1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1, Business Advantage textbook, introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets
2	First Textbook Unit, discussion preparation, SPG
3	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Second textbook unit, information gathering and data collection, SPG
5	Second textbook unit, report on information and data, SPG
6	Second textbook unit + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3, SPG
8	Third textbook unit, information gathering & data collection, SPG
9	Third textbook unit, report on information and data, SPG
10	Third textbook unit, discussion, introduction of Discussion Topic 4, SPG
11	Fourth textbook unit, information gathering and data collection, SPG
12	Fourth textbook unit, report on information and data, SPG
13	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG
14	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG

授業外における学習

Read, prepare, and do homework before classes. Engage in discussion.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to stop by the instructor's office, or if you want to make an appointment ask during class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	discussion tests
Vocabulary	15	TOEIC Service List vocabulary test
textbook	35	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide
other	10	other assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Advantage - Intermediate, Koester, Pitt, Handford, and Lisboa, Cambridge University Press, 2012			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

-

Advanced Academic English I (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:58

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1350A	科目コード	L1350
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

アカデミックリーディング、アカデミックライティング

授業の概要

英語 4 技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1, 2 年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS 等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	ノーベル文学賞も受賞したバートランド・ラッセルの『幸福論』を原文で読み、① 高度な英文資料を読みこなす力を身につける。
2	② 内容のかたまりごとに、小見出しを付ける方法を身につける。
3	③ 英文で読んだ内容について意見を述べる力を養う。
4	④ 英文を日本語および英語で要約する力を身につける。
5	⑤ 英文エッセイで自分の意見を書く力を身につける。

教授方法

読解については、文の構造把握、和訳や要約、見出し付けなどの作業を通じて、構文を正しく読み取り、抽象的な内容を具体的に把握し、論の流れと筆者の主張を的確に読み取る力を養う。英文エッセイは、幸福・不幸・平等・不平等・希望・絶望など、やや抽象的なテーマを選んで個人で書き進めてもらい、教員と、また受講者の仲間同士で質疑応答をしながら仕上げる。分量は英文で 500 語以上 (A4 で 2 枚くらい。もっと長くなって良い)。最後に、ラッセルの幸福論に対する論評を 1000~2000 語程度の日本語でまとめる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方についての説明、バートランド・ラッセルおよびテキストの紹介。 Academic English とはどのようなものかの解説と練習。文法の基礎の復習。
2	読解などの技術と実践 (1)、 Academic Writing の課題と句読法
3	読解の技術と実践 (2)、 Academic Writing 技術と演習 (頭括型と尾括型)
4	読解の技術と実践 (3)、 Academic Writing 技術と演習 (パラグラフの構成方法)
5	読解の技術と実践 (4)、 Academic Writing 技術と演習 (接続詞と副詞の使い方)
6	読解の技術と実践 (5)、 Academic Writing 技術と演習 (冠詞の使い方) ①
7	読解の技術と実践 (6)、 Academic Writing の技術と演習 (冠詞の使い方) ②
8	読解の技術と実践 (7)、 Academic Writing の技術と演習 (分詞構文の使い方) ①
9	読解の技術と実践 (8)、 Academic Writing の技術と演習 (分詞構文の使い方) ②
10	読解の技術と実践 (9)、 Academic Writing の技術と演習 (フィードバックと修正) ①
11	読解の技術と実践 (10)、 Academic Writing の技術と演習 (フィードバックと修正) ②
12	読解の技術と実践 (11)、 Academic Writing の技術と演習 (フィードバックと修正) ③
13	読解の技術と実践 (12)、 Academic Writing の技術と演習 (その他の技術) ①
14	読解の技術と実践 (13)、 Academic Writing の技術と演習 (その他の技術) ②

授業外における学習

毎回 2 頁程度は読むので、次回読む部分について、指定された方法 (指定された部分の翻訳、要約、見出し付けなど) での予復習を怠りなく行って欲しい。学期末には、14 回で読んだ部分に関する日本語の論評 (和文で 1000~2000 字程度) と英文エッセイを仕上げて提出すること。

質問や相談への対応

質問は授業中にどんどんして欲しい。メールでの質問や相談も可。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題1	20	テキストの部分翻訳
課題2	20	テキストの要約
課題3	30	日本語によるテキストの論評15%、小見出し15%
課題4	30	英文エッセイ
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Bertrand Russell, The Conquest of Happiness (Liveright Publishing)			
	必要に応じて、授業で、あるいは OneDrive で提供する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで、能動的に読んで欲しい。

その他・特記事項

特になし

Advanced Academic English II (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:04

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1360A	科目コード	L1360
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

批判的考察、TOEICライティング、メディア英語

授業の概要

英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1, 2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	1. メディア英語において、段落の展開を踏まえ、主張の根拠を整理しながら読み解くことができる。
2	2. TOEIC Writingテストにおける170点相当の英語力を身につけ、限られた時間内に根拠を提示しながら一貫性のある主張を伝達できる。
3	3. 英文の推敲において、冗長な表現を避け、意図が明確に伝わるシンプルな英文を書くことができる。

教授方法

専門科目の学修に資する教材を扱う。リーディングからライティングへとつなげるかたちでスキルアップを図るために、指定されたテーマについて、(1) 教師が選定した英文資料の他、受講者が見つけた英文資料も読むことで、多角的な観点から理解する。(2) またインプットした内容を要約して引用し、説得的な英語表現を使って300語エッセイを作成する。(3) 翻訳サイトに依存せず、指定テキストにおける学びのコアとなるシンプルな英文を書く姿勢を身につける。授業では、ペアグループワークを通じてアウトプットの機会を確保する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年次以上に在籍していること

授業計画

1	ガイダンス：シラバス説明、英文ニュース記事の基本、シンプルな英文について
2	メディア英語におけるSVO・SV・SVC ① [指定テキスト第2-3章]
3	メディア英語におけるSVO・SV・SVC ② [指定テキスト第2-3章]
4	TOEIC Writing形式(Email, 300-word Essay)課題(1)
5	メディア英語における時制・態・助動詞 ① [指定テキスト第4章]
6	メディア英語における時制・態・助動詞 ② [指定テキスト第4章]
7	TOEIC Writing形式(Email, 300-word Essay)課題(2)
8	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ① [指定テキスト第5章]
9	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ② [指定テキスト第5章]
10	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ③ [指定テキスト第5章]
11	TOEIC Writing演習(Email, 300-word Essay) (3)
12	確認テスト(1) (Email・サマリー作成、英文書き換え問題、ショートエッセイ) と解説
13	メディア英語におけるコロケーション・構文の要点整理
14	確認テスト(2) (Email・サマリー作成、英文書き換え問題、ショートエッセイ) と解説

授業外における学習

基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料を学習し、事後学習としてリーディング内容のライティング課題の振り返り学習をすること

質問や相談への対応

授業内で確認できなかったことは大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。適宜、個別面談を設定。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
ライティング課題	60	TOEIC Writingテストに対応できる英作文力の習熟度を測る
確認テスト	40	授業で学習した英語表現力の習得度を測る
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『シンプルな英語』（中山 裕木子, 講談社現代新書, 2021年, ISBN: 978-4065257333) [計1冊]			
	インターネットサイト等を紹介			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日常で英語を読み書きすることを習慣にしてください。

その他・特記事項

- ・コロナ感染防止対策として、ハイフレックス式授業を予定（但し、対面に課題や試験等を行う場合がある）。
- ・教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。

Advanced Academic EnglishIII (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:58

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1370A	科目コード	L1370
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

アカデミックリーディング、アカデミックライティング

授業の概要

英語 4 技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを高める。3年次までに培った学術英語の基礎を土台として、専門科目における学修のトレーニングとして、英語文献の批判的考察を行いながら、自分の主張を英文レポートの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	① 高度に社会的な英文資料を読みこなす英語力と教養を身につける。
2	② 内容のかたまりごとに、小見出しを付ける方法を学ぶ。
3	③ 英文で読んだ内容について、批判的に討論する力を身につける。
4	④ 日本語と英語で、読んだ英文の summary を書く力を養う。
5	⑤ 英文エッセイの形で自分の主張を展開する力を身につける。

教授方法

全員で討論しながら一冊のテキストを読み進める輪読形式。テキストは、「1%の富裕層ではなく、「99%の私たち」のために、性差別・人種主義・環境破壊のない社会を」と訴えるフェミニズムのベストセラーの原書。構文解説、見出しを付けて読む方法、ポイントを押さえた要約の練習などを行いつつ、背景となる社会問題についても学ぶ。英文エッセイは、エッセイの基本スタイル、論の展開方法などを学び、引用の仕方も学びながら現代社会の問題について個々人で書き進めてもらう。分量は、英文で1000字程度（A4で2〜3枚くらい。もっと長くなっても良い）。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方についての説明、テキストの紹介。序章の "A fork in the road" を読んでみる。
2	"Thesis 1" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（頭括型と尾括型）
3	"Thesis 2" "Thesis 3" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法と展開方法）①
4	"Thesis 4" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法と展開方法）②
5	"Thesis 5" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（接続詞と副詞の正しい使い方）
6	"Thesis 6" 読解と討論、Academic Writing 課題と注の付け方
7	"Thesis 7" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（句読法）
8	"Thesis 8" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（冠詞の使い方）
9	"Thesis 9" "Thesis 10" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（仮定表現の使い方）
10	"Thesis 11" "Beginning in the middle" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（分詞構文の効果的な使い方）
11	"Reconceptualization of capitalism and its crisis" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）①
12	"What is social reproduction?" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）②
13	"Crisis of social reproduction" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）③
14	"The politics of feminism for the 99 percent" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（その他の技術）

授業外における学習

毎回頁数読むので、次回読む部分について、指定された方法（指定された部分の翻訳、全体の要約、見出し付けなど）での予復習を怠りなく行って欲しい。英文エッセイ、テキストの論評も、指定された期日までに仕上げる。

質問や相談への対応

質問は授業中にどんどんして欲しい。メールでの質問や相談も可。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題1	15	テキストの部分翻訳
課題2	35	英文・和文によるテキスト要約20%、小見出し15%
課題3	15	日本語によるテキストの論評
課題4	35	英文エッセイ
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Feminism for the 99%: A Manifesto (Verso)			
	必要に応じて、授業で、あるいは OneDrive で提供する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで、能動的に読んで欲しい。

その他・特記事項

特になし

Advanced Academic EnglishⅣ (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:04

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1380A	科目コード	L1380
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

英国社会、英国文化、リーディング、ライティング

授業の概要

英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミック・リーディング及びアカデミック・ライティングのスキルを学ぶ。1・2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	高度な英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する力を身につける。この授業では英国の新聞、雑誌の記事、随筆など多種多様な教材を用いて、読解力、語彙力を身につけることを目的とする。できるだけ広い分野をカバーし、要約、要旨のつかみ方、速読の練習もあわせて行う。
2	またその資料が提起している問題を十分理解し、解決策などについてグループ単位で日本語・英語を使って話し合う。更にこの授業を通して、受講生が英国社会や文化が理解できるようにしたい。

教授方法

授業は演習形式で、担当教員が事前に配布した英字新聞の記事などのプリントを使って、まずテキストの内容確認をし、それから英語でディスカッションを行う。担当教員は受講生にまず英語の生教材を速読・熟読する技術を身につける練習をしてもらう。次に教材の要旨をつかみ、日本語・英語でまとめ、加えて教材に対する自分の意見を日本語・英語で的確に述べるコツを教授する。また教材が提起している問題の解決策について、日本語・英語を使ってクラス・ディスカッションもしてもらう。更に英語でレポートを書く際に必要となる英文構成力や表現力についての指導も行う。この授業は英語と日本語を用いて行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方・学習方法・評価方法を説明する。）
2	英字新聞の読み方や英国の新聞について説明する。
3	英国の教育制度・英国の大学に関する英文記事の講読
4	英国のパブリックスクールに関する英文記事の講読
5	英国の階級制度に関する英文記事の講読 1
6	英国の階級制度に関する英文記事の講読 2 と英文エッセイの書き方の説明
7	英国の食事に関する英文記事の講読
8	肥満問題に関する英文記事の講読
9	人種問題、移民問題に関する英文記事の講読
10	ベール着用禁止論争に関する英文記事の講読
11	強制婚に関する英文記事の講読
12	英国のクリスマスに関する英文記事の講読
13	経済・ビジネスに関する英文記事の講読
14	医療と年金問題に関する英文記事の講読

授業外における学習

毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。
予習を十分してから授業に臨むこと。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	40%	提出物によって評価する。
発表	40%	発表によって評価する。
授業貢献	20%	授業貢献度によって評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	プリント教材を配布する。テキストは使用しない。			
	『「イギリス社会」入門：日本人に伝えたい本当の英国』 コリン・ジョイス著 NHK出版 2016年 ISBN: 978-4-14-088354-9			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1. 受講生の積極的な授業参加を期待する。
2. 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
3. 遅刻はしないこと。
4. 予習・復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は評価を下げるので注意すること。しかし怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。遅刻は30分までは出席とみなす。

心理学

更新日：2023/01/10 08:51:41

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L2010A	科目コード	L2010
担当教員	藤田 勉						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

心理学, 行動, 学習, 研究法

授業の概要

心理学に対して興味や関心をもつ人は多いが、心理学という学問がどういった学問で、どのようなことを研究しているのか理解している人は少ない。心理学の対象・目的・仕事を明確にし、心理学の代表的な研究法を学ぶことで、心理学とはどのような学問であるのかを理解する。さらに、心理学の様々な分野（知覚心理学, 学習心理学, 性格心理学, 思考心理学, 臨床心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学等）における研究成果を知ることにより、その有用性を確認する。

到達目標

1	本講義を通じて、受講生は一般に誤解されやすい心理学を正しく理解するとともに、心理学的なものの見方や思考法を学ぶ。
---	--

教授方法

原則的には講義形式で進められるが、受講生が参加・体験できるような実験、調査、検査等を組み入れ、受講生に心理学を“実感”してもらえよう工夫していく。受講生は授業時間以外で講義内容に関して予習・復習を行うことが求められる。今年度は学期中数回の小テストを実施する予定である。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	キックオフ（授業の目的、授業の内容、授業の形式、使用テキスト、成績評価の方法、授業のスケジュールなど）
2	心理学とは何か（心理学の対象）
3	心理学とは何か（心理学の目的、心理学の仕事）
4	心理学の研究法（観察、実験）
5	心理学の研究法（調査、検査、事例研究法）
6	まとめ
7	感覚・知覚心理学①（知覚とは、錯視の例、幾何学的錯視他）
8	感覚・知覚心理学②（対比現象、反転図形、恒常性、視覚以外の錯覚他）
9	学習心理学①（学習とは、行動の種類、レスポナント条件づけの基本手続きと応用研究）
10	学習心理学②（オペラント条件づけの基本手続きと応用研究）
11	記憶について（記憶とは、記憶の検査法、記憶の種類、記憶の範囲、記憶の諸現象、記憶術）
12	発達心理学①（発達心理学とは、ヒトの発達段階、胎生期～乳児期の発達）
13	発達心理学②（乳児期～幼児期の発達）
14	性格心理学（性格とは、性格の分類、性格の形成、性格検査の実際）、授業全体のまとめ

授業外における学習

この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり、指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。

質問や相談への対応

質問・相談については、原則的には授業時間内で受けつけ、当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は、初回授業時間で伝えるメール・アドレスにて受けつける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を総合的に評価する。

小テスト（筆記）	50	筆記試験により単元ごとの授業内容の理解度を評価する。学期中数回の実施を予定。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『新版行動科学序説（新版5刷）』藤田勉・藤田直子 世音社 2019 ISBN：978-4-921012-12-0 ★PDFファイルを配信予定。			
	『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《見方の“クセ”と“思い込み”編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17309-7 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17206-9 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《Q & A編》』藤田勉 ほおずき書籍 2020 ISBN：978-4-434-27733-7			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本授業を受講することにより、「心理学」の有用性を知り、日常生活に役立ててもらいたい。

その他・特記事項

出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻、それ以降は欠席とする。

哲学

更新日：2023/01/10 08:51:41

開講年度	2022	学期	1期	シラブスコード	L2020A	科目コード	L2020
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

哲学、倫理、ヨーロッパ、論理的思考、対話

授業の概要

今年度は20世紀の哲学者H.アーレントやE.レヴィナスの思想を手がかりに、「全体性」について考える。全体性は、全体主義的な社会体制を批判する際にも使われるが、西洋哲学のある種の流れを批判する際にも使われる概念である。授業を通じて現在の世界を批判的に理解することを目指す。解説の過程で、著名な哲学者の学説や文章を適宜紹介する。授業の後半では、講義内容に関連したディスカッションを行う。毎回授業の最後に、学習内容およびディスカッションを振り返る。

【ねらい】

講師自身が現在取り組んでいる問題を受講者と一緒に考えることにより、哲学的に考える姿勢や、西洋哲学史の著名な学説を自分自身のものとする。辞典や入門書などを使い、著名な学説について調べ、自分の問題を考えるために手がかりとして活用することができる。

到達目標

1	①自明の事柄について哲学的な問いを立てることができる。
2	②立てられた問に含まれる言葉を定義できる。
3	③問に関連する哲学史上の著名な学説を参照することができる。
4	④論証に必要な具体例を挙げることができる。
5	⑤立論を論理的に構成できる。
6	⑥立論を説得的に構築できる。
7	⑦対話を通じて自らの考えを吟味検討できる。

教授方法

講義を主体とするが、適宜、演習やディスカッションを実施する。対面授業を基本とするが感染状況に応じて適宜オンライン（同時双方向）授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。

授業計画

1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、哲学について
2	全体性概念について（概要）
3	アーレントにおける全体主義批判（1）
4	アーレントにおける全体主義批判（2）
5	小テスト、レポートについて（書き方、問いの設定）
6	レヴィナスにおける近代哲学批判
7	フッサールとハイデガーにおけるモナド論
8	分有と融即（レヴィ＝ブリュールとルイ・ラヴェル）
9	世界観としての哲学とナチズムへの批判
10	マイモニデスから現代ユダヤ哲学へ
11	レヴィナスにおける全体性概念
12	レポートのピアレビュー
13	まとめの対話、レポートの提出
14	レポートの返却、レポート内容の発表

授業外における学習

授業で学んだ内容を基にレポートを作成するため、よく復習しておくこと。

質問や相談への対応

・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ワークシートへの書き込み、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。
レポート	50	授業の達成目標への到達度により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分が知っていることと知らないことを区別するよう努力し、自分の頭で粘り強く考え、ディスカッションでは質問を互いにし合うよう心掛けること。

その他・特記事項

特になし

倫理学

更新日：2023/01/10 08:51:42

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2030A	科目コード	L2030
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

倫理、功利主義、義務論、徳倫理、生命倫理、環境倫理、動物倫理、食倫理、ビジネス倫理、グローバルジャスティス

授業の概要

この授業では倫理学の対象、方法、その応用について講義形式で紹介する。学習内容に関連したディスカッションを適宜行う。小テストおよびレポートを課す。講義ではまず倫理学の対象と方法および簡単な歴史を説明する、ついで規範性の導出を主な関心とする3つのアプローチを立場ごとに解説する。最後に現代的諸問題を倫理学がどのように扱っているのかを個別の問題ごとに見てゆく。

【ねらい】

倫理学の各分野の基本的な学説を学び、人間や社会が抱える諸問題を倫理的に考察することができるようになること

到達目標

1	①規範倫理や応用倫理学の代表的な立場や扱われる問題について、基本的な説明ができる。
2	②倫理学上の学説を、現代の具体的問題に適用し吟味検討できる。
3	③いかなる理念や倫理観をもつべきか、みずから吟味できるようになる
4	④倫理的問題を、独断的な信念によらず他者との対話を通じて検討することができる

教授方法

講義ののち、ディスカッションを行う。対面とオンラインを併用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。

授業計画

1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、倫理学について
2	功利主義
3	義務論
4	徳倫理、小テスト（1）
5	社会倫理（社会契約説の古典と正義論）
6	ケアの倫理、生命倫理、レポートの書き方
7	生命倫理、エンハンスメント、小テスト（2）
8	環境倫理、映画と解説（1）
9	動物倫理、映画と解説（2）、小テスト（3）
10	食の倫理、映画と解説（3）
11	ビジネスエシックス、映画と解説（4）
12	グローバルジャスティス、映画と解説（5）
13	レポートピアレビュー、授業後レポート提出、小テスト（4）
14	レポートの返却、レポートの発表

授業外における学習

- ①資料をあらかじめ配布する場合は、事前に読んでおくこと。
- ②学習内容について小テストを行うので、復習をすること。
- ③授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。

質問や相談への対応

・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	20	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。
小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する
授業レポート	40	授業の達成目標への到達度により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

普段から時事問題に関心を持ち、倫理学と関連する問題にアンテナを張っておくこと。

その他・特記事項

特になし

教育学

更新日：2023/01/10 08:51:43

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2040A	科目コード	L2040
担当教員	荒井 聡史						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

グローバル化と教育改革、教育の国際比較、情報消費社会とこども、生涯発達から見たこども、教育目的論

授業の概要

子どもと教育に関する心理学的、社会的、哲学的、教育学的な理論を学び、学際的視点から現代社会における教育の課題を検討する。特に1980年代以降の子ども論の理論動向を軸に、高度情報化社会の中の子どもの生活世界の変容や、近代学校制度から始まる学校中心主義の教育言説の構造的問題点についても触れながら、子ども・若者の教育の現代的課題を浮き彫りにし、人間にとっての教育の意味、社会における教育の意味を検討していく。

到達目標

1	子どもという存在を学際的な視座から見つめ直すために必要な諸理論を学びながら、子どもや若者を多様な視点から見るとともに、人間にとっての教育の意味と現代社会における子どもをめぐる課題を検討し、受講者が子どもの問題を自らの課題として受け止め、向き合う意欲と態度を身につけることを目標とする。
---	--

教授方法

- ・プレゼンテーションソフトを利用した講義を中心に、豊富な音楽資料、映像資料を提示し、分かり易く、しかし知的刺激に富んだ授業を心がける。
- ・ほぼ毎回グループ討議等のアクティビティ・パートとして、受講生が課題に対する自分の意見を発表したり、他者の意見を受け止めて考えたりする機会を設け、講義内容でも扱うアクティブラーニングに触れる。
- ・受講生には毎回リアクション・ペーパーに記入してもらい、受講生の主体的、能動的な授業参加を促すとともに、インタラクティブな授業展開を試みる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

総合教育科目人文系科目として履修可能。

授業計画

1	オリエンテーション・日本の教育の何が問題か
2	I 現在の教育をめぐる状況—①日本の学校教育改革の系譜
3	I 現在の教育をめぐる状況—②グローバル化と学力観
4	II 教育と文化・社会—①カリキュラム論的に見た学力観
5	II 教育と文化・社会—②学校制度の国際比較
6	III 教育のイメージ—①教育は学校だけの仕事？
7	III 教育のイメージ—②学ぶことと育つこと
8	III 教育のイメージ—③幼児の世界と遊び
9	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—①古典的心理学の発達観
10	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—②人間の発達の多層性
11	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—③生涯発達と生きる意味
12	V 教育は何のため？—①教育目的の様々な規定
13	V 教育は何のため？—②教育と人間の関係
14	V 教育は何のため？—③「大人になること」の意味

授業外における学習

- ①事前に次回の授業内容に関する資料を配布するので、事前に読んで疑問点等を整理した上で授業に望むこと。
- ②授業内容を主体的に受け止め、自己の課題を確認してレポートに反映すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メール・チャットでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	授業内容を主体的に受け止め、教育の課題を自らの課題として捉えて学習を進展できたかを評価する。		
評価項目	割合	評価基準	
授業レポートA	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業レポートB	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業レポートC	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業内小レポート	28	毎授業後提出するリアクションペーパーを通じて、授業に主体的に参加できたかを評価する	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に使用しない。授業内で配布するペーパー資料を中心に授業を進めるので、資料をきちんと整理して保管すること。			
	第1回授業時に参考文献リストを提示する。また、授業中適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業内容を主体的に受け止め、これからの自己の人生と社会のあり方を展望するための課題を発見する姿勢を望む。

その他・特記事項

- ・ 授業レポートについては第1回授業時に課題を提示するので、授業内容を通じて得た視点を反映させながら作成してもらう。
- ・ Microsoft Teamsを通じた連絡、資料の配布を行うので、常時確認できるようにしておくこと。

言語学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:44

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L2050A	科目コード	L2050
担当教員	金田一 真澄						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

言語、人間、コミュニケーション、思考力

授業の概要

言葉とは何かという素朴な疑問から入り、身のまわりの言葉の不思議な世界に迫ります。言葉について人はどのように考え、どのように使ってきたのか。言葉に対する人間の飽くなき探究心と好奇心の歴史をたどります。人間の認知や心理など、20世紀中葉までの言語学で敬遠されてきた側面に焦点を当て、人間にとって不可欠な存在となった言葉の仕組みの一端を明らかにしていきます。ときに、生物学、心理学、哲学、社会科学などの周辺の領域についても言及し、関連する日本語の表現や文法現象についても広く観察します。

言語へのアプローチの道は様々です。基本的にはサイエンスの立場からアプローチしますが、それは突きつめると「人間とは何か」を探し求める旅でもあります。

英語表記<linguistics>

到達目標

1	ふだん気づかなかった言葉の力、特に母語の様々な力の存在について自覚し、認識するようになり、言葉の力を使うようになります。また、言葉を通して、人間とは何かについてのイメージを掴むことができ、言葉の使い方やその背景に注意を払うようになり、母語を大切に扱うようになります。 1) 母語の魅力を意識し、言葉の力を使えるようになります。
2	2) 母語を通して、人間とは何かということ深く考えるようになります。
3	3) 論理的で深い思考力、豊かな表現力、柔軟な発想力が身につきます。

教授方法

毎回予習を求めます。あらかじめ調べて理解しておくべき項目を指示しておきますので、必ず準備をして授業に出席して下さい。毎回授業の理解の助けとなるプリントを配付し、1時間余の授業を行い、その後は授業で扱ったテーマについて、様々な視点から意見交換のディスカッションを行います。意見を積極的に発表してもらい、こちらからもコメントを加えます。最後に、コメント用紙にその日の授業について感じたことを記入して提出してもらいます。毎回プリントを配付するのは授業内容を速やかに理解するためです。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

初めて言語学を学ぶ人であること。言葉に関心を持ち、自分の意見を積極的に述べる努力をする人を歓迎します。

授業計画

1	言葉と人間の世界 言葉は人間のすべての領域において対象となるもの
2	言葉の力 言葉は単に情報を伝達するための道具ではない
3	言語起源論 言葉はいつ何のために生まれたものなのか
4	言語決定論 言葉がなくて思考することは可能だろうか
5	言語生得説 幼児は言葉を親から学ぶのか、本性的に言語能力があるのか
6	言語認識論 人の外界認識に言葉はいかに関わるのか
7	カテゴリー論+レポートの書き方 分類と意味との深い関係について。レポートの書き方
8	意味論 意味はかつて哲学者の深淵な課題だった
9	語用論 発話の意味は状況や話者によって決まる
10	会話論 日常会話は複雑・繊細でAIにも理解できない
11	メタファ論 メタファの達人は偉大である：アリストテレス
12	レトリック論 言葉のコピーはレトリックからできている
13	言語学の流れ 言語学には流行がある
14	笑い論+まとめ 笑いは高度な知性を必要とする

授業外における学習

毎回課題を与えるので、次回の授業までに調べてくること。

質問や相談への対応

授業の後で、質問・相談に応じます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	70%	6000字のレポートを、「レポートの書き方」（第7回）に従って書く。言葉に関するテーマについて独自の考えに具体例や引用を含め、期限内に提出する。
授業中の発言	20%	評価基準:積極的に意見を述べるのが求められる。自らの経験や知識に則した考えを分かりやすく述べること。
コメント用紙	10%	授業を聞いて感じたこと、考えたことをまとめて書く。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。配付資料で行います。			
	講義の最後にテーマごとに示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業の最後の20~30分が、学生との意見交換の場となります。その日の講義内容に関連する課題をこちらが与え、それに対して積極的に意見を述べてもらうものです。大勢の前で自分の考えをきちんと分かりやすく述べることは、貴重なプレゼンテーションの場となり、将来グローバル社会で活躍するためにも、役立つはずです。一方で、他の学生の思いもかけない意見に耳を傾けることも、良い勉強になります。答えの出ない問いについて様々な視点から議論することも大切です。こうした意見交換の場に積極的に参加することを切に希望します。

その他・特記事項

レポートを出さないと、評価が付きません。

言語学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:45

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2060A	科目コード	L2060
担当教員	中島 基樹						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

言語学、文法、日本語、英語

授業の概要

主に日本語と英語を比較することを通して、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論など、言語学の各分野を概観し、人間言語の普遍性と多様性について考察する。

到達目標

1	・言語学の各分野の研究対象や主な研究事例について理解すること。
2	・日本語と英語の共通点と相違点（人間言語の普遍性と多様性）について理解すること。
3	・（言語）データを客観的・論理的に分析する力を養うこと。

教授方法

第1～8回は教員による講義と受講者（個人またはグループ）による演習、第9～13回は受講者によるグループ発表を中心とした授業を行います。第2～8回は毎回授業後に小テストを行い、その日の授業内容の理解度を確認します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし（「言語学Ⅰ」とは独立した内容のため、「言語学Ⅱ」からの受講が可能です。）

授業計画

1	オリエンテーション：言語学とは？
2	音韻論
3	形態論①複合
4	形態論②派生
5	統語論①句構造
6	統語論②移動と語順
7	意味論
8	語用論
9	グループ発表の説明・準備
10	受講者によるグループ発表①
11	受講者によるグループ発表②
12	受講者によるグループ発表③
13	受講者によるグループ発表④
14	まとめと補足

授業外における学習

- ・授業を通して興味を持ったトピックについて、文献等で詳しく調べてみる。
- ・日頃から身の回りの言語表現・言語事象に意識を向ける。

質問や相談への対応

授業の前後に声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	40	授業内の演習やグループワークに積極的に取り組んでいるか。教員の講義や他の受講者の発表に対し、適切な質問やコメントができているか。
小テスト	20	各回の授業内容を正しく理解できているか。
グループ発表	10	自身の関心のあるトピックについて調査を行い、その内容を他者にわかりやすく伝えることができているか。
期末レポート	30	授業内容をふまえて適切な研究テーマを設定し、調査・考察した内容を論理的にレポートにまとめることができているか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	<ul style="list-style-type: none"> ・窪園晴夫(2019) 『よくわかる言語学』 ミネルヴァ書房 ・三原健一・高見健一(2013) 『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版 その他、授業時に随時紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

文献の内容や教員の解説、他者の意見をそのまま鵜呑みにするのではなく、自分の頭で批判的に考えることを心がけましょう。

その他・特記事項

言語運用能力（「英語力」や「日本語力」）の向上を目的とした授業ではありません。

文学Ⅰ（日本文学）

更新日：2023/01/10 08:51:46

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2070A	科目コード	L2070
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

古典文化、伝統文化、古典文学

授業の概要

わが国の伝統文化のひとつである古典文学は、それと気付かないだけで、実は、現代社会におけるさまざまな文化的営為に依然として影響を与え続けている。本授業では、わが国の代表的な古典作品を取り上げて文学史を概観しつつ、それらが関連する現代社会の文化事象について、具体的な事例を挙げて解説する。それによって、現代に生きる我々の精神文化が、古典文学という伝統文化と深く関わって形作られていることを学ぶ。

【ねらい】

日本の古典における代表的な作品について文学史的な知識を学びつつ、それらが現代社会の精神文化に与えている影響について理解する。

到達目標

1	社会的営為としての文学が果たす役割を理解し、社会における文化の在り方についての正しい見解を身に付けることができる。
---	---

教授方法

授業は対面とZoomミーティングの交互で行う。毎回の授業では、プリントやパワーポイントの他に、古典文学に関連する動画なども視聴覚教材として使用し、講義する。授業の終わりに講義内容に関する簡単なワークシートを作成してもらい、知識の定着をはかる。ワークシートの記入方法については、その都度、説明する。

なお、毎回の授業で紹介する古典作品については、現代語訳のプリントや動画など、高校時代に古典が苦手だった人にも取り組みやすい教材を用いながら内容を説明するので、古典がまったく読めなくても構わない。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「文学Ⅱ」「文学Ⅲ」の授業も履修することが望ましい。

授業計画

1	日本古典文学を学ぶ意味—現代社会の精神文化を形成したもの—
2	『古事記』『日本書紀』—神話と現代人の迷信—
3	『出雲国風土記』の物産記事—郷土誌のはじまり—
4	『万葉集』と万葉仮名—詩歌の遡源—
5	『竹取物語』のかぐや姫—正統派ヒロイン像の確立—
6	『伊勢物語』の在原業平—正統派英雄像の確立—
7	『源氏物語』の光源氏と紫上—恋愛小説の祖型—
8	『今昔物語』『宇治拾遺物語』—都市伝説のモチーフ—
9	『枕草子』『方丈記』『徒然草』—エッセイ・コラムの文芸性—
10	『平家物語』『太平記』—歴史小説への影響—
11	『醒睡笑』と咄本—話芸への影響—
12	『雨月物語』と上田秋成—怪談の娯楽性—
13	『椿説弓張月』と曲亭馬琴—連載小説の商業的価値—
14	日本文学のまとめ—古典から近現代文学まで—

授業外における学習

授業で紹介した作品や同時代の他の作品を自主的に読んでください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	80	授業中に取り上げた作品について、正しい知識が身についているかを評価基準とする。
課題作文	20	課題として提示し下日本文学作品について、文学史上適性な評価を以て解説しているかを評価基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	古典文学作品のコピーを必要に応じて配布します。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日本人の精神基盤を支える古典文化について理解を深めてください。

その他・特記事項

授業で扱うすべての古典文学作品については動画でその内容を紹介するほか、現代語訳のプリントを配布しますので、古文が読めなくても授業内容を十分理解できます。この授業を通して、日本の古典文化について身近に感じてくださると幸いです。

文学Ⅱ（中国文学）

更新日：2023/01/10 08:51:47

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2080A	科目コード	L2080
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

中国文学、古典文学、詩、小説、人生観、世界観

授業の概要

中国文学は三千年近い歴史を有し、日本文学や日本文化への影響も計り知れない。本授業は、中国文学を世界文学の一つである点と日本文学との深い関わりとの両方を軸として捉え直す。中国古典文学の多様なジャンルの作品を取り上げ、味わうと共にその特徴を考察する。また、作者の生涯や作品が誕生した社会的あるいは文学史的背景に着目し、文学に表された人間観、世界観について考える補助線とする。古典文学が人間存在の奥深さや世界観の多様さへと我々をいざない、現代の個人や社会の諸問題のありかを照らす灯となることを理解する。

Literature II (Chinese Literature)

到達目標

1	世界の文学の中から主に中国の文学—詩や物語、小説など—を取り上げて、作品中に描かれた様々な人間ドラマを読み取り、考察する。さまざまなジャンルの文学作品の特徴について知ることを目標とする。特に古典文学の中に脈々と息づく深い人間洞察や豊かな世界観を学び、現代を生きる上での糧となることを理解する。
---	--

教授方法

講義形式で作品を解説・読解しつつ、各時間に取り上げる作品の表現や内容について適宜問題を設定し、学生同士のディスカッションやグループ学習を行いながら進める。学生自身が作品と向き合い、読解を深め、問題についてさまざまな質問や意見を持つように促す。ディスカッションやグループ学習で出された意見を受講者全員にフィードバックし共有することで、解釈の揺れや広がり、問題への多様なアプローチの仕方、思考方法などを学ぶよすがとする。また、適宜参考文献を紹介し、さらに関心・興味を広げ、人生観や世界観を学ぶ一助とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	中国文学の特徴 漢語の表現特徴、韻文・散文のさまざまなジャンル、中国最古の詩集『詩経』
2	『文選』所収「古詩十九首」 後漢時代の民衆・役人の喜怒哀楽
3	六朝詩人陶淵明「飲酒二十首」 歌いこまれた人生への洞察、アウトサイダーとしての生涯
4	唐詩の世界① 「詩中に画有り、画中に詩有り」、王維の自然詩、近体詩の成立
5	唐詩の世界② 自由奔放な詩想をうたい上げた李白、比喩表現の豊かさ
6	唐詩の世界③ リアリズムの詩人杜甫、葛藤と社会との対峙の諸相
7	唐詩の世界④ 白居易「長恨歌」の物語性と表現工夫
8	李商隠「錦瑟」詩における修辞性と情感表出の間
9	宋詩 蘇軾詩を読む
10	歴史文学 『史記』①歴史家司馬遷、時代や社会と格闘した人間ドラマ
11	歴史文学 『史記』①時代や社会と格闘した人間ドラマ
12	六朝志怪小説『搜神記』 不思議な出来事の記録、人間の愚劣さと誠実さ
13	唐代伝奇小説 人間の一生の物語「枕中記」 幸福とは
14	中国文学のまとめ 古典から近現代文学まで

授業外における学習

授業で学ぶレジュメに事前に目を通しておくこと。授業後、興味をもった作品について、レポート作成に向けて参考資料を読み込んだり、作品への読解を深めておくこと。

質問や相談への対応

授業の中で適宜質問を受けたい。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
レポート課題	60	授業で取り上げた作品について、個々人でさらに調査・考察した結果をレポートにまとめる。参考文献を適宜参考に行っているか、考察に独自性は見えるか、文章が練られているかを評価する。
グループワーク、感想文	40	授業の中で、グループでディスカッションやグループ学習を実施する。積極的に参加しているか、ユニークな意見を出しているか、他の学生の意見を参考にし読解を深化させているかと平常点を含め評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に使用しない。レジюмеプリント配布予定。			
	適宜授業の中で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グループ学習やディスカッションに積極的に取り組んでほしい。授業で紹介した作品だけでなく、関連作品も積極的に読むようにしてほしい。

その他・特記事項

原則として授業中はパソコンやスマホは使用禁止とする。

文学III（イギリス文学）

更新日：2023/03/13 17:06:36

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2090A	科目コード	L2090
担当教員	坂 淳一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

英文学、イギリス文学、英文化、イギリス文化、西欧文化

授業の概要

イギリス文学史の区分に従って講義と作品鑑賞を行い、イギリス文学の魅力を学ぶ。イギリス文学の詩と小説を交互に学び、時代背景や文化・思想・宗教などについても学ぶ。鑑賞した作品については授業内でディスカッションを行い、相互に理解を深める。また、作品分析のレポートを書き、文化研究の方法を学ぶ。(Literature III (British Literature))

到達目標

1	イギリス文学の歴史と特徴を知る。
2	文学鑑賞と文化研究の方法を身に付ける。
3	文学の背景にある文化・思想・宗教についての知識を身に付ける。

教授方法

時代背景を学び、作品を鑑賞し、解説をするという流れで進める。学生の皆さんには、その作品をどうとらえるかを考え、書き、それを相互に読み合うことで作品理解を深める。評価は毎回のリアクションペーパーの評価、作品レポート、文学史・文化史ならびに文学用語に関する期末試験の評価で決定する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方の説明、イギリス文学史の概説、古英語期の『ベオウルフ』、中英語期の『カンタベリー物語』について
2	『ハリー・ポッター』と聖書、アーサー王伝説
3	シェイクスピアのソネット、レポート提出と解説
4	『ガリバー旅行記』について
5	シェイクスピアの演劇とルネサンスについて
6	『ガリバー旅行記』レポート提出と解説、古典主義時代について
7	古典主義とロマン主義（1） アレグザンダー・ポープとワーズワースの詩の鑑賞（ヘロイック・カプレットとバラッド）
8	ジェイン・オースティン『エマ』について
9	古典主義とロマン主義（2） 歴史・庭園文化・ゴシック小説、ブレイクの詩
10	ロマン主義時代の文学：『エマ』レポート提出とジェイン・オースティンの解説
11	ディケンズ『クリスマス・キャロル』について
12	ヴィクトリア朝英国とその文化について
13	『クリスマス・キャロル』レポート提出とディケンズの解説
14	20世紀のイギリス文学：ジェイムズ・ジョイスとヴァージニア・ウルフ

授業外における学習

作品ならびに文学史や歴史関連の文献を読んだりして、知識を深めてください。

質問や相談への対応

質問については、出来るだけ授業中に聞くか、メールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

定期試験（筆記）	42%	期末試験の点数
レポート	30%	作品レポートの評価
リアクションペーパー	28%	毎回のリアクションペーパーの合計ポイント
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	教材・資料は授業で紹介しま す。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ただ講義を聞くだけでなく、自分の感じたことや気付いたことを積極的に発言してください。

その他・特記事項

体調が悪い時は、事前にメール連絡をくれれば HiFlex 対応をします。その場合は、次の Zoomミーティングに入室して下さい。 ID: 820 1053 0790 パスコード: British

歴史（近現代）

更新日：2023/01/10 08:51:48

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L2100A	科目コード	L2100
担当教員	大串 潤児						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

現代史の方法 社会史 民衆史

授業の概要

長野県の20世紀を主な素材として、一般教養としての「歴史(近現代史)」の基礎知識と歴史学の方法を講義する。

到達目標

1	地域にある大学に学ぶ学生として以下の知識・力の育成を目指す。①高等学校までの近現代史の知識をふまえてさらに高度な専門的知識の習得。
2	②地域（長野県）の近現代史—20世紀史の基礎的な知識を学ぶ。
3	③歴史学の基本的な方法論や、時代・社会を分析する方法について学ぶ。

教授方法

基本的には配布したレジュメに即した講義を行う。主題によっては映像資料などを活用しつつ、学生との討論を実施する。
 (COVID-19感染症流行の状況によって講義形態を変更する場合がある)

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	ガイダンス 授業内容の概要
2	信州（長野県）とはどのような地域なのか？ (1) 前近代史の復習
3	信州（長野県）とはどのような地域なのか？ (2) 近現代史の舞台
4	近代の出発 (1) 幕末維新をどうみるか？
5	近代の出発 (2) 「王政復古」か、「ご一新」か？
6	学校からみる「近代」 (1) 教育とは何だろうか？
7	学校からみる「近代」 (2) 就学率は100%？
8	女性が働くということ (1) 近代の産業と労働
9	女性が働くということ (2) 農村のすがた
10	戦争と軍隊 (1) 「軍都」という空間
11	戦争と軍隊 (2) ある兵士の戦場経験：日中戦争
12	満州移民
13	松代大本営—アジア太平洋戦争の敗戦と東アジア
14	いのち、の近現代史 佐久病院の戦後史

授業外における学習

一連のテーマで講義する場合が多いので、レジュメ記載の参考文献には目を通すことが望ましい。

質問や相談への対応

質問があれば授業後の時間に可能な限り対応する。

その他は以下のメールアドレスに相談のこと。

ogushi@shinshu-u.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
試験	100	講義の内容を理解しているか、どうかを問う。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	毎回の講義でレジюмеを配布する。			
	毎回の講義レジюмеで紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に授業に臨んでほしい。

その他・特記事項

高等学校（ないし中学校）の日本史（社会科）教科書が参考になる。

民俗文化論

更新日：2023/01/10 08:51:49

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2110A	科目コード	L2110
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

民俗宗教。民俗芸能。フォークロリズム。観光資源。デジタルコンテンツ。

授業の概要

民俗文化（Folk Culture）は都市文化（Urban Culture）との対比で語られてきた文化現象である。民俗学という分野で研究が行われてきたが、文化人類学、社会学、歴史学、文学との関連も深い。民俗宗教、祭り、伝承、民俗芸能などの事例を紹介しながら、日本の民俗文化について解説する。現代の事象として、デジタルコンテンツやテーマパークに民俗文化がどのように取り込まれているのかを知り、民俗文化の変容について考える。先駆者の仕事から専門的な切り口についても考察する。

到達目標

1	民俗文化の現代的な諸相について理解を深める。
2	参拝や祭り、盆や節句などの民俗宗教、神楽や歌舞伎などの民俗芸能の具体的な事例に触れ、民俗文化を変容させる要因について考える。
3	生活習慣としての民俗、忘れられた民俗、新たに創造される民俗に思いを巡らせ、日本人は何を受け継ぎ、何を失ったのかを想像する。
4	日本各地の民俗文化をマネジメントする基礎的な知識を習得することを目標とする。

教授方法

講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、民俗文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	民俗文化とは何か
2	民俗宗教
3	年中行事
4	神社と祭り
5	縁起の民俗文化
6	南方熊楠の民俗学
7	柳田国男と折口信夫
8	神楽と民間伝承
9	能と紅葉伝説
10	歌舞伎と紅葉伝説
11	フォークロリズム
12	デジタルコンテンツと民俗文化
13	テーマパークと民俗文化
14	全体のまとめと期末試験

授業外における学習

映像視聴、読書など、随時指示する。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	

期末試験	90	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	岡本太郎『神秘日本』（2015年、角川ソフィア文庫）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

オンライン授業ではビデオを「オン」にし、顔を見せて受講する。期末試験は教室にPCを持参してGlexaで実施する。

文化人類学

更新日：2023/01/10 08:51:50

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2120A	科目コード	L2120
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

構造主義。文化相対主義。創られた伝統。トリックスター。複数の経済。

授業の概要

文化人類学は「文化を通して人間集団を理解する」学問分野である。文化は集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受けて常に変化する。人間が創り出す世界観の構造、他者理解のメカニズム、世界各地の様々な文化現象について解説する。構造主義、文化相対主義、創られた伝統、トリックスター、複数の経済などの文化人類学の思考方法や概念を通して世界を見つめた後に「自分とは何か」「人間とは何か」といった普遍的な問いに立ち返る。

到達目標

1	世界各地の文化を学び、異文化理解に必要な知識を習得する。
2	文化人類学の基礎的な思考方法に親しむことで、異質な他者に対して、共感は難しくても理解する柔軟な思考を育む。
3	多様な人間の暮らし、習慣、感じ方、考え方などに触れ、あらためて自分とは何かを考える。
4	既存の価値観から距離を置き、新たな世界の見方を習得することを目標とする。

教授方法

講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、世界の文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	イントロダクション、世界観と他者
2	構造主義
3	生活と文化
4	文化相対主義
5	宗教と死生観
6	創られた伝統
7	国家と王権
8	トリックスター
9	サイバースペース
10	スペインの巡礼
11	経済人類学
12	クラとポトラッチ
13	老いと病い
14	全体のまとめ、期末試験

授業外における学習

映像視聴、読書など、随時指示する。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	

期末試験	90	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	山口昌男 『学問の春：知と遊びの10講義』（2009年、平凡社新書）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

オンライン授業ではビデオを「オン」にし、顔を見せて受講する。期末試験はPCを持参してGlexaで実施する。

音楽

更新日：2023/01/10 08:51:51

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2130A	科目コード	L2130
担当教員	大南 匠						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

西洋音楽史、“きく”とは何か、現代音楽、ミニットペーパー

授業の概要

バロックから現代までの西洋音楽史の流れに沿いながら、鑑賞を通じて楽曲の構造、思想に触れる。クラシック音楽をベースにはするが、ジャズ、民族音楽、ロック、歌謡曲、ノイズなど様々なジャンルを横断する。また、美術、建築、映画、文学、ダンスと音楽の関係性に考察する。

到達目標

1	音楽と社会の関係、音楽の多様性について理解する。
2	“きく”ことの意味について理解する。

教授方法

対面による授業。授業の前半は前回授業のミニットペーパーから質問、感想を基に授業を展開する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、バロックの音楽（バッハ、パッヘルベル、パーセル／平均律と純正律、対位法ーカノン技法、ピアノの発明）
2	古典派1（サリエリ、モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン／機能と声法、ソナタ形式）
3	古典派2（ハイドン、ベートーヴェン／市民音楽の夜明け、啓蒙思想との関わり）
4	ロマン派1（シューベルト、ベルリオーズ、メンデルスゾーン／型からの脱却）
5	ロマン派2（ショパン、シューマン、リスト、チャイコフスキー／楽器の発展、コンサートホールの建設と音楽学校の設立）
6	ロマン派3（ワーグナー、ブルックナー、マーラー、シュトラウス／半音階の使用）
7	国民楽派1（バラキレフ、ムソルグスキ、リムスキー＝コルサコフ／ロシア5人組）
8	国民楽派2（スメタナ、ドヴォルザーク、アルベニス、ファリャ、シベリウス／民族と音楽）
9	印象派（ドビュッシー、ラヴェル、イベール／曖昧な調性、全音階の使用）
10	近代の音楽1（ラフマニノフ、プロコフィエフ、スクリャービン、バルトーク／和音の響き）
11	近代の音楽2（ストラヴィンスキー、シェーンベルク、アルバンベルク、ヴェーベルン、ヒンデミット／調性の崩壊、12音技法）
12	“きく”とは何か（ミニワークショップ＊状況により変更あり）
13	現代の音楽1（アイブス、メシアン、クセナキス、リゲティ、ブーレーズ／セリー音楽、政治と音楽）
14	現代の音楽2（テリーライリー、ライヒ、フィリップグラス、ベルト、グレッツキ、吉松隆、佐藤聡明／セリー音楽の限界、新ロマン主義）

授業外における学習

ライブで作品を鑑賞するのは難しい状況ではあるが、ネット配信など、これまでは体験できなかった方法で様々なコンテンツに触れることができるため、音楽に関わらず、様々なアート作品に触れて欲しい。理解できる、理解できないに関係なく、まずは多くの作品を耳にすること、目にすること、触れることが重要。

質問や相談への対応

質問や意見を述べたミニットペーパーにできるだけ授業内で答えるように努めるが、授業内で扱って欲しくない内容などについては、メールなどで対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
提出物	50	ミニットペーパー（14回分）の内容を評価する。
レポート	50	学期末に実施するレポート内容を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜、提示する。			
	適宜、提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

講義の3分の1はミニットペーパーを基に構成するため、考察したことを自由に記載して欲しい。

その他・特記事項

とくになし

国際関係論

更新日：2023/01/10 08:51:52

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3010A	科目コード	L3010
担当教員	駒村 哲						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

国民国家、民族、冷戦

授業の概要

国際関係の歴史的形成と展開に関する基本的知識を得るとともに、現代国際社会が直面する諸問題を解決する手法を学ぶ。

到達目標

1	学際的かつ総合的学問である国際関係論について理解できるようになる。
2	現代国際関係の諸問題を解決する手がかりを自ら見つけることができるようになる。

教授方法

講義（プリント配布）とともにビデオをみる

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

歴史学及び政治学関係の科目を履修することが望ましい

授業計画

1	国際関係論とは何か
2	国民国家とは何か
3	国際社会とは何か
4	第1次世界大戦
5	1920年代のヨーロッパ
6	1920年代のアジア
7	1930年代のヨーロッパ
8	1930年代のアジア
9	第2次世界大戦ーヨーロッパ戦争
10	第2次世界大戦ーアジア・太平洋戦争
11	冷戦とは何かーアメリカにおける研究
12	冷戦とは何かーロシアにおける研究
13	国際関係論における理論研究
14	21世紀の国際関係論

授業外における学習

事前にテキストを読み、問題関心を高め、事後はテキストを読み返す。

質問や相談への対応

講義の前後で対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末試験	25%	論理的説明がなされている
期末試験	25%	歴史的事実を正確に理解している
期末試験	25%	オリジナルな見解が説得力を有している
期末試験	25%	講義内容を踏まえて論述している
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『国際紛争』（ジョセフ・ナイ）有斐閣			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的かつ積極的に取り組む。

その他・特記事項

特になし。

社会学

更新日：2023/01/10 08:51:53

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L3020A	科目コード	L3020
担当教員	築山 秀夫						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会学的想像力、近代社会、国民国家、構造／主体、グローバリゼーション、ジェンダー

授業の概要

この科目は、総合教育科目のうち「社会と産業」の科目に位置づけられている。社会学の立場から、現代社会の構造と特徴について講義する。現代社会を、社会学的パースペクティブを用いて分析し、考察できる能力を培う。

まず、社会学の方法と視座、キー概念、社会学が誕生した歴史的背景について学ぶ。次に、近代社会、グローバリゼーション、後期近代の特質について学ぶ。そして、社会的に重要視され、受講生が関心を持つ問題（ウクライナ戦争、パンデミックなど）を幾つか取り上げて、そのメカニズムや構造的背景について考察する。履修者間の議論（グループワークと発表）を通じて理解を深める。

【ねらい】

身近で個人的な問題に見えるような現象を、より広い社会的文脈のなかで捉え直し、理解することのできる能力を身に付けることをねらいとする。さらには、他者によって構築された自己自身を捉え、デフォルト的なものの見方をアンインストールし、社会をこれまでと違う視点で眺めることで、そこに潜む構造を捉える批判的な思考法と、それをより良い社会の構築に結びつける構想力を身に付けより良い社会の構築に必要な条件を探求することをねらいとし、以下を到達目標とする。

到達目標

1	①社会学の方法や視座、社会学的想像力とは何かを理解する。
2	②社会学の歴史について理解する。
3	③社会学の領域や多様性について理解する。
4	④社会学が対象としている近代社会の特徴を理解する。
5	⑤自分で社会的問題を捉え、それについて、社会的な分析をすることができる。

教授方法

基本は、講義形式で行うが、学生による能動的な学修も組み込む。受講者をグループに分け、毎回必ず、グループ内でディスカッションをした後に、意見の発表をしてもらう。コロナ禍への対応のために、当初一週間は、オンライン講義とする。小テストの実施については、実施する前の講義でアナウンスをする。学生諸君の興味関心に対応するために、講義で取り扱うテーマを変更することがある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

この科目は、社会科学の考え方の基礎的な習得をねらっているので、なるべく一年次に受講して頂きたい。本授業を履修する前に受講する必要のある科目はない。初回で、この講義の進め方について説明するので、初回から出席することが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション:授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。・受講生の関心を知るために、Formsによる簡単な調査を実施する。・社会学の問い、自分が作ったわけではない世界で行為すること、社会学者の関心・野心・願い・役割について学ぶ。
2	社会学のキー概念、社会学の方法と視座:社会学の方法と社会学の魅力、社会学的想像力について解説する。第一回で調査した結果を共有する。
3	社会科学および社会学の誕生と歴史的背景、科学史における位置づけについて解説する。
4	社会学の領域と多様性:社会学の領域、社会学の多様性（連字符社会学）について解説する。
5	近代社会の特質:国民国家、資本主義、階級社会など近代社会の特質について解説する。第1～4回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト①を実施する。
6	グローバリゼーション:デヴィッド・グレーバー『負債論』を読み、グローバリゼーションについて、議論する。グローバリゼーションにおける功罪に関するレポート1を提出する。
7	グローバリゼーション2:アメリカにおける格差問題を考察する。
8	後期近代:リスク社会、排除型社会について解説し、現代社会について議論する。第5～7回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト②を実施する。
9	労働とギグ・エコノミー: Amazonやウーバーにおけるテラーの亡霊について考察する。
10	ブルシット・ジョブとエッセンシャルワーカー:なぜ、社会のためになる仕事程給与が低いのかを考察する。
11	現代日本の家族と少子化:家族の構造や機能、家族の現状を諸データより分析し、解説する。日本の少子化に関する原因に関するレポート2を提出する。

12	現代日本の家族と少子化2:日本の少子化のメカニズムについて考察する。
13	日本における社会的格差、福祉制度の課題について解説する。日本国家のあり方に関するレポート3を提出する。
14	まとめ：これまでの授業で学んだことを振り返り、社会的に捉えることは何かを確認する。

授業外における学習

毎回、シラバスに書かれているテーマについて、自分自身で、事前に調べておくこと。毎回、フォローアップ課題に回答し、授業内容を復習し、疑問点を整理すること。課題レポートを提出する。

質問や相談への対応

質問は、授業後及びオフィスアワー時に受け付ける。また、毎回、講義の後に、フォローアップ課題と共に、質問を受けるので、次回、回答し、履修者と共有する。但し、自分でできる限り調べる努力をすること。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	選択・記述とし、社会学の基礎的知識を理解し、社会的視点で社会事象の説明ができるかを問う。試験が60点以上なければ、他の成績が良くても及第（可以上）できないこととする。
小テスト	20	第5回と第8回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
授業レポート	30	それぞれレポートを（10点満点）提出していただき、評価する。全てのレポートを提出していることが及第（可以上）の条件となる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は特になし。毎回、講義のスライドの紙・ファイルを共有する。			
	ケン・プラマー（2016→2021赤川学監訳）『21世紀を生きるための社会学の教科書』ちくま学芸文庫（Ken Plummer, 2016, SOCIOLOGY: The Basics, Routledge）講義時に、その都度、配布したり、紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①授業はパワーポイントによる講義を中心に行うが、ノートを取って学習することを勧める。
- ②グループワークやディスカッションに積極的に取り組むこと。
- ③日常的に新聞等のマス・メディアが発信する情報を摂取し、現代社会に関する多様な情報を獲得すること。

その他・特記事項

自ら考え、学び、知的好奇心を持ち続けることを期待する。意見を主張するときには、必ずエビデンスを示すことを心掛けてほしい。

憲法

更新日：2023/01/10 08:51:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3030A	科目コード	L3030
担当教員	関 良徳						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

人権 自由 平等 社会 国家

授業の概要

授業の前半では、日本国憲法の基本原理や様々な種類の人権について概説し、それらの特性や問題点について検討します。後半では、人権保障のために設けられている統治機構の各機能について概説します。

到達目標

1	この授業の目標は、私たちの身の周りで生じている様々な憲法上の問題を手掛かりに、日本国憲法の基本原理（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）について理解することです。具体的には、各条文の解釈を通じてその意味を理解すると同時に、判例を適宜参照することで実際の事件と憲法とのかかわりについて考察できるようになることです。
---	---

教授方法

講義形式とディスカッション形式を組み合わせで行います。必要に応じてオンラインでの授業を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

この授業を履修するためには、毎回の予習と復習が必要です。

授業計画

1	憲法と立憲主義：憲法についての基礎的な概念やその中核を構成する立憲主義の考え方を説明する。
2	日本国憲法の成立：大日本帝国憲法から現憲法成立までの歴史的過程及びその正統性を概説する。
3	国民主権と天皇制：憲法前文、国民主権及び天皇制について説明する。
4	平和主義の原理：第9条の解釈及び自衛隊問題について説明し、改憲論について討論する。
5	基本的人権の原理：人権の諸形式及び人権の主体等について説明するとともに、人権の限界について考える。
6	包括的基本権と法の下での平等：第13条及び第14条について説明し、関連する判例を検討する。
7	自由権Ⅰ－内心の自由：思想良心、信教、学問の各自由について説明し、関連する判例を検討する。
8	自由権Ⅱ－表現の自由：表現の自由や知る権利について、判例検討を通じてその限界を考える。
9	自由権Ⅲ－人身の自由：刑事司法制度と人身の自由について説明を行う。
10	自由権Ⅳ－経済的自由：職業選択の自由や財産権について説明を行う。
11	参政権と社会権：参政権、生存権、教育を受ける権利、労働基本権について概説する。
12	統治機構Ⅰ－国会：国会の権能や法律の制定過程について説明する。
13	統治機構Ⅱ－内閣：内閣の権能や議院内閣制（大統領制との比較を含む）などについて概説する。
14	統治機構Ⅲ－裁判所・地方自治：裁判所の役割や司法権の独立、地方自治の制度について説明する。

授業外における学習

毎回の授業時に短いレポート課題を出します。この課題は授業の事後学習であると同時に、次回の授業の事前学習となる内容になっています。次回授業の際に提出する必要があります。

質問や相談への対応

- ・授業時間内に質問・相談等を受け付けます。
- ・メールでの質問や相談も受け付けています。

成績評価

共通の評価基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「達成目標の水準にある」、応用問題が解ければ「それよりもやや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価されます。	
評価項目	割合	評価基準
1	60	期末試験
2	40	予習・復習課題

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しません。毎回レジユメを配布します。			
	『論点 日本国憲法（第2版）』東京法令出版。その他は授業時間内に適宜紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

憲法が身近な問題と関わっていることを十分に理解していただきたいと思います。

その他・特記事項

授業内で行うディスカッションに積極的に参加して下さい。

社会保障入門

更新日：2023/03/15 13:14:29

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3060A	科目コード	L3060
担当教員	清水 浩和						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会保障の知識の実践的活用、福祉と社会保障との関係、社会保障の財政分析（国際比較と歴史的把握）

授業の概要

入門編である本講義では、まずは身の回りの年金、医療、雇用、介護などの具体的なテーマを取り扱う。わが国と諸外国の社会保障の諸問題に関するデータや実例を紹介することから出発し、「なぜそうなのか」「そもそもどうだったのか」といった根源的な問題の検討を行う。こうした検討を行うことで、社会保障の理念・制度・実態を具体的に学ぶとともに、これらを体系的に理解する方法を示す。全体として、社会保障を学ぶ面白さや楽しさを伝えることに最も重点を置くこととする。

到達目標

1	本講義では、身の回りの社会保障の問題について「なぜそうなのか」「そもそもどうだったのか」といった疑問を持つことから出発する。自分の身の回りの医療や年金などの問題に対して疑問を持ち、その歴史的経緯や原因を考察することで、受講後も生活に役立つ社会保障の基礎知識の修得をはかるとともに、それらの知識を基に自ら考え表現する能力を養う。
---	---

教授方法

毎回のスライド（簡略版を講義の翌週に配布予定）に沿って講義を進めるが、ノートを自分で取ることが必須である。ただスライドを眺めるだけでは、知識は決して身につかないことを知ってほしい。また、質問やコメント（チャットやコメントシート等）を募り、参加型の講義を行いたい。受講生諸君の積極的な参加を歓迎する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	聞き取りから学ぶ力、必要な社会保障の知識の習得、歴史的な思考方法
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	質疑応答の重視、コメントペーパーの提出（任意）、見やすいスライド、アニメーションの活用など

履修要件

特になし。

授業計画

1	なぜ社会保障を学ぶのかーコロナ渦の中で考えるー：巨大な「パズル」を解く国際比較と歴史的視点 これまでコロナ禍にいかにか国や地方や医療機関は対応してきたかという観点から、社会保障の最前線（最先端）のテーマを扱う。
2	なぜ社会保障を国家が行うのか：市場経済と国家の役割の変容① そもそもなぜ国家が社会保障を行うようになったか、その根源的なテーマを歴史的に考察する。
3	なぜ社会保障を国家が行うのか：市場経済と国家の役割の変容② そもそもなぜ国家が社会保障を行うようになったか、その根源的なテーマを歴史的に考察する。前回の続編。
4	社会保障は財政危機を招くのか、消費税は社会保障に使われているのか：社会保障の給付と負担を財政で読み解く そもそも社会保障は財政危機を本当に招くのか、消費税は本当に社会保障に使われているのかと言ったテーマを考える。
5	コロナ禍に医療はどのように対応したのか：医療保障（医療保険等）の理念と実態① これまでコロナ禍に医療はどのように対応してきたのか、その詳細をより具体的に論じる。
6	日本の医療は優れているのか：医療保障（医療保険等）の理念と実態② 国際的に見て日本の医療は優れていると言われているが、それは本当なのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
7	老後の介護はもう安心なのか：介護保障（介護保険等）の理念と実態① 我が国の介護保険への評価は様々である。その詳細を具体的に論じる。
8	老後の費用はどのくらいかかるのか：介護保障（介護保険等）の理念と実態② 我が国の介護保険への評価は様々である。その詳細を具体的に論じる。 前回の続編。
9	貧困はどこで生じているのか：雇用保障（失業保険等）の理念と実態① わが国では貧困はどこで生じているのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
10	より良い仕事に就くにはどうすれば良いのか：雇用保障（失業保険等）の理念と実態② わが国では貧困はどこで生じているのだろうか。その詳細を具体的に論じる。前回の続編。
11	生活保護を受ける人は本当に怠け者か：公的扶助（生活保護等）の理念と実態 わが国で生活保護を受ける人々は本当に怠け者なのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
12	なぜうちの親の年金はこうも少ないのか：所得保障（年金保険等）の理念と実態 わが国で少額または低額の公的年金しか受けとれない人々は本当に怠け者だったのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
13	なぜ保育所に子どもを入れられないのか：児童保障（子ども・子育て支援制度等）の理念と実態 わが国では保育所に子どもを入れられない人々が多いが、なにが原因なのか。その詳細を具体的に論じる。

14	(総括) 社会保障を体系的に考える：ライフサイクルに応じた社会保障の考え方がわが国でも諸外国と同様、人の一生を通じた体系的な社会保障の考え方が求められている。それはどのようなものか。その詳細を具体的に論じる。
----	--

授業外における学習

授業後に配布するスライド（簡略版）や自分のノートを繰り返し復習すること。
 ただスライドを眺めるだけではなく、あわせて自分で書いたノートを繰り返し見直してほしい。また、スライドではアニメーションも多用しているため、実際に自分の手で動かしてみしてほしい。その上で、毎回の講義への自分なりの感想や考えを実際にコメントシートで書いて（アウトプットして）みてほしい。これらができれば、大きな学習効果が得られるだけでなく、大学を卒業して生活をするなかで役立つ知識が身についていくであろう。

質問や相談への対応

授業中もチャットで適宜受け付ける。これらの質問への回答は講義中にできるだけしていく予定である。また、電子メールでの質問やコメントペーパーも受け付ける。

（メールアドレス）18000764@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	80	記述内容の面白さ、論理展開の的確さ、授業内容の理解度、キーワードの記述の正確さ等を主な評価基準とする。剽窃は厳禁。
授業参加	20	意欲的な講義への参加、講義への質問、コメントペーパー等の内容を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	原則として各回の講義で紹介する。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

原則として各回の講義で紹介する。以下は参考書。
 高端正幸、伊集守直（編）『福祉財政（福祉+α）』2018年、ミネルヴァ書房

受講生に望むこと

講義中はスライドにはない話も多くするため、講義ノートをしっかりととってほしい。
 自分でノートを取り、重要なポイントと疑問点をスライドで復習をすると大きな学習効果が得られる。スライド（簡略版）は授業の翌週に配布する予定。

その他・特記事項

受講生諸君の知的好奇心にできるだけ応えられる講義を行いたい。
 講義への学生諸君の積極的な参加を期待する。

法学

更新日：2023/01/10 08:51:30

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L3070A	科目コード	L3070
担当教員	遠藤 元一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

ルール、インセンティブ、契約、エンフォースメント、予防、解決

授業の概要

この授業は、法には、その法が実現しようとしている目的（目標）があり、その目的を実現するために一定の仕掛けを用意していること、法が適用されない領域もあることなどについての基本を学習する。この法の基本的な構造・ルールを理解することで、これまで考えたことのない問題や新たに生起・創造される様々な領域の問題に対して、法の基本的な構造・ルールを応用して問題を解決に導く基礎力を養う。なお受講生の理解度などを確認しながら、適宜内容を修正することもある。

英語表記「Introduction to Law」

到達目標

1	①法の基本的な構造を理解する。
2	②法の基本的な考え方にに基づき結論を導く論理的な思考を体得する。
3	③これまで考えたことのない問題にも②を応用して結論を導く基礎力を養う。

教授方法

講義形式。質疑応答や、適宜、何人かのグループに分かれてディスカッションしてもらい発表してもらうことも行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

無し

授業計画

1	法の全体像－選挙に行く意味は？、ネットでの表現はどこまで許されるか？など、法律に関わる問題を考えてみる
2	法はなぜ必要か－法があると社会はどう変わるか、法ルールが社会にもたらす効果
3	法の働きその1－取引等と法のルールその1
4	法の働きその2－取引等と法ルールその2
5	様々なルールその1－法が用意している様々なルール
6	様々なルールその2－法が用意している様々なルール
7	法を使うその1－具体的な法の解釈の試み 憲法、刑法、行政法規
8	法を使うその2－具体的な法の解釈の試み 民法、会社法
9	法をあてはめるその1 ケーススタディ 具体的な事例で法の適用をしてみる まず事実を確定する
10	法をあてはめるその2 ケーススタディ 具体的な事例で法の適用をしてみる 確定した事実法に法を適用してみる
11	法ルールを「予防」に使うその1 伝統的な企業法務の役割としての紛争予防と紛争解決
12	法ルールを「予防」に使うその2 新たな企業法務の役割－内部統制体制等
13	法ルールを作る 法ルールを作るときの考え方 何を目標とする、遵守するための手法、複数の目的を設定するとき
14	まとめ

授業外における学習

・毎回指定された教科書の範囲を読んで自分なりに考えておく。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中、授業の前後に受付ける。
- ・前回の授業の質問で共有する意味があるものについては次回の授業のはじめにコメントする。
- ・メールでの質問も受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70	課題に対する取組みの視点や理解度、意欲に応じて評価する。
上記以外の授業評価	30	授業中の質疑応答等に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	森田 果『法学を学ぶのはなぜ?』（有斐閣、2020）			
	①江藤祥平ほか『大学生生活と法』（有斐閣、2022） ②内海博俊ほか『法学入門』（有斐閣、2021）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

できれば新聞一紙でいいから毎日、隅々まで目を通すようにしてほしい

その他・特記事項

無し

経済学入門A（ミクロ）（旧：経済学入門I）

更新日：2023/01/10 08:51:31

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L3080A	科目コード	L3080
担当教員	中条 潮						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

経済学 海外プログラム

授業の概要

この入門講座では、経済学の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性を、グローバルマネジメント学部の海外実地研修（海外プログラム）の研修国とビジネスビジット先を例に、わかりやすく説明します。

到達目標

1	1) 専門科目としての「ミクロ経済学」で体系的にミクロ経済学を学ぶ準備段階として、日本と世界の基礎的な経済事象を理解することによって、政策のありかたや経営問題を考える際の基本となる「経済学的な物の見方」を身に付けること。
2	2) 海外実地研修（海外プログラム）の研修国の特徴とビジネスビジットのねらいを理解すること。

教授方法

7回の短い授業であり、かつ、履修者が多い授業ですので、時間のかかる質疑応答を実施する余地がなく、基本的には講義スタイルとします。

この授業は、オンラインでのライブを基本とします。Covid-19の状況次第では、対面で実施する場合がありますが、対面授業の場合も、オンライン授業と同様の形態で教室で授業をしますので、必ずPCとヘッドセットを持参して授業にのぞんでください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

全学部全学年の学生が履修可能です。ただし、説明事例はグローバルマネジメント学部の海外研修先を使用します。

授業計画

1	I. 経済学の重要性と「大学では何を学ぶべきか」～海外プログラムのねらい～
2	II. ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 1.経済学の目標は社会全体の幸福の最大化 2.経済学の「効率」の概念
3	II. ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 3. 市場メカニズムの役割と限界
4	III. 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 1. 海外プログラムの business visit sites と学んでもらいたい経済の基礎 2. 第二次大戦後の日本経済の流れ 3. 「国による保護+大企業支配体制」から「大企業vs新規参入企業」の競争時代へ
5	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 4. 自由貿易 v s 閉鎖国家 5. 途上国援助と低所得者対策の基本課題III
6	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 6. 「外部不経済の内部化」と「企業の社会的責任」はどう違う？～CSR、SDGへの疑問～ 7. 観光立国と地域おこしの幻想
7	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 8. 経済改革、自由、高福祉～北欧モデルとニュージーランドの改革から学ぶ～

授業外における学習

事前：学生ポータルにupされた授業のレジュメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。

事後：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば自分で調べること。

質問や相談への対応

質問は、なるべく、授業中をお願いします。

上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとってくれば可能な限り対応します。

成績評価

共通の評価基準	(全学共通) 【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。 ただし、これではまったく具体性がないので、基準になりませんから、当科目における具体的な合格基準は下記を読んでください。もう少し詳しい条件は授業で話します。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験の予定ですがcovid19の影響でレポートになる可能性もあります。	100	授業で教えた基礎用語、経済事象、余剰分析について、筆記試験なら50%、レポートの場合は80%理解しているとみなせば、かつ、私の指示を満たしていれば合格とします。
授業中の質疑・回答	不定	授業を活性化させる質問や回答の場合は、その程度に応じて加点することがあり得ます。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は使用しません。ポータルに授業資料をupします。			
	大学生になったら自分で探すこと。ただし、参考書が必要なほどの高度の内容は講義しません。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学生として当然必要な学習態度以外、特に求めません。

その他・特記事項

グローバルマネジメント学部の5期生以降は、この科目は必修となります。他学科生、GM4期生までは選択自由です。

経済学入門B（マクロ）（旧：経済学入門II）

更新日：2023/01/10 08:51:05

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L3090A	科目コード	L3090
担当教員	中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

経済学の十大原則、長期の実物経済、国民所得、物価、生産と成長

授業の概要

経済学入門B（マクロ）は経済学の入門科目であり、主にマクロ経済学の初歩的な考え方を修得し、それを用いて国内外の事象を理解することを目的とする。マクロ経済学は、GDP、物価、雇用といった一国の経済全体（マクロ経済）の動き（「景気」）を決めるメカニズムを分析する学問分野である。世界の大学で標準的に用いられている教科書を用いて、7週かけて丁寧に解説と演習を行い、理論の基本的理解と実体経済への応用力を養う。

到達目標

1	①経済学的に考える習慣を身につける。
2	②日々のマクロ経済に関わるニュースを批判的に理解できるようになる。

教授方法

主に講義形式で行う。講義においてはオンラインで学生が積極的に参加する機会を適宜設ける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	イントロダクション、マクロ経済学とは、経済学の十大原理【青教科書：第1章】【緑教科書：第1章】
2	経済学の十大原則復習、経済学者らしく考える【青教科書：第1,2章】【緑教科書：第1,2章】
3	国民所得の測定【青教科書：第8章】【緑教科書：第5章】
4	生計費の測定、生産と成長【青教科書：第9,10章】【緑教科書：第6,7章】
5	貯蓄、投資と金融システム【青教科書：第11章】【緑教科書：第8章】
6	総需要と総供給【青教科書：第12章】【緑教科書：第15章】
7	開放マクロ経済学—基本的概念【青教科書：第13章】【緑教科書：第13章】

授業外における学習

内外の経済的・政治的・社会的背景とその変遷について、あらゆる分野にわたっての一定の理解が求められる。講義外でも積極的に多方面の読書や情報理解を怠らないこと。

また、日本経済新聞、The Economistなど、時事的な記事に常時目を通しておくこと。

質問や相談への対応

常時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	80	期末試験を実施する
授業中の議論への参加度	20	宿題を含む
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	<p>N・グレゴリー・マンキュー [2019]『マンキュー入門経済学(第3版)』, 東洋経済新報社 (白地に青字) ※なお、2年次以降に「マクロ経済学」履修予定の場合は、 N.グレゴリー・マンキュー[2019]『マンキュー経済学IIマクロ編(第4版)』, 東洋経済新報社 (白地に緑字) の1冊で経済学入門B (マクロ) と併用可能</p>			
	<p>【初級】一橋大学経済学部編『教養としての経済学』有斐閣、2013年 猪木武徳『経済社会の学び方』中公新書、2021年 【中級】大瀧雅之『平成不況の本質—雇用と金融から考える』岩波新書、2011年 大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018年 【応用】内閣府『経済財政白書』日経印刷、(毎年発刊) The International Monetary Fund (IMF): World Economic Outlook 他、適宜紹介する。</p>			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

教科書を繰り返し読むことを勧める。

出席しただけでは「授業への貢献度」のポイントとはならない。討論への参加、発言等、授業に対して何らかの貢献があると認められてはじめて有効となる。あまり周囲の目を気にせず、しかし同時に周囲の多様な意見を理解しながら、積極的に議論に参加してほしい。

その他・特記事項

担当教員は国内外で金融・経済調査・国際会議の実務経験を有する。

数学的発想

更新日：2023/01/10 08:51:56

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L4010A	科目コード	L4010
担当教員	福田 一貴						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

高校数学の応用、宝くじ、保険・投資、経路探索、暗号理論、人工知能

授業の概要

この授業では、高校の数学I・A程度の知識を前提として、確率・統計、グラフ理論、整数の性質などのテーマについての初歩的な講義を行う。これらの数学の身近な応用例として、例えば、確率・統計では宝くじや保険・投資、グラフ理論ではカーナビの経路探索、整数の性質では公開鍵暗号方式などの仕組みを理解する。各テーマごとの講義の後に、応用例に関するグループワークなどを通じた体験的な活動を行い、数学的な発想法を経験的に学んで行く。授業の終盤では、近年注目を浴びている人工知能(AI)について、グループで調べ学習を行い、シンギュラリティが訪れるかどうかについて、数学的発想に基づいた議論を行う。

【科目のねらい】

我々の身の回りでは、至る所で様々な数学が応用されている。しかし、自分が知っている数学を応用して、何かの役に立ったという経験は少ないのではないだろうか。本授業では、幾つかの数学の具体的な応用例を紹介するが、難しい計算をしたり、複雑な公式を覚えるのが目的ではない。実際に数学を応用する体験を通して、数学的な発想力や思考力を養い、実際の社会生活に役立てる力を身につけることを目標とする。

到達目標

1	① 具体例を通して数学が応用される仕組みを理解する。
2	② 具体的な問題解決に対して数学を応用することができる。
3	③ 数学を応用した結果に基づいて議論したり判断することができる。

教授方法

この授業では、毎回最初にそれぞれのテーマに関する基本的な内容について講義を行い、その後グループ学習を行う。従って、授業の一部は講義形式であるが、基本的にはアクティブ・ラーニング形式の授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に指定しない。この科目では高校までに学んだ数学とは少し雰囲気違った数学の講義を行う。従って、これまで数学が得意だった人はもちろん、そうでない人の受講も大歓迎である。

授業計画

1	オリエンテーション (1) この授業の概要と進め方について理解する。 (2) グループ決めと自己紹介を行う。その後、身近な数学の応用例について考える。
2	確率・統計（基礎編） (1) 確率・統計の基礎を理解する。 (2) グループで確率・統計の簡単な問題に取り組み、その応用例を探す。
3	確率・統計（応用編） (1) 宝くじの仕組みを理解する。 (2) グループで宝くじに関する簡単な計算を行う。
4	確率・統計（実践編1） (1) グループで保険の損得勘定を行う。 (2) (1) に基づいて、グループで簡単な保険商品を作成する。
5	確率・統計（実践編2） (1) グループで投資信託のリターンとリスクを調べる。 (2) (1) に基づいて、様々な条件に合う投資信託を探す。
6	グラフ理論（基礎編） (1) グラフ理論の基礎を理解する。 (2) グループでグラフを用いた簡単な問題に取り組む。
7	グラフ理論（応用編）経路探索問題について考える。最短経路の問題は高校でも学習するが、ここでは最短とは限らない経路の問題を考え、組み合わせの数え方について再考する。
8	グラフ理論（実践編） (1) ダイクストラ法を理解する。 (2) グループでダイクストラ法の問題に取り組む。
9	整数の性質（基礎編1） (1) 高校で学習した整数の性質を復習する。特に、ユークリッドの互除法について学ぶ。 (2) グループで大きな整数の素因数分解に取り組む。
10	整数の性質（基礎編2） (1) 高校で学習した整数の性質を復習する。特に、合同式について学ぶ。 (2) グループで大きな合同式の計算に取り組む。
11	整数の性質（応用編） (1) 暗号理論における鍵輸送問題について理解する。 (2) グループで鍵輸送問題の解決策について考える。
12	整数の性質（実践編） (1) 公開鍵暗号の仕組みについて理解する。 (2) グループで公開暗号で使われる暗号の鍵を作成する。
13	人工知能1（グループ学習）グループで人工知能(AI)について調べ学習を行い、その現状とそこで使われている数学について考える。
14	人工知能2（グループ学習）グループで人工知能(AI)について調べた内容と数学的発想に基づいて、シンギュラリティが訪れるかどうかについて議論する。

授業外における学習

毎回の授業で出題する課題に取り組み、講義内容の復習や次回の授業のための予習を行うこと。特に復習が大切である。数学は教員に説明されて理解できたと感じた話であっても、それらを自分の言葉で復元できるようになるにはかなりギャップがあるため、人に説明できるくらいになるまで、じっくり考えることが大切である。

質問や相談への対応

授業内容に関する質問や学習に関する相談等には基本的にいつでも対応する。また、メールによる問い合わせにも随時応じる他、事前にメールで予約のもと、オンライン会議システム等を用いた遠隔での解説にも対応可能である。なお、担当教員のメールアドレスは、初回の授業で連絡する予定である。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
最終レポート課題	40	設定された課題について数学的発想に基づいて議論できているかどうかを判定する。
中間レポート課題	30	設定された課題について数学的発想に基づいて議論できているかどうかを判定する。
授業評価	30	グループ学習の内容の理解度を毎回の授業で測る。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に指定しない。			
	浅野晃：社会人1年生のための統計学教科書ウィリアム・J・クック：驚きの数学 巡回セールスマン問題サイモン・シン：暗号解読（上巻・下巻）新井紀子：AI vs. 教科書が読めない子どもたち			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グループ学習には積極的に参加し発言すること。
また、わからないことは必ず質問すること。

その他・特記事項

この授業で仮定する高校数学の知識は、数学I・Aの確率と整数の性質のみである。数学の勉強をするというより、数学の気持ちができる授業を目指す。

生命科学

更新日：2023/01/10 08:51:56

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L4020A	科目コード	L4020
担当教員	杉山 英子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

生物、細胞、ウイルス、生命観、代謝、遺伝子、自己複製

授業の概要

変化が激しくストレスに晒されやすい現代にあって、私たちを取り巻く自然への深い関心と理解を培い、生涯に亘って精神と身体を健康に維持できるように、生物の生命現象を分子の動きを追いながら学び、疾患や失調という形で表出されてくる個体や集団レベルでの課題を理解できるようにする。具体的には、生体構成物質の構造や性質ならびに細胞や器官の働き、ヒトの健康と密接に関わる栄養、ホメオスタシス、生殖、発生等における基本的な物質の流れについて学ぶ。さらに、遺伝子操作技術の発展が人間社会に及ぼす影響などを学ぶ。

到達目標

1	「生命のしくみ」を一通り理解し、現代社会に急速に拡散・浸透しつつある生命科学の知識や技術をいかに利用し育てていくかを判断することができる力を養う。
---	---

教授方法

講義。スライドを使用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

高校の「生物基礎」「化学基礎」の履修者であること

授業計画

1	オリエンテーション（「生物学」から「生命科学」へ 生物学の歴史）
2	生命とは何か、生物とはどのようなものか（「生命」の基本概念）
3	生命の最小単位：Cell（細胞の構造と細胞内小器官の役割）
4	からだをつくる分子（糖質・タンパク質・脂質・無機塩・核酸）
5	細胞と遺伝子（1）（細胞増殖とDNA複製）
6	細胞と遺伝子（2）（遺伝子発現）
7	動物の発生と細胞分化
8	生命活動とエネルギー（エネルギーの通貨ATPとミトコンドリア）
9	ホメオスタシスと栄養（1）（飢餓応答と摂食の重要性）
10	ホメオスタシスと栄養（2）（生体リズムと食事）
11	ホメオスタシスと栄養（3）（摂食とホルモン）
12	免疫（自然免疫、獲得免疫、病原体、移植免疫、アレルギー）
13	遺伝子操作技術と人間社会（遺伝子工学、遺伝子検査・遺伝子診断、エピジェネティクス）
14	まとめ

授業外における学習

振り返り動画（全部の回分はありません）を観ておいてください。

質問や相談への対応

メールでも受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題図書を読んで作成するレポート	60%	課題図書の内容への理解度、考察力、表現力
小テスト	30%	理解度、科学的思考力

上記以外の授業評価	10%	主体的態度、授業への貢献度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『ヒトを理解するための生物学』改訂版（裳華房）八杉貞雄著			
	『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著（講談社）他、授業の中で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

生活の中に疑問を持ってください。

その他・特記事項

生体物質に関する内容は、どうしても化学的要素が入りますので、高校で使用した教科書も参照しながら聞いてください。

プログラミング基礎

更新日：2023/01/10 08:51:57

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L4030A	科目コード	L4030
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

プログラミング的思考, Webに関する基礎 (HTML, CSS, JavaScript), Webサイト作成

授業の概要

アルゴリズムの記述, 変数や制御構造, プログラミングの基礎を学ぶことにより, コンピュータの原理解を深めるとともに, 論理的な思考, 問題解決能力を養う。次に, 情報の発信や表現に関わるより発展的な内容を学習する。また, WWWの仕組みを理解し, HTMLを使った演習, Webサイト作成ツールを利用したサイトの作成を通して情報発信力, 情報表現力を身につける。

到達目標

1	アルゴリズム・プログラミングの基礎を学ぶことにより, 論理的な思考および問題解決能力を養う。また, WWWの仕組みを理解し, インターネット上での情報発信, 情報表現力を身につける。
---	---

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。受講者がPCを操作しながら授業を進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	【ガイダンス】プログラミングへのいざない
2	プログラミングのいろは / プログラミング的思考とは
3	プログラミング的思考とアルゴリズム
4	アルゴリズム
5	プログラム言語とプログラミング
6	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング① プログラミングの基本構造の理解
7	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング② 変数と配列の理解
8	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング③ プログラムの作成
9	WWWの基礎知識① HTML
10	WWWの基礎知識② HTML+CSS
11	JavaScriptでプログラミング① 逐次処理
12	JavaScriptでプログラミング② 選択処理と繰り返し処理
13	Webサイト作成①
14	Webサイト作成②

授業外における学習

授業で指定された課題に取り組むこと。

授業時間内に完成しなかった課題については, 授業外の時間を利用して完成させ, 提出期限を守って提出すること。

質問や相談への対応

- ・質問は, 授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

課題 レポート	70	課題を正確に理解し、提出期限を守って提出できている。 課題の理解度および完成度。
その他の授業評価	30	授業に意欲的に取り組んでいる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①授業に欠席しないこと。
- ②主体的に課題に取り組むこと。

★生活のいろいろな場面で、プログラミング的思考を発揮してみましょう！

その他・特記事項

PC教室キャンパティの都合上、定員を30名とし、定員を超えた場合は抽選となります。履修を迷っている人は、事前に相談（授業概要や内容を確認）の上、履修登録をお願いします。

IT活用論

更新日：2023/03/14 01:09:22

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L4040A	科目コード	L4040
担当教員	石田 幸央						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

IT、テクノロジー、デジタル、スマホ、パソコン、タブレット、インターネット、AI、シェアリングエコノミー、SNS、SDGs、対話

授業の概要

ITとはどんなものか、どのように活用されているか、国内及び世界の事例を交えて学びます。

ITを活用しながらの授業が一般化する中で、ますます重要性を増してきたスマホやパソコン、タブレットの利用方法をまず伝えます。

インターネットが課題解決した世界の事例、コロナウィルスによって変わった世界、ビッグデータ解析の重要性、AI等の正しい知識を学びます。

SNS、ショッピング、会員制無制限利用サービス（サブスク）、SDGsなどの事業・サービスとITとの関わりやスマホ決済やシェアリングエコノミー、IoTの実例を学びます。

情報発信のためのホームページや画像、映像などの要素制作を実践し、活用できるようにします。

すべての講義において学生と講師、また学生がグループになってインタラクティブに対話し、対象のサービスを実際に使いながら進め、試しに作ってみるなど、実践的な講義を目指します。

世の中全体をシステムとして捉え、どのような構造になっているかを学びながら、そこにある問題を定義し、課題を解決するための思考であるシステム&デザイン思考を学びます。

対面授業が可能な間はグループワークを行います。

また、状況が好転した場合はフィールドワークも行います。

いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話していただきます。

自分の頭で考えて判断、行動し、ITを活用できる学生の育成を狙います。

なお、基本的にインターネットで入手できる以上のことは学ばないため、すでにITを駆使して情報源として有意義に活用できている学生は対象外となります。また、本授業ではITの世界を幅広く学ぶため、その分専門性の高さや学術的・技術的な深さを求める学生には物足りない内容になるので対象外とします。

講師経歴の概略：インターネット黎明期よりIT企業に22年間勤務し、起業。経営者として独立。エンジニアとしてシステムの開発、事業の企画・開発、事業責任者などを歴任。システム設計、UI、事業計画、組織運営・開発、地域貢献など幅広い業務と職務の経験を持つ。

到達目標

1	ITやテクノロジーへの苦手意識の克服
2	さまざまな活動の中で自らITを駆使してホームページやSNSなどのWebマーケティング担当、デジタル化の担当となる意欲的な社会人になる準備ができること
3	自分の頭で考えて判断、行動し、自らの意見を持ってそれを発することができる人材の育成、そしてITを活用できる学生の育成を狙います。

教授方法

プレゼンテーション資料を使った授業と演習・実習

次の授業に対して予習し、その内容をスモールグループで共有し、自らの言葉で教え、仲間から学び、知識を広げる。また、授業終了後に授業を通じて学んだこと、考えたことをレポートすることを求めます。

対面授業が可能な間はグループワークを行います。

また、状況が好転した場合はフィールドワークも行います。

いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話していただきます。

以下授業計画の「授業内容」に記載のSPはショートプレゼン、Rはレポートのある日です

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

PC、タブレット、スマホ等の情報端末持参 WiFiでのインターネット接続必須

授業計画

1	ガイダンス 講義の概要、ITって難しい？怖い？便利？ ITの理解とインターネットサービス、ビジネスモデル スマホからPCまでIT機器の選び方
2	インターネットが課題を解決した事例紹介、サービス設計 世界と日本のIT事情 (GAFA, BAT) SPIR
3	コロナウィルスが変えた世界 情報発信 リモート 世界での課題解決の事例 国内で明らかになった課題とその解決 SPIR
4	データの理解と分析 ビッグデータでわかること、AIってなんだ？ 予測の精度 機械学習、ディープラーニング、統計、グラフ分析、データグラフィック SP
5	SNSの過去現在未来 検索の変化 Youtuberと SNSとの付き合い方、メリットとデメリット、リスク、タブー SP
6	商品の売場からサービスへの変化 所有しない生活 サブスク ストアの開店、商品の魅せ方 SNSの活用、写真や動画の撮り方 SPIR

7	働き方の変化 コロナ前からの動きと「はたらくこと」の意義と目的 創業と起業に向けて データクレンジングなどこれまでになかった多様な労働のカタチ SPIR
8	世界、地球、環境のこと 深く関わるITとSDGs 環境ベンチャーとソーシャルインパクト投資 SPIR
9	システムとデザイン、問題と課題 これから考えるべき世の中の問題 問題定義と課題解決に向けた思考方法 グループで行うワークショップ 思考のフレームワーク体験 WS&R
10	情報発信のためのクリエイティブ制作 ホームページWebページの作り方 ツールの使い方や画像・映像・音楽の制作と編集方法
11	お金の未来 スマホ契約の個人情報提供から始まるカードと経済圏 デジタルマネー、スマホ決済の広がり、Fintechの今とこれから SPIR
12	シェアリングエコノミー 「空き」の活用 小さな余りから大きな資源へ 群衆の叡智 SPIR
13	実用化が進むロボット ドローンの一般化、センサー、AIの活用、工業・農業・漁業・サービス業での実例 IoTの今とこれから SP
14	まとめ これからのIT人材 圧倒的に足りないIT実務人材 ITを恐れない人材になるには？

授業外における学習

次回授業の予習、調べ物、ショートプレゼンの準備
授業後に自らの考えと意見を記述したレポートの提出
グループワークでの課題提出など

質問や相談への対応

オンラインでは随時可能
メールでの質問、相談なども遠慮なくしてください。
対面授業では、授業後に質疑の時間を設けます。
レポート提出に対して希望者にはコメントを返信します。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
1	40	オープニングピッチ（ショートプレゼン）参加 4点 x 10
2	35	レポート提出 x 7回 期限内で5点
3	15	最終レポート期限内提出
4	10	積極点 発言、発表等で加点 WS成果発表とレポート5点
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	インターネット上のあらゆる情報			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に授業での取り組みに参加し、積極的に発言、コミュニケーションすることを望みます。
自ら学ぶ姿勢が学習の効果を高めます。

その他・特記事項

楽しみながら対話し、学びましょう！

化学

更新日：2023/01/10 08:51:05

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L4050A	科目コード	L4050
担当教員	小木曾 加奈						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

化学、濃度、計算、命名、構造

授業の概要

食品中の主な栄養成分は炭素原子を分子骨格とする有機物（有機化合物）である。本講義を通じ、有機化合物とはどういうものかを学ぶ。特に化学に必要なモルや濃度の計算、化学結合（共有結合、イオン結合、水素結合など）、命名法、異性体（不斉炭素原子）や表示法（D, L表示法、R, S表示法、E, Z表示法）について詳しく学ぶ。この講義では炭素原子を分子骨格とする化合物（有機化合物）の化学について基礎的な部分を学習する。この科目を学ぶことで、有機化学の基礎が身に付き、栄養士資格取得のための専門教育科目（栄養学、生化学、食品学、調理学など）を十分に理解できるようになる。

到達目標

1	化学系実験などで頻出する濃度・密度計算を積極的に取り入れて、理解を深めることができる。また炭素化合物の種類や構造式が自ら書け、また判別できると共に特徴的な官能基、分子を説明することができることを目標とする。①濃度計算や比重の計算ができる。
2	②化学構造をから名前を書くことができる。名前から化学構造を推察できる。
3	③化合物の化学特性を理解でき、異性体などを判別することができる。

教授方法

講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

高校で化学、もしくは化学基礎を選択していた者

授業計画

1	原子と周期表、同位体
2	分子量、モル、比重
3	イオン、化合物の表し方
4	命名法
5	異性体
6	化学結合
7	酸、塩基

授業外における学習

化学構造が前提の講義となるため、化学が苦手な方は事前、事後に学習を望む。

- ①指定された課題・問題に取り組む。
- ②苦手な分野の克服に向けて努力する。

質問や相談への対応

質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。

毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。
小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「マンガでわかる有機化学」 齋藤勝裕著 ソフトバンクク リエイティブ社適宜印刷物を 配布			
	高校化学や高校化学基礎の教 科書あるいは参考書			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

化学を苦手とする学生も多いので、毎回の授業後の復習は積極的に取り組み、テストに備えること。

その他・特記事項

特になし

デザイン思考

更新日：2023/01/10 08:51:59

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5020A	科目コード	L5020
担当教員	三上 龍之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

イノベーション、人間中心、創造性、共創、協働

授業の概要

「デザイン」が色やカタチなどのいわゆるデザイナーの活動だけではなく、様々な分野や職種で応用・実践できる方法論であることを理解する。今の姿を探る、課題を見つける、解決策を考える、試して洗練するというプロセスの中で、発散と収束を繰り返して課題を発見し解決するための、様々なツールを実際に体験し、関連知識やノウハウとともに学ぶ。総合演習では、グループで設定したテーマで、これまで学習したプロセスを通して実施することで、デザイン思考による課題の発見と解決を実践する。

英語表記「Design Thinking」

到達目標

1	◇「デザイン思考」のマインド・プロセス・ツールについて学び実践することで、これからのイノベーション人材に必要な基礎的スキルを身につける。
2	◇体験を振り返り言葉にして内省することで、体験学習のサイクルを回す習慣をつける。
3	◇人間中心のアプローチで課題を発見し解決する「デザイン思考」に関して、体験を通じた学びを自分ごととして理解し今後の研鑽の指針を立てられる。
4	◇共創協働のマインドセット・リテラシーを理解し実践できるようになる。

教授方法

基礎的知識の講義ののち、実際の手法を、個人またはグループワークにより体験する。総合演習ではグループごとにテーマを決め、一連のプロセスを通して実施し、プレゼンテーション（課題発表）を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に無し

授業計画

1	ガイダンス～デザイン思考の背景
2	デザイン思考の概要
3	プロセス1「今の姿を探る」
4	演習1「今の姿を探る」手法の実践
5	プロセス2「課題を見つける」
6	演習2「課題を見つける」手法の実践
7	プロセス3「解決策を考える」
8	演習3「解決策を考える」手法の実践
9	プロセス4「試して洗練する」
10	演習4「試して洗練する」手法の実践
11	総合演習：「今の姿を探る」
12	総合演習：「課題を見つける」
13	総合演習：「解決策を考える」
14	総合演習：「試して洗練する」

授業外における学習

- ・日ごろから「デザイン」について自分ごととして意識する
- ・各回の学習内容を振り返り、授業レポートを作成する
- ・各回のワークをグループで繰り返し、ワークの内容を確実に把握する
- ・総合演習課題のグループでの授業外活動、および各ステップでの繰り返しによるブラッシュアップを実施する
- ・最終回終了後、総合レポートを作成する

質問や相談への対応

- ・授業の前後・授業中に質問に応じる
 - ・各回の授業レポートで相談・質問を受け付け、個別または次回授業の中で対応する
- メールアドレス：mikami1.cvd@toshiba.co.jp

成績評価

共通の評価基準			
評価項目		割合	評価基準
定期試験		30	総合演習での取り組み成果のプレゼンテーションにより、基礎的スキルの習得度合いを評価する
授業	レポート	30	毎回のレポートで、各回に学んだ内容の理解度と、体験学習のサイクルの定着度合いを評価する
最終レポート		30	最終レポートにより、体験を通じた学びを自分ごととして理解し今後の研鑽の指針を立てられたかを総合的に評価する
上記以外の	授業評価	10	授業中の共同作業への取り組み姿勢から、共創協働のマインドセット・リテラシーの理解と実践の度合いを評価する
合計		100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に無し			
	必要に応じ授業の中で紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・授業は受け身でなく能動的に組み込み、グループワークでは積極的、献身的に行動する
- ・グループでの共同作業による授業であるため、毎回出席できることを前提とする。出欠による加点/減点はしないが、欠席の場合は必ずグループメンバーにコンタクトしキャッチアップする

その他・特記事項

受講人数の上限：36名

上限を上回った場合の選抜方法：受講希望者は履修登録と同時に、受講動機と出席見込（他科目、実習等との重複の有無）を申告すること。方法については別途通知する。

象山学

更新日：2023/03/15 17:50:18

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L5050A	科目コード	L5050
担当教員	首藤 聡一郎, 真野 毅						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

企業と社会、行政、社会的企業

授業の概要

この科目は、総合教養科目に位置づけられており、グローバルマネジメント学部では必修科目、健康発達学部では選択科目とされている。イノベーターを学外から引き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう講義である。イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、講師をファシリテーターとし、学生自らが自分の問題として考えていく。これまで、整理された知識を受動的に身につける機会が多かった学生に対し、複雑な現実と格闘する先達の姿を見せ、能動的に現実と向き合っていくきっかけを与え、社会に貢献していく方法を身につけてもらう。

英語表記「Introduction of business and society」

到達目標

1	現実のビジネスや行政の現場について理解し、その現実をリアルに感じ取れるようになる。
2	学生が現実の課題やチャレンジについて自分の問題としてしっかり考えられるようになる。

教授方法

講演、グループワークおよびレクチャー

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	ガイダンス、次回講演に向けた準備
2	講演および質疑応答（1）
3	ワークショップ（1）
4	講演および質疑応答（2）
5	ワークショップ（2）
6	講演および質疑応答（3）
7	ワークショップ（3）
8	講演および質疑応答（4）
9	ワークショップ（4）
10	講演および質疑応答（5）
11	ワークショップ（5）
12	講演および質疑応答（6）
13	ワークショップ（6）
14	最終ワークショップ、まとめ

授業外における学習

事前学習：ご講演者に関する調査、事後学習：小レポート作成。

質問や相談への対応

基本的にはメールで対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

小レポート	35	内容、形式等
グループワークレポート・リフレクションシート	30	内容・形式等
期末レポート	35	内容、形式等
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。			
	授業時に適宜紹介。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

この授業は皆さんにとって多くのことをもらすと思います。真剣に取り組みましょう。また、学外のイノベーターのご協力あつての授業です。貴重な時間を割いて来てくださる講師の方に感謝の気持ちをもって講演に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし。

信州学

更新日：2023/01/10 08:52:01

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5060A	科目コード	L5060
担当教員	田澤 直人						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

信州、歴史、地理、民俗、産業、観光、プレゼンテーション、グループによる調べ学習、協力

授業の概要

「信州学」の授業は、信州（長野県）といった地域を素材として、信州の歴史・民俗・地理・産業・観光等、信州に関わるることについて、授業担当者と受講学生が、ともに調べ、考えていく授業である。そもそも、「信州学」という学問分野があるわけではない。担当者は、大学時代に日本民俗学を専攻した故に、そうした観点から「信州学」を論ずることもある。しかし、基本的には、学生諸君が、自らの関心のある分野について、興味関心を共にする者同士でグループを作り、調べ、考え、分析したことを、最終的に授業の中で発表してもらおう。例年、授業外での野外活動を行う学生が多い。

到達目標

1	①信州について、自らが興味関心のあることについて、他者と協力しながら、各種文献を用い、調べることができたか。
2	②信州について、グループ内で協力して調べたことを、発表を通して、他者にわかるように発表することができたか。
3	③信州について、他者の発表した事柄について、自分なりに客観的な評価ができたか。
4	④信州について、自らが調べたことを、最終的にレポートとして提出できたか。

教授方法

第1回の授業はオリエンテーション実施。昨年度の授業の様子を説明。第2回の授業では、授業内でレポート提出。第3回の授業で、自己紹介後、グループ分けを行い、班長を決める。これ以降、信州に関する事柄について調べ学習を開始する。第4回の授業から調べ学習を行うが、担当者は各グループの進捗状況をその都度ヒアリングを行い把握する。班長は、毎時間、授業終了後その日のうちに、授業内での学習状況を担当者に報告してもらいます。授業の中間で、途中経過の中間発表会を実施。その後さらに調べ学習を継続。最終的に調べた内容をパワーポイントを使い発表する。聞き手は、発表内容を評価する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修者を100人までとします。グループは、3人から4人を想定している。よって全体のグループ数は30グループ程度となる。

最終発表は、1月の授業3回で各回10グループ持ち時間10分間で実施予定である。

履修者が100人を超えると、昨年度までの例では、対面授業とリモート授業を併用しなくなるとなる。よって、担当者による学生との間の十分なヒアリングを行わず、担当者与学生の間で十分なコミュニケーションをとることができなかった。また、発表グループ数が多くなり、最終プレゼンテーションの時間が授業外まで延びてしまい、学生に多大な迷惑をかけることになったため。

授業計画

1	リモート授業：オリエンテーション:授業の進め方について説明。また、最終的なプレゼンテーションの内容を、昨年度発表例を参考に説明する。
2	対面授業：県歌「信濃の国」を題材に、授業を行う。時間内に示した課題に対して、授業後レポート提出を課す。また、自分がどういったことを調べたいか、授業後アンケートを実施
3	対面授業：学生の自己紹介、その際に、自分がどういった分野に興味関心があるかを発表する。事前にアンケートに回答してもらいます。グループ決めと班長を決めます。
4	対面授業：中間発表会に向けて、準備開始。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
5	対面授業：中間発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
6	対面授業：中間発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
7	対面授業：中間発表会実施。これまでの進捗状況と今後の予定を発表する。
8	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
9	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
10	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
11	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。最終発表の順番を示します。また、最終発表原稿の提出期限と最終レポートの内容及び提出期限を提示します。
12	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。
13	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。
14	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。

授業外における学習

グループによる県立図書館等での文献調査、調査に関わるフィールドワークが必要になります。

質問や相談への対応

担当者の個人メールアドレスに相談ください。

tazawa.naoto@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート提出	30	プレゼンテーションの内容を踏まえて、自分が調べたことを具体的にレポートできているか評価する。第2回の授業のレポート提出も評価する。
プレゼン評価	10	プレゼン評価の提出状況を評価します。
発表評価	60	授業担当者及び授業受講者による発表内容の5段階評価とコメント入力を実施する。その結果を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特にありません。			
	特にありません。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業には積極的に取り組んでください。ポータル上の掲示板に、「お知らせ」を示します。必ず、閲覧してください。また、昨年度は、リモート授業併用ということもあり、授業欠席者が一昨年に比べて多くいましたが、そうしたことなくように受講してください。さらに、ポータル上に示す課題（最終発表会の評価など）は必ず提出してください。

その他・特記事項

特にありません。

健康と運動科学Ⅰ (F)

更新日：2023/01/10 08:56:46

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5080B	科目コード	L5080
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

身体運動、健康、スポーツ

授業の概要

本講義では、健康とそれに関連する科学的根拠を学ぶ。基本的な身体動作から少し複雑な身体動作まで様々経験し、「身体を動かす」ことの複雑さに関する知識を深めるとともに、生涯にわたって健康でいるための実践方法を習得する。適宜、受講生の専門分野に関連した解説等も実施する。

到達目標

1	・身体運動のメカニズムや健康でいるための実践方法について、自身の経験知に基づいて多角的な考察ができるようになる。
2	・運動を手段として用い、積極的なコミュニケーションが取れる。
3	・運動実践の意義について持論を明確に持つ。
4	・健康と運動との関わりについて、専門分野に関連した知識に基づいた説明ができるようになる。

教授方法

科学的根拠の説明等に関しては、座学での講義を行う。さらに、グループワークを行い、受講生各自が主体的に種々の事項について考え、ディスカッションによって積極的な議論が行われるような授業展開とする。運動の実践では、複数人で実践する内容を主とすることで、コミュニケーションを取りながら経験知を重ねていく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス
2	健康関連体力の基礎知識
3	身体運動の複雑さを自覚する：感覚を測る
4	身体運動の複雑さを自覚する：姿勢制御
5	身体運動の複雑さを自覚する：コオーディネーションエクササイズ1
6	身体運動の複雑さを自覚する：コオーディネーションエクササイズ2
7	身体運動の複雑さを自覚する：コオーディネーションエクササイズ3
8	ストレッチング
9	筋力トレーニングの理論と実践：基礎的トレーニング
10	筋力トレーニングの理論と実践：バランスボールエクササイズ1
11	筋力トレーニングの理論と実践：バランスボールエクササイズ2
12	筋力トレーニングの理論と実践：ながらトレーニング
13	ウォーキングとジョギングの理論と実践
14	まとめ

授業外における学習

運動の習慣化に資する方法としてウォーキング等の実践を課す。成果を記録に残すことで、事後学習の資料とする。

質問や相談への対応

授業時に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	60	積極性の有無、参加姿勢に応じて評価する。
グループワーク	20	ワークシートの記載内容、ディスカッションの様子に応じて評価する。
上記以外の授業評価	20	課される授業時間外の運動実践の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

出席状況を点呼で確認する。欠席の場合は取り組みを評価できないため、積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし

健康と運動科学Ⅱ (F)

更新日：2023/01/10 08:56:53

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5090B	科目コード	L5090
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

健康、スポーツ、身体運動

授業の概要

本講義では、身体運動の仕組みを理解するとともに、健康の維持や増進に寄与する実践方法について学ぶ。また、種々のスポーツ種目を経験することで、健康と運動との関係性やその社会的意義について考察する。適宜、専門分野に関連した解説等も実施する。

到達目標

1	・身体運動の仕組みをより深く理解できる
2	・運動実施者によってネガティブな印象が持たれるスポーツの異なる側面を他者に説明できる。
3	・運動の習慣化。
4	・健康と運動との関わりについて、専門分野に関連した基礎知識に基づいた説明ができるようになる。

教授方法

適宜、座学やグループワークを行い、受講生各自が主体的に種々の事項について考え、ディスカッションによって積極的な議論が行われるような授業展開とする。運動の実践では、複数人で実践する内容を主とすることで、コミュニケーションを取りながら経験知を重ねていく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス
2	身体運動の仕組みを理解する：コーディネーションエクササイズ1
3	身体運動の仕組みを理解する：コーディネーションエクササイズ2
4	ニュースポーツ1：ペタンク
5	ニュースポーツ2：ブラインドサッカー
6	ニュースポーツ3：フラバールバレーボール1
7	ニュースポーツ4：フラバールバレーボール2
8	卓球のルール理解とゲーム1
9	卓球のルール理解とゲーム2
10	バドミントンのルール理解とゲーム1
11	バドミントンのルール理解とゲーム2
12	バスケットボールのルール理解とゲーム1
13	バスケットボールのルール理解とゲーム2
14	まとめ

授業外における学習

運動の習慣化に資する方法としてウォーキング等の実践を課す。成果を記録に残すことで、事後学習の資料とする。

質問や相談への対応

授業時に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	60	積極性の有無、参加姿勢に応じて評価する。

グループワーク	20	ワークシートの記載内容、ディスカッションの様子に応じて評価する。
上記以外の授業評価	20	課される授業時間外の運動実践の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

出席状況を点呼で確認する。欠席の場合は取り組みを評価できないため、積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし

シーズンスポーツ（冬期）

更新日：2023/01/10 08:52:04

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5100A	科目コード	L5100
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スキー、生涯スポーツ、野外教育

授業の概要

本学の使命の中で述べられている「長野県の豊かな自然や長い歴史・伝統を理解し大切にすること」に資することを目的に、県内スキー場においてスキー実習を行う。初心者および初級者を対象にし、生涯スポーツであるスキーの魅力に触れるとともに、滑走技術向上のみならず、自然環境下での危機管理についても学ぶ。また、合宿形式での実習であるため、他者とのコミュニケーションや個々のスケジュールや体調管理に関しても実践形式で学ぶ。

到達目標

1	・ある程度のコースを自由かつ安全に滑走できるようになる。
2	・スキー場や宿泊施設でのマナーを理解する。
3	・長野県の自然の魅力と関連産業の可能性を他者へ共有できるようになる。

教授方法

ガイダンスおよびスキー滑走技術の基礎知識に関する事前学習を学内で行う。実習では、班編成を行い、個々の滑走技術向上および到達目標達成に向けたグループワークを行う。事後学習としてレポートを課す。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

受講資格：スキー未経験、初心者、プルークボーゲンからパラレルターン（スキー板を並行に揃えて滑る技術）習得を目指す者。※
※最重要：全日本スキー連盟認定スキー検定2級以上保持者は受講できない。あるいは、パラレルターンを習得している者も受講不可とする。
【定員】20名前後（抽選により決定する）
【実習日時】2泊3日、2月下旬から3月上旬を予定（1学期中に周知する）
【実習場所】菅平高原スキー場（長野県上田市）
【宿泊場所】ホテルニューダボス
〒386-2204 長野県上田市菅平高原1223-3790 TEL.

授業計画

授業外における学習

学内での講義の内容を復習することで事前学習とする。実習後のレポートを事後学習とする。

質問や相談への対応

対応方法については、後日周知する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組みおよび技術向上度	60	積極性の有無、参加姿勢、実習初日から最終日までの滑走技術向上度合いに応じて評価する。	
理解度	20	講義やグループワークの課題提出内容に応じて評価する。	
授業外における学習	20	事後学習としてのレポートを評価する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			

	日本スキー教程 全日本スキー連盟、2018年			
--	------------------------	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学外での実習であるが故に、県立大生としての自覚を持ち、積極的な参加を望む。

その他・特記事項

実施日および宿泊施設については、変更となる場合がある。
受講希望者が8名以下の場合、実施しないことがある。

グローバル教養ゼミ（坂）

更新日：2023/01/10 08:50:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110A	科目コード	L5110
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ジェイン・オースティン、サマセット・モーム、イギリス小説、イギリス文化、欧米文化

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的にとらえるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	英国小説をみんなで読むことによって、様々な「読み」の可能性を探る。また、作品の背景となっている英国やヨーロッパの文化、社会、歴史、思想などについても学んでいく。
---	--

教授方法

全員で同じ本を読みながら、討論を通して理解を深めていく輪読形式。「読書会」という感じで、意見を話し合いながら前期・後期で2冊の本を読む。また、定期的に欧米の文化・歴史に関する発表を行ってもらう。テキストは基本的に翻訳を用いるが、時には原書も参照しつつ、文学作品の鑑賞方法を学ぶ。最後には、前期に読んだ作品、もしくは後期に読んだ作品について、日本語で各自の作品論を書く（4000字以上）。その他、欧米の音楽や絵画などを鑑賞する時間も設け、欧米文化入門のような科目ともなる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	『分別と多感』と、作者のジェイン・オースティンの紹介。英国史と英文学史解説。ゼミの進め方の解説。
2	『分別と多感』 輪読（1） 1～8章
3	『分別と多感』 輪読（2） 9～15章
4	『分別と多感』 輪読（3） 16～21章
5	『分別と多感』 輪読（4） 22～27章
6	『分別と多感』 輪読（5） 28～31章
7	『分別と多感』 輪読（6） 32～36章
8	『分別と多感』 輪読（7） 37～40章
9	『分別と多感』 輪読（8） 41～44章
10	『分別と多感』 輪読（9） 45～50章
11	『人間の絆』と、作者ウィリアム・サマセット・モームの紹介。時代解説。
12	『人間の絆』 輪読（1） 1～12章
13	『人間の絆』 輪読（2） 13～21章
14	『人間の絆』 輪読（3） 22～30章
15	『人間の絆』 輪読（4） 31～37章
16	『人間の絆』 輪読（5） 38～43章
17	『人間の絆』 輪読（6） 44～48章
18	『人間の絆』 輪読（7） 49～56章
19	『人間の絆』 輪読（8） 57～64章
20	『人間の絆』 輪読（9） 65～71章
21	『人間の絆』 輪読（10） 72～78章
22	『人間の絆』 輪読（11） 79～86章
23	『人間の絆』 輪読（12） 87～93章
24	『人間の絆』 輪読（13） 94～100章

25	『人間の絆』輪読（14）101章～108章
26	『人間の絆』輪読（15）109～115章
27	『人間の絆』輪読（16）116～122章
28	総合討論

授業外における学習

毎回その日に輪読する範囲をきちんと読んでくる。また、発表を行う時はしっかり準備をし、最終レポートもきちんと仕上げること。

質問や相談への対応

授業時に質問するか、メールで質問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	年度末の作品レポートの出来栄で評価する
授業での積極性	50	授業内の発表や討論でのパフォーマンスによって評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ジェイン・オースティン『分別と多感』中野康司訳（ちくま文庫）、ウィリアム・サマセット・モーム『人間の絆』（上）（下）中野好夫訳（新潮文庫）			
	プリントで配布するか、メールまたはOneDriveで配信します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで学んでください。

その他・特記事項

特になし

グローバル教養ゼミ（中島）

更新日：2023/01/10 08:50:55

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110B	科目コード	L5110
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

言語学

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	任意の言語事象に関する研究を行い、その成果をレポートにまとめること。その過程において、論理的・批判的な思考力を身につけること。
---	---

教授方法

それぞれの受講者が興味・関心をもった言語事象について、調べたことや考えたことを授業内で共有し、受講者間の質疑応答や意見交換を通して研究を進めていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし（事前登録をした人以外で受講を希望する場合は、開講時までに担当教員に連絡してください。）

授業計画

1	オリエンテーション
2	発表&ディスカッション
3	発表&ディスカッション
4	発表&ディスカッション
5	発表&ディスカッション
6	発表&ディスカッション
7	発表&ディスカッション
8	発表&ディスカッション
9	発表&ディスカッション
10	発表&ディスカッション
11	発表&ディスカッション
12	発表&ディスカッション
13	発表&ディスカッション
14	発表&ディスカッション
15	中間発表(1)
16	発表&ディスカッション
17	発表&ディスカッション
18	発表&ディスカッション
19	発表&ディスカッション
20	発表&ディスカッション
21	発表&ディスカッション
22	中間発表(2)
23	発表&ディスカッション
24	発表&ディスカッション
25	発表&ディスカッション
26	発表&ディスカッション

27	発表&ディスカッション
28	最終発表

授業外における学習

興味をもった言語事象について、発表やレポート作成に向けて、データ収集や文献調査を行うこと。

質問や相談への対応

授業後に声をかけるか、研究室(C104)に来てください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	70	授業時の発表や発言の質・量により評価。
最終レポート	30	年度末レポートの内容により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。			
	必要に応じて紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分の研究テーマだけでなく、他の受講者の研究内容にも関心をもち、積極的に質問・コメントすること。

その他・特記事項

授業の開講時限やスケジュールは、受講者と相談して調整します。

グローバル教養ゼミ（加藤貴之）

更新日：2023/01/10 08:51:32

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110C	科目コード	L5110
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

議論学、批判的建設的思考、コミュニケーション

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	・指定テキストにおける議論学の基本的概念を理解する
2	・社会上および空想上の議論において要点を整理できる
3	・議論学的分析を効果的に発表できる

教授方法

指定テキストの講読をつうじて、議論学の基本的概念を理解したうえで、実社会や物語における議論の分析に応用する。教師のみならず、受講生もファシリテータを務め、授業を進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年以上在籍で事前に授業担当者に相談すること

授業計画

1	ガイダンス（年間スケジュール、進め方など）
2	議論の検討1-1
3	議論の検討1-2
4	テキスト1章
5	テキスト2章
6	議論の検討2-1
7	議論の検討2-2
8	テキスト3章
9	テキスト4章
10	議論の検討3-1
11	議論の検討3-2
12	テキスト5章
13	テキスト6章
14	リサーチテーマの検討(1)
15	テキスト7章
16	テキスト8章
17	議論の検討4-1
18	議論の検討4-2
19	テキスト9章
20	テキスト10章
21	リサーチテーマの検討(2)
22	学生発表1
23	学生発表2
24	学生発表3

25	学生発表4
26	議論学の確認問題
27	学生発表5
28	学生発表6

授業外における学習

毎回の授業内容について、テキストやその他教材を中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	30	授業における進行・運営上の貢献を評価
議論学の確認問題	30	議論学の基本的概念の理解度を評価
最終プレゼンテーション	40	議論学的分析のアウトプットを評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・議論学への招待（エイムレン他、大修館書店、ISBN: 978-4469213720）[以上1冊]			
	適宜紹介			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日頃から、議論学的観点を応用する機会を作ってみてください。

その他・特記事項

対面授業においてもノートPCを持参すること。授業回によっては、リモートではなく対面参加が必要となる場合がある。

グローバル教養ゼミ（谷口）

更新日：2023/01/10 08:52:05

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110D	科目コード	L5110
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

中国文学、中国文化、古典文学、中国の歴史

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

Global Humanities Seminar

到達目標

1	中国古典文学を中心に中国文学や中国文化関連文献を講読し理解を深め、背景にある歴史、思想についても考える。あまり学ぶ機会のない中国近現代文学についても、日本語訳を利用しながら講読するほか、関連する映画なども参考にして理解を深めたい。中国文学の作者の多くが社会の荒波の中で必死で社会と切り結び、抗い、その苦難と葛藤を文学に結晶させている。それらを読解すると同時に併せて現代に繋がる問題意識を醸成したい。後期には、中国文学・文化に関して各自関心のある課題について調査・研究を行い、幅広い視野と深い教養を身に着ける。
---	--

教授方法

週に1回。クォーターごとに7回、通年で28回の授業を演習形式で実施する。作品ごと、段落ごとに担当者を決めて、語彙・文法、あるいは作者・制作背景、作品解説など調べた結果を発表し、さらにディスカッションする形で展開することで、中国文学を多方面から主体的に学ぶ。また、学外の関連施設などを訪れて調査を行い、知識を深める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	中国詩概観 『詩経』から南北朝まで
2	中国詩概観 隋・唐詩から文学革命まで
3	中国詩の形式 韻律と句法
4	中国詩の形式 古体詩と近体詩
5	中国詩の技巧 対句法
6	中国詩の技巧 双声・疊韻
7	中国詩の技巧 省略法・倒置法
8	中国詩の技巧 典故・詩語
9	中国詩のテーマ 政治と士官
10	中国詩のテーマ 隠棲と自然
11	中国詩のテーマ 行旅と別離
12	中国詩のテーマ 書画と音楽と詩
13	詩人の生活
14	自身のテーマを考える
15	テーマに沿ったテキスト探し、情報検索
16	テーマに沿ったテキスト探し、情報検索
17	テーマに沿った資料を読む、先行文献をさがす
18	テーマに沿った資料を読む、先行文献を探して読む
19	テーマについての資料講読、考察
20	テーマについての資料講読、考察
21	テーマについての資料講読、考察
22	テーマについての資料講読、考察
23	レポートの構成を考える

24	レポートの構成を考える
25	レポート作成
26	レポート作成
27	レポート完成とプレゼン作成
28	プレゼンテーション発表

授業外における学習

毎回の授業前に、教科書の授業で取り上げる箇所を予習しておいてください。また、授業後、分かりにくかった点など自ら調べたり、あるいは質問して理解を深めてください。

質問や相談への対応

質問、相談など授業中でもそのほかの空き時間などにしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	40	毎回の授業に参加し、作品を理解しようとしているか。
レポート	30	自身で考えたテーマ、問いについて調査、考察し、分かりやすく文章にまとめられたか。
プレゼン発表	30	自身で設けたテーマ、問いを分かりやすく発表できたか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『詳講 漢詩入門』（佐藤保著、ちくま学芸文庫、2018年）1400+税			
	『中国名文選』（興膳宏著、岩波新書、740+税）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に関連図書など読んでみてください。

その他・特記事項

漢和辞典を持参のこと。

グローバル教養ゼミ（織田）

更新日：2023/01/10 08:52:06

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110E	科目コード	L5110
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

野生の思考。フィールドワーク。ラジオドラマ。都市伝説。暗黙知。

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	文献読解、フィールドワーク、ラジオドラマ制作を通して文化人類学的思考に習熟する。文献読解では事前に調べ学習を行い、他者を他者のまま理解するように努める。フィールドワークでは未知の世界観から受けた刺激を調査報告にまとめて発表する。ラジオドラマ制作では秘めた自分を人前にさらし、シナリオ、録音、編集の過程で映像人類学的な技法を学ぶ。
---	--

教授方法

テキストの輪読。ディスカッション。フィールドワーク実習。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

事前に「受講申請」「個別面談」を行った学生。

授業計画

1	イントロダクション
2	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
3	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
4	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
5	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
6	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
7	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
8	フィールドワーク実習・報告
9	ラジオドラマ制作
10	ラジオドラマ制作
11	ラジオドラマ制作
12	ラジオドラマ制作
13	ラジオドラマ制作
14	ラジオドラマ発表
15	リアル脱出ゲーム制作
16	リアル脱出ゲーム制作
17	リアル脱出ゲーム制作
18	リアル脱出ゲーム発表
19	文献読解『VR原論』
20	文献読解『VR原論』
21	文献読解『VR原論』
22	文献読解『暗黙知の次元』
23	文献読解『暗黙知の次元』
24	文献読解『暗黙知の次元』
25	文献読解『暗黙知の次元』
26	文献読解『暗黙知の次元』

27	文献読解『暗黙知の次元』
28	全体のまとめ

授業外における学習

文献の調べ学習。フィールドワーク実習。ラジオドラマ制作。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
文献読解	40	調べ学習。発表。発言。
報告	30	フィールドワーク実習の報告。
作品	30	オリジナルのオーディオコンテンツ。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中沢新一『レヴィ=ストロース 野生の思考』NHKテキスト。マイケル・ポランニー『暗黙知の次元』ちくま学芸文庫。			
	随時指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

真っ直ぐな眼差しで世界と向き合えるように自分を磨いてください。

その他・特記事項

特になし。

グローバル教養ゼミ（萱津）

更新日：2023/01/10 08:52:07

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110F	科目コード	L5110
担当教員	萱津 理佳						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ICT, 情報, ネットワーク

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	・情報システムやネットワークの仕組み、および、情報社会の動きについて理解を深める。そして、情報に関する興味関心を高めるとともに、各自が追究していきたい具体的なテーマを探求し設定する。設定したテーマについて、文献調査やフィールドワーク・分析を行い、報告書にまとめる。これらの過程を通して、問題についての理解を深めるとともに、問題を提起する能力、それについての現状把握や解答する能力、そして、それらをまとめ表現する能力を身につけることを目標とする。
2	・他のゼミ生の活動を理解し議論しあうことで、情報分野に関する興味関心を高めるとともに、コミュニケーション力を身につける。

教授方法

原則として、演習方式。適宜、グループワークを取り入れる。
報告書等の提出には、GlexaおよびMS Teams 等を利用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス, アイスブレイク, 各自の活動報告①
2	アイスブレイク, 各自の活動報告②
3	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
4	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
5	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
6	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
7	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
8	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画
9	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画
10	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
11	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
12	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
13	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
14	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
15	各自のテーマに関する中間発表①
16	各自のテーマに関する中間発表②
17	各自のテーマに関する調査・研究
18	各自のテーマに関する調査・研究
19	各自のテーマに関する調査・研究
20	各自のテーマに関する調査・研究
21	各自のテーマに関する調査・研究
22	各自のテーマに関する調査・研究
23	ゼミ論集（報告書）の作成①

24	ゼミ論集（報告書）の作成②
25	ゼミ論集（報告書）の作成③
26	ゼミ論集（報告書）の作成④
27	発表会①
28	発表会②， 振り返り，まとめ

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと
- ・各自の課題の進捗状況等の報告用資料を作成し，ゼミで発表のこと
- ・学外での調査やイベントに参加など

質問や相談への対応

- ・質問や相談は，授業中および授業の前後に受け付けます。
- ・授業時間外はメールでの対応，または（アポイントメントをとって）直接来室して下さい。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業・課題	100	授業や課題への取り組み状況，および達成度を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	適宜資料を配布，または，指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ★各自が自分の課題やテーマの解決に向けて，主体的に学び，活動しましょう。
- ★グループワークや，ゼミの活動・議論に積極的に参加しましょう。
- ★授業時間外でのICTを活用したコミュニケーションも積極的にとりましょう。

その他・特記事項

- ・「情報」分野に関するニュースや社会問題にアンテナを張りましょう。
- ・実際に『やってみる』活動を重視したいと思います。また，やりっぱなしではなく，やったことに対する振り返り，文書化も大切です！

グローバル教養ゼミ（二本松）

更新日：2023/01/10 08:52:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110G	科目コード	L5110
担当教員	二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

『平家物語』、木曾義仲、巴御前

授業の概要

長野県ゆかりの文学作品を地域文化として理解し、それを町おこしや観光資源として利用することによって、地元を活性化させるための文化事業を企画・立案する。その過程を通して、地域資源としての日本文学の価値について学ぶ。

【ねらい】

長野県ゆかりの文学作品を取り上げ、地域文化としての日本文学の役割について理解する。

到達目標

1	日本文学が地元の地域資源となる可能性について学び、それを活用してゆく手法を身に付ける。
---	---

教授方法

今年度は、長野県出身の歴史上の人物である木曾義仲と巴御前について取り上げる。まずは、1・2学期において義仲と巴御前が登場する文学作品や伝説に関する基礎知識を学ぶ。次に、3・4学期において県内における義仲・巴御前ゆかりの地域を調査し、地域文化としての文学・伝説について理解を深める。さらにそのような知見を踏まえて、①地元ケーブルテレビ等と連携したミニ番組の企画、②自治体と連携した市民向けのワークショップや講演会・イベントの企画・運営、③多言語パンフレットの企画・制作、④その他各種地元メディアに発信する、といった義仲と巴を顕彰する活動を地元で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

コロナ禍の状況によりますが、大学の許可が得られたらフィールドワークを実施します。何卒、積極的に参加してください。

授業計画

1	授業のガイダンス（1年間のスケジュール、学習目標の確認など）
2	日本文学と地域文化について【講義】
3	長野県内の文化事業について—自治体の活動を中心に—【講義】
4	長野県内の文化産業について—地元メディアを中心に—【講義】
5	木曾義仲と巴御前について学ぶ—歴史上の人物としての義仲・巴について【講義】—
6	木曾義仲と巴御前について学ぶ—『平家物語』の義仲・巴について【講義】—
7	木曾義仲と巴御前について学ぶ—県内における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】—
8	木曾義仲と巴御前について学ぶ—県外における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】—
9	木曾義仲と巴御前について調べる—各種コンテンツにおける義仲・巴について【演習】—
10	企画書を書く①—木曾義仲と巴御前を地元で紹介するアイデアを考える【演習】—
11	企画書を書く②—木曾義仲と巴御前を他県で紹介するアイデアを考える【演習】—
12	木曾義仲と巴御前のPR動画を作成する①【演習】
13	木曾義仲と巴御前のPR動画を作成する②【演習】
14	夏休みに向けた指導—東御市・木曾町と義仲・巴について—
15	夏休みの成果報告、木曾義仲と巴御前について学ぶ—義仲挙兵の地としての東御市について【講義】—
16	フィールドワークの準備—東御市の白鳥河原（義仲挙兵の地）とその周辺について調べる【グループワーク】—
17	フィールドワークの実施—東御市の白鳥河原の实地踏査—
18	フィールドワークの成果発表—《義仲挙兵の地》としての東御市の白鳥河原をPRする動画・多言語パンフレットを作成する【グループワーク】—
19	木曾義仲と巴御前について学ぶ—義仲・巴の出身地としての木曾町について【講義】—
20	木曾義仲と巴御前について学ぶ—木曾町における義仲・巴関連の遺跡及び施設について【講義】—
21	木曾義仲と巴御前について学ぶ—木曾町の義仲・巴関連のイベントについて【講義】—
22	フィールドワークの準備—木曾町における義仲・巴関連の情報について調べる【グループワーク】—
23	フィールドワークの実施—木曾町の实地踏査—

24	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する①】【グループワーク】－
25	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する②】【グループワーク】－
26	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【動画・多言語パンフレットを作成する】【グループワーク】－
27	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【自治体と連携した市民向け講演会・フォーラムの開催・運営】【グループワーク】－
28	1年間の活動報告書を制作する【グループワーク】

授業外における学習

事前学習：課題の提出については、各自締め切りまでに準備しておいてください。

事後学習：課題の返却後は、指摘されたことを確認しておいてください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はメールやポータルなどを利用してご連絡ください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
発表	70	授業のテーマに即した内容、形式、発表の仕方などを総合的に評価する。
レポート	30	授業のテーマに即した内容、形式、執筆の方法などを総合的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業中に提示します。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フィールドワーク（実現できた場合）とグループワークを重視した学習を進めてゆく予定です。どちらも積極的に取り組んでください。

その他・特記事項

3学期以降に、上記以外の地元メディアから取材があれば、積極的に対応してください。どうぞよろしくお願いいたします。

グローバル教養ゼミ（馬場）

更新日：2023/01/10 08:52:09

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110H	科目コード	L5110
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

哲学、フランス語、歩くこと

授業の概要

『歩くこと、一つの哲学』のフランス語原典講読をしながらフランス語ⅠおよびⅡで学習していない文法事項を学習する。原典に現れる哲学的問題やグローバルな諸問題について講義したり、議論したりする。

到達目標

1	フランス語ⅠおよびⅡで学習していない基本的文法事項を理解し、辞書があれば自分でフランス語の文章が読めるようになること。日常的な事象について、経験に即して哲学的に考える姿勢を身につける。辞典や書籍によってテキストに現れる問題や概念について基礎的な調査をする能力を身につける。
---	--

教授方法

『歩くこと、一つの哲学』のフランス語原典を講読する。フランス語原文は初回授業で配布する。対面授業を基本とし、感染状況などの必要に応じてオンラインに切り替える。適宜文法解説、背景の解説などを行う。温暖な季節には屋外を歩きながら哲学対話を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

フランス語ⅠとⅡ両方を既習（他大からの編入者の場合、フランス語の中級程度の文法を既習）していること。哲学、倫理学、公共哲学のいずれかを履修していること（これらのうちのどれも履修していない学生は哲学・倫理学のうちどちらかを同年度に履修すること）。

授業計画

1	授業の進め方について
2	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
3	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
4	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
5	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
6	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
7	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
8	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
9	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
10	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
11	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
12	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
13	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
14	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
15	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
16	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
17	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
18	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
19	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
20	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
21	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
22	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
23	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
24	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
25	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション

26	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
27	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション、レポートの提出
28	授業の振り返り

授業外における学習

与えられた文章をあらかじめ読み、外国語の場合は解らない単語を調べたり、分からない文法事項をはっきりさせておくこと。

質問や相談への対応

可能な限り授業中にすること

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	予習、授業態度等を総合的に評価する
ミニレポート	50	授業中に適宜指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

とにかく休まず出席すること。語学の場合はしっかり予習をすること。積極的にディスカッションに参加すること。

その他・特記事項

必ず初回出席すること。初回をやむを得ない理由で休む場合はメールで必ず連絡すること。

金融リテラシー

更新日：2023/01/10 08:52:01

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5120A	科目コード	L5120
担当教員	山城 吉道						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

金融、ライフプラン、リスク、お金のトラブル

授業の概要

今日では、金融との関わりなしに社会生活を営むことは不可能である。

金融商品・サービスが多様化・高度化する中、金融取引において、自己責任がより一層求められる時代となっている。加えて、我が国では少子高齢化が進み、公的社会保障を巡る財政事情も厳しさを増している。

こうした環境の下、自分にとって望ましいライフプランや目標を実現するためには、お金に関する正確な知識と情報収集力、的確な選択・判断力を身に付け、トラブルを回避し、効果的な金融取引を行いながら生活していくことが重要な鍵となる。

本科目は、金融・行政の各分野から専門家を招き、お金に関する身近な内容から、金融・経済に関する基礎知識、各種金融商品の特性、トラブルの回避・対処法といったトピックを総合的に理解することで、大学生活はもとより社会に出てからも役立つ金融リテラシーの習得を目指す。

英語表記「Financial literacy」

到達目標

1	・金融・経済に関する基礎知識を身に付けるとともに、各種金融商品の特性およびトラブルの回避・対処方法等のトピックにつき総合的に理解する。
2	・大学生、社会人として必要な金融に関する情報収集力、選択・判断力を身に付ける。

教授方法

金融・行政の専門家によるオムニバス形式の講座（長野県金融広報委員会<事務局：日本銀行長野事務所>の寄付講座）。

講義を主体に一部演習を織り交ぜた形式で実施する。随時、学生との対話も行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	【導入、人生と金融リテラシー】 講義概要、社会情勢の変化と金融リテラシー、人生設計と資金計画の重要性など 講師：担当教員
2	【お金と経済】 金融と経済の関係、経済変動が及ぼす生活への影響、上手にお金の取引を行うための知恵など 講師：担当教員
3	【ライフプランを描く①】 ライフプランの重要性、人生の三大費用、社会保障制度など 講師：長野県金融広報委員会
4	【ライフプランを描く②】 第3回講義を踏まえたキャッシュフローの分析演習など（持ち帰り課題として後日提出） 講師：長野県金融広報委員会
5	【経済・財政・金融システム①】 人々の生活と国家財政の関わり、国家財政の現状と課題など 講師：財務省関東財務局長野財務事務所
6	【経済・財政・金融システム②】 日本銀行の業務と金融政策、最近の金融経済情勢など 講師：日本銀行松本支店
7	【トラブルに強くなる】 学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法、金融商品詐欺と予防策など 講師：長野県金融広報委員会
8	【お金をふやす①】 資産形成や投資の意義、リスクとリターンの関係、リスク管理の手法、長期投資の重要性など 講師：日本証券業協会
9	【お金をふやす②】 投資信託の仕組みと特徴、分散投資の意義など 講師：投資信託協会
10	【お金を借りる】 銀行の役割、クレジットカード・消費者ローン・住宅ローンの仕組みと利用上の留意点など 講師：全国銀行協会
11	【リスクや将来に備える①】 生活の中のリスクと保険の役割、損害保険の仕組みと活用法など 講師：日本損害保険協会
12	【リスクや将来に備える②】 人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の仕組み、ライフステージに即した活用法など 講師：生命保険文化センター

13	【地域経済と金融】 地域経済における地方銀行の役割、地方創生に向けた地方銀行の役割など 講師：八十二銀行
14	【全体総括、ライフプランを描く③】 第4回演習課題に関する議論・解説、重要事項の復習、全講義の中で生じた疑問への回答など 講師：長野県金融広報委員会、担当教員

授業外における学習

- ・学習範囲が広いので、毎回、講義内容の復習を行い、知識の定着に取り組む。
- ・第4回講義において、ライフプラン・キャッシュフロー分析演習に関する持ち帰り課題を課す（提出締切：第8回講義終了時）。
- ・第6回講義終了時に、2000字程度のレポート課題を課す（提出締切：第10回講義終了時）。

質問や相談への対応

- ・質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。
- ・随時、講義のアンケートを実施する。
- ・メールでの質問も受け付ける。
メールアドレス：info@nagano-money.com

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	基礎知識を問う択一式試験を課す。講義内容の理解度に応じて評価する。
レポート課題	30	講義内容の理解度と活用状況、文章構成・表現の適切性、レポート要件の充足性などの観点から評価する。
ライフプランニング演習におけるキャッシュフロー見直し課題	10	講義内容の理解度と活用状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書・テキストは特になし。毎回、講義資料を配付する。			
	必要に応じ、適宜参考資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・講義内容を理解できるよう主体的に講義に参加すること。
- ・外部講師によるオムニバス形式の講座のため、各講義において疑問点を解消するよう努めること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅠ（1組）

更新日：2023/01/10 08:51:06

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130A	科目コード	L5130
担当教員	東 俊之						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（2組）

更新日：2023/01/10 08:51:07

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130B	科目コード	L5130
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（3組）

更新日：2023/01/10 08:51:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130C	科目コード	L5130
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（4組）

更新日：2023/01/10 08:51:09

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130D	科目コード	L5130
担当教員	金 賢仙						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（5組）

更新日：2023/03/15 13:18:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130E	科目コード	L5130
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価

レポート	25	授業内で指示する
プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（6組）

更新日：2023/01/10 08:51:10

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130F	科目コード	L5130
担当教員	田村 秀						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（7組）

更新日：2023/01/10 08:51:11

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130G	科目コード	L5130
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（8組）

更新日：2023/03/08 15:08:30

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130H	科目コード	L5130
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（9組）

更新日：2023/01/10 08:51:13

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	L5130I	科目コード	L5130
担当教員	野口 暢子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（10組）

更新日：2023/01/10 08:51:13

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130J	科目コード	L5130
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（11組）

更新日：2023/01/10 08:51:14

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130K	科目コード	L5130
担当教員	加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（12組）

更新日：2023/01/10 08:51:15

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130L	科目コード	L5130
担当教員	宮城 正作						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（13組）

更新日：2023/01/10 08:51:16

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	L5130M	科目コード	L5130
担当教員	山本 直樹						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（14組）

更新日：2023/01/10 08:51:17

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130N	科目コード	L5130
担当教員	神戸 和佳子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅡ（1組）

更新日：2023/01/10 08:51:18

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140A	科目コード	L5140
担当教員	金田一 真澄						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（2組）

更新日：2023/01/10 08:51:18

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140B	科目コード	L5140
担当教員	東 俊之						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり ※本クラスでは、グループ分けを第1回で実施します。また、本授業で作成する「リサーチ・ペーパー」の説明を行います（提出は第11回）。
2	テーマについてのインプット①：テーマの説明 ※本クラスでは「長野県の伝統産業」を考えます。
3	テーマについてのインプット②：個人による情報収集 ※個人でテーマに関する情報のインプットを行う。
4	テーマについてのインプット③：グループでの情報共有 ※個人で収集した情報を、グループで共有する。
5	テーマについてのグループ活動①：グループ活動の基本 ※グループ活動の要点を学ぶ、ブレインストーミングやKJ法を体験する、など
6	テーマについてのグループ活動②：発表論題の検討と決定 ※テーマについての更に情報を収集し、グループで発表する論題を決定する、など
7	テーマについてのグループ活動③：問題解決手法の検討 ※グループで設定した研究目標を達成するため手段を検討する／検討した手段を評価する、など
8	テーマについてのグループ活動④：プレゼンテーション ※クラス内で発表を行い、他者から講評を得る（採点の対象とする）
9	テーマについてのレポート作成①：レポートの書き方 ※作成するリサーチペーパーの作成の手順を説明する／アカデミックな文章の作成方法をおさらいする、など（実際の提出は第12回を予定）
10	テーマについてのレポート作成②：レポートの構成検討 ※あたえられたテーマについての個人レポートの構成を考える、など
11	テーマについてのレポート作成③：レポートの執筆 ※あたえられたテーマについての個人レポートを実際に作成する、など
12	テーマについてのプレゼン①：リサーチ・ペーパーについての個人プレゼン ※作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする
13	テーマについてのプレゼン②：リサーチ・ペーパーについての個人プレゼン ※作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（3組）

更新日：2023/01/10 08:51:19

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140C	科目コード	L5140
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介
2	レポートの書き方
3	レポートを修正する
4	レポートを発表する
5	グループ活動：リアル脱出ゲーム
6	グループ活動：ゲームを作る
7	グループ活動：ゲームを発表する
8	グループ活動：ラジオドラマを作る
9	グループ活動：ラジオドラマを作る
10	グループ活動：ラジオドラマを作る
11	グループ活動：ラジオドラマを発表する
12	プレゼンテーション：自分動画を作る
13	プレゼンテーション：自分動画を発表する
14	プレゼンテーション：自分動画を発表する

授業外における学習

各教員の指示に従うこと。

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内の活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（4組）

更新日：2023/01/10 08:51:20

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140D	科目コード	L5140
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについての中間報告
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと
- ・学外での調査やイベントに参加など（任意）

質問や相談への対応

- ・質問や相談は、授業中および授業の前後に受け付けます。
- ・授業時間外はメールでの対応、または（アポイントメントをとって）直接来室して下さい。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す

プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	適宜資料を配布，または，参考書等を指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ★各自が自分の課題やテーマの解決に向けて，主体的に学び，活動すること
- ★グループワークや，ゼミの活動・議論に積極的に参加すること

その他・特記事項

アカデミックスキルズを身につけるとともに，主体性やコミュニケーション力，考えぬく力を一緒に鍛えていきましょう！

発信力ゼミⅡ（5組）

更新日：2023/03/14 11:10:39

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140E	科目コード	L5140
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり 興味をもっている絵本や詩についての紹介 自己紹介に加えて、興味をもっている絵本や詩についての紹介や後半やってみようの紹介。
2	テーマについてのインプット 詩や絵本について 詩とはなにか。東西のさまざまな詩について
3	テーマについてのインプット 詩や絵本について 絵本とはなにか。各国のさまざまな絵本の紹介。
4	テーマについてのインプット 詩や絵本について 昨年度のテーマや問いの紹介。気に入った詩や絵本の紹介ポップづくり
5	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマを考える 各自、取り組みたいテーマや問いを考えて意見交換。グループをつくる。
6	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて考える グループで取り組みたいテーマや問いについて考える
7	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
8	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
9	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
10	テーマについてのプレゼンテーション準備 グループで調査した結果に基づき、考察を行い、プレゼンの準備を行う
11	テーマについてのプレゼンテーション（中間発表） グループごとにプレゼン発表（中間発表）を行う 互いに意見交換
12	テーマについてのプレゼン（中間発表）をもとにさらに修正を加える 中間発表で出された意見などを参考に、さらにブラッシュアップする
13	テーマについてのプレゼン発表 各班発表を行って、録画する。発表原稿をもとにレポート作成
14	振り返り テーマや問いの立て方はよかったか、プレゼン発表が思ったようにできたか、レポートをうまくまとめられそうか振り返る。

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと。授業中や授業の前後など適宜質問してください。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す	
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。積極的にグループ活動に参加してほしい。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（6組）

更新日：2023/01/10 08:51:22

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140F	科目コード	L5140
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

授業中に指示する。

質問や相談への対応

メールやLINEでの質問・相談は随時受け付けている。対面を希望する場合は、事前に予約すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（7組）

更新日：2023/01/10 08:51:23

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバコード	L5140G	科目コード	L5140
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり...授業担当者がこのクラスのテーマである“長野県内の城下町”についてレクチャーする。受講生は、各自の関心に基づきながら地元の歴史文化を地域資源として活用する意義についてグループワークを通して考える。
2	テーマについてのインプット...各都道府県内の城下町を地域資源として活用する事例について調べる。
3	テーマについてのインプット...長野県内の城下町について調べる。
4	テーマについてのインプット...長野県内でお城を地域資源として活用している事例について調べる。
5	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町についてグループディスカッションする。
6	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町の歴史文化的価値についてグループディスカッションする。
7	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町について、お城を地域資源とするアイデアをグループディスカッションする。
8	テーマについてのグループ活動.....研究対象とする長野県内の城下町について、お城を地域資源として地域活性化とするアイデアをグループディスカッションする。
9	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《ラジオ番組の台本づくりをイメージ》。
10	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《テレビ番組の台本づくりをイメージ》。
11	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《SNSのコンテンツづくりをイメージ》。
12	テーマについてのプレゼン...第9回・第10回・第11回のレポートをもとにSNSで発信する。
13	テーマについてのプレゼン...第9回・第10回・第11回のレポートをもとに地元メディアで発信する。
14	振り返り...これまでの学習してきたことについてよかった点や反省点などを話し合う。

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す

プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（8組）

更新日：2023/01/10 08:51:23

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140H	科目コード	L5140
担当教員	野口 暢子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力、食品ロス問題、フードバンク&フードドライブ

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。8組は、フードドライブ&フードバンクを行う。その準備作業に関わることで、イベント告知や開催に関する情報発信力の向上を目指す。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。クラスのメンバーで協力して、イベントを準備・開催できる力を身に着ける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練（学術レポートの執筆）。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。プレゼンテーション（食品ロスに関する内容の個人発表）。フードバンク&フードドライブ活動など

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介
2	食品ロス問題について、クラスメイトとのディスカッション
3	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第1回（発表時間：1人5分）
4	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第2回（発表時間：1人5分）
5	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第3回（発表時間・1人5分）
6	食品ロス問題に関するグループディスカッション
7	レポートを作成するために（書籍の探し方、レポートの書き方に関する講義）
8	ブックレポートの作成（要約：A4・3頁）
9	ブックレポートの作成（要約：A4・3頁）
10	フードバンク&フードドライブの準備
11	食品ロスについてのレポート作成
12	食品ロスについてのレポート作成
13	フードバンク&フードドライブの実施
14	振り返り

授業外における学習

プレゼンテーションの準備、レポートの執筆

質問や相談への対応

noguchi.nobuko@u-nagano.ac.jpにメールを送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価

レポート	25	レポートループリックを示します。
プレゼン	25	発表評価ループリックを示します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グローバルな視点を持って、食品ロス問題を考察し、ローカルな場所での活動に積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（9組）

更新日：2023/01/10 08:51:24

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140I	科目コード	L5140
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（10組）

更新日：2023/01/10 08:51:25

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140J	科目コード	L5140
担当教員	加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり、課題の確認
2	興味あるテーマの共有
3	グループ分けとグループテーマの仮決定
4	グループごとのテーマ設定と調査・分析計画
5	テーマについてのグループ活動①
6	テーマについてのグループ活動②
7	ショートプレゼン（中間発表）
8	テーマについてのグループ活動（調査用紙の作成）③
9	テーマについてのレポート作成
10	調査結果の分析①
11	調査結果の分析②
12	プレゼン準備①
13	プレゼン準備②
14	プレゼンと振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（11組）

更新日：2023/01/10 08:51:26

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140K	科目コード	L5140
担当教員	宮城 正作						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（12組）

更新日：2023/01/10 08:51:27

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140L	科目コード	L5140
担当教員	山本 直樹						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり（演劇的発信を通して）
2	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
3	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
4	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
5	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
6	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
7	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
8	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
9	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
10	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
11	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
12	テーマについてのプレゼン（演劇的発信を通して）
13	テーマについてのプレゼン（演劇的発信を通して）
14	振り返り（演劇的発信を通して）

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（13組）

更新日：2023/01/10 08:51:28

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバスコト	L5140M	科目コード	L5140
担当教員	神戸 和佳子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

保育原理

更新日：2023/01/10 08:58:14

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C1010A	科目コード	C1010
担当教員	太田 光洋						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育、幼児教育、保育の歴史と思想

授業の概要

現代の保育実践がどのような子ども観や発達観、保育観を基礎として構築されているかについて、保育の歴史、先人の教育思想から学ぶ。また、学んだことをもとに現代の子どもや家族、保育を取り巻く状況や保育制度を捉え、今後の保育のあり方について考える。

担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。

到達目標

1	現代の保育（幼児教育）の根拠について、これまでの教育・保育に関する歴史や思想から学び、保育の意義について考え、現代の保育制度と保育が抱える問題と結びつけ、保育の基礎的知識を習得し、今後の保育のあり方を構想できるようになる。
---	---

教授方法

講義。内容理解のために、ディスカッション、実技などを含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	講義概要とオリエンテーション 授業の進め方について、自己紹介カード
2	根拠法と保育の原理 環境を通しての保育、子どもらしい生活、遊びを中心とした保育、子どもにとっての遊び、保育と学び 「学び手」としての保育、「教え手」としての保育者（「保育原論」第3章、第6章参照） 保育施設の概要 （「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」参照）
3	保育と遊び、子どもの文化
4	「保育」とは何か 「保育」観の歴史の変遷と意義（「保育原論」第1章参照）
5	保育者の愛と知（「保育原論」第2章参照）
6	社会構造、家族の変化と保育制度、子どもと子育て、保育をめぐる状況（家庭、結婚、出産、保育、待機児童、貧困、子育て支援）者
7	保育の思想と歴史（1）現代の保育の基礎となる保育思想と歴史 コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベルを中心に（「保育原論」第5-8章参照）【ポータル】
8	保育の思想と歴史（2）日本の保育の歴史と現代の保育 倉橋惣三、城戸幡太郎を中心に
9	「子どもを大切にすること」と「保育者の役割」（「保育原論」第5-8章参照）
10	幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園の機能、制度と役割（1） （配付資料、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」参照）
11	幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園の機能、制度と役割（2） （配付資料、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」参照）
12	幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園の機能、制度と役割（3） （配付資料、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」参照）
13	子どもの発達と保育の実際（「保育原論」第9-12章参照）
14	授業のまとめ（保育の現代的課題と展望）

授業外における学習

授業開始までにテキストを通読しておくこと。また、授業内で提示された課題のレポートを作成すること。

質問や相談への対応

授業の冒頭または最後に対応します。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
レポート	100	授業内及で提示される課題、グループワークについてのレポートで評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『保育原論』太田光洋（保育出版会）、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（チャイルド本社）、幼稚園教育要領解説（文部科学省）、保育所保育指針解説（厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
	最新保育資料集2022（ミネルヴァ書房）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に関心を持って臨めるように工夫して進めるので能動的に参加し、知識や技能を習得するように努めること。

その他・特記事項

担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所、行政等での研修講師を務めるなどの実務経験を有しており、その経験を教授内容に反映する。

児童家庭福祉

更新日：2023/01/10 08:57:50

開講年度	2022	学期	3期	シバースト	C1070A	科目コード	C1070
担当教員	中山 智哉						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

児童家庭福祉の理念 児童福祉法 児童家庭福祉の機関・施設・専門職

授業の概要

わが国の児童福祉は、すべての子どもがよりよく生きられ、自己実現が保証されることを目指し、その時代に応じた法制度や実践の展開がなされている。しかし一方で、子ども家庭をめぐる諸問題は依然として生じており、児童福祉の一翼である保育現場が担う役割も大きい。本講義では、児童福祉の理念と意義、子ども家庭の現状、児童福祉各分野の課題把握を基礎とし、現代社会における子ども家庭を支援するための保育者として必要な児童福祉に関する知識を体系的・構造的に理解することを目的とする。

児童福祉の理念と意義、子どもたちの現状、児童福祉各分野の現状把握を基礎とし、現代社会における児童の位置づけを全体的に把握すること。

到達目標

1	① 児童福祉の理念と意義、子どもたちの現状、児童福祉各分野の現状を理解する。
2	② 保育者として必要な児童福祉に関する知識及び考え方を体系的・構造的に理解する。
3	③ 児童家庭福祉を担う専門職と支援技術について理解する。

教授方法

講義を中心に行う。毎回レジュメを配布する。児童福祉の実情を理解するため視覚教材を用いる回もある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	児童福祉の理念、意義について解説する。
2	児童福祉の歴史的展開、また現在の子ども家庭を取り巻く環境について解説する。
3	児童福祉の法体系、制度について解説する。
4	児童福祉にかかわる機関、施設の概要について解説する。
5	児童虐待問題について、その実態の理解および虐待防止のための施策と課題について解説する。
6	子どもの養護について考える①。関連する児童福祉施設について解説する。
7	子どもの養護について考える②。里親制度等の家庭的養護について解説する。
8	障がい児福祉について考える。制度や関連施設について解説する。
9	少年非行と児童福祉施策、情緒障がいと児童福祉施策について解説する。
10	保育・子育て支援・次世代育成支援について解説する。
11	児童福祉の人材について解説する。併せて、専門職間のネットワークについて解説する。
12	児童福祉援助活動における専門技術について、事例検討を含み解説する。
13	児童福祉における保育者の位置づけについて、今後の課題や展開を含め考える。
14	授業総括、試験

授業外における学習

- ① 毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ② 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	筆記試験の点数	

中間レポート	10	レポートの内容
出席	10	出席状況
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々の子ども家庭に関するニュースに触れることが効果的である。

その他・特記事項

なし

保育者論

更新日：2023/01/10 08:57:50

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	C1090A	科目コード	C1090
担当教員	荒井 聡史						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育者の身分・地位、保育者集団の特徴と課題、保育者の仕事、子ども理解、保育者の専門性、地域・関係諸機関との協働

授業の概要

- ・教職（保育者）の意義、保育者養成制度の概略、保育者の役割と倫理、専門性と職務内容、保育者の研修・専門性向上、地域との連携の重要性と必要性等、保育者としてのあり方について学ぶ。
- ・豊富な事例記録をもとに、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。

到達目標

1	教職・保育職の意義、保育者としての役割と倫理、具体的な職務内容などについて理解を深め、保育者としてのあり方について主体的に考え、判断し、行動できるようになる
---	--

教授方法

講義。一部個人発表、グループ討議を含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

教育原理、保育原理の履修を前提とする。

授業計画

1	講義概要とオリエンテーション 保育者の社会的意義と身分・地位 ①幼稚園教諭の身分・地位
2	保育者の社会的意義と身分・地位 ②保育士の身分・地位
3	保育者の仕事 ①保育者の1日
4	保育者の仕事 ②園務分掌
5	保育者の集団 ①保育者集団のジェンダー
6	保育者の集団 ②保育文化の伝承の問題
7	保育者の成長過程と研修
8	子どもを理解すること ①子ども理解の諸側面
9	子どもを理解すること ②生きる子どもを理解する
10	保育者の専門性とは何か ①反省的实践家としての保育者
11	保育者の専門性とは何か ②保育者の人間性と専門性
12	保育の中で自分を見つめる
13	地域・関係機関との連携・協働
14	保育者の成長と資質向上

授業外における学習

- ①次回の授業内容に関連する教科書該当部分、事前配布資料を読み、予習カードを作成する。
- ②毎回指定された課題・問題に取り組む。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】授業に主体的に参加し、保育者の課題を自己の課題として受け止め、とてもよく学ぶことができている。【A】授業に主体的に参加し、保育者の課題を自己の課題として受け止め、学ぶことができている。【B】授業に主体的に参加し、保育者の課題を自己の課題として受け止めようとする姿勢はあるが、授業内容と関連付けて学ぶことができている。【C】授業に主体的に参加しているが、保育者の課題を自己の課題として受け止める姿勢にかけ、授業内容の理解も十分ではない。【D】授業に対する主体的姿勢にかけ、授業内容の理解も不十分である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	30	授業全体を通じて習得した知識の状況を確認する。
授業レポートA	21	自己の経験と学習にもとづいて求める保育者像を明確にできているかを確認する。
授業レポートB	21	授業内容を主体的に受け止め、保育者の課題を自己の課題として内面化できているか確認する。
授業内小レポート	28	毎授業回終了後に授業内容について主体的に学習できたかを確認する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	木山徹哉／太田光洋 編著『教職論』ミネルヴァ書房、2017年。			
	授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・幼稚園教諭免許、保育士資格という社会的地位の取得に関わる授業であるため、受講生には主体的・積極的な受講態度を望む。

その他・特記事項

- ・実践記録・新聞記事等を読み、保育・幼児教育の現状を把握する。また、テキスト、資料、参考図書などを活用し、保育者のあり方について深く考えること。
- ・Microsoft Teamsを通じた連絡、資料の配布、課題の提示等を行うので、常時確認できるようにしておくこと。

社会福祉概論

更新日：2023/01/10 08:57:51

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	C1100A	科目コード	C1100
担当教員	尾島 豊						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会保障、社会福祉、児童家庭福祉、障害者福祉、介護保険、生活保護

授業の概要

社会保障の体系を理解した上で社会福祉サービスの概要を学ぶ。1)社会福祉の歴史、2)児童家庭福祉の概要、3)障害者福祉の概要、4)高齢者福祉—介護保険を中心に、5)貧困と生活保護の概要を順次学んでいく。

到達目標

1	保育士として働く上で必要な社会福祉の知識と理論を学ぶこと
---	------------------------------

教授方法

講義形式

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

総合教育科目の「社会保障入門」を履修することが望ましい。

授業計画

1	講義の概要、社会福祉の概念
2	社会保障の体系
3	主な人口動態の指標
4	社会福祉の歴史1—イギリス社会福祉の歴史
5	社会福祉の歴史2—戦前までの社会福祉の歴史（「江戸の捨て子たち」）①
6	社会福祉の歴史3—戦後社会福祉の歴史（戦後混乱期）
7	社会福祉の歴史4—戦後社会福祉の歴史（高度経済成長期）
8	社会福祉の歴史5—戦後社会福祉の歴史（低成長期～現在）
9	児童家庭福祉1—児童家庭福祉の概要
10	児童家庭福祉2—児童虐待（DVD）②
11	障害者福祉1—障害者福祉の概要
12	障害者福祉2—発達障害について③
13	高齢者福祉—介護保険制度の概要
14	子どもの貧困と生活保護制度④

授業外における学習

復習を中心に、必要事項の理解、自らの関心分野の発見 課題レポート

質問や相談への対応

個別にいつでも可

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業態度	10	出席状況、授業中の態度
課題レポート①～④	40	課題レポートの提出、内容、独創性
最終レポート	50	最終レポートの提出、内容、独創性
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「社会福祉概論」(第5版) 小田憲三・杉本敏夫監修 勁 草書房			
	「社会保障入門2022」			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

幅広い福祉の分野への興味と自らの関心分野の発見

その他・特記事項

時になし

こども学

更新日：2023/01/10 08:57:54

開講年度	2022	学期	1期	シバースコード	C1110A	科目コード	C1110
担当教員	荒井 聡史, 山本 直樹						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

こどものイメージ、こどもの生活世界、こどもの演劇体験

授業の概要

多様な視点から子どもという存在を捉え直し、従来の子どもをめぐる言説の批判的再検討を行う中で、保育実践の基礎となる子ども観を深めていく。セッション1では子どもの表現活動に着目し、個々の子どもたちの表現が織り成す文化のなかで自己形成する子どもの姿を描き出す。セッション2では日本における子ども論の展開および、教育思想の潮流を紹介し、子どもの生活世界から子どもという存在を捉え直す。セッション3ではおもちゃ、絵本を通じたこどもの世界の理解を考える。

到達目標

1	従来の子どもをめぐる言説を批判的に再検討することを通して、受講者が保育実践の基礎となる子ども観を子どもの具体的な生活に即して深めることができるようになることを目標とする。
---	---

教授方法

・講義、オムニバス形式。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	本講義のガイダンス
2	(セッション1) 子どもの文化から見た子ども①表現の発達：表れと表し
3	(セッション1) 子どもの文化から見た子ども②ごっこの世界
4	(セッション1) 子どもの文化から見た子ども③劇的本能：坪内逍遙の児童教育論より
5	(セッション1) 子どもの文化から見た子ども④遊びとコミュニケーション
6	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み①こども学とは何か
7	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み②「こども」という存在の特徴
8	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み③「こどもの生活世界」という視点
9	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み④ファンタジー体験とこどもの秘密
10	(セッション3) おもちゃを通じた子どもの世界の理解①
11	(セッション3) おもちゃを通じた子どもの世界の理解②
12	(セッション3) 絵本を通じた子どもの世界の理解①
13	(セッション3) 絵本を通じた子どもの世界の理解②
14	本講義のまとめと確認

授業外における学習

- ①次回の授業内容に関連する資料等を読み、授業内容についての問題意識を持つ。
- ②毎回指定された課題・問題に取り組む。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業内で前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】授業内容をよく理解し、こどもをめぐる課題を主体的に受け止め、自発的な学習へと発展させることができている。【A】授業内容を理解し、こどもをめぐる課題を主体的に受け止め、自発的な学習へと発展させることができている。【B】授業内容を理解しているが、こどもをめぐる課題を主体的に受け止め、自発的な学習へと発展させることが不十分である。【C】授業内容をよく理解しているが、こどもをめぐる課題を主体的に受け止めることができている。【D】授業内容の理解が不十分で、こどもをめぐる課題を主体的に受け止めることもできていない。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
セッション・レポート	90	各セッション終了後に課されるレポート（30点満点）3回を通じて授業内容の理解度を評価する。
総括レポート	10	授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しない。			
	授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・幼稚園教諭免許、保育士資格という社会的地位の取得に関わる授業であるため、受講生には主体的・積極的な受講態度を望む。

その他・特記事項

- ・日頃からテキスト、資料、参考図書、新聞記事等を読み、子どもをめぐる問題についての知識と理解を深めるとともに、自己の持つ子ども観について深く考えること。
- ・セッション3では学外授業を利用した授業展開を予定しているので、若干の費用負担が生じる可能性がある。
- ・Microsoft Teamsを通じた連絡、資料の配布、課題の提示等を行うので、常時確認できるようにしておくこと。

こどもと造形

更新日：2023/01/10 08:57:55

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C1120A	科目コード	C1120
担当教員	宮城 正作						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

造形表現、材料・用具、色彩・形体・材質、発達過程

授業の概要

本授業では、こどもの造形活動の発達や展開、保育者としての支援のあり方について学ぶ。とくに、「色彩・形態・材質」、「材料・用具」、「安全・衛生面」、「言葉掛け」などについて、幼児造形活動を支援するという観点から理解を深めていく。また、講義による知識の獲得を最終目標とするのではなく、学んだ知識を実制作を通して活用することで、受講者が知識や技術を技能として定着できるように授業を進行する。くわえて、実制作から知識を引き出すような展開も重視する。

到達目標

1	①授業内で使用する材料や用具の適切な使用法を理解し、身につける。
2	②造形表現の発達過程について理解する。
3	③習得した知識や技術が保育者としてどのように活かされるか考えられる。

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式でおこなう。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

とくになし。

授業計画

1	「花冠をつくろう！—基本編—」 ・配色に着目して、お花紙を用いた花冠作りに取り組む。 ・お花紙を用いた「基本の紙花」の作り方を概説し、制作する。
2	「花冠をつくろう！—応用編—」 ・基本の紙花の作り方をもとに、オリジナルの花冠を制作する。
3	「花冠をつくろう！—完成編—」 ・基本の紙花の作り方をもとにオリジナルの花冠を完成させ、できた作品の撮影をおこなう。
4	「オリジナルシールをつくろう！—シール制作編—」 ・シールを用いた幼児造形活動の展開方法について学ぶ。 ・手作りシール作りの説明と制作。
5	「オリジナルシールをつくろう！—シール活用編—」 ・前回制作した手作りシールを、グリーティングカードの装饰材料として活用することで、シールを用いた造形活動について学ぶ。
6	「描画材の基礎知識—絵の具編—」 ・こどもの造形活動に適した描画材について、こどもの発達段階や安全・衛生面、基底材との関係に着目して学ぶ。
7	「描画材の基礎知識—クレヨン・マーカー編—」 ・こどもの造形活動に適した描画材について、こどもの発達過程や安全・衛生面、基底材との関係に着目して学ぶ。
8	「こどもの平面表現の発達過程」 ・こどもの平面表現の発達過程について講義を中心に解説する。
9	「こどもの立体表現の発達過程」 ・こどもの立体表現の発達過程について講義を中心に解説する。 ・はさみの構造について解説する。
10	「色の基礎知識—色水遊び編—」 ・色の三要素である「色相・彩度・明度」について、「色水遊び」をとおして学ぶ。 ・幼児造形活動における「色水遊び」の留意点について学ぶ。
11	「色の基礎知識—名札づくり編—」 ・こどもの色彩感覚に着目しつつ、配色について「名札づくり」を通して学ぶ。
12	「モダンテクニックとコラージュA」 ・コラージュに使用する手づくり色紙を、モダンテクニックを用いて制作する。

13	「モダンテクニックとコラージュB」 ・手づくりの色紙を用いて、コラージュ作品を制作する。
14	「モダンテクニックとコラージュC」 ・手づくりの色紙を用いて、コラージュ作品を制作する。

授業外における学習

各作品を完成させるための時間は、授業時間のみでは確保できませんので、授業外の時間も利用して制作してください。

質問や相談への対応

質問は随時受け付ける。

miyagi.masanari@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	50	講義で解説した内容、配布したプリントの内容、制作をとおして得られた知識や技術に関する問題を出題する。
期末テスト	50	講義で解説した内容、配布したプリントの内容、制作をとおして得られた知識や技術に関する問題を出題する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	とくに使用しない。			
	プリントを毎回配布します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

あなたの「好き」「楽しい」「面白い」という気持ちを、造形活動をとおして表現してください。そのことが、子どもの造形活動を支える一歩目です。

その他・特記事項

とくになし。

海外プログラム

更新日：2023/01/10 08:57:56

開講年度	2022	学期	3期	シバースト	C1140A	科目コード	C1140
担当教員	前田 泰弘, 小笠原 明子, 安氏 洋子, 渡邊 望						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

フィンランド、OECD、エデュケア、ICT教育、野外（自然）保育

授業の概要

フィンランド共和国（以下フィンランド）における子育てや子どもの発達支援、保育・教育の実践について、現地での研修を通じて実践的に理解する。この科目では、まず事前指導として北欧地域における社会福祉や保育・教育の制度、子育てに関する思想や文化などについて理解する。本研修では、現地機関の教員・職員によるフィンランドの子育て（母子保健）や保育・教育の実践などに関する講義・ディスカッションのほか、ICTを用いた教育技法などについて演習を行う。また、現地の保育の実践についても実践的に体験する。事後指導では、研修で学んだ学習内容の振り返りと報告書の作成を行う。これをもとに報告会を行い、自らの保育の資質向上に向けた昇華を図るとともに、本邦の保育の現状に対する俯瞰的な視野からの理解とその改善に対する考察を行う。

担当教員の前田は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では本邦の相談事例等の紹介を交えることで、実践的な比較・理解が促されるようにする。

担当教員の小笠原は、保育現場での保育や療育の実務経験を有している。子どもの発達状況や保育士のかかわり方など、実践事例を紹介することにより、学生自身が様々な面から子どもをとらえ、それへの配慮を実務に活かせるよう指導する。

担当教員の宮城は、学校教育現場での教育実務経験を有している。造形活動を中心とした幼児教育・学校教育の実践について、本邦との比較などを交えながら指導する。

到達目標

1	海外の保育事情やその背景となる文化や思想の実際を知り、子どもの発達支援・保育に関する視野を広げる。また、研修を通して、自らの問題解決能力やコミュニケーション能力を発揮するとともに、それを省察する。このような体験をもとに、自らの保育者としての資質の向上ならびに保育観や保育に対する意欲・態度を深化させることをねらいとする。
---	--

教授方法

事前事後指導（第1回～第4回、第12回～第14回）は講義形式で行う。研修（第5回～第11回）では、現地機関の教員や職員による講義や演習とともに、現地の保育を実際に体験する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

本プログラム参加のための所定の手続きを完遂していること。

授業計画

1	海外プログラムの概要と意義
2	フィンランドの文化・思想と子育て
3	フィンランドの保育・教育制度（社会教育を含む）
4	フィンランドの野外（自然）保育
5	研修の心構えと準備
6	講義（1）フィンランドの保育・幼児教育
7	講義（2）フィンランドの子育て・文化
8	講義（3）フィンランドの野外（自然）保育の実践
9	演習（1）フィンランド人の生活と思想
10	演習（2）フィンランドの保育-公立保育所・野外保育園-
11	演習（3）特徴的な保育技術（ICTを用いた保育・オンライン教育の実践）
12	研修の振り返り
13	研修報告書、報告会の準備
14	研修報告会

授業外における学習

フィンランドの文化、教育・保育等について、積極的に事前学習を行って欲しい。

質問や相談への対応

授業の前後を中心に、適宜受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
課題	80	事前指導および研修への参加の様子、課題の遂行状態、研修の振り返りの内容等を総合的に評価する。	
課題	20	研修後に提出を課す報告書及び報告会の内容を評価する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	資料を配布する。			
	授業時に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本邦の保育・幼児教育・社会福祉（児童福祉）について、事前に十分理解しておいて欲しい。また、研修を充実させるため、適宜要望を伝えてほしい。

その他・特記事項

担当教員の前田は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。

担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有している。

担当教員の宮城は、学校教育現場における教育の実務経験を有している。

必要に応じてMicrosoft Teams（オンデマンド教材）を使用する。

社会的養護

更新日：2023/01/10 08:57:57

開講年度	2022	学期	4期	シバースト	C1150A	科目コード	C1150
担当教員	尾島 豊						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会的養護、施設養護、児童虐待、障害児福祉。里親制度

授業の概要

社会的養護の現状と歴史及び基礎的な概念に関する講義と、①児童養護施設と②乳児院と③障害児・者福祉の実践を、現場の先生をゲスト講師に呼んで理解を深める。社会的養護の入門編。

到達目標

1	社会的養護の現状と基礎的な概念の理解
---	--------------------

教授方法

講義形式

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年次の社会的養護内容を履修すること。

授業計画

1	講義の説明、社会的養護の定義
2	社会的養護の現状
3	社会的養護の方法①—施設養護と家庭養護
4	社会的養護の方法②—施設養護の種類
5	社会的養護の方法③—施設養護の実際 (DVD)
6	社会的養護の方法④—家庭養護 (DVD) ①
7	新しい社会的養育ビジョン
8	施設養護と家庭養護—アタッチメントの理論 (DVD) ②
9	社会的養護の歴史1)—明治・明治末～昭和初期
10	社会的養護の歴史2)—明治期の石井十次 (DVD) ③
11	社会的養護の歴史3)—戦後混乱～高度経済成長期
12	社会的養護の歴史4)—1970年代後半～1980年代まで
13	社会的養護の歴史5)—1990年代～現在 児童虐待防止法の成立と展開 (DVD)
14	社会的養護の理念—子どもの権利について— ⑤

授業外における学習

社会的養護の基礎的な概念の理解とゲスト講師の講義の理解と関心

質問や相談への対応

個別にいつでも可

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業態度	25	出席状況、授業への参加状況
課題レポート①～④	80	課題レポート (20×4) の提出、内容、独創性
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	喜多 一憲 監修・堀場 純矢 編 「社会的養護」みらい			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

特になし

その他・特記事項

特になし

教育心理学

更新日：2023/01/10 08:58:14

開講年度	2022	学期	3期	シバースト	C1160A	科目コード	C1160
担当教員	藤田 勉						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

教育心理学, 学習, 記憶, 発達, 教育評価

授業の概要

心理学の諸分野の研究成果の中から、保育・教育場面に有用なトピックを選び、紹介する。保育・教育場面に有用な心理学の研究結果を知ることにより、心理学的見地から「保育・教育とは何か」、「保育者・教師とは何か」について考える。また、子どもの発達、生活や遊びを通じた学習過程、保育における発達援助などについて学ぶことで、保育の実践をより効果的なものにする。

到達目標

1	保育・教育場面に有用な心理学の知見を学ぶことで、より合理的で実践的な保育に役立てる。
---	--

教授方法

最新の心理学を理解するための演習を行う。演習の過程で生じる問題点等を学生と教員が協議しながら解決策を模索する。演習科目なので、受講生には特に積極的に活発な授業参加が求められる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	キックオフ（授業の目的、授業の概要、授業の形式、使用テキスト、成績評価の方法、授業のスケジュールなど）
2	保育・教育と記憶①（記憶とは、記憶の検査法、記憶の種類、記憶の範囲、孤立効果、記憶の文脈依存性、デジャ・ヴ現象、記憶の変容、忘却の理論他）
3	保育・教育と記憶②（記憶術とは、様々な記憶術、記憶術の応用他）
4	学習と動機づけ①（学習とは、動機づけとは、学習心理学の理論他）
5	学習と動機づけ②（学習心理学の応用、行動変容技法について他）
6	保育者・教師と子ども（ピグマリオン効果、ゴーレム効果、保育者・教師がもちがちなステレオタイプ、ハロー効果、ホーソン効果、ラベリング理論、印象形成、個人空間、同調行動、社会的手抜き、説得術他）
7	教育評価（教育評価の意味、教育評価の基礎、尺度水準、実験計画法他）、授業のまとめ

授業外における学習

授業に臨むにあたり、指定された文献の講読、課題の実施など授業時間外での事前・事後学習が必要である。

質問や相談への対応

質問・相談については、原則的には授業時間内で受け付け、当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は、初回授業時間に伝えるメール・アドレスにて受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	筆記試験により授業内容の理解度を評価する。
課題発表等	50	課題の遂行状況と授業貢献度により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	『教師を目指す人のための新教育心理学（改訂版）』 川島眞・小林和久・藤田勉 世音社 2018 ISBN:978-4-921012-36-6 ★PDFファイルを配信予定。			
	『新版行動科学序説（新版5刷）』 藤田勉・藤田直子 世音社 2019 ISBN:978-4-921012-12-0			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本授業の中で実施する演習を通して、受講生には保育や幼児教育に対する新たな視点を身につけてもらいたい。

その他・特記事項

出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻、それ以降は欠席とする。

こどもの食と栄養

更新日：2023/01/10 08:58:15

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	C1170A	科目コード	C1170
担当教員	中澤 弥子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

食育 栄養 食生活 健康 発育

授業の概要

こどもの健全な成長・発達に欠かすことができない栄養に関する基本的事項を学習する。また、こどもの成長・発達と栄養・食生活との関係について学び、発育段階に応じて適切な食生活の支援ができる知識と技術を修得する。さらに、特別な配慮を必要とするこどもの食と栄養、児童福祉施設における食事、食育の基本的事項などについて学習し、実践につなげる力を養う。

英語表記「Children, Food and Nutrition」

到達目標

1	①栄養に関する基本的知識を修得する。
2	②こどもの成長・発達と栄養・食生活との関係について理解し、発育段階に応じて適切な食生活の支援ができる知識と技術を修得する。
3	③特別な配慮を必要とするこどもや児童福祉施設における食と栄養について理解する。
4	④食育の基本的事項について理解を深める。

教授方法

講義を中心とするが、テーマに応じてグループによるディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション、こどもの健康と食生活の意義
2	栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能
3	消化と吸収、栄養素の代謝、食事摂取基準とその活用
4	栄養バランスのとれた食事、食の機能、調理の基本
5	小児期の成長と発達、妊娠・授乳期の栄養
6	乳児期 乳汁栄養と離乳栄養
7	幼児期の食生活
8	学童期の食生活、生涯発達と食生活
9	食育の基本と内容
10	食農教育とクッキング保育、行事食、食育計画の個人・グループでの立案
11	食育計画のグループ発表
12	児童福祉施設や家庭における食事と栄養、食の安全
13	特別な配慮を要するこどもの食と栄養
14	関係資料の紹介とまとめ

授業外における学習

- ・教科書を事前に読んで、疑問点を明らかにしておく。
- ・提示された個人課題やグループ課題に取り組む。
- ・前の授業内容を理解した上で、授業に臨む。

質問や相談への対応

質問等は授業中や授業の前後、またはメールで受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
筆記試験	40	栄養に関する基本的知識、こどもの成長・発達と栄養・食生活に関する知識、食育の基本的事項についての理解度および知識や技術を正しく用いて理論的に考え、表現することができるかに応じて評価する。
提出物	20	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。
プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの内容（課題を理解し、適切に説明しているか）に応じて評価する。
授業態度	20	授業での主体的参加度によって評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『新・子どもの食と栄養』 今津屋直子・久藤麻子編著 教育情報出版 2022 ISBN 978-4-909378-37-8			
	授業内で紹介する。必要に応じて印刷資料等を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題やグループワーク、ディスカッションやプレゼンテーションに取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

子育て支援の心理学（旧：相談援助）

更新日：2023/01/10 08:58:33

開講年度	2022	学期	3期	シバースト	C1180A	科目コード	C1180
担当教員	中山 智哉, 金山 美和子, 加藤 孝士						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

生涯発達心理学 家庭支援 精神保健

授業の概要

近年、急速な社会情勢の変化から、わが国の子育ち子育て環境が一段と厳しさを増している。そうした中、親の育児不安の増大や児童虐待の増加、親子の愛着不全、少子化による子ども同士のふれあいの減少など、子どもの育ちに関するさまざまな課題が指摘されている。本講義では、こうした現代の子育て家庭をめぐる社会現状や課題を把握するとともに、生涯発達の視点から子どもの育ち、親としての育ち、家族・家庭の意義や機能についての理解を深める。また、喫緊の課題となっている子どもの心の健康や親の子育てを支える具体的な支援方法についても学んでいく。

到達目標

1	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2	②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得する。
3	③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4	④子どもの精神保健とその課題について理解する。

教授方法

講義および演習 3名の教員（中山・金山・加藤）によるオムニバス

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	子ども家庭支援の心理学について概要を把握する（担当：中山）
2	胎児期から幼児期における発達（担当：加藤）
3	学童期から青年期における発達（担当：加藤）
4	成人期・老年期における発達と初期経験の重要性（担当：加藤）
5	家族関係と親子関係の理解（担当：金山）
6	子育て経験と親としての育ち（担当：金山）
7	子育てを取り巻く社会状況（担当：金山）
8	ライフコースと仕事・子育て（担当：金山）
9	多様な家族とその理解（担当：中山）
10	特別な配慮を要する家庭（担当：中山）
11	非常時（災害・感染症）における子ども家庭支援（担当：加藤）
12	子どもの生活・生育環境とその影響（担当：中山）
13	子どもの心の健康に関わる問題（担当：中山）
14	授業のまとめ・振り返り（担当：中山）

授業外における学習

- ①毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ②テキストや配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

質問等がある場合は、授業内もしくはメールで受け付ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

試験・レポート	90	3名の教員が30%ずつ評価する。試験・レポートは担当教員の指示に従う。
出席	10	出席状況
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	子ども家庭支援の心理学 — 保護者とともに子どもを支えるための心理学— 学文社			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

発達心理学・家庭支援・精神保健などの知識を統合し、実践に役立てることができるよう創意・工夫した学びを望む。

その他・特記事項

なし

小児保健

更新日：2023/01/10 08:58:29

開講年度	2022	学期	2期	シバースト	C1190A	科目コード	C1190
担当教員	春高 裕美						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

健康 保健活動 保育保健

授業の概要

この科目では、こどもの発育・発達を学び発達途にある人の健康課題を学ぶ。また、こどもを取り巻く社会情勢や法的根拠を確認し、母子保健や保育保健の意義を理解する。こどもの病気・事故・ケガなどに関する知識を学び、予防方法や対処方法を身につけ、こどもの健康状態の把握方法について学ぶ。保育所看護師実務経験を有し保育所で起こりうる実際の事例を多く取り入れ検討する。

到達目標

1	1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2	2. こどもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3	3. こどもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4	4. こどもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

教授方法

講義に加え、事例に基づくグループワークを理論と実践を融合させより深い学びを目指す。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

発達心理学を履修していることが望ましい

授業計画

1	こどもの健康と保健の意義；統計からみる母子保健・現代家族の問題・関連法規・保健計画とは
2	地域における保健活動；母子保健行政
3	こども虐待とは
4	こどもの発育・発達と保健（身体発育）
5	こどもの発育・発達と保健（生理機能）
6	こどもの発育・発達と保健（運動機能・精神機能） 中間レポートを実施する
7	発育・発達の把握と健康診断および保護者との連携（発達障がい・5歳児健康診査）
8	こどもの心身の健康状態とその把握（異常の早期発見）
9	こどもの感染症；症状別看護（発熱と発疹）
10	呼吸器の病気；症状別看護（咳と喘鳴）
11	消化器の病気；症状別看護（嘔吐・下痢・便秘・腹痛）
12	こどもの疾病の予防と適切な対応；予防接種
13	保育所での緊急時対応①；けいれん
14	保育所での緊急時対応②；食物アレルギー 授業総括

授業外における学習

事前学習；次回授業の教材を事前配布するので事前学習し授業に臨むこと
事後学習；授業後に確認テストを再配布するので復習すること

質問や相談への対応

授業後および適時、質問を受け付ける

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

確認テスト	60%	授業回ごとに確認テストを実施する。自己採点を行い提出をもって得点とする。
中間レポート	15%	課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、考察の内容等を総合的に評価する
最終レポート	15%	課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、考察の内容等を総合的に評価する
授業への参加度	10%	事例検討での発言等を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	保育所保育指針			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・事例検討では当事者に立場になって考えること
- ・0～5歳児の発達・発育をよく理解しておくこと

その他・特記事項

保育所看護師実務経験
 病院助産師・看護師実務経験
 行政助産師実務経験

こどもと言葉

更新日：2023/01/10 08:58:42

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C1200A	科目コード	C1200
担当教員	山本 直樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

こども、言葉、生活

授業の概要

こどもたちの生活と遊びについての考えを言葉を中心に深めるために、こどもの言語的発達を促し、生きる喜びを育むものとしての「こどもの文化」と「こどものための文化」の果たす役割を理解する。また、こどもの言葉を育むカルタやすごろく等の伝承遊びや児童文化財の種類とその活用についてを概観し、それらに関する各自の体験を掘り起して、実際に活用しながらその楽しさと遊びとしての機能を考え、それらを通してこどもの話す力、聞く力、表現する力がどう育つかを実践的に学んでいく。

到達目標

1	乳幼児期の言葉の発達を踏まえ、絵本や紙芝居、口演童話をこどもに伝える力、内容を理解する力、こどもと共に楽しむことができる力を身につける。また、伝承遊びや幼児教育の中で取り上げられることの多いこどもの言葉を育む文化財についてを演習し、その楽しさを経験するとともに、その特徴を考える。
---	--

教授方法

講義形式を基本とするが、遊びや児童文化財に関する内容は演習課題を積極的に取り入れる。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、DVD映像や玩具の現物等、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。

なお、前半7回は、zoomビデオ会議アプリケーションを利用した講義を基本とする。長野県立大学ポータルサイトを通じて資料配布、レポート提出を行うので、授業前に必ずサイトを確認しておくこと。後半は対面式の演習を行う予定である。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	本講義のガイダンス 社会変容とこどもの遊びの変化
2	乳幼児期の言葉の発達
3	こどもの文化と言葉の発達
4	子どもと文化の関係性：「こどもの文化」と「こどものための文化」
5	こどもの文化としての伝承遊びと行事
6	こどもの文化としての遊び①コマ・けん玉・たこあげ・あやとり
7	こどもの文化としての遊び②すごろく・カルタ
8	こどものための文化としての児童文化財①絵本
9	こどものための文化としての児童文化財②紙芝居
10	こどものための文化としての児童文化財③口演童話
11	こどものための文化としての児童文化財④パネルシアター
12	こどものための文化としての児童文化財⑤人形劇
13	こどものための文化としての児童文化財⑥影絵・劇遊び
14	本講義のまとめと確認

授業外における学習

毎回の授業終了時に示す事後課題（経験した授業内容と日常生活や自分自身とのつながり）と、予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組み、次回の授業時にレポートとして提出する。

質問や相談への対応

授業後に対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

1	20	小テスト:タームの終了ごとに10点満点の小テストを計2回実施し、体験したことの意味を自分なりに考えることができるかどうかを評価する。
2	80	授業内レポート:授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	太田光洋編『子どもの生活と遊びを創る保育の内容と方法』保育出版会、2016			
	小川清美他『演習 児童文化』萌文書林、2010			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

演習形式も交えるので、動きやすい服装を望む。

その他・特記事項

なし

幼児教育原理

更新日：2023/01/10 08:58:44

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	C1210A	科目コード	C1210
担当教員	荒井 聡史						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

「保育」の概念、日本の家族形態の変化、保育施設の歴史、ヨーロッパ、日本の幼児教育思想、子育て支援、情報消費社会

授業の概要

- ①日本における「保育」概念の変遷と幼児教育の現状を学ぶ。
- ②ヨーロッパと日本の保育思想について学ぶ。
- ③幼児教育の現代的課題について学ぶ。

到達目標

1	幼児教育・保育の概念の変遷、幼児教育思想と実際の保育の歴史的展開について学ぶことにより、現代の教育の課題を歴史的・思想的プロセスから理解し、課題解決に向けた主体的態度と姿勢をもてるようになる。
---	--

教授方法

講義、グループ研究およびプレゼンテーションを通じて行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

健康発達学部こども学科専門科目であり、幼稚園教諭免許および保育士資格取得のための必修科目として履修可能。

授業計画

1	「保育」の概念と日本の幼児教育の歴史
2	日本の家族形態の変化と保育施設の歴史
3	ヨーロッパにおける幼児教育思想のはじまり フレーベル、オーウェン、モンテッソーリ
4	日本の幼児教育思想の展開 倉橋惣三の誘導保育案
5	幼児教育研究の変遷 津守真の人間学的保育論
6	幼児教育の現代的課題（1） 子育て支援とコミュニティ
7	幼児教育の現代的課題（2） こどもの生活世界の変化 情報消費社会のこども

授業外における学習

事前に配布する資料を通じた予習と

質問や相談への対応

授業内外で応じる。メール、チャットでの質問・相談も可。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
小レポート	14	授業内容について主体的に考えているか。
期末テスト	86	授業内容を理解しているか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	木山徹哉／太田光洋編著『教育原論』ミネルヴァ書房、2016年。			
	授業内で随時提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

一定の社会的地位を保障する幼稚園教諭免許、保育士資格取得に必修の授業であることを意識し、真剣で主体的な取り組みを望む。

その他・特記事項

Microsoft Teamsを通じて資料の配布・課題の提示を行う。

発達と教育の心理学

更新日：2023/01/10 08:58:45

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	C1220A	科目コード	C1220
担当教員	加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

発達、教育、ライフステージ、学習

授業の概要

本講義では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を概説し、それに応じた学習のプロセスと学校教育及び子育て、家庭教育の基礎となる理論について学ぶ。また、障害等のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習のプロセスに言及する。それにより、個に応じた教育の在り方を学び、教育活動における基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。

到達目標

1	1.生涯にわたる子どもの発達と学習の特徴を理解する。
2	2.各発達段階でどのような関わり（教育）がよりよい成長・発達を導くのかを理解する。
3	3.講義の内容を基に、自らの興味あるテーマを探求するための基礎的知識を身に付ける。

教授方法

講義、及びグループワーク

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	発達と教育の心理学とは？（心理学における発達心理学・教育心理学の位置づけとその関係）
2	発達過程の理解（発達の原理と基礎的事項）
3	学習についての理解（人間の学びに関する基礎理論、教育心理学の基礎的事項）
4	学習についての理解（人間の学びに関する基礎理論、教育心理学の基礎的事項）
5	教育の在り方、教師の役割（よりよい発達を支える教師の在り方）
6	胎児期・新生児期・乳児期の発達・学習の特徴とその支援
7	幼児期の発達の特徴
8	幼児期の学びと支援
9	児童期の発達の特徴
10	児童期の学びと教育
11	障がいのある子どもの発達・学習の特徴
12	障がいのある子どもの支援と教育
13	社会変化に応じた幼稚園、小学校における教育の在り方
14	発達・教育の知識は、栄養教諭にどのように役立つのか？（まとめとして、授業で得られた知識をどのように生かしているのかをディスカッションし、理念を共有する。）

授業外における学習

適宜、課題を出します。

質問や相談への対応

授業後に質問を受けつけます。また、研究室（H404）にも相談に来てください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	論述及び選択型テスト
小テスト	20	確認テスト

レポート	20	課題レポート
授業参加	10	授業態度、ディスカッションの参加度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	『やさしく学ぶ発達心理学-出逢いと別れの心理学-』 浜崎隆司・田村隆宏 編 (ナカニシヤ出版) 子ども家庭支援の心理学 — 保護者とともに子どもを支えるための心理学— 学文社			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

疑問を持ちながら、受講してください。

その他・特記事項

特になし

こどもと表現（音楽）

更新日：2023/01/10 08:58:45

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	C1230A	科目コード	C1230
担当教員	大南 匠						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ボディパーカッション、アレンジ、オリジナル、つくる

授業の概要

ボディパーカッションの演奏、動きのアレンジ（既成曲）、オリジナル曲の制作など表現活動の実践を行う。

到達目標

1	音楽表現活動の制作プロセスを「遊び」から体験し、保育現場で必要な音楽表現に関する知識や技術を習得する。
---	---

教授方法

グループ中心による演習授業

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	音と動きによる活動1（ボディパーカッション1）
3	音と動きによる活動2（ボディパーカッション2）
4	音と動きによる活動3（ボディパーカッション3）
5	音と動きによる活動4（ボディパーカッション4）
6	音と動きによる活動5（ボディパーカッション5）
7	音と動きによる活動 まとめ・発表
8	音と動きによる活動7（発表）
9	音と動きによる活動8（まとめ）
10	ハンドベル・トーンチャイムの活動1
11	ハンドベル・トーンチャイムの活動2
12	ハンドベル・トーンチャイムの活動3
13	ハンドベル・トーンチャイムの活動4（発表）
14	わらべうた

授業外における学習

スケジュールに間に合うように課題を完成させること。

質問や相談への対応

質問や相談があれば授業内、授業外、メールなどで対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
パフォーマンス1	50	音と動きの活動（ボディパーカッション）パフォーマンス内容を評価	
提出	50	制作ノート（ボディパーカッション）を評価	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	適宜、提示する。			
	適宜、提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

制作を傍観するのではなく、積極的に関わって欲しい。

その他・特記事項

特になし

こどもと環境

更新日：2023/01/10 08:58:46

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	C1240A	科目コード	C1240
担当教員	小笠原 明子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

環境、自然、子どもの世界、保育者のかかわり

授業の概要

自然の中には子どもの動機づけや創造性を高める素材が多く存在しており、子どもの興味や状況に応じた活動の設定が可能である。このような条件を備えた自然環境を生かした保育は、子どもが潜在的にもつ感覚を自らの感性とベースで発揮することを可能としていく。自然とのかかわりの中で実際にどのような活動が行なわれるのか考え、さらに、それらを促す保育者の配慮や役割について考える。

担当教員は、保育現場における保育の実務経験を有しており、子どもの発達状況や保育士のかかわり方など、実践での事例を交えながら授業を展開し、学生自身が様々な面から子どもを考察し、実務に活かすことができる能力を身につける。

到達目標

1	子どもは自然の中で過ごすことで、その変化を自らの感覚を通して感じ取り、自発的にかかわるようになる。このような自然を通じた保育は子どもの育ちを支える基盤になると言える。本講では自然を保育の教材とし、それを保育の中で豊かに生かせるよう、自身の経験も踏まえて探求することを目標とする。
---	---

教授方法

講義形式で実施し、各講義において演習課題を設け授業の内容の理解を深め、実践に結びつくようにする

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	自然保育とは
2	保育所保育指針・幼稚園教育要領における「自然」とは
3	授業内容:自然環境を生かした保育①
4	授業内容:自然環境を生かした保育② (保育者のかかわり)
5	授業内容:自然環境を生かした保育③ (体験を通して育つ)
6	授業内容:自然環境を生かした保育④ (子どもの世界)
7	授業内容:総括 (知識の確認とまとめ)

授業外における学習

今後の実習につなげる (目標と課題の明確化)

質問や相談への対応

随時対応する

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験 (筆記)	70	講義内容を理解できているか
授業レポート	30	自身の考えを述べているか
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	講義において適宜紹介する			
	適宜資料を配付する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自然に興味を持ち受講してほしい

その他・特記事項

担当教員は保育現場における保育の実務経験を有している

こどもと健康

更新日：2023/01/10 08:58:47

開講年度	2022	学期	3期	シバースコード	C1250A	科目コード	C1250
担当教員	白澤 舞						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

こどもの健康 運動発達 基本的な生活習慣の形成 安全な生活

授業の概要

領域「健康」の指導に必要な知識と技能を身に付ける。乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等について、その特徴と意義について理解する。特に乳幼児期における運動機能の発達と習熟過程について理解し、子どもたちが心と身体を積極的に動かして生活したり遊んだりすることを支える保育者の役割と指導方法を実践的に学ぶ。

到達目標

1	1) 乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味について理解し説明できる。
2	2) 幼児期の身体諸機能の発達と生活習慣の形成について理解し説明できる。
3	3) 安全な生活と怪我や病気の予防について理解し説明できる。
4	4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し説明できる。

教授方法

演習形式。内容理解のため、実技、グループワーク、発表を含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	こどもの健康と生活環境 健康の捉え方と乳幼児を取り巻く生活環境を知り、乳幼児期の健康の重要性を学ぶ
2	身体諸機能の発達と生活習慣の形成 身体諸機能の発達と生活習慣の形成について、その特徴と意義を学ぶ
3	乳幼児の安全と指導のあり方①（安全教育と安全管理：リスクとハザード） 乳幼児の事故や怪我の要因を理解し、生活と遊びのなかで幼児の安全意識をどのように育むか学ぶ
4	乳幼児の安全と指導のあり方②（安全管理、応急処置、疾病予防） 乳幼児の事故や怪我の特徴を理解し、安全管理、応急処置、疾病予防の具体的な実施方法を学ぶ
5	幼児期の運動発達の特徴 幼児期の運動発達の特徴を知り、「運動コントロール能力」と「多様な動き」について学ぶ
6	幼児期の発達の特徴に応じた運動指導のあり方について①（生活と運動） 園や家庭における幼児の日常生活での動きの経験について理解し、指導のあり方を学ぶ
7	幼児期の発達の特徴に応じた運動指導のあり方について②（遊びと運動） 動機づけやアフォーダンスについて理解し、多様な動きを経験する意義と指導のあり方を学ぶ

授業外における学習

配布資料の読み込み、活動記録の作成、グループでの制作や発表準備等

質問や相談への対応

授業時に受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末課題	30	期末レポート
その他の評価	70	授業への取り組み・貢献度40%,発表・レポート30%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省） その他、適宜資料を配布する。			
	『幼児期における運動発達と運動遊びの指導 遊びのなかで子どもは育つ』杉原隆、河邊貴子編著（ミネルヴァ書房） その他適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

理解を深められるよう、実技、グループワーク、発表に能動的に参加し、体験を振り返って言語化することを大切にしてください。

その他・特記事項

実技の際は、動きやすい服装で参加してください。具体的な指示については、授業内にお知らせします。

こどもと人間関係

更新日：2023/01/10 08:58:48

開講年度	2022	学期	4期	シバースト	C1280A	科目コード	C1280
担当教員	中山 智哉						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

関係論的発達論 人間関係の育ち

授業の概要

乳幼児期の人間関係の育ちに影響を与えている現代的課題を理解するとともに、保育で保障すべき保育内容に関する知識を身につける。領域「保育内容（人間関係）」の基盤となる基礎的な学びとして、関係論的発達論を理解し、人との関係性を通じて成長する子どもの姿と理論を関連させる。

到達目標

1	・乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
2	・乳幼児の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解する。
3	・自立心、協働性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて説明できる。
4	・家族や地域との関わりと育ちについて、子どもの育ちとあわせて説明できる。

教授方法

講義と演習により実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	現代社会と乳幼児を取り巻く人間関係
2	子どもの発達と人間関係① 乳児期における母子関係、愛着関係について
3	子どもの発達と人間関係② 幼児前期の人間関係の発達について
4	子どもの発達と人間関係③ 幼児後期の人間関係の発達について
5	乳幼児期の自立心、協働性の育ちと保育者のかかわり
6	乳幼児期の道徳性、規範意識の育ちと保育者のかかわり
7	家族や地域との関わりの子どもの人間関係の育ち

授業外における学習

- ①毎回指定された課題・問題に取り組む。
②テキストや配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

質問等がある場合は、授業内もしくはメールで受け付ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	点数による評価	
グループワーク	30	グループワークでの取り組み態度・姿勢	
発表	30	全体討議への参加度と発表内容	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しない。			

	授業内で指示する。			
--	-----------	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グループワークなどの演習が多い授業なので、積極的な姿勢で参加することを望む。

その他・特記事項

なし。

教育原理

更新日：2023/01/10 08:58:43

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	C1290A	科目コード	C1290
担当教員	荒井 聡史						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

こども観・家族観の変化、近代教育制度、教育思想

授業の概要

概念史や図像の分析、教育思想の内容に関するグループ学習等を通じて①教育の基本概念、こども観・家族観の変化、およびその背景となる社会の変化について学ぶ②教育思想がそれらの変化にどう向き合い何を変えてきたのかを学ぶ。

到達目標

1	①教育の基本概念、こども観・家族観の変化、およびその背景となる社会の変化について学ぶ
2	②教育思想がそれらの変化にどう向き合い何を変えてきたのかを学ぶ。
3	①・②の学びを通して、教育という現象／行為が持つ意味と重要性が理解できるようになる。

教授方法

講義、グループによる研究およびプレゼンテーションを通じて行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

健康発達学部こども学科専門科目であり、幼稚園教諭免許および保育士資格取得のための必修科目として履修可能。

授業計画

1	教育の基本概念 「教育」という概念の変化
2	教育の歴史（1） 近代教育制度の成立とその社会背景
3	教育の歴史（2） こども・家族観の変化
4	教育の思想（1） 近代以前の教育思想
5	教育の思想（2） 近代教育思想の先駆 コメニウスの教授学とルソーの消極的教育
6	教育の思想（3） 近代教育思想の基礎 ペスタロッチの家庭教育観とヘルバルトの段階教授法
7	教育の思想（4） 近代教育思想を越えて デューイの問題解決学習と現在のアクティブラーニング

授業外における学習

①事前に配布される資料をもとにした予習。②授業後のリアクションペーパー作成による振り返り。③授業内で提示される課題への取り組み。

質問や相談への対応

授業内外で応じる。メール、チャットでの質問・相談も可。

成績評価

共通の評価基準	①授業内容をきちんと理解できているか、②授業内容について主体的に考えることができているか		
評価項目	割合	評価基準	
小レポート	14	授業内容について主体的に考えることができているか。	
期末テスト	86	授業内容をきちんと理解できているか。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	木山徹哉／太田光洋編著『教育原論』ミネルヴァ書房、2016年。			
	授業内で随時紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

一定の社会的地位を保障する幼稚園教諭免許、保育士資格取得に必修の授業であることを意識し、真剣で主体的な取り組みを望む。

その他・特記事項

Microsoft Teamsを通じて資料の配布・課題の提示を行う。

保育内容（言葉）

更新日：2023/01/10 08:57:52

開講年度	2022	学期	4期	シバースト	C2030A	科目コード	C2030
担当教員	渡邊 望						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

5領域、言葉、児童文化財、絵本

授業の概要

保育内容（言葉）では、他の領域との関連性をふまえながら、生きる力の基礎としての言葉の役割について理解するとともに、養育者（母親・家族・保育者）や、仲間との豊かなことばの環境の中で言葉を獲得していくことを学ぶ。また、それらをもとに言葉の豊かな育ちにかかわる保育内容と指導法について、絵本や紙芝居などの、実際の児童文化財などに触れながら理解を深め、言葉に対する感覚を養うための実践力を育む。

到達目標

1	1. ことばの機能や言葉の持つ意味について理解する。
2	2. ことばの発達過程について理解するとともに、それを支える保育者の在り方を身に付ける。
3	3. 領域「言葉」の内容及び他領域との関わりを理解する。
4	4. 児童文化財に積極的に触れ教材研究を行うとともに、活用する力を身につける。

教授方法

講義で行う部分と、受講者が実際に読んだり、演じたり、発表したりする部分を設け、実際の保育現場での展開方法についても検討していきます。積極的に参加するように心がけてください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「保育原理」や「発達心理学」で学んだこと、保育の基本的な考え方や育ちの道筋について、理解していることを前提に授業を進めます。

授業計画

1	オリエンテーション 授業のねらいと内容、進め方について
2	領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱い、領域保育内容言葉における、ことばの機能、ことばが持つ意味の理解
3	領域保育内容言葉の変容と他の領域との関係
4	保育内容言葉と子どもの育ちの関係
5	絵本の機能と読み聞かせの方法について
6	紙芝居の歴史と演じ方の理解と実演
7	ことばを育てる活動とその具体的な指導法の理解
8	ことばの発達の特徴とその援助方法についての計画と評価のあり方
9	ペープサートの作り方および、演じる際の注意点と実演
10	ことばを豊かにするごっこ遊びについての展開と方法
11	教材研究（情報機器の活用を含む） こどものことばを育てる遊びと指導①
12	指導案作成 こどものことばを育てる遊びと指導②
13	模擬保育と討議 こどものことばを育てる遊びと指導③
14	授業総括

授業外における学習

- ① 毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。
- ② 絵本などの児童文化財は「知っている」だけでなく、子ども達の前で「できる」ことが大切です。授業で紹介された内容を参考に各自で取り組んでください。

質問や相談への対応

- ・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。
- ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
確認テスト (筆記試験)	40	ことばの発達と保育者のかかわりについて筆記試験を行う。授業内容を理解しているかで評価します。
レポート	20	「私が推奨する絵本とその特徴」絵本の紹介レポートを作成する。
レポート	20	「ことばを豊かにする遊びの展開」子どもの姿をイメージしながら「遊び」を計画する。
課題発表	20	「ICTを活用した保育教材の制作」グループで制作・発表を行う。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『保育内容（言葉）』（同文書院）			
	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

意見交換や質疑応答を通して、全体で学び合えるクラスにしたいと思っていますので、積極的に質問や発言をして参加してください。

その他・特記事項

毎回テキストを持参してください。

地域子育て支援論

更新日：2023/01/10 08:57:53

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	C2040A	科目コード	C2040
担当教員	金山 美和子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

家庭 子ども 子育て 支援 地域

授業の概要

家庭支援が必要となった背景、機能や変遷、現状について学び、今日の家庭支援に求められるあり方を考える。家庭の意義とその機能をふまえ、子育て家庭を取り巻く社会的状況について子どもや親の育ちという観点から家庭支援の現代的課題について理解する。主として保育者による家庭支援の具体的事例を取りあげ子育て家庭の支援体制について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開や関連機関との連携などのアプローチを学び、保育者という立場からの具体的な支援について考える。

担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえ授業を実施し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。

英語表記「The Theory of Community-Based Child-Rearing Support」

到達目標

1	①家庭の意義、その機能と変遷について理解する。
2	②子育て家庭の支援体制について理解する。
3	③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関の連携について理解する。

教授方法

講義科目であるが、ディスカッションや体験ワーク等を取り入れて授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

保育士資格取得に関する科目である。

授業計画

1	子ども家庭支援とはなにか
2	家庭生活の現在
3	求められる保育、子ども家庭支援の内容（保育、支援ニーズ）
4	保育者の専門性を活かした子ども家庭支援のあり方とその意義
5	保育者に求められる基本的役割と姿勢
6	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
7	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
8	子ども家庭支援の内容と対象
9	子育て初期（周産期～1歳）の子ども家庭支援
10	保育所・こども園・幼稚園を利用する子どもの家庭への支援
11	地域の子育て家庭への支援 子ども家庭支援センターほか
12	要保護児童等とその家庭に対する支援
13	子ども家庭支援者を支える関係としくみ
14	保育の場における子ども家庭支援の現状と課題

授業外における学習

- ①事前学習としてテキストを熟読する。
- ②毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ③授業で学んだことをもとに地域子育て支援の実践を体験し理論と実践から理解を深める。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	試験期間に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価する。
授業レポート	20	地域子育て支援論を概観する課題について評価する
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テキスト 太田光洋編（2022）「子ども家庭支援論」同文書院			
	「家庭支援の理論と方法」渡辺顕一郎・金山美和子著（金子書房）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。

その他・特記事項

担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。

保育内容（健康）

更新日：2023/01/10 08:57:58

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C2050A	科目コード	C2050
担当教員	白澤 舞						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育内容 健康 指導法 教材の制作と活用

授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」についてのねらいと内容を理解するとともに、実際の保育場面における保育者の役割について学ぶ。乳幼児期の心と身体の発達の特徴をふまえ、子どもの心身の健やかな成長のために、適切な指導方法のあり方を学ぶ。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案および模擬保育を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいのかについて具体的な実践の方法を学ぶ。

到達目標

1	1) 乳幼児期における健康の概念について説明することができる。
2	2) 領域「健康」のねらいと内容を理解し、説明することができる。
3	3) 領域「健康」のねらいに沿った援助について説明することができる。
4	4) 領域「健康」の内容を具体的な保育活動に結びつけて教材を制作し、それを活用することができる。

教授方法

演習形式の授業である。内容理解のため、ディスカッション、教材研究、模擬保育を含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	健康の捉え方を考える（わたしたちの健康と子どもにとっての健康）
2	保育の基本的な考え方と領域「健康」①（領域「健康」のねらいと内容）
3	保育の基本的な考え方と領域「健康」②（領域「健康」の内容の取扱い）
4	心と身体の健やかな育ちにおける保育者の役割
5	子どもの身体機能の発達と運動能力
6	子どもの生活リズムと生活習慣
7	子どもの安全と保健指導のあり方
8	健康の領域に関わる保育事例①（遊びにおける身体活動）
9	健康の領域に関わる保育事例②（基本的生活習慣の獲得）
10	子どもの健康における今日的課題
11	教材研究（年齢に応じたねらいを考え、教材研究を行う）
12	指導計画作成（導入・展開・まとめの流れ、環境と配慮を明確にし立案する）
13	模擬保育と討議（模擬保育を実施し、討議を行う）
14	領域「健康」のまとめと総括

授業外における学習

配布資料の読み込み、教材研究・指導計画の立案・模擬保育の準備などを行うこと。

質問や相談への対応

授業時に受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末課題	40	筆記テスト20%、レポート課題20%

その他の評価	60	指導計画・実施・評価記録40%、授業内の活動への取り組み20%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省） この他、必要に応じて資料を配布する。			
	授業の中で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業時のディスカッションや模擬保育等に積極的に参加できるように、予習と復習を行うこと。

その他・特記事項

特になし

器楽基礎

更新日：2023/01/10 08:57:59

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバースコード	C2060A	科目コード	C2060
担当教員	安氏 洋子, 大南 匠						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ピアノ、演奏、弾き歌い、読譜、習熟度別

授業の概要

ソルフェージュ課題により、リズム感、音程感を身につけ、読譜力を向上させる。

授業形態は習熟度に合わせた8グループによるグループレッスンとする。

ピアノに関してはバイエルを中心とした課題、弾き歌いに関しては共通テキストにある楽曲を課題とする。

到達目標

1	保育現場における音楽活動に必要なピアノ演奏の基礎的知識と技術を修得し、弾き歌いのレパートリーを広げることを目標とする。
2	また、他の履修者のレッスンに立ち会うことで演奏表現の幅の広さを理解するとともに、自分の演奏を客観的に捉える視点を持てるようにする。

教授方法

習熟度別にグループ分けを行い、個人レッスン

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

選択

授業計画

1	オリエンテーション及びピアノ曲を課題としたレッスン1 ※以下全て習熟度に応じたグループレッスン
2	ピアノ曲を課題としたレッスン2
3	ピアノ曲を課題としたレッスン3
4	ピアノ曲を課題としたレッスン4
5	ピアノ曲を課題としたレッスン5
6	ピアノ曲を課題としたレッスン6
7	ピアノ曲を課題としたレッスン7
8	ピアノ曲を課題としたレッスン8
9	ピアノ曲を課題としたレッスン9
10	ピアノ曲を課題としたレッスン10
11	ピアノ曲を課題としたレッスン11
12	ピアノ曲を課題としたレッスン12
13	ピアノ曲を課題としたレッスン13
14	ピアノ曲を課題としたレッスン14

授業外における学習

課題曲の事前練習

質問や相談への対応

各教員がメールでの相談対応、また音楽室や研究室にてピアノを用い、実技への相談に対応する。

成績評価

共通の評価基準	履修者の演奏を担当教員が採点し、学期末の2回のテストを平均化したものが試験評価となる。	
評価項目	割合	評価基準
実技テスト	80%	履修者の演奏を担当教員が採点し、学期末の2回のテストを平均化したものが試験評価となる。
その他	20%	授業意欲や練習量を担当教員が評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ピアノ課題：バイエル等各自のレベルに応じたテキストを使用する。 弾き歌い課題：小林美実編著「こどものうた200」チャイルド社			
	弾きたい曲があれば各自楽譜を準備すること。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ピアノ実技習得は日々の練習が大切であるため、レッスン前日だけでなく毎日練習に取り組んでほしい。

その他・特記事項

特になし

保育の指導法

更新日：2023/01/10 08:57:59

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	C2070A	科目コード	C2070
担当教員	金山 美和子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

環境を通しての教育 遊びを通しての総合的な指導 保育記録 指導計画

授業の概要

授業の概要

幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての総合的な指導」の方法的特質について理解する。幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしいかわり方を身につけていくことをふまえ、5領域のねらい及び内容の関連と総合的な指導のあり方について実践的に学ぶ。実践事例の記録、保育指導案などから指導法の実際や指導のあり方について考えるとともに、基本的な指導計画を作成する力を身につける。

担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえ授業を実施する。

英語表記「Teaching Methods in Early Childhood Education」

到達目標

1	①幼稚園教育要領の各領域におけるねらい及び内容の関連と遊びによる総合的指導について理解する。
2	②乳幼児期の発達過程をふまえた保育内容の指導法を理解する。
3	③幼稚園教育の指導計画の作成を理解する。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

幼稚園教諭

授業計画

1	幼稚園教育、保育の基本
2	幼稚園教育要領における「環境を通しての教育」
3	幼稚園教育要領における「遊びを通しての総合的な指導」
4	幼稚園教育の基礎となる子ども理解
5	幼児期のふさわしい生活の展開と援助
6	環境を通しての教育①環境を通しての学び
7	環境を通しての教育②自発的な遊びと環境
8	環境を通しての教育③環境構成の実際
9	遊びを通しての指導①乳幼児の発達過程と遊び
10	遊びを通しての指導②乳幼児の遊びと仲間関係
11	遊びを通しての指導③乳幼児の遊びに対する援助
12	保育計画の実際（教育課程・長期計画・短期計画）
13	幼稚園教育における家庭・地域との連携のあり方
14	保育実践を高める省察・カンファレンス

授業外における学習

- ①事前学習としてテキストを熟読する。
- ②毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ③授業で学んだことをもとに幼稚園、認定こども園等の保育実践を体験し理論と実践から理解を深める。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	試験期間に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価する。
授業レポート	30	保育の指導法を概観する課題について評価する。
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テキスト 太田光洋編（2016）「子どもが育つ環境と保育の指導法」保育出版会『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』			
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。

その他・特記事項

担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。

保育内容（環境）

更新日：2023/01/10 08:58:00

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	C2080A	科目コード	C2080
担当教員	前田 泰弘						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

かかわる力、科学的思考、直接体験、自然

授業の概要

子どもは身近な環境とのかかわりを通じて、生活の知識や技術などを身に付けていく。本講では、子どもが環境(自然・もの・人・できごと)とのかかわりを通じて周囲への興味・関心を広げていく過程を、実際と理論の側面から学習するとともに、保育者がそれに対して行い得る援助について考える。特に、子どもが「感じる力」「考える力」「判断する力」「実行する力」を自発的に発揮できることをねらいとして、保育者自身がどのような環境構成をできるかについて考える。また、季節や子どもの発達に応じた指導計画を立てられることをねらいとする。

担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、子どもの環境へのアプローチについて実践的な理解が促されるようにしている。

到達目標

1	子どもが日常生活でかかわる環境と、そこから身に付ける知識や技能等について理解を深める。このことにより、子どもの育ちに合わせた環境とのかかわりを、保育の中で計画し実践できるようになることをねらいとする。
---	--

教授方法

パワーポイントを用いた講義の他、体験活動や演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「発達と教育の心理学」の学習内容を十分に理解しておくこと。

授業計画

1	保育における「環境」とは -保育内容（環境）のねらいと内容の理解-
2	子どもの育ちと環境 -子どもの育ちの流れと環境とのかかわりの拡大過程-
3	遊びの発達と環境 -遊びを通じた環境とのかかわりとその発達-
4	環境としての自然 -自然環境と子どもの育ち-
5	子どもの自発性と保育環境 -子どもの自発性を高める保育環境とその整備-
6	観察しかかわる力をはぐくむ -自然に親しむ、植物や生き物に触れる-
7	季節による自然や生活の変化（1）春の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材
8	季節による自然や生活の変化（2）夏の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材
9	季節による自然や生活の変化（3）秋の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材
10	季節による自然や生活の変化（4）冬の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材
11	数量や図形、文字への関心をはぐくむ -日常生活の中での数量・図形・文字-
12	事物の性質や仕組みへの関心をはぐくむ -さまざまな物や道具にかかわって遊ぶ-
13	保育内容「環境」に関連する指導計画の考え方と指導案の作成
14	保育内容「環境」に関連する模擬保育の実施

授業外における学習

子どもが自発的なかかわりを示す環境（もの・こと）や季節・行事等について、日頃から関心をもって欲しい。

質問や相談への対応

授業の前後を中心に、適宜受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	80	授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。

課題	20	講義時に課す課題に対して評価を行う。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省）、『子どもが育つ環境と保育の指導法』（保育出版会）			
	授業時に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

身近な環境に興味をもって生活をして欲しい。

その他・特記事項

必要に応じてMicrosoft Teams（オンデマンド教材）を使用する。

幼児理解の理論と方法

更新日：2023/01/10 08:58:01

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	C2090A	科目コード	C2090
担当教員	前田 泰弘						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

発達評価、家族理解、機関連携

授業の概要

就学前の子どもとその保護者、家庭を理解するための理論と方法を学ぶ。具体的には、子どもの発達を客観的に評価する方法や、日常において生起する臨床的問題の実際を、臨床発達心理学の観点から理解できるようにする。また、多様な保護者やさまざまな困難を抱える子どもの実際や援助の仕方の原則を理解し、保育現場の内外の資源と連携をしながら援助を行っていくための知識と技能を習得する。これを基に、子どもやその保護者をめぐる多様な問題に対して、客観的な根拠に基づいて多面的かつ柔軟に援助ができるようになることをねらいとする。

担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。

到達目標

1	保育現場では、さまざまな発達課題や生活の課題を有する子どもや保護者がいる。それらの人々を対人援助者として客観的な根拠を元に理解し、効果的な技術をもって援助を行うための知識と技能を身に付けることをねらいとする。
---	--

教授方法

知識や技術の教授と共に、実際の子どもや保護者・家庭への援助を想定したワークを行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

発達と教育の心理学、児童家庭福祉を既習のこと。

授業計画

1	幼児理解の理論
2	幼児教育における幼児理解 -幼稚園教諭としての幼児理解のあり方-
3	幼児理解の方法① -発達評価の理論と実際-
4	幼児理解の方法② -生育環境の評価の理論と実際-
5	幼児理解と評価 -幼児の評価の考え方と指導記録の記入-
6	特別な支援が必要な幼児と保護者の理解
7	幼児理解と保育計画

授業外における学習

児童家庭福祉や発達と教育の心理学で学んだ内容を復習（確認）しておくこと。

質問や相談への対応

授業の前後を中心に適宜受け付ける（メール等も可）。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題	20	講義時に提示する課題に取り組むことで、習得状況を評価する。
試験	80	期末に行う。授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	『実践にいかす障害児保育・特別支援教育』前田泰弘編著, 萌文書林, 2019			
	「保育・教育相談支援」太田光洋編著, 建帛社, 2016			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

子どもや保護者・家族を取り巻く問題や施策等について、日々関心をもって生活して欲しい。

その他・特記事項

担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。必要に応じてMicrosoft Teams（オンデマンド教材）を使用する。

保育内容（表現）

更新日：2023/01/10 08:58:03

開講年度	2022	学期	3期	シバースト	C2100A	科目コード	C2100
担当教員	安氏 洋子, 宮城 正作, 白澤 舞						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

音楽表現、造形表現、身体表現、感性、創造性

授業の概要

音楽表現、造形表現、身体表現について、指導や援助方法をオムニバス形式で学ぶ。乳幼児の発達を理解し、身近にあるものやことに興味を持てるような環境設定及び指導法について学ぶ。音楽表現では「聴く力」を育む実践を行い、音を創造する活動を通して、やわらかな感性を育むことを目指す。造形表現では動かすことのできる造形物の制作を通して、造形表現における「動き」について理解を深める。身体表現では、自己のからだところや他者（人・モノ）とのかかわりについて体験を通して理解を深める。また、指導計画の立案、模擬保育とその振り返りを行い、全体を通して保育内容表現についての総合的理解を深め、乳幼児の生活と遊びにおける表現について学ぶ。

到達目標

1	日常生活の中にある事柄に留意し、心を動かす豊かな感性を育み、感じたことや考えたことを様々な方法で表現することを学ぶ。
2	また乳幼児の些細な表現に気付き、豊かな表現活動を引き出せるような指導や援助方法について、指導計画の立案、模擬保育と振り返りを行い、音楽、造形、身体表現を通して総合的に修得することを目標とする。

教授方法

担当形態：オムニバス・複数

学生同士がグループディスカッションを行い、個々の意見を取り入れたグループワークを展開できるようにする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

教員の免許取得のための必修科目

授業計画

1	領域「表現」とはなにか。（安氏・白澤・宮城） 「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについて学ぶ。
2	【造形表現】「なんでも、どこでも、アニミズム！」 ・ICT機器を用いた表現とその注意点について学ぶ。
3	「動くペープサートを作ろう！A」（宮城） ・「基本のペープサート」を制作し、動く仕組みを理解する。
4	「動くペープサートを作ろう！B」（宮城） ・「基本のペープサート」の仕組みを応用し、「オリジナルのペープサート」を制作する。
5	「動くペープサートを作ろう！C」（宮城） ・前回に引き続き、「オリジナルのペープサート」を制作し、完成させる。
6	【音楽表現】（安氏）サウンド・エデュケーション ・領域「表現」と音楽的な発達について。「聴く力」を育む。図形楽譜・イメージサウンド。音をかたちで表現する。音を創造する。
7	絵本と音楽1（安氏） 絵本の中の音を創造する。オリジナル曲の創作。指導案について説明。
8	絵本と音楽2（安氏） 楽器の種類と取扱方法、奏法について。オリジナル曲の創作。図形楽譜、スコア譜の作成方法。指導案を考え作成する。
9	絵本と音楽3（安氏） 創作曲の発表とふりかえり。指導案に基づいた模擬保育の実施。指導案の提出。
10	【身体表現】（白澤）からだ探求：からだところ ・自己のからだところのかかわりを感じる。・他者とのコミュニケーションにおけるからだところのかかわりを感じる。
11	五感を使った体験と表現①：からだと他者（白澤） ・「人」や「モノ」—いろいろな素材（身近な物・場・音・リズム）—をからだで感じる。
12	五感を使った体験と表現②：教材開発と指導案の作成（白澤） ・①の体験を生かした手遊び・からだ遊びの制作と指導案の作成を行う。
13	五感を使った体験と表現③：模擬保育と考察（白澤） ・模擬保育を通して子どもの表現に気づき、豊かな表現を引き出す保育について考える。
14	まとめ・ふりかえり（安氏・宮城・白澤） 子どもの生活と遊びにおける表現と保育者の役割

授業外における学習

各教員より事前に学生に課題を伝え、課題について考えたり、事前準備を行う。

質問や相談への対応

各教員がメールや研究室等で質問や相談へ対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
小テスト 課題提出	80%	各オムニバスの最後の授業内で、各担当者による試験を行う。	
その他	20%	授業意欲などを担当教員が評価する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『子どもが育つ環境と保育の指導法』太田光洋編著（保育出版会） 『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之・鈴木恵津子編著（教育芸術社） 『保育内容「表現」-からだで感じる・表す・伝える-』池田裕恵・猪崎弥生編著（杏林書院） 『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日々の気付きや日常生活の些細な出来事に注目しながら、さまざまな経験を積み重ね、感性を研ぎ澄ませてほしい。

その他・特記事項

特になし

ドラマ表現演習

更新日：2023/01/10 08:58:04

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	C2110A	科目コード	C2110
担当教員	山本 直樹						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

自己表現、演劇、身体、言葉

授業の概要

他者と共に自己表現を楽しむドラマの体感を基礎として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な資質・能力である、自分を表現する力、自分なりに工夫して行動する力、感じる力、想像・創造する力の研ぎ澄ましをテーマとした活動や、子どもを対象とする語りと最小限の演技で構成されるリーダースシアターに取り組み、単なる専門的・芸術的表現とは異なる保育者の“豊かな表現”を意識しながら、子どもの表現を見る目を養っていく。

到達目標

1	自分の経験をもとに、感じたことや考えたことを、自分のやり方で、楽しく、全身で表現するドラマの基本を理解する。そして、個人やグループで創意工夫をしながら自己表現をすることを楽しみ、自分が子どもの頃に遊んだ時の感覚である「遊び心」を再経験をすることを目標とする。
---	---

教授方法

演習を基本とするが、講義も行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	本講義のガイダンス ルール（まじめに遊ぶ、アイコンタクト、人の話を聴く、チャレンジ精神）、グループ身体表現体験
2	ドラマへのウォームアップ（自己表現）①コミュニケーションをテーマに
3	ドラマへのウォームアップ（自己表現）②集中・感覚をテーマに
4	ドラマへのウォームアップ（自己表現）③身体・言葉をテーマに
5	ドラマであそぶ①物の見立てから
6	ドラマであそぶ②身体の見立てから
7	ドラマであそぶ③言葉のイメージから
8	ドラマをつくる①日常生活を題材に
9	ドラマをつくる②詩やショートストーリーを題材に
10	ドラマをつくる③絵本を題材に
11	ドラマをえんじる①リーダースシアターの体験
12	ドラマをえんじる②リーダースシアターの練習
13	ドラマをえんじる③リーダースシアターの授業内発表
14	本講義のまとめと確認

授業外における学習

毎回の授業終了時に示す事後課題（経験した授業内容と日常生活や自分自身とのつながり）と、予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組み、次回の授業時にレポートとして提出する。

質問や相談への対応

授業後に対応する

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
1	20	5点満点の小テストを計4回実施し、体験したことの意味を自分なりに考えたかを評価する。

2	50	授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。
3	30	授業への参加態度や、グループ活動における参加態度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	『ドラマによる表現教育』ブライアン・ウェイ著／岡田陽訳（玉川大学出版部） 『表現あそび』太宰久夫著（全国児童館連合会／今人舎） 『遊びからはじまる学び今、幼児の表現活動を問い直す』花輪充著（大学図書出版）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

演習形式も交えるので、動きやすい服装を望む

その他・特記事項

なし

身体表現演習

更新日：2023/01/10 08:58:06

開講年度	2022	学期	2期	シバースト	C2120A	科目コード	C2120
担当教員	白澤 舞						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

子どもの表現 身体表現 保育者の役割 教材の制作と活用

授業の概要

領域「表現」におけるねらいと内容をふまえ、子どもの表現の捉え方について理解するとともに、子どもの豊かな表現をとらえ、育むための保育者の役割と指導方法を学ぶ。そのために、自己の感覚を十分に働かせて多様で自由な表現を体験し、自己の身体と心の関わりや身体による他者（人・モノ）との関わりについて理解する。また、事例検討や教材研究と制作および発表を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいのかについて具体的な実践の方法を学ぶ。

到達目標

1	1) 子どもの表現の捉え方を理解し、説明することができる。
2	2) 子どもの表現の実態を理解し、それを受け止め、支え育む援助とは何かを思考することができる。
3	3) 子どもの表現を豊かにする教材を制作し、それを活用することができる。

教授方法

演習形式の授業である。内容理解のため、実技、グループワーク、発表を含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	からだを感じる、からだで感じる①（自己と他者の身体と心の状態と、その関わりを感じ取る）
2	からだを感じる、からだで感じる②（受信と発信、受け止めることと受け取られること、その関わりを感じ取る）
3	子どもの生活と表現（子どもの表現を見取る）
4	自然の中での体験と表現
5	多様な動きで遊ぶ①～からだと言・リズム・言葉～
6	多様な動きで遊ぶ②～からだと身近なもの～
7	多様な動きで遊ぶ③～からだと言・空間・時間・力～
8	身体表現の技術①～動きのきっかけ・発見～
9	身体表現の技術②～動きの応用・発展～
10	表現活動教材の作成①
11	表現活動教材の作成②
12	表現活動教材の作成③
13	発表と討議
14	身体表現のまとめと総括

授業外における学習

配布資料の読み込み、活動記録の作成、グループでの制作や発表準備など

質問や相談への対応

授業時に受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	30	レポート課題
その他	70	授業への取り組み（参加態度・意欲、活動記録）、グループ課題（制作、発表）

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『保育内容「表現」－からだ で感じる・表す・伝える－』 池田裕恵・猪崎弥生編著（杏 林書院）その他、適宜資料を 配付する。			
	『乳幼児のダンスABC』猪崎 弥生・山田悠莉（一二三書 房）その他、授業の中で紹介 する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

からだの状態や感覚に意識を向け、実際に動くことを通して表現について考えます。先入観にとらわれず子どものようにおもいきり感じたまま動いてみたり、体験を振り返って言葉にすることで表現への理解を深めてください。

その他・特記事項

からだの感覚を意識しやすい、動きやすい服装で参加してください。アリーナでは、裸足で動くこともあります。

保育内容総論

更新日：2023/01/10 08:58:07

開講年度	2022	学期	3期	シバースト	C2130A	科目コード	C2130
担当教員	太田 光洋						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育内容、遊び、保育計画、保育実践

授業の概要

保育内容と総合的指導の意義について理解したうえで、幼児期の特性と領域の観点から子どもを総合的に捉える視点を養い、子どもの発達の実態や個性に適した保育内容の継続的で具体的な展開を行うために必要な知識や技能を身につける

担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。

到達目標

1	保育内容の歴史の変遷と意義及び保育の全体構造における内容と方法について学び、園生活全体を通して総合的に指導・援助を行うという考え方や指導に必要な実践的能力を習得する。特に幼児期の特性とプロセスをふまえ、遊びを通しての指導を中心とする保育計画立案、評価能力を身につける
---	---

教授方法

講義及び演習。内容理解、実践理解のために、グループワーク、発表を含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	授業概要とオリエンテーション	保育内容総論を学ぶ目的と内容、進め方	保育内容の総合的理解	園生活の一日
2	保育の基本と保育内容	保育内容とはなにか（保育の基本、ねらいと保育内容、方法）	保育内容の構造	子どもの生活構造の特徴と保育内容遊びを通しての総合的な指導、環境を通しての指導法子どもの活動と援助
3	遊び体験（伝承あそび、木工など）			
4	保育内容の計画と評価	保育計画の必要性と計画の実際（教育課程と指導計画保育内容の実践、長期的活動、行事の事例を含む）、とも育て		
5	保育内容の実践①	「保育内容としての遊び」の構想と準備（環境づくり・教材準備、情報機器、教材の具体的活用を含む）		
6	保育内容の実践②	「保育内容としての遊び」の構想と準備（環境づくり・教材準備、情報機器、教材の具体的活用を含む）		
7	保育内容の実践③	模擬保育に向けた指導計画の作成（子ども理解、目標、保育者の役割、評価）		
8	保育内容の実践④	模擬保育に向けた指導計画の作成（子ども理解、目標、保育者の役割、評価）		
9	保育内容の実践⑤	模擬保育の実践と振り返り		
10	保育内容の実践⑥	模擬保育の実践と振り返り		
11	保育内容の実践⑦	模擬保育の実践と振り返り		
12	保育内容の実践⑧	模擬保育の実践と振り返り		
13	保育内容の歴史	保育内容の変遷とその理念		
14	保育内容の歴史	保育内容の変遷とその理念		

授業外における学習

テキストの通読。教材の作成や整理をしておくこと

質問や相談への対応

授業の前後に行う

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	100	指導計画と教材準備、保育内容の歴史
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『保育内容総論』太田光洋編 (同文書院) 『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』(以上、文部科学省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』(以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
	『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』(以上、厚生労働省)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

能動的に学びましょう

その他・特記事項

担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所、行政等での研修講師を務めるなどの実務経験を有しており、その経験を教授内容に反映する。

保育臨床相談

更新日：2023/01/10 08:58:08

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	C2150A	科目コード	C2150
担当教員	中山 智哉						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ソーシャルワーク バイステック7原則 保育相談内容

授業の概要

近年、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化し、児童虐待や育児ストレスの増加など、子ども家庭をめぐる問題が多く指摘されている。この状況に対応するため、現在、保育者には、子ども家庭を支援するための相談支援の専門性が求められている。本講義では、現代の家庭が抱える様々な課題について事例を通して学び、その上で保育者として家庭を支援するために必要な相談支援力を身につけることを目的とする。また、相談支援技能の基礎としてカウンセリングやソーシャルワークの理論と技法の習得を目指す。

保育現場における相談支援の概要を理解するとともに、実践的な相談支援技術を獲得する。

到達目標

1	①相談支援の基礎的な原理と原則を理解できる。
2	②実践に必要な相談支援技術を理解できる。
3	③現在の子育て家庭がおかれている現状と課題を理解できる。

教授方法

講義および事例検討などの演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	現代社会の子育ちと子育て 保育相談が必要とされる背景
2	相談支援の場と環境システム
3	保育における相談支援の特徴 保育者の専門性を生かした相談支援のあり方
4	相談支援の基礎と原則（カウンセリングとソーシャルワーク）
5	相談支援の方法と技術（カウンセリングとソーシャルワーク）
6	相談支援の展開と記録の取り方
7	授業総括、試験

授業外における学習

- ①毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ②配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験の点数	
授業レポート	30	演習に関するレポートから評価する。	
出席	10	出席状況により判断する	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	なし			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本講義の理解を深めるには、講義で習得した相談支援技術を日常生活の中でも実践することが大切である。

その他・特記事項

なし

発達支援論 旧・

更新日：2023/01/10 08:58:16

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C2160A	科目コード	C2160
担当教員	前田 泰弘						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

特別支援教育・障害・発達が気になる子・発達臨床

授業の概要

保育所や幼稚園に在籍する障害のある子や、集団生活に困難を示すいわゆる発達が気になる子について、その行動・発達の理解と豊かな生活を送るための保育・教育的配慮のあり方について解説を行う。また、家庭の養護を十分に受けることができないために、日常生活に困難を示す子どもについても、本講の対象とする。講義では、子どもの定型発達と学習のプロセスを概観した上で、心身に障害のある児の特徴と育ちについて解説し、これを基に、障害の様態に応じた保育と援助の実際を事例を通して理解する。また、十分な家庭的養護が受けられない子どもの成長や発達の特徴についても事例を通して理解する。これらをもとに、発達に配慮が必要な子どもに対する保護者の支援や社会資源を用いた包括的な援助を実践できるようになることをねらいとする。

到達目標

1	子どもの定型発達と学習のプロセスをふまえ、保育・教育実践において特別な発達援助が必要な子どもの発達と学習のあり方について理解する。また、それらの客観的評価の方法や保育・教育方法を学び、これを保育・教育実践に生かせるようになることをねらいとする。
---	--

教授方法

知識・援助技術の教授と共に、実際の援助ケースを想定したワークなどの演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

児童家庭福祉・発達と教育の心理学・幼児理解の理論と方法を既習のこと。

授業計画

1	発達支援とは一障害児および特別な配慮を必要とする子どもの理解
2	気になる発達と評価の方法 -発達の理解と評価の視点-
3	発達の問題と評価の方法 -気になる発達の考え方と評価の方法-
4	乳児・乳幼児期の発達と学習 -知的発達・運動発達・社会性の発達・あそびの発達-
5	発達と学習を支える基盤 -環境の大切さ・愛着関係を中心に-
6	愛着関係の築きにくい子どもと家庭（保護者）の理解 -器質的因子と環境因子の視点から-
7	知的障害児の発達と保育 -知的発達に遅れのある子どもの理解と保育-
8	自閉症スペクトラム障害児の発達と保育 -自閉症スペクトラム障害のある子どもの理解と保育-
9	肢体不自由児の発達と保育 -肢体不自由児の理解と保育-
10	聴覚障害児の発達と保育 -聴覚障害児の理解と保育-
11	重複障害児の発達と保育 -重複障害児の理解と保育-
12	低出生体重児の発達と保育 -低出生体重児の理解と保育-
13	発達支援を要する子どもを支える資源（1） -発達リスクの発見の機会と相談機関の理解-
14	発達支援を要する子どもを支える資源（2） -療育機関や社会的養護施設の理解-

授業外における学習

「幼児理解の理論と方法」や「発達と教育の心理学」で学んだ内容を復習（確認）しておくこと。

質問や相談への対応

授業の前後を中心に、適宜受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題	20	講義時に提示する課題に取り組むことで、習得状況を評価する。

試験	80	期末に行う。授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『実践にいかす障害児保育・特別支援教育』前田泰弘編著, 萌文書林, 2019			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

子どもや保護者・家族を取り巻く問題や施策等について、日々関心をもって生活して欲しい。

その他・特記事項

担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。必要に応じてMicrosoft Teams（オンデマンド教材）を使用する。

保育内容（人間関係）

更新日：2023/01/10 08:58:17

開講年度	2022	学期	1期	シバースコード	C2170A	科目コード	C2170
担当教員	金山 美和子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育内容 人間関係 領域 事例

授業の概要

幼児が周囲の人々に親しみをもち、支え合って生活するために、自立心と人とかかわる力を養うための保育内容と方法について学ぶ。幼児の人への信頼感や人とかかわる力、自己のあり方、社会生活に望ましい習慣や態度が、充実感のある他者との関係のなかで育っていくことに留意し、保育者の役割と援助について理解する。幼児の人間関係は保育の場における遊びや生活を通して豊かに育つことから、演習を通して保育の場での人間関係をめぐる具体的な事例、人間関係を豊かにする遊びや活動について指導計画の立案や模擬保育の検討などを通して実践的に理解する。

担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえて授業を実施する。

英語表記「Activities in Early Childhood Education :Human Relationships」

到達目標

1	・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。
2	・乳幼児期の人間関係を捉える基本的な考え方を理解する。
3	・保育実践における保育内容「人間関係」の指導のあり方を理解する。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

幼稚園教諭

授業計画

1	領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い
2	乳幼児期の人間関係①子どもと養育者の人間関係
3	乳幼児期の人間関係②乳幼児期の人間関係をめぐる今日的課題
4	子どもと保育者の信頼関係
5	自立心と自己有用感
6	子ども同士の人間関係とその援助
7	環境による教育で育てる人間関係
8	遊びにおける仲間関係への援助①指導案作成
9	遊びにおける仲間関係への援助②指導案および模擬保育の検討
10	遊びにおける協同的活動と援助①指導案作成
11	遊びにおける協同的活動と援助②指導案および模擬保育の検討
12	気になる子どもの理解と援助①人とかかわりにおいて子どもが抱える困難
13	気になる子どもの理解と援助②家庭に対する支援
14	人とかかわりを育てる保育者の役割

授業外における学習

- ①事前学習としてテキストを熟読する。
- ②毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ③授業で学んだことをもとに幼稚園、認定こども園等の保育実践を体験し理論と実践から理解を深める。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	40	保育内容（人間関係）の指導法を概観する課題について評価する。
指導案作成	30	人間関係を豊かにする遊びの指導案作成について評価する。
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』			
	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』、『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。

その他・特記事項

担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。

保育課程論 旧・

更新日：2023/01/10 08:58:52

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C2180A	科目コード	C2180
担当教員	渡邊 望						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育内容、指導計画、カリキュラム、省察と評価

授業の概要

カリキュラムの基礎理論を理解し、保育における計画と評価の意義と必要性について、計画・実践・省察・評価・改善の課程の循環の中で質の向上が図られていくことを学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」の基本を理解したうえで、実際の保育課程と保育計画がどのように日常の保育の中に活かされているのか、日々の保育からつながる保育の連続性を感じ、保育課程と保育計画の作成および、作成の留意事項について理解を深める。

到達目標

1	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
2	2. の保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
3	3. 計画、実践、省察・評価、改善の課程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。

教授方法

講義で行う部分と、受講者が実際に考えたり、発表したりする部分を設け、実際の保育現場での展開方法についても検討していきます。積極的に参加するように心がけてください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「子ども主体」や「環境を通して」など保育の基本を理解したうえで受講してください。

授業計画

1	「教育課程」「保育課程」の理解
2	保育内容の変遷と教育課程、保育課程について
3	保育における計画及び評価の意義（役割・機能）と必要性について
4	計画、実践、省察・評価、改善の課程の循環および保育の連続性について（カリキュラム・マネジメント含む）
5	幼稚園教育要領、保育所保育指針における基本的事項
6	教育課程・保育課程と指導計画の関連性
7	教育課程・保育課程の編成
8	長期計画と短期計画の作成と作成上の留意点
9	指導計画と実際の保育の展開
10	日案の様式例と記入方法
11	実際の一日の保育の展開と、保育上の留意点
12	保育記録・省察と、保育計画の関係
13	保育記録の記入方法と留意点
14	まとめ・授業総括

授業外における学習

- ①毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。
- ②指導計画やレポート作成などの時間は授業内で十分確保できないため、授業時間外で計画的に作成してください。

質問や相談への対応

- ・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。
- ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準

協議と発表	40	「季節を感じられる保育活動」についてグループで検討し、発表する。(30) 発表を聞いて評価レポートを作成する。(10)
指導計画と発表	40	「コーナーあそび」についてグループで指導案を作成し発表する。(30) 発表に参加し評価レポートを作成する。(10)
指導案作成	20	「コーナーあそび」について個人で指導案を作成する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『子どもが育つ環境と保育の指導法』太田光洋編著(保育出版会)			
	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』(以上、文部科学省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』(以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省) 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』(以上、厚生労働省)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

意見交換や質疑応答を通して、全体で学び合えるクラスにしたいと思っていますので、積極的に質問や発言をして参加してください。

その他・特記事項

皆さんの豊かな発想に期待しています。

社会的養護内容

更新日：2023/01/10 08:58:17

開講年度	2022	学期	1期	シバースコード	C2190A	科目コード	C2190
担当教員	尾島 豊						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

社会的養護、施設養護、児童虐待、障害児福祉、里親制度

授業の概要

社会的養護の現状について、児童養護施設と乳児院以外の施設養護—児童心理治療施設・児童自立支援施設・母子支援施設等—と児童相談所における里親制度の実際について、それぞれの施設や相談所で働く現場の先生方をゲスト講師に呼んで、社会的養護の理解を広める。2年次「社会的養護」の続編

到達目標

1	社会的養護の現状と現場での実践の理解
---	--------------------

教授方法

講義形式

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

2年次の社会的養護を履修していること。

授業計画

1	講義の説明、社会的養護と社会的養護内容
2	社会的養護における施設養護と家庭養護
3	児童心理治療施設 ①
4	児童自立支援施設 ②
5	乳児院における特定妊婦支援 ③
6	母子生活支援施設 ④
7	児童相談所・乳児院における里親支援 ⑤
8	施設養護と家庭養護—アタッチメントの理論 (DVD) ②
9	社会的養護の歴史①—明治・明治末～昭和初期
10	社会的養護の歴史②—明治期の石井十次 (DVD) ③
11	社会的養護の歴史③—戦後混乱～高度経済成長期
12	社会的養護の歴史④—1970年代後半～1980年代まで
13	社会的養護の歴史⑤—1990年代～現在 児童虐待防止法の成立と展開 (DVD) ④
14	社会的養護の理念—子どもの権利について—

授業外における学習

課題レポート、各ゲスト講師の講義内容の理解と関心を深める

質問や相談への対応

個別にいつでも可

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
出席、授業態度	25	出席状況、授業態度、参加状況
課題レポート①～⑤	75	課題レポート (15×5) の提出、内容、独創性
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	2年次「社会的養護」のテキスト			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

特になし

その他・特記事項

特になし

器楽応用Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:58:18

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバースコード	C2200A	科目コード	C2200
担当教員	安氏 洋子, 大南 匠						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

こどもの歌、ピアノ、弾き歌い、コード譜、アレンジ

授業の概要

保育現場における音楽活動に必要なピアノの演奏、および弾き歌いの演奏技術を修得し、様々な表現活動や遊びに展開できる基礎を学ぶ。ピアノの演奏に関してはバイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバムなど練習曲を中心したレッスン、弾き歌いに関しては簡易伴奏から複雑なアレンジによる伴奏まで、各自のレベルに応じた伴奏によるレッスンを行う。

到達目標

1	器楽基礎で習得した読譜力、演奏技術をさらに高める。又、トライアドコード、7thコードなどのコードを実践を通じて理解し、保育活動に応じたピアノ演奏技術を習得する。
---	--

教授方法

習熟度別8グループによるグループレッスン

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

音楽表現演習、器楽基礎を受講した者

授業計画

1	オリエンテーション
2	弾き歌いレッスン1
3	弾き歌いレッスン2
4	弾き歌いレッスン3
5	弾き歌いレッスン4
6	弾き歌いレッスン5
7	弾き歌いまとめ・試験
8	ピアノ曲を課題としたレッスン1
9	ピアノ曲を課題としたレッスン2
10	ピアノ曲を課題としたレッスン3
11	ピアノ曲を課題としたレッスン4
12	ピアノ曲を課題としたレッスン5
13	ピアノ曲を課題としたレッスン6
14	ピアノ曲による試験

授業外における学習

課題だけでなく、様々な楽曲に挑戦して欲しい。

質問や相談への対応

授業内だけでなく、メールでも対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
弾き歌い曲の実技試験	50	演奏の完成度を総合的に判断する。	
ピアノ曲の実技試験	50	演奏の完成度を総合的に判断する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	弾き歌い課題：チャイルド社 こどものうた200および続こどものうた200 ピアノ課題：各自のレベルに応じた楽曲			
	適宜、提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日々、キーボード、ピアノを弾く時間を設けて欲しい。

その他・特記事項

特になし

小児保健Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:58:19

開講年度	2022	学期	2期	シバースト	C2210A	科目コード	C2210
担当教員	春高 裕美						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育保健 健康 保健活動

授業の概要

こどもの病気・事故・ケガなどに関する知識を学び、予防方法や対処方法の基本的な知識に基づいて、実践に役立つ保健活動を考える。こどもに関わる保護者・保育者、地域に存在する様々な社会資源との連携等について学び、健やかなこどもの成長発達を促進する仕組みを理解する。保育所看護師実務経験を有し保育所で起こりうる実際の事例を多く取り入れ検討する。

到達目標

1	1. こどもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ
2	2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える
3	3. こどもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ
4	4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ

教授方法

講義に加え、事例に基づく検討を行う

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

小児保健Ⅰを履修していることが望ましい

授業計画

1	こどもの健康と保健の意義；統計からみる母子保健・現代家族の問題・関連法規・保健計画とは
2	地域における保健活動；母子保健行政
3	こども虐待とは
4	こどもの発育・発達と保健（身体発育・生理機能・運動機能・精神機能）
5	こどもの心身の健康状態とその把握（異常の早期発見）
6	こどもの感染症；症状別看護（発熱と発疹）
7	呼吸器の病気；症状別看護（咳と喘鳴）
8	消化器の病気；症状別看護（嘔吐・下痢・便秘・腹痛）
9	保育所での緊急時対応①；けいれん
10	保育所での緊急時対応②；食物アレルギー
11	予防接種
12	血液の病気；保育所での血液感染症の取り扱い
13	保育の中での安全対策①；重大事故予防
14	保育の中での安全対策②；災害と救急

授業外における学習

事前学習；次回授業の教材を事前配布するので事前学習し授業に臨むこと

事後学習；授業後に確認テストを再配布するので復習すること

質問や相談への対応

授業後および適時、質問を受け付ける

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

確認テスト	60%	授業回ごとに確認テストを実施する。自己採点を行い提出をもって得点とする。
中間レポート	20%	課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、考察の内容等を総合的に評価する
最終レポート	20%	課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、考察の内容等を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

厚生労働省が発行している各種ガイドラインをみておくこと

その他・特記事項

保育所看護師実務経験

病院助産師・看護師実務経験

行政助産師実務経験

造形表現演習

更新日：2023/01/10 08:58:20

開講年度	2022	学期	3期	シバースコード	C2230A	科目コード	C2230
担当教員	宮城 正作						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

造形表現、粘土、版表現、ダンボール

授業の概要

本授業では、保育者として必要な造形知識や技術を、制作や体験をとおして身につけていく。とくに「紙・ダンボールによる表現」、「環境構成の考え方」、「材料や用具の準備」について取り組む。その際、各活動において、材料や用具の選定、環境の変化が表現効果に与える影響について着目し、各技法と材料・用具との関係について理解を深められるようにする。

到達目標

1	①授業内で使用する材料や用具の適切な使用法を理解し、身につける。
2	②習得した知識や技術が保育者としてどのように活かされるか考えられる。

教授方法

講義と演習を織り交せた形式でおこなう。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「こどもと造形」を履修済みであることが望ましい。

授業計画

1	「石塑粘土でキーホルダーづくり！（１）」 ・石塑粘土を材料とするキーホルダーの制作を行う。 ・道具を用いた粘土との関わり方について概説する。 ・クッキー用型を用いた粘土の型抜きを行う。
2	「石塑粘土でキーホルダー作り！（２）」 ・乾燥させた型抜き後の石塑粘土を、紙やすりを用いて研磨する。
3	「石塑粘土でキーホルダー作り！（３）」 ・研磨した石粘土をアクリル絵具等で色付けする。
4	「石塑粘土でキーホルダー作り！（４）」 ・前回に引き続き、研磨した石粘土をアクリル絵具等で色付けする。 ・色付けした石粘土にニス ² 度塗布し、キーホルダー金具をつけて完成させる。
5	「ステンシルでプリントしよう！トートバッグ作りー（１）」 ・各種版画技法と幼児造形活動における版表現の展開方法について概説する。 ・ステンシル技法について概説する。 ・下描きの制作を行う。
6	「ステンシルでプリントしよう！トートバッグ作りー（２）」 ・前回に引き続き、下描きの制作を行う。 ・下描きを基にした版制作（ステンシルシートの切り抜き）。
7	「ステンシルでプリントしよう！トートバッグ作りー（３）」 ・前回に引き続き、下描きを基にした版制作（ステンシルシートの切り抜き）。
8	「ステンシルでプリントしよう！トートバッグ作りー（４）」 ・完成した版を用いてトートバッグにプリントし、作品を完成させる。
9	「日めくりカレンダーをつくろう！（１）」 ・「相欠き継ぎの構造」と「ダンボールの切り方」について解説する。 ・日めくりカレンダーの構想を練る。 ・制作を行う。
10	「日めくりカレンダーをつくろう！（２）」 ・前回に引き続き制作を行う。
11	「日めくりカレンダーをつくろう！（３）」 ・前回に引き続き制作を行う。
12	「日めくりカレンダーをつくろう！（４）」 ・前回に引き続き制作を行う。

13	「日めくりカレンダーをつくろう！（５）」 ・前回到引き続き制作を行う。
14	「まとめ」 ・制作物の講評と授業全体のまとめを講義形式で行う。

授業外における学習

各作品を完成させる時間は授業内では足りませんので、授業外の時間を活用して制作してください。

質問や相談への対応

随時受け付けます。

miyagi.masanari@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題の提出	60	・3つの課題の作品と記録シートで評価する。
試験	40	・授業内で教授した知識や技術が定着しているか筆記試験で評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	とくになし。			
	授業でプリントを配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

あなたの「好き」「楽しい」「面白い」という気持ちを、造形活動をとおして表現してください。そのことが、子どもの造形活動を支える一歩目です。

その他・特記事項

とくになし。

器楽応用Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:58:21

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバースト	C2240A	科目コード	C2240
担当教員	安氏 洋子, 大南 匠						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

こどもの歌、ピアノ、弾き歌い、コード譜、アレンジ

授業の概要

保育現場における音楽活動に必要なピアノの演奏、および弾き歌いの演奏技術を修得し、様々な表現活動や遊びに展開できる基礎を学ぶ。ピアノの演奏に関してはバイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバムなど練習曲を中心したレッスン、弾き歌いに関しては簡易伴奏から複雑なアレンジによる伴奏まで、各自のレベルに応じた伴奏によるレッスンを行う。

到達目標

1	器楽基礎で習得した読譜力、演奏技術をさらに高める。又、トライアドコード、7thコードなどのコードを実践を通じて理解し、保育活動に応じたピアノ演奏技術を習得する。
---	--

教授方法

習熟度別8グループによるグループレッスン

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

音楽表現演習、器楽基礎を受講した者

授業計画

1	オリエンテーション
2	弾き歌いレッスン1
3	弾き歌いレッスン2
4	弾き歌いレッスン3
5	弾き歌いレッスン4
6	弾き歌いレッスン5
7	弾き歌いまとめ・試験
8	ピアノ曲を課題としたレッスン1
9	ピアノ曲を課題としたレッスン2
10	ピアノ曲を課題としたレッスン3
11	ピアノ曲を課題としたレッスン4
12	ピアノ曲を課題としたレッスン5
13	ピアノ曲を課題としたレッスン6
14	ピアノ曲を課題としたレッスンまとめ・試験

授業外における学習

課題だけでなく、様々な楽曲に挑戦して欲しい。

質問や相談への対応

授業内だけでなく、メールでも対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
弾き歌い曲の実技試験	50	演奏の完成度を総合的に判断する。	
ピアノ曲の実技試験	50	演奏の完成度を総合的に判断する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	弾き歌い課題：チャイルド社 こどものうた200および続こどものうた200 ピアノ課題：各自のレベルに応じた楽曲			
	適宜、提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日々、キーボード、ピアノを弾く時間を設けて欲しい。

その他・特記事項

特になし

教育史

更新日：2023/01/10 08:58:21

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	C2250A	科目コード	C2250
担当教員	木山 徹哉						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

近現代史、教育思想、教育制度、子ども観、親子関係

授業の概要

幼児教育及び初等教育を中心として保育・教育という営みが今日までどのような経緯を辿ってきたかを、①各時代における保育・教育へのさまざまな需要、②各時代における「子ども」の捉え方や処遇などを中心に考える。

具体的には、日本の明治以降の保育・教育機関の成立・普及・展開の過程を、欧米の教育思想や制度の導入、日本の政治的・経済的・社会的変化と保育・教育との関係、さらに社会や大人と子どもとの関係を主な視点にして整理するとともに、今後の保育・教育の課題について検討する。

到達目標

1	本授業では、以下の4点を主たる目標とする。①日本の近現代の保育・教育の歴史について、その基本的な流れを説明することができる。
2	②欧米の教育思想や教育制度と①との関連について説明することができる。
3	③子ども観や親子関係の変化について、またその変化が保育・教育に与える影響について説明することができる。
4	④教育の歴史を踏まえて、今後の保育・教育の課題について自分の意見を述べるすることができる。

教授方法

基本的情報提供は講義を行うが、集中講義でもあり、また「授業概要」等に示す内容を保障するため「討議」「意見交換」を多く行う。また、Teams等を活用しながら、質疑応答を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

幼稚園免許状取得希望者

授業計画

1	オリエンテーション 授業概要、到達目標、並びに評価方法
2	今日の保育・教育が抱える課題は何か（1）子どもの育ちの現状についてどのような認識を持っているか、各自意見交換し、その結果を共有する。
3	今日の保育・教育が抱える課題は何か（2）保育・教育の考え方や制度の現状についてどのような認識を持っているか、各自意見交換し、その結果を共有する。
4	今日の保育・教育が抱える課題は何か（3）前2回の授業の整理と今後の討議の方向を確認する。
5	欧米の保育・教育思想の日本への受容と展開について基本的理解を図る。
6	子育て・保育・教育の普及、発展、及び変容（1）明治期～昭和前期（戦前）
7	子育て・保育・教育の普及、発展、及び変容（2）昭和、平成、令和（戦後）
8	社会構造の変化と保育・教育との関係について考える（1）ジェンダーを中心に
9	社会構造の変化と保育・教育との関係について考える（2）家庭及び人間関係の変容を中心に
10	社会構造の変化と保育・教育との関係について考える（3）多様性の保障を中心に
11	保育・教育の今後の展開を考える（1）今日の保育・教育に対する課題認識（第4回授業までに整理した）に基づいて、その解決に向けてジェンダーの観点から討議する。
12	保育・教育の今後の展開を考える（2）今日の保育・教育に対する課題認識（第4回授業までに整理した）に基づいて、その解決に向けて家庭及び人間関係の観点から討議する。
13	保育・教育の今後の展開を考える（3）今日の保育・教育に対する課題認識（第4回授業までに整理した）に基づいて、その解決に向けて多様性の保障の観点から討議する。
14	「教育史」を総括する一授業内容を振り返り、今後のあるべき保育・教育を述べ、記録する。

授業外における学習

社会構造の変化に関連する多くのデータに触れる。

質問や相談への対応

Teams等を活用して随時対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	70%	授業内容の基本的理解に基づいて、他者の意見もふまえつつ、客観的に意見を述べることができる。
討議参加	20%	授業における各討議に積極的に参加することができる。
小テスト	10%	基礎的理解に係る情報（知識）について把握している。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	指定しない。プリント等資料を配布する。			
	授業において適宜紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

討議に積極的に参加すること

その他・特記事項

特になし

教育の方法と技術

更新日：2023/01/10 08:58:22

開講年度	2022	学期	4期	シバースト	C2260A	科目コード	C2260
担当教員	山本 直樹						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育方法、情報機器、遊び

授業の概要

幼児期の教育の基本を踏まえた上で、保育方法の基本として子どもの側や保育者の側から捉える保育方法とその原理、保育形態の種類と活用法を概観する。その上で、「幼稚園教育要領」で示されている具体的指導法の4項目「環境を通して行う教育」「幼児期にふさわしい生活の展開」「遊びを通しての総合的指導」「一人一人の特性に応じた指導」について解説し考える。保育方法としての情報機器や視聴覚教材の活用法についても具体的な演習活動を展開する。

到達目標

1	「幼稚園教育要領」等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をめざす保育内容の指導法の理解を目標とする。
2	それと同時に、幼児期の発達特性をふまえた教育の方法および技術について、情報機器及び視聴覚教材の活用法も含めて理解することを目標とする。

教授方法

講義形式を基本とするが、具体的方法を扱う内容では演習課題を積極的に取り入れる。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、DVD映像等、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	本講義のガイダンス 教育と保育の方法、目標と内容
2	教育方法の意義と課題
3	教育理論・方法の変遷①伝統的な学習理論
4	教育理論・方法の変遷②学習形態・学習指導法の類型
5	授業の設計と評価
6	保育方法とその原理
7	保育形態の種類と活用
8	具体的指導技術①話法・板書
9	具体的指導技術②環境構成
10	保育と指導案
11	幼児期における情報機器の活用と課題
12	視聴覚教材の種類と活用
13	情報機器を活用した教材作成
14	本講義のまとめと確認

授業外における学習

毎回の授業内容に関する終了時に示す事後課題と予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組む。

質問や相談への対応

授業後に対応する

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
1	80	筆記試験を通じて授業内容の理解度を評価する。
2	20	2回ほど小テストを実施し理解度を評価する。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『子どもの生活と遊びを創る保育の内容と方法』太田光洋編（保育出版会）『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）『幼稚園教育要領解説』（平成30年2月 文部科学省）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
	『幼児教育の方法』小田豊・青井倫子他（北大路書房）『幼児教育の指導法』師岡章編（放送大学教育振興会）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業への主体的な参加を望む

その他・特記事項

なし

小児保健実習

更新日：2023/01/10 08:58:40

開講年度	2022	学期	2期	シバースト	C2270A	科目コード	C2270
担当教員	春高 裕美						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ガイドライン 事故防止 緊急時対応

授業の概要

乳幼児の健康保持・増進にとって必要な知識を学び、保育現場での保健活動に必要な技術の習得をする。具体的には病気・事故・怪我に関して保育者として必要な知識を習得し、実践での生かし方を学ぶ。さらに家庭との連携や健康教育の在り方についても取り上げる。毎時間の実技を実施する。保育所看護師実務経験を有し保育所で起こりうる実際の事例を多く取り入れ検討する。

到達目標

1	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
2	2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策について具体的に理解する。
3	3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
4	4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。
5	5. 緊急時の対応を理解し、その技術を習得できる。

教授方法

講義に加え、毎時間の実技を実施する

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

小児保健を履修していることが望ましい

授業計画

1	オリエンテーション 保育所での体調管理 実技；バイタルサインの測定 事例；発熱時の保護者への連絡
2	外傷の対応 実技；小児の包帯法 事例；前腕骨折で登園したこどもの包帯法
3	保育所等感染症ガイドラインの理解 実技；消毒法 事例；保育所での様々な備品の消毒
4	体調不良のこどもの看護 実技；嘔吐物の処理法 事例；保育所での新型コロナウイルスへの対応
5	アレルギーガイドラインの理解 実技；アドレナリン注射（エピペン）
6	緊急時の対応 実技；心肺蘇生法 事例；保育所から救急搬送される3つの事例（アレルギー・誤嚥・けいれん）
7	予防接種とスケジュール 演習；予防接種スケジュールを立ててみよう 授業総括

授業外における学習

事前学習：予定されている実技の予習を行う。手順を確認する。

事後学習：毎時間実施する「技術チェックリスト」を確認し技術の反復練習を行う

質問や相談への対応

授業後に受け付ける。適宜受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
技術チェックリスト	50%	実技の実施後、チェックリストに自己評価し提出を持って得点とする
実技手技・参加度・意欲・態度	20%	実技手技・参加度・意欲・態度など総合的に判断する
中間レポート	15%	課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字等総合的に判断する
最終レポート	15%	課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字等総合的に判断する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

実技を実施するので動きやすい服装で参加すること

その他・特記事項

保育所看護師実務経験

病院助産師・看護師実務経験

行政助産師実務経験

保育の観察法と統計解析法

更新日：2023/01/10 08:58:35

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C2280A	科目コード	C2280
担当教員	中山 智哉, 前田 泰弘, 加藤 孝士						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

観察法 統計解析法 質的研究法

授業の概要

保育現場における観察の意味を理解し、子どもの行動を客観的に観察する様々な方法を学ぶ。実際に幼児の行動を観察したり、保育場面を記録した動画を視聴したりする中で、保育者が幼児の行動を観察する際に留意すべき点などを確認する。また、観察等により得られたデータを統計的に分析する手法を学習し、観察結果を正確に評価・査定する手段を習得する。

到達目標

1	保育の現場では、子どもの行動を主観的にとらえることが多いが、様々な観察法を知ることで、子どもの行動を客観的に把握できるようにする。
2	また、観察等により得られたデータを統計的に処理できるスキルを身につける。

教授方法

講義および演習（3名の教員のオムニバス）

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション	研究法とは何か。量的研究法と質的研究法（担当：中山、加藤）
2	保育の観察法（1）	観察記録の方法（担当：前田）
3	保育の観察法（2）	保育臨床における観察の実際（担当：前田）
4	保育の統計解析法（1）	統計学で扱うデータのタイプと分析方法（担当：加藤）
5	保育の統計解析法（2）	テキストマイニングの分析手法（担当：加藤）
6	保育の質的研究法	インタビューデータの分析方法（担当：中山）
7	保育研究の考え方・進め方	（担当：中山）

授業外における学習

- ①毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ②テキストや配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

質問等がある場合は、授業内もしくはメールで受け付ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
試験・レポート	90	3名の教員が30%ずつ評価する。試験・レポートは担当教員の指示に従う。	
出席	10	出席状況	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しない。			
	授業内で指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学んだ研究手法を保育実践に役立てることができるよう創意・工夫した学びを望む。

その他・特記事項

なし。

乳児保育Ⅰ（2021年度以前入学対象者）

更新日：2023/01/10 08:58:41

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C2290A	科目コード	C2290
担当教員	春高 裕美						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

乳児保育、3歳未満児、乳児期、保育

授業の概要

この科目では乳児保育（0・1・2歳児）の理念、歴史的変遷とその役割について理解する。乳児期の発達を理解し、発達過程に応じた援助や関わり、乳児保育の現状と課題について、保育実践の映像や演習を通して学ぶ。さらに、保護者と連携して乳児の育ちを支えていくためには、どのような育児支援が必要かを考える。保育所での乳児保育の実践経験をもとに、具体的な事例等を活用して理解を深める。

到達目標

1	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割について学ぶ。
2	2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3	3. 3歳未満の発育・発達を踏まえた、3歳未満児の保育内容と運営体制について理解する。
4	4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ

教授方法

講義に加え、事例検討や実践を行う

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

乳児保育Ⅰを履修したのちに乳児保育Ⅱを履修することが望ましい

授業計画

1	オリエンテーション；授業の位置づけ、授業の進め方を理解する。乳児保育とは何か【1】乳児保育の理念と概念【2】
2	乳児保育の歴史的変遷【3】
3	乳児保育の基礎知識①② 3歳未満児の発達をふまえた保育【4】【5】
4	乳児保育の基礎知識③ 乳児保育での「配慮事項」とは【6】
5	保育所・認定こども園における乳児保育①②【7】【8】
6	乳児院における乳児保育【9】
7	家庭的保育等における乳児保育【10】【11】
8	家庭を取り巻く環境と子育て支援の場【12】
9	保護者とのパートナーシップ【13】【14】
10	職員間・地域関連機関との連携【15】【16】
11	3歳未満児の生活と環境【17】【18】
12	3歳未満児の遊びと環境【19】【20】
13	3歳未満児の育ちをふまえた援助と関わり【21】【22】
14	3歳以上児の保育に移行する時期の保育【23】【24】

授業外における学習

事前学習；授業回に該当する教科書の内容（【番号】で示したページ）を精読する

事後学習；授業後に出題する確認テストを実施し、知識を定着させる

質問や相談への対応

質問は授業後に受け付ける

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

確認テスト	60%	授業回ごとに確認テストを実施する。自己採点をおこない提出をもって得点とする。
中間レポート	15%	中間レポート；課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、考察の内容等を総合的に評価する
最終レポート	15%	最終レポート；課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、考察の内容等を総合的に評価する
授業中の参加度	10%	事例検討での発言等を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	よくわかる！保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック【第2版】池田りな他 ミネルヴァ書房2019ISBN；987-4-623-08642-9			
	保育所保育指針			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・事例検討では当事者に立場になって考えること
- ・3歳未満児の発達・発育をよく理解しておくこと

その他・特記事項

保育所での乳児保育実務経験
 病院助産師・看護師実務経験
 行政助産師実務経験

乳児保育Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:58:42

開講年度	2022	学期	4期	シバースト	C2300A	科目コード	C2300
担当教員	春高 裕美						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

乳児保育、3歳未満児、乳児期、保育、指導計画

授業の概要

この科目では、乳児期の発達を理解し、一人一人の発達過程に応じた援助や関わり、乳児保育の現状と課題について、保育実践の映像や演習を通して学ぶ。また、発達に応じた保育内容について学び、手作り玩具の製作やふれあい遊びを習得するとともに、記録の書き方、保育課程にもとづく指導計画を立案する。乳児保育の実践経験をもとに、具体的な事例等を活用して理解を深める

到達目標

1	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解する。
2	2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に学ぶ。
3	3. 乳児保育における配慮の実践について具体的に学ぶ。
4	4. 乳児保育における計画の作成について具体的に学ぶ。

教授方法

演習を中心に授業を進める。事例検討や状況設定を行い実践力を身につける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

乳児保育Ⅰを履修済であることが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション；授業の進め方 6か月未満の子どもの育ちと保育内容①；乳児保育の基本・保育士等との関係の重要性 [17]
2	6か月未満の子どもの育ちと保育内容②；演習：赤ちゃんに対する保育技術 [18]
3	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容①；事例検討（離乳食と体重増加） [20]
4	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容②；演習：安全の配慮 [19] [20]
5	長期的な指導計画と短期的な指導計画；事例検討（進級に向けた指導計画） [23] [24] [25]
6	個別的な指導計画と集団の指導計画；事例検討 [21] [22] [25]
7	3歳未満児の発達・発育を踏まえた生活と遊びの実践 [28]

授業外における学習

事前学習：授業回に該当する教科書の内容（[番号]で示した頁）を精読する

事後学習：授業後に出題する発展学習を実施し、理解度を深める

質問や相談への対応

質問は授業終了後に受け付ける

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	25%	課題に沿った内容であるか、発達段階に合っているか、提出期限、誤字脱字、自己の考察内容等、総合的に評価する。
実践課題	25%	課題に沿った内容であるか、発達に見合っているか、安全への配慮があるか、提出期限等総合的に評価する
実技	20%	授業内での実技手技、チェックリストなど総合的に評価する
授業中の参加度	30%	事例検討の発言や、演習での積極性、意欲など総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	よくわかる！保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック 【第2版】池田りな他 ミネルヴァ書房 2019 ISBN:987-4-623-08642-9			
	保育所保育指針			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・事例検討では当事者に立場になって考えること
- ・3歳未満児の発達、発育をよく理解しておくこと

その他・特記事項

- ・乳児保育Iと同じテキストを使用する
- ・保育所での乳児保育の実践経験を有する
- ・自治体での乳児に関わる業務経験を有する
- ・産院での新生児看護に関わる業務経験を有する

特別支援教育論（旧：発達支援論）

更新日：2023/01/10 08:58:51

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C2310A	科目コード	C2310
担当教員	前田 泰弘						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

特別支援教育・障害・発達が気になる子・発達臨床

授業の概要

保育所や幼稚園に在籍する障害のある子や、集団生活に困難を示すいわゆる発達が気になる子について、その行動・発達の理解と豊かな生活を送るための保育・教育的配慮のあり方について解説を行う。また、家庭の養護を十分に受けることができないために、日常生活に困難を示す子どもについても、本講の対象とする。講義では、子どもの定型発達と学習のプロセスを概観した上で、心身に障害のある児の特徴と育ちについて解説する。また、障害の様態に応じた保育・教育と援助の実際や、十分な家庭的養護が受けられない子どもの成長や発達の特徴について事例を通して理解する。これらをもとに、発達に配慮が必要な子どもに対する保護者の支援や社会資源を用いた包括的な援助について理解することをねらいとする。

到達目標

1	子どもの定型発達と学習のプロセスをふまえ、保育・教育実践において特別な支援が必要な子どもの諸相と保育・教育支援のあり方について理解する。
2	また、それらの客観的評価の方法や保育・教育方法を学び、これを保育・教育実践に生かせるようになることをねらいとする。

教授方法

知識・援助技術の教授と共に、実際の援助ケースを想定したワークなどの演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「児童家庭福祉」「発達と教育の心理学」「幼児理解の理論と方法」を既習のこと

授業計画

1	発達支援とは一障害児および特別な配慮を必要とする子どもの理解
2	気になる発達と評価の方法 -発達の理解と評価の視点-
3	発達の問題と評価の方法 -気になる発達の考え方と評価の方法-
4	乳児・乳幼児期の発達と学習 -知的発達・運動発達・社会性の発達・あそびの発達-
5	発達と学習を支える基盤 -環境の大切さ・愛着関係を中心に-
6	愛着関係の築きにくい子どもと家庭（保護者）の理解 -器質的因子と環境因子の視点から-
7	知的障害児の発達と保育 -知的発達に遅れのある子どもの理解と保育-
8	自閉症スペクトラム障害児の発達と保育 -自閉症スペクトラム障害のある子どもの理解と保育-
9	肢体不自由児の発達と保育 -肢体不自由児の理解と保育-
10	聴覚障害児の発達と保育 -聴覚障害児の理解と保育-
11	重複障害児の発達と保育 -重複障害児の理解と保育-
12	低出生体重児の発達と保育 -低出生体重児の理解と保育-
13	発達支援を要する子どもを支える資源（1） -発達リスクの発見の機会と相談機関の理解-
14	発達支援を要する子どもを支える資源（2） -療育機関や社会的養護施設の理解-

授業外における学習

「幼児理解の理論と方法」や「発達と教育の心理学」等、関連する既習科目の理解を前提に進める。本講受講前に復習をしておくこと。

質問や相談への対応

授業の前後を中心に、適宜受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題	20	講義時に提示する課題に取り組むことで、習得状況を評価する。

試験	80	期末に行う。授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『実践にいかす障害児保育・特別支援教育』前田泰弘編著, 萌文書林, 2019			
	適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

子どもや保護者・家族を取り巻く問題や施策等について、日々関心をもって生活して欲しい。

その他・特記事項

担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。必要に応じてMicrosoft Teams（オンデマンド教材）を使用する。

保育カリキュラム論（旧：保育課程論）

更新日：2023/01/10 08:58:52

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C2320A	科目コード	C2320
担当教員	渡邊 望						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育内容、指導計画、カリキュラム、省察と評価

授業の概要

カリキュラムの基礎理論を理解し、保育における計画と評価の意義と必要性について、計画・実践・省察・評価・改善の課程の循環の中で質の向上が図られていくことを学ぶ。また、カリキュラムの基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」の基本を理解したうえで、教育課程と指導計画がどのように日常の保育の中に活かされているのか、日々の保育からつながる保育の連続性を感じ、教育課程と指導計画の作成および、作成の留意事項について理解を深める。

到達目標

1	1. 絶えざる保育内容の充実と質の向上に資する教育課程、保育の計画と評価の意義について理解する。
2	2. 教育課程編成の基本原則及び保育実践に即した教育課程編成、指導計画の作成について具体的に理解する。
3	3. 計画、実践、省察・評価、改善の課程についてその全体構造を動的にとらえ、マネジメントすることの意義を理解する。

教授方法

講義で行う部分と、受講者が実際に考えたり、発表したりする部分を設け、実際の保育現場での展開方法についても検討していきます。積極的に参加するように心がけてください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「子ども主体」や「環境を通して」など保育の基本を理解したうえで受講してください。

授業計画

1	カリキュラムの理解
2	保育内容の変遷とカリキュラムについて
3	保育における計画及び評価の意義（役割・機能）と必要性について
4	計画、実践、省察・評価、改善の課程の循環および保育の連続性について（カリキュラム・マネジメント含む）
5	幼稚園教育要領、保育所保育指針における基本的事項
6	教育課程・保育計画と指導計画の関連性
7	教育課程・保育計画の編成
8	長期計画と短期計画の作成と作成上の留意点
9	指導計画と実際の保育の展開
10	日案の様式例と記述内容と方法
11	実際の一日の保育の展開と、保育上の留意点
12	保育記録・省察と、指導計画の関係
13	保育記録の記述内容と方法と留意点
14	まとめ・授業総括

授業外における学習

- ①毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。
- ②指導計画やレポート作成などの時間は授業内で十分確保できないため、授業時間外で計画的に作成してください。

質問や相談への対応

- ・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。
- ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準

協議と発表	40	「季節を感じられる保育活動」についてグループで検討し、発表する。(30) 発表を聞いて評価レポートを作成する。(10)
指導計画と発表	40	「コーナーあそび」についてグループで指導案を作成し発表する。(30) 発表に参加し評価レポートを作成する。(10)
指導案作成	20	「コーナーあそび」について個人で指導案を作成する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『子どもが育つ環境と保育の指導法』太田光洋編著(保育出版会)			
	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』(以上、文部科学省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』(以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省) 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』(以上、厚生労働省)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

意見交換や質疑応答を通して、全体で学び合えるクラスにしたいと思っていますので、積極的に質問や発言をして参加してください。

その他・特記事項

皆さんの豊かな発想に期待しています。

音楽表現演習Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:58:49

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	C2330A	科目コード	C2330	
担当教員	大南 匠							
備考	演習/必修//							
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科						
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1		

キーワード

記譜法、インターバル、コード、弾き歌い

授業の概要

楽語、記号などの基礎的な記譜法、音程を踏まえた上でダイアトニック、7th、6th、sus4などのコードを取り上げる。

到達目標

1	読譜のための必要な基礎的な音楽理論とコードを理解する。
2	また、子どもの歌の弾き歌いがスムーズにできるように練習し、人前で演奏することに慣れる。

教授方法

演習授業。子どもの弾き歌いの実践については習熟度に応じて8グループによるグループレッスンとする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション 基礎的な記譜法 1
2	基礎的な記譜法 2
3	幹音による音程
4	派生音による音程
5	トライアードコード
6	7th、6thコード
7	音楽理論まとめ・試験
8	音楽理論まとめ 2（解説）
9	弾き歌い実践 1
10	弾き歌い実践 2
11	弾き歌い実践 3
12	弾き歌い実践 4
13	弾き歌い実践 5
14	弾き歌い実践 6

授業外における学習

授業で配布するプリントを理解しておく。

質問や相談への対応

授業内だけでなく、メールでも対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
音楽理論試験	100	ペーパーテスト。100点満点で採点。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	適宜提示する。			
	適宜提示する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

段階的に学習するので、わからないことがあればその都度、質問してほしい。

その他・特記事項

特になし

音楽表現演習ⅡA

更新日：2023/01/10 08:58:48

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	C2340A	科目コード	C2340
担当教員	大南 匠						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

こどもの歌、ピアノ、弾き歌い、コード譜

授業の概要

音楽表現演習Ⅰで学んだコード理論を基にした弾き歌いの演奏技術を修得する。
課題は本学独自のコード譜を課題として使用する。

到達目標

1	トライアドコード、7thコードの基本形、転回形を状況に合わせてキーボードで演奏できるようにする。
---	--

教授方法

習熟度別8グループによるグループレッスン

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

音楽表現Ⅰを履修した者

授業計画

1	オリエンテーション
2	コード譜による弾き歌いレッスン1
3	コード譜による弾き歌いレッスン2
4	コード譜による弾き歌いレッスン3
5	コード譜による弾き歌いレッスン4
6	コード譜による弾き歌いレッスン5
7	コード譜による弾き歌いまとめ・試験
8	ピアノ曲を課題としたレッスン1
9	ピアノ曲を課題としたレッスン2
10	ピアノ曲を課題としたレッスン3
11	ピアノ曲を課題としたレッスン4
12	ピアノ曲を課題としたレッスン5
13	ピアノ曲を課題としたレッスン6
14	ピアノ曲による試験

授業外における学習

日々の課題だけではなく、リストにある楽曲を出来るだけ数多くレパートリーとする。

質問や相談への対応

授業内だけでなく、メールでも対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
コード譜による弾き歌いの実技試験	100	演奏の完成度を総合的に判断する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	プリント（課題リスト）			
	適宜、提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日々、キーボード、ピアノを弾く時間を設けて欲しい。

その他・特記事項

特になし

音楽表現演習ⅡB

更新日：2023/01/10 08:58:50

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	C2350A	科目コード	C2350
担当教員	安氏 洋子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

こどもの歌、ピアノ、弾き歌い、コード譜

授業の概要

音楽表現演習Ⅰで学んだコード理論を基にした弾き歌いの演奏技術を修得する。
課題は本学独自のコード譜を課題として使用する。

到達目標

1	トライアドコード、7thコードの基本形、転回形を状況に合わせてキーボードで演奏できるようにする。
---	--

教授方法

習熟度別8グループによるグループレッスン

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

音楽表現Ⅰを履修した者

授業計画

1	オリエンテーション
2	コード譜による弾き歌いレッスン1
3	コード譜による弾き歌いレッスン2
4	コード譜による弾き歌いレッスン3
5	コード譜による弾き歌いレッスン4
6	コード譜による弾き歌いレッスン5
7	コード譜による弾き歌いまとめ・試験

授業外における学習

日々の課題だけではなく、リストにある楽曲を出来るだけ数多くレパートリーとする。

質問や相談への対応

授業内だけでなく、メールでも対応する。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
コード譜による弾き歌いの実技試験	100	演奏の完成度を総合的に判断する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	プリント（課題リスト）			
	適宜、提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日々、キーボード、ピアノを弾く時間を設けて欲しい。

その他・特記事項

特になし

乳児保育Ⅰ（2022年度以降入学者対象）

更新日：2023/01/10 08:58:53

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	C2470A	科目コード	C2470
担当教員	春高 裕美						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

乳児保育、3歳未満児、乳児期、保育

授業の概要

この科目では乳児保育（0・1・2歳児）の理念、歴史的変遷とその役割について理解する。乳児期の発達を理解し、発達過程に応じた援助や関わり、乳児保育の現状と課題について、保育実践の映像や演習を通して学ぶ。さらに、保護者と連携して乳児の育ちを支えていくためには、どのような育児支援が必要かを考える。乳児保育の実践経験をもとに、具体的な事例等を活用して理解を深める。

到達目標

1	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割について学ぶ。
2	2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3	3. 3歳未満の発育・発達を踏まえた、3歳未満児の保育内容と運営体制について理解する。
4	4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ

教授方法

講義に加え、事例検討や実践を行う

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

乳児保育Ⅰを履修したのちに乳児保育Ⅱを履修することが望ましい

授業計画

1	オリエンテーション；授業の位置づけ、授業の進め方を理解する。乳児保育とは何か【1】乳児保育の理念と概念【2】
2	乳児保育の歴史的変遷【3】
3	乳児保育の基礎知識①② 3歳未満児の発達をふまえた保育【4】【5】
4	乳児保育の基礎知識③ 乳児保育での「配慮事項」とは【6】
5	保育所・認定こども園における乳児保育①②【7】【8】
6	乳児院における乳児保育【9】
7	家庭的保育等における乳児保育【10】【11】
8	家庭を取り巻く環境と子育て支援の場【12】
9	保護者とのパートナーシップ【13】【14】
10	職員間・地域関連機関との連携【15】【16】
11	3歳未満児の生活と環境【17】【18】
12	3歳未満児の遊びと環境【19】【20】
13	3歳未満児の育ちをふまえた援助と関わり【21】【22】
14	3歳以上児の保育に移行する時期の保育【23】【24】

授業外における学習

事前学習；授業回に該当する教科書の内容（【番号】で示したページ）を精読する

事後学習；授業後に出題する確認テストを実施し、知識を定着させる

質問や相談への対応

質問は授業後に受け付ける

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

確認テスト	60%	授業回ごとに確認テストを実施する
中間レポート	15%	中間レポート；課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、考察の内容等を総合的に評価する
最終レポート	15%	最終レポート；課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、考察の内容等を総合的に評価する
授業中の参加度	10%	事例検討での発言等を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	よくわかる！保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック【第2版】池田りな他 ミネルヴァ書房2019ISBN；987-4-623-08642-9			
	保育所保育指針			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・事例検討では当事者に立場になって考えること
- ・3歳未満児の発達・発育をよく理解しておくこと

その他・特記事項

保育所での乳児保育実務経験
 病院助産師・看護師実務経験
 行政助産師実務経験

自然保育演習

更新日：2023/01/10 08:58:09

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	C3010A	科目コード	C3010
担当教員	小笠原 明子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

直接体験、子どもの視点、保育者の配慮

授業の概要

自然を通した保育を計画・実践できるようになることをねらいとする。自然とのかかわりの中で、実際に行われている子どもの活動を考える。また、その活動を季節ごとや、発達の視点から分類し体系化することで、保育の教材として取り入れられるよう整理する。さらに、学生自身がそれらを体験し、子どもの視点や動き、保育者の動きや配慮を考える。

担当教員は、保育現場における保育の実務経験を有しており、子どもの発達状況や保育士のかかわり方など、実践での事例を交えながら授業を展開し、学生自身が様々な面から子どもを考察し、実務に活かすことができる能力を身につける。

到達目標

1	自然を通した保育を実践するにあたっては、自然に関する知識もさることながら、子どもが直接体験から得られることを丁寧に考えることで、自然と子どもの関係を深めることが可能になる。自然を保育の教材として豊かに生かす工夫を学生自身の体験を通して探究し、保育の実践に生かせるようになることを目標とする。
---	---

教授方法

演習形式でおこなう。実際に学生が直接体験し、学ぶことを中心とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

自然保育論を履修していることが好ましい

授業計画

1	自然とのかかわりの中で育つものと育てほしいもの
2	自然体験学習（遊びを考える）
3	自然体験学習（保育者の視点から考える）
4	自然体験学習
5	発達の視点からの自然保育
6	保育計画の作成
7	総括（知識の確認とまとめ）

授業外における学習

講義と実践が結び付くよう準備をする

質問や相談への対応

随時対応する

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60%	講義内容を理解できているか	
授業レポート	40%	自分の考えを述べているか	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	講義において適宜紹介する			
	適宜資料を配付する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと

その他・特記事項

担当教員は、保育現場における保育の実務経験を有している

地域子育て支援演習

更新日：2023/01/10 08:58:09

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	C3020A	科目コード	C3020
担当教員	金山 美和子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

保育所 保育士 子育て 支援

授業の概要

保育士の行う子育て支援の特性や子育て支援の展開について学び、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者への支援の実際について理解する。子ども及び保護者の状況・状態を把握し、家庭が抱える支援のニーズについて理解し、子育て家庭に対する支援の方策について考える。社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働による子育て支援の展開について学ぶとともに、支援の展開の実際を体験する。担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえて授業を実施する。

英語表記「The Seminar of Community-Based Child-Rearing Support」

到達目標

1	①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する支援について、その特性と展開を具体的に理解する。
2	②保育所や地域子育て支援拠点など様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

保育士資格取得に関する科目である。

授業計画

1	保育士の行う子育て支援の特性
2	家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
3	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
4	支援の計画と環境の構成
5	保育所等における支援の実践・記録・評価・カンファレンス
6	地域の子育て家庭に対する支援の実践・記録・評価・カンファレンス
7	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭に対する支援の実践・記録・評価・カンファレンス

授業外における学習

- ①地域子育て支援論のテキスト・ノートを読み返し復習する。
- ②毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ③地域子育て支援の実践を展開し理論と実践から理解を深める。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	保育士の行う子育て支援の特性と展開についての理解をふまえた実践と省察について評価する。
上記以外の授業評価	50	子育て支援活動の実践・記録・評価・カンファレンスへの貢献度について評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テキスト 太田光洋編（2022）「子育て支援」同文書院			
	「詳解 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き第3版」渡辺顕一郎・橋本真紀 中央法規			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

親子を支える視点と地域貢献の視点を持ち、日頃から自主的な体験学習の機会を得ること。

その他・特記事項

担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。

発達支援演習

更新日：2023/01/10 08:58:36

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	C3030A	科目コード	C3030
担当教員	前田 泰弘						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

発達支援、個別の計画、検査法、観察法

授業の概要

本講では、発達支援を行う上で必要な客観的根拠（子どもの発達の状況や家庭の様子など）を得るための技術（観察法や評価法）を教授する。また、他の専門機関や学校との連携や、子どもに関する園内外での情報共有や発達支援のための協議の方法等を教授する。担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。

到達目標

1	子どもの発達の諸相や発達の中で見られる気になる様子、障害の様態、保護者や家庭の理解と支援などに関する知識を総合して、子どもそれぞれのADLやQOLに合わせた発達支援を計画・実践できることを目標とする。
---	--

教授方法

ICT機器を用いて視覚的に教授するとともに、より実践的に理解できるよう、具体的な支援事例を想定した演習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「幼児理解の理論と方法」「発達支援論」を既習のこと。

授業計画

1	発達支援演習概説
2	身体感覚の発達理解と支援
3	特別支援教育諸学校と就学支援
4	個別支援計画の作成とカンファレンス
5	発達評価と観察の技術
6	発達支援を要する児の実例
7	まとめ -QOLを考慮した発達支援-

授業外における学習

「幼児理解の理論と方法」「発達支援論」等、関連する既習科目の理解を前提に進めます。本講受講前に復習をしておいてください。

質問や相談への対応

講義の前後を中心に適宜対応します。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	80	筆記試験により知識の習得状況を評価します。
課題	20	講義時に提示する課題への回答状況を評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『実践にいかす障害児保育・特別支援教育』前田泰弘編著、萌文書林、2019			
	授業中に適宜指示をします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

実際の保育実践や実習等での経験と照らし合わせながら、実践的に学んでいただけることを望みます。

その他・特記事項

必要に応じてMicrosoft Teams（オンデマンド教材）を使用します。

保育者支援論

更新日：2023/01/10 08:58:37

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	C3040A	科目コード	C3040
担当教員	中山 智哉						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

保育者のメンタルヘルス 多職種連携 保育者の専門性

授業の概要

現在保育現場では、さまざまな課題を抱える子ども、信頼関係が作りづらい保護者、保育者同士の人間関係など、多くの困難を抱えている。また、保育現場は、こうした課題を抱え込みやすい組織的・社会構造的な側面を持つ。本講義では、こうした課題を抱える保育者や保育現場を支援するための方法論を理論的・体験的に学習することを目的とする。園内連携や外部の専門家や機関との協働が保育者の負担を軽減し、さらに保育者の力量形成につながるのかを支援実践を通して理解を深める。

※今年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、学外での活動は行わない。

到達目標

1	① 保育の質の向上と協働（園内・園外）の関連性を理解する。
2	② 保育者のメンタルヘルスについて理解する。
3	③ 協働を可能にする保育者としての資質を身につける。

教授方法

講義および演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	現在の保育現場における保育者の職務内容と課題
2	保育者としてのアイデンティティの確立と協働性
3	保育と関連機関との連携による支援1（障がい）
4	保育と関連機関との連携による支援2（精神疾患）
5	保育と関連機関との連携による支援3（虐待）
6	医療保健領域と保育の協働
7	保育者のメンタルヘルス 授業総括

授業外における学習

- ① 毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ② 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	レポートの内容	
演習での取り組み	40	演習への参加意欲、演習内での発表、発言から評価する。	
出席	10	出席状況	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	なし			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

演習が中心となるため、積極的な演習内での発表、発言、活動への参加意欲を求める。

その他・特記事項

なし

保育経営論

更新日：2023/01/10 08:58:37

開講年度	2022	学期	4期	シバースト	C3050A	科目コード	C3050
担当教員	太田 光洋						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年4学期	曜日/時限	一	単位	1	

キーワード

園経営、学級経営、保育方法、保育者のキャリア

授業の概要

この授業では、保育経営について園経営と学級経営という観点から保育にかかわる基本的な事項とそれを支える人的・物的条件の理解を通して保育経営の基礎について理解する。さらに近年の動向をふまえ、社会におけるこれからの園や保育者に期待する役割について考え、園経営や学級経営における今日的な課題を解決する具体的方法とキャリアステージに応じた保育経営への参画について考える。

到達目標

1	園経営と学級経営の基礎的理解を深め、キャリアに応じた参画について理解する。また、卒業後初年度から学級経営を行うための理論を学び、ディスカッションを通して理解を深め、具体的な保育実践ができるようになる。
---	--

教授方法

講義及び演習。一部ゲストスピーカーを交え、ディスカッションを随時行う

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	保育経営とは何か、保育者に求められる資質とキャリアに応じた役割について考える、保育経営に関する不安について話し合う
2	ゲストスピーカーによる学級経営の実際についての話を聞き、学級経営の課題について理解を深める
3	学級経営についての不安や課題についてディスカッションを通して、自身の課題を明らかにする
4	自身の課題をふまえ、学級経営に求められる基本的な知識や準備について考え、発表する
5	ゲストスピーカーによる園経営の実際についての話を聞き、園経営の課題について理解を深める
6	園経営に関する不安や課題に対して、キャリアごとに期待される資質能力についてディスカッションし、自身の役割と課題について考える
7	これまでの実習や自身の課題をふまえ、園経営という観点から保育者としてのあり方について考える、まとめ

授業外における学習

実習時の記録や記憶を参照し、学級経営や園経営の課題を明らかにすること。ゲストスピーカーの話を参考に、自分のキャリアを展望し、必要な準備について考え、実践する

質問や相談への対応

授業中、授業終了前に質問を受け、授業内で説明する。
また、授業後の質問はメールでも受け付ける。ota.mitsuhiro@u-nagano.ac.jp
授業後の質問に対しては、次回授業時に説明する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート（5回）	100	課題について問題や自己課題の認知度、理解度に応じて評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業時に紹介する。必要に応じて資料を配付する			

	授業時に随時紹介する。			
--	-------------	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

実習の経験などをふまえ、自身の課題と併せて授業内容を生かせるようにしてほしい

その他・特記事項

保育者研修、幼稚園長等の実務経験で得られた知見を、教授内容に反映する。

保育臨床特殊講義Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:58:10

開講年度	2022	学期	2期	シバースト	C3060A	科目コード	C3060
担当教員	匠瑛 岳美						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

海外、北欧、フィンランド、EDUCARE、福祉と保育制度

授業の概要

海外保育事情。授業では、北欧フィンランドの幼児教育・保育を取り上げ、コア・カリキュラムで推奨される理念や方向性を理解し、北欧特有の幼児教育・保育の在り方を以下のテーマから学ぶ。(1) 幼保一元型「EDUCARE」の概念、(2) 制度上の保育サービスの在り方、(3) 施設内での保育と就学前教育の連携、(4) 2年制就学前教育の取り組み、(5) 保育現場でのIT教材の活用など。また、上記の大きなテーマを講義にて学んだ後、アクティブラーニングを通じて一つの課題にじっくり取り組むことで、テーマを深く学ぶ。グループワークを通して学んだ内容をまとめ、グループ発表を行う。授業の最終回に最終レポートを提出する。

到達目標

1	海外の幼児教育・保育制度や現状を参考に、本邦の教育・保育を他国のものと比較することによって、大きな視野から幼児教育・保育を多角的に俯瞰できる能力を身につける
2	北欧と本邦の課題を比較しながら、幼児教育・保育の考え方、あり方などについて考えを深める
3	視点を(1) 国の政策レベル(コアカリキュラム)、(2) 行政が提供する制度と自治体のコアカリキュラム、(3) 幼児教育・保育所施設の取り組み、(4) 現場の様子や取り組み、の4つのレベルに置き、それぞれの特徴を理解し、本邦のものと比較する
4	学びから多様性と柔軟性を持った指導能力を身につけるための視点や考え方を養う

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。グループワークやディスカッションを多く取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	授業概要説明と目的 ⇒欧州(EU)における幼児教育と保育(概要と統計的情報)
2	欧州(北欧)における幼児教育・保育の誕生と歴史 (1800年代から1990年代まで)
3	OECDのStarting Strongと北欧のECEC政策と制度の変革 (2000年代)
4	フィンランドの幼児教育・保育制度— Educareの誕生と概念
5	フィンランドの教員・保育士養成制度と免許・資格制度
6	フィンランドのEducareの実際① —公立保育所(ECECセンター)の実態と風景
7	フィンランドのEducareの実際② —個人のEducareプランの作成と子供の主体的な活動
8	フィンランドのEducareの実際③ —ICTの活用
9	フィンランドのEducareの実際④ —特別支援制度とインクルージョン
10	フィンランドのEducareの実際⑤ —就学前教育
11	他の北欧諸国とフィンランドの就学前教育の比較
12	フィンランドの子育てと文化—フィンランドにおける家族への支援制度
13	北欧全体の政策動向とこれからの展望
14	グループ発表、まとめ

授業外における学習

グループワークで、パワーポイント資料を作成し、発表する準備を行ってもらう。

質問や相談への対応

質問は授業の前後に受け付け、回答できる場合は、すぐに回答するが、回答に時間が必要な場合、次回の授業にて回答・コメントを行う。メールでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
グループワークと発表準備	30	積極的にテーマを探求し、グループで協力して発表のための準備ができたか、過程において学びがあったかを評価する。
グループ発表	20	テーマについて理解し、発表では、理解した内容を伝えることができたかを評価する。
最終レポート	50	授業の到達目標を理解し、日本と比較したことから新たな学びや考えがあったか、自分なりの考えをレポートにまとめることができたかを評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	主にパワーポイント資料を使用する。また授業中に適宜資料を配布する。			
	インターネットにて資料を検索する。(海外の)公的機関が発行している資料等を使用する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

新しい情報から、日本の幼児教育と保育を比較しながら「なぜ違うのか」、「違いの原因はどこになるのか」を常に考えてもらいたい。そこから日本の将来の幼児教育・保育はどうあるべきなのか、自分なりの考えをまとめてもらいたい。

その他・特記事項

特になし。

保育臨床特殊講義III

更新日：2023/01/10 08:58:30

開講年度	2022	学期	2期	シバースト	C3080A	科目コード	C3080
担当教員	菱田 隆昭						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

長野県、幼児教育・保育の歴史、保母養成機関の歴史

授業の概要

この科目は、保育に関する現代的課題や子ども・保護者を取り巻く地域社会、環境と保育のあり方について、歴史的な掘り下げを行うことで理解を深めるものである。長野県で行われてきた学校教育・幼児教育・保育の歴史について、その概要を理解するとともに、人々の熱意や願い、様々な工夫を知り、地域と人々の関わり等が今日の保育にどのように結びついているかを学ぶ。その際、史料を読み解いたり、意見交換をしたりして、視野を広げ、考え方の幅を広げられるようにする。

【ねらい】

長野県を中心として、我が国の学校教育・幼児教育・保育の歴史の概要を理解するとともに、それらに懸けた人々の熱意・願い・工夫等を興味をもって知ることができる。史料の読解を通して、当時の幼児教育・保育の状況を考えるとともに、今日の教育・保育にどのように結びついているかを考察することができる。

到達目標

1	①日本の近代から今日までの学校教育・幼児教育・保育の主な流れを理解できる。
2	②長野県の学校教育・幼児教育・保育の歴史を概観し、特徴的な取り上げ、その意義を理解できる。
3	③明治時代の史料を読み、当時の幼児教育・保育を考えるとともに、分かったことを発表することができる。
4	④幼稚園保母養成機関について、基本的事項の理解とともに、今日的課題との関連性を考えることができる。

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式で授業を進める。調べ学習、発表、意見交換等を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション：授業の進め方を理解する。教育の歴史を学ぶ意義を理解する。
2	近代日本教育史の概要を理解する。明治時代の教科書等の史料を読む。
3	長野県の教育史の概観を理解する。特徴的な出来事を調べ、発表する。授業時レポート①を作成する。
4	長野県の幼児教育・保育の歴史を理解する。代表的な保育や幼稚園を取り上げ、理解を深める。
5	明治時代の保育関連史料を読み、当時の保育の状況を考える。意見交換を通して、多様な考えを知る。
6	幼稚園保母養成の歴史の概要を理解する。上田保母伝習所を取り上げ、教育内容や地域との関連性を考える。
7	梅花幼稚園・上田保母伝習所の史料を読み解き、発表資料を作成し、発表する。授業時レポート②を作成する。

授業外における学習

- ①授業時に配布した資料を熟読し、関連事項を調べる。
- ②授業内で紹介した参考文献等を読み、ノートにまとめる。

質問や相談への対応

- ①質問は、授業中や授業の前後で受け付ける。
- ②授業の初めに、前回授業における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
発表資料	50%	史料を読み解き、正確に分かりやすくまとめることができたかを評価する。
授業時レポート	30%	問題意識をもって課題に取り組んだかを評価する。
積極的な受講態度	20%	発表・意見交換等の際の積極的な受講態度や課題提出状況によって評価する。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	①授業時に適宜資料を配布する。②駒込幸典著『信州教育事始め』信濃毎日新聞社、1999年。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

集中授業ですので、体調を整え、集中力をもって、授業に臨みましょう。
積極的な受講態度を期待しています。

その他・特記事項

長野県は、教育熱心な土地柄で、全国的にも「教育県」と呼ばれています。その源流の一端を、一緒に探ってみましょう。

保育臨床特殊講義Ⅳ

更新日：2023/01/10 08:58:38

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	C3090A	科目コード	C3090
担当教員	太田 光洋						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

保育コーチング、子育て支援、子どもの貧困、環境

授業の概要

この講義では、保育や子どもに関する現代的な課題やトピックについて、臨床に携わるゲストスピーカーを招いてその理解を深める。今年度は、保育の周辺でのさまざまな取り組みとして、保育コーチング、子育て支援、子どもの貧困、周産期の子育てと仕事、新任者の保育について感じていること等について取り上げる。

到達目標

1	子どもや保育が抱える現代的な課題についての理解を深め、具体的な支援や保育を構想できるようになる。
---	--

教授方法

講義及び園種。随時、グループワーク、発表を行う

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、保育や子どもをめぐる現在の臨床的課題について考える
2	コーチングの理論について学び、保育におけるコーチングについて、グループワークを通して理解を深める
3	保育、子育て支援におけるコーチングの実際について、グループワークで実践し、基礎的な具体的実践力を身につける。
4	子どもの貧困と支援の実際について、アクティブラーニングを通して学び、保育者としてできることを考える。
5	周産期における母子のあり方や支援の実際について学び、この時期の子育て支援のあり方についての具体的理解を深める。
6	地域における子育て支援の実際、保育者としての成長についてグループワークを行い、自身のキャリアについて考える
7	新卒保育者の話を聞き、保育の実際と保育内容、方法について、グループディスカッションや発表を通して、具体的な保育展開力を身につけるまとめ

授業外における学習

子どもや保育をめぐる現代的課題について調べる。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付け、最後に説明する。
- ・メールでの質問も受け付ける。ota.mitsuhiro@u-naganno.ac.jp
- ・授業後の質問等に対しては毎回の授業冒頭で説明する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート	75	2～6回の授業内容の理解度に応じて評価する
まとめのレポート	25	子どもや保育課題についての考察の程度に応じて評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。資料等を随時配付する			

	阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、下野新聞社『貧困の中の子ども 希望って何ですか』ポプラ新書、重松延寿『マンガでやさしくわかるコーチング』CTIジャパン			
--	--	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

現代的課題を自分の問題として、また、自分にできることは何かということと併せて考え、実践に結びつけてほしい

その他・特記事項

保育者対象の研修、幼稚園長、保育者等のアドバイザー、自治体審議会等の実務経験で得られた知見を教授内容に反映する。

教育実習Ⅰ事前事後指導

更新日：2023/01/10 08:58:11

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバースコード	C4010A	科目コード	C4010
担当教員	渡邊 望						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	0.5	

キーワード

実習、幼稚園、保育実践、子ども、保育者

授業の概要

事前指導では、教育実習Ⅰの意義と目的を理解し、幼稚園理解を深めるとともに、実習前・実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方について学ぶ。また、見学実習の際の子どもの観察、記録、指導計画の立案、実践と評価の内容と方法等、実際に現場で幼稚園、幼稚園教諭の役割を学ぶための基本的な知識を得て、最初の実習に臨めるよう必要な準備を整える。

事後指導では、実習先の評価をもとにした総括と学びの振り返り、実習での自らの課題、また、次の教育実習Ⅱに向けた新たな課題について、省察と課題発見を行う。

到達目標

1	①教育実習Ⅰの目的や意義について理解し、実習の内容や方法が分かり、子どもを見る視点や保育者の意図を推察することができる。
2	②実習での保育を省察し、教育実習Ⅱに向けた自己課題を明らかにする。

教授方法

講義を中心に行うが、実習中に困難が生じないように演習を行ったり、受講者の質問に答えたりしながら進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。

授業計画

1	教育実習Ⅰの意義と目的を理解し、自分の課題の明確化。
2	実習先でのオリエンテーションの受け方の理解。
3	実習記録の意味を理解し、記入方法の確認。
4	実習生の心構えと実習中の取り組み方の理解。
5	実習前後の手続きを理解し、実習資料の作成。
6	教育実習Ⅰの振り返りと省察および教材研究。
7	教育実習Ⅱに向けた今後の課題の検討。

授業外における学習

- ①実習園に関する調査を行う。
- ②絵本などの児童文化財や保育教材などについて各自で調べる。
- ③実習を振り返り省察し、気づきや学びをまとめる。

質問や相談への対応

授業の前後に対応するほか、適宜研究室でも対応する。
緊急の場合には電話での相談にもこたえる。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
事前レポート	50	実習園について調査し概要をまとめる。 実習に向けても自己課題を明らかにし、実習での取り組みを具体的に検討する。
事後レポート	50	実習を振り返り、学んだことをまとめる。 自己評価を行う。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房			
	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

外部での実習をより有意義な時間にするためには、自ら課題を見つけ、思考しながら取り組むことが必要です。実習指導以外の授業で学んだことも、適宜振り返りながら実習の準備を進めていきましょう。

その他・特記事項

教育実習Ⅰの準備を進めていきます。毎回必ず出席してください。
2学期にも数回事前指導を行います。担当者のアナウンスを確認してください。

教育実習Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:58:12

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバースト	C4020A	科目コード	C4020
担当教員	渡邊 望						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

幼児理解、幼稚園教諭の役割、保育実践、記録と計画

授業の概要

幼稚園の生活に参加することで、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の役割と機能、保育の内容、子どもの生活、記録、幼稚園教諭の役割、職務内容について、実践的、具体的に理解する。観察実習と部分参加実習を中心として幼児の発達および発達過程と、それに応じた保育の実践について学ぶ。記録の意義や子どものとらえ方、幼稚園教諭の役割など、教師としての視点や考え方を指導教諭の指導の下で学び、実践的理解を深めるとともに以後の学習に向けた課題を明らかにする。

到達目標

1	幼稚園教育について、観察実習・参加実習を通して実践的な理解を深める。
2	また、部分実習を通して、子どもの個人差や教師に求められる資質に気づく。

教授方法

指定された幼稚園で2週間連続して実習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。

授業計画

1	オリエンテーション（於：学内） 教育実習Ⅰについての理解。
2	オリエンテーション（於：実習園） 各園での実習オリエンテーションに訪問し、実習内容および注意事項の確認。
3	観察実習1 園の概要、1日の流れの理解。
4	観察実習2 学級活動や子どもの様子を観察しおよび理解。
5	観察実習3 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解①。
6	観察実習4 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解②。
7	観察実習5 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解③。 1週間の流れの理解。
8	観察実習6 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解①
9	観察実習7 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解②
10	観察実習8 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解③
11	部分実習1 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき①
12	部分実習2 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき②
13	部分実習3 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき③
14	実習のまとめ 反省会を通して、学内での取り組みや次の実習に向けての課題の明確化。

授業外における学習

実習前は絵本や手遊び、簡単な遊びのアイデアなどの準備を行きましょう。
実習後には、実習での気づきを参考に今できることを考えて取り組んでください。

質問や相談への対応

巡回指導訪問教員が訪れた際に相談する、もしくは実習担当者にメールか電話で直接相談してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
実習評価		実習園の評価と実習記録の内容から総合的に評価する。

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房、			
	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」長島和代ほか、わかば社その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

現場で学べる貴重な機会ですので、幼稚園の先生に相談しながら、積極的に取り組んでください。

その他・特記事項

教育実習！事前事後指導の授業をすべて受講していることが必要です。必ず出席してください。

保育所実習Ⅰ 事前事後指導

更新日：2023/01/10 08:58:23

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバースト	C4030A	科目コード	C4030
担当教員	小笠原 明子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

保育所の役割、子ども理解、保育者の専門性

授業の概要

保育実践の場を理解するためには、保育所の役割や機能を理解するとともに、子どもの理解や保育士の専門性を学ぶことが重要となってくる。そのために、講義と実践を結びつけることができるよう、知識・意識・技術などを実践的に準備を行う。授業は講義だけでなく、学生自身が考え表現し学ぶことができるよう演習（グループワーク）の形態をとることもある。実習後は、実習録などを基に振り返りをおこなうことで、保育所実習Ⅱに向けた課題や学習目標を明確にし、保育所実習Ⅰと保育所実習Ⅱが連続性のあるものとする。

到達目標

1	・保育所実習Ⅰの目標を明確にし、実習施設の方針・日課等、また子どもの実態（発達や経験）に合わせて指導計画案をたて、教材準備をおこなう実践力を育む。
2	・実習後には、実習の振り返りを踏まえ、改善のための課題や学習目標を明確にする。

教授方法

講義形式で実施する

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

保育士資格に必要な講義を履修済みであることが好ましい

授業計画

1	保育所実習Ⅰ 指導ガイダンス （実習の目的と概要の理解、実習の心構えと留意事項の理解）
2	保育所実習Ⅰの意義と目的 （実習の手引きの内容の理解、実習前後の手続きについての確認）
3	保育所実習Ⅰに向けて① （保育所の役割と機能の理解）
4	保育所実習Ⅰに向けて② （保育所実習Ⅰ実習録の意味と書き方）
5	保育所実習Ⅰに向けて③ （子どもを理解するための視点を学ぶ）
6	保育所実習Ⅰに向けて④ （子どもに合わせた保育の考え方の理解）
7	保育所実習Ⅰに向けて⑤ （部分実習の教材準備と指導計画案作成）
8	保育所実習Ⅰに向けて⑥ （指導計画案による模擬保育）
9	保育所実習Ⅰに向けて⑦ （実習前後の手続き）
10	保育所実習Ⅰ事後指導① （保育所実習Ⅰを振り返り省察と報告をおこなう）
11	保育所実習Ⅰ事後指導② （保育所実習Ⅰを振り返り観察の方法、実習録の書き方を確認する）
12	保育所実習Ⅰ事後指導③ （保育所実習Ⅰを振り返り指導計画案の立案方法を確認する）
13	保育所実習Ⅰ事後指導④ （保育所実習Ⅰを振り返り教材の研究をおこなう）
14	保育所実習Ⅰ総括 （保育所実習Ⅱに向け課題を明確にする）

授業外における学習

実習先の施設について事前に調べておく。

質問や相談への対応

随時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業への参加および取り組み	100	実習の手引き参照
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	実習テキストにより進める。			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に取り組むこと。

その他・特記事項

担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有しております。

保育所実習Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:58:24

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	C4040A	科目コード	C4040
担当教員	小笠原 明子						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

観察・参加実習、保育所の理解、子どもとのかかわり

授業の概要

実習は各自が指定された保育所で3年生の2学期に10日～11日間実施する。主に観察・参加実習が主となり、子どもの様子を把握することを通じて指導案の作成および部分実習を行い、さらに、振り返りを実施することで自身の実習を深めていく。また、実習の不安や不明な点の改善、実習の見通し等の助言のため、実習期間中は教員が巡回指導をおこなう。

到達目標

1	実習施設について理解をし、保育者の役割や子どもとのかかわりを観察の視点から学ぶ。
2	さらに、実際に子どもとのかかわりを通して発達の理解を深める。保育所の役割（地域との連携等）を学ぶ。

教授方法

実践

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

保育所実習Ⅰ事前指導を全て受講していること

授業計画

1	保育所での実習オリエンテーション（保育所の方針・日課の理解、配属クラス・持ち物・勤務時間などの確認）
2	観察・参加実習1（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
3	観察・参加実習2（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
4	観察・参加実習3（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
5	観察・参加実習4（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
6	観察・参加実習5（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
7	巡回教員の指導（巡回教員による実習指導をおこなう）
8	指導案の作成（これまでの観察・参加実習を基に部分実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）
9	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）
10	観察・参加実習6（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
11	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなうが、前回の課題について改善できるよう意識し取り組むようにする）
12	観察・参加実習7（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
13	保育所での反省会（先生方から実習全体についての反省会をおこなっていただく）
14	実習録の提出と受け取り（実習録を書き上げ提出し、その後、実習録を受け取りに行く、実習終了後、お礼状を作成する）

授業外における学習

実習先の施設について事前に調べておく
教材の準備をおこなう

質問や相談への対応

随時、受け付ける

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
実習評価	100	実習の手引き参照
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと

その他・特記事項

担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております（保育現場での実習担当の経験あり）。

保育所実習Ⅱ 事前事後指導

更新日：2023/01/10 08:58:25

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバースコード	C4050A	科目コード	C4050
担当教員	小笠原 明子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

責任実習、保育カリキュラム、教材準備

授業の概要

保育所実習Ⅰの学びと課題を基に保育所実習Ⅱの目標を明確にする。実習時期にあわせた保育所のカリキュラムや子どもの姿を想定した指導計画案をたて、教材研究と準備、模擬保育を通して実践力を培う。授業は講義だけでなく、学生自身が考え表現し学ぶことができるよう演習（グループワーク）の形態をとることもある。実習後は、自己評価や面談、レポート等を通して実習を振り返り、今後の学習の課題や目標を明確にする。

到達目標

1	・保育所実習Ⅱの目標を明確にし、子どもの実態（発達や経験）に合わせて指導計画案をたて、教材準備をおこなう実践力を身につける。
2	・実習後は、実習の振り返りや自己評価・面談などを通して、今後の学習の課題や目標を明確にする。

教授方法

演習形式で実施する

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

保育所実習Ⅰ、保育所実習Ⅰ事前事後指導、施設実習Ⅰ、施設実習Ⅰ事前事後指導履修済みのこと
保育士資格に必要な講義を履修済みであることが好ましい

授業計画

1	保育所実習Ⅱ指導ガイダンス（実習の目的と概要の理解、実習の心構えと留意事項の理解）
2	保育所実習Ⅱの意義と目的（実習の意義と目的について理解し自分の課題を明確にする）
3	保育所実習Ⅱに向けて①（保育所実習Ⅱ実習録の意味と書き方）
4	保育所実習Ⅱに向けて②（保育の展開の理解）
5	保育所実習Ⅱに向けて③（実技指導）
6	保育所実習Ⅱに向けて④（責任実習の教材準備と指導計画案作成）
7	保育所実習Ⅱに向けて⑤（指導計画案の添削）
8	保育所実習Ⅱに向けて⑥（指導計画案による模擬保育）
9	保育所実習Ⅱに向けて⑦（実習前後の手続き）
10	保育所実習Ⅱ事後指導①（保育所実習Ⅱを振り返り自己評価をおこなう）
11	保育所実習Ⅱ事後指導②（保育所実習Ⅱを振り返り省察と報告をおこなう①）
12	保育所実習Ⅱ事後指導③（保育所実習Ⅱを振り返り省察と報告をおこなう②）
13	保育所実習Ⅱ事後指導④（保育所実習Ⅱを振り返り保育士の専門性を考える）
14	保育所実習Ⅱ総括（自己評価、振り返りを基に課題を明確にする）

授業外における学習

実習先の施設について事前に調べておく
保育所実習Ⅰを振り返り課題を明確にする

質問や相談への対応

随時受け付ける

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業への参加および取り組み	100	実習の手引き参照
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	実習テキストにより進める			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に取り組むこと

その他・特記事項

担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております

保育所実習Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:58:26

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	C4060A	科目コード	C4060
担当教員	小笠原 明子						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

部分・責任実習、保育者の専門性、乳幼児の発達を理解、子どもの実態（発達・経験）の理解

授業の概要

実習は各自が指定された保育所で3年生の3学期に10日～11日間実施する。保育所実習Ⅰを踏まえ部分実習や責任実習をおこなう。子どもの実態（発達・経験）に合わせ指導案の作成および部分実習・責任実習をおこない、さらに、振り返りを実施することで自身の実習を深めていく。また、実習の不安や不明な点の改善、実習の見通し等の助言のため、実習期間中は教員が巡回指導をおこなう。

到達目標

1	・実習施設について理解をし、保育所の役割・機能や保育士の専門性、乳幼児の発達を理解を深め、総合的に学ぶ。
2	・子どもの実態（発達・経験）を基に保育の計画について理解を深め、部分実習や責任実習を実施する。

教授方法

実践

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

保育所実習Ⅱの指導を全て受講していること、保育所実習Ⅰ他、指定科目の単位を取得していること

授業計画

1	保育所での実習オリエンテーション（保育所の方針・日課の理解、配属クラス・持ち物・勤務時間などの確認）
2	観察・参加実習1（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
3	観察・参加実習2（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
4	指導案の作成（これまでの観察・参加実習を基に部分実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）
5	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）
6	参加実習3（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
7	巡回教員の指導（巡回教員による実習指導をおこなう）
8	指導案の作成（これまでの観察・参加実習と部分実習を基に責任実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）
9	指導案の修正・準備（所長先生、実習担当の先生の指示に従い指導案を修正し、教材の準備をおこなう）
10	責任実習（指導案に基づき責任実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）
11	責任実習反省会（責任実習終了後、所長先生、実習担当の先生、担当の先生と反省会をおこなっていただく）
12	観察・参加実習4（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）
13	保育所での反省会（先生方から実習全体についての反省会をおこなっていただく）
14	実習録の提出と受け取り（実習録を書き上げ提出し、その後、実習録を受け取りに行く、実習終了後、お礼状を作成する）

授業外における学習

実習先の施設について事前に調べておく

教材の準備を行う

質問や相談への対応

随時受け付ける

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
実習評価	100	実習の手引き参照
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	保育実習の手引き			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと

その他・特記事項

担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております（保育現場での実習担当の経験あり）。

施設実習Ⅰ 事前事後指導

更新日：2023/01/10 08:58:26

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバースコード	C4070A	科目コード	C4070
担当教員	尾島 豊, 中山 智哉						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

児童福祉施設、障害者施設

授業の概要

施設実習Ⅱを円滑かつ効果的に進めるために必要な知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にする共に、実習体験を深化することが目的。特に施設実習Ⅱの選択は進路との関連もあり、実習先を自分で調べて決定することが重要となる。事前学習は、実習先の理解、実習への心構え、実習のねらいと内容の理解、事後は振り返っての自己洞察などが課題となる。

到達目標

1	児童福祉施設または障害支援施設等の福祉施設で実習を行い、その経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めて就職できることが目標。
---	---

教授方法

実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

施設実習Ⅱを履修すること。

授業計画

1	施設実習の意義と オリエンテーション・具体的手続き
2	施設実習の概要 —DVD教材、先輩の日誌を読みながら
3	施設実習Ⅱの選択に向けて① —施設実習で行く施設の概要・養護系障害系施設
4	施設実習Ⅱの選択に向けて② —アンケートと調整
5	施設実習Ⅱの選択に向けて③ —実習希望の決定
6	施設実習Ⅱに向けて① —実習施設の決定、事前訪問、
7	施設実習Ⅱに向けて② —実習の目的の明確化
8	施設実習Ⅱに向けて③ —実習日誌について—
9	実習後の学習① —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
10	実習後の学習① —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
11	実習後の学習① —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
12	実習後の学習② —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
13	実習後の学習③ —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
14	実習後の学習④ —実習の振り返り（個別に評価伝達）—

授業外における学習

施設実習Ⅱの履修が前提

質問や相談への対応

授業時または個別に相談に乗る

成績評価

共通の評価基準	実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を行う。	
評価項目	割合	評価基準
実習レポート（事前）	30	実習課題がどれだけ明確化しているか
実習レポート（事後）	30	実習の経験の学びがどれだけ深まっているか

出席	40	授業への参加度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	資料を配布予定。			
	資料を配布予定。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

施設実習Ⅱとこの授業を履修する者は福祉系の就労を目指していることが望ましい。

その他・特記事項

なし

施設実習Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:58:27

開講年度	2022	学期	2期	シバースコード	C4080A	科目コード	C4080
担当教員	尾島 豊, 中山 智哉						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

児童福祉施設、障害者支援施設

授業の概要

保育士資格の取得には「施設実習Ⅰ」の履修が必修科目。11日間の実習。主に居住型施設の生活に参加し、児童や利用者の理解を深めるとともに、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。

到達目標

1	児童福祉施設または障害支援施設の福祉施設(主に居住型)の生活に参加して、その経験から児童や利用者の理解を深め、支援の実際を習得することが目的。
---	---

教授方法

実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

事前事後施設実習指導の科目を必ず履修すること。

授業計画

1	児童福祉施設等での実習、原則は11日間（1日8時間）、主に居住型の福祉施設で実習を実施する。時期は7月中に実施予定。
---	--

授業外における学習

実習先の施設で実習を実施すること。

質問や相談への対応

授業時、または個別に相談にのる。

成績評価

共通の評価基準	*実習前、実習期間中、実習後の期間を通じての態度と実習先の施設の評価を踏まえた総合評価。		
評価項目	割合	評価基準	
実習前の学習			
実習期間中の学習			
実習後の学習			
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要な資料を配布。			
	必要な資料を配布。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

施設への関心をもち、深めること。

その他・特記事項

なし

施設実習Ⅱ 事前事後指導

更新日：2023/01/10 08:58:28

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバースコード	C4090A	科目コード	C4090
担当教員	尾島 豊, 中山 智哉						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

施設実習Ⅱ、実習体験の深化、進路との関連、実習先の理解、実習への心構え、実習のねらいと内容の理解、自己洞察等

授業の概要

施設実習Ⅱを円滑かつ効果的に進めるために必要な知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にする共に、実習体験を深化することが目的。特に施設実習Ⅱの選択は進路との関連もあり、実習先を自分で調べて決定することが重要となる。事前学習は、実習先の理解、実習への心構え、実習のねらいと内容の理解、事後は振り返っての自己洞察などが課題となる。

到達目標

1	児童福祉施設または障害支援施設等の福祉施設で実習を行い、その経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めて就職できることが目標。
---	---

教授方法

実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

施設実習Ⅱを履修すること。

授業計画

1	施設実習の意義と オリエンテーション・具体的手続き
2	施設実習の概要 —DVD教材、先輩の日誌を読みながら
3	施設実習Ⅱの選択に向けて① —施設実習で行く施設の概要・養護系障害系施設
4	施設実習Ⅱの選択に向けて② —アンケートと調整
5	施設実習Ⅱの選択に向けて③ —実習希望の決定
6	施設実習Ⅱに向けて① —実習施設の決定、事前訪問、
7	施設実習Ⅱに向けて② —実習の目的の明確化
8	施設実習Ⅱに向けて③ —実習日誌について—
9	実習後の学習① —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
10	実習後の学習① —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
11	実習後の学習① —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
12	実習後の学習② —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
13	実習後の学習③ —実習の振り返り（グループでの報告と議論）—
14	実習後の学習④ —実習の振り返り（個別に評価伝達）—

授業外における学習

施設実習Ⅱの履修が前提となる。

質問や相談への対応

授業時または個別に相談に乗る。

成績評価

共通の評価基準	実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を行う。	
評価項目	割合	評価基準
実習レポート（事前）	30	実習課題がどれだけ明確化しているか
実習レポート（事後）	30	実習の経験の学びがどれだけ深まっているか

出席	40	授業への参加度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	資料を配布予定。			
	資料を配布予定。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

施設実習Ⅱとこの授業を履修する者は福祉系の就労を目指していることが望ましい。

その他・特記事項

特になし

施設実習Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:58:28

開講年度	2022	学期	4期	シバースコード	C4100A	科目コード	C4100
担当教員	尾島 豊, 中山 智哉						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

児童福祉施設、障害者支援施設、その他の福祉施設

授業の概要

「施設実習Ⅰ」に比べて、障害、養護系の福祉施設（通所も含む）、その他の福祉施設で幅広い施設種別での実習を行う。福祉関係の就労を希望する学生が選択する。児童福祉施設、社会福祉施設における養護・支援活動に実際に参加し、必要な知識・能力・技術を習得する。さらに家庭や地域の生活実態にふれて、子どもや利用者の家庭に対する理解力・判断力を養うとともに地域で支援するために必要とされる能力を養い、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。

到達目標

1	学生の進路を踏まえて、児童福祉施設または障害者支援施設の福祉施設の経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めることが目的。
---	---

教授方法

実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

事前事後指導（施設実習Ⅱ）を必ず履修すること。

授業計画

1	原則11日間（1日8時間）、個々の関心のある福祉施設での実習を実施する。
---	--------------------------------------

授業外における学習

実習先施設での11日間の実習

質問や相談への対応

授業時、または個別に相談にのる。

成績評価

共通の評価基準	実習前、実習期間中、実習後の期間を通じての態度と実習先の施設の評価を踏まえた総合評価。		
評価項目	割合	評価基準	
実習前学習			
実習期間中			
実習後学習			
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要な資料を配布。			
	必要な資料を配布。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

将来の就職を福祉系の仕事を狙っている者。

その他・特記事項

なし

教育実習Ⅱ 事前事後指導

更新日：2023/01/10 08:58:39

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	C4110A	科目コード	C4110
担当教員	渡邊 望						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	0.5	

キーワード

実習、幼稚園、保育実践、子ども、保育者

授業の概要

事前指導では、教育実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習Ⅰや既習の教科の内容を踏まえた上で、幼稚園教諭として必要な資質や能力、技能を得るために、責任実習の際の記録、指導計画の立案と修正、教材研究、実践と評価の内容と方法等、現場で実践するために必要な準備を整える。実習前・実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方について再確認する。

事後指導では、実習先の評価をもとにした総括と学びの振り返り、自分の保育の省察と課題発見を行う。

到達目標

1	①教育実習Ⅱの目的や意義について理解し、子どもの発達に即した指導計画の立案や、教材の準備ができる。
2	②実習での保育を省察し、今後の課題を明確にする。

教授方法

講義を中心に行うが、実習中に困難が生じないように演習を行ったり、受講者の質問に答えたりしながら進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。

授業計画

1	教育実習Ⅱの目的と意義の理解。
2	指導計画、教材研究の方法や保育の展開の仕方について。
3	子ども達の姿、発達を踏まえた、保育計画の立案および教材準備。
4	事前訪問時の書類を作成および、諸注意の確認。
5	実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方の確認。
6	実習の振り返りと省察および、自己課題の明確化。
7	実習での学びと課題などの体験共有と、保育内容、保育方法についての意見交換。

授業外における学習

- ①実習園に関する調査を行う。
- ②絵本などの児童文化財や保育教材などについて各自で調べる。
- ③実習を振り返り省察し、気づきや学びをまとめる。

質問や相談への対応

授業の前後に対応するほか、適宜研究室でも対応する。

緊急の場合には電話での相談にもこたえる。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
事前レポート	50	実習に向けても自己課題を明らかにし、実習での取り組みを具体的に検討する。
事後レポート	50	実習を振り返り、学んだことをまとめる。自己評価を行う。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房			
	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

外部での実習をより有意義な時間にするためには、自ら課題を見つけ、思考しながら取り組むことが必要です。実習指導以外の授業で学んだことも、適宜振り返りながら実習の準備を進めていきましょう。

その他・特記事項

教育実習Ⅱの準備を進めていきます。毎回必ず出席してください。
1学期にも数回事前指導を行います。担当者のアナウンスを確認してください。

教育実習Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:58:31

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	C4120A	科目コード	C4120
担当教員	渡邊 望						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

幼児理解、幼稚園教諭の役割、保育実践、記録と計画

授業の概要

教育実習Ⅰの学びとその後の学習をふまえ、幼稚園における教育活動について、指導教諭のもとで計画・実践し、幼稚園教諭として必要な資質・専門的知識・技術を取得する。幼稚園実習Ⅱでは、子どもの観察、記録、指導計画の立案、実践と評価の内容と方法等について実際に取り組む参加実習、責任実習を中心として、理論と実践の統合をはかり、保育理解を深める。また、クラス経営や家庭と地域の生活実態にふれ、子育て支援ニーズについて理解を深めるとともに、子育てを支援するために必要な能力を養う。

到達目標

1	1. 観察実習・参加実習を通して、教師の意図と子どもの姿の関係について学ぶ。
2	2. 責任実習を通して、子ども主体の保育展開の方法を体験的に学び、教師の役割について理解を深める。
3	3. 実習の振り返りを通して、教師の在り方について考え、自己課題を明確にする。

教授方法

指定された幼稚園で2週間連続して実習を行う。参加実習と責任実習を中心に行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。

授業計画

1	オリエンテーション（於：学内） 教育実習Ⅱについての理解。
2	オリエンテーション（於：実習園） 各園での実習オリエンテーションに訪問し、実習内容および注意事項の確認。
3	観察実習 園の概要、1日の流れの理解。
4	参加実習1 子どもの実態把握～生活～
5	参加実習2 子どもの実態把握～遊び～
6	参加実習3 子どもの実態把握～学級活動～
7	参加実習4 子どもの実態把握～保育室外の遊び～、1週間の理解
8	参加実習5 学級の実態把握、教師の助手的な参加実習～子どもへのかかわり～
9	参加実習6 教師の助手的な参加実習～保育内容の構成～
10	参加実習7 教師の助手的な参加実習～具体的な指導方法～
11	責任実習1 保育を担当する～生活～
12	責任実習2 保育を担当する～遊び～
13	責任実習3 保育を担当する～学級活動～
14	実習のまとめ 実習園での反省会

授業外における学習

実習前は絵本や手遊び、簡単な遊びのアイデアなどの準備を行きましょう。
実習後には、実習での気づきを参考に今できることを考えて取り組んでください。

質問や相談への対応

巡回指導訪問教員が訪れた際に相談する、もしくは実習担当者にメールか電話で直接相談してください。

成績評価

共通の評価基準	<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。</p> <p>【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。</p> <p>【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。</p> <p>【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。</p> <p>【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>
---------	---

評価項目	割合	評価基準
実習評価	100	実習園の評価と実習記録及び指導案の内容から総合的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房、			
	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

現場で学べる貴重な機会ですので、幼稚園の先生に相談しながら、積極的に取り組んでください。

その他・特記事項

教育実習Ⅱ事前事後指導の授業をすべて受講していることが必要です。必ず出席してください。

保育・教職実践演習

更新日：2023/01/10 08:58:32

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバースコード	C4130A	科目コード	C4130
担当教員	荒井 聡史, 渡邊 望, 小笠原 明子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

履修カルテ、プロセスレコード、幼稚園実習・保育実習のふりかえり

授業の概要

履修カルテを活用しながら、これまでの学習全体を振り返り、保育・教職の意義や人間関係、幼児理解、学級経営・保育内容の指導力などについて事例検討、模擬授業、ロールプレイング、フィールドワーク、グループ討論等を通して保育者としての資質、能力の形成を図る。セッション1では保育職・教職の専門性についての観点から受講者各自の課題とその解決の方法を探究する。セッション2ではワークショップ形式のアイスブレイク、グループワーク、チームビルディングなどを通して各自の実践力の課題を確認し、さらに事例記録の作成と事例検討のグループ・カンファレンスを通して実践力を磨く。セッション3・4では教育実習・保育実習の体験にもとづいて保育内容に関する課題の確認と探求を行う。

到達目標

1	受講者が将来保育者となるうえで個々の課題を発見、認識し、課題解決をしていく中で、保育職の意義と責任を自覚し、保育者として最小限必要な資質能力を身に付け、職務を著しい支障が生じることなく実践できるようになることを目標とする。
---	---

教授方法

演習、オムニバス形式。事例検討、模擬保育、ロールプレイング、フィールドワーク、グループ討論等々を中心に授業を実施する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

教育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ、施設実習Ⅰを履修していること、保育実習Ⅱまたは施設実習Ⅱを履修しているもしくは履修中であることを前提とする。

授業計画

1	本授業のガイダンスおよび履修カルテを通じた課題の確認
2	(セッション1) 保育・教職の意義の検討と探求①保育職の専門性と私の課題
3	(セッション1) 保育・教職の意義の検討と探求②各自の課題解決のための方法
4	(セッション2) 実践力の検討と探求①事例記録(プロセスレコード)の作成
5	(セッション2) 実践力の検討と探求②ワークショップを通じた実践力の確認
6	(セッション2) 実践力の検討と探求③グループ・カンファレンス
7	(セッション2) 実践力の検討と探求④グループ・カンファレンス
8	(セッション3) 幼稚園実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求①
9	(セッション3) 幼稚園実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求②
10	(セッション3) 幼稚園実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求③
11	(セッション4) 保育実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求①
12	(セッション4) 保育実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求②
13	(セッション4) 保育実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求③
14	本授業のふりかえりとまとめ

授業外における学習

課題レポートの作成、発表会への準備学習。

質問や相談への対応

質問・相談は授業中に随時受け付ける。また、授業時間以外にもメール等での質問・相談をしてもらってよい。

成績評価

共通の評価基準	【S】大学で履修した他の専門科目や、実習経験と授業内容の深い学びと関連付けて保育者としての自己の課題を発見し、自発的な学習へと発展させることができている。【A】大学で履修した他の専門科目や、実習経験と授業内容の学びを関連付けて保育者としての自己の課題を発見し、自発的な学習へと発展させることができている。【B】大学で履修した他の専門科目や、実習経験と授業内容の学びを関連付けて保育者としての自己の課題を発見しているが、自発的な学習へと発展させることができている。【C】大学で履修した他の専門科目や、実習経験	
評価項目	割合	評価基準

授業レポート	80	各セッション終了後のレポート（20点満点）4回の合計で科目の目標の達成度を評価する。
授業態度	20	各セッションでの態度点（5点満点）4回の合計で受講者の意欲、態度、グループ活動での他メンバーとの協調性等を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に設定しない。			
	授業の中で随時紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

教員免許、保育士資格という社会的地位と関連する科目なので、受講生の主体的・積極的な授業参加をのぞむ。特に、グループでの討議・発表の機会が多いので協調性を発揮しながらも主体的・積極的に授業に参加してほしい。

その他・特記事項

特になし。

こども学ゼミⅠ

更新日：2023/01/10 08:58:13

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバースコード	C5010A	科目コード	C5010
担当教員	中山 智哉, 太田 光洋, 荒井 聡史, 大南 匠, 山本 直樹, 尾島 豊, 金山 美和子, 春高 裕美, 宮城 正作, 白澤 舞						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育領域 保育表現領域 心理領域 福祉領域 家庭支援領域

授業の概要

乳幼児期の子どもの心と体の発達を総合的にとらえ、成長によりよい教育や環境を考えることを目的に、保育学、教育学、心理学、福祉学、芸術学など様々な学問領域を通して学びを深める。実施方法は、専門の異なる15名の教員が行うゼミ活動に、数名のグループに分かれ、オムニバス形式で受講する。内容は実地調査や行動観察、文献研究、実技演習など教員それぞれの専門に応じたゼミ活動によって進められる。受講生はグループのメンバーと互いに理解・協力をしながら演習を行う。その中で受講生は、乳幼児期の子どもの発達、発達を促進する環境、子どもに関する諸問題についての理解を深め、自分自身がより深めていきたいテーマを探ることで、3年次に開講される「こども学ゼミⅡ」の学びを明確化できるようにする。

到達目標

1	① 子どもの発達と環境との関係について、保育分野にとどまらず幅広い知識を獲得するとともに、発達と環境が相互に影響を与え合う関係であることを知る。
2	② 子どもの育ちにかかわる様々な学問領域の基礎的概念や考え方についての知識を獲得するとともに、子どもと社会との境界で生じる諸問題について学んだ概念を用いて説明することができる。
3	③ 様々な学問領域を通じた学びから、受講生自身が深めたいテーマを設定する。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション こども学ゼミⅠの進め方
2	様々な学問領域から子どもと環境を捉えることの意義
3	保育・幼児教育学からの学び①
4	保育・幼児教育学からの学び②
5	心理学からの学び①
6	心理学からの学び②
7	教育学からの学び①
8	教育学からの学び②
9	福祉学からの学び①
10	福祉学からの学び②
11	芸術学（造形）からの学び①
12	芸術学（造形）からの学び②
13	芸術学（劇活動）からの学び①
14	芸術学（劇活動）からの学び②
15	中間まとめ 各専門領域からの学びを統合する
16	保育・幼児教育学からの学び③
17	保育・幼児教育学からの学び④
18	福祉学からの学び③
19	福祉学からの学び④
20	芸術学（音楽）からの学び①
21	芸術学（音楽）からの学び②
22	教育学からの学び③
23	教育学からの学び④

24	芸術学（身体表現）からの学び①
25	芸術学（身体表現）からの学び②
26	心理学からの学び③
27	心理学からの学び②
28	最終まとめ 各専門領域からの学びを統合する

授業外における学習

- ①毎回指定された課題・問題に取り組む。
②事後学習を通して知識の定着を図ること。

質問や相談への対応

各回の教員に個別に相談する

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
受講態度	50	活動・話し合い等に積極的に参加している	
レポート	25	レポートの内容	
小テスト	25	小テストの点数	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しない			
	別途指示する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

演習活動に積極的に参加する

その他・特記事項

なし

こども学ゼミⅡ

更新日：2023/01/10 08:58:34

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	C5020A	科目コード	C5020
担当教員	中山 智哉, 太田 光洋, 荒井 聡史, 大南 匠, 前田 泰弘, 尾島 豊, 金山 美和子, 安氏 洋子, 山本 直樹, 渡邊 望, 小笠原 明子, 白澤 舞, 宮城 正作, 春高 裕美, 匠 岳美						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

保育領域 教育領域 保育表現領域 心理領域 福祉領域 家庭支援領域

授業の概要

乳幼児期の子どもの心と体の発達を総合的にとらえ、成長によりよい教育や環境を考えることを目的に、保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースの3つから、1つのコースを選択する。

さらに、コースの中から学生がより関心の高い分野に精通する教員を選択し、所属ゼミとして卒業研究に向けた学びを深める。なお、所属ゼミとは別に、それぞれのコース毎の活動も併せて実施する。

各ゼミおよびコースでは、グループのメンバーと互いに理解・協力をしながら演習を行う。その中で受講生は、乳幼児期の子どもの発達、発達を促進する環境、子どもに関する諸問題についての理解を深め、自分自身がより深めていきたい課題を探ることで、4年次に開講される「卒業研究」のテーマを明確化できるようにする。

到達目標

1	①子どもの発達と環境との関係について、保育分野にとどまらず幅広い知識を獲得するとともに、発達と環境が相互に影響を与え合う関係であることを知る。
2	②子どもの育ちにかかわる様々な学問領域の基礎的概念や考え方についての知識を獲得するとともに、子どもと社会との境界で生じる諸問題について学んだ概念を用いて説明することができる。
3	③様々な学問領域を通じた学びから、受講生自身が深めたいテーマを設定する。

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション こども学ゼミⅡの進め方
2	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
3	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
4	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
5	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
6	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
7	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
8	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
9	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
10	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
11	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
12	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
13	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。
14	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援・保健コースおよび個別ゼミそれぞれの教授内容により進めていく。

授業外における学習

各コースおよび所属ゼミの指示に従う。

質問や相談への対応

各コースおよび所属ゼミ教員に相談する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート等	100	各コースおよび所属ゼミ教員の指示に従う。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

所属したコース・ゼミの学習内容を深める。

その他・特記事項

なし

卒業研究

更新日：2023/01/10 08:58:32

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	C5030A	科目コード	C5030
担当教員	太田 光洋, 荒井 聡史, 大南 匠, 前田 泰弘, 尾島 豊, 金山 美和子, 中山 智哉, 安氏 洋子, 山本 直樹, 渡邊 望, 小笠原 明子, 白澤 舞, 宮城 正作						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年通年	曜日/時限	—	単位	4	

キーワード

研究、批判的思考、協同、ディスカッション

授業の概要

子どもの発達と保育・教育に関する自分自身の問題意識に沿ってテーマを設定し、指導教員の指導の下で計画を立て、問題を明らかにするための適切な方法と技術を身につける。資料収集、文献講読、調査等に取り組み卒業研究としてまとめる。また、研究プロセスで相互の研究に触れ、知見を広げると共に自らの課題に対する考察を深める。

到達目標

1	自ら課題を立て、その課題に適切にアプローチするための計画を立て、具体的に遂行できるようになる。また、課題についての考察を進める中で、協同的に課題を解決する態度や批判的思考ができるようになる。
---	---

教授方法

演習

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、研究の進め方
2	各研究テーマに沿った研究計画作成、発表、ディスカッション
3	各研究テーマに沿った研究計画作成、発表、ディスカッション
4	各研究テーマに沿った研究計画作成、発表、ディスカッション
5	構想発表
6	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション
7	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション
8	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション
9	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション
10	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション
11	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク
12	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク
13	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク
14	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク
15	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク
16	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク
17	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション
18	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション
19	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション
20	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション
21	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション
22	調査結果にもとづく論文作成、ディスカッション
23	調査結果にもとづく論文作成、ディスカッション
24	調査結果にもとづく論文作成、ディスカッション
25	完成校作成、卒業論文報告書作成
26	完成校作成、卒業論文報告書作成

27	完成校作成、卒業論文報告書作成
28	卒業論文発表会

授業外における学習

フィールドワーク、調査などのデータを随時整理してゼミ時に報告する。

質問や相談への対応

授業時はもちろん、必要に応じて随時説明する。メールによる質問も同様。ota.mitsuhiro@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	卒業論文の取り組み状況、完成校における問題理解、考察の程度に応じて評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。随時紹介する。			
	なし。随時紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自らの課題解決に向け、アグレッシブに取り組むこと。

その他・特記事項

保育者向け研修や各種審議会委員等の経験を、具体的な課題や問題が帰結のアドバイスに反映し、リアルな課題への対応への考察を深められるよう教授する。

健康発達概論

更新日：2023/01/10 08:56:07

開講年度	2022	学期	1期	シバースト	H1010A	科目コード	H1010
担当教員	中澤 弥子, 太田 光洋, 中山 智哉, 春高 裕美, 杉山 英子, 加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

健康 発達 食 ライフステージ

授業の概要

人間の発達について社会・文化的な文脈の中で身体的、精神的な健康を基盤として生涯にわたって発達するという観点から、各ライフステージに注目して、基礎的な知識を学ぶ。具体的には、社会文化的アプローチから各発達段階における発達の主導的活動、人間関係を中心とする社会的環境の機能と役割について学ぶとともに、発達の基礎をつくる幼児期の教育と環境のあり方、健康発達の基盤となる食と栄養、健康を増進する支援、メンタルヘルスのあり方についてディベートを通じて自身の経験を振り返りながら学びを深める。また、エコロジカルな観点から健康で豊かな発達を保证する地域コミュニティのあり方について考える。

担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。

英語表記「Introduction to Health and Human Development」

到達目標

1	①健康発達についての基本的知識を習得する。
2	②事例にもとづくグループディスカッション等を通し、各発達段階における健康発達を支える要件について理解する。

教授方法

講義を中心とするが、テーマに応じて、身近な事例をもとにしたグループによるディスカッションを取り入れる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	健康発達とは何か (太田)
2	発達と環境 (太田)
3	近年の健康課題①-感染症- (春高)
4	近年の健康課題②-周産期をめぐる諸問題- (春高)
5	乳児期の発達、環境支援のあり方、メンタルヘルス (中山)
6	幼児期の発達、環境と保育、支援のあり方、メンタルヘルス (中山)
7	学童期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)
8	思春期・青年期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)
9	成人期・高齢期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)
10	特別な支援を必要とする人の環境と支援 (加藤)
11	児童・思春期、青年期に多い栄養問題 (杉山)
12	成人期・老年期に多い栄養問題 (杉山)
13	長野県の食と健康 (中澤)
14	長野県のこどもの食と健康、まとめ (中澤)

授業外における学習

- ・各担当者から提示された課題に各自取り組む。
- ・前の授業内容を理解した上で、授業に臨むこと。

質問や相談への対応

オムニバス形式であるため、担当者ごとに質問等は授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	80	授業担当者ごとに評価する。レポート課題等の詳細については授業時に担当者が説明する。
授業態度	20	授業での主体的参加度によって評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	教科書は指定しない。担当者ごとに必要に応じて資料を配付する。			
	担当者ごとに、授業内で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的に課題やディスカッションに取り組むこと

その他・特記事項

オムニバス形式で、授業内容により講義担当者は変わる。担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めるなどの実務経験を有している。

長野県健康社会史

更新日：2023/01/10 08:56:33

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	H1030A	科目コード	H1030
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

長野県 健康長寿 組織づくり

授業の概要

日本の公衆衛生の歴史や健康の考え方の変遷等を基盤として、長野県で展開されてきた健康長寿に向けた活動を学ぶ。健康の定義、公衆衛生の概念、保健医療福祉や組織活動の変遷と、その健康生活を支援する様々な職種の役割を、先人の活躍と共に理解する。授業を通し、長寿県とされる長野県の強み、弱み、これからの課題を知り、自らの専門性と結びつけ発展へつなげる礎を築く。

到達目標

1	・基本となる健康の捉え方・考え方（健康の定義、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション）、公衆衛生の変遷を学ぶ。
2	・長野県の健康長寿に向けた活動の変遷とその特徴が理解できる。
3	・健康や病気が生活に及ぼす影響、健康を支えるための住民組織や活動の変遷を学び、未来に向けた自身の役割について考えることができる。

教授方法

講義、グループワーク・学生発表

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

とくになし

授業計画

1	オリエンテーション 公衆衛生の歴史と健康の考え方
2	公衆衛生の歴史と健康の考え方
3	グループワーク① 病気と差別・偏見の歴史
4	発表① 病気や健康が人々の生活に及ぼす影響 差別・偏見含む
5	長野県の健康の歴史（保健活動）
6	長野県の健康の歴史（保健補導員活動）
7	グループワーク② こどもの健康関係 保健行動関係
8	長野県の健康の歴史（長野県と地域医療）
9	発表② こどもの健康の歴史（政策の変遷、生活リズムの変化など）
10	発表② こどもに関する組織活動の歴史（ボランティア：愛育班 母子保健推進員など）
11	発表② 保健行動（組織活動）の変遷（ボランティア：食生活推進協議会、保健補導員会など）
12	発表② 保健行動（生活習慣）の変遷（減塩活動、運動習慣、睡眠等）
13	グループワーク③ 発表③ 未来に向けた自分たちの役割とは
14	まとめ 自分自身の健康を考えよう

授業外における学習

課題について、調べるための時間や発表準備の時間が必要となる。（適宜授業時間内でも確保する予定）

質問や相談への対応

授業終了時に質問や相談の対応をする。MLを利用する予定。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

最終レポート	30	内容（課題に沿っているか 意見と事実を分けているかなど） 参考文献 期日厳守等は減点対象
グループ発表	70	発表①：20% 発表②：30% 発表③：20% 資料内容 発表内容
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じ資料を提示します			
	必要に応じ紹介します			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

先人の課題解決の方法を学ぶつもりで調べてみてください

その他・特記事項

感染状況に合わせて、長野県立歴史館見学あるいは健康まつりへの参加を検討する。この場合は、一部のグループワークと発表時間を、見学時間と報告に変更する予定

Foundations of English I (H1)

更新日：2023/03/15 09:43:35

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010H	科目コード	L1010
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 1 & 2 (解説&小問)
3	Unit 1 & 2 (練習問題)
4	Unit 3 (解説&小問)
5	Unit 3 (練習問題)
6	Unit 4 (解説&小問)
7	Unit 4 (練習問題)
8	Unit 5 (解説&小問)
9	Unit 5 (練習問題)
10	Unit 6 (解説&小問)
11	Unit 6 (練習問題)
12	Unit 7 (解説&小問)
13	Unit 7 (練習問題)
14	文法&発音確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	40	授業への参加度
課題の提出	20	課題の提出状況
文法確認テスト	30	文法確認テストの成績
発音テスト	10	発音確認テストの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Vitamin G』 CENGAGE Learning			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』 (旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Foundations of English I (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:33

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010I	科目コード	L1010
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

英文法、語彙、発音

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論なども含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション
2	現在形と過去形
3	現在完了形と過去形、 Reading1
4	未来形
5	発音 母音1 単語学習1
6	法助動詞
7	発音 母音2 単語学習2
8	ifとwish
9	Reading2 発音 子音P1
10	受動態
11	間接話法 発音 子音P2
12	疑問文と繰り返しを避ける助動詞
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	60	授業で学んだ事柄を試験で確認。
課題	30	授業で課された宿題の提出。

平常点	10	授業での発表、討論など。
その他		
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方（基礎編）』研究社			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English I (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:34

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1010J	科目コード	L1010
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらに、英英辞典の活用法を学び、文法事項を踏まえて語いを学ぶ態度を養う。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典をある程度活用することができる。

教授方法

毎回各教材の指定範囲の予習を前提として、授業時には教員によるフィードバックや、グループワークによる確認・演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション
2	文法：文の構造と品詞、音声：母音(1-5)
3	文法：動詞と文型、音声：母音(6-10)、Core Reading：第1段落
4	文法：時制、音声：母音(11-14)
5	文法：助動詞、音声：母音(15-19)、Core Reading：第2段落
6	文法：受動態、音声：母音(20-23)
7	文法：Unit 13 動詞相当語句、音声：中間テスト
8	文法：Unit 14 知覚動詞・使役動詞・動詞相当語句、音声：子音(24-26)、Core Reading：第3,4段落
9	文法：中間テスト、音声：子音(27-30)
10	文法：Unit 1 名詞句(1)、音声：子音(31-34)
11	文法：Unit 2 名詞句(2)、音声：子音(35-39)、Core Reading：第5,6段落
12	文法：Unit 3 名詞節(1)、音声：子音(40-44)
13	文法：Unit 4 名詞節(2)、音声：子音(45-48)、Core Reading：第7段落
14	まとめ・期末テスト

授業外における学習

毎回の授業の予習・復習と語彙学習課題。

質問や相談への対応

授業後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	予習・課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。

中間・期末テスト	50	文法、音声、語彙の学習内容の定着度により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Understanding and Using English Syntax (わかって使える英語構文)』朝日出版社 ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方 (基礎編)』研究社 			
	『総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (New Edition)』桐原書店			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし

Basic English Communication I (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:35

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020H	科目コード	L1020
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, listening, email writing, NGSL, conversation

授業の概要

This course teaches English conversation and listening skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading 1. Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics
2	2. write English emails, copy and attach files
3	3. practice reading for fluency
4	4. learn a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary. Students will have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. They will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Introduction, course overview, class policies and procedures
2	Unit 1 It's nice to meet you. Let's get to know each other.
3	Unit 2 Introducing yourself.
4	Unit 3 Exchanging personal information and finding out about your classmates
5	Unit 4 Describing personal appearances and personalities
6	Unit 5 People - Talking about your family and friends Book Talk 1
7	Mini-presentation about your family
8	Free time - Talking about your hobbies and interests
9	Unit 6 Daily activities. Describing your daily routine and schedules
10	Unit 7 Talking about cities and recommending places Book Talk 2
11	Mini-presentation about your hometown
12	Unit 8 Food and drink - Describing eating habits
13	Food around the world - Describing traditional meals
14	Book talk 3 and review

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

The teacher will be available for students before and after class for questions. Students can contact the teacher by email.

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
Speaking & Listening	40%	Speaking and listening assignments and tests
Reading	10%	Fluency reading and talking about books
Writing	40%	English emails and other assignments
NGSL test	10%	80% pass or fail
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			
	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students need to use their English-English dictionary. The working language of the class will be English.

その他・特記事項

Welcome to the University of Nagano.

Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.

Basic English Communication I (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:36

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020I	科目コード	L1020
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn a group of NGSL words
---	--

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, classmates and textbook
2	Unit 1.1, How to study NGSL
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3, Writing Unit
5	Unit 2.1, Writing Unit
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1 Book Talk
12	Unit 4.2, Book Talk
13	Unit 4.3
14	Conversation recording

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
speaking	40%	assignments and recorded conversations
writing	40%	English emails and other assignments

reading	10%	fluency reading and talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication I (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:36

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1020J	科目コード	L1020
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, email writing, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about university life, daily lifestyle, hometown, and travel. Students learn how to write English emails and complete assignments of emailing a university key pal. Extensive reading is introduced, and students begin reading simpler texts to develop reading fluency. Students will study and talk about the ideas in Core Reading I, "The Purpose of a University Education." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics
2	2. write English emails, copy and attach files
3	3. practice reading for fluency
4	4. learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and study NGSL vocabulary. Conversation models from the textbook will be practiced online by students in pairs and in larger groups. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Introduction to Conversations in Class (Alma Publishing) and class goals; self-introductions
2	Unit 1.1: Conversation about hometown; how to write an email; written introductions; how to study NGSL
3	Unit 1.2: Majors, school years, and clubs; book club; Writing Unit: English Emails
4	Unit 1.3: Part-time jobs; writing (ideal future job); Writing Unit
5	Unit 2.1: Group conversation about ideal jobs in the future; conversations about daily routines; Writing Unit
6	Unit 2.2: Conversations about hardest/easiest days of the week; introduce Core Reading
7	Unit 2.3: Conversations about how students spend their time; introduce fluency reading and Xreading site
8	Unit 3.1: Students talk about their hometowns and hometown attractions; book club; Core Reading, Writing Unit
9	Unit 3.2: Students talk about hometown likes and dislikes; Core Reading, book talk
10	Unit 3.3: Students discuss where they would like to live in the future; Core Reading, Writing Unit
11	Unit 4.1: Students talk about travel experiences; book talk and discussion activities
12	Unit 4.2: Discussion of ideas about future travel plans; book talk and discussion activities
13	Unit 4.3: Students plan trip in small groups or pairs - travel assignment;
14	Conversation based on travel assignments; final class conversation recording

授業外における学習

There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation practice outside of class. There will be reading assignments, outside assignments, and email assignments. Fluency reading and vocabulary study are d

質問や相談への対応

If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email. Students can message

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40%	Assignments and recorded conversations
Writing	40%	English emails and other assignments
Reading	10%	Fluency reading and talking about books
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			
	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class. Students should communicate willingly with classmates.

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English II (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:08

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030H	科目コード	L1030
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取るこの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論なども含む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション Foundations of English I の振り返り
2	動名詞と不定詞
3	Reading3 単語学習3
4	冠詞と名詞
5	Reading4 発音 強弱リズム
6	代名詞と限定詞
7	発音 イントネーション 単語学習4
8	関係詞節 発音 基本のチェック
9	形容詞と副詞
10	接続詞と前置詞
11	前置詞
12	句動詞
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後、及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	60	授業で学んだ事柄を試験で確認。
課題	30	授業で課された宿題の提出。

平常点	10	授業での発表、討論など。
その他		
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』研究社			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Foundations of English II (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:09

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030I	科目コード	L1030
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取るこの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

毎回各教材の指定範囲の予習を前提として、授業時には教員によるフィードバックや、グループワークによる確認・演習を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし

授業計画

1	オリエンテーション、1学期の振り返り
2	文法：形容詞句・節、音声：文のストレス
3	文法：Unit 5 形容詞句、音声：単語のアクセント、Core Reading：第1段落
4	文法：Unit 6 形容詞節(1)、音声：音変化(1)
5	文法：Unit 7 形容詞節(2)、音声：音変化(2)、Core Reading：第2段落
6	文法：中間テスト、音声：中間テスト
7	音声：リズム(1)-(3)、Core Reading：第3,4段落
8	文法：副詞句・節、音声：リズム(4)-(8)
9	文法：Unit 8 副詞句(1)、音声：リズム(9)-(11)、Core Reading：第5段落
10	文法：Unit 9 副詞句(2)、音声：イントネーション(1)-(3)
11	文法：Unit 10 副詞節(1)、音声：イントネーション(4)-(6)、Core Reading：第6段落
12	文法：Unit 11 副詞節(2)、音声：イントネーション(7)-(9)
13	文法：Unit 12 副詞節(3)、音声：総合復習、Core Reading：第7段落
14	まとめ・期末テスト

授業外における学習

毎回の授業の予習・復習と語彙学習課題。

質問や相談への対応

授業後に直接声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	予習・課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。

中間・期末テスト	50	文法、音声、語彙の学習内容の定着度により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Understanding and Using English Syntax (わかって使える英語構文)』朝日出版社 ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方 (リズム・イントネーション編)』研究社 			
	『総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (New Edition)』桐原書店			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし

Foundations of English II (H1)

更新日：2023/03/15 09:43:53

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1030J	科目コード	L1030
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英文法、英語音声、語彙

授業の概要

英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英文の構造や展開を正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらに、英英辞典を活用し、文法事項を踏まえて自ら語いを学ぶ力を身につける。

到達目標

1	・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。
2	・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。
3	・英英辞典を使いこなすことができる。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 8 (説明&小問)
3	Unit 8 (練習問題)
4	Unit 9 (説明&小問)
5	Unit 9 (練習問題)
6	Unit 10 (説明&小問)
7	Unit 10 (練習問題)
8	Unit 11 (説明&小問)
9	Unit 11 (練習問題)
10	Unit 12 (説明&小問)
11	Unit 12 (練習問題)
12	Unit 13&14 (説明&小問)
13	Unit 13&14 (練習問題)
14	文法&発音確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	40	授業への参加度
課題の提出	20	課題の提出状況
文法確認テスト	30	文法確認テストの成績
発音確認テスト	10	発音確認テストの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Vitamin G』 CENGAGE Learning			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』 (旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Basic English Communication II (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:10

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040H	科目コード	L1040
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, listening, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation and listening skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II. Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions,
2	2. write a paragraph about their own experience,
3	3. type an English paper,
4	4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	5. study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practice vocabulary. Students have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. Students are asked to give presentations in English, and the teacher gives feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	Introduction
2	Unit 9 Travel and tourism - Describing past trips and discussing famous places
3	Mini-presentation about your most memorable trip
4	Unit 10 Talking about your own country and culture Book Talk 1
5	Mini-presentation about important festivals in your country
6	Unit 11 Famous people - Talking about celebrities and their achievements
7	Unit 12 How do I get there? Asking for and giving directions.
8	Unit 13 Health - Discussing healthy lifestyles Book Talk 2
9	Good advice - Discussing problems and giving advice Paragraph writing
10	Unit 14 Occupations - Talking about types of jobs, job skills and qualifications
11	Discussing your ambitions and future plans
12	Mini-presentation about your future
13	Mini-presentation about your summer holiday
14	Review and Book Talk 3

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

The teacher will be available for students before and after class for questions. Students can contact the teacher by email.

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking & Listening	40%	Presentations and listening tests.
Reading	10%	Fluency reading and talking about books.
Writing	40%	Paragraph writing assignments
NGSL	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			
	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students need to use their English-English dictionary. The working language of the class will be English.

その他・特記事項

Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.

Basic English Communication II (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:11

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040I	科目コード	L1040
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1 make conversation about their lifestyle and opinions,
2	2 write a paragraph about their own experience,
3	3 type an English paper,
4	4 read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	5 study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media
6	Unit 6.3, Core Reading assignment
7	Conversation tests, writing unit
8	Unit 7.1, conversations about food
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3 conversations on food culture
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans
12	Unit 8.2 conversations about life issues
13	Unit 8.3 conversations about life issues
14	conversation recordings

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

speaking	40%	recorded conversations
writing	40%	1-paragraph paper, 2-paragraph paper
reading	10%	fluency reading talking about books
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

willingness to talk with classmates

その他・特記事項

-

Basic English Communication II (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:11

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1040J	科目コード	L1040
担当教員	Trane DeVore						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, conversation, writing a 1-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches English conversation skills and culture so that students can talk about free time, entertainment, food, and their future. Practice in typing English will build English writing fluency and communication skills. Fluency reading assignments increase student reading ability. Students study and talk about the ideas in Core Reading II, "Self-Regulation and Autonomous Learning." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1make conversation about their lifestyle and opinions,
2	2 write a paragraph about their own experience,
3	3 type an English paper,
4	4 read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1,
5	5 study a group of NGSL words

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do typing and writing activities, read easy-to-read books, and practice vocabulary. Conversation models from the textbook will be practiced in class by students in pairs and in larger groups. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. There may also be writing activities related to discussion activities.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to Quarter 2; Unit 5.1; Introduce Xreading assignments; introduce Writing Unit on paragraphs
2	Unit 5.2: Conversation about free time; mind maps for paragraph writing
3	Unit 5.3: Group conversations related to likes and dislikes; writing activity
4	Unit 6.1: Conversations about music; introduce Core Reading
5	Unit 6.2: Conversations about movies, TV, games, manga or other media; students write short Amazon review and share
6	Unit 6.3: Book club; Core Reading activity (the habits of successful people)
7	Conversation tests and student discussion; Writing Unit
8	Unit 7.1: Conversation about favorite and least favorite foods; group research project about food history and culture
9	Unit 7.2: 2-paragraph writing activity
10	Unit 7.3: Conversations about food culture
11	Unit 8.1: Students talk about their near-future plans
12	Unit 8.2: Conversations about life issues
13	Unit 8.3: Conversations about life issues
14	Final conversation recordings; conversation activities; class wrap-up

授業外における学習

There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation exercises outside of class. Students must complete homework and writing assignments on time or there will be penalties. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email. Students can also co

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	Conversations and presentations will be recorded and graded
Writing	40	1-paragraph paper and 2-paragraph typed paper, plus other assignments
Reading	10	Students will read graded readers for fluency and take tests
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			
	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class. Students should be willing to talk with classmates.

その他・特記事項

—

Comprehensive English I (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:12

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050H	科目コード	L1050
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション
2	自己紹介
3	性格についての作文
4	パラグラフの書き方 単語学習1
5	持ち物について話す Reading1
6	住む町についての作文
7	道案内をする 単語学習2
8	Unit1～3復習
9	イベントの計画 Reading 2
10	人助けをしたことについての作文
11	問題解決について話す
12	Unit4～6復習
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。
授業レポート	30	授業で課された宿題の提出。

小テスト	10	授業での発表。
上記以外の授業評価	10	e-learning (10)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	EVOLVE3 ケンブリッジ大学 出版			
	随時授業時に配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Comprehensive English I (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:13

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050I	科目コード	L1050
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。
2	・目の前にある事物や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。
4	・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの基礎力を身に付けるための訓練を行い、英語のプレゼンテーションの簡単なやり方も学習してもらう。

教授方法

授業は演習形式で、授業の前半は、テキストを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、学習方法、評価方法を説明する。）
2	Textbook Unit 1 と イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。
3	Textbook Unit 2 と 英国紹介についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
4	Textbook Unit 3 と 英語のプレゼンテーションのやり方を説明する。
5	Textbook Unit 4 と 日本紹介についてのプレゼンテーション
6	Textbook Unit 5 と 英国の大学についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
7	Textbook Unit 6 と 日本の大学についてのプレゼンテーション
8	Textbook Unit 7 と 英国の教育制度についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
9	Textbook Unit 8 と 日本の教育制度についてのプレゼンテーション
10	Textbook Unit 9 と 英国の食事についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
11	英国の肥満問題についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
12	日本の食事についてのプレゼンテーション
13	ロンドンについての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
14	総括

授業外における学習

毎回、教員から授業中に与えられた課題にしっかり取り組むこと。

予習を十分してから授業に臨むこと。

授業後も復習を最低1時間はすること。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な目標を十分に達成している。【B】 基本的な目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	35%	提出物によって評価する。
英語のプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。
テスト	25%	筆記試験によって評価する。
上記以外の授業評価	10%	e-learning 10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・ Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2			
	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

受講生の積極的な授業参加を期待する。
 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
 遅刻はしないこと。
 予習、復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。遅刻は30分までは出席とみなす。

Comprehensive English I (H3)

更新日：2023/03/09 13:43:45

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1050J	科目コード	L1050
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。

到達目標

1	・300語程度の英文を読み、その内容を正確に読み取ることができる。
2	・目の前にある事物や事実について、英語で正確に表現できる。
3	・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 1 & Unit 2
3	Unit 3
4	Unit 4
5	Unit 5
6	Unit 6
7	Unit 7
8	Unit 8
9	Unit 9
10	Unit 10
11	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
12	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
13	英語スピーチ
14	確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

授業への取り組み	30	授業への参加度
確認テスト	30	確認テストの成績
英語スピーチ	30	英語スピーチの成績
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Reader's Ark Basic』金星堂			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』(旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Academic English Communication I (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:14

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060H	科目コード	L1060
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write topic sentences, supporting sentences for an outline, 3
4	write a 2-paragraph paper, 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
speaking	35%	recorded group discussions
writing	45%	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:15

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060I	科目コード	L1060
担当教員	Keff Kenner						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a 2-paragraph paper, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support, and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write topic sentences, supporting sentences for an outline, 3
4	write a 2-paragraph paper, 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3, Writing Unit
7	Unit 3, Writing Unit
8	Unit 3, Writing Unit
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4, Writing Unit
13	Unit 4
14	Unit 4

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
Speaking	35%	recorded group discussions
Writing	45%	write a 2-paragraph paper, Core Reading assignments and other assignments
Reading	10%	fluency reading
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication I (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:16

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1060J	科目コード	L1060
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, write a report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. Students learn about paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) and write one paper describing an event and one describing a place. Fluency reading continues. Students study and discuss the ideas in Core Reading III, "Willingness to Communicate." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write topic sentences, supporting sentences for an outline, 3
4	write a 2-paragraph paper, 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to class, Unit 1 (The effects of advertising), What is discussion? assignment explained
2	Unit 1 (The effects of advertising) readings + discussion preparation, What is discussion? Practice discussion
3	Unit 1 (The effects of advertising) readings + discussion preparation, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report
4	Unit 1 (The effects of advertising) discussions + Writing unit
5	Unit 1 discussion test, Writing unit
6	Unit 3 (Our aging population) readings and discussion preparation + Writing Unit
7	Unit 3 (Our aging population) readings and discussion preparation + Writing Unit
8	Unit 3 (Our aging population) discussions
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit
12	Unit 4 (Robots in the Home) readings and discussion preparation + Writing Unit
13	Unit 4 (Robots in the Home) readings and discussion preparation
14	Unit 4 (Robots in the Home) discussions

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
discussion	40%	recorded group discussions
writing	40%	write a 2-paragraph paper, Core Reading assignments and other assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Comprehensive English II (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:17

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070H	科目コード	L1070
担当教員	中澤 はるみ						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

演習型のインターラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	オリエンテーション Comprehensive English I の振り返り
2	音楽、TV番組について話す
3	映画についての作文
4	パラグラフからプレゼンテーションへ
5	時間の使い方について考える 単語学習3
6	大学の授業について話す
7	ビジネス文書を書く 単語学習4
8	Unit7～9 復習
9	様々な職業について話す
10	金銭感覚について考える
11	尊敬する人物についての作文
12	人生経験について話す Unit10～12 復習
13	総括
14	総復習確認テスト

授業外における学習

十分な予習復習を行う。

質問や相談への対応

授業で前後及びメールでの対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	授業で学んだ事柄を試験で確認
授業レポート	30	授業で課された宿題の提出

小テスト	10	授業での発表
上記以外の授業評価	10	e-learning (10)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	EVOLVE3 ケンブリッジ大学 出版			
	随時授業時に配布する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

特になし。

Comprehensive English II (H2)

更新日：2023/01/10 08:56:18

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	L1070I	科目コード	L1070
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで、自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについての英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。
4	・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの力を更にレベルアップしてもらう。

教授方法

授業は演習形式で、授業の前半は、テキストやプリントを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	Textbook Unit 10 と 「英国女性の足跡」の記事の講読（内容確認）
2	Textbook Unit 11 と 「英国女性の足跡」の記事の内容についての英語によるディスカッション
3	Textbook Unit 12 と 「現代英国女性の開放度」の記事の講読（内容確認）
4	Textbook Unit 13 と 「現代英国女性の開放度」の記事の内容についての英語によるディスカッション
5	Textbook Unit 14 と 英国王室についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
6	英国王室の記事の内容についての英語によるディスカッションと英国の王室と日本の皇室を英語で比較する。
7	英国の主なフェスティバルについての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
8	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 1
9	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 2
10	英国のクリスマスの記事の講読（内容確認）
11	英国のクリスマスの記事の内容についての英語によるディスカッション
12	国際結婚についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）
13	理想の結婚についてのプレゼンテーション
14	総括

授業外における学習

毎回、教員から授業中に与えられた課題にしっかり取り組むこと。

予習を十分してから授業に臨むこと。
授業後も復習を最低1時間はすること。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な目標を十分に達成している。【B】基本的な目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	35%	提出物によって評価する。
英語によるプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。
テスト	25%	筆記試験によって評価する。
上記以外の授業評価	10%	e-learning 10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2			
	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

受講生の積極的な授業参加を期待する。
 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
 予習、復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、忌引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。

Comprehensive English II (H3)

更新日：2023/03/09 13:42:14

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1070J	科目コード	L1070
担当教員	岡 秀亮						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英文でまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。

到達目標

1	・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。
2	・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。
3	・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。

教授方法

主として対面授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	Unit 11
3	Unit 12
4	Unit 13
5	Unit 14
6	Unit 15
7	Unit 16
8	Unit 17
9	英語スピーチの解説(計画と練習を含む)
10	英語スピーチの計画と練習
11	英語スピーチ
12	英語スピーチ
13	英語スピーチ
14	確認テストとまとめ

授業外における学習

【事前学習】教科書の予習課題にしっかり取り組むこと

【事後学習】教員から出された課題にしっかり取り組むこと

質問や相談への対応

専門に関する質問や相談は、いつでも受け付けています。

相談内容やスケジュールなどに応じて、実施方法を決めます(例. 対面、Zoom、メール)。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

授業への取り組み	30	授業への参加度
確認テスト	30	確認テストの成績
英語スピーチ	30	英語スピーチの成績
e-learning	10	e-learningの成績
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Reader's Ark Basic』金星堂			
	『ロイヤル英文法 改訂新版』(旺文社)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業に積極的に参加しましょう。わからないところや疑問に思ったことはいつでも質問をしてください。

その他・特記事項

全授業の3分の1を欠席した学生には、単位を認定しません。特別な事情によって欠席をした場合は、必ず所定の手続きをとった上で、報告してください。

Academic English Communication II (H1)

更新日：2023/01/10 08:56:20

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080H	科目コード	L1080
担当教員	Miguel Alberto Mision						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3
4	cite sources in a report 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit an essay, Outline assignment
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit Thesis Statements
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
speaking	35%	discussion skills
writing	45%	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (H2)

更新日：2023/03/08 16:14:43

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080I	科目コード	L1080
担当教員	Keff Kenner						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussions in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3
4	cite sources in a report 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn a level-appropriate group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities, and practice vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	-
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	-

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7, practice discussion with new phrases
2	Unit 7, Writing Unit
3	Unit 7, Writing Unit
4	Unit 7, practice discussion with new phrases
5	Unit 7, Writing Unit
6	Unit 7, discussion test
7	Writing Unit
8	Unit 8, Writing Unit
9	Unit 8, Writing Unit
10	Unit 8, Writing Unit
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
Speaking	35%	Speaking Tests (recorded discussions)
Writing	45%	a 3-paragraph report about an advertisement which cites sources, Core Reading assignments
Reading	10%	fluency reading and quizzes
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	-			
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1	Cambridge University Press	2014	
	-			

参考書・参考資料等

-

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication II (H3)

更新日：2023/01/10 08:56:21

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1080J	科目コード	L1080
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, writing a 3-paragraph report, NGSL

授業の概要

This course teaches group discussion skills in which students support and exchange opinions on academic topics. A writing unit teaches how to gather information from websites, cite sources, and write a 3-paragraph report. Fluency reading continues. Students study and discuss ideas from Core Reading IV, "Communication with People of Other Cultures." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1
2	participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2
3	write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3
4	cite sources in a report 4
5	continue fluency reading, and 5
6	learn the third group of words of the NGSL

教授方法

Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation, practice discussion with new phrases
2	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
3	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
4	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) readings and discussion preparation + Writing Unit
5	Unit 7 (Online advertising: Making our lives better) discussions
6	Writing Unit
7	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
8	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
9	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
10	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) readings and discussion preparation + Writing unit
11	Unit 8, Writing Unit (Winning at any cost) discussions
12	Core Reading Assignment A discussion
13	Core Reading Assignment B discussion
14	Core Reading Assignment C discussion

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
discussion	40%	multiple recorded discussions with demonstration of appropriate discussion phrases and skills
writing	40%	a 3-paragraph report about an advertisement which cites sources, Core Reading assignments
reading	10%	fluency reading
vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and actively participate in discussions.

その他・特記事項

-

Comprehensive English III (C2)

更新日：2023/01/10 08:56:25

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090H	科目コード	L1090
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。
4	・自分の意見をプレゼンテーションで表現と練習することができる。

教授方法

テキストに基づいて読解・リスニング・文法・音読の演習を行い、NGSL2401-2801の語いを修得することで、総合的な英語能力を高める。300語の英語エッセイを書き、プレゼンテーション動画を作成することで英語による発信力も養う。また、幼児の心理発達に関する英文の要約を行う。こども学科の皆さんが英語を学ぶ意義についての講義も行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業に関する説明、 Core Reading (1)、文法の復習、語彙学習についての説明と NGSL 小テスト (1)
2	テキスト Unit 1 、 Core Reading (2)、 NGSL 小テスト (2)
3	テキスト Unit 2 、 Core Reading (3)、 NGSL 小テスト (3)
4	テキスト Unit 3 、 Core Reading (4)、 NGSL 小テスト (4)
5	テキスト Unit 4 、エッセイライティングについて (1)、 NGSL 小テスト (5)
6	テキスト Unit 5 、エッセイライティングについて (2)、 NGSL 小テスト (6)
7	テキスト Unit 6 、プレゼンテーションの技術とディスカッションの表現と練習 (1)、 NGSL 小テスト (7)
8	テキスト Unit 7 、プレゼンテーションの技術とディスカッションの表現と練習 (2)、 NGSL 小テスト (8)
9	海外の幼保事情と英語を学ぶ意義について
10	テキスト Unit 9 、ディスカッションの表現と練習 (3)、 NGSL 小テスト (9)
11	テキスト Unit 10 、ディスカッションの表現と練習 (4)、 NGSL 小テスト (10)
12	テキスト Unit 11 、ディスカッションの表現と練習 (5)、 NGSL 小テスト (11)
13	テキスト Unit 12 、ディスカッションの表現と練習 (6)、 NGSL 小テスト (12)
14	テキスト Unit 13 、ディスカッションの表現と練習 (7)、 NGSL 小テスト (13)

授業外における学習

指示された予習・復習を必ず行い、NGSL課題にしっかりと取り組んでください。また、期限までにライティングやプレゼンテーションの課題を提出すること。

質問や相談への対応

質問や相談は授業の時でも受けますし、e-mailでも、アポイントを取ってもらってZoomで行うことも出来ます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験（面接）	20	プレゼン動画に基づく英語の口頭試問
授業レポート	30	300語エッセイの出来栄え20%、幼保英語要約10%
プレゼンテーション動画	20	プレゼン動画の出来栄え
上記以外の授業評価	30	NGSL小テストの総計20%、テキストの音読10%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『CLIL 英語で考えるSDGs—持続可能な開発目標』（三修社）			
	プリントかファイルで配布します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業外でもたくさん英語に接して下さい。

その他・特記事項

特になし

Comprehensive English III (C1)

更新日：2023/01/10 08:56:27

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1090J	科目コード	L1090
担当教員	福岡 真知子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能

授業の概要

世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。

到達目標

1	・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。
2	・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。
3	・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。
4	・NGSL第5段階 (No.2401-2801) の語彙を正しく運用することができる。
5	・将来、現場で活かせる英語力の基礎固めが確実になり、応用に入る段階に達する。

教授方法

多様な教材と学習方法を利用し、語彙・表現の習得、Shadowing・Rapid Reading・Dictation、Phonics定着訓練、Discussion・Speech Presentation、専門分野の読解、Essay Writing の基礎固めをする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に無し

授業計画

1	授業ガイダンス (シラバス・学習方法と内容などの確認). アンケート. Self-Introduction. テキストA : Core Reading: Making the Most of Your Study Abroad に導入。(※以下の内容は、基本的な予定です。適宜、調整・変更します。)
2	①NGSL, 復習. ②Activity (Greeting & Songs). ③Reading & Discussion (以下R & D): テキストA. ④Listening, Rapid Reading, Discussion & Writing (以下L, RR, D & W): テキストB. ⑤ 幼保英語 (以下CE): テキストC. ⑥Q & A.
3	①, ②Activity (ABC & Number Songs). ③R & D: Fundamental Essay (配布教材, 以下FE) (1). ④L, RR, D & W: テキストB (各回2課の予定). ⑤CE: テキストC (各回4課の予定). ⑥Q & A.
4	①, ②Activity (Phonics). ③R & D: FE (1). ④L, RR, D & W: テキストB. ⑤CE: テキストC. ⑥Q & A.
5	①, ②Activity (Phonics). ③R & D: FE (2). ④L, RR, D & W: テキストB. ⑤CE: テキストC. ⑥Q & A.
6	①Review. ③~⑤のテキスト・教材とNGSL(No.2401-2600)の中間試験. ⑥Q & A. ⑦Presentation, Presentation Script & Essay Writing の学び.
7	①, ②Activity (Mother Goose). ③R & D: FE (3). ④L, RR, D & W: テキストB. ⑤CE: テキストC. ⑥Q & A.
8	①, ②Activity (Mother Goose). ③R & D: FE (4). ④L, RR, D & W: テキストB. ⑤CE: テキストC. ⑥Q & A.
9	海外の幼保事情と英語を学ぶ意義について
10	①, ②Activity (Japanese Folklores). ③R & D: FE (5). ④L, RR, D & W: テキストB. ⑤CE: テキストC. ⑥Q & A.
11	①, ②Activity (Japanese Old Tales). ③R & D: FE (5). ④L, RR, D & W: テキストB. ⑤CE: テキストC. ⑥Q & A.
12	①, ②Activity (Grimm's Fairy Tales). ③R & D: FE (6). ④L, RR, D & W: テキストB. ⑤CE: テキストC. ⑥Q & A.
13	①テキストの総復習. ③~⑤のテキスト・教材とNGSL (No.2601-2801)の試験. ②発表練習. ⑥Q & A. ⑦Essay Writing & Presentation Script のPeer Edit.
14	⑦Presentationと Presentation Script & Essay 提出. ②Activity 発表. ⑨講評. ⑩フォロー.

授業外における学習

予習・復習は必須。語彙学習、発表準備、提出課題に取り組むこと。

質問や相談への対応

授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	35	2回の試験で到達目標達成度を評価
Writing	25	英文を読み既定の形式で論理的に書いたEssay と概要発表Script を評価
Presentation	20	Essay の概要発表とActivity 発表を評価
上記以外の授業評価	20	音読、Discussion など授業への参加・活動・貢献度と予習状況を評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テキスト A: English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook, pp.60-63. テキスト B: 『CNN English Express』編集部編『大学生のためのCNNニュース・リスニング：SDGs 編』(朝日出版社, 2022). テキスト C: 宮田学編、高橋妙子著『保育英語の練習帳』(萌文書林, 2018). および 配布教材。			
	『ジーニアス英和辞典』(大修館書店)、『新編 英和活用大辞典』(研究社)、『幼保英検2級テキスト(改訂版)』(ブックフォレ)			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

予習復習は必須です。将来役立つ英語力をつけるよう、授業に積極的に取り組んでください。ポータルを通じたお報せに注意。配布資料のダウンロードを。提出はメールで。

その他・特記事項

特に無し

Academic English Communication III (C1)

更新日：2023/01/10 08:56:23

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100I	科目コード	L1100
担当教員	Keff Kenner						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, presentation skills, NGSL

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the urban/rural divide in Japan and propose solutions for local redevelopment. Students study and discuss ideas in Core Reading V, "Making the Most of Your Study Abroad." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to (1) outline a presentation,
2	(2) use academic presentation language for individual and group presentations,
3	(3) discuss urban and rural issues,
4	and (4) learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities, and practice vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics
6	Core Reading II discussion, use NGSL
7	Introduce urban/rural unit, review citing sources for Presentation B Planning Sheet
8	Presentation B done in destination groups, Urban/rural unit
9	Urban/rural unit, Introduction to Presentation C, groups talk prepare for presentation, use NGSL
10	Urban /rural unit, groups prepare Presentation C
11	Urban/rural unit, Presentation Phrases practice
12	Urban/rural unit, Presentation C planning
13	Presentation C rehearsal, NGSL test
14	Presentation C

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

Presentations	50%	Core Reading and other assignments
Discussion	15%	Urban and Rural Unit discussion and assignments
4 Skills	25%	Core Reading and other assignments
Vocabulary	10%	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and participate in class discussions.

その他・特記事項

-

Academic English Communication III (C2)

更新日：2023/03/15 05:11:11

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1100J	科目コード	L1100
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, discussion, presentation skills, NGSL

授業の概要

This course teaches language and skills for academic presentations (individual and group) that may be used in the overseas program. Students will research and discuss the urban/rural divide in Japan and propose solutions for local redevelopment. Students study and discuss ideas in Core Reading V, "Making the Most of Your Study Abroad." Students will study NGSL words at their level independently.

到達目標

1	Students will be able to, 1. outline a presentation,
2	2. use academic presentation language for individual and group presentations,
3	3. discuss urban and rural issues,
4	and 4. learn a group of NGSL words.

教授方法

Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practice vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity
4	Present Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading
5	Core Reading discussion 1, destination groups decide theme and individual topics
6	Core Reading discussion 2, use NGSL
7	Introduce urban/rural unit, review citing sources for Presentation B Planning Sheet
8	Presentation B done in destination groups, Urban/rural unit
9	Urban/rural unit, Introduction to Presentation C, groups prepare for presentation, use NGSL
10	Urban/rural unit, groups prepare Presentation C
11	Urban/rural unit, Presentation Phrases practice
12	Urban/rural unit, Presentation C planning
13	Presentation C rehearsal, NGSL test
14	Presentation C

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Presentations	50	3 presentations, outline assignments
Discussion	15	Urban and Rural Unit discussion and assignments
4 skills	25	Core Reading and other assignments
Vocabulary	10	NGSL test
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
Required	In Focus, Student Book 1	Cambridge University Press		
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Prepare for every class and participate in class discussions.

その他・特記事項

-

Career English for Global Mobility I (C1)

更新日：2023/01/10 08:56:32

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1130B	科目コード	L1130
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

幼保英語、TOEIC L&R、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修に資するために、幼児教育に関する基本的な事柄を英語で理解し、発信するために必要な読解力・語彙力を身につける。また、TOEIC L&Rにおいてスコア500点台から600点台のスコアを取得し得る英語力を目標として、必要なツールや教材を活用する自律学習の姿勢を身につける。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
2	・ eLearning教材等を計画的に活用し、自律学習の姿勢を養う。
3	・ 幼保英語の基本的な表現を理解し運用できる。

教授方法

eLearningを自主的に活用のうえ、ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、受講生の積極的なアウトプットが求められる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス: シラバスおよびeLearning(ALC), 『TOEIC L&R TEST 英単語スピードマスター』(英単語スピマス)、『幼保英語検定 2021年度秋季準1級検定問題』(幼保英検問題)、『保育英語の練習帳』(練習帳)の使い方
2	幼保英検問題の演習(1)、練習帳L1-6
3	TOEIC対策ALC.500_Part 1-2(U1-5), Part 5(U17-19), 練習帳L7-8
4	TOEIC対策ALC.500_Part 2(U6-10), Part 5(U20-22), 練習帳L9-10
5	TOEIC対策ALC.500_Part 3(U9-11), Part 6(U23-24), 英単語スピマス語彙テスト(1)
6	幼保英検問題の演習(2)、練習帳L11-16
7	確認テスト(1)と解説
8	幼保英検問題の演習(3)、練習帳L17-22
9	TOEIC対策ALC.500_Part 3-4(U12-14), Part 7(U25-26), 英単語スピマス語彙テスト(2)
10	TOEIC対策ALC.500_Part 4(U15-16), Part 7(U27-28), 練習帳L23-24
11	幼保英検問題の演習(4)、練習帳L25-30
12	確認テスト(2)と解説
13	TOEIC L&Rの総合問題と解説, 英単語スピマス語彙テスト(3)
14	eLearningノート整理と交換(授業終了時に提出)

授業外における学習

毎回の授業内容について、指定教材を中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。eLearningは、授業内容と連動させるため指示された順番とスケジュールで概ね取り組むこと。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
語彙テスト	15	指定語彙の習熟度を評価

eLearning(ALC)	10	指定された条件下でのeLearningの取り組みを評価
eLearningポイント整理	15	振り返り学習の過程および成果を評価
確認テスト	60	TOEIC L&Rおよび
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	<ul style="list-style-type: none"> 『幼保英語検定 2021年度 秋季準1級検定問題』[県大生協で予約販売] TOEIC(R)L&R TEST英単語スピードマスター (第3版) (Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744) 『保育英語の練習帳』(宮田,高橋、萌文書林、ISBN: 978-4893471932)...1学期Comprehensive III (C1)で指定された幼保英語のテキスト 			
	<ul style="list-style-type: none"> 『幼保英語検定準1級[新版]』(一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会, ブックフォレ) 			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

2023年2月および将来におけるTOEIC L&Rの受験を見据え、授業期間終了後の自学習を充実させるために必要な学習サイクルを身につけてください。またTOEIC以外にも幼保英検など他の英語資格にも興味を持ちましょう。

その他・特記事項

教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。試験等では対面参加が必要な場合がある。参考書は、図書館等で参照の上、幼保英検を受験することになったら、購入を検討してください。(旧版を間違えて買わないように注意)

Career English for Global Mobility I (C2)

更新日：2023/01/10 08:56:32

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1130C	科目コード	L1130
担当教員	福岡 真知子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、幼保英語

授業の概要

専門科目の学修に資するために、幼児教育に関する基本的な事柄を英語で理解し、発信するために必要な読解力・語彙力を身につける。また、TOEIC L&R においてスコア500点台から600点台のスコアを取得し得る英語力を目標として、必要なツールや教材を活用する自律学習の姿勢を身につける。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて500点以上を取る実力が身についている。
2	・ E-learning を活用し、計画的な学習サイクルを構築できている。
3	・ 幼児教育・保育関係の英文の読解と英語による情報や意見の交換がおおむねできるようになる。
4	・ 幼保英検2級合格に向けて計画的に学習を進め、語彙力・読解力を高めることができている。

教授方法

予習とE-learningを前提に、TOEIC® L&R に必須の語彙をマスターするように学習を進め、各パートの演習を積み重ねる。加えて、専門的な文や情報に触れて読解、Discussion、Writing を行なうとともに、幼保英検2級合格を目指して、実用的な語彙力をつけ、Listening力と現場での運用能力を養う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業ガイダンス (シラバス・学習方法・内容・語彙テスト・E-learningなどの確認)、Self-introduction、アンケート。(※以下の内容は、予定です。適宜、調整します。)
2	①幼保英検ガイダンス、②テキストB (入園関係)、③語彙力増強 (テキストC、略称「英単語スピマス」の学習)、④テキストA (Unit 1)。
3	①専門的資料 (配布教材) の読解とDiscussion、②テキストB (入園関係)、③語彙力増強、④テキストA (Unit 1)。
4	①専門的資料の読解とDiscussion、②テキストB (入園関係)、③語彙力増強、④テキストA (Unit 1)。
5	①語彙テスト(1)、②テキストB (案内、紹介)、③語彙力増強、④テキストA (Unit 2)。
6	①専門的資料の読解とDiscussion、②テキストB (遊び)、③語彙力増強、④テキストA (Unit 2)。
7	①復習、②テキストA・Bと資料についての中間試験、③テキストB (登園・降園、感情)、④語彙力増強。
8	①専門的資料の読解とDiscussion、②テキストB (保育者の仕事)、③語彙力増強、④テキストA (Unit 3)。
9	①語彙テスト(2)、②テキストB (保育者の仕事)、③語彙力増強、④テキストA (Unit 3)。
10	①専門的資料の読解とDiscussion、学び発表準備、②テキストB (食事)、③語彙力増強、④テキストA (Unit 4)。
11	①読解とDiscussion から得た学びの発表、②テキストB (食事)、③語彙力増強、④テキストA (Unit 4)。
12	①テキストB (連絡帳、コミュニケーション)、②語彙力増強、③テキストA (Unit 5)。
13	①語彙テスト(3)、②テキストB (けがと病気)、③テキストA (Unit 5)、④E-learning。
14	①復習、②テキストA・Bの期末試験、③講評、フォロー、④ノート提出、⑤E-learning。

授業外における学習

予習・復習は必須。7/26 までに E-learning 『500点コース』 Stage 2, 3, レビューを100% に。8/6 までに同コースのハーフサイズ模試JT03-06 を各50～70分取り組み、進捗率100%に。

質問や相談への対応

授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
試験	40%	筆記試験で到達目標達成度を評価
ノート	15%	テキストA・Bの予習・授業ノートを評価
授業内活動・貢献	20%	授業への参加・活動・貢献度と発表を評価
上記以外の授業評価	25%	E-learning 10%、語彙テスト 15% (学科共通)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	配布資料、及び、テキストA: Progressive Strategy for the TOEIC® L&R Test (成美堂, 2022)、テキストB: 『保育の英会話』 (萌文書林, 2021)、テキストC (学科共通教材): 『TOEIC® L&R TEST 英単語スピードマスター』 (Jリサーチ出版, 2021)。			
	『リーダーズ英和辞典』 (研究社)、『ジーニアス英和辞典』 (大修館書店)、ETS 『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集』、幼児教育・保育英語検定協会 『幼保英検2級テキスト (改訂版)』 (ブックフォレ, 2020)。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・予習・復習は必須です。将来役立つ英語力をつけるよう、授業に積極的に取り組んでください
- ・ポータルのお報せに注意し、配布資料のダウンロードを。
- ・課題提出はメールで。

その他・特記事項

授業内試験については、一部、対面実施をすることがあります。

Career English for Global Mobility II (C1)

更新日：2023/01/10 08:56:30

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1160B	科目コード	L1160
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

幼保英語、TOEIC L&R、ビジネス英語

授業の概要

専門科目の学修に資するために、幼児教育に関する基本的な事柄を英語で理解し、発信するために必要な読解力・語彙力を身につける。また、TOEIC L&Rにおいて600点から700点台のスコアを取得し得る英語力を目標として、必要なツールや教材を活用する自律学習の姿勢を身につける。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
2	・ eLearning教材等を計画的に活用し、自律学習の姿勢を養う。
3	・ 幼児教育の英語論文を読んで意見を述べられる。

教授方法

eLearningを自主的に活用するうえ、ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、受講生の積極的なアウトプットが求められる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス: シラバスの説明、eLearning(ALC)、幼児教育入門論文等の紹介
2	TOEIC対策ALC.600_Part 1(U1-3), Part 5(U23-25), 幼児教育入門論文講読(1)
3	TOEIC対策ALC.600_Part 1(U4-6), Part 5(U26-28), 幼児教育入門論文講読(2)
4	TOEIC対策ALC.600_Part 2(U7-9), Part 6(U29), 幼児教育入門論文講読(3)
5	TOEIC対策ALC.600_Part 2(U10-12), Part 6(U30), 幼児教育入門論文講読(4)
6	TOEIC対策ALC.600_Part 3(U13-14), Part 7(U31), 幼児教育入門論文講読(5)
7	TOEIC対策ALC.600_Part 3(U15-16), Part 7(U32), 幼児教育入門論文リアクションペーパー作成(1)
8	TOEIC対策ALC.600_Part 4(U17-18), Part 7(U33), 幼児教育入門論文リアクションペーパー作成(2)
9	幼児教育入門論文リアクションペーパー作成(3), プレゼン準備
10	幼児教育入門論文に関するプレゼンテーション
11	TOEIC対策ALC.600_Part 4(U19-20), Part 7(U34)
12	TOEIC対策ALC.600_Part 4(U21-22), Part 7(U35)
13	TOEIC対策ALC.600_Part 7(U36-37)
14	確認テストと解説

授業外における学習

毎回の授業内容について、指定教材を中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。eLearningは、授業内容と連動させるため指示された順番とスケジュールで概ね取り組むこと。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
語彙テスト	15	指定語彙の習得度を評価する
eLearning(ALC)	12	指定された条件下でのeLearningの取り組みを評価

定期テスト	20	TOEIC L&R-IPテストにおける得点を評価
その他	53	確認テスト(30%), eLearningポイント整理(ノート作成)(13%), リアクションペーパー(6%), プレゼンテーション(4%)
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・ TOEIC(R)L&R TEST英単語スピードマスター (第3版) (Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744)			
	・ 『保育英語の練習帳』(宮田,高橋、萌文書林、ISBN: 978-4893471932)...1学期Comprehensive III (C1)で指定された幼保英語のテキスト			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

2023年2月および将来におけるTOEIC L&Rの受験を見据え、授業期間終了後の自学習を充実させるために必要な学習サイクルを身につけてください。またTOEIC以外にも幼保英検など他の英語資格にも興味を持ちましょう。

その他・特記事項

教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。試験等では対面参加が必要な場合がある。

Career English for Global Mobility II (C2)

更新日：2023/01/10 08:56:30

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1160C	科目コード	L1160
担当教員	福岡 真知子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

TOEIC、幼保英語

授業の概要

専門科目の学修に資するために、幼児教育に関する基本的な事柄を英語で理解し、発信するために必要な読解力・語彙力を身につける。また、TOEIC L&R において600点から700点台のスコアを取得し得る英語力を目標として、必要なツールや教材を活用する自律学習の姿勢を身につける。

到達目標

1	・ TOEIC L&Rにおいて600点以上を取る実力が身についている。
2	・ 上記の達成のために、自律的・計画的にE-learning を十分に活用することができる。
3	・ 幼児教育・保育関係の英文の読解に習熟し、専門関係の英語による情報や意見の交換、園児の保護者との英語によるやりとりができるようになる。
4	・ リスニング力、語彙力、読解力ともに、幼保英検2級に合格する実用的英語力をつけている。

教授方法

予習を前提に、TOEIC® の語彙学習と演習と E-learning を重ねて、実用的な英語力を養う。また、幼保関係の語彙、表現、聴解、文書読解と作成、コミュニケーションに習熟するよう、Dictation、Shadowing、Memorization、Listening、Writing、Pair Workを積み重ねていく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	①オリエンテーション (シラバス・学習方法・E-learning・語彙テスト等の確認)。②テキストA (2学期の続きから)。③幼保英検の振り返り。④テキストB (症状、医療機関、救急処置)。 (*以下の内容は、予定です。適宜、調整します。)
2	①テキストA (Unit 6)。②Activity。③テキストB (電話、連絡)。④語彙力増強 (英単語スピマス)。
3	①テキストA (Unit 7)。②Activity。③テキストB (行事、お知らせ)。④語彙力増強。⑤E-learning。
4	①テキストA (Unit 8)。②Activity。③テキストB (乳児と発達)。④語彙力増強。⑤語彙テスト(1)。
5	①テキストA (Unit 8)。②Activity。③テキストB (母子手帳、乳児保育、手紙)。 *12/9までにE-learning 『600点コース』 ハーフサイズ模試JT03, 04 各々50~70分 (100% 進捗)、かつ正答率60%を1回以上達成。
6	①テキストA (Unit 9)。②Activity。③テキストB (祝福、感謝)。④語彙力増強。
7	①復習。②テキストA・Bの中間試験。③テキストA (Unit 9)。④E-learning。
8	①テキストA (Unit 9-10)。②Activity。③幼保英検等演習 (以下、幼保演習)。④語彙力増強。⑤語彙テスト(2)。
9	①テキストA (Unit 11)。②幼保演習。③Writing (入園時連絡、連絡帳、行事招待状、e-mail)。 *1/9までにE-learning 『600点コース』 Stage 3、レビュー学習 各々進捗率100%達成。
10	①テキストA (Unit 12)。②Activity。③Writing 課題提出。④語彙力増強。
11	①テキストA (Unit 13)。②幼保演習。③語彙力増強。
12	①テキストA (Unit 14)。②幼保演習。③語彙テスト(3)。④E-learning。
13	①復習。②テキストAの試験。③テキストA (Unit 15: Mini Test)。
14	①口頭試験 (Presentation)。②ノート提出。③講評とフォロー。 *1/26 までにE-learning 『600点コース』 ハーフサイズ模試JT05, 06 各々50~70分、進捗率100% に。かつ、正答率を各々60% 達成。

授業外における学習

予習・復習は必須。コツコツと語彙力、リスニング力をつけましょう。E-learning に取り組み、進捗率100%を達成を。

質問や相談への対応

授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
試験	35%	筆記試験とPresentationの結果を評価
授業活動	13%	ノート（予習と授業メモ）、授業内活動・貢献を評価
語彙テストと課題	20%	語彙テスト15%、Writing 課題5%
上記以外の授業評価	32%	TOEIC L&R のスコア20%、 E-learning 12%
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テキストA：Progressive Strategy for the TOEIC® L&R Test (成美堂)、テキストB：『保育の英会話』（萌文書林）、テキストC：『TOEIC® L&R TEST 英単語スピードマスター』（Jリサーチ出版) [以上は2学期のCareer English for Global Mobility I (C2) と同じ]、及び配布資料			
	[2学期の参考書と同じ] 『リーダーズ英和辞典』（研究社）、『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）、ETS 『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集』、『幼保英検2級テキスト（改訂版）』（幼児教育・保育英語検定協会）。その他、授業内で適宜紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・予習復習は必須です。将来役立つ英語力をつけるよう、授業に積極的に取り組んでください。
- ・ポータルを通じたお知らせに注意。配布資料のダウンロードを。課題提出はメールで。
- ・E-learning を計画的に十分に活用しましょう。
- ・目標達成に向けて、TOEIC® 600点以上と幼保英検2級に合格する力をつけるよう、全員で学習を進めましょう。

その他・特記事項

授業内試験については、一部、対面実施することがあります。

フランス語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:32

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L1170A	科目コード	L1170
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	一	単位	1	

キーワード

フランス語、フランス文化

授業の概要

フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする。まず発音記号、綴りと発音を学び、フランス語特有の母音や綴りに慣れる。次に日常的な会話表現を学んでゆく。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で名詞・形容詞・所有形容詞・冠詞およびその性数、規則動詞と代表的な不規則動詞の変化を学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。

到達目標

1	フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする
---	--

教授方法

授業は演習形式。宿題を課し、授業中に答え合わせをする。

予習を前提に、授業では発音の練習、例文のロールプレイ、練習問題などを通じて、できるかぎり授業中にフランス語を運用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	発音記号、綴りと発音
2	挨拶、別れの挨拶
3	自己紹介、挨拶（夕方）
4	ある人についてたずねる（1）、名前の綴り
5	名前・職業・住所についてたずねる・言う
6	自分の仕事について話す
7	やりたい職業を言う
8	国籍をたずねる、何語を話すか言う（1）
9	ある人についてたずねる（2）、知らないという
10	何かを示す、何語を話すか言う（2）
11	好きなものを言う、好き嫌いの程度を言い表す（物について）
12	どちらが好きか言う何をするのが好きか言う
13	好き嫌いの程度を言い表す（行動について）
14	したいことについて話す好みを説明する

授業外における学習

適宜予習や復習を課す。

質問や相談への対応

他の受講生の参考になるので、質問がある場合はできるだけ授業中に質問すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	授業で学んだ表現を正しい発音および文法で運用できること
小テスト	30	単語の意味および綴りと発音の関係が理解できていること

平常点	30	宿題、授業態度、など
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	斉藤昌三, 『<<新版>> ル・フランス (Le Français Nouvelle édition)』 白水社, 1750円			
	なし。会話については授業中にプリントを配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フランス語やフランス語圏の文化・歴史に関心があること。

その他・特記事項

なし

フランス語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:33

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L1180A	科目コード	L1180
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

フランス語、フランス文化

授業の概要

フランス語Ⅰで得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。具体的には、時間、曜日、予定、謝る、場所、趣味・余暇、頻度、習慣、家族、過去の出来事、どこに行ったのか、だれかを誘う、断る、交通手段を尋ねるなどの表現を学ぶ。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で、疑問詞、前置詞、複合過去、複合過去における性数一致について学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。

到達目標

1	フランス語Ⅰで得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。
---	---

教授方法

授業は演習形式。宿題を課し、授業中に答え合わせをする。

予習を前提に、授業では発音の練習、例文のロールプレイ、練習問題を通じて、できるかぎり授業中にフランス語を運用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

フランス語Ⅰをすでに履修していること。

授業計画

1	どちらが好きか理由を述べる、人を描写する
2	年齢を言う、科目・時間割について話す
3	持っているものについて話す、物を借りる
4	謝る、ある場所について説明する
5	ある場所についての情報を求める
6	何をするのか尋ねる、答える
7	何をするのか尋ねる、詳しくきく
8	趣味・余暇の過ごし方について話す、態度を示す
9	習慣について話す、家族について話す
10	過去の出来事について語る
11	どこに行くか尋ねる、答える
12	時間を尋ねる・答える
13	どこに行ったのか詳しく話す、できることとするべきことを言う
14	だれかを何かに誘う・誘われる、交通手段について尋ねる

授業外における学習

適宜予習や復習を課す。

質問や相談への対応

他の受講生の参考になるので、質問がある場合はできるだけ授業中に質問すること。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	授業で学んだ表現を正しい発音および文法で運用できること	
小テスト	30	単語の意味および綴りと発音の関係が理解できていること	
平常点	30	宿題、授業態度など	

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	齊藤昌三『《新版》 ル・フランス (Le Français Nouvelle édition)』白水社, 1750円			
	なし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フランス語やフランス語圏の文化・歴史に関心があること。

その他・特記事項

3～4年向けの「グローバル教養ゼミ」でフランス語を引き続き学習したい学生は、2年次にフランス語を履修することを勧める。

ドイツ語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:34

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1190A	科目コード	L1190
担当教員	浜 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ドイツ語、文法、会話、ドイツ語圏の文化

授業の概要

英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用すること（「読み、書き、聞き、話す」こと）ができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得します。ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指して、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。

また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、さらにドイツ語に対する理解を深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。

到達目標

1	・日常生活レベルの「語彙力」を身につけ、正しい「発音」ができるようになる。
2	・ドイツ語運用の基本となる「文法」を習得する。
3	・ドイツ語を使った簡単な自己紹介、買い物、道案内など、日常生活に必要な表現を「話し、聞き、書き、読んで理解する」ことができるようになる。（2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」を合わせて受講することで、ドイツ語技能検定試験4級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける。）
4	・ドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。

教授方法

教科書や補助プリントに沿って文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、パートナー会話練習などを通して運用練習を行います。随時課題を出し、教師が添削を行うことで学習をサポートしていきます。また映像視聴や単語テストにより語彙力を養い、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション／アルファベート・発音の基礎・あいさつ
2	発音（つづき）・数字Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）①
3	Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）②
4	Lektion 1『自己紹介』（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）③
5	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）①
6	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）②
7	Lektion 2『趣味はManga』（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）③Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）①
8	Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）②
9	Lektion 3『フランクフルト中央駅で』（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）③
10	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）①
11	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）②
12	Lektion 4『買い物』（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）③Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）①
13	Lektion 5『チューリヒの町で』（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）②
14	Lektion 5『チューリヒの町で』（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）③

授業外における学習

- ①授業で学習した内容は、次回までにしっかり復習をしてください。
- ②教科書添付のCDやストリーミングを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返し行ってください。
- ③出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。
- ④理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことは、次回の授業の際に、あるいはメールですぐに質問してください。

質問や相談への対応

質問があればなるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問時間を取りたい方は相談に応じますので、遠慮なく申し出てください。また、メールでの質問はいつでも大歓迎です！（メールアドレス：mailuft@po30.lcv.ne.jp または hama.yasuko@u-nagano.ac.jp）

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価
課題提出	30%	出された宿題を期限までに提出し、丁寧に取り組んでいるかどうかで評価
小テスト	30%	単語テスト、各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価
学習に対する取り組み姿勢	10%	授業において積極的に発声や発話をしているかどうか、また授業や家庭学習において、明らかになった疑問に対し解決の努力をしているかどうか、問題があれば積極的に質問をしているかどうかなどで評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			
	清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社、2014年初版、1,300円＋税（ISBN：978-4-560-08656-8）※独和辞典については、授業初回で紹介いたします。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・本授業の受講者は2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」を続けて受講することが望ましいです。（教科書後半部は「Ⅱ」で扱います。）
- ・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。
- ・授業には必ず辞書を持参してください。（独和辞典については初回の授業で紹介いたします。）

その他・特記事項

- ・「授業計画」に記載した進度は、受講生の理解度などにより多少変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ・この授業の内容は、2学期開講の「ドイツ語Ⅱ」に続きます。（「ドイツ語Ⅱ」においても同じ教科書を継続して使用します。）

ドイツ語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:35

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1200A	科目コード	L1200
担当教員	浜 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

ドイツ語、文法、会話、ドイツ語圏の文化

授業の概要

1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」に続き、英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用すること（「読み、書き、聞き、話す」こと）ができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得していきます。

ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指し、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。

また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、さらにドイツ語に対する理解を深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。

到達目標

1	・日常生活レベルの「語彙力」を身につけ、正しい「発音」ができるようになる。
2	・ドイツ語運用の基本となる「文法」を習得する。
3	・「ドイツ語Ⅰ」に続き、さらにいろいろなニュアンスを加えた表現や、過去の表現に至るまで、日常生活に必要な様々な表現を「話し、聞き、書き、読んで理解する」ことができるようになる。（1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」から続けて受講することで、ドイツ語技能検定試験4級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける。）
4	・ドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。

教授方法

教科書や補助プリントに沿って文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、パートナー会話練習などを通して運用練習を行います。随時課題を出し、教師が添削を行うことで学習をサポートしていきます。また映像視聴や単語テストにより語彙力を養い、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

必ず1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」を履修した後、本授業を履修してください。（本授業は「ドイツ語Ⅰ」からの続きの内容となります。）

授業計画

1	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）①
2	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）②
3	Lektion 6 『映画を見に行きたい』（話法の助動詞、分離動詞）③
4	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）①
5	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）②
6	Lektion 7 『私のねがい』（形容詞の格変化、zu不定詞）③Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）①
7	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）②
8	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）③
9	Lektion 8 『休暇旅行』（動詞の3基本形、現在完了）④Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）①
10	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）②
11	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）③
12	Lektion 9 『オペラ鑑賞』（過去、再帰代名詞と再帰動詞）④Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）①
13	Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）②
14	Lektion 10 『ホテルに宿泊』（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）③

授業外における学習

- ①授業で学習した内容は、次回までにしっかり復習をしてください。
- ②教科書添付のCDやストリーミングを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返し行ってください。
- ③出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。
- ④理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことは、次回の授業の際に、あるいはメールですぐに質問してください。

質問や相談への対応

質問があればなるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問時間を取りたい方は相談に応じますので、遠慮なく申し出てください。また、メールでの質問はいつでも大歓迎です！（メールアドレス：mailuft@po30.lcv.ne.jp または hama.yasuko@u-nagano.ac.jp）

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価
課題提出	30%	出された宿題を期限までに提出し、丁寧に取り組んでいるかどうかで評価
小テスト	30%	単語テスト、各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価
学習に対する取り組み姿勢	10%	授業において積極的に発声や発話をしているかどうか、また授業や家庭学習において、明らかになった疑問に対し解決の努力をしているかどうか、問題があれば積極的に質問をしているかなどで評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			
		清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社、2014年初版、1,300円＋税（ISBN：978-4-560-08656-8）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・本授業を履修する際は、必ず1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」を受講した後にしてください。（教科書前半部は「Ⅰ」で扱います。）
- ・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。
- ・授業には必ず辞書を持参してください。（「ドイツ語Ⅰ」初回授業で紹介）

その他・特記事項

- ・「授業計画」に記載した進度は、受講生の理解度などにより多少変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ・教科書は、1学期開講の「ドイツ語Ⅰ」で使用したものを継続して使用します。

中国語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:36

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1210A	科目コード	L1210
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キーワード

中国語の基礎文法、拼音字母、声調（四声）

授業の概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象に初期段階で必要な発音と基本文法事項・語彙を学習する。拼音字母の発音、声調、音節の発音に習熟することをはじめとして、聞く、話す、読む、書くの4つの能力にわたる中国語の基礎学力を身につける。基礎文法については、豊富な例文を取り上げ、繰り返し練習問題に取り組むことで要点の理解を進める。また、例文については音読み、暗唱できるようにする。最後には学習した文型を使いながら、自己紹介ができるようにする。

Chinese I

到達目標

1	到達目標拼音字母で表記された音声を正確に発音することができ、また、拼音字母によって表記された単語や短文を簡体字に直したり、日本語訳ができる。更に基礎的な文法を用いた簡単な会話や自己紹介ができるようにする。
---	--

教授方法

講義形式で発音や基礎文法を分かりやすく説明した後、繰り返し練習を行う。単語や例文については数名で組になって練習を行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、受講者は語学教材のCDなどを用いて、書き取りや中文和訳を行うとともに、短文を暗唱し、発表する。発音のチェック、文法の理解度を確認しながら、授業を進めることで基礎的な学力を身につける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	中国語とは。簡体字、拼音字母、文法の特徴。発音1：音節、声調、単母音、複母音
2	発音2：子音、鼻母音、er化
3	発音3：声調変化、声調の組み合わせ、日常の挨拶
4	発音4：中国語基本音節表、漢詩「登鶴雀樓」を読む
5	第1課 「你好!」簡単なあいさつ、名前の言い方、"是"構文
6	第1課 「你好!」"吗"を使う疑問文、出身地の言い方、副詞"都"
7	第2課 "这是谁的课本?"、指示代名詞、疑問詞"谁"
8	第2課 "这是谁的课本?"、助詞"的"、語気助詞"呢"、副詞"也"
9	第3課 "今天几号?"、数の言い方、数量名詞述語文、年齢の聞き方
10	第3課 "今天几号?"、年月日、曜日の言い方、聞き方
11	第4課 "我们去哪儿?"、動詞述語文、正反疑問文、場所の表現、語気助詞"吧"
12	第4課 "我们去哪儿?"、数の聞き方、お金の単位、動詞句を目的語に取れる動詞
13	第5課 "今天下午天气怎么样?"、形容詞述語文、程度副詞、時間の言い方
14	第5課 "今天下午天气怎么样?"、程度の聞き方、助詞"的"②、量詞

授業外における学習

事前に教科書を予習し、分からない単語は調べ、教科書の発音（ダウンロードする）で発音の予習を行っておく。事後には、学習した単語や構文を復習し、本文を暗唱すること。

質問や相談への対応

授業中や授業後に適宜質問・相談を受け付ける。遠慮なく質問してほしい。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、語彙、基本文法事項や中文和訳などについて理解できているか問う問題とし、その点数で評価する。
口頭発表、レポート	20	最後の時間に自己紹介をひとりずつ発表するとともに、その内容を簡体字で記述したレポートを提出し、その出来栄で評価する。
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取り組みを全体的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』（中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ・曹泰和監修、郁文堂、2500円+税）			
	授業時に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

例文の発音や練習問題など、恥ずかしがらずに大きな声を出して発声するようにしてほしい。また、こまめに辞書を引くようにしてほしい。

その他・特記事項

辞書を紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。

中国語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:37

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1220A	科目コード	L1220
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

中国語の基礎的な文法、中文和訳、簡単な中国語の会話

授業の概要

この授業では、「中国語Ⅰ」で学んだ初期段階の発音と基本文法事項・語彙についての復習を交えつつ、一段階進めて多くの語彙や呼応関係、文法事項を学ぶ。特に日常生活や中国旅行など、実際の場面で役立つ例文を豊富に学習し、繰り返し練習問題に取り組むことで理解を進める。音読練習、暗唱を盛り込み、頭で理解するだけでなく、中国語の音を体で感じながら、発音と構文を一体として習得する。二人組みでの会話の発表などを通じて実践的な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。

Chinese II

到達目標

1	「中国語Ⅰ」で学んだ基礎知識を再度復習しながら、さらにさまざまな言い回しや一歩進んだ文法事項について学び、簡単な表現について和文中訳ができるようにする。会話文と文章とを交えて様々な中国語表現を学んで身につける。簡単な中国語でのコミュニケーションができるようになる。
---	--

教授方法

発音や基礎文法を丁寧に分かりやすく説明した後、繰り返し練習を行う。2人組みになって、発音や会話の練習などを行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、受講者は語学教材の録音などを用いて復唱したり、聞き取って書き取る練習を適宜取り入れることによって、中国語の音を感じて理解するように図りたい。受講者は中文和訳を行うとともに、短文を暗唱し、2人組みになって会話を発表する。発音のチェック、文法の理解度を確認しながら、授業を進めることで中国語による簡単なコミュニケーション能力を身につける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

原則として「中国語Ⅰ」を履修してから、履修すること。

授業計画

1	発音の復習、「中国語Ⅰ」の文法の復習
2	第7課「今天太热了！」：比較構文①、比較構文②、比較構文③
3	第7課「今天太热了！」：同程度を表す構文、仮定の言い方、並列の言い方
4	第8課「我已经到池袋了」：実現を表す助詞“了”、変化を表す“了”、いろいろな副詞
5	第8課「我已经到池袋了」：連動文、“先...然后...”
6	第9課「李丽在家吗？」：存在を表す動詞“在”、時間の言い方
7	第9課「李丽在家吗？」：二重目的語構文、介詞“给”
8	第10課「你去过中国吗？」：経験を表す“过”、“是...的”構文
9	第10課「你去过中国吗？」：疑問詞“怎么”、介詞“在”
10	第11課「明天就是文化节了」：語気助詞“呢”、様態補語
11	第11課「明天就是文化节了」：並列の言い方“一边...一边...”
12	第12課：「离机场还有多远？」：時間量の言い方、概数の言い方、禁止の言い方
13	第12課：「离机场还有多远？」：介詞“离”、介詞“从”、“到”
14	私のある一日について言ってみよう！

授業外における学習

予習時に、新出単語を辞書で調べ、本文を理解し、ダウンロード教材で発音練習を行ってほしい。また、授業後には授業で学んだ内容を復習し、できるだけ暗唱してほしい。

質問や相談への対応

授業中や授業後に適宜質問を受け付けたい。できるだけその場で答えるようにするが、場合によっては次回までに回答を準備することもある。遠慮なく質問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、語彙、基礎文法事項や中文和訳などについて理解できているかを問う問題とし、その点数で評価する。
口頭発表、レポート	20	最後の時間に「ある一日の過ごし方について口頭で一人ずつ発表するとともに、内容を簡体字と拼音で記述したレポートを提出する。
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取り組みを全般的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ、曹泰和監修、郁文堂、¥2500+税			
	参考書や辞書については授業中に紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

発音したり、他の学生の前に出て会話を発表したりするのを恥ずかしがらず、積極的に行ってほしい。

その他・特記事項

辞書を授業時に紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。

スペイン語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:37

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1230A	科目コード	L1230
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スペイン語。入門。会話。

授業の概要

スペイン語の入門クラス。スペイン語理解の基礎として、アルファベット、発音、アクセント、数詞、規則動詞、ser動詞、estar動詞、名詞の性と数、冠詞、形容詞、不規則動詞、疑問詞、数字、時刻、前置詞などを講義する。講義した文法事項を踏まえて「聴く」「話す」訓練を行う。

到達目標

1	初めてスペイン語を学ぶ学生を対象とする。初歩的な文法事項を理解し、簡単な自己紹介や旅先で買い物できる程度の会話力、看板やレストランのメニューを理解する程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A1程度の語学力を習得することを目標とする。
---	---

教授方法

文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	講義：Unidad 1 アルファベット、発音、アクセント
2	演習：国、挨拶、数字
3	講義：Unidad 2 人称代名詞、名詞の性と数、ser動詞
4	演習：国籍、職業、自己紹介
5	講義：Unidad 3 冠詞、所有詞、形容詞、estar動詞
6	演習：都市、大学
7	文法事項の復習、中間試験、映像鑑賞
8	講義：Unidad 4 動詞の現在形、疑問詞、時刻
9	演習：時刻と曜日、日常生活
10	講義：Unidad 5 指示詞、所有詞、不規則動詞
11	演習：家族の紹介
12	講義：Unidad 6 hayの用法、不定詞
13	演習：旅行の計画
14	全体のまとめ、期末試験、映像鑑賞

授業外における学習

事後学習：Glexaによる課題

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	
中間試験	30	
期末試験	60	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español①』（2018年、朝日出版社）。生協で購入。履修を迷っている学生は授業が始まってからでも大丈夫です。			
	宮本博司（編）『改訂版 スペイン語ミニ辞典』（2003年、白水社）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。

その他・特記事項

テキストは必ず入手してください。辞典は意欲的に学習したい人だけで大丈夫です。

スペイン語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:38

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1240A	科目コード	L1240
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スペイン語。初級。作文。

授業の概要

スペイン語の初級クラス。複雑な文を理解するために、前置詞を伴う人称代名詞、不規則動詞、直接目的人称代名詞、間接目的人称代名詞、大名動詞、接続詞、点過去、線過去などについて講義する。構文を理解することで会話での「聴く」「話す」能力ばかりでなく、メールや雑誌などを「読む」「書く」能力を高める。

到達目標

1	入門程度のスペイン語を習得済みの学生を対象とする。初級程度の文法事項を理解し、スペイン語話者と簡単なやりとりができる程度の会話力、辞書を使いながら易しいスペイン語の読み物を読み進める程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A2程度の文法事項と語彙を習得することを目標とする。
---	---

教授方法

文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「スペイン語Ⅰ」の単位を修得した者（滞在経験などから入門的な知識を持つ者）。

授業計画

1	講義：Unidad 7 gustar動詞
2	演習：好み、予定
3	講義：Unidad 8 不規則動詞、直接目的人称代名詞
4	演習：買い物
5	講義：Unidad 9 不規則動詞、間接目的人称代名詞
6	演習：
7	文法事項の復習、中間試験、映像鑑賞
8	講義：Unidad 10 代名動詞、天気
9	演習：祭りや行事
10	講義：Unidad 11 estar動詞の応用、接続詞
11	演習：体調と気分
12	講義：Unidad 12 点過去と線過去
13	演習：今年度のできごと
14	全体のまとめ、期末試験、映像鑑賞

授業外における学習

事後学習：Glexaによる課題

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	
中間試験	30	
期末試験	60	

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español①』(2018年、朝日出版社)。			
	宮本博司(編)『改訂版 スペイン語ミニ辞典』(2003年、白水社)。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。

その他・特記事項

「スペイン語Ⅰ」のテキストを続けて使用します。辞典は意欲的に学習したい人だけで大丈夫です。

日本語Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:39

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L1250A	科目コード	L1250
担当教員	二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

日本語の基本、日本語文法、日本語の語彙、漢字学習

授業の概要

留学生在が日本語で口頭発表したり1,200字程度のレポートを書いたりするために必要な知識として、日本語の文法および語彙の基本的な学習を行う。文法については、品詞の知識と文章上での単語の使い方を中心に学習を進め、正しい日本語の組み立て方を理解する。語彙については、普遍性の高い言葉を学ぶために新聞記事などを取り上げ、その読解および要約を通して知識を習得する。担当者による講義以外に、受講生にプレゼンテーションや課題作文を実施することによって、より実践的な日本語運用能力を身に付けることを目指す。それと併せて、BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上（480点以上でJLPTのN1におおむね相当する）獲得できるスキルも養成する。

【ねらい】

日本語の基本的な文法と語彙に関する知識を学ぶ。

到達目標

1	BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上獲得できる実用的な日本語運用能力を習得できる。
---	---

教授方法

授業はすべて日本語で行います。授業中は日本語で発言するようにしてください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

JLPTを受験したことがある、もしくは将来的に受験する予定であること。日本語Ⅰを履修後、続けて日本語Ⅱも履修すること。

授業計画

1	日本語の文の法則—文節と品詞について—
2	主語の使い分け—格助詞「が」と係助詞「は」の違い—
3	動作を表すニュアンス—自動詞と他動詞—
4	連用修飾の多様性—副詞の種類—
5	文脈のつながり—接続詞の種類—
6	距離感の表し方—指示代名詞の使い方—
7	受け身の表現—助動詞「れる」「られる」
8	使役の表現—助動詞「せる」「させる」
9	敬語の種類—尊敬語・謙譲語・丁寧語—
10	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く①
11	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く②
12	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く③
13	受講生によるプレゼンテーション—正しい日本語で自己表現をする—
14	受講生による日本語作文—1,200字程度の文章を書く—

授業外における学習

事前学習：教科書の予習および授業中に与えられた宿題は必ず準備してきてください。

事後学習：授業中に習った日本語の語彙・漢字や文法などの知識については、毎回必ず復習して覚えてください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はメールやポータルなどを利用してご連絡ください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
レポート	50	何度か日本語の課題作文（400字程度）を提出してもらい、その内容で評価します。
小テスト	30	日本語運用能力を試す小テストを受験し、獲得点数に応じて評価します。
発表（プレゼン）	20	テーマを設定して日本語で発表（プレゼン）してもらいます。適切な日本語を用いた表現ができているかどうかで評価します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	毎回、授業で提示します。			
	必要に応じて提示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

毎回の授業には、必ず国語辞典（電子辞書可）を用意してください。

その他・特記事項

授業には必ず参加してください。授業以外でも日本語の文章を積極的に読むように心がけてください。

日本語Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:40

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L1260A	科目コード	L1260
担当教員	谷口 真由実, 二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

留学生向け日本語、日本語の語彙・文法、意見を短文にまとめる

授業の概要

「日本語Ⅰ」を履修した外国人留学生を対象とした授業とする。日本語の語彙や文法についての基礎知識を確認しながら、幅広いテーマについて書かれた本文を読んで内容を把握し、ディスカッションを行なって理解を深める。次に本文について要旨や感想、意見を短文にまとめ、学生同士互いに批評し合っさらに手直しし提出する。これらの過程を通して「聞く・話す・読む・書く」の4つの能力にわたって総合的な力を身につける。最後に、本文のテーマに沿ったレポートを書き、明解な文章を作成する力を養う。

Japanese Language

到達目標

1	すでに学んできた日本語の語彙や文型、文法を基礎として日常的な場面で必要な日本語の理解に加えて、より広い場面で使われる日本語を理解することができる能力を身につける。幅広い話題について書かれた記事や簡単な評論を読んで内容を理解したり、自分の意見を述べたり、書いたりできることを目標とする。
---	--

教授方法

演習形式で行う。まず教科書の各課の本文を読み、内容を把握する。次に本文についてディスカッションを行うことで、理解を深める。その後、本文について各自の感想や意見を短文にまとめ、グループで互いに批評しあう（ピアレスポンス）。最後に他人の意見を踏まえ、文章を手直しして提出する。実践的な練習を通して、コミュニケーションを円滑に行う能力と文章を書く力を養う。言葉の背景である日本の文化や話題になっている時事についても、適宜授業の中に織り込む。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「日本語Ⅰ」を履修していること。

授業計画

1	「新たな出会い」（印象的に自己紹介する）
2	「時間を生かす」（時間の使い方についての情報をやりとりする）
3	「緊急事態」（緊急事態が起こって経験したことについて話す）
4	「世代を超えた交流」（故郷や住んだことのある場所やそこでの生活を紹介する）
5	「言葉を楽しむ」（日本語表現と自国の表現を比べる）
6	「ライフスタイル」（様々な人のライフスタイルを知り、自分自身の考えや経験と比較する）
7	「トレンドに乗ってつながる」（社会の流行やトレンドの中から興味のあるものを取り上げる）
8	「情報社会に生きる」（情報やメディアについての自分の意見を述べる）
9	「学校生活」（学校事情についての各国の違いや自身の経験を述べる）
10	「働くということ」（自分の将来について考えるため仕事に対する考えを周囲と共有する）
11	「地球に生きる」（環境について問題になっていること、環境のためにできることを述べる）
12	「科学の力」（科学技術に関する課題に触れ、科学が社会に果たす役割を考える）
13	「豊かさ幸せ」（豊かさについての多様な価値観を知り、自分の考えを客観的に振り返る）
14	レポートを書く

授業外における学習

本文の予習、及び事後の課題作文を作成し、提出すること。

質問や相談への対応

授業時間や時間後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	学習した語彙、文法などが理解できているか、漢字の書き取りができるか、またテーマに沿った短文が書けるかを問う問題とし、基本的な知識の理解度によって評価する。
小テスト	20	本文の新出の語彙や漢字などについて正確に習得できたかを評価する。
レポート	20	また、本文などについて作文を課し、自分の意見を盛り込んだまとまりのある文章が作成できるかを評価する。
平常点	20	普段、意見を述べたり、ディスカッションやグループでの学習に積極的に参加しているか評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『できる日本語中級』（アルク、嶋田和子監修）3400円			
	授業時に適宜紹介する。し			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ディスカッションなどに積極的に参加してほしい。

その他・特記事項

国語辞典を持参し、適宜引いてみてほしい。授業時間中は、原則としてパソコンやスマホは使用しないこと。

English Lectures on Cultural Issues A

更新日：2023/01/10 08:50:57

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1270A	科目コード	L1270
担当教員	Trane DeVore						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

nature, climate crisis, ecology, natural science, nature and inequality, climate justice, culture and nature

授業の概要

Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important cultural issues. This course will give students the experience of academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of cultural issues that will help them to solve contemporary problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests such as the TOEIC.

到達目標

1	First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending online lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class, watching videos, and studying vocabulary
2	Second, students will develop note-taking skills in order to systematically organize the information they are listening to during the lectures
3	Third, students will demonstrate they have understood the material by analyzing it and developing opinions in small online discussion groups during lecture breaks

教授方法

In order to deepen their knowledge of both the English language and topics under discussion, students will be expected to do preparatory work outside of class, including studying lecture-specific vocabulary lists, reading outside materials, and watching videos. Students will be required to take notes in class and turn in their notes as part of the grade. At the end of each quarter students will demonstrate understanding of course materials in the form of a comprehensive essay-based examination. There will also be several small tests and reading checks to make sure that students understand the materials.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Class orientation, introduction to notetaking strategies; Lecture 1: What is nature?
2	Lecture 2: A history of the idea of nature; changing ideas of nature over time; comparative conceptualizations of nature
3	Lecture 3: Ecology and ecological activism; understandings of ecosystems; Earth Day; Swamp Thing
4	Lecture 4: Earth in crisis 1: Plastic, pollution, pesticides, and the insect apocalypse
5	Lecture 5: The art of nature: Landscape painting and glowing rabbits
6	Lecture 6: The uses and misuses of the idea of evolution; Stephen J. Gould's The Mismeasure of Man
7	Lecture 7: "Well, that's just not natural!" Social control, gender norms, and the idea of 'the natural.'
8	Lecture 8: Earth in crisis 2: The climate crisis, Extinction Rebellion, Greta Thunberg
9	Lecture 9: Rice farming, green deserts, agriculture and biodiversity; sample essay-based examination
10	Lecture 10: Forests and culture, Nausicaa and Mononoke Hime, trees in cultural representation
11	Lecture 11: Ideas about animals; the Great Chain of Being; Descartes; animal consciousness and animal rights
12	Lecture 12: Properties of nature: Who owns nature?
13	Lecture 13: Indigenous ideas of nature, indigenous activists and poetics
14	Lecture 14: Earth in crisis 3: Visualizing a different future; prescriptions for a burning planet

授業外における学習

Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will study vocabulary in order to prepare for lecture. There will be short quizzes and homework checks. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet online please ask the instructor during class sessions or send an email.

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
Final Exam	50%	Open note final essay exam
Vocabulary assignments	20%	Subject-specific vocabulary assignments related to lecture material (will include quizzes)
Student notes	20%	Student notebooks will be checked and graded
Other	10%	Other class assignments and activities
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Necessary materials will be made available (including online materials). There will be a series of class Sway pages for students to use.			
	Electronic dictionary with good English sample sentences.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should prepare for class by reading all necessary materials, studying required vocabulary, and finishing any other necessary lecture preparation. Students should actively take notes in class and join in discussion activities.

その他・特記事項

-

English Lectures on Social Issues A

更新日：2023/01/10 08:50:56

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1280A	科目コード	L1280
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

-

授業の概要

Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important social issues. This course will give students the experience of attending academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of social issues that will help them to solve contemporary problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests such as the TOEIC.

到達目標

1	First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class, watching videos, and studying vocabulary
2	Second, students will develop their note-taking skills by paraphrasing the information they receive during lecture
3	Third, students will practice communicating their ideas in discussion groups using their notes and other resources

教授方法

Lecture-specific vocabulary lists, news articles and other reading materials, video content, note-taking, comprehensive essay-based examination.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Global Insecurities: introduction to the course
2	Economic Insecurity: global
3	Economic Insecurity: local
4	Climate Change and Environmental Risks
5	Transnational Health Risks
6	Political Polarization
7	Different Form of Violence
8	War in Ukraine
9	Humanitarian Crises and Responses
10	Migration: who's moving and why
11	Migration: the Unites States and EU compared
12	An Uncertain Future: What's next?
13	Inspiring Changes
14	Final comprehensive essay-based examination

授業外における学習

Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will study vocabulary in order to prepare for lecture. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet please ask the instructor in class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students prepare for and understand university level lectures on social issues. Students can develop opinions about what they have learned in lecture and express those opinions clearly in end-of-term in-class essays. Students will expand their knowledge of academic English and subject specific vocabulary related to the lectures.	
評価項目	割合	評価基準
final exam	50%	open-note in-class essay
lecture notes	20%	students' notebooks will be checked and graded
assignments	20%	short presentations and activities based on course content
participation	10%	participation in class discussion and attendance
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	-			
	Electronic dictionary with good English sample sentences.			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should prepare for class by reading all necessary materials, studying required vocabulary, and finishing any other necessary lecture preparation. Students should actively take notes in class and join in discussion activities.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication I (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:59

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1310A	科目コード	L1310
担当教員	Jean-Pierre Richard						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency work

授業の概要

Building on the 2-year EPGM framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will develop the four skills for communicative purposes
2	Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List
3	Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	April 11: Introductions, Study Progress Guide (SPG), tour guiding preparation
2	April 18: Textbook check, SPG, TOEIC vocabulary Yes/No test information, tour guiding preparation
3	April 25: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 1
4	May 2: Reading 1 discussion, textbook, SPG
5	May 9: Textbook check, tour guiding preparation, TOEIC vocabulary study
6	May 16: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 2
7	May 23: Reading 2 discussion, textbook, SPG
8	June 13: SPG check, student-instructor conferences, tour guiding preparation
9	June 20: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 3
10	June 27: Reading 3 discussion, textbook, SPG
11	July 4: Textbook check, tour guiding preparation, TOEIC vocabulary study
12	Friday July 8: Nagano City tour for JALT PanSIG 2022 Conference
13	July 18: Textbook check, presentation and discussion preparation for Reading 3
14	July 25: Reading 4 discussion, SPG, evaluations

授業外における学習

There are assignments to prepare for every class. Vocabulary study are done at the student's own pace.

質問や相談への対応

Students can contact the instructor by email or on Teams.

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	--

評価項目	割合	評価基準
speaking	40%	Various speaking and discussion activities
4 skills	35%	textbook related activities and completion of the Study Progress Guide
vocabulary	15%	TEOIC Service List independent study
other	10%	other assignments
合計	1 0 0	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 3, Cambridge University Press			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

Contact Richard if you have any questions

Advanced English Communication II (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:01

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1320A	科目コード	L1320
担当教員	Cheryl Kirchoff						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Speaking fluency, goal setting, TOEIC Service List vocabulary

授業の概要

Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users
2	Second, students will use the TOEIC Service List
3	Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement

教授方法

"Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary."

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

-

授業計画

1	Introduction to Discussion Topic 1, the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets
2	Textbook Unit 5, discussion preparation, SPG
3	Textbook Unit 5, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Textbook Unit 7, information gathering and data collection, SPG
5	Textbook Unit 7, report on information and data, SPG
6	Textbook Unit 7 + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (work-life balance: personal life vs company life, comparing urban and regional Japan), SPG
8	Textbook Unit 8, information gathering & data collection, SPG
9	Textbook Unit 8, report on information and data, SPG
10	Textbook Unit 8, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (sustainable development goals), SPG
11	Textbook Unit 9, information gathering and data collection, SPG
12	Textbook Unit 9, report on information and data, SPG
13	Textbook Unit 9 + Discussion Test, SPG
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG

授業外における学習

Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.

質問や相談への対応

Students can email the instructor.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.		
評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	discussion tests	
4 Skills	35	textbook activities and completion of the Study Progress Guide	
Vocabulary	15	TEOIC Service List independent study	
other	10	other assignments	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication III (A1)

更新日：2023/03/15 05:23:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1330A	科目コード	L1330
担当教員	Dawn Lucovich						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, communication, business English, TOEIC, discussion

授業の概要

Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users
2	Second, students will use the TOEIC Service List
3	Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

Students should have taken any Year 3 English class OR be an advanced user of English with high willingness to communicate. Please contact the instructor if you are unsure or have questions.

授業計画

1	Class orientation. Introduction to Discussion Topic 1, Business Advantage textbook, the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets
2	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
3	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Second textbook unit, information gathering and data collection, SPG
5	Second textbook unit, report on information and data, SPG
6	Second textbook unit + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3, SPG
8	Third textbook unit, information gathering & data collection, SPG
9	Third textbook unit, report on information and data, SPG
10	Third textbook unit, discussion, introduction of Discussion Topic 4, SPG
11	Fourth textbook unit, information gathering and data collection, SPG
12	Fourth textbook unit, report on information and data, SPG
13	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG

授業外における学習

Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to make an appointment, ask during class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.		
評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Discussion tests will be videoed and evaluated	
Vocabulary	15	TOEIC Service List Vocabulary Test	
Textbook	35	textbook activities and completion of the Study Progress Guide	
Other	10	Other activities	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
Required	Business Advantage - Intermediate. Koester, Pitt, Handford, Lisboa	Cambridge University Press	2012	
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.

その他・特記事項

-

Advanced English Communication IV (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:02

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1340A	科目コード	L1340
担当教員	Cheryl Kirchhoff						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

Fluency, communication, business English, TOEIC, discussion

授業の概要

Building on the 2-year EPGM Fluency framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.

到達目標

1	First, students will develop the four skills for communicative purposes
2	Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List
3	Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course

教授方法

Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

Students should have taken any Year 3 English class OR be an advanced user of English with high willingness to communicate. Please contact instructor if you are unsure or have questions.

授業計画

1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1, Business Advantage textbook, introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets
2	First Textbook Unit, discussion preparation, SPG
3	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG
4	Second textbook unit, information gathering and data collection, SPG
5	Second textbook unit, report on information and data, SPG
6	Second textbook unit + Discussion Test
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3, SPG
8	Third textbook unit, information gathering & data collection, SPG
9	Third textbook unit, report on information and data, SPG
10	Third textbook unit, discussion, introduction of Discussion Topic 4, SPG
11	Fourth textbook unit, information gathering and data collection, SPG
12	Fourth textbook unit, report on information and data, SPG
13	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG
14	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG

授業外における学習

Read, prepare, and do homework before classes. Engage in discussion.

質問や相談への対応

If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to stop by the instructor's office, or if you want to make an appointment ask during class or send an email.

成績評価

共通の評価基準	Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.	
評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	discussion tests
Vocabulary	15	TOEIC Service List vocabulary test
textbook	35	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide
other	10	other assignments
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Business Advantage - Intermediate, Koester, Pitt, Handford, and Lisboa, Cambridge University Press, 2012			
	-			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

-

その他・特記事項

-

Advanced Academic English I (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:58

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1350A	科目コード	L1350
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

アカデミックリーディング、アカデミックライティング

授業の概要

英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1, 2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	ノーベル文学賞も受賞したバートランド・ラッセルの『幸福論』を原文で読み、① 高度な英文資料を読みこなす力を身につける。
2	② 内容のかたまりごとに、小見出しを付ける方法を身につける。
3	③ 英文で読んだ内容について意見を述べる力を養う。
4	④ 英文を日本語および英語で要約する力を身につける。
5	⑤ 英文エッセイで自分の意見を書く力を身につける。

教授方法

読解については、文の構造把握、和訳や要約、見出し付けなどの作業を通じて、構文を正しく読み取り、抽象的な内容を具体的に把握し、論の流れと筆者の主張を的確に読み取る力を養う。英文エッセイは、幸福・不幸・平等・不平等・希望・絶望など、やや抽象的なテーマを選んで個々人で書き進めてもらい、教員と、また受講者の仲間同士で質疑応答をしながら仕上げる。分量は英文で500語以上（A4で2枚くらい。もっと長くなって良い）。最後に、ラッセルの幸福論に対する論評を1000～2000語程度の日本語でまとめる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方についての説明、バートランド・ラッセルおよびテキストの紹介。 Academic English とはどのようなものかの解説と練習。文法の基礎の復習。
2	読解などの技術と実践（1）、 Academic Writing の課題と句読法
3	読解の技術と実践（2）、 Academic Writing 技術と演習（頭括型と尾括型）
4	読解の技術と実践（3）、 Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法）
5	読解の技術と実践（4）、 Academic Writing 技術と演習（接続詞と副詞の使い方）
6	読解の技術と実践（5）、 Academic Writing 技術と演習（冠詞の使い方）①
7	読解の技術と実践（6）、 Academic Writing の技術と演習（冠詞の使い方）②
8	読解の技術と実践（7）、 Academic Writing の技術と演習（分詞構文の使い方）①
9	読解の技術と実践（8）、 Academic Writing の技術と演習（分詞構文の使い方）②
10	読解の技術と実践（9）、 Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）①
11	読解の技術と実践（10）、 Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）②
12	読解の技術と実践（11）、 Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）③
13	読解の技術と実践（12）、 Academic Writing の技術と演習（その他の技術）①
14	読解の技術と実践（13）、 Academic Writing の技術と演習（その他の技術）②

授業外における学習

毎回2頁程度は読むので、次回読む部分について、指定された方法（指定された部分の翻訳、要約、見出し付けなど）での予復習を怠りなく行って欲しい。学期末には、14回で読んだ部分に関する日本語の論評（和文で1000～2000字程度）と英文エッセイを仕上げて提出すること。

質問や相談への対応

質問は授業中にどんどんして欲しい。メールでの質問や相談も可。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題1	20	テキストの部分翻訳
課題2	20	テキストの要約
課題3	30	日本語によるテキストの論評15%、小見出し15%
課題4	30	英文エッセイ
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Bertrand Russell, The Conquest of Happiness (Liveright Publishing)			
	必要に応じて、授業で、あるいは OneDrive で提供する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで、能動的に読んで欲しい。

その他・特記事項

特になし

Advanced Academic English II (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:04

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1360A	科目コード	L1360
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

批判的考察、TOEICライティング、メディア英語

授業の概要

英語 4 技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1, 2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	1. メディア英語において、段落の展開を踏まえ、主張の根拠を整理しながら読み解くことができる。
2	2. TOEIC Writingテストにおける170点相当の英語力を身につけ、限られた時間内に根拠を提示しながら一貫性のある主張を伝達できる。
3	3. 英文の推敲において、冗長な表現を避け、意図が明確に伝わるシンプルな英文を書くことができる。

教授方法

専門科目の学修に資する教材を扱う。リーディングからライティングへとつなげるかたちでスキルアップを図るために、指定されたテーマについて、(1) 教師が選定した英文資料の他、受講者が見つけた英文資料も読むことで、多角的な観点から理解する。(2) またインプットした内容を要約して引用し、説得的な英語表現を使って300語エッセイを作成する。(3) 翻訳サイトに依存せず、指定テキストにおける学びのコアとなるシンプルな英文を書く姿勢を身につける。授業では、ペアグループワークを通じてアウトプットの機会を確保する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年次以上に在籍していること

授業計画

1	ガイダンス：シラバス説明、英文ニュース記事の基本、シンプルな英文について
2	メディア英語におけるSVO・SV・SVC ① [指定テキスト第2-3章]
3	メディア英語におけるSVO・SV・SVC ② [指定テキスト第2-3章]
4	TOEIC Writing形式(Email, 300-word Essay)課題 (1)
5	メディア英語における時制・態・助動詞 ① [指定テキスト第4章]
6	メディア英語における時制・態・助動詞 ② [指定テキスト第4章]
7	TOEIC Writing形式(Email, 300-word Essay)課題(2)
8	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ① [指定テキスト第5章]
9	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ② [指定テキスト第5章]
10	メディア英語における冠詞・前置詞・副詞・つなぎ言葉 ③ [指定テキスト第5章]
11	TOEIC Writing演習(Email, 300-word Essay) (3)
12	確認テスト (1) (Email・サマリー作成、英文書き換え問題、ショートエッセイ) と解説
13	メディア英語におけるコロケーション・構文の要点整理
14	確認テスト(2) (Email・サマリー作成、英文書き換え問題、ショートエッセイ) と解説

授業外における学習

基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料を学習し、事後学習としてリーディング内容のライティング課題の振り返り学習をすること

質問や相談への対応

授業内で確認できなかったことは大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。適宜、個別面談を設定。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
ライティング課題	60	TOEIC Writingテストに対応できる英作文力の習熟度を測る
確認テスト	40	授業で学習した英語表現力の習得度を測る
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『シンプルな英語』（中山 裕木子, 講談社現代新書, 2021年, ISBN: 978-4065257333) [計1冊]			
	インターネットサイト等を紹介			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日常で英語を読み書きすることを習慣にしてください。

その他・特記事項

- ・コロナ感染防止対策として、ハイフレックス式授業を予定（但し、対面に課題や試験等を行う場合がある）。
- ・教室での対面授業においてもノートPCを持参すること。

Advanced Academic EnglishIII (A1)

更新日：2023/01/10 08:50:58

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L1370A	科目コード	L1370
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

アカデミックリーディング、アカデミックライティング

授業の概要

英語 4 技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを高める。3年次までに培った学術英語の基礎を土台として、専門科目における学修のトレーニングとして、英語文献の批判的考察を行いながら、自分の主張を英文レポートの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	① 高度に社会的な英文資料を読みこなす英語力と教養を身につける。
2	② 内容のかたまりごとに、小見出しを付ける方法を学ぶ。
3	③ 英文で読んだ内容について、批判的に討論する力を身につける。
4	④ 日本語と英語で、読んだ英文の summary を書く力を養う。
5	⑤ 英文エッセイの形で自分の主張を展開する力を身につける。

教授方法

全員で討論しながら一冊のテキストを読み進める輪読形式。テキストは、「1%の富裕層ではなく、「99%の私たち」のために、性差別・人種主義・環境破壊のない社会を」と訴えるフェミニズムのベストセラーの原書。構文解説、見出しを付けて読む方法、ポイントを押さえた要約の練習などを行いつつ、背景となる社会問題についても学ぶ。英文エッセイは、エッセイの基本スタイル、論の展開方法などを学び、引用の仕方も学びながら現代社会の問題について個々人で書き進めてもらう。分量は、英文で1000字程度（A4で2〜3枚くらい。もっと長くなっても良い）。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方についての説明、テキストの紹介。序章の "A fork in the road" を読んでみる。
2	"Thesis 1" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（頭括型と尾括型）
3	"Thesis 2" "Thesis 3" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法と展開方法）①
4	"Thesis 4" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法と展開方法）②
5	"Thesis 5" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（接続詞と副詞の正しい使い方）
6	"Thesis 6" 読解と討論、Academic Writing 課題と注の付け方
7	"Thesis 7" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（句読法）
8	"Thesis 8" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（冠詞の使い方）
9	"Thesis 9" "Thesis 10" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（仮定表現の使い方）
10	"Thesis 11" "Beginning in the middle" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（分詞構文の効果的な使い方）
11	"Reconceptualization of capitalism and its crisis" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）①
12	"What is social reproduction?" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）②
13	"Crisis of social reproduction" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）③
14	"The politics of feminism for the 99 percent" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（その他の技術）

授業外における学習

毎回頁数読むので、次回読む部分について、指定された方法（指定された部分の翻訳、全体の要約、見出し付けなど）での予復習を怠りなく行って欲しい。英文エッセイ、テキストの論評も、指定された期日までに仕上げる。

質問や相談への対応

質問は授業中にどんどんして欲しい。メールでの質問や相談も可。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題1	15	テキストの部分翻訳
課題2	35	英文・和文によるテキスト要約20%、小見出し15%
課題3	15	日本語によるテキストの論評
課題4	35	英文エッセイ
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	Feminism for the 99%: A Manifesto (Verso)			
	必要に応じて、授業で、あるいは OneDrive で提供する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで、能動的に読んで欲しい。

その他・特記事項

特になし

Advanced Academic EnglishⅣ (A1)

更新日：2023/01/10 08:51:04

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L1380A	科目コード	L1380
担当教員	富田 裕子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	4年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

英国社会、英国文化、リーディング、ライティング

授業の概要

英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミック・リーディング及びアカデミック・ライティングのスキルを学ぶ。1・2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。

到達目標

1	高度な英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する力を身につける。この授業では英国の新聞、雑誌の記事、随筆など多種多様な教材を用いて、読解力、語彙力を身につけることを目的とする。できるだけ広い分野をカバーし、要約、要旨のつかみ方、速読の練習もあわせて行う。
2	またその資料が提起している問題を十分理解し、解決策などについてグループ単位で日本語・英語を使って話し合う。更にこの授業を通して、受講生が英国社会や文化が理解できるようにしたい。

教授方法

授業は演習形式で、担当教員が事前に配布した英字新聞の記事などのプリントを使って、まずテキストの内容確認をし、それから英語でディスカッションを行う。担当教員は受講生にまず英語の生教材を速読・熟読する技術を身につける練習をしてもらう。次に教材の要旨をつかみ、日本語・英語でまとめ、加えて教材に対する自分の意見を日本語・英語で的確に述べるコツを教授する。また教材が提起している問題の解決策について、日本語・英語を使ってクラス・ディスカッションもしてもらう。更に英語でレポートを書く際に必要となる英文構成力や表現力についての指導も行う。この授業は英語と日本語を用いて行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方・学習方法・評価方法を説明する。）
2	英字新聞の読み方や英国の新聞について説明する。
3	英国の教育制度・英国の大学に関する英文記事の講読
4	英国のパブリックスクールに関する英文記事の講読
5	英国の階級制度に関する英文記事の講読 1
6	英国の階級制度に関する英文記事の講読 2 と英文エッセイの書き方の説明
7	英国の食事に関する英文記事の講読
8	肥満問題に関する英文記事の講読
9	人種問題、移民問題に関する英文記事の講読
10	ベール着用禁止論争に関する英文記事の講読
11	強制婚に関する英文記事の講読
12	英国のクリスマスに関する英文記事の講読
13	経済・ビジネスに関する英文記事の講読
14	医療と年金問題に関する英文記事の講読

授業外における学習

毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。
予習を十分してから授業に臨むこと。

質問や相談への対応

質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	[S]基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。[A]基本的な到達目標を十分に達成している。[B]基本的な到達目標をおおむね達成している。[C]基本的な到達目標を最低限度達成している。[F]基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出物	40%	提出物によって評価する。
発表	40%	発表によって評価する。
授業貢献	20%	授業貢献度によって評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	プリント教材を配布する。テキストは使用しない。			
	『「イギリス社会」入門：日本人に伝えたい本当の英国』 コリン・ジョイス著 NHK出版 2016年 ISBN: 978-4-14-088354-9			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

1. 受講生の積極的な授業参加を期待する。
2. 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）
3. 遅刻はしないこと。
4. 予習・復習をよくすること。

その他・特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は評価を下げるので注意すること。しかし怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。遅刻は30分までは出席とみなす。

心理学

更新日：2023/01/10 08:51:41

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L2010A	科目コード	L2010
担当教員	藤田 勉						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

心理学, 行動, 学習, 研究法

授業の概要

心理学に対して興味や関心をもつ人は多いが、心理学という学問がどういった学問で、どのようなことを研究しているのか理解している人は少ない。心理学の対象・目的・仕事を明確にし、心理学の代表的な研究法を学ぶことで、心理学とはどのような学問であるのかを理解する。さらに、心理学の様々な分野（知覚心理学, 学習心理学, 性格心理学, 思考心理学, 臨床心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学等）における研究成果を知ることにより、その有用性を確認する。

到達目標

1	本講義を通じて、受講生は一般に誤解されやすい心理学を正しく理解するとともに、心理学的なものの見方や思考法を学ぶ。
---	--

教授方法

原則的には講義形式で進められるが、受講生が参加・体験できるような実験、調査、検査等を組み入れ、受講生に心理学を“実感”してもらえよう工夫していく。受講生は授業時間以外で講義内容に関して予習・復習を行うことが求められる。今年度は学期中数回の小テストを実施する予定である。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	キックオフ（授業の目的、授業の内容、授業の形式、使用テキスト、成績評価の方法、授業のスケジュールなど）
2	心理学とは何か（心理学の対象）
3	心理学とは何か（心理学の目的、心理学の仕事）
4	心理学の研究法（観察、実験）
5	心理学の研究法（調査、検査、事例研究法）
6	まとめ
7	感覚・知覚心理学①（知覚とは、錯視の例、幾何学的錯視他）
8	感覚・知覚心理学②（対比現象、反転図形、恒常性、視覚以外の錯覚他）
9	学習心理学①（学習とは、行動の種類、レスポナント条件づけの基本手続きと応用研究）
10	学習心理学②（オペラント条件づけの基本手続きと応用研究）
11	記憶について（記憶とは、記憶の検査法、記憶の種類、記憶の範囲、記憶の諸現象、記憶術）
12	発達心理学①（発達心理学とは、ヒトの発達段階、胎生期～乳児期の発達）
13	発達心理学②（乳児期～幼児期の発達）
14	性格心理学（性格とは、性格の分類、性格の形成、性格検査の実際）、授業全体のまとめ

授業外における学習

この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり、指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。

質問や相談への対応

質問・相談については、原則的には授業時間内で受けつけ、当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は、初回授業時間で伝えるメール・アドレスにて受けつける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を総合的に評価する。

小テスト（筆記）	50	筆記試験により単元ごとの授業内容の理解度を評価する。学期中数回の実施を予定。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『新版行動科学序説（新版5刷）』藤田勉・藤田直子 世音社 2019 ISBN：978-4-921012-12-0 ★PDFファイルを配信予定。			
	『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《見方の“クセ”と“思い込み”編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17309-7 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17206-9 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《Q & A編》』藤田勉 ほおずき書籍 2020 ISBN：978-4-434-27733-7			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

本授業を受講することにより、「心理学」の有用性を知り、日常生活に役立ててもらいたい。

その他・特記事項

出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻、それ以降は欠席とする。

哲学

更新日：2023/01/10 08:51:41

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L2020A	科目コード	L2020
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

哲学、倫理、ヨーロッパ、論理的思考、対話

授業の概要

今年度は20世紀の哲学者H.アーレントやE.レヴィナスの思想を手がかりに、「全体性」について考える。全体性は、全体主義的な社会体制を批判する際にも使われるが、西洋哲学のある種の流れを批判する際にも使われる概念である。授業を通じて現在の世界を批判的に理解することを目指す。解説の過程で、著名な哲学者の学説や文章を適宜紹介する。授業の後半では、講義内容に関連したディスカッションを行う。毎回授業の最後に、学習内容およびディスカッションを振り返る。

【ねらい】

講師自身が現在取り組んでいる問題を受講者と一緒に考えることにより、哲学的に考える姿勢や、西洋哲学史の著名な学説を自分自身のものとする。辞典や入門書などを使い、著名な学説について調べ、自分の問題を考えるために手がかりとして活用することができる。

到達目標

1	①自明の事柄について哲学的な問いを立てることができる。
2	②立てられた問に含まれる言葉を定義できる。
3	③問に関連する哲学史上の著名な学説を参照することができる。
4	④論証に必要な具体例を挙げることができる。
5	⑤立論を論理的に構成できる。
6	⑥立論を説得的に構築できる。
7	⑦対話を通じて自らの考えを吟味検討できる。

教授方法

講義を主体とするが、適宜、演習やディスカッションを実施する。対面授業を基本とするが感染状況に応じて適宜オンライン（同時双方向）授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。

授業計画

1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、哲学について
2	全体性概念について（概要）
3	アーレントにおける全体主義批判（1）
4	アーレントにおける全体主義批判（2）
5	小テスト、レポートについて（書き方、問いの設定）
6	レヴィナスにおける近代哲学批判
7	フッサールとハイデガーにおけるモナド論
8	分有と融即（レヴィ＝ブリュールとルイ・ラヴェル）
9	世界観としての哲学とナチズムへの批判
10	マイモニデスから現代ユダヤ哲学へ
11	レヴィナスにおける全体性概念
12	レポートのピアレビュー
13	まとめの対話、レポートの提出
14	レポートの返却、レポート内容の発表

授業外における学習

授業で学んだ内容を基にレポートを作成するため、よく復習しておくこと。

質問や相談への対応

・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ワークシートへの書き込み、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。
レポート	50	授業の達成目標への到達度により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分が知っていることと知らないことを区別するよう努力し、自分の頭で粘り強く考え、ディスカッションでは質問を互いにし合うよう心掛けること。

その他・特記事項

特になし

倫理学

更新日：2023/01/10 08:51:42

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2030A	科目コード	L2030
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

倫理、功利主義、義務論、徳倫理、生命倫理、環境倫理、動物倫理、食倫理、ビジネス倫理、グローバルジャスティス

授業の概要

この授業では倫理学の対象、方法、その応用について講義形式で紹介する。学習内容に関連したディスカッションを適宜行う。小テストおよびレポートを課す。講義ではまず倫理学の対象と方法および簡単な歴史を説明する、ついで規範性の導出を主な関心とする3つのアプローチを立場ごとに解説する。最後に現代的諸問題を倫理学がどのように扱っているのかを個別の問題ごとに見てゆく。

【ねらい】

倫理学の各分野の基本的な学説を学び、人間や社会が抱える諸問題を倫理的に考察することができるようになること

到達目標

1	①規範倫理や応用倫理学の代表的な立場や扱われる問題について、基本的な説明ができる。
2	②倫理学上の学説を、現代の具体的問題に適用し吟味検討できる。
3	③いかなる理念や倫理観をもつべきか、みずから吟味できるようになる
4	④倫理的問題を、独断的な信念によらず他者との対話を通じて検討することができる

教授方法

講義ののち、ディスカッションを行う。対面とオンラインを併用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。

授業計画

1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、倫理学について
2	功利主義
3	義務論
4	徳倫理、小テスト（1）
5	社会倫理（社会契約説の古典と正義論）
6	ケアの倫理、生命倫理、レポートの書き方
7	生命倫理、エンハンスメント、小テスト（2）
8	環境倫理、映画と解説（1）
9	動物倫理、映画と解説（2）、小テスト（3）
10	食の倫理、映画と解説（3）
11	ビジネスエシックス、映画と解説（4）
12	グローバルジャスティス、映画と解説（5）
13	レポートピアレビュー、授業後レポート提出、小テスト（4）
14	レポートの返却、レポートの発表

授業外における学習

- ①資料をあらかじめ配布する場合は、事前に読んでおくこと。
- ②学習内容について小テストを行うので、復習をすること。
- ③授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。

質問や相談への対応

・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	20	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。
小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する
授業レポート	40	授業の達成目標への到達度により評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

普段から時事問題に関心を持ち、倫理学と関連する問題にアンテナを張っておくこと。

その他・特記事項

特になし

教育学

更新日：2023/01/10 08:51:43

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2040A	科目コード	L2040
担当教員	荒井 聡史						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

グローバル化と教育改革、教育の国際比較、情報消費社会とこども、生涯発達から見たこども、教育目的論

授業の概要

子どもと教育に関する心理学的、社会的、哲学的、教育学的な理論を学び、学際的視点から現代社会における教育の課題を検討する。特に1980年代以降の子ども論の理論動向を軸に、高度情報化社会の中の子どもの生活世界の変容や、近代学校制度から始まる学校中心主義の教育言説の構造的問題点についても触れながら、子ども・若者の教育の現代的課題を浮き彫りにし、人間にとっての教育の意味、社会における教育の意味を検討していく。

到達目標

1	子どもという存在を学際的な視座から見つめ直すために必要な諸理論を学びながら、子どもや若者を多様な視点から見るとともに、人間にとっての教育の意味と現代社会における子どもをめぐる課題を検討し、受講者が子どもの問題を自らの課題として受け止め、向き合う意欲と態度を身につけることを目標とする。
---	--

教授方法

- ・プレゼンテーションソフトを利用した講義を中心に、豊富な音楽資料、映像資料を提示し、分かり易く、しかし知的刺激に富んだ授業を心がける。
- ・ほぼ毎回グループ討議等のアクティビティ・パートとして、受講生が課題に対する自分の意見を発表したり、他者の意見を受け止めて考えたりする機会を設け、講義内容でも扱うアクティブラーニングに触れる。
- ・受講生には毎回リアクション・ペーパーに記入してもらい、受講生の主体的、能動的な授業参加を促すとともに、インタラクティブな授業展開を試みる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

総合教育科目人文系科目として履修可能。

授業計画

1	オリエンテーション・日本の教育の何が問題か
2	I 現在の教育をめぐる状況—①日本の学校教育改革の系譜
3	I 現在の教育をめぐる状況—②グローバル化と学力観
4	II 教育と文化・社会—①カリキュラム論的に見た学力観
5	II 教育と文化・社会—②学校制度の国際比較
6	III 教育のイメージ—①教育は学校だけの仕事？
7	III 教育のイメージ—②学ぶことと育つこと
8	III 教育のイメージ—③幼児の世界と遊び
9	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—①古典的心理学の発達観
10	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—②人間の発達の多層性
11	IV こどもが「育つ」とはどういうことか—③生涯発達と生きる意味
12	V 教育は何のため？—①教育目的の様々な規定
13	V 教育は何のため？—②教育と人間の関係
14	V 教育は何のため？—③「大人になること」の意味

授業外における学習

- ①事前に次回の授業内容に関する資料を配布するので、事前に読んで疑問点等を整理した上で授業に望むこと。
- ②授業内容を主体的に受け止め、自己の課題を確認してレポートに反映すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。
- ・メール・チャットでの質問も受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	授業内容を主体的に受け止め、教育の課題を自らの課題として捉えて学習を進展できたかを評価する。		
評価項目	割合	評価基準	
授業レポートA	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業レポートB	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業レポートC	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業内小レポート	28	毎授業後提出するリアクションペーパーを通じて、授業に主体的に参加できたかを評価する	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に使用しない。授業内で配布するペーパー資料を中心に授業を進めるので、資料をきちんと整理して保管すること。			
	第1回授業時に参考文献リストを提示する。また、授業中適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業内容を主体的に受け止め、これからの自己の人生と社会のあり方を展望するための課題を発見する姿勢を望む。

その他・特記事項

- ・ 授業レポートについては第1回授業時に課題を提示するので、授業内容を通じて得た視点を反映させながら作成してもらう。
- ・ Microsoft Teamsを通じた連絡、資料の配布を行うので、常時確認できるようにしておくこと。

言語学Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:51:44

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L2050A	科目コード	L2050
担当教員	金田一 真澄						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

言語、人間、コミュニケーション、思考力

授業の概要

言葉とは何かという素朴な疑問から入り、身のまわりの言葉の不思議な世界に迫ります。言葉について人はどのように考え、どのように使ってきたのか。言葉に対する人間の飽くなき探究心と好奇心の歴史をたどります。人間の認知や心理など、20世紀中葉までの言語学で敬遠されてきた側面に焦点を当て、人間にとって不可欠な存在となった言葉の仕組みの一端を明らかにしていきます。ときに、生物学、心理学、哲学、社会科学などの周辺の領域についても言及し、関連する日本語の表現や文法現象についても広く観察します。

言語へのアプローチの道は様々です。基本的にはサイエンスの立場からアプローチしますが、それは突きつめると「人間とは何か」を探し求める旅でもあります。

英語表記<linguistics>

到達目標

1	ふだん気づかなかった言葉の力、特に母語の様々な力の存在について自覚し、認識するようになり、言葉の力を使うようになり。また、言葉を通して、人間とは何かについてのイメージを掴むことができ、言葉の使い方やその背景に注意を払うようになり、母語を大切に扱うようになり。1) 母語の魅力を意識し、言葉の力を使えるようになります。
2	2) 母語を通して、人間とは何かということ深く考えるようになります。
3	3) 論理的で深い思考力、豊かな表現力、柔軟な発想力が身につきます。

教授方法

毎回予習を求めます。あらかじめ調べて理解しておくべき項目を指示しておきますので、必ず準備をして授業に出席して下さい。毎回授業の理解の助けとなるプリントを配付し、1時間余の授業を行い、その後は授業で扱ったテーマについて、様々な視点から意見交換のディスカッションを行います。意見を積極的に発表してもらい、こちらからもコメントを加えます。最後に、コメント用紙にその日の授業について感じたことを記入して提出してもらいます。毎回プリントを配付するのは授業内容を速やかに理解するためです。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

初めて言語学を学ぶ人であること。言葉に関心を持ち、自分の意見を積極的に述べる努力をする人を歓迎します。

授業計画

1	言葉と人間の世界 言葉は人間のすべての領域において対象となるもの
2	言葉の力 言葉は単に情報を伝達するための道具ではない
3	言語起源論 言葉はいつ何のために生まれたものなのか
4	言語決定論 言葉がなくて思考することは可能だろうか
5	言語生得説 幼児は言葉を親から学ぶのか、本性的に言語能力があるのか
6	言語認識論 人の外界認識に言葉はいかに関わるのか
7	カテゴリー論+レポートの書き方 分類と意味との深い関係について。レポートの書き方
8	意味論 意味はかつて哲学者の深淵な課題だった
9	語用論 発話の意味は状況や話者によって決まる
10	会話論 日常会話は複雑・繊細でAIにも理解できない
11	メタファ論 メタファの達人は偉大である：アリストテレス
12	レトリック論 言葉のコピーはレトリックからできている
13	言語学の流れ 言語学には流行がある
14	笑い論+まとめ 笑いは高度な知性を必要とする

授業外における学習

毎回課題を与えるので、次回の授業までに調べてくること。

質問や相談への対応

授業の後で、質問・相談に応じます。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート	70%	6000字のレポートを、「レポートの書き方」（第7回）に従って書く。言葉に関するテーマについて独自の考えに具体例や引用を含め、期限内に提出する。
授業中の発言	20%	評価基準:積極的に意見を述べるのが求められる。自らの経験や知識に則した考えを分かりやすく述べること。
コメント用紙	10%	授業を聞いて感じたこと、考えたことをまとめて書く。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。配付資料で行います。			
	講義の最後にテーマごとに示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業の最後の20~30分が、学生との意見交換の場となります。その日の講義内容に関連する課題をこちらが与え、それに対して積極的に意見を述べてもらうものです。大勢の前で自分の考えをきちんと分かりやすく述べることは、貴重なプレゼンテーションの場となり、将来グローバル社会で活躍するためにも、役立つはずです。一方で、他の学生の思いもかけない意見に耳を傾けることも、良い勉強になります。答えの出ない問いについて様々な視点から議論することも大切です。こうした意見交換の場に積極的に参加することを切に希望します。

その他・特記事項

レポートを出さないと、評価がつきません。

言語学Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:51:45

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2060A	科目コード	L2060
担当教員	中島 基樹						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

言語学、文法、日本語、英語

授業の概要

主に日本語と英語を比較することを通して、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論など、言語学の各分野を概観し、人間言語の普遍性と多様性について考察する。

到達目標

1	・言語学の各分野の研究対象や主な研究事例について理解すること。
2	・日本語と英語の共通点と相違点（人間言語の普遍性と多様性）について理解すること。
3	・（言語）データを客観的・論理的に分析する力を養うこと。

教授方法

第1～8回は教員による講義と受講者（個人またはグループ）による演習、第9～13回は受講者によるグループ発表を中心とした授業を行います。第2～8回は毎回授業後に小テストを行い、その日の授業内容の理解度を確認します。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

なし（「言語学Ⅰ」とは独立した内容のため、「言語学Ⅱ」からの受講が可能です。）

授業計画

1	オリエンテーション：言語学とは？
2	音韻論
3	形態論①複合
4	形態論②派生
5	統語論①句構造
6	統語論②移動と語順
7	意味論
8	語用論
9	グループ発表の説明・準備
10	受講者によるグループ発表①
11	受講者によるグループ発表②
12	受講者によるグループ発表③
13	受講者によるグループ発表④
14	まとめと補足

授業外における学習

- ・授業を通して興味を持ったトピックについて、文献等で詳しく調べてみる。
- ・日頃から身の回りの言語表現・言語事象に意識を向ける。

質問や相談への対応

授業の前後に声をかけるか、メールで連絡してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	40	授業内の演習やグループワークに積極的に取り組んでいるか。教員の講義や他の受講者の発表に対し、適切な質問やコメントができているか。
小テスト	20	各回の授業内容を正しく理解できているか。
グループ発表	10	自身の関心のあるトピックについて調査を行い、その内容を他者にわかりやすく伝えることができているか。
期末レポート	30	授業内容をふまえて適切な研究テーマを設定し、調査・考察した内容を論理的にレポートにまとめることができているか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	<ul style="list-style-type: none"> ・窪園晴夫(2019) 『よくわかる言語学』 ミネルヴァ書房 ・三原健一・高見健一(2013) 『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版 その他、授業時に随時紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

文献の内容や教員の解説、他者の意見をそのまま鵜呑みにするのではなく、自分の頭で批判的に考えることを心がけましょう。

その他・特記事項

言語運用能力（「英語力」や「日本語力」）の向上を目的とした授業ではありません。

文学Ⅰ（日本文学）

更新日：2023/01/10 08:51:46

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L2070A	科目コード	L2070
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

古典文化、伝統文化、古典文学

授業の概要

わが国の伝統文化のひとつである古典文学は、それと気付かないだけで、実は、現代社会におけるさまざまな文化的営為に依然として影響を与え続けている。本授業では、わが国の代表的な古典作品を取り上げて文学史を概観しつつ、それらが関連する現代社会の文化事象について、具体的な事例を挙げて解説する。それによって、現代に生きる我々の精神文化が、古典文学という伝統文化と深く関わって形作られていることを学ぶ。

【ねらい】

日本の古典における代表的な作品について文学史的な知識を学びつつ、それらが現代社会の精神文化に与えている影響について理解する。

到達目標

1	社会的営為としての文学が果たす役割を理解し、社会における文化の在り方についての正しい見解を身に付けることができる。
---	---

教授方法

授業は対面とZoomミーティングの交互で行う。毎回の授業では、プリントやパワーポイントの他に、古典文学に関連する動画なども視聴覚教材として使用し、講義する。授業の終わりに講義内容に関する簡単なワークシートを作成してもらい、知識の定着をはかる。ワークシートの記入方法については、その都度、説明する。

なお、毎回の授業で紹介する古典作品については、現代語訳のプリントや動画など、高校時代に古典が苦手だった人にも取り組みやすい教材を用いながら内容を説明するので、古典がまったく読めなくても構わない。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

「文学Ⅱ」「文学Ⅲ」の授業も履修することが望ましい。

授業計画

1	日本古典文学を学ぶ意味—現代社会の精神文化を形成したもの—
2	『古事記』『日本書紀』—神話と現代人の迷信—
3	『出雲国風土記』の物産記事—郷土誌のはじまり—
4	『万葉集』と万葉仮名—詩歌の遡源—
5	『竹取物語』のかぐや姫—正統派ヒロイン像の確立—
6	『伊勢物語』の在原業平—正統派英雄像の確立—
7	『源氏物語』の光源氏と紫上—恋愛小説の祖型—
8	『今昔物語』『宇治拾遺物語』—都市伝説のモチーフ—
9	『枕草子』『方丈記』『徒然草』—エッセイ・コラムの文芸性—
10	『平家物語』『太平記』—歴史小説への影響—
11	『醒睡笑』と咄本—話芸への影響—
12	『雨月物語』と上田秋成—怪談の娯楽性—
13	『椿説弓張月』と曲亭馬琴—連載小説の商業的価値—
14	日本文学のまとめ—古典から近現代文学まで—

授業外における学習

授業で紹介した作品や同時代の他の作品を自主的に読んでください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	80	授業中に取り上げた作品について、正しい知識が身についているかを評価基準とする。
課題作文	20	課題として提示し下日本文学作品について、文学史上適性な評価を以て解説しているかを評価基準とする。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	古典文学作品のコピーを必要に応じて配布します。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日本人の精神基盤を支える古典文化について理解を深めてください。

その他・特記事項

授業で扱うすべての古典文学作品については動画でその内容を紹介するほか、現代語訳のプリントを配布しますので、古文が読めなくても授業内容を十分理解できます。この授業を通して、日本の古典文化について身近に感じてくださると幸いです。

文学Ⅱ（中国文学）

更新日：2023/01/10 08:51:47

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2080A	科目コード	L2080
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

中国文学、古典文学、詩、小説、人生観、世界観

授業の概要

中国文学は三千年近い歴史を有し、日本文学や日本文化への影響も計り知れない。本授業は、中国文学を世界文学の一つである点と日本文学との深い関わりとの両方を軸として捉え直す。中国古典文学の多様なジャンルの作品を取り上げ、味わうと共にその特徴を考察する。また、作者の生涯や作品が誕生した社会的あるいは文学史的背景に着目し、文学に表された人間観、世界観について考える補助線とする。古典文学が人間存在の奥深さや世界観の多様さへと我々をいざない、現代の個人や社会の諸問題のありかを照らす灯となることを理解する。

Literature II (Chinese Literature)

到達目標

1	世界の文学の中から主に中国の文学—詩や物語、小説など—を取り上げて、作品中に描かれた様々な人間ドラマを読み取り、考察する。さまざまなジャンルの文学作品の特徴について知ることを目標とする。特に古典文学の中に脈々と息づく深い人間洞察や豊かな世界観を学び、現代を生きる上での糧となることを理解する。
---	--

教授方法

講義形式で作品を解説・読解しつつ、各時間に取り上げる作品の表現や内容について適宜問題を設定し、学生同士のディスカッションやグループ学習を行いながら進める。学生自身が作品と向き合い、読解を深め、問題についてさまざまな質問や意見を持つように促す。ディスカッションやグループ学習で出された意見を受講者全員にフィードバックし共有することで、解釈の揺れや広がり、問題への多様なアプローチの仕方、思考方法などを学ぶよすがとする。また、適宜参考文献を紹介し、さらに関心・興味を広げ、人生観や世界観を学ぶ一助とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	中国文学の特徴 漢語の表現特徴、韻文・散文のさまざまなジャンル、中国最古の詩集『詩経』
2	『文選』所収「古詩十九首」 後漢時代の民衆・役人の喜怒哀楽
3	六朝詩人陶淵明「飲酒二十首」 歌いこまれた人生への洞察、アウトサイダーとしての生涯
4	唐詩の世界① 「詩中に画有り、画中に詩有り」、王維の自然詩、近体詩の成立
5	唐詩の世界② 自由奔放な詩想をうたい上げた李白、比喩表現の豊かさ
6	唐詩の世界③ リアリズムの詩人杜甫、葛藤と社会との対峙の諸相
7	唐詩の世界④ 白居易「長恨歌」の物語性と表現工夫
8	李商隠「錦瑟」詩における修辞性と情感表出の間
9	宋詩 蘇軾詩を読む
10	歴史文学 『史記』①歴史家司馬遷、時代や社会と格闘した人間ドラマ
11	歴史文学 『史記』①時代や社会と格闘した人間ドラマ
12	六朝志怪小説『搜神記』 不思議な出来事の記録、人間の愚劣さと誠実さ
13	唐代伝奇小説 人間の一生の物語「枕中記」 幸福とは
14	中国文学のまとめ 古典から近現代文学まで

授業外における学習

授業で学ぶレジュメに事前に目を通しておくこと。授業後、興味をもった作品について、レポート作成に向けて参考資料を読み込んだり、作品への読解を深めておくこと。

質問や相談への対応

授業の中で適宜質問を受けたい。

成績評価

共通の評価基準	
---------	--

評価項目	割合	評価基準
レポート課題	60	授業で取り上げた作品について、個々人でさらに調査・考察した結果をレポートにまとめる。参考文献を適宜参考に行っているか、考察に独自性は見えるか、文章が練られているかを評価する。
グループワーク、感想文	40	授業の中で、グループでディスカッションやグループ学習を実施する。積極的に参加しているか、ユニークな意見を出しているか、他の学生の意見を参考にし読解を深化させているかと平常点を含め評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に使用しない。レジュメプリント配布予定。			
	適宜授業の中で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グループ学習やディスカッションに積極的に取り組んでほしい。授業で紹介した作品だけでなく、関連作品も積極的に読むようにしてほしい。

その他・特記事項

原則として授業中はパソコンやスマホは使用禁止とする。

文学III（イギリス文学）

更新日：2023/03/13 17:06:36

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2090A	科目コード	L2090
担当教員	坂 淳一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

英文学、イギリス文学、英文化、イギリス文化、西欧文化

授業の概要

イギリス文学史の区分に従って講義と作品鑑賞を行い、イギリス文学の魅力を学ぶ。イギリス文学の詩と小説を交互に学び、時代背景や文化・思想・宗教などについても学ぶ。鑑賞した作品については授業内でディスカッションを行い、相互に理解を深める。また、作品分析のレポートを書き、文化研究の方法を学ぶ。(Literature III (British Literature))

到達目標

1	イギリス文学の歴史と特徴を知る。
2	文学鑑賞と文化研究の方法を身に付ける。
3	文学の背景にある文化・思想・宗教についての知識を身に付ける。

教授方法

時代背景を学び、作品を鑑賞し、解説をするという流れで進める。学生の皆さんには、その作品をどうとらえるかを考え、書き、それを相互に読み合うことで作品理解を深める。評価は毎回のリアクションペーパーの評価、作品レポート、文学史・文化史ならびに文学用語に関する期末試験の評価で決定する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	授業の進め方の説明、イギリス文学史の概説、古英語期の『ベオウルフ』、中英語期の『カンタベリー物語』について
2	『ハリー・ポッター』と聖書、アーサー王伝説
3	シェイクスピアのソネット、レポート提出と解説
4	『ガリバー旅行記』について
5	シェイクスピアの演劇とルネサンスについて
6	『ガリバー旅行記』レポート提出と解説、古典主義時代について
7	古典主義とロマン主義（1） アレクサンダー・ポープとワーズワースの詩の鑑賞（ヘロイック・カプレットとバラッド）
8	ジェイン・オースティン『エマ』について
9	古典主義とロマン主義（2） 歴史・庭園文化・ゴシック小説、ブレイクの詩
10	ロマン主義時代の文学：『エマ』レポート提出とジェイン・オースティンの解説
11	ディケンズ『クリスマス・キャロル』について
12	ヴィクトリア朝英国とその文化について
13	『クリスマス・キャロル』レポート提出とディケンズの解説
14	20世紀のイギリス文学：ジェイムズ・ジョイスとヴァージニア・ウルフ

授業外における学習

作品ならびに文学史や歴史関連の文献を読んだりして、知識を深めてください。

質問や相談への対応

質問については、出来るだけ授業中に聞くか、メールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	

定期試験（筆記）	42%	期末試験の点数
レポート	30%	作品レポートの評価
リアクションペーパー	28%	毎回のリアクションペーパーの合計ポイント
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	教材・資料は授業で紹介しま す。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

ただ講義を聞くだけでなく、自分の感じたことや気付いたことを積極的に発言してください。

その他・特記事項

体調が悪い時は、事前にメール連絡をくれれば HiFlex 対応をします。その場合は、次の Zoom ミーティングに入室して下さい。 ID: 820 1053 0790 パスコード: British

歴史（近現代）

更新日：2023/01/10 08:51:48

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L2100A	科目コード	L2100
担当教員	大串 潤児						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

現代史の方法 社会史 民衆史

授業の概要

長野県の20世紀を主な素材として、一般教養としての「歴史(近現代史)」の基礎知識と歴史学の方法を講義する。

到達目標

1	地域にある大学に学ぶ学生として以下の知識・力の育成を目指す。①高等学校までの近現代史の知識をふまえてさらに高度な専門的知識の習得。
2	②地域（長野県）の近現代史—20世紀史の基礎的な知識を学ぶ。
3	③歴史学の基本的な方法論や、時代・社会を分析する方法について学ぶ。

教授方法

基本的には配布したレジュメに即した講義を行う。主題によっては映像資料などを活用しつつ、学生との討論を実施する。
 (COVID-19感染症流行の状況によって講義形態を変更する場合がある)

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	ガイダンス 授業内容の概要
2	信州（長野県）とはどのような地域なのか？ (1) 前近代史の復習
3	信州（長野県）とはどのような地域なのか？ (2) 近現代史の舞台
4	近代の出発 (1) 幕末維新をどうみるか？
5	近代の出発 (2) 「王政復古」か、「ご一新」か？
6	学校からみる「近代」 (1) 教育とは何だろうか？
7	学校からみる「近代」 (2) 就学率は100%？
8	女性が働くということ (1) 近代の産業と労働
9	女性が働くということ (2) 農村のすがた
10	戦争と軍隊 (1) 「軍都」という空間
11	戦争と軍隊 (2) ある兵士の戦場経験：日中戦争
12	満州移民
13	松代大本営—アジア太平洋戦争の敗戦と東アジア
14	いのち、の近現代史 佐久病院の戦後史

授業外における学習

一連のテーマで講義する場合が多いので、レジュメ記載の参考文献には目を通すことが望ましい。

質問や相談への対応

質問があれば授業後の時間に可能な限り対応する。

その他は以下のメールアドレスに相談のこと。

ogushi@shinshu-u.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
試験	100	講義の内容を理解しているか、どうかを問う。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	毎回の講義でレジюмеを配布する。			
	毎回の講義レジюмеで紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に授業に臨んでほしい。

その他・特記事項

高等学校（ないし中学校）の日本史（社会科）教科書が参考になる。

民俗文化論

更新日：2023/01/10 08:51:49

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2110A	科目コード	L2110
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

民俗宗教。民俗芸能。フォークロリズム。観光資源。デジタルコンテンツ。

授業の概要

民俗文化（Folk Culture）は都市文化（Urban Culture）との対比で語られてきた文化現象である。民俗学という分野で研究が行われてきたが、文化人類学、社会学、歴史学、文学との関連も深い。民俗宗教、祭り、伝承、民俗芸能などの事例を紹介しながら、日本の民俗文化について解説する。現代の事象として、デジタルコンテンツやテーマパークに民俗文化がどのように取り込まれているのかを知り、民俗文化の変容について考える。先駆者の仕事から専門的な切り口についても考察する。

到達目標

1	民俗文化の現代的な諸相について理解を深める。
2	参拝や祭り、盆や節句などの民俗宗教、神楽や歌舞伎などの民俗芸能の具体的な事例に触れ、民俗文化を変容させる要因について考える。
3	生活習慣としての民俗、忘れられた民俗、新たに創造される民俗に思いを巡らせ、日本人は何を受け継ぎ、何を失ったのかを想像する。
4	日本各地の民俗文化をマネジメントする基礎的な知識を習得することを目標とする。

教授方法

講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、民俗文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	民俗文化とは何か
2	民俗宗教
3	年中行事
4	神社と祭り
5	縁起の民俗文化
6	南方熊楠の民俗学
7	柳田国男と折口信夫
8	神楽と民間伝承
9	能と紅葉伝説
10	歌舞伎と紅葉伝説
11	フォークロリズム
12	デジタルコンテンツと民俗文化
13	テーマパークと民俗文化
14	全体のまとめと期末試験

授業外における学習

映像視聴、読書など、随時指示する。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	

期末試験	90	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	岡本太郎『神秘日本』（2015年、角川ソフィア文庫）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

オンライン授業ではビデオを「オン」にし、顔を見せて受講する。期末試験は教室にPCを持参してGlexaで実施する。

文化人類学

更新日：2023/01/10 08:51:50

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L2120A	科目コード	L2120
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

構造主義。文化相対主義。創られた伝統。トリックスター。複数の経済。

授業の概要

文化人類学は「文化を通して人間集団を理解する」学問分野である。文化は集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受けて常に変化する。人間が創り出す世界観の構造、他者理解のメカニズム、世界各地の様々な文化現象について解説する。構造主義、文化相対主義、創られた伝統、トリックスター、複数の経済などの文化人類学の思考方法や概念を通して世界を見つめた後に「自分とは何か」「人間とは何か」といった普遍的な問いに立ち返る。

到達目標

1	世界各地の文化を学び、異文化理解に必要な知識を習得する。
2	文化人類学の基礎的な思考方法に親しむことで、異質な他者に対して、共感は難しくても理解する柔軟な思考を育む。
3	多様な人間の暮らし、習慣、感じ方、考え方などに触れ、あらためて自分とは何かを考える。
4	既存の価値観から距離を置き、新たな世界の見方を習得することを目標とする。

教授方法

講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、世界の文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	イントロダクション、世界観と他者
2	構造主義
3	生活と文化
4	文化相対主義
5	宗教と死生観
6	創られた伝統
7	国家と王権
8	トリックスター
9	サイバースペース
10	スペインの巡礼
11	経済人類学
12	クラとポトラッチ
13	老いと病い
14	全体のまとめ、期末試験

授業外における学習

映像視聴、読書など、随時指示する。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	

期末試験	90	
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
		特になし。			
		山口昌男『学問の春：知と遊びの10講義』（2009年、平凡社新書）。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

オンライン授業ではビデオを「オン」にし、顔を見せて受講する。期末試験はPCを持参してGlexaで実施する。

音楽

更新日：2023/01/10 08:51:51

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L2130A	科目コード	L2130
担当教員	大南 匠						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

西洋音楽史、“きく”とは何か、現代音楽、ミニットペーパー

授業の概要

バロックから現代までの西洋音楽史の流れに沿いながら、鑑賞を通じて楽曲の構造、思想に触れる。クラシック音楽をベースにはするが、ジャズ、民族音楽、ロック、歌謡曲、ノイズなど様々なジャンルを横断する。また、美術、建築、映画、文学、ダンスと音楽の関係性に考察する。

到達目標

1	音楽と社会の関係、音楽の多様性について理解する。
2	“きく”ことの意味について理解する。

教授方法

対面による授業。授業の前半は前回授業のミニットペーパーから質問、感想を基に授業を展開する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、バロックの音楽（バッハ、パッヘルベル、パーセル／平均律と純正律、対位法ーカノン技法、ピアノの発明）
2	古典派1（サリエリ、モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン／機能と声法、ソナタ形式）
3	古典派2（ハイドン、ベートーヴェン／市民音楽の夜明け、啓蒙思想との関わり）
4	ロマン派1（シューベルト、ベルリオーズ、メンデルスゾーン／型からの脱却）
5	ロマン派2（ショパン、シューマン、リスト、チャイコフスキー／楽器の発展、コンサートホールの建設と音楽学校の設立）
6	ロマン派3（ワーグナー、ブルックナー、マーラー、シュトラウス／半音階の使用）
7	国民楽派1（バラキレフ、ムソルグスキ、リムスキー＝コルサコフ／ロシア5人組）
8	国民楽派2（スメタナ、ドヴォルザーク、アルベニス、ファリャ、シベリウス／民族と音楽）
9	印象派（ドビュッシー、ラヴェル、イベール／曖昧な調性、全音階の使用）
10	近代の音楽1（ラフマニノフ、プロコフィエフ、スクリャービン、バルトーク／和音の響き）
11	近代の音楽2（ストラヴィンスキー、シェーンベルク、アルバンベルク、ヴェーベルン、ヒンデミット／調性の崩壊、12音技法）
12	“きく”とは何か（ミニワークショップ＊状況により変更あり）
13	現代の音楽1（アイブス、メシアン、クセナキス、リゲティ、ブーレーズ／セリー音楽、政治と音楽）
14	現代の音楽2（テリーライリー、ライヒ、フィリップグラス、ベルト、グレッツキ、吉松隆、佐藤聡明／セリー音楽の限界、新ロマン主義）

授業外における学習

ライブで作品を鑑賞するのは難しい状況ではあるが、ネット配信など、これまでは体験できなかった方法で様々なコンテンツに触れることができるため、音楽に関わらず、様々なアート作品に触れて欲しい。理解できる、理解できないに関係なく、まずは多くの作品を耳にすること、目にすること、触れることが重要。

質問や相談への対応

質問や意見を述べたミニットペーパーにできるだけ授業内で答えるように努めるが、授業内で扱って欲しくない内容などについては、メールなどで対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
提出物	50	ミニットペーパー（14回分）の内容を評価する。
レポート	50	学期末に実施するレポート内容を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜、提示する。			
	適宜、提示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

講義の3分の1はミニットペーパーを基に構成するため、考察したことを自由に記載して欲しい。

その他・特記事項

とくになし

国際関係論

更新日：2023/01/10 08:51:52

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3010A	科目コード	L3010
担当教員	駒村 哲						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

国民国家、民族、冷戦

授業の概要

国際関係の歴史的形成と展開に関する基本的知識を得るとともに、現代国際社会が直面する諸問題を解決する手法を学ぶ。

到達目標

1	学際的かつ総合的学問である国際関係論について理解できるようになる。
2	現代国際関係の諸問題を解決する手がかりを自ら見つけることができるようになる。

教授方法

講義（プリント配布）とともにビデオをみる

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

歴史学及び政治学関係の科目を履修することが望ましい

授業計画

1	国際関係論とは何か
2	国民国家とは何か
3	国際社会とは何か
4	第1次世界大戦
5	1920年代のヨーロッパ
6	1920年代のアジア
7	1930年代のヨーロッパ
8	1930年代のアジア
9	第2次世界大戦ーヨーロッパ戦争
10	第2次世界大戦ーアジア・太平洋戦争
11	冷戦とは何かーアメリカにおける研究
12	冷戦とは何かーロシアにおける研究
13	国際関係論における理論研究
14	21世紀の国際関係論

授業外における学習

事前にテキストを読み、問題関心を高め、事後はテキストを読み返す。

質問や相談への対応

講義の前後で対応する。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
期末試験	25%	論理的説明がなされている
期末試験	25%	歴史的事実を正確に理解している
期末試験	25%	オリジナルな見解が説得力を有している
期末試験	25%	講義内容を踏まえて論述している
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『国際紛争』（ジョセフ・ナイ）有斐閣			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

主体的かつ積極的に取り組む。

その他・特記事項

特になし。

社会学

更新日：2023/01/10 08:51:53

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L3020A	科目コード	L3020
担当教員	築山 秀夫						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会学的想像力、近代社会、国民国家、構造／主体、グローバリゼーション、ジェンダー

授業の概要

この科目は、総合教育科目のうち「社会と産業」の科目に位置づけられている。社会学の立場から、現代社会の構造と特徴について講義する。現代社会を、社会学的パースペクティブを用いて分析し、考察できる能力を培う。

まず、社会学の方法と視座、キー概念、社会学が誕生した歴史的背景について学ぶ。次に、近代社会、グローバリゼーション、後期近代の特質について学ぶ。そして、社会的に重要視され、受講生が関心を持つ問題（ウクライナ戦争、パンデミックなど）を幾つか取り上げて、そのメカニズムや構造的背景について考察する。履修者間の議論（グループワークと発表）を通じて理解を深める。

【ねらい】

身近で個人的な問題に見えるような現象を、より広い社会的文脈のなかで捉え直し、理解することのできる能力を身に付けることをねらいとする。さらには、他者によって構築された自己自身を捉え、デフォルト的なものの見方をアンインストールし、社会をこれまでと違う視点で眺めることで、そこに潜む構造を捉える批判的な思考法と、それをより良い社会の構築に結びつける構想力を身に付けより良い社会の構築に必要な条件を探求することをねらいとし、以下を到達目標とする。

到達目標

1	①社会学の方法や視座、社会学的想像力とは何かを理解する。
2	②社会学の歴史について理解する。
3	③社会学の領域や多様性について理解する。
4	④社会学が対象としている近代社会の特徴を理解する。
5	⑤自分で社会的問題を捉え、それについて、社会的な分析をすることができる。

教授方法

基本は、講義形式で行うが、学生による能動的な学修も組み込む。受講者をグループに分け、毎回必ず、グループ内でディスカッションをした後に、意見の発表をしてもらう。コロナ禍への対応のために、当初一週間は、オンライン講義とする。小テストの実施については、実施する前の講義でアナウンスをする。学生諸君の興味関心に対応するために、講義で取り扱うテーマを変更することがある。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

この科目は、社会科学の考え方の基礎的な習得をねらっているので、なるべく一年次に受講して頂きたい。本授業を履修する前に受講する必要のある科目はない。初回で、この講義の進め方について説明するので、初回から出席することが望ましい。

授業計画

1	オリエンテーション:授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。・受講生の関心を知るために、Formsによる簡単な調査を実施する。・社会学の問い、自分が作ったわけではない世界で行為すること、社会学者の関心・野心・願い・役割について学ぶ。
2	社会学のキー概念、社会学の方法と視座:社会学の方法と社会学の魅力、社会学的想像力について解説する。第一回で調査した結果を共有する。
3	社会科学および社会学の誕生と歴史的背景、科学史における位置づけについて解説する。
4	社会学の領域と多様性:社会学の領域、社会学の多様性（連字符社会学）について解説する。
5	近代社会の特質:国民国家、資本主義、階級社会など近代社会の特質について解説する。第1～4回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト①を実施する。
6	グローバリゼーション:デヴィッド・グレーバー『負債論』を読み、グローバリゼーションについて、議論する。グローバリゼーションにおける功罪に関するレポート1を提出する。
7	グローバリゼーション2：アメリカにおける格差問題を考察する。
8	後期近代：リスク社会、排除型社会について解説し、現代社会について議論する。第5～7回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト②を実施する。
9	労働とギグ・エコノミー：Amazonやウーバーにおけるテラーの亡霊について考察する。
10	ブルシット・ジョブとエッセンシャルワーカー：なぜ、社会のためになる仕事程給与が低いのかを考察する。
11	現代日本の家族と少子化:家族の構造や機能、家族の現状を諸データより分析し、解説する。日本の少子化に関する原因に関するレポート2を提出する。

12	現代日本の家族と少子化2:日本の少子化のメカニズムについて考察する。
13	日本における社会的格差、福祉制度の課題について解説する。日本国家のあり方に関するレポート3を提出する。
14	まとめ：これまでの授業で学んだことを振り返り、社会的に捉えることは何かを確認する。

授業外における学習

毎回、シラバスに書かれているテーマについて、自分自身で、事前に調べておくこと。毎回、フォローアップ課題に回答し、授業内容を復習し、疑問点を整理すること。課題レポートを提出する。

質問や相談への対応

質問は、授業後及びオフィスアワー時に受け付ける。また、毎回、講義の後に、フォローアップ課題と共に、質問を受けるので、次回、回答し、履修者と共有する。但し、自分でできる限り調べる努力をすること。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	選択・記述とし、社会学の基礎的知識を理解し、社会的視点で社会事象の説明ができるかを問う。試験が60点以上なければ、他の成績が良くても及第（可以上）できないこととする。
小テスト	20	第5回と第8回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
授業レポート	30	それぞれレポートを（10点満点）提出していただき、評価する。全てのレポートを提出していることが及第（可以上）の条件となる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は特になし。毎回、講義のスライドの紙・ファイルを共有する。			
	ケン・プラマー（2016→2021赤川学監訳）『21世紀を生きるための社会学の教科書』ちくま学芸文庫（Ken Plummer, 2016, SOCIOLOGY: The Basics, Routledge）講義時に、その都度、配布したり、紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①授業はパワーポイントによる講義を中心に行うが、ノートを取って学習することを勧める。
- ②グループワークやディスカッションに積極的に取り組むこと。
- ③日常的に新聞等のマス・メディアが発信する情報を摂取し、現代社会に関する多様な情報を獲得すること。

その他・特記事項

自ら考え、学び、知的好奇心を持ち続けることを期待する。意見を主張するときには、必ずエビデンスを示すことを心掛けてほしい。

憲法

更新日：2023/01/10 08:51:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3030A	科目コード	L3030
担当教員	関 良徳						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

人権 自由 平等 社会 国家

授業の概要

授業の前半では、日本国憲法の基本原理や様々な種類の人権について概説し、それらの特性や問題点について検討します。後半では、人権保障のために設けられている統治機構の各機能について概説します。

到達目標

1	この授業の目標は、私たちの身の周りで生じている様々な憲法上の問題を手掛かりに、日本国憲法の基本原理（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）について理解することです。具体的には、各条文の解釈を通じてその意味を理解すると同時に、判例を適宜参照することで実際の事件と憲法とのかかわりについて考察できるようになることです。
---	---

教授方法

講義形式とディスカッション形式を組み合わせています。必要に応じてオンラインでの授業を行います。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

この授業を履修するためには、毎回の予習と復習が必要です。

授業計画

1	憲法と立憲主義：憲法についての基礎的な概念やその中核を構成する立憲主義の考え方を説明する。
2	日本国憲法の成立：大日本帝国憲法から現憲法成立までの歴史的過程及びその正統性を概説する。
3	国民主権と天皇制：憲法前文、国民主権及び天皇制について説明する。
4	平和主義の原理：第9条の解釈及び自衛隊問題について説明し、改憲論について討論する。
5	基本的人権の原理：人権の諸形式及び人権の主体等について説明するとともに、人権の限界について考える。
6	包括的基本権と法の下での平等：第13条及び第14条について説明し、関連する判例を検討する。
7	自由権Ⅰ－内心の自由：思想良心、信教、学問の各自由について説明し、関連する判例を検討する。
8	自由権Ⅱ－表現の自由：表現の自由や知る権利について、判例検討を通じてその限界を考える。
9	自由権Ⅲ－人身の自由：刑事司法制度と人身の自由について説明を行う。
10	自由権Ⅳ－経済的自由：職業選択の自由や財産権について説明を行う。
11	参政権と社会権：参政権、生存権、教育を受ける権利、労働基本権について概説する。
12	統治機構Ⅰ－国会：国会の権能や法律の制定過程について説明する。
13	統治機構Ⅱ－内閣：内閣の権能や議院内閣制（大統領制との比較を含む）などについて概説する。
14	統治機構Ⅲ－裁判所・地方自治：裁判所の役割や司法権の独立、地方自治の制度について説明する。

授業外における学習

毎回の授業時に短いレポート課題を出します。この課題は授業の事後学習であると同時に、次回の授業の事前学習となる内容になっています。次回授業の際に提出する必要があります。

質問や相談への対応

- ・授業時間内に質問・相談等を受け付けます。
- ・メールでの質問や相談も受け付けています。

成績評価

共通の評価基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「達成目標の水準にある」、応用問題が解ければ「それよりもやや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価されます。	
評価項目	割合	評価基準
1	60	期末試験
2	40	予習・復習課題

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しません。毎回レジユメを配布します。			
	『論点 日本国憲法（第2版）』東京法令出版。その他は授業時間内に適宜紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

憲法が身近な問題と関わっていることを十分に理解していただきたいと思います。

その他・特記事項

授業内で行うディスカッションに積極的に参加して下さい。

社会保障入門

更新日：2023/03/15 13:14:29

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L3060A	科目コード	L3060
担当教員	清水 浩和						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

社会保障の知識の実践的活用、福祉と社会保障との関係、社会保障の財政分析（国際比較と歴史的把握）

授業の概要

入門編である本講義では、まずは身の回りの年金、医療、雇用、介護などの具体的なテーマを取り扱う。わが国と諸外国の社会保障の諸問題に関するデータや実例を紹介することから出発し、「なぜそうなのか」「そもそもどうだったのか」といった根源的な問題の検討を行う。こうした検討を行うことで、社会保障の理念・制度・実態を具体的に学ぶとともに、これらを体系的に理解する方法を示す。全体として、社会保障を学ぶ面白さや楽しさを伝えることに最も重点を置くこととする。

到達目標

1	本講義では、身の回りの社会保障の問題について「なぜそうなのか」「そもそもどうだったのか」といった疑問を持つことから出発する。自分の身の回りの医療や年金などの問題に対して疑問を持ち、その歴史的経緯や原因を考察することで、受講後も生活に役立つ社会保障の基礎知識の修得をはかるとともに、それらの知識を基に自ら考え表現する能力を養う。
---	---

教授方法

毎回のスライド（簡略版を講義の翌週に配布予定）に沿って講義を進めるが、ノートを自分で取ることが必須である。ただスライドを眺めるだけでは、知識は決して身につかないことを知ってほしい。また、質問やコメント（チャットやコメントシート等）を募り、参加型の講義を行いたい。受講生諸君の積極的な参加を歓迎する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	聞き取りから学ぶ力、必要な社会保障の知識の習得、歴史的な思考方法
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	質疑応答の重視、コメントペーパーの提出（任意）、見やすいスライド、アニメーションの活用など

履修要件

特になし。

授業計画

1	なぜ社会保障を学ぶのかーコロナ渦の中で考えるー：巨大な「パズル」を解く国際比較と歴史的視点 これまでコロナ禍にいかにか国や地方や医療機関は対応してきたかという観点から、社会保障の最前線（最先端）のテーマを扱う。
2	なぜ社会保障を国家が行うのか：市場経済と国家の役割の変容① そもそもなぜ国家が社会保障を行うようになったか、その根源的なテーマを歴史的に考察する。
3	なぜ社会保障を国家が行うのか：市場経済と国家の役割の変容② そもそもなぜ国家が社会保障を行うようになったか、その根源的なテーマを歴史的に考察する。前回の続編。
4	社会保障は財政危機を招くのか、消費税は社会保障に使われているのか：社会保障の給付と負担を財政で読み解く そもそも社会保障は財政危機を本当に招くのか、消費税は本当に社会保障に使われているのかと言ったテーマを考える。
5	コロナ禍に医療はどのように対応したのか：医療保障（医療保険等）の理念と実態① これまでコロナ禍に医療はどのように対応してきたのか、その詳細をより具体的に論じる。
6	日本の医療は優れているのか：医療保障（医療保険等）の理念と実態② 国際的に見て日本の医療は優れていると言われていたが、それは本当なのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
7	老後の介護はもう安心なのか：介護保障（介護保険等）の理念と実態① 我が国の介護保険への評価は様々である。その詳細を具体的に論じる。
8	老後の費用はどのくらいかかるのか：介護保障（介護保険等）の理念と実態② 我が国の介護保険への評価は様々である。その詳細を具体的に論じる。 前回の続編。
9	貧困はどこで生じているのか：雇用保障（失業保険等）の理念と実態① わが国では貧困はどこで生じているのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
10	より良い仕事に就くにはどうすれば良いのか：雇用保障（失業保険等）の理念と実態② わが国では貧困はどこで生じているのだろうか。その詳細を具体的に論じる。前回の続編。
11	生活保護を受ける人は本当に怠け者か：公的扶助（生活保護等）の理念と実態 わが国で生活保護を受ける人々は本当に怠け者なのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
12	なぜうちの親の年金はこうも少ないのか：所得保障（年金保険等）の理念と実態 わが国で少額または低額の公的年金しか受けとれない人々は本当に怠け者だったのだろうか。その詳細を具体的に論じる。
13	なぜ保育所に子どもを入られないのか：児童保障（子ども・子育て支援制度等）の理念と実態 わが国では保育所に子どもを入られない人々が多いが、なにが原因なのか。その詳細を具体的に論じる。

14	(総括) 社会保障を体系的に考える：ライフサイクルに応じた社会保障の考え方がわが国でも諸外国と同様、人の一生を通じた体系的な社会保障の考え方が求められている。それはどのようなものか。その詳細を具体的に論じる。
----	--

授業外における学習

授業後に配布するスライド（簡略版）や自分のノートを繰り返し復習すること。
 ただスライドを眺めるだけではなく、あわせて自分で書いたノートを繰り返し見直してほしい。また、スライドではアニメーションも多用しているため、実際に自分の手で動かしてみしてほしい。その上で、毎回の講義への自分なりの感想や考えを実際にコメントシートで書いて（アウトプットして）みてほしい。これらができれば、大きな学習効果が得られるだけでなく、大学を卒業して生活をするなかで役立つ知識が身についていくであろう。

質問や相談への対応

授業中もチャットで適宜受け付ける。これらの質問への回答は講義中にできるだけしていく予定である。また、電子メールでの質問やコメントペーパーも受け付ける。

（メールアドレス）18000764@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	80	記述内容の面白さ、論理展開の的確さ、授業内容の理解度、キーワードの記述の正確さ等を主な評価基準とする。剽窃は厳禁。
授業参加	20	意欲的な講義への参加、講義への質問、コメントペーパー等の内容を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	原則として各回の講義で紹介する。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考書・参考資料等

原則として各回の講義で紹介する。以下は参考書。
 高端正幸、伊集守直（編）『福祉財政（福祉+α）』2018年、ミネルヴァ書房

受講生に望むこと

講義中はスライドにはない話も多くするため、講義ノートをしっかりととってほしい。
 自分でノートを取り、重要なポイントと疑問点をスライドで復習をすると大きな学習効果が得られる。スライド（簡略版）は授業の翌週に配布する予定。

その他・特記事項

受講生諸君の知的好奇心にできるだけ応えられる講義を行いたい。
 講義への学生諸君の積極的な参加を期待する。

法学

更新日：2023/01/10 08:51:30

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L3070A	科目コード	L3070
担当教員	遠藤 元一						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

ルール、インセンティブ、契約、エンフォースメント、予防、解決

授業の概要

この授業は、法には、その法が実現しようとしている目的（目標）があり、その目的を実現するために一定の仕掛けを用意していること、法が適用されない領域もあることなどについての基本を学習する。この法の基本的な構造・ルールを理解することで、これまで考えたことのない問題や新たに生起・創造される様々な領域の問題に対して、法の基本的な構造・ルールを応用して問題を解決に導く基礎力を養う。なお受講生の理解度などを確認しながら、適宜内容を修正することもある。

英語表記「Introduction to Law」

到達目標

1	①法の基本的な構造を理解する。
2	②法の基本的な考え方にに基づき結論を導く論理的な思考を体得する。
3	③これまで考えたことのない問題にも②を応用して結論を導く基礎力を養う。

教授方法

講義形式。質疑応答や、適宜、何人かのグループに分かれてディスカッションしてもらい発表してもらうことも行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

無し

授業計画

1	法の全体像－選挙に行く意味は？、ネットでの表現はどこまで許されるか？など、法律に関わる問題を考えてみる
2	法はなぜ必要か－法があると社会はどう変わるか、法ルールが社会にもたらす効果
3	法の働きその1－取引等と法のルールその1
4	法の働きその2－取引等と法ルールその2
5	様々なルールその1－法が用意している様々なルール
6	様々なルールその2－法が用意している様々なルール
7	法を使うその1－具体的な法の解釈の試み 憲法、刑法、行政法規
8	法を使うその2－具体的な法の解釈の試み 民法、会社法
9	法をあてはめるその1 ケーススタディ 具体的な事例で法の適用をしてみる まず事実を確定する
10	法をあてはめるその2 ケーススタディ 具体的な事例で法の適用をしてみる 確定した事実法に法を適用してみる
11	法ルールを「予防」に使うその1 伝統的な企業法務の役割としての紛争予防と紛争解決
12	法ルールを「予防」に使うその2 新たな企業法務の役割－内部統制体制等
13	法ルールを作る 法ルールを作るときの考え方 何を目標とする、遵守するための手法、複数の目的を設定するとき
14	まとめ

授業外における学習

・毎回指定された教科書の範囲を読んで自分なりに考えておく。

質問や相談への対応

- ・質問は授業中、授業の前後に受付ける。
- ・前回の授業の質問で共有する意味があるものについては次回の授業のはじめにコメントする。
- ・メールでの質問も受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。
---------	---

評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70	課題に対する取組みの視点や理解度、意欲に応じて評価する。
上記以外の授業評価	30	授業中の質疑応答等に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	森田 果『法学を学ぶのはなぜ?』（有斐閣、2020）			
	①江藤祥平ほか『大学生生活と法』（有斐閣、2022） ②内海博俊ほか『法学入門』（有斐閣、2021）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

できれば新聞一紙でいいから毎日、隅々まで目を通すようにしてほしい

その他・特記事項

無し

経済学入門A（ミクロ）（旧：経済学入門I）

更新日：2023/01/10 08:51:31

開講年度	2022	学期	1期	シラバコード	L3080A	科目コード	L3080
担当教員	中条 潮						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

経済学 海外プログラム

授業の概要

この入門講座では、経済学の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性を、グローバルマネジメント学部の海外実地研修（海外プログラム）の研修国とビジネスビジット先を例に、わかりやすく説明します。

到達目標

1	1) 専門科目としての「ミクロ経済学」で体系的にミクロ経済学を学ぶ準備段階として、日本と世界の基礎的な経済事象を理解することによって、政策のありかたや経営問題を考える際の基本となる「経済学的な物の見方」を身に付けること。
2	2) 海外実地研修（海外プログラム）の研修国の特徴とビジネスビジットのねらいを理解すること。

教授方法

7回の短い授業であり、かつ、履修者が多い授業ですので、時間のかかる質疑応答を実施する余地がなく、基本的には講義スタイルとします。

この授業は、オンラインでのライブを基本とします。Covid-19の状況次第では、対面で実施する場合がありますが、対面授業の場合も、オンライン授業と同様の形態で教室で授業をしますので、必ずPCとヘッドセットを持参して授業にのぞんでください。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

全学部全学年の学生が履修可能です。ただし、説明事例はグローバルマネジメント学部の海外研修先を使用します。

授業計画

1	I. 経済学の重要性と「大学では何を学ぶべきか」～海外プログラムのねらい～
2	II. ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 1.経済学の目標は社会全体の幸福の最大化 2.経済学の「効率」の概念
3	II. ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 3. 市場メカニズムの役割と限界
4	III. 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 1. 海外プログラムの business visit sites と学んでもらいたい経済の基礎 2. 第二次大戦後の日本経済の流れ 3. 「国による保護+大企業支配体制」から「大企業vs新規参入企業」の競争時代へ
5	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 4. 自由貿易 v s 閉鎖国家 5. 途上国援助と低所得者対策の基本課題III
6	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 6. 「外部不経済の内部化」と「企業の社会的責任」はどう違う？～CSR、SDGへの疑問～ 7. 観光立国と地域おこしの幻想
7	III 経済の諸相～海外プログラムを事例としながら～ 8. 経済改革、自由、高福祉～北欧モデルとニュージーランドの改革から学ぶ～

授業外における学習

事前：学生ポータルにupされた授業のレジュメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。

事後：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば自分で調べること。

質問や相談への対応

質問は、なるべく、授業中をお願いします。

上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとってくれば可能な限り対応します。

成績評価

共通の評価基準	(全学共通) 【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。 ただし、これではまったく具体性がないので、基準になりませんから、当科目における具体的な合格基準は下記を読んでください。もう少し詳しい条件は授業で話します。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験の予定ですがcovid19の影響でレポートになる可能性もあります。	100	授業で教えた基礎用語、経済事象、余剰分析について、筆記試験なら50%、レポートの場合は80%理解しているとみなせば、かつ、私の指示を満たしていれば合格とします。
授業中の質疑・回答	不定	授業を活性化させる質問や回答の場合は、その程度に応じて加点することがあり得ます。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は使用しません。ポータルに授業資料をupします。			
	大学生になったら自分で探すこと。ただし、参考書が必要なほどの高度の内容は講義しません。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学生として当然必要な学習態度以外、特に求めません。

その他・特記事項

グローバルマネジメント学部の5期生以降は、この科目は必修となります。他学科生、GM4期生までは選択自由です。

経済学入門B（マクロ）（旧：経済学入門II）

更新日：2023/01/10 08:51:05

開講年度	2022	学期	2期	シラバスコード	L3090A	科目コード	L3090
担当教員	中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

経済学の十大原則、長期の実物経済、国民所得、物価、生産と成長

授業の概要

経済学入門B（マクロ）は経済学の入門科目であり、主にマクロ経済学の初歩的な考え方を修得し、それを用いて国内外の事象を理解することを目的とする。マクロ経済学は、GDP、物価、雇用といった一国の経済全体（マクロ経済）の動き（「景気」）を決めるメカニズムを分析する学問分野である。世界の大学で標準的に用いられている教科書を用いて、7週かけて丁寧に解説と演習を行い、理論の基本的理解と実体経済への応用力を養う。

到達目標

1	①経済学的に考える習慣を身につける。
2	②日々のマクロ経済に関わるニュースを批判的に理解できるようになる。

教授方法

主に講義形式で行う。講義においてはオンラインで学生が積極的に参加する機会を適宜設ける。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	イントロダクション、マクロ経済学とは、経済学の十大原理【青教科書：第1章】【緑教科書：第1章】
2	経済学の十大原則復習、経済学者らしく考える【青教科書：第1,2章】【緑教科書：第1,2章】
3	国民所得の測定【青教科書：第8章】【緑教科書：第5章】
4	生計費の測定、生産と成長【青教科書：第9,10章】【緑教科書：第6,7章】
5	貯蓄、投資と金融システム【青教科書：第11章】【緑教科書：第8章】
6	総需要と総供給【青教科書：第12章】【緑教科書：第15章】
7	開放マクロ経済学—基本的概念【青教科書：第13章】【緑教科書：第13章】

授業外における学習

内外の経済的・政治的・社会的背景とその変遷について、あらゆる分野にわたっての一定の理解が求められる。講義外でも積極的に多方面の読書や情報理解を怠らないこと。

また、日本経済新聞、The Economistなど、時事的な記事に常時目を通しておくこと。

質問や相談への対応

常時受け付ける。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
試験	80	期末試験を実施する
授業中の議論への参加度	20	宿題を含む
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	<p>N・グレゴリー・マンキュー [2019]『マンキュー入門経済学(第3版)』, 東洋経済新報社 (白地に青字) ※なお、2年次以降に「マクロ経済学」履修予定の場合は、 N.グレゴリー・マンキュー[2019]『マンキュー経済学IIマクロ編(第4版)』, 東洋経済新報社 (白地に緑字) の1冊で経済学入門B (マクロ) と併用可能</p>			
	<p>【初級】一橋大学経済学部編『教養としての経済学』有斐閣、2013年 猪木武徳『経済社会の学び方』中公新書、2021年 【中級】大瀧雅之『平成不況の本質—雇用と金融から考える』岩波新書、2011年 大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018年 【応用】内閣府『経済財政白書』日経印刷、(毎年発刊) The International Monetary Fund (IMF): World Economic Outlook 他、適宜紹介する。</p>			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

教科書を繰り返し読むことを勧める。

出席しただけでは「授業への貢献度」のポイントとはならない。討論への参加、発言等、授業に対して何らかの貢献があると認められてはじめて有効となる。あまり周囲の目を気にせず、しかし同時に周囲の多様な意見を理解しながら、積極的に議論に参加してほしい。

その他・特記事項

担当教員は国内外で金融・経済調査・国際会議の実務経験を有する。

数学的発想

更新日：2023/01/10 08:51:56

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L4010A	科目コード	L4010
担当教員	福田 一貴						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

高校数学の応用、宝くじ、保険・投資、経路探索、暗号理論、人工知能

授業の概要

この授業では、高校の数学I・A程度の知識を前提として、確率・統計、グラフ理論、整数の性質などのテーマについての初歩的な講義を行う。これらの数学の身近な応用例として、例えば、確率・統計では宝くじや保険・投資、グラフ理論ではカーナビの経路探索、整数の性質では公開鍵暗号方式などの仕組みを理解する。各テーマごとの講義の後に、応用例に関するグループワークなどを通じた体験的な活動を行い、数学的な発想法を経験的に学んで行く。授業の終盤では、近年注目を浴びている人工知能(AI)について、グループで調べ学習を行い、シンギュラリティが訪れるかどうかについて、数学的発想に基づいた議論を行う。

【科目のねらい】

我々の身の回りでは、至る所で様々な数学が応用されている。しかし、自分が知っている数学を応用して、何かの役に立ったという経験は少ないのではないだろうか。本授業では、幾つかの数学の具体的な応用例を紹介するが、難しい計算をしたり、複雑な公式を覚えるのが目的ではない。実際に数学を応用する体験を通して、数学的な発想力や思考力を養い、実際の社会生活に役立てる力を身につけることを目標とする。

到達目標

1	① 具体例を通して数学が応用される仕組みを理解する。
2	② 具体的な問題解決に対して数学を応用することができる。
3	③ 数学を応用した結果に基づいて議論したり判断することができる。

教授方法

この授業では、毎回最初にそれぞれのテーマに関する基本的な内容について講義を行い、その後グループ学習を行う。従って、授業の一部は講義形式であるが、基本的にはアクティブ・ラーニング形式の授業を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に指定しない。この科目では高校までに学んだ数学とは少し雰囲気違った数学の講義を行う。従って、これまで数学が得意だった人はもちろん、そうでない人の受講も大歓迎である。

授業計画

1	オリエンテーション (1) この授業の概要と進め方について理解する。 (2) グループ決めと自己紹介を行う。その後、身近な数学の応用例について考える。
2	確率・統計（基礎編） (1) 確率・統計の基礎を理解する。 (2) グループで確率・統計の簡単な問題に取り組み、その応用例を探す。
3	確率・統計（応用編） (1) 宝くじの仕組みを理解する。 (2) グループで宝くじに関する簡単な計算を行う。
4	確率・統計（実践編1） (1) グループで保険の損得勘定を行う。 (2) (1) に基づいて、グループで簡単な保険商品を作成する。
5	確率・統計（実践編2） (1) グループで投資信託のリターンとリスクを調べる。 (2) (1) に基づいて、様々な条件に合う投資信託を探す。
6	グラフ理論（基礎編） (1) グラフ理論の基礎を理解する。 (2) グループでグラフを用いた簡単な問題に取り組む。
7	グラフ理論（応用編）経路探索問題について考える。最短経路の問題は高校でも学習するが、ここでは最短とは限らない経路の問題を考え、組み合わせの数え方について再考する。
8	グラフ理論（実践編） (1) ダイクストラ法を理解する。 (2) グループでダイクストラ法の問題に取り組む。
9	整数の性質（基礎編1） (1) 高校で学習した整数の性質を復習する。特に、ユークリッドの互除法について学ぶ。 (2) グループで大きな整数の素因数分解に取り組む。
10	整数の性質（基礎編2） (1) 高校で学習した整数の性質を復習する。特に、合同式について学ぶ。 (2) グループで大きな合同式の計算に取り組む。
11	整数の性質（応用編） (1) 暗号理論における鍵輸送問題について理解する。 (2) グループで鍵輸送問題の解決策について考える。
12	整数の性質（実践編） (1) 公開鍵暗号の仕組みについて理解する。 (2) グループで公開暗号で使われる暗号の鍵を作成する。
13	人工知能1（グループ学習）グループで人工知能(AI)について調べ学習を行い、その現状とそこで使われている数学について考える。
14	人工知能2（グループ学習）グループで人工知能(AI)について調べた内容と数学的発想に基づいて、シンギュラリティが訪れるかどうかについて議論する。

授業外における学習

毎回の授業で出題する課題に取り組み、講義内容の復習や次回の授業のための予習を行うこと。特に復習が大切である。数学は教員に説明されて理解できたと感じた話であっても、それらを自分の言葉で復元できるようになるにはかなりギャップがあるため、人に説明できるくらいになるまで、じっくり考えることが大切である。

質問や相談への対応

授業内容に関する質問や学習に関する相談等には基本的にいつでも対応する。また、メールによる問い合わせにも随時応じる他、事前にメールで予約のもと、オンライン会議システム等を用いた遠隔での解説にも対応可能である。なお、担当教員のメールアドレスは、初回の授業で連絡する予定である。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
最終レポート課題	40	設定された課題について数学的発想に基づいて議論できているかどうかを判定する。
中間レポート課題	30	設定された課題について数学的発想に基づいて議論できているかどうかを判定する。
授業評価	30	グループ学習の内容の理解度を毎回の授業で測る。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に指定しない。			
	浅野晃：社会人1年生のための統計学教科書ウィリアム・J・クック：驚きの数学 巡回セールスマン問題サイモン・シン：暗号解読（上巻・下巻）新井紀子：AI vs. 教科書が読めない子どもたち			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グループ学習には積極的に参加し発言すること。
また、わからないことは必ず質問すること。

その他・特記事項

この授業で仮定する高校数学の知識は、数学I・Aの確率と整数の性質のみである。数学の勉強をするというより、数学の気持ちができる授業を目指す。

生命科学

更新日：2023/01/10 08:51:56

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	L4020A	科目コード	L4020
担当教員	杉山 英子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

生物、細胞、ウイルス、生命観、代謝、遺伝子、自己複製

授業の概要

変化が激しくストレスに晒されやすい現代にあつて、私たちを取り巻く自然への深い関心と理解を培い、生涯に亘って精神と身体を健康に維持できるように、生物の生命現象を分子の動きを追いながら学び、疾患や失調という形で表出されてくる個体や集団レベルでの課題を理解できるようにする。具体的には、生体構成物質の構造や性質ならびに細胞や器官の働き、ヒトの健康と密接に関わる栄養、ホメオスタシス、生殖、発生等における基本的な物質の流れについて学ぶ。さらに、遺伝子操作技術の発展が人間社会に及ぼす影響などを学ぶ。

到達目標

1	「生命のしくみ」を一通り理解し、現代社会に急速に拡散・浸透しつつある生命科学の知識や技術をいかに利用し育てていくかを判断することができる力を養う。
---	---

教授方法

講義。スライドを使用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

高校の「生物基礎」「化学基礎」の履修者であること

授業計画

1	オリエンテーション（「生物学」から「生命科学」へ 生物学の歴史）
2	生命とは何か、生物とはどのようなものか（「生命」の基本概念）
3	生命の最小単位：Cell（細胞の構造と細胞内小器官の役割）
4	からだをつくる分子（糖質・タンパク質・脂質・無機塩・核酸）
5	細胞と遺伝子（1）（細胞増殖とDNA複製）
6	細胞と遺伝子（2）（遺伝子発現）
7	動物の発生と細胞分化
8	生命活動とエネルギー（エネルギーの通貨ATPとミトコンドリア）
9	ホメオスタシスと栄養（1）（飢餓応答と摂食の重要性）
10	ホメオスタシスと栄養（2）（生体リズムと食事）
11	ホメオスタシスと栄養（3）（摂食とホルモン）
12	免疫（自然免疫、獲得免疫、病原体、移植免疫、アレルギー）
13	遺伝子操作技術と人間社会（遺伝子工学、遺伝子検査・遺伝子診断、エピジェネティクス）
14	まとめ

授業外における学習

振り返り動画（全部の回分はありません）を観ておいてください。

質問や相談への対応

メールでも受け付けます。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題図書を読んで作成するレポート	60%	課題図書の内容への理解度、考察力、表現力
小テスト	30%	理解度、科学的思考力

上記以外の授業評価	10%	主体的態度、授業への貢献度
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『ヒトを理解するための生物学』改訂版（裳華房）八杉貞雄著			
	『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著（講談社）他、授業の中で紹介する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

生活の中に疑問を持ってください。

その他・特記事項

生体物質に関する内容は、どうしても化学的要素が入りますので、高校で使用した教科書も参照しながら聞いてください。

プログラミング基礎

更新日：2023/01/10 08:51:57

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L4030A	科目コード	L4030
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	2年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

プログラミング的思考, Webに関する基礎 (HTML, CSS, JavaScript), Webサイト作成

授業の概要

アルゴリズムの記述, 変数や制御構造, プログラミングの基礎を学ぶことにより, コンピュータの原理解を深めるとともに, 論理的な思考, 問題解決能力を養う。次に, 情報の発信や表現に関わるより発展的な内容を学習する。また, WWWの仕組みを理解し, HTMLを使った演習, Webサイト作成ツールを利用したサイトの作成を通して情報発信力, 情報表現力を身につける。

到達目標

1	アルゴリズム・プログラミングの基礎を学ぶことにより, 論理的な思考および問題解決能力を養う。また, WWWの仕組みを理解し, インターネット上での情報発信, 情報表現力を身につける。
---	---

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。受講者がPCを操作しながら授業を進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	【ガイダンス】プログラミングへのいざない
2	プログラミングのいろは / プログラミング的思考とは
3	プログラミング的思考とアルゴリズム
4	アルゴリズム
5	プログラム言語とプログラミング
6	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング① プログラミングの基本構造の理解
7	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング② 変数と配列の理解
8	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング③ プログラムの作成
9	WWWの基礎知識① HTML
10	WWWの基礎知識② HTML+CSS
11	JavaScriptでプログラミング① 逐次処理
12	JavaScriptでプログラミング② 選択処理と繰り返し処理
13	Webサイト作成①
14	Webサイト作成②

授業外における学習

授業で指定された課題に取り組むこと。

授業時間内に完成しなかった課題については, 授業外の時間を利用して完成させ, 提出期限を守って提出すること。

質問や相談への対応

- ・質問は, 授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	

課題 レポート	70	課題を正確に理解し、提出期限を守って提出できている。 課題の理解度および完成度。
その他の授業評価	30	授業に意欲的に取り組んでいる。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ①授業に欠席しないこと。
- ②主体的に課題に取り組むこと。

★生活のいろいろな場面で、プログラミング的思考を発揮してみましょう！

その他・特記事項

PC教室キャパシティの都合上、定員を30名とし、定員を超えた場合は抽選となります。履修を迷っている人は、事前に相談（授業概要や内容を確認）の上、履修登録をお願いします。

IT活用論

更新日：2023/03/14 01:09:22

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L4040A	科目コード	L4040
担当教員	石田 幸央						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

IT、テクノロジー、デジタル、スマホ、パソコン、タブレット、インターネット、AI、シェアリングエコノミー、SNS、SDGs、対話

授業の概要

ITとはどんなものか、どのように活用されているか、国内及び世界の事例を交えて学びます。

ITを活用しながらの授業が一般化する中で、ますます重要性を増してきたスマホやパソコン、タブレットの利用方法をまず伝えます。

インターネットが課題解決した世界の事例、コロナウィルスによって変わった世界、ビッグデータ解析の重要性、AI等の正しい知識を学びます。

SNS、ショッピング、会員制無制限利用サービス（サブスク）、SDGsなどの事業・サービスとITとの関わりやスマホ決済やシェアリングエコノミー、IoTの実例を学びます。

情報発信のためのホームページや画像、映像などの要素制作を実践し、活用できるようにします。

すべての講義において学生と講師、また学生がグループになってインタラクティブに対話し、対象のサービスを実際に使いながら進め、試しに作ってみるなど、実践的な講義を目指します。

世の中全体をシステムとして捉え、どのような構造になっているかを学びながら、そこにある問題を定義し、課題を解決するための思考であるシステム&デザイン思考を学びます。

対面授業が可能な間はグループワークを行います。

また、状況が好転した場合はフィールドワークも行います。

いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話していただきます。

自分の頭で考えて判断、行動し、ITを活用できる学生の育成を狙います。

なお、基本的にインターネットで入手できる以上のことは学ばないため、すでにITを駆使して情報源として有意義に活用できている学生は対象外となります。また、本授業ではITの世界を幅広く学ぶため、その分専門性の高さや学術的・技術的な深さを求める学生には物足りない内容になるので対象外とします。

講師経歴の概略：インターネット黎明期よりIT企業に22年間勤務し、起業。経営者として独立。エンジニアとしてシステムの開発、事業の企画・開発、事業責任者などを歴任。システム設計、UI、事業計画、組織運営・開発、地域貢献など幅広い業務と職務の経験を持つ。

到達目標

1	ITやテクノロジーへの苦手意識の克服
2	さまざまな活動の中で自らITを駆使してホームページやSNSなどのWebマーケティング担当、デジタル化の担当となる意欲的な社会人になる準備ができること
3	自分の頭で考えて判断、行動し、自らの意見を持ってそれを発することができる人材の育成、そしてITを活用できる学生の育成を狙います。

教授方法

プレゼンテーション資料を使った授業と演習・実習

次の授業に対して予習し、その内容をスモールグループで共有し、自らの言葉で教え、仲間から学び、知識を広げる。また、授業終了後に授業を通じて学んだこと、考えたことをレポートすることを求めます。

対面授業が可能な間はグループワークを行います。

また、状況が好転した場合はフィールドワークも行います。

いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話していただきます。

以下授業計画の「授業内容」に記載のSPはショートプレゼン、Rはレポートのある日です

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

PC、タブレット、スマホ等の情報端末持参 WiFiでのインターネット接続必須

授業計画

1	ガイダンス 講義の概要、ITって難しい？怖い？便利？ ITの理解とインターネットサービス、ビジネスモデル スマホからPCまでIT機器の選び方
2	インターネットが課題を解決した事例紹介、サービス設計 世界と日本のIT事情 (GAFA, BAT) SPIR
3	コロナウィルスが変えた世界 情報発信 リモート 世界での課題解決の事例 国内で明らかになった課題とその解決 SPIR
4	データの理解と分析 ビッグデータでわかること、AIってなんだ？ 予測の精度 機械学習、ディープラーニング、統計、グラフ分析、データグラフィック SP
5	SNSの過去現在未来 検索の変化 Youtuberと SNSとの付き合い方、メリットとデメリット、リスク、タブー SP
6	商品の売場からサービスへの変化 所有しない生活 サブスク ストアの開店、商品の魅せ方 SNSの活用、写真や動画の撮り方 SPIR

7	働き方の変化 コロナ前からの動きと「はたらくこと」の意義と目的 創業と起業に向けて データクレンジングなどこれまでになかった多様な労働のカタチ SPIR
8	世界、地球、環境のこと 深く関わるITとSDGs 環境ベンチャーとソーシャルインパクト投資 SPIR
9	システムとデザイン、問題と課題 これから考えるべき世の中の問題 問題定義と課題解決に向けた思考方法 グループで行うワークショップ 思考のフレームワーク体験 WS&R
10	情報発信のためのクリエイティブ制作 ホームページWebページの作り方 ツールの使い方や画像・映像・音楽の制作と編集方法
11	お金の未来 スマホ契約の個人情報提供から始まるカードと経済圏 デジタルマネー、スマホ決済の広がり、Fintechの今とこれから SPIR
12	シェアリングエコノミー 「空き」の活用 小さな余りから大きな資源へ 群衆の叡智 SPIR
13	実用化が進むロボット ドローンの一般化、センサー、AIの活用、工業・農業・漁業・サービス業での実例 IoTの今とこれから SP
14	まとめ これからのIT人材 圧倒的に足りないIT実務人材 ITを恐れない人材になるには？

授業外における学習

次回授業の予習、調べ物、ショートプレゼンの準備
授業後に自らの考えと意見を記述したレポートの提出
グループワークでの課題提出など

質問や相談への対応

オンラインでは随時可能
メールでの質問、相談なども遠慮なくしてください。
対面授業では、授業後に質疑の時間を設けます。
レポート提出に対して希望者にはコメントを返信します。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
1	40	オープニングピッチ（ショートプレゼン）参加4点 x 10	
2	35	レポート提出 x 7回 期限内で5点	
3	15	最終レポート期限内提出	
4	10	積極点 発言、発表等で加点 WS成果発表とレポート5点	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	インターネット上のあらゆる情報			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に授業での取り組みに参加し、積極的に発言、コミュニケーションすることを望みます。
自ら学ぶ姿勢が学習の効果を高めます。

その他・特記事項

楽しみながら対話し、学びましょう！

化学

更新日：2023/01/10 08:51:05

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L4050A	科目コード	L4050
担当教員	小木曾 加奈						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	一	単位	1	

キーワード

化学、濃度、計算、命名、構造

授業の概要

食品中の主な栄養成分は炭素原子を分子骨格とする有機物（有機化合物）である。本講義を通じ、有機化合物とはどういうものかを学ぶ。特に化学に必要なモルや濃度の計算、化学結合（共有結合、イオン結合、水素結合など）、命名法、異性体（不斉炭素原子）や表示法（D, L表示法、R, S表示法、E, Z表示法）について詳しく学ぶ。この講義では炭素原子を分子骨格とする化合物（有機化合物）の化学について基礎的な部分を学習する。この科目を学ぶことで、有機化学の基礎が身に付き、栄養士資格取得のための専門教育科目（栄養学、生化学、食品学、調理学など）を十分に理解できるようになる。

到達目標

1	化学系実験などで頻出する濃度・密度計算を積極的に取り入れて、理解を深めることができる。また炭素化合物の種類や構造式が自ら書け、また判別できると共に特徴的な官能基、分子を説明することができることを目標とする。①濃度計算や比重の計算ができる。
2	②化学構造をから名前を書くことができる。名前から化学構造を推察できる。
3	③化合物の化学特性を理解でき、異性体などを判別することができる。

教授方法

講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

高校で化学、もしくは化学基礎を選択していた者

授業計画

1	原子と周期表、同位体
2	分子量、モル、比重
3	イオン、化合物の表し方
4	命名法
5	異性体
6	化学結合
7	酸、塩基

授業外における学習

化学構造が前提の講義となるため、化学が苦手な方は事前、事後に学習を望む。

- ①指定された課題・問題に取り組む。
- ②苦手な分野の克服に向けて努力する。

質問や相談への対応

質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。

毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。
小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「マンガでわかる有機化学」 齋藤勝裕著 ソフトバンクク リエイティブ社適宜印刷物を 配布			
	高校化学や高校化学基礎の教 科書あるいは参考書			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

化学を苦手とする学生も多いので、毎回の授業後の復習は積極的に取り組み、テストに備えること。

その他・特記事項

特になし

デザイン思考

更新日：2023/01/10 08:51:59

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5020A	科目コード	L5020
担当教員	三上 龍之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

イノベーション、人間中心、創造性、共創、協働

授業の概要

「デザイン」が色やカタチなどのいわゆるデザイナーの活動だけではなく、様々な分野や職種で応用・実践できる方法論であることを理解する。今の姿を探る、課題を見つける、解決策を考える、試して洗練するというプロセスの中で、発散と収束を繰り返して課題を発見し解決するための、様々なツールを実際に体験し、関連知識やノウハウとともに学ぶ。総合演習では、グループで設定したテーマで、これまで学習したプロセスを通して実施することで、デザイン思考による課題の発見と解決を実践する。

英語表記「Design Thinking」

到達目標

1	◇「デザイン思考」のマインド・プロセス・ツールについて学び実践することで、これからのイノベーション人材に必要な基礎的スキルを身につける。
2	◇体験を振り返り言葉にして内省することで、体験学習のサイクルを回す習慣をつける。
3	◇人間中心のアプローチで課題を発見し解決する「デザイン思考」に関して、体験を通じた学びを自分ごととして理解し今後の研鑽の指針を立てられる。
4	◇共創協働のマインドセット・リテラシーを理解し実践できるようになる。

教授方法

基礎的知識の講義ののち、実際の手法を、個人またはグループワークにより体験する。総合演習ではグループごとにテーマを決め、一連のプロセスを通して実施し、プレゼンテーション（課題発表）を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特に無し

授業計画

1	ガイダンス～デザイン思考の背景
2	デザイン思考の概要
3	プロセス1「今の姿を探る」
4	演習1「今の姿を探る」手法の実践
5	プロセス2「課題を見つける」
6	演習2「課題を見つける」手法の実践
7	プロセス3「解決策を考える」
8	演習3「解決策を考える」手法の実践
9	プロセス4「試して洗練する」
10	演習4「試して洗練する」手法の実践
11	総合演習：「今の姿を探る」
12	総合演習：「課題を見つける」
13	総合演習：「解決策を考える」
14	総合演習：「試して洗練する」

授業外における学習

- ・日ごろから「デザイン」について自分ごととして意識する
- ・各回の学習内容を振り返り、授業レポートを作成する
- ・各回のワークをグループで繰り返し、ワークの内容を確実に把握する
- ・総合演習課題のグループでの授業外活動、および各ステップでの繰り返しによるブラッシュアップを実施する
- ・最終回終了後、総合レポートを作成する

質問や相談への対応

- ・授業の前後・授業中に質問に応じる
 - ・各回の授業レポートで相談・質問を受け付け、個別または次回授業の中で対応する
- メールアドレス：mikami1.cvd@toshiba.co.jp

成績評価

共通の評価基準			
評価項目		割合	評価基準
定期試験		30	総合演習での取り組み成果のプレゼンテーションにより、基礎的スキルの習得度合いを評価する
授業	レポート	30	毎回のレポートで、各回に学んだ内容の理解度と、体験学習のサイクルの定着度合いを評価する
最終レポート		30	最終レポートにより、体験を通じた学びを自分ごととして理解し今後の研鑽の指針を立てられたかを総合的に評価する
上記以外の	授業評価	10	授業中の共同作業への取り組み姿勢から、共創協働のマインドセット・リテラシーの理解と実践の度合いを評価する
合計		100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に無し			
	必要に応じ授業の中で紹介する			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・授業は受け身でなく能動的に組み込み、グループワークでは積極的、献身的に行動する
- ・グループでの共同作業による授業であるため、毎回出席できることを前提とする。出欠による加点/減点はしないが、欠席の場合は必ずグループメンバーにコンタクトしキャッチアップする

その他・特記事項

受講人数の上限：36名

上限を上回った場合の選抜方法：受講希望者は履修登録と同時に、受講動機と出席見込（他科目、実習等との重複の有無）を申告すること。方法については別途通知する。

象山学

更新日：2023/03/15 17:50:18

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L5050A	科目コード	L5050
担当教員	首藤 聡一郎, 真野 毅						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	一	単位	2	

キーワード

企業と社会、行政、社会的企業

授業の概要

この科目は、総合教養科目に位置づけられており、グローバルマネジメント学部では必修科目、健康発達学部では選択科目とされている。イノベーターを学外から引き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう講義である。イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、講師をファシリテーターとし、学生自らが自分の問題として考えていく。これまで、整理された知識を受動的に身につける機会が多かった学生に対し、複雑な現実と格闘する先達の姿を見せ、能動的に現実と向き合っていくきっかけを与え、社会に貢献していく方法を身につけてもらう。

英語表記「Introduction of business and society」

到達目標

1	現実のビジネスや行政の現場について理解し、その現実をリアルに感じ取れるようになる。
2	学生が現実の課題やチャレンジについて自分の問題としてしっかり考えられるようになる。

教授方法

講演、グループワークおよびレクチャー

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	ガイダンス、次回講演に向けた準備
2	講演および質疑応答（1）
3	ワークショップ（1）
4	講演および質疑応答（2）
5	ワークショップ（2）
6	講演および質疑応答（3）
7	ワークショップ（3）
8	講演および質疑応答（4）
9	ワークショップ（4）
10	講演および質疑応答（5）
11	ワークショップ（5）
12	講演および質疑応答（6）
13	ワークショップ（6）
14	最終ワークショップ、まとめ

授業外における学習

事前学習：ご講演者に関する調査、事後学習：小レポート作成。

質問や相談への対応

基本的にはメールで対応。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

小レポート	35	内容、形式等
グループワークレポート・リフレクションシート	30	内容・形式等
期末レポート	35	内容、形式等
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし。			
	授業時に適宜紹介。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

この授業は皆さんにとって多くのことをもらさずと思います。真剣に取り組みましょう。また、学外のイノベーターのご協力あつての授業です。貴重な時間を割いて来てくださる講師の方に感謝の気持ちをもって講演に臨みましょう。

その他・特記事項

特になし。

信州学

更新日：2023/01/10 08:52:01

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5060A	科目コード	L5060
担当教員	田澤 直人						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

信州、歴史、地理、民俗、産業、観光、プレゼンテーション、グループによる調べ学習、協力

授業の概要

「信州学」の授業は、信州（長野県）といった地域を素材として、信州の歴史・民俗・地理・産業・観光等、信州に関わることについて、授業担当者と受講学生が、ともに調べ、考えていく授業である。そもそも、「信州学」という学問分野があるわけではない。担当者は、大学時代に日本民俗学を専攻した故に、そうした観点から「信州学」を論ずることもある。しかし、基本的には、学生諸君が、自らの関心のある分野について、興味関心を共にする者同士でグループを作り、調べ、考え、分析したことを、最終的に授業の中で発表してもらおう。例年、授業外での野外活動を行う学生が多い。

到達目標

1	①信州について、自らが興味関心のあることについて、他者と協力しながら、各種文献を用い、調べることができたか。
2	②信州について、グループ内で協力して調べたことを、発表を通して、他者にわかるように発表することができたか。
3	③信州について、他者の発表した事柄について、自分なりに客観的な評価ができたか。
4	④信州について、自らが調べたことを、最終的にレポートとして提出できたか。

教授方法

第1回の授業はオリエンテーション実施。昨年度の授業の様子を説明。第2回の授業では、授業内でレポート提出。第3回の授業で、自己紹介後、グループ分けを行い、班長を決める。これ以降、信州に関する事柄について調べ学習を開始する。第4回の授業から調べ学習を行うが、担当者は各グループの進捗状況をその都度ヒアリングを行い把握する。班長は、毎時間、授業終了後その日のうちに、授業内での学習状況を担当者に報告してもらいます。授業の中間で、途中経過の中間発表会を実施。その後さらに調べ学習を継続。最終的に調べた内容をパワーポイントを使い発表する。聞き手は、発表内容を評価する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

履修者を100人までとします。グループは、3人から4人を想定している。よって全体のグループ数は30グループ程度となる。

最終発表は、1月の授業3回で各回10グループ持ち時間10分間で実施予定である。

履修者が100人を超えると、昨年度までの例では、対面授業とリモート授業を併用しなくなるとなる。よって、担当者による学生との間の十分なヒアリングを行えず、担当者と学生の間で十分なコミュニケーションをとることができなかった。また、発表グループ数が多くなり、最終プレゼンテーションの時間が授業外まで延びてしまい、学生に多大な迷惑をかけることになったため。

授業計画

1	リモート授業：オリエンテーション:授業の進め方について説明。また、最終的なプレゼンテーションの内容を、昨年度発表例を参考に説明する。
2	対面授業：県歌「信濃の国」を題材に、授業を行う。時間内に示した課題に対して、授業後レポート提出を課す。また、自分がどういったことを調べたいか、授業後アンケートを実施
3	対面授業：学生の自己紹介、その際に、自分がどういった分野に興味関心があるかを発表する。事前にアンケートに回答してもらいます。グループ決めと班長を決めます。
4	対面授業：中間発表会に向けて、準備開始。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
5	対面授業：中間発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
6	対面授業：中間発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
7	対面授業：中間発表会実施。これまでの進捗状況と今後の予定を発表する。
8	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
9	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
10	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。
11	対面授業：最終発表会に向けて、準備。担当者は、各班とヒアリング実施。班長は授業報告を提出。最終発表の順番を示します。また、最終発表原稿の提出期限と最終レポートの内容及び提出期限を提示します。
12	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。
13	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。
14	対面授業:発表会実施。発表が授業時間内におさまらずに、短時間の授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価します。

授業外における学習

グループによる県立図書館等での文献調査、調査に関わるフィールドワークが必要になります。

質問や相談への対応

担当者の個人メールアドレスに相談ください。

tazawa.naoto@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
レポート提出	30	プレゼンテーションの内容を踏まえて、自分が調べたことを具体的にレポートできているか評価する。第2回の授業のレポート提出も評価する。
プレゼン評価	10	プレゼン評価の提出状況を評価します。
発表評価	60	授業担当者及び授業受講者による発表内容の5段階評価とコメント入力を実施する。その結果を評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特にありません。			
	特にありません。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

授業には積極的に取り組んでください。ポータル上の掲示板に、「お知らせ」を示します。必ず、閲覧してください。また、昨年度は、リモート授業併用ということもあり、授業欠席者が一昨年に比べて多くいましたが、そうしたことはないように受講してください。さらに、ポータル上に示す課題（最終発表会の評価など）は必ず提出してください。

その他・特記事項

特にありません。

情報リテラシー (C)

更新日：2023/03/13 14:11:04

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	L5070I	科目コード	L5070
担当教員	川原 琢也						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

情報活用能力, Officeソフト, ICT

授業の概要

コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。

【ねらい】

レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。

到達目標

1	①コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。
2	②安全にICTを活用することができる

教授方法

講義と演習を織り交ぜた形式。各自の演習が主となる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。必修科目。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング
2	基礎知識編(1) 大学における知の活動 大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について、Office365のサービスについて
3	基礎知識編(2) コンピュータの基本操作 Windows操作、ファイル管理など
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識
5	基礎知識編(4) 情報倫理とセキュリティ —情報化社会と向き合うために—
6	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作
7	PowerPoint編(2) スライドの作成
8	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション アニメーション効果、画面切り替え、プレゼンテーションの実行
9	PowerPoint編(4) 課題作成
10	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践・相互評価
11	Word編(1) 基本操作、文書作成① Wordの基本操作、書式設定、インデント・ルーラー
12	Word編(2) 文書作成② ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換
13	Word編(3) 画像や図形の編集、表の作成①
14	Word編(4) 表の作成②とグラフ
15	Word編(5) レポート・論文を書くときに利用する機能 スタイル、目次、脚注と図表番号
16	Word編(6) 総合練習問題①
17	Word編(7) 総合練習問題②

18	Excel編(1) 基本操作 Excelの基本操作，データ入力と表示形式，オートフィル
19	Excel編(2) 表の作成と印刷，基本的な関数
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照
21	Excel編(4) 関数の応用① 関数のネスト
22	Excel編(5) 関数の応用② sumif, countif, vlookup関数等の利用
23	Excel編(6) グラフの基礎 グラフ作成の基本事項
24	Excel編(7) グラフの応用 様々なグラフの作成
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い① データの並び替えと抽出
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い②，総合練習問題① ピボットテーブルとクロス集計
27	Excel編(10) 総合練習問題②
28	まとめ 【小テスト】

授業外における学習

- ①授業時間内に完成しなかった課題については，授業外の時間を利用して完成させ，提出期限を守って提出すること。
 ②授業で指定されたレポートを作成し，提出すること。
 ③様々な科目や課題において，積極的にPCを活用すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。
アドレス： kawahara.takuya@u-nagano.ac.jp

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
課題・レポート	70	課された課題・レポートを正確に解くことができ，提出期限を守って提出できている。全ての課題を提出できている。
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	大学生の知の情報スキル	共立出版	2017	ISBN: 978-4-320-12425-7, ¥2,900-

参考書・参考資料等

Glexa で適宜指示

受講生に望むこと

ICTの利用は手段であって目的ではありません。課題を提出することが本科目の目的ではないので，全ての課題に主体的に取り組むこと。また，演習科目であることから授業へは『出席』が原則です。

その他・特記事項

各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが，個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し，大学生活および社会でICTを効果的に活用できるよう，スキルアップを目指してほしい。

健康と運動科学Ⅰ (C)

更新日：2023/01/10 08:57:56

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	L5080C	科目コード	L5080
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

身体運動、健康、スポーツ

授業の概要

本講義では、健康とそれに関連する科学的根拠を学ぶ。基本的な身体動作から少し複雑な身体動作まで様々経験し、「身体を動かす」ことの複雑さに関する知識を深めるとともに、生涯にわたって健康でいるための実践方法を習得する。適宜、受講生の専門分野に関連した解説等も実施する。

到達目標

1	・身体運動のメカニズムや健康でいるための実践方法について、自身の経験知に基づいて多角的な考察ができるようになる。
2	・運動を手段として用い、積極的なコミュニケーションが取れる。
3	・運動実践の意義について持論を明確に持つ。
4	・健康と運動との関わりについて、専門分野に関連した知識に基づいた説明ができるようになる。

教授方法

科学的根拠の説明等に関しては、座学での講義を行う。さらに、グループワークを行い、受講生各自が主体的に種々の事項について考え、ディスカッションによって積極的な議論が行われるような授業展開とする。運動の実践では、複数人で実践する内容を主とすることで、コミュニケーションを取りながら経験知を重ねていく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス
2	健康関連体力の基礎知識
3	身体運動の複雑さを自覚する：感覚を測る
4	身体運動の複雑さを自覚する：姿勢制御
5	身体運動の複雑さを自覚する：コーディネーションエクササイズ1
6	身体運動の複雑さを自覚する：コーディネーションエクササイズ2
7	身体運動の複雑さを自覚する：コーディネーションエクササイズ3
8	ストレッチング
9	筋力トレーニングの理論と実践：基礎的トレーニング
10	筋力トレーニングの理論と実践：バランスボールエクササイズ1
11	筋力トレーニングの理論と実践：バランスボールエクササイズ2
12	筋力トレーニングの理論と実践：ながらトレーニング
13	ウォーキングとジョギングの理論と実践
14	まとめ

授業外における学習

運動の習慣化に資する方法としてウォーキング等の実践を課す。成果を記録に残すことで、事後学習の資料とする。

質問や相談への対応

授業時に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

授業への取り組み	60	積極性の有無、参加姿勢に応じて評価する。
グループワーク	20	ワークシートの記載内容、ディスカッションの様子に応じて評価する。
上記以外の授業評価	20	課される授業時間外の運動実践の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

出席状況を点呼で確認する。欠席の場合は取り組みを評価できないため、積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし

健康と運動科学Ⅱ (C)

更新日：2023/01/10 08:58:06

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5090C	科目コード	L5090
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 健康発達学部, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

健康、スポーツ、身体運動

授業の概要

本講義では、身体運動の仕組みを理解するとともに、健康の維持や増進に寄与する実践方法について学ぶ。また、種々のスポーツ種目を経験することで、健康と運動との関係性やその社会的意義について考察する。適宜、専門分野に関連した解説等も実施する。

到達目標

1	・身体運動の仕組みをより深く理解できる
2	・運動実施者によってネガティブな印象が持たれるスポーツの異なる側面を他者に説明できる。
3	・運動の習慣化。
4	・健康と運動との関わりについて、専門分野に関連した基礎知識に基づいた説明ができるようになる。

教授方法

適宜、座学やグループワークを行い、受講生各自が主体的に種々の事項について考え、ディスカッションによって積極的な議論が行われるような授業展開とする。運動の実践では、複数人で実践する内容を主とすることで、コミュニケーションを取りながら経験知を重ねていく。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス
2	身体運動の仕組みを理解する：コーディネーションエクササイズ1
3	身体運動の仕組みを理解する：コーディネーションエクササイズ2
4	ニュースポーツ1：ペタンク
5	ニュースポーツ2：ブラインドサッカー
6	ニュースポーツ3：フラバールバレーボール1
7	ニュースポーツ4：フラバールバレーボール2
8	卓球のルール理解とゲーム1
9	卓球のルール理解とゲーム2
10	バドミントンのルール理解とゲーム1
11	バドミントンのルール理解とゲーム2
12	バスケットボールのルール理解とゲーム1
13	バスケットボールのルール理解とゲーム2
14	まとめ

授業外における学習

運動の習慣化に資する方法としてウォーキング等の実践を課す。成果を記録に残すことで、事後学習の資料とする。

質問や相談への対応

授業時に対応する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	60	積極性の有無、参加姿勢に応じて評価する。

グループワーク	20	ワークシートの記載内容、ディスカッションの様子に応じて評価する。
上記以外の授業評価	20	課される授業時間外の運動実践の成果に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

出席状況を点呼で確認する。欠席の場合は取り組みを評価できないため、積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし

シーズンスポーツ（冬期）

更新日：2023/01/10 08:52:04

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5100A	科目コード	L5100
担当教員	速水 達也						
備考	実験・実習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

スキー、生涯スポーツ、野外教育

授業の概要

本学の使命の中で述べられている「長野県の豊かな自然や長い歴史・伝統を理解し大切にすること」に資することを目的に、県内スキー場においてスキー実習を行う。初心者および初級者を対象にし、生涯スポーツであるスキーの魅力に触れるとともに、滑走技術向上のみならず、自然環境下での危機管理についても学ぶ。また、合宿形式での実習であるため、他者とのコミュニケーションや個々のスケジュールや体調管理に関しても実践形式で学ぶ。

到達目標

1	・ある程度のコースを自由かつ安全に滑走できるようになる。
2	・スキー場や宿泊施設でのマナーを理解する。
3	・長野県の自然の魅力と関連産業の可能性を他者へ共有できるようになる。

教授方法

ガイダンスおよびスキー滑走技術の基礎知識に関する事前学習を学内で行う。実習では、班編成を行い、個々の滑走技術向上および到達目標達成に向けたグループワークを行う。事後学習としてレポートを課す。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

受講資格：スキー未経験、初心者、プルークボーゲンからパラレルターン（スキー板を並行に揃えて滑る技術）習得を目指す者。※
※最重要：全日本スキー連盟認定スキー検定2級以上保持者は受講できない。あるいは、パラレルターンを習得している者も受講不可とする。
【定員】20名前後（抽選により決定する）
【実習日時】2泊3日、2月下旬から3月上旬を予定（1学期中に周知する）
【実習場所】菅平高原スキー場（長野県上田市）
【宿泊場所】ホテルニューダボス
〒386-2204 長野県上田市菅平高原1223-3790 TEL.

授業計画

授業外における学習

学内での講義の内容を復習することで事前学習とする。実習後のレポートを事後学習とする。

質問や相談への対応

対応方法については、後日周知する。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組みおよび技術向上度	60	積極性の有無、参加姿勢、実習初日から最終日までの滑走技術向上度合いに応じて評価する。	
理解度	20	講義やグループワークの課題提出内容に応じて評価する。	
授業外における学習	20	事後学習としてのレポートを評価する。	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			

	日本スキー教程 全日本スキー連盟、2018年			
--	------------------------	--	--	--

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

学外での実習であるが故に、県立大生としての自覚を持ち、積極的な参加を望む。

その他・特記事項

実施日および宿泊施設については、変更となる場合がある。
受講希望者が8名以下の場合、実施しないことがある。

グローバル教養ゼミ（坂）

更新日：2023/01/10 08:50:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110A	科目コード	L5110
担当教員	坂 淳一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ジェイン・オースティン、サマセット・モーム、イギリス小説、イギリス文化、欧米文化

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的にとらえるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	英国小説をみんなで読むことによって、様々な「読み」の可能性を探る。また、作品の背景となっている英国やヨーロッパの文化、社会、歴史、思想などについても学んでいく。
---	--

教授方法

全員で同じ本を読みながら、討論を通して理解を深めていく輪読形式。「読書会」という感じで、意見を話し合いながら前期・後期で2冊の本を読む。また、定期的に欧米の文化・歴史に関する発表を行ってもらう。テキストは基本的に翻訳を用いるが、時には原書も参照しつつ、文学作品の鑑賞方法を学ぶ。最後には、前期に読んだ作品、もしくは後期に読んだ作品について、日本語で各自の作品論を書く（4000字以上）。その他、欧米の音楽や絵画などを鑑賞する時間も設け、欧米文化入門のような科目ともなる。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	『分別と多感』と、作者のジェイン・オースティンの紹介。英国史と英文学史解説。ゼミの進め方の解説。
2	『分別と多感』 輪読（1） 1～8章
3	『分別と多感』 輪読（2） 9～15章
4	『分別と多感』 輪読（3） 16～21章
5	『分別と多感』 輪読（4） 22～27章
6	『分別と多感』 輪読（5） 28～31章
7	『分別と多感』 輪読（6） 32～36章
8	『分別と多感』 輪読（7） 37～40章
9	『分別と多感』 輪読（8） 41～44章
10	『分別と多感』 輪読（9） 45～50章
11	『人間の絆』と、作者ウィリアム・サマセット・モームの紹介。時代解説。
12	『人間の絆』 輪読（1） 1～12章
13	『人間の絆』 輪読（2） 13～21章
14	『人間の絆』 輪読（3） 22～30章
15	『人間の絆』 輪読（4） 31～37章
16	『人間の絆』 輪読（5） 38～43章
17	『人間の絆』 輪読（6） 44～48章
18	『人間の絆』 輪読（7） 49～56章
19	『人間の絆』 輪読（8） 57～64章
20	『人間の絆』 輪読（9） 65～71章
21	『人間の絆』 輪読（10） 72～78章
22	『人間の絆』 輪読（11） 79～86章
23	『人間の絆』 輪読（12） 87～93章
24	『人間の絆』 輪読（13） 94～100章

25	『人間の絆』輪読（14）101章～108章
26	『人間の絆』輪読（15）109～115章
27	『人間の絆』輪読（16）116～122章
28	総合討論

授業外における学習

毎回その日に輪読する範囲をきちんと読んでくる。また、発表を行う時はしっかり準備をし、最終レポートもきちんと仕上げること。

質問や相談への対応

授業時に質問するか、メールで質問してください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	年度末の作品レポートの出来栄で評価する
授業での積極性	50	授業内の発表や討論でのパフォーマンスによって評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ジェイン・オースティン『分別と多感』中野康司訳（ちくま文庫）、ウィリアム・サマセット・モーム『人間の絆』（上）（下）中野好夫訳（新潮文庫）			
	プリントで配布するか、メールまたはOneDriveで配信します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

楽しんで学んでください。

その他・特記事項

特になし

グローバル教養ゼミ（中島）

更新日：2023/01/10 08:50:55

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110B	科目コード	L5110
担当教員	中島 基樹						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

言語学

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	任意の言語事象に関する研究を行い、その成果をレポートにまとめること。その過程において、論理的・批判的な思考力を身につけること。
---	---

教授方法

それぞれの受講者が興味・関心をもった言語事象について、調べたことや考えたことを授業内で共有し、受講者間の質疑応答や意見交換を通して研究を進めていきます。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし（事前登録をした人以外で受講を希望する場合は、開講時までに担当教員に連絡してください。）

授業計画

1	オリエンテーション
2	発表&ディスカッション
3	発表&ディスカッション
4	発表&ディスカッション
5	発表&ディスカッション
6	発表&ディスカッション
7	発表&ディスカッション
8	発表&ディスカッション
9	発表&ディスカッション
10	発表&ディスカッション
11	発表&ディスカッション
12	発表&ディスカッション
13	発表&ディスカッション
14	発表&ディスカッション
15	中間発表(1)
16	発表&ディスカッション
17	発表&ディスカッション
18	発表&ディスカッション
19	発表&ディスカッション
20	発表&ディスカッション
21	発表&ディスカッション
22	中間発表(2)
23	発表&ディスカッション
24	発表&ディスカッション
25	発表&ディスカッション
26	発表&ディスカッション

27	発表&ディスカッション
28	最終発表

授業外における学習

興味をもった言語事象について、発表やレポート作成に向けて、データ収集や文献調査を行うこと。

質問や相談への対応

授業後に声をかけるか、研究室(C104)に来てください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	70	授業時の発表や発言の質・量により評価。
最終レポート	30	年度末レポートの内容により評価。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須/推奨	なし。			
	必要に応じて紹介します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

自分の研究テーマだけでなく、他の受講者の研究内容にも関心をもち、積極的に質問・コメントすること。

その他・特記事項

授業の開講時限やスケジュールは、受講者と相談して調整します。

グローバル教養ゼミ（加藤貴之）

更新日：2023/01/10 08:51:32

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110C	科目コード	L5110
担当教員	加藤 貴之						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

議論学、批判的建設的思考、コミュニケーション

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	・指定テキストにおける議論学の基本的概念を理解する
2	・社会上および空想上の議論において要点を整理できる
3	・議論学的分析を効果的に発表できる

教授方法

指定テキストの講読をつうじて、議論学の基本的概念を理解したうえで、実社会や物語における議論の分析に応用する。教師のみならず、受講生もファシリテータを務め、授業を進める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

3年以上在籍で事前に授業担当者に相談すること

授業計画

1	ガイダンス（年間スケジュール、進め方など）
2	議論の検討1-1
3	議論の検討1-2
4	テキスト1章
5	テキスト2章
6	議論の検討2-1
7	議論の検討2-2
8	テキスト3章
9	テキスト4章
10	議論の検討3-1
11	議論の検討3-2
12	テキスト5章
13	テキスト6章
14	リサーチテーマの検討(1)
15	テキスト7章
16	テキスト8章
17	議論の検討4-1
18	議論の検討4-2
19	テキスト9章
20	テキスト10章
21	リサーチテーマの検討(2)
22	学生発表1
23	学生発表2
24	学生発表3

25	学生発表4
26	議論学の確認問題
27	学生発表5
28	学生発表6

授業外における学習

毎回の授業内容について、テキストやその他教材を中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。

質問や相談への対応

大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	30	授業における進行・運営上の貢献を評価
議論学の確認問題	30	議論学の基本的概念の理解度を評価
最終プレゼンテーション	40	議論学的分析のアウトプットを評価
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	・議論学への招待（エイムレン他、大修館書店、ISBN: 978-4469213720）[以上1冊]			
	適宜紹介			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

日頃から、議論学的観点を応用する機会を作ってみてください。

その他・特記事項

対面授業においてもノートPCを持参すること。授業回によっては、リモートではなく対面参加が必要となる場合がある。

グローバル教養ゼミ（谷口）

更新日：2023/01/10 08:52:05

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110D	科目コード	L5110
担当教員	谷口 真由実						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

中国文学、中国文化、古典文学、中国の歴史

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

Global Humanities Seminar

到達目標

1	中国古典文学を中心に中国文学や中国文化関連文献を講読し理解を深め、背景にある歴史、思想についても考える。あまり学ぶ機会のない中国近現代文学についても、日本語訳を利用しながら講読するほか、関連する映画なども参考にして理解を深めたい。中国文学の作者の多くが社会の荒波の中で必死で社会と切り結び、抗い、その苦難と葛藤を文学に結晶させている。それらを読解すると同時に併せて現代に繋がる問題意識を醸成したい。後期には、中国文学・文化に関して各自関心のある課題について調査・研究を行い、幅広い視野と深い教養を身に着ける。
---	--

教授方法

週に1回。クォーターごとに7回、通年で28回の授業を演習形式で実施する。作品ごと、段落ごとに担当者を決めて、語彙・文法、あるいは作者・制作背景、作品解説など調べた結果を発表し、さらにディスカッションする形で展開することで、中国文学を多方面から主体的に学ぶ。また、学外の関連施設などを訪れて調査を行い、知識を深める。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	中国詩概観 『詩経』から南北朝まで
2	中国詩概観 隋・唐詩から文学革命まで
3	中国詩の形式 韻律と句法
4	中国詩の形式 古体詩と近体詩
5	中国詩の技巧 対句法
6	中国詩の技巧 双声・疊韻
7	中国詩の技巧 省略法・倒置法
8	中国詩の技巧 典故・詩語
9	中国詩のテーマ 政治と士官
10	中国詩のテーマ 隠棲と自然
11	中国詩のテーマ 行旅と別離
12	中国詩のテーマ 書画と音楽と詩
13	詩人の生活
14	自身のテーマを考える
15	テーマに沿ったテキスト探し、情報検索
16	テーマに沿ったテキスト探し、情報検索
17	テーマに沿った資料を読む、先行文献をさがす
18	テーマに沿った資料を読む、先行文献を探して読む
19	テーマについての資料講読、考察
20	テーマについての資料講読、考察
21	テーマについての資料講読、考察
22	テーマについての資料講読、考察
23	レポートの構成を考える

24	レポートの構成を考える
25	レポート作成
26	レポート作成
27	レポート完成とプレゼン作成
28	プレゼンテーション発表

授業外における学習

毎回の授業前に、教科書の授業で取り上げる箇所を予習しておいてください。また、授業後、分かりにくかった点など自ら調べたり、あるいは質問して理解を深めてください。

質問や相談への対応

質問、相談など授業中でもそのほかの空き時間などにしてください。

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	40	毎回の授業に参加し、作品を理解しようとしているか。
レポート	30	自身で考えたテーマ、問いについて調査、考察し、分かりやすく文章にまとめられたか。
プレゼン発表	30	自身で設けたテーマ、問いを分かりやすく発表できたか。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『詳講 漢詩入門』（佐藤保著、ちくま学芸文庫、2018年）1400+税			
	『中国名文選』（興膳宏著、岩波新書、740+税）			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

積極的に関連図書など読んでみてください。

その他・特記事項

漢和辞典を持参のこと。

グローバル教養ゼミ（織田）

更新日：2023/01/10 08:52:06

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110E	科目コード	L5110
担当教員	織田 竜也						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

野生の思考。フィールドワーク。ラジオドラマ。都市伝説。暗黙知。

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	文献読解、フィールドワーク、ラジオドラマ制作を通して文化人類学的思考に習熟する。文献読解では事前に調べ学習を行い、他者を他者のまま理解するように努める。フィールドワークでは未知の世界観から受けた刺激を調査報告にまとめて発表する。ラジオドラマ制作では秘めた自分を人前にさらし、シナリオ、録音、編集の過程で映像人類学的な技法を学ぶ。
---	--

教授方法

テキストの輪読。ディスカッション。フィールドワーク実習。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

事前に「受講申請」「個別面談」を行った学生。

授業計画

1	イントロダクション
2	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
3	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
4	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
5	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
6	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
7	文献読解『レヴィ=ストロース 野生の思考』
8	フィールドワーク実習・報告
9	ラジオドラマ制作
10	ラジオドラマ制作
11	ラジオドラマ制作
12	ラジオドラマ制作
13	ラジオドラマ制作
14	ラジオドラマ発表
15	リアル脱出ゲーム制作
16	リアル脱出ゲーム制作
17	リアル脱出ゲーム制作
18	リアル脱出ゲーム発表
19	文献読解『VR原論』
20	文献読解『VR原論』
21	文献読解『VR原論』
22	文献読解『暗黙知の次元』
23	文献読解『暗黙知の次元』
24	文献読解『暗黙知の次元』
25	文献読解『暗黙知の次元』
26	文献読解『暗黙知の次元』

27	文献読解『暗黙知の次元』
28	全体のまとめ

授業外における学習

文献の調べ学習。フィールドワーク実習。ラジオドラマ制作。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
文献読解	40	調べ学習。発表。発言。
報告	30	フィールドワーク実習の報告。
作品	30	オリジナルのオーディオコンテンツ。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中沢新一『レヴィ=ストロース 野生の思考』NHKテキスト。マイケル・ポランニー『暗黙知の次元』ちくま学芸文庫。			
	随時指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

真っ直ぐな眼差しで世界と向き合えるように自分を磨いてください。

その他・特記事項

特になし。

グローバル教養ゼミ（萱津）

更新日：2023/01/10 08:52:07

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	L5110F	科目コード	L5110
担当教員	萱津 理佳						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

ICT, 情報, ネットワーク

授業の概要

専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。

到達目標

1	・情報システムやネットワークの仕組み、および、情報社会の動きについて理解を深める。そして、情報に関する興味関心を高めるとともに、各自が追究していきたい具体的なテーマを探求し設定する。設定したテーマについて、文献調査やフィールドワーク・分析を行い、報告書にまとめる。これらの過程を通して、問題についての理解を深めるとともに、問題を提起する能力、それについての現状把握や解答する能力、そして、それらをまとめ表現する能力を身につけることを目標とする。
2	・他のゼミ生の活動を理解し議論しあうことで、情報分野に関する興味関心を高めるとともに、コミュニケーション力を身につける。

教授方法

原則として、演習方式。適宜、グループワークを取り入れる。
報告書等の提出には、GlexaおよびMS Teams 等を利用する。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	ガイダンス, アイスブレイク, 各自の活動報告①
2	アイスブレイク, 各自の活動報告②
3	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
4	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
5	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
6	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
7	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告
8	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画
9	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画
10	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
11	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
12	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
13	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
14	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究
15	各自のテーマに関する中間発表①
16	各自のテーマに関する中間発表②
17	各自のテーマに関する調査・研究
18	各自のテーマに関する調査・研究
19	各自のテーマに関する調査・研究
20	各自のテーマに関する調査・研究
21	各自のテーマに関する調査・研究
22	各自のテーマに関する調査・研究
23	ゼミ論集（報告書）の作成①

24	ゼミ論集（報告書）の作成②
25	ゼミ論集（報告書）の作成③
26	ゼミ論集（報告書）の作成④
27	発表会①
28	発表会②， 振り返り，まとめ

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと
- ・各自の課題の進捗状況等の報告用資料を作成し，ゼミで発表のこと
- ・学外での調査やイベントに参加など

質問や相談への対応

- ・質問や相談は，授業中および授業の前後に受け付けます。
- ・授業時間外はメールでの対応，または（アポイントメントをとって）直接来室して下さい。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
授業・課題	100	授業や課題への取り組み状況，および達成度を総合的に評価する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			
	適宜資料を配布，または，指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ★各自が自分の課題やテーマの解決に向けて，主体的に学び，活動しましょう。
- ★グループワークや，ゼミの活動・議論に積極的に参加しましょう。
- ★授業時間外でのICTを活用したコミュニケーションも積極的にとりましょう。

その他・特記事項

- ・「情報」分野に関するニュースや社会問題にアンテナを張りましょう。
- ・実際に『やってみる』活動を重視したいと思います。また，やりっぱなしではなく，やったことに対する振り返り，文書化も大切です！

グローバル教養ゼミ（二本松）

更新日：2023/01/10 08:52:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110G	科目コード	L5110
担当教員	二本松 泰子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

『平家物語』、木曾義仲、巴御前

授業の概要

長野県ゆかりの文学作品を地域文化として理解し、それを町おこしや観光資源として利用することによって、地元を活性化させるための文化事業を企画・立案する。その過程を通して、地域資源としての日本文学の価値について学ぶ。

【ねらい】

長野県ゆかりの文学作品を取り上げ、地域文化としての日本文学の役割について理解する。

到達目標

1	日本文学が地元の地域資源となる可能性について学び、それを活用してゆく手法を身に付ける。
---	---

教授方法

今年度は、長野県出身の歴史上の人物である木曾義仲と巴御前について取り上げる。まずは、1・2学期において義仲と巴御前が登場する文学作品や伝説に関する基礎知識を学ぶ。次に、3・4学期において県内における義仲・巴御前ゆかりの地域を調査し、地域文化としての文学・伝説について理解を深める。さらにそのような知見を踏まえて、①地元ケーブルテレビ等と連携したミニ番組の企画、②自治体と連携した市民向けのワークショップや講演会・イベントの企画・運営、③多言語パンフレットの企画・制作、④その他各種地元メディアに発信する、といった義仲と巴を顕彰する活動を地元で行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

コロナ禍の状況によりますが、大学の許可が得られたらフィールドワークを実施します。何卒、積極的に参加してください。

授業計画

1	授業のガイダンス（1年間のスケジュール、学習目標の確認など）
2	日本文学と地域文化について【講義】
3	長野県内の文化事業について—自治体の活動を中心に—【講義】
4	長野県内の文化産業について—地元メディアを中心に—【講義】
5	木曾義仲と巴御前について学ぶ—歴史上の人物としての義仲・巴について【講義】—
6	木曾義仲と巴御前について学ぶ—『平家物語』の義仲・巴について【講義】—
7	木曾義仲と巴御前について学ぶ—県内における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】—
8	木曾義仲と巴御前について学ぶ—県外における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】—
9	木曾義仲と巴御前について調べる—各種コンテンツにおける義仲・巴について【演習】—
10	企画書を書く①—木曾義仲と巴御前を地元で紹介するアイデアを考える【演習】—
11	企画書を書く②—木曾義仲と巴御前を他県で紹介するアイデアを考える【演習】—
12	木曾義仲と巴御前のPR動画を作成する①【演習】
13	木曾義仲と巴御前のPR動画を作成する②【演習】
14	夏休みに向けた指導—東御市・木曾町と義仲・巴について—
15	夏休みの成果報告、木曾義仲と巴御前について学ぶ—義仲挙兵の地としての東御市について【講義】—
16	フィールドワークの準備—東御市の白鳥河原（義仲挙兵の地）とその周辺について調べる【グループワーク】—
17	フィールドワークの実施—東御市の白鳥河原の实地踏査—
18	フィールドワークの成果発表—《義仲挙兵の地》としての東御市の白鳥河原をPRする動画・多言語パンフレットを作成する【グループワーク】—
19	木曾義仲と巴御前について学ぶ—義仲・巴の出身地としての木曾町について【講義】—
20	木曾義仲と巴御前について学ぶ—木曾町における義仲・巴関連の遺跡及び施設について【講義】—
21	木曾義仲と巴御前について学ぶ—木曾町の義仲・巴関連のイベントについて【講義】—
22	フィールドワークの準備—木曾町における義仲・巴関連の情報について調べる【グループワーク】—
23	フィールドワークの実施—木曾町の实地踏査—

24	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する①】【グループワーク】－
25	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する②】【グループワーク】－
26	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【動画・多言語パンフレットを作成する】【グループワーク】－
27	フィールドワークの成果発表－《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【自治体と連携した市民向け講演会・フォーラムの開催・運営】【グループワーク】－
28	1年間の活動報告書を制作する【グループワーク】

授業外における学習

事前学習：課題の提出については、各自締め切りまでに準備しておいてください。

事後学習：課題の返却後は、指摘されたことを確認しておいてください。

質問や相談への対応

毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はメールやポータルなどを利用してご連絡ください。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
発表	70	授業のテーマに即した内容、形式、発表の仕方などを総合的に評価する。
レポート	30	授業のテーマに即した内容、形式、執筆の方法などを総合的に評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業中に提示します。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

フィールドワーク（実現できた場合）とグループワークを重視した学習を進めてゆく予定です。どちらも積極的に取り組んでください。

その他・特記事項

3学期以降に、上記以外の地元メディアから取材があれば、積極的に対応してください。どうぞよろしくお願いいたします。

グローバル教養ゼミ（馬場）

更新日：2023/01/10 08:52:09

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード*	L5110H	科目コード	L5110
担当教員	馬場 智一						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	3年通年	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

哲学、フランス語、歩くこと

授業の概要

『歩くこと、一つの哲学』のフランス語原典講読をしながらフランス語ⅠおよびⅡで学習していない文法事項を学習する。原典に現れる哲学的問題やグローバルな諸問題について講義したり、議論したりする。

到達目標

1	フランス語ⅠおよびⅡで学習していない基本的文法事項を理解し、辞書があれば自分でフランス語の文章が読めるようになること。日常的な事象について、経験に即して哲学的に考える姿勢を身につける。辞典や書籍によってテキストに現れる問題や概念について基礎的な調査をする能力を身につける。
---	--

教授方法

『歩くこと、一つの哲学』のフランス語原典を講読する。フランス語原文は初回授業で配布する。対面授業を基本とし、感染状況などの必要に応じてオンラインに切り替える。適宜文法解説、背景の解説などを行う。温暖な季節には屋外を歩きながら哲学対話を行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

フランス語ⅠとⅡ両方を既習（他大からの編入者の場合、フランス語の中級程度の文法を既習）していること。哲学、倫理学、公共哲学のいずれかを履修していること（これらのうちのどれも履修していない学生は哲学・倫理学のうちどちらかを同年度に履修すること）。

授業計画

1	授業の進め方について
2	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
3	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
4	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
5	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
6	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
7	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
8	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
9	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
10	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
11	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
12	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
13	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
14	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
15	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
16	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
17	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
18	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
19	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
20	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
21	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
22	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
23	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
24	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
25	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション

26	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション
27	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション、レポートの提出
28	授業の振り返り

授業外における学習

与えられた文章をあらかじめ読み、外国語の場合は解らない単語を調べたり、分からない文法事項をはっきりさせておくこと。

質問や相談への対応

可能な限り授業中にすること

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	予習、授業態度等を総合的に評価する
ミニレポート	50	授業中に適宜指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

とにかく休まず出席すること。語学の場合はしっかり予習をすること。積極的にディスカッションに参加すること。

その他・特記事項

必ず初回出席すること。初回をやむを得ない理由で休む場合はメールで必ず連絡すること。

金融リテラシー

更新日：2023/01/10 08:52:01

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5120A	科目コード	L5120
担当教員	山城 吉道						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

キーワード

金融、ライフプラン、リスク、お金のトラブル

授業の概要

今日では、金融との関わりなしに社会生活を営むことは不可能である。

金融商品・サービスが多様化・高度化する中、金融取引において、自己責任がより一層求められる時代となっている。加えて、我が国では少子高齢化が進み、公的社会保障を巡る財政事情も厳しさを増している。

こうした環境の下、自分にとって望ましいライフプランや目標を実現するためには、お金に関する正確な知識と情報収集力、的確な選択・判断力を身に付け、トラブルを回避し、効果的な金融取引を行いながら生活していくことが重要な鍵となる。

本科目は、金融・行政の各分野から専門家を招き、お金に関する身近な内容から、金融・経済に関する基礎知識、各種金融商品の特性、トラブルの回避・対処法といったトピックを総合的に理解することで、大学生活はもとより社会に出てからも役立つ金融リテラシーの習得を目指す。

英語表記「Financial literacy」

到達目標

1	・金融・経済に関する基礎知識を身に付けるとともに、各種金融商品の特性およびトラブルの回避・対処方法等のトピックにつき総合的に理解する。
2	・大学生、社会人として必要な金融に関する情報収集力、選択・判断力を身に付ける。

教授方法

金融・行政の専門家によるオムニバス形式の講座（長野県金融広報委員会<事務局：日本銀行長野事務所>の寄付講座）。

講義を主体に一部演習を織り交ぜた形式で実施する。随時、学生との対話も行う。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	【導入、人生と金融リテラシー】 講義概要、社会情勢の変化と金融リテラシー、人生設計と資金計画の重要性など 講師：担当教員
2	【お金と経済】 金融と経済の関係、経済変動が及ぼす生活への影響、上手にお金の取引を行うための知恵など 講師：担当教員
3	【ライフプランを描く①】 ライフプランの重要性、人生の三大費用、社会保障制度など 講師：長野県金融広報委員会
4	【ライフプランを描く②】 第3回講義を踏まえたキャッシュフローの分析演習など（持ち帰り課題として後日提出） 講師：長野県金融広報委員会
5	【経済・財政・金融システム①】 人々の生活と国家財政の関わり、国家財政の現状と課題など 講師：財務省関東財務局長野財務事務所
6	【経済・財政・金融システム②】 日本銀行の業務と金融政策、最近の金融経済情勢など 講師：日本銀行松本支店
7	【トラブルに強くなる】 学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法、金融商品詐欺と予防策など 講師：長野県金融広報委員会
8	【お金をふやす①】 資産形成や投資の意義、リスクとリターンの関係、リスク管理の手法、長期投資の重要性など 講師：日本証券業協会
9	【お金をふやす②】 投資信託の仕組みと特徴、分散投資の意義など 講師：投資信託協会
10	【お金を借りる】 銀行の役割、クレジットカード・消費者ローン・住宅ローンの仕組みと利用上の留意点など 講師：全国銀行協会
11	【リスクや将来に備える①】 生活の中のリスクと保険の役割、損害保険の仕組みと活用法など 講師：日本損害保険協会
12	【リスクや将来に備える②】 人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の仕組み、ライフステージに即した活用法など 講師：生命保険文化センター

13	【地域経済と金融】 地域経済における地方銀行の役割、地方創生に向けた地方銀行の役割など 講師：八十二銀行
14	【全体総括、ライフプランを描く③】 第4回演習課題に関する議論・解説、重要事項の復習、全講義の中で生じた疑問への回答など 講師：長野県金融広報委員会、担当教員

授業外における学習

- ・学習範囲が広いため、毎回、講義内容の復習を行い、知識の定着に取り組む。
- ・第4回講義において、ライフプラン・キャッシュフロー分析演習に関する持ち帰り課題を課す（提出締切：第8回講義終了時）。
- ・第6回講義終了時に、2000字程度のレポート課題を課す（提出締切：第10回講義終了時）。

質問や相談への対応

- ・質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。
- ・随時、講義のアンケートを実施する。
- ・メールでの質問も受け付ける。
メールアドレス：info@nagano-money.com

成績評価

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	基礎知識を問う択一式試験を課す。講義内容の理解度に応じて評価する。
レポート課題	30	講義内容の理解度と活用状況、文章構成・表現の適切性、レポート要件の充足性などの観点から評価する。
ライフプランニング演習におけるキャッシュフロー見直し課題	10	講義内容の理解度と活用状況に応じて評価する。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書・テキストは特になし。毎回、講義資料を配付する。			
	必要に応じ、適宜参考資料を配付する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ・講義内容を理解できるよう主体的に講義に参加すること。
- ・外部講師によるオムニバス形式の講座のため、各講義において疑問点を解消するよう努めること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅠ（1組）

更新日：2023/01/10 08:51:06

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130A	科目コード	L5130
担当教員	東 俊之						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（2組）

更新日：2023/01/10 08:51:07

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130B	科目コード	L5130
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（3組）

更新日：2023/01/10 08:51:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130C	科目コード	L5130
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（4組）

更新日：2023/01/10 08:51:09

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130D	科目コード	L5130
担当教員	金 賢仙						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（5組）

更新日：2023/03/15 13:18:08

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130E	科目コード	L5130
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価

レポート	25	授業内で指示する
プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（6組）

更新日：2023/01/10 08:51:10

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130F	科目コード	L5130
担当教員	田村 秀						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（7組）

更新日：2023/01/10 08:51:11

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130G	科目コード	L5130
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（8組）

更新日：2023/03/08 15:08:30

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130H	科目コード	L5130
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（9組）

更新日：2023/01/10 08:51:13

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	L5130I	科目コード	L5130
担当教員	野口 暢子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（10組）

更新日：2023/01/10 08:51:13

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130J	科目コード	L5130
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（11組）

更新日：2023/01/10 08:51:14

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130K	科目コード	L5130
担当教員	加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について（1）メンタルヘルス
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解
3	キャンパスツアー（含む図書館）
4	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像
5	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ（2）情報検索
7	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）
9	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）
10	アカデミックスキルズ（6）レポートの書き方（3）
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（1）
12	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（2）
13	アカデミックスキルズ（9）プレゼンテーション（3）
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（12組）

更新日：2023/01/10 08:51:15

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130L	科目コード	L5130
担当教員	宮城 正作						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（13組）

更新日：2023/01/10 08:51:16

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	L5130M	科目コード	L5130
担当教員	山本 直樹						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅠ（14組）

更新日：2023/01/10 08:51:17

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	L5130N	科目コード	L5130
担当教員	神戸 和佳子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

自己理解と自分の将来像や職業について考え、語り合う。大学で学ぶためのアカデミック・スキルズを修得する。例えば、講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法の演習を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、読解力、理解力、表現力を高める。

到達目標

1	大学生生活の基本を知り、大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズ、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどの具体的手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。アカデミック・スキルズの演習。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポートの執筆やプレゼンテーションの実施。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	学生生活について (1)メンタルヘルス
2	学生生活について (2) キャリア講座 (1) 自己理解
3	キャンパスツアー (含む図書館)
4	学生生活について (3) キャリア講座 (2) 将来像
5	アカデミックスキルズ (1) ノートの取り方
6	アカデミックスキルズ (2) 情報検索
7	アカデミックスキルズ (3) 文章・新聞講座
8	アカデミックスキルズ (4) レポートの書き方 (1)
9	アカデミックスキルズ (5) レポートの書き方 (2)
10	アカデミックスキルズ (6) レポートの書き方 (3)
11	アカデミックスキルズ (7) プレゼンテーション (1)
12	アカデミックスキルズ (8) プレゼンテーション (2)
13	アカデミックスキルズ (9) プレゼンテーション (3)
14	前半ふりかえり 後半：クラス分け

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	授業内で指示する

プレゼンテーション	25	授業内で指示する
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	特になし			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし

発信力ゼミⅡ（1組）

更新日：2023/01/10 08:51:18

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140A	科目コード	L5140
担当教員	金田一 真澄						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（2組）

更新日：2023/01/10 08:51:18

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140B	科目コード	L5140
担当教員	東 俊之						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり ※本クラスでは、グループ分けを第1回で実施します。また、本授業で作成する「リサーチ・ペーパー」の説明を行います（提出は第11回）。
2	テーマについてのインプット①：テーマの説明 ※本クラスでは「長野県の伝統産業」を考えます。
3	テーマについてのインプット②：個人による情報収集 ※個人でテーマに関する情報のインプットを行う。
4	テーマについてのインプット③：グループでの情報共有 ※個人で収集した情報を、グループで共有する。
5	テーマについてのグループ活動①：グループ活動の基本 ※グループ活動の要点を学ぶ、ブレインストーミングやKJ法を体験する、など
6	テーマについてのグループ活動②：発表論題の検討と決定 ※テーマについての更に情報を収集し、グループで発表する論題を決定する、など
7	テーマについてのグループ活動③：問題解決手法の検討 ※グループで設定した研究目標を達成するため手段を検討する／検討した手段を評価する、など
8	テーマについてのグループ活動④：プレゼンテーション ※クラス内で発表を行い、他者から講評を得る（採点の対象とする）
9	テーマについてのレポート作成①：レポートの書き方 ※作成するリサーチペーパーの作成の手順を説明する／アカデミックな文章の作成方法をおさらいする、など（実際の提出は第12回を予定）
10	テーマについてのレポート作成②：レポートの構成検討 ※あたえられたテーマについての個人レポートの構成を考える、など
11	テーマについてのレポート作成③：レポートの執筆 ※あたえられたテーマについての個人レポートを実際に作成する、など
12	テーマについてのプレゼン①：リサーチ・ペーパーについての個人プレゼン ※作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする
13	テーマについてのプレゼン②：リサーチ・ペーパーについての個人プレゼン ※作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（3組）

更新日：2023/01/10 08:51:19

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140C	科目コード	L5140
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介
2	レポートの書き方
3	レポートを修正する
4	レポートを発表する
5	グループ活動：リアル脱出ゲーム
6	グループ活動：ゲームを作る
7	グループ活動：ゲームを発表する
8	グループ活動：ラジオドラマを作る
9	グループ活動：ラジオドラマを作る
10	グループ活動：ラジオドラマを作る
11	グループ活動：ラジオドラマを発表する
12	プレゼンテーション：自分動画を作る
13	プレゼンテーション：自分動画を発表する
14	プレゼンテーション：自分動画を発表する

授業外における学習

各教員の指示に従うこと。

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（4組）

更新日：2023/01/10 08:51:20

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140D	科目コード	L5140
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについての中間報告
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

- ・指定された課題・レポートに取り組むこと
- ・学外での調査やイベントに参加など（任意）

質問や相談への対応

- ・質問や相談は、授業中および授業の前後に受け付けます。
- ・授業時間外はメールでの対応、または（アポイントメントをとって）直接来室して下さい。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す

プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			
	適宜資料を配布，または，参考書等を指示します。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

- ★各自が自分の課題やテーマの解決に向けて，主体的に学び，活動すること
- ★グループワークや，ゼミの活動・議論に積極的に参加すること

その他・特記事項

アカデミックスキルズを身につけるとともに，主体性やコミュニケーション力，考えぬく力を一緒に鍛えていきましょう！

発信力ゼミⅡ（5組）

更新日：2023/03/14 11:10:39

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140E	科目コード	L5140
担当教員	谷口 真由実						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり 興味をもっている絵本や詩についての紹介 自己紹介に加えて、興味をもっている絵本や詩についての紹介や後半やってみみたいことの紹介。
2	テーマについてのインプット 詩や絵本について 詩とはなにか。東西のさまざまな詩について
3	テーマについてのインプット 詩や絵本について 絵本とはなにか。各国のさまざまな絵本の紹介。
4	テーマについてのインプット 詩や絵本について 昨年度のテーマや問いの紹介。気に入った詩や絵本の紹介ポップづくり
5	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマを考える 各自、取り組みたいテーマや問いを考えて意見交換。グループをつくる。
6	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて考える グループで取り組みたいテーマや問いについて考える
7	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
8	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
9	テーマについてのグループ活動 取り組みたいテーマについて調査 グループでテーマや問いについての調査・考察方法を考え、調査する
10	テーマについてのプレゼンテーション準備 グループで調査した結果に基づき、考察を行い、プレゼンの準備を行う
11	テーマについてのプレゼンテーション（中間発表） グループごとにプレゼン発表（中間発表）を行う 互いに意見交換
12	テーマについてのプレゼン（中間発表）をもとにさらに修正を加える 中間発表で出された意見などを参考に、さらにブラッシュアップする
13	テーマについてのプレゼン発表 各班発表を行って、録画する。発表原稿をもとにレポート作成
14	振り返り テーマや問いの立て方はよかったか、プレゼン発表が思ったようにできたか、レポートをうまくまとめられそうか振り返る。

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと。授業中や授業の前後など適宜質問してください。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す	
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す	
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。積極的にグループ活動に参加してほしい。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（6組）

更新日：2023/01/10 08:51:22

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140F	科目コード	L5140
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

授業中に指示する。

質問や相談への対応

メールやLINEでの質問・相談は随時受け付けている。対面を希望する場合は、事前に予約すること。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（7組）

更新日：2023/01/10 08:51:23

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバコード	L5140G	科目コード	L5140
担当教員	二本松 泰子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり...授業担当者がこのクラスのテーマである“長野県内の城下町”についてレクチャーする。受講生は、各自の関心に基づきながら地元の歴史文化を地域資源として活用する意義についてグループワークを通して考える。
2	テーマについてのインプット...各都道府県内の城下町を地域資源として活用する事例について調べる。
3	テーマについてのインプット...長野県内の城下町について調べる。
4	テーマについてのインプット...長野県内でお城を地域資源として活用している事例について調べる。
5	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町についてグループディスカッションする。
6	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町の歴史文化的価値についてグループディスカッションする。
7	テーマについてのグループ活動...研究対象とする長野県内の城下町について、お城を地域資源とするアイデアをグループディスカッションする。
8	テーマについてのグループ活動.....研究対象とする長野県内の城下町について、お城を地域資源として地域活性化とするアイデアをグループディスカッションする。
9	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《ラジオ番組の台本づくりをイメージ》。
10	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《テレビ番組の台本づくりをイメージ》。
11	テーマについてのレポート作成...第7回・第8回でディスカッションした内容をレポートにまとめる《SNSのコンテンツづくりをイメージ》。
12	テーマについてのプレゼン...第9回・第10回・第11回のレポートをもとにSNSで発信する。
13	テーマについてのプレゼン...第9回・第10回・第11回のレポートをもとに地元メディアで発信する。
14	振り返り...これまでの学習してきたことについてよかった点や反省点などを話し合う。

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す

プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（8組）

更新日：2023/01/10 08:51:23

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140H	科目コード	L5140
担当教員	野口 暢子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力、食品ロス問題、フードバンク&フードドライブ

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。8組は、フードドライブ&フードバンクを行う。その準備作業に関わることで、イベント告知や開催に関する情報発信力の向上を目指す。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。クラスのメンバーで協力して、イベントを準備・開催できる力を身に着ける。
---	---

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練（学術レポートの執筆）。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。プレゼンテーション（食品ロスに関する内容の個人発表）。フードバンク&フードドライブ活動など

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介
2	食品ロス問題について、クラスメイトとのディスカッション
3	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第1回（発表時間：1人5分）
4	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第2回（発表時間：1人5分）
5	食品ロス問題に関する発表とそれに関する質疑応答 第3回（発表時間・1人5分）
6	食品ロス問題に関するグループディスカッション
7	レポートを作成するために（書籍の探し方、レポートの書き方に関する講義）
8	ブックレポートの作成（要約：A4・3頁）
9	ブックレポートの作成（要約：A4・3頁）
10	フードバンク&フードドライブの準備
11	食品ロスについてのレポート作成
12	食品ロスについてのレポート作成
13	フードバンク&フードドライブの実施
14	振り返り

授業外における学習

プレゼンテーションの準備、レポートの執筆

質問や相談への対応

noguchi.nobuko@u-nagano.ac.jpにメールを送ってください。

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価

レポート	25	レポートループリックを示します。
プレゼン	25	発表評価ループリックを示します。
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

グローバルな視点を持って、食品ロス問題を考察し、ローカルな場所での活動に積極的に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（9組）

更新日：2023/01/10 08:51:24

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	L5140I	科目コード	L5140
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（10組）

更新日：2023/01/10 08:51:25

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140J	科目コード	L5140
担当教員	加藤 孝士						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり、課題の確認
2	興味あるテーマの共有
3	グループ分けとグループテーマの仮決定
4	グループごとのテーマ設定と調査・分析計画
5	テーマについてのグループ活動①
6	テーマについてのグループ活動②
7	ショートプレゼン（中間発表）
8	テーマについてのグループ活動（調査用紙の作成）③
9	テーマについてのレポート作成
10	調査結果の分析①
11	調査結果の分析②
12	プレゼン準備①
13	プレゼン準備②
14	プレゼンと振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（11組）

更新日：2023/01/10 08:51:26

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140K	科目コード	L5140
担当教員	宮城 正作						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（12組）

更新日：2023/01/10 08:51:27

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	L5140L	科目コード	L5140
担当教員	山本 直樹						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり（演劇的発信を通して）
2	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
3	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
4	テーマについてのインプット（演劇的発信を通して）
5	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
6	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
7	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
8	テーマについてのグループ活動（演劇的発信を通して）
9	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
10	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
11	テーマについてのレポート作成（演劇的発信を通して）
12	テーマについてのプレゼン（演劇的発信を通して）
13	テーマについてのプレゼン（演劇的発信を通して）
14	振り返り（演劇的発信を通して）

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

発信力ゼミⅡ（13組）

更新日：2023/01/10 08:51:28

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバスコッド	L5140M	科目コード	L5140
担当教員	神戸 和佳子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

キャリア、アカデミックスキルズ、発信力

授業の概要

ゼミごとの特色ある活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にする。自ら関心のある活動を主体的に行うことで、さらに自己理解を深め、上級学年および卒業後にしたいことを考える機会にする。すべてのゼミの共通課題として、レポート執筆とプレゼンを行い、発信力ゼミⅠで学んだ情報収集の方法や文章表現の基本、レポート作成のための初歩的な技術と作法を実践する。さらに人前で自らを表現する発信力を高める。

到達目標

1	ゼミごとの活動を通じて、学修生活のリズムを一層安定的にし、自己理解と将来像の探求を深める。また、発信力ゼミⅠで学んだアカデミックスキルズ（インプットの技術、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法）を定着、発展させる。
---	--

教授方法

講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーションなど。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし。

授業計画

1	自己紹介、クラスづくり
2	テーマについてのインプット
3	テーマについてのインプット
4	テーマについてのインプット
5	テーマについてのグループ活動
6	テーマについてのグループ活動
7	テーマについてのグループ活動
8	テーマについてのグループ活動
9	テーマについてのレポート作成
10	テーマについてのレポート作成
11	テーマについてのレポート作成
12	テーマについてのプレゼン
13	テーマについてのプレゼン
14	振り返り

授業外における学習

各教員の指示に従うこと

質問や相談への対応

各教員の指示に従うこと

成績評価

共通の評価基準		
評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価
レポート	25	レポートルーブリックを別に示す
プレゼン	25	発表評価ルーブリックを別に示す

合計	100			
----	-----	--	--	--

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	特になし。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

大学生活に馴染むため、休まずに積極的に授業に参加すること。

その他・特記事項

特になし。

現代世界の文化

更新日：2023/01/10 08:51:28

開講年度	2022	学期	4期	シラバスコード	L5150A	科目コード	L5150
担当教員	織田 竜也, 馬場 智一, Trane DeVore, 谷口 真由実, 銭廣 健人, 中澤 弥子, 中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

異文化。民俗。政治。音楽。食。

授業の概要

現代世界の文化的諸相について複数の観点から学ぶ。地域固有のローカルな生活習慣や国境を越えて広がるグローバルな現象について、現地での経験によって得られる情報について理解を深める。

到達目標

1	現代世界の文化に関する知識を習得する。地理や歴史といった切り口とは違った世界理解の方法に親しむ。映像資料や音声資料を能動的に視聴し、文字情報としてノートに整理する。多様な文化の特徴を理解した上で、グローバルな視点から現代世界の動向を理解する。
---	---

教授方法

複数の教員による講義。視聴覚資料から得られる情報をノートに整理し、現代世界の多様な状況について考える。

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

2022年度入学の1年生だけが履修できる。

授業計画

1	イントロダクション、スペインの祝祭（織田竜也）
2	フランスの芸能と政治（馬場智一）
3	米国のカウンターカルチャーと音楽（デヴォア・トレーン）
4	映像作品にみる中国社会の変容（谷口真由実）
5	アラブ世界の民主化（銭廣健人）
6	世界の中の食の禁忌（中澤弥子）
7	ポーランドの音楽（中川亮平）

授業外における学習

随時指示する。

質問や相談への対応

担当教員に面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。

成績評価

共通の評価基準			
評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30		
期末試験	70		
合計	100		

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			
	随時指示する。			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。

その他・特記事項

期末試験はPCを持参してGlexaで実施する。

キャンパスライフのためのヘルス・リテラシー

更新日：2023/02/01 17:22:23

開講年度	2022	学期	1期	シラバスコード	L5160A	科目コード	L5160
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科, 大学 健康発達学部 食健康学科, 大学 健康発達学部 こども学科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

キーワード

大学生生活 ヘルスリテラシー 健康管理

授業の概要

大学生生活は、これまでの生活習慣に変化が生じやすく、自分自身で健康管理を実践する必要性が生じる時期である。新たな人間関係や生活習慣は、その後の大学生生活や学業にも影響を与える。とくに健康は、個人や社会生活にまたがる大きな課題である。本科目では、大学生生活やその後の社会生活を健康的に暮らすための基本的な健康に関する知識を学び、自らがこころとからだの情報を得て理解し、使える力をつける動機づけとなることを目的とする。

到達目標

1	大学生生活における健康課題を説明できる
2	自分の生活習慣を知り健康管理を試行できる
3	健康的な生活を送るため良い保健行動を選択できる

教授方法

講義

身に付く力と授業の工夫

身に付く力	
身に付く力の修得を目指した授業の工夫	

履修要件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション 自分の健康は自分で守ろう 身近な感染症 授業全体のオリエンテーション 自身の健康管理の必要性と期間中実施する健康管理ツールの確認を行う。大学生の身近な健康の1つである感染症の基本的知識を得る
2	アルコール たばこ と健康 今後アルコールやたばこの出合いに備え、アルコールやたばこが健康に影響する基本的知識と、自分の体質を確認する。
3	食生活と健康 大学生生活での食生活の課題や栄養と健康の基本的知識を知り、自身の食生活の課題を考えてみる
4	生活リズムの重要性（睡眠、ネット依存） 生活リズムの乱れの原因やその影響を知り、快眠生活を維持するための方法を確認する
5	メンタルヘルス 新しい生活や新しい人間関係から生じるメンタル不調と対処方法を学ぶ。自分自身の考え方の傾向を学ぶ
6	対人関係とコミュニケーション 対人関係で悩みやすいコミュニケーションの取り方について実際に演習を交えて体験していく
7	性と健康 恋愛と性、それに伴う健康について、からだや妊娠のメカニズムとデートDVを含め、男女の付き合い方について考える機会とする

授業外における学習

自分の健康管理ファイルをつくって健康チェックをしてみよう

質問や相談への対応

授業時またはメール等で質問・相談可能

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業提出物	80	8つの提出物を授業内で指示する。提出の有無、締め切りを守ったか、内容等で判断する

健康管理ファイル作成	20	自身の健康管理ファイル（ノート）を作成し授業時にチェックする
合計	100	

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし 資料を配布			
	適宜紹介する予定からだBOO K JFPA北村邦夫			

参考書・参考資料等

受講生に望むこと

よりよい大学生活を送るために自分の健康や友人の健康にも留意しよう

その他・特記事項

とくになし